

南蛇井北原田遺跡 蚊沼大神分遺跡

(一)蚊沼川 社会資本総合整備(防災・安全)(5か年)事業に伴う
埋 蔵 文 化 財 発 掘 調 査 報 告 書

2024

群 馬 県 富 岡 土 木 事 務 所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

南蛇井北原田遺跡 蚊沼大神分遺跡

(一)蚊沼川 社会資本総合整備(防災・安全)(5か年)事業に伴う
埋 蔵 文 化 財 発 掘 調 査 報 告 書

2024

群 馬 県 富 岡 土 木 事 務 所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



南蛇井北原田遺跡令和2年度調査区航空写真(北から)



南蛇井北原田遺跡令和3年度調査区航空写真(北から)

口絵 2



蚊沼大神分遺跡調査区全景(南から)



蚊沼川(蚊沼大神分遺跡東側、東から)

序

群馬県富岡市の南西の丘陵際を東流する蚊沼川は、一級河川鱒川の支流の一つです。蚊沼川は川積が小さく、30年に一回程度の洪水発生が想定されているため、群馬県では平成27年度から河川改修事業を進めており、その一環として、増水時に溢水を蚊沼川に並走する中沢川へ放流するための放水路の建設を計画しました。

この放水路予定地には南蛇井北原田遺跡と蚊沼大神分遺跡があり、令和2年度と3年度に発掘調査を実施しました。南蛇井北原田遺跡と蚊沼大神分遺跡では、縄文時代から中世・近世に及ぶ多くの遺構と遺物が発見され、地域の歴史を解明するための様々な知見を得ることができました。

この度、南蛇井北原田遺跡と蚊沼大神分遺跡の発掘調査成果をまとめ、埋蔵文化財発掘調査報告書として上梓することとなりました。ここに発掘調査から報告書作成まで、ご指導、ご協力を賜りました群馬県富岡土木事務所、群馬県地域創生部文化財保護課、富岡市教育委員会をはじめ、本事業にご尽力賜りました関係各位に心からの感謝を申し上げます。

そして、本報告書が当該地域の歴史を知るうえで広く活用されますことを願い、序といたします。

令和6年1月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
理事長 向田 忠 正

例 言

- 1 本書は、令和2・3年度社会資本総合整備(防災・安全社会資本整備交付金)(一)蚊沼川事業に伴い埋蔵文化財の発掘調査を実施した南蛇井北原田(なんじゃいきたはらだ)遺跡および蚊沼大神分(かぬまだいじんぶん)遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 南蛇井北原田遺跡は、群馬県富岡市南蛇井字北原田137-2・138-1・139-1番地、富岡市中沢字原田4-1・5・6・19・20・21・22・35・38・39-1番地に所在する。また蚊沼大神分遺跡は富岡市中沢字垣崎59-1・59-2・60-1番地、富岡市蚊沼字ヒノシリ831・182-1番地、同字大神分827-1・828-1・829-1・830-1・830-2番地、同神成前821・826番地に所在する。
- 3 事業主体は群馬県県土整備部 富岡土木事務所である。
- 4 調査主体は公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団である。
- 5 発掘調査の期間と体制は次の通りである。
 - (1) 調査期間 令和2年8月1日～令和2年10月31日
調査担当 調査部調査課 専門員(主任) 川口 亮 専門調査役 間庭 稔
遺跡掘削工事請負: 技研コンサル株式会社
委託 地上測量: アコン測量設計株式会社 空中写真撮影: 技研コンサル株式会社
 - (2) 調査期間 令和3年10月1日 ～ 令和4年3月31日
調査担当 調査部調査課 主任調査研究員 唐沢友之 専門調査役 新井 仁
遺跡掘削工事請負: 有限会社毛野考古学研究所
委託 地上測量: アコン測量設計株式会社 空中写真撮影: 技研コンサル株式会社
- 6 整理事業の期間と体制は次の通りである。

整理期間 ① 令和4年6月1日～令和5年3月31日(履行期間: 令和4年6月1日～令和5年3月31日)
② 令和5年4月1日～令和5年11月30日(履行期間: 令和5年4月1日～令和6年1月31日)

整理担当 ① 資料部資料1課/ ② 資料部資料3課 専門調査役 石守 晃
- 7 本書作成の担当者は次の通りである。

編 集 石守 晃
執 筆 第5章第2節はバンダリ スダルシャン(株式会社パレオ・ラボ)、第3節は竹原弘展(株式会社パレオ・ラボ)、第4節は辰巳晃司・佐伯史子・奈良貴史(新潟医療福祉大学)、第6章第2節は藤巻幸男が執筆した。
左記以外は整理担当が元原稿を執筆した。

デジタル編集 齊田智彦(総括・写真図版)・石守晃(本文)

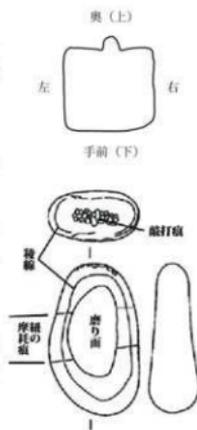
遺物観察 縄文・弥生土器: 藤巻幸男 土師器・須恵器: 石守晃・神谷佳明(時期判定) 陶磁器: 大西雅広
石器: 岩崎泰一・関口博幸 金属製品・炭化物: 板垣泰之・関邦一 石製品: 石守晃(石製品の観察所見並びに実測図は、(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団ではなく石守の観察所見に基づくものである。)

遺物写真撮影 平方篤行、石守晃
- 8 石器・石製品の石材同定は、飯島静男氏(群馬地質研究会会員)にお願いした。成果は遺物観察表に掲載した。
- 9 発掘調査諸資料及び出土品は、群馬県埋蔵文化財調査センターに保管してある。
- 10 発掘調査及び本書作成に当たり諸氏、機関よりご協力、ご指導、ご教示を賜った。記して感謝の意を表します。
富岡土木事務所、群馬県文化財保護課、富岡市教育委員会、地元関係各位

凡 例

- 南蛇井北原田遺跡・蚊沼大神分遺跡の遺構平面図は世界測地系国家座標(座標第IX系)を用いて測量した。遺構図の中で使用した北方位はすべて座標北で、真北方向角は $+0^{\circ} 40' 48.75''$ である。
- 遺構図の中で使用した北方位は、すべて座標北を示している。
- 遺構の方位は、座標北を基準として主軸角度等の傾きを計測した。
- 遺構平面図の縮尺は、原則として以下を使用した。但し遺構によっては異なる縮率を用いたものもある。
 竪穴建物 1/60 (竪 1/30)、掘立柱建物 1/60、
 土坑・ピット・竪 1/40、溝 1/100・1/50
- 遺物図の縮尺は以下の通りである。
 土器 1/3・1/4、石籤 1/1、石製品 1/2、石器 1/3、
 金属製品 1/2、木製品 1/3
- 遺物番号は出土遺構ごとの連番で、番号は本文・挿図・表・写真図版ともに一致する。
- 図中で使用したスクリーン・トーンは、以下のことを表す。

 灰 焼土 粘土 炭
- 本書では必要に応じて、浅間山A軽石(As-A)、浅間山稲川軽石(As-Kk)の主要テフラは略号も併記した。
- 土層や土器の色調観察は、原則として農林水産省農林水産技術会議監修、財団法人日本色彩研究所色票監修「新版標準土色帖」を使用した。
- 竪穴建物の位置・方向の標記は、竪を有する場合は、竪を奥(上)として、有しないものは北を奥(上)としており、横位方向は左右、縦方向の竪に対する側は手前(下)と表記している。
 また主軸(棟)方向は基本的に横位方向としている。
- 本書記載の測定値は遺構はm単位、遺物はcmで記載しており、()内の測定値は残存部測定値、[]内の測定値は推定値である。
- 葎石・磨石・台石・こも編み石等の石製品の観察所見並びに実測図(右図参照)は、(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団によるものではなく石守の観察所見に基づくものである。
 なお、石製品の実測図中の使用痕跡等の表記は右図の通りである。
- 第1図は昭和59年度の国土地理院対する問い合わせによる指示に基づいて、国土地理院平成18年11月1日発行20万分の1地勢図「長野」および同平成18年4月1日発行20万分の1地勢図「宇都宮」を用いた。
 第2・7・8図は同じく国土地理院平成7年4月1日発行5万分の1地勢図「富岡」を用いた。
 第3・4図は、令和5年5月9日に富岡市都市計画課に問い合わせ確認を得た、富岡市がウェブ上で公表している「Webまっぷ」表示の地形図の該当箇所に加筆した。



目 次

口絵	
序	
例言	
凡例	
目次	
挿図・表・写真目次	
第1章 発掘調査とその経過	1
第1節 調査に至る経過	1
1 一般河川蚊沼川と河川改修	1
2 発掘調査に至る経過	2
第2節 調査経過	4
1 令和2年度	4
2 令和3年度	4
第3節 調査の方法	5
1 遺跡略号	5
2 位置の表示	5
3 発掘調査の方法	5
4 基本土層	7
第2章 周辺環境	9
第1節 地理的・地質的環境	9
第2節 歴史的環境	11
1 旧石器時代	11
2 縄文時代	11
3 弥生時代	11
4 古墳時代	11
5 奈良・平安時代	15
6 中世	15
7 近世	16
第3章 南蛇井北原田遺跡	17
第1節 概要	17
第2節 古代から中世の遺構と遺物	19
1 竪穴建物	19
2 掘立柱建物	271
3 土坑	277
4 ビット	302
5 溝	332
6 炉	355
7 焼土	356
8 古墳時代以降の遺構外の遺物	361
第3節 弥生時代から古墳時代前期の遺構と遺物	362
1 溝	362
2 遺構外の遺物	363
第4節 縄文時代の遺構と遺物	365
1 土坑	365
2 遺物集中	369
3 遺構外の遺物	375
第4章 蚊沼大神分遺跡	379
第1節 概要	379
第2節 1面で発見された遺構と遺物	381
1 土坑	381
2 溝	381
3 落込み	384
4 水田状遺構	384
5 1面の遺構外の遺物	388
第3節 2面で発見された遺構と遺物	389
1 土坑	389
2 溝	391
3 水田址	397
4 2面の遺構外の遺物	398
第4節 2.5面で発見された遺構と遺物	399
1 土坑	399
2 溝	399
3 落込み	405
第5節 3面で発見された遺構と遺物	408
1 溝	408
2 その他の遺構	413

3	3面の遺構外の遺物	417
4	面不詳の遺構外の遺物	417
第5章	自然科学分析	418
第1節	自然科学分析の委託	418
1	自然科学分析資料	418
2	自然科学分析の目的	418
3	自然科学分析の委託	418
4	委託の成果	418
第2節	南蛇井北原田遺跡から出土した 炭化種実	419
第3節	南蛇井北原田遺跡出土磨石に 付着する黒色物の分析	421
第4節	南蛇井北原田遺跡から出土した 骨の人類学的報告	423
第6章	まとめ	427
第1節	古墳時代以降の遺構	427
1	概要	427
2	竪穴建物の分布の変遷	427
第2節	縄文時代の遺構と遺物	430
南蛇井北原田遺跡	遺構一覧表	431
蚊沼大神分遺跡	遺構一覧表	437
南蛇井北原田遺跡	遺物観察表	438
蚊沼大神分遺跡	遺物観察表	473
樹種同定一覧表		474
南蛇井北原田遺跡	非掲載遺物集計表	475
蚊沼大神分遺跡	非掲載遺物集計表	480

挿図目次

第1図	道路位置図	1
第2図	道路周辺地形図	2
第3図	誤植トレンチ設定概要図	3
第4図	調査区配置図(左)とグリッド設定図(右)	6
第5図	南桜井北原田道路跡基本層記録位置と土層断面	7
第6図	蚊沼大神分道跡の基本層記録位置と土層断面	8
第7図	地質図	9
第8図	周辺道路分布図	12
第9図	調査区全体図1	17
第10図	調査区全体図2	18
第11図	1号整穴建物	20
第12図	1号整穴建物竈	21
第13図	1号整穴建物出土遺物	22
第14図	2号整穴建物	23
第15図	3号整穴建物	24
第16図	3号整穴建物竈	25
第17図	3号整穴建物出土遺物	26
第18図	4号整穴建物と出土遺物	27
第19図	5号整穴建物	28
第20図	5号整穴建物出土遺物(1)	29
第21図	5号整穴建物出土遺物(2)	30
第22図	6号整穴建物	31
第23図	7号整穴建物	32
第24図	7号整穴建物竈	33
第25図	7号整穴建物出土遺物	33
第26図	8号整穴建物	34
第27図	8号整穴建物出土遺物	35
第28図	9号整穴建物	36
第29図	9号整穴建物竈と出土遺物	37
第30図	10号整穴建物と出土遺物	38
第31図	11号整穴建物	39
第32図	11号整穴建物出土遺物	40
第33図	12号整穴建物	41
第34図	12号整穴建物出土遺物	42
第35図	13号整穴建物	43
第36図	13号整穴建物竈	44
第37図	13号整穴建物出土遺物	45
第38図	14号整穴建物	46
第39図	14号整穴建物竈	47
第40図	15号整穴建物(1)	48
第41図	15号整穴建物(2)	49
第42図	15号整穴建物出土遺物	50
第43図	16号整穴建物と出土遺物	51
第44図	17号整穴建物(1)	53
第45図	17号整穴建物(2)	54
第46図	17号整穴建物竈	55
第47図	17号整穴建物出土遺物(1)	56
第48図	17号整穴建物出土遺物(2)	57
第49図	17号整穴建物出土遺物(3)	58
第50図	17号整穴建物出土遺物(4)	59
第51図	17号整穴建物出土遺物(5)	60
第52図	18号整穴建物と出土遺物	61
第53図	19号整穴建物(1)	62
第54図	19号整穴建物(2)	63
第55図	19号整穴建物出土遺物(1)	64
第56図	19号整穴建物出土遺物(2)	65
第57図	20号整穴建物	66
第58図	20号整穴建物竈と出土遺物	67
第59図	21号整穴建物(1)	68
第60図	21号整穴建物(2)	69
第61図	21号整穴建物出土遺物	70
第62図	22号整穴建物と出土遺物	71

第63図	23号整穴建物と出土遺物	72
第64図	24号整穴建物(1)	73
第65図	24号整穴建物(2)	74
第66図	24号整穴建物出土遺物(1)	75
第67図	24号整穴建物出土遺物(2)	76
第68図	25号整穴建物	78
第69図	25号整穴建物竈	79
第70図	25号整穴建物出土遺物	80
第71図	26号整穴建物(1)	81
第72図	26号整穴建物(2)	82
第73図	26号整穴建物(3)	83
第74図	26号整穴建物竈	84
第75図	26号整穴建物出土遺物(1)	85
第76図	26号整穴建物出土遺物(2)	86
第77図	27号整穴建物(1)	87
第78図	27号整穴建物(2)	88
第79図	27号整穴建物竈	89
第80図	27号整穴建物出土遺物(1)	90
第81図	27号整穴建物出土遺物(2)	91
第82図	27号整穴建物出土遺物(3)	92
第83図	27号整穴建物出土遺物(4)	93
第84図	28号整穴建物	95
第85図	28号整穴建物出土遺物	96
第86図	29号整穴建物	97
第87図	29号整穴建物竈	98
第88図	29号整穴建物出土遺物	99
第89図	30号整穴建物(1)	100
第90図	30号整穴建物(2)	101
第91図	30号整穴建物竈	102
第92図	30号整穴建物出土遺物	103
第93図	31号整穴建物(1)	104
第94図	31号整穴建物(2)	105
第95図	31号整穴建物出土遺物(1)	106
第96図	31号整穴建物出土遺物(2)	107
第97図	32号整穴建物(1)	108
第98図	32号整穴建物(2)	109
第99図	32号整穴建物出土遺物	110
第100図	33号整穴建物	112
第101図	33号整穴建物竈と出土遺物(1)	113
第102図	33号整穴建物出土遺物(2)	114
第103図	34号整穴建物	115
第104図	34号整穴建物竈	116
第105図	34号整穴建物出土遺物	117
第106図	35号整穴建物	118
第107図	35号整穴建物竈	119
第108図	35号整穴建物出土遺物	120
第109図	36号整穴建物	121
第110図	36号整穴建物竈と出土遺物	122
第111図	37号整穴建物と出土遺物	123
第112図	38号整穴建物	124
第113図	38号整穴建物竈	125
第114図	38号整穴建物出土遺物	126
第115図	39号整穴建物	127
第116図	39号整穴建物竈と出土遺物	128
第117図	40号整穴建物(1)	129
第118図	40号整穴建物(2)	130
第119図	40号整穴建物出土遺物	131
第120図	41号整穴建物	132
第121図	41号整穴建物竈	133
第122図	41号整穴建物出土遺物(1)	134
第123図	41号整穴建物出土遺物(2)	135
第124図	42号整穴建物	136
第125図	42号整穴建物出土遺物	137
第126図	43号整穴建物	138
第127図	43号整穴建物出土遺物	139
第128図	44号整穴建物	140

第129区	44号整穴建物出土遺物	141
第130区	45号整穴建物	142
第131区	45号整穴建物出土遺物	143
第132区	46号整穴建物	144
第133区	46号整穴建物出土遺物	145
第134区	47号整穴建物	146
第135区	47号整穴建物	147
第136区	47号整穴建物出土遺物	148
第137区	48号整穴建物(1)	149
第138区	48号整穴建物(2)	150
第139区	48号整穴建物	151
第140区	48号整穴建物出土遺物(1)	152
第141区	48号整穴建物出土遺物(2)	153
第142区	48号整穴建物出土遺物(3)	154
第143区	49号整穴建物	155
第144区	49号整穴建物出土遺物	156
第145区	50号整穴建物	157
第146区	50号整穴建物	158
第147区	50号整穴建物出土遺物	159
第148区	51号整穴建物(1)	161
第149区	51号整穴建物(2)	162
第150区	51号整穴建物	163
第151区	51号整穴建物出土遺物(1)	164
第152区	51号整穴建物出土遺物(2)	165
第153区	51号整穴建物出土遺物(3)	166
第154区	51号整穴建物出土遺物(4)	167
第155区	52号整穴建物	168
第156区	52号整穴建物出土遺物	169
第157区	53号整穴建物	170
第158区	53号整穴建物	171
第159区	53号整穴建物出土遺物(1)	172
第160区	53号整穴建物出土遺物(2)	173
第161区	54号整穴建物	174
第162区	54号整穴建物と出土遺物	175
第163区	55号整穴建物	176
第164区	55号整穴建物	177
第165区	55号整穴建物出土遺物	178
第166区	56号整穴建物	179
第167区	56号整穴建物	180
第168区	56号整穴建物出土遺物	181
第169区	57号整穴建物	182
第170区	58号整穴建物	183
第171区	58号整穴建物	184
第172区	58号整穴建物出土遺物	185
第173区	59号整穴建物	186
第174区	59号整穴建物と出土遺物	187
第175区	60号整穴建物と出土遺物	188
第176区	61号整穴建物(1)	189
第177区	61号整穴建物(2)	190
第178区	61号整穴建物	191
第179区	61号整穴建物出土遺物	192
第180区	62号整穴建物	193
第181区	62号整穴建物	194
第182区	62号整穴建物出土遺物	195
第183区	63号整穴建物	196
第184区	63号整穴建物出土遺物	197
第185区	64号整穴建物(1)	198
第186区	64号整穴建物(2)	199
第187区	64号整穴建物	200
第188区	64号整穴建物出土遺物	201
第189区	65号整穴建物	202
第190区	65号整穴建物	203
第191区	65号整穴建物出土遺物(1)	204
第192区	65号整穴建物出土遺物(2)	205
第193区	66号整穴建物(1)	206
第194区	66号整穴建物(2)	207

第195区	66号整穴建物	208
第196区	66号整穴建物出土遺物	209
第197区	67号整穴建物	210
第198区	68号整穴建物(1)	211
第199区	68号整穴建物(2)	212
第200区	68号整穴建物	213
第201区	68号整穴建物出土遺物	214
第202区	69号整穴建物	215
第203区	69号整穴建物	216
第204区	69号整穴建物出土遺物	217
第205区	70号整穴建物(1)	218
第206区	70号整穴建物(2)	219
第207区	70号整穴建物	220
第208区	70号整穴建物出土遺物	221
第209区	71号整穴建物	222
第210区	71号整穴建物と出土遺物	223
第211区	72号整穴建物	224
第212区	72号整穴建物出土遺物	225
第213区	73号整穴建物と出土遺物	226
第214区	74号整穴建物	227
第215区	75号整穴建物	228
第216区	75号整穴建物	229
第217区	75号整穴建物出土遺物	230
第218区	76号整穴建物	231
第219区	76号整穴建物出土遺物	232
第220区	77号整穴建物	233
第221区	77号整穴建物	234
第222区	77号整穴建物出土遺物	235
第223区	78号整穴建物と出土遺物	236
第224区	79号整穴建物	237
第225区	80号整穴建物	238
第226区	80号整穴建物と出土遺物	239
第227区	81号整穴建物(1)	240
第228区	81号整穴建物(2)	241
第229区	81号整穴建物	242
第230区	81号整穴建物出土遺物(1)	243
第231区	81号整穴建物出土遺物(2)	244
第232区	82号整穴建物	246
第233区	82号整穴建物出土遺物	247
第234区	83号整穴建物	248
第235区	83号整穴建物と出土遺物	249
第236区	84号整穴建物	251
第237区	84号整穴建物と出土遺物	252
第238区	85号整穴建物と出土遺物	253
第239区	86号整穴建物	254
第240区	86号整穴建物	255
第241区	86号整穴建物と出土遺物	256
第242区	87号整穴建物と出土遺物	257
第243区	88号整穴建物	258
第244区	88号整穴建物	259
第245区	88号整穴建物出土遺物(1)	260
第246区	88号整穴建物出土遺物(2)	261
第247区	90号整穴建物	262
第248区	90号整穴建物と出土遺物	263
第249区	91号整穴建物	264
第250区	92号整穴建物	265
第251区	93号整穴建物	266
第252区	94号整穴建物	267
第253区	94号整穴建物	268
第254区	94号整穴建物出土遺物	269
第255区	95号整穴建物	270
第256区	1号掘立柱建物	271
第257区	2号掘立柱建物	273
第258区	3号掘立柱建物	274
第259区	4号掘立柱建物	276
第260区	土坑(1)	279

第261図	土坑(2)	281
第262図	土坑(3)	283
第263図	土坑(4)	286
第264図	土坑(5)	288
第265図	土坑(6)	290
第266図	土坑(7)	293
第267図	土坑(8)	296
第268図	土坑(9)	298
第269図	土坑(10)	300
第270図	土坑(11)	301
第271図	土坑(12)	302
第272図	ピット(1)	303
第273図	ピット(2)	304
第274図	ピット(3)	305
第275図	ピット(4)	307
第276図	ピット(5)	309
第277図	ピット(6)	310
第278図	ピット(7)	311
第279図	ピット(8)	312
第280図	ピット(9)	313
第281図	ピット(10)	314
第282図	ピット(11)	315
第283図	ピット(12)	316
第284図	ピット(13)	317
第285図	ピット(14)	318
第286図	ピット(15)	319
第287図	ピット(16)	320
第288図	ピット(17)	321
第289図	ピット(18)	322
第290図	ピット(19)	323
第291図	ピット(20)	324
第292図	ピット(21)	325
第293図	ピット(22)	326
第294図	ピット(23)	327
第295図	ピット(24)	328
第296図	ピット(25)	329
第297図	ピット(26)	330
第298図	ピット(27)	331
第299図	1・2号溝(1)	333
第300図	1・2号溝(2)と出土遺物	334
第301図	6・7号溝(1)	336
第302図	6・7号溝(2)	337
第303図	4・5・8・9号溝(1)	339
第304図	4・5・8・9号溝(2)	340
第305図	4・5・8・9号溝(3)と4号溝出土遺物	341
第306図	8号溝出土遺物(1)	342
第307図	8号溝出土遺物(2)	343
第308図	15号溝	344
第309図	10号溝	346
第310図	11・14・18～20号溝(1)	348
第311図	11・14・18～20号溝(2)	349
第312図	11・14・18～20号溝(3)	350
第313図	18号溝出土遺物	351
第314図	16・17・21・22号溝(1)	352
第315図	16・17・21・22号溝(2)	353
第316図	16号溝出土遺物	354
第317図	1号竈	355
第318図	1号竈土と出土遺物	357
第319図	2号竈土と出土遺物	358
第320図	3号竈土	359
第321図	4～6号竈土と5号竈土出土遺物	360
第322図	道橋外出土遺物	361
第323図	3号溝	362
第324図	3号溝出土遺物	363
第325図	道橋外出土遺物	364
第326図	4・26号土坑と4号土坑出土遺物	366

第327図	26号土坑出土遺物	367
第328図	33・34号土坑と出土遺物	368
第329図	1号遺物集中	369
第330図	1号遺物集中出土遺物(1)	370
第331図	1号遺物集中出土遺物(2)	371
第332図	1号遺物集中出土遺物(3)	372
第333図	1号遺物集中出土遺物(4)	373
第334図	1号遺物集中出土遺物(5)	374
第335図	道橋外出土遺物(1)	375
第336図	道橋外出土遺物(2)	376
第337図	道橋外出土遺物(3)	377
第338図	道橋外出土遺物(4)	378
第339図	調査区全体図1	379
第340図	調査区全体図2	380
第341図	1号土坑	381
第342図	1号溝(1)と出土遺物	382
第343図	1号溝(2)	383
第344図	1・2号落込み	(折込)
第345図	1号水田状遺構	387
第346図	1号道橋外出土遺物	388
第347図	3～5号土坑	390
第348図	3～8・15号溝(1)	393
第349図	3～8・15号溝(2)	394
第350図	3～8・15号溝(3)	395
第351図	3～8・15号溝(4)	396
第352図	Aa-B下水田	398
第353図	2号土坑	399
第354図	2・17号溝(1)	400
第355図	2・17号溝(2)	401
第356図	2号溝出土遺物(1)	402
第357図	2号溝出土遺物(2)	403
第358図	16号溝(1)	404
第359図	16号溝(2)	405
第360図	4号落込み(1)	406
第361図	4号落込み(2)	407
第362図	9～13号溝(1)	410
第363図	9～13号溝(2)	411
第364図	9～13号溝(3)	412
第365図	14号溝	413
第366図	1号壇状遺構(1)	414
第367図	1号壇状遺構(2)	(折込)
第368図	3号道橋外出土遺物	417
第369図	縄文時代道橋外出土遺物	417
第370図	南蛇井北原田遺跡と中沢平賀野戸遺跡の 竃穴建物の変遷(5～7世紀)	428
第371図	南蛇井北原田遺跡と中沢平賀野戸遺跡の 竃穴建物の変遷(8～11世紀)	429

表目次

第1表	周辺遺跡一覧	13
第2表	周辺古墳一覧	14
第3表	南蛇井北原田遺跡 道橋一覧表	431
第4表	蛟沼大分遺跡 道橋一覧表	437
第5表	南蛇井北原田遺跡 遺物観察表	438
第6表	蛟沼大分遺跡 遺物観察表	473
第7表	榎柳河定一覧表	474
第8表	南蛇井北原田遺跡 非掘載遺物集計表	475
第9表	蛟沼大分遺跡 非掘載遺物集計表	480

写真目次

- 口絵1 南蛇井北原田道跡令和2年度調査区航空写真(北から)
南蛇井北原田道跡令和3年度調査区航空写真(北から)
- 口絵2 蚊沼大神分道跡調査区全景(南から)
蚊沼川(蚊沼大神分道跡東端、東から)
- 写真1 南蛇井北原田道跡27号竪穴建物調査風景
写真2 蚊沼大神分道跡水田調査風景
- P.L. 1 1. A区・B区空中写真(下:東)
2. B区・C区空中写真(下:東)
- P.L. 2 1. 1号竪穴建物土層断面(南から)
2. 1号竪穴建物遺物出土状況(南から)
3. 1号竪穴建物電線全景(南から)
4. 1号竪穴建物電線り方全景(南から)
5. 1号竪穴建物貯蔵穴全景(南から)
6. 1号竪穴建物掘り方全景(南から)
7. 2号竪穴建物全景(南から)
8. 2号竪穴建物土層断面(南から)
- P.L. 3 1. 2号竪穴建物電線り方全景(南から)
2. 2号竪穴建物掘り方全景(南から)
3. 3号竪穴建物全景(南から)
4. 3号竪穴建物土師器遺物出土状況(南から)
5. 3号竪穴建物電線全景(南から)
6. 3号竪穴建物電線り方全景(南から)
7. 3号竪穴建物貯蔵穴土層断面(南から)
8. 3号竪穴建物掘り方全景(南から)
- P.L. 4 1. 4号竪穴建物全景(南から)
2. 4号竪穴建物掘り方全景(南から)
3. 5号竪穴建物遺物出土状況(南東から)
4. 5号竪穴建物掘り方全景(南東から)
5. 6号竪穴建物全景(南から)
6. 6号竪穴建物掘り方全景(東から)
7. 7号竪穴建物全景(南から)
8. 7号竪穴建物電線全景(南から)
- P.L. 5 1. 9号竪穴建物貯蔵穴全景(南から)
2. 9号竪穴建物掘り方全景(南から)
3. 10号竪穴建物全景(南から)
4. 10号竪穴建物掘り方全景(南から)
5. 11号竪穴建物全景(西から)
6. 11号竪穴建物掘り方全景(南から)
7. 12号竪穴建物全景(南から)
8. 12号竪穴建物掘り方全景(南から)
- P.L. 6 1. 13号竪穴建物全景(南西から)
2. 13号竪穴建物電線全景(南西から)
3. 13号竪穴建物電線り方全景(南西から)
4. 13号竪穴建物掘り方全景(南西から)
5. 14号竪穴建物全景(南から)
6. 14号竪穴建物電線全景(南から)
7. 14号竪穴建物電線り方全景(南から)
8. 14号竪穴建物掘り方全景(南から)
- P.L. 7 1. 15号竪穴建物全景(南から)
2. 15号竪穴建物電線全景(南から)
3. 15号竪穴建物電線り方全景(南から)
4. 15号竪穴建物貯蔵穴全景(南から)
5. 15号竪穴建物掘り方全景(南から)
6. 16号竪穴建物全景(南から)
7. 16号竪穴建物土坑1全景(西から)
8. 16号竪穴建物掘り方全景(南から)
- P.L. 8 1. 17号竪穴建物遺物出土状況(南から)
2. 17号竪穴建物全景(南から)
3. 17号竪穴建物遺物出土状況(南から)
4. 17号竪穴建物遺物出土状況(南から)
5. 17号竪穴建物遺物出土状況(東から)
6. 17号竪穴建物遺物出土状況(南西から)
7. 17号竪穴建物遺物出土状況(南東から)
8. 17号竪穴建物遺物出土状況(南から)
- P.L. 9 1. 17号竪穴建物電線全景(南から)
2. 17号竪穴建物電線り方全景(南から)
3. 17号竪穴建物貯蔵穴全景(南から)
4. 17号竪穴建物ピット1全景(南から)
5. 17号竪穴建物ピット2全景(南から)
6. 17号竪穴建物ピット3全景(南から)
7. 17号竪穴建物ピット4全景(南から)
8. 17号竪穴建物掘り方全景(南から)
- P.L. 10 1. 18号竪穴建物全景(南から)
2. 18号竪穴建物掘り方全景(南から)
3. 19号竪穴建物全景(西から)
4. 19号竪穴建物電線全景(西から)
5. 19号竪穴建物電線り方全景(西から)
6. 19号竪穴建物掘り方全景(西から)
7. 19号竪穴建物ピット1全景(北から)
8. 19号竪穴建物ピット2全景(北から)
- P.L. 11 1. 20号竪穴建物全景(西から)
2. 20号竪穴建物電線全景(西から)
3. 20号竪穴建物電線埋道部(南から)
4. 20号竪穴建物電線り方全景(西から)
5. 21号竪穴建物全景(西から)
6. 21号竪穴建物土坑1全景(南から)
7. 22号竪穴建物全景(西から)
8. 23号竪穴建物全景(南から)
- P.L. 12 1. 24号竪穴建物全景(南東から)
2. 24号竪穴建物遺物出土状況(南から)
3. 24号竪穴建物電線全長(南東から)
4. 24号竪穴建物電線り方土層断面(南東から)
5. 24号竪穴建物貯蔵穴全景(南東から)
6. 24号竪穴建物掘り方全景(南東から)
7. 24号竪穴建物土坑出土状況(西から)
8. 25号竪穴建物遺物出土状況(南から)
- P.L. 13 1. 25号竪穴建物全景(南から)
2. 25号竪穴建物電線遺物出土状況(南から)
3. 25号竪穴建物電線全景(南から)
4. 25号竪穴建物電線り方全景(南から)
5. 25号竪穴建物貯蔵穴(南から)
6. 25号竪穴建物掘り方と土層断面(南から)
7. 26号竪穴建物全景(南から)
8. 26号竪穴建物電線全景(南から)
- P.L. 14 1. 26号竪穴建物電線埋道部(北から)
2. 26号竪穴建物電線り方全景(南から)
3. 26号竪穴建物ピット2遺物出土状況(南から)
4. 26号竪穴建物貯蔵穴全景(南から)
5. 27号竪穴建物炭化物・遺物出土状況(南西から)
6. 27号竪穴建物遺物出土状況(西から)
7. 27号竪穴建物遺物(4)出土状況(南から)
8. 27号竪穴建物全景(南から)
- P.L. 15 1. 27号竪穴建物電線遺物出土状況(南から)
2. 27号竪穴建物電線全景(南から)
3. 27号竪穴建物電線右袖材(南から)
4. 27号竪穴建物電線り方土層断面(南から)
5. 27号竪穴建物土坑1遺物出土状況(南から)
6. 27号竪穴建物土坑1全景(南から)
7. 27号竪穴建物ピット1全景(南から)
8. 27号竪穴建物ピット4全景(南から)
- P.L. 16 1. 28号竪穴建物全景(西から)
2. 28号竪穴建物電線遺物出土状況(北西から)
3. 28号竪穴建物電線全景(西から)
4. 28号竪穴建物電線り方全景(西から)
5. 29号竪穴建物遺物出土状況(南から)
6. 29号竪穴建物遺物出土状況(南東から)

	7. 29号型穴建物全景(南から)	P L. 25	1. 40号型穴建物遺物出土状況(南西から)
	8. 29号型穴建物電線全景(南から)		2. 40号型穴建物遺物出土状況(南東から)
P L. 17	1. 30号型穴建物全景(南から)		3. 40号型穴建物電線下方全景(南西から)
	2. 30号型穴建物粘土出土状況(西から)		4. 40号型穴建物掘り方全景(南東から)
	3. 30号型穴建物全景(南から)		5. 41・42・43号型穴建物全景(南から)
	4. 30号型穴建物電線全景(南から)	P L. 26	1. 41号型穴建物全景(南から)
	5. 30号型穴建物電線掘り方全景(南から)		2. 41号型穴建物遺物出土状況(南から)
	6. 30号型穴建物貯蔵穴上層断面(南から)		3. 41号型穴建物電線下方全景(南から)
	7. 30号型穴建物ビット1号型全景(南から)		4. 41号型穴建物電線掘り方全景(南から)
P L. 18	8. 30号型穴建物掘り方全景(南から)		5. 42号型穴建物遺物出土状況(北東から)
	1. 31号型穴建物炭化材出土状況(南から)		6. 43号型穴建物全景(南東から)
	2. 31号型穴建物炭化材出土状況(北東から)		7. 44号型穴建物遺物出土状況(南東から)
	3. 31号型穴建物こも編み石出土状況(西から)		8. 44号型穴建物遺物(1・5)出土状況(南から)
	4. 31号型穴建物全景(南から)	P L. 27	1. 44号型穴建物遺物出土状況(東から)
	5. 32号型穴建物全景(西から)		2. 44号型穴建物遺物出土状況(南から)
	6. 32号型穴建物遺物出土状況(西から)		3. 45・46号型穴建物上層断面(東から)
	7. 32号型穴建物遺物出土状況(北西から)		4. 45・46号型穴建物遺物出土状況(西から)
	8. 32号型穴建物遺物出土状況(西から)		5. 45・46号型穴建物全景(西から)
P L. 19	1. 32号型穴建物電線全景(西から)		6. 45号型穴建物電線全景(西から)
	2. 32号型穴建物電線掘り方全景(西から)		7. 45号型穴建物電線掘り方全景(西から)
	3. 32号型穴建物貯蔵穴全景(西から)		8. 45号型穴建物土坑1号型(東から)
	4. 32号型穴建物掘り方全景(西から)	P L. 28	1. 46号型穴建物電線掘り方全景(南から)
	5. 33号型穴建物遺物出土状況(南から)		2. 46号型穴建物土坑1号型(南から)
	6. 33号型穴建物全景(南から)		3. 47号型穴建物炭化材出土状況(南から)
	7. 33号型穴建物電線全景(南から)		4. 47号型穴建物全景(南から)
P L. 20	8. 33号型穴建物電線袖材設置状況(南から)		5. 47号型穴建物こも編み石出土状況(北から)
	1. 34号型穴建物遺物出土状況(南西から)		6. 47号型穴建物電線全景(南から)
	2. 34号型穴建物遺物(1)出土状況(南西から)		7. 47号型穴建物電線袖材設置状況(南から)
	3. 34号型穴建物全景(南西から)		8. 47号型穴建物電線掘り方全景(南から)
	4. 34号型穴建物電線全景(南西から)	P L. 29	1. 47号型穴建物土坑1号型(西から)
	5. 34号型穴建物電線掘り方全景(南西から)		2. 47号型穴建物・2号溝上層断面(西から)
	6. 34号型穴建物貯蔵穴全景(南東から)		3. 48号型穴建物遺物出土状況(南西から)
	7. 34号型穴建物掘り方全景(南西から)		4. 48号型穴建物全景(南東から)
	8. 35号型穴建物遺物出土状況(西から)		5. 48号型穴建物遺物出土状況(南東から)
P L. 21	1. 35号型穴建物掘り付近遺物出土状況(西から)		6. 48号型穴建物遺物出土状況(北西から)
	2. 35号型穴建物全景(西から)		7. 48号型穴建物遺物出土状況(北西から)
	3. 35号型穴建物電線全景(西から)		8. 48号型穴建物遺物出土状況(東から)
	4. 35号型穴建物掘り方全景(西から)	P L. 30	1. 48号型穴建物遺物出土状況(北東から)
	5. 35号型穴建物貯蔵穴全景(西から)		2. 48号型穴建物遺物出土状況(南東から)
	6. 35号型穴建物掘り方全景(西から)		3. 48号型穴建物電線掘り方全景(南東から)
	7. 36号型穴建物全景(西から)		4. 48号型穴建物貯蔵穴全景(南から)
	8. 36号型穴建物遺物出土状況(西から)		5. 48号型穴建物ビット1号型(南東から)
P L. 22	1. 36号型穴建物遺物出土状況(西から)		6. 48号型穴建物ビット2号型(南から)
	2. 36号型穴建物掘り付近遺物出土状況(西から)		7. 48号型穴建物ビット3号型(南東から)
	3. 36号型穴建物電線全景(西から)		8. 48号型穴建物ビット4号型(南東から)
	4. 36号型穴建物電線掘り方全景(西から)	P L. 31	1. 49号型穴建物全景(南から)
	5. 36号型穴建物貯蔵穴全景(西から)		2. 49号型穴建物遺物出土状況(南東から)
	6. 36号型穴建物掘り方全景(西から)		3. 49号型穴建物電線全景(南から)
	7. 36(手前)・37(奥)号型穴建物(南から)		4. 50号型穴建物全景(南から)
	8. 37号型穴建物全景(南から)		5. 50号型穴建物電線全景(南から)
P L. 23	1. 37号型穴建物遺物出土状況(南東から)		6. 50号型穴建物電線掘り方全景(南から)
	2. 37号型穴建物掘り方全景(南から)		7. 50号型穴建物貯蔵穴全景(東から)
	3. 38号型穴建物遺物出土状況(南から)		8. 50号型穴建物土坑1号型(南東から)
	4. 38号型穴建物遺物出土状況(西から)	P L. 32	1. 51号型穴建物電線掘り方全景(南から)
	5. 38号型穴建物全景(南から)		2. 51号型穴建物ビット1号型(南から)
	6. 38号型穴建物電線全景(南から)		3. 51号型穴建物ビット2号型(南から)
	7. 38号型穴建物電線掘り方全景(南から)		4. 51号型穴建物ビット3号型(南から)
	8. 38号型穴建物掘り方全景(南から)		5. 51号型穴建物ビット4号型(南東から)
P L. 24	1. 39号型穴建物遺物出土状況(南から)		6. 52号型穴建物全景(西から)
	2. 39号型穴建物全景(南から)		7. 53号型穴建物全景(南西から)
	3. 39号型穴建物電線全景(南から)		8. 53号型穴建物南限階遺物出土状況(北から)
	4. 39号型穴建物電線掘り方全景(南から)	P L. 33	1. 53号型穴建物遺物出土状況(西から)
	5. 39号型穴建物掘り方全景(南から)		2. 53号型穴建物全景(南から)
	6. 39・40号型穴建物全景(西から)		3. 53号型穴建物遺物出土状況(北から)
	7. 40号型穴建物遺物出土状況(南東から)		4. 53号型穴建物遺物出土状況
	8. 40号型穴建物こも編み石出土状況(北東から)		5. 53号型穴建物電線全景(南西から)

	6. 53号型穴建物電線り方上層断面(西から)		8. 65号型穴建物張り方全景(南から)
	7. 53号型穴建物ビット1全景(南から)	P L. 42	1. 66号型穴建物全景(西から)
	8. 53号型穴建物ビット3全景(南から)		2. 66号型穴建物電線り方上状況(西から)
P L. 34	1. 54号型穴建物遺物出土状況(南から)		3. 66号型穴建物電線り方全景(西から)
	2. 54号型穴建物全景(南から)		4. 66号型穴建物電線り方全景(西から)
	3. 54号型穴建物電線り方上状況(南から)		5. 66号型穴建物床下土坑6・7全景(北西から)
	4. 54号型穴建物全景(南から)		6. 66号型穴建物張り方全景(西から)
	5. 54号型穴建物電線り方全景(南から)		7. 67号型穴建物全景(南から)
	6. 54号型穴建物電線り方全景(南から)		8. 68号型穴建物遺物出土状況(南から)
	7. 55号型穴建物全景(南から)	P L. 43	1. 68号型穴建物全景(南から)
	8. 55号型穴建物遺物(9)出土状況		2. 68号型穴建物電線り方上状況(南から)
P L. 35	1. 55号型穴建物電線り方全景(南から)		3. 68号型穴建物電線り方全景(南から)
	2. 55号型穴建物電線り方全景(南から)		4. 68号型穴建物電線り方全景(南から)
	3. 55号型穴建物電線り方全景(南から)		5. 68号型穴建物張り方全景(南から)
	4. 56号型穴建物遺物出土状況(南東から)		6. 69号型穴建物全景(西から)
	5. 56号型穴建物全景(南東から)		7. 69号型穴建物電線り方上状況(南から)
	6. 56号型穴建物遺物(1・3)出土状況(東から)		8. 69号型穴建物電線り方全景(南から)
	7. 56号型穴建物電線り方上状況(南東から)	P L. 44	1. 69号型穴建物電線り方全景(南から)
	8. 56号型穴建物電線り方全景(南東から)		2. 69号型穴建物張り方全景(南から)
P L. 36	1. 56号型穴建物電線り方全景(南東から)		3. 70号型穴建物全景(南から)
	2. 56号型穴建物貯蔵穴上層断面(南東から)		4. 70号型穴建物電線り方全景(南から)
	3. 57号型穴建物全景(西から)		5. 70号型穴建物電線り方全景(南から)
	4. 57号型穴建物粘土上状況(西から)		6. 70号型穴建物張り方全景(南から)
	5. 57号型穴建物遺物出土状況(西から)		7. 71号型穴建物全景(南から)
	6. 58号型穴建物遺物出土状況(北から)		8. 71号型穴建物電線り方全景(南から)
	7. 58号型穴建物全景(南から)	P L. 45	1. 71号型穴建物電線り方全景(南から)
	8. 58号型穴建物電線り方全景(東から)		2. 71号型穴建物張り方全景(南から)
P L. 37	1. 58号型穴建物電線り方全景(南から)		3. 72号型穴建物全景(東から)
	2. 58号型穴建物貯蔵穴全景(南から)		4. 72号型穴建物遺物出土状況(東から)
	3. 59号型穴建物全景(西から)		5. 72号型穴建物張り方全景(東から)
	4. 59号型穴建物電線り方上状況(西から)		6. 73号型穴建物全景(南から)
	5. 59号型穴建物電線り方全景(西から)		7. 74号型穴建物全景(南から)
	6. 59号型穴建物電線り方全景(西から)		8. 74号型穴建物上層断面(西から)
	7. 60号型穴建物全景(南西から)	P L. 46	1. 75号型穴建物全景(南から)
	8. 60号型穴建物電線り方全景(南西から)		2. 75号型穴建物電線り方全景(南から)
P L. 38	1. 60号型穴建物電線り方全景(南西から)		3. 75号型穴建物電線り方全景(南から)
	2. 60号型穴建物貯蔵穴全景(南西から)		4. 75号型穴建物張り方全景(南から)
	3. 61号型穴建物全景(南から)		5. 76号型穴建物遺物出土状況(西から)
	4. 61号型穴建物電線り方上状況(南から)		6. 76号型穴建物遺物出土状況(西から)
	5. 61号型穴建物電線り方上状況(北から)		7. 76号型穴建物全景(西から)
	6. 61号型穴建物電線り方上状況(南から)		8. 76号型穴建物ビット1全景(北から)
	7. 61号型穴建物電線り方全景(南から)	P L. 47	1. 76号型穴建物ビット2全景(北から)
	8. 61号型穴建物電線り方全景(南から)		2. 76号型穴建物張り方全景(西から)
P L. 39	1. 61号型穴建物ビット1全景(南から)		3. 77号型穴建物遺物出土状況(西から)
	2. 61号型穴建物ビット2全景(南から)		4. 77号型穴建物遺物出土状況(北から)
	3. 61号型穴建物ビット3全景(南から)		5. 77号型穴建物全景(西から)
	4. 61号型穴建物ビット4全景(南から)		6. 77号型穴建物電線り方全景(西から)
	5. 62号型穴建物全景(北から)		7. 77号型穴建物電線り方全景(西から)
	6. 62号型穴建物遺物出土状況(北東から)		8. 77号型穴建物張り方全景(西から)
	7. 62号型穴建物遺物出土状況(北から)	P L. 48	1. 78号型穴建物全景(南西から)
	8. 62号型穴建物電線り方全景(南西から)		2. 79号型穴建物全景(南西から)
P L. 40	1. 62号型穴建物電線り方全景(南西から)		3. 80号型穴建物全景(西から)
	2. 62号型穴建物土坑1全景(南から)		4. 80号型穴建物電線り方全景(南から)
	3. 63号型穴建物全景(東から)		5. 80号型穴建物電線り方全景(西から)
	4. 63号型穴建物遺物出土状況(東から)		6. 80号型穴建物張り方全景(西から)
	5. 63号型穴建物土坑1全景(南から)		7. 81号型穴建物遺物出土状況(西から)
	6. 63号型穴建物張り方全景(東から)		8. 81号型穴建物遺物出土状況(西から)
	7. 64号型穴建物全景(東から)	P L. 49	1. 81号型穴建物全景(南から)
	8. 64号型穴建物遺物出土状況(南から)		2. 81号型穴建物電線り方全景(南から)
P L. 41	1. 64号型穴建物遺物(9)出土状況(南東から)		3. 81号型穴建物電線り方全景(南から)
	2. 64号型穴建物電線り方全景(南から)		4. 81号型穴建物貯蔵穴遺物出土状況(南から)
	3. 64号型穴建物電線り方全景(南から)		5. 81号型穴建物貯蔵穴全景(南から)
	4. 64号型穴建物電線り方全景(南から)		6. 81号型穴建物ビット1全景(南から)
	5. 65号型穴建物全景(南から)		7. 81号型穴建物ビット2全景(南から)
	6. 65号型穴建物電線り方全景(南から)		8. 81号型穴建物ビット3全景(南から)
	7. 65号型穴建物電線り方全景(南から)	P L. 50	1. 81号型穴建物ビット4全景(南から)

	2. 81号型穴建物掘り方全景(南から)		6. 2号孤立柱建物17号ビット全景(南から)
	3. 81号型穴建物土坑1全景(南から)		7. 2号孤立柱建物19号ビット全景(南から)
	4. 81号型穴建物土坑2全景(南から)		8. 2号孤立柱建物83号ビット全景(南から)
	5. 82号型穴建物遺物出土状況(西から)	P L. 59	1. 3号孤立柱建物全景(南から)
	6. 82号型穴建物遺物出土状況(北から)		2. 3号孤立柱建物167号ビット全景(南から)
	7. 82号型穴建物全景(南から)		3. 3号孤立柱建物168号ビット全景(南から)
P L. 51	8. 82号型穴建物ビット1全景(南から)		4. 3号孤立柱建物196号ビット全景(西から)
	1. 82号型穴建物ビット2全景(南から)		5. 4号孤立柱建物全景(下:南東)
	2. 82号型穴建物ビット3全景(南から)		6. 4号孤立柱建物14号ビット全景(南から)
	3. 82号型穴建物土坑1全景(北から)		7. 4号孤立柱建物16号ビット全景(南から)
	4. 82号型穴建物掘り方全景(西から)		8. 4号孤立柱建物81号ビット全景(南から)
	5. 83号型穴建物全景(南から)	P L. 60	1. 1号土坑全景(南から)
	6. 83号型穴建物竈全景(南から)		2. 2号土坑全景(南から)
	7. 83号型穴建物竈掘り方全景(南から)		3. 3号土坑全景(西から)
	8. 83号型穴建物掘り方全景(東から)		4. 5号土坑全景(南から)
P L. 52	1. 84号型穴建物全景(南から)		5. 6号土坑全景(南から)
	2. 84号型穴建物竈全景(南から)		6. 6号土坑人骨出土状況(南から)
	3. 84号型穴建物竈掘り方全景(南から)		7. 7号土坑全景(南から)
	4. 84号型穴建物掘り方全景(東から)		8. 8号土坑全景(南から)
	5. 85号型穴建物遺物出土状況(東から)		9. 9号土坑全景(南から)
	6. 85号型穴建物全景(南から)		10. 10号土坑全景(南から)
	7. 85号型穴建物遺物出土状況(東から)		11. 11号土坑全景(南東から)
	8. 85号型穴建物遺物出土状況(東から)	P L. 61	12. 12号土坑全景(東から)
P L. 53	1. 86号型穴建物遺物出土状況(西から)		1. 13号土坑全景(北から)
	2. 86号型穴建物全景(南から)		2. 14号土坑全景(南から)
	3. 86号型穴建物竈全景(南から)		3. 15号土坑全景(東から)
	4. 86号型穴建物竈袖石設置状況(南から)		4. 16号土坑全景(西から)
	5. 86号型穴建物竈掘り方全景(南から)		5. 17号土坑全景(南から)
	6. 86号型穴建物掘り方全景(南から)		6. 18・19号土坑全景(東から)
	7. 87号型穴建物遺物出土状況(西から)		7. 20号土坑全景(南から)
	8. 87号型穴建物全景(西から)		8. 21・32号土坑全景(南から)
P L. 54	1. 87号型穴建物遺物出土状況(西から)		9. 22号土坑全景(南から)
	2. 87号型穴建物掘り方全景(西から)		10. 23号土坑全景(南から)
	3. 88号型穴建物遺物出土状況(北から)		11. 24号土坑全景(南から)
	4. 88号型穴建物遺物出土状況(北から)		12. 25号土坑全景(西から)
	5. 88号型穴建物遺物出土状況(北から)		13. 28号土坑全景(東から)
	6. 88号型穴建物全景(西から)		14. 30号土坑上層断面(東から)
	7. 88号型穴建物竈遺物出土状況(北西から)		15. 31号土坑全景(西から)
	8. 88号型穴建物竈全景(北西から)	P L. 62	1. 35号土坑全景(北西から)
P L. 55	1. 88号型穴建物竈掘り方全景(北西から)		2. 35号土坑遺物出土状況(北西から)
	2. 88号型穴建物掘り方全景(西から)		3. 36号土坑全景(南から)
	3. 90号型穴建物遺物出土状況(西から)		4. 37号土坑全景(東から)
	4. 90号型穴建物全景(西から)		5. 39号土坑全景(南から)
	5. 90号型穴建物竈遺物出土状況(西から)		6. 40号土坑全景(西から)
	6. 90号型穴建物竈全景(西から)		7. 41号土坑全景(南から)
	7. 90号型穴建物竈掘り方全景(西から)		8. 43号土坑全景(南から)
	8. 90号型穴建物掘り方全景(西から)		9. 44号土坑全景(南から)
P L. 56	1. 91号型穴建物全景(南西から)		10. 45号土坑全景(南から)
	2. 92号型穴建物全景(南西から)		11. 46号土坑全景(南から)
	3. 93号型穴建物竈全景(東から)		12. 47号土坑全景(南から)
	4. 93号型穴建物竈掘り方全景(東から)		13. 48号土坑全景(南から)
	5. 94号型穴建物遺物出土状況(北東から)		14. 49号土坑全景(東から)
	6. 94号型穴建物全景(南東から)		15. 49号土坑掘り方全景(東から)
	7. 94号型穴建物竈全景(南東から)	P L. 63	1. 50号土坑全景(南から)
	8. 94号型穴建物竈掘り方全景(南東から)		2. 51号土坑全景(南から)
P L. 57	1. 94号型穴建物貯蔵穴全景(南東から)		3. 52号土坑全景(南から)
	2. 94号型穴建物掘り方全景(北東から)		4. 53号土坑全景(南から)
	3. 95号型穴建物全景(西から)		5. 54号土坑全景(南から)
	4. 95号型穴建物遺物出土状況(西から)		6. 55号土坑全景(南から)
	5. 95号型穴建物炭化物出土状況(西から)		7. 56号土坑全景(北から)
	6. 95号型穴建物掘り方全景(西から)		8. 57号土坑全景(南から)
P L. 58	1. 1号孤立柱建物全景(北から)		9. 58号土坑全景(北西から)
	2. 1号孤立柱建物1号ビット全景(西から)		10. 59号土坑全景(北から)
	3. 1号孤立柱建物3号ビット全景(西から)		11. 59号土坑遺物出土状況(東から)
	4. 1号孤立柱建物5号ビット全景(西から)		12. 60号土坑全景(北西から)
	5. 2号孤立柱建物全景(南から)		13. 61号土坑全景(南から)

	14. 62号土坑全景(南から)		3. 153号ビット全景(南から)
	15. 63号土坑全景(北から)		4. 154号ビット全景(南から)
P.L. 64	1. 64号土坑全景(南から)		5. 155号ビット全景(南東から)
	2. 65号土坑全景(南から)		6. 157号ビット全景(南東から)
	3. 66号土坑遺物出土状況(西から)		7. 158号ビット全景(南から)
	4. 66号土坑焼土(南から)		8. 159号ビット全景(南から)
	5. 67号土坑全景(北西から)		9. 162・163号ビット全景(南東から)
	6. 68号土坑上層断面(西から)		10. 164号ビット全景(南から)
	7. 69号土坑全景(南から)		11. 165号ビット全景(南から)
	8. 70号土坑全景(南から)		12. 180号ビット全景(南から)
	9. 71号土坑全景(南東から)		13. 181号ビット全景(南から)
	10. 72号土坑全景(北から)		14. 192号ビット全景(北から)
	11. 73号土坑全景(南から)		15. 194号ビット全景(南から)
P.L. 65	1. A区中・南部のビット群と南部北～南部南(㊸小区域)のビット群(下側:東)	P.L. 73	1. C3区中部(㊸小区域)のビット群(下側:北)
	2. A区南部北～北部南(㊸・㊸・㊸小区域)と北部(㊸小区域)のビット群(下側:東)	P.L. 74	2. B1・2区とC1・2区の溝部(下側:西)
P.L. 66	1. A区南部北～北部南(㊸・㊸・㊸小区域)と北部(㊸小区域)のビット群(下側:東)		1. 1号溝全景(東から)
	2. 11号ビット上層断面(西から)		2. 1号溝全景(西から)
	3. 27号ビット全景(南から)		3. 2号溝全景(南東から)
	4. 28号ビット全景(南から)		4. 2号溝遺物出土状況(南東から)
	5. 31号ビット全景(南から)		5. 4・5号溝上層断面(西から)
	6. 34号ビット全景(南から)	P.L. 75	6. 4号溝遺物出土状況(南から)
	7. 47号ビット全景(南東から)		1. 4～6号溝全景(西から)
P.L. 67	1. 67号ビット全景(南から)		2. 6号溝全景(東から)
	2. 69号ビット全景(南から)		3. 6号溝中部(東から)
	3. 70号ビット全景(南から)		4. 7号溝全景(南東から)
	4. 71号ビット全景(南から)	P.L. 76	5. 7号溝西部(南東から)
	5. 72号ビット全景(南東から)		1. 8号溝全景(東から)
	6. 75号ビット全景(西から)		2. 8号溝掘出土状況(西から)
P.L. 68	7. B1区南西部(㊸・㊸小区域)のビット群(下側:東)		3. 8号溝全景(西から)
	1. B1区中部北東(㊸小区域)と北部(㊸～㊸小区域)のビット群(下側:西)		4. 8号溝遺物出土状況(北から)
	2. 85号ビット全景(南から)		5. 9号溝全景(南西から)
	3. 103～105号ビット全景(南から)		6. 9号溝上層断面(南西から)
	4. 104号ビット全景(南から)		7. 10号溝全景(北から)
	5. 105号ビット全景(南から)		8. 10号溝北部(北から)
	6. 107号ビット全景(南から)	P.L. 77	1. 11号溝全景(東から)
	7. 108号ビット全景(南東から)		2. 11号溝西部(東から)
P.L. 69	1. 109号ビット全景(南から)		3. 12号溝全景(南東から)
	2. 110号ビット全景(北から)		4. 13号溝全景(北西から)
	3. 112号ビット全景(南から)		5. 14号溝全景(東から)
	4. 113号ビット全景(南から)		6. 15号溝全景(北から)
	5. 114号ビット全景(南から)		7. 16号溝全景(西から)
	6. 115号ビット全景(南から)	P.L. 78	8. 16号溝流木出土状況(西から)
	7. 116号ビット全景(南から)		1. 17号溝全景(西から)
	8. 119号ビット全景(東から)		2. 17号溝上層断面(東から)
	9. 139号ビット全景(西から)		3. 18号溝全景(東から)
	10. 140号ビット全景(北から)		4. 19号溝全景(西から)
	11. 141号ビット全景(東から)		5. 20号溝全景(北から)
	12. 156号ビット全景(北から)	P.L. 79	1. 1号焼土検出状況(南東から)
	13. 183号ビット全景(南から)		2. 1号焼土遺物出土状況(南東から)
	14. 184号ビット全景(北東から)		3. 1号焼土全景(北西から)
	15. 193号ビット全景(北から)		4. 2号焼土全景(南から)
P.L. 70	1. B2区南部(㊸～㊸小区域)のビット群(下側:西)		5. 2号焼土遺物出土状況(東から)
	2. 131号ビット全景(南から)		6. 3号焼土全景(南から)
	3. 132号ビット全景(南から)		7. 3号焼土上層断面(北から)
	4. 133号ビット全景(南から)		8. 3号焼土遺物出土状況(北から)
	5. 134号ビット全景(南から)	P.L. 80	1. 4号焼土全景(南から)
	6. 135号ビット全景(南から)		2. 4号焼土上層断面(南西から)
	7. 142号ビット全景(南から)		3. 4号焼土焼土除去後(南西から)
P.L. 71	1. C1区(㊸～㊸小区域)のビット群(下側:西)		4. 5号焼土全景(西から)
	2. C2区中部付近(㊸・㊸小区域)のビット群(下側:西)		5. 5号焼土焼土除去後(南から)
P.L. 72	1. 146号ビット全景(東から)	P.L. 81	6. 6号焼土上層断面(南から)
	2. 152号ビット全景(南から)		7. 6号焼土全景(南から)
			8. 1号伊検出状況(東から)
			1. 3号溝西部全景(西から)
			2. 3号溝中・東部全景(西から)
			3. 3号溝東部北側(南から)

4. 3号溝東部南側(北西から)
5. 3号溝弥生土層出土状況(北から)
6. 4号土坑全景(南から)
7. 26号土坑遺物出土状況(北東から)
8. 33号土坑全景(東から)
9. 34号土坑遺物出土状況(南から)
10. 34号土坑遺物出土状況(北西から)
11. 34号土坑全景(南から)
- P.L. 82 1. 1号遺物集中(調査1面)(西から)
2. 1号遺物集中(調査2面)(南から)
3. 1号遺物集中(調査3面)(西から)
4. 1号遺物集中(調査4面)(西から)
5. 1号遺物集中(調査5面)(北東から)
6. 1号遺物集中(調査6面)(南から)
7. 1号遺物集中(調査7面)(南から)
8. 1号遺物集中(調査8面・掘り方)(西から)
- P.L. 83 1・4号竪穴建物出土遺物
- P.L. 84 3・5号竪穴建物出土遺物
- P.L. 85 7・11・12号竪穴建物出土遺物
- P.L. 86 13・15号竪穴建物出土遺物
- P.L. 87 16号竪穴建物出土遺物、17号竪穴建物出土遺物(1)
- P.L. 88 17号竪穴建物出土遺物(2)
- P.L. 89 17号竪穴建物出土遺物(3)
- P.L. 90 17号竪穴建物出土遺物(4)、19・20号竪穴建物出土遺物、21号竪穴建物出土遺物(1)
- P.L. 91 21号竪穴建物出土遺物(2)
- P.L. 92 24・25号竪穴建物出土遺物
- P.L. 93 26号竪穴建物出土遺物、27号竪穴建物出土遺物(1)
- P.L. 94 27号竪穴建物出土遺物(2)
- P.L. 95 27号竪穴建物出土遺物(3)
- P.L. 96 27号竪穴建物出土遺物(4)、28号竪穴建物出土遺物、29号竪穴建物出土遺物(1)
- P.L. 97 29号竪穴建物出土遺物(2)、30号竪穴建物出土遺物
- P.L. 98 31号竪穴建物出土遺物(1)
- P.L. 99 31号竪穴建物出土遺物(2)、32号竪穴建物出土遺物(1)
- P.L. 100 32号竪穴建物出土遺物(2)、33号竪穴建物出土遺物
- P.L. 101 34・35・36・39号竪穴建物出土遺物
- P.L. 102 38号竪穴建物出土遺物、40号竪穴建物出土遺物(1)
- P.L. 103 40号竪穴建物出土遺物(2)、41号竪穴建物出土遺物(1)
- P.L. 104 41号竪穴建物出土遺物(2)、42号竪穴建物出土遺物、44号竪穴建物出土遺物(1)
- P.L. 105 44号竪穴建物出土遺物(2)、45・46号竪穴建物出土遺物、47号竪穴建物出土遺物(1)
- P.L. 106 47号竪穴建物出土遺物(2)、48号竪穴建物出土遺物(1)
- P.L. 107 48号竪穴建物出土遺物(2)
- P.L. 108 48号竪穴建物出土遺物(3)、49・50号竪穴建物出土遺物
- P.L. 109 51号竪穴建物出土遺物(1)
- P.L. 110 51号竪穴建物出土遺物(2)
- P.L. 111 51号竪穴建物出土遺物(3)
- P.L. 112 51号竪穴建物出土遺物(4)
- P.L. 113 51号竪穴建物出土遺物(5)、52号竪穴建物出土遺物、53号竪穴建物出土遺物(1)
- P.L. 114 53号竪穴建物出土遺物(2)
- P.L. 115 54・55・56・59号竪穴建物出土遺物
- P.L. 116 58・61号竪穴建物出土遺物、62号竪穴建物出土遺物(1)
- P.L. 117 62号竪穴建物出土遺物(2)、63・64号竪穴建物出土遺物
- P.L. 118 65・66・68号竪穴建物出土遺物
- P.L. 119 69・70・71・73・75・76号竪穴建物出土遺物
- P.L. 120 72・77号竪穴建物出土遺物
- P.L. 121 80号竪穴建物出土遺物、81号竪穴建物出土遺物(1)
- P.L. 122 81号竪穴建物出土遺物(2)、82・83・84・85号竪穴建物出土遺物
- P.L. 123 86・87・88・94号竪穴建物出土遺物、59号土坑出土遺物
- P.L. 124 27・49号土坑出土遺物、2・4・8・16号溝出土遺物、1・5号坑出土遺物
- P.L. 125 古墳時代以降遺構外出土遺物、3号溝出土遺物、弥生時代遺構外出土遺物
- P.L. 126 4・26・33・34号土坑出土遺物
- P.L. 127 1号遺物集中出土遺物(1)
- P.L. 128 1号遺物集中出土遺物(2)
- P.L. 129 1号遺物集中出土遺物(3)
- P.L. 130 遺構外出土遺物(1)
- P.L. 131 遺構外出土遺物(2)
- P.L. 132 1. A区1面全景(南東から)
2. A区2面全景(北東から)
- P.L. 133 1. B・C区1面全景(北から)
2. B・C区2面全景(南から)
- P.L. 134 1. B・C区3面全景(南から)
2. B区上層断面(西から)
- P.L. 135 1. D区2.5面全景(南から)
2. D区北東部上層断面(南から)
- P.L. 136 1. 1号土坑全景(西から)
2. 1号溝北部(北から)
3. 1号溝全景(北から)
4. 1号溝上層断面(南から)
5. 1号溝込み検出状況(東から)
6. 1号溝込み全景(東から)
7. 2号溝込み全景(北から)
- P.L. 137 1. 3号土坑全景(北西から)
2. 4号土坑全景(北から)
3. 4号溝西部(北西から)
4. 4号溝全景(北西から)
5. 4号溝全景(東から)
6. 4号溝上層断面(西から)
7. 4号溝上層断面(南西から)
- P.L. 138 1. 5号溝上層断面(西から)
2. 5号溝全景(東から)
3. 5号溝東部(東から)
4. 5号溝内ビット(北東から)
5. 6号溝全景(西から)
6. 7号溝全景(北東から)
7. 8号溝全景(東から)
8. 15号溝全景(西から)
- P.L. 139 1. As-B下水田全景(南から)
2. As-B下水田北部(南から)
3. As-B下水田中部(南から)
4. As-B下水田南部(南から)
5. As-B下水田中部(南から)
- P.L. 140 1. 2号土坑全景(北から)
2. 2号溝全景(東から)
3. 2号溝遺物出土状況(西から)
4. 2号溝遺物出土状況(東から)
5. 16号溝全景(東から)
6. 17号溝全景(北から)
7. 4号溝込み・16号溝上層断面(東から)
8. 4号溝込み全景(北から)
- P.L. 141 1. 9号溝全景(西から)
2. 10号溝全景(北西から)
3. 11号溝全景(北から)
4. 12号溝全景(南から)
5. 13号溝全景(南西から)
6. 14号溝西部(東から)
7. 14号溝東部(東から)
8. 1号墳状遺構全景(南西から)
- P.L. 142 1面遺構外出土遺物、2号溝出土遺物、3面遺構外出土遺物、縄文時代遺構外出土遺物
- P.L. 143 1号坑出土遺物

第1章 発掘調査とその経過

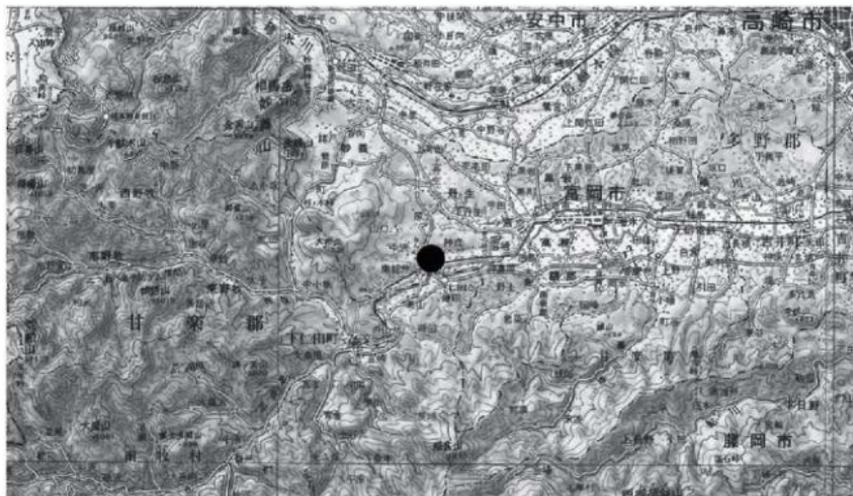
第1節 調査に至る経過

1 一級河川蚊沼川と河川改修

本書で発掘調査成果を報告する南蛇井北原田遺跡・蚊沼大神分遺跡は、群馬県南西に位置する富岡市の南西部に在り、一級河川蚊沼川の河川改修に伴い発掘調査を実施した遺跡である。

調査原因となった蚊沼川は、富岡市と同市に西接する甘楽郡下仁田町との市町境に在る大桁山(標高836m)の東麓、標高330m付近に源を発し、2kmほど東流した地点で北側から塩の入川が合流し、この合流点以東では流路を東南東方向に変じて流下した後、一級河川鑓川に流入する全長5.8km程の小河川である。この蚊沼川の低水路部は、例えば鑓川の合流点より2kmほど上流の地点で上幅2.8m、深さ1.25mを測る程に河積が小さいため、平成10(1998)年9月の台風5号襲来時には、本遺跡東方の富岡市神農東部の上信電鉄線路と国道254号が近

接して並走する地域が浸水し、翌平成11(1999)年8月の豪雨では、上信電鉄線神農原駅北側の西毛病院周辺でも浸水被害が発生するなど、30年に一回程度の洪水発生が想定されている。富岡市の防災マップ(富岡市2019)でも、蚊沼川の中流域では50cm未満、下流域では50cm未満



第1図 遺跡位置図(国土地理院20万分の1地勢図「長野」(平成18年11月1日発行を使用)「宇都宮」(平成18年4月1日発行を使用))

第1章 発掘調査とその経過

あるいは3m未満の浸水の可能性のある地域として表示されている。

このため、群馬県では平成27年度から令和5年度にかけての9か年に亘る河川改修を計画し、当該事業を進めている。この計画は上信電鉄線架橋の下流側に在る岩崎1号橋の上流約30mから、更に上流の堤橋までの約1.6kmの区間については低水路部の拡幅および掘り下げによる河積の増大(4.77倍)と堤防の整備を行う事業と、堰の入川合流部の下流側から、蚊沼川の南に並走する中沢川へ溢水を送るための放水路の建設を行う事業の二事業から成るものである。尚、本報告書で報告する南蛇井北原田遺跡・蚊沼大神分遺跡の発掘調査は、後者の放水路開削に伴う事業として実施したものである。

2 発掘調査に至る経過

(1) 埋蔵文化財に係る協議

平成30(2018)年5月7日、群馬県教育委員会文化財保護課(以下「県保護課」とする)は、県土整備部建設企画

課から平成30年度以降の公共開発関連計画一覧表の提出を受けた。この中に蚊沼川河川改修新設計画が含まれていたのであるが、県保護課は埋蔵文化財の取扱いに関する判定を行い、同年同月31日、建設企画課に対して試掘確認調査を要する旨を通知した。なお事業地の南西側近接地には埋蔵文化財包蔵地(南蛇井増光寺遺跡、遺跡番号T051・118)があった。

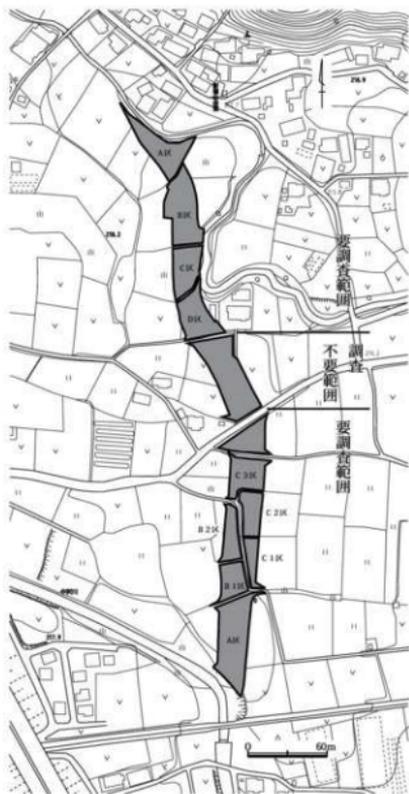
(2) 試掘調査

その後、平成31年4月17日に富岡土木事務所(以下「富岡土木」とする)より県保護課に対して試掘調査の依頼が出された。富岡土木の依頼を受けた県保護課は、平成31年4月22・23日に試掘調査を実施した。この時の試掘対象区域は、蚊沼川事業の放水路新設事業地のうち南側の富岡市南蛇井地区の中沢川左岸(北岸)から中程の富岡市中沢地区のうち小字垣崎(柿崎)の東部北端寄りの、市道4226号線までの間、275mの範囲であった。県保護課は、この区域に7本の試掘トレンチを設定して、試掘調査を



第2図 遺跡周辺地形図(国土地理院5万分の1地形図「富岡」平成7年4月1日発行を使用)

①南蛇井北原田遺跡 ②蚊沼大神分遺跡



第3図 試掘トレンチ設定概要図

実施した。その結果北側の3本のトレンチでは遺構を確認することができなかったものの、南側の4本のトレンチでは溝やピットが検出され、土師器、須恵器等の遺物が出土したことから、北側の区域(北側187.5mの範囲)は発掘調査不要と判断し、南側の区域(南側187.5mの範囲)は発掘調査が必要と判断した。県保護課はこの試掘調査所見を富岡土木に回答するとともに、富岡市教育委員会(以下「市教委」)に通知した。

また上記試掘調査を実施した翌年の令和2年11月30日、富岡土木から群馬県地域創生部文化財保護課(以下「県保護課」)に試掘調査の依頼があり、これを受けた県保護課は、令和2年12月7日に試掘調査を実施した。こ

の時の試掘対象区域は、蚊沼川事業の放水路新設事業地のうち、平成31年試掘調査対象地の北端であった富岡市中沢地区字垣崎の市道4226号線から当該事業地北端の富岡市蚊沼字大神分の北端、蚊沼川右岸(南岸)までの間、180mの範囲であった。県保護課はこの区域に5本の試掘トレンチを設定して、試掘調査を実施した。この試掘調査の結果、最北の試掘トレンチでは、溝、その下位層で水田、更にその下位層から竪穴建物、2番目のトレンチでは溝とピット、3番目と4番目のトレンチでは溝、最も南の5番目のトレンチでは土坑と溝を確認した。また各トレンチでは明確な畦畔は確認されなかったものの最大3層に亘る耕作層が想定され北から2番目のトレンチからは古代の土器片、2番目と3番目のトレンチからは陶磁器片が出土した。このため県保護課は、令和2年の試掘調査範囲全域で本調査が必要と判断し、このことを富岡土木に回答するとともに、市教委に通知した。

(3) 発掘調査に至る経過

上記のように蚊沼川事業のうち放水路新設事業地に対する試掘調査では、中部域を除く南北域(南蛇井北原田遺跡・蚊沼大神分遺跡)については要調査という所見を得たのであるが、富岡土木は上記事業の推進に合わせ、県保護課の調整を受けて、当該の埋蔵文化財調査対象地域のうち南側の調査地域のうち中沢川寄りの区域(南蛇井北原田遺跡A区～B区南部)の発掘調査を公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団(以下「事業団」とする)に委託することとした。そして富岡土木と事業団は、履行期間を令和2年7月1日～令和2年12月31日、発掘調査期間を令和2年8月1日～令和2年10月31日とする委託契約を令和2年7月1日に締結して、事業団が当該発掘調査に着手する運びとなった。そして、このときの発掘調査の翌年、富岡土木は前年度調査区の北側の区域(南蛇井北原田遺跡B区中・北部とC区)と北側の蚊沼川添いの区域(蚊沼大神分遺跡)の発掘調査の実施を令和3年8月18日に事業団に委託し、令和3年9月1日に履行期間を令和3年9月1日～令和4年3月31日、発掘調査期間を令和3年10月1日～令和4年3月31日とする委託契約を締結して、事業団が継続して蚊沼川放水路新設事業地の発掘調査を実施することとなった。

第1章 発掘調査とその経過

【参考文献】

- 群馬県(2005)『利根川水系澗川圏域河川整備計画』, pp19-20
群馬県(2010)『利根川水系澗川圏域河川整備計画(変更)』, pp21-22
群馬県県土整備部(2021)『一級河川蛟沼川放水路事業』「令和3年度版よくわかる公共事業 甘楽富岡地域」, p3, <https://www.pref.gunma.jp/contents/100198131.pdf> (2022.07.01)
富岡市(2019)『富岡市防災マップ』, pp25-28, <https://www.city.tonika.lg.jp/www/contents/1558658747846/files/bousainap.pdf> (2022.07.01)
群馬県県土整備部(2022)『一級河川蛟沼川放水路事業』「令和4年度版よくわかる公共事業 甘楽富岡地域」, p3, <https://www.pref.gunma.jp/uploaded/attachment/30721.pdf> (2023.03.13)

第2節 調査経過

本事業の発掘調査は令和2年8月1日から同年10月31日までの間と、令和3年10月1日から翌令和4年3月31日までの間の2か年度に亘って実施した。このうち令和2年度の調査では南蛇井北原田遺跡の南寄り、A区とB1区を調査対象とし、令和3年度調査では南蛇井北原田遺跡の中・北部のB2・3区とC区および蛟沼大神分遺跡A～D区を調査対象とした。以下に、その概要を記す。

1 令和2年度

[令和2年]

- 8月3日 発掘調査事務所設置。機材整理。調査区を設定しA区より建設機械を投入して表土掘削開始。南端でガス管敷設を確認。
- 4日 人力による遺構確認作業および遺構掘削開始。
- 5日 A区の遺構写真撮影開始。事務所への給水工事。



写真1 南蛇井北原田遺跡27号竪穴建物調査風景

- 11日 A区の遺構測量開始。
- 20日 避雷針設置。
- 9月2日 南蛇井地区区長一行現場見学。富岡市吉田小学校6年生見学。
- 3日 B1区建設機械による表土掘削開始。
- 7日 人力による遺構確認作業および遺構掘削開始。
- 12日 B区北側埋戻し(～13日)。
- 26日 C区遺構確認トレンチ調査(・28日)。
- 28日 B1区南側遺構確認作業および遺構掘削開始。
- 30日 A・B1区空中写真撮影。
- 10月12日 B区北側建設機械による埋戻し(～13日)。
- 14日 農道付替え作業。
- 20日 避雷針撤去。
- 21日 A区遺構調査終了。
- 26日 B区北側建設機械による埋戻し(・28日)。
引き渡し打合せ(事業団、富岡土木、今井建設)。
- 27日 遺構測量終了。A区調査終了。
- 28日 B1区発掘調査終了。遺構測量終了。
- 29日 発掘調査事務所撤去。
- 30日 撤収作業完了。

2 令和3年度

(1) 南蛇井北原田遺跡

[令和3年]

- 10月3日 発掘調査事務所設置。
- 7日 C区掘削作業開始。(～令和4年2月7日まで)
- 11月1日 B区遺構掘削開始。
- 9日 B区北部建設機械による表土掘削開始。
- 12月6日 C区一部遺構掘削開始。

[令和4年]

- 1月21日 B2・C1・C2・C3区空中写真撮影。
- 26日 A区建設機械による埋戻し開始。
- 27日 B区北部建設機械による埋戻し開始。(・28日)

(2) 蚊沼大神遺跡

〔令和3年〕

10月11日 除草作業。

11月16日 仮置き排土運搬作業開始。

12月14日 土層確認作業。

〔令和4年〕

1月6日 A区1面建設機械による表土掘削開始。

11日 A・B区建設機械による表土掘削開始。

17日 A区2面への建設機械による掘削開始。

24日 A区2面人力による遺構確認開始。

2月8日 作業員全員蚊沼大神分遺跡に配属。

3月17日 D区建設機械による表土掘削開始。

24日 遺構掘削終了。

25日 D区埋戻し開始。

(3) 事業全体

〔令和3年〕

9月28日 発掘調査事務所設置。(・29日)

10月4日 調査区設定。(～7日)

〔令和4年〕

3月26日 事務所撤去準備作業。

29日 事務所撤去。富岡土木事務所への引き渡し。

30日 残務処理。(・31日)

第3節 調査の方法

1 遺跡略号

本書に報告する南蛇井北原田遺跡と蚊沼大神分遺跡の遺跡略号は、南蛇井北原田遺跡では遺跡名の大字名「南蛇井(なんじゃい)」と小字名「北原田(きたはらだ)」のそれぞれのローマ字の頭文字を合わせた「NK」、蚊沼大神分遺跡では遺跡名の大字名「蚊沼(かめぬま)」と小字名「大神分(だいじんぶん)」のそれぞれのローマ字の頭文字を合わせた「KD」とした。

2 位置の表示

南蛇井北原田遺跡は公道により区画される区域を区として設定した。中沢川に接する南側の区画を「A区」とし、A区と公道を介して在る2区画のうち南半西側の区画を「B区」とした。またA・B区境の公道の調査区東寄りでは



写真2 蚊沼大神分遺跡水田調査風景

北北西に分岐し、B区北端で西側に屈曲する公道を境に、B区の東・北側に位置する区画を「C区」とした。更に東西に走行する耕地への入路でB区は2区画、C区は3区画に分け、B区は南から「B1区」「B2区」、C区も南から「C1区」「C2区」「C3区」と呼称する。

一方、蚊沼大神分遺跡も調査区を公道により区分しているが、地区呼称は北側の蚊沼川沿いから南に向かって、「A区」「B区」「C区」「D区」とした。なお、蚊沼大神分遺跡では各区の細分は行わなかった。

南蛇井北原田・蚊沼大神分の両遺跡のグリッドの設定は行わなかったが、その位置は1m単位の世界測地系国家座標(座標第IX系)に従って記録された。しかし、本書ではその表記を簡略化するため、国家座標に基づく1mメッシュを仮想グリッドとして、X軸、Y軸のm単位下3桁を用い、「X軸」・「-」・「Y軸」で標記した。なお南蛇井北原田遺跡の調査区はX=27,150～27,332、Y=91,118～91,153の範囲に在り、蚊沼大神分遺跡の調査区はX=27,421～27,592、Y=91,150～91,214に在る。

3 発掘調査の方法

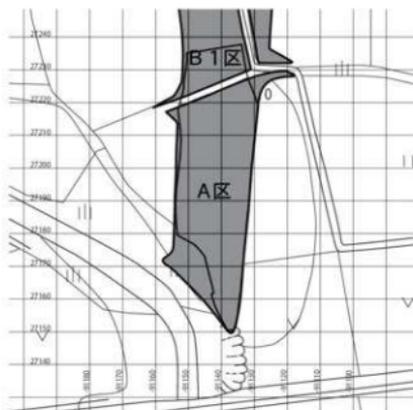
(1) 掘削

遺構確認までの表土掘削は、0.5mないし0.7m³バックホーを使用して掘削し、4tまたは10tダンプ、あるいは6tまたは10tのクローラーダンプを用いて運搬した。

その後、ジョレン等を用いて遺構確認作業を実施し、



第4図 調査区配置図(左)とグリッド設定図(右)



確認した遺構は移植ゴテ等の道具を用いて人力で掘削したが、その際土層観察のためのベルトの掘り残しや半截による掘削を適宜実施した。

また出土遺物は測量を実施するまで原位置に留めるようにし、測量後取り上げを行った。

(2) 記録

遺構の記録は測量と写真撮影により実施した。遺構図は測量業者に委託し、デジタル測量で実施した。土層断面記録は原則として遺構断面図に記載した。なお遺構図はデジタルデータとして保管するとともに、平面図は調査区全体の1/40の割付図と1/200の全体図、竪穴建物や土坑等個別遺構の平面断面図は1/20の図、カマド等の部分図の平面断面図は1/10の図を作成した。

また遺構写真撮影は調査担当が実施し、デジタル写真とブローニー版による銀塩写真を撮影した。また業者委託によるラジコンヘリコプターによる空中写真撮影を実施した。

出土遺物は、出土状態の写真撮影と平面位置の測量を適宜行い、取り上げた。この際、出土遺物はビニール袋に収納し、地区、遺構、出土層位、取り上げ番号等を記した荷札を付した。発掘調査終了後に業者に洗浄、出土位置等の注記を委託した。

4 基本土層

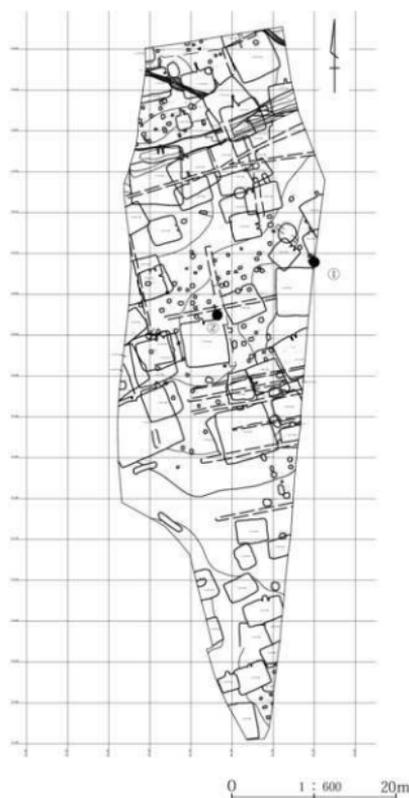
本遺跡の基本土層は第5・6図に示した。

(1) 南蛇井北原田遺跡の基本土層

南蛇井北原田遺跡の基本土層はA区北寄りの2か所で記録した。その層序は以下の通りである。

- I 黒色土(10YR3/2)粘性やや弱。しまり強。小礫少量含む。現耕作土。
 II 褐色土(10YR3/1)粘性やや弱。しまり強。白色粒・褐色粒・小礫含む。

- III 灰黄褐色土(10YR4/2)粘性弱。しまり強。小礫多量を含む。
 IV にぶい黄褐色砂質土(10YR4/3)粘性やや弱。しまりやや強。小礫含む。
 V にぶい黄褐色粗砂層(10Y5/3)しまり弱。
 VI 灰黄褐色粘質シルト(10YR4/2)粘質やや強。しまりやや強。上面は黒味帯びる。
 VII にぶい黄褐色粘質シルト(10YR4/3)粘質やや強。しまり強。上面は黒味帯びる。
 VIII 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2)：粘性弱。しまり強。風化礫多量を含む。



第5図 南蛇井北原田遺跡基本土層記録位置と土層断面

第1章 発掘調査とその経過

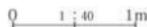
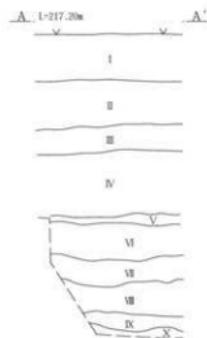
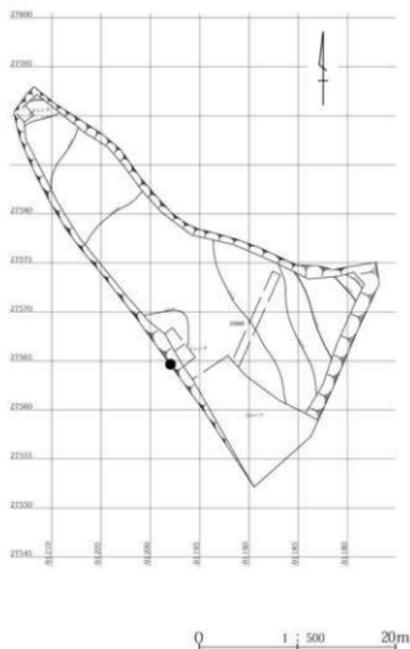
(2) 蚊沼大神分遺跡の基本土層

蚊沼大神分遺跡の基本土層はA区西壁で記録した。その層序は以下の通りである。

- I 表土攪乱層
- II 黒色砂質土(10YR3/1)粘性やや弱。しまり強。小礫少量含む。III層境に鉄分沈着。
- III 灰褐色砂質土(5YR5/2)粘性・しまり強い。部分的に鉄分沈着。
- IV にぶい赤褐色粘質土(5YR5/4)しまり強。植物に鉄分沈着のものを含む。
- V 褐灰色砂質土(10YR4/1)粘性弱、しまり強。砂礫と

の混土。軽石少量含む。

- VI 褐灰色粘質土(10YR4/1)粘性・しまり極めて強。鉄分沈着し有機物等含む。
- VII 褐灰色砂質土(10YR6/1)とにぶい黄橙色砂質土(10YR7/4)の混土。しまりあり。
- VIII 褐灰色シルト質土(10YR4/1)粘性・しまりとも極めて強。
- IX 黒褐色シルト質土(10YR3/1)粘性・しまりとも極めて強い。
- X 明褐色砂質土(7.5YR5/8)粘性無し。しまり強。



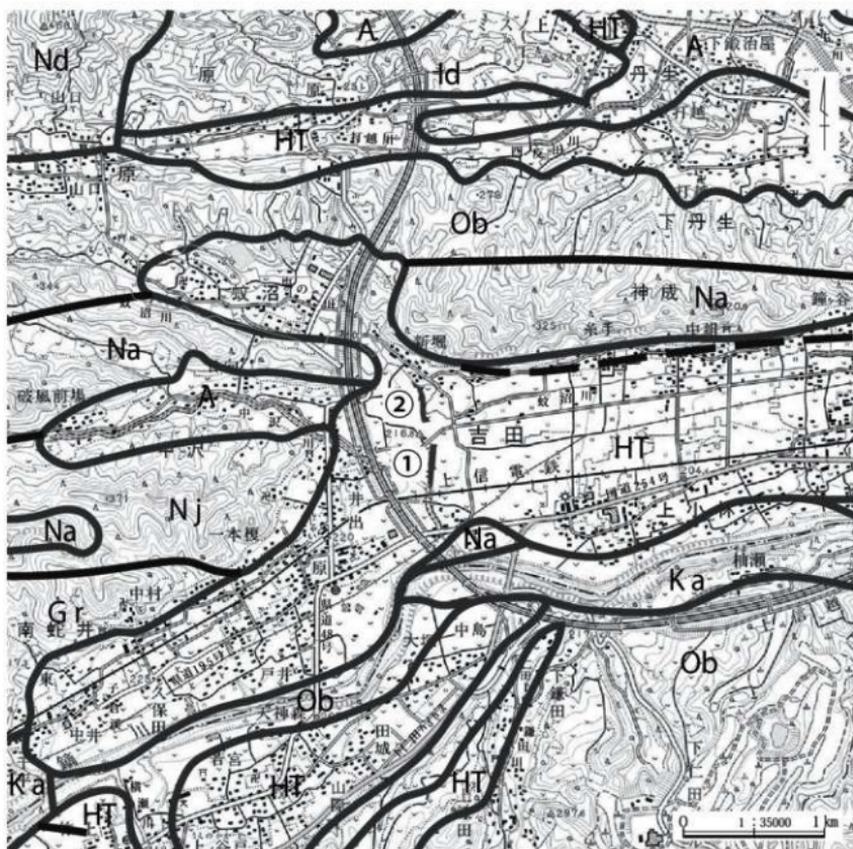
第6図 蚊沼大神分遺跡の基本土層記録位置と土層断面

第2章 周辺環境

第1節 地理的・地質的環境

南蛇井北原田遺跡とその北に近接する蚊沼大神分遺跡は、群馬県南西部に位置している。両遺跡の在る富岡市西南部から甘楽部下仁田町東部にかけては、南側は古生

代と中生代に形成された埼玉県から続く関東山地であり、西から北西側にかけては新第三紀の火山活動により形成された荒船山地や上毛(群馬県)三山の一つ妙義山が聳え、両遺跡周辺ではこれらに連なる丘陵が連なる。当地域付近の地質は南から秩父帯、三波川帯、領家帯の地



第7図 地質図(1/35,000、国土地理院5万分の1地勢図「富岡」平成7年4月1日発行を使用)

①南蛇井北原田遺跡 ②蚊沼大神分遺跡

帯構造がみられ、両遺跡付近は傾家帯の区域に入る。第7図に地質分布を示したが、その中程左寄り(西側)に中生代ジュラ紀の砂岩・頁岩互層からなる南蛇井層(Nj)が分布し、その周辺と北寄りに新生代古第三紀の黒雲母花崗岩、マイロナイトを伴う平滑花崗岩(Na)が東西(横位)に伸び、その南西側には時期不特定の花崗岩・花崗閃緑岩が分布している。更にその南側には前期中新世の礫岩からなる神農原礫岩(Ka)、これらの南北両側には中期中新生の砂岩・シルト岩互層から成る小幡層(Ob)、及び北側にはシルト岩及び凝灰岩から成る井戸沢層(Id)が東西方向に分布する。第7図左上(北西)には後期中新生の妙義層の一部を形成する紫蘇輝石普通輝石安山岩溶岩および火砕流から成る中之岳層(Nd)が分布している。そして鑛川等の河川に沿うように、後期更新世～完新世の沖積層(A)、完新世の完新世段丘(HT)の分布が見られる。南蛇井層(Nj)と平滑花崗岩(Na)、平滑花崗岩(Na)と小幡層(Ob)との間には断層が確認され、小幡層(Ob)と完新世段丘(HT)の間にも推定断層が想定されている。

河川は、利根川支流の烏川の支流である一級河川鑛川が第7図南西(左下)から東(中右)に向かい流下する。この鑛川の支流も多くあるが、第7図に示した範囲では、鑛川の右岸側では上流側より第7図左下の横瀬川、同図下位中程の鎌田川とその支流の諸沢があり、左岸側では上流側より同図左下の小倉溪、同図中位の中沢川(別称境川)及び蚊沼川とその支流の塩の入川が流れる。そして同図右上に高田川の支流丹生川が南東方向に流下し、同図上位に丹生川の支流打越川(別称岩櫃堀)と四反田川が流れているが、これらの河川は上述の山稜を削り、河岸段丘や沖積地を形成している。特に鑛川は、第7図の左下(南西)の図の外側に位置する甘菜郡下仁田町馬山付近から23km程下流の藤岡市上落合までの間、上下二段から成る河岸段丘が形成されている。この河岸段丘は、鑛川の左岸(北側)では明瞭であるが、右岸(南側)では狭く、上位段丘は断続的である。尚、南蛇井北原田・蚊沼大神分両遺跡は鑛川左岸の下位段丘面に立地しているが、付近に上位段丘面はなく、上位段丘は両遺跡北東の富岡市神成と北側の富岡市下丹生に跨る丘陵の東側に形成されている。

現況に於いて、中新世以前の地質域と花崗岩・花崗閃緑岩の分布域は、概ね山林となっているが、一部では削

平されてゴルフ場が造成されている。一方、沖積層(A)と完新世段丘(HT)には耕地が広がり、本報告書で報告する2遺跡付近は「吉田田圃」(吉田は旧村名)と称される水田地帯が広がっている。また本遺跡周辺の完新世段丘付近にはほところころに集落が形成され、近年、工場や小規模な団地も建設されている。一方交通では、東側の富岡方向から入り途中弱く屈曲して南西の下仁田方面に抜ける上信電鉄線が敷設されており、第7図やや左下に上信電鉄線南蛇井駅、図の右外側に神農原駅がある。一般国道254号は東から上信電鉄線南に沿うように走り、現在は上信越自動車道の東側で南西に折れて下仁田バイパス(馬山バイパス)を通るが、元々は上信電鉄線の南を並走して南蛇井駅の南側で南に折れ、やがて下仁田バイパスの北側を並走するように西南西方向に走行して同バイパスに接続するように走行した。この南蛇井駅の南側で南折する以南の区間は、現在、主要地方道路県道48号下仁田安中倉瀬線となっているが、同道は南蛇井駅南側でクランクして同駅の東側をそのまま北上し、安中を通り高崎市倉瀬町まで至る。一方下仁田バイパスを分岐して南蛇井駅南側までの国道245号の旧道は、現在下仁田街道(下仁田道)とも称されるが、この道は県道48号下仁田安中倉瀬線と並行して南蛇井地区南西寄りの字久保田居村でT字路に行き当たる。しかしその南にこれと並走して走るのが下仁田街道のバイパスである一般県道195号南蛇井下仁田線であり、上信電鉄線千平駅付近までは同線と並走するようである。なお、近世の下仁田道は鑛川の下位段丘の奥側段丘崖沿いを走っていた。

【参考文献】

- 群馬県教育委員会(1981)『下仁田道(群馬県歴史の道調査報告書第10集)群馬県地質図作成委員会(1999)『群馬県10万分の1地質図』、内外地理富岡市(1987)『富岡市史 自然編 原始・古代・中世編』
日本道路公団東京第二建設局(1994)『上信自動車道工事誌(編4～8)久々』、pp.23-26

第2節 歴史的環境

1 旧石器時代

第8図で図示した範囲で旧石器時代の遺跡は、富岡市T100(38)と下鎌田遺跡(63)で確認されたのみである。このうち上信越自動車道建設に伴い発掘調査が実施された下鎌田遺跡ではAs-YP層の上位層で石核1点、剥片2点、礫4点からなるブロックを確認し、ナイフ形石器、木葉形黒曜石製大型ポイントなどが出土している。

2 縄文時代

縄文時代になるとその分布域は広がる。第8図の範囲では21遺跡が知られ、北側で東流する打越川流域の完新世段丘や丘陵上、南側の鍋川右岸では丘陵上、左岸では完新世段丘上、自然堤防上や西部では後背の丘陵上、中西部では鍋川の支流中沢川沿いや同じく蚊沼川、そして同支流の塩の入川沿いの完新世段丘上で確認されている。

このうち第8図の範囲の集落からは324棟の竪穴建物が調査されているが、早期の竪穴建物は下鎌田遺跡(63)の押型文系の1棟のみである。前期の竪穴建物は花積下層式期、関山式期、黒浜式期、諸磯式期のもので、原内出I遺跡(7)で4棟、下丹生赤子Ⅱ遺跡(12)で6棟、下丹生前知遺跡(16)で3棟、南蛇井増光寺遺跡(58)で23棟、下鎌田遺跡(63)で33棟、柚瀬Ⅲ遺跡(68)で5棟の、合わせて74棟と増加する。中期になるとその棟数は増加し、勝坂式期、曾利式期、中峠式期、加曾利E式期の竪穴建物が下丹生赤子Ⅱ遺跡(12)で11棟、中沢平賀界戸遺跡(30)で1棟、南蛇井増光寺遺跡(58)で27棟、柚瀬Ⅲ遺跡(68)で1棟を調査しているが、特に下鎌田遺跡(63)では180棟と大幅に増加する。しかし後期の竪穴建物は、称名寺式期、堀之内式期等のものが南蛇井増光寺遺跡(58)で26棟を数えるにとどまり、晩期の竪穴建物は1棟も確認されていない。出土土器には中部地方や関東東部のものも含まれ、上信国境手前の当地の特性が現れている。

この他、原内出I遺跡(7)で前期の土坑、下丹生小川遺跡(15)では中期の土坑9基、南蛇井増光寺遺跡(58)では中期の土坑200基以上、柚瀬Ⅰ遺跡(66)では前期と中期の土坑を調査し、早期末葉から前期の遺物包含層が検

出されている。下鎌田遺跡(63)の出土土器の中には後期称名寺式のものも見られ、柚瀬Ⅲ遺跡(68)からは田戸下層式期の配石遺構や早期から中期の遺物が混在する遺物包含層も調査している。

3 弥生時代

第8図の範囲の弥生時代の遺跡数は16か所と、縄文時代の遺跡数より5か所減少する。その分布は、北側では東流する打越川流域の完新世段丘や丘陵上、南側の鍋川右岸では丘陵上と、河岸段丘上に1か所あり、中西部では中沢川沿いの完新世の沖積地や段丘、蚊沼川と塩の入川沿いの完新世段丘上で確認されている。

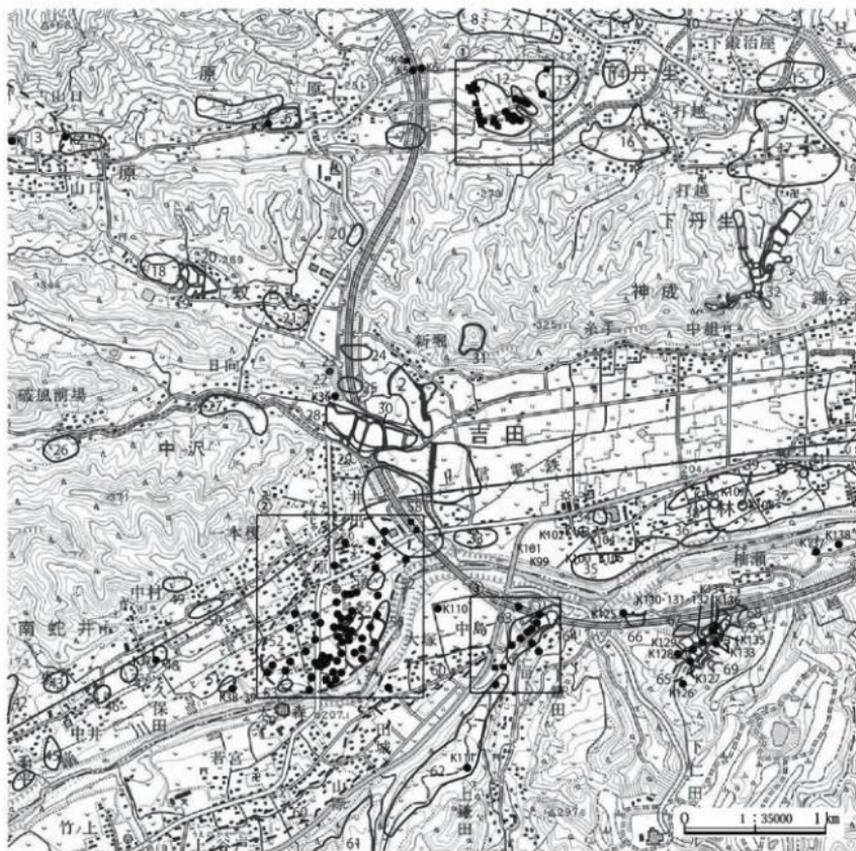
このうち竪穴建物は、中期のものが南蛇井増光寺遺跡(58)で4棟確認されただけで、後期の竪穴建物が下丹生籬ノ上遺跡(8)で65棟、下丹生赤子Ⅱ遺跡(12)で11棟、下丹生赤子Ⅰ遺跡(13)で29棟、下丹生前知遺跡(16)で14棟、中沢平賀界戸遺跡(30)で13棟、南蛇井増光寺遺跡(58)で164棟を調査している。また出土した土器は後期の櫛描き文を施した樽式や長野県の箱清水式、縄文を施した吉ヶ谷・赤井戸式土器が見られた。

この他、方形周溝墓は原内出I遺跡(7)で後期の方形周溝墓1基、南蛇井増光寺遺跡(58)で最終末の方形周溝墓2基、柚瀬Ⅲ遺跡(68)で中期の方形周溝墓3基を調査している。また中沢平賀界戸遺跡(30)で中期の土坑1基、南蛇井増光寺遺跡(58)で中期の埋甕2か所と土坑2基、柚瀬Ⅲ遺跡(68)では前期の礫床墓と土器棺再葬墓および土坑3基、中期の土坑2基を調査している。

4 古墳時代

第8図の範囲の古墳時代の遺跡は、古墳、古墳群、集落を含め46か所と各時代の中で最も多く、第8図の全域に分布する。しかしその分布は北側では東流する打越川流域の完新世段丘や丘陵裾部、南側の鍋川右岸では丘陵上、左岸では、中西部では完新世段丘や丘陵裾部、中沢川沿いの完新世の沖積地や段丘、蚊沼川と塩の入川沿いの完新世段丘上に限られる。

下丹生赤子Ⅰ遺跡(13)と下丹生赤子Ⅱ遺跡(12)、下鎌田遺跡(63)で前期の方形周溝墓各1基、また下丹生赤子Ⅱ遺跡(12)前期から中期の方形周溝墓15基を調査した。このほか138基の古墳を確認しているが、これらは径20m



第8図 周辺遺跡分布図

以下の小型の円墳で、多くは後期の所産と見られる。このうち下丹生赤子Ⅱ遺跡(12)で調査した4基の円墳のうち2基から少量ながら円筒埴輪片が出土している。また、古墳群として登録されている古墳群のうち南蛇井古墳群(52)は57基の古墳から成り、その時期は6世紀後半～7世紀代とされる。南蛇井古墳群(52)のうち、一般県道南蛇井富岡線改築事業で発掘調査された(吉田3号墳)からは、鉄鍬、刀子、耳環、玉類などの遺物が出土し、石室の形態等から7世紀前半頃の築造と判断されている。

柚瀬古墳群(65)付近には6基ほどの古墳が分布している。下鎌田遺跡(63)でも10基の後期古墳が調査されてい

第1表 周辺道跡一覧の1

No	道跡名	市町村名	時期							種別	備考
			旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世		
1	南蛇井北原田道跡	T287				○	○	○		集落	本書報告
2	敷沼大神分道跡	T307					○	○	○	集落・他	本書報告
3	山止古墳群	T038				○				古墳	
4	原山口道跡	T036		○						集落	
5	(道跡名なし)	T041		○	○					集落	
6	原の内出	T048							○	城館	
7	原内出1道跡	T039			○	○	○	○	○	集落・墓・他	
8	下丹生糠ノ上道跡	T037			○	○	○	○	○	集落	富岡市教育委員会2009
9	下丹生久保前道跡	T275					○	○		集落	富岡市教育委員会2009
10	下丹生上向田道跡	T278								散布地	
11	(道跡名なし)	T262					○			散布地	
12	下丹生赤子Ⅱ道跡	T040		○	○	○	○	○	○	集落・古墳	富岡市教育委員会2009
13	下丹生赤子Ⅰ道跡	T040			○	○	○	○	○	集落・古墳	富岡市教育委員会2009
14	下丹生品川道跡	T279						○	○	集落	
15	下丹生小川道跡	T257		○					○	集落	富岡市教育委員会2009
16	下丹生前畑道跡	T280					○	○		集落	富岡市教育委員会2009
17	下丹生ヶヶ道跡	T256			○	○	○	○		集落	
18	敷沼上ノ原道跡	T054			○	○				集落	
19	敷沼内出跡	T044							○	集落・城館	
20	敷沼太郎取道跡	T281								散布地	
21	敷沼南内道跡	T282			○					散布地	
22	(道跡名なし)	T052							○	墓・他	
23	(道跡名なし)	T050								古墳	
24	敷沼前畑道跡	T227					○	○	○	集落	
25	(道跡名なし)	T052							○	墓・他	
26	中沢破風下道跡	T284			○	○				散布地	
27	中沢大谷道跡	T283								散布地	
28	(道跡名なし)	T021			○					散布地・城館	
29	平賀城								○	城館	内山氏
30	中沢平賀野戸道跡	-					○	○	○	城館	
31	吾妻山の岩	-							○	城館	神成城學原カ
32	神成城跡	T049								城館	16世紀、小幡氏
33	(道跡名なし)	T109				○				散布地	
34	(道跡名なし)	T094					○			散布地	
35	(道跡名なし)	T102～104								散布地	
36	(道跡名なし)	T101								集落	
37	(道跡名なし)	T095+096			○					集落	
38	(道跡名なし)	T100		○						遺物・古墳	
39	(道跡名なし)	T099					○			集落	
40	(道跡名なし)	T098								散布地	
41	(道跡名なし)	T097								集落	
42	(道跡名なし)	T091			○					集落	
43	(道跡名なし)	T067			○					集落	
44	(道跡名なし)	T092					○			散布地	
45	(道跡名なし)	T093								散布地	
46	(道跡名なし)	T068								集落	
47	(道跡名なし)	T069								集落	
48	(道跡名なし)	T070								集落	
49	(道跡名なし)	T072			○					集落	
50	(道跡名なし)	T073								集落	
51	(道跡名なし)	T076								集落	
52	南蛇井古墳群	T302								古墳	
53	(道跡名なし)									散布地	関越道直江津線分布富岡192
54	原城								○	城館	16世紀、南蛇井氏
55	(道跡名なし)	T061				○				集落	
56	(道跡名なし)	T064				○				集落	
57	(無名古墳)	T056					○			集落	
58	南蛇井増光寺道跡	T118			○	○	○	○	○	集落・城館・墓・他	
59	只川橋下弥生茅葺墓	0011								墓・他	
60	馬山古墳群	0038							○	集落・古墳	
61	観音寺原道跡	0034			○					散布地・集落	
62	長尾根道跡	0035			○				○	散布地・集落・城館	
63	下鎌田道跡	0036		○	○	○		○	○	集落・城館・古墳・生産道跡	下鎌田城：天正末年、北条氏・小幡氏
64	下鎌田城	0036							○	城館	天正末年、北条氏・小幡氏
65	松瀬古墳群	0055								古墳	

第2章 周辺環境

第1表 周辺道跡一覧の2

No	道跡名	市町村No	時期						種別	備考	
			旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	中世			近世
66	輪瀬1道跡	0037		○				○	○	集落・他	下仁田町道跡調査会1994
67	輪瀬2道跡	0037		○					○	散布地・塚墓	下仁田町道跡調査会1994
68	輪瀬3道跡	0037		○	○				○	集落・他	下仁田町道跡調査会1994
69	輪瀬城	0037							○	城館(寺院)	天正末年、北条氏・小幡氏、城營化した寺院か

第2表 周辺古墳一覧の1

No	名称	墳形	規模 (m)	市道跡No	新総覧No	No	名称	墳形	規模 (m)	市道跡No	新総覧No	
												K1
K2	丹生村6号古墳	円	6.4 × 5.5		富岡市3	K61	南蛇井古墳群無名1号古墳	円	—		富岡市173	
K3	丹生村5号古墳	円	5.5 × —		富岡市2	K62	吉田村2号古墳	円	—	T114	富岡市585	
K4	内出1道跡1号方形形周溝墓	方	8.2 × 8.0		富岡市24	K63	吉田村33号古墳	円	—		富岡市586	
K5	内出1道跡2号墳	円	11.0		富岡市25	K64	南蛇井古墳群無名2号古墳	円	—		富岡市174	
K6	内出1道跡1号墳	円	11.0		富岡市26	K65	吉田村2号古墳	円	—	T074	富岡市587	
K7	下丹生赤子Ⅱ道跡15号方形形周溝墓	方	116.5 × 119.0		富岡市44	K66	南蛇井古墳群無名9号古墳	円	—		富岡市187	
K8	下丹生赤子Ⅱ道跡14号方形形周溝墓	方	116.5 × 118.5		富岡市43	K67	南蛇井古墳群無名17号古墳	円	—		富岡市400	
K9	下丹生赤子Ⅱ道跡13号方形形周溝墓	方	117.5 × 119.0		富岡市42	K68	吉田村31号古墳	円	—	T117	富岡市584	
K10	下丹生赤子Ⅱ道跡12号方形形周溝墓	方	117.5 × 119.0		富岡市41	K69	吉田村19号古墳	円	—	T116	富岡市573	
K11	下丹生赤子Ⅱ道跡7号方形形周溝墓	方	112.5 × 114.5		富岡市36	K70	吉田村30号古墳	円	(7.9)		富岡市583	
K12	下丹生赤子Ⅱ道跡8号方形形周溝墓	方	119.0 × 119.0		富岡市37	K71	南蛇井古墳群無名15号古墳	円	—	T115	富岡市398	
K13	下丹生赤子Ⅱ道跡9号方形形周溝墓	方	110.0 × 116.0		富岡市38	K72	吉田村27号古墳	円	—	T059	富岡市580	
K14	下丹生赤子Ⅱ道跡17号方形形周溝墓	方	118.0 × 110.0		富岡市46	K73	吉田村29号古墳	円	—	T059	富岡市582	
K15	下丹生赤子Ⅱ道跡16号方形形周溝墓	方	110.0 × 115.0		富岡市45	K74	吉田村28号古墳	円	—	T059	富岡市581	
K16	下丹生赤子Ⅱ道跡10号方形形周溝墓	方	112.4 × 114.0		富岡市39	K75	吉田村34号古墳	円	—		富岡市587	
K17	下丹生赤子Ⅱ道跡11号方形形周溝墓	方	111.0 × 110.0		富岡市31	K76	南蛇井古墳群吉田3号古墳	円	(12.0) × (13.0)	T071	富岡市120	
K18	下丹生赤子Ⅱ道跡11号方形形周溝墓	方	16.3 × 16.2		富岡市40	K77	吉田村20号古墳	円	—		富岡市574	
K19	下丹生赤子Ⅱ道跡5号方形形周溝墓	方	113.5 × 113.0		富岡市34	K78	吉田村4号古墳	円	—		富岡市560	
K20	下丹生赤子Ⅱ道跡6号方形形周溝墓	方	119.0 × 110.0		富岡市35	K79	南蛇井古墳群吉田2号古墳	円	12.0		富岡市119	
K21	下丹生赤子Ⅱ道跡4号方形形周溝墓	方	—		富岡市33	K80	吉田村25号古墳	円	—	T110	富岡市587	
K22	下丹生赤子Ⅱ道跡3号方形形周溝墓	方	110.5 × 111.9		富岡市33	K81	南蛇井古墳群無名1号古墳	円	—		富岡市173	
K23	下丹生赤子Ⅱ道跡2号方形形周溝墓	方	117.5 × 119.0		富岡市32	K82	南蛇井古墳群吉田26号古墳	円	—		富岡市172	
K24	下丹生赤子Ⅱ道跡1号古墳	円	23.0		富岡市47	K83	南蛇井古墳群無名3号古墳	円	—		富岡市175	
K25	下丹生赤子Ⅱ道跡3号古墳	円	116.0		富岡市49	K84	吉田村35号古墳	円	—		富岡市388	
K26	下丹生赤子Ⅱ道跡2号古墳	円	110.0		富岡市48	K85	吉田村24号古墳	円	(6.8)		富岡市578	
K27	下丹生赤子Ⅱ道跡4号古墳	方	116.0		富岡市50	K86	吉田村23号古墳	円	上 下 方 (9.5)	T065	富岡市577	
K28	下丹生赤子Ⅱ道跡5号古墳	円	115.0		富岡市51	K87	吉田村22号古墳	円	上 下 方 (7.1)	T063	富岡市576	
K29	下丹生赤子Ⅱ道跡6号古墳	円	120.0		富岡市52	K88	吉田村21号古墳	円	上 下 方 (10.8)		富岡市575	
K30	下丹生赤子Ⅱ道跡7号古墳	方	119.0		富岡市53	K89	吉田村36号古墳	円	(14.5)	T062	富岡市589	
K31	下丹生赤子Ⅱ道跡8号古墳	円	119.0		富岡市54	K90	吉田村1号古墳	円	(9.2)		富岡市559	
K32	下丹生赤子Ⅰ道跡1号古墳	円	24.0 × 18.6		富岡市69	K91	吉田村40号古墳	円	(7.7)	T055	富岡市593	
K33	下丹生赤子Ⅰ道跡1号方形形周溝墓	方	7.7 × 8.1		富岡市55	K92	吉田村37号古墳	円	—		富岡市590	
K34	丹生村3号古墳	円	6.4 × 5.5		富岡市549	K93	吉田村39号古墳	円	(12.2)		富岡市592	
K35	丹生村4号古墳	円	5.5		富岡市550	K94	南蛇井古墳群無名4号古墳	円	—	T075	富岡市176	
K36	富岡市No.50古墳	円	112.0 × 110.0		富岡市170	K95	吉田村38号古墳	円	—		富岡市591	
K37	吉田村4号古墳	円	—		富岡市560	K96	南蛇井古墳群無名16号古墳	円	—		富岡市399	
K38	南蛇井古墳群無名5号古墳	円	—	T077	富岡市177	K97	南蛇井増光寺道跡C1号方形形周溝墓	方	11.2 × (10.4)		富岡市108	
K39	南蛇井古墳群無名6号古墳	円	—		富岡市178	K98	南蛇井増光寺道跡C2号方形形周溝墓	方	12.0 × (10.4)		富岡市109	
K40	南蛇井古墳群無名13号古墳	円	—		富岡市396	K99	上小幡古墳群吉田47号古墳	円	上 下 方 6.0	T106	富岡市185	
K41	南蛇井古墳群無名12号古墳	円	—	T078	富岡市179	K100	上小幡古墳群吉田46号古墳	円	上 下 方 7.0	T107	富岡市184	
K42	南蛇井古墳群無名7号古墳	円	—	T079	富岡市180	K101	富岡市No.108古墳	円	—		富岡市186	
K43	南蛇井古墳群無名8号古墳	円	—		富岡市180	K102	無名	—	—		T108	
K44	吉田村5号古墳	円	—		富岡市561	K103	無名	—	—		T298	
K45	吉田村9号古墳	円	—		富岡市564	K104	無名	—	—		T298	
K46	吉田村18号古墳	円	—	T113		K105	富岡市No.105古墳	円	—		T105	富岡市183
K47	吉田村8号古墳	円	—		富岡市563	K106	吉田村45号古墳	円	18.2		T100	富岡市597
K48	吉田村12号古墳	円	—		富岡市567	K107	吉田村43号古墳	円	17.6			富岡市595
K49	吉田村13号古墳	円	—		富岡市568	K108	吉田村44号古墳	円	18.2		T099	富岡市596
K50	吉田村14号古墳	円	—	T081		K109	高山村18号古墳	円	13.9			下仁田町33
K51	吉田村11号古墳	円	—		富岡市566	K110	高山村17号古墳	円	—			下仁田町32
K52	吉田村6号古墳	円	—	T082	富岡市121	K111	高山村16号古墳	円	15.2			下仁田町31
K53	吉田村7号古墳	円	—		富岡市562	K112	高山村14号古墳	円	—			下仁田町29
K54	吉田村16号古墳	円	—	T112	富岡市570	K113	下藤田道跡9号古墳	円	—			下仁田町12
K55	吉田村15号古墳	円	—		富岡市569	K114	下藤田道跡9号古墳	円	18.7			下仁田町13
K56	吉田村10号古墳	円	—	T111	富岡市565	K115	下藤田道跡7号古墳	円	(12.4)			下仁田町11
K57	吉田村17号古墳	円	—	T111	富岡市571	K119	高山村12号古墳	円	—		T056	下仁田町27
K58	南蛇井古墳群無名14号古墳	円	—		富岡市397	K120	高山村13号古墳	円	—		T057	下仁田町28
K59	南蛇井古墳群無名18号古墳	円	—		富岡市401							

第2表 周辺古墳一覧の2

No	名称	墳形	規模 (m)	市道 路線No	新編No
K121	下鎌田遺跡10号古墳	円	110.5		下仁町14
K122	下鎌田遺跡5号古墳	円	—		下仁町9
K123	下鎌田遺跡4号古墳	円	12.2		下仁町8
K124	下鎌田遺跡3号古墳	円	7.7		下仁町7
K125	下鎌田遺跡2号古墳	—	—		下仁町6
K126	下鎌田遺跡6号古墳	—	—		下仁町10
K127	下鎌田遺跡1号方形周溝墓	方	14.4 × 13.6		下仁町4
K128	馬山村11号古墳	円	—		下仁町26
K129	馬山村10号古墳	円	12.1		下仁町25
K130	馬山村9号古墳	円	2.7		下仁町24
K131	馬山村8号古墳	円	36.4		下仁町23

No	名称	墳形	規模 (m)	市道 路線No	新編No
K132	馬山村7号古墳	円	18.2		下仁町22
K133	馬山村6号古墳	円	—		下仁町21
K134	馬山村5号古墳	円	4.2		下仁町20
K135	馬山村4号古墳	円	—		下仁町19
K136	馬山村3号古墳	円	—		下仁町18
K116	楠瀬田遺跡7号方形周溝墓	方	(7.6) × 6.4		下仁町1
K117	楠瀬田遺跡2号方形周溝墓	方	(9.5) × 7.8		下仁町2
K118	楠瀬田遺跡3号方形周溝墓	方	(10.6) × 8.4		下仁町3
K137	馬山村2号古墳	円	—		下仁町17
K138	馬山村1号古墳	円	7.3		下仁町16

る。なお馬山古墳群(60)は、古墳群として比較的広い範囲が設定され、登録されているが、群馬県古墳総覧(群馬県教育委員会2017)には馬山村18号古墳(K109)が示されるに過ぎない。

集落遺跡としては原内出1遺跡(7)で4棟、下丹生赤子II遺跡(12)で81棟、下丹生赤子I遺跡(13)で10棟、下丹生前畑遺跡(16)で106棟、蚊沼前畑遺跡(24)で18棟、中沢平賀界戸遺跡(30)で72棟、南蛇井増光寺遺跡(58)で246棟の竪穴建物が調査されている。このうち前期の竪穴建物として確認されたものは、原内出1遺跡(7)の7棟と下丹生前畑遺跡(16)の1棟および南蛇井増光寺遺跡(58)の2棟、中期の竪穴建物として確認された建物は下丹生前畑遺跡(16)の1棟、蚊沼前畑遺跡(24)で18棟であった。その他の625棟の竪穴建物のほとんどは後期の所産と認識されるものである。

5 奈良・平安時代

律令期において南蛇井北原田、蚊沼大神分の両遺跡付近は甘栗郡に属していた。甘栗郡には13郷(里)があり第8図の範囲では北東(右上)の下丹生に丹生郷、南西の南蛇井には那射(な)郷が比定されている。鎌川右岸の下仁田町馬山は額部郷に含まれる説もあるが判然としない。なお両遺跡は、その位置から推して、那射郷に属していたものと思量される。

第8図の範囲では、奈良時代の遺跡として打越川流域の完新世段丘上の原内出1遺跡(7)、下丹生籾ノ上遺跡(8)、下丹生久保前遺跡(9)、下丹生赤子II遺跡(12)、下丹生赤子I遺跡(13)、下丹生品川遺跡(14)、下丹生前畑遺跡(16)、下丹生寺ヶ遺跡(17)、及び第8図中程の中沢川と蚊沼川流域の完新世段丘上の蚊沼前畑遺跡(24)、中沢平賀界戸遺跡(30)、南蛇井増光寺遺跡(58)の13遺跡

があり、平安時代の遺跡としては奈良時代の遺跡に加えて打越川流域の下丹生小川遺跡(15)、鎌川右岸段丘(完新世段丘)上の馬山古墳群(60)や鎌川右岸丘陵上の観音寺原遺跡(61)、下鎌田遺跡(63)、楠瀬1遺跡(66)の合わせて18遺跡がある。

このうち原内出1遺跡(7)で平安時代1棟、下丹生籾ノ上遺跡(8)で奈良時代8棟、平安時代15棟、下丹生前畑遺跡(16)で奈良時代18棟、平安時代13棟、蚊沼前畑遺跡(24)で奈良時代4棟、平安時代2棟、中沢平賀界戸遺跡(30)で奈良時代54棟、平安時代9棟、南蛇井増光寺遺跡(58)で奈良時代107棟、平安時代154棟、下鎌田遺跡(63)で平安時代4棟の竪穴建物を調査したほか、下丹生久保前遺跡(9)で平安時代の溝とAs-B下の水田、下丹生小川遺跡(15)では律令期の溝や土坑と共にAs-B下の水田、中沢平賀界戸遺跡(30)ではAs-B下水田を調査している。

6 中世

中世における第8図の範囲での領主については、鎌倉時代では丹生氏の名が見えるのみであるが、南北朝時代に入ると丹生郷では新田一族岩松氏が領有していたことが知られ、同氏として伝えられる居館には丹波屋敷とも呼ばれる原の内出(6)がある。

室町時代の城館では、信州平賀の一族内山氏の居城であり、南を中沢川に面し堀で囲繞された郭が東西に連なる平賀城(29)、遺構の遺存状態が不良で形状等が不明の南蛇井氏の居城、原城(54)があり、在城者は不明で堀で区画された郭群から成る蚊沼内出跡(19)(別称蚊沼の砦)がある。尚、中沢平賀界戸遺跡(30)では平賀城(29)の一部を調査した。箱堀が確認されたに過ぎなかったが、中近世の礎石建物や火葬土坑、土坑等も調査している。

一方、戦国期に入り甲斐の武田信玄が当地に侵攻した

後、甘楽の谷一帯は小幡氏(甘楽町)の支配となり、上述の原の内出(6)も小幡氏の居館となり、本格的な山城である神成城(32)やその砦と考えられる吾妻山の砦(31)、下鎌田城(64)、杣瀬城(69)が小幡氏の城として築かれるが、後2者は小田原北条氏の城としても知られる。これらの城館のうち中沢平賀界戸遺跡(30)では平賀城(29)の一部を調査し、箱堀を確認し、下鎌田城の一部は下鎌田遺跡(63)として発掘調査され、掘立柱建物25棟、空堀1条、井戸3基などが確認されている。また杣瀬城の一部も杣瀬Ⅲ遺跡(68)として発掘調査され、礎石建物2棟、掘立柱建物4棟、門4か所、堀2条、鎮壇跡1か所が確認され、多数の宝篋印塔、五輪塔などの石塔類が出土している。なお杣瀬城は、遺構の状態や出土石製品に鑑みれば、城郭ではなく城塞化された寺院ではないかと思量されるのである。

この他、南蛇井増光寺遺跡(58)では掘立柱建物23棟を調査し、中世か近世いずれかに特定できなかった遺構としては、下丹生小川遺跡(15)で土坑4基、墓墳3基、下丹生前畑遺跡(16)で溝1条、が調査されている。

7 近世

第8図の範囲の近世の集落は、鎌川右岸(南部)では馬山村、鎌川左岸での西側は南より南蛇井村、中沢村、蚊沼村、原村、東側は同じく小林村、神成村、下丹生村があった。このうち中沢村、蚊沼村、原村と下丹生村の一部は明和4(1767)年を除いて小幡藩領、また馬山村と南蛇井村では文化5(1808)年～文政5(1822)年の間は蝦夷松前藩領、下丹生村の一部は寛文5(1665)年以前は前橋藩領(酒井氏)、延享年間(1744～1788年)は常陸笠間藩領(牧野氏)であったが、他は幕府代官支配、或いは旗本領であった。

また武蔵国本庄宿と上野国吉井、富岡等を經由して和見峠を越えて信濃の中山道追分宿を結ぶ、「信州姫街道」、「女街道」あるいは「下仁田街道」の別称を持つ「下仁田道」が、蚊沼大神分遺跡の北側の鎌川の上位段丘の段丘崖に沿って東西に走行していた。第8図の右枠外の宮崎宿と、同じく左方の下仁田宿との間の南蛇井には大黒や保治郎という旅籠があった。

発掘調査では下丹生小川遺跡(15)で土坑、墓墳各2基、杣瀬Ⅰ遺跡(66)で土坑4基と溝、および炭窯、杣瀬Ⅱ遺

跡(67)では炭窯を調査している。

【参考文献】

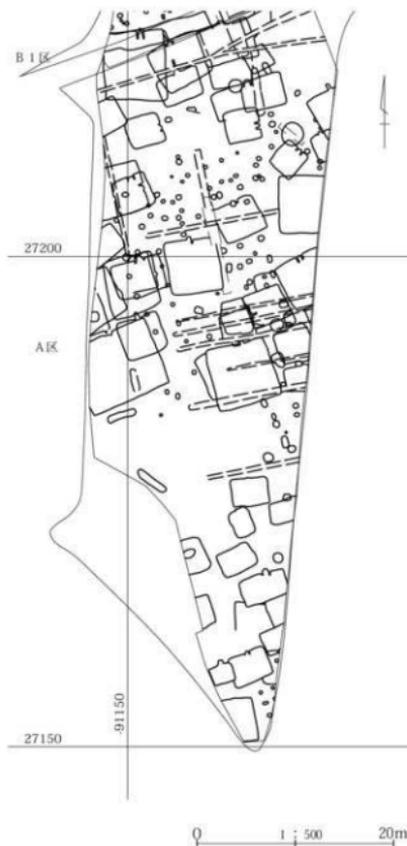
- 群馬県教育委員会(1972)『問題自動車道地域埋蔵文化財分布調査報告書 一直江津線一』
 群馬県教育委員会(1981)『下仁田道』
 群馬県教育委員会(1988)『群馬県の中世城館』
 群馬県文化事業振興会(1983)『群馬県町村誌 8 甘楽部(1)』
 群馬県埋蔵文化財調査事業団(1992)『南蛇井増光寺遺跡Ⅰ』
 群馬県埋蔵文化財調査事業団(1993)『南蛇井増光寺遺跡Ⅱ』
 群馬県埋蔵文化財調査事業団(1994)『南蛇井増光寺遺跡Ⅲ』
 群馬県埋蔵文化財調査事業団(1996)『南蛇井増光寺遺跡Ⅳ』
 群馬県埋蔵文化財調査事業団(1996)『中沢平賀界戸遺跡』
 群馬県埋蔵文化財調査事業団(1997)『南蛇井増光寺遺跡Ⅴ』
 群馬県埋蔵文化財調査事業団(1997)『南蛇井増光寺遺跡Ⅵ』
 下仁田町遺跡調査会(1994)『杣瀬Ⅰ遺跡 杣瀬Ⅱ遺跡 杣瀬Ⅲ遺跡』
 下仁田町遺跡調査会(1997)『下鎌田遺跡』
 富岡市教育委員会(1997)『南蛇井増光寺遺跡』
 富岡市教育委員会(2000)『吉田3号墳』
 富岡市教育委員会(2009)『丹生地区道跡群』
 山崎 一(1972)『群馬県古城原址の研究 下巻』、pp147・155-158、群馬県文化事業振興会
 山崎 一(1979)『群馬県古城原址の研究 補遺編 上巻』、pp81-84・90・91、群馬県文化事業振興会

第3章 南蛇井北原田遺跡

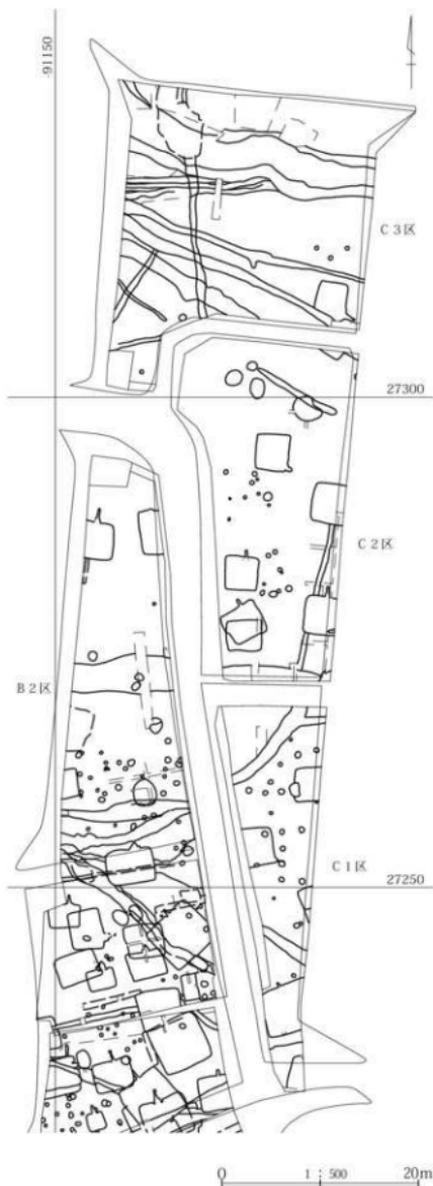
第1節 概要

南蛇井北原田遺跡の調査面は1面のみであり、縄文時代から中世の遺構をほぼ同じ面で調査した。本遺跡で調査した遺構は竪穴建物94棟、掘立柱建物4棟、土坑70基、ピット174基、溝22条、焼土6カ所、炉1基であった。

このうち縄文時代の遺構は、土坑4基と土坑状の掘り込みを伴う遺物集中箇所1カ所のみであった。しかし、



第9図 調査区全体図1



第10図 調査区全体図2

中期を中心とする前期から後期に至る時代の縄文土器や、石織や打製石斧等の石器、石製品など、同時代の遺物が調査区全域で出土している。

一方、弥生時代の遺構は、調査区の北寄りでは調査された溝1条のみであった。

他の遺構はいずれも古墳時代以降の所産であった。出土遺物には古墳時代前期のものも見られたが、遺構は古墳時代後期以降であり、時期の特定できた遺構についてみると古墳時代後期、奈良時代、平安時代所産のものが中心で、中世に下ると見られる遺構も確認した。

古墳時代後期～中世時代の遺構では、竪穴建物があるが、その分布は南部、南部北半から中部に在り、北部の分布は無いか薄い。竪穴建物の時期は、古墳時代後期が46棟、古墳時代から奈良時代のものが3棟、奈良時代21棟、平安時代15棟であり、時期の特定できなかったものが9棟あった。掘立柱建物は調査区南半部に多く分布する。その時期は明瞭ではないが、柱の配置と柱穴の規模から中世が1棟、古代以前のものが3棟と判断した。

このほか土坑は北端近くを除く全域に62基が分布していた。これらの土坑の時期は、古墳時代後期6棟、古墳時代から古代のものが2基あり、奈良時代3基、平安時代1基を含む古代のものが3基、中世のものが1基あった。このほか古墳時代以降が2基、古代以降が5基、中世以降が1基で、時期不明のものが37基あった。ピットも調査区北端部を除く広い範囲に分布するが、調査区南半部北寄りと北半部南寄り等にピット群として確認される個所があった。またピットと同程度の規模の小型の土坑9基はピットの可能性があった。ピットは170基あったが、柱穴規模からは74基が古代、79基が中世と認識している。

溝は調査区の北半部で確認され、21条を確認したが、古墳時代以前のものが2条、奈良・平安時代のものが8条、奈良時代以前のものが1条、平安時代以降のものが2条、時期の特定できなかったものが8条あった。このほか時期は不明瞭だったが、平安時代2カ所、古墳時代以降2カ所、奈良時代以降1カ所、時期不明1カ所の6カ所の焼土があり、奈良時代以降の1カ所も調査した。

第2節 古代から中世の遺構と遺物

1 竪穴建物

1号竪穴建物(第11～13図、PL. 2・83)

概要 本建物は竪付の竪穴建物である。建物西側は調査区外に出るため、全容は把握できなかった。

位置 本建物はA区南端部に在り、150～155-136～140グリッドに位置する。

重複 本建物は単独で在り、他遺構との重複は見られなかった。

規模 [竪穴]前後：4.47m 左右：(2.99)m
深さ：0.39m 床面積：(9.89) m²

[竪] 長さ：0.86m 幅：0.86m

左袖 長さ：(0.76)m 幅：(0.22)m

高さ：0.02m

右袖 長さ：(0.55)m 幅：(0.42)m

高さ：0.14m

燃焼部 長さ：0.65m 幅：0.38m 深さ：0.04m

掘り方 長さ：0.49m 幅：0.34m 深さ：0.02m

[貯蔵穴] 平面規模：0.60×0.64m 深さ：0.15m

埋土 粘性やや弱い黒褐色土等で埋没する。壁際下部には、粘性やや弱い灰黄褐色土または褐灰色土が堆積していた。

構造 [竪穴]竪穴は方形或いは長方形プランを呈するものと判断され、主軸の向きはN82° Eを向く。

[掘り方・床]南壁沿いに長さ1.36m以上、幅0.85m、深さ0.1mほどの隅丸長方形プランの掘り込みを有し、竪と貯蔵穴の間のライン上、北壁から1.45m程の位置に、主軸をN3° Eに向け、長さ0.48m、幅0.37m、深さ0.10mを測る隅丸長方形プランの掘り込みの北端に径0.31×0.25m、深さ0.27mを測るピットを掘削する小孔を伴う掘り方を有する。これを粘性のある黒褐色土で埋め戻して、床面を造る。

[竪]竪は北壁の確認範囲の西寄りに設けられている。その主軸方位はN18° Wを向く。長さ0.5m、幅0.34m、深さ0.02mを測る、楕円形プランの浅い掘り込みの掘り方を有する。これを粘性の弱い灰黄褐色土で埋め戻して燃焼面を作る。

左右に袖が残るが、左右両袖の先端と右袖の中段に板

状の河床礫を立てて袖石とし、その外側を砂利を含む黒色土を積んで袖を造る。天井部の構造は詳らかでないが、竪手前寄りに長さ42cm、幅26cm、厚み4cmを測る天井石と判断される板状の礫が確認される。煙道は確認できなかった。

[柱穴]柱穴は確認できなかった。

[貯蔵穴]竪右側、北壁から0.18m、東壁から0.53m離れた位置に、隅丸長方形プランで平底を呈する貯蔵穴が掘削されている。黒色土で埋没している。

[棟]全容が把握できないため、棟方向は特定できなかった。また上屋構造は確認できなかった。

遺物 本建物からは土師器甕(1・2)と155片の土師器片と須恵器片1片、敲石から転用したこも編み石(3・4)、こも編み石(5～12)などの出土が見られた。また貯蔵穴付近に集中的に分布するこも編み石が見られた。

貯蔵穴からは、7個のこも編み石が出土している。

尚、掘り方のピットには長径10～20cmを測る河床礫7個が入れられていた。

所見 本建物の時期は、出土遺物から推して6世紀の所産と判断される。

2号竪穴建物(第14図、PL. 2・3)

概要 本建物は竪付の小型の竪穴建物である。

位置 本建物はA区南端部に在り、156～158-139～141グリッドに位置する。

重複 本建物は3号竪穴建物と重複するが、本建物の方が新しい。

規模 [竪穴]前後：1.94m 左右：2.35m
深さ：0.31m 床面積：3.66m²

[竪] 長さ：0.50m 幅：0.55m

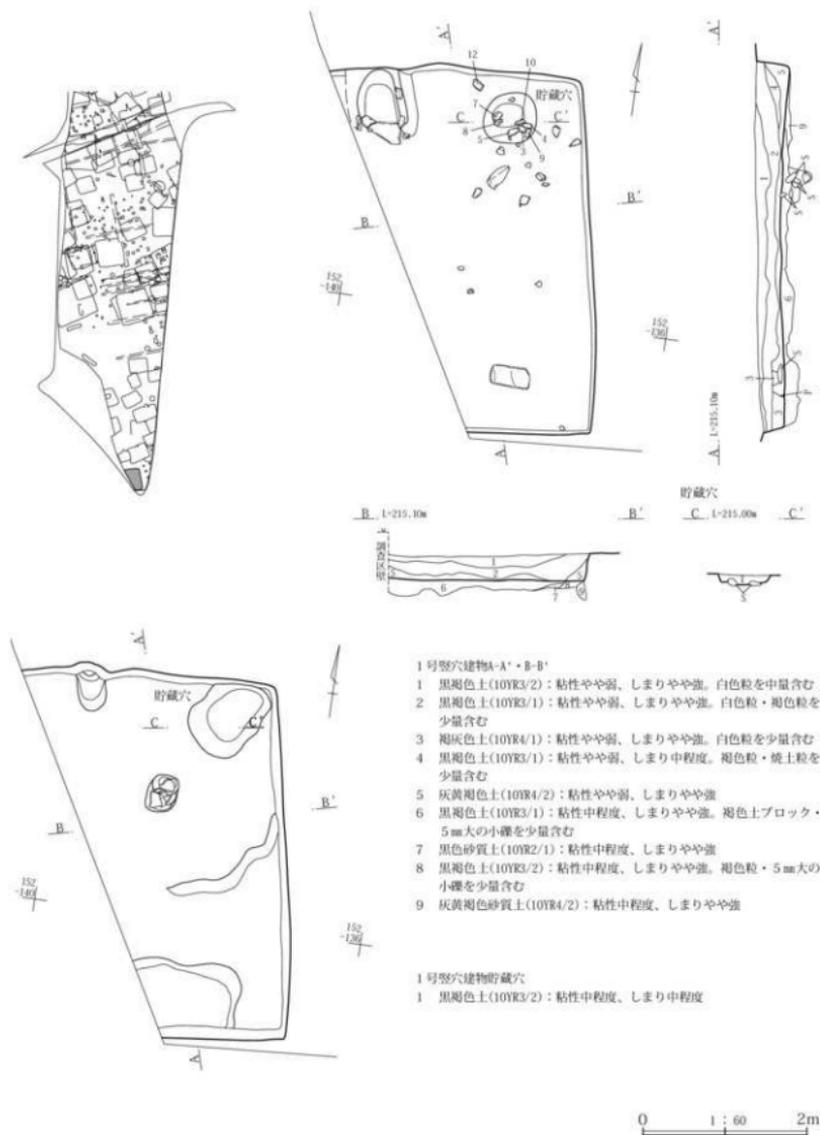
燃焼部 長さ：0.51m 幅：0.46m 深さ：0.03m

掘り方 長さ：0.77m 幅：0.55m 深さ：0.11m

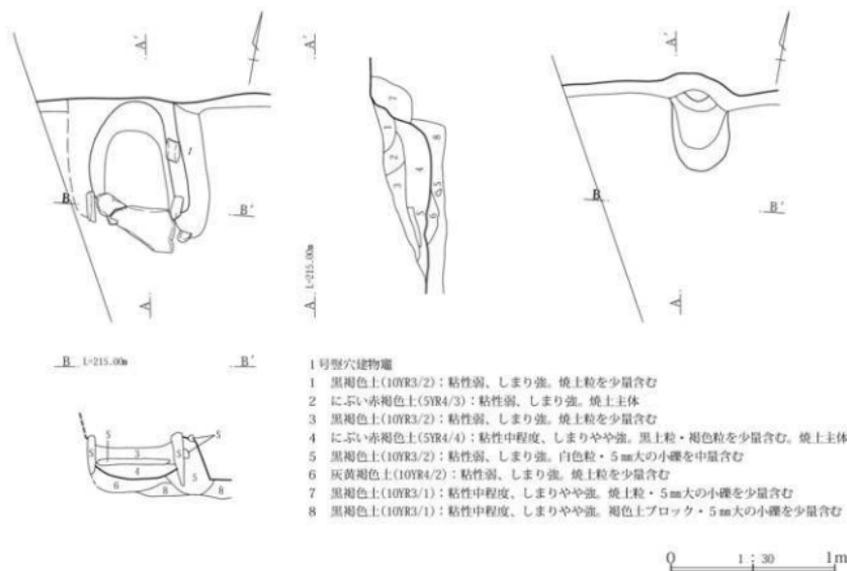
埋土 粘性弱い灰黄褐色土と粘性やや弱い黒褐色土で埋没する。壁際に粘性やや弱い灰黄褐色土で所謂三角堆積を形成する。

構造 [竪穴]竪穴は横長の隅丸長方形プランを呈し、箱形の掘削形態を呈する。主軸の向きはN73° Eを向く。

[掘り方・床]東壁沿いに長さ0.72m、幅0.40m、深さ0.12mを測る半円形プラン、長さ0.38m、幅0.33m、深さ0.16mを測る楕円形プランを呈する掘り込みと、南壁沿い長



第11図 1号型穴建物



1号竪穴建物

- 1 黒褐色土(10YR3/2)：粘性弱、しまり強。焼土粒を少量含む
- 2 にぶい赤褐色土(5YR4/3)：粘性弱、しまり強。焼土主体
- 3 黒褐色土(10YR3/2)：粘性弱、しまり強。焼土粒を少量含む
- 4 にぶい赤褐色土(5YR4/4)：粘性中程度、しまりやや強。黒土粒・褐色粒を少量含む。焼土主体
- 5 黒褐色土(10YR3/2)：粘性弱、しまり強。白色粒・5mm大の小礫を中量含む
- 6 灰黄褐色土(10YR4/2)：粘性弱、しまり強。焼土粒を少量含む
- 7 黒褐色土(10YR3/1)：粘性中程度、しまりやや強。焼土粒・5mm大の小礫を少量含む
- 8 黒褐色土(10YR3/1)：粘性中程度、しまりやや強。褐色土ブロック・5mm大の小礫を少量含む

第12図 1号竪穴建物

さ0.43m、幅0.30m、深さ0.10mを測る半円形プランを呈する掘り込みを伴う掘り方を有する。これを粘性やや弱い灰黄褐色土で埋め戻して床面を造る。

〔竪〕竪は北壁東寄りに設けられる。その主軸方位はN38°Wを向く。長さ0.75m、幅0.68m、深さ0.14mを測る、楕円形プランを呈する掘り方を有する。これを粘性の弱い小礫を多量に含む黒褐色土で埋め戻して燃焼面を作る。

袖は左右共に残されていない。天井部の構造は不明である。

〔柱穴〕柱穴は確認されなかった。

〔貯蔵穴〕貯蔵穴も確認されなかった。

〔棟〕棟は竪穴のプランから推して東西方向を向いていたと想定される。上屋構造は確認できなかった。

遺物 本建物からは土師器片30片と須恵器片2片が出土したが、図示すべきものは見られなかった。

所見 本建物の時期は、出土遺物から古墳時代後期頃と推定されるが、重複関係から推して7世紀後半の所産と判断される。

3号竪穴建物(第15～17図、PL. 3・84)

概要 本建物は竪穴の竪穴建物である。

位置 本建物はA区南端部に在り、155～160-135～139グリッドに位置する。

重複 本建物は2・4号竪穴建物と重複しているが、本建物は2号竪穴建物より古く、4号竪穴建物より新しい。

規模 〔竪穴〕前後：3.15m 左右：4.10m

深さ：0.14m 床面積：(11.11)㎡

〔竪〕長さ：0.47m 幅：0.70m

左袖 長さ：0.11m 幅：0.23m 高さ：0.10m

右袖 長さ：0.46m 幅：0.18m 高さ：0.13m

燃焼部 長さ：0.70m 幅：0.44m 深さ：0.20m

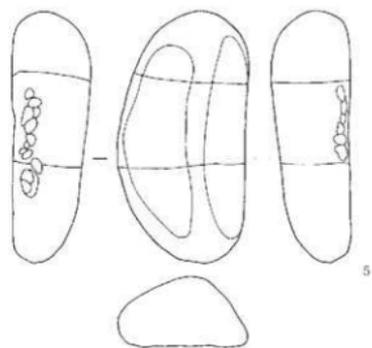
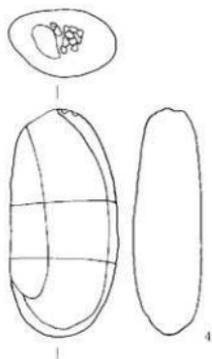
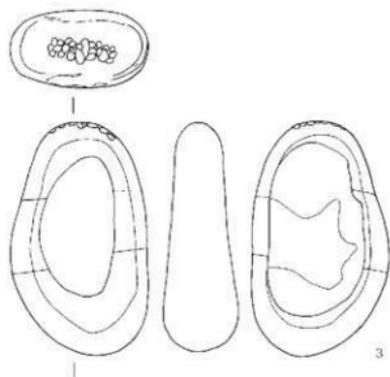
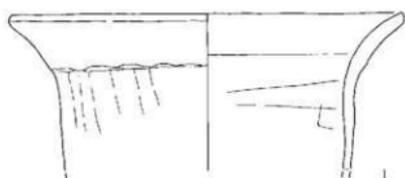
掘り方 長さ：0.70m 幅：0.44m 深さ：0.20m

〔貯蔵穴〕長さ：0.48m 幅：0.62m 深さ：0.31m

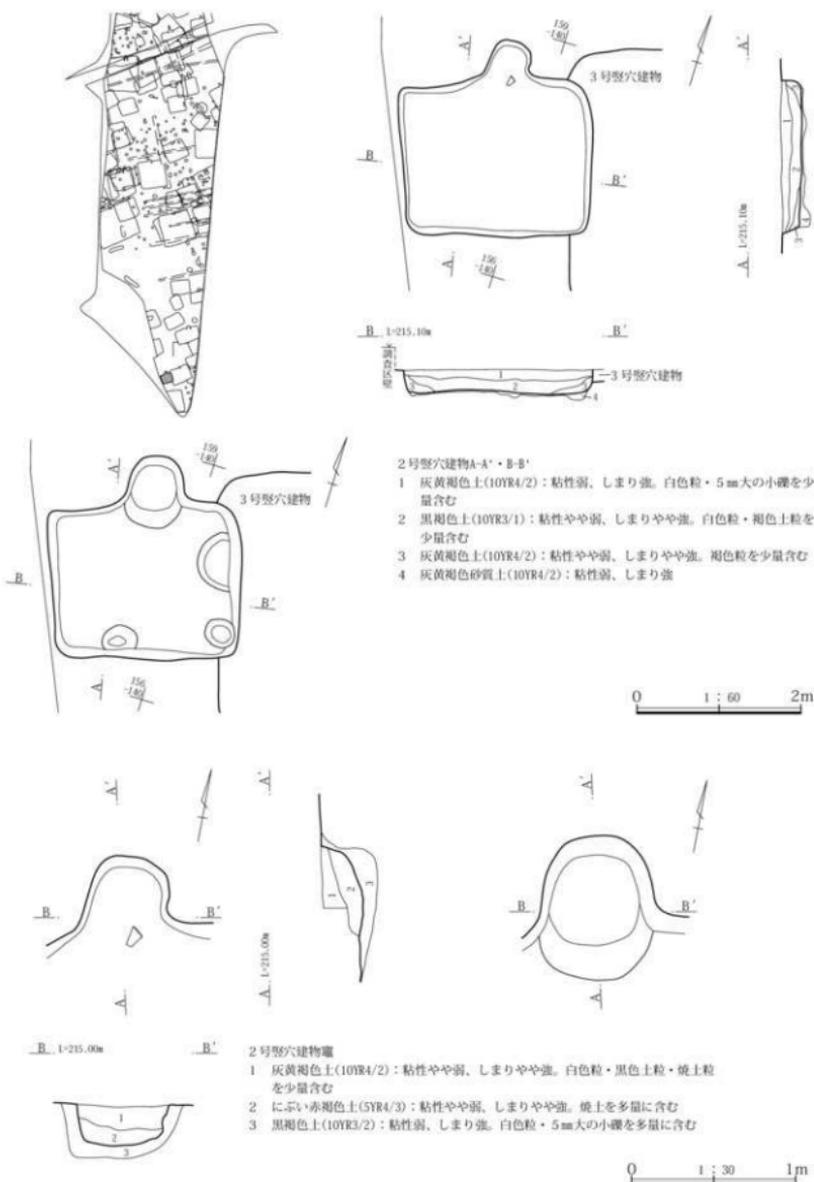
〔土坑〕長さ：0.62m 幅：0.98m 深さ：0.12m

〔周溝〕長さ：3.22m 幅：0.12m 深さ：0.05m

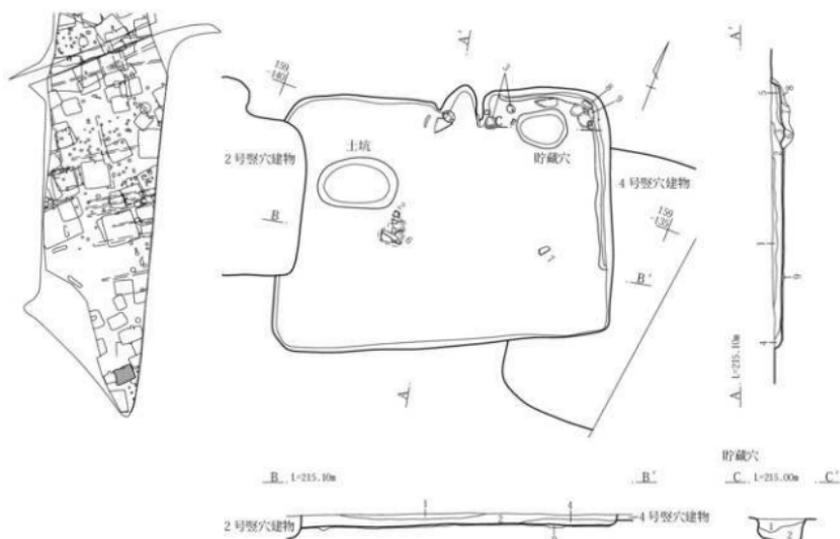
埋土 粘性弱い灰黄褐色土と粘性やや弱い黒褐色土で埋没する。壁際で粘性やや弱い黒褐色土で所謂三角堆積を形成する。



第13図 1号塚穴建物出土遺物



第14図 2号型穴建物

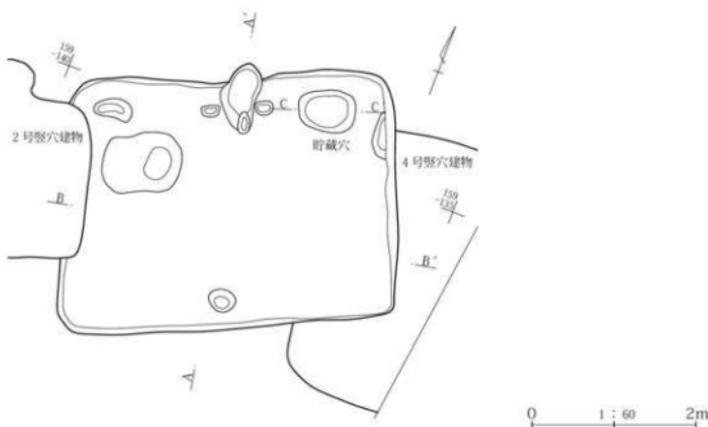


3号型穴建物A-A'・B-B'

- 1 灰黄褐色土(10YR4/2):粘性弱、しまり強。白色粒・5mm大の小礫を少量含む
- 2 黒褐色土(10YR3/1):粘性やや弱、しまりやや強。白色粒・褐色土粒を少量含む
- 3 黒褐色土(10YR3/2):粘性弱、しまり強。白色粒・焼土粒を少量含む
- 4 黒褐色土(10YR3/1):粘性やや弱、しまりやや強。白色粒・褐色土粒を少量含む
- 5 にぶい赤褐色土(5YR4/3):粘性やや弱、しまりやや強。焼土を多量に含む
- 6 灰黄褐色土(10YR4/2):砂質土。粘性弱、しまり強。黒色土が混じる
- 7 にぶい赤褐色土(5YR4/3):粘性弱、しまり強。焼土を少量含む
- 8 黒褐色土(10YR3/1):粘性やや弱、しまりやや強。焼土を少量に含む
- 9 灰黄褐色砂質土(10YR4/2):粘性弱、しまり強

3号型穴建物貯蔵穴

- 1 黒褐色土(10YR3/1):粘性やや弱、しまりやや強。5mm大の小礫を少量含む
- 2 黒褐色土(10YR3/2):粘性やや弱、しまりやや強。褐色土ブロックを少量含む



第15図 3号型穴建物

構造 [竪穴]竪穴は横長の隅丸長方形のプランを呈し、主軸の向きはN69° Eを向く。

[掘り方・床]本建物は東壁際に長さ0.58m、幅0.18m、深さ0.08mを測る半切した縦長梨形、中南部南壁寄りに長さ0.34m、幅0.28m、深さ0.09mを測る楕円形のプランを呈する。北西隅部に長さ0.46m、幅0.28m、深さ0.15mを測るカシューナッツ形のプランを呈する掘り込みを伴う0.01～0.02m厚の浅い掘り方を有する。これを灰黄褐色砂質土で埋め戻して、床面を造る。西半部中央やや北寄りに浅い土坑状の掘り込みが残る。

[竈]竈は北壁中程に設けられ、その方位はN13° Eを向く。長さ0.86m、幅0.50m、深さ0.09mを測る湾曲した楕円形様のプランを呈する掘り方を有する。これを灰黄褐色砂質土、共に焼土を混入する粘性の弱いにふい赤褐色土、粘性のやや弱い黒褐色土で埋め戻して焼成面を造る。

左右に小孔を掘って河床礫を据え、右袖は粘性の弱い

灰黄褐色土を積んで袖を造る。左袖は掘り残しの袖が残るが、先端の構造は詳らかでない。尚、天井部の構造は確認できなかった。

[柱穴]柱穴は確認できなかった。

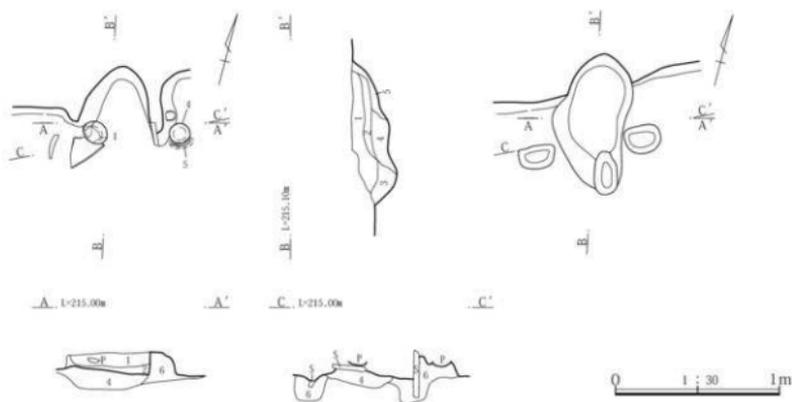
[貯蔵穴]貯蔵穴は竈と東壁の中間、やや北壁寄りに掘削されている。横長の楕円形のプランで箱形の掘削形態を呈し、黒褐色土で埋没している。

[周溝]竈右側の北壁東部から東壁中部にかけて、浅い掘り込みの周溝が確認された。

[棟]棟は竪穴のプランから推して東西方向を向いていたと想定される。上屋構造は確認できなかった。

遺物 本建物からは杯(1～5)・甕(6)と30片の土師器片、1片の須恵器片、敲石・砥石から転用のこも編み石(7)、敲石から転用のこも編み石(8)、こも編み石(9)が出土した。

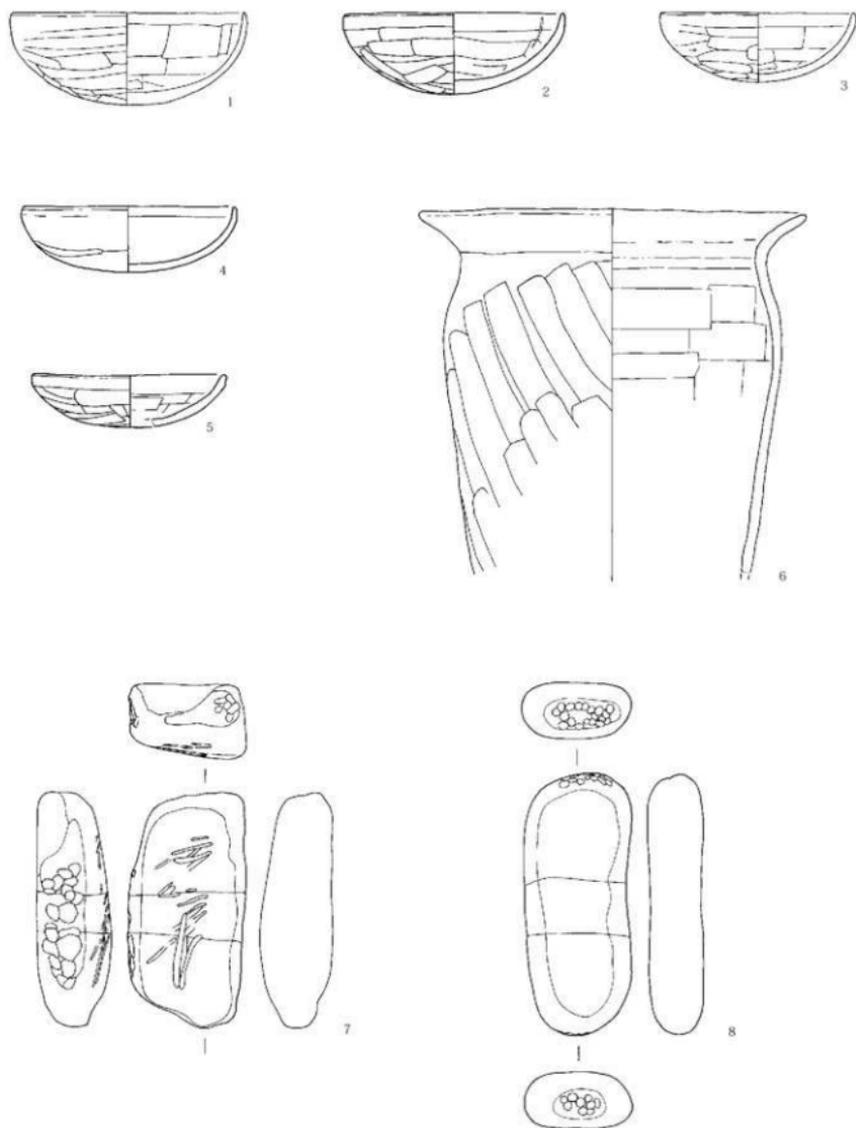
所見 本建物の時期は、出土遺物から推して7世紀第4四半期の所産と判断される。



3号竪穴建物圖

- 1 黒褐色土(10YR3/2)；粘性弱、しまり強。白色粒・焼土粒を少量含む
- 2 にふい赤褐色土(5YR4/3)；粘性やや弱、しまりやや強。焼土を多量に含む
- 3 灰黄褐色砂質土(10YR4/2)；粘性弱、しまり強。黒色土が混じる
- 4 にふい赤褐色土(5YR4/3)；粘性弱、しまり強。焼土を中量含む
- 5 黒褐色土(10YR3/1)；粘性やや弱、しまりやや強。焼土を少量に含む
- 6 灰黄褐色土(10YR4/2)；粘性弱、しまり強。白色粒・5mm大の小礫を少量含む

第16図 3号竪穴建物圖



0 1 : 3 10cm

第17図 3号竪穴建物出土遺物

4号竪穴建物(第18図、PL. 4・83)

概要 本建物は竪付の竪穴建物である。東側は調査区外に出るため、全容を把握することはできなかった。

位置 本建物はA区南端部東寄りに在り、156～159-134～136グリッドに位置する。

重複 本建物は3号竪穴建物と重複するが、本建物の方が古い。

規模 [竪穴]前後：3.43m 左右：(1.44)m
深さ：0.07m 床面積：(3.17)㎡

[竪] 長さ：0.42m 幅：—m

左袖 長さ：0.25m 幅：0.13m 高さ：0.04m

燃焼部 長さ：(0.35)m 幅：(0.12)m

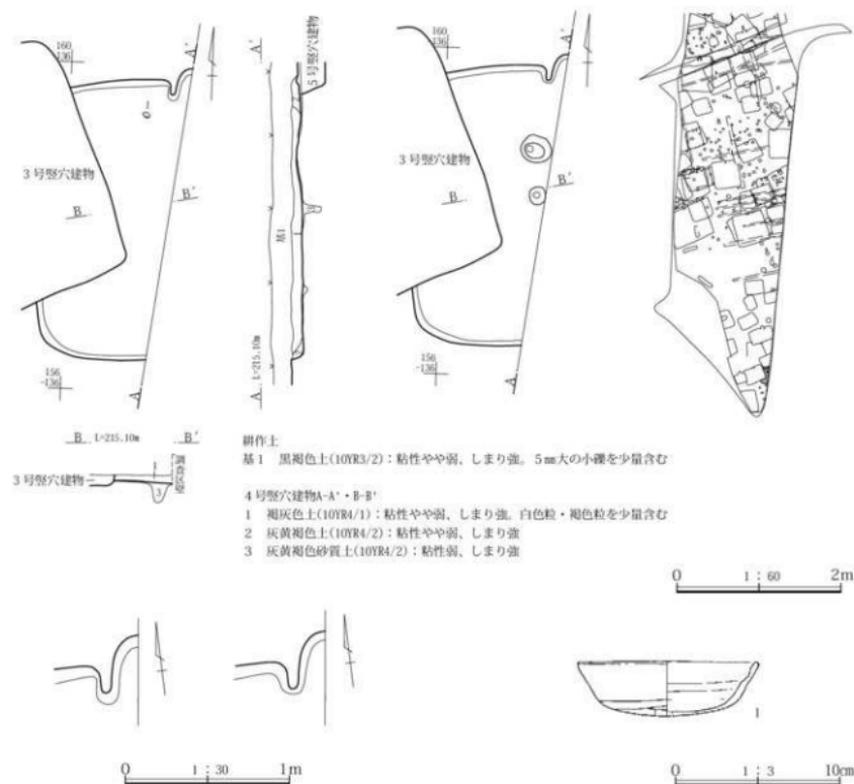
深さ：—m

埋土 粘性やや弱い褐灰色土で埋没する。粘性やや弱い灰黄褐色土が所謂三角堆積を成していた。

構造 [竪穴]東側が確認できないため、全容は把握できないが、竪穴は隅丸方形様のプランを呈し、主軸の向きはN⁸⁸Eを向く。

[掘り方・床]掘り方は竪前に径0.38×0.31m 深さ0.40m、径0.22×0.19m 深さ0.23mを測る柱穴状の掘り込みが確認されるが、全体的にいゆる地床を成す。

[竪]竪は西半だけが確認された。竪は北壁に設けられ、その方位はN7°Wを向く。竪の掘り方は確認できなかった。



第18図 4号竪穴建物と出土遺物

左袖が残る。断面の記録は残せなかったため不詳であるが、袖は掘り残しの可能性がある。

〔柱穴〕確認できなかった。

〔貯蔵穴〕確認できなかった。

〔棟〕上屋の構造は不明。竪穴の一部を調査したに過ぎないため、棟方向は特定できなかった。

遺物 本建物からは土師器杯(1)と土師器片37片と須恵器片1片の出土が見られた。

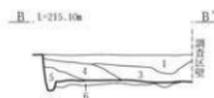
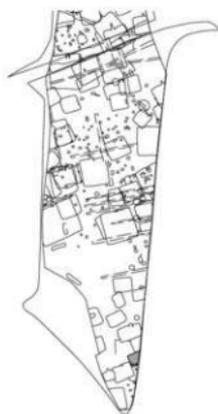
所見 本建物の時期は、出土遺物から推して9世紀の所産と判断される。

5号竪穴建物(第19～21図, PL. 4・84)

概要 本建物は建物中南部から東部にかけては調査区外に在るため、全容を把握できなかったが、竪穴建物と想定する。尚、本建物は竪穴建物として調査、報告したが、竪が確認されなかったため、竪穴状遺構の可能性も有する。

位置 本建物はA区南部東寄りに在り、159～162-134～136グリッドに位置する。

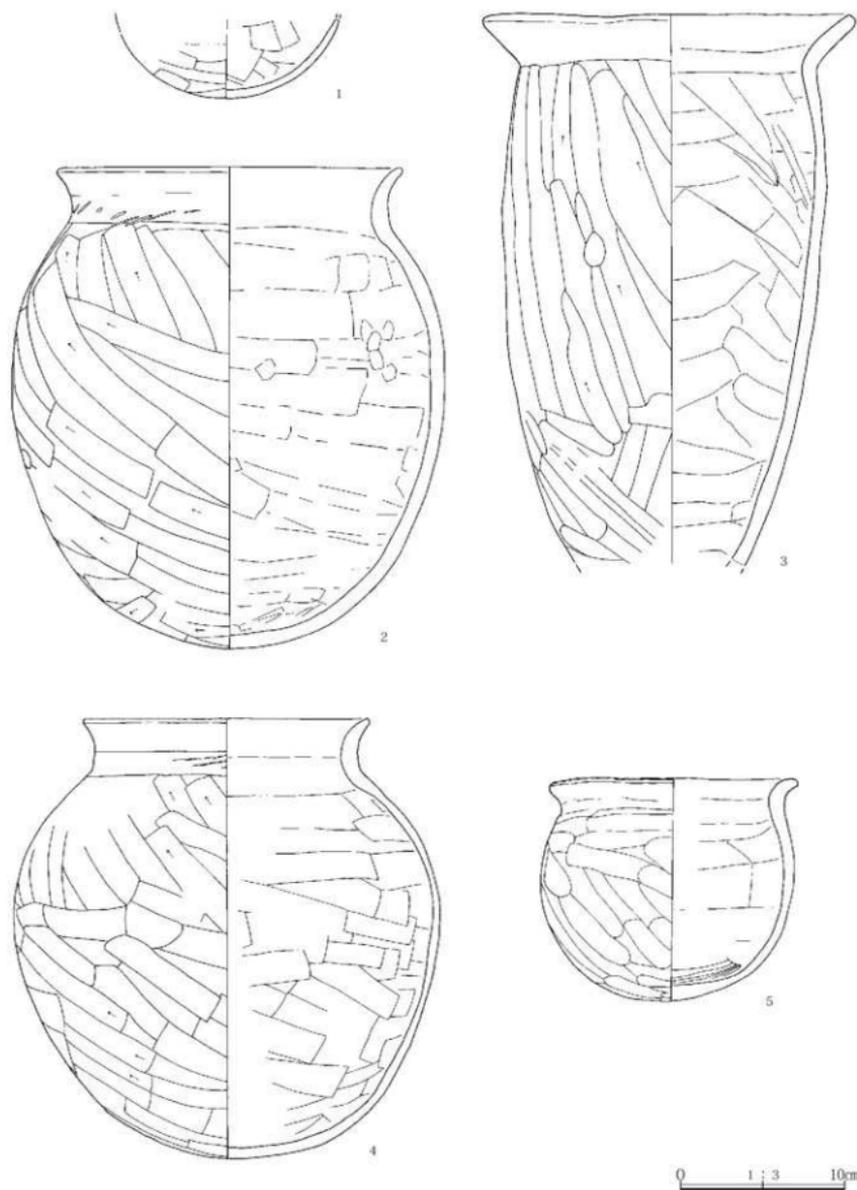
重複 本建物は7号竪穴建物と重複するが、本建物の方が新しい。



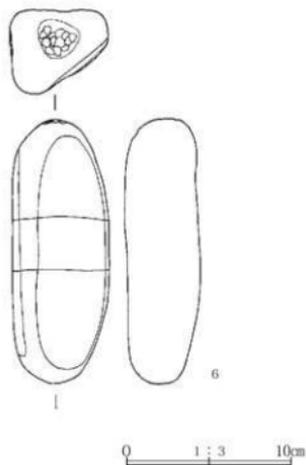
5号竪穴建物A-A・B-B'

- 1 灰黄褐色土(10YR4/2):粘性やや弱、しまりやや強。白色粒を少量含む
- 2 黒褐色土(10YR3/2):粘性やや弱、しまりやや強。褐色土ブロックを含む
- 3 灰黄褐色土(10YR4/2):粘性やや弱、しまりやや強。褐色土ブロックを含む
- 4 黒褐色土(10YR3/1):粘性中程度、しまりやや強。褐色粒を中量含む
- 5 黒褐色土(10YR3/1):粘性中程度、しまりやや強
- 6 灰黄褐色土(10YR4/2):粘性中程度、しまり強。黒色土が混じる

第19図 5号竪穴建物



第20図 5号竈穴建物出土遺物(1)



第21図 5号竪穴建物出土遺物(2)

- 規模** [竪穴]前後：2.52m 左右：(2.64)m
深さ：0.35m 床面積：(4.32)㎡
[周溝]長さ：2.16m 幅：0.16m 深さ：0.13m
- 埋土** 粘性やや弱い灰黄褐色土・黒褐色土等で埋没する。所謂三角堆積は粘性を有する黒褐色土で形成される。
- 構造** [竪穴]全容が確認できないので詳らかでないが、竪穴は隅丸長方形プランを呈し、主軸の向きはN° 66 Eを向く。
[掘り方・床]厚0.07m以下の極く浅い掘り方を有し、これを粘性のある黒色土を含む灰黄褐色土で埋め戻して床面を造る。
[竈]竈は確認されなかった。
[柱穴]柱穴は確認されなかった。
[貯蔵穴]貯蔵穴は確認されなかった。
[棟]棟方向は、残存部の竪穴の形態から推して、概ね東西方向を向くと想定される。上屋の構造は想定できなかった。
- 遺物** 本建物からは甕(1～4)・小型甕(5)および破片79片の土師器、こも編み石(6)の出土が見られた。
- 所見** 本建物の時期は、出土遺物から推して7世紀前半

の所産と判断される。

6号竪穴建物(第22図、PL. 4)

- 概要** 本建物は竪穴建物である。建物中・西部は調査区外にあるため、全容は把握できなかった。尚、本建物は柱穴を確認したため、竪穴建物と認識される。
- 位置** 本建物はA区南部西寄りに在り、162～165-141～143グリッドに位置する。
- 重複** 本建物は単独で在り、他遺構との重複はなかった。
- 規模** [竪穴]前後：(1.49)m 左右：3.30m
深さ：0.17m 床面積：(4.09)㎡
[P 1] 平面規模：0.26×(0.15)m 深さ：0.41m
[P 2] 平面規模：0.20×(0.12)m 深さ：0.20m
[周溝1] 長さ：2.26m 幅：0.18m 深さ：0.12m
[周溝2] 長さ：(1.46)m 幅：0.13m
深さ：0.02m

埋土 粘性やや弱い黒褐色土で埋没する。粘性やや弱い黒褐色土で所謂三角堆積等を形成する。

構造 [竪穴]竪穴は残存部の形態から推して長方形のプランを呈するものと想定されるが、南壁が0.53m幅で湾曲するように突出する。南壁沿いの周溝の位置から推して、この突出部は建物本来のものではないと判断されるものの、意図的拡張か壁の崩落に伴うものかは特定できなかった。尚、柱穴の位置から東西の幅は、石守(1999)の想定値から5.3m程と算出されるため東西に長いものと想定され、その判断に従えば、主軸の向きは東西方向となり、N° 76 Eを向く。

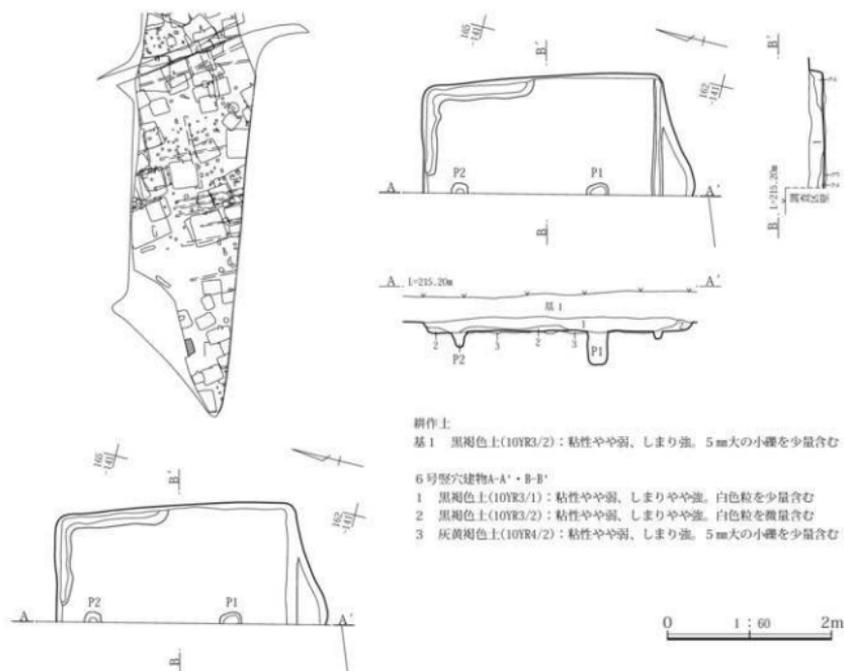
[掘り方・床]本建物は厚0.04m以下の極浅い掘り方を有し、これを粘性やや弱い灰黄褐色土で埋め戻して床面を造っている。北東隅部の壁際と南壁際に狭く浅い周溝が確認された。

[竈]竈は確認されなかった。

[柱穴]床面調査区壁際に2基の柱穴が確認された。柱穴は共に隅丸方形のプランを呈し、その掘削位置はP 1は南壁(周溝沿い)から0.75m、P 2は北壁から0.41mの位置に掘削され、やや北に寄る。P 1とP 2の柱間は1.67mを測る。

[貯蔵穴]貯蔵穴は確認できなかった。

[棟]棟方向は、上述の想定により、東西方向を向くものと思量されるが、上屋の構造は把握できなかった。



第22図 6号竪穴建物

遺物 本建物からは57片の土師器片が出土したが、図示すべきものは見られなかった。

所見 本建物の時期は、出土遺物から推して7世紀から8世紀頃の所産と推定される。

7号竪穴建物(第23～25図, PL. 4・85)

概要 本建物は竈付の竪穴建物である。依存状態は良好ではなく、南東部に5号竪穴建物、東側に8号竪穴建物、北側に9号竪穴建物が重複して失われ、また南側は全体的に削られて確認できない状態である。

位置 本建物はA区南部の中段に在り、161～164-135～139グリッドに位置する。

重複 本建物は5・8・9号竪穴建物と重複するが、いずれの建物に対しても本建物が古い。

規模 〔竪穴〕前後：(2.87)m 左右：(3.97)m
深さ：0.11m 床面積：(8.51)㎡

耕作土

基1 黒褐色土(10YR3/2)：粘性やや弱、しまり強。5mm大の小礫を少量含む

6号竪穴建物A-A'・B-B'

1 黒褐色土(10YR3/1)：粘性やや弱、しまりやや強。白色粒を少量含む

2 黒褐色土(10YR3/2)：粘性やや弱、しまりやや強。白色粒を微量含む

3 灰黄褐色土(10YR4/2)：粘性やや弱、しまり強。5mm大の小礫を少量含む

〔竈〕 長さ：(0.90)m 幅：(0.97)m

左袖 長さ：(0.64)m 幅：0.24m 高さ：0.05m

右袖 長さ：0.72m 幅：0.30m 高さ：0.08m

燃焼部 長さ：(0.90)m 幅：0.39m

深さ：0.03m

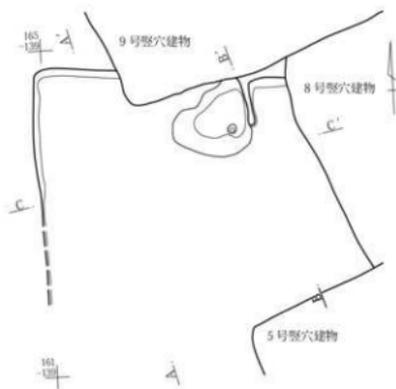
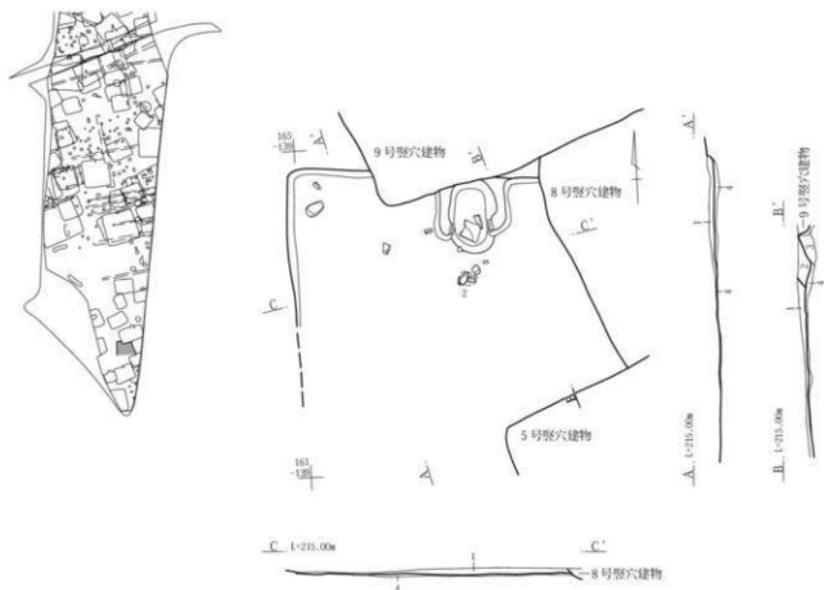
掘り方 長さ：0.77m 幅：0.96m

深さ：0.14m

埋土 粘性やや弱い黒褐色土で埋没する。所謂三角堆積等を確認することはできなかった。

構造 〔竪穴〕上述のように本竪穴建物は遺存状況が不良で、全容は明らかでないため、竪穴の状態も明確ではないが、竪穴は方形または長方形のプランを呈し、主軸の向きはN87°Wを向く。

〔掘り方・床〕本建物は厚さ0.04m以下を測る極浅い掘り方を有し、これを粘性の弱い褐灰色土で埋め戻してよく締めて床面を造る。

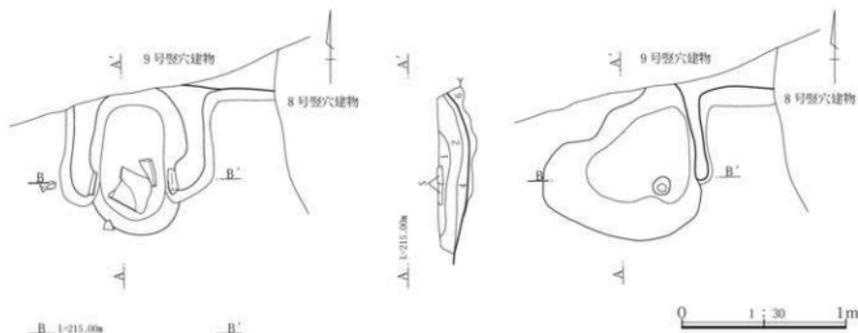


7号竪穴建物A-A' ~ C-C'

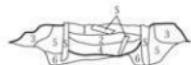
- 1 黒褐色土(10YR3/1)：粘性やや弱、しまりやや強。白色粒・5mm大の小礫を少量含む
- 2 黒褐色土(10YR3/1)：粘性弱、しまり強。5mm大の小礫を多量に含む
- 3 灰黄褐色土(10YR4/2)：粘性やや弱、しまりやや強。黒色土・焼土粒が少量混じる
- 4 褐灰色土(10YR4/1)：粘性弱、しまり強。白色粒・5mm大の小礫を中量含む

0 1 : 60 2m

第23図 7号竪穴建物



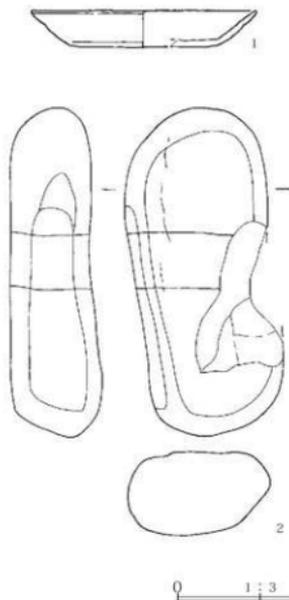
B. 1:215.00m



7号竪穴建物

- 1 褐灰色土(10YR4/1):粘性弱、しまりやや強。白色粒・5mm大の小礫を少量含む
- 2 黒褐色土(10YR3/1):粘性弱、しまりやや強。焼土ブロック・炭化物を中量含む
- 3 黒褐色土(10YR3/1):粘性弱、しまり強。5mm大の小礫を多量に含む
- 4 にぶい赤褐色土(5YR4/4):焼土主体。粘性やや弱、しまりやや強
- 5 灰黄褐色土(10YR4/2):粘性やや弱、しまりやや強。黒色土・焼土粒が少量混じる
- 6 にぶい黄褐色土(10YR4/3):粘性やや弱、しまりやや強。褐色土が混じる

第24図 7号竪穴建物



第25図 7号竪穴建物出土遺物

[竪穴]竪穴は北壁に設けられ、その方位は $N0^\circ$ を向く。北壁面をわずかに跨いで、隅丸三角形様の掘り方を掘削し、これを褐色土を含む粘性のやや弱いにぶい黄褐色土で埋め戻して燃焼面を造る。

手前寄りの左右両側に板状の礫を立てて袖石とし、その外側に黒色土と焼土を少量含む灰黄褐色土を盛り、その上から外側に小礫を多量に含む粘性の弱い黒褐色土を盛り上げて袖を造る。

天井部の構造は確認できず、9号竪穴建物に切られて煙道の有無も確認できなかった。

[柱穴]柱穴は確認されなかった

[貯蔵穴]貯蔵穴は確認されなかった。

[棟]棟方向も想定できず、上屋構造も推定できなかった。

遺物 本建物からの出土遺物は土師器杯(1)と土師器片10片、および磨石から転用のこも編み石(2)であった。

所見 本建物の時期は、出土遺物から推して9世紀の所産と判断される。

8号竪穴建物(第26・27図)

概要 本建物は後述のように南側で5号竪穴建物、西側で7号竪穴建物、北側で9号竪穴建物と重複し、東側が調査区外に出るため全容を把握できなかった。本遺構は竪穴建物と想定するが、竪穴状遺構の可能性も有する。

位置 本建物はA区南部の調査区東壁際に在り、162～165-133～136グリッドに位置する。

重複 本建物は5・7・9号竪穴建物と重複する。このうち7号竪穴建物より、本建物が新しいことは確認したが、5・9号竪穴建物との新旧関係を特定することはできなかった。

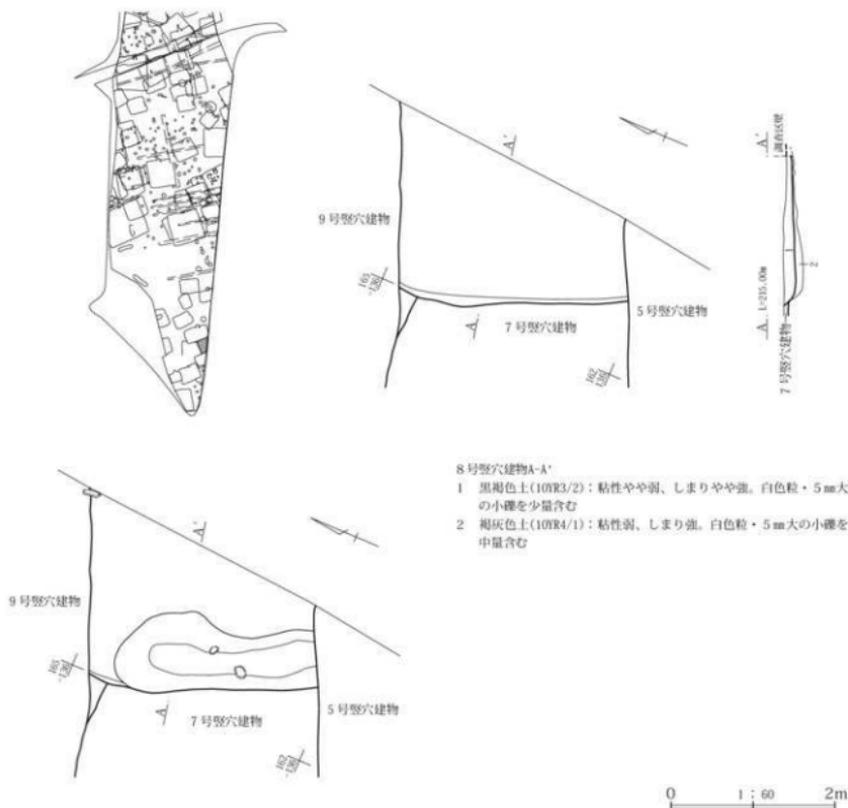
規模 〔竪穴〕前後：(2.78)m 左右：(2.27)m

深さ：0.10m 床面積：(4.56)㎡

埋土 粘性やや弱い黒褐色土で埋没する。所謂三角堆積等は見られなかった。

構造 〔竪穴〕竪穴は東壁及び南北壁が確認できなかったため、全容は不明だが、残存部の形状から推して隅丸方形様のプランを呈するものと想定される。主軸の向きはN23°Wを向く。

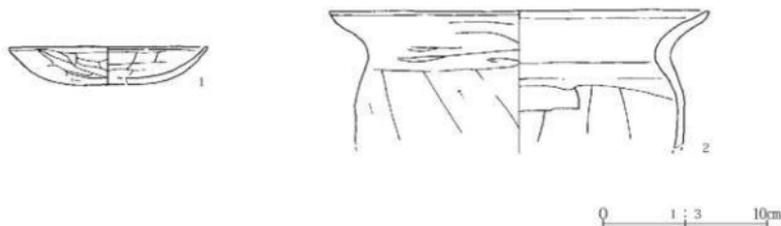
〔掘り方・床〕本建物は東壁際に幅0.63～0.97m、深さ0.14mを測る溝状の掘り込みを伴い、全体としては0.09m以下を測る掘り方を有し、これを粘性の弱い褐色土



8号竪穴建物A-A'

- 1 黒褐色土(10YR3/2)：粘性やや弱、しまりやや強。白色粒・5mm大の小礫を少量含む
- 2 褐灰色土(10YR4/1)：粘性弱、しまり強。白色粒・5mm大の小礫を中量含む

第26図 8号竪穴建物



第27図 8号竪穴建物出土遺物

で埋め戻して床面を造る。

〔竈〕竈は確認されなかった。

〔柱穴〕柱穴は確認されなかった。

〔貯蔵穴〕貯蔵穴は確認されなかった。

〔棟〕棟方向も特定できず、上屋構造も想定できなかった。

遺物 本建物からの出土遺物は僅かに土師器杯(1)・甕(2)と土師器片39片と須臾器片2片であった。

所見 本建物の時期は、出土遺物から推して7世紀後半の所産と判断される。

9号竪穴建物(第28・29図、PL. 5)

概要 本建物は竈付の竪穴建物である。建物南東隅部が調査区外に出るため、全容は確認できなかった。

位置 本建物はA区南部東半北東部に在り、164～168-133～138グリッドに位置する。

重複 本建物は南側で7・8号竪穴建物と重複するが、7号竪穴建物に対しては本建物の方が新しいものの、8号竪穴建物との新旧関係は特定できなかった。

規模 〔竪穴〕前後：2.94m 左右：4.82m
深さ：0.19m 床面積：(11.96) m²

〔竈〕長さ：1.03m 幅：1.06m

左袖 長さ：0.17m 幅：0.30m 高さ：0.12m

右袖 長さ：0.55m 幅：0.29m 高さ：0.10m

燃焼部 長さ：0.84m 幅：0.56m

深さ：0.03m

掘り方 長さ：0.47m 幅：0.61m

深さ：0.04m

〔貯蔵穴〕平面規模：0.49×0.64m 深さ：0.19m

〔周溝1〕長さ：(2.84)m 幅：0.27m

深さ：0.08m

〔周溝2〕長さ：8.66m 幅：0.14m

深さ：0.08m

埋土 少量の小礫含む粘性やや弱い黒褐色土で埋没する。粘性やや弱い黒色土を含む灰黄褐色土が所謂三角堆積を形成する。

構造 〔竪穴〕竪穴は横長の隅丸長方形のプランを呈し、主軸の向きはN⁷¹Eを向く。

〔掘り方・床〕本建物は西半部に長さ2.61m、幅2.50m、深さ0.12mを測る隅丸家形プランを呈する掘り込みを伴う掘り方を有し、これを粘性の弱い褐色土にふい黄褐色砂質土で埋め戻して床面を造る。

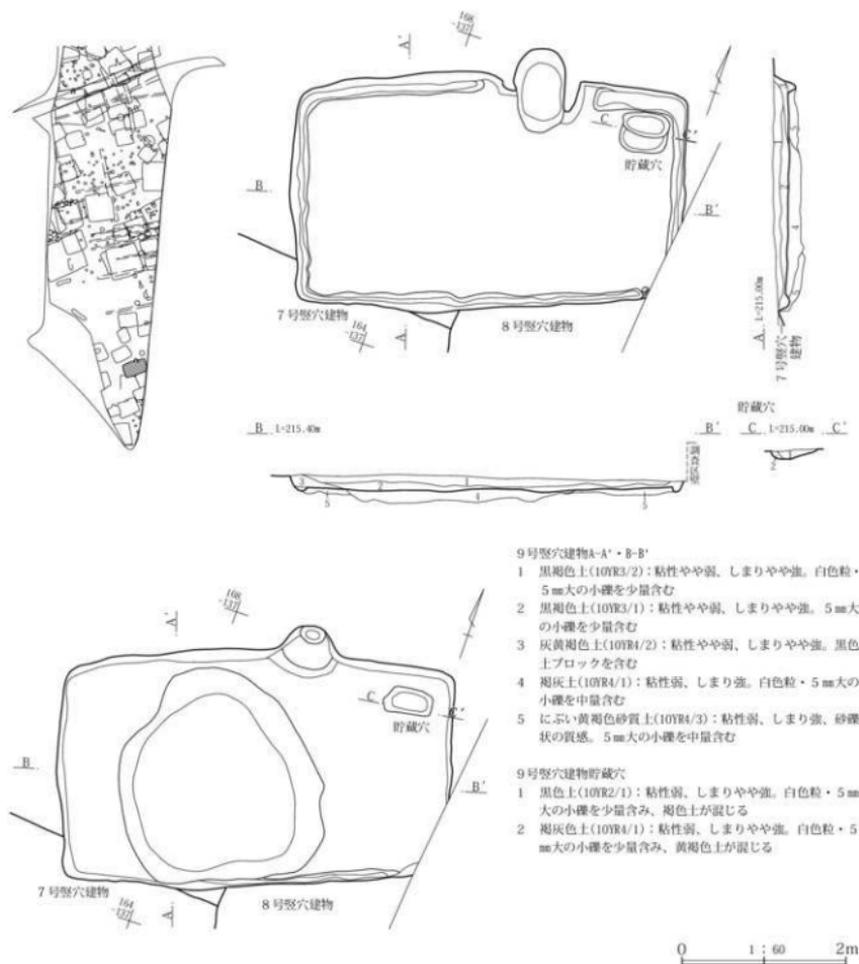
竈付近を除いて、建物の壁際に浅い周溝が掘削されている。

〔竈〕竈は北壁やや東寄りに設けられ、その方位はN17°Wを向く。壁面を跨いで先端に径0.30×0.20m、深さ0.06mを測る楕円形プランの掘り込みを伴う隅丸の逆扇形プランを呈する掘り方を有し、これを炭化物と焼土粒を含む粘性の弱い褐色土、焼土粒を少量含む粘性のある黒褐色土、粘性の弱いふい黄褐色ローム質土で埋め戻して燃焼面を造る。

燃焼部の左右両側に、黒色土と多量小の礫を含む粘性の弱い褐色土で袖を形成するが、天井部の構造は確認できなかった。

〔柱穴〕柱穴は確認できなかった。

〔貯蔵穴〕竈右側の竪穴北東隅部に掘削されていた。本貯蔵穴は南北で段差があり、北半部が深く、南半部より0.09～0.15m低くなっている。また南半部の東部は西部より0.03～0.06m高くなっている。この段差が併存して



第28図 9号竪穴建物

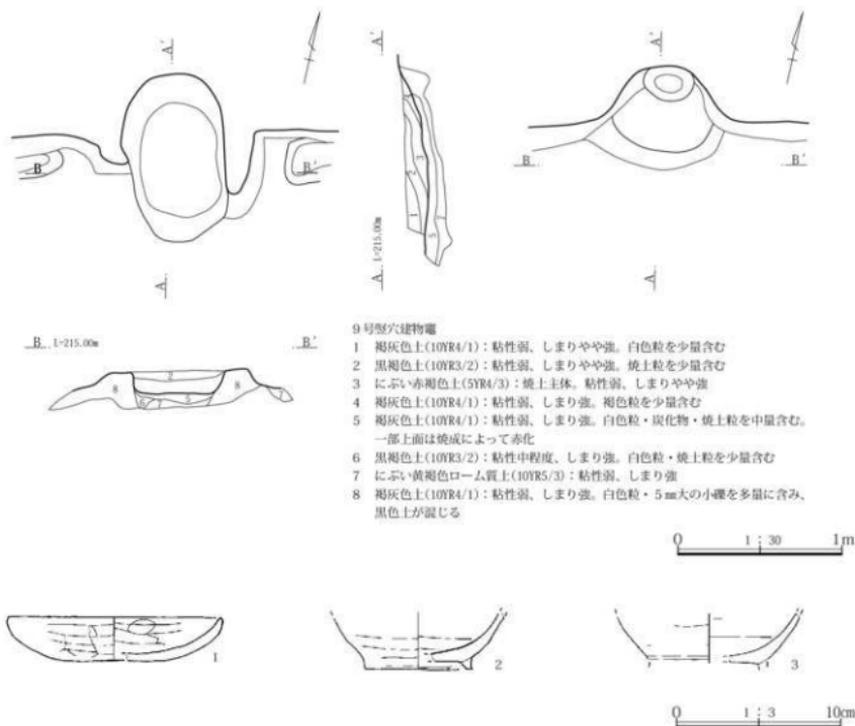
いたか、掘り直しであるかは特定できない。

[棟]棟方向は、竪穴の形態から東西方向をむくものと判断されるが、上屋構造は詳らかでない。

遺物 本建物からは杯(1)と186片の土師器、及び高台

付椀(2・3)と3片の須恵器、及び灰釉陶器片1片が出土した。

所見 本建物の時期は、出土遺物から推して7世紀後半から8世紀の所産と判断される。



9号竪穴建物竈

- 1 褐灰色土(10YR4/1)：粘性弱、しまりやや強。白色粒を少量含む
- 2 黒褐色土(10YR3/2)：粘性弱、しまりやや強。焼土粒を少量含む
- 3 にぶい赤褐色土(5YR4/3)：焼土主体、粘性弱、しまりやや強
- 4 褐灰色土(10YR4/1)：粘性弱、しまり強。褐色粒を少量含む
- 5 褐灰色土(10YR4/1)：粘性弱、しまり強。白色粒・炭化物・焼土粒を中量含む。一部上面は焼成によって赤化
- 6 黒褐色土(10YR3/2)：粘性中程度、しまり強。白色粒・焼土粒を少量含む
- 7 にぶい黄褐色ローム質土(10YR5/3)：粘性弱、しまり強
- 8 褐灰色土(10YR4/1)：粘性弱、しまり強。白色粒・5mm大の小礫を多量に含み、黒色土が混じる

第29図 9号竪穴建物竈と出土遺物

10号竪穴建物(第30図、PL. 5)

概要 本建物は東側が調査区外に出るため全容は詳らかでないが、竪穴状遺構の可能性も有する。

位置 本建物はA区中部南東隅に在り、北側のB1・2区から続く竪穴建物群の南端に位置する建物の一つである。本建物は186～189-131～134グリッドに位置する。

重複 本建物は北壁で14号土坑と接するが、新旧関係を特定することはできなかった。

規模 [竪穴]前後：2.60m 左右：(2.55)m
深さ：0.14m 床面積：(5.05)㎡

埋土 小礫を多量に含む粘性の弱い黒褐色土で埋没する。所謂三角堆積等を確認できなかった。

構造 [竪穴]東部が調査区外に出るため、全容は把握できないが、竪穴は隅丸方形のプランを呈する。主軸の向

きはN14°Wを向く。

[掘り方・床]本建物は北西隅部に径0.64×0.55m、深さ0.11mを測る、楕円形様のプランを呈する浅い掘り込みを伴う掘り方を有し、これを小礫を含む灰黄褐色砂質土で埋め戻して床面を造る。

[竈]竈は確認されなかった。

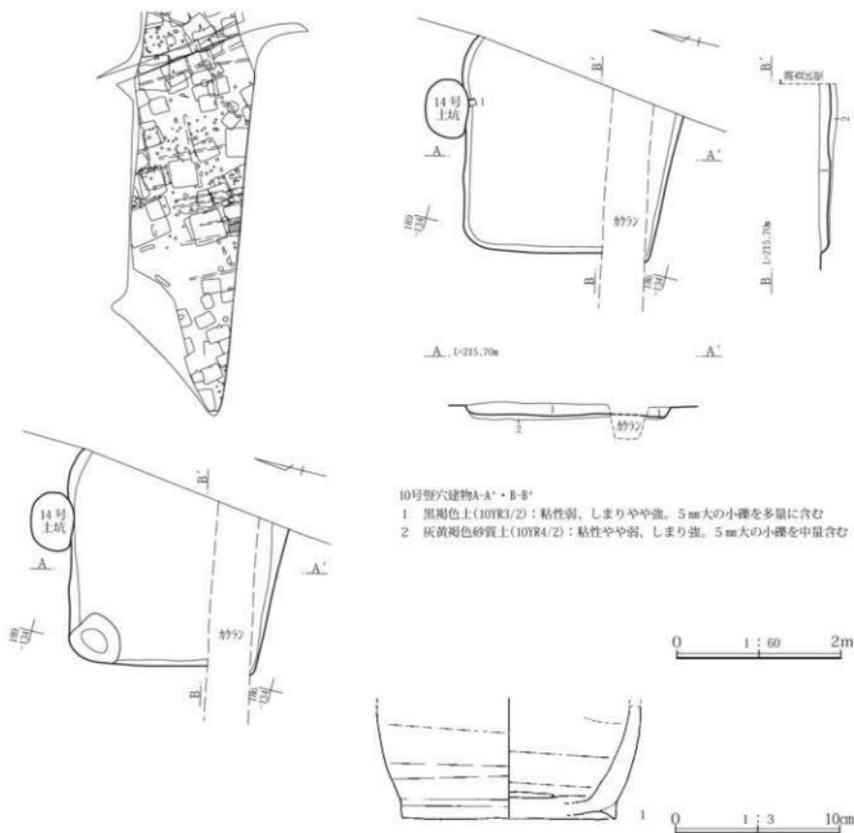
[柱穴]柱穴は確認されなかった。

[貯蔵穴]貯蔵穴は確認できなかった。

[棟]棟方向は特定できず、上屋構造も確認できなかった。

遺物 本建物からは須臾器壺(1)と土師器片46片、須臾器片3片が出土した。

所見 本建物の時期は、出土遺物から推して9世紀後半の所産と判断される。



10号竪穴建物A-A'・B-B'
 1 黒褐色土(10YR3/2)；粘性弱、しまりやや強。5mm大の小礫を多量に含む
 2 灰黄褐色砂質土(10YR4/2)；粘性やや弱、しまり強。5mm大の小礫を中量含む

第30図 10号竪穴建物と出土遺物

11号竪穴建物(第31・32図、PL. 5・85)

概要 本建物は南東隅部が調査区外に出るため全容は詳らかにできなかった。また本建物は竪穴建物と想定しているが、竪穴状遺構の可能性も有する。

位置 本建物はA区中部南寄り東部に位置する。189～193-131～135グリッドに所在する。

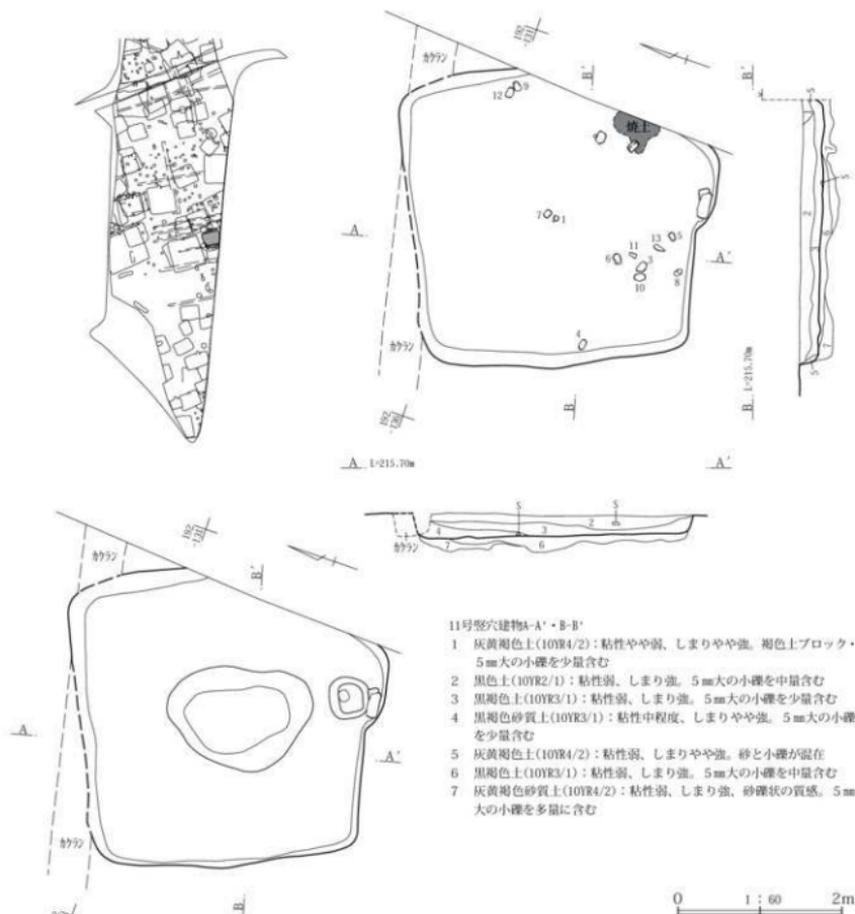
重複 18・19号土坑と重複するが、掘削の順位から本建物の方が新しい。

規模 [竪穴]前後：3.85m 左右：(3.64)m
 深さ：0.34m 床面積：(10.28)㎡

埋土 本建物はいずれも小礫を含む粘性のやや弱い灰黄褐色土、粘性の弱い黒色土・黒褐色土で埋没する。北側に黒褐色砂質土、西側に粘性の弱い砂礫混じりの灰黄褐色土の三角堆積の形成が見られる。

構造 [竪穴]竪穴は南壁の東寄りで弧状の突出の見られる隅丸方形のプランを呈し、主軸の向きはN19°Wを向く。

[掘り方・床]本建物は中央に径1.77×1.30m、深さ0.19mを測る隅丸三角形を呈する土坑状の大型の掘り込みと、南壁の突出部西寄りに径0.51×0.47m、深さ0.43m



第31図 11号竪穴建物

を測る隅丸長方形プランを呈する柱穴状の掘り込みを伴う掘り方を有し、これを小礫を含む粘性の弱い黒褐色土と小礫を多量に含む灰黄褐色砂質土で埋め戻して床面を造る。床面南東部調査区際に焼土面が見られる。

〔竈〕竈は確認されなかった。

〔柱穴〕柱穴は確認されなかった。

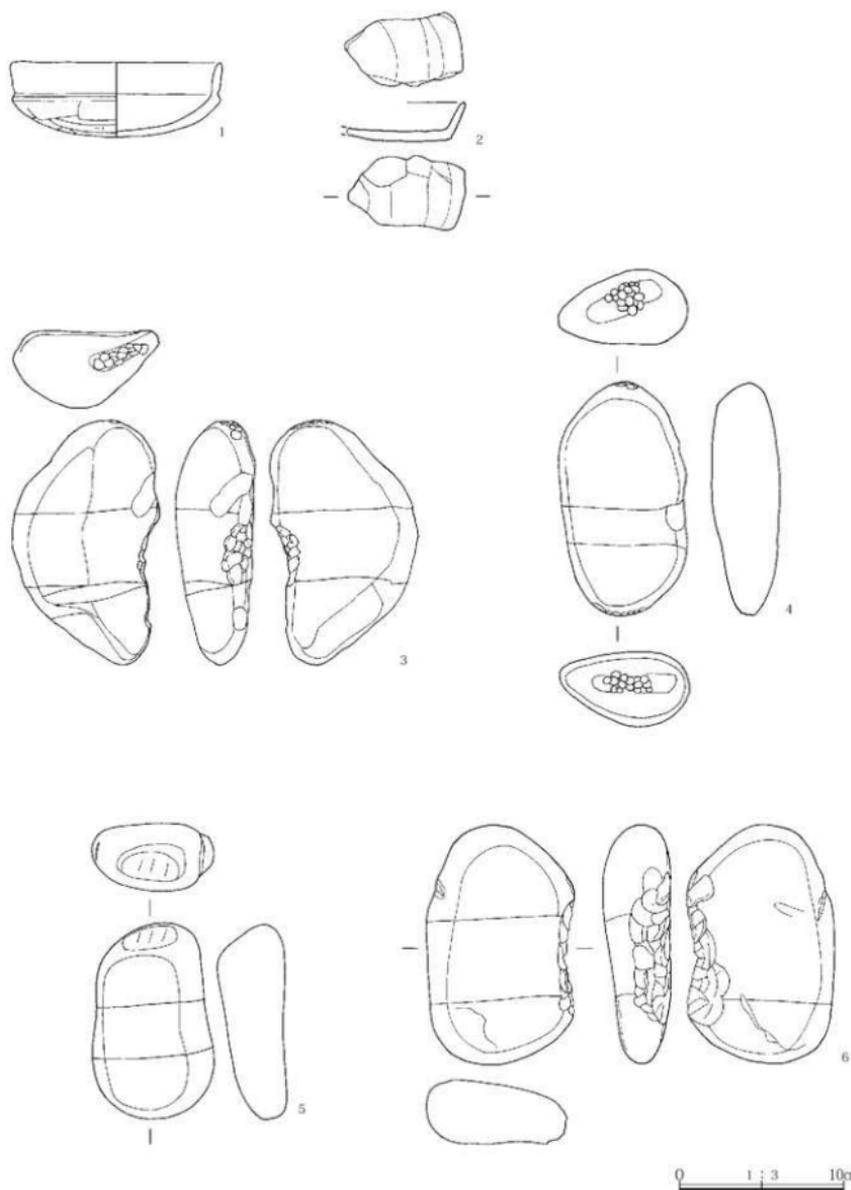
〔貯蔵穴〕貯蔵穴は確認されなかった。

〔棟〕棟方向は、東西または南北のいずれかと想定される

が、上屋構造は確認できなかった。

遺物 本建物からは杯(1)と59片の土師器、及び焙烙と見られる土師質土器(2)のほか、敲石から転用したこも編み石(3・4)、磨石から転用のこも編み石(5)、こも編み石(6～13)が出土した。なお、こも編み石は南部中程を中心に分布が見られた。

所見 本建物の時期は、出土遺物から推して6世紀後半の所産と判断される。



第32図 11号塚穴建物出土遺物

12号竪穴建物(第33・34図、PL. 5・85)

概要 本建物は西部が調査区外に出るため全容は詳らかでない。また本建物も竪穴建物と想定しているが、竪穴状遺構の可能性も有する。

位置 本建物はA区南部北西寄り、調査区西壁際に所在する。167～171-141～144グリッドに位置する。

重複 本建物は単独で在り、他遺構との重複は見られなかった。

規模 [竪穴]前後：3.64m 左右：(2.42)m

深さ：0.07m 床面積：(7.56)㎡

[土坑1] 平面規模：0.89×0.64m 深さ：0.12m

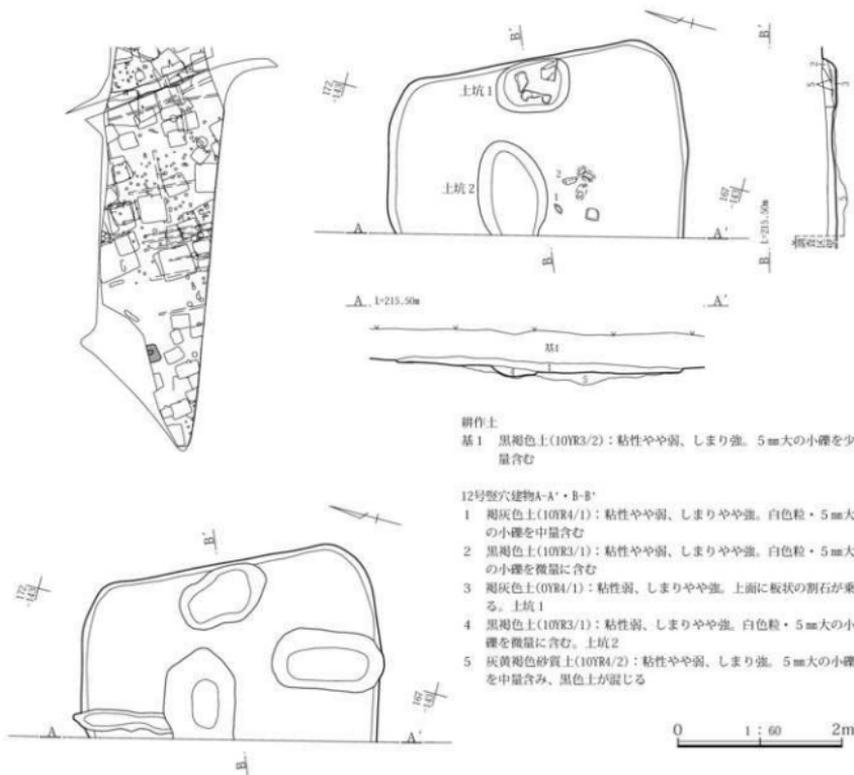
[土坑2] 平面規模：0.84×(1.16)m 深さ：0.18m

埋土 小礫を含む粘性やや弱い褐色土で埋没する。東

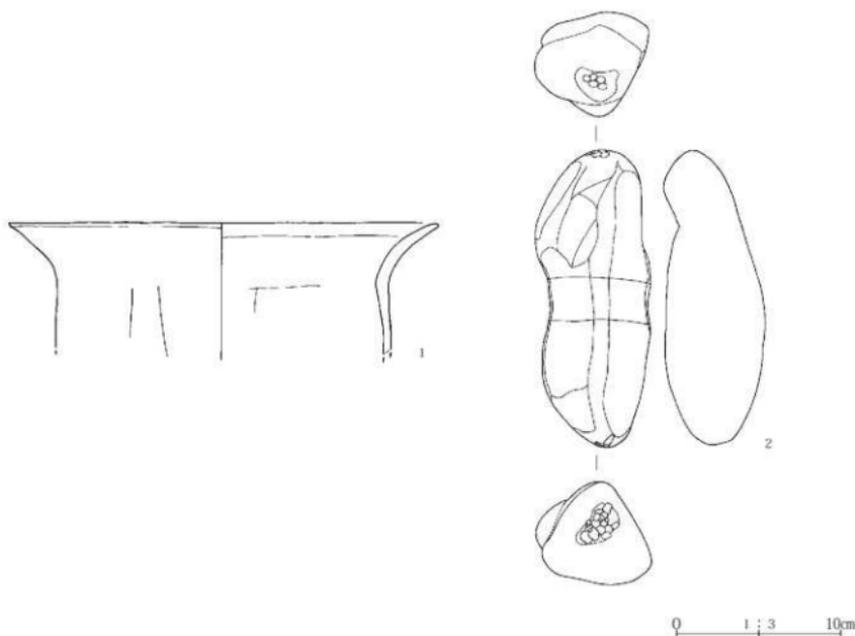
壁際に粘性やや弱い黒褐色土で所謂三角堆積が形成される。

構造 [竪穴]西側が調査区外に出るため全容は詳らかでないが、竪穴は隅丸方形様のプランを呈し、主軸の向きはN15°Wを向く。

[掘り方・床]本建物は南壁際楕円形プランを呈する深さ0.05mを測る土坑状、北壁際に深さ0.10mを測る溝状の掘り込みが確認される掘り方を有するが、これらの掘り込みはそれぞれ竪穴建物の壁を少し超えるため、本建物に伴わない可能性を有する。床面は掘り方を、小礫を含む灰黄褐色砂質土で埋戻して作られる。また東壁際に縦長の隅丸台形のプランを呈する土坑1、建物中央やや北寄りに楕円形プランを呈する土坑2が掘削されてい



第33図 12号竪穴建物



第34図 12号竪穴建物出土遺物

る。

〔竈〕竈は確認されなかった。

〔柱穴〕柱穴は確認されなかった。

〔貯蔵穴〕貯蔵穴は確認できなかった。

〔棟〕建物の全容が把握されなかったため、棟方向も特定できず、上屋構造も確認できなかった。

遺物 本建物からは甕(1)と19片の土師器、1片の須恵器、及び葎石から転用のこも編み石(2)の出土が見られた。

所見 本建物の時期は、出土遺物から推して6世紀後半の所産と判断される。

13号竪穴建物(第35～37図、PL. 6・86)

概要 本建物は竈付の竪穴建物である。尚、本建物は東西南北方向に対してやや反時計回りに傾くが、本稿では壁面の方位を東西南北と記すこととする。

位置 本建物はA区南部北寄りに在り、167～170-136

～140グリッドに位置する。

重複 本建物は単独で在り、他遺構との重複は見られなかった。

規模 〔竪穴〕前後：3.78m 左右：2.61m
深さ：0.31m 床面積：8.17㎡

〔竈〕 長さ：0.80m 幅：0.89m

左袖 長さ：0.80m 幅：0.35m 高さ：0.17m

右袖 長さ：0.76m 幅：0.24m 高さ：0.11m

燃焼部 長さ：0.93m 幅：0.40m

深さ：0.06m

掘り方 長さ：0.28m 幅：0.84m

深さ：0.06m

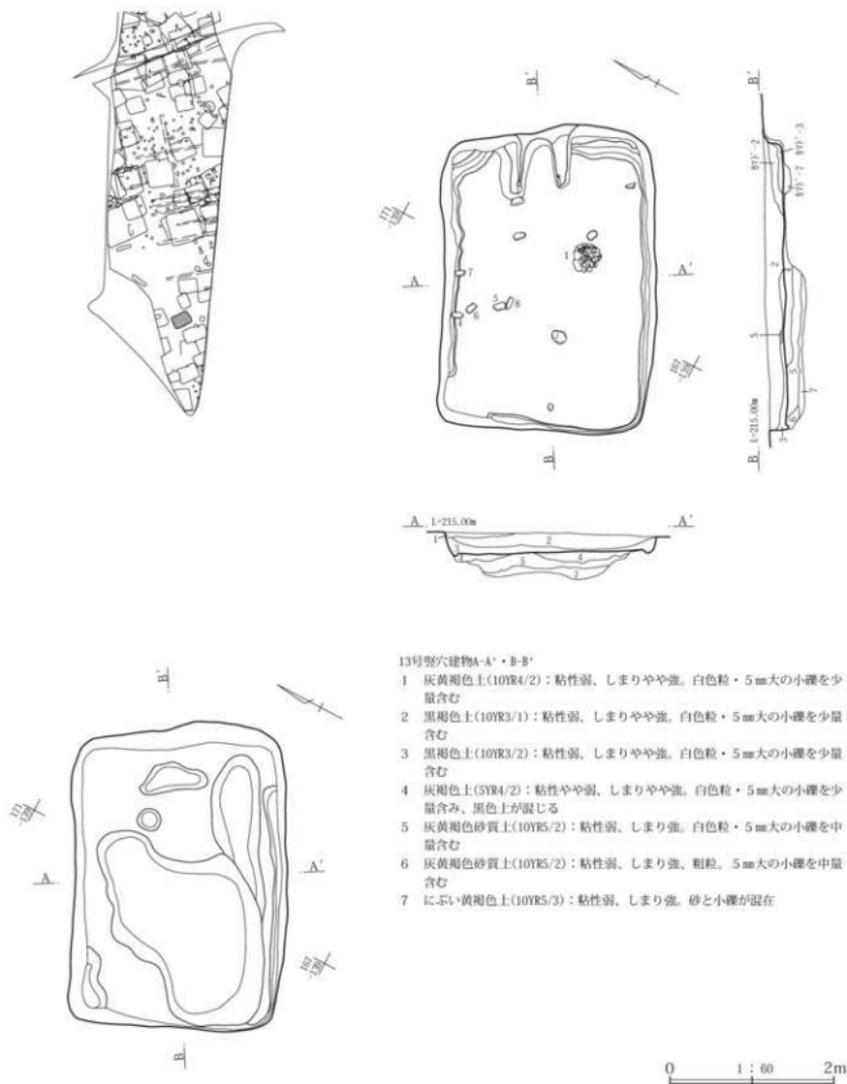
〔周溝1〕 長さ：5.94m 幅：0.22m

深さ：0.08m

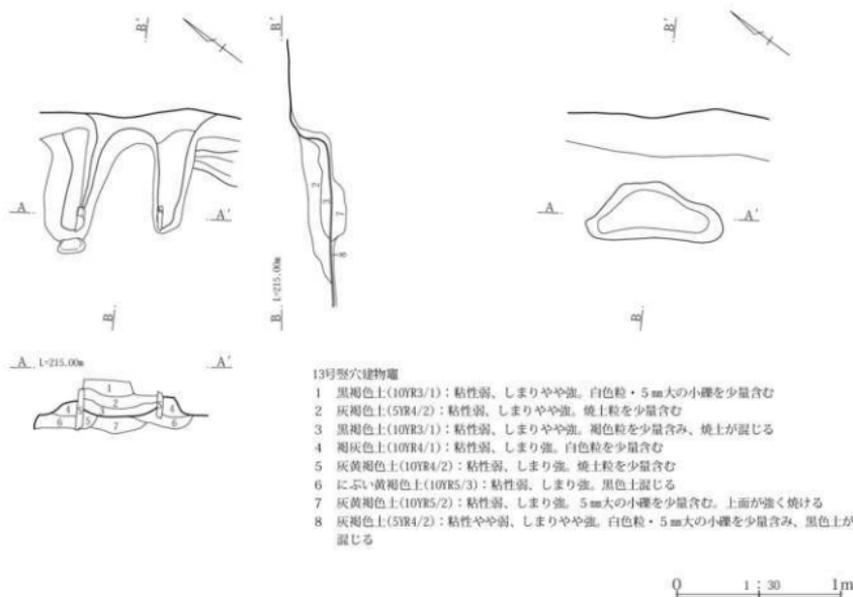
〔周溝2〕 長さ：2.96m 幅：0.20m

深さ：0.06m

埋土 粘性の弱い黒褐色土等で埋没する。粘性弱い黒褐



第35図 13号堅穴建物



第36図 13号竪穴建物竈

色土で三角堆積様の状態を成す。

構造 〔竪穴〕竪穴は縦長の隅丸長方形のプランを呈し、主軸の向きはN28°Wを向く。

〔掘り方・床〕西半が30cm程深く掘削され、東半が掘削のない部分もある浅い掘り込みを見せる、凹凸のある掘り方を有し、これを粘性の弱い砂礫の混在するにぶい黄褐色土や小礫を含む灰黄褐色砂質土、上位に粘性のやや弱い灰褐色土で埋め戻して床面を造る。竈部分と北西隅部を除く東・南・西壁際(周溝1)及び東～北壁(周溝2)に周溝が廻る。

〔竈〕竈は東壁中央に設けられ、その方位はN60°Wを向く。壁から0.35m付近に嚮形のプランを呈する掘り方を有し、これを灰黄褐色土で埋め戻して燃焼部を造るが燃焼面は焼土化する。

掘り方の左右両側に板状の礫を立てて袖とし、その両側に粘性弱く黒色土含むにぶい黄褐色土と、その上に、粘性の弱い褐灰色土を積んでしっかりした袖を造る。な

お天井部の構造は確認できなかった。

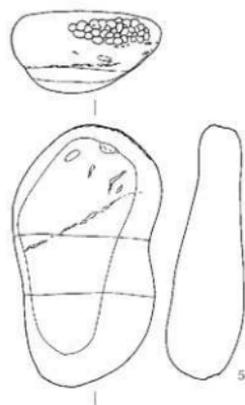
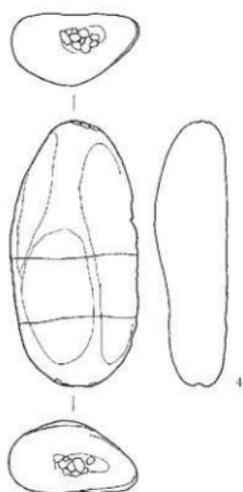
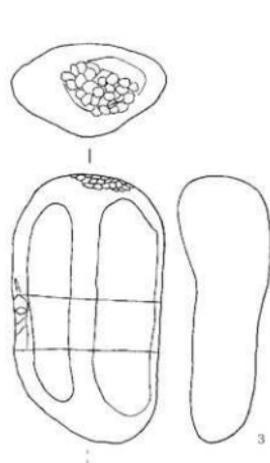
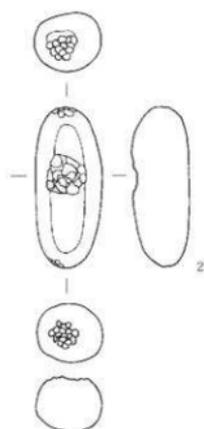
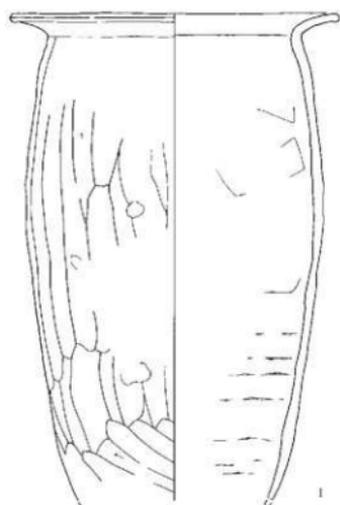
〔柱穴〕柱穴は確認されなかった。

〔貯蔵穴〕貯蔵穴も確認されなかった。

〔棟〕棟方向は、竪穴の形状から東西を向くものと想定される。尚、この方向は竈の上を通るため、入り口は竈の反対側(西壁中央)にあるものと思量される。柱間の測定値の比較では、北東～南西列、北西～南東列のいずれになるか判断はつかなかったが、竪穴の直交する径の比較から、北西～南東方向に棟をおくものと判断される。

遺物 本建物からは甕(1)と38片の土師器、1片の須恵器、および凹石から転用の敲石(2)が出土したほか、敲石から転用のこも編み石(3～5)やこも編み石(6～8)の出土が見られた。またこも編み石は北壁際中程を中心とした分布が見られた。

所見 本建物の時期は、出土遺物から推して7世紀前半の所産と判断される。



0 1 : 3 10cm

第37図 13号竪穴建物出土遺物

14号竪穴建物(第38・39図、PL. 6)

概要 本建物は竪付の竪穴建物である。

位置 本建物はA区南部北端に在り、171～174-137～139グリッドに位置する。

重複 本建物は北東隅で15号竪穴建物と接するが、新旧関係を特定することはできなかった。

規模 [竪穴]前後：2.87m 左右：2.21m

深さ：0.15m 床面積：4.99㎡

[竪] 長さ：0.51m 幅：0.67m

燃焼部 長さ：0.66m 幅：0.30m

深さ：0.04m

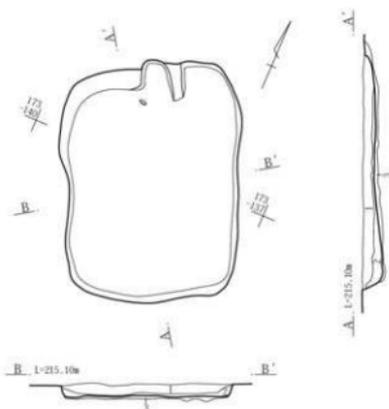
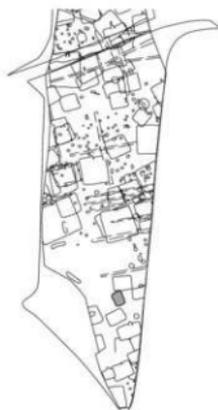
掘り方 長さ：0.87m 幅：0.53m

深さ：0.28m

埋土 粘性やや弱い黒褐色土等で埋没する。粘性やや弱いにふい黄褐色土で所謂三角堆積を形成する。

構造 [竪穴]竪穴は縦長の隅丸長方形のプランを呈し、主軸の向きはN23°Wを向く。

[掘り方・床]本建物は竪手前に径0.40×0.38m、深さ0.31mを測る楕円形プランを呈する柱穴状の掘り込み、竪穴南西隅寄りに、北に径0.24×0.17m、高さ0.15m、南に

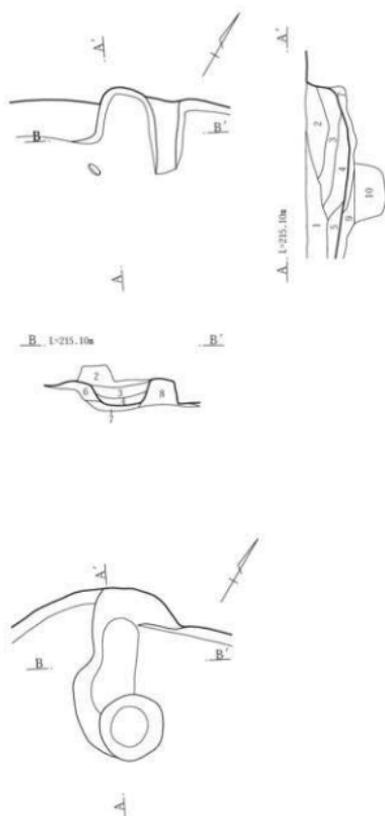


14号竪穴建物A-A・B-B'

- 1 黒褐色土(10YR3/2)：粘性やや弱、しまりやや強。5mm大の小礫を少量、焼土粒を微量含む
- 2 にふい黄褐色土(10YR5/3)：粘性やや弱、しまりやや強。黒色土粒・5mm大の小礫を少量含む
- 3 にふい黄褐色土(10YR5/3)：粘性弱、しまりやや強。白色土粒・5mm大の小礫を少量含む

0 1 : 60 2m

第38図 14号竪穴建物



14号竪穴建物圖

- 1 黒褐色土(10YR3/2):粘性やや弱、しまりやや強。5mm大の小礫を少量、焼土粒を微量含む
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2):粘性中程度、しまりやや強。白色粒・5mm大の小礫を少量含む
- 3 黒褐色土(10YR3/1):粘性中程度、しまり中程度。焼土粒・5mm大の小礫を少量含む
- 4 黒色土(10YR2/1):粘性中程度、しまり中程度。褐色土粒を少量含む
- 5 にぶい黄褐色土(10YR5/3):粘性やや弱、しまりやや強。黒色土粒・5mm大の小礫を少量含む
- 6 褐灰色土(10YR4/1):粘性中程度、しまり強。白色粒・5mm大の小礫を中量含む
- 7 黒褐色土(10YR3/1):粘性弱、しまりやや強。焼土粒・5mm大の小礫を少量含む
- 8 黒褐色土(10YR3/1):粘性弱、しまり強。白色粒・5mm大の小礫を中量含む
- 9 にぶい黄褐色土(10YR5/3):粘性弱、しまりやや強。白色粒・5mm大の小礫を少量含む
- 10 黒褐色土(10YR3/2):粘性弱、しまりやや強。砂と小礫が混在

第39図 14号竪穴建物圖

径0.34×0.30m、深さ0.24mを測る共に楕円形プランを呈する柱穴状の掘り込みが連なり、全体的には0.07m以下の深さを測る掘り方を有し、これを粘性の弱いにぶい黄褐色土で埋め戻して床面を造る。

[竈]竈は北壁の中程に設けられ、その方位はN28°Wを向く。浅い掘り込みの竈に長い長円形プランを呈する掘り方を有し、これを粘性の弱い黒褐色土で埋め戻して燃焼面を造る。

左側に小礫を含み粘性のある褐灰色土、右側に小礫を含み粘性の弱い黒褐色土を積んで袖を造るが、天井部の

構造は確認できなかった。

[柱穴]床柱穴は確認されなかった。

[貯蔵穴]貯蔵穴は確認されなかった。

[棟]竪穴の形態から棟は、凡そ南北方向を向くものと思量されるが、上屋構造は明らかにできなかった。

遺物 本建物からは僅か61片の土師器片と1片の須恵器が出土したに過ぎず、これらに図示すべきものは見られなかった。

所見 出土遺物も少なく、本建物の時期は特定できなかった。

15号竪穴建物(第40～42図、PL. 7・86)

概要 本建物は竪付の竪穴建物である。

位置 本建物はA区中部南端に在り、174～177-135～139グリッドに位置する。

重複 本建物は南辺で14号竪穴建物と接するが、新旧関係を特定することはできなかった。

規模 [竪穴]前後：2.87m 左右：3.79m

深さ：0.22m 床面積：9.54㎡

[竪] 長さ：0.65m 幅：0.72m

左袖 長さ：0.80m 幅：0.35m 高さ：0.17m

右袖 長さ：0.76m 幅：0.24m 高さ：0.13m

燃焼部 長さ：0.57m 幅：0.35m

深さ：0.02m

掘り方 長さ：0.73m 幅：0.68m

深さ：0.10m

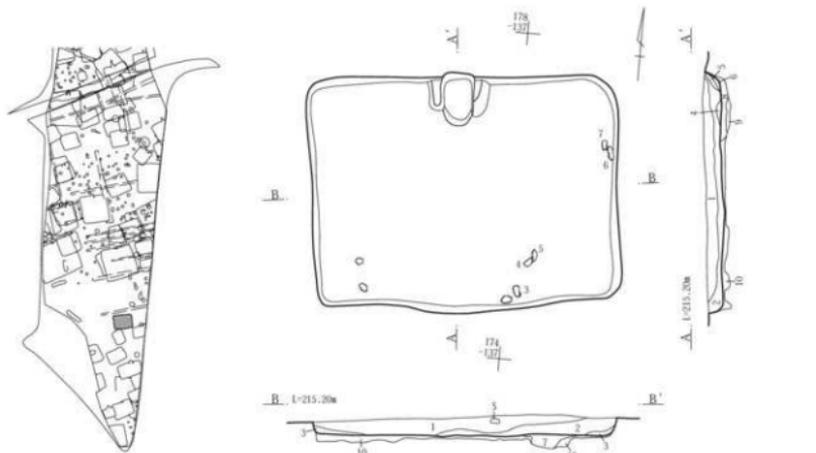
[貯蔵穴] 平面規模：0.70×0.68m 深さ：0.65m

埋土 粘性やや弱い黒褐色砂質土や黒褐色土で埋没する。所謂三角堆積は粘性のやや弱い灰黄褐色土で形成される。

構造 [竪穴]竪穴は横長の隅丸長方形のプランを呈し、主軸の向きはN85°Eを向く。

[掘り方・床]本建物は東半部中程に径0.72×0.56m 深さ0.13mを測る隅丸方形プランの土坑状の掘り込み、南壁際中央に径0.39×0.31m 深さ0.17mを測る楕円形プランの柱状掘り込みを伴う掘り方を有し、これを粘性を有する褐色シルト質土で埋め戻して床面を造る。

[竪]竪は北壁中央東に設けられ、その方位はN6°Wを呈する。北壁にやや掛かるように縦長の楕円形を呈する

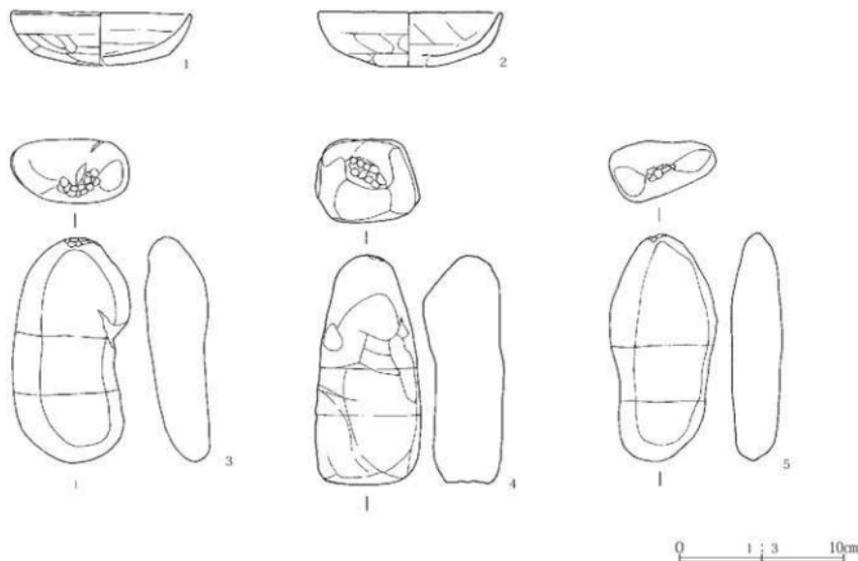


15号竪穴建物A-A・B-B'

- 1 黒褐色砂質土(10YR3/1)：粘性やや弱、しまりやや強。白色粒・5mm大の小礫を少量含む
- 2 黒褐色土(10YR3/2)：粘性やや弱、しまりやや強。白色粒・5mm大の小礫を少量含む
- 3 灰黄褐色土(10YR4/2)：粘性やや弱、しまり強。黒色土混じる
- 4 黒褐色土(10YR3/1)：粘性やや弱、しまりやや強。白色粒を少量含む、焼土ブロックが混じる
- 5 にぶい黄褐色土(10YR5/3)：粘性やや弱、しまりやや強。暗色土混じる
- 6 暗褐色土(7.5YR3/3)：粘性やや弱、しまりやや強。炭化物・焼土粒を多量に含む
- 7 褐灰色土(10YR4/1)：粘性やや弱、しまり強。5mm大の小礫を少量含む
- 8 褐灰色土(10YR4/1)：粘性弱、しまり強。白色粒・焼土ブロックを中量含む
- 9 にぶい赤褐色土(5YR4/3)：焼土主体。粘性弱、しまり強
- 10 褐色シルト質土(7.5YR4/3)：粘性中程度。しまりやや強。5mm大の小礫を中量含む

0 1:60 2m

第40図 15号竪穴建物(1)



第42図 15号竪穴建物出土遺物

掘り方を有し、これを粘性の弱く焼土ブロックを含む褐色土、焼土主体にふい赤褐色土、粘性ある褐色シルト質土で埋め戻して燃焼面を造る。燃焼部は北半が隅丸長方形、南半が楕円形を呈する縦長の浅いものである。

袖は左右共に粘性が弱く、炭化物和小礫を少量含む灰黄褐色土を盛り上げて作られているが、天井部の構造は確認できなかった。

〔柱穴〕柱穴は確認できなかった。

〔貯蔵穴〕貯蔵穴は床面では確認できなかったが、掘り方面の竈右側、北東隅部に掘削され、粘性のある褐色土と黒褐色土、灰黄褐色砂質土で埋められている、楕円形プランを呈する柱穴状の床下土坑が、これに当たるものと想定される。

〔棟〕棟方向は、竪穴の形態から東西方向を向くものと想定されるが、上屋構造は把握されなかった。

遺物 本建物からは杯(1・2)と38片の土師器、敲石から転用のこも編み石(3～5)とこも編み石(6・7)の出土が見られた。またこも編み石の分布は東壁際北寄りと南部に見られた。

所見 本建物の時期は、出土遺物から推して7世紀の所産と判断される。

16号竪穴建物(第43図、PL. 7・87)

概要 本建物は東部が調査区外に出るため全容は詳らかにできなかった。また本建物は竪穴建物と想定しているが、竪穴状遺構の可能性も有する。

位置 本建物はA区南部の北東隅に在り、172～175-132～135グリッドに位置する。

重複 本建物は北部で3号土坑と重複するが、本建物の方が古い。

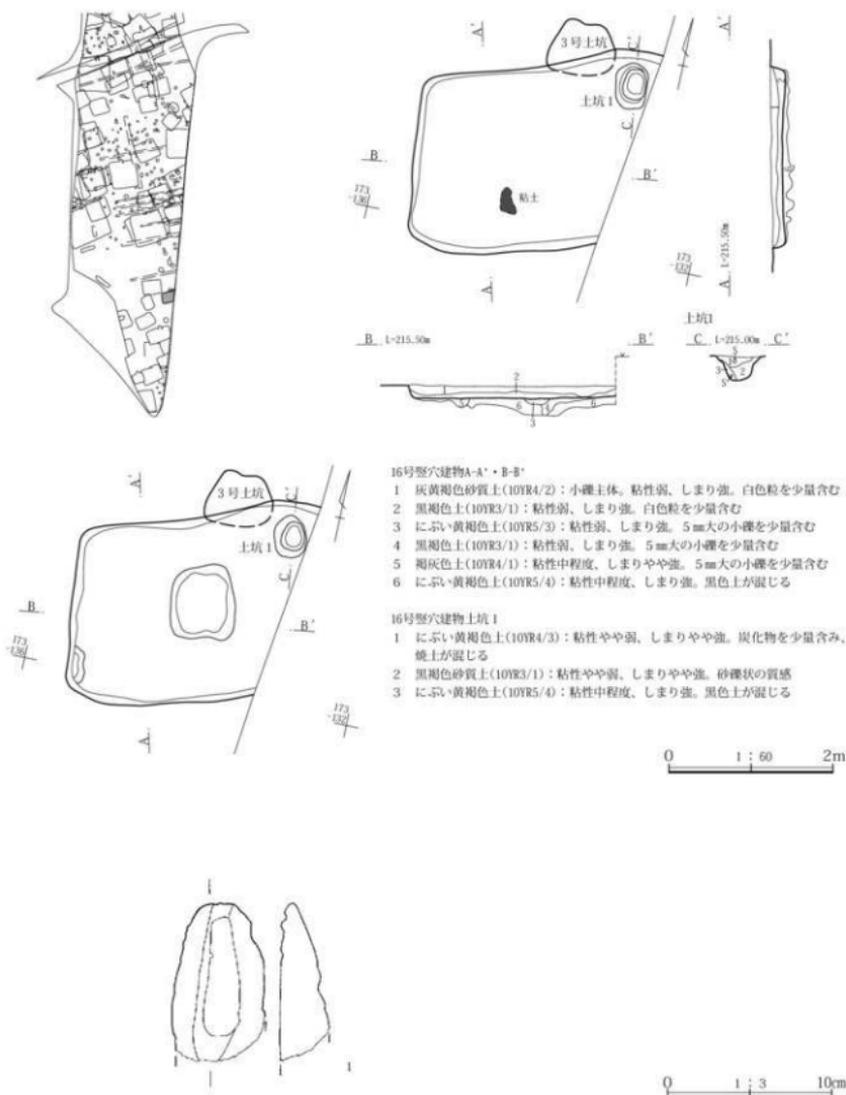
規模 〔竪穴〕前後：2.30m 左右：(2.80)m

深さ：0.18m 床面積：(5.30)㎡

〔土坑1〕 平面規模：0.55×0.39m 深さ：0.34m

埋土 灰黄褐色砂質土と粘性の弱い黒褐色土で埋没する。所謂三角堆積は確認できなかった。

構造 〔竪穴〕竪穴は東部が調査区外に出るため明瞭ではないが、横長の隅丸長方形のプランを呈すると想定され、その主軸の向きはN78°Eを向く。



第43図 16号竪穴建物と出土遺物

〔掘り方・床〕本建物は中部に径0.94×0.81m、深さ0.12mを測る隅丸長方形プランを呈する掘り込みを伴う掘り方を有し、これを粘性のあるにぶい黄褐色土等で埋め戻して床面を造る。

〔竈〕竈は確認されなかった。

〔柱穴〕柱穴は確認されなかった。

〔貯蔵穴〕貯蔵穴(土坑)は隅丸長方形のプランを呈し、竪穴の北東隅部と思量される位置に掘削されている。箱形の掘り込みを呈し、上位壁面がやや開く。

〔棟〕棟方向は竪穴建物から推して、東西方向を向くものと判断される。上屋の構造は把握できなかった。

遺物 土師器片13片と砥石(1)が出土した。なお、竪穴西南部に粘土の遺存が見られた。

所見 本建物の時期は、出土遺物から推して古墳時代後期の所産と判断される。

17号竪穴建物(第44～51図、PL. 8・9・87～90)

概要 本建物は竈付の竪穴建物であり、焼土や炭化物、灰の依存状態から所謂焼失家屋と判断される。竈先端が攪乱により壊されている。

位置 本建物はA区中部中程に在り、184～191-134～142グリッドに位置する。

重複 本建物は西部で18号竪穴建物と重複するが、本建物の方が新しい。

規模 〔竪穴〕前後：6.49m 左右：6.64m
深さ：0.31m 床面積：35.27㎡

〔竈〕 長さ：(1.03)m 幅：0.96m
左袖 長さ：0.35m 幅：0.40m 高さ：0.26m
右袖 長さ：0.48m 幅：0.30m 高さ：0.23m
燃焼部 長さ：0.74m 幅：0.46m
深さ：0.05m
煙道 長さ：(0.06)m 幅：0.30m
深さ：0.23m
掘り方 長さ：0.28m 幅：1.10m
深さ：0.06m

〔貯蔵穴〕 平面規模：0.84×0.99m 深さ：0.29m

〔P1〕 平面規模：0.39×0.35m 深さ：0.27m

〔P2〕 平面規模：0.24×0.25m 深さ：0.40m

〔P3〕 平面規模：0.24×0.34m 深さ：0.39m

〔P4〕 平面規模：0.19×0.23m 深さ：0.32m

埋土 粘性弱い褐灰色土や粘性弱く炭化物を混入する黒褐色土で埋没する。粘性やや弱い黒褐色土等で所謂三角堆積を形成する。

構造 〔竪穴〕竪穴は横長の隅丸長方形のプランを呈し、主軸の向きはN74° Eを向く。

〔掘り方・床〕本建物は4カ所の隅部近くに径0.64～1.48m、深さ0.12～0.47mを測り、一部重複する7カ所の掘り込みを伴う掘り方を有し、これを小礫を含む褐灰色砂質土で埋め戻して床面を造っている。

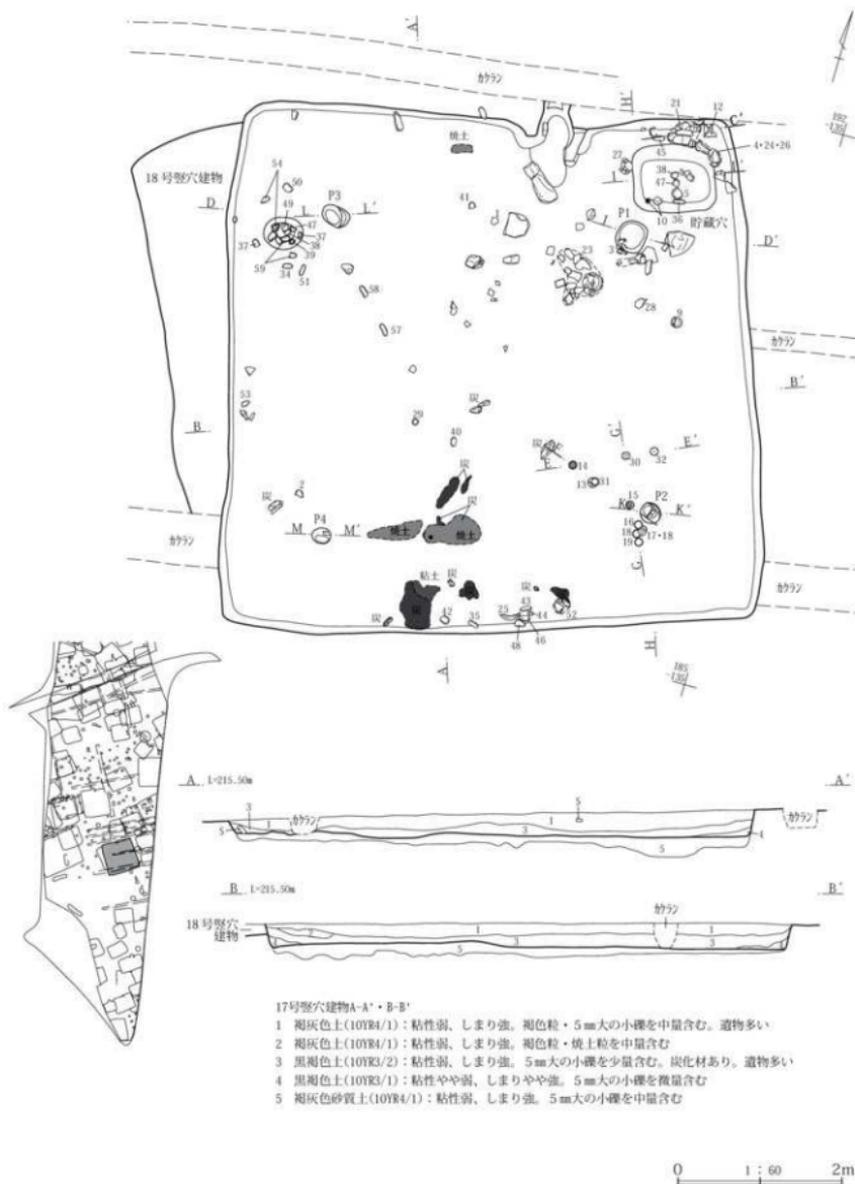
〔竈〕竈は北壁中央やや東寄りに設けられ、その方位はN14° Wを向く。壁際に横長の半楕円プランを呈する浅い掘り方を有し、これを部分的に焼土や小礫を多量に含み、或いは焼土との互層を成す粘性の弱いにぶい黄褐色土・褐灰色土・黒褐色土で埋め戻して燃焼面を作り、燃焼面には赤褐色を呈する焼土化し硬化した土壌が形成されている。

左袖は記録を残せなかったが、右袖には燃焼部に面して板状の袖石が立てられ、その外側に焼土を大量に含む粘性の弱いにぶい赤褐色土を積んで袖を形成している。〔柱穴〕床面にはP1(北東)・P2(南東)・P3(北西)・P4(南西)の4基の柱穴が確認されているが、P2・P3・P4の径は小さい。一方、掘り方面のP1の箇所には楕円形プランを呈する径0.74×0.65m、床面からの深さ0.48m、P2の箇所には隅丸の逆五角形プランを呈する径0.72×0.63m、床面からの深さ0.53m、P3の箇所には隅丸の凸形プランを呈する径0.64×0.62m、床面からの深さ0.50m、P4の箇所には縦長の逆隅丸五角形を呈する径0.88×1.07mの掘り込みがあり、これらは建物建築時の柱穴と思量される。従って床面に見られた柱穴、特にP2・P3・P4は柱痕と判断される。尚、その太さから判断に迷うが、床面で確認されたP1も柱痕の可能性が考慮される。

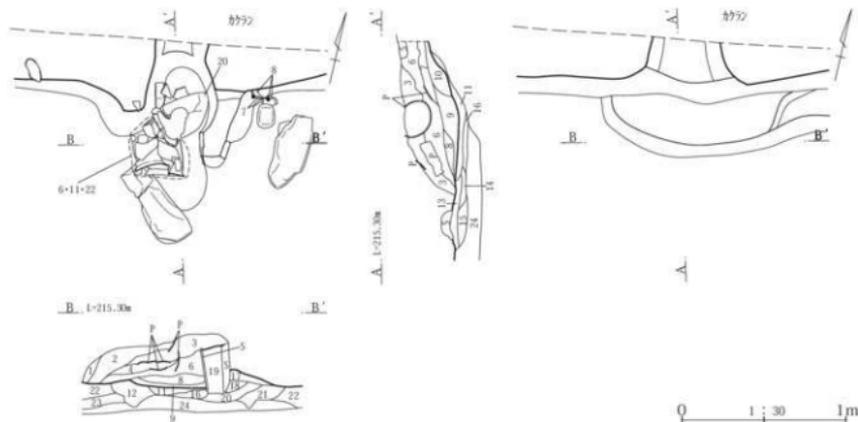
柱間は、P1・P2間は3.40m、P3・P4間は3.97mを測り、P1・P3間は3.64m、P2・P4間は4.00mを測る。〔貯蔵穴〕貯蔵穴は竈の右側、北東隅近くに掘削されている。横長の隅丸長方形のプランを呈し、箱形の掘削形態を示す。

〔棟〕棟方向は、竪穴の形状から東西方向を向くと想定されるが、上屋構造は確認できなかった。

遺物 本建物からは土師器の杯(1～11)・高杯(12～



第44図 17号整穴建物(1)



17号竪穴建物遺

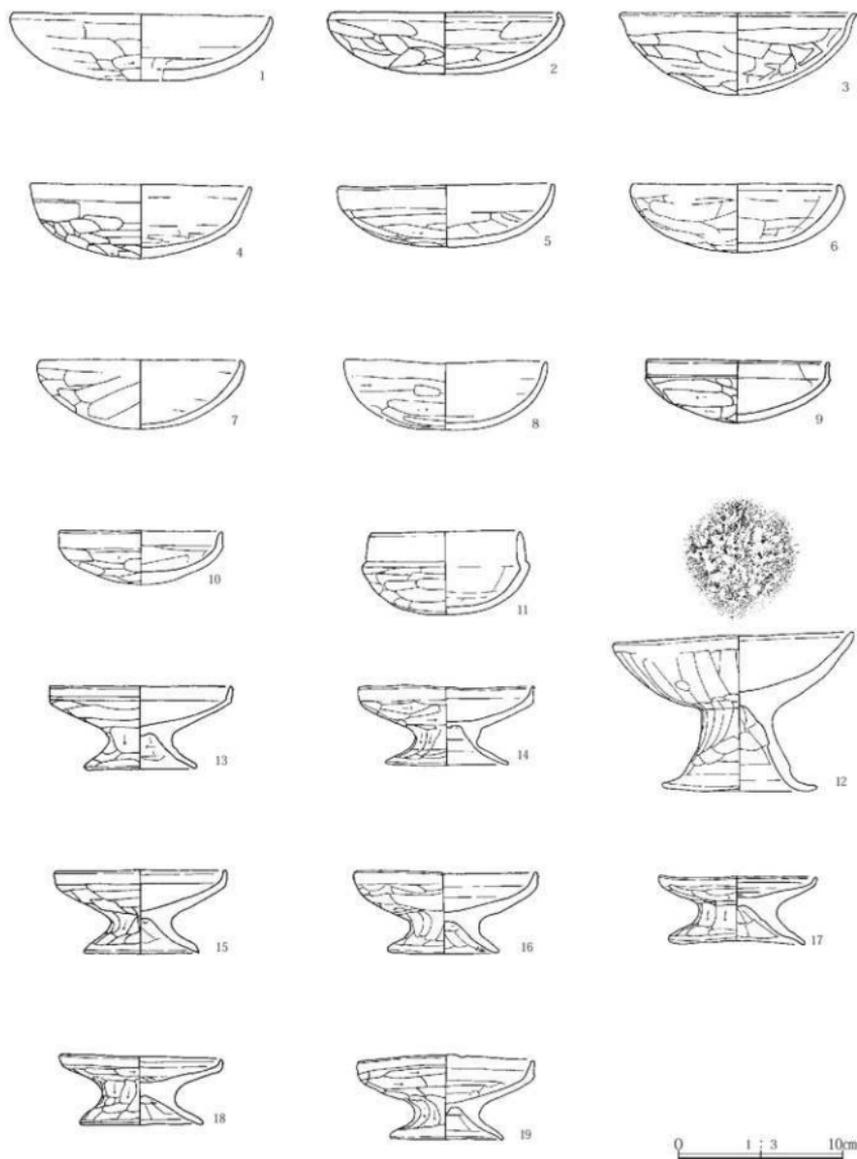
- 1 褐灰色土(10YR4/1)：粘性中程度、しまりやや強。白色粒を少量含む
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2)：粘性やや弱、しまり強。白色粒・5mm大の小礫を少量含む
- 3 灰黄褐色土(10YR4/2)：粘性やや弱、しまり強。褐色粒・焼土粒を少量含む
- 4 黒褐色土(10YR3/1)：粘性中程度、しまりやや強。炭化物を中量含む
- 5 赤褐色土(2.5YR4/6)：焼土主体。粘性弱、しまり強。炭熱渣
- 6 にふい赤褐色土(5YR4/3)：焼土主体。粘性中程度、しまりやや強。黒色土混じる
- 7 黒褐色土(10YR3/1)：粘性やや弱、しまり強。焼土ブロック・炭化物を多量に含む
- 8 黒褐色土(10YR3/1)：粘性やや弱、しまりやや強。焼土粒を少量含む
- 9 にふい赤褐色土(5YR4/3)：焼土主体。粘性やや弱、しまりやや強。焼土粒・5mm大の小礫を少量含む
- 10 褐灰色土(10YR4/1)：粘性やや弱、しまり強。焼土粒を中量、白色粒を微量含む
- 11 にふい赤褐色土(5YR5/4)：硬化した焼土主体。粘性弱、しまり強
- 12 にふい黄褐色土(10YR5/3)：粘性弱、しまり強。焼土粒を多量に含む
- 13 褐灰色土(10YR4/1)：焼土と褐灰色土の互層。粘性弱、しまり強
- 14 褐灰色土(10YR4/1)：粘性弱、しまり強。白色粒を少量含む
- 15 褐灰色土(10YR4/1)：粘性弱、しまり強。焼土ブロックを多量に含む
- 16 褐灰色土(10YR4/1)：粘性弱、しまり強。焼土粒を中量、1cm大の小礫を少量含む
- 17 にふい黄褐色土(10YR5/3)：粘性やや弱、しまり強。白色粒・5mm大の小礫を少量含む
- 18 黒褐色土(10YR3/1)：粘性弱、しまり強。褐色土が混じる
- 19 にふい赤褐色土(5YR5/3)：粘性弱、しまり強。白色粒・5mm大の小礫を少量含む、焼土が多量に混じる
- 20 灰黄褐色土(10YR5/2)：粘性弱、しまり強。白色粒を微量含む
- 21 黒褐色土(10YR3/2)：粘性弱、しまり強。白色粒・5mm大の小礫を少量含む
- 22 黒褐色土(10YR3/1)：粘性やや弱、しまり強。白色粒・5mm大の小礫を少量含む
- 23 灰黄褐色砂質土(10YR4/2)：粘性弱、しまり強。5mm大の小礫を中量含む
- 24 褐灰色砂質土(10YR4/1)：粘性弱、しまり強。5mm大の小礫を中量含む

第46図 17号竪穴建物遺

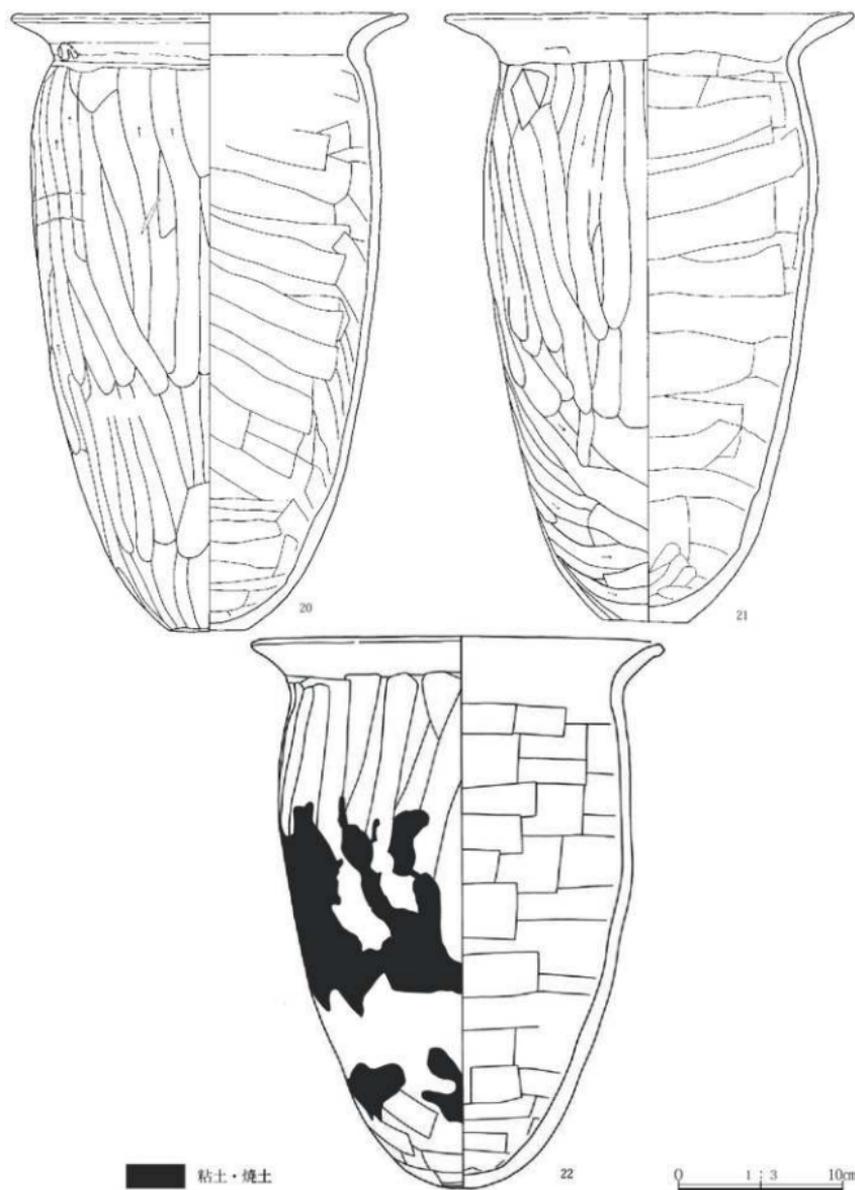
19・甕(20～27)・小型甕(28)・ミニチュアの杯(29)、須恵器の蓋(30～32)、土師器片735片、須恵器片7片、灰軸陶器片3片が出土した。また砥石(33)、敲石からの転用品(34～41)、磨石からの転用品(42～44)、凹石からの転用品(45)を含むこもろみ石(46～59)といった多

くの遺物が出土した。このほか竪穴南壁近くのやや西寄りに、焼土や炭化物、粘土の分布も見られた。

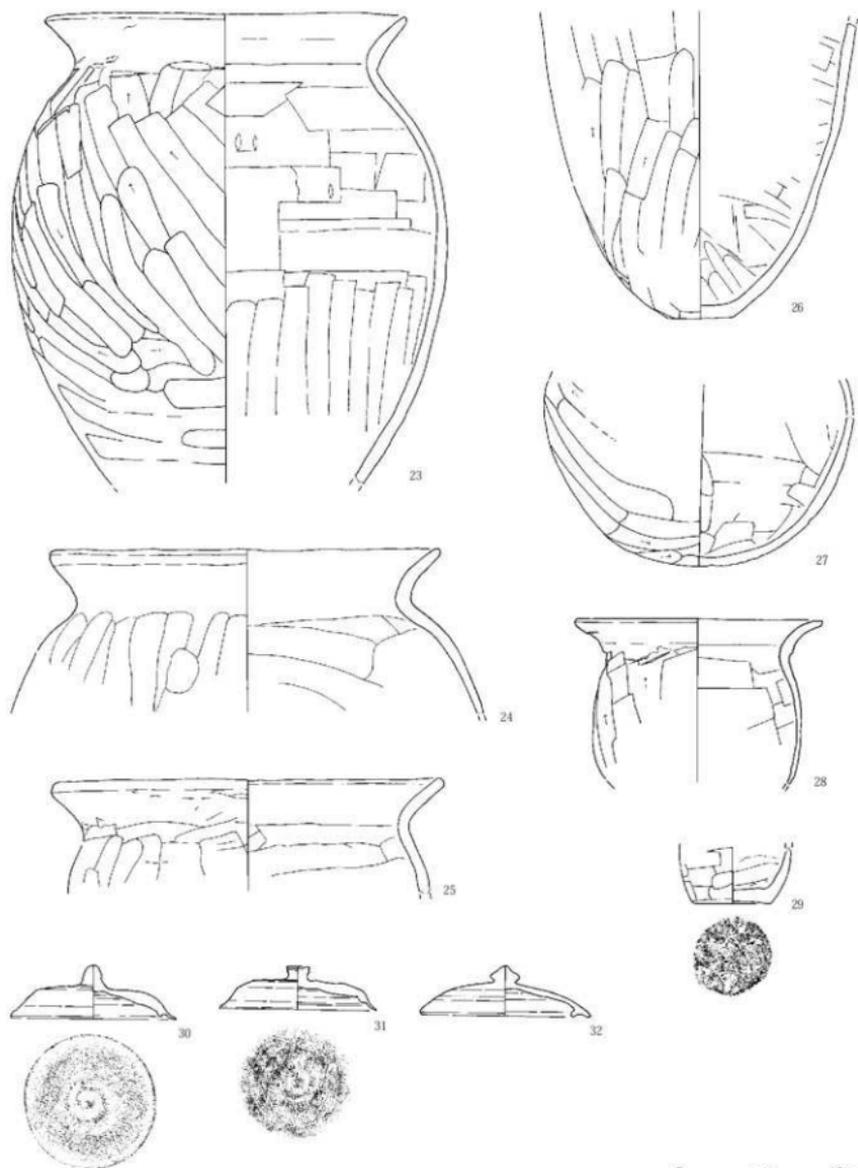
所見 本建物の時期は、出土遺物から推して7世紀第3四半期の所産と判断される。



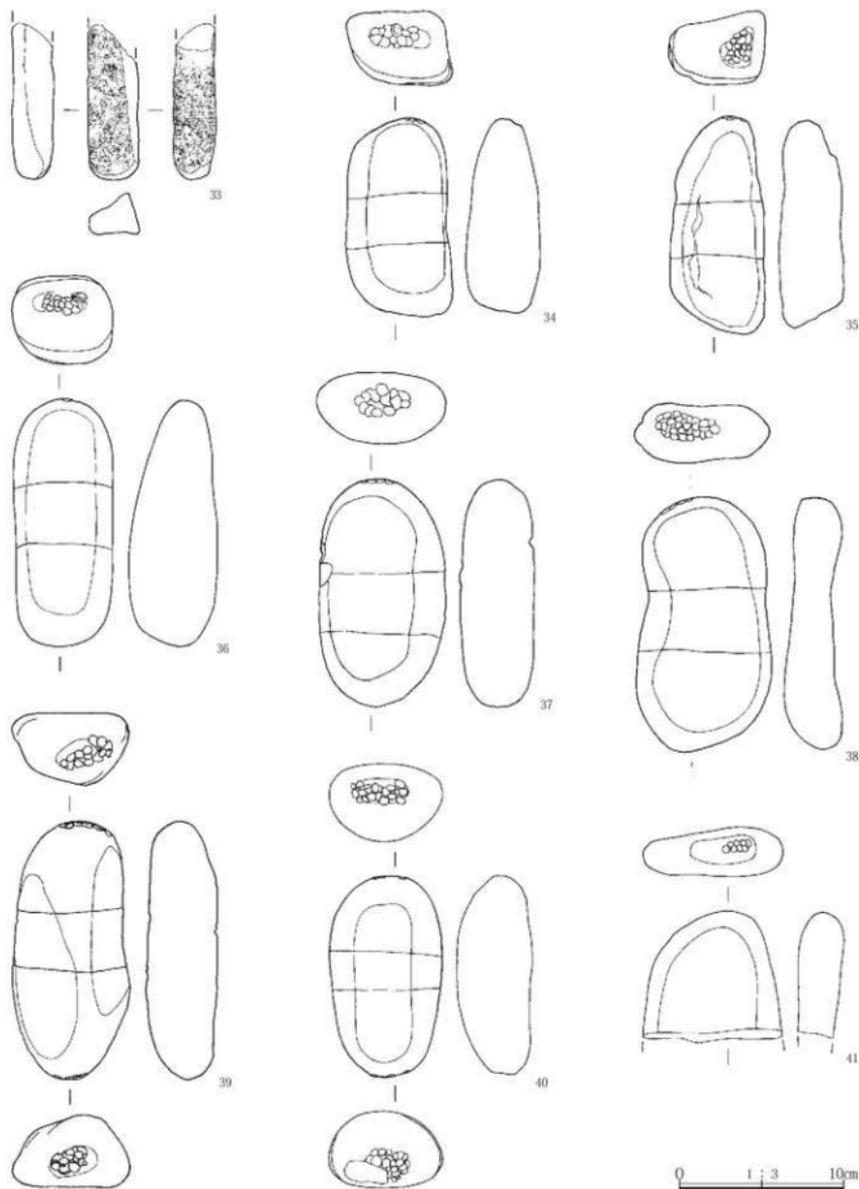
第47图 17号竈穴建物出土遺物(1)



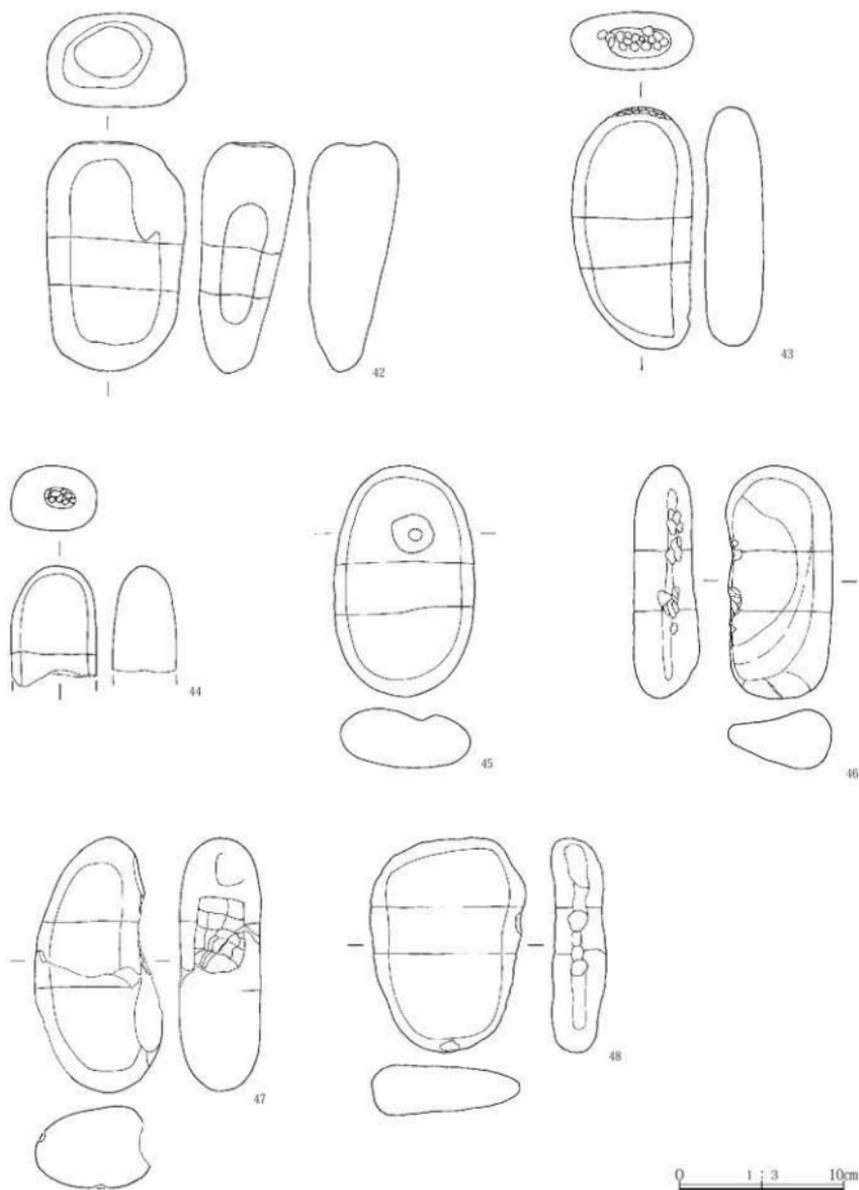
第48図 17号竪穴建物出土遺物(2)



第49図 17号竪穴建物出土遺物(3)



第50図 17号竪穴建物出土遺物(4)



第51图 17号竈穴建物出土遺物(5)

18号竪穴建物(第52図、PL.10)

概要 本建物は東側で17号竪穴建物に過半が切られているため、西部北寄りが確認されるに過ぎない。また本建物は竪穴建物と想定しているが、竪穴状遺構の可能性も有する。

位置 本建物はA区中部中程に在り、185～190-141～143グリッドに位置する。

重複 本建物は17号竪穴建物と重複するが、これに切られている。

規模 〔竪穴〕前後：(4.58)m 左右：(1.32)m

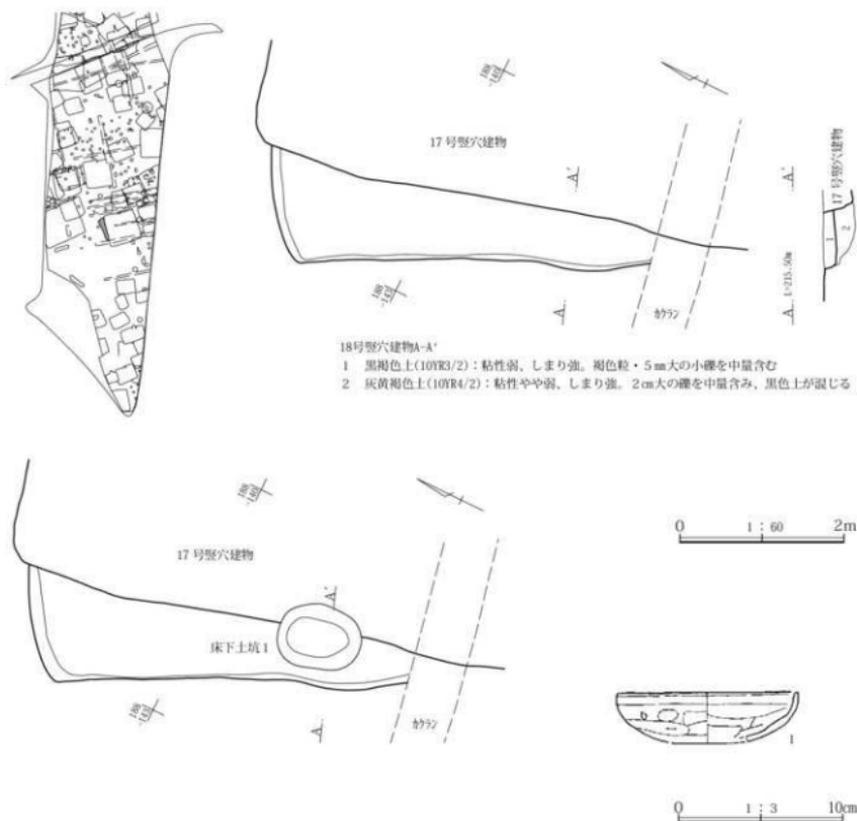
深さ：0.18m 床面積：(3.58)㎡

埋土 本建物は小礫を含み粘性の弱い黒褐色土で埋没する所謂三角堆積の形成は見られなかった。

構造 〔竪穴〕竪穴は一部のみを調査したに過ぎないため、全容は不明であるが、隅丸方形様のプランを呈するものと想定される。南西壁方向はN26°Wを向く。

〔掘り方・床〕本建物は掘り方を有し、これを小礫と黒色土を含む、粘性のやや弱い灰黄褐色土で埋め戻して床面を造っている。

〔竈〕竈は確認されなかった。



第52図 18号竪穴建物と出土遺物

〔柱穴〕柱穴は確認されなかった。

〔貯蔵穴〕貯蔵穴は確認されなかった。

〔棟〕棟方向は特定できなかった。また上屋構造も確認できなかった。

遺物 本建物からは土師器杯(1)と土師器片171片、灰釉陶器片1片が出土している。

所見 本建物は、出土遺物と17号竪穴建物との重複から推して7世紀第3四半期以前の所産と判断される。

19号竪穴建物(第53～56図、PL.10・90)

概要 本建物は竪付の竪穴建物である。

位置 本建物はA区中部北寄りに在り、192～195-136～140グリッドに位置する。

重複 本建物は20・21号竪穴建物と重複するがいずれに対しても本建物の方が新しい。

規模 〔竪穴〕前後：2.97m 左右：3.66m

深さ：0.24m 床面積：8.68㎡

〔竪〕長さ：0.90m 幅：0.54m

右袖 長さ：0.25m 幅：0.12m 高さ：0.24m

燃焼部 長さ：0.61m 幅：0.40m

深さ：0.04m

煙道 長さ：0.36m 幅：0.13m 深さ：0.27m

掘り方 長さ：(1.01)m 幅：0.71m

深さ：0.07m

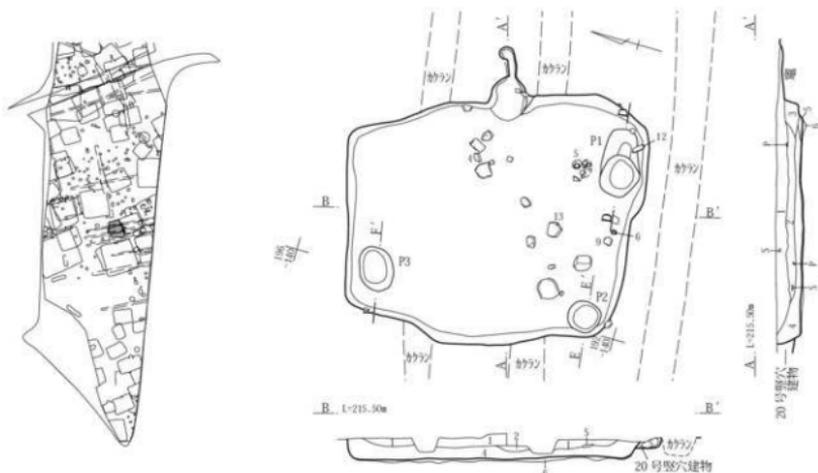
〔土坑〕 平面規模：0.72×0.56m 深さ：0.24m

〔P1〕 平面規模：0.87×0.48m 深さ：0.37m

〔P2〕 平面規模：0.37×0.39m 深さ：0.31m

〔P3〕 平面規模：0.56×0.41m 深さ：0.32m

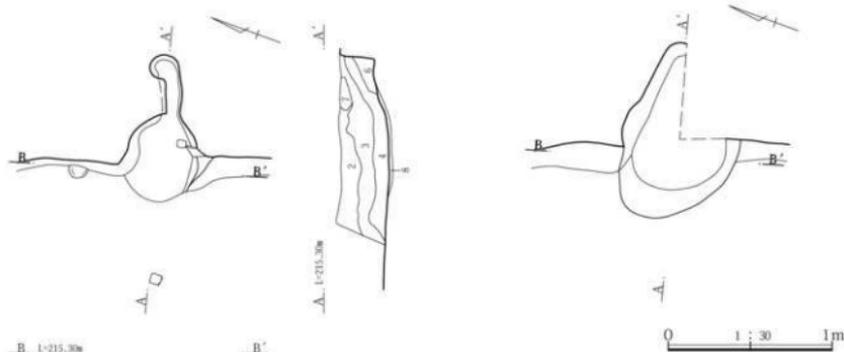
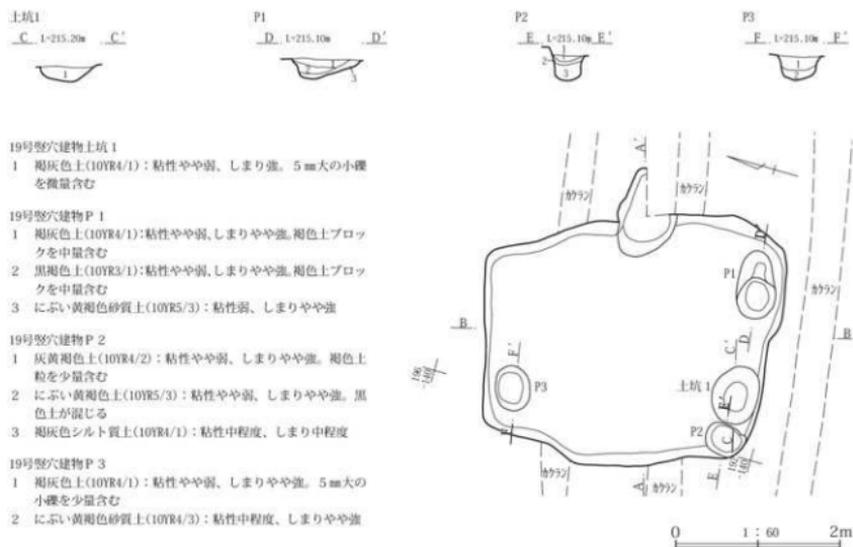
埋土 粘性やや弱く上位で小礫含む褐色土、粘性やや弱い黒褐色土で埋没する。所謂三角堆積を確認できな



19号竪穴建物A-A'・B-B'

- 1 褐色土(10YR4/1)：粘性やや弱、しまりやや強。褐色粒・白色粒・5mm大の小礫を中量含む
- 2 褐色土(10YR4/1)：粘性やや弱、しまりやや強。褐色粒・白色粒・5mm大の小礫を少量含む
- 3 灰黄褐色土(10YR4/2)：粘性やや弱、しまりやや強。5mm大の小礫を少量含む
- 4 黒褐色土(10YR3/2)：粘性やや弱、しまり強。褐色上ブロック・5mm大の小礫を少量含む
- 5 灰黄褐色土(10YR4/2)：粘性やや弱、しまりやや強。灰化物を多量に含む
- 6 灰黄褐色土(10YR4/2)：粘性やや弱、しまり強。5mm大の小礫を中量含む

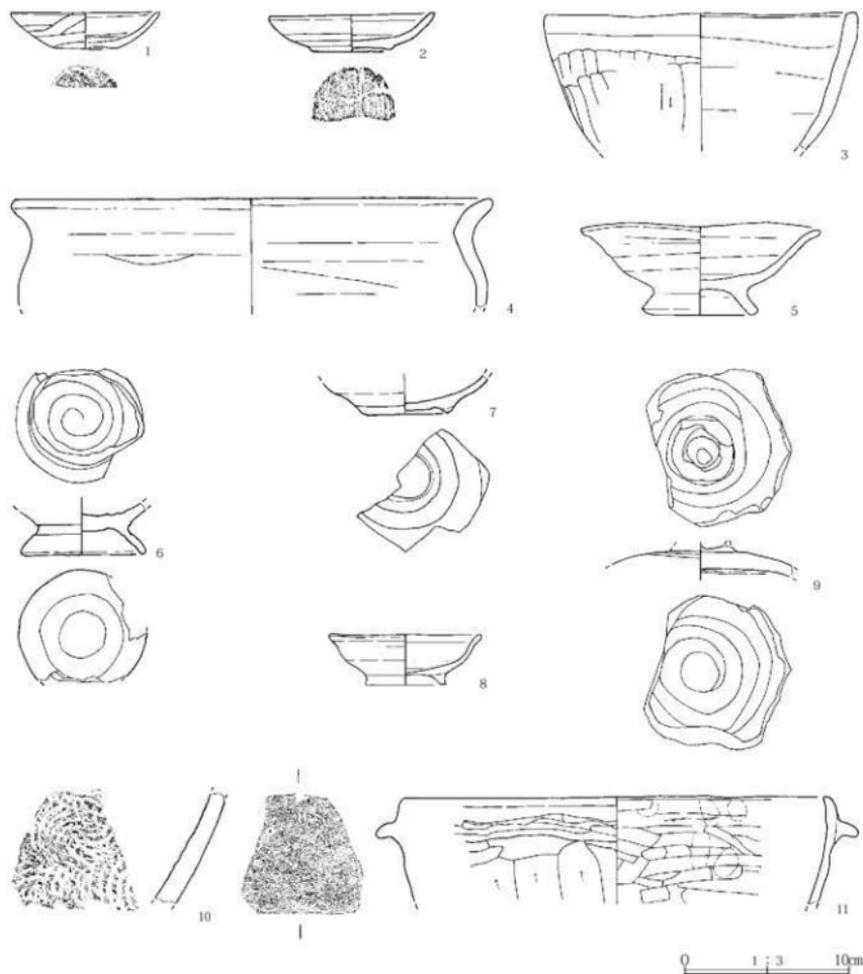
第53図 19号竪穴建物(1)



19号惣穴建物竈

- 1 黒褐色土(10YR3/2):粘性やや弱、しまりやや強。白色粒を少量含む
- 2 褐色土(10YR4/1):粘性弱、しまりやや強。白色粒・5mm大の小礫を少量含む
- 3 灰黄褐色土(10YR4/2):粘性弱、しまりやや強。焼土粒・5mm大の小礫を中量含む
- 4 灰黄褐色土(10YR4/2):粘性弱、しまりやや強。炭化物・焼土粒を中量含む
- 5 黒褐色土(10YR3/1):粘性やや弱、しまりやや強。炭化物・焼土ブロックを中量含む
- 6 褐色砂質土(10YR4/1):粘性弱、しまりやや強
- 7 にぶい赤褐色土(5YR5/4):粘性弱、しまり強。下面が強く焼ける。煙道天井部が残存したもの
- 8 褐色土(5YR4/2):焼土主体。粘性やや弱、しまり強
- 9 黒褐色土(10YR3/1):粘性弱、しまり強。焼土粒・5mm大の小礫を少量含む
- 10 褐色土(10YR4/1):粘性弱、しまり強。5mm大の小礫を少量含む

第54図 19号惣穴建物(2)



第55図 19号竪穴建物出土遺物(1)

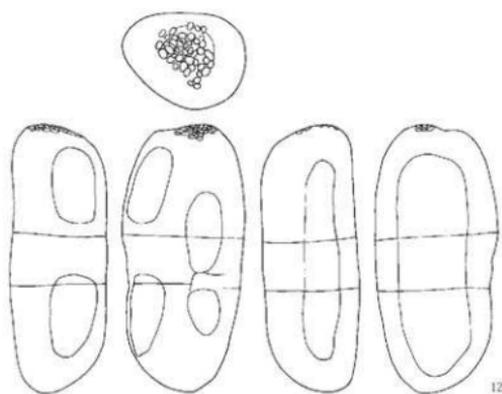
かった。

構造 [竪穴]竪穴は横長の隅丸長方形のプランを呈し、主軸の向きはN16°Wを向く。

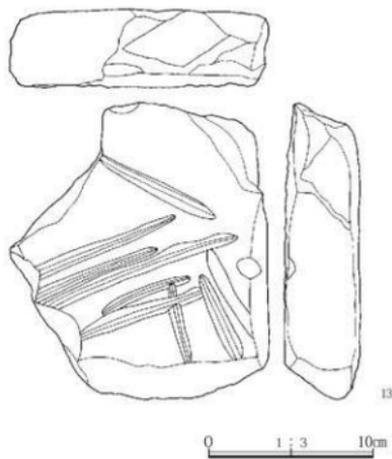
[掘り方・床]本建物は南壁際西寄りに楕円形プランを呈する土坑1が掘削され、全体としては深さ0.04mを測る浅い掘り方を有する。この掘り方を小礫を含む粘性のや

や弱く締まり強い灰黄褐色土で埋め戻して床面を造っている。

[竈]竈は東壁中央付近に設けられ、その方位はN73°Eを向く。浅い掘り方を有し、これを焼土主体の粘性のやや弱い灰褐色土で埋め戻して燃焼面を造る。燃焼部の左右の側壁には焼土化した箇所も確認された。



12



13

第56図 19号竪穴建物出土遺物(2)

右袖は残るが、左袖を確認することはできなかった。左袖は炭化物和焼土ブロックを含む粘性のやや弱い黒褐色土を盛り上げて造り、右袖は粘性の弱いに近い赤褐色土で造られるが、地山の掘り残しと見られる。天井部の構造は詳らかでない。

煙道は掘り抜きの構造で、天井部は右袖と同じ土壌で下面は焼土化が見られる。煙道は燃焼部最奥から18°の角度で斜め上方へ掘り上げているが、天井下面は水平で

ある。煙道先端の0.10m程はほぼ平坦であり、ここに楕円形プランを呈する幅0.18m、奥行き0.14m、深さ0.21mを測る柱穴状の掘り込みにより、煙道は垂直に上方へ上げられている。

〔柱穴〕床面には竪穴の南東隅部西寄りにP1、南西隅にP2、北西隅近くにはP3の3基の柱穴が掘削されている。P1は隅丸台形プラン、P2は隅丸長方形、P3は楕円形のプランを呈し、共に丸底の掘削形態を示す。尚、北東隅部付近に柱穴は確認できていない。

柱間は、P1・2間は1.78m、P2・3間は2.62mを測る。

〔貯蔵穴〕貯蔵穴は確認できなかったが、或いは東側拡張部分から、柱穴P1に連なって在った可能性が考えられる。

〔棟〕棟方向は、竪穴の形態から南北を向くものと思量されるが、上屋の構造は確認できなかった。

遺物 本建物からは杯(1)・皿(2)・鉢(3)・甕(4)及び264片の破片を含む土師器、高台付椀(5~7)・小型高台付椀(8)・蓋(9)・甕(10)・羽釜(11)及び9片の破片を含む須恵器と灰釉陶器片1片、敲石・磨石から転用のこも編み石(12)、矢柄研磨器(13)の出土が見られた。尚、本建物に属するか20号竪穴建物に属するか判断のつかなかった土師器片1片が出土している。

所見 本建物の時期は、出土遺物から推して10世紀後半の所産と判断される。

20号竪穴建物(第57・58図、PL.11・90)

概要 本建物は竈付の竪穴建物である。建物の北部の過半は19号竪穴建物と重複して失われ、南部は攪乱により切られているため全容を把握することはできなかった。

位置 本建物はA区中部北寄りに在り、191～194-136～140グリッドに位置する。

重複 本建物は19・21号竪穴建物と重複するが、本建物は19号建物より古く、21号建物より新しい。

規模 [竪穴]前後:3.50m 左右:(2.91)m

深さ:0.21m 床面積:(8.12)㎡

[竈] 長さ:1.22m 幅:0.73m

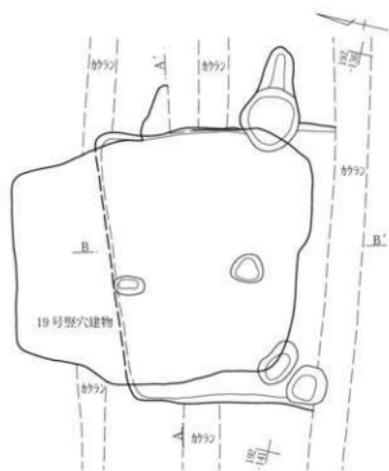
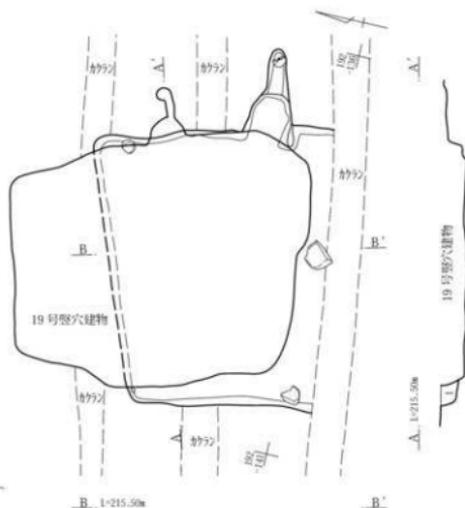
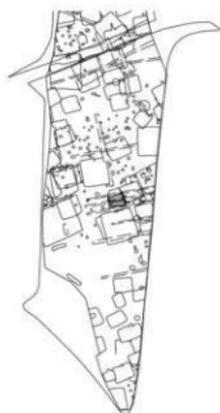
右袖 長さ:0.32m 幅:0.23m 高さ:0.10m

燃焼部 長さ:0.60m 幅:0.40m

深さ:0.01m

煙道 長さ:0.55m 幅:0.35m 高さ:0.10m

掘り方 長さ:0.67m 幅:0.72m

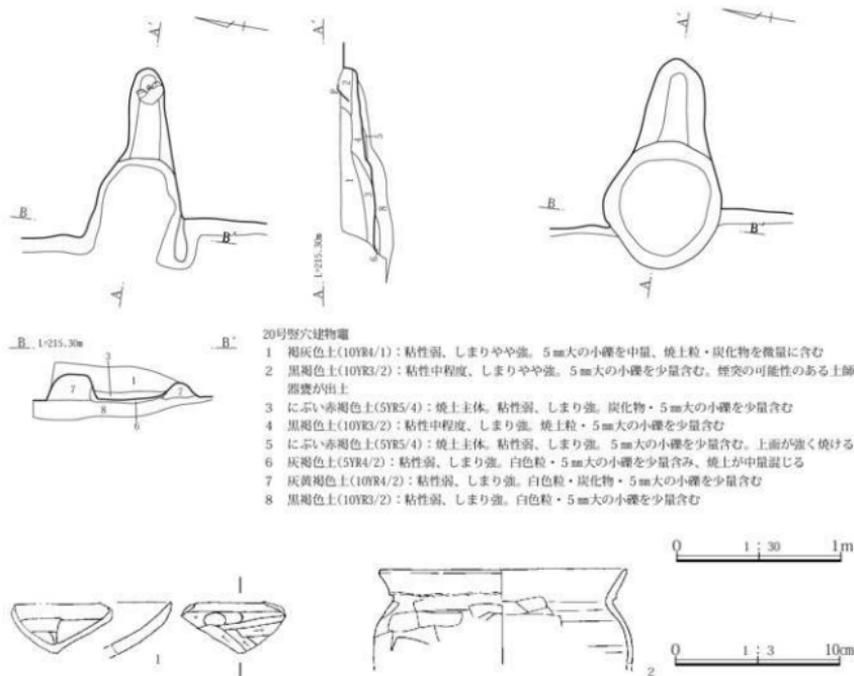


20号竪穴建物A-A'・B-B'

1 褐色土(10YR4/1):粘性弱、しまり強。5mm大の小礫を微量含む

0 1:60 2m

第57図 20号竪穴建物



20号竪穴建物竈

- 1 褐灰色土(10YR4/1):粘性弱、しまりやや強。5mm大の小礫を中量、焼土粒・炭化物を微量に含む
- 2 黒褐色土(10YR3/2):粘性中程度、しまりやや強。5mm大の小礫を少量含む。経突の可能性のある土師器片が出土
- 3 にふい赤褐色土(5YR5/4):焼土主体。粘性弱、しまり強。炭化物・5mm大の小礫を少量含む
- 4 黒褐色土(10YR3/2):粘性中程度、しまり強。焼土粒・5mm大の小礫を少量含む
- 5 にふい赤褐色土(5YR5/4):焼土主体。粘性弱、しまり強。5mm大の小礫を少量含む。上面が強く焼ける
- 6 灰褐色土(5YR4/2):粘性弱、しまり強。白色粒・5mm大の小礫を少量含む。焼土が中量混じる
- 7 灰黄褐色土(10YR4/2):粘性弱、しまり強。白色粒・炭化物・5mm大の小礫を少量含む
- 8 黒褐色土(10YR3/2):粘性弱、しまり強。白色粒・5mm大の小礫を少量含む

第58図 20号竪穴建物竈と出土遺物

深さ: 0.02m

埋土 粘性の弱い褐灰色土で埋没する。所謂三角堆積は確認できなかった。

構造 [竪穴]南北部が失われ、全容は詳らかでないが、竪穴は横長の隅丸長方形プランを呈するものと思量される。主軸の向きはN13°Wを向くものと想定される。

[掘り方・床]本建物は床面下に西部南東寄りを中心に径0.27～0.56m、深さ0.11～0.20mの4カ所の土坑状の掘り込みを有するが、明確な掘り方を確認することはできず、床面は地床として報告する。

[竈]竈は東壁に設けられるが、相対的な位置は確認されない。その方位はN86°Eを向く。東壁面を跨いで浅い掘り方を有し、これを焼土を含む粘性の弱い灰褐色土で埋め戻して燃焼面を造る。

左右に粘性の弱い灰黄褐色土を盛り上げて造った袖が

残る。天井部の構造は確認できなかったが、3層土(にふい赤褐色焼土)が天井の落下したものと想定される。

[柱穴]柱穴は確認されなかった。

[貯蔵穴]貯蔵穴は確認できなかった。

[棟]棟方向は、残存部の竪穴の形状から、南北方向を向く可能性が高いものと想定される。しかし上屋構造は確認できなかった。

遺物 本建物からは杯(1)・甕(2)のほか破片222片を数えた土師器と須恵器片6片が出土した。このほか本建物と21号竪穴建物との帰属を明らかにできなかった土師器片357片、須恵器片17片、灰軸陶器片2片が出土している。

所見 本建物の時期は、出土遺物から推して8世紀の所産と想定される。

21号竪穴建物(第59～61図、PL.11・90・91)

概要 本建物は竪穴建物と想定、調査したが、竪穴状遺構の可能性も有する。

位置 本建物はA区中部北寄りに在り、192～197-133～138グリッドに位置する。

重複 本建物は19・20・22号竪穴建物、16・17・20号土坑と重複するが、本建物は19・20号竪穴建物および16・17・20号土坑より古く22号竪穴建物より新しい。

規模 〔竪穴〕前後：3.54m 左右：4.16m
深さ：0.31m 床面積：12.65㎡

〔土坑1〕 平面規模：0.55×0.52m 深さ：0.25m

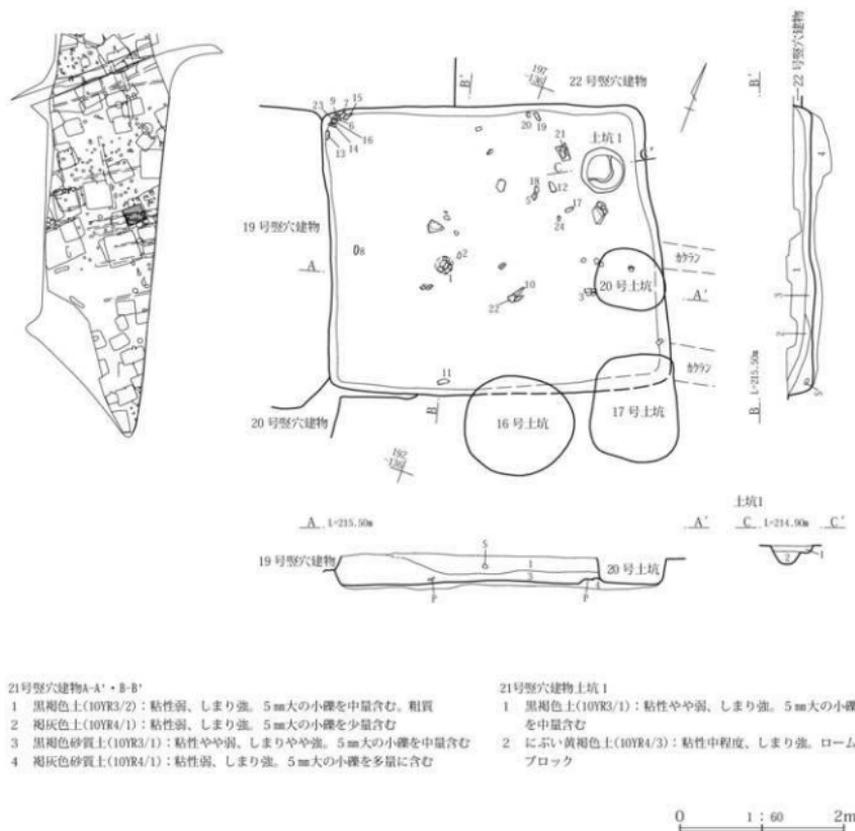
埋土 粘性の弱い小礫を含む黒褐色土と粘性弱い褐色灰土で埋没する。床面上に堆積する小礫を含む黒褐色砂質土は壁際で三角堆積様の体積を見せる。

構造 〔竪穴〕竪穴は方形に近い隅丸台形のプランを呈し、主軸の向きはN70° Eを向く。

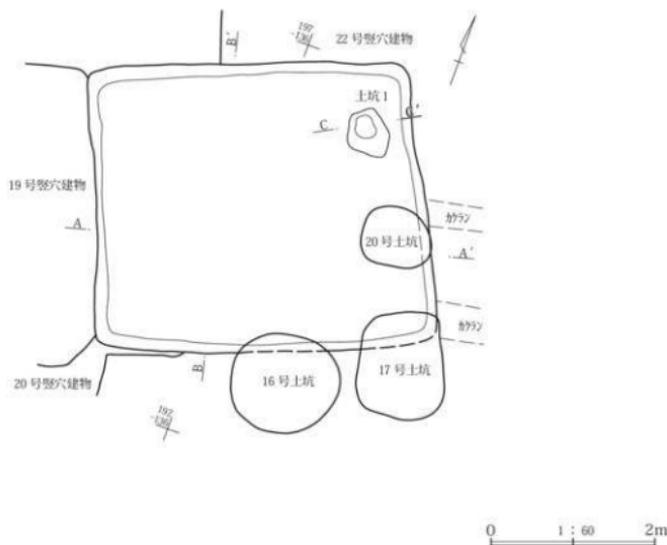
〔掘り方・床〕本建物は深さ0.03～0.23mを測る掘り方を有し、これを褐色灰土砂質土で埋め戻して床面を造る。

〔竈〕竈は確認されなかった。

〔柱穴〕柱穴も確認されなかった。



第59図 21号竪穴建物(1)



第60図 21号竪穴建物(2)

〔貯蔵穴〕貯蔵穴も明確ではないが、北東隅近くに掘削された、南北に長い楕円形プランを呈し、東から南にかけて棚状の段差を有する1号土坑がその可能性を有する。

〔棟〕棟方向は竪穴の形状から東西方向を向くものと思量されるが、上屋構造を確認することはできなかった。

遺物 本建物からは土師器杯(1・2)・甕(3・4)・台付甕(5)と土師器片690片、須恵器片12片が出土しているが、前述のように本建物と20号竪穴建物との帰属を明らかにできなかった土師器片357片、須恵器片17片、灰釉陶器片2片、本建物と22号竪穴建物のいずれに帰属するか判断のつかない土師器片97片の出土が見られた。また敲石と磨石兼用の石製品(6)、敲石・磨石からの転用品(7)、敲石からの転用品(8～12)を含むこも編み石(13～23)が出土しているが、これらのこも編み石の分布は北壁際中央から竪穴中部西寄りと、北西隅部に確認された。このほか火打金(24)も出土している。

所見 本建物は出土遺物から推して8世紀後半の所産と判断される。

22号竪穴建物(第62図、PL.11)

概要 本建物は南側から西側を21号竪穴建物、東側を24号竪穴建物に切られているため、全容は詳らかでない。なお本建物は、竪穴建物と想定、調査したが、竪穴状遺構の可能性も有する。

位置 本建物はA区中部北寄りに在り、195～198-133～137グリッドに位置する。

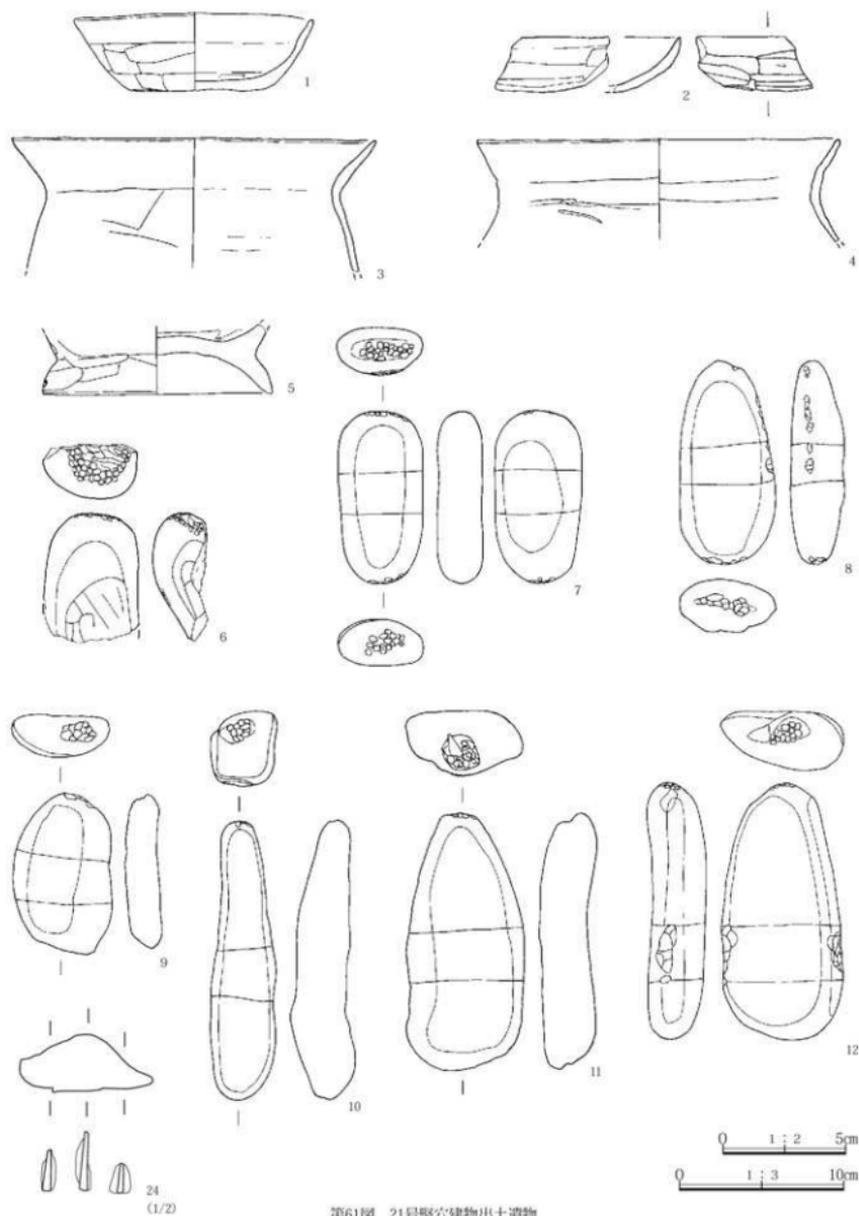
重複 本建物は21・24号竪穴建物と重複するが、共に本建物の方が古い。

規模 〔竪穴〕前後：3.33m 左右：(2.58)m
深さ：0.11m 床面積：(4.03)㎡

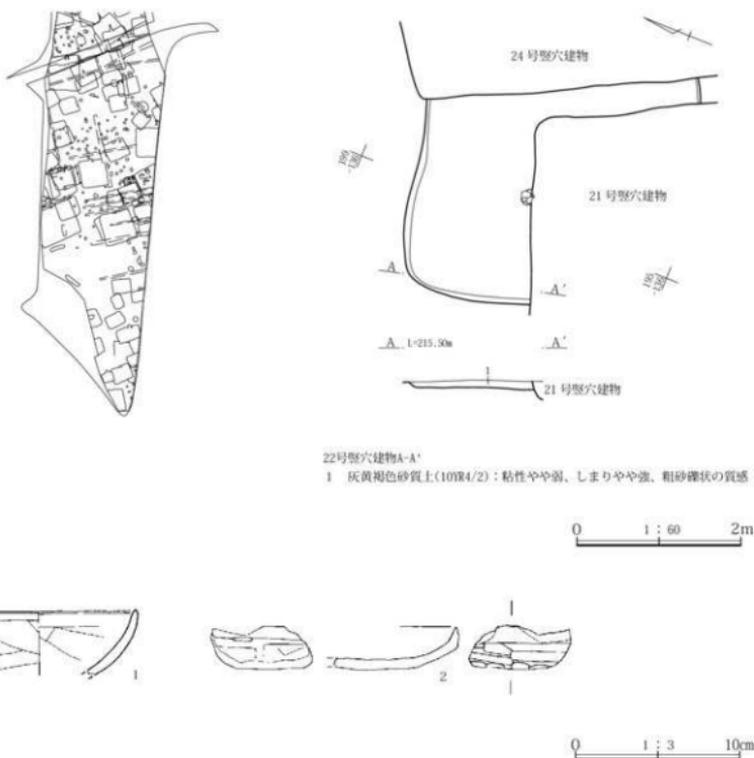
埋土 灰黄褐色砂質土で埋没する。

構造 〔竪穴〕竪穴は隅丸方形もしくは隅丸長方形のプランを呈する。主軸の向きはN22°Wを向く。

〔掘り方・床〕本建物の掘り方の有無は不明だが、12号竪穴建物の埋土等から勘案するに、本建物は掘り方のみの遺存の可能性を有し、この場合床面は失われているものと思量される。一方、掘り方でないとなれば、本建物は地床ということになる。



第61圖 21号塚穴建物出土遺物



22号竪穴建物A-A'

1 灰黄褐色砂質土(10R4/2): 粘性やや弱、しまりやや強、粗砂礫状の質感

第62図 22号竪穴建物と出土遺物

〔竪〕竪は確認されなかった。

〔柱穴〕柱穴は確認されなかった。

〔貯蔵穴〕貯蔵穴は確認されなかった。

〔棟〕本建物は上述のように一部を調査できただけで、全容は把握できなかったため、棟方向は想定できなかった。また上屋構造も確認できなかった。

遺物 本建物からは土師器杯(1・2)と土師器片24片の出土があったが、上述のように本建物と21号竪穴建物のいずれに帰属するか判断のつかなかった土師器片97片が出土している。

所見 本建物の時期は、出土遺物から推して7世紀後半の所産と判断される。

23号竪穴建物(第63図、PL.11)

概要 本建物は北側が24号竪穴建物と重複し、東側は調査区外に出て、西側の一部を調査したに過ぎない。また本建物も竪穴建物と想定、調査しているが、竪穴状造構の可能性も有する。

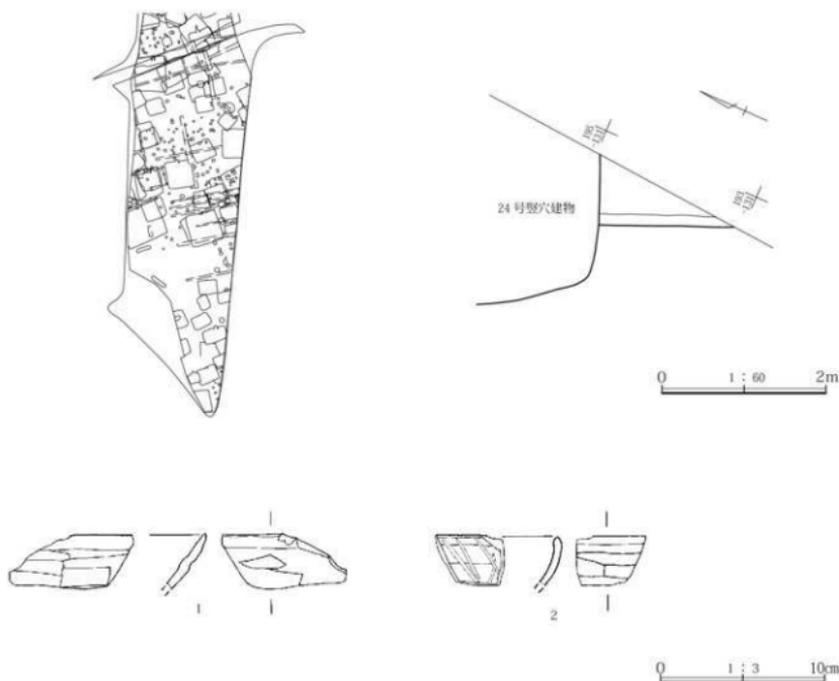
位置 本建物はA区中部北寄り東端に在り、193～194-131～132グリッドに位置する。

重複 本建物は24号竪穴建物と重複するが、本建物の方が新しい。

規模 〔竪穴〕前後:(1.65)m 左右:(0.86)m
深さ:0.28m 床面積:(0.51)㎡

埋土 記録が残せなかったため埋没土は不詳。

構造 〔竪穴〕竪穴は24号竪穴建物と一括で掘削され、24



第63図 23号竪穴建物と出土遺物

号竪穴建物の方が掘削深度が深いため、竪穴プランは確認できない。しかし隅丸方形もしくは隅丸長方形のプランを呈するものと想定される。西壁方向はN24°Wを向く。

〔掘り方・床〕本建物の掘り方の有無は不明である。

〔竈〕竈は確認されなかった。

〔柱穴〕柱穴は確認されなかった。

〔貯蔵穴〕貯蔵穴は確認されなかった。

〔棟〕本建物は上述のように一部を調査できたに過ぎないため、棟方向、上屋構造は確認できなかった。

遺物 本建物からは土師器杯(1・2)が出土したが、本建物と24号竪穴建物のいずれに帰属するか判断のつかない土師器片69片が出土している。

所見 本建物の時期は、出土遺物から推して8世紀の所産と判断される。

24号竪穴建物(第64～67図、PL.12・92)

概要 本建物は竈付の竪穴建物である。建物の南東側が調査区外に出るため、全容は把握できなかった。尚、床面の堆積物から、本建物は焼失家屋であった可能性を有する。

位置 本建物はA区中部北寄り東端に在り、194～200-130～135グリッドに位置する。

重複 本建物は22・23号竪穴建物と重複するが、本建物は22号建物より新しく、23号建物よりは古い。

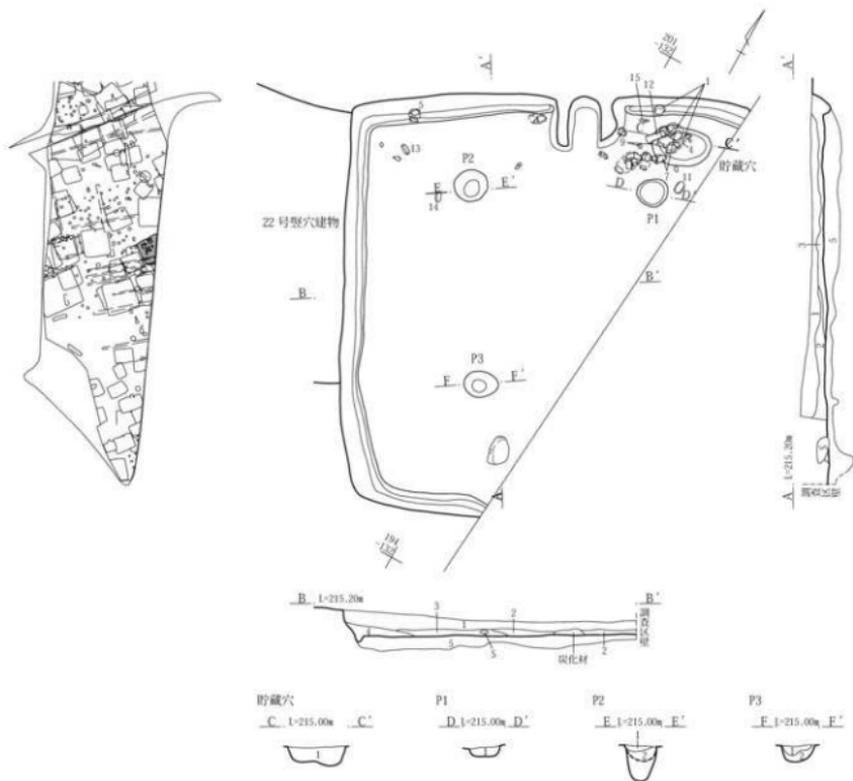
規模 〔竪穴〕前後：5.17m 左右：4.83m
深さ：0.34m 床面積：(15.63) m²

〔竈〕長さ：0.68m 幅：0.92m

左袖 長さ：0.62m 幅：0.30m 高さ：0.20m

右袖 長さ：0.58m 幅：0.33m 高さ：0.22m

燃焼部 長さ：1.07m 幅：0.61m



24号型穴建物A-A'・B-B'

- 1 褐灰色土(10YR4/1)：粘性やや弱、しまりやや強。白色粒・5mm大の小礫を中量含む
- 2 黒褐色土(10YR3/1)：粘性やや弱、しまりやや強。褐色土ブロック・5mm大の小礫を少量含む。下面に焼土・炭化材が散布
- 3 褐灰色土(10YR4/1)：粘性やや弱、しまりやや強。焼土粒・5mm大の小礫を少量含む。下面に焼土・炭化材が散布
- 4 黒褐色土(10YR3/1)：粘性やや弱、しまりやや強。焼土粒・5mm大の小礫を少量含む。下面に焼土・炭化材が散布
- 5 にぶい黄褐色砂質土(10YR4/3)：粘性やや弱、しまり強。5mm大の小礫を少量含む

24号型穴建物貯蔵穴

- 1 にぶい黄褐色砂質土(10YR4/3)：粘性やや弱、しまり強。5mm大の小礫を少量含む

24号型穴建物P1

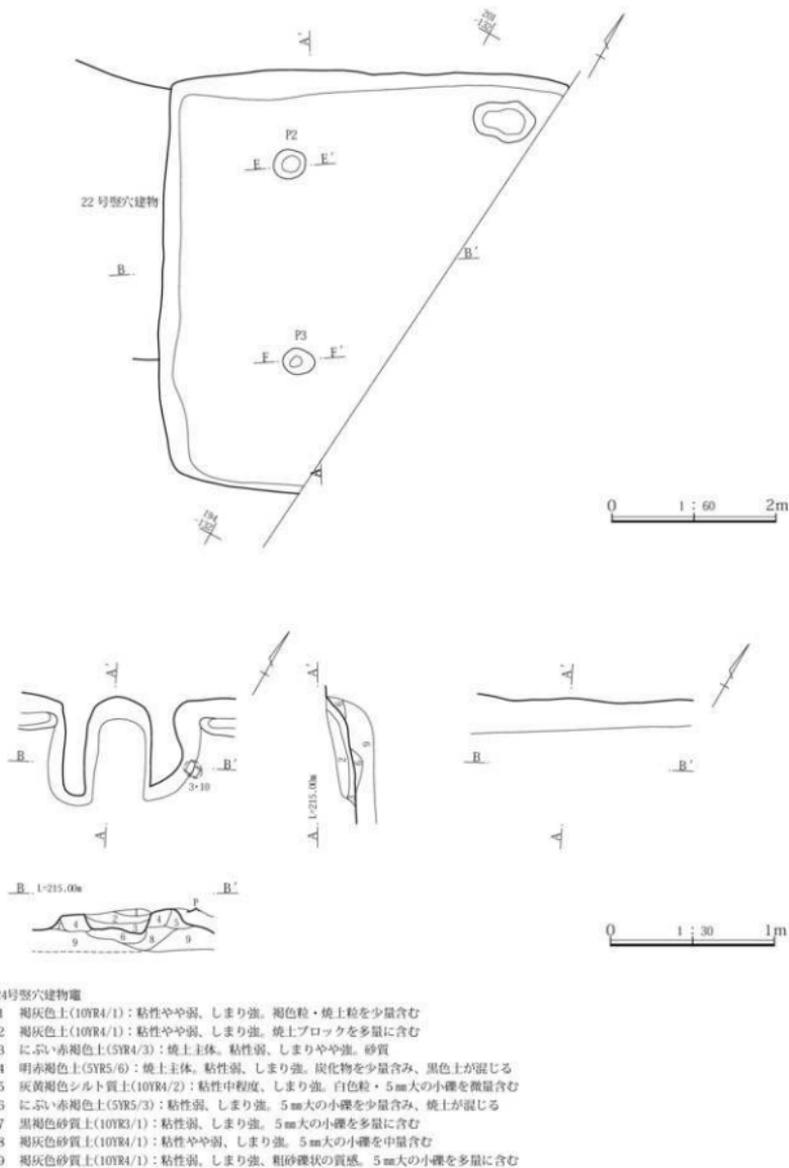
- 1 灰黄褐色砂質土(10YR4/2)：粘性やや弱、しまり強。5mm大の小礫を中量含む

24号型穴建物P2・P3

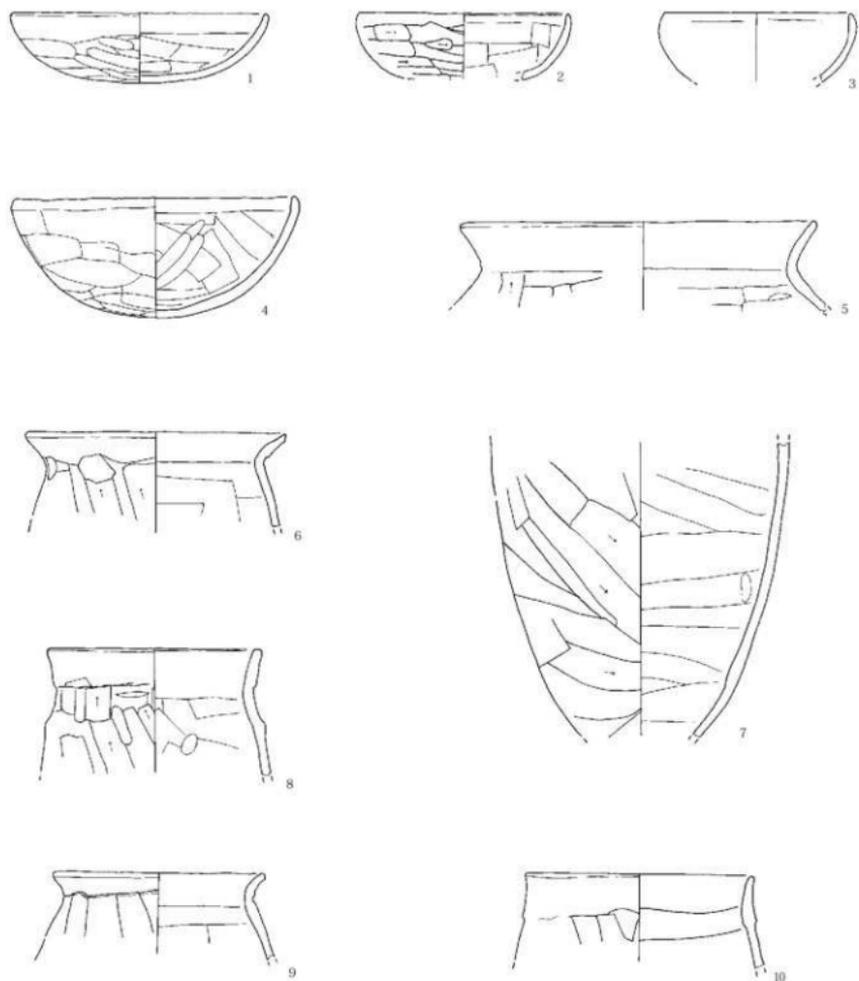
- 1 褐灰色土(10YR4/1)：粘性やや弱、しまり強。5mm大の小礫を微量に含む
- 2 にぶい黄褐色土(10YR5/3)：粘性やや弱、しまり強。5mm大の小礫を少量含む、黒色土が混じる

0 1:60 2m

第64図 24号型穴建物(1)

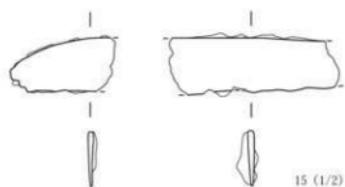
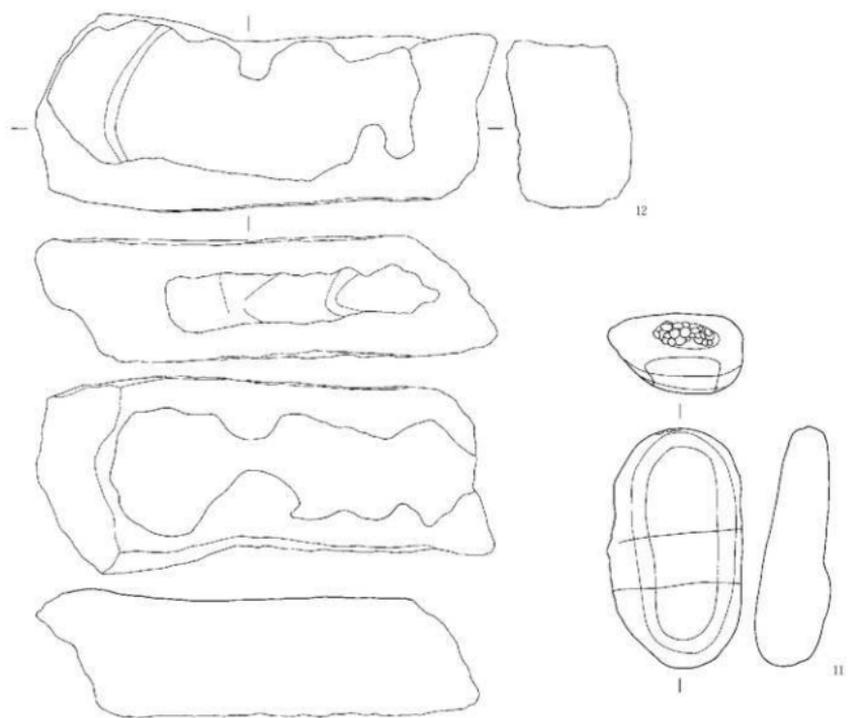


第65図 24号壑穴建物(2)



0 1 : 3 10cm

第66図 24号竪穴建物出土遺物(1)



第67図 24号竪穴建物出土遺物(2)

深さ：0.00m

〔貯蔵穴〕 平面規模：0.47×0.72m 深さ：0.25m

〔P1〕 平面規模：0.35×0.37m 深さ：0.15m

〔P2〕 平面規模：0.39×0.40m 深さ：0.46m(0.18m)

〔P3〕 平面規模：0.31×0.42m 深さ：0.21m

〔周溝1〕 長さ：1.44m 幅：0.14m

深さ：0.02m

〔周溝2〕 長さ：8.14m 幅：0.15m

深さ：0.07m

埋土 共に粘性やや弱い小礫含む褐灰色土、黒褐色土、褐灰色土で埋没する。粘性やや弱い黒褐色土が西壁際で所謂三角堆積様を見せる。尚、床面各理土下面には焼土と炭化物の散布が見られる。

構造 〔竪穴〕竪穴は東南側が調査区外に出るため、全容は把握できていないが、そのプランは方形を呈するものと想定される。主軸の向きはN61°Eを向く。

〔掘り方・床〕本建物は深さ0.04～0.23mを測る掘り方を有し、これをにぶい黄褐色砂質土で埋め戻して床面を造る。確認範囲では竪部分を除き、壁際に周溝が掘削されている。

〔竈〕竈は北西壁中央やや東寄りに設けられる。その方位はN25°Wを向く。平面形の記録は残せなかったが、壁面手前に幅0.55m、奥行き0.28m以上、深さ0.15mを測る掘り方を有し、これを褐灰色砂質土と粘性の弱い焼土混じりのにぶい赤褐色土で埋め戻して燃焼面を造る。

燃焼面の左右両側に、炭化物を少量含む粘性の弱い焼土主体の明赤褐色土と、左袖に小礫多く含む黒褐色砂質土、右袖に灰黄褐色シルト質土を用いて袖を造っている。天井部は確認できなかったが、焼土ブロックを大量に含む2層土(褐灰色土)が天井の崩落したものと想定される。

〔柱穴〕床面にはP1(北東)・P2(北西)・P3(南西)の3基の柱穴を確認した。調査区外に出ている区域に南東の柱穴が掘削されていたものと想定する。柱穴のプランはいずれも楕円形を呈する。

柱間は、P1・2間は2.18m、P2・3間は2.43mを測る。

〔貯蔵穴〕貯蔵穴は竈の東側、想定される竪穴北東近くを確認した。そのプランは東西方向に長い楕円形を呈する。底面はやや東側が低い、

〔棟〕棟方向は特定できないが、柱穴の柱間の測定値等から、東北東—西西南方向を向くものと推定される。

遺物 本建物からは土師器杯(1～3)・椀(4)・甕(5～7)・小型甕(8～10)と土師器片483片、須恵器片6片、灰釉陶器片1片が出土した。また上述のように本建物と23号竪穴建物のいずれに帰属するか判断のつかなかった土師器片69片の出土が見られた。このほか、本建物からは敲石転用品(11)含むこも編み石(13・14)が出土し、竈に使用された天井石(12)、あるいは刀子(15)も確認されている。

所見 本建物の時期は、出土遺物から推して7世紀後半の所産と判断される。

25号竪穴建物(第68～70図、PL.12・13・92)

概要 本建物は竈付の竪穴建物である。

位置 本建物はA区中部北端の西寄りに在り、189～194—146～151グリッドに位置する。

重複 本建物は26号竪穴建物と重複するが、本建物の方が新しい。

規模 〔竪穴〕前後：4.06m 左右：4.42m

深さ：0.14m 床面積：16.26㎡

〔竈〕 長さ：1.65m 幅：1.14m

左袖 長さ：0.31m 幅：0.39m 高さ：0.13m

右袖 長さ：0.25m 幅：0.35m 高さ：0.10m

燃焼部 長さ：1.40m 幅：0.39m

深さ：0.05m

煙道 長さ：0.18m 幅：0.39m 高さ：0.05m

掘り方 長さ：0.88m 幅：0.83m 深さ：—m

〔貯蔵穴〕 平面規模：0.71×0.60m 深さ：0.11m

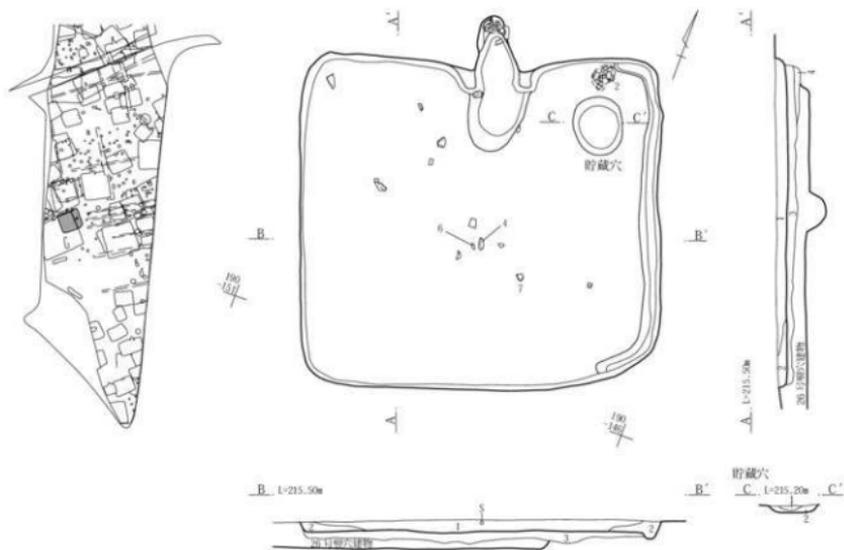
〔周溝〕 長さ：4.44m 幅：0.20m 深さ：0.13m

埋土 褐灰色砂質土で埋没する。粘性の弱い黒褐色土で所謂三角堆積を形成する。

構造 〔竪穴〕竪穴は正方形に使い横長の隅丸長方形プランを呈し、主軸の向きはN70°Eを向く。

〔掘り方・床〕本建物は南東隅部近くに径0.66×0.66m、深さ0.15mを測る円形プランの土坑状の掘り込みを伴う掘り方を有し、これを粘性のやや弱い褐灰色土等で埋め戻して床面を造る。北東隅部から東壁、南東隅部にかけての壁際に浅い周溝が掘られている。

〔竈〕竈は北壁中央付近に設けられ、その方位はN22°W

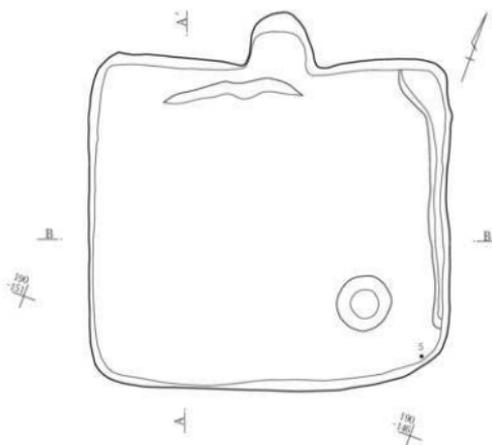


25号型穴建物A-A'・B-B'

- 1 褐色砂質土(10YR4/1)：粘性弱、しまりやや強。白色粒・5mm大の小礫を少量含む
- 2 黒褐色土(10YR3/1)：粘性弱、しまり強。焼土粒・5mm大の小礫を少量含む
- 3 褐色土(10YR4/1)：粘性やや弱、しまり強。5mm大の小礫を中量含む
- 4 灰黄褐色土(10YR4/2)：粘性やや弱、しまり強。褐色土が混じる

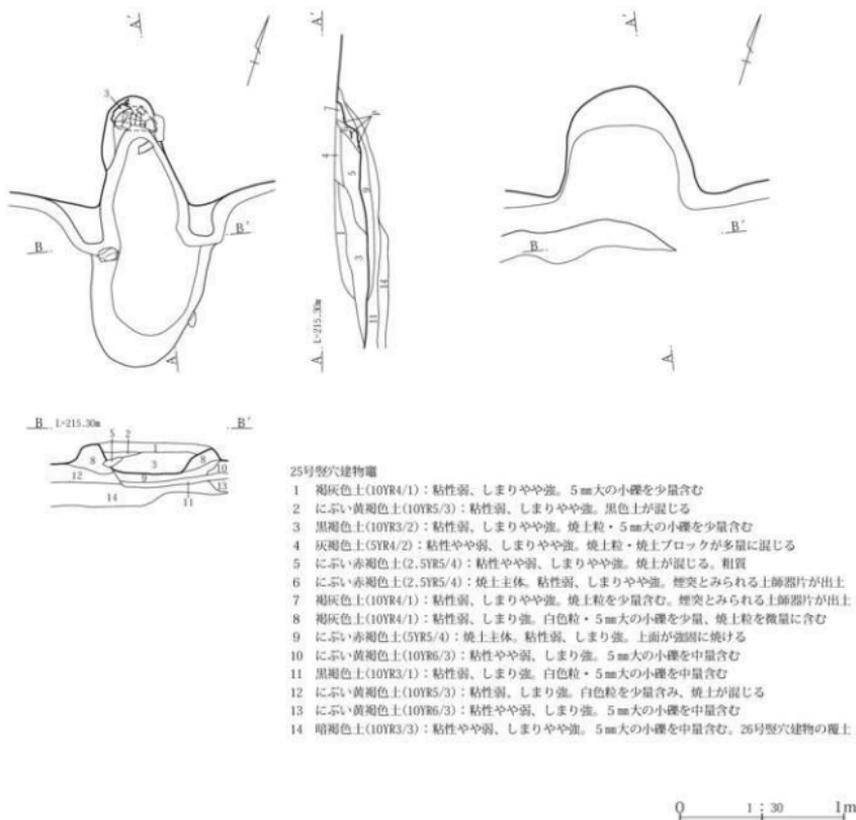
25号型穴建物貯蔵穴

- 1 褐色土(10YR4/1)：粘性やや弱、しまりやや強。焼土粒・5mm大の小礫を中量含む
- 2 濃い赤褐色土(5YR5/4)：焼土主体。粘性中程度、しまりやや強



第68図 25号型穴建物

0 1 : 60 2m



25号竪穴建物圖

- 1 褐灰色土(10YR4/1)：粘性弱、しまりやや強。5mm大の小礫を少量含む
- 2 にぶい黄褐色土(10YR5/3)：粘性弱、しまりやや強。黒色土が混じる
- 3 黒褐色土(10YR3/2)：粘性弱、しまりやや強。焼土粒・5mm大の小礫を少量含む
- 4 灰褐色土(5YR4/2)：粘性やや弱、しまりやや強。焼土粒・焼土ブロックが多量に混じる
- 5 にぶい赤褐色土(2.5YR5/4)：粘性やや弱、しまりやや強。焼土が混じる。粗質
- 6 にぶい赤褐色土(2.5YR5/4)：焼土主体。粘性弱、しまりやや強。煙突とみられる土師器片が出土
- 7 褐灰色土(10YR4/1)：粘性弱、しまりやや強。焼土粒を少量含む。煙突とみられる土師器片が出土
- 8 褐灰色土(10YR4/1)：粘性弱、しまり強。白色粒・5mm大の小礫を少量、焼土粒を微量に含む
- 9 にぶい赤褐色土(5YR5/4)：焼土主体。粘性弱、しまり強。上面が強固に焼ける
- 10 にぶい黄褐色土(10YR6/3)：粘性やや弱、しまり強。5mm大の小礫を中量含む
- 11 黒褐色土(10YR3/1)：粘性弱、しまり強。白色粒・5mm大の小礫を中量含む
- 12 にぶい黄褐色土(10YR6/3)：粘性弱、しまり強。白色粒を少量含み、焼土が混じる
- 13 にぶい黄褐色土(10YR6/3)：粘性やや弱、しまり強。5mm大の小礫を中量含む
- 14 暗褐色土(10YR3/3)：粘性やや弱、しまりやや強。5mm大の小礫を中量含む。26号竪穴建物の覆土

第69図 25号竪穴建物圖

を向く。平面形の記録は残せなかったが、奥行き0.90m、幅0.66m、深さ0.14mを測る埋め戻して燃焼面を造るが、埋め戻された土は焼土化し、特に燃焼面は強固に焼けている。

左右に粘性の弱い褐灰色土を盛り上げて袖を造っている。

天井部の構造は確認できなかったが、4層土(焼土が多量に混入する灰褐色土)と5層土(焼土混じるにぶい赤褐色土)がその崩落土と認識される。

土師器甕(3)を覆かせた短い煙道が付く。

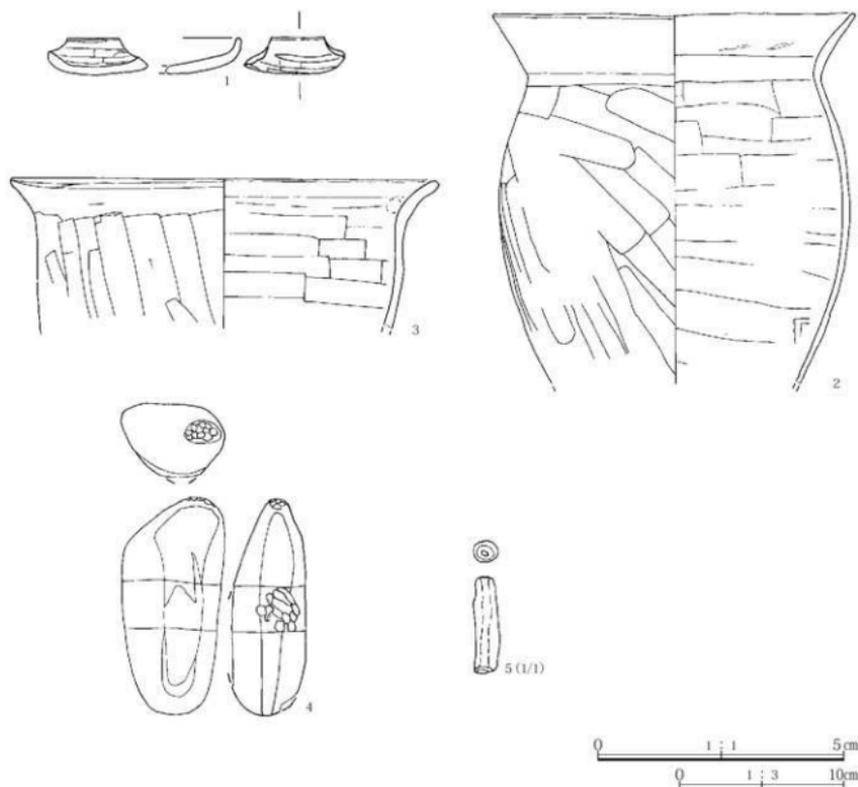
〔柱穴〕柱穴は確認されなかった。

〔貯蔵穴〕貯蔵穴は竪穴右側、北東隅近くに掘削されている。円形に近いプランを呈するが、掘り込みは浅い。

〔棟〕棟方向は、竪穴の形状から略東西方向を向くと想定される。上屋構造を確認することはできなかった。

遺物 本建物からは杯(1)・甕(2・3)と破片804片を含む土師器、須恵器片13片のほか、菅玉様の土製品(5)、戴石からの転用品(4)含むこも編み石(6・7)が出土している。

所見 本建物の時期は、出土遺物から推して8世紀前半の所産と判断される。



第70図 25号竪穴建物出土遺物

26号竪穴建物(第71～76図、PL.13・14・93)

概要 本建物は竈付の竪穴建物である。建物北西隅付近は調査区外に出るため、全容を把握することはできなかった。

位置 本建物はA区中部北端、調査区西壁を越えてある。183～193-145～153グリッドに位置する。

重複 本建物は25号竪穴建物と重複するが、本建物の方が古い。

規模 [竪穴]前後：7.22m 左右：8.50m
深さ：0.35m 床面積：(51.70) m²

[竈] 長さ：1.16m 幅：1.12m

左袖 長さ：0.68m 幅：0.47m 高さ：0.23m

右袖 長さ：0.65m 幅：0.39m 高さ：0.23m

燃焼部 長さ：0.80m 幅：0.32m

深さ：0.04m

煙道 長さ：0.25m 幅：0.15m 高さ：0.05m

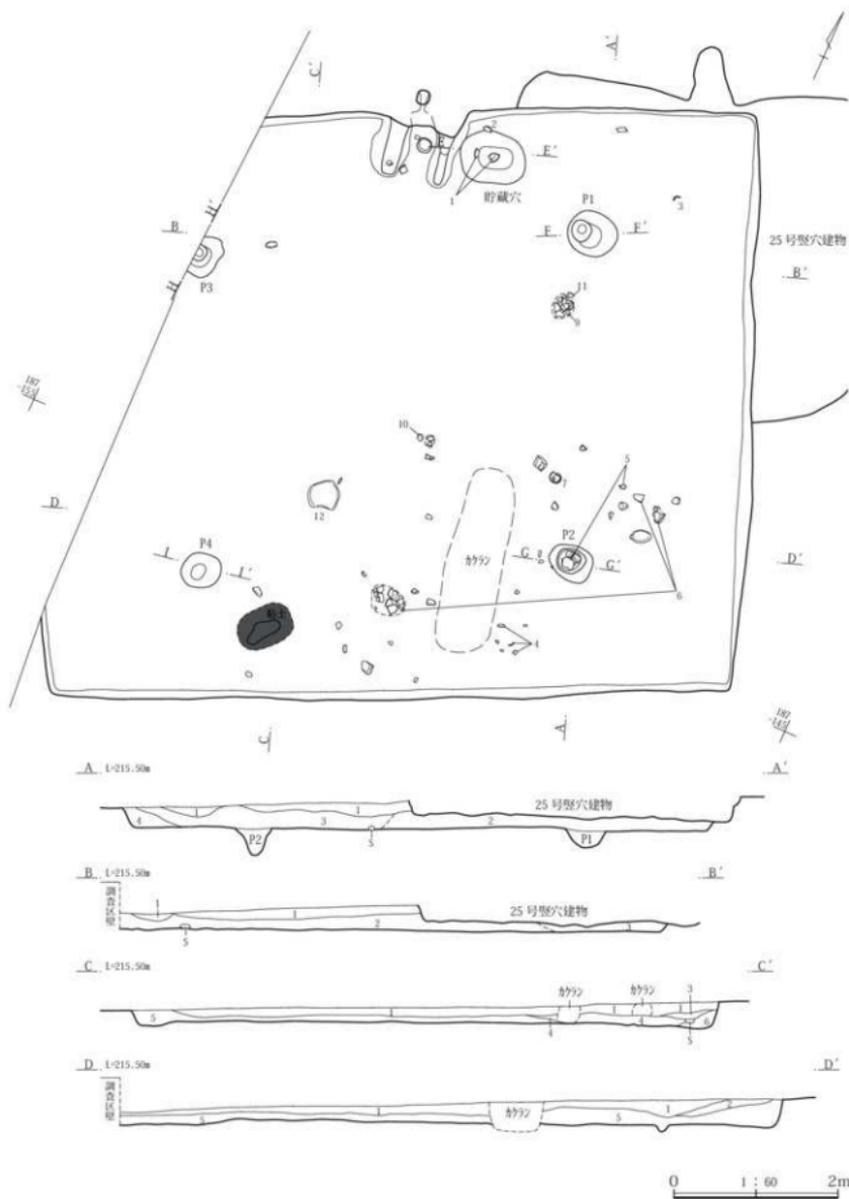
掘り方 長さ：0.87m 幅：-m 深さ：0.18m

[貯蔵穴] 平面規模：0.64×0.78m 深さ：0.72m

[P 1] 平面規模：0.53×0.60m 深さ：0.48m

[P 2] 平面規模：0.43×0.54m 深さ：0.45m

[P 3] 平面規模：0.54×(0.28)m 深さ：0.33m



第71図 26号貯穴建物(1)



26号竪穴建物A・A'・B・B'

- 1 黒褐色土(10YR3/1):粘性弱、しまり強。5mm大の小礫を中量含む
- 2 褐灰色砂質土(10YR4/1):粘性弱、しまりやや強。褐色粒・5mm大の小礫を中量含む
- 3 灰黄褐色土(10YR4/2):粘性弱、しまり強。5mm大の小礫を中量含む
- 4 灰黄褐色砂質土(10YR5/2):粘性弱、しまりやや強。粗砂礫状の質感

26号竪穴建物C・C'・D・D'

- 1 黒褐色土(10YR3/1):粘性弱、しまり強。5mm大の小礫を中量含む
- 2 褐灰色土(10YR4/1):粘性やや弱、しまり強。5mm大の小礫を少量含む
- 3 褐灰色土(10YR4/1):粘性やや弱、しまり強。黄褐色土が混じる
- 4 褐灰色砂質土(10YR4/1):粘性弱、しまりやや強。褐色粒・5mm大の小礫を中量含む
- 5 灰黄褐色土(10YR4/2):粘性弱、しまり強。5mm大の小礫を中量含む
- 6 黒褐色砂質土(10YR3/1):粘性弱、しまり強。5mm大の小礫を中量含む

貯蔵穴

E, I-215.00m E'



P1

F, I-215.00m F'



P2

G, I-215.00m G'



P3

H, I-215.00m H'



P4

I, I-215.00m I'



0 1:60 2m

26号竪穴建物貯蔵穴

- 1 褐灰色土(10YR4/1):粘性中程度、しまり中程度。5mm大の小礫を少量含む。砂質
- 2 黒褐色土(10YR3/1):粘性中程度、しまりやや強。5mm大の小礫を中量含む。砂質
- 3 黒褐色土(10YR3/2):粘性中程度、しまりやや強。黒色土が混じる。底面から土師器杯が出土

26号竪穴建物P 1

- 1 黒褐色土(10YR3/2):粘性中程度、しまりやや強。褐色土ブロックを中量含む

26号竪穴建物P 2

- 1 灰黄褐色土(10YR4/2):粘性やや弱、しまり強。褐色粒・5mm大の小礫を少量含む

26号竪穴建物P 3

- 1 黒褐色土(10YR3/2):粘性中程度、しまりやや強。褐色土ブロックを少量含む
- 2 黒色土(10YR2/1):粘性中程度、しまりやや強。炭化物を微量に含む

26号竪穴建物P 4

- 1 褐灰色土(10YR4/1):粘性やや弱、しまり強。5mm大の小礫を少量含む

第72図 26号竪穴建物(2)

[P 4] 平面規模:0.42×0.48m 深さ:0.49m

埋土 粘性の弱い黒褐色土、灰黄褐色土や褐灰色砂質土等で埋没する。部分的に灰黄褐色砂質土や黒褐色砂質土が三角堆積を成していることが確認できた。

構造 [竪穴]竪穴は横長の長方形プランを呈し、主軸の向きはN66° Eを向く。

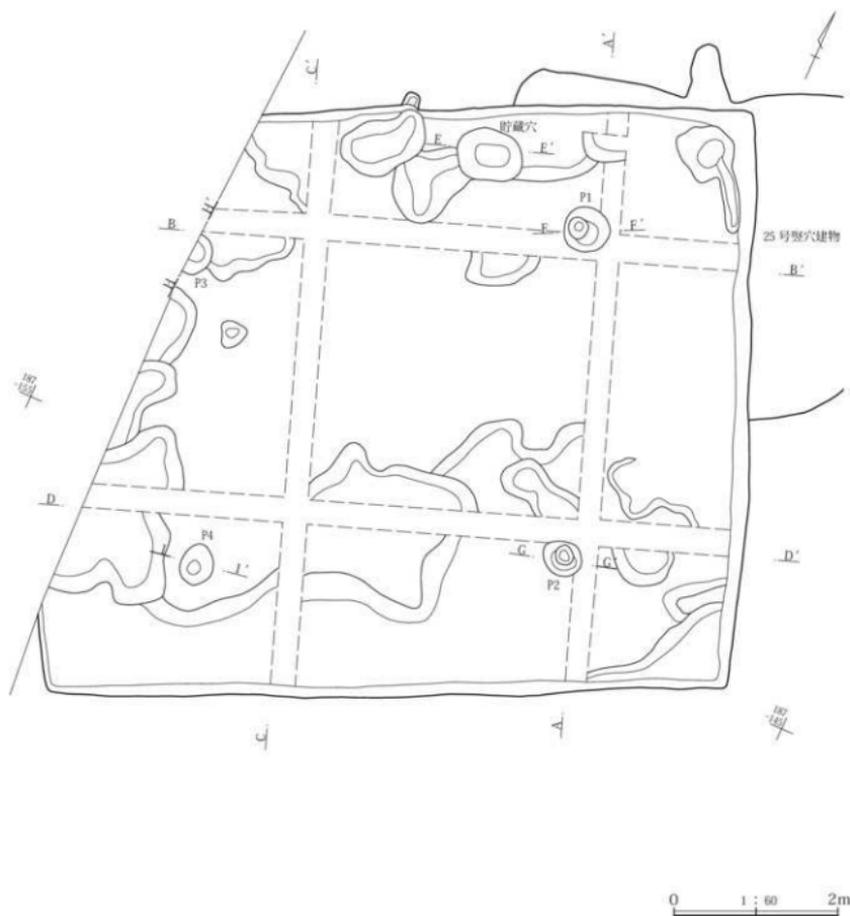
[掘り方・床]本建物は凹凸のある状態の掘り方を呈するようであるが、掘り方の断面図及び埋土記録は残されていないため、詳細は不明である。

[竪]竪は北壁の中ほどに設けられ、N10° W方向を向く。

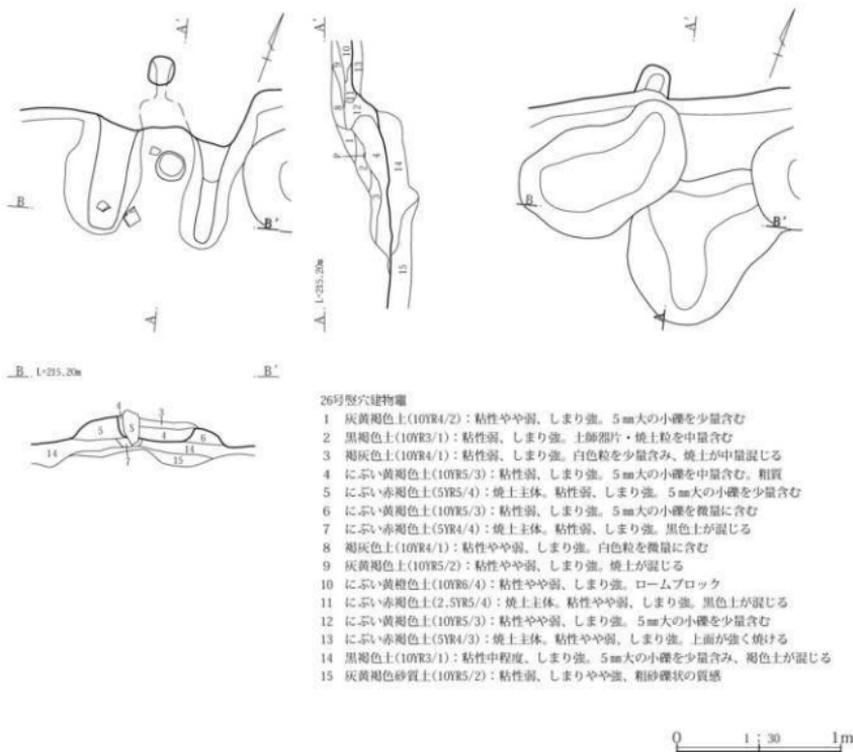
平面形が確認できない掘り方を有し、これを褐色土の混ざる黒褐色土で埋め戻して焼燃面を造る。

そして焼燃面の左側に袖石を立ててその外側に焼土主体の粘性の弱いにぶい赤褐色土を、また右側は粘性の弱いにぶい黄褐色土を盛り上げて袖を造っている。奥壁を横長の隅丸直方体形にくりぬいて煙道を設けているが、先端は径0.15×0.18m、深さ0.06mを測るビット状の掘り込みとなっている。

[柱穴]床面にはP 1(北東)・P 2(南東)・P 3(北西)・P 4(南西)の4基の柱穴が掘削されている。柱穴はいず



第73図 26号型穴建物(3)



26号竪穴建物

- 1 灰黄褐色土(10YR4/2)：粘性やや弱、しまり強。5mm大の小礫を少量含む
- 2 黒褐色土(10YR3/1)：粘性弱、しまり強。土師器片・焼土粒を中量含む
- 3 褐灰色土(10YR4/1)：粘性弱、しまり強。白色粒を少量含む。焼土が中量混じる
- 4 にぶい黄褐色土(10YR5/3)：粘性弱、しまり強。5mm大の小礫を中量含む。粗質
- 5 にぶい赤褐色土(5YR5/4)：焼土主体。粘性弱、しまり強。5mm大の小礫を少量含む
- 6 にぶい黄褐色土(10YR5/3)：粘性弱、しまり強。5mm大の小礫を微量に含む
- 7 にぶい赤褐色土(5YR4/4)：焼土主体。粘性弱、しまり強。黒土が混じる
- 8 褐灰色土(10YR4/1)：粘性やや弱、しまり強。白色粒を微量に含む
- 9 灰黄褐色土(10YR5/2)：粘性やや弱、しまり強。焼土が混じる
- 10 にぶい黄褐色土(10YR6/4)：粘性やや弱、しまり強。ロームブロック
- 11 にぶい赤褐色土(2.5YR5/4)：焼土主体。粘性やや弱、しまり強。黒土が混じる
- 12 にぶい黄褐色土(10YR5/3)：粘性やや弱、しまり強。5mm大の小礫を少量含む
- 13 にぶい赤褐色土(5YR3/3)：焼土主体。粘性やや弱、しまり強。上面が強く硬ける
- 14 黒褐色土(10YR3/1)：粘性中程度。しまり強。5mm大の小礫を少量含む。褐色土が混じる
- 15 灰黄褐色砂質土(10YR5/2)：粘性弱、しまりやや強。粗砂礫状の質感

第74図 26号竪穴建物

れも隅丸長方形様のプランを呈する。

P 1は径0.22×0.25m、P 3には(0.12)×0.20mを測る柱痕跡と思しき隅丸長方形の落ち込みがある。柱間は、P 1・2間は4.06m、P 3・4間は3.90mを測り、P 1・3間は4.68m、P 2・4間は4.51mを測る。

〔貯蔵穴〕貯蔵穴は竈の右袖の外側に接し、北壁から0.15m離れた位置に掘削されている。そのプランは東北東—西南西に長い隅丸長方形プランを呈し、箱型の掘削形態をなす。

〔棟〕棟方向は竪穴の形態から推して、東北東—西南西を向くものと判断される。また柱間から桁間は平均4.595m、梁間は平均3.98mとなる。尚、上屋構造の詳細は確認できなかった。

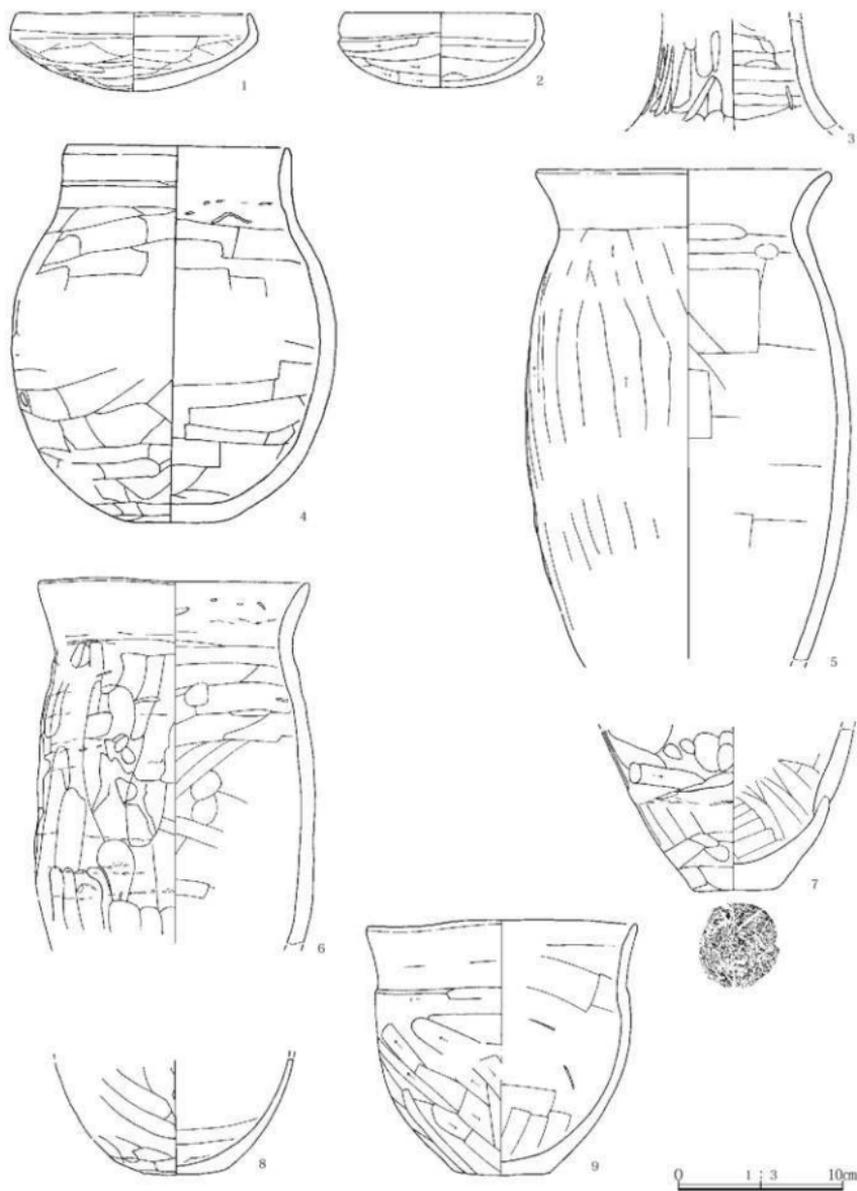
遺物 本建物からは土師器杯(1・2)・高杯(3)・甕(4～8)・小型甕(9)や土師器片457片、須恵器片7片、灰釉陶器片2片の出土が見られた。このほか磨石にも使用された丸石(10)、鍛石からの転用品(11)を含むも編み石(13)、研磨面の残る台石(12)の出土も見られた。

所見 本建物の時期は、出土遺物から推して6世紀後半の所産と判断される。

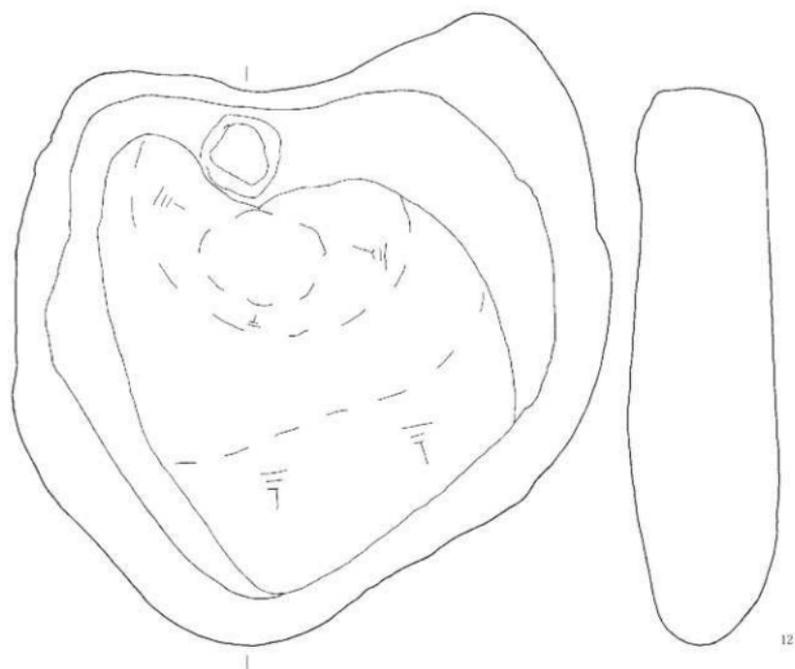
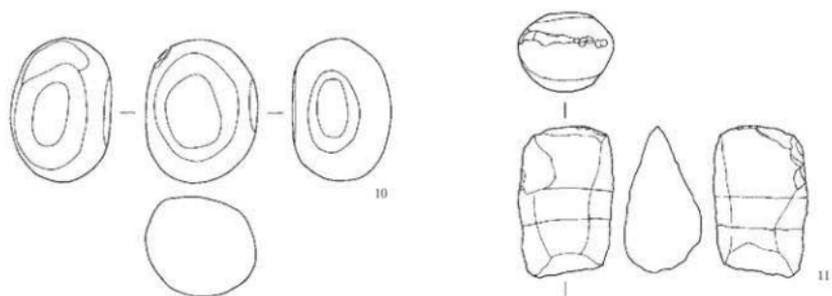
27号竪穴建物(第77～83図、PL.14・15・93～96)

概要 本建物は竈付の竪穴建物である。北東隅部分が試掘トレンチで壊されていて、全体を把握することはできなかった。

また本建物は炭化材が出土する所謂焼失家屋と認識さ



第75図 26号竪穴建物出土遺物(1)



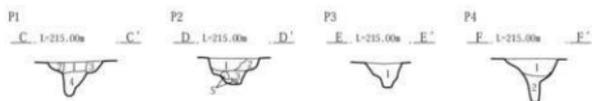
0 1 : 3 10cm

第76図 26号竪穴建物出土遺物(2)



第77図 27号型穴建物(1)

第3章 南蛇井北原田遺跡



27号竪穴建物 P 1

- 1 褐灰色土(10YR4/1)：粘性やや弱、しまり中程度。5mm大の小礫を少量含む
- 2 灰黄褐色土(10YR5/2)：粘性やや弱、しまり中程度。5mm大の小礫を中量含む
- 3 にぶい黄褐色砂質土(10YR5/3)：粘性弱、しまり中程度
- 4 にぶい黄褐色土(10YR4/3)：粘性やや弱、しまり中程度。暗色土が混じる

27号竪穴建物 P 2

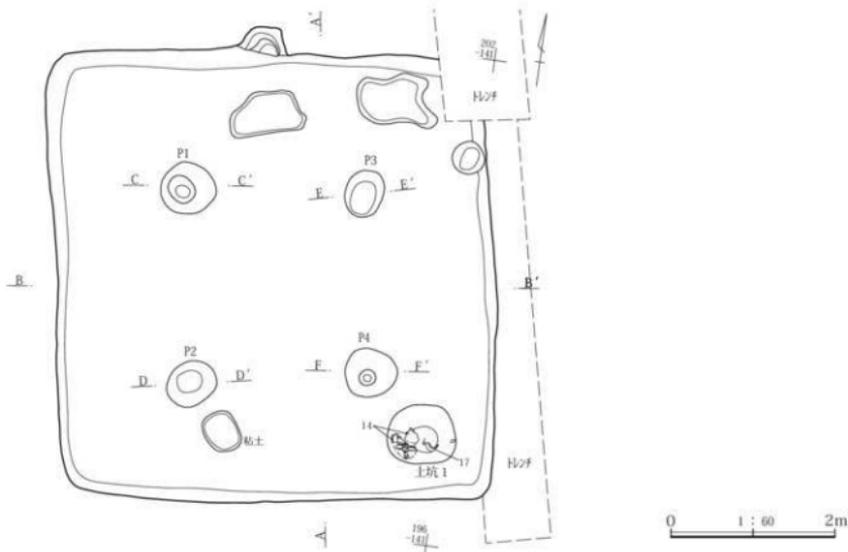
- 1 褐灰色土(10YR4/1)：粘性やや弱、しまり中程度。5mm大の小礫を少量含む
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2)：粘性弱、しまり強。炭化物を少量含み、褐色土が混じる
- 3 黒褐色砂質土(10YR3/1)：粘性弱、しまり強。円礫を含む

27号竪穴建物 P 3

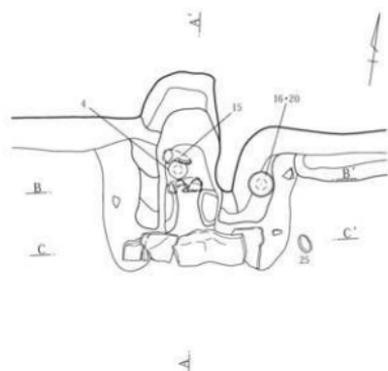
- 1 褐灰色土(10YR4/1)：粘性中程度、しまり強。5mm大の小礫を微量に含む

27号竪穴建物 P 4

- 1 黒褐色土(10YR3/2)：粘性弱、しまり強。白色粒・焼土粒を少量含む
- 2 褐灰色土(10YR4/1)：粘性中程度、しまり強。褐色土が混じる

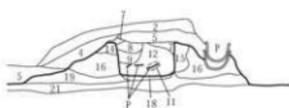


第78図 27号竪穴建物(2)



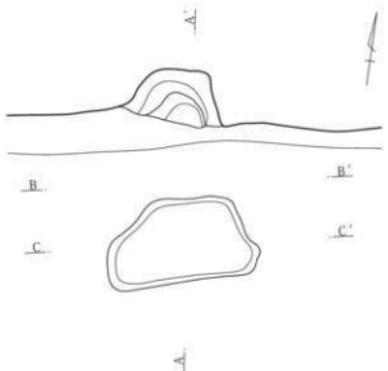
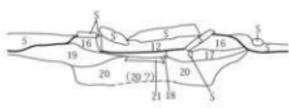
B. 1-215.30m

B'



C. 1-215.30m

C'

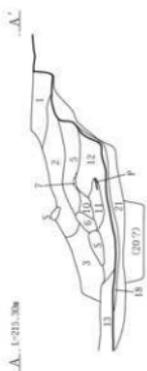


B.

B'

C.

C'



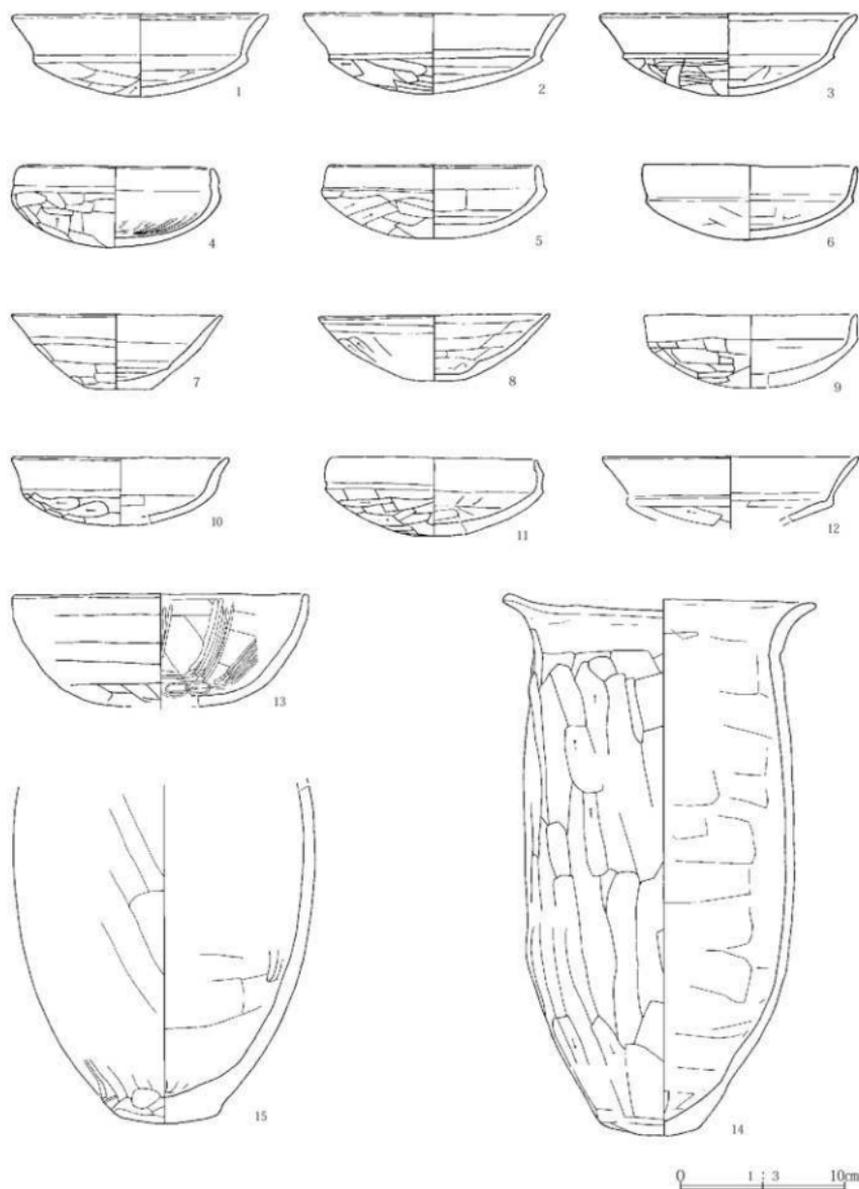
A. 1-215.30m

27号竪穴建物欄

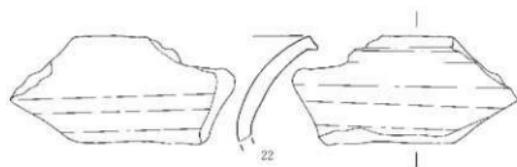
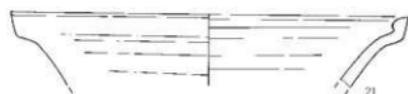
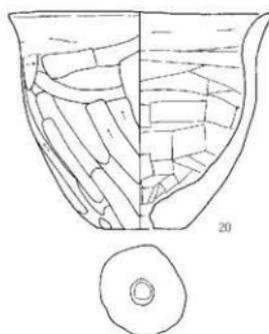
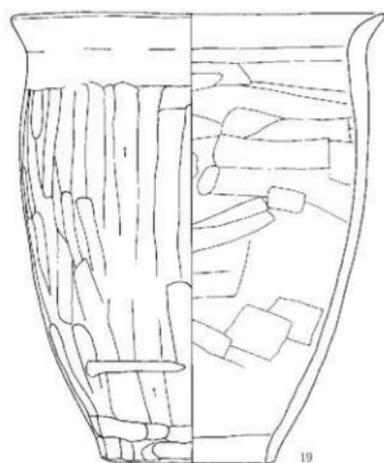
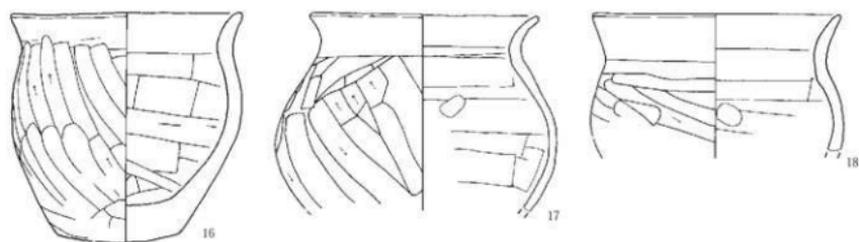
- 1 にぶい黄褐色土(10YR5/3)：粘性弱、しまり強。白色粒を少量含む
- 2 褐灰色土(10YR4/1)：粘性やや弱、しまり強。白色粒・褐色粒を少量含む
- 3 灰黄褐色土(10YR4/2)：粘性弱、しまり強。白色粒を多量に含む
- 4 灰黄褐色土(10YR4/2)：粘性弱、しまり強。黄色粒を少量含む
- 5 黒褐色土(10YR3/1)：粘性弱、しまり強。白色粒を微量に含む
- 6 にぶい黄褐色土(10YR5/3)：粘性弱、しまり強。焼土粒を少量含む
- 7 にぶい黄褐色土(10YR5/3)：粘性中程度、しまりやや強。5mm大の小礫を少量含む
- 8 にぶい赤褐色土(5YR5/3)：焼土主体。粘性中程度、しまり中程度
- 9 にぶい黄褐色土(10YR5/3)：粘性弱、しまり強。白色粒を少量含む
- 10 褐灰色土(10YR4/1)：粘性弱、しまり強。黒色土が混じる
- 11 にぶい赤褐色土(5YR5/3)：焼土主体。粘性中程度、しまり中程度。白色粒を少量含む
- 12 褐灰色土(10YR4/1)：粘性中程度、しまり中程度。焼土粒を中量含み、灰が混じる
- 13 黒褐色土(10YR3/1)：粘性中程度、しまり中程度。白色粒・5mm大の小礫を少量含む
- 14 灰黄褐色土(10YR5/2)：粘性弱、しまり強。焼土粒・5mm大の小礫を中量、炭化物を少量含む
- 15 褐色土(5YR5/6)：焼土主体。粘性弱、しまり強。白色粒を少量含む
- 16 にぶい黄褐色土(10YR6/4)：粘性弱、しまり強。白色粒を少量含み、褐色土が混じる
- 17 灰黄褐色土(10YR5/2)：粘性弱、しまり強。白色粒・炭化物・5mm大の小礫を少量含む
- 18 にぶい赤褐色土(5YR5/3)：焼土主体。粘性弱、しまり強
- 19 にぶい黄褐色土(10YR5/3)：粘性弱、しまり強。砂礫状の質感。5mm大の小礫を多量に含む
- 20 灰黄褐色砂質土(10YR4/2)：粘性弱、しまり強。5mm大の小礫を少量含む
- 21 褐灰色土(10YR4/1)：粘性弱、しまり強。5mm大の小礫を中量含む

0 1 : 30 1m

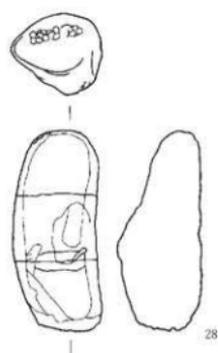
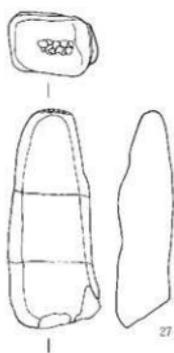
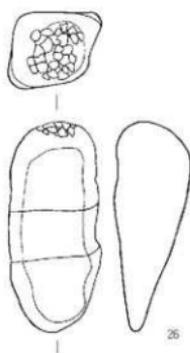
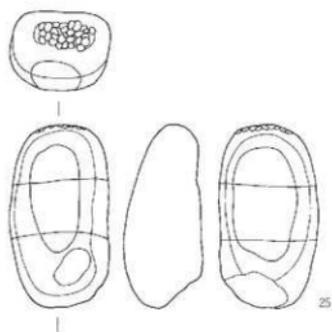
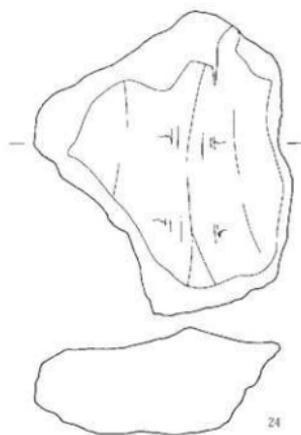
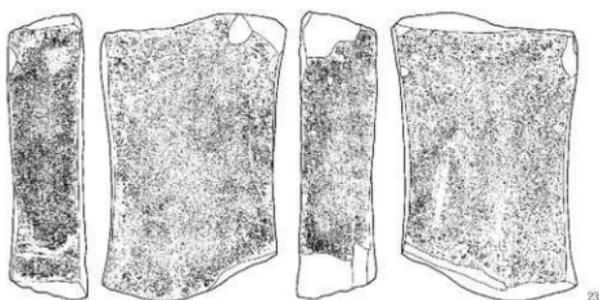
第79図 27号竪穴建物欄



第80图 27号竪穴建物出土遺物(1)

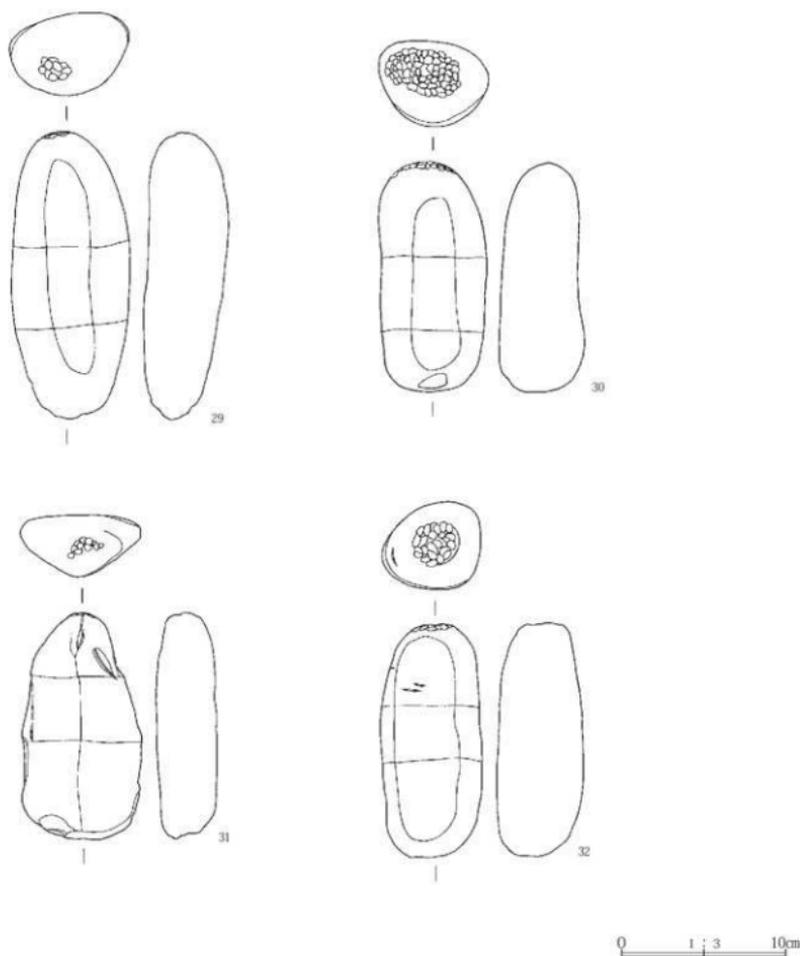


第81図 27号竪穴建物出土遺物(2)



0 1 : 3 10cm

第82図 27号竪穴建物出土遺物(3)



第83図 27号竪穴建物出土遺物(4)

れる建物である。

位置 本建物はA区北部南端のやや西寄りに在り、196～202-140～146グリッドに位置する。

重複 本建物は単独で在り、他遺構との重複は見られなかった。

規模 [竪穴]前後：5.54m 左右：5.37m

深さ：0.54m 床面積：(26.20) m²

[竈] 長さ：1.22m 幅：1.24m

左袖 長さ：0.94m 幅：0.45m 高さ：0.27m

右袖 長さ：0.87m 幅：0.49m 高さ：0.48m

燃烧部 長さ：0.78m 幅：0.32m 深さ：-m

煙道 長さ：0.22m 幅：0.42m 高さ：0.11m

掘り方 長さ：0.47m 幅：0.93m
深さ：0.14m

[P 1] 平面規模：0.63×0.68m 深さ：0.45m

[P 2] 平面規模：0.63×0.62m 深さ：0.34m

[P 3] 平面規模：0.55×0.45m 深さ：0.31m

[P 4] 平面規模：0.57×0.64m 深さ：0.54m

[土坑 1] 平面規模：0.71×0.83m 深さ：0.58m

[周溝 1] 長さ：1.47m 幅：0.17m

深さ：0.05m

[周溝 2] 長さ：1.20m 幅：0.10m

深さ：0.11m

[周溝 3] 長さ：2.13m 幅：0.12m

深さ：0.07m

[周溝 4] 長さ：1.14m 幅：0.21m

深さ：0.07m

埋土 粘性やや弱い黒褐色土、粘性弱く焼土粒・小礫含む褐色土、粘性やや弱く黒色土混入の褐色土等で埋没する。黒褐色砂質土、褐色土混じりの黒褐色土、粘性やや弱く小礫混ざる灰黄褐色土、粘性やや弱く炭化材が入るにぶい黄褐色土が所謂三角堆積を形成する。

構造 [竪穴] 竪穴は縦長のやや隅丸の長方形のプランを呈し、主軸の向きはN82°Eを向く。

[掘り方・床] 本建物は南東部に隅丸台形様のプランを呈する土坑1が掘削され、北東部に若干の掘り込みが散見される掘り方を有し、小礫を多く含む灰黄褐色砂質土で埋め戻して床面を造る。北壁の竪石側(東部、周溝1)、西部(周溝2)、南西隅付近(周溝3)、東壁中程(周溝4)の4カ所に浅い周溝の掘削が見られた。

[竪] 竪は北壁中央付近に設けられ、その方位はN8°Wを向く。壁面手前に隅丸台形様のプランを呈する掘り方を有し、これを小礫を含む粘性の弱い褐色土で埋め戻して燃焼面を作るが、燃焼面は焼土化してにぶい赤褐色土を呈する。

燃焼部の左右に袖が残るが、袖は手前側に板状の袖石が据えられ、その外側に粘性弱く褐色土を混入するにぶい黄褐色土を盛り上げて袖を造る。袖の中ほどの左袖では粘性弱く小礫と焼土粒を含む灰黄褐色土を乗せ、右袖は燃焼部側が焼土化して粘性の弱い褐色土が見られる。袖石と袖石の間、燃焼面近くに板状の天井石が遺る。燃焼部内部の天井の構造は確認できなかった。

[柱穴] 床面にはP1(北西)・P2(南西)・P3(北東)・P4(南東)の4基の柱穴が掘削されている。P1・2は楕円形、P3・4は隅丸長方形のプランを呈する。いずれも断面形が漏斗状を呈しており、この先端部が柱痕だとすると掘り足りていない可能性がある。

柱間は、P1・2間は2.34m、P3・4間は2.21mを測り、P1・3間は2.20m、P2・4間は2.16mを測る。[貯蔵穴] 貯蔵穴は確認されなかった。

[棟] 棟方向は、竪穴の形状と柱間の比較から略南北方向を向くと想定される。桁は略南北。梁は略東西方向を向くと思量され、平均値では桁間は2.275m。梁間は2.18mを測る。また漏斗状断面の足に当たる部分の径はP1で0.13m、P2で0.19m、P3で0.12m、P4で0.13mを測り、これが柱痕跡とすれば柱は4～6寸程度の丸材を使用していたものと思量される。

炭化材が出土しているが、全体として放射状の出土状態を見せるものが多く、垂木と椽を中心とするものと判断される。尚、P3南東側の炭化材はP3の柱が転倒したものである可能性を有するものの、梁・桁・椽材は特定できなかった。なお、これらの炭化材の出土状態から推して、本建物は梁桁以下は奇棟構造であったものと想定される。

遺物 本建物からは土器類では土師器杯(1～13)・甕(14・15)・小型甕(16～18)・甕(19・20)、須恵器甕(21・22)の他、土師器片687片、須恵器片11片の出土を見た。また石製品類では砥石(23・24)、敲石からの転用品(25～32)を含むこも編み石(33～44)が出土しているが、こも編み石は竪穴全体に散布している。

所見 本建物の時期は、出土遺物から推して6世紀後半の所産と判断される。

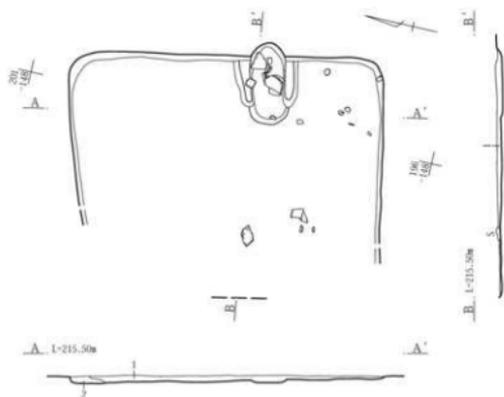
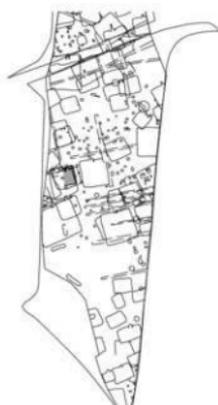
また炭化材の出土状態から推して、本建物は竪石側付近に片火し、当日の風向きは北風であったものと想定される。従って冬季の焼却処分による可能性が考慮される。

28号竪穴建物(第84・85図、PL.16・96)

概要 本建物は竪穴の竪穴建物である。遺存状況は不良で西側は確認できていない。

位置 本建物はA区北部南端部の西寄りなりに、196～200-146～149グリッドに位置する。

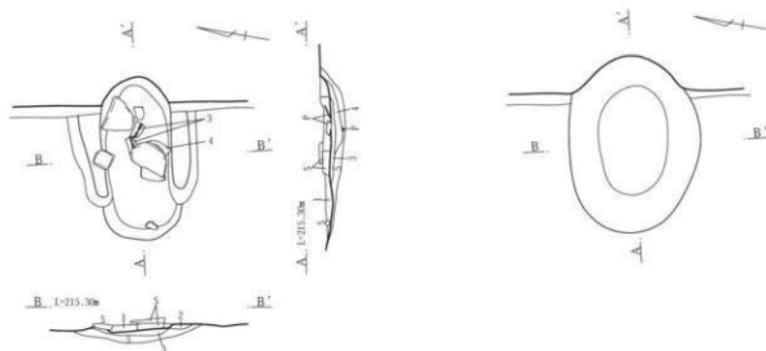
重複 本建物は29号竪穴建物と重複するが、本建物の方



28号竪穴建物A・A'・B-B'

- 1 褐灰色土(10YR4/1)：粘性弱、しまりやや強。5mm大の小礫を少量含む
- 2 にぶい黄褐色土(10YR5/3)：粘性弱、しまり強。黒色土が混じる

0 1 : 60 2m

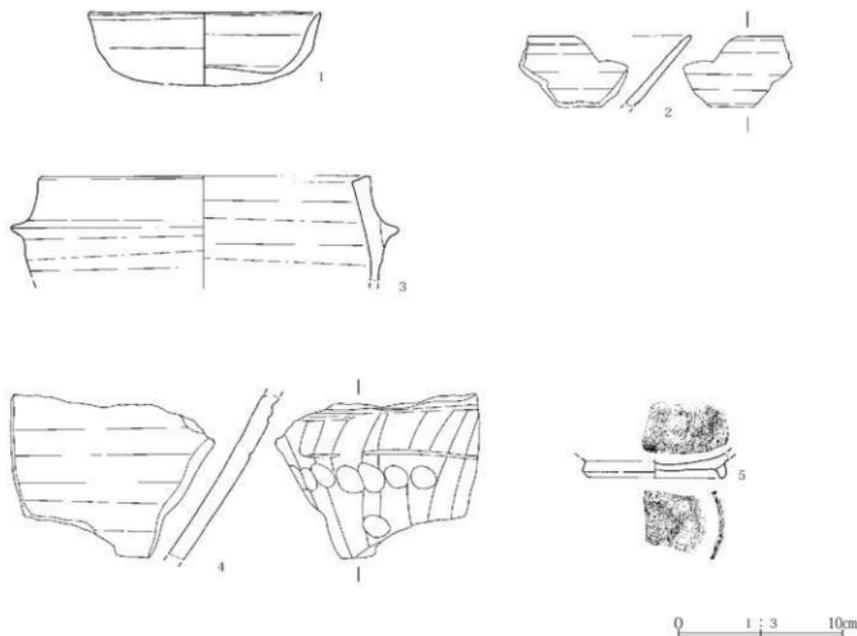


28号竪穴建物竪

- 1 黒褐色土(10YR3/1)：粘性中程度、しまりやや強。焼土粒を中量含む、黄褐色土ブロックが混じる
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2)：粘性やや弱、しまり強。焼土粒・5mm大の小礫を少量含む
- 3 褐灰色土(10YR4/1)：粘性やや弱、しまり強。焼土粒・炭化物を中量含む
- 4 明赤褐色土(5YR5/6)：焼土主体。粘性弱、しまり強。砂礫状の質感。黒色土が混じる
- 5 黒褐色土(10YR3/2)：粘性やや弱、しまり強。5mm大の小礫を少量含む

0 1 : 30 1m

第84図 28号竪穴建物



第85図 28号竪穴建物出土遺物

が新しい。

規模 〔竪穴〕前後：(2.95)m 左右：3.81m
深さ：0.10m 床面積：(9.35)㎡

〔竈〕長さ：1.00m 幅：0.78m

左袖 長さ：0.62m 幅：0.22m 高さ：0.05m

右袖 長さ：0.62m 幅：0.18m 高さ：0.01m

燃焼部 長さ：0.96m 幅：0.47m

深さ：0.03m

掘り方 長さ：0.89m 幅：0.80m

深さ：0.10m

埋土 粘性弱い褐灰色土で埋没する。粘性弱く黒色土混じりのにぶい黄褐色土が所謂三角堆積を形成する。

構造 〔竪穴〕本建物は西側が確認できなかったため全容は把握されないが、竪穴のプランは隅丸方形または隅丸長方形を呈するものと想定される。主軸の向きはN13°WまたはN77°Eを向く。

〔掘り方・床〕本建物は29号竪穴建物と完全に重なるため

断定はできないが、掘り方を確認することはできなかった。従って本書では地床の建物として報告する。

〔竈〕竈は東壁の南寄りに設けられ、その方位はN77°Eを向く。

掘り方を有し、粘性やや弱い黒褐色土とその上位に焼土化し粘性弱く黒色土混じる明赤褐色土で埋め戻して燃焼面を造る。左右に袖が残るが、右袖は少量の焼土粒含み粘性のやや弱い灰黄褐色で造られている。天井部の構造は確認できなかった。

〔柱穴〕柱穴は確認されなかった。

〔貯蔵穴〕貯蔵穴は確認されなかった。

〔棟〕上述のように本建物は全容が確認できなかったため、棟方向は想定できなかった。また上屋構造も想定できなかった。

遺物 本建物からは土師器杯(1)、須恵器椀(2)・羽釜(3・4)、灰釉陶器椀(5)が出土している。このほか土師器片214片、須恵器片15片が出土しているが、本建物

か29号竪穴建物か判別のつかなかった土師器片292片、須恵器片2片が出土している。

所見 本建物の時期は、出土遺物から推して10世紀前半の所産と判断される。

29号竪穴建物(第86～88図、PL.16・96・97)

概要 本建物は竪付の竪穴建物である。

位置 本建物はA区北部南端部の西寄りに在り、195～200-146～151グリッドに位置する。

重複 本建物は28・41号竪穴建物と2号掘立柱建物と重複するが、本建物は28号竪穴建物より古く、41号竪穴建物と2号掘立柱建物よりは新しい。

規模 〔竪穴〕前後：3.76m 左右：5.24m
深さ：0.22m 床面積：17.34㎡

〔竪〕 長さ：1.48m 幅：1.34m

左袖 長さ：0.50m 幅：0.38m 高さ：0.19m

右袖 長さ：0.33m 幅：0.32m 高さ：—m

燃焼部 長さ：0.66m 幅：0.61m

深さ：0.00m

煙道 長さ：0.61m 幅：0.49m 高さ：0.06m

〔周溝1〕 長さ：4.64m 幅：0.16m

深さ：0.05m

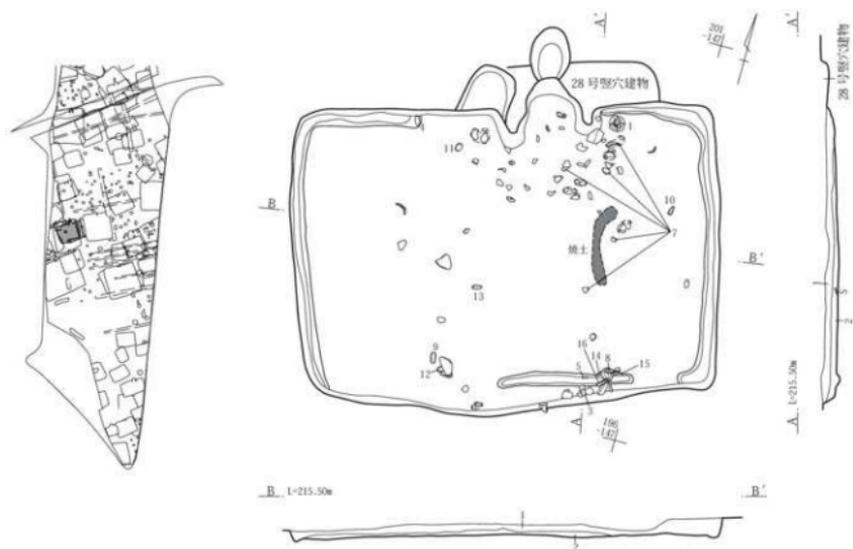
〔周溝2〕 長さ：1.66m 幅：0.17m

深さ：0.05m

〔周溝3〕 長さ：4.76m 幅：0.16m

深さ：0.04m

埋土 共に粘性の弱い小礫含む褐灰色土と黒褐色土で埋没する。所謂三角堆積は確認できなかった。



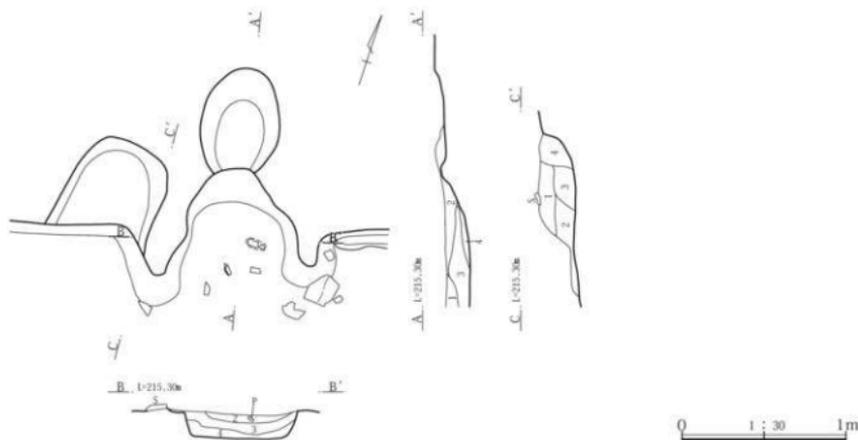
29号竪穴建物A-A'・B-B'

1 褐灰色土(10YR4/1)：粘性弱、しまり強。5mm大の小礫を中量含む

2 黒褐色土(10YR3/1)：粘性弱、しまり強。炭化物・5mm大の小礫を少量含む

0 1:60 2m

第86図 29号竪穴建物



29号竪穴建物竈A-A'・B-B'

- 1 黒褐色土(10YR3/2)：粘性やや弱、しまり強。5mm大の小礫を少量含む
- 2 黒褐色土(10YR3/2)：粘性やや弱、しまり強。焼土粒を少量含む
- 3 灰黄褐色土(10YR4/2)：粘性やや弱、しまり強。焼土粒を中量、白色粒を少量含む、黒色土が混じる
- 4 にぶい黄褐色土(10YR4/3)：焼土主体。粘性やや弱、しまり強。褐色土が混じる

29号竪穴建物竈C-C'

- 1 褐色土(10YR4/1)：粘性やや弱、しまり強。5mm大の小礫を中量含む
- 2 黒褐色土(10YR3/1)：粘性やや弱、しまりやや強。焼土粒・5mm大の小礫を少量含む、褐色土が混じる
- 3 灰黄褐色土(10YR4/2)：粘性中程度、しまりやや強。白色粒・焼土粒を少量含む
- 4 褐色土(5YR5/6)：焼土主体。粘性弱、しまり強。黒色土が混じる

第87図 29号竪穴建物竈

構造 [竪穴]竪穴は横長の隅丸長方形のプランを呈し、主軸の向きはN75°Eを向く。

[掘り方・床]本建物では掘り方は確認されておらず、床面は地床と判断される。

幅狭で浅い周溝が竪穴の北壁西寄りから西壁(周溝1)、南壁中央東寄り(周溝2)、南東隅から東壁、北壁東部の竈東側までの間の3カ所に掘削されているのを確認している。

[竈]竈は北壁のやや東寄りに設けられ、その方位はN11°Wを向く。

掘り方は確認されず、竪穴北壁を跨いで燃焼部が設けられ、燃焼部の袖が設けられる。左袖は少量の焼土粒を含む灰黄褐色土と粘性やや弱い黒褐色土の上に粘性やや弱く小礫を含む褐色土を載せて造られている。

天井部の構造は確認できなかったが、A-A'・B-B'セクションの3・4層土がその崩落土の可能性を有する。

楕円形プランを呈する幅広の煙道を伴うが遺存状態は

不良で明確な形状は把握できなかった。

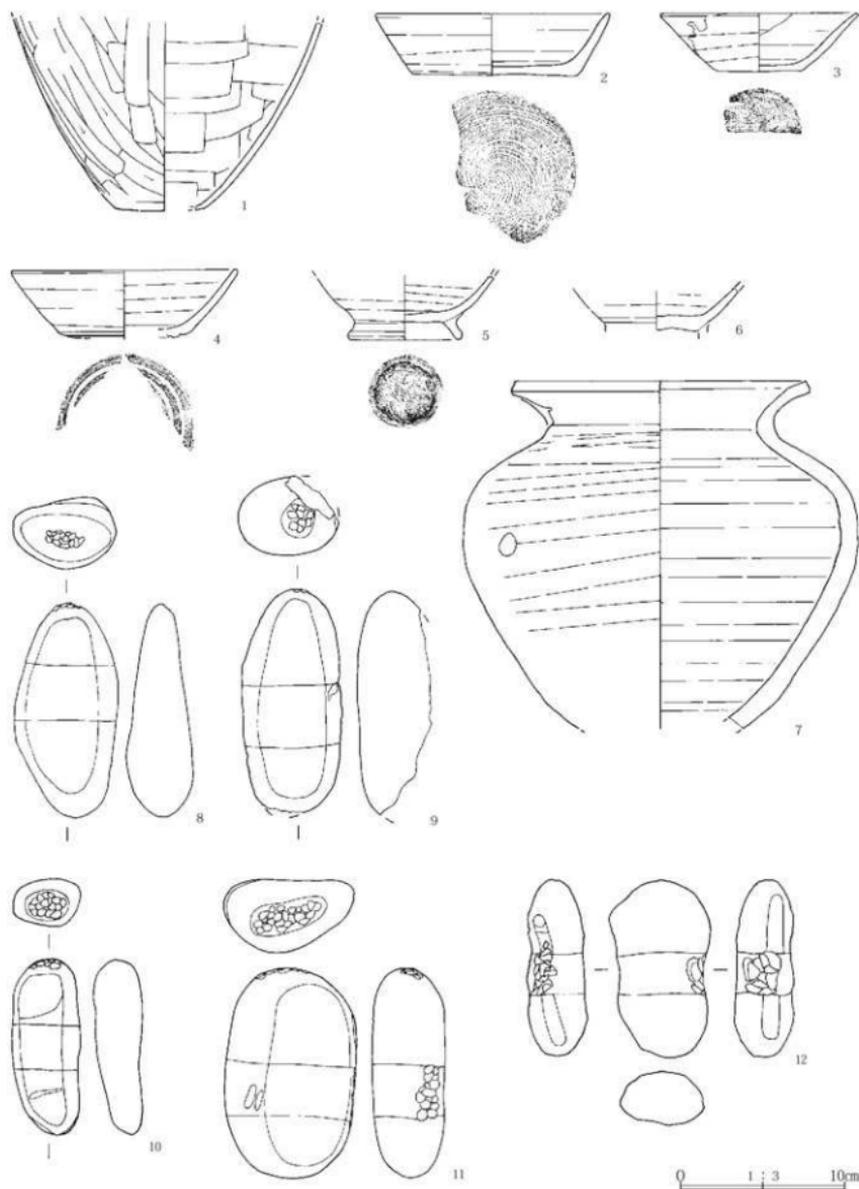
[柱穴]柱穴は確認されなかった。

[貯蔵穴]貯蔵穴は確認されなかった。

[棟]竪穴の形状から推して本建物の棟方向は、略東西方向を向くものと想定されるが、上屋構造を確認することはできなかった。

遺物 本建物では竈周辺と南壁中東部に多くの遺物の出土が見られ、また竈右袖手前の建物中東部に焼土の分布が見られた。出土遺物には土師器では甕(1)のほか破片940片、須恵器では杯(2~4)、高台付椀(5・6)、小型甕(7)のほか破片44片の出土が見られ、石製品では燧石から転用のこも編み石(8~11)、こも編み石(12~16)の出土が見られた。また前述のようにその帰属が本建物か28号竪穴建物のいずれか判別のつかなかった土師器片292片、須恵器片2片がある。

所見 本建物の時期は、出土遺物から推して10世紀第2・3四半期の所産と判断される。



第88図 29号竪穴建物出土遺物

30号竪穴建物(第89～92図、PL.17・97)

概要 本建物は竪付の竪穴建物である。北西隅付近がトレンチで壊されており、全容を把握することはできなかった。

位置 本建物はA区北部南東に在り、201～206-135～141グリッドに位置する。

重複 本建物は27号ピットと重複するが、これに切られている。

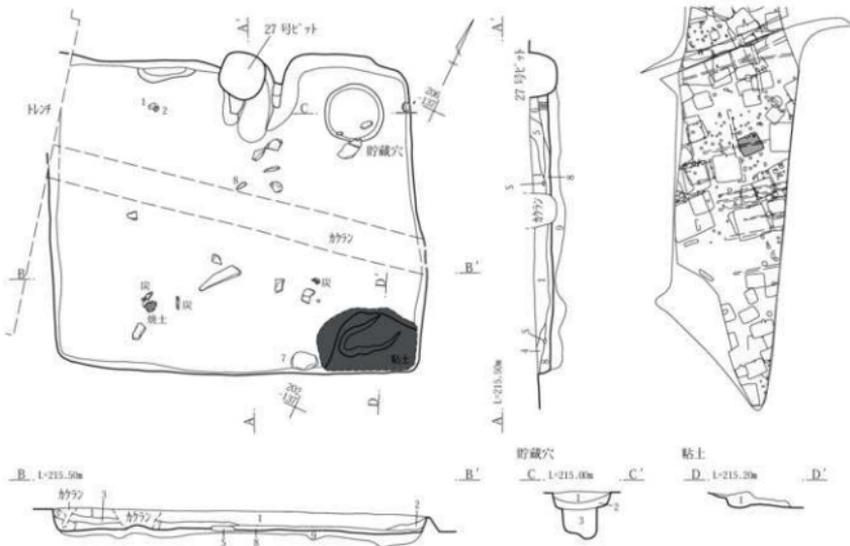
規模 [竪穴]前後:3.91m 左右:4.56m

深さ:0.30m 床面積:(15.64)㎡

[竪]長さ:(0.98)m 幅:0.91m

左袖 長さ:(0.34)m 幅:0.30m

高さ:0.05m



30号竪穴建物A-A'・B-B'

- 1 黒褐色土(10YR3/1):粘性弱、しまり強。褐色粒・5mm大の小礫を少量含む
- 2 褐灰色土(10YR4/1):粘性中程度、しまりやや強。黒色土が混じる
- 3 灰黄褐色土(10YR4/2):粘性やや弱、しまり強。白色粒・5mm大の小礫を少量含む
- 4 灰黄褐色土(10YR4/2):粘性やや弱、しまり強。褐色粒・5mm大の小礫を少量含む
- 5 褐灰色土(10YR4/1):粘性やや弱、しまり強。白色粒・5mm大の小礫を少量含む。褐色土が混じる
- 6 にぶい黄褐色土(10YR5/3):粘性中程度、しまりやや強。焼土粒・5mm大の小礫を少量含む
- 7 褐灰色土(10YR4/1):粘性やや弱、しまりやや強。褐色粒・5mm大の小礫を少量含む
- 8 灰黄褐色砂質土(10YR4/2):粘性中程度、しまり強。黒色土が混じる
- 9 褐灰色砂質土(10YR4/1):粘性弱、しまり強。5mm大の小礫を多量に含む

30号竪穴建物貯蔵穴

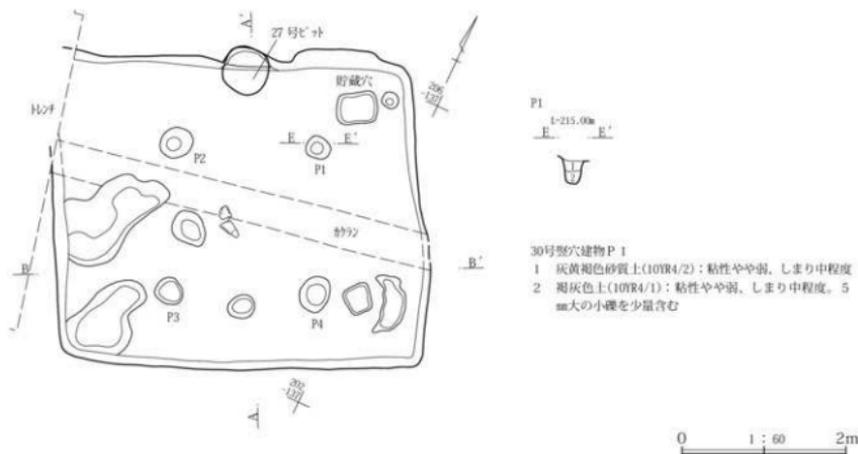
- 1 灰黄褐色土(10YR4/2):粘性やや弱、しまり強。白色粒・5mm大の小礫を微量に含む。瀝石が出土
- 2 黒褐色砂質土(10YR3/1):粘性中程度、しまり強
- 3 黒褐色土(10YR3/1):粘性中程度、しまりやや強。褐色粒・5mm大の小礫を中量含む

30号竪穴建物粘土

- 1 褐灰色土(10YR4/1):粘性中程度、しまり強。白色粒・5mm大の小礫を少量含む。褐灰色粘土をベースに黄褐色土ブロックが混じる

0 1:60 2m

第89図 30号竪穴建物(1)



第90図 30号竪穴建物(2)

右袖 長さ:0.87m 幅:0.34m 高さ:0.11m

燃焼部 長さ:(0.80)m 幅:0.35m

深さ:0.03m

掘り方 長さ:0.18m 幅:0.54m 深さ:—m

[貯蔵穴] 平面規模:0.71×0.71m 深さ:0.22m

[P 1] 平面規模:0.26×0.30m 深さ:0.33m

[P 2] 平面規模:0.42×0.36m 深さ:0.29m

[P 3] 平面規模:0.34×0.32m 深さ:0.28m

[P 4] 平面規模:0.44×0.36m 深さ:0.43m

[周溝] 長さ:0.70m 幅:0.18m 深さ:0.04m

埋土 粘性弱い黒褐色土、黒色土混ざる灰黄褐色砂質土等で埋没する。明確な三角堆積は確認できなかった。

構造 [竪穴]竪穴は横長の長方形のプランを呈し、主軸の向きはN65° Eを向く。

[掘り方・床]本建物は土坑・ピット様の掘り込みが見られる掘り方を有し、これを、小礫を多く含む褐灰色砂質土で埋め戻して床面を造っている。

竪穴北西壁の竪左側に浅い周溝が短く確認された。

[竪]竪は北西壁中央やや北東寄りに設けられ、その方位はN17° Wを向く。

形状不明の掘り方を有し、これを褐灰色砂質土で埋め

て燃焼面を造るが、燃焼面は焼土化してにぶい赤褐色土となる。

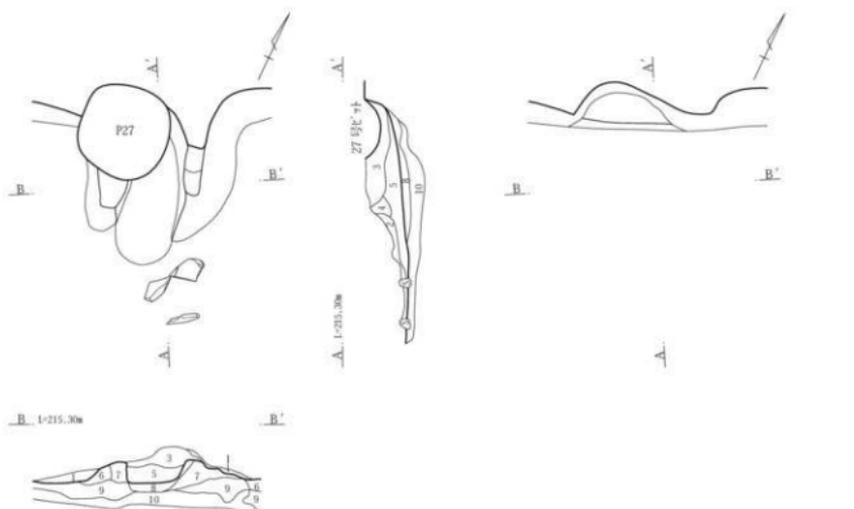
燃焼部の左右両側には粘性の弱い黒褐色土、左袖には粘性の弱い黒色土混じりの褐灰色土を盛って袖を造るが、その燃焼面側は焼土化してにぶい赤褐色土となっている。

天井部の構造は確認できなかったが、内部の5層土(にぶい赤褐色焼土)は、その崩落土の可能性を有する。

[柱穴]床面に柱穴は確認されなかったが、掘り方に柱穴と判断されるP 1(北)・P 2(西)・P 3(南)・P 4(東)の4基ピットの掘削が見られる。これらは建物建設時の痕跡と考えられ、柱の周囲は床土で埋められていたものと思量される。

柱間は、P 1・2間は1.74m、P 3・4間は1.77mを測り、P 1・3間は1.80m、P 2・4間は1.79mを測る。後述の棟の想定方向から推して、前2者が桁間、後2者が梁間と考えられ、平均値は桁間が1.755m、梁間が1.795mで、僅かに梁間の方が長い。

[貯蔵穴]貯蔵穴は竪右側の竪穴東間近くに掘削される。プランは床面では横長の楕円形を呈し、掘り方では横長の隅丸長方形を呈しており、後者を埋め戻した後、前者



30号竪穴建物遺

- 1 土質黄褐色土(10YR5/3)：粘性やや弱、しまりやや強。5mm大の小礫を少量含み、黒色土が混じる
- 2 褐色土(10YR4/1)：粘性中程度、しまりやや強。焼土粒・5mm大の小礫を微量に含む
- 3 灰黄褐色土(10YR5/2)：粘性やや弱、しまりやや強。5mm大の小礫を少量含む
- 4 土質赤褐色土(5YR5/4)：焼土主体。粘性やや弱、しまりやや強。5mm大の小礫を少量含み、黒色土が混じる
- 5 土質赤褐色土(5YR5/3)：焼土主体。粘性やや弱、しまりやや強。焼土粒・5mm大の小礫を微量に含む
- 6 褐色土(10YR4/1)：粘性弱、しまりやや強。5mm大の小礫を少量含み、黒色土が混じる
- 7 土質赤褐色土(5YR5/4)：焼土主体。粘性弱、しまり強
- 8 土質赤褐色土(5YR5/3)：焼土主体。粘性弱、しまり強。5mm大の小礫を微量に含む。上面が強く焼ける
- 9 黒褐色土(10YR3/1)：粘性弱、しまり強。褐色粒・5mm大の小礫を少量含む
- 10 褐色砂質土(10YR4/1)：粘性弱、しまり強、砂礫状の質感

0 1:30 1m

第91図 30号竪穴建物遺

を改めて掘削したものと見られる。

〔棟〕棟方向は、竪穴の形態から北東—南西方向を向いていたものと判断される。上述の柱の位置から推して、竪穴と想定されるものの、北東—南西の梁・桁以下の屋根に対して、北西—南東方向の屋根の傾斜は鋭角であったと思量される。棟の形状は想定できなかった。

遺物 竪穴の南隅付近には1.20×0.76mの範囲で、高さ0.13mに粘土が盛り上げられていたが、用途等は確認されなかった。また、貯蔵穴からはこも編み石が出土している。このほか本建物からは、土師器の杯(1・2)と甕(3・4)、破片87片、須恵器の杯(5)と蓋(6)、破片2

片が出土したほか、研磨面と敲打痕を残す台石(7)とも編み石(8)の出土が見られた。

所見 本建物の時期は、出土遺物から推して8世紀前半の所産と判断される。

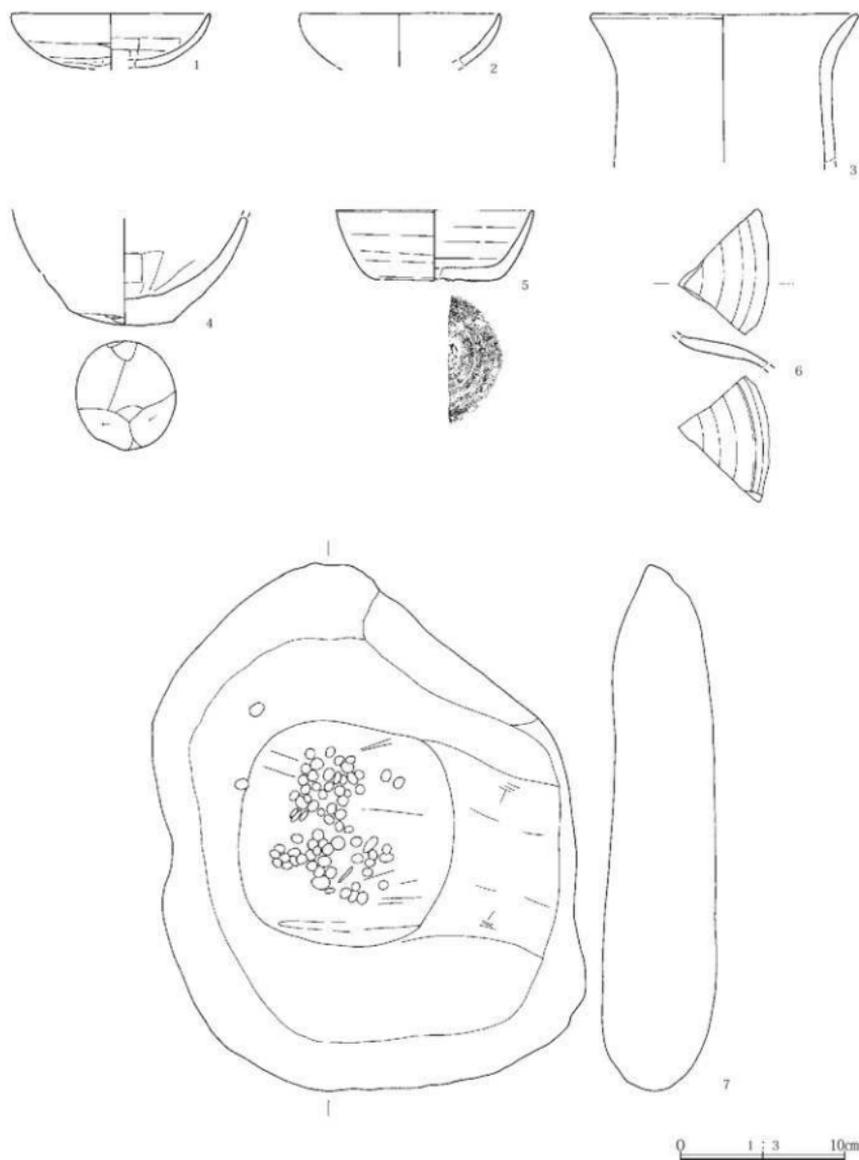
31号竪穴建物(第93～96図、PL.18・98・99)

概要 本建物は竪穴建物である。東側が調査区外に出るため、全容は把握できなかった。

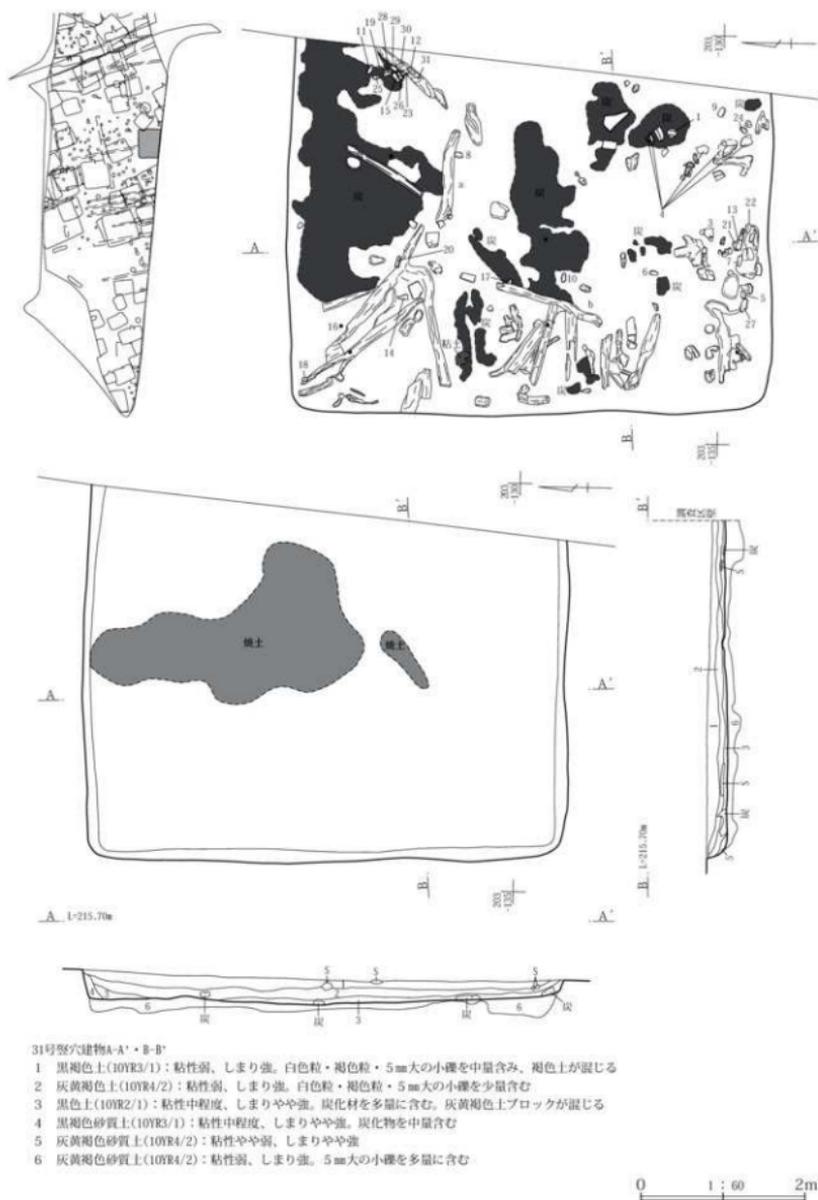
尚、本建物は所謂焼失家屋である。

位置 本建物はA区北部南東の調査区東壁際に在り、202～208-130～134グリッドに位置する。

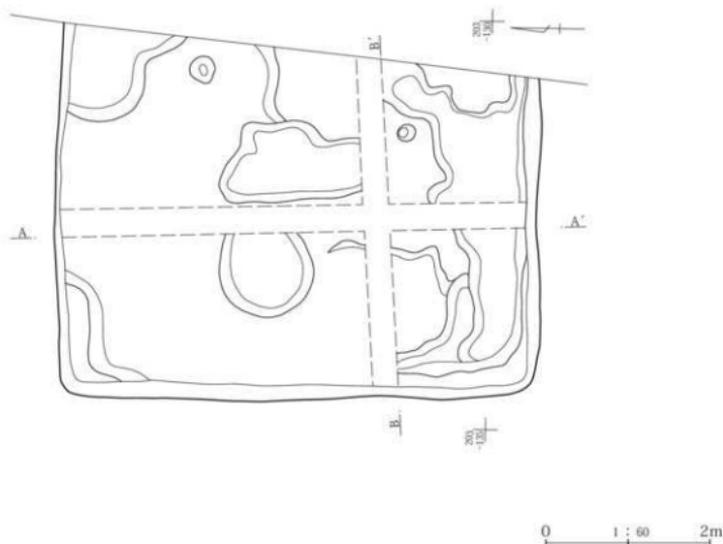
重複 本建物は北壁の一部で34号竪穴建物と重複する



第92図 30号竪穴建物出土遺物



第93図 31号整穴建物(1)



第94図 31号竪穴建物(2)

が、本建物の方が古い。

規模 [竪穴]前後：5.88m 左右：(4.54)m
深さ：0.40m 床面積：(23.21)㎡

埋土 粘性の弱い小礫と褐色土を含む黒褐色土と粘性の弱い灰黄褐色土、床面上には灰黄褐色土と多量の炭化物を含む黒色土で埋没する。灰黄褐色砂質土、あるいは炭化物を含む黒褐色砂質土で三角堆積を形成する。

構造 [竪穴]竪穴は方形或いは長方形を呈する。主軸の向きはN01°Wを向く。

[掘り方・床]本建物は不規則な凹凸が見られる掘り方を有し、これを、小礫を多量に含む灰黄褐色砂質土で埋め戻して床を造る。

調査範囲の床面中・中北部の床面には焼土の広がり確認された。

[竈]竈は確認されなかった。尚、調査区外の東部に設けられていた可能性が考慮される。

[柱穴]柱穴は確認されなかった。

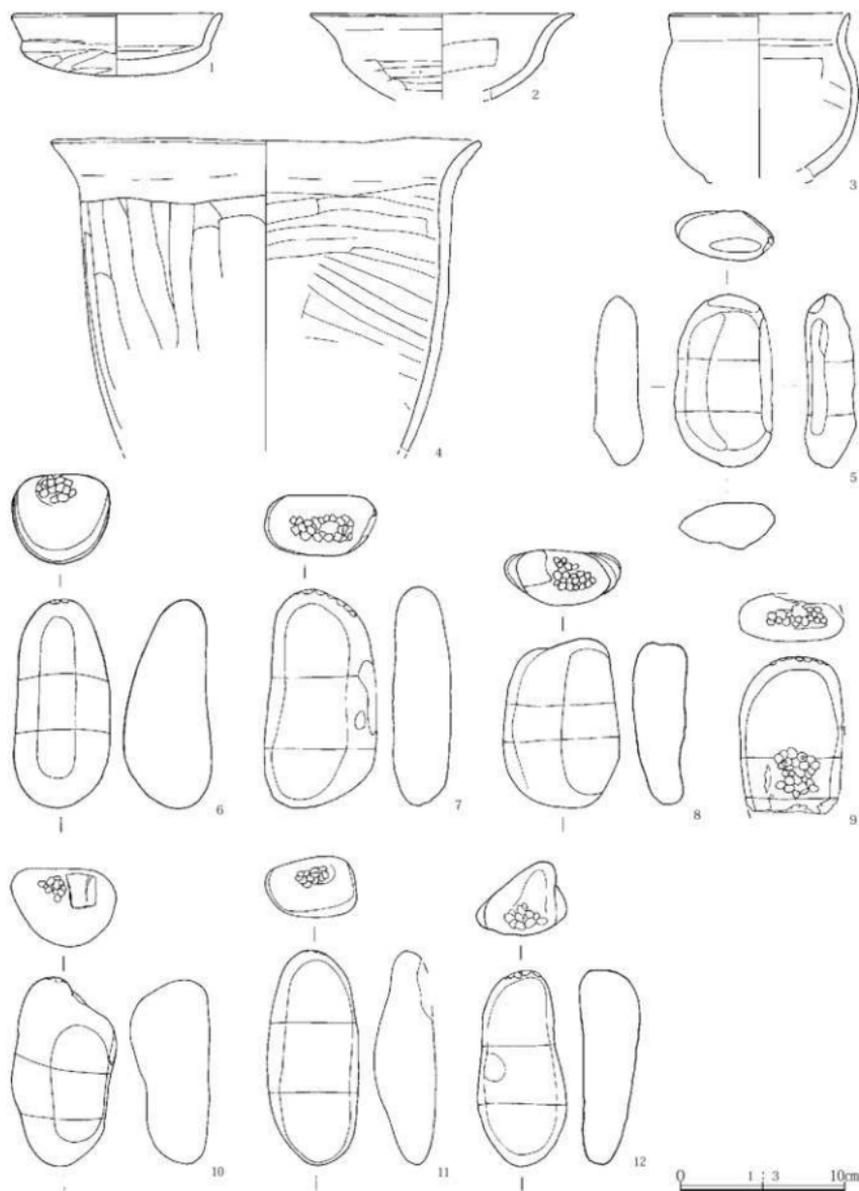
[貯蔵穴]貯蔵穴も確認されなかった。

[棟]確認範囲で広く炭化材と炭化物の分布が見られた。炭化材の多くは梁・桁以下の屋根を構成する垂木あるいは椽と判断されたが、中央部北寄りに出土した東西方向を向く炭化材(a)は梁あるいは桁材の可能性が考えられる。また中央部西寄りに出土した南北方向を向く炭化材(b)は梁・桁材の可能性が考慮されるが、その太さから推して棟材の可能性がある。

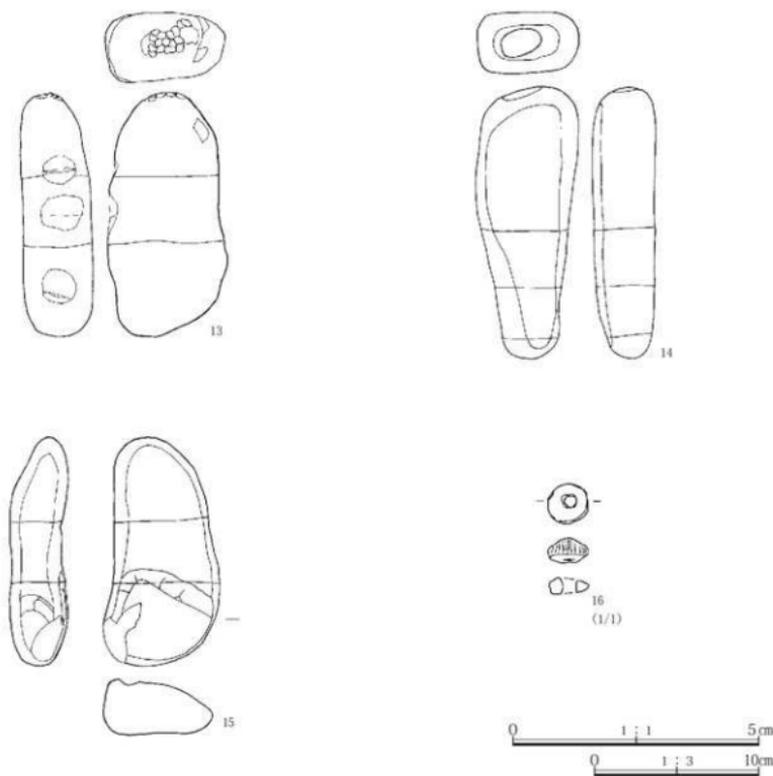
本建物の棟方向は全容が把握できないことから想定できなかったが、上述の炭化材(b)が棟材であり、また竈が東壁に設置されていたとするならば、南北方向を向いていたと想定される。

出土炭化材から推して、本建物は梁・桁以下は寄棟で造られていたものと思量される。

遺物 本建物からは土器器の杯(1)・高杯(2)・小型甕(3)・甕(4)と破片293片が出土した。このほか叢石から転用のこも編み石(6～13)、こも編み石(15・17～



第95図 31号竪穴建物出土遺物(1)



第96図 31号竪穴建物出土遺物(2)

31)と白玉(16)1片の出土が見られた。

所見 本建物の時期は、出土遺物から推して6世紀後半の所産と判断される。

繰り返しになるが本建物は全容が確認できなかったため明確ではないが、本建物は南あるいは南東の風の時に南東部付近に着火されたものと推定される。

32号竪穴建物(第97～99図、PL.18・19・99・100)

概要 本建物は竈付の竪穴建物である。本建物の西側は調査区外に出るため、全容は把握できなかった。

位置 本建物はA区北部南西寄りの調査区西壁際に在り、203～209-147～152グリッドに位置する。

重複 本建物は33号竪穴建物と重複するが、本建物の方が古い。

規模 [竪穴]前後:(4.85)m 左右:5.14m
深さ:0.38m 床面積:(19.68)㎡

[竈] 長さ:0.90m 幅:1.03m

左袖 長さ:0.78m 幅:0.35m 高さ:0.21m

右袖 長さ:0.75m 幅:0.30m 高さ:0.11m

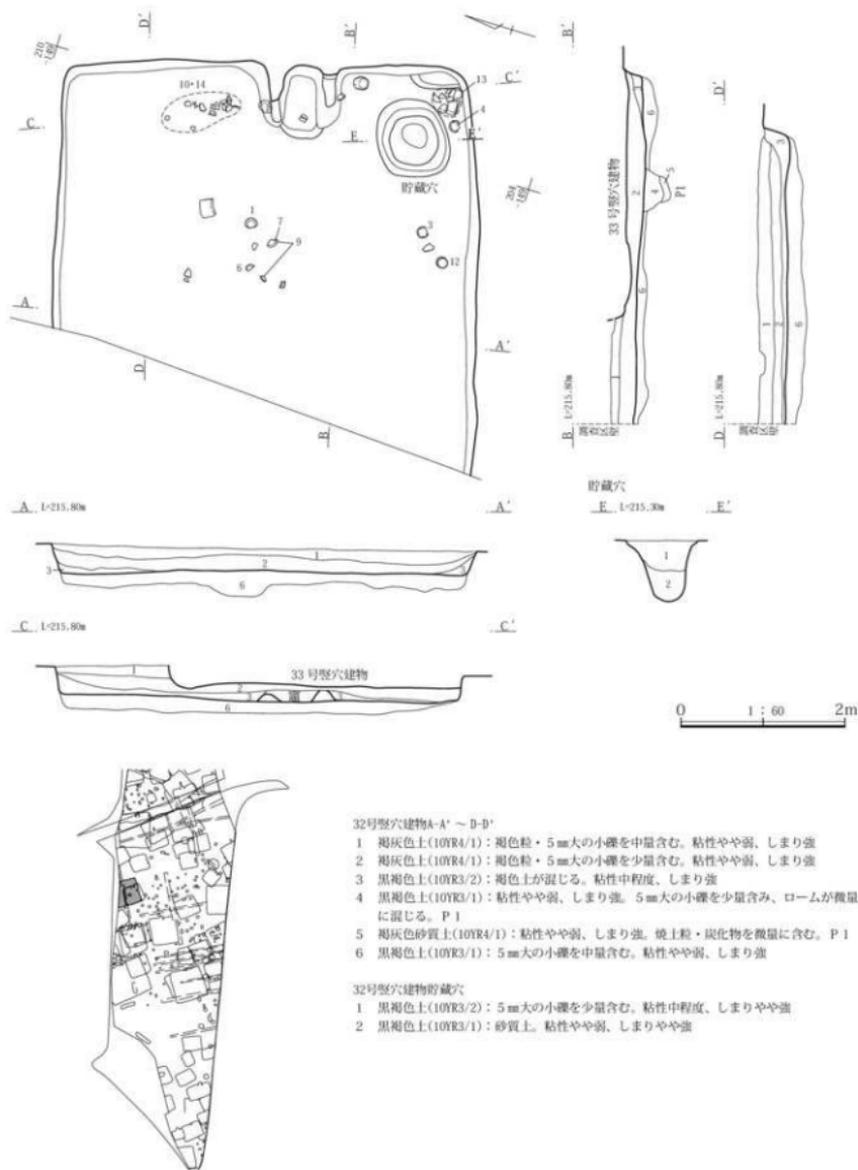
燃焼部 長さ:0.76m 幅:0.52m

深さ:0.02m

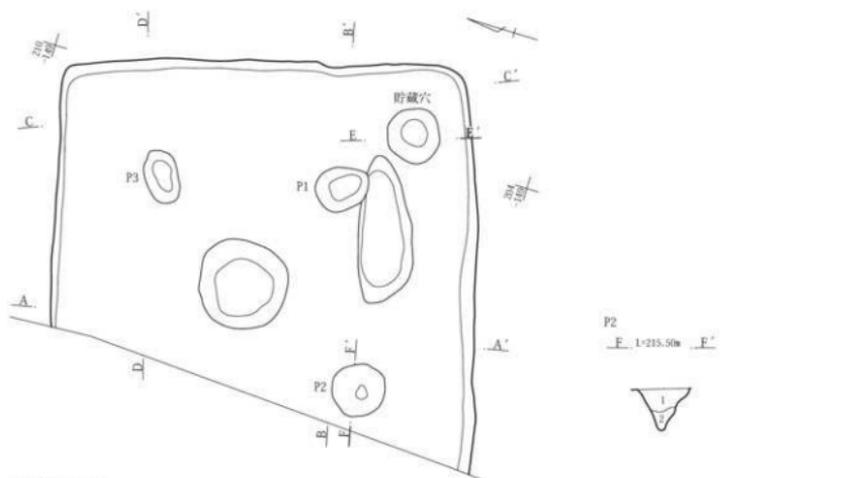
[貯蔵穴] 平面規模:0.95×0.87m 深さ:0.75m

[P1] 平面規模:0.53×0.66m 深さ:0.33m

[P2] 平面規模:0.63×0.65m 深さ:0.52m

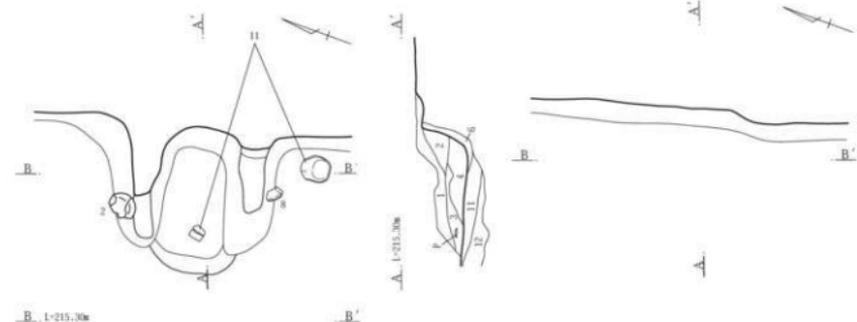


第97図 32号型建物(1)



32号竪穴建物 P 2

- 1 褐灰色土(10YR4/1)：粘性やや弱、しまりやや強。白色粒・5mm大の小礫を少量含む
- 2 灰黄褐色砂質土(10YR4/3)：粘性やや弱、しまりやや強

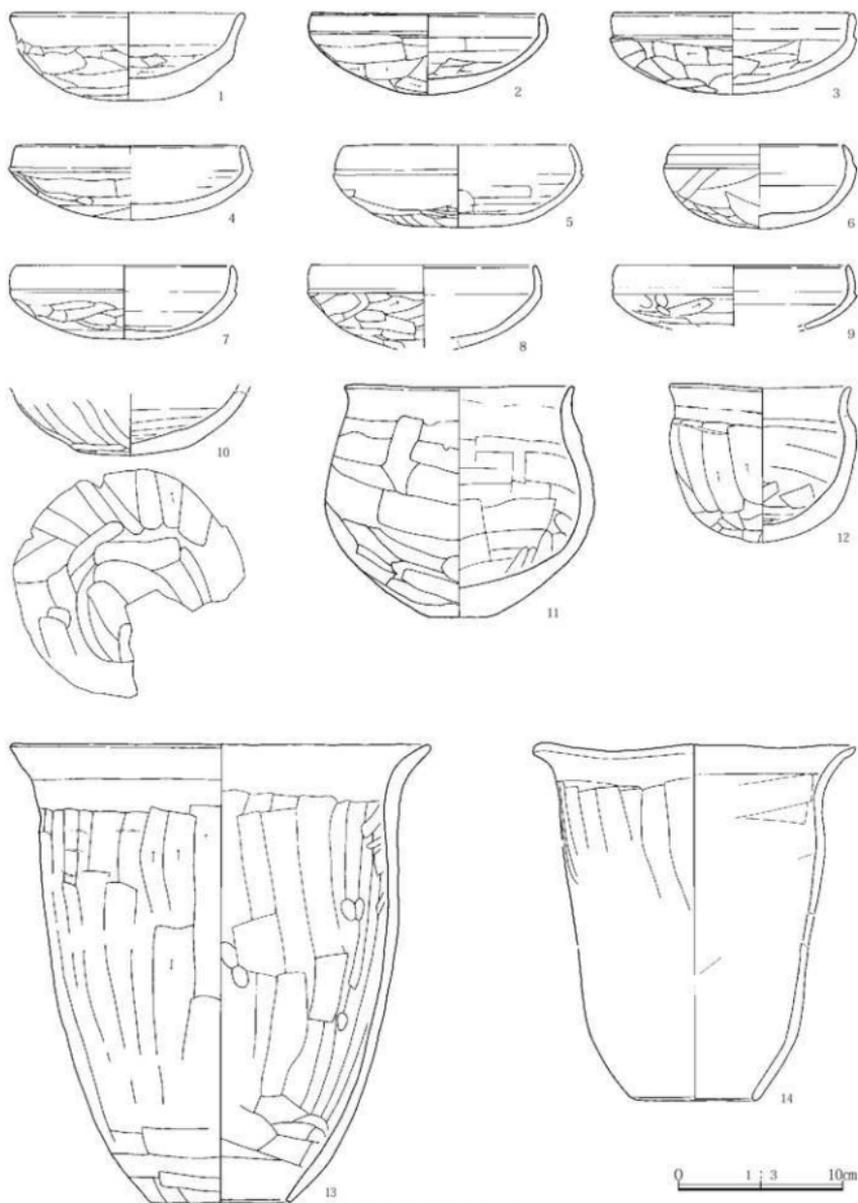


32号竪穴建物竪

- 1 褐灰色土(10YR4/1)：粘性中程度、しまりやや強。褐色土ブロックを多量に含む
- 2 褐灰色土(10YR4/1)：粘性中程度、しまりやや強。褐色土ブロックを中量含む
- 3 にぶい赤褐色土(5YR5/3)：焼土主体。粘性やや弱、しまりやや強。黒色土が混じる
- 4 黒褐色土(10YR3/1)：粘性中程度、しまりやや強。焼土ブロックが混じる

- 5 黒褐色土(10YR3/1)：粘性やや弱、しまり強。白色粒・5mm大の小礫を少量含む
- 6 明赤褐色土(2.5YR5/6)：焼土主体。粘性やや弱、しまり強。強く焼ける
- 7 にぶい黄褐色土(10YR5/3)：粘性中程度、しまりやや強。ロームブロック
- 8 褐灰色土(10YR4/1)：粘性やや弱、しまりやや強。焼土粒・炭化物を微量に含む
- 9 にぶい黄褐色土(10YR5/3)：ローム主体。粘性中程度、しまりやや強。焼土粒を少量含む
- 10 黒褐色土(10YR3/1)：粘性中程度、しまり強。ローム粒を少量含む
- 11 灰黄褐色砂質土(10YR5/2)：粘性弱、しまりやや強
- 12 にぶい黄褐色ローム質土(10YR5/3)：粘性中程度、しまり強。5mm大の小礫を少量含む

第98図 32号竪穴建物(2)



第99図 32号竪穴建物出土遺物

[P 3] 平面規模：0.66×0.40m 深さ：0.33m

[周溝] 長さ：0.52m 幅：0.21m 深さ：0.03m

埋土 小礫を含む粘性のやや弱い褐灰色土で埋没する。褐色土混ざる黒褐色土が所謂三角堆積を形成するが、この土は北側で床面を0.03～0.08m厚で覆っており、土葺材としても使用されたものと思量される。

構造 [竪穴] 本建物は西側が調査区外に出るため、全容は詳らかでないが、竪穴は縦長の長方形に近い隅丸長方形のプランを呈する。その主軸の向きはN17°Wを向く。

[掘り方・床] 本建物は中央部に隅丸台形プランを呈する径1.08×1.07m、深さ0.42m、南部に長さ1.80m、幅0.67m、深さ0.33mを測る溝状の掘り込みを伴う掘り方を有し、これを小礫含む粘性のやや弱い黒褐色土で埋め戻して、床面を造る。

[竈] 竈は東壁中央やや南寄りに設けられ、その方位はN77°Eを向く。

掘り方の形状は不明瞭だが、黒褐色土と袖にも使われる粘性やや弱く焼土粒と炭化物微量を含む褐灰色土で埋め戻して燃焼面を造る。燃焼面は部分的に焼土化が認められる。

左右に袖が残る。袖は掘り方で使用した褐灰色土、焼土粒少量含むにぶい黄褐色ロームで造られ、右袖の燃焼部側は焼土化して明赤褐色を成す。また両袖からは礫も出土するがこれらは袖石ではない。

天井部の構造は確認できなかったが、4層土(にぶい赤褐色焼土)がその崩落土の可能性を有する。

[柱穴] 床面に柱穴は確認されなかったが、掘り方面に於いてP1(南東)・P2(北東)・P3(南西)の3基の柱穴の掘削が確認されている。柱穴はいずれも長短の違いはあるが楕円形のプランを呈する。また床面に柱穴が確認されないことから、柱は立て替えられていないものと判断される。

柱間はP1・2間は2.23m、P1・3間は2.54mを測る。この梁間は、後述の推定される棟方向から、前者が桁間、後者が梁間であると判断される。

[貯蔵穴] 貯蔵穴は竈右側、竪穴の南東隅近くに掘削される。そのプランは床面では隅丸長方形、中下位置は円形に近い隅丸長方形を呈する。横断面形は漏斗状を呈し、足部分が貯蔵穴本体となる。掘削形態はしっかりしており、底面は丸底を呈する。本体より外周は0.13～0.20m広

がっており、ここに蓋をしていたものと思量される。

[棟] 本建物は全容が把握できていないが、竪穴の形状と柱穴の位置から推して、棟方向は東西方向を向いていたものと判断される。

上層構造は確認できなかったが、梁・桁以下の屋根は寄棟造りであったものと想定される。

遺物 本建物から土師器の杯(1～9)・甕(10)・小型甕(11・12)・甕(13・14)と土師器片476片と須恵器片13片が出土している。

所見 本建物の時期は、出土遺物から推して6世紀後半の所産と判断される。

33号竪穴建物(第100～102図、PL.19・100)

概要 本建物は竈付の竪穴建物である。建物西部は掘削により上位が壊されている。

位置 本建物はA区北部南西寄りに在り、204～208-147～151グリッドに位置する。

重複 本建物はA区北部の32号竪穴建物、25号ピット、5号焼土と重複するが、本建物は前者、中者より新しく、後者よりは古い。

規模 [竪穴]前後：3.57m 左右：3.95m

深さ：0.18m 床面積：11.95㎡

[竈] 長さ：0.80m 幅：0.90m

左袖 長さ：0.55m 幅：0.25m 高さ：0.17m

右袖 長さ：0.55m 幅：0.26m 高さ：0.18m

燃焼部 長さ：0.73m 幅：0.56m

深さ：0.05m

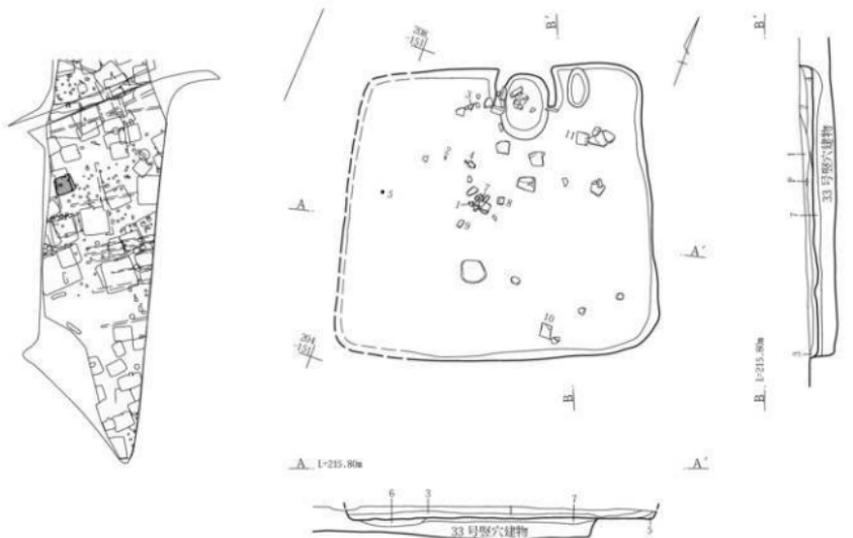
埋土 粘性やや弱く小礫含む灰黄褐色土や粘性やや弱い褐灰色土等で埋没する。東壁際で粘性やや弱い黒褐色土が三角堆積を見せる。

構造 [竪穴] 竪穴は正方形に近い隅丸台形のプランを呈し、主軸の向きはN70°Eを向く。

[掘り方・床] 上述のように本建物は32号竪穴建物と重複し同建物の埋土中にあるため、平面的には確認できず土層断面のみで確認できたに過ぎなかったが、掘り方を有する。この掘り方を黒褐色砂質土と小礫を含む褐灰色土で埋め戻して床面を造っている。

[竈] 竈は北壁中央やや東寄りに設けられ、その方位はN20°Wを向く。

竪穴の掘り方同様土層断面でのみ確認できなかったが



33号竪穴建物A-A'・B-B'

- 1 灰黄褐色土(10YR5/2)：粘性やや弱、しまり強。5mm大の小礫を中量含む
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2)：粘性やや弱、しまり強。5mm大の小礫を少量含む
- 3 褐灰色土(10YR4/1)：粘性やや弱、しまり強。炭化物・5mm大の小礫を微量に含む
- 4 黒褐色土(10YR3/1)：粘性やや弱、しまり強。白色粒を少量含む
- 5 黒褐色土(10YR3/2)：粘性やや弱、しまり強。褐色粒を微量に含む
- 6 黒褐色砂質土(10YR3/2)：粘性中程度、しまり強
- 7 褐灰色土(10YR4/1)：粘性中程度、しまり強。5mm大の小礫を中量含む

0 1 : 60 2m

第100図 33号竪穴建物

竈も掘り方を有し、いずれも粘性の弱い灰黄褐色土、焼土粒を多量に含む褐灰色土、焼土の混ざる褐灰色土で埋め戻して燃焼面を造っている。

燃焼部の左右に袖が残るが、手前に袖石を立て、左袖の外側には焼土ブロック含む粘性のやや弱い黒褐色土を盛り、右袖は粘性の弱い褐灰色土を残して作っている。

天井部の構造は確認できなかった。

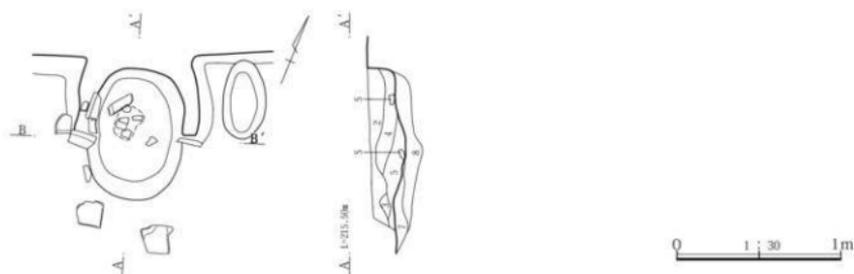
〔柱穴〕柱穴は確認できなかった。

〔貯蔵穴〕貯蔵穴は確認できなかった。

〔棟〕棟方向も竪穴の形状からは想定できず、上屋構造も想定できなかった。

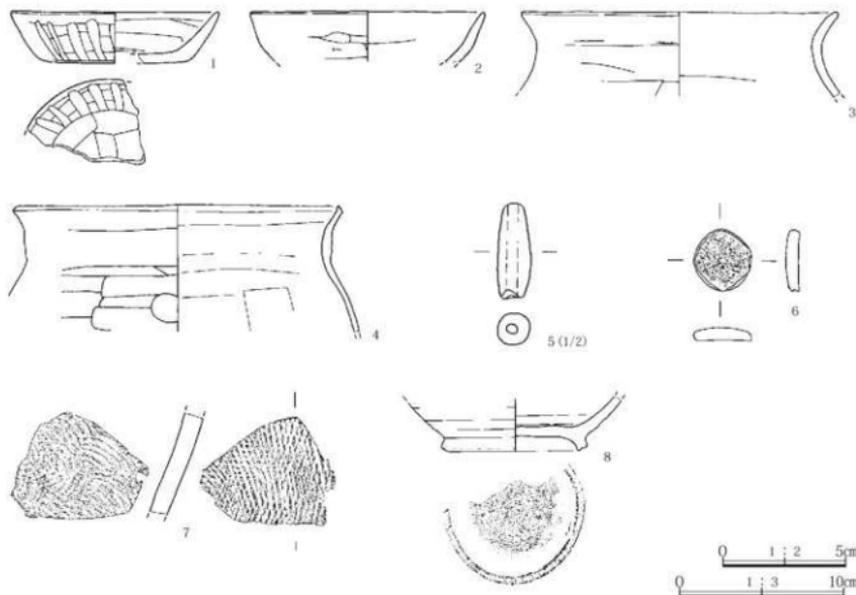
遺物 本建物からは土師器杯(1・2)・甕(3・4)、土錘(5)、土製円盤(6)、須恵器の甕(7)・高台付椀(8)、土師器片422片、須恵器片25片が出土している。その他、砥石(9)、竈に使用した天井石(10)や天井石と思われる石材(11)の出土も見られた。

所見 本建物の時期は、出土遺物から推して9世紀第3四半期の所産と判断される。

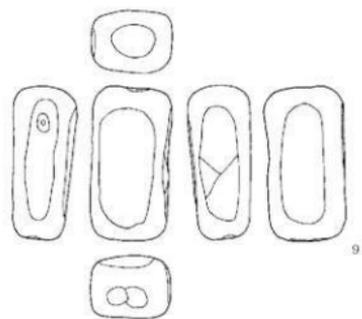


33号竪穴建物竪

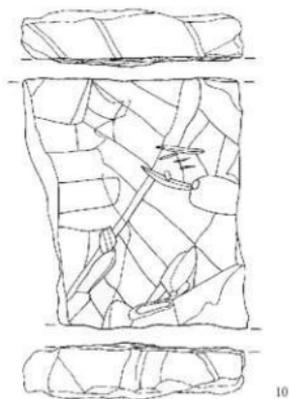
- 1 灰黄褐色土(10YR5/2)：粘性やや弱、しまり強。5mm大の小礫を中量含む
- 2 褐色土(10YR4/1)：粘性やや弱、しまり強。5mm大の小礫を少量含む
- 3 灰黄褐色土(10YR4/2)：粘性やや弱、しまり強。ロームブロック
- 4 灰黄褐色土(10YR4/2)：粘性やや弱、しまり強。焼土粒・5mm大の小礫を少量含む
- 5 灰褐色土(7.5YR4/2)：粘性やや弱、しまり強。炭化物を少量含む、焼土が混じる
- 6 黒褐色土(10YR3/1)：粘性やや弱、しまり強。焼土ブロックを中量含む
- 7 灰黄褐色土(10YR5/2)：粘性弱、しまり強。白色粒・焼土粒を少量含む
- 8 褐色土(5YR4/2)：粘性弱、しまり強。焼土粒を多量に含む
- 9 褐色土(10YR4/1)：粘性弱、しまり強。白色粒・5mm大の小礫を少量含む、焼土が混じる
- 10 褐色土(10YR4/1)：粘性弱、しまり強。焼土粒・5mm大の小礫を少量含む
- 11 黒褐色砂質土(10YR3/1)：粘性やや弱、しまりやや強。5mm大の小礫を少量含む
- 12 黒褐色砂質土(10YR3/2)：粘性やや弱、しまりやや強。黒色土が混じり、粗質



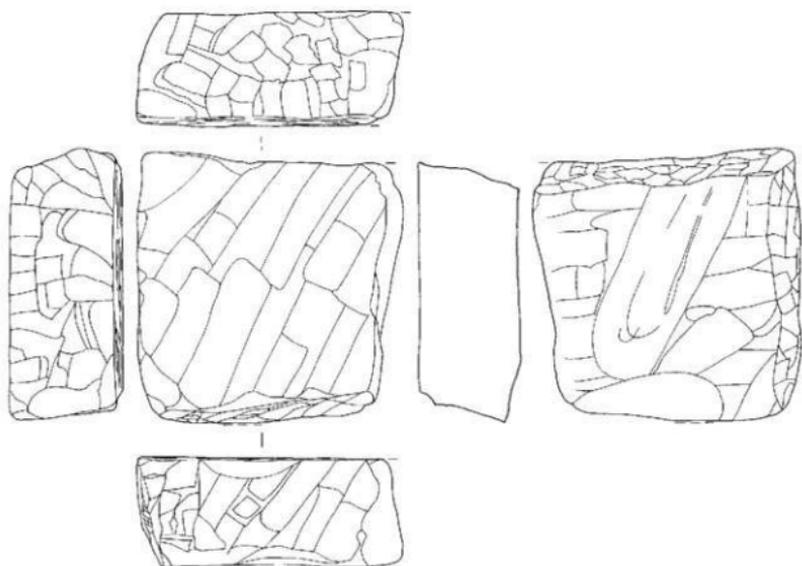
第101図 33号竪穴建物竪と出土遺物(1)



9



10



11

0 1 : 3 10cm

第102図 33号竪穴建物出土遺物(2)

34号竪穴建物(第103～105図、PL.20・101)

概要 本建物は竪付の竪穴建物である。

位置 本建物はA区北部中東域に在り、207～211-131～135グリッドに位置する。

重複 本建物は南隅部で31号竪穴建物、北側隅部で20号土坑と重複するが、いずれに対しても本建物の方が新しい。

規模 [竪穴]前後：3.12m 左右：2.90m
深さ：0.21m 床面積：8.05㎡

[竪] 長さ：0.57m 幅：0.83m

左袖 長さ：0.48m 幅：0.19m 高さ：0.15m

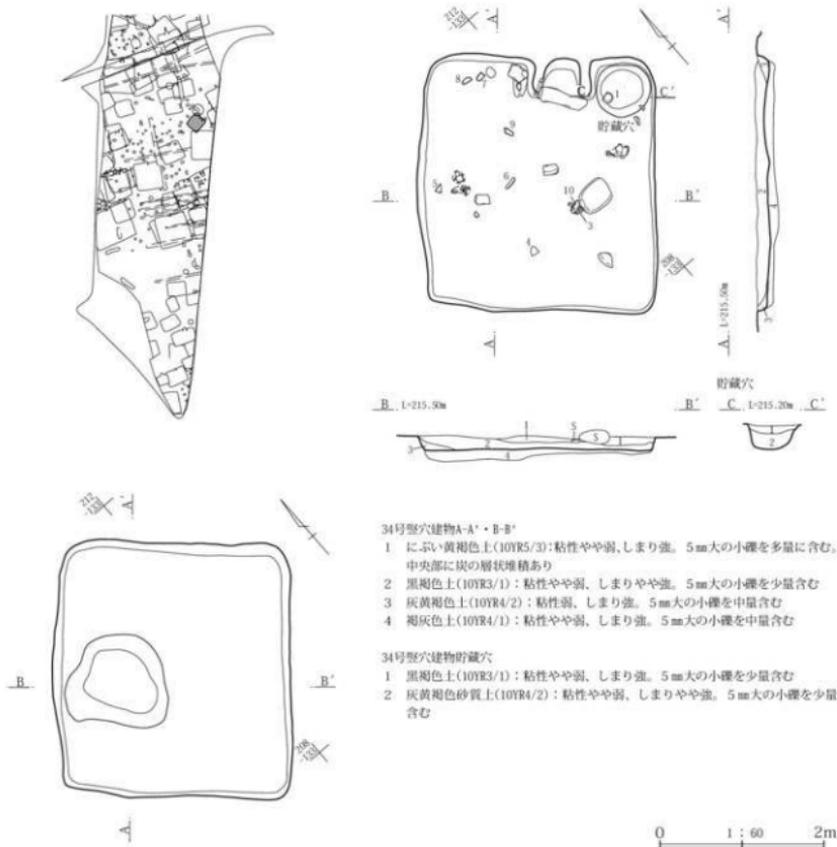
右袖 長さ：0.49m 幅：0.22m 高さ：0.15m

燃焼部 長さ：0.36m 幅：0.48m

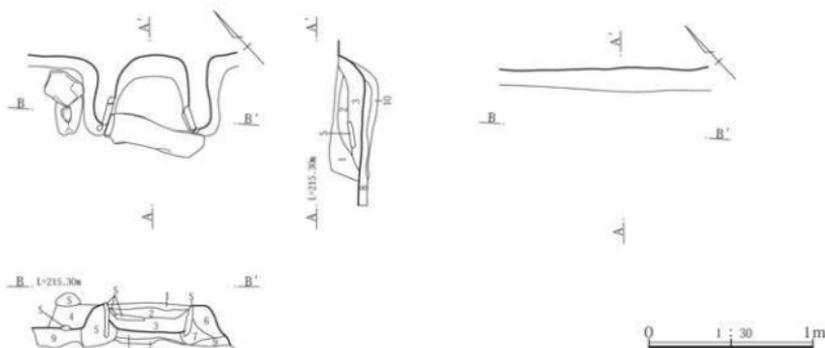
深さ：0.03m

[貯蔵穴] 平面規模：0.64×0.66m 深さ：0.30m

埋土 粘性やや弱く小礫を多量に含むにぶい黄褐色土と粘性やや弱い黒褐色土等で埋没する。小礫を含み粘性の弱い灰黄褐色土が三角堆積を形成する。



第103図 34号竪穴建物



34号堅穴建物圖

- 1 褐灰色土(10YR4/1):粘性弱、しまり強。白色粒・5mm大の小礫を中量含む
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2):粘性やや弱、しまり強。5mm大の小礫を少量含み、焼上が混じる
- 3 黒褐色土(10YR3/1):粘性やや弱、しまり強。焼上粒・白色粒・5mm大の小礫を少量含む
- 4 黒褐色土(10YR3/1):粘性やや弱、しまりやや強。5mm大の小礫を少量含む
- 5 黒褐色土(10YR3/1):粘性やや弱、しまり強。白色粒・5mm大の小礫を少量含む
- 6 灰黄褐色土(10YR4/2):粘性やや弱、しまり強。白色粒・5mm大の小礫を中量含む
- 7 褐灰色土(10YR4/1):粘性やや弱、しまり強。白色粒・5mm大の小礫を少量含む
- 8 褐灰色土(10YR4/1):焼上主体。粘性やや弱、しまり強。白色粒・焼上粒を少量含む。上面は強く焼ける
- 9 黒褐色土(10YR3/1):粘性やや弱、しまり強。5mm大の小礫を少量含む
- 10 灰黄褐色砂質土(10YR4/2):粘性弱、しまり強。5mm大の小礫を中量含む

第104図 34号堅穴建物圖

構造 [堅穴] 堅穴は僅かに縦長の隅丸長方形のプランを呈する。主軸の向きはN49°Wを向く。

[掘り方・床] 本建物は中西部に、径1.26×1.12m、深さ0.15mを測る隅丸台形プランの土坑状の掘り込みを伴う0.04～0.13mの深さを測る掘り方を有し、これを粘性やや弱く小礫を含む褐灰色土で埋め戻して床面を造っている。

[竈] 竈は北東壁のやや東寄りに設けられ、その方位はN49°Eを向く。

形状の把握できなかった掘り方を有し、これを下位は粘性弱く小礫を含む灰黄褐色砂質土、上位は焼上主体の褐灰色土で埋め戻して焼面を造る。焼面は強く焼土化する。

左右に板状の礫を短辺を前後方向に相対にして立て、その外側に左袖は粘性やや弱い黒褐色土、右袖は粘性やや弱く小礫を含む灰黄褐色土と粘性やや弱い褐灰色土を積む。

竈手前側には板状の天井石が押されて落下したような状態で出土している。他の天井部の構造や煙道は確認できなかった。

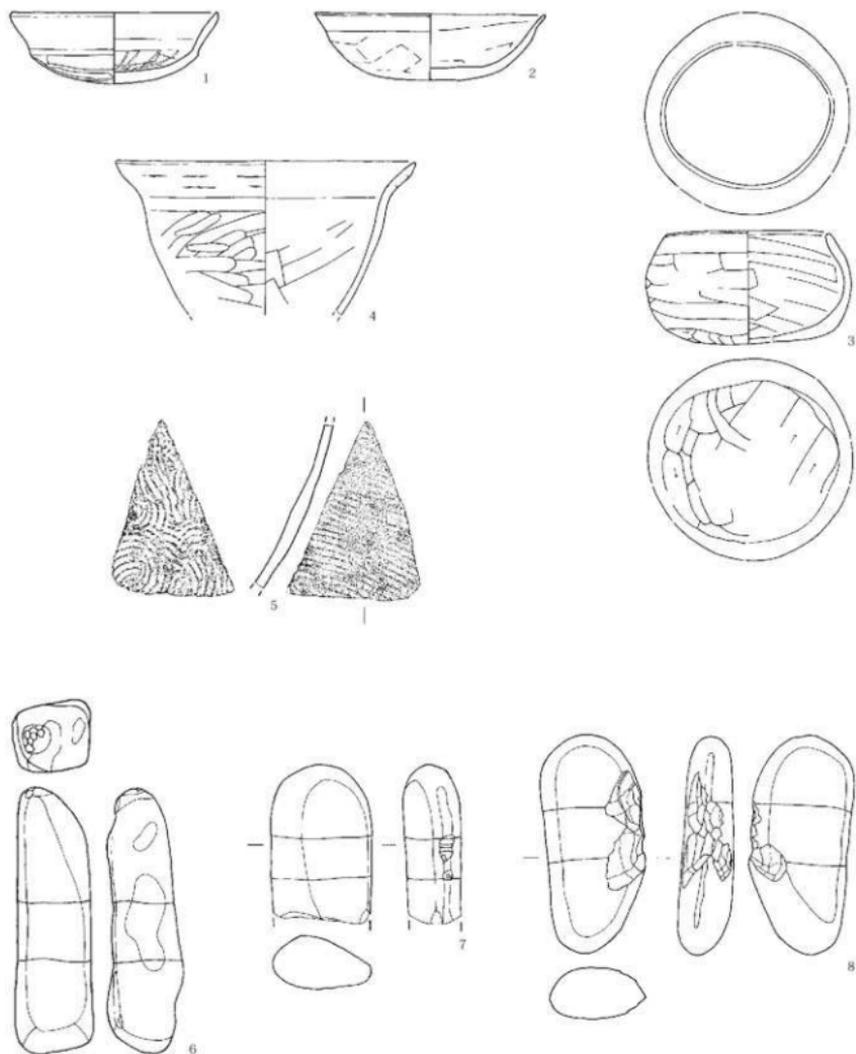
[柱穴] 柱穴は確認されなかった。

[貯蔵穴] 貯蔵穴は竈の右側、竈と東側隅部にはめ込まれたような状態で掘削されていた。貯蔵穴は円形のプランを呈し、缶状の掘り込みで底面は丸底気味である。

[棟] 棟方向は、堅穴の形状から北東-南西方向を向くと想定される。その他の上屋構造に係る情報は得られなかった。

遺物 本建物からは土師器の杯(1・2)・椀(3)・鉢(4)と破片363片、須臾器の甕(5)と破片11片、叢石から転用のこも編み石(6)とこも編み石(7～9)が出土している。このほか竈の袖石と思量される石材(10)が見られた。

所見 本建物の時期は、出土遺物から推して6世紀末から7世紀前半の所産と判断される。



0 1 : 3 10cm

第105図 34号竪穴建物出土遺物

35号竪穴建物(第106～108図、PL.20・21・101)

概要 本建物は竪付の竪穴建物である。

本建物は西壁際南端の炭の分布と炭化材の出土から、焼失家屋である可能性を有する。

位置 本建物はA区北部南北西域に在り、211～214～146～150グリッドに位置する。

重複 本建物は北西隅部で49号竪穴建物と重複するが新旧関係はと規定できなかった。

規模 [竪穴]前後：3.57m 左右：3.17m

深さ：0.24m 床面積：9.90㎡

[竪] 長さ：0.58m 幅：1.05m

左袖 長さ：0.48m 幅：0.37m 高さ：0.16m

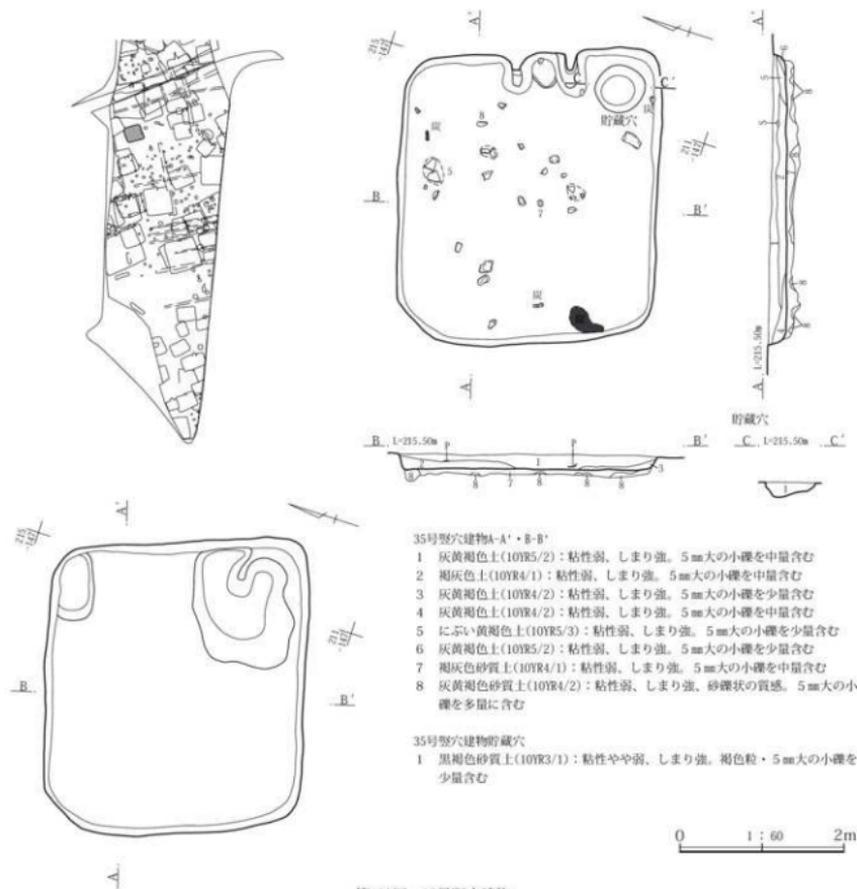
右袖 長さ：0.53m 幅：0.40m 高さ：0.18m

燃焼部 長さ：0.49m 幅：0.28m

深さ：0.02m

[貯蔵穴] 平面規模：0.58×0.60m 深さ：0.25m

埋土 共に粘性弱く小礫含む灰黄褐色土と褐色土で埋没する。東・西・南壁際に粘性弱く西壁際では小礫含む



35号竪穴建物A'-A'・B-B'

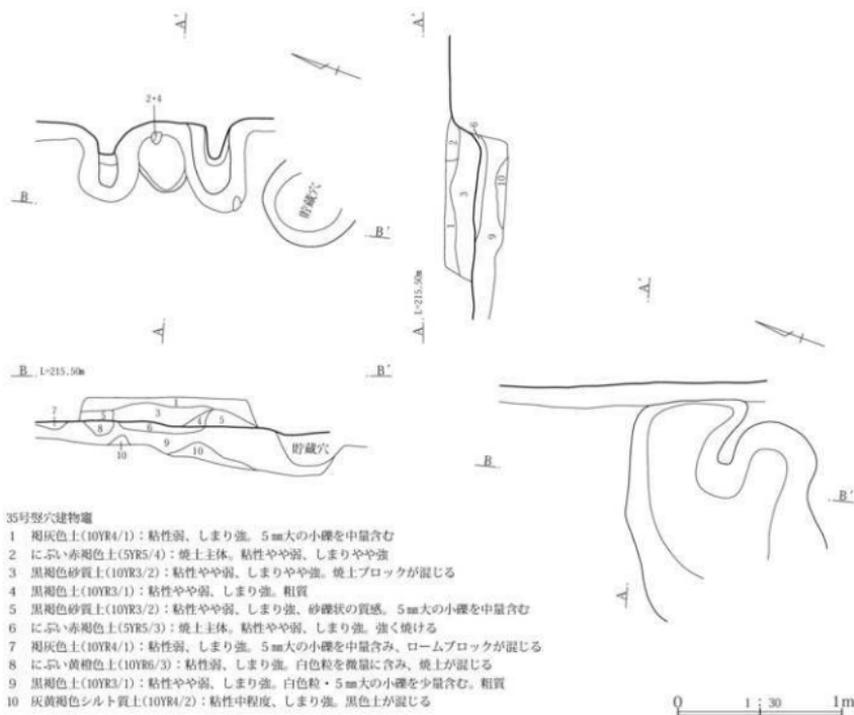
- 1 灰黄褐色土(10YR5/2)：粘性弱、しまり強。5mm大の小礫を中量含む
- 2 褐色土(10YR4/1)：粘性弱、しまり強。5mm大の小礫を中量含む
- 3 灰黄褐色土(10YR4/2)：粘性弱、しまり強。5mm大の小礫を少量含む
- 4 灰黄褐色土(10YR4/2)：粘性弱、しまり強。5mm大の小礫を中量含む
- 5 にふい黄褐色土(10YR5/3)：粘性弱、しまり強。5mm大の小礫を少量含む
- 6 灰黄褐色土(10YR5/2)：粘性弱、しまり強。5mm大の小礫を少量含む
- 7 褐色砂質土(10YR4/1)：粘性弱、しまり強。5mm大の小礫を中量含む
- 8 灰黄褐色砂質土(10YR4/2)：粘性弱、しまり強、砂礫状の質感。5mm大の小礫を多量に含む

35号竪穴建物貯蔵穴

- 1 黒褐色砂質土(10YR3/1)：粘性やや弱、しまり強。褐色粒・5mm大の小礫を少量含む

0 1:60 2m

第106図 35号竪穴建物



35号竪穴建物竈

- 1 褐灰色土(10YR4/1)：粘性弱、しまり強。5mm大の小礫を中量含む
- 2 にぶい赤褐色土(5YR5/4)：焼土主体。粘性やや弱、しまりやや強
- 3 黒褐色砂質土(10YR3/2)：粘性やや弱、しまりやや強。焼土ブロックが混じる
- 4 黒褐色土(10YR3/1)：粘性やや弱、しまり強。粗質
- 5 黒褐色砂質土(10YR3/2)：粘性やや弱、しまり強。砂礫状の質感。5mm大の小礫を中量含む
- 6 にぶい赤褐色土(5YR5/3)：焼土主体。粘性やや弱、しまり強。強く焼ける
- 7 褐灰色土(10YR4/1)：粘性弱、しまり強。5mm大の小礫を中量含む、ロームブロックが混じる
- 8 にぶい黄褐色土(10YR6/3)：粘性弱、しまり強。白色粒を微量に含み、焼土が混じる
- 9 黒褐色土(10YR3/1)：粘性やや弱、しまり強。白色粒・5mm大の小礫を少量含む。粗質
- 10 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2)：粘性中程度、しまり強。黒色土が混じる

第107図 35号竪穴建物竈

灰黄褐色土、北壁際では小礫含む褐灰色土が三角堆積を形成する。

構造 〔竪穴〕竪穴は縦長の隅丸長方形のプランを呈し、主軸の向きは $N18^{\circ}W$ を向く。

〔掘り方・床〕本建物は南東隅部に径 1.24×1.47 m、深さ 0.20 mを測る凹字形プラン、北東隅部に径 0.41×0.83 m、深さ 0.09 mを測る楕円形プランの土坑状の掘り込みを伴う掘り方を有し、これを小礫を含む褐灰色砂質土と小礫を多量に含む灰黄褐色砂質土で埋め戻して床面を造っている。

〔竈〕竈は東壁中央に設けられ、その方位は $N77^{\circ}E$ を向く。

形状不明の掘り方を有し、これを粘性やや弱い黒褐色土と一部焼土交じりの粘性の弱いにぶい黄褐色土で埋め

戻して燃焼面を造るが、燃焼面下位は焼土化したにぶい赤褐色土が確認されている。

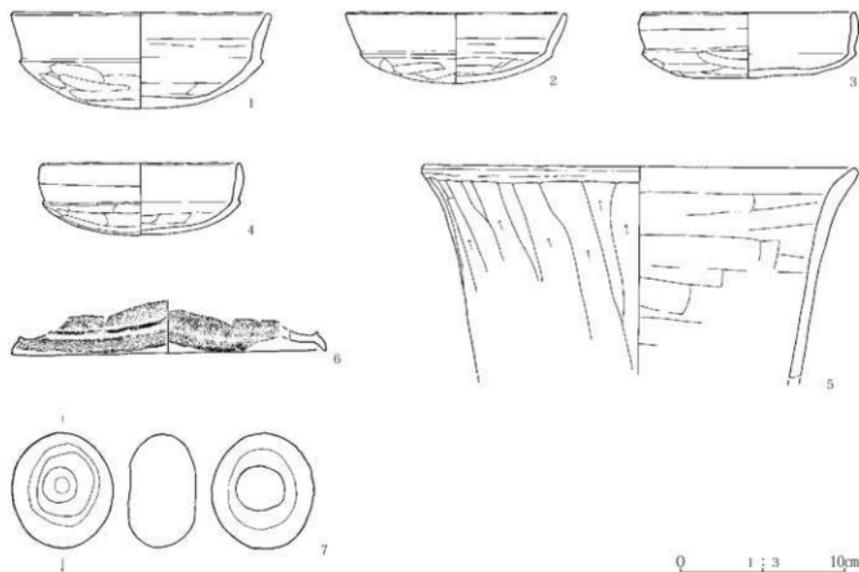
燃焼部の左右両側には小礫含む黒褐色土、右側ではその内側に粘性やや弱い黒褐色土で造られた袖が残る。

天井部の構造と煙道は確認できなかった。

〔柱穴〕確認されなかった。

〔貯蔵穴〕貯蔵穴は横長の楕円形を呈し、竈の右側、竪穴の南東隅近くに掘削されている。掘り込みはやや浅く、底面は北側に傾いている。

〔棟〕棟の向きは、竪穴の形状から推して略東西方向を向くものと想定される。上屋構造は確認されなかった。柱間の測定値の比較では、北東—南西列、北西—南東列のいずれになるか判断はつかなかったが、竪穴の直交する径の比較から、北西—南東方向に棟を置くものと判断さ



第108図 35号竪穴建物出土遺物

れる。

遺物 本建物からは土師器の杯(1~4)と甕(5)、須恵器の蓋(6)のほか、土師器片135片、須恵器片1片が出土し、磨石(7)と、こも編み石(8)各1片の出土を見た。
所見 本建物の時期は、出土遺物から推して6世紀前半の所産と判断される。

また焼失家屋であった場合は、炭と炭化材の出土および埋土中に炭化物・焼土の混入が確認されなかったことから、建築材は西壁付近のみ燃焼し、他の部分は燃焼しないか燃焼が甘かった可能性が考慮される。

36号竪穴建物(第109・110図、PL.21・22・101)

概要 本建物は竪付の竪穴建物である。

位置 本建物はA区北部の中部北東寄りに在り、211～215-136～140グリッドに位置する。

重複 本建物は37・38号竪穴建物と重複するが、本建物は37号竪穴建物よりは新しく、38号竪穴建物よりは古い。

規模 [竪穴]前後：3.53m 左右：3.30m
 深さ：0.14m 床面積：10.48㎡

[竪] 長さ：0.78m 幅：0.93m

左袖 長さ：0.54m 幅：0.30m 高さ：0.16m

右袖 長さ：0.62m 幅：0.34m 高さ：0.11m

燃焼部 長さ：0.75m 幅：0.51m

深さ：0.02m

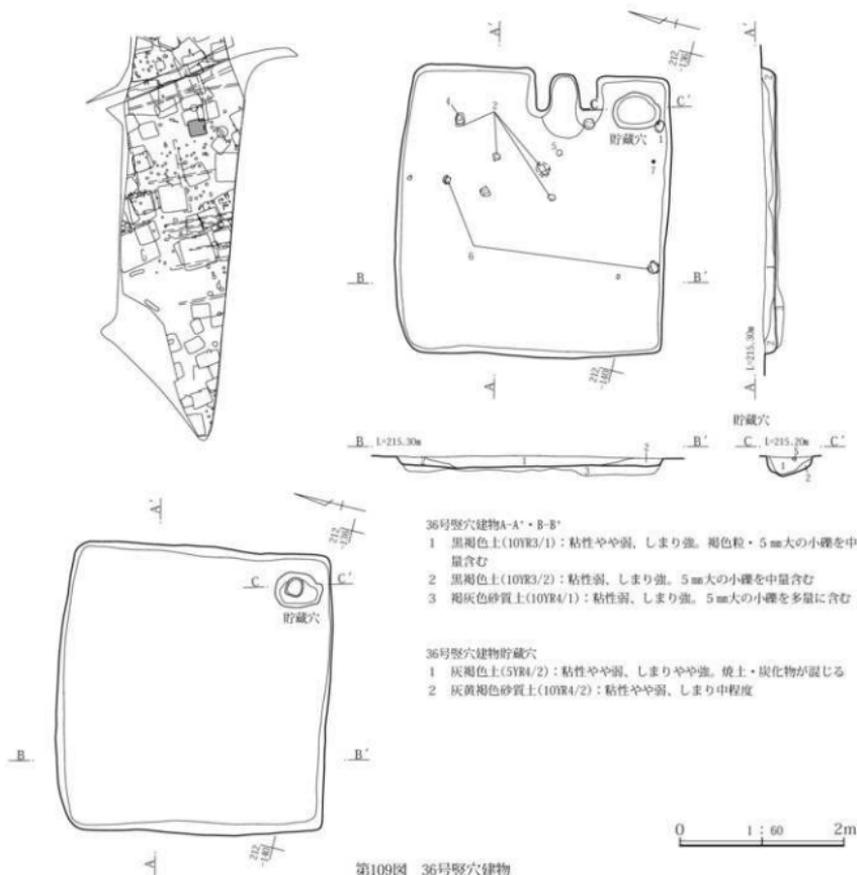
[貯蔵穴] 平面規模：0.44×0.58m 深さ：0.22m

埋土 小礫を踏み粘性やや弱い黒褐色土で埋没する。小礫を含み粘性弱い黒褐色土が三角堆積を形成する。

構造 [竪穴]竪穴は北西隅部が隅丸を呈する方形のプランを呈し、主軸の向きはN14°Wを向く。

[掘り方・床]本建物は南壁際で幅1.06m、深さ0.13m、西壁際で幅0.74m、深さ0.11m、北壁際に幅0.56m、深さ0.07mを測る幅広の周溝状の掘り込みを伴い、中央部は0.02～0.07mの深さに掘られた掘り方を有し、これを多量の小礫を含む褐色砂質土で埋め戻して床面を造っている。

[竪]竪は東壁中央のやや南寄りに設けられ、その方位はN75°Eを向く。形状不特定の掘り方を有し、これを粘性の弱い黒褐色砂質土と焼土を微量に含み粘性の弱い黒



第109図 36号竪穴建物

褐色土で埋め戻して燃焼面を造るが燃焼面は焼土主体の灰黄褐色土が堆積する。

左右に袖が残るが、左袖は小礫と黄褐色土ブロックを含む褐灰色土、右袖は焼土粒微量に含む粘性の弱いに近い黄褐色土で造られている。

なお天井部の構造は確認できなかった。

[柱穴]柱穴は確認されなかった。

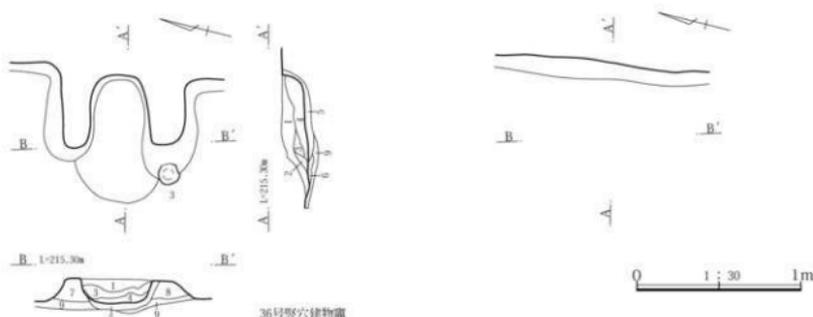
[貯蔵穴]貯蔵穴は竈右の南東隅付近に在り、竈右袖から0.11m、竪穴東壁から0.14m、南壁から0.05m隔てた位置に掘削される。そのプランは西辺(手前側)が直線的な

楕円形様を呈する。掘削形態は銜形を呈し、底面は丸底気味である。

[棟]竪穴が方形状を呈するため、棟方向は特定できなかった。また上屋構造は確認されなかった。

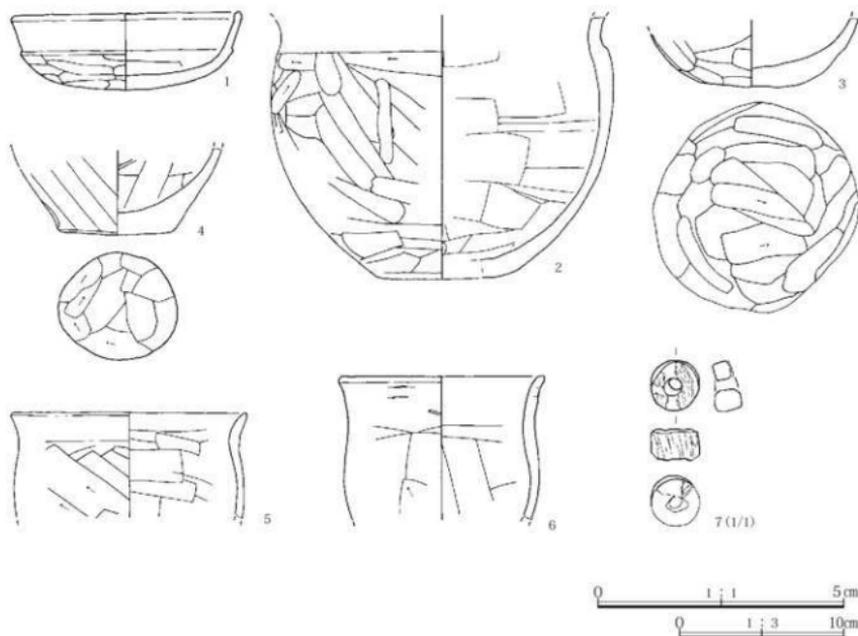
遺物 本建物からは土師器杯(1)・壺(2)・甕(3・4)・小型甕(5・6)や白玉(7)が出土したほか、土師器片107片、須恵器片1片の出土が見られた。

所見 本建物の時期は、出土遺物から推して6世紀後半の所産と判断される。



36号竪穴建物竈

- 1 褐色土(10YR4/1)：粘性弱、しまりやや強。褐色粒・5mm大の小礫を少量含む
- 2 黒褐色土(10YR3/1)：粘性中程度、しまりやや強。焼土粒を微量に含む
- 3 にぶい黄褐色土(10YR5/3)：粘性中程度、しまり強。焼土まじりのローム
- 4 灰褐色土(5YR4/2)：粘性やや弱、しまりやや強。焼土が混じる
- 5 灰黄褐色土(10YR4/2)：焼土主体。粘性弱、しまり強。強く焼ける
- 6 黒褐色砂質土(10YR3/1)：粘性弱、しまり強。白色粒・5mm大の小礫を少量含む
- 7 褐色土(10YR4/1)：粘性弱、しまり強。5mm大の小礫を中量含み、黄褐色土ブロックが混じる
- 8 にぶい黄褐色土(10YR5/3)：粘性弱、しまり強。焼土粒を微量に含み、褐色土が混じる
- 9 黒褐色土(10YR3/1)：粘性弱、しまり強。焼土を微量に含み、褐色土が混じる



第110図 36号竪穴建物竈と出土遺物

37号竪穴建物(第111図、PL.22・23)

概要 本建物は竪穴建物と調査したが、後述のように炉や竈、柱穴等が確認されなかったため、竪穴状遺構の可能性も有する。

位置 本建物はA区北部北東寄りに在り、213～217-138～141グリッドに位置する。

重複 本建物は南側で36号竪穴建物、東側で38号竪穴建物、北壁東部で25号土坑と重複するが、いずれに対しては本建物の方が古い。

規模 [竪穴]前後：2.98m 左右：(3.17)m
深さ：0.16m 床面積：(6.59)㎡

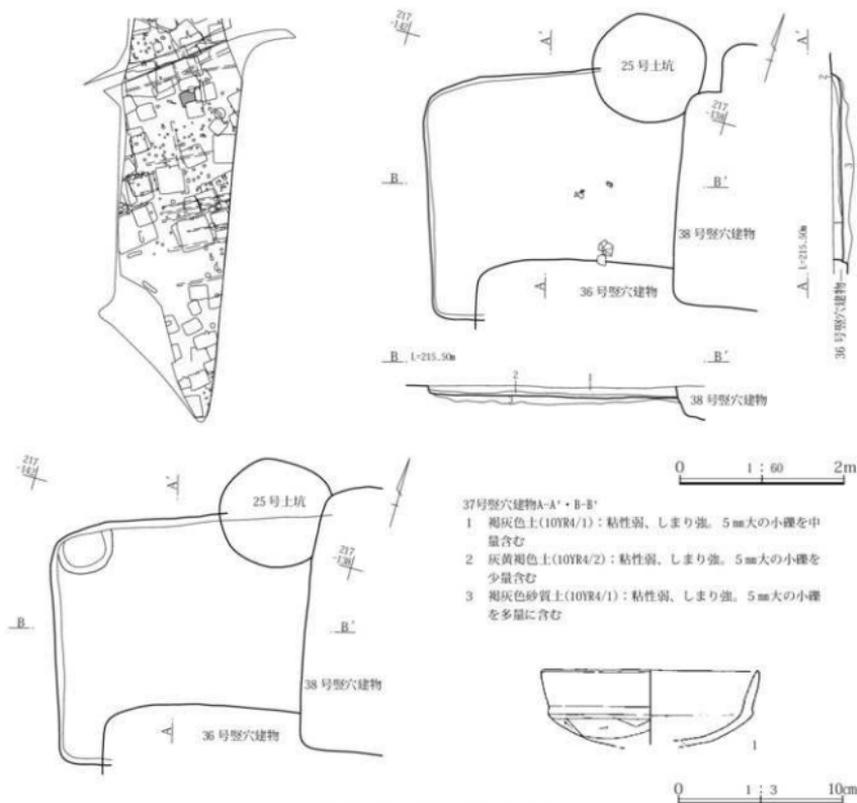
埋土 本建物は小礫含む粘性弱い褐灰色土と粘性弱い灰

黄褐色土で埋没する。所謂三角堆積等を確認することはできなかった。

構造 [竪穴]本建物は他の意向との重複から全容は把握できていないが、竪穴は横長の隅丸長方形のプランを呈するものと想定される。主軸の向きはN74°Eを向く。

[掘り方・床]本建物は北西部部に径0.69×0.50m、深さ0.07mを測る横長の隅丸方形プランを呈する土坑状の掘り込みを伴う掘り方を有し、これを小礫を多量に含む褐灰色砂質土で埋め戻して床面を造る。

[竈]竈は想定される時期的に造られていた可能性を有するが、確認されなかった。なお、北壁東部または東壁に設けられていた可能性が考えられる。



第111図 37号竪穴建物と出土遺物

[柱穴]柱穴は確認されなかった。

[貯蔵穴]貯蔵穴は確認されなかった。

[棟]棟方向は、残存部の形状から略東西方向を向いていたものと想定されるが、上屋構造は確認できなかった。

遺物 本建物からは土師器の杯(1)と破片41片が出土している。

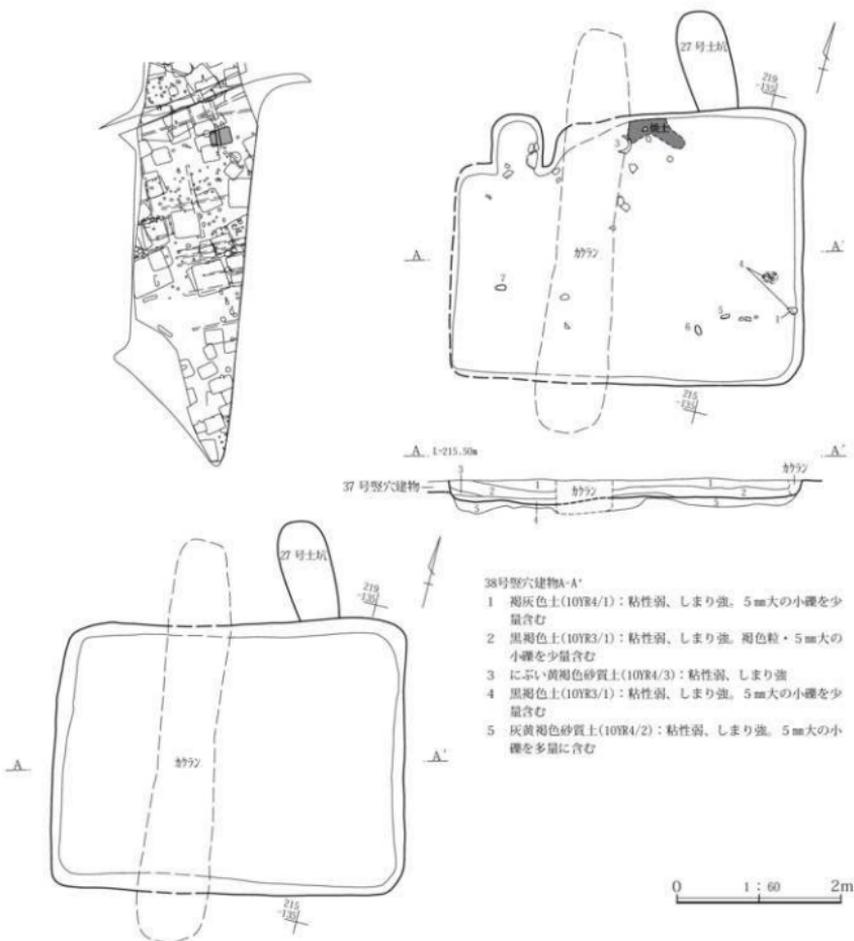
所見 本建物の時期は、出土遺物から推して6世紀後半

の所産と判断される。

38号竪穴建物(第112～114図、PL.23・102)

概要 本建物は竪穴の竪穴建物である。建物西寄りは溝状の攪乱により一部失われていた。

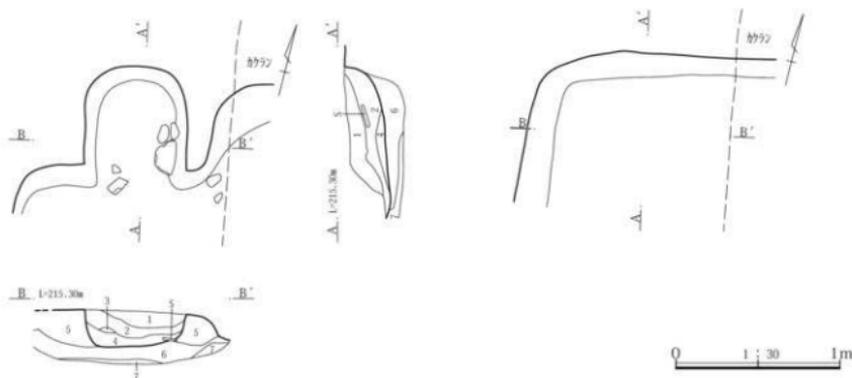
位置 本建物はA区北部北東寄りに在り、214～218-133～138グリッドに位置する。



38号竪穴建物A-A'

- 1 褐色土(10YR4/1)：粘性弱、しまり強。5mm大の小礫を少量含む
- 2 黒褐色土(10YR3/1)：粘性弱、しまり強。褐色粒・5mm大の小礫を少量含む
- 3 にぶい黄褐色砂質土(10YR4/3)：粘性弱、しまり強
- 4 黒褐色土(10YR3/1)：粘性弱、しまり強。5mm大の小礫を少量含む
- 5 灰黄褐色砂質土(10YR4/2)：粘性弱、しまり強。5mm大の小礫を多量に含む

第112図 38号竪穴建物



38号竪穴建物

- 1 灰黄褐色土(10YR4/2)：粘性やや弱、しまり強。白色粒・5mm大の小礫を中量含む
- 2 灰褐色土(5YR5/2)：粘性やや弱、しまり強。炭化物を少量含む、焼土が混じる
- 3 にぶい黄褐色土(10YR5/3)：粘性中程度、しまりやや強。焼土粒を微量に含む。ロームブロック
- 4 にぶい赤褐色土(5YR4/3)：粘性やや弱、しまり強。焼土粒を中量含む
- 5 褐色土(10YR4/1)：粘性やや弱、しまり強。5mm大の小礫を多量、焼土粒を中量含む
- 6 黒褐色土(10YR3/2)：粘性中程度、しまり強。焼土・炭化物・5mm大の小礫を少量含む
- 7 にぶい黄褐色土(10YR5/3)：粘性やや弱、しまり強。5mm大の小礫を中量含む、黒色土が混じる。粗質

第113図 38号竪穴建物

重複 本建物は36・37・57号竪穴建物、25・27号土坑と重複するが、いずれに対しても本建物の方が新しい。

規模 〔竪穴〕前後：3.40m 左右：4.29m

深さ：0.29m 床面積：12.21㎡

〔竪〕 長さ：0.75m 幅：0.85m

左袖 長さ：[0.74]m 幅：0.42m

高さ：0.22m

右袖 長さ：0.70m 幅：0.32m 高さ：0.18m

燃焼部 長さ：0.65m 幅：0.45m 深さ：—m

埋土 粘性弱い褐色土・黒褐色土、にぶい黄褐色砂質土等で埋没する。建物西側の床上に堆積する粘性の弱い黒褐色土は土葺材の可能性が考慮される。三角堆積は確認できなかった。

構造 〔竪穴〕竪穴は横長の隅丸長方形のプランを呈し、主軸の向きはN76°Eを向く。

〔掘り方・床〕本建物は深さ0.14m以下を測る凹凸のある掘り方を有し、これを小礫を多量に含む灰黄褐色砂質土で埋め戻して床面を造っている。

〔竪〕竪は北壁西端に設けられ、その方位はN12°Wを向く。形状不明の掘り方を有し、これを焼土・炭化物・小礫を少量含む黒褐色土で埋め戻して燃焼面を造っている。

焼土粒と多量の小礫を含む粘性のやや弱い褐色土を用いて、燃焼部の左側は竪穴北西隅部を埋め戻し右側に袖を形成している。

天井部の構造は確認できなかった。

〔柱穴〕柱穴は確認されなかった。

〔貯蔵穴〕貯蔵穴は確認されなかった。

〔棟〕棟方向は、竪穴の形状から略東西方向を向くものと思量されるが、上屋構造は確認できなかった。

遺物 本建物からは土師器の杯(1)・椀(2)・甕(3・4)のほか土師器片354片が出土したほか、磨石からの転用品(5・6)を含むこも編み石(7)の出土を見た。

所見 本建物の時期は、出土遺物から推して7世紀第4四半期の所産と判断される。



第114図 38号竪穴建物出土遺物

39号竪穴建物(第115・116図、Pl.24・101)

概要 本建物は竪付の竪穴建物である。建物の南東側が調査区外に出るため、全容は詳らかにできなかった。

位置 本建物はA区北部の東端、調査区東壁際に在り、209～212-129～131グリッドに位置する。

重複 本建物は北東部で40号竪穴建物と重複するが、本建物の方が新しい。

規模 〔竪穴〕前後：(2.85)m 左右：(2.09)m
深さ：0.19m 床面積：(3.31)㎡

〔竪〕長さ：0.66m 幅：(0.77)m

左袖 長さ：0.41m 幅：0.22m 高さ：0.18m

右袖 長さ：[0.18]m 幅：(0.20)m

高さ：0.18m

燃焼部 長さ：0.53m 幅：0.49m

深さ：0.05m

埋土 粘性の弱い灰黄褐色土と黒褐色土等で埋没する。黒褐色砂質土が所謂三角堆積を形成する。

構造 〔竪穴〕本建物は過半が調査区外に在ると見られるため全容は詳らかでないが、竪穴は隅丸方形また隅丸長方形のプランを呈するものと想定される。主軸の向きは

N66° Eを向く。

〔掘り方・床〕本建物は掘り方を有し、これを小礫を多量に含む灰黄褐色土で埋め戻して床面を造る。

〔竈〕竈は北壁の恐らく西寄りに設けられ、その方位はN43° Wを向く。

形状は特定できなかったが、浅い土坑状の掘り方を有し、これを粘性の弱い焼土混じりの褐灰色掘土で埋め戻して燃焼面を造る。

燃焼部の左右両側に小礫を多量に含む粘性の弱い灰黄褐色土で造られた袖が残る。

なお天井部の構造は確認できなかった。

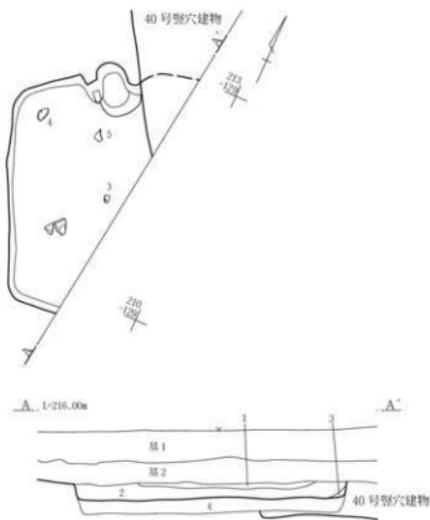
〔柱穴〕柱穴は確認されなかった。

〔貯蔵穴〕貯蔵穴は確認されなかった。

〔棟〕本建物の全容は把握されなかったため、棟方向を想定することはできなかった。また上屋構造も確認されなかった。

遺物 本建物からは土師器杯(1~3)と須恵器甕(4)・小型甕(5)が出土している。このほか土師器片244片と須恵器片2片の出土を見た。

所見 本建物の時期は、出土遺物から推して7世紀第4四半期の所産と判断される。



耕作土

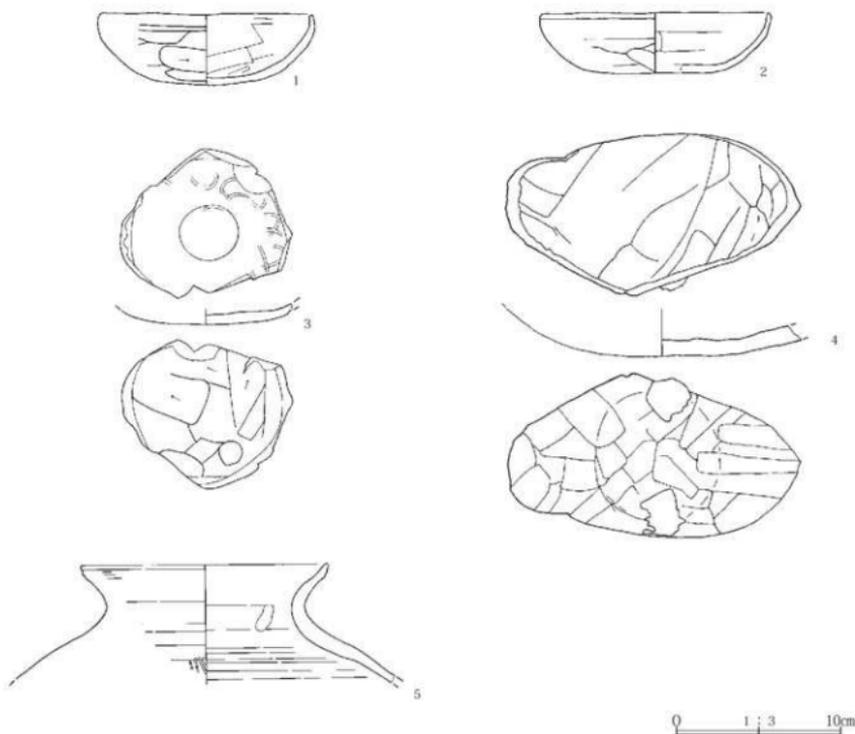
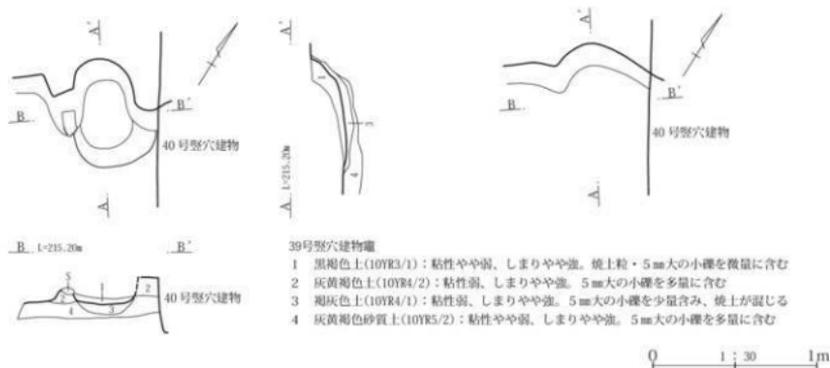
- 基1 黒褐色土(10YR3/2)：粘性やや弱、しまり強。5mm大の小礫を少量含む
 基2 黒褐色土(10YR3/1)：粘性やや弱、しまり強。白色粒・褐色粒・5mm大の小礫を中量含む

39号竈穴建物A-A'

- 1 灰黄褐色土(10YR4/2)：粘性弱、しまり強。5mm大の小礫を少量含む。土師器片が出土
 2 黒褐色土(10YR3/1)：粘性弱、しまり強。5mm大の小礫を少量含む。土師器片が出土
 3 黒褐色砂質土(10YR3/1)：粘性やや弱、しまり強
 4 灰黄褐色砂質土(10YR4/2)：粘性弱、しまり強。5mm大の小礫を多量に含む

0 1:60 2m

第115図 39号竈穴建物



第116図 39号竪穴建物竪と出土遺物

40号竪穴建物(第117～119図、PL.24・25・102・103)

概要 本建物は竪付の竪穴建物である。建物南東半部は東側調査区外に出るため、全容は把握できなかった。

位置 本建物は南側でA区北東部南寄りの調査区東壁際に在り、211～217-128～131グリッドに位置する。

重複 本建物は南側で39号竪穴建物と重複するが、本建物の方が古い。

規模 [竪穴]前後:(4.38)m 左右:(3.29)m
深さ:0.47m 床面積:(7.16)㎡

[竪] 長さ:(1.15)m 幅:(0.99)m

左袖 長さ:0.47m 幅:0.37m 高さ:0.20m

右袖 長さ:(0.51)m 幅:(0.36)m
高さ:0.22m

燃焼部 長さ:(0.47)m 幅:0.52m
深さ:-m

煙道 長さ:0.54m 幅:0.32m 高さ:0.07m

掘り方 長さ:0.63m 幅:(0.73)m

深さ:0.10m

[P1] 平面規模:0.31×0.32m 深さ:0.37m

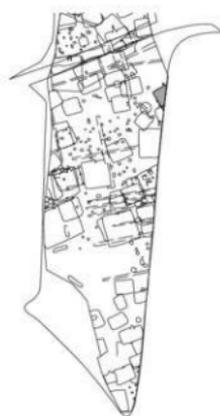
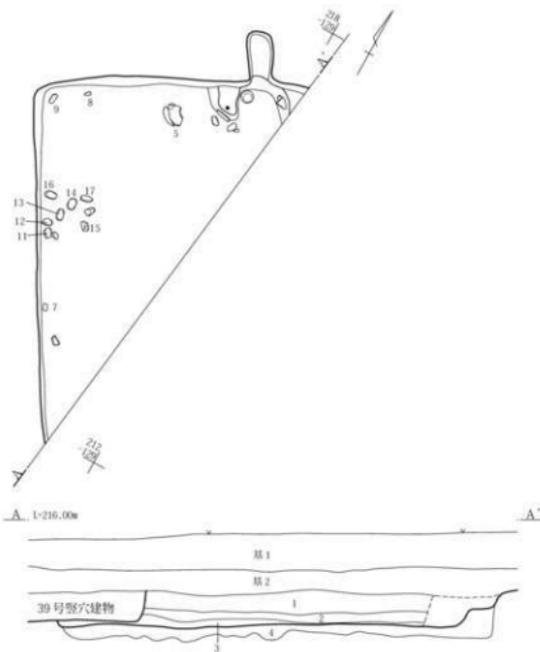
埋土 粘性弱く小礫含む黒褐色土、小礫含む黒褐色砂質土、粘性弱く黒色土混ざる灰黄褐色土で埋没する。所謂三角堆積は確認できなかった。

構造 [竪穴]本建物は南東側が調査区外に出るため全容は確認できなかったが、竪穴は方形あるいは隅丸長方形のプランを呈するものと想定される。主軸の向きはN61°Eを向く。

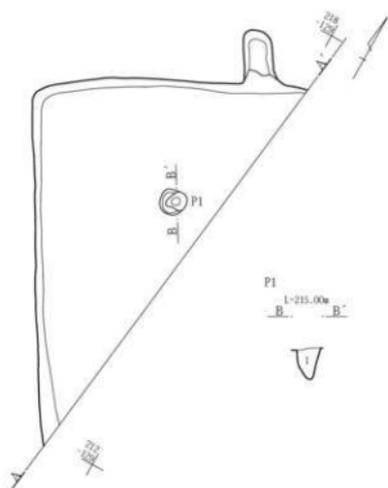
[掘り方・床]本建物は比較的浅い掘り方を有し、これを小礫を多量に含む灰黄褐色砂質土で埋め戻して床面を造っている。なお竪穴の中ほど西寄りに柱穴状のP1が掘削されているが、その埋土は褐色土混じりの黒褐色土であった。

[竪]竪は北西壁の調査区東壁近くに設けられ、その方位はN35°Wを向く。

平面形は確認できなかったが、竪穴北西壁際に掘り方



第117図 40号竪穴建物(1)



耕作土

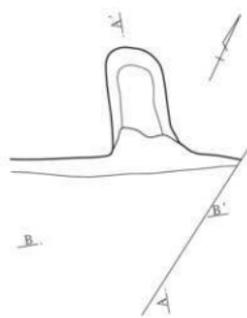
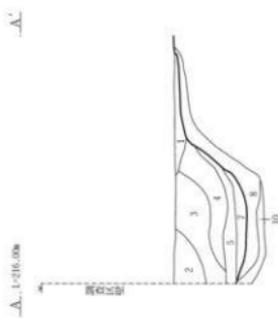
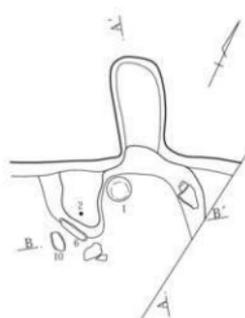
- 基1 黒褐色土(10YR3/2)：粘性やや弱、しまり強。5mm大の小礫を少量含む
- 基2 黒褐色土(10YR3/1)：粘性やや弱、しまり強。白色粒・褐色粒・5mm大の小礫を中量含む

40号堅穴建物A-A'

- 1 黒褐色土(10YR3/2)：粘性弱、しまり強。褐色粒・5mm大の小礫を中量含む
- 2 黒褐色砂質土(10YR3/1)：粘性弱、しまり強。褐色粒・5mm大の小礫を中量含む
- 3 灰黄褐色土(10YR4/2)：粘性弱、しまり強。5mm大の小礫を少量含む、黒色土が混じる
- 4 灰黄褐色砂質土(10YR4/2)：粘性弱、しまり強。5mm大の小礫を多量に含む

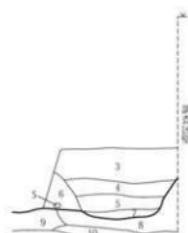
40号堅穴建物P I

- 1 黒褐色土(10YR3/2)：粘性中程度、しまりやや強。5mm大の小礫を少量含む、褐色土が混じる



B. 1:216.00m

B'

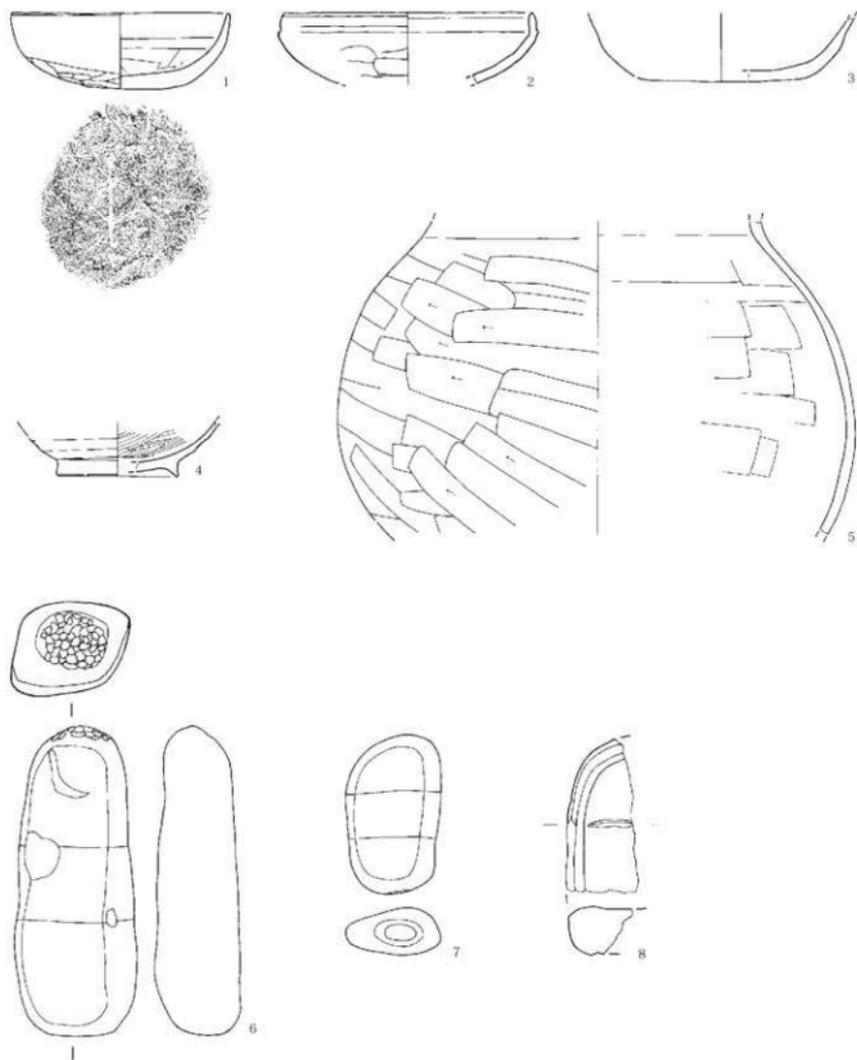


40号堅穴建物遺

- 1 褐灰色土(10YR4/1)：粘性やや弱、しまり強。5mm大の小礫を中量含む
- 2 黒褐色土(10YR3/2)：粘性弱、しまり強。褐色粒・5mm大の小礫を中量含む
- 3 黒褐色砂質土(10YR3/1)：粘性弱、しまり強。褐色粒・5mm大の小礫を中量含む
- 4 褐灰色土(10YR4/1)：粘性やや弱、しまり強。炭化物・焼土粒・5mm大の小礫を少量含む
- 5 灰黄褐色土(10YR4/2)：粘性弱、しまり強。5mm大の小礫を少量含む、黒色土が混じる
- 6 黒褐色土(10YR3/1)：粘性中程度、しまりやや強。5mm大の小礫を中量含む
- 7 黒褐色土(10YR3/1)：粘性中程度、しまりやや強。焼土粒を微量に含む
- 8 にぶい赤褐色土(5YR4/3)：焼土主体。粘性中程度、しまりやや強。炭化物・5mm大の小礫を少量含む
- 9 褐灰色土(10YR4/1)：粘性やや弱、しまりやや強。焼土粒・5mm大の小礫を微量に含む
- 10 にぶい黄褐色砂質土(10YR5/3)：粘性弱、しまり強



第118図 40号堅穴建物(2)



0 1 : 3 10cm

第119図 40号竪穴建物出土遺物

を有し、これを炭化物と小礫を少量含み焼土化したにぶい赤褐色土で埋め戻して燃焼面を造る。

左右に袖が残るが、左袖は小礫含む黒褐色土、右袖は掘り方埋土を用いて造られている。

天井部の構造は確認できなかった。

[柱穴] 柱穴は確認されなかった。

[貯蔵穴] 貯蔵穴は確認されなかった。

[棟] 本建物は全容が把握できなかったため、棟の設置方向を想定することはできず、上屋の構造も確認することはできなかった。

遺物 本建物からは土師器の杯(1~3)・高台付杯(4)・

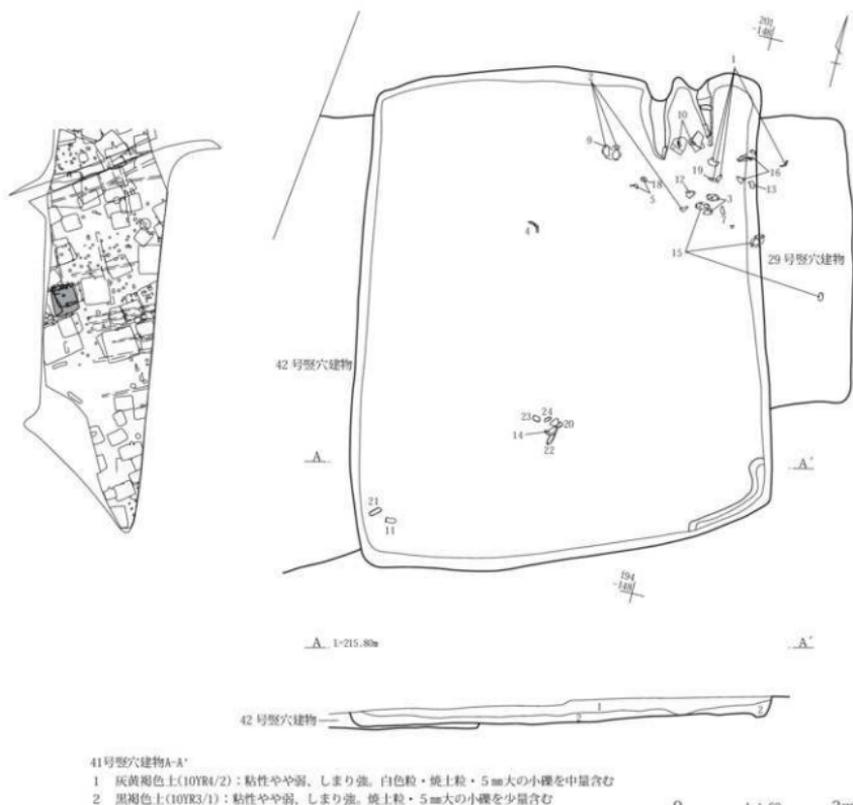
甕(5)のほか破片41片、須恵器片1片が出土したほか、敲石からの転用品(6)や磨石からの転用(7・8)を含むこも編み石(9~17)の出土も見た。なお、こも編み石は建物南西壁際北寄りに集中して分布する箇所がある。

所見 本建物の時期は、出土遺物から推して8世紀前半の所産と判断される。

41号竪穴建物(第120~123図, PL.25・26・103・104)

概要 本建物は竪付の竪穴建物である。

位置 本建物はA区北部南西域に在り、193~200-146~152グリッドに位置する。



第120図 41号竪穴建物

重複 本建物は28・29・42号竪穴建物と重複するが、いずれの建物に対しても本建物の方が古かった。

規模 [竪穴]前後：6.12m 左右：5.13m
深さ：0.34m 床面積：26.28㎡

[竈] 長さ：0.95m 幅：0.94m
左袖 長さ：0.93m 幅：0.36m 高さ：0.21m
右袖 長さ：0.68m 幅：0.30m 高さ：0.25m
燃焼部 長さ：0.79m 幅：0.55m 深さ：—m
掘り方 長さ：1.08m 幅：0.93m
深さ：0.09m

[周溝] 長さ：1.42m 幅：0.14m 深さ：0.06m

埋土 粘性やや弱く小礫含む灰黄褐色土と粘性やや弱く焼土粒と小礫を少量含む黒褐色土で埋没する。三角堆積等は確認できなかった。

構造 [竪穴]竪穴は横転したやや横長の隅丸台方形のプランを呈し、主軸の向きはN76° Eを向く。

[掘り方・床]本建物では掘り方を確認することはできず、床面は地床であった。南東隅付近に短く周溝が見られた。[竈]竈は北壁東寄り、竪穴の北東隅近くに設けられる。その方位はN33° Wを向く。

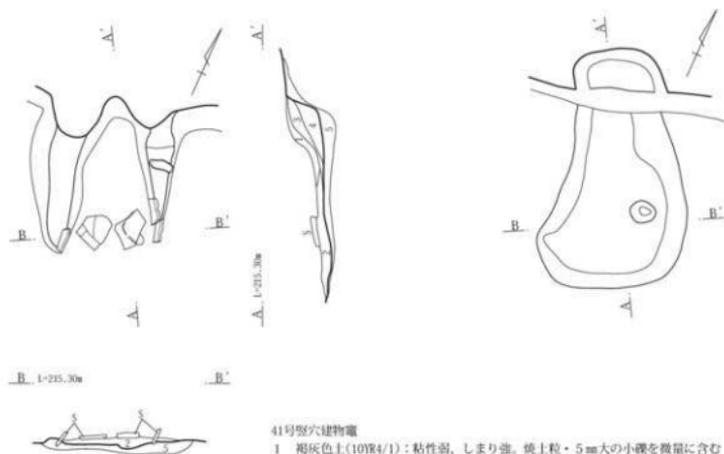
竪穴の壁面手前には靴形様プランを呈する掘り方を有し、これを少量の焼土粒を含む粗い褐灰色砂質土で埋め戻して燃焼面を造る。

左右に袖が残るが、両袖の手前には板状の礫を前後方向に据えて袖石とし、盛り土か削り出しかの記録は残せなかったが、袖を構築している。天井部の構造は確認できなかったが、竈手前側に板状の天井石が二折した状態で出土していた。

[柱穴]柱穴は確認されなかった。

[貯蔵穴]貯蔵穴は確認されなかった。

[棟]棟は、竪穴形状から南北方向を向いていたものと思量される。上屋の構造を確認することはできなかった。

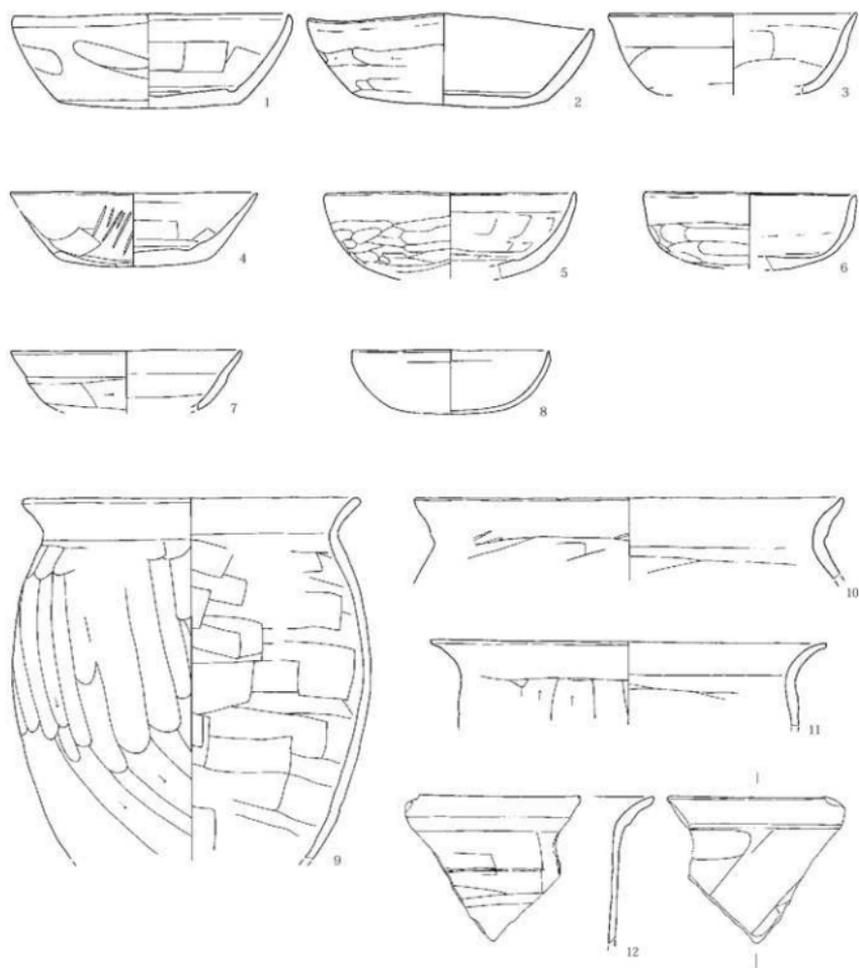


41号竪穴建物竈

- 1 褐灰色土(10YR4/1)：粘性弱、しまり強。焼土粒・5mm大の小礫を微量に含む
- 2 にぶい赤褐色土(5YR4/3)：焼土主体。粘性弱、しまり強。5mm大の小礫を少量含む
- 3 灰褐色土(5YR4/2)：粘性弱、しまり強。焼土粒・炭化物を中量含む
- 4 灰褐色砂質土(7.5YR4/2)：粘性弱、しまり強。焼土が混じる
- 5 褐灰色砂質土(10YR4/1)：粘性やや弱、しまりやや強。焼土粒を少量含む。粗質

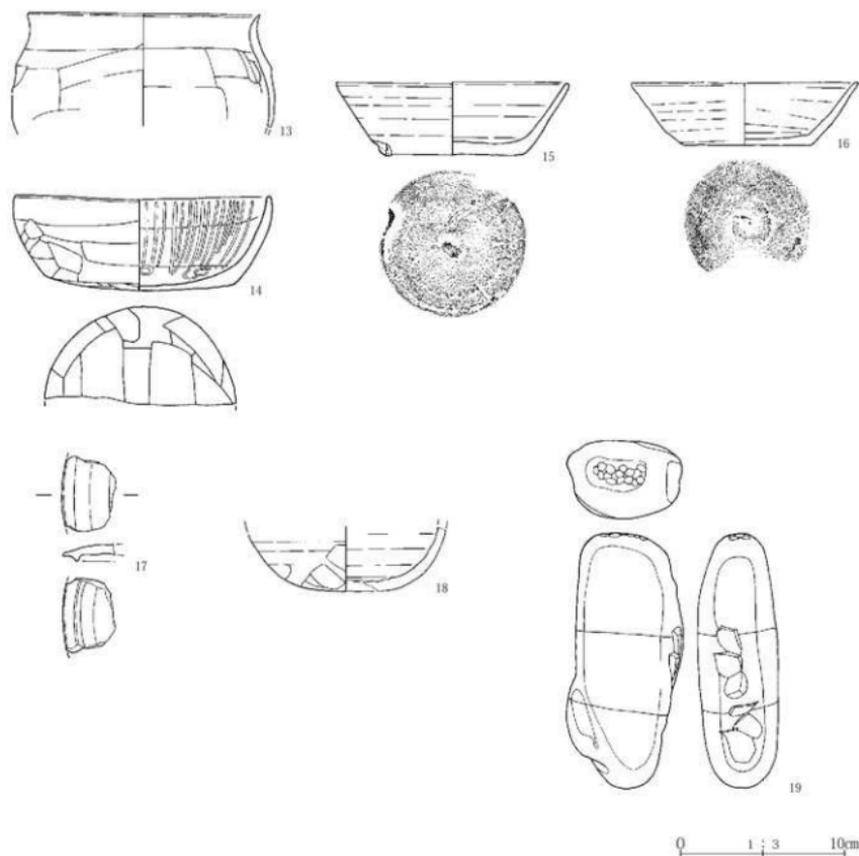
0 1 : 30 1m

第121図 41号竪穴建物竈



0 1 3 10cm

第122図 41号竪穴建物出土遺物(1)



第123図 41号竪穴建物出土遺物(2)

遺物 本建物からは土師器の杯(1~8)・甕(9~12)・壺(13)・杯(14)や破片251片、須恵器の杯(15・16)・蓋(17)・壺(18)や破片4片が出土している。このほか礫石から転用品(19)を含むこも瀧み石(20~24)の出土を見た。このほか本建物と42・43号竪穴建物のいずれに帰属するか判断のつかなかった土師器片277片、須恵器片2片もあった。

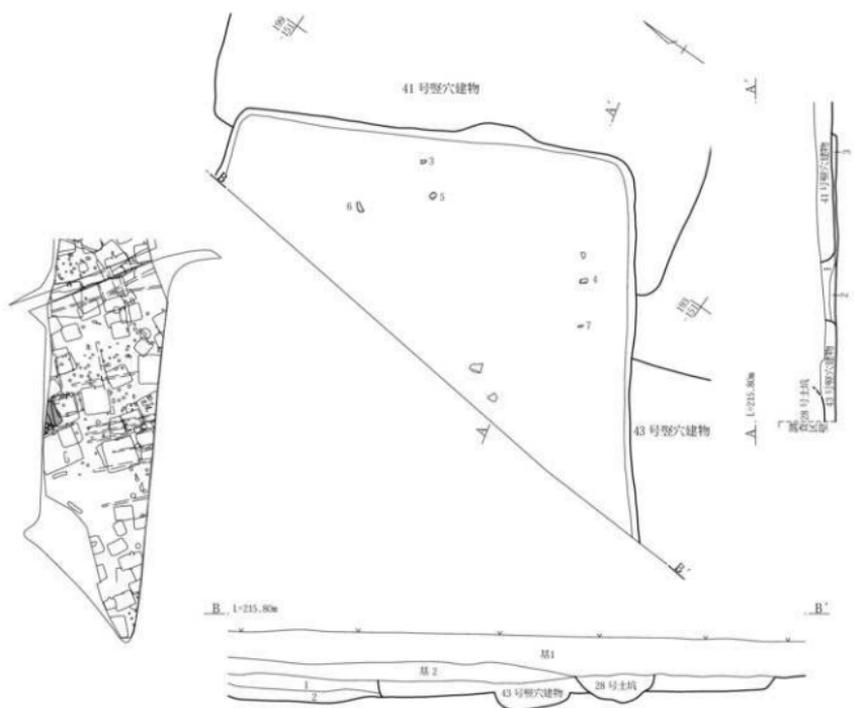
所見 本建物の時期は、出土遺物から推して8世紀前半の所産と判断される。

42号竪穴建物(第124・125図、Pl.25・26・104)

概要 本建物は形状規模から推して、竪穴建物と認識、調査した。本建物は北東部から南西部にかけて西側が調査区外に出ているため、全容は確認できなかった。また本建物ではが²や瀧を確認できなかったことから、竪穴建造物の可能性も考慮される。

位置 本建物はA区北部南西域の調査区西壁際に在り、191~198-150~153グリッドに位置する。

重複 本建物は41・43号竪穴建物と重複するが、両建物に対して本建物の方が古い。



42号堅穴建物A-A'・B-B'

- 1 褐灰色土(10YR4/1)；粘性やや弱、しまり強。白色粒・5mm大の小礫を少量含む、褐色土が混じる
- 2 黒褐色土(10YR3/1)；粘性やや弱、しまり強。焼土粒を少量含む。粗質
- 3 灰黄褐色砂質土(10YR4/2)；粘性弱、しまりやや強

掘作土

- 基1 黒褐色土(10YR3/2)；粘性やや弱、しまり強。5mm大の小礫を少量含む
- 基2 黒褐色土(10YR3/1)；粘性やや弱、しまり強。白色粒・褐色粒・5mm大の小礫を中量含む

第124図 42号堅穴建物

規模 [堅穴]前後：(5.09)m 左右：(4.53)m

深さ：0.16m 床面積：(13.42)㎡

埋土 粘性やや弱い褐灰色土、黒褐色土と粘性の弱い灰黄褐色砂質土で埋没する。三角堆積を確認することはできなかった。

構造 [堅穴]本建物は過半が調査区外に出るため、全容は確認できなかったが、堅穴は東西に長い隅丸長方形のプランを呈するものと判断される。また主軸の向きはN

35° Wを向く。

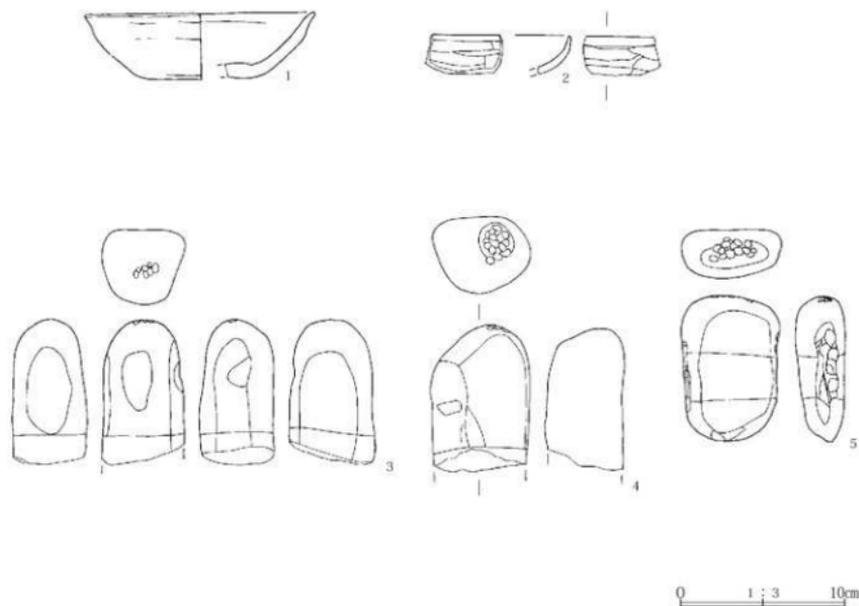
[掘り方・床]本建物では掘り方は確認されなかった。従って床面は地床構造であったものと認識される。

[炉・竈]炉や竈は確認されなかった。

[柱穴]柱穴は確認されなかった。

[貯蔵穴]貯蔵穴は確認されなかった。

[棟]棟方向は、想定される堅穴の形状から東北東-西南西方向を向くものと想定される。しかし上屋構造を確認



第125図 42号竪穴建物出土遺物

することはできなかった。

遺物 本建物からは土師器杯(1・2)が出土したほか、土師器片115片、須恵器片と灰釉陶器片各1片が出土している。また礫石から転用品(3～5)を含むこも編み石(6・7)の出土を見た。また上述のように本建物と41・43号竪穴建物のいずれに帰属するか判断のつかなかった土師器片277片、須恵器片2片もあった。

所見 本建物の時期は、出土遺物からは7世紀後半または8世紀の所産の可能性を有する。

43号竪穴建物(第126・127図, PL.25・26)

概要 本建物は形状規模から推して、竪穴建物と認識、調査した。本建物は、その過半が西側調査区外に出るため、南東側の一部を調査できたに過ぎず、全容は確認できなかった。また本建物では柱や竈を確認できなかった

ことから、竪穴状遺構の可能性も考えられる。

位置 本建物はA区北部南西域の調査区西壁際に在り、191～196-151～153グリッドに位置する。

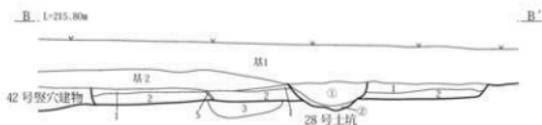
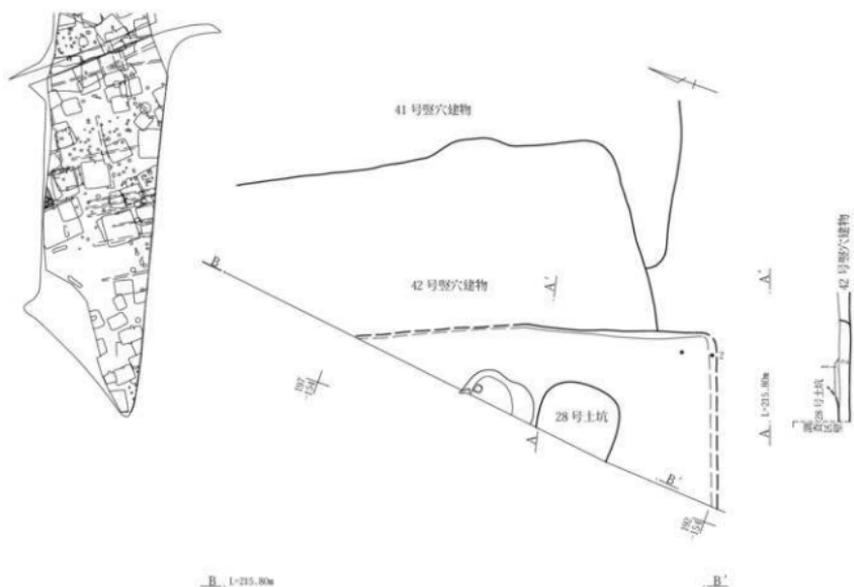
重複 本建物は42号竪穴建物と28号土坑と重複するが、42号建物に対しては本建物の方が新しく28号土坑に対しては本建物の方が古い。

規模 [竪穴]前後:(4.37)m 左右:(2.08)m

深さ:0.07m 床面積:(4.80)㎡

埋土 粘性やや弱く小礫含む灰褐色土と粘性やや弱い黒褐色土で埋没する。所謂三角堆積は確認できなかった。

構造 [竪穴]竪穴は方形または長方形のプランを呈するものと思量され、竪穴の全容が詳らかでないため主軸の向きは特定できないが、ここではN20°Wを記しておく。[掘り方・床]本建物では掘り方は確認されず、従って床面は地床として報告する。また床面の西側調査区際中程



耕作土

基1 黒褐色土(10YR3/2)：粘性やや弱、しまり強。5mm大の小礫を少量含む

基2 黒褐色土(10YR3/1)：粘性やや弱、しまり強。白色粒・褐色粒・5mm大の小礫を中量含む

43号壑穴建物A-A'・B-B'

1 灰褐色土(7.5YR4/2)：粘性やや弱、しまりやや強。5mm大の小礫を中量含む

2 黒褐色土(10YR3/1)：粘性やや弱、しまり強。焼土粒・5mm大の小礫を少量含む

3 灰黄褐色砂質土(10YR4/2)：粘性弱、しまり強

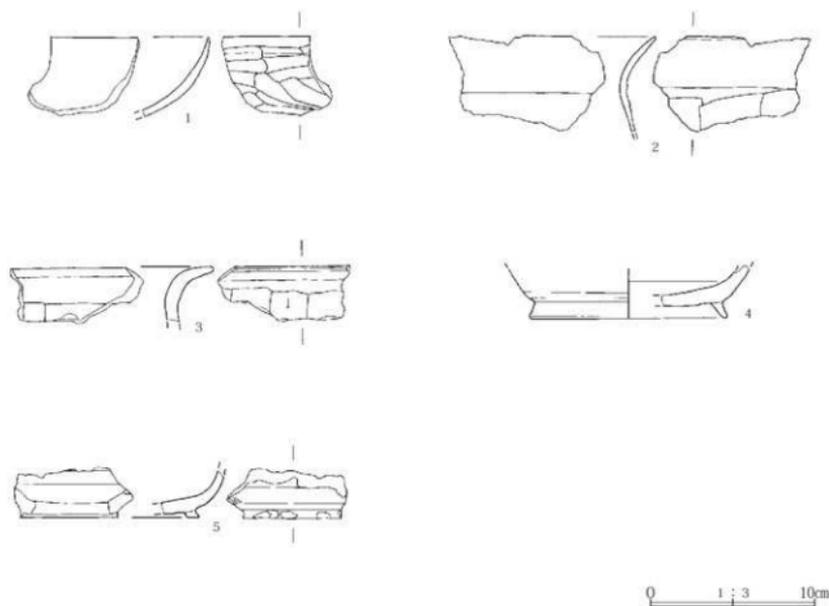
28号土坑

① 黒褐色土(10YR3/2)：粘性中程度、しまりやや強。5mm大の小礫を少量含む、焼土が混じる

② に近い赤褐色土(5YR4/4)：焼土主体。粘性中程度、しまりやや強。褐色土・黒色土のブロックが混じる



第126図 43号壑穴建物



第127図 43号竪穴建物出土遺物

に、残径 0.92×0.39 m、深さ 0.28 mを測る、東辺がやや窪む隅丸長方形プランの土坑状の掘り込みが確認されたが、この掘り込みが本建物に付随するものか、本建物建設以前の所産であるかは特定できなかった。

[竈]竈は確認されなかった。

[柱穴]柱穴は確認されなかった。

[貯蔵穴]貯蔵穴は確認されなかった。

[棟]本建物の竪穴の全容が把握されなかったため、棟方向は想定できなかった。また上屋構造も確認されなかった。

遺物 本建物からは土師器椀(1)・甕(2・3)や須恵器椀(4・5)が出土したほか、土師器片79片、須恵器片1片の出土している。また上述のように本建物と41・42号竪穴建物のいずれに帰属するか判断のつかなかった土師

器片277片、須恵器片2片もあった。

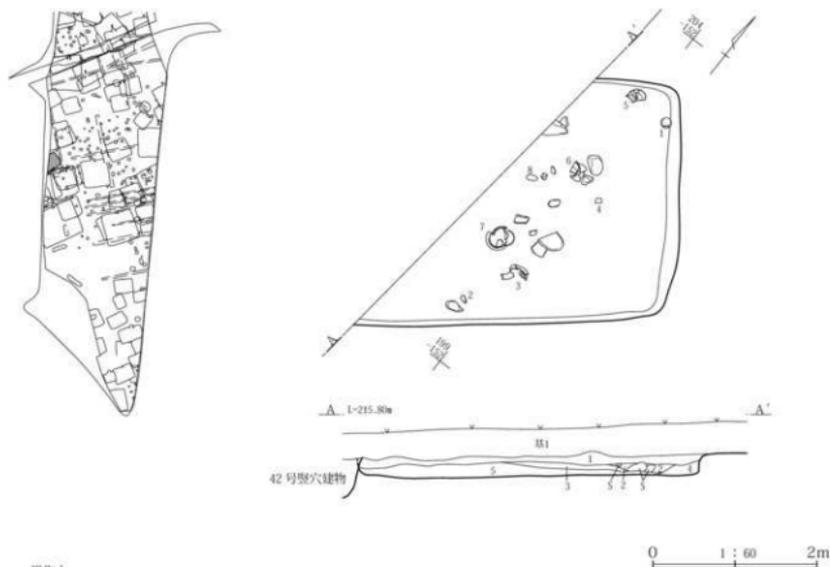
所見 本建物の時期は、出土遺物から推して8世紀後半の所産と判断される。

44号竪穴建物(第128・129図、PL.26・27・104・105)

概要 本建物は形状規模から推して、竪穴建物と認識し、調査した。本建物は、その西部が西側調査区外に出るため、全容は確認できなかった。また本建物ではがや竈を確認できなかったことから、竪穴状遺構の可能性も考慮される。

位置 本建物はA区北部南西隅域に在り、198～203-150～153グリッドに位置する。

重複 本建物は南東辺で41・42号竪穴建物と南東部で2号焼土重複するが、いずれに対しても本建物の方が古い。



耕作土

基1 黒褐色土(10YR3/2):粘性やや弱、しまり強。5mm大の小礫を少量含む

44号竪穴建物A-A'

- 1 灰黄褐色土(10YR4/2):粘性やや弱、しまり強。褐色粒・5mm大の小礫を少量、焼土粒を微量に含む
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2):粘性やや弱、しまりやや強。焼土ブロックと円礫を含む。下面が傾ける
- 3 黒褐色土(10YR3/1):粘性中程度、しまりやや強。5mm大の小礫を少量含む
- 4 褐色土(10YR4/1):粘性やや弱、しまり強。5mm大の小礫を中量、炭化物・焼土粒を少量含む
- 5 褐色土(10YR4/1):粘性弱、しまり強。5mm大の小礫を少量含む、褐色土が混じる

第128図 44号竪穴建物

規模 [竪穴]前後:2.96m 左右:(3.54)m

深さ:0.27m 床面積:(6.58)㎡

埋土 粘性やや弱い灰黄褐色土や粘性弱い褐色土混じりの褐色土等で埋没する。北西側で小礫と炭化物・焼土粒を少量含む粘性のやや弱い褐色土が三角堆積を形成する。

構造 [竪穴]竪穴は横長の隅丸長方形のプランを呈し、主軸の向きはN52° Eを向く。

[掘り方・床]本建物に掘り方は確認できなかった。従って本建物は地床と判断される。

[炉・竈]がや竈は確認されなかった。

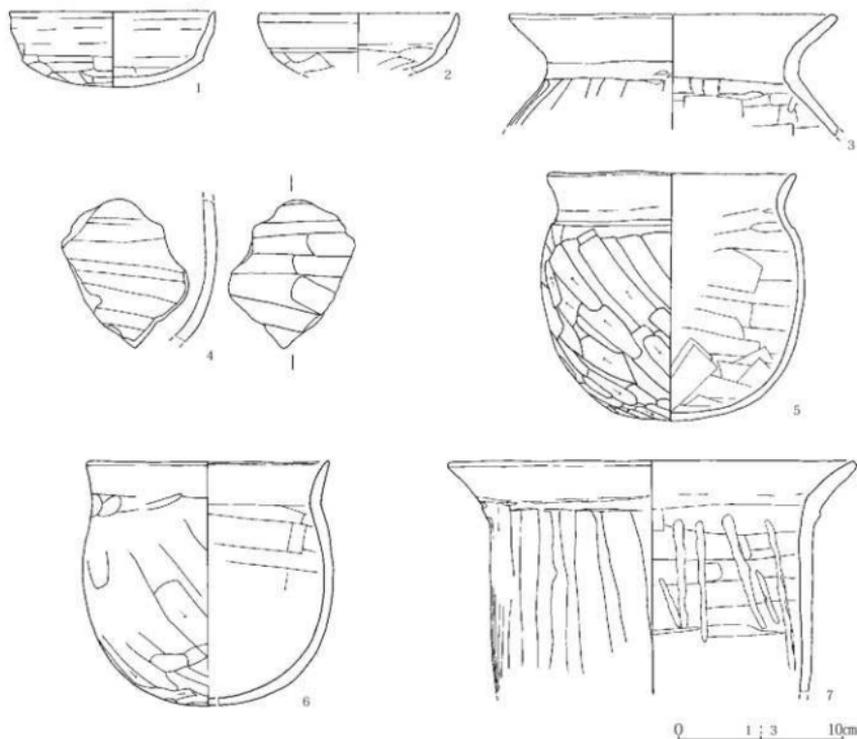
[柱穴]柱穴は確認されなかった。

[貯蔵穴]貯蔵穴は確認されなかった。

[棟]棟方向は、竪穴の形状から推して南東-北西方向を向くものと想定される。また上屋構造は確認できなかった。

遺物 本建物からは土師器杯(1・2)・甕(3・4)・小型甕(5・6)・甕(7)やこも編み石(8)が出土している。このほか土師器片81片の出土を見た。

所見 本建物の時期は、出土遺物から推して6世紀後半の所産と判断される。



第129図 44号竪穴建物出土遺物

45号竪穴建物(第130・131図、PL.27・105)

概要 本建物は竈付の竪穴建物である。建物の手前側は西側調査区外に出るため、全容を把握することはできなかった。

位置 本建物はB1区中ほどの南西寄り、調査区西壁際にいる。229～232-147～150グリッドに位置する。

重複 本建物は46号竪穴建物と重複するが、本建物の方が新しい。

規模 [竪穴]前後：(3.61)m 左右：3.06m
深さ：0.28m 床面積：(8.64) m²

[竈] 長さ：1.21m 幅：1.19m

左袖 長さ：0.35m 幅：0.23m 高さ：0.21m

右袖 長さ：0.57m 幅：0.58m 高さ：0.28m

燃焼部 長さ：1.03m 幅：0.56m

深さ：0.03m

煙道 長さ：0.40m 幅：0.25m 高さ：0.17m

掘り方 長さ：0.70m 幅：1.12m

深さ：0.05m

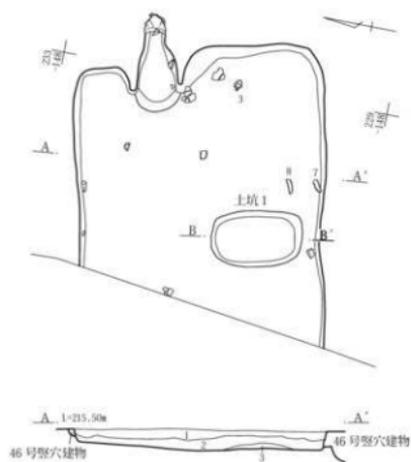
[土坑1] 平面規模：0.68×1.10m 深さ：0.13m

埋土 本建物は一部に炭化物・焼土粒・小礫含む粘性のやや弱い灰黄褐色土と焼土粒含み粘性の弱い灰黄褐色土で埋没する。所謂三角堆積は確認できなかった。

構造 [竪穴]竪穴は横長の隅丸台形プランを呈し、主軸の向きはN11°Wを向く。

[掘り方・床]本建物の掘り方は確認されず、床は地床構造と判断される。

なお、南半の西寄りに主軸を略南北方向に向けた隅丸長方形プランの土坑が見られた。用途等は想定できない。



土坑1

B 1-215.50m



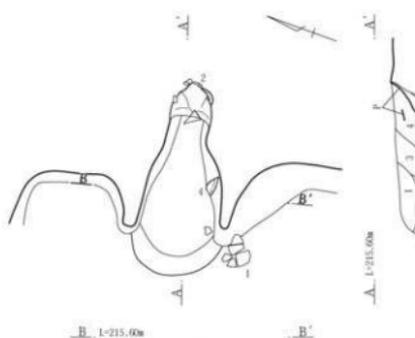
45号竪穴建物A-A'

- 1 灰黄褐色土(10YR4/2)：粘性やや弱、しまりやや強。5mm大の小礫を少量含む
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2)：粘性やや弱、しまりやや強。炭化物・焼土粒・5mm大の小礫を中量含む
- 3 灰黄褐色土(10YR5/2)：粘性弱、しまりやや強。焼土粒を中量含む

45号竪穴建物土坑1

- 1 灰黄褐色土(10YR4/2)：粘性やや弱、しまりやや強。焼土粒・褐色粒・炭化物を少量含む

0 1 : 60 2m

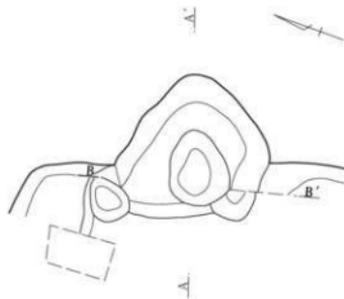


B 1-215.50m



45号竪穴建物

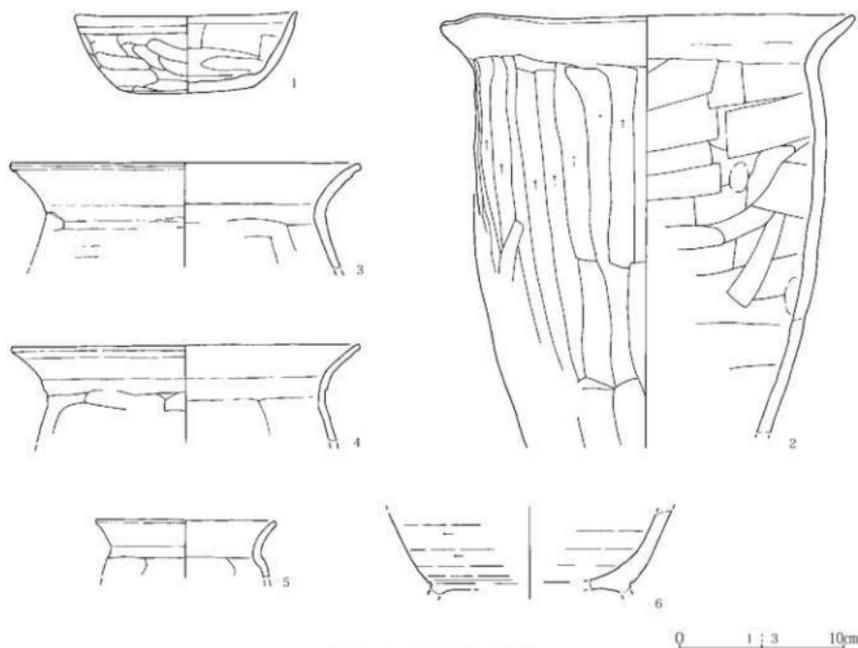
- 1 灰黄褐色土(10YR5/2)：粘性中程度、しまりやや強。5mm大の小礫を少量含む、黒色土が混じる
- 2 褐色土(10YR4/1)：粘性中程度、しまりやや強。5mm大の小礫を少量含む、焼土が混じる
- 3 にぶい黄褐色土(10YR6/3)：ローム主体、粘性中程度、しまり強。褐色土が混じる
- 4 褐色砂質土(10YR4/1)：粘性弱、しまり強
- 5 褐色土(10YR4/1)：粘性やや弱、しまりやや強。焼土粒・炭化物を少量含む。下面が強く焼ける
- 6 灰黄褐色土(10YR5/2)：粘性やや弱、しまりやや強。土師器片を含み、焼土・黒色土が混じる



- 7 灰黄褐色土(10YR4/2)：粘性弱、しまり強。白色粒・焼土粒・5mm大の小礫を少量含む、黒色土が混じる
- 8 にぶい黄褐色土(10YR6/3)：粘性弱、しまり強。ロームブロック
- 9 灰黄褐色土(5YR4/2)：粘性弱、しまり強。白色粒を少量含む、焼土が多量に混じる
- 10 黒褐色土(10YR3/1)：粘性中程度、しまり中程度。5mm大の小礫を微量に含む
- 11 にぶい赤褐色土(5YR5/4)：焼土主体、粘性弱、しまりやや強。砂礫状の質感
- 12 褐色砂質土(5YR4/1)：粘性弱、しまりやや強
- 13 灰黄褐色砂質土(10YR4/2)：粘性弱、しまりやや強
- 14 褐色粘質土(10YR4/1)：粘性やや強、しまり中程度。5mm大の小礫を少量含む
- 15 灰黄褐色土(10YR5/2)：粘性やや弱、しまり強。白色粒・5mm大の小礫を少量含む
- 16 にぶい黄褐色砂質土(10YR5/3)：粘性中程度、しまりやや強。焼土が混じる

0 1 : 30 1m

第130図 45号竪穴建物



第131図 45号竪穴建物出土遺物

かった。

〔竈〕竈は東壁北寄りに設けられ、その方位はN77° Eを向く。

壁面を鈎いで倒置した隅丸三角形プランに0.05mほど広く掘り窪め、その右手前に径0.46×0.36m、深さ0.01mを測る半形プランに更に掘り窪めた掘り方を有し、これを、焼土を多量に含む粘性の弱い灰黄褐色土、黒褐色土、にぶい赤褐色焼土、灰黄褐色砂質土で埋め戻して燃焼面を造っている。

燃焼部の左右両側には黒色土混じりの粘性の弱い灰黄褐色土で造られた袖が残る。

なお、天井部の構造は確認できなかった。

〔柱穴〕柱穴は確認されなかった。

〔貯蔵穴〕貯蔵穴は確認されなかった。

〔棟〕棟は、竪穴の形状から推して略東西方向を向くものと思される。なお上屋構造を確認することはできなかった。

遺物 本建物からは土師器の杯(1)・甕(2～5)、須恵器の瓶(6)やこも編み石(7・8)が出土した。このほか土師器片98片、須恵器片1片の出土も見た。また本建物か46号竪穴建物か帰属の確認できなかった遺物に土師器片110片、須恵器片3片があった。

所見 本建物の時期は、出土遺物から推して8世紀前半の所産と判断される。

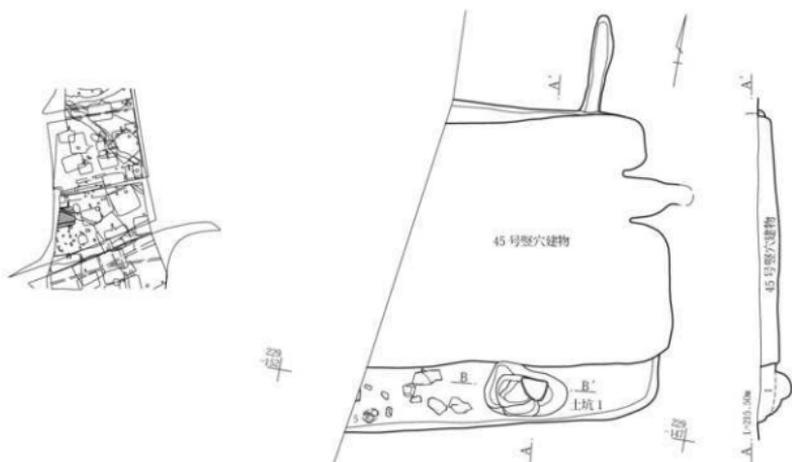
46号竪穴建物(第132・133図、PL.27・28・105)

概要 本建物は竈付の竪穴建物である。本建物は重複する45号建物により広く壊されており、また建物の西部は、西側調査区外に出るため、全容は把握できなかった。

位置 本建物はB1区の中ほどの調査区西壁際に在り、228～233-147～151グリッドに位置する。

重複 本建物は45号竪穴建物と重複するが、本建物の方が古い

規模 〔竪穴〕前後：4.02m 左右：(3.59)m



45号壑穴建物A-A'

- 1 褐灰色土(10YR4/1)：粘性中程度、しまりやや強。褐色粒・5mm大の小礫を少量含む

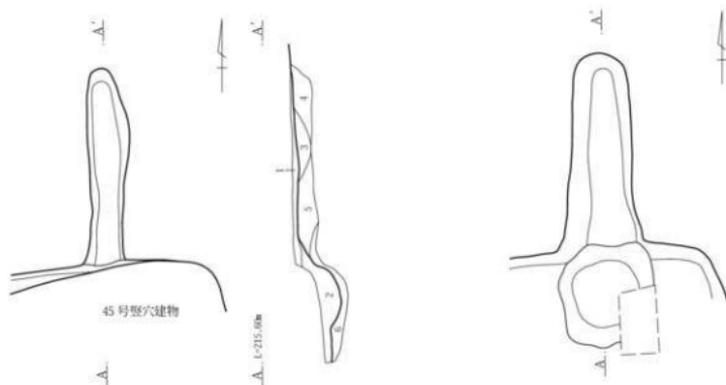
45号壑穴建物土坑I

- 1 褐灰色土(10YR4/1)：粘性中程度、しまり中程度。5mm大の小礫を少量、炭化物を微量に含む
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2)：粘性中程度、しまりやや強。炭化材・ロームが混じる

土坑I
B-B', 1-215.50m



0 1:60 2m

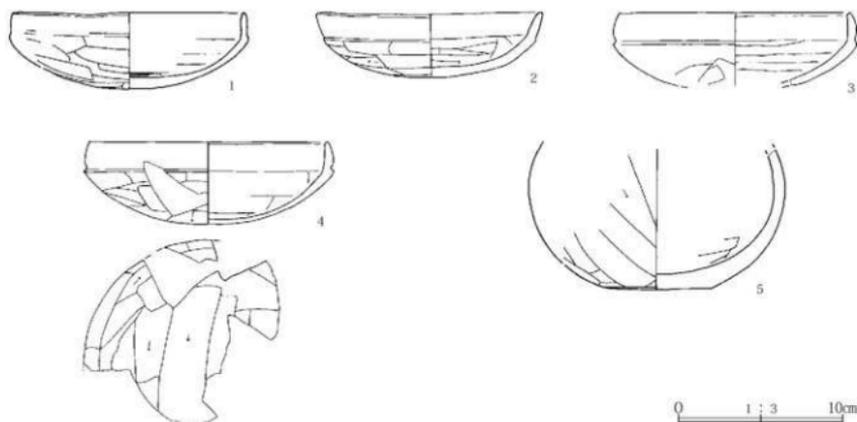


46号壑穴建物竈

- 1 灰褐色土(5YR4/2)：粘性弱、しまりやや強。焼土粒を少量含む。下面が強く焼ける
- 2 にぶい黄褐色土(10YR5/3)：粘性やや弱、しまり強。白色粒を微量に含む
- 3 褐灰色土(10YR4/1)：粘性やや弱、しまり強。焼土が混じる
- 4 灰黄褐色土(10YR5/2)：粘性弱、しまり強。黒色土が混じる
- 5 にぶい褐色土(7.5YR5/3)：粘性やや弱、しまり強。焼土粒を中量含む
- 6 にぶい赤褐色土(5YR5/4)：焼土主体。粘性やや弱、しまり強

0 1:30 1m

第132図 46号壑穴建物



第133図 46号竪穴建物出土遺物

深さ：0.20m 床面積：(10.96) m²

〔竈〕長さ：(1.22)m 幅：(0.32)m

煙道 長さ：1.20m 幅：0.32m 高さ：0.07m

掘り方 長さ：0.53m 幅：0.58m

深さ：0.13m

〔土坑1〕平面規模：0.77×1.01m 深さ：0.82m

埋土 本建物は褐灰色土と炭化材とローム混ざる灰黄褐色土で埋没する。三角堆積は確認できなかった。

構造 〔竪穴〕竪穴は隅丸方形様のプランを呈し、主軸の向きはN80° Eを向く。

〔掘り方・床〕本建物の掘り方は確認されず、床面は地床の構造を呈するものと思慮される。

〔竈〕竈は北壁東寄りに設けられ、その方位はN3° Wを向く。

壁面の手前にやや縦長の隅丸長方形プランを呈する掘り方を有し、これを埋め戻して燃焼面を造るものと想定されるが、埋土は粘性が強いものであるが、焼土化してにぶい赤褐色を呈する。

燃焼面、袖等は45号竪穴建物に壊されて失われていたため、確認できなかった。また天井部の構造も確認できなかった。

細長い溝状の煙道が確認されている。

〔柱穴〕柱穴は確認されなかった。

〔貯蔵穴〕貯蔵穴は確認されなかった。なお建物南壁際東

寄りに横長楕円形プランを呈する深さ0.15mを測る掘り込みの西寄りに径0.46×0.40m、深さ0.52mを測る隅丸長方形プランの柱穴状の掘り込みを伴う土坑1があるが、形態的にこれが貯蔵穴の可能性を有するものである。〔棟〕棟方向は特定できなかった。また上屋構造も確認できなかった。

遺物 本建物からは土師器杯(1~4)・小型甕(5)と、土師器片152片が出土している。また上述のように本建物か45号竪穴建物か、その附属の確認できなかった遺物に土師器片110片、須恵器片3片がある。

所見 本建物の時期は、出土遺物から推して6世紀後半の所産と判断される。

47号竪穴建物(第134~136図、PL.28・29・105・106)

概要 本建物は竈付の竪穴建物である。埋土中に炭化材、炭が広く分布することから、所謂焼失家屋と認められる。

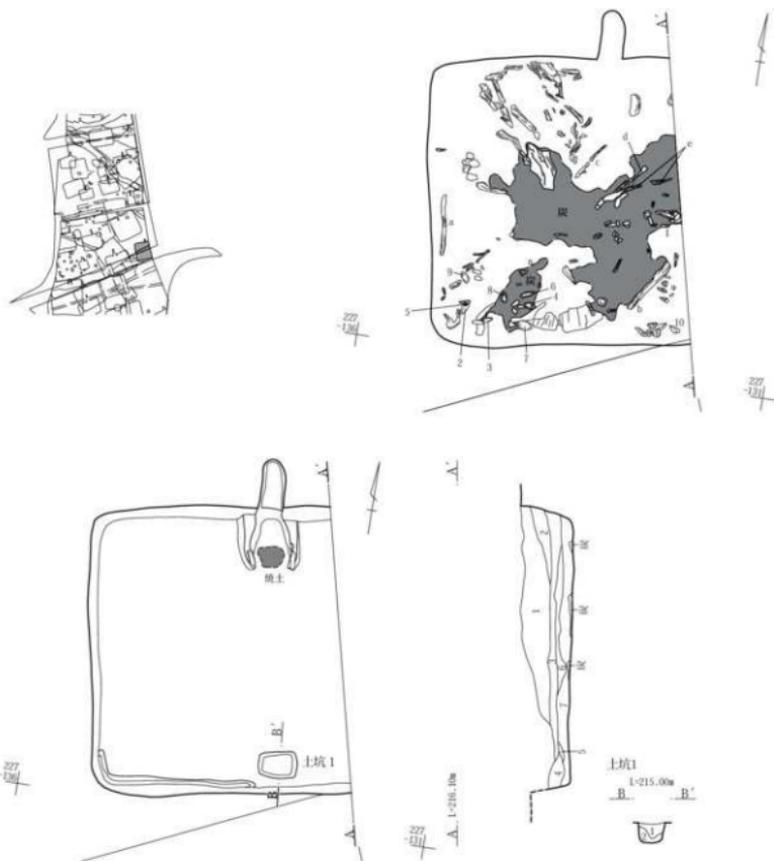
位置 本建物はB1区南東隅部に在り、227~231-131~135グリッドに位置する。

重複 本建物は1・2号溝と重複するが、1号溝よりは古く、2号溝に対しては本建物の方が新しいと思慮される。

規模 〔竪穴〕前後：3.54m 左右：(3.14)m

深さ：0.61m 床面積：(9.57) m²

〔竈〕長さ：1.36m 幅：0.79m



47号竪穴建物A-A*

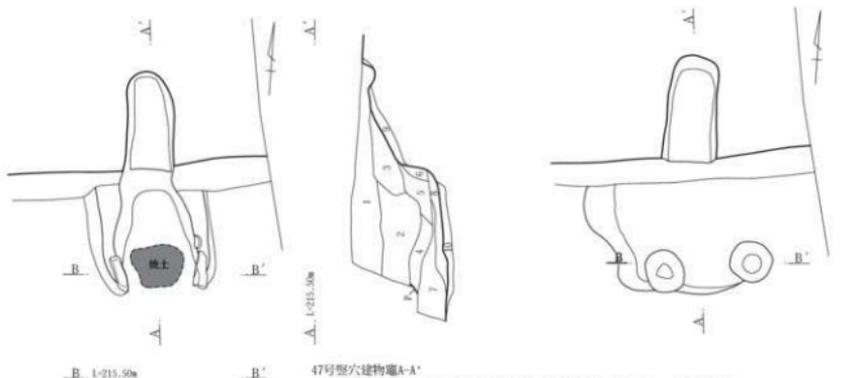
- 1 黒褐色土(10YR3/1):粘性やや弱、しまりやや強。褐色粒・5mm大の小礫を少量含む
- 2 黒褐色土(10YR3/1):粘性やや弱、しまりやや強。焼土粒を微量に含む
- 3 褐灰色土(10YR4/1):粘性中程度、しまりやや強。黒色土が混じる
- 4 にぶい黄褐色土(10YR5/3):ローム主体。粘性やや弱、しまり強。褐色粒が少量混じる
- 5 にぶい赤褐色土(5YR4/3):焼土主体。粘性弱、しまり強
- 6 にぶい黄褐色土(10YR6/3):粘性やや弱、しまりやや強。黒色土の混じるローム。
- 7 灰黄褐色土(10YR4/2):粘性中程度、しまりやや強。白色粒・炭化物・焼土粒を少量含む。下面に炭化材が散布

47号竪穴建物土坑1

- 1 褐灰色土(10YR4/1):粘性中程度、しまりやや強。5mm大の小礫を微量に含む
- 2 黒褐色土(10YR3/1):粘性やや弱、しまりやや強。焼土粒を含み、褐色土が混じる。粗質

0 1 : 60 2m

第134図 47号竪穴建物



47号竪穴建物竪断A-A'

- 1 黒褐色土(10YR3/1)；粘性やや弱、しまりやや強。焼土ブロックが混じる
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2)；粘性やや弱、しまりやや強。焼土粒を少量含む、褐色土が混じる
- 3 灰褐色土(5YR4/2)；焼土主体。粘性やや弱、しまりやや強。粗面
- 4 褐色土(10YR4/1)；粘性やや弱、しまりやや強。焼土粒・5mm大の小礫を中量含む
- 5 にぶい赤褐色土(5YR4/3)；焼土主体。粘性やや弱、しまりやや強
- 6 にぶい黄褐色土(10YR6/3)；粘性やや弱、しまりやや強。焼土が混じる。ロームブロック
- 7 褐色土(10YR4/1)；粘性中程度、しまりやや強。白色粒・炭化物・5mm大の小礫を中量含む。焼土ブロックが混じる
- 8 にぶい赤褐色土(5YR5/4)；焼土主体。粘性やや弱、しまり強。竪断B-B'の1層と対応
- 9 褐色土(5YR4/1)；粘性やや弱、しまり強。焼土粒・5mm大の小礫を少量含む
- 10 黒褐色土(10YR3/2)；粘性弱、しまり強。5mm大の小礫を中量含む、黒色土が混じる。竪断B-B'の7層と対応

47号竪穴建物竪断B-B'

- 1 にぶい赤褐色土(5YR5/4)；焼土主体。粘性やや弱、しまり強
- 2 褐色土(10YR4/1)；粘性やや弱、しまり強。焼土が混じる
- 3 褐色土(10YR4/1)；粘性中程度、しまりやや強。5mm大の小礫を少量含む
- 4 灰黄褐色土(10YR4/2)；粘性中程度、しまりやや強。褐色土が混じる
- 5 褐色土(10YR4/1)；粘性中程度、しまりやや強。焼土が混じる
- 6 灰黄褐色土(10YR4/2)；粘性中程度、しまりやや強。褐色土が混じる
- 7 黒褐色土(10YR3/2)；粘性弱、しまり強。5mm大の小礫を中量含む、黒色土が混じる

0 1:30 1m

第135図 47号竪穴建物竪断

左袖 長さ：0.76m 幅：0.26m 高さ：0.15m

右袖 長さ：0.75m 幅：0.16m 高さ：0.08m

燃焼部 長さ：0.63m 幅：0.44m

深さ：0.00m

煙道 長さ：0.59m 幅：0.32m 高さ：0.19m

掘り方 長さ：0.70m 幅：1.14m

深さ：0.03m

〔土坑1〕 平面規模：0.33×0.47m 深さ：0.27m

〔周溝〕 長さ：2.17m 幅：0.11m 深さ：0.04m

埋土 粘性弱い黒褐色土、黒色土混じりの褐色土、炭化物・焼土粒を少量含む灰黄褐色土等で埋没する。所謂三角堆積は確認できなかった。

構造 〔竪穴〕本建物は東部が調査区外に出るため、全容

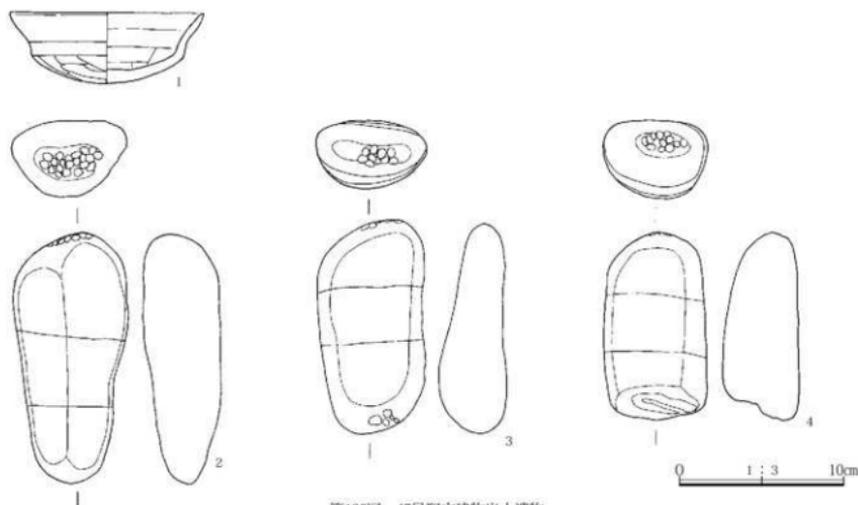
は詳らかにできなかったが、竪穴は隅丸方形または隅丸長方形のプランを呈する。主軸の向きはN81° EあるいはN9° Wを向く。

〔掘り方・床〕本建物の掘り方は確認できなかった。従って床は地床構造であったものと判断される。

なお、南壁西半から南東隅付近にかけて浅い周溝が確認された。

〔竪〕竪断は北壁の調査範囲の東寄りへ設けられる。その方位はN7° Wを向く。

壁面手前に横長の隅丸方形様のプランと想定される掘り方を有し、これを小礫と黒色土を含む黒褐色土で埋め戻して燃焼面を造る。燃焼部の後述する袖石の間には焼土面が見られる。



第136図 47号竪穴建物出土遺物

燃焼部の左右両側に、竪穴の壁面0.53mのライン上、左右0.53mの間隔をもって、左側に径0.23×0.26m、深さ0.19m、右側に径0.25×0.24m、深さ0.16mを測る小孔を掘削し、ここに小口を前後方向に据えて立てた板状の礎を袖石とし、その外側に左袖は焼土混じりの褐灰色土、右袖は褐灰色土を積んで袖を造る。

天井部の構造は確認できなかったが、竪A-A'セクションの3・4層土(焼土)は、天井の崩落土の可能性が考えられる。

壁面から奥を30°程の傾斜で長さ0.50m削って煙道を造るが、最奥部は幅0.25m、奥行き0.15mを測るの柱穴の掘り込みを垂直に掘って接続している。

[柱穴]柱穴は確認されなかった。

[貯蔵穴]貯蔵穴は竪穴周辺には確認されなかったが、竪穴の南壁際の際に相対する位置に掘削される、横長の隅丸長方形を呈する土坑1に、その可能性が考慮される。

[棟]本建物からは多くの炭化物が出土している。その多くは梁・桁材以下の屋根を構成する垂木と椽であろうと判断されるが、その太さから第134図の炭化材(a)と(b)は梁、桁材の可能性が考慮される。また炭化材(c)・(d)は棟部分の垂木材の可能性が考えられ、炭化材(e)は棟材の可能性が考慮される。また炭化材(a)も棟材の可能

性を有する。

本建物は炭化材の出土状態から推して、梁・桁以下は寄棟の屋根構造、棟部分は切妻の屋根構造を呈するものと想定される。棟方向は東西方向である可能性が高いと思量されるが、炭化材(a)が棟材の転落したものとすれば、南北を向いていた可能性も考えられる。

また竪穴埋土の6層土(黒色土混じりにぶい黄褐色土)は、土葺き材の可能性が考慮される。これが土葺き材であるとするならば、屋根の傾斜角は23°以下と想定される。

遺物 本建物からは土師器杯(1)や叢石からの転用品(2~4)を含むこも編み石(5~10)が出土した。このほか土師器片212片、須恵器片1片の出土も見られた。

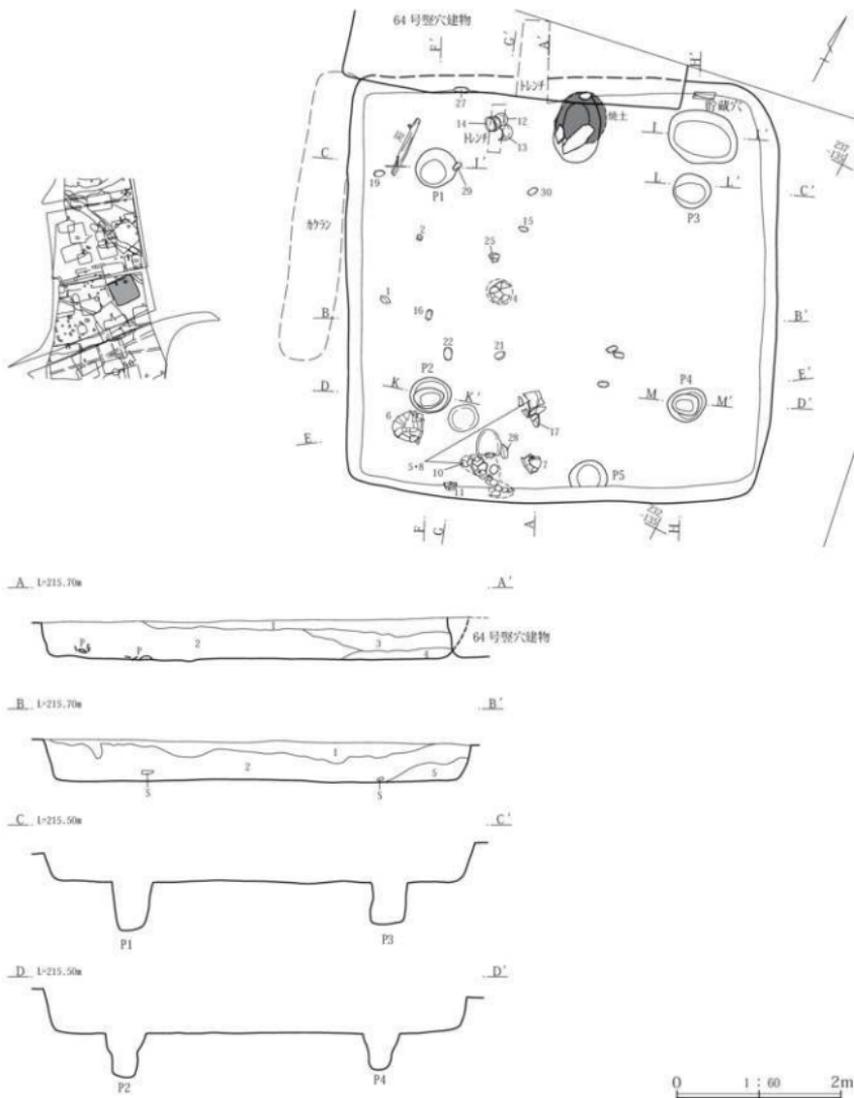
所見 本建物の時期は、出土遺物から推して6世紀後半の所産と判断される。

48号竪穴建物(第137~142図, PL.29・30・106~108)

概要 本建物は竪穴の竪穴建物である。建物北辺上位が64号竪穴建物に壊されて失われていた。

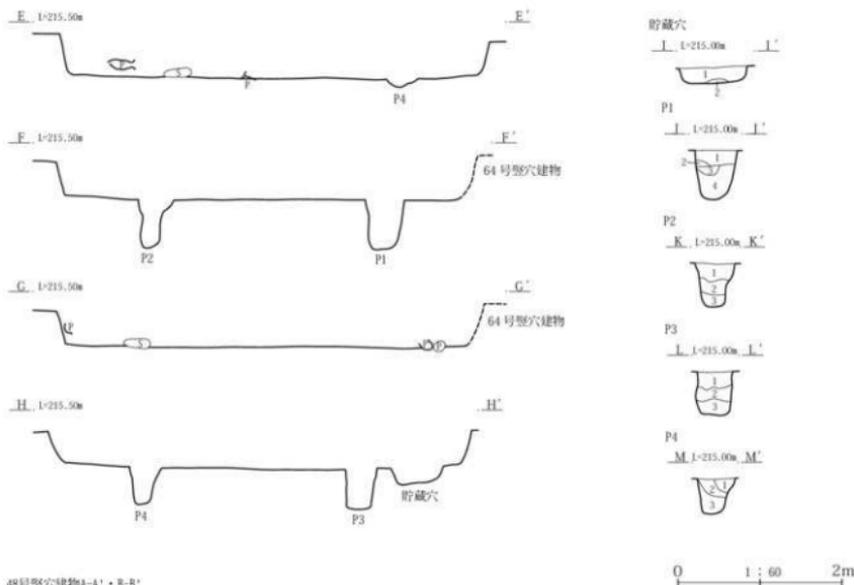
位置 本建物はB1区南東部に在り、230~237-134~140グリッドに位置する。

重複 本建物は64号竪穴建物と重複するが、本建物の方



第137図 48号竪穴建物(1)

第3章 南蛇井北原田遺跡



48号竪穴建物A-A'・B-B'

- 1 黒褐色土(10YR3/1)；粘性中程度、しまりやや強。炭化物・5mm大の小礫を少量含む
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2)；粘性中程度、しまりやや強。焼土粒・炭化物・5mm大の小礫を少量含む、褐色土が混じる
- 3 褐灰色土(10YR4/1)；粘性中程度、しまりやや強。褐色土が混じる
- 4 灰黄褐色土(10YR4/2)；粘性中程度、しまりやや強。焼土粒・炭化物を少量含む、褐色土が混じる
- 5 灰黄褐色土(10YR4/2)；粘性やや弱、しまりやや強。5mm大の小礫を少量含む。粗質

48号竪穴建物貯蔵穴

- 1 黒褐色土(10YR3/2)；粘性やや弱、しまりやや強。焼土粒・炭化物・5mm大の小礫を少量含む
- 2 に近い黄褐色土(10YR5/3)；粘性中程度、しまり中程度。黒色土が混じる

48号竪穴建物P 1

- 1 灰黄褐色土(10YR5/2)；粘性中程度、しまり強。5mm大の小礫を中量含む
- 2 黒褐色土(10YR3/1)；粘性中程度、しまり中程度。5mm大の小礫を微量に含む
- 3 に近い黄褐色砂質土(10YR5/3)；粘性やや弱、しまりやや強
- 4 褐灰色シルト質土(10YR4/1)；粘性やや弱、しまり強

48号竪穴建物P 2

- 1 灰黄褐色土(10YR4/2)；粘性中程度、しまりやや強。5mm大の小礫を微量に含む
- 2 黒褐色シルト質土(10YR3/2)；粘性中程度、しまり強
- 3 黒褐色砂質土(10YR3/2)；粘性やや弱、しまり強

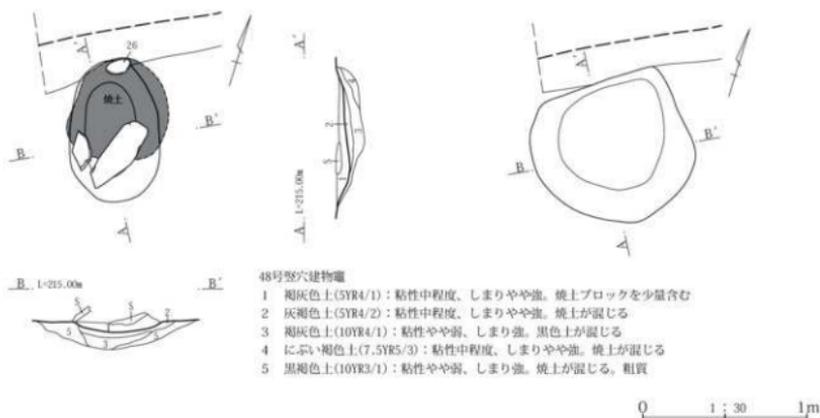
48号竪穴建物P 3

- 1 灰黄褐色土(10YR4/2)；粘性中程度、しまりやや強。5mm大の小礫を中量含む
- 2 黒褐色シルト質土(10YR3/2)；粘性中程度、しまりやや強
- 3 黒褐色シルト質土(10YR3/1)；粘性中程度、しまりやや強。5mm大の小礫を微量に含む

48号竪穴建物P 4

- 1 褐灰色土(10YR4/1)；粘性中程度、しまり強。5mm大の小礫を微量に含む
- 2 褐灰色土(10YR4/1)；粘性中程度、しまり強。黄褐色土が混じる
- 3 黒褐色シルト質土(10YR3/2)；粘性中程度、しまり強。5mm大の小礫を微量に含む

第138図 48号竪穴建物(2)



48号竪穴建物竈

- 1 褐灰色土(5YR4/1)：粘性中程度、しまりやや強。焼土ブロックを少量含む
- 2 灰褐色土(5YR4/2)：粘性中程度、しまりやや強。焼土が混じる
- 3 褐色土(10YR4/1)：粘性やや弱、しまり強。黒色土が混じる
- 4 にぶい褐色土(7.5YR3/3)：粘性中程度、しまりやや強。焼土が混じる
- 5 黒褐色土(10YR3/1)：粘性やや弱、しまり強。焼土が混じる。粗質

第139図 48号竪穴建物竈

が古く、北辺中・西部の上位を同建物に壊されている。

規模 〔竪穴〕前後：5.21m 左右：5.24m

深さ：0.53m 床面積：23.11㎡

〔竈〕長さ：[1.04]m 幅：0.56m

燃焼部 長さ：0.88m 幅：0.55m

深さ：0.07m

掘り方 長さ：0.85m 幅：0.98m

深さ：0.17m

〔貯蔵穴〕 平面規模：0.65×0.83m 深さ：0.22m

〔P1〕 平面規模：0.48×0.50m 深さ：0.61m

〔P2〕 平面規模：0.43×0.50m 深さ：0.58m

〔P3〕 平面規模：0.42×0.46m 深さ：0.53m

〔P4〕 平面規模：0.40×0.47m 深さ：0.47m

〔P5〕 平面規模：0.46×0.31m 深さ：0.17m

埋土 黒褐色土、灰黄褐色土、褐灰色土等で埋没する。東壁際で粘性やや弱い灰黄褐色土が三角堆積等を形成する。

構造 〔竪穴〕竪穴は北東隅が隅丸を呈する方形のプランを呈し、主軸の向きはN63°Eを向く。

〔掘り方・床〕本建物に掘り方は確認されなかった。従って本建物の床構造は地床を呈するものと判断される。

〔竈〕竈は北西壁の中ほどに設けられ、その方位はN18°Wを向く。

壁面手前に、略楕円形のプランを呈する掘り方を有し、

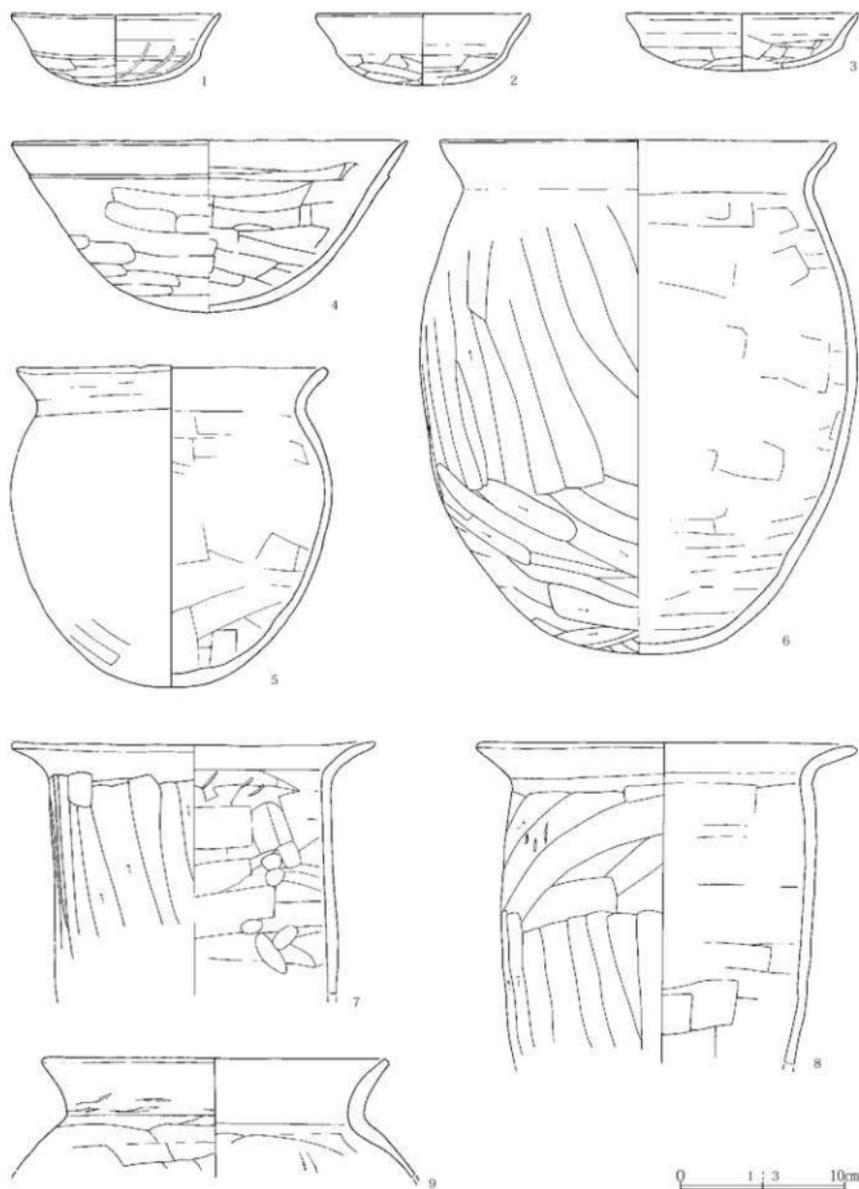
これを共に焼土混じりの褐灰色土、にぶい褐色土、共に粘性のやや弱い黒色土混じりの褐灰色土と焼土混じりの黒褐色土で埋め戻して燃焼面を造る。壁寄りの燃焼面には焼土化が見られる。

袖は確認されず、天井部の構造も確認できなかった。〔柱穴〕床面にはP1(北)・P2(西)・P3(南)・P4(東)の4基の柱穴が掘削された。柱穴はいずれも楕円形のプランを呈する。また南東壁の中ほど、竈に相對して、南東部が壁面で区切られた楕円形様のプランを呈するピットが見られた。このピットの掘削深度は柱穴の1/3程であり、束柱のような用途に用いられたものと想定される。

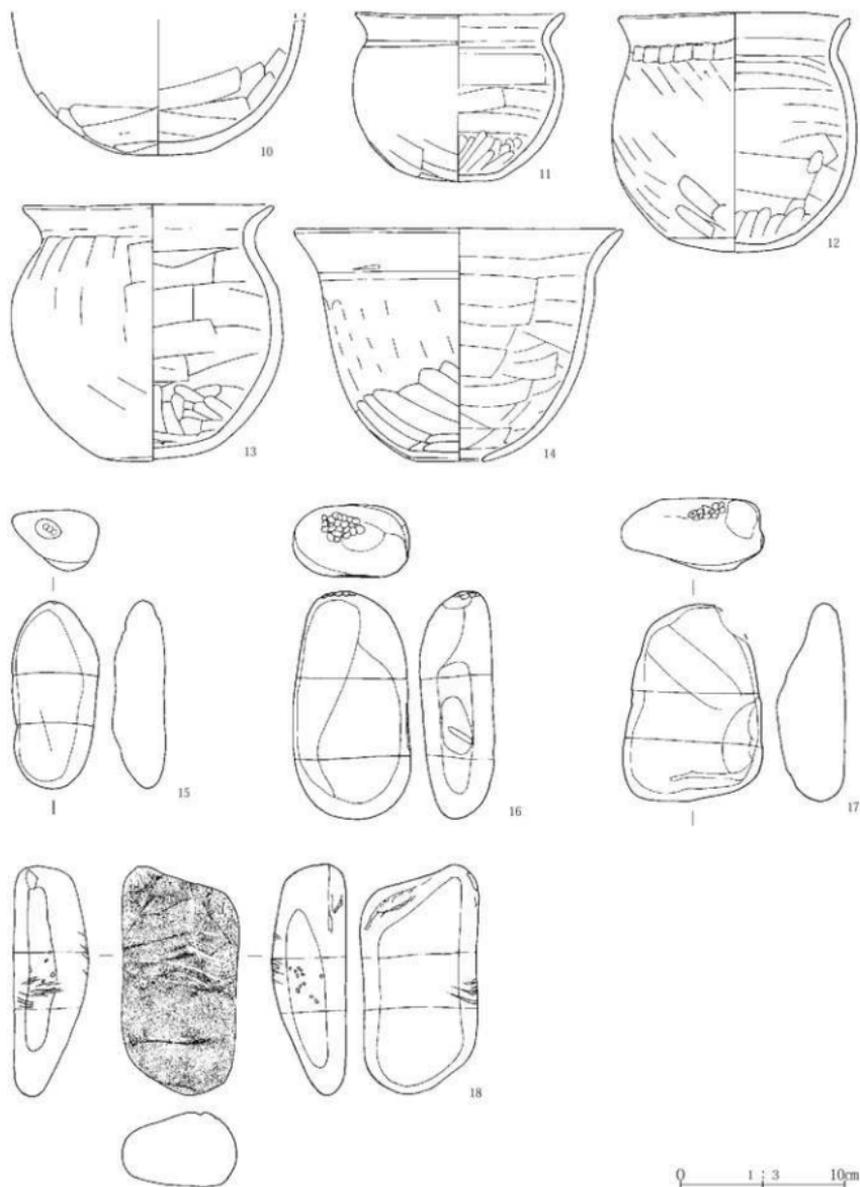
柱間は、P1・2間は2.78m、P3・4間は2.58mを測り、P2・4間は3.10m、P1・3間は3.15mを測る。柱間の長さの比較から前2者が梁間、後2者が桁間と判断される。その平均は梁間が2.68m、桁間が3.125mとなる。

〔貯蔵穴〕貯蔵穴は竈の右側、竪穴の北隅部に掘削されている。そのプランは横長の隅丸方形を呈し、その掘削形態は缶形を呈する。

〔棟〕棟方向は、柱穴の掘削位置から推して東北東-西南西であったと想定される。柱穴の断面観察では柱痕は確認されず、柱の太さは確認できなかったが、P2・4の下位の形状からは径0.30m以下であったことが想定され

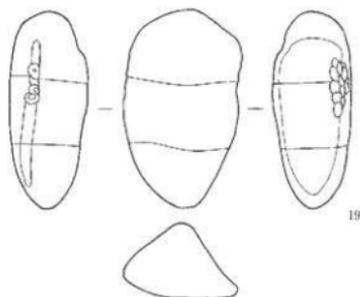


第140図 48号竪穴建物出土遺物(1)

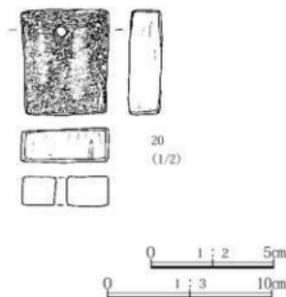


第141図 48号塚穴建物出土遺物(2)

0 1 : 3 10cm



第142図 48号竪穴建物出土遺物(3)



る。

なお、上屋構造は確認されなかった。柱間の測定値の比較では、北東—南西列、北西—南東列の孰れになるか判断はつかなかったが、竪穴の直交する径の比較から、北西—南東方向に棟を向くものと判断される。

遺物 本建物からは土師器の杯(1~3)・鉢(4)・甕(5~10)・小型甕(11~13)・甕(14)のほか土師器片281片、須恵器片2片が出土し、敲石からの転用品(15~17)を含むこも編み石(18・19・21~30)と不明石製品1点(20)が出土している。こも編み石の分布は竪穴東半部中央西寄りと西半部に広がり、その分布状況は散漫である。またこも編み石(18)には刀創痕が見られる。

所見 本建物の時期は、出土遺物から推して6世紀後半の所産と判断される。

49号竪穴建物(第143・144図、PL.31・108)

概要 本建物は竪穴の竪穴建物である。建物西寄り部分は西側調査区外に出るため、全容は把握できなかった。
位置 本建物はA区北北西の調査区西壁際に在り、212~216-150~152グリッドに位置する。

重複 本建物は南東隅部で35号竪穴建物、北東隅で51号竪穴建物と重複するが、共に新旧関係を特定することはできなかった。

規模 [竪穴]前後：3.29m 左右：(2.84)m
深さ：0.35m 床面積：(6.77) m²

[竪] 長さ：0.61m 幅：0.81m
左袖 長さ：0.48m 幅：0.26m 高さ：0.05m
右袖 長さ：0.35m 幅：0.30m 高さ：0.06m

燃焼部 長さ：0.44m 幅：0.46m

深さ：0.04m

[貯蔵穴] 平面規模：0.40×0.35m 深さ：0.12m

埋土 粘性やや弱い黒褐色土や部分的に焼土粒・炭化物・小礫を少量含む灰黄褐色土等で埋没する。明確な三角堆積は確認できなかった。

構造 [竪穴] 上述のように本建物は全容を把握できなかったため竪穴のプランも明確には把握できないが、調査範囲の形態から推して、(横長の)隅丸長方形のプランを呈するものと思量される。なおその主軸の向きはN62°Eを向く。

[掘り方・床] 本建物では掘り方を確認することはできなかった。従って本建物の床は地床の構造であったものと認識される。

[竪] 竪は北壁の恐らく東寄りと考えられる位置に設けられ、その方位はN28°Wを向く。

掘り方は確認されなかった。

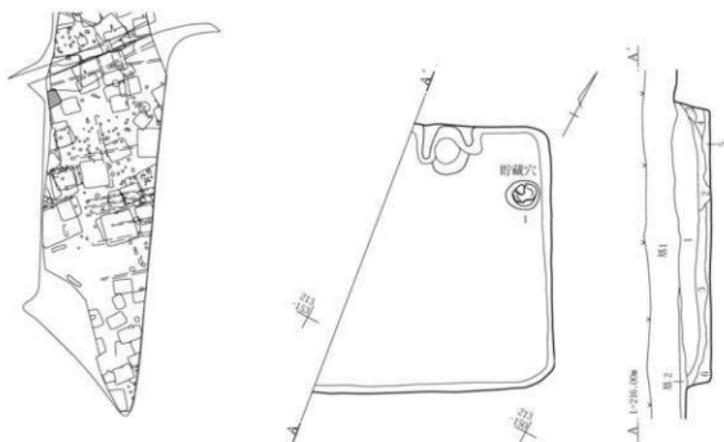
竪穴の壁面手に燃焼部が設けられ、左右に袖が残るが、袖の構成材等の記録を残すことはできなかった。また天井部の構造も確認できなかった。

[柱穴] 柱穴は確認されなかった。

[貯蔵穴] 貯蔵穴は、東壁際北寄りに確認された、土師器鉢(1)が入られた土坑がそれと思量される。

[棟] 本建物は全容が確認できず、柱穴も確認されなかったため、棟方向を特定することはできなかった。また上屋構造も確認できなかった。

遺物 本建物からは土師器鉢(1)のほか土師器片19片が出土している。



耕作土

基1 黒褐色土(10YR3/2)：粘性やや弱、しまり強。5mm大の小礫を少量含む

基2 黒褐色土(10YR3/1)：粘性やや弱、しまり強。白色粒・褐色粒・5mm大の小礫を中量含む

49号壱穴建物A-A'

1 黒褐色土(10YR3/1)：粘性やや弱、しまりやや強。炭化物・5mm大の小礫を少量含む

2 褐灰色土(10YR4/1)：粘性中程度、しまりやや強。5mm大の小礫を少量含む

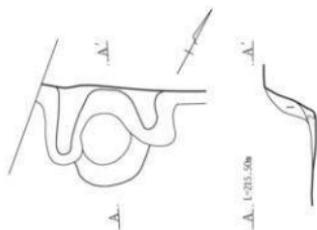
3 黒褐色土(10YR3/2)：粘性中程度、しまりやや強。5mm大の小礫を少量含む

4 黒褐色土(10YR3/1)：粘性やや弱、しまりやや強。焼土粒・5mm～2cm大の小礫を少量含む

5 灰黄褐色土(10YR4/2)：粘性中程度、しまりやや強。焼土粒・炭化物・5mm大の小礫を少量含む、褐色土が混じる

6 灰黄褐色土(10YR4/2)：粘性中程度、しまりやや強。白色粒・5mm大の小礫を少量含む。粗質

0 1 : 60 2m



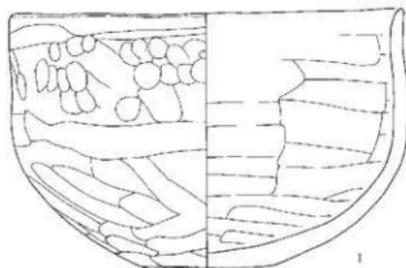
49号壱穴建物B

1 灰黄褐色土(10YR4/2)：粘性中程度、しまりやや強。焼土粒・炭化物・5mm大の小礫を微量に含む

2 灰褐色土(5YR4/2)：粘性やや弱、しまりやや強。焼土が混じる

0 1 : 30 1m

第143図 49号壱穴建物



第144図 49号竪穴建物出土遺物

所見 本建物の時期は、出土遺物から推して6世紀後半の所産と判断される。

50号竪穴建物(第145～147図、PL.31・108)

概要 本建物は竪付の竪穴建物である。

位置 本建物はA区北部北端近くに在り、215～220—142～147グリッドに位置する。

重複 本建物は51・61号竪穴建物と重複するが、いずれに対しても本建物の方が新しい。

規模 [竪穴]前後：2.99m 左右：4.41m

深さ：0.33m 床面積：11.06㎡

[竪] 長さ：1.95m 幅：1.11m

左袖 長さ：0.36m 幅：0.31m 高さ：0.32m

右袖 長さ：0.59m 幅：0.29m 高さ：0.05m

燃焼部 長さ：0.90m 幅：0.56m

深さ：0.02m

煙道 長さ：(0.66)m 幅：0.21m

高さ：0.20m

掘り方 長さ：(0.88)m 幅：0.89m

深さ：0.09m

[貯蔵穴] 平面規模：0.83×0.95m 深さ：0.23m

[土坑1] 平面規模：0.80×0.86m 深さ：0.26m

[周溝] 長さ：4.33m 幅：0.16m 深さ：0.06m

埋土 粘性やや弱い褐灰色土、黒褐色土、灰黄褐色土で

埋没するが、中央やや東寄りの床上0.10～0.20m程にぶい赤褐色焼土の堆積が見られる。三角堆積は確認されなかった。

構造 [竪穴]竪穴は横長の隅丸長方形のプランを呈し、主軸の向きはN68°Eを向く。

[掘り方・床]本建物では掘り方は確認されなかった。従って本建物の床は地床構造を呈するものと判断される。尚南壁西半から西壁南壁にかけて、浅い周溝が確認された。[竪]竪は北壁中央に設けられ、その方位はN18°Wを向く。

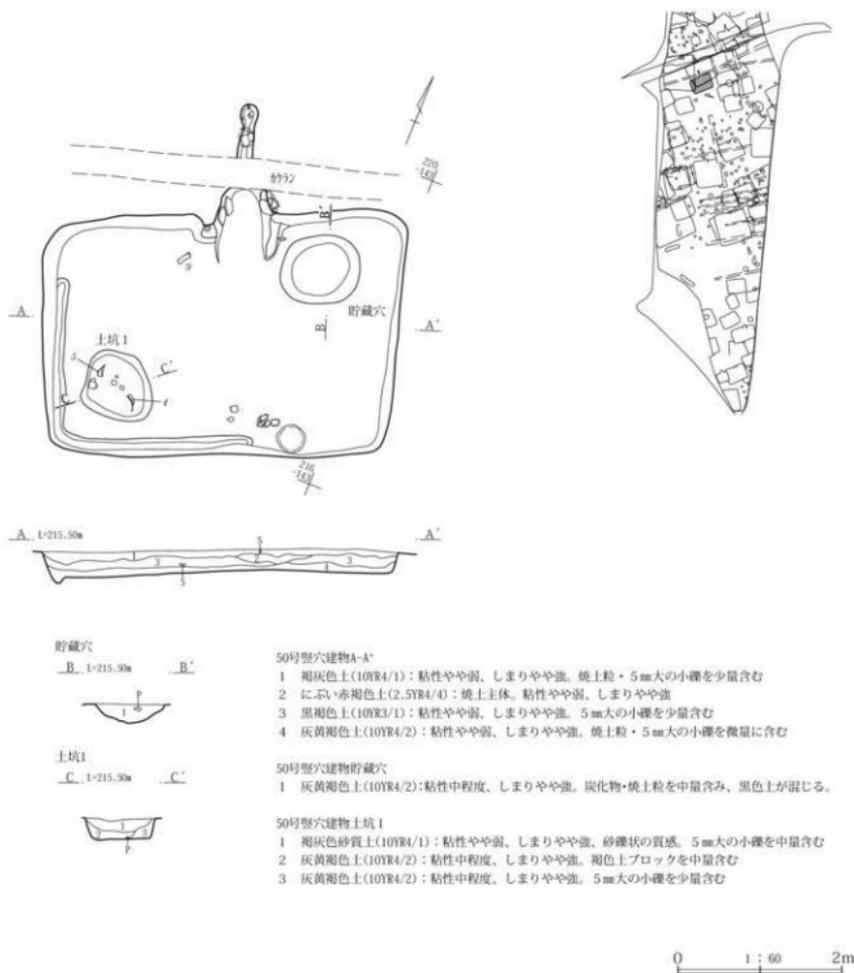
竪穴北壁を跨いで、壁面を中心とする位置に、縦長の楕円形様のプランを呈する浅い掘り方を掘削している。掘り方の燃焼部の左側に板状の礫を立て、その外側に黒色土混じりのぶい黒褐色土、更に外側に褐灰色砂質土を積んで袖を造り、右側は燃焼部奥側に板状の礫を立て、黒色土混じりのぶい黒褐色土を積んで袖を造っている。なお燃焼面は焼土化し、ぶい赤褐色を呈している。

天井部の構造は確認できなかった。

[柱穴]柱穴は確認されなかった。

[貯蔵穴]貯蔵穴は竪の直ぐ右側に円形に近い隅丸方形のプランを呈して掘削されているが、丸底気味の楕円形の掘削形態を呈する。

なお、貯蔵穴の対角線上の竪穴南西隅近くにある隅丸片屋根家形の土坑1は、缶形のしっかりした掘り込みを



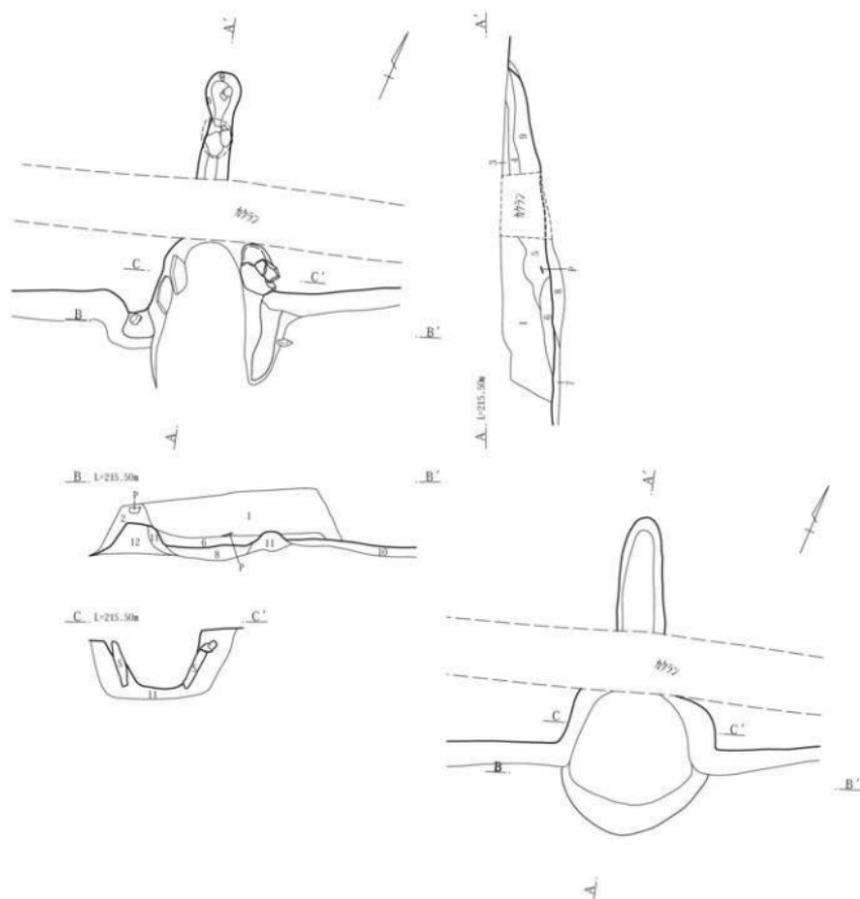
第145図 50号竪穴建物

有しており、貯蔵穴としての使用の可能性が考慮される。
〔棟〕棟方向は、竪穴の形状から略東西方向と思量されるが、上屋構造は確認されなかった。

遺物 本建物からの出土遺物は多いが、土師器杯(1・2)・鉢(3)・甕(4～6)・小型甕(7)、須恵器甕(8)

や砥石(9)が見られ、ほかに土師器片762片、須恵器片18片、灰釉陶器片1片が出土している。

所見 本建物の時期は、出土遺物から推して8世紀中葉の所産と判断される。

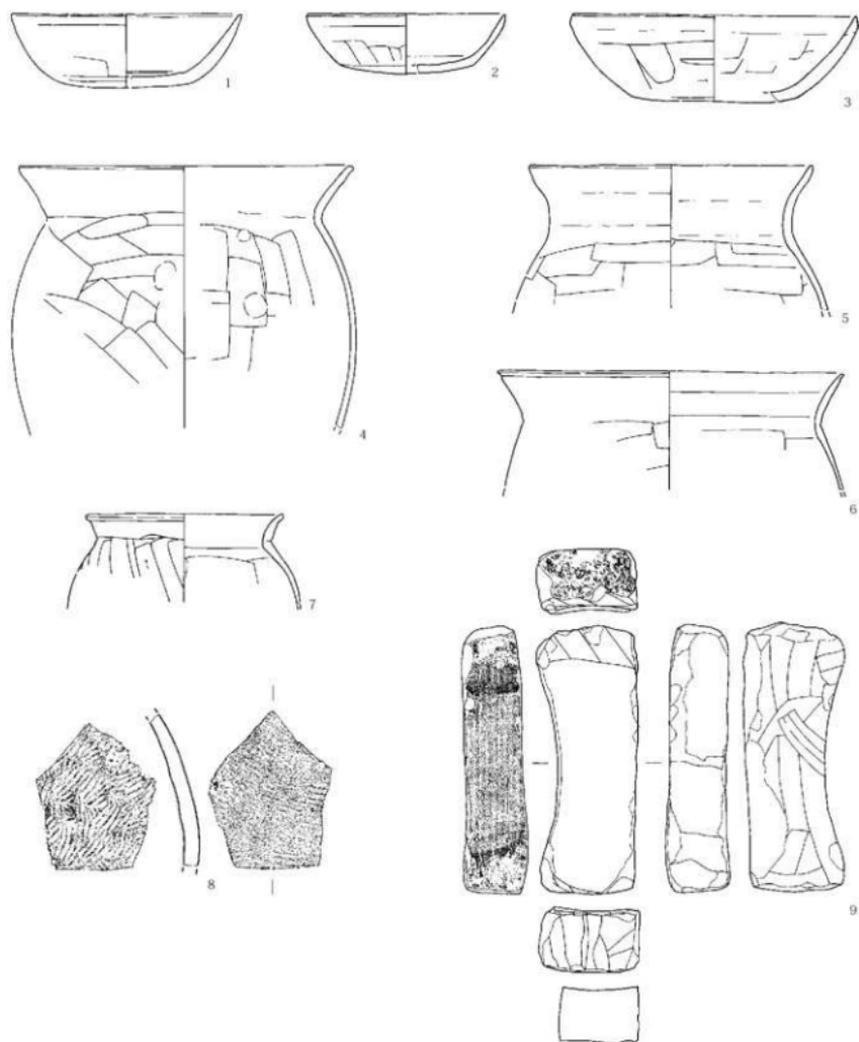


50号竪穴建物遺

- 1 黒褐色土(10YR3/1)：粘性やや弱、しまりやや強、褐色鉄を微量に含む
- 2 褐色土(10YR4/1)：粘性やや弱、しまり中程度、焼土粒・白色粒・5mm大の小礫を少量含む、粗質
- 3 灰黄褐色土(10YR6/2)：粘性やや弱、しまりやや強、5mm大の小礫を微量に含む
- 4 褐色土(10YR4/1)：粘性中程度、しまりやや強、焼土粒を少量含む
- 5 灰黄褐色土(10YR4/2)：粘性中程度、しまりやや強、焼土粒を微量に含む
- 6 赤褐色土(5YR4/3)：粘性中程度、しまり中程度、焼土が混じる
- 7 褐色土(5YR4/1)：粘性中程度、しまりやや強、焼土粒・炭化物を中量含む
- 8 にぶい赤褐色土(5YR4/3)：焼土主体、粘性やや弱、しまりやや強、砂礫状の質感、炭化物・5mm大の小礫を中量含む
- 9 黒褐色土(10YR3/1)：粘性やや弱、しまりやや強、焼土粒・5mm大の小礫を少量含む、土師器片が混じる
- 10 褐色土(10YR4/1)：粘性中程度、しまりやや強、焼土粒・白色粒・5mm大の小礫を少量含む、褐色土が混じる
- 11 にぶい黄褐色土(10YR5/3)：粘性中程度、しまり強、焼土粒・白色粒を少量含む、黒色土が混じる
- 12 褐色土(10YR4/1)：粘性やや弱、しまり強、細粒、白色粒・5mm大の小礫を少量含む

0 1:30 1m

第146図 50号竪穴建物遺



0 1 : 3 10cm

第147図 50号竪穴建物出土遺物

51号竪穴建物(第148～154図、PL.32・109～113)

概要 本建物は竪付の竪穴建物である。北西隅部が西側調査区外に出ており、また建物南寄りで帯状の攪乱が斜めに横断して本建物の一部を壊しているため、全容は詳らかにできなかった。

位置 本建物はA区・B1区の西寄りをついで在る。215～223-145～152グリッドに位置する。

重複 本建物は南西隅部で49号竪穴建物と重複するが、新旧関係は特定できなかった。

規模 [竪穴]前後：7.29m 左右：6.28m
深さ：0.53m 床面積：(40.57)㎡

[竪] 長さ：1.53m 幅：0.89m
左袖 長さ：0.95m 幅：0.32m 高さ：0.16m
右袖 長さ：1.04m 幅：0.28m 高さ：0.10m
燃焼部 長さ：1.14m 幅：0.59m
深さ：0.05m
煙道 長さ：0.28m 幅：0.15m 高さ：0.15m
掘り方 長さ：1.09m 幅：1.02m
深さ：0.16m

[P1] 平面規模：0.34×0.37m 深さ：0.41m
[P2] 平面規模：(0.27)×0.42m 深さ：0.37m
[P3] 平面規模：0.31×0.40m 深さ：0.69m
[P4] 平面規模：0.55×0.49m 深さ：0.65m
[周溝1] 長さ：0.58m 幅：0.10m
深さ：0.05m
[周溝2] 長さ：7.14m 幅：0.18m
深さ：0.14m
[周溝3] 長さ：(2.71)m 幅：0.14m
深さ：0.15m

埋土 いずれも粘性やや弱い黒褐色土、小礫含む黒褐色土、黄褐色土含む黒褐色土等で埋没する。所謂三角堆積は確認できなかった。

構造 [竪穴]竪穴は縦長の長方形のプランを呈し、主軸の向きはN87°Eを向く。

[掘り方・床]本建物に掘り方は確認できなかった。従って床は地床の構造であったものと想定される。

[竪]竪は北壁中央やや東寄りに設けられ、その方位はN2°Wを向く。

中央に径0.25×0.27m、深さ0.06mを測る楕円形プランの掘り込みを伴う、不整な瓢箪形プランを呈する浅い

掘り方を有し、焼土粒を少量含む褐色土等で埋め戻して燃焼面を造る。燃焼面下の層は焼土化しにぶい赤褐色等を呈する。

左右に手前側に袖石が据えられた袖が残るが、袖石は焼土粒を微量に含む灰黄褐色砂質土を用いて固定し、右袖では粘性やや弱く焼土粒や炭化物を少量含む褐色土やロームと黒色土混じりにぶい黄褐色土を積んで袖が造られている。

なお天井部の構造は確認できなかったが、燃焼面より0.22m高い位置の燃焼部奥壁からはほぼ水平に煙道を掘削している。

[柱穴]柱穴は確認されなかった。床面にはP1(北西)・P2(南西)・P3(南東)・P4(北東)の4基の柱穴が掘削されている。柱穴P1・2は隅丸方形、P3は楕円形、P4は円形のプランを呈したしっかりした掘り込みのものであるが、P3と特にP4は下位で柱痕の掘削にとどまり、柱穴としては掘り切っていない可能性が考慮される。

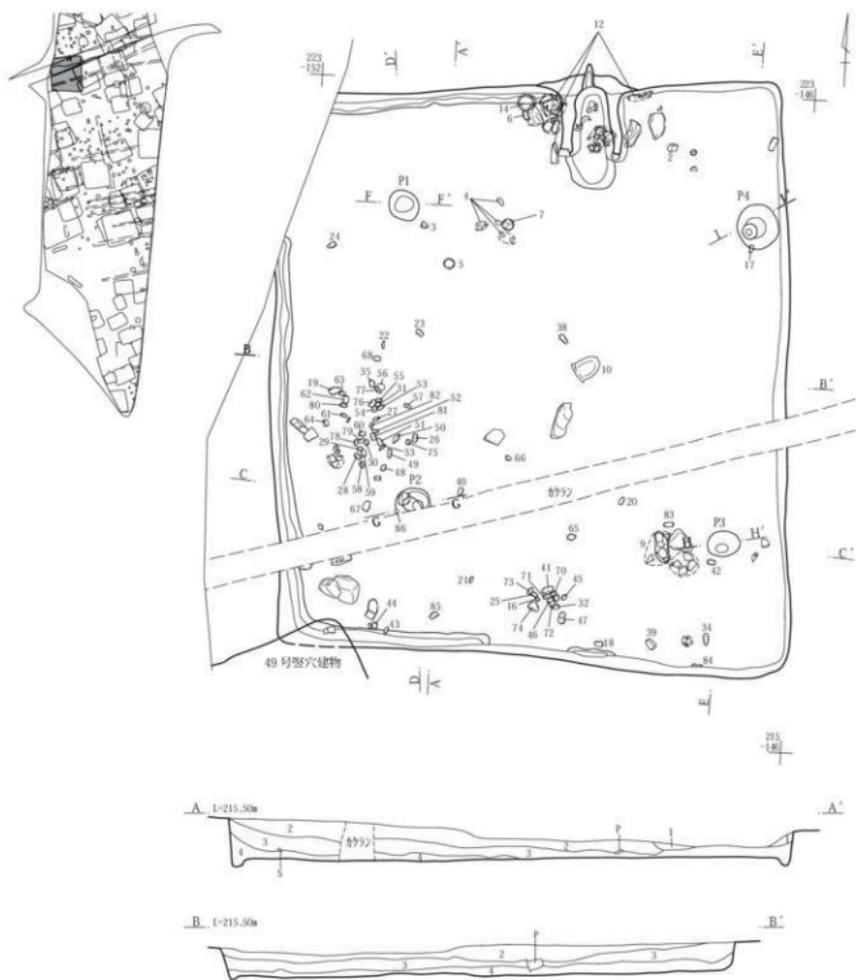
柱穴は全体として東に寄っており、特にP4は東壁に接している。想定される柱の中心と竪穴の上場の距離は、北壁からはP1では1.33m、P4は1.83m、南壁からはP2で1.76m、P3で1.57mと比較的近似した値(標準偏差0.22)であるのに対し、西壁からはP1で推定1.66m、P2で1.71m、東壁からはP3で0.78m、P4で0.47mと東西の壁からの差は大きい(標準偏差0.63)。

柱間は、P1・2間は3.66m、P3・4間は3.89mを測り、P1・4間は4.20m、P2・3間は3.74mを測り、東西方向の柱間と南北の柱間の間では特段の差は見られない。

[貯蔵穴]貯蔵穴は確認されなかった。

[棟]棟方向は、竪穴の形状から南北方向と想定される。また柱の位置から、梁・桁以下の屋根の傾斜は、西面→南北面→東面の順に鋭角となる変則的なものであったと想定される。なお棟の形態は想定ではなかった。

遺物 本建物からの遺物の出土は多く、土師器杯(1・2・4～7)・椀(8)・甕(9～14)・小型甕(15)と土師器片206片、須恵器杯(3)、砥石(16)、敲石からの転用品(17～31)や磨石からの転用品(32)を含むこも編み石(33～35・38～85)や、研磨面に残る台石(36)、片口のような使用も考慮される石製小型皿(37)が出土している。なお

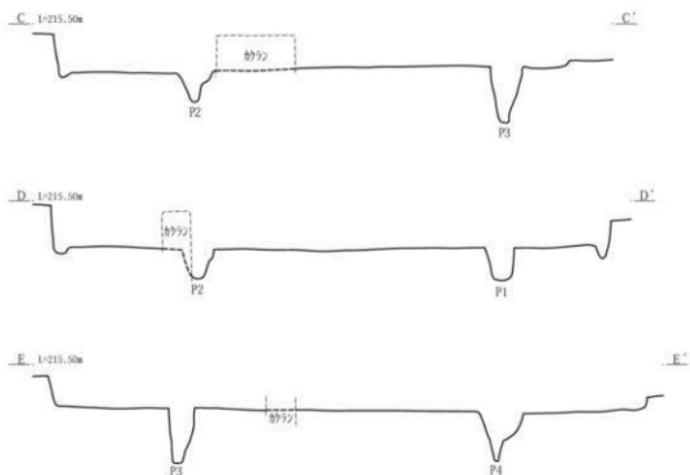


51号竪穴建物A-A'・B-B'

- 1 灰黄褐色土(10YR4/2)：粘性弱、しまり強。5mm大の小礫を中量含む
- 2 黒褐色土(10YR3/1)：粘性やや弱、しまり中程度。褐色粒・5mm大の小礫を少量含む
- 3 黒褐色土(10YR3/2)：粘性やや弱、しまりやや強。褐色粒・5mm大の小礫を中量、焼土粒・炭化物を少量含む
- 4 黒褐色土(10YR3/2)：粘性やや弱、しまり強。褐色粒・5mm大の小礫を少量含み、黄褐色土が混じる

0 1 : 60 2m

第148図 51号竪穴建物(1)



P1

F 1-215.20m F'



51号竪穴建物 P 1

- 1 褐灰色土(10YR4/1)：粘性やや弱、しまり強。5mm大の小礫を中量含み、褐色土が混じる
- 2 黒褐色砂質土(10YR3/1)：粘性弱、しまりやや強
- 3 黒褐色シルト質土(10YR3/1)：粘性中程度、しまりやや強

P2

G 1-215.20m G'



51号竪穴建物 P 2

- 1 褐灰色土(10YR4/1)：粘性やや弱、しまりやや強。炭化物・5mm大の小礫を中量含む
- 2 褐灰色砂質土(10YR4/1)：粘性やや弱、しまりやや強
- 3 灰黄褐色土(10YR4/2)：粘性中程度、しまりやや強。黒色土が混じる
- 4 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2)：粘性やや弱、しまりやや強

P3

H 1-215.20m H'



51号竪穴建物 P 3

- 1 褐灰色土(10YR4/1)：粘性中程度、しまりやや強。白色粒・5mm大の小礫を微量含む
- 2 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2)：粘性中程度、しまりやや強

P4

I 1-215.20m I'

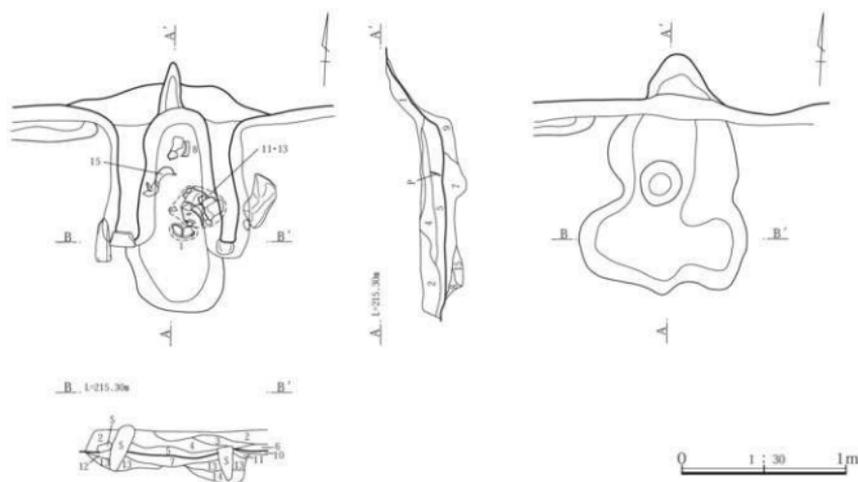


51号竪穴建物 P 4

- 1 灰黄褐色土(10YR4/2)：粘性やや弱、しまりやや強。白色粒・5mm大の小礫を少量含む
- 2 暗褐色砂質土(10YR3/3)：粘性やや弱、しまりやや強。シルトブロックが混じる

0 1 : 60 2m

第149図 51号竪穴建物(2)



51号竪穴建物

- 1 暗赤褐色砂質土(5YR5/2)；粘性弱、しまり強。焼土粒を中量含む
- 2 褐灰色土(10YR4/1)；粘性弱、しまり強。白色粒・5mm大の小礫を中量、焼土粒を微量含む
- 3 にぶい黄褐色土(10YR5/3)；粘性中程度、しまり強。白色粒・焼土粒を少量含む
- 4 明赤褐色土(2.5YR5/6)；焼土主体。粘性中程度、しまり強。焼成が強く硬化している
- 5 にぶい赤褐色土(5YR4/3)；焼土主体。粘性中程度、しまりやや強。黒色土が混じる
- 6 褐灰色土(5YR4/1)；粘性やや弱、しまりやや強。焼土粒・炭化物を中量含む
- 7 にぶい赤褐色土(2.5YR5/4)；焼土主体。粘性やや弱、しまり強。上面が焼成により強く硬化
- 8 にぶい黄褐色土(10YR5/3)；粘性中程度、しまりやや強。ロームブロック・黒色土が混じる
- 9 褐灰色土(10YR4/1)；粘性中程度、しまりやや強。白色粒・焼土粒を少量含む、ロームが混じる
- 10 褐灰色土(10YR4/1)；粘性やや弱、しまり強。焼土粒・炭化物を少量含む
- 11 にぶい黄褐色土(10YR5/3)；粘性中程度、しまりやや強。ロームブロック・黒色土が混じる
- 12 褐灰色土(10YR4/1)；粘性中程度、しまりやや強。ローム・焼土が混じる
- 13 灰黄褐色砂質土(10YR5/2)；粘性弱、しまり中程度。焼土粒・ローム粒を微量含む
- 14 灰黄褐色砂質土(10YR5/2)；粘性弱、しまりやや強。焼土粒を微量含む
- 15 にぶい赤褐色土(5YR4/3)；焼土主体。粘性弱、しまりやや強。砂礫状の質感

第150図 51号竪穴建物

67点を数える多くのこも編み石は東半部南と西半部に多くが分布するが、特に西壁前中南部と南壁前中東部に集中する分布域がある。このほか鉄滓(86)も出土している。
所見 本建物の時期は、出土遺物から推して6世紀後半の所産と判断される。

52号竪穴建物(第155・156図、PL.32・113)

概要 本建物は竪付の竪穴建物である。重複する53・60号竪穴建物の調査に伴う掘削と、逆八字状に縦断する2条の掘乱により建物の全容把握が困難であった。

位置 本建物はA・B1区境の中央やや東寄りに在り、

220～224・136～139グリッドに位置する。

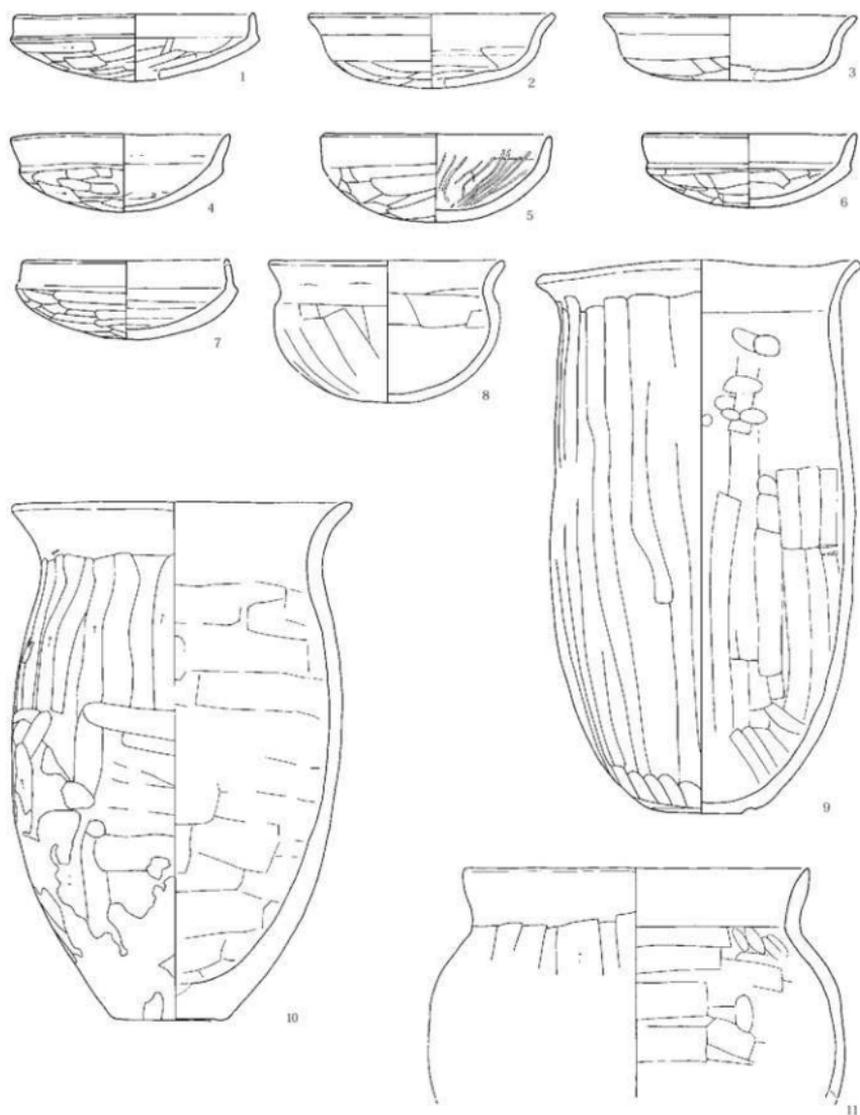
重複 本建物は53・54・60号竪穴建物と重複するが、いずれに対しても本建物が新しい。

規模 [竪穴]前後：2.24m 左右：4.22m
 深さ：0.08m 床面積：7.77㎡

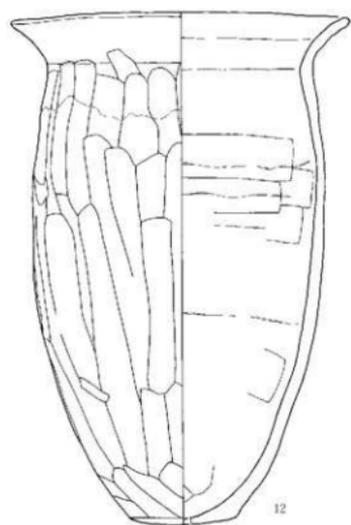
[竪] 長さ：0.61m 幅：(0.20)m

煙道 長さ：0.51m 幅：(0.21)m
 高さ：0.04m

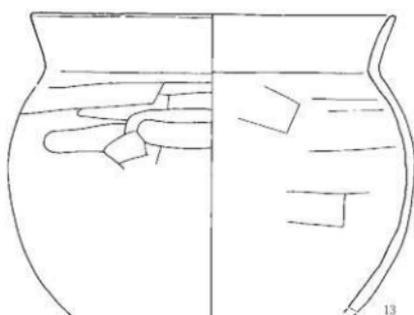
埋土 粘性やや弱い褐灰色土、黄褐色ローム含む灰黄褐色土で埋没する。竪近くでは焼土ブロック含むにぶい赤褐色土が見られる。また西壁際では粘性やや弱い黒褐色土



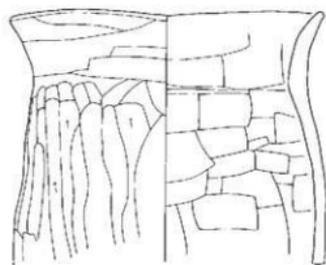
第151図 51号竪穴建物出土遺物(1)



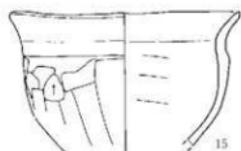
12



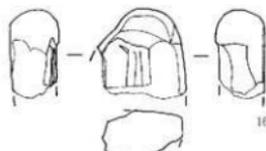
13



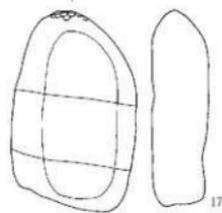
14



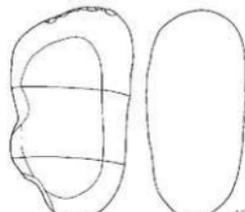
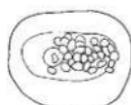
15



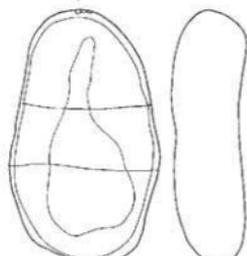
16



17



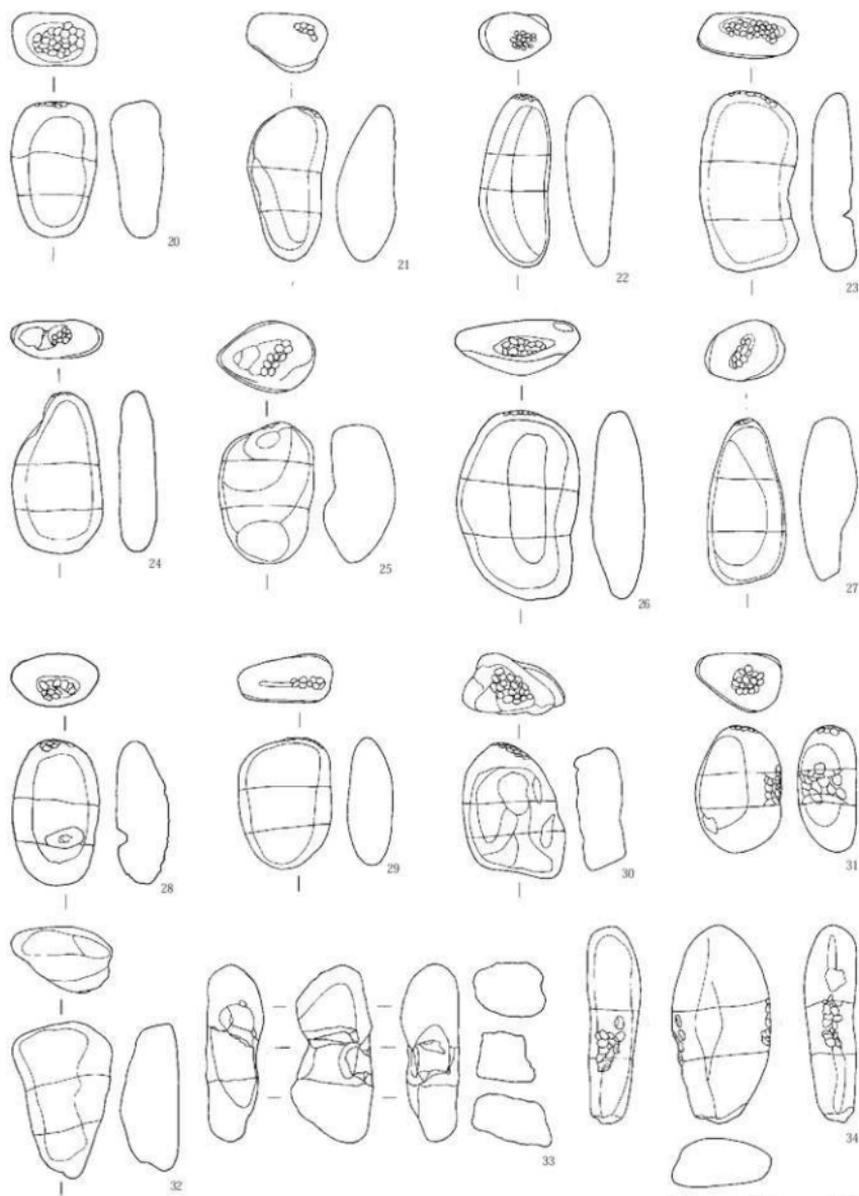
18



19

第152図 51号塚穴建物出土遺物(2)

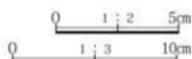
0 1 : 3 10cm



第153図 51号竪穴建物出土遺物(3)



第154図 51号竪穴建物出土遺物(4)



が三角堆積等を形成する。

構造 〔竪穴〕竪穴は横長の細長い隅丸長方形のプランを呈し、主軸の向きはN20°Wを向く。

〔掘り方・床〕平面形は確認できなかったが、本建物は0.03～0.08m厚の凹凸のある掘り方を有し、これを粘性やや弱く焼土粒を少量含む黒褐色砂質土で埋め戻して床を造っている。

〔竈〕竈は東壁中央に設けられるが、建物廃棄時には破壊されて煙道以外確認することができなかった。煙道の方位はN70°Eを向くものと想定される。

燃焼部、袖、天井部は確認できず、その構造も確認できなかった。

〔柱穴〕柱穴は確認されなかった。

〔貯蔵穴〕貯蔵穴は確認されなかった。

〔棟〕棟方向は、竪穴の形状から略南北方向を向くものと想定される。上屋構造は確認されなかった。

遺物 本建物からは土師器杯(1)・甕(2)と土師器片165片、須恵器片4片が出土している。

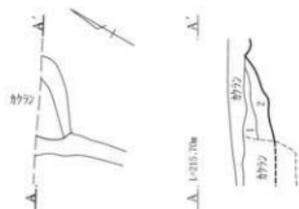
所見 本建物の時期は、出土遺物から推して8世紀後半の所産と判断される。



52号竪穴建物A-A'

- 1 褐灰色土(10YR4/1):粘性やや弱、しまり強。焼土粒・褐色粒を少量含む
- 2 黒褐色土(10YR3/1):粘性やや弱、しまり強。焼土粒・炭化物を少量含む
- 3 灰黄褐色土(10YR4/2):粘性中程度、しまりやや強。黄褐色ロームがまざる
- 4 にぶい赤褐色土(5YR4/3):粘性やや弱、しまりやや強。焼土ブロックを中量含む
- 5 黒褐色砂質土(10YR3/1):粘性やや弱、しまりやや強。焼土粒を少量含む

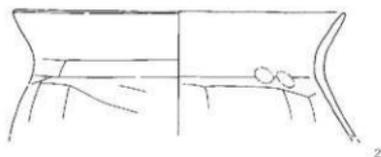
0 1 : 60 2m



52号竪穴建物竈

- 1 褐灰色土(10YR4/1):粘性やや弱、しまり強。焼土粒・褐色粒を少量含む
- 2 にぶい赤褐色土(5YR4/3):粘性やや弱、しまりやや強。焼土ブロックを中量含む

0 1 : 30 1m



0 1:3 10cm

第156図 52号竪穴建物出土遺物

53号竪穴建物(第157～160図、PL.32・33・113・114)

概要 本建物は竪付の竪穴建物である。**位置** 本建物はA・B1区境の中央部に在り、219～224-137～142グリッドに位置する。**重複** 本建物は52・57・60・61号竪穴建物と重複するが、本建物は61・60号竪穴建物に対しては新しいが、52・57号竪穴建物との新旧関係は特定できなかった。**規模** [竪穴]前後:3.90m 左右:4.64m
深さ:0.46m 床面積:15.58㎡

[竈] 長さ:0.92m 幅:1.47m

左袖 長さ:0.45m 幅:0.36m 高さ:0.09m

右袖 長さ:0.47m 幅:0.56m 高さ:0.07m

燃焼部 長さ:0.95m 幅:0.40m

深さ:0.03m

掘り方 長さ:1.00m 幅:0.80m

深さ:0.11m

[P1] 平面規模:0.35×0.38m 深さ:0.26m

[P2] 平面規模:(0.21)×0.48m 深さ:0.18m

[P3] 平面規模:0.41×0.40m 深さ:0.28m

埋土 褐灰色土、黒褐色土、灰黄褐色土で埋没する。所謂三角堆積等を確認することはできなかったが、南壁際の中位上寄りに少量の炭化物と焼土粒を含む黒褐色砂質土の堆積が見られる。**構造** [竪穴]竪穴は横長の隅丸長方形のプランを呈し、主軸の向きはN71°Eを向く。

[掘り方・床]掘り方は確認されておらず、地床の構造を呈するものと判断される。

[竈]竈は北壁中央のやや東寄りに設けられ、その方位はN17°Wを向く。

北壁を跨ぐ位置に、楕円形プランを呈する掘り方を有する。この掘り方を粘性のやや弱い黒色土含む灰黄褐色

土黒褐色土で埋め戻して燃焼面を造るが、燃焼面の下位にはぶい赤褐色に焼土化している。

左右に袖が残るが、左袖は共に粘性やや弱く焼土粒少量含む褐灰色土の上にぶい黄褐色土を載せて造り、右袖は外側に粘性やや弱い黒褐色土、内側に粘性やや弱く焼土の混入するにぶい褐色土を積んで形成する。

天井部の構造は確認できなかった。

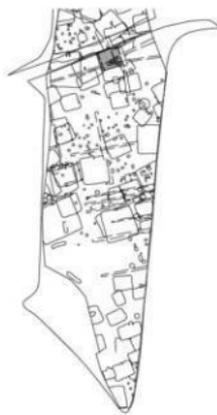
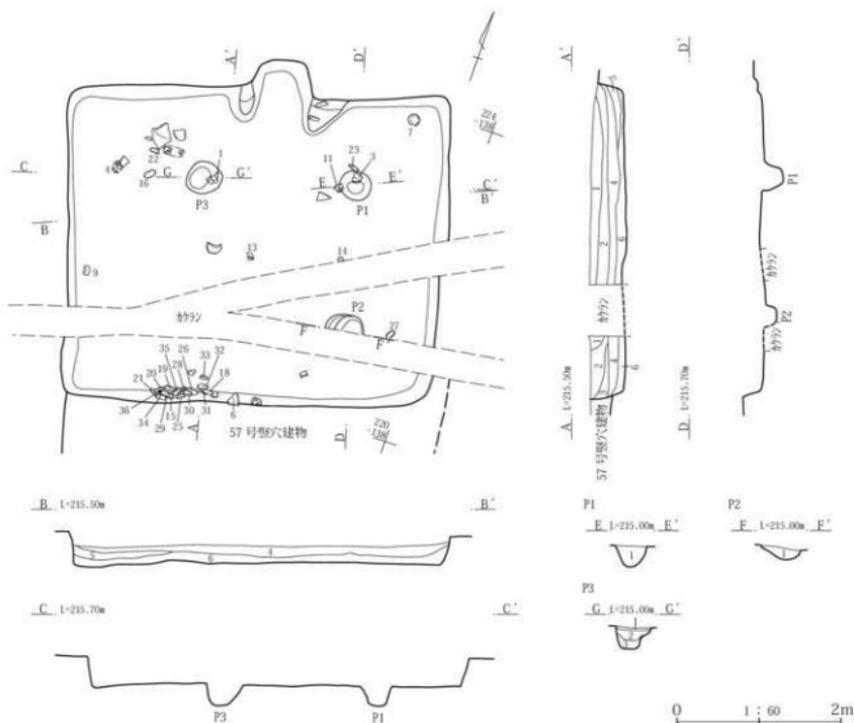
[柱穴]柱穴はP1(北東)・P2(南東)・P3(北西)の3基が確認されたが、P2の南側は攪乱で失われており、その存在が想定される南西の柱穴掘削想定箇所も攪乱により失われていた。

柱間は、P1・2間は1.78m、P1・3間は1.86mを測る。後述の上屋の構造の想定からP1・2間は桁間、P1・3間は梁間と想定する。

[貯蔵穴]貯蔵穴は確認されなかった。

[棟]柱間は東西方向が南北方向より僅かに長いが、柱穴の位置は、南西側の柱穴の想定位置を勘案すれば、その掘削位置はほぼ正方形を成している。またこの柱穴を結ぶ方形を呈するラインの南北の中心線は竈の延伸線と重なるため、柱穴は竈の位置を勘案して掘削されたものと思量され、従って建物の棟方向は略南北方向を向くものと推定される。この場合、柱と壁との距離は、北壁と東壁との距離が1.10m、南壁との距離は0.90mを測るのに対し、西壁は1.60mを測るため、梁・桁以下の屋根の傾斜は北・東・南面に対して西面は緩傾斜を呈したものと思量される。また、棟の傾斜は東西とも同傾斜であったものと判断される。

遺物 本建物からの出土遺物は多かったが、この中には土師器の杯(1～4)・甕(5)・甕(6)、須恵器の杯(7～10)・台付皿(11)・壺(12)・瓶(13)、巖石からの転用品(14～21)や磨石からの転用品(22)を含む24点のこも



53号竪穴建物A・B-B'

- 1 褐灰色土(10YR4/1)：粘性中程度、しまりやや強。焼土粒・5mm大の小礫を少量含む
- 2 黒褐色土(10YR3/1)：粘性中程度、しまりやや強。5mm大の小礫を少量含む
- 3 黒褐色砂質土(10YR3/2)：粘性中程度、しまりやや強。炭化物・焼土粒を少量含む
- 4 灰黄褐色土(10YR5/2)：粘性中程度、しまりやや強。白色粒・褐色粒・5mm大の小礫を少量含む
- 5 褐色土(10YR4/1)：粘性やや弱、しまりやや強。褐色粒・5mm大の小礫を微量含む
- 6 黒褐色土(10YR3/1)：粘性中程度、しまりやや強。5mm大の小礫を微量含み、褐色土が混じる

53号竪穴建物P 1

- 1 灰黄褐色土(10YR4/2)：粘性やや弱、しまりやや強。焼土粒・5mm大の小礫を微量に含み、黒色土が混じる

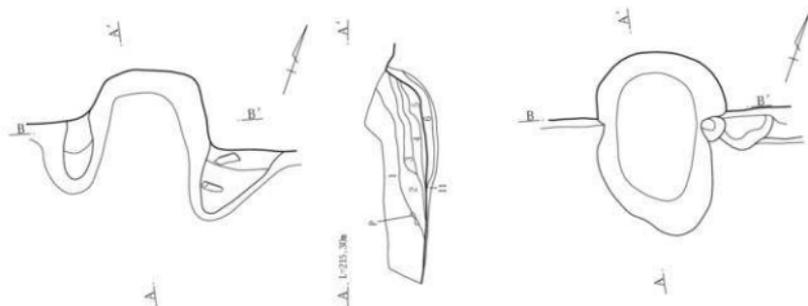
53号竪穴建物P 2

- 1 褐灰色土(10YR4/1)：粘性中程度、しまりやや強。5mm大の小礫を微量に含む

53号竪穴建物P 3

- 1 にぶい赤褐色土(2.5YR4/4)：粘性やや弱、しまりやや強。焼土が混じる
- 2 褐灰色土(10YR4/1)：粘性中程度、しまり強。焼土粒・5mm大の小礫を微量に含む
- 3 灰黄褐色土(10YR4/2)：粘性中程度、しまり強。5mm大の小礫を微量に含み、黒色土が混じる

第157図 53号竪穴建物



53号竪穴建物

- 1 黒褐色土(10YR3/1)：粘性弱、しまり強、5mm大の小礫を中量含む
- 2 灰黄褐色土(10YR5/2)：粘性弱、しまり強、白色粒を微量に含む
- 3 褐灰色土(10YR4/1)：粘性中程度、しまりやや強、焼土粒を微量に含む
- 4 にぶい赤褐色土(5YR4/3)：焼土主体、粘性中程度、しまりやや強
- 5 灰褐色土(5YR4/2)：粘性中程度、しまりやや強、砂礫状の質感、焼土に黒色土が混じる
- 6 にぶい赤褐色土(5YR4/4)：焼土主体、粘性やや弱、しまり強
- 7 にぶい黄褐色土(10YR5/3)：粘性やや弱、しまり強、白色粒・焼土粒・5mm大の小礫を少量含む
- 8 褐灰色土(10YR4/1)：粘性やや弱、しまり強、焼土粒・5mm大の小礫を少量含む、ロームが混じる
- 9 にぶい褐色土(7.5YR5/4)：粘性やや弱、しまり強、白色粒・5mm大の小礫を少量含む、焼土が混じる
- 10 黒褐色土(10YR3/1)：粘性やや弱、しまり強、白色粒・褐色粒を中量含む
- 11 灰黄褐色土(10YR4/2)：粘性やや弱、しまり強、焼土粒・白色粒を微量含む、黒色土が混じる

0 1 : 30 1m

第158図 53号竪穴建物

編み石(23～37)が出土している。またこも編み石の多くは、竪穴の南壁際中西部に集中して出土している。このほか1,179片の土師器片や21片の須恵器片の出土も見られた。

所見 本建物の時期は、出土遺物から推して8世紀後半の所産と判断される。

54号竪穴建物(第161・162図、PL.34・115)

概要 本建物は竪付の竪穴建物である。中央やや南寄り、を略東西方向に走る1号溝に壊されているため、全容は把握できなかった。

位置 本建物はB1区南端部やや東寄りに在り、223～229-135～141グリッドに位置する。

重複 本建物は52・56号竪穴建物及び1号溝と重複するが、56号竪穴建物より新しく、52号竪穴建物と1号溝よりは古い。

規模 [竪穴]前後：4.41m 左右：4.83m

深さ：0.23m 床面積：[18.77] m²

[竪] 長さ：1.75m 幅：1.11m

左袖 長さ：0.52m 幅：0.27m 高さ：0.20m

右袖 長さ：0.59m 幅：0.36m 高さ：0.21m

焼焼部 長さ：0.70m 幅：0.55m

深さ：0.00m

煙道 長さ：0.96m 幅：0.41m 高さ：0.23m

掘り方 長さ：0.68m 幅：0.88m

深さ：0.07m

[周溝1] 長さ：1.16m 幅：0.17m

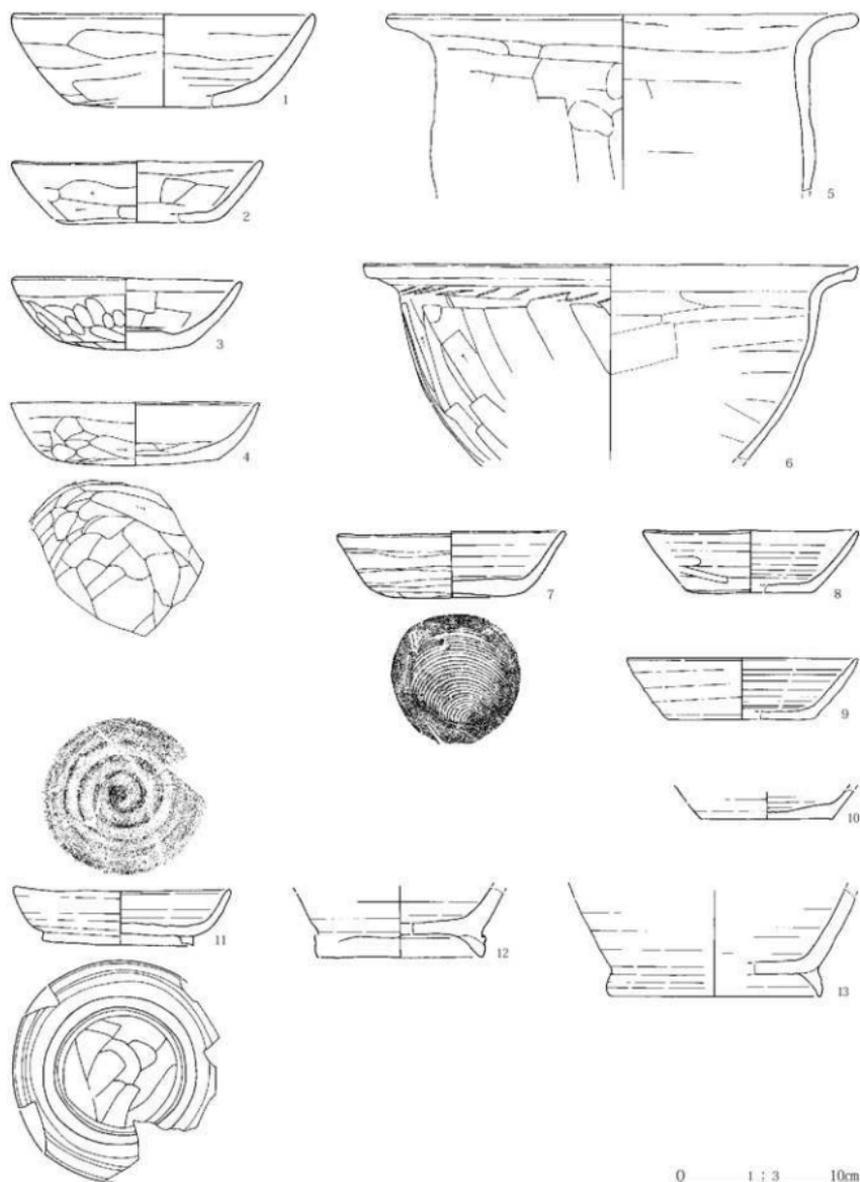
深さ：0.06m

[周溝2] 長さ：(1.16)m 幅：0.16m

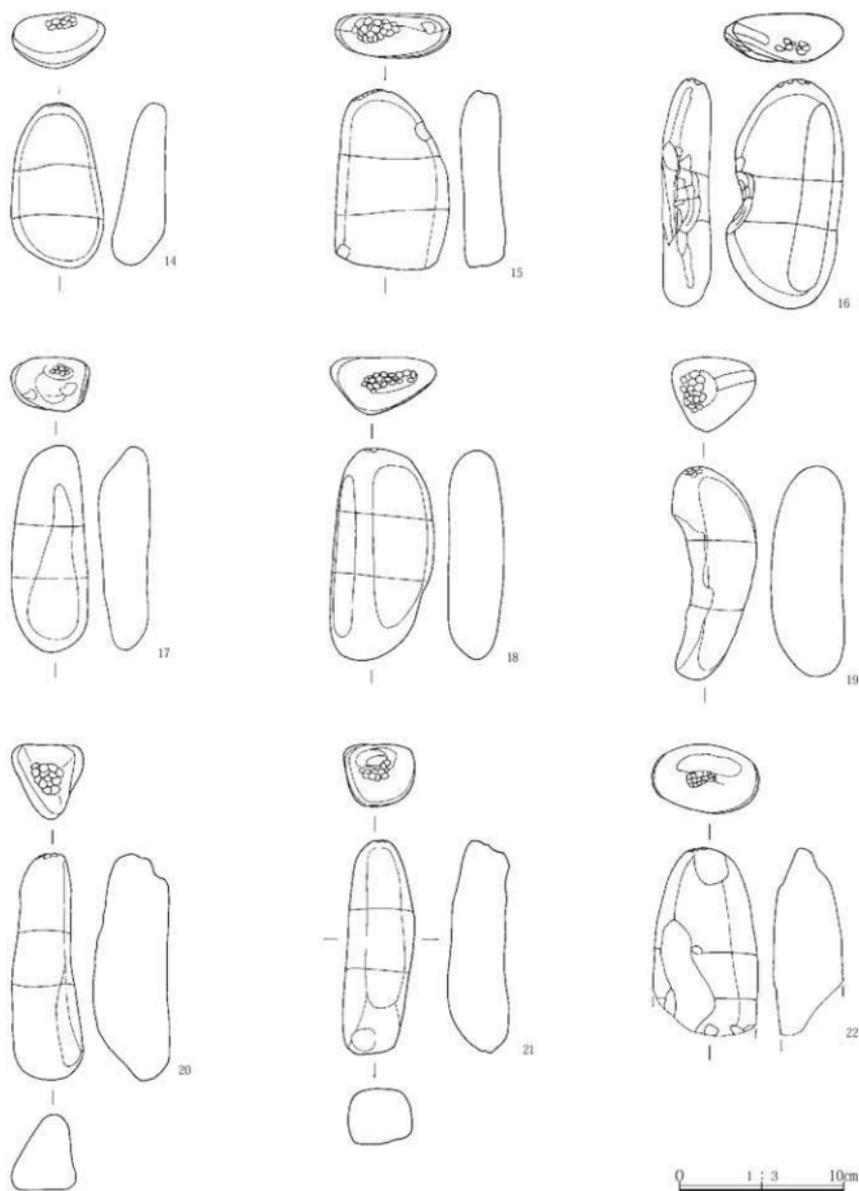
深さ：0.09m

[周溝3] 長さ：(2.54)m 幅：0.14m

深さ：0.07m



第159図 53号竪穴建物出土遺物(1)



第160図 53号竪穴建物出土遺物(2)

埋土 粘性のやや強い褐灰色土や褐色土の混ざる黒褐色土、粘性のやや弱い灰黄褐色土等で埋没する。埋没土には少量の炭化物や焼土粒が散見される。所謂三角堆積等は確認できなかった。

構造 〔竪穴〕竪穴は横長の隅丸長方形のプランを呈し、主軸の向きはN68° Eを向く。

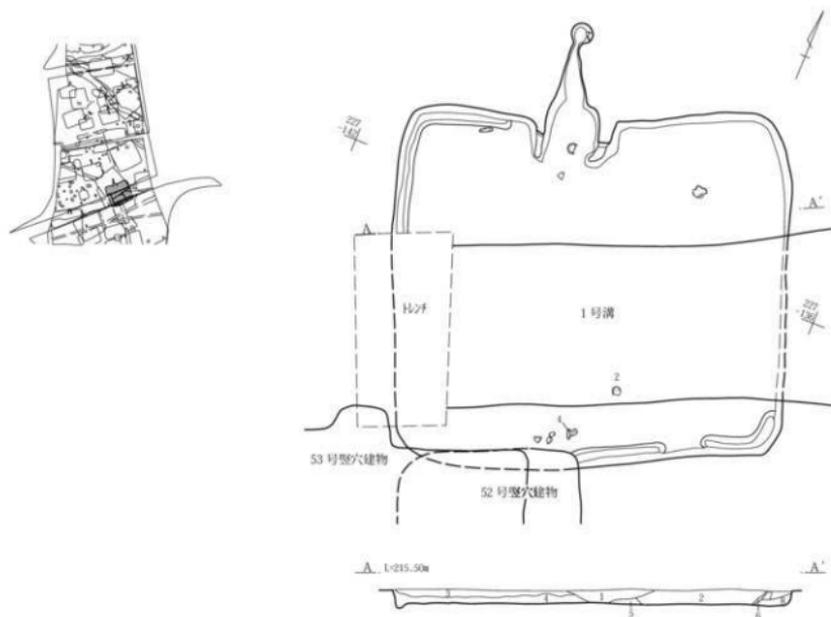
〔掘り方・床〕本建物には掘り方は確認されず、地床構造であったものと思量される。

竪穴壁際の南東隅(周溝1)、南部中程(周溝2)、北西隅部付近(周溝3)に周溝が確認された。

〔竈〕竈は北壁中央の西寄りに設けられ、その方位はN15° Wを向く。

上場が円形に近い隅丸長方形、底面が楕円形様を呈するに掘り方を、竪穴の壁面を跨いで掘削する。これを共に粘性やや弱い焼土・黒色土混じり灰褐色土、焼土混じりの褐灰色土、焼土粒少量含むにふい褐色土で埋め戻して燃焼面を造るが、燃焼部直下にはふい赤褐色に焼土化している。また煙道部は土師器片を多く含む褐灰色土で埋め戻している。

左右両側に粘性の弱いにふい黄褐色土を積み上げた袖

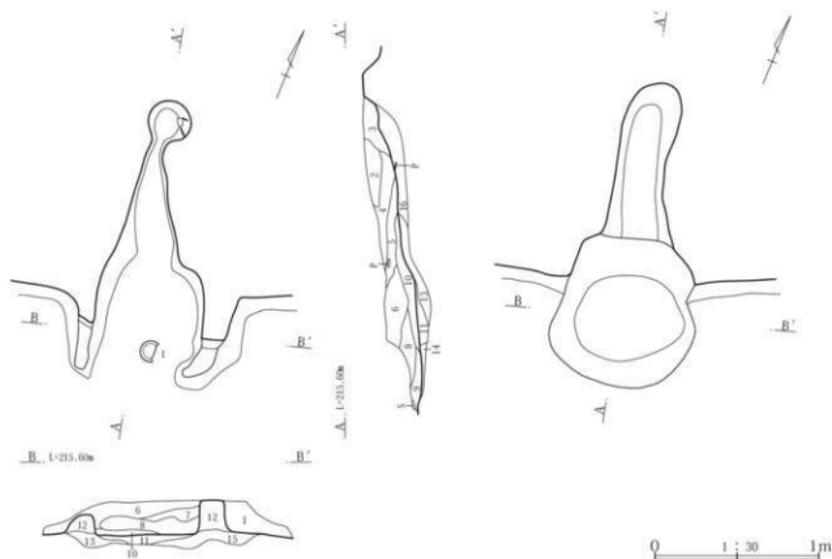


54号竪穴建物A-A'

- 1 褐灰色土(10YR4/1): 粘性中程度、しまりやや強。焼土粒・褐色粒を少量含む、焼土が混じる
- 2 黒褐色土(10YR3/1): 粘性中程度、しまりやや強。焼土粒・褐色粒を少量含む、褐色土が混じる
- 3 褐灰色土(10YR4/1): 粘性やや弱、しまりやや強。5mm大の小礫を少量、白色粒を微量に含む
- 4 灰黄褐色土(10YR4/2): 粘性やや弱、しまりやや強。白色粒・炭化物・5mm大の小礫を少量含む
- 5 灰黄褐色土(10YR4/2): 粘性やや弱、しまり強。炭化物・焼土粒を少量含む、焼土が混じる
- 6 褐灰色土(10YR4/1): 粘性中程度、しまり中程度。黒色土が混じる
- 7 灰黄褐色土(10YR5/2): 粘性やや弱、しまり強。焼土粒・褐色粒を微量に含む
- 8 灰黄褐色土(10YR5/2): 粘性やや弱、しまり強。黒色土が混じる

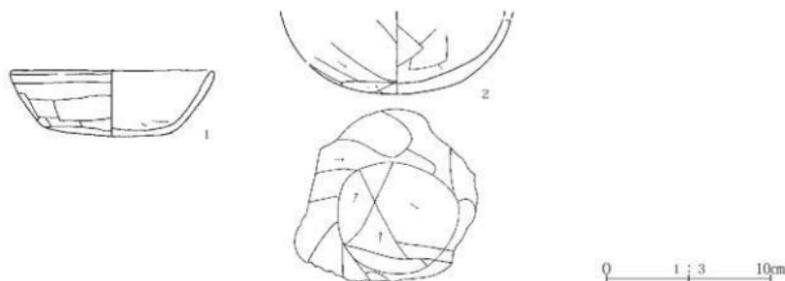
0 1:60 2m

第161図 54号竪穴建物



54号竪穴建物竈

- 1 褐灰色土(10YR4/1)；粘性やや弱、しまりやや強。白色粒・焼土粒を少量含む
- 2 灰黄褐色土(10YR6/2)；粘性やや弱、しまり強。下面が強く焼成を受けて硬化している。崩落した天井部か
- 3 褐灰色土(10YR4/1)；粘性やや弱、しまりやや強。白色粒・焼土粒・炭化物を微量含む
- 4 褐灰色土(5YR4/1)；粘性弱、しまりやや強。5mm大の小礫を微量含み、焼土が多量に混じる
- 5 にぶい赤褐色土(5YR5/3)；焼上主体。粘性弱、しまりやや強。黒色土が混じる。粗質
- 6 灰黄褐色土(10YR5/2)；粘性やや弱、しまりやや強。焼土粒を微量含む
- 7 褐灰色土(10YR4/1)；粘性やや弱、しまりやや強。焼土粒を微量含み、褐色土が混じる
- 8 灰黄褐色土(10YR5/2)；粘性やや弱、しまりやや強。焼土・黒色土が多量に混じる
- 9 褐灰色土(7.5YR4/1)；粘性やや弱、しまりやや強。焼土粒を微量に含む
- 10 灰褐色土(5YR4/2)；粘性やや弱、しまりやや強。焼土が中量混じる
- 11 にぶい赤褐色土(5YR5/4)；焼上主体。粘性弱、しまり強。上面が強く焼成を受けて硬化している
- 12 にぶい黄褐色土(10YR6/3)；粘性弱、しまり強。白色粒・焼土粒を少量含む
- 13 灰褐色土(5YR4/2)；粘性やや弱、しまり強。焼土・黒色土が混じる
- 14 褐灰色土(5YR4/1)；粘性やや弱、しまり強。焼土が混じる
- 15 にぶい褐色土(7.5YR5/3)；粘性やや弱、しまり強。白色粒・焼土粒を少量含む
- 16 褐灰色土(5YR4/1)；粘性中程度、しまり強。焼土粒を微量含む。土師器片が多く出土



第162図 54号竪穴建物竈と出土遺物

が残る。

天井部の構造は確認できなかった。

煙道は細長い三角形のプランを呈して燃焼面から段差を設けず摺り上げるように掘削し、先端でやや東に折れるようにして、円形プランの径0.26m、深さ0.10mを測る垂直に掘削される柱穴状の縦孔に接続している。

〔柱穴〕柱穴は確認されなかった。

〔貯蔵穴〕貯蔵穴は確認されなかった。

〔棟〕棟方向は、竪穴の形状から推して、略東西方向に据えられていたものと想定されるが、細かい上屋構造は確認できなかった。

遺物 本建物からは土師器の杯(1)と甕(2)が出土しているが、このほかに263片の土師器片と須恵器片1片の出土もあった。

所見 本建物の時期は、出土遺物から推して8世紀前半

の所産と判断される。

また少量だが埋土に炭化物と焼土粒が含まれることから、本建物は焼失家屋の可能性を有する。

55号竪穴建物(第163～165図、PL.34・35・115)

概要 本建物は竪穴の竪穴建物である。

位置 本建物はB1区南部やや西寄りに在り、228～233-142～146グリッドに位置する。

重複 本建物は56号竪穴建物、2号溝と重複するが、双方に対して本建物の方が新しい。

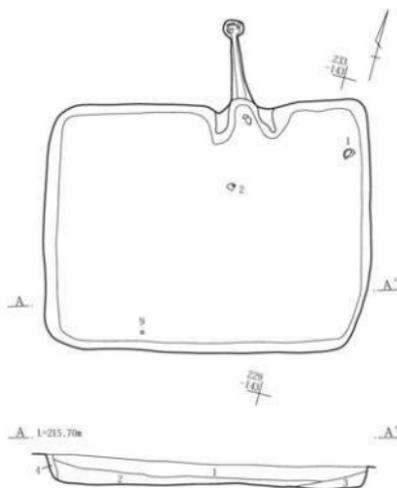
規模 〔竪穴〕前後：3.07m 左右：3.99m

深さ：0.36m 床面積：10.26㎡

〔竪〕長さ：0.50m 幅：1.04m

左袖 長さ：0.40m 幅：0.35m 高さ：0.08m

右袖 長さ：0.36m 幅：0.41m 高さ：0.14m

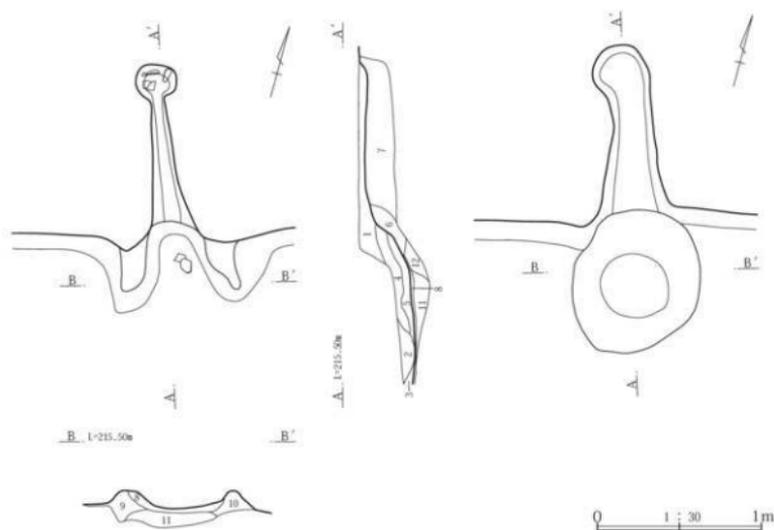


55号竪穴建物A-A'

- 1 黒褐色土(10YR3/1)：粘性やや弱、しまりやや強。5mm～5mm大の礫を中量含む
- 2 黒褐色土(10YR3/2)：粘性やや弱、しまりやや強。褐色粒・5mm大の小礫を中量含む
- 3 黒褐色土(10YR3/1)：粘性やや弱、しまりやや強。5mm大の小礫を微量に含む
- 4 黒褐色土(10YR3/1)：粘性やや弱、しまりやや強。5mm大の小礫を少量、炭化物を微量に含む

0 1:60 2m

第163図 55号竪穴建物



55号竪穴建物竈

- 1 黒褐色土(10YR3/1):粘性弱、しまり強。5mm大の小礫を少量含み、焼土が混じる
- 2 褐灰色土(10YR4/1):粘性やや弱、しまり強。焼土粒・5mm大の小礫を少量含み、黒色土が混じる
- 3 黒褐色土(10YR3/1):粘性やや弱、しまり強。白色粒・5mm大の小礫を少量含む
- 4 灰黄褐色土(10YR5/2):粘性やや弱、しまり強。白色粒・5mm大の小礫を微量含む
- 5 明赤褐色土(5YR5/6):焼土主体。粘性弱、しまり強。褐色土が混じる
- 6 褐灰色土(5YR4/1):粘性やや弱、しまり強。白色粒を微量含み、焼土が混じる
- 7 褐灰色土(5YR5/1):粘性やや弱、しまり強。焼土が混じる
- 8 灰褐色土(5YR4/2):粘性弱、しまり強、砂礫状の質感。焼土ブロックが混じる。上面が強く焼成を受けて硬化している
- 9 にぶい赤褐色土(5YR5/3):焼土主体。粘性弱、しまり強。白色粒を微量含み、黒色土が混じる
- 10 にぶい黄褐色土(10YR5/3):粘性中程度、しまりやや強。焼土が僅かに混じる。ロームブロック
- 11 明赤褐色土(2, 5YR5/6):焼土主体。粘性弱、しまり強。上面一部が焼成により硬化
- 12 褐灰色シルト質土(5YR4/1):粘性やや弱、しまり中程度。焼土が混じる

第164図 55号竪穴建物竈

燃焼部 長さ:0.42m 幅:0.44m

深さ:—m

煙道 長さ:0.97m 幅:0.28m 高さ:0.12m

掘り方 長さ:0.61m 幅:0.77m

深さ:0.13m

埋土 粘性やや弱く小礫含む黒褐色土で埋没する。東西両壁際に粘性やや弱い黒褐色土で所謂三角堆積が形成される。

構造〔竪穴〕竪穴は横長の隅丸長方形のプランを呈し、主軸の向きはN75°Eを向く。

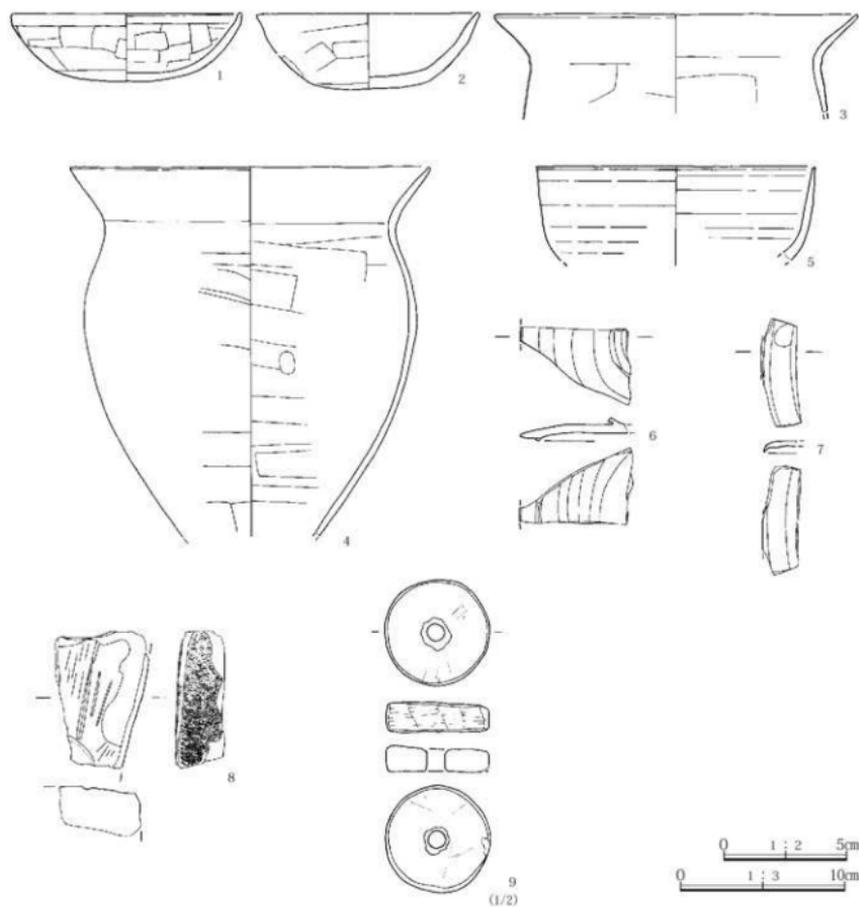
〔掘り方・床〕本建物に掘り方は確認されず、所謂地床構

造を成すものと判断される。

〔竈〕竈は北壁東寄りに設けられ、その方位はN19°Wを向く。

壁面手前の壁面にやや掛かる位置に楕円形プランを呈する掘り方を有し、これを、焼土主体の明赤褐色土や、いずれも焼土を含む粘性弱い灰褐色土、粘性やや弱い褐灰色土、褐灰色シルト質土で埋め戻して燃焼面を造る。なお、燃焼面直下の粘性弱い灰褐色土は被熱により硬化している。

左側に焼土主体の粘性の弱く黒色土含むにぶい赤褐色土、右側はにぶい黄褐色ロームで袖を造っている。



第165図 55号竪穴建物出土遺物

天井部の構造は確認できなかった。

燃焼部奥壁直下から0.10mの位置から、細長い台形状プランを呈する煙道を掘削する。煙道底面は6.25°の傾斜で上げられ、先端で径0.25×0.21m、深さ0.07mを測る横長楕円形プランの柱穴状の縦孔につなげている。

[柱穴]柱穴は確認されなかった。

[貯蔵穴]貯蔵穴は確認されなかった。

[棟]棟方向は、竪穴の形状から略東西方向を向くものと

想定するが、上位構造は詳らかでない。

遺物 本建物からは土師器の杯(1・2)と甕(3・4)、須恵器の杯(5)と蓋(6・7)が出土し、矢柄研磨器(8)や滑石製紡輪(9)の出土も見られた。このほか土師器片324片と須恵器片5片の出土もあった。

所見 本建物の時期は、出土遺物から推して8世紀前半の所産と判断される。

56号竪穴建物(第166～168図、PL.35・36・115)

概要 本建物は竈付の竪穴建物である。建物南西隅部がトレンチに、また竈先端部西側が55号竪穴建物に壊されるため、全容は把握できなかった。

位置 本建物はB1区南部に在り、225～231-136～143グリッドに位置する。

重複 本建物は55号竪穴建物、2号溝と重複するが、本建物は55号竪穴建物より古く、2号溝より新しい。

規模 [竪穴]前後：5.37m 左右：5.15m
深さ：0.42m 床面積：[23.85] m²

[竈] 長さ：1.72m 幅：0.95m

左袖 長さ：0.63m 幅：0.20m 高さ：0.16m

右袖 長さ：0.57m 幅：0.30m 高さ：0.23m

燃燒部 長さ：0.44m 幅：0.35m

深さ：0.02m

煙道 長さ：1.10m 幅：0.31m 高さ：0.25m

掘り方 長さ：0.67m 幅：0.80m

深さ：0.09m

[貯蔵穴] 長さ：0.75m 幅：0.84m 深さ：0.19m

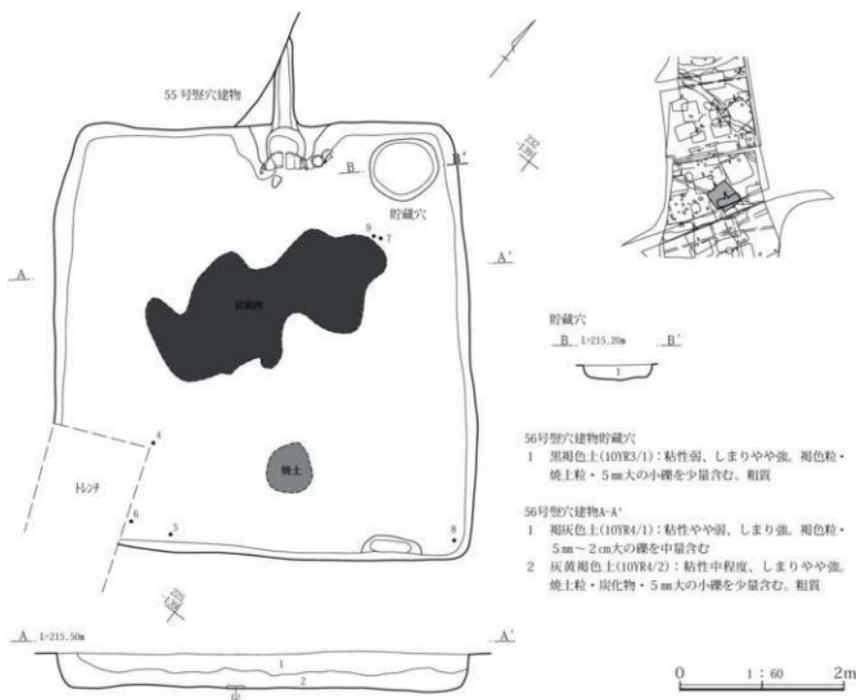
[周溝] 長さ：0.71m 幅：0.20m 深さ：0.12m

埋土 粘性やや弱く小礫含む褐色土と焼土粒、炭化物、小礫を少量含む灰黄褐色土等で埋没する。所謂三角堆積は確認できなかった。

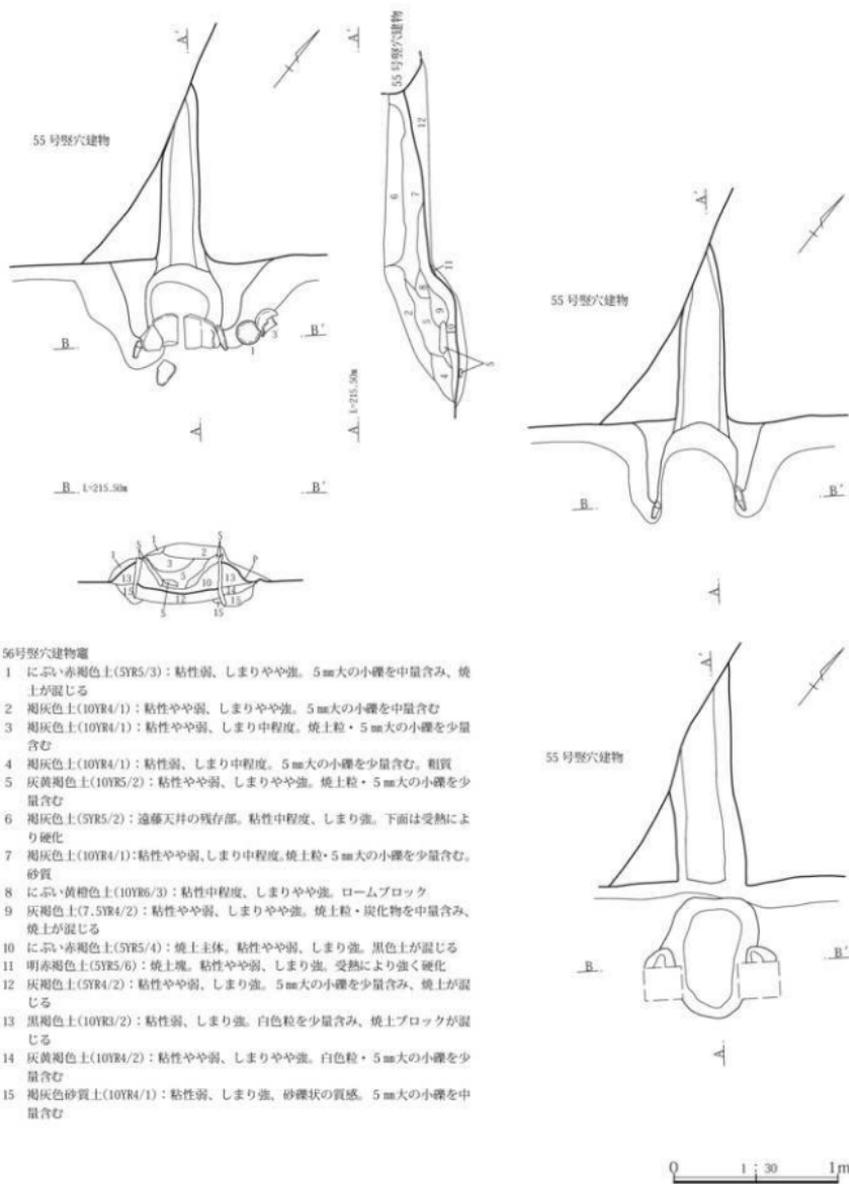
構造 [竪穴]竪穴はやや台形に近い隅丸方形プランを呈し、主軸の向きはN52°Eを向く。

[掘り方・床]本建物に掘り方は確認できず、地床の構造と判断される。

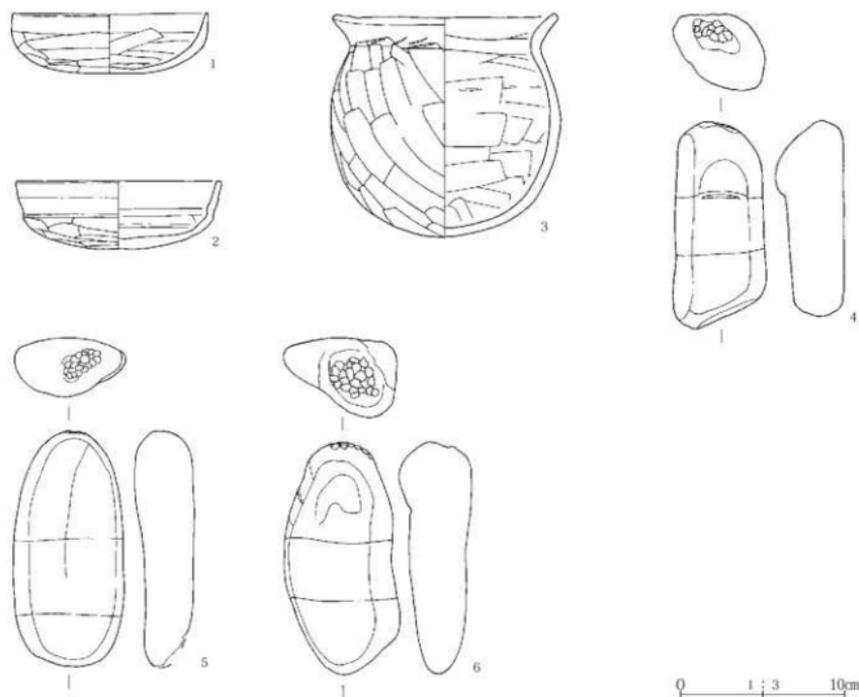
また竪穴の南東壁東部には短い周溝が確認され、南東



第166図 56号竪穴建物



第167図 56号壑穴建物



第168図 56号竪穴建物出土遺物

部の床面には 0.56×0.62 mを測る水滴状のプランを呈する焼土化した部分が見られる。

[竪]竪は北西壁中央付近に設けられ、その方位は $N50^\circ W$ を向く。

北東壁手前に略楕円形を呈する掘り方を有し、これを粘性やや弱く焼土の混ざる灰褐色土で埋め戻して燃焼面を造る。

掘り方の両側上場ラインを跨いだ、竪穴の北西壁から 0.45 m程の位置に、幅 0.18 mを測る楕円形様のプランを呈し左側で 0.10 m、右側で 0.13 mを測るピット状の掘り込みが掘削され、ここに前後方向に板状の礫を据えて袖石としている。このピットに小礫を含む褐灰色砂質土を入れ、右袖ではその上粘性やや弱い灰黄褐色土、左右両袖で粘性弱く焼土ブロックを含む黒褐色土を載せて袖を

造る。

袖石の上には出土時点では折れていたが、板状の天井石が載せられていたものの、天井部の詳細な構造は確認できなかった。

燃焼部の奥壁の燃焼面から 0.10 m上がった位置から溝状の煙道が掘削されている。これを竪掘り方を埋め戻したものと同一粘性やや弱く焼土の混ざる灰褐色土で埋め戻して、燃焼面から 0.14 mの位置を煙道の底面としている。煙道底面は 7.37° の傾斜で奥に向かい上げられている。

[柱穴]柱穴は確認されなかった。

[貯蔵穴]竪右側の竪穴北側隅部に掘削される。楕円形のプランを呈し、平底状の平面形態を見せる。

[棟]竪穴のプランが方形に近いこともあり、棟方向は想

定できなかった。また上屋の構造も確認できなかった。

遺物 本建物からは土師器の杯(1・2)と小型甕(3)、
 敲石からの転用品(4~6)を含むこも編み石(7~9)が
 出土している。このほか土師器片153片の出土を見た。

所見 本建物の時期は、出土遺物から推して7世紀前半
 の所産と判断される。

また竪穴中央やや北西寄りの床面上に、南西-北東方
 向に炭化物の遺存が見られた、焼土化した南東部の床面
 と併せて、本建物は焼失家屋であったものと思量される。

57号竪穴建物(第169図、PL.36)

概要 本遺構は炭化物の出土状態から竪穴建物と判断す
 るものである。北側は53号竪穴建物に切れ、東端部は
 攪乱に壊されているため、全容は把握できなかった。

位置 本建物はA区北部に在り、217~220-137~141
 グリッドに位置する。

重複 本建物は52・53・60号竪穴建物と重複するが、
 53・60号竪穴建物よりは新しいが、52号建物との新旧関
 係は特定できなかった。

規模 [竪穴]前後:(2.56)m 左右:(4.57)m

深さ:0.28m 床面積:(10.19) m²

埋土 焼土粒を少量含む褐灰色土や粘性のやや弱い褐灰
 色土で埋没する。南壁下に灰黄褐色土が所謂三角堆積を
 形成する。

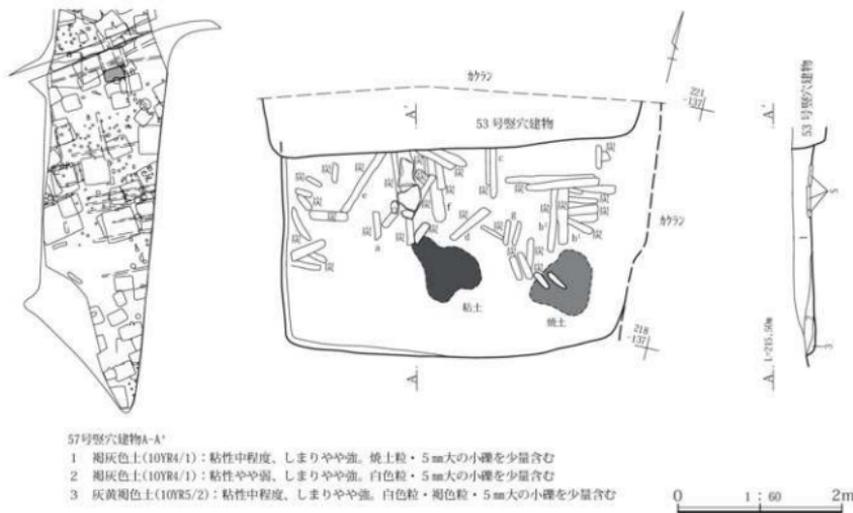
構造 [竪穴]上述のように本建物は東端を除く南部を調
 査したに過ぎないため、全容は詳らかにできないが、竪
 穴は隅丸方形あるいは隅丸長方形のプランを呈するもの
 と推定される。残存部の主軸の向きはN77° Eを向く。
 [掘り方・床]本建物は掘り方を確認しなかったため、地
 床構造を成すものと判断される。

[竈]竈は確認されなかった。しかし残存北部やや西寄り
 に在る板状の礫は天井石、或いは袖石の可能性ある。
 また南部中央付近に残る粘土は、竈の修築材の可能性が
 考慮される。

[柱穴]柱穴は確認されなかった。

[貯蔵穴]貯蔵穴は確認されなかった。

[棟]本建物は焼失住居であり、残存部の南壁近くと東端
 付近を除いて広く炭化材が出土している。その出土位置
 から推して、西寄りで南北を向く炭化材(a)と東寄りで
 南北を向く炭化材(b1)・(b2)は梁あるいは桁の可能



57号竪穴建物A-A'

- 1 褐灰色土(10YR4/1):粘性中程度、しまりやや強。焼土粒・5mm大の小礫を少量含む
- 2 褐灰色土(10YR4/1):粘性やや弱、しまりやや強。白色粒・5mm大の小礫を少量含む
- 3 灰黄褐色土(10YR5/2):粘性中程度、しまりやや強。白色粒・褐色粒・5mm大の小礫を少量含む

第169図 57号竪穴建物

性があり、(b1)・(b2)のうち一方は棧の可能性を有する。残存部中央北端で東西を向く炭化材(c)は棟材の可能性を有し、この場合、棟方向南北を向くことになる。また共に南西―北東方向を向く炭化材(c)の南の炭化材(d)は棟の垂木の可能性が考慮される。また西寄りの炭化材(e)は棟の垂木の可能性もあるが、梁・桁以下の垂木材の可能性も有する。その他、炭化材(d)の北西に在る炭化材(f)と北東の炭化材(g)は棟の棧の可能性を有する。また他の炭化材の多くは梁・桁以下の屋根の垂木材であったものと思量される。

遺物 本建物からは土師器片44片と須恵器片1片が出土しているが、図示するものは見られなかった。

所見 本建物の時期は、出土遺物から推して8世紀頃の所産と推定される。

本建物は上述のような炭化材の遺存と、南部東寄りの床面の焼土から、焼失家屋であったものと判断される。また炭化物の遺存状態を焼失実験の成果(石守2001)に照

らして考察するに、着火片は炭化材(c)の延長線上の南部中央付近で、南南東の風の日に焼失した可能性があるものと推定される。

58号竪穴建物(第170～172図、PL.36・37・116)

概要 本建物は竪穴の竪穴建物である。

位置 本建物はB1区南部西寄りに在り、225～227-144～146グリッドに位置する。

重複 本建物は73号土坑と重複するが、本建物の方が古い。

規模 [竪穴]前後:1.81m 左右:1.81m
深さ:0.11m 床面積:2.54㎡

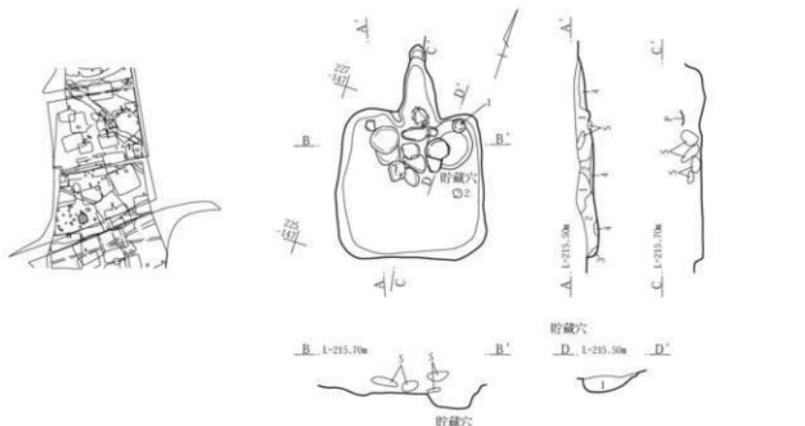
[竪]長さ:1.01m 幅:0.69m

左袖 長さ:0.20m 幅:0.20m 高さ:0.04m

燃焼部 長さ:0.76m 幅:0.42m

深さ:0.02m

煙道 長さ:0.15m 幅:0.19m 高さ:0.10m



58号竪穴建物A-A'

- 1 視灰色上(10YR4/1):粘性やや弱、しまり強。白色粒・5mm大の小礫を微量含む
- 2 にぶい黄褐色上(10YR5/3):粘性やや弱、しまり強。白色粒・5mm大の小礫を少量含む
- 3 視灰色上(10YR4/1):粘性中程度、しまりやや強。ローム粒が少量混じる
- 4 にぶい黄褐色上(10YR5/3):粘性中程度、しまりやや強。黒色土の混じるローム。白色粒を微量含む

58号竪穴建物貯蔵穴

- 1 視灰色上(10YR4/1):粘性やや弱、しまり強。焼土粒・5mm大の小礫を少量含む

第170図 58号竪穴建物

掘り方 長さ：0.88m 幅：0.51m
深さ：0.07m

〔貯蔵穴〕 平面規模：0.59×0.55m 深さ：0.19m

埋土 粘性やや弱い褐灰色土とにぶい黄褐色土で埋没する。南壁際で褐灰色土が所謂三角堆積を成す。床面に載る黒色土混入のにぶい黄褐色ロームが土葺材の可能性を有する。

構造 〔竪穴〕竪穴は隅丸方形のプランを呈し、主軸の向きはN72° Eを向く。

〔掘り方・床〕掘り方は確認できておらず、所謂地床の構造を呈するものと思量される。

〔竈〕竈は北壁中央に設けられ、その方位はN14° Wを向く。

北壁を掘り込んで掘削される、長軸を略南北に取る楕円形プランの掘り方を有し、これを粘土と褐色土を混入する褐灰色土で埋め戻して燃焼面を造る。

右袖は失われているが、左袖が残る。袖を形成する土壌の記録は残せなかった。

また天井部の構造は確認できなかったが、燃焼部の奥壁、燃焼面より0.08mの位置から奥側に短い煙道が掘削されているのが確認される。

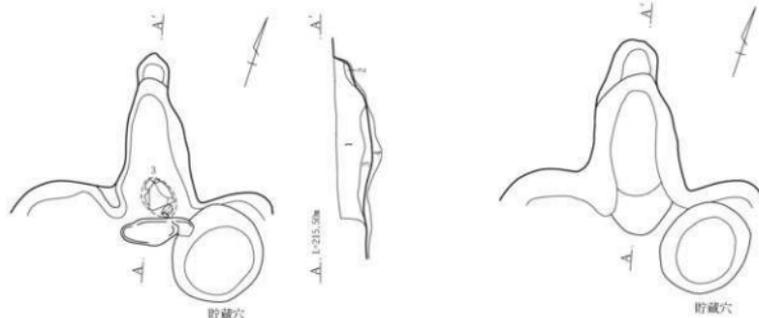
〔柱穴〕柱穴は確認されなかった。

〔貯蔵穴〕貯蔵穴は北壁際、竈の直ぐ右側に掘削されている。楕円形のプランを呈し、やや壁の開く平底形の掘削形態を呈する。

〔棟〕棟方向は特定できなかったが、竪穴の規模と竈の状態から北北東-南南東を向いていたものと推定する。

遺物 本建物からは土師器の杯(1・2)と甕(3)が出土しているが、ほかに83片の土師器片と須恵器片1片が出土している。

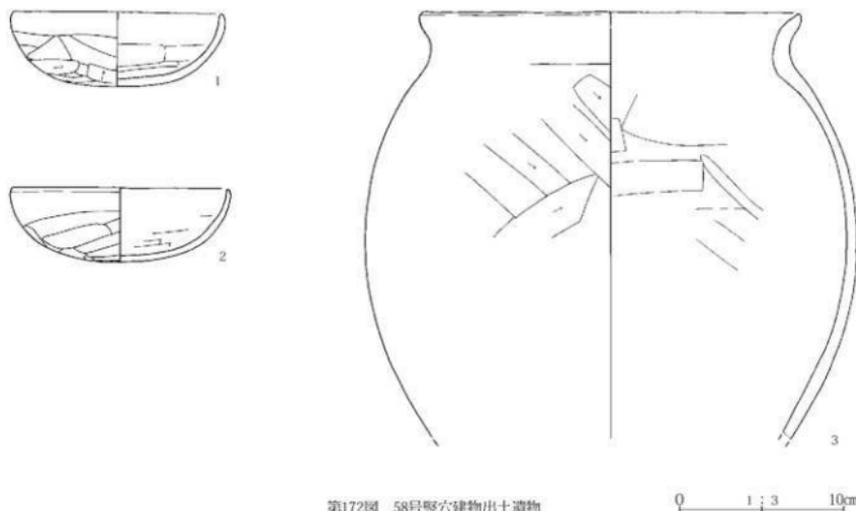
所見 本建物の時期は、出土遺物から推して7世紀後半の所産と判断される。



58号竪穴建物竈

- 1 褐灰色土(10YR4/1)：粘性やや弱、しまり強。焼土粒・5mm大の小礫を微量含む
- 2 灰黄褐色土(10YR5/2)：粘性中程度、しまりやや強。ロームブロック
- 3 褐灰色土(10YR4/1)：粘性やや弱、しまり強。粗粒。炭化物を中量含む、焼土が混じる。粗質
- 4 褐灰色土(10YR4/1)：粘性中程度、しまりやや強。焼土・褐色土が混じる

第171図 58号竪穴建物竈



第172図 58号竪穴建物出土遺物

59号竪穴建物(第173・174図, Pl.37・115)

概要 本建物は竪付の竪穴建物であるが、北部を1号溝が横断し、南側は攪乱に削られ、西側は53号竪穴建物と重複して調査時点で壊されているため、その一部を調査できたに過ぎなかった。

位置 本建物はA区北端とB1区南端部との境界部、中位やや東寄りに在り、222～228-135～139グリッドに位置する。

重複 本建物は52・53号竪穴建物、1号溝と重複する。記録が不十分なため明確ではないが、調査順位から推して、いずれの遺構に対しても本建物の方が古いものと想定される。

規模 [竪穴]前後:(4.17)m 左右:(4.55)m
深さ:0.17m 床面積:(13.45)㎡

[竪] 長さ:0.49m 幅:(0.69)m
燃焼部 長さ:(0.81)m 幅:0.39m
深さ:0.00m
掘り方 長さ:0.97m 幅:1.05m
深さ:0.13m

埋土 記録なし。

構造 [竪穴]上述のように攪乱や他遺構との重複により全容は把握できず、壁も北東隅部と東壁の一部しか確認

できなかったが、そのプランは方形あるいは長方形に近い隅丸方形または隅丸長方形を呈するものと思量される。主軸の向きはN04°Wを向く。

[掘り方・床]本建物の掘り方の有無は確認できなかった。

[竪]竪は東壁に設けられ、その方位はN86°Eを向く。

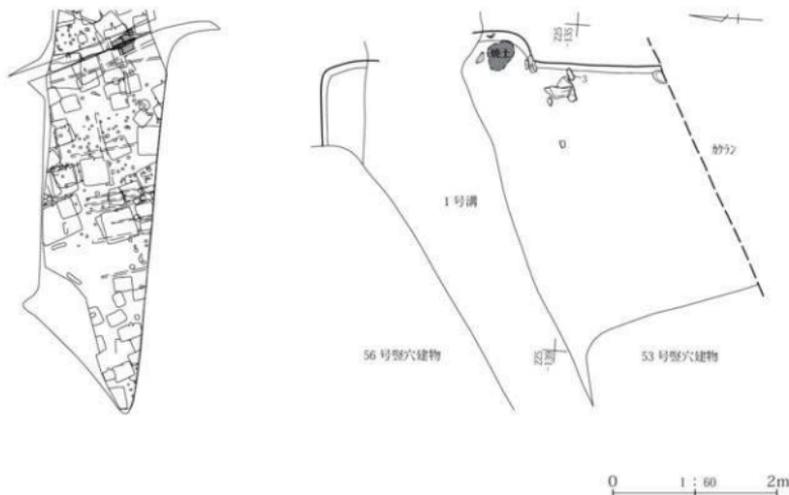
東壁を跨いで楕円形プランを呈する浅い掘り込みの掘り方を掘削し、これを小礫等を含む粘性の弱い黒褐色砂質土で埋め戻し、竪穴の壁際に左袖部には径0.24×0.20m、深さ0.10m、右袖部には径0.32×0.21m、深さ0.15mを測ると共に楕円形のプランを呈するピットを掘削し、左袖部で1枚、右袖部で2枚重ねて板状の礫を立てて袖石とし、ピットを小礫を多量に含む褐灰色砂質土で埋め戻して袖石を固定する。左右の袖石の間を焼土と多量の小礫を含む灰黄褐色砂質土で埋めて燃焼面を造る。なお、左右の袖石を据えたピットの間とその奥側0.25mの竪掘り方壁際の合計3カ所にピットが見られるが、竪の構造を反映したものか否かの判断はできなかった。

左右の袖は失われていたが、上述のように竪穴の壁際に左右両袖共に袖石が残る。

天井部および煙道の構造は確認できなかった。

[柱穴]柱穴は確認されなかった。

[貯蔵穴]貯蔵穴は確認されなかった。



第173図 59号竪穴建物

〔棟〕棟方向も想定できず、上屋構造も確認できなかった。

遺物 本建物からは須恵器の高台付椀(1)と羽釜(2)、及びこも編み石(3)が出土した。また15片の土師器片と1片の須恵器片が出土している。

所見 本建物の時期は、出土遺物からは想定できなかったが、遺構の調査順位から推せば8世紀前半以前ということになる。

60号竪穴建物(第175図、PL.37・38)

概要 本建物は竪付の竪穴建物である。

位置 本建物はA区北端近くの東寄りに在り、218～221-135～138グリッドに位置する。

重複 本建物は52・57号竪穴建物と重複するが、両建物に対して本建物の方が古い。

規模 〔竪穴〕前後：2.54m 左右：2.39m
深さ：0.27m 床面積：(5.13) m²

〔竈〕長さ：0.56m 幅：0.75m
左袖 長さ：0.38m 幅：0.21m 高さ：0.14m
右袖 長さ：0.44m 幅：0.27m 高さ：0.12m
燃焼部 長さ：0.48m 幅：0.47m
深さ：0.03m

煙道 長さ：0.49m 幅：0.62m 高さ：0.15m

掘り方 長さ：0.49m 幅：0.62m

深さ：0.15m

〔貯蔵穴〕平面規模：0.58×0.58m 深さ：0.35m

埋土 粗質な灰黄褐色土と粘性やや弱い褐灰色土等で埋没する。所謂三角堆積等は確認できなかった。

構造 〔竪穴〕竪穴は正方形に近い隅丸方形のプランを呈し、主軸の向きはN31° Wを向く。

〔掘り方・床〕本建物に掘り方は確認できなかったため、地床構造を呈するものと思呈される。

〔竈〕竈は北東壁中央に設けられ、その方位はN61° Eを向く。

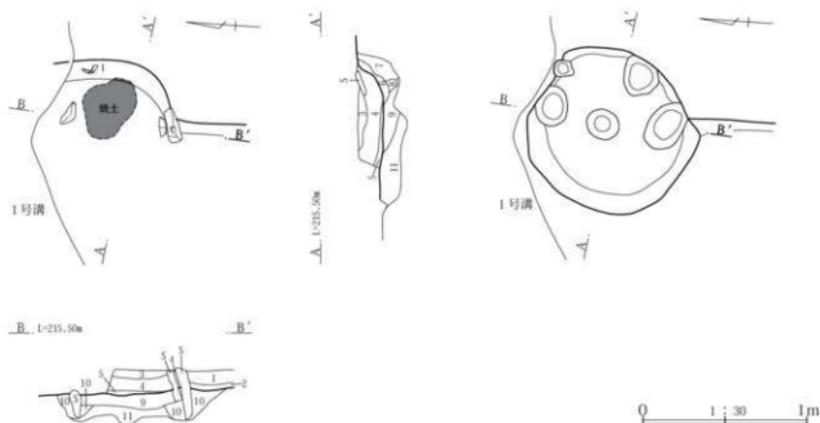
竪穴の北東壁の内側に隅丸台形プランを呈する掘り方を有し、これを粘性やや弱い小礫と少量の焼土粒を含む灰黄褐色土で埋め戻して燃焼面を造る。

左右に袖が残るが、記録が残せなかったため構築状況は確認できなかった。

天井部の構造も確認できなかった。

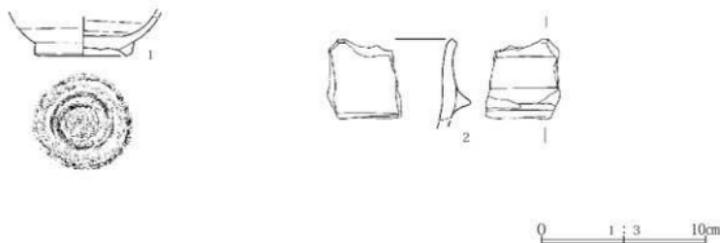
〔柱穴〕柱穴は確認されなかった。

〔貯蔵穴〕竈右側の竪穴東隅部に掘削される。円形のプランを呈し、上位が開く襜鉢状の掘削形態を見せる。



59号竪穴建物竈

- 1 褐灰色土(10YR4/1):粘性やや弱、しまりやや強。白色粒・焼土粒・炭化物を微量含む
- 2 にぶい黄褐色砂質土(10YR5/3):粘性弱、しまりやや強。砂礫状の質感。5mm大の小礫を中量含む
- 3 褐灰色土(10YR4/1):粘性弱、しまり強。白色粒・5mm大の小礫を少量含む
- 4 灰黄褐色土(10YR5/2):粘性中程度、しまりやや強。白色粒を微量含み、焼土が混じる
- 5 褐灰色砂質土(10YR4/1):粘性弱、しまりやや強。5mm大の小礫を中量含む。焼土が混じり、下面が若干乾燥している
- 6 にぶい赤褐色土(5YR4/3):粘性弱、しまりやや強。白色粒を微量含み、焼土が混じる
- 7 にぶい黄褐色土(10YR5/3):粘性中程度、しまり強。白色粒・5mm大の小礫を少量含む
- 8 黒褐色土(10YR3/2):粘性中程度、しまりやや強。黒褐色土ブロック
- 9 灰黄褐色砂質土(10YR4/2):粘性弱、しまり強。5mm大の小礫を多量に含み、焼土が混じる
- 10 褐灰色砂質土(10YR4/1):粘性弱、しまり強。5mm大の小礫を多量、白色粒・褐色粒を少量含む
- 11 黒褐色砂質土(10YR3/1):粘性弱、しまり強。砂礫状の質感。白色粒・褐色粒・5mm大の小礫を多量に含む



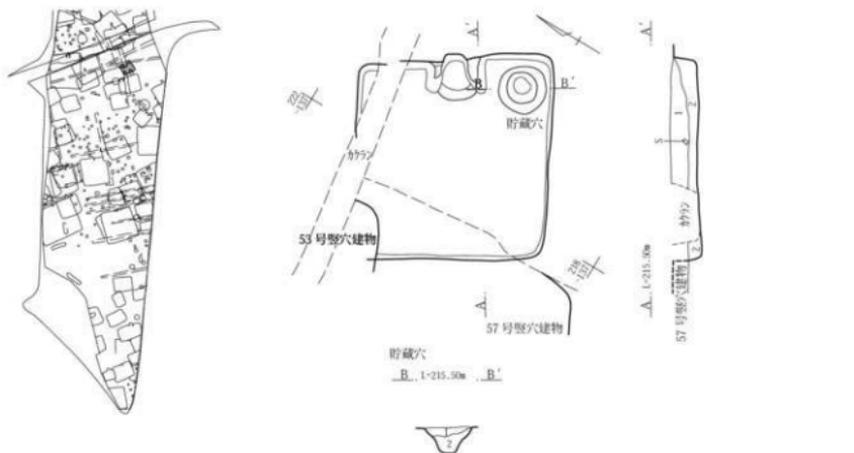
第174図 59号竪穴建物竈と出土遺物

〔棟〕竪穴の長・短辺の長さが近似していることもあり、棟方向は特定できなかった。上屋構造も確認できなかった。

遺物 本建物からは土師器片24片と須恵器甍片(1)が出

土したに過ぎなかった。また土師器で図示すべきものを見出すことはできなかった。

所見 本建物の時期は、特定できなかった。

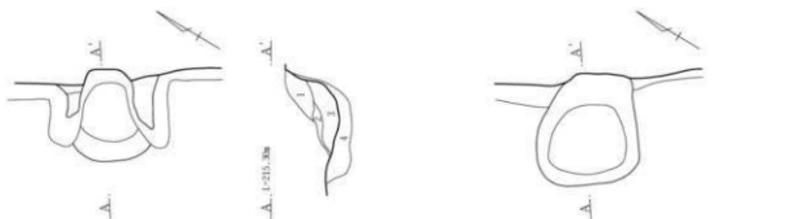


60号壱穴建物A-A'

- 1 褐灰色土(10YR4/1):粘性やや弱、しまりやや強。褐色粒・5mm大の小礫を少量含む
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2):粘性中程度、しまりやや強。5mm大の小礫を微量に含む。粗質

60号壱穴建物貯蔵穴

- 1 褐灰色土(10YR4/1):粘性中程度、しまりやや強。5mm大の小礫を微量に含む
- 2 黒褐色土(10YR3/1):粘性やや弱、しまりやや強。焼土粒を含み、褐色土が混じる。粗質



60号壱穴建物竈

- 1 灰黄褐色土(10YR4/2):粘性中程度、しまりやや強。5mm大の小礫を微量に含む。粗質
- 2 褐灰色土(10YR4/1):粘性やや弱、しまりやや強。焼土粒・5mm大の小礫を微量に含む
- 3 灰黄褐色土(10YR5/2):粘性中程度、しまりやや強。炭化物・焼土粒を微量に含む
- 4 灰黄褐色土(10YR5/2):粘性やや弱、しまり強。焼土粒を少量、5mm大の小礫を中量含む



第175図 60号壱穴建物と出土遺物

61号竪穴建物(第176～179図、PL.38・39・116)

概要 本建物は竈付の竪穴建物である。

位置 本建物はA区北端からB1区の境のやや西寄りに在り、216～223-141～147グリッドに位置する。

重複 本建物は53号竪穴建物と重複するが、本建物の方

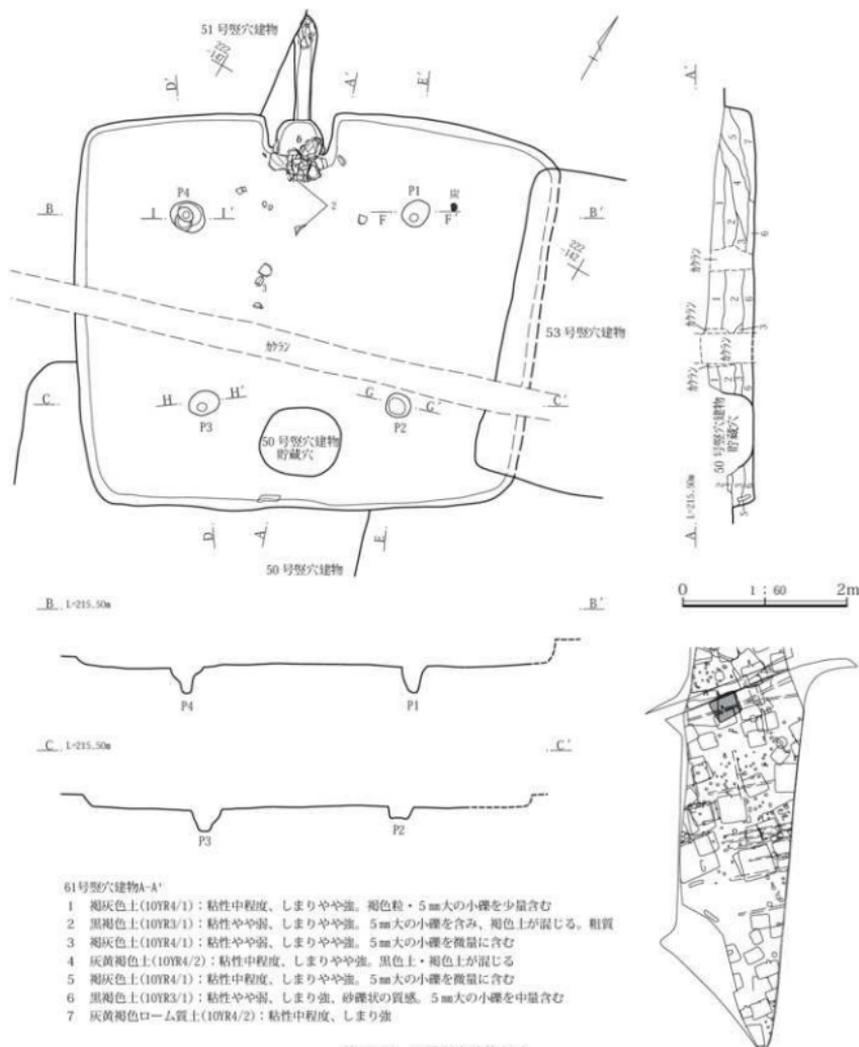
が古い。

規模 [竪穴]前後:4.86m 左右:5.84m

深さ:0.30m 床面積:24.34㎡

[竈] 長さ:2.04m 幅:0.97m

左袖 長さ:0.53m 幅:0.24m 高さ:0.13m



第176図 61号竪穴建物(1)

右袖 長さ：0.56m 幅：0.26m 高さ：0.12m
 燃烧部 長さ：0.73m 幅：0.47m
 深さ：0.03m
 煙道 長さ：1.24m 幅：0.29m 高さ：0.11m
 掘り方 長さ：0.97m 幅：1.46m
 深さ：0.17m

- [P 1] 平面規模：0.34×0.30m 深さ：0.32m
 [P 2] 平面規模：0.29×0.30m 深さ：0.15m
 [P 3] 平面規模：0.29×0.38m 深さ：0.28m
 [P 4] 平面規模：0.36×0.44m 深さ：0.33m

埋土 褐灰色土、共に粘性やや弱い褐色土混入または小礫混入の黒褐色土等で埋没する。南壁際で灰黄褐色ローム質土が所謂三角堆積等を成す。

構造 [竪穴]竪穴は横長の隅丸逆台形のプランを呈し、主軸の向きはN60° Eを向く。

[掘り方・床]本建物は掘り方が確認されず、地床構造を成すものと思量される。

[竈]竈は北壁の中ほどに設けられ、その方位はN31° Wを向く。

竪穴の壁面手前に半楕円形様のプランを呈する掘り方

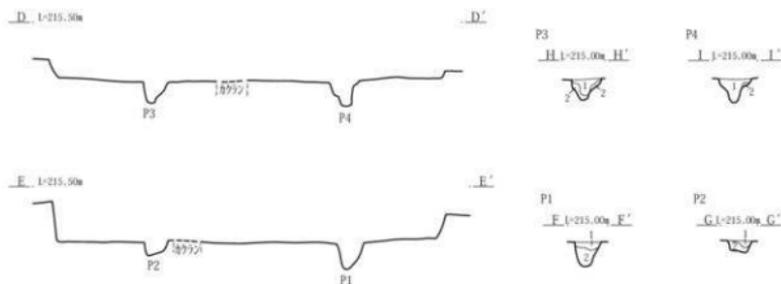
を有し、灰黄褐色砂質土で埋め戻すが、上位は焼土主体で粘性のやや弱いにぶい赤褐色土で燃焼面を造る。燃焼面は被熱に硬化している。

左右に袖が残るが、袖手前の燃焼部側に板状の礫を立てて袖石とし、袖石の外側に左袖は下半に少量の焼土粒含み粘性のやや弱い黒褐色土(14)、左袖上半と右袖には焼土粒と小礫を微量に含み粘性のやや弱い黒褐色土(9)を積んで袖を形成する。

焼土・黒色土と多くの土師器片含む灰黄褐色土(5)が天井部の崩落土と判断され、これの焼土化したものが黒色土混じりのにぶい赤褐色土(6)と想定される。

燃焼部奥壁の燃焼面から0.16m上から奥側に溝状の煙道が水平方向に掘削され、先端で0.18m斜め上方へ上げられる。

[柱穴]柱穴はP 1(北東)・P 2(南東)・P 3(南西)・P 4(北西)の4基の柱穴が掘削されているが、その配置は逆台形のプランを呈する。柱穴はP 2は隅丸方形、他の3基は楕円形のプランを呈する。P 3・4の断面形は逆凸形を呈するが、柱の荷重による塑性変形の可能性を有するものの、遺構の掘削が不十分であった可能性が高い



61号竪穴建物 P 1

- 1 褐灰色土(10YR4/1)：粘性やや弱、しまりやや強。焼土粒・5mm大の小礫を微量に含む
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2)：粘性やや弱、しまりやや強。焼土粒・5mm大の小礫を微量に含む

61号竪穴建物 P 2

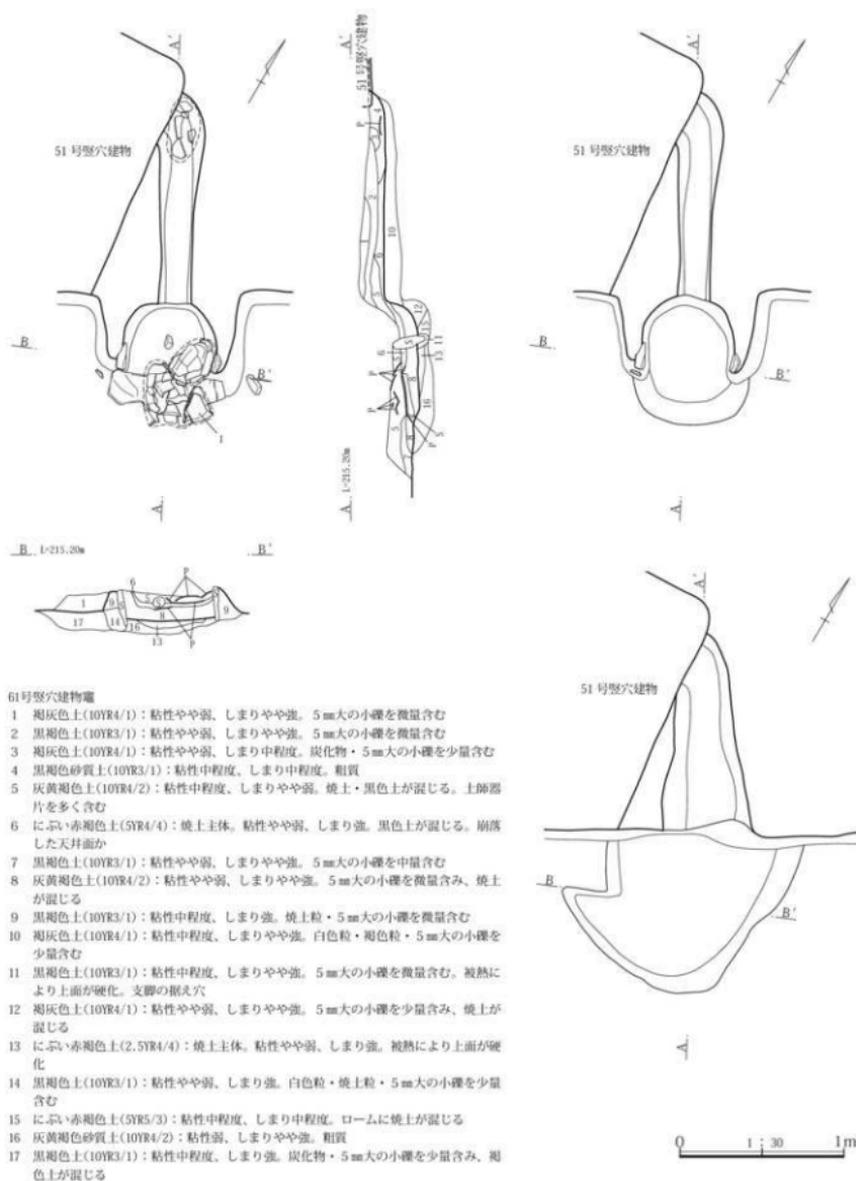
- 1 灰黄褐色土(10YR4/2)：粘性やや弱、しまり強。5mm大の小礫を微量に含む
- 2 黒褐色土(10YR3/1)：粘性やや弱、しまり強。5mm大の小礫を微量に含み、褐色土が混じる

61号竪穴建物 P 3・P 4

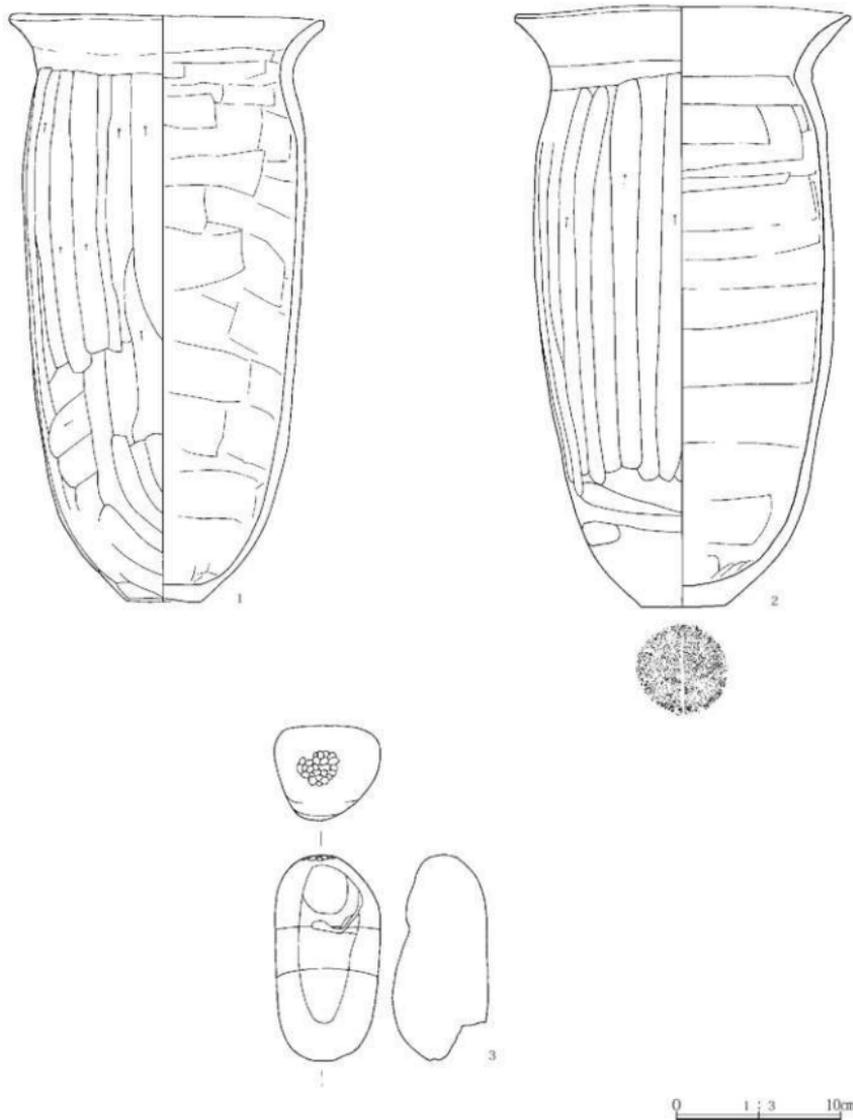
- 1 黒褐色土(10YR3/1)：粘性やや弱、しまり強。褐色粒・5mm大の小礫を微量に含む
- 2 暗褐色シルト質土(10YR3/3)：粘性中程度、しまりやや強



第177図 61号竪穴建物(2)



第178図 61号竪穴建物竪



第179図 61号竪穴建物出土遺物

ものと想定される。

柱間は、P1・2間は1.32m、P2・3間は1.36m、P3・4間は1.35mを測り、P1・4間は1.75mを測る。柱間は前3者は近似した値を取るが、後1者は突出して長い。後述の理由からP1・4間とP2・3間が桁、P1・2間とP3・4間が梁と判断されるため、桁間は1.555m、梁間は1.335mという値を示す。

〔貯蔵穴〕貯蔵穴は確認されなかった。

〔棟〕棟方向は、竪穴の形状が北北西-南南東方向に対し、東北東-西南西方向が1.2倍ほど長く、柱間もこれに準じていることから、東北東-西南西方向を向くものと思量される。

しかし上屋の詳細は特定できなかった。

遺物 本建物からは土師器甕(1・2)と殿石から転用したこも編み石(3)1点が出土している。このほか土師器

片225片と須恵器片3片の出土を見ている。

所見 本建物の時期は、出土遺物から推して7世紀前半の所産と判断される。

62号竪穴建物(第180～182図、PL.39・40・116・117)

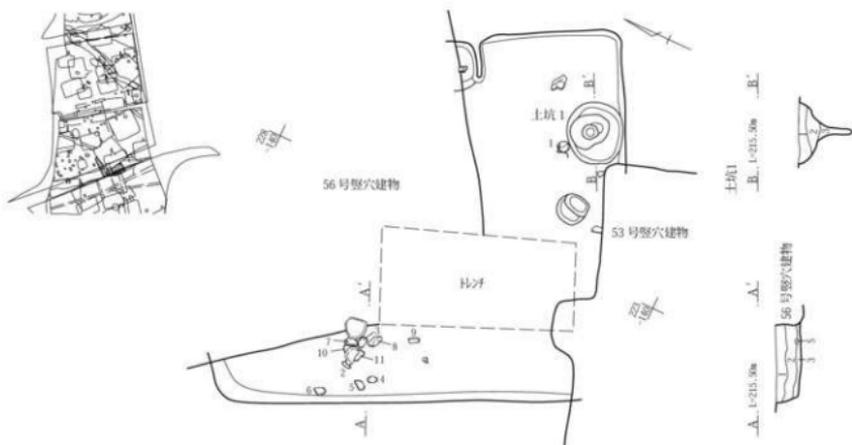
概要 本建物は竪穴の竪穴建物である。建物北半中・東隅部と南壁際西半部は他遺構に壊されて、更に残存部の西部もトレンチで壊されて、全体の1/3程を調査できたに過ぎなかった。

位置 本建物はB1区南部中程に在り、223～227-137～143グリッドに位置する。

重複 本建物は53・56号竪穴建物と重複するが、共に本建物の方が古い。

規模 〔竪穴〕前後：4.52m 左右：(4.58)m

深さ：0.42m 床面積：(9.34)㎡



62号竪穴建物A-A'

- 1 灰黄褐色土(10YR5/2)：粘性やや弱、しまりやや強。褐色粒・5mm大の小礫を少量含む
- 2 黒褐色土(10YR3/1)：粘性やや弱、しまりやや強。焼土粒を微量に含む。粗質
- 3 灰黄褐色土(10YR4/2)：粘性中程度、しまり強。黒土が混じる

62号竪穴建物土坑1

- 1 褐色土(10YR4/1)：粘性中程度、しまりやや強。5mm大の小礫を少量含む
- 2 褐色砂質土(10YR4/1)：粘性やや弱、しまり強
- 3 灰黄褐色土(10YR4/2)：粘性中程度、しまりやや強。黒土が混じる。粗質

第180図 62号竪穴建物



62号竪穴建物竈

- 1 褐灰色土(10YR4/1):粘性弱、しまり強。5mm大の小礫を微量に含む
- 2 黒褐色土(10YR3/1):粘性弱、しまり強。5mm大の小礫を微量に含み、焼土が混じる
- 3 灰褐色土(5YR4/2):粘性弱、しまり強。白色粒・褐色粒・5mm大の小礫を微量に含み、焼土が混じる
- 4 灰黄褐色土(10YR4/2):粘性弱、しまりやや強。焼土が混じる。支脚の据え穴
- 5 褐灰色砂質土(10YR4/1):粘性やや弱、しまり強。焼土粒・5mm大の小礫を少量含む



0 1 : 30 1m

第181図 62号竪穴建物竈

〔竈〕 長さ:0.60m 幅:(0.43)m

右袖 長さ:0.48m 幅:0.16m 高さ:0.05m

燃焼部 長さ:(0.52)m 幅:(0.16)m

深さ:0.04m

掘り方 長さ:0.76m 幅:(0.61)m

深さ:0.12m

〔土坑1〕 平面規模:0.75×0.68m

深さ:0.19m/0.67m

〔ピット1〕 平面規模:0.37×0.36m 深さ:0.20m

埋土 粘性やや弱い灰黄暗褐色土と黒褐色土、および黒色土混じりの灰黄褐色土で埋没する。所謂三角堆積は確認できなかった。

構造 〔竪穴〕竪穴はやや横長の隅丸長方形のプランを呈し、主軸の向きはN25°Wを向く。

〔掘り方・床〕本建物に掘り方は確認されず、従って本建物は地床の構造であったものと判断される。

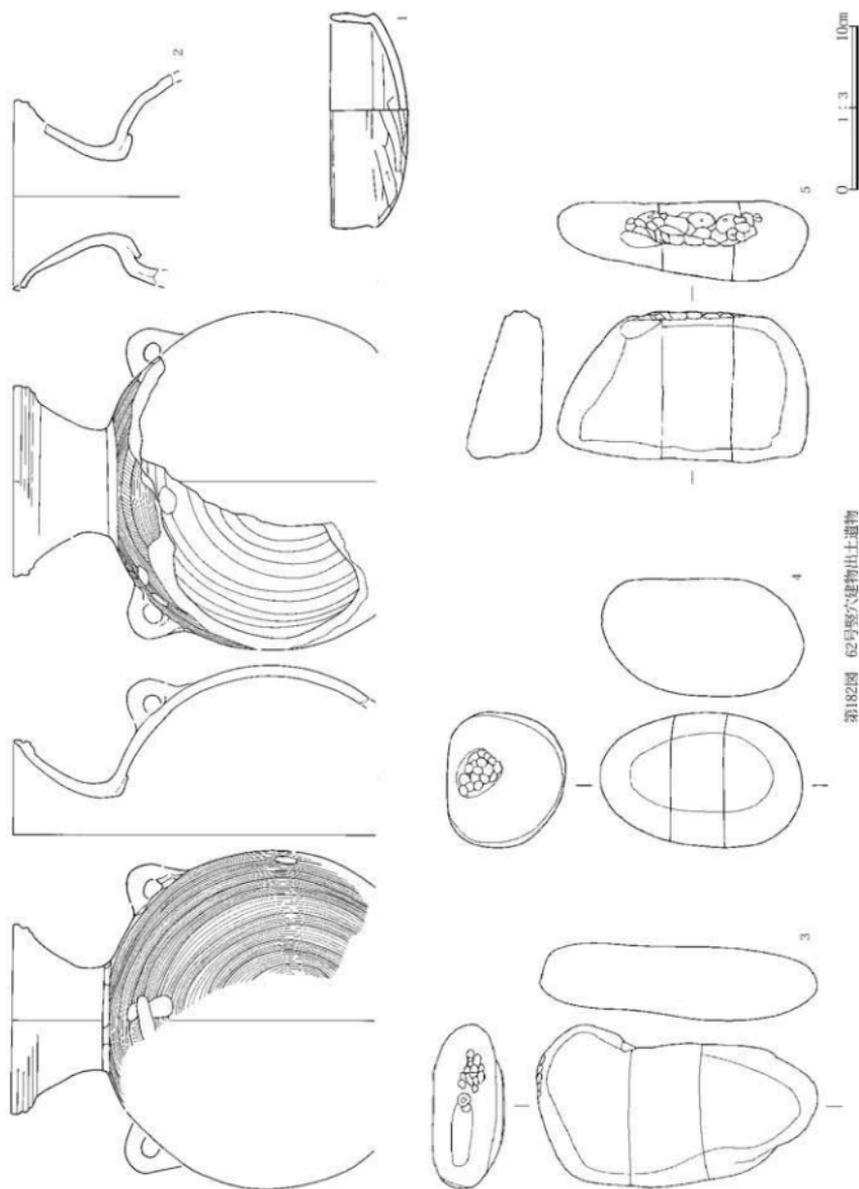
〔竈〕竈は東壁のやや南寄りに設けられるが左半(北側)は56号竪穴建物に切られて失われている。竈の方位はN62°Eを向く。

竪穴の壁面に若干掛かるやや縦長楕円形の掘り方を有し、これを褐灰色砂質土で埋め戻して燃焼面を造る。燃焼部の中ほどを掘削し、礫を立てて粘性の弱い焼土混じりの灰黄褐色土で埋めて支脚を設けている。

右袖が残るが、構造に関する記録は残せなかった。

天井部の構造も確認できなかった。

〔柱穴〕明確な柱穴は確認されなかったが、竪穴の南壁寄り中央に、位置的に棟柱柱の可能性を有するピット1が掘削されている。このピットは円形プランを呈し、東側が径0.36×0.21mを測る楕円形プランを呈し、西側に対し0.10mほど深く掘削されている。この東側は柱痕あるいは塑性変形による陥没の可能性も考慮される。なお北側は56号竪穴建物に壊されているためピット1に対応す



第182図 62号竪穴建物出土遺物

る柱穴を確認することはできなかった。

〔貯蔵穴〕貯蔵穴は確認されなかった。しかし南壁に接して、東壁より1.02m離れた位置に掘削されている土坑1が貯蔵穴であった可能性を有する。土坑1の中北部には径0.48×0.40mを測り、土坑1の床面より0.33mの深さに東半楕円形、西半弧線形のプラン呈するピットが掘削され、その中央には更に径0.19×0.18m、深さ0.19mを測る円柱状の掘り込みが見られる。

〔棟〕棟方向は、竪穴の形状から推して北北西—南南東方向を向くものと想定される。上屋本体の形状は詳らかにできなかった。

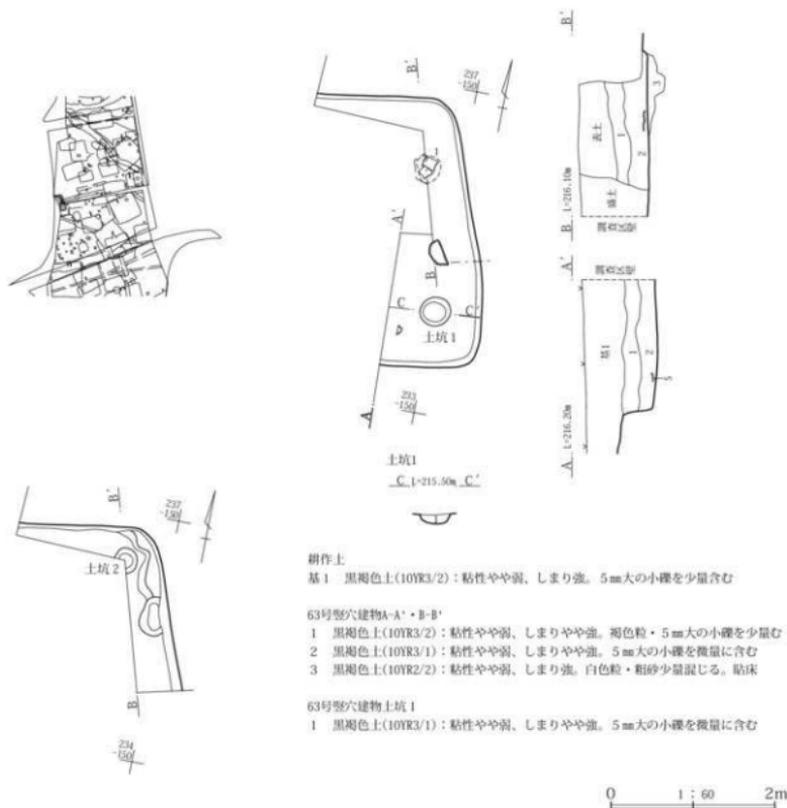
遺物 本建物からは土師器杯(1)、須恵器提瓶(2)が出

土し、また敲石からの転用品(3~5)を含むも編み石(6~11)の出土を見た。このほか土師器片50片が出土している。

所見 本建物の時期は、出土遺物から推して6世紀後半の所産と判断される。

63号竪穴建物(第183・184図、PL.40・117)

概要 本建物は過半が西側調査区外に出るため、東部と北部中・東部のみを調査できたに過ぎなかったため、全容は把握できなかった。しかし竪穴建物と判断、調査しているが、如いや竈が確認されなかったため、竪穴状遺構の可能性も有する。



耕作土

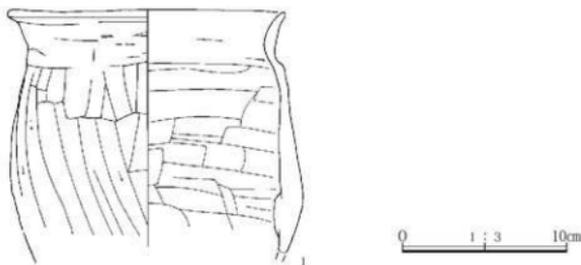
基1 黒褐色土(10YR3/2):粘性やや弱、しまり強。5mm大の小礫を少量含む

63号竪穴建物A-A'・B-B'

- 1 黒褐色土(10YR3/2):粘性やや弱、しまりやや強。褐色粒・5mm大の小礫を少量含む
- 2 黒褐色土(10YR3/1):粘性やや弱、しまりやや強。5mm大の小礫を微量に含む
- 3 黒褐色土(10YR2/2):粘性やや弱、しまり強。白色粒・粗砂少量混じる。粘床

63号竪穴建物土坑1

- 1 黒褐色土(10YR3/1):粘性やや弱、しまりやや強。5mm大の小礫を微量に含む



第184図 63号竪穴建物出土遺物

なお、本建物の南半部は令和2年度調査、北半部は令和3年度の調査によるものである。

位置 本建物はB1区中部西端に在り、233～236-149～151グリッドに位置する。

重複 本建物は3号溝と重複するが、本建物の方が新しい。

規模 〔竪穴〕前後：3.29m 左右：(1.62)m
深さ：0.11m 床面積：(4.55) m²

〔土坑1〕 平面規模：0.35×0.37m 深さ：0.13m

〔土坑2〕 平面規模：(0.27)×0.31m 深さ：0.16m
床面からの深さ：0.20m

埋土 粘性のやや弱い黒褐色土で埋没する。所謂三角堆積等はできなかった。

構造 〔竪穴〕上述のように本建物はその一部を調査したに過ぎないため全容は詳らかでないが、本建物の竪穴は横長の隅丸方形または隅丸長方形のプランを呈するものと思量される。主軸の向きはN79° Eを向く。

〔掘り方・床〕令和3年度調査分の本建物北半部で、北東隅部から南の東壁際を長さ0.80m、幅0.19m以下を測る掘り残し、0.12m以下に掘削する掘り方を有する。この掘り残しの南端に径0.26×0.48m、深さ0.10mを測る弧線形に近い楕円形状プランを呈する土坑状の掘り込みと、掘り残し中位の西側に土坑2の掘削がある。こうした掘り方を、粘性やや弱く、粗砂少量含む黒褐色土で埋め戻して、床面を造る。

〔竈〕竈は確認されなかった。

〔柱穴〕柱穴は明確には確認できなかったが、南部床面の楕円形プランの土坑1と北部の掘り方面に確認した円形プランの土坑2にその可能性が考えられる。なお床面で

柱穴(柱の立て直し痕)が掘削されない場合、掘り方で柱穴を掘削して柱を立てて床を貼るため、床面には柱痕のみが残されることから確認が難しい。従って掘り方面のみで柱穴が確認できる例があるため、土坑2にその可能性を考慮した。

土坑1の掘削中心位置は東壁から0.56m、南壁から0.64m、土坑2の掘削中心位置は東壁から0.41m、北壁から0.43mを測る。この位置は、柱穴を有する古墳時代後期の竪穴建物では、柱穴の掘削位置は竪穴の一边の1/4程(一边100に対し約25)である(石守1999)のに対し、南北の長さを100とした場合の値が土坑1では19.5、土坑2では13と共に壁面に寄って掘削されていることが思量される。

〔貯蔵穴〕貯蔵穴は確認されなかった。

〔棟〕棟方向は想定できなかった。また上屋構造も想定できなかった。

遺物 本建物からは土師器甕(1)が出土したほか、土師器片3片が出土したに過ぎなかった。

所見 本建物の時期は、出土遺物から推して6世紀後半の所産と判断される。

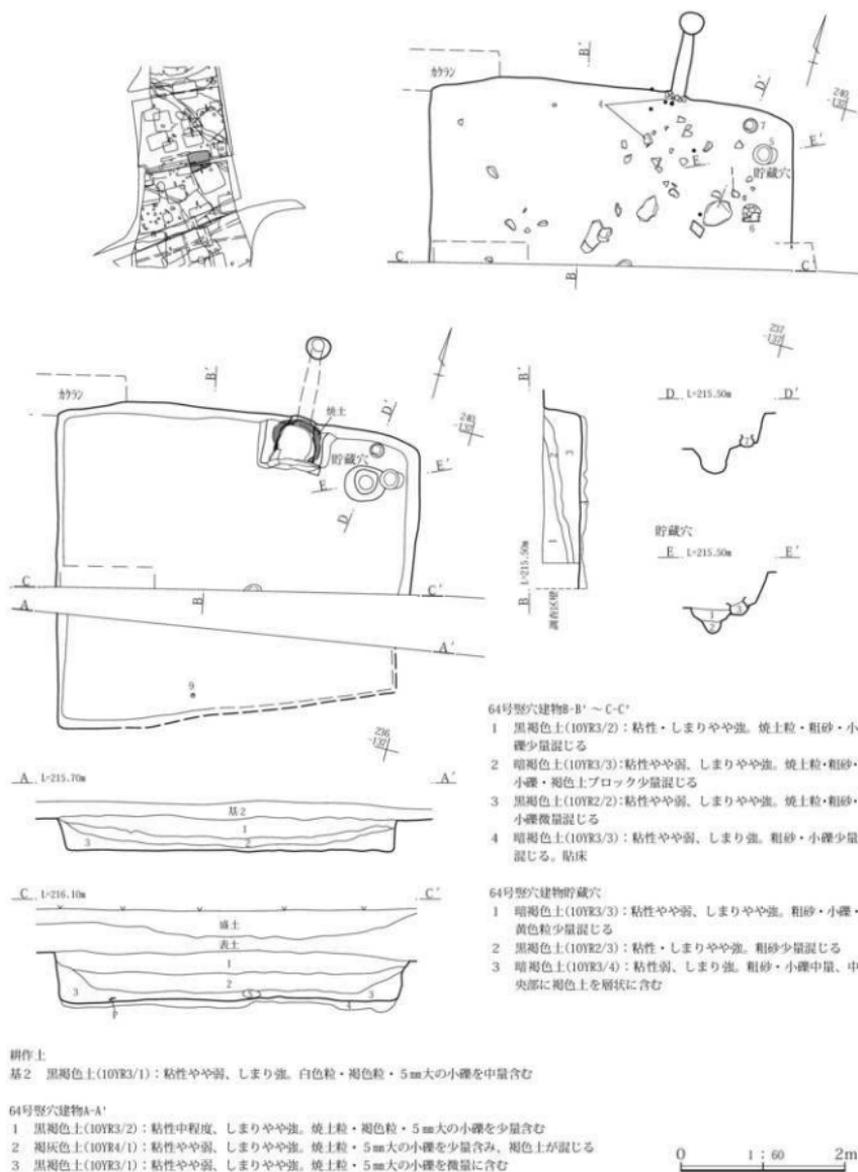
64号竪穴建物(第185～188図、PL.40・41・117)

概要 本建物は竈付の竪穴建物である。南半は令和2年度、北半は令和3年度の発掘調査に依った。

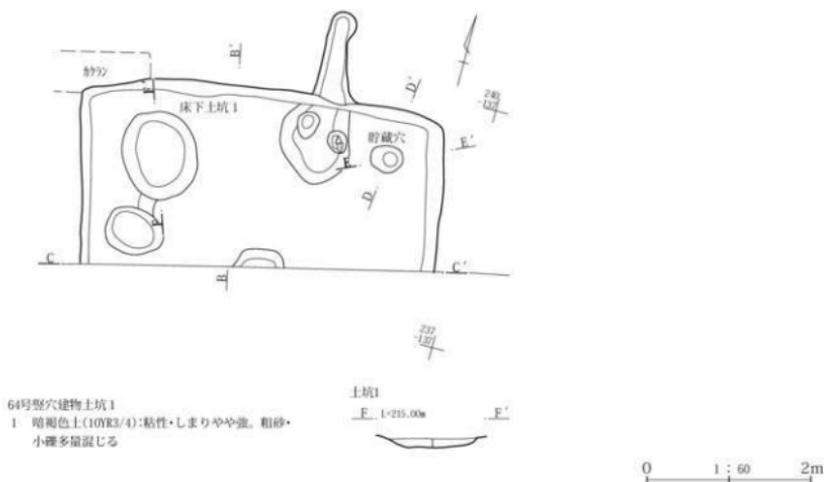
位置 本建物はB1区中央やや東寄りに在り、235～240-137～141グリッドに位置する。

重複 本建物は南端で48号竪穴建物と重複するが、本建物の方が古い。

規模 〔竪穴〕前後：4.00m 左右：4.42m



第185図 64号型穴建物(1)



第186図 64号堅穴建物(2)

深さ：0.49m 床面積：(14.19) m²

〔竈〕 長さ：1.70m 幅：0.96m

左袖 長さ：0.67m 幅：0.26m 高さ：0.27m

右袖 長さ：0.52m 幅：0.37m 高さ：0.20m

燃焼部 長さ：[0.52]m 幅：0.41m

深さ：0.02m

煙道 長さ：1.00m 幅：0.29m

天井高：0.12m 高さ：0.37m

掘り方 長さ：0.96m 幅：0.87m

深さ：0.11m

〔貯蔵穴〕 平面規模：0.43×0.49m 深さ：0.31m

〔床下土坑1〕 平面規模：1.08×0.90m 深さ：0.14m

埋土 焼土粒と小礫少量含む黒褐色土と、共に粘性やや弱い小礫少量含む褐色土と黒褐色土で埋没する。所謂三角堆積等は確認できなかった。

構造 〔堅穴〕 堅穴はやや横長の隅丸長方形のプランを呈し、主軸の向きはN75° Eを向く。

〔掘り方・床〕 本建物は楕円形プランを呈する床下土坑1を含む3カ所の土坑状の掘り込みを伴う掘り方を有し、これを粘性やや弱く少量の小礫を含む暗褐色土で埋め戻して、床面を造る。

〔竈〕 竈は北壁東寄りに設けられ、その方位はN3° Wを

向く。

堅穴の北壁面手前に縦長の楕円形プランを呈し、その中位右側に径0.24×0.26m、深さ0.06mを測る楕円形の掘り込み、やや左奥側に径0.26×0.33m、深さ0.25mを測る逆水滴形を呈する堀心美が掘削される掘り方を有し、黒褐色土で埋め戻して燃焼面を造る。

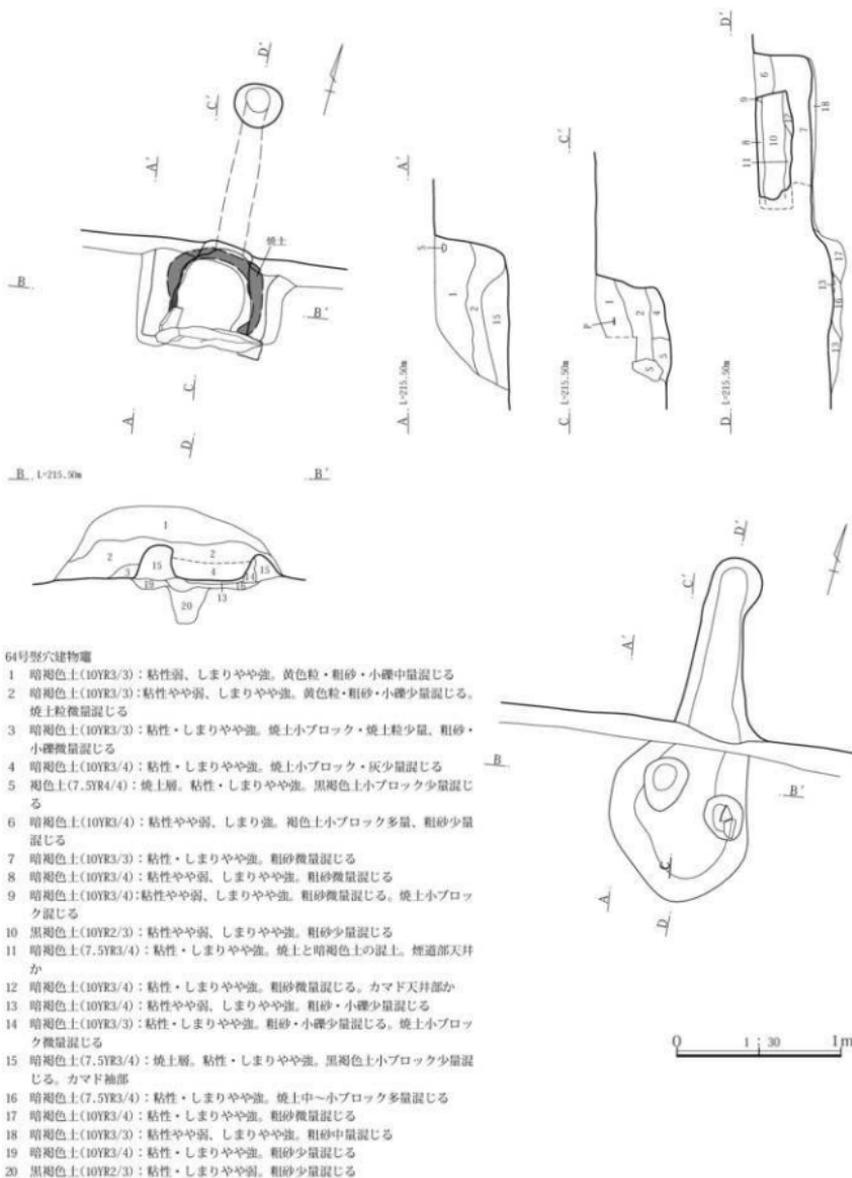
左右に袖が残るが、右袖の燃焼部側に焼土ブロックと灰が少量入る粘性やや強い暗褐色土、左袖と右袖外側は焼土と少量の黒褐色土のブロック含むやや粘性の強い暗褐色土で形成される。

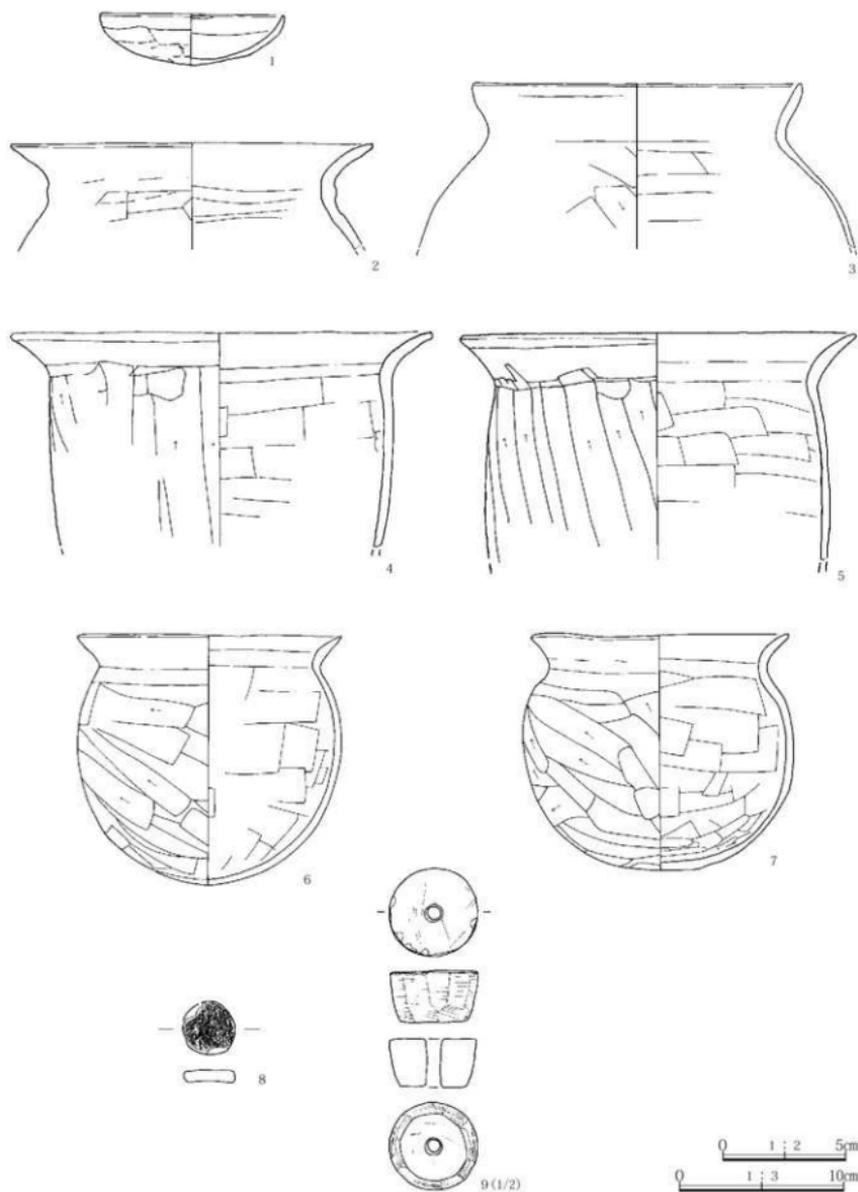
燃焼部両側と奥壁が焼土化している。また左右両袖の手前側に、板状の礫が天井石として渡されているが他の部分は崩落している。

燃焼部の奥壁燃焼面より0.10mほどの高さを底面として、小面形横長長方形にトンネル状の煙道が掘削される。煙道燃焼部側(手前側)の天井には焼土化が見られる。煙道は0.95mほど掘削した後、径0.28×0.26m、深さ0.38mを測る楕円形プランの堅穴に接続している。

〔柱穴〕 柱穴は確認されなかった。

〔貯蔵穴〕 貯蔵穴は竈右側の北壁より0.32m、東壁より0.26m隔てた位置に掘削されている。貯蔵穴は隅丸方形のプランを呈し、掘削形態は丸底の漏斗形を呈する。





第188図 64号竪穴建物出土遺物

〔棟〕棟方向は、竪穴の形状から推して、略東西方向を向くものと思量される。

遺物 本建物からは土師器の杯(1)・甕(2～5)・小型甕(6・7)、破片166片が出土したほか、土師器甕片を加工した土製円盤(8)や砥沢石製の紡輪(9)の出土が見られた。

所見 本建物の時期は、出土遺物から推して7世紀の所産と判断される。

65号竪穴建物(第189～192図, PL.41・118)

概要 本建物は竪付の小型の竪穴建物である。

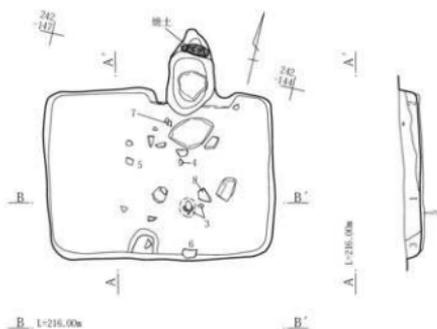
位置 本建物はB1区中央部の僅かに北西寄りに在り、239～242-143～148グリッドに位置する。

重複 本建物は80号竪穴建物と重複するが、本建物の方が新しい。

規模 〔竪穴〕前後：2.10m 左右：2.79m

深さ：0.23m 床面積：5.10㎡

〔竪〕長さ：1.05m 幅：1.11m



65号竪穴建物A-A'・B-B'

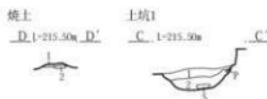
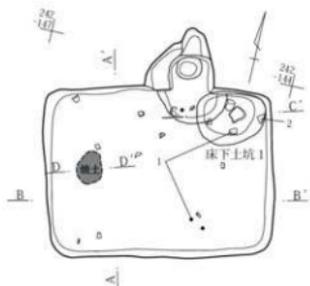
- 1 暗褐色土(10YR3/3)：粘性弱、しまり強。粗砂・小礫中量混じる
- 2 暗褐色土(10YR3/3)：粘性やや弱、しまりやや強。粗砂少量、褐色土小ブロック微量混じる
- 3 暗褐色土(10YR3/3)：粘性やや強、しまり強。粗砂・小礫・褐色土小ブロック少量混じる
- 4 暗褐色土(10YR3/3)：粘性やや弱、しまりやや強。褐色土小ブロック・炭化粒・粗砂少量混じる。貼床?
- 5 暗褐色土(10YR3/3)：粘性やや弱、しまり強。黄色粒・粗砂少量混じる。貼床

65号竪穴建物土坑1

- 1 暗褐色土(10YR3/3)：粘性やや弱、しまりやや強。炭化粒・焼土粒微量、粗砂少量混じる
- 2 黒褐色土(10YR2/3)：粘性・しまりやや強。焼土粒・褐色土小ブロック少量混じる

65号竪穴建物焼土

- 1 暗褐色土(7.5YR3/3)：焼土層。粘性やや弱、しまりやや強。黄色粒・粗砂微量混じる
- 2 黒褐色土(10YR2/3)：粘性やや弱、しまりやや強。粗砂微量混じる

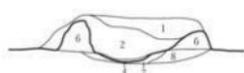


0 1:60 2m

第189図 65号竪穴建物



B. 1-215.70m



B'

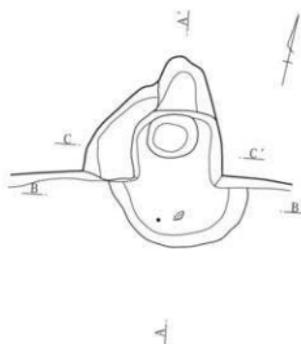
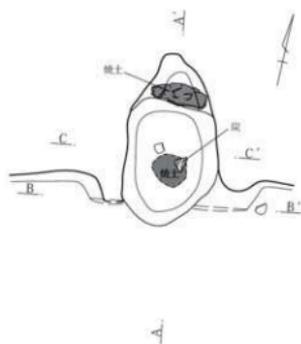
C. 1-215.70m



C'

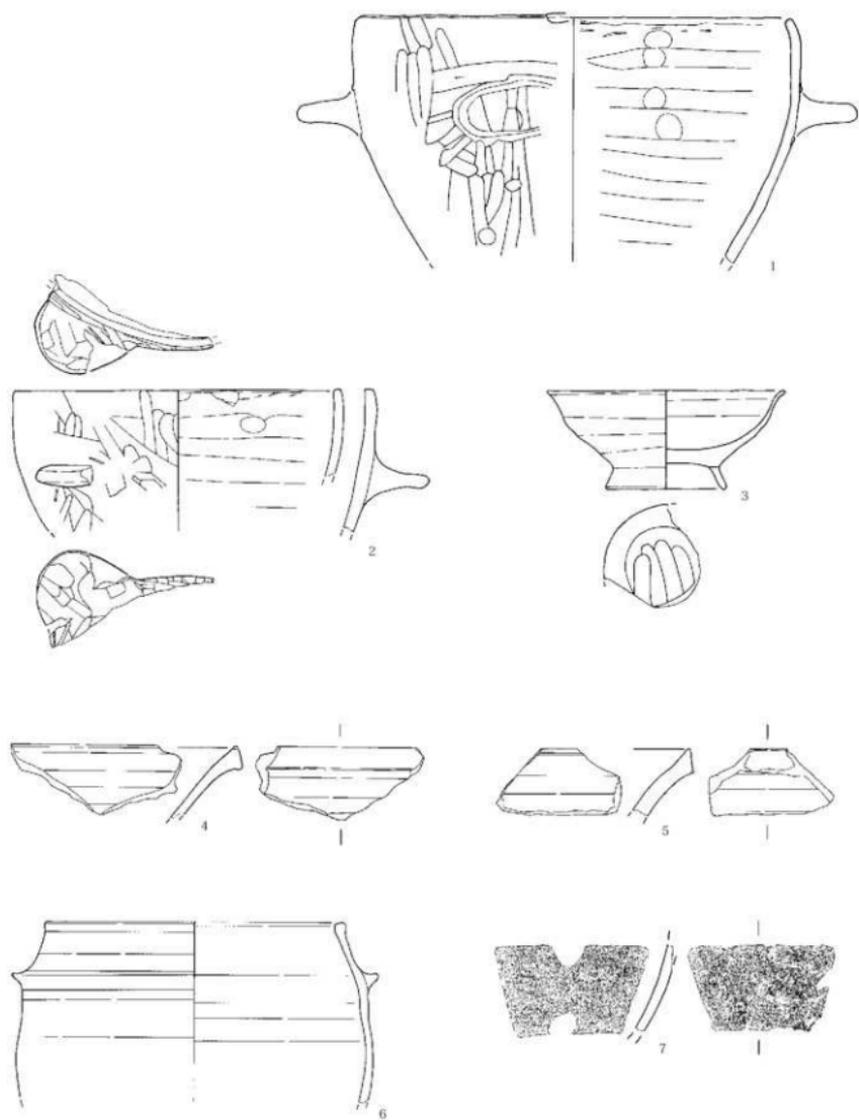
65号竪穴建物遺

- 1 黒褐色土(10YR2/3)：粘性・しまりやや強。焼土粒極微量、粗砂・小礫少量混じる
- 2 暗褐色土(10YR3/3)：粘性やや強。しまり強。粗砂・小礫・黄色粒少量混じる
- 3 黒褐色土(10YR2/3)：粘性・しまりやや強。粗砂・黄色粒微量混じる
- 4 暗褐色土(10YR3/3)：キメ細かく粘性・しまりやや強。粗砂・小礫微量混じる。カマド袖部
- 5 黒褐色土(10YR2/2)：粘性・しまりやや強。黄色粒・粗砂微量混じる
- 6 黒褐色土(10YR2/2)：粘性・しまりやや強。焼土粒・炭化粒少量混じる
- 7 黒褐色土(10YR2/3)：粘性やや強。しまりやや強。焼土粒・炭化粒微量混じる
- 8 黒褐色土(10YR2/3)：粘性・しまりやや強。黄色粒・粗砂・小礫微量混じる。貯床？
- 9 黒褐色土(10YR2/3)：粘性やや弱。しまりやや強。焼土粒微量、粗砂・小礫少量混じる
- 10 暗褐色土(10YR3/3)：粘性やや弱。しまり強。粗砂・小礫少量混じる。下面に焼土あり
- 11 暗褐色土(10YR3/3)：粘性・しまりやや強。粗砂・焼土小ブロック微量混じる

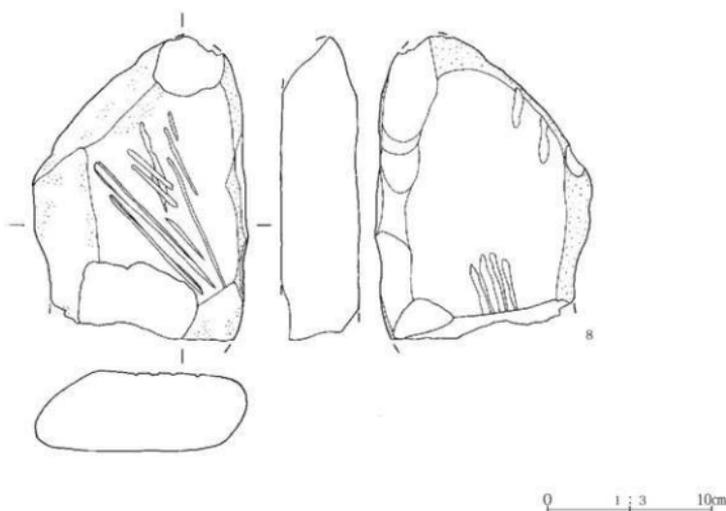


0 1 : 30 1m

第190図 65号竪穴建物遺



第191図 65号塚穴建物出土遺物(1)



第192図 65号竪穴建物出土遺物(2)

左袖 長さ：0.22m 幅：0.34m 高さ：0.21m

右袖 長さ：0.23m 幅：0.38m 高さ：0.19m

燃烧部 長さ：0.70m 幅：0.40m

深さ：0.06m

煙道 長さ：0.31m 幅：0.50m 高さ：0.20m

掘り方 長さ：0.81m 幅：0.85m

深さ：0.06m

[床下土坑1] 平面規模：0.65×0.83m 深さ：0.31m

埋土 粗砂・小礫混入の粘性弱い暗褐色土で埋没する。南・西壁際に粘性やや強い暗褐色土が所謂三角堆積を形成する。また東・北壁には崩れた状態の粘性やや弱い暗褐色土が三角堆積様の堆積を示す。

構造 [竪穴]竪穴は横長の隅丸長方形のプランを呈し、主軸の向きはN77°Eを向く。

[掘り方・床]本建物は北東隅部に大型の楕円形プランを呈する床下土坑1が掘削された掘り方を有し、これを粘性やや弱く、西側で炭化物粒少量含む暗褐色土を0.08m以下の厚みで埋め戻して床面を造る。

[竈]竈は北壁やや東寄りに設けられ、その方位はN9°Wを向く。

竪穴の北壁面を跨いで、奥に径0.30×0.27m、深さ0.18mを測る楕円形プランの土坑状の掘り込みを伴う錠形様のプランを呈する掘り方を有し、これを粘性やや弱い黒褐色土と粘性やや強い黒褐色土で埋め戻して燃烧面を造る。

左右に焼土・炭化物粒を少量含む粘性やや強い黒褐色土で造られる袖が残る。

天井部の構造は確認できなかった。

[柱穴]柱穴は確認されなかった。

[貯蔵穴]貯蔵穴は確認されなかった。

[棟]棟方向は、竪穴の形状から推して略東西方向を向くものと想定される。また上屋構造の詳細は確認できなかった。

遺物 本建物からは土師器把手付椀(1・2)、須恵器の高台付椀(3)・甕(4・5)・羽釜(6)・瓶(7)が出土した。このほか天井石(8)や259片の土師器片や13片の須恵器片の出土も見た。

所見 本建物の時期は、出土遺物から推して10世紀前半の所産と判断される。

66号竪穴建物(第193～196図、PL.42・118)

概要 本建物は竈付の竪穴建物である。

位置 本建物はB1区北西部に在り、243～247-143～148グリッドに位置する。

重複 本建物は83号竪穴建物、63号土坑と重複するが、本建物の方が新しい。

規模 [竪穴]前後：3.32m 左右：3.98m
深さ：0.26m 床面積：11.77㎡

[竈] 長さ：1.33m 幅：0.98m

燃焼部 長さ：0.65m 幅：0.61m
深さ：0.03m

煙道 長さ：0.51m 幅：0.25m 高さ：0.14m

掘り方 長さ：1.02m 幅：1.02m
深さ：0.12m

[床下土坑1] 平面規模：0.59×0.52m 深さ：0.28m

[床下土坑2] 平面規模：0.86×0.60m 深さ：0.33m

[床下土坑3] 平面規模：0.90×0.75m 深さ：0.33m

[床下土坑4] 平面規模：1.08×0.76m 深さ：0.19m

[床下土坑5] 平面規模：0.59×0.58m 深さ：0.27m

[床下土坑6] 平面規模：0.92×(1.00)m
深さ：0.24m

[床下土坑7] 平面規模：0.76×0.63m 深さ：0.29m

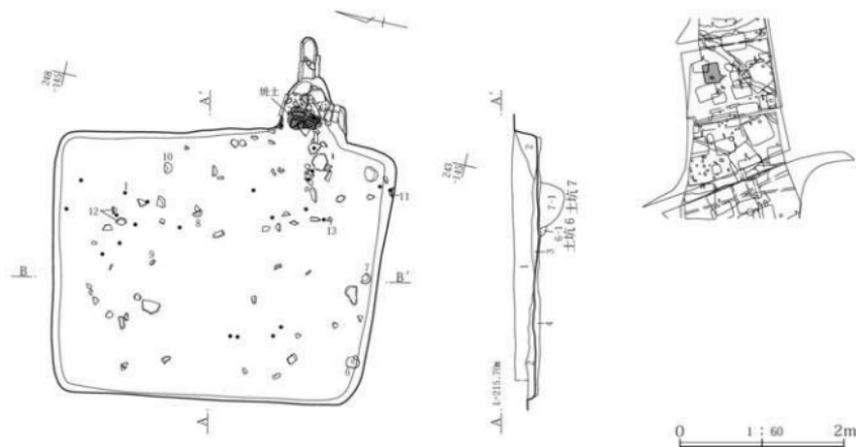
埋土 粗砂・小礫含む粘性の弱い暗褐色土等で埋没する。粘性やや弱い黒褐色土が所謂三角堆積を形成する。

構造 [竪穴]竪穴は横長の隅丸長方形のプランを呈し、主軸の向きはN13°Wを向く。

[掘り方・床]楕円形あるいは円形プランを呈する床下土坑1～7を含む11カ所の掘り込みを伴う掘り方を有し、これを粘性やや弱い黒褐色土で埋め戻して床面を造る。

[竈]竈は東壁南寄りに設けられ、その方位はN82°Eを向く。

東壁を跨いで、壁外に2/3が出る楕円形プランの掘



66号竪穴建物A-A'・B-B'

- 1 暗褐色土(10YR3/3)：粘性弱、しまり強。炭化粒微量、粗砂・小礫中量混じる
- 2 黒褐色土(10YR2/3)：粘性やや弱、しまり強。褐色土中～小ブロック少量、粗砂・小礫少量混じる
- 3 黒褐色土(10YR2/3)：粘性やや弱、しまりやや強。炭化粒・焼土粒微量、粗砂・小礫少量混じる
- 4 黒褐色土(10YR2/3)：粘性やや強、しまり強。粗砂・小礫少量混じる。粘床

第193図 66号竪穴建物(1)

りを有し、粘性やや弱く上半部に焼土ブロックと粗砂焼土粒、下半部に焼土粒と粗砂を共に少量含む暗褐色土で埋め戻して燃焼面を造る。燃焼面手前より焼土化が見られる。

袖は左右共に失われていたが、右側の燃焼部脇には袖の延長部と思われる構造が残される。ここには焼土少量含む粘性やや弱い黒褐色土が積まれ、この中には厚板状の礫が袖石状に建てられている。また左側の袖の基部と見られる位置に礫が建てられ、更に燃焼部の左の側面手前側に板状の礫が2枚が縦列に置かれている。

天井部の構造は明確ではないが、2層土(粗砂・小礫含むきめ細かく粘性やや強い黒褐色土)が天井構築材の可能性を有し、その下面付近には土器の設置に使用されたとも想定される礫が散見されている。

燃焼部奥壁の燃焼面から0.12mの高さから当初は水平に対して30°、0.20mの地点から3°に角度を減じて煙

道が掘削される。煙道の掘削形態は角柱状を呈する。煙道の先端は鋭角に立ち上がる。煙道の壁面には手前から板状の礫が壁に貼られるように遺されているが、左側は2枚が縦列に、右側は1枚が遺されている。

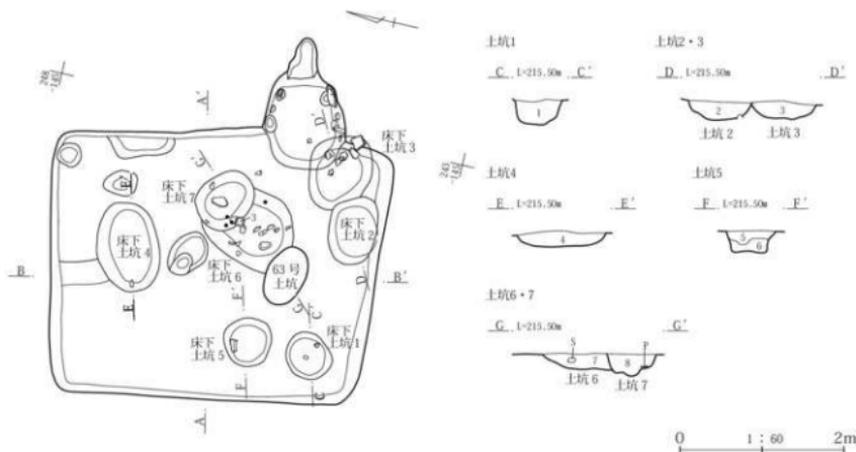
〔柱穴〕柱穴は確認されなかった。

〔貯蔵穴〕貯蔵穴も確認されず、床下土坑2・3にその可能性は考慮されるもの明確ではない。

〔棟〕竪穴の形状から、棟方向は略南北方向を向くものと想定される。また上屋構造の詳細は確認できなかった。

遺物 本建物からは、土師器の杯(1~3)、甕(4~6)、須恵器の杯(7~11)・高台付椀(12)・蓋(13)・甕(14)が出土した。このほか土師器片1,515片や須恵器片57片の出土も見えた。

所見 本建物の時期は、出土遺物から推して9世紀第3四半期の所産と判断される。

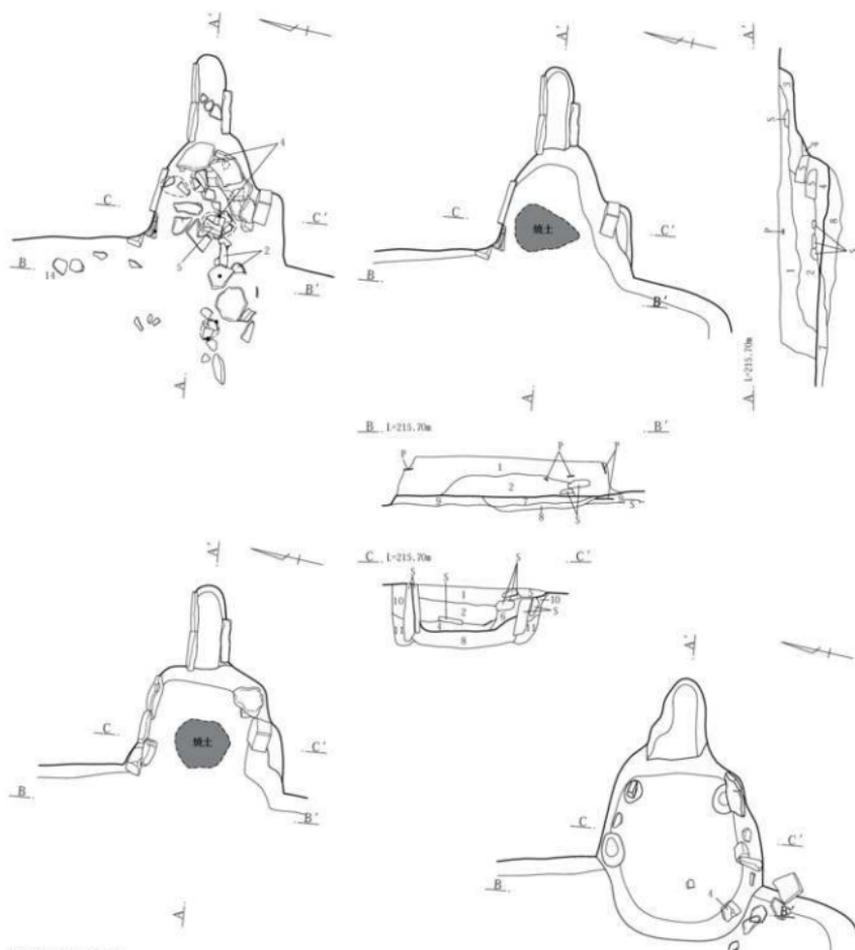


66号竪穴建物土坑1~土坑7

- 1 黒褐色土(10YR2/3)：粘性・しまりやや強。褐色土中～小ブロック中量、粗砂少量混じる。土坑1
- 2 暗褐色土(10YR3/3)：粘性・しまりやや強。焼土粒・炭化粒微量、粗砂少量混じる。土坑2
- 3 暗褐色土(10YR3/3)：粘性・しまり強。焼土粒・炭化粒・粗砂少量混じる。土坑3
- 4 黒褐色土(10YR2/3)：粘性・しまりやや強。褐色土大～小ブロック中量、粗砂少量混じる。土坑4

- 5 黒褐色土(10YR2/3)：粘性やや弱、しまりやや強。焼土粒・炭化粒少量混じる。土坑5
- 6 黒褐色土(10YR2/2)：粘性・しまりやや強。褐色土大～中ブロック中量、炭化物少量混じる。土坑5
- 7 暗褐色土(10YR3/3)：粘性やや強、しまりやや弱。焼土粒中量、粗砂少量混じる。土坑6
- 8 暗褐色土(10YR3/3)：粘性・しまりやや強。焼土小ブロック・焼土粒微量、粗砂少量混じる。土坑7

第194図 66号竪穴建物(2)

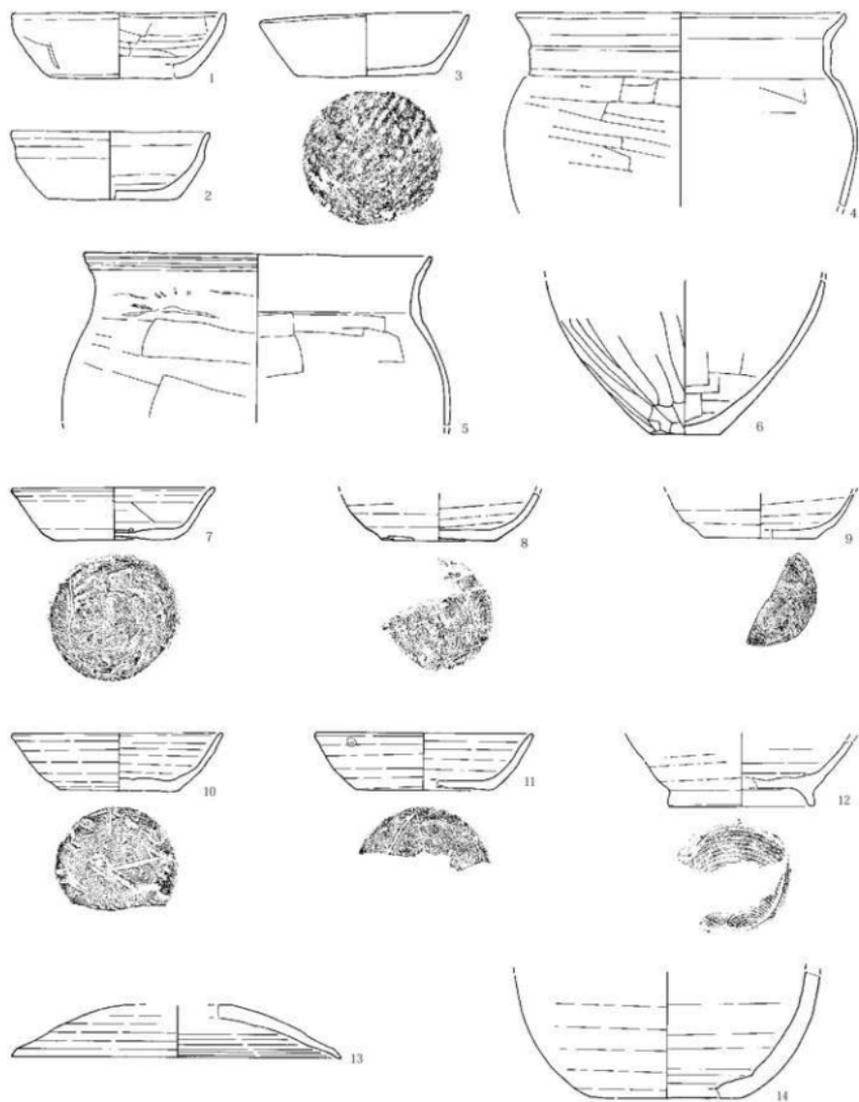


66号竪穴建物土坑圖

- 1 暗褐色土(10YR3/3)：粘性やや弱、しまり強。黄色粒・粗砂・小礫中量混じる
- 2 黒褐色土(10YR2/3)：キメ細かく粘性・しまりやや強。粗砂・小礫微量混じる
- 3 黒褐色土(10YR2/3)：粘性・しまりやや強。焼土小ブロック・焼土粒微量混じる
- 4 暗褐色土(10YR3/4)：粘性・しまりやや弱。焼土中〜小ブロック・焼土粒中量混じる
- 5 黒褐色土(10YR2/3)：粘性弱、しまり強。粗砂少量混じる
- 6 黒褐色土(10YR2/3)：粘性やや弱、しまりやや強。焼土小ブロック・焼土粒少量、粗砂微量混じる
- 7 暗褐色土(10YR3/4)：粘性やや弱、しまり強。焼土小ブロック少量、粗砂少量混じる
- 8 暗褐色土(10YR3/3)：粘性やや弱、しまりやや強。焼土粒微量、粗砂少量混じる
- 9 暗褐色土(10YR3/3)：粘性弱、しまり強。粗砂・小礫中量混じる
- 10 暗褐色土(10YR3/3)：粘性やや弱、しまりやや強。粗砂・小礫少量混じる
- 11 黒褐色土(10YR2/3)：粘性やや弱、しまり強。粗砂微量混じる

0 1 : 30 1m

第195図 66号竪穴建物竈



0 1 : 3 10cm

第196図 66号竪穴建物出土遺物

67号竪穴建物(第197図、PL.42)

概要 本建物は竪穴建物として調査し、報告するが、枺や竈は確認できなかったため、竪穴状遺構の可能性も有する。

なお、本建物は重複関係にある64・69・70号竪穴建物に対し、幅0.22mのトレンチ調査により新旧関係、建物の範囲を確定後掘削に着手している。

位置 本建物はB1区北部中程に在り、242～246-138～143グリッドに位置する。

重複 本建物は64・69・70号竪穴建物と重複するが、いづれに対しても本建物の方が新しい。

また北側壁際の断面観察から、径0.42mを測り建物と同じ深さの別遺構が本建物を切る可能性があるが、その存否を含め明確に確認することはできなかった。

規模 〔竪穴〕前後：3.44m 左右：3.96m

深さ：0.19m 床面積：11.72㎡

埋土 粘性弱く粗砂と礫含む暗褐色土で埋没する。南と西で粗砂・小礫少量含む粘性やや弱い暗褐色土が所謂三角堆積を形成する。

構造 〔竪穴〕本建物の竪穴は略東西に長い隅丸長方形のプランを呈する。主軸の向きはN82°Eを向く。

〔掘り方・床〕本建物に掘り方は確認されず、地床の構造であったものと判断される。

〔竈〕竈は確認されなかった。

〔柱穴〕柱穴は確認されなかった。

〔貯蔵穴〕貯蔵穴も確認されなかった。

〔棟〕棟方向は、竪穴の形状から略東西方向を向くものと思量されるものの、その上屋構造を詳らかにすることはできなかった。

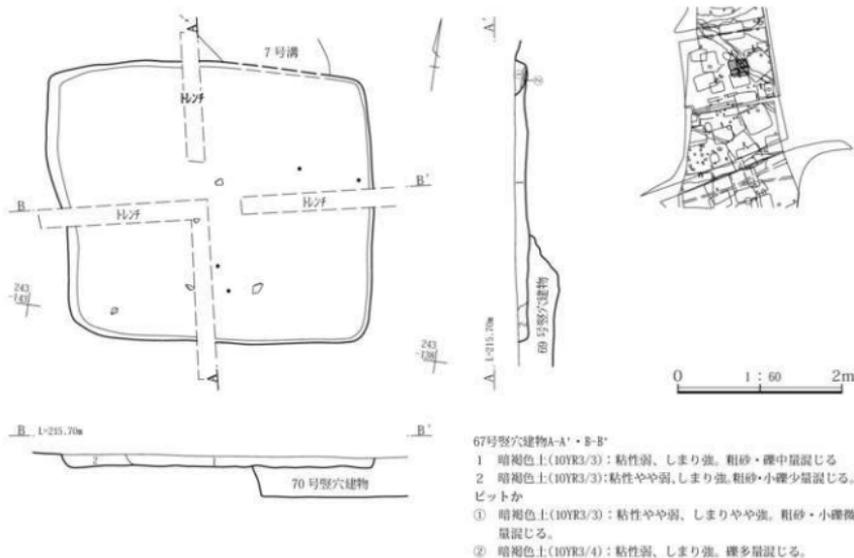
遺物 本建物からは土師器片25片が出土したが、図示すべきものは見られなかった。

所見 本建物の時期は、特定されなかった。

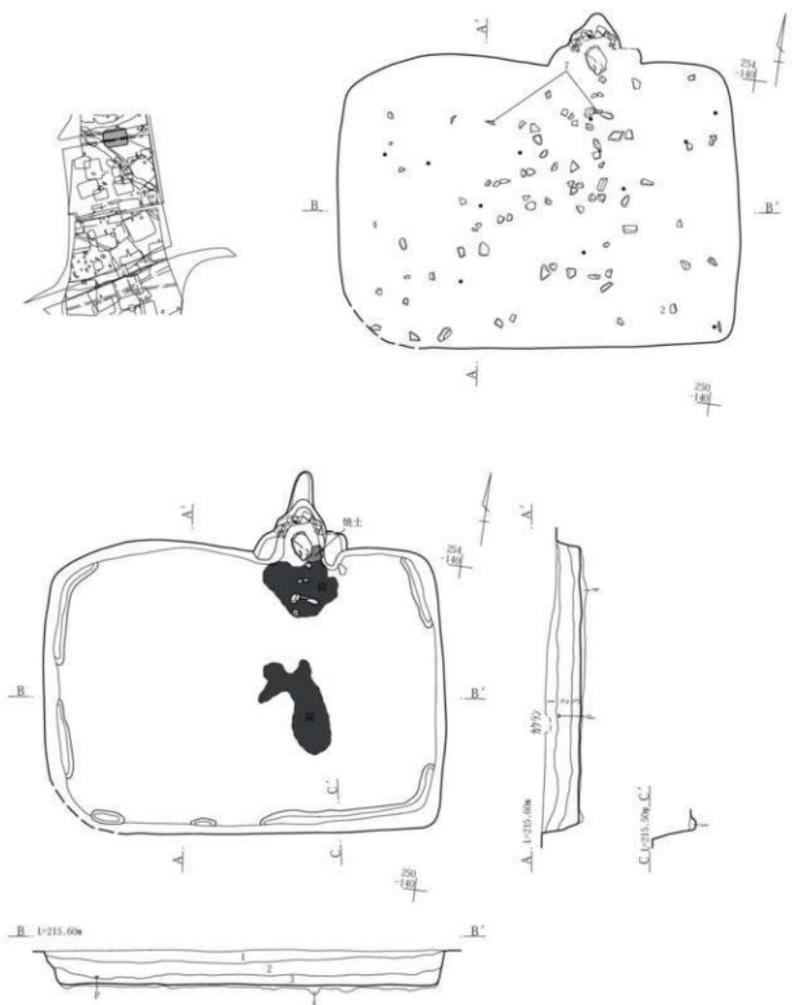
68号竪穴建物(第198～201図、PL.42・43・118)

概要 本建物は竈付の竪穴建物である。

位置 本建物はB1区北端からB2区南端の中央部に在るが、過半はB2区に所在する。250～254-139～144グリッドに位置する。



第197図 67号竪穴建物

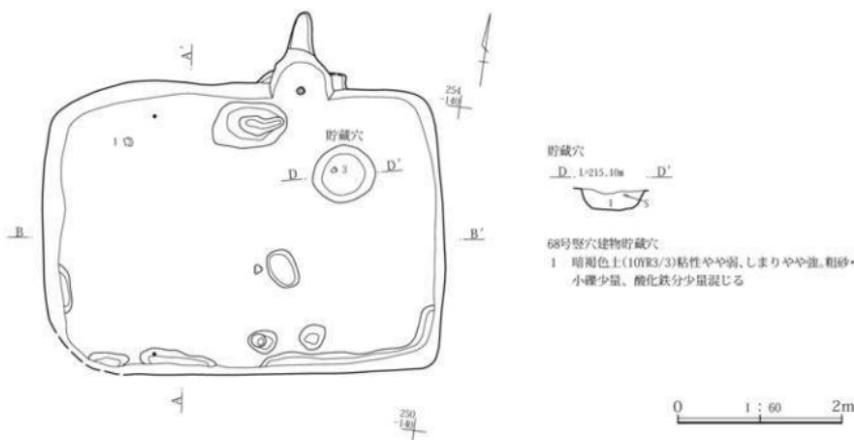


68号竪穴建物A-A' ~ C-C'

- 1 黒褐色土(10YR2/3)；粘性弱、しまり強。黄色粒少量、粗砂・礫多量混じる
- 2 暗褐色土(10YR3/3)；粘性弱、しまりやや強。粗砂・小礫中量混じる。酸化鉄分微量混じる
- 3 暗褐色土(10YR3/4)；粘性やや弱、しまりやや強。粗砂・小礫少量混じる。酸化鉄分少量混じる
- 4 暗褐色土(10YR3/4)；粘性やや弱、しまり強。粗砂・小礫・褐色土小ブロック少量混じる

0 1 : 60 2m

第198図 68号竪穴建物(1)



第199図 68号竪穴建物(2)

重複 本建物は6・7号溝と重複するが、いずれに対しても本建物の方が新しい。

規模 〔竪穴〕前後：3.60m 左右：4.89m
深さ：0.47m 床面積：14.42㎡

〔竈〕長さ：1.24m 幅：1.17m

左袖 長さ：0.51m 幅：0.37m 高さ：0.24m

右袖 長さ：0.47m 幅：0.29m 高さ：0.18m

燃焼部 長さ：0.62m 幅：0.45m
深さ：0.02m

煙道 長さ：0.34m 幅：0.35m 高さ：0.20m

掘り方 長さ：0.86m 幅：0.68m
深さ：0.06m

〔貯蔵穴〕平面規模：0.70×0.77m 深さ：0.28m

〔周溝1〕長さ：0.92m 幅：0.14m
深さ：0.03m

〔周溝2〕長さ：2.47m 幅：0.17m
深さ：0.09m

〔周溝3〕長さ：0.31m 幅：0.09m
深さ：0.03m

〔周溝4〕長さ：0.41m 幅：0.16m
深さ：0.07m

〔周溝5〕長さ：0.98m 幅：0.14m

深さ：0.05m

〔周溝6〕長さ：1.46m 幅：0.13m

深さ：0.04m

埋土 共に粘性弱く粗砂・礫多く含む黒褐色土と粗砂・小礫含む暗褐色土、粘性やや弱く粗砂・小礫少量含む暗褐色土で埋没する。所謂三角堆積は確認できなかった。

構造 〔竪穴〕竪穴は横長の隅丸長方形プランを呈し、主軸の向きはN82° Eを向く。

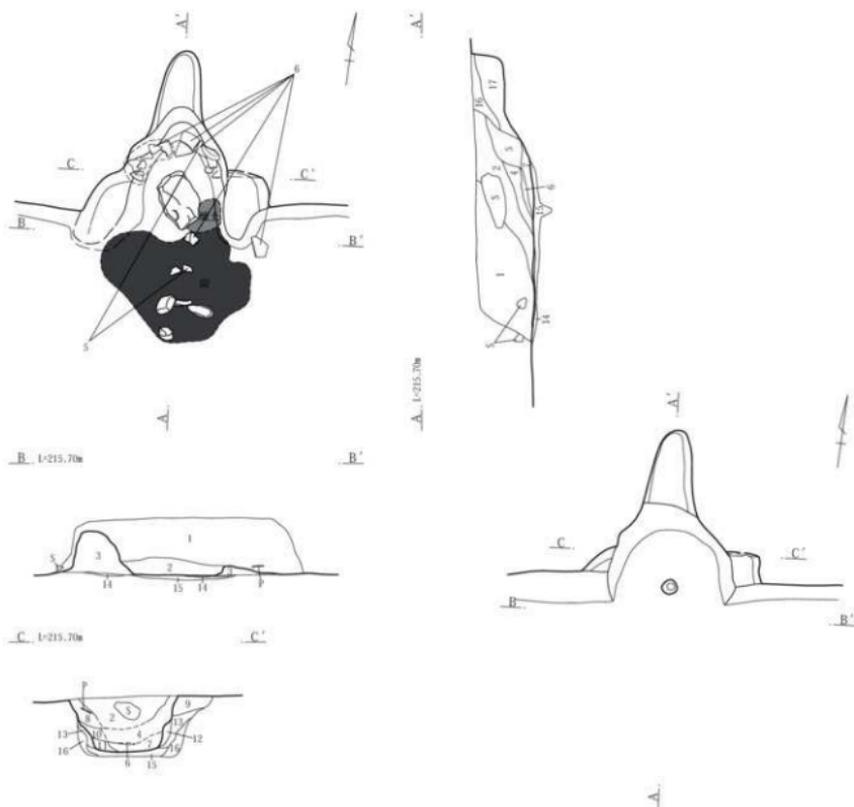
〔掘り方・床〕本建物は大小4カ所の土坑・ピット状で0.20mの深さの掘り込みを伴う掘り方を有し、これを粘性やや弱く粗砂・小礫・褐色土を少量含む暗褐色土で埋め戻して、床面を造る。

また竪穴の壁際には断続的に浅い周溝が廻っている。

〔竈〕竈は北壁中央の東寄りに設けられ、その方位はN6° Wを向く。

竪穴の北壁を跨ぎ、燃焼面手前側に径0.09×0.07m、深さ0.03mを測る隅丸台形プランの小孔を掘削する掘り方を有し、これを粗砂・焼土粒・炭化物粒を少量含む粘性やや強い褐色土で埋め戻して燃焼面を造る。

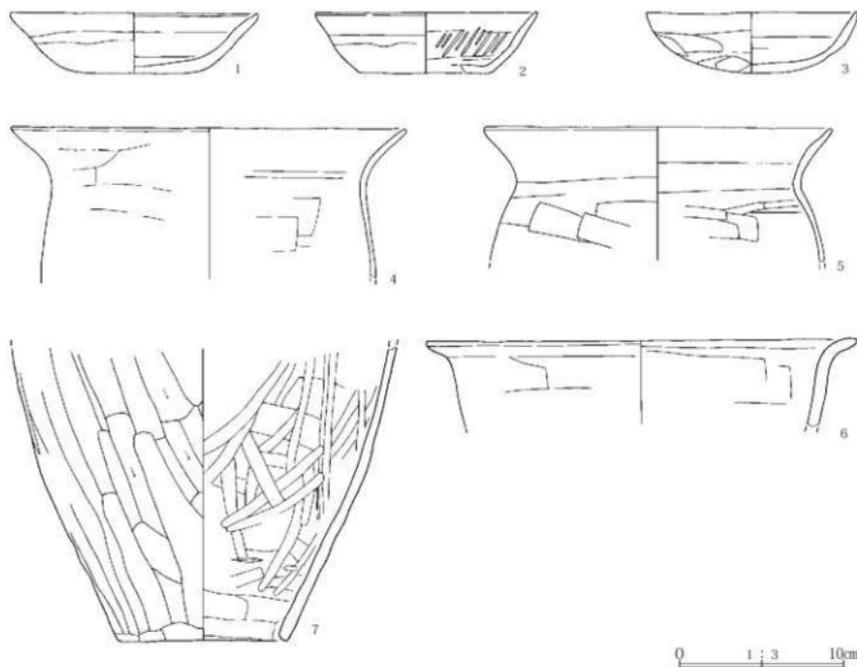
左右に袖は失われているが、竪穴の北壁を削り、共に粘性やや弱い、粗砂小礫含む暗褐色土、焼土化をして明褐色土、焼土と褐色土の混土で埋め戻して燃焼部の壁を



68号型穴建物遺

- 1 暗褐色土(10YR3/3)：粘性弱、しまり強。粗砂・小礫中量混じる
- 2 暗褐色土(10YR3/4)：粘性やや強、しまりやや弱。焼土粒・炭化粒・粗砂・小礫少量混じる
- 3 暗褐色土(10YR3/3)：粘性やや弱、しまり強。褐色土中へアブロック少量、粗砂・小礫少量混じる
- 4 暗褐色土(10YR3/3)：粘性やや弱、しまり弱。焼土小ブロック・焼土粒・炭化物少量混じる
- 5 にくい黄褐色土(10YR4/3)：粘性・しまりやや強。焼土粒・粗砂微量混じる
- 6 褐色土(7.5YR4/4)：焼土層。粘性・しまりやや弱
- 7 黒褐色土(10YR2/3)：粘性やや強、しまりやや弱。焼土粒・炭化粒微量混じる
- 8 暗褐色土(10YR2/3)：粘性やや弱、しまりやや強。粗砂・酸化鉄分微量混じる
- 9 暗褐色土(10YR3/4)：粘性やや弱、しまり強。粗砂・小礫中量、酸化鉄分少量混じる
- 10 暗褐色土(10YR3/3)：粘性・しまりやや強。焼土粒・粗砂少量混じる
- 11 暗褐色土(10YR3/3)：粘性・しまりやや強。炭化物微量混じる
- 12 赤褐色土(5YR4/8)：焼土層。粘性・しまりやや弱。暗褐色土小ブロック・粗砂少量混じる
- 13 暗褐色土(10YR3/4)：粘性やや弱、しまりやや強。焼土小ブロック・焼土粒少量、粗砂微量混じる
- 14 黒色土(10YR1.7/1)：炭化物層。粘性・しまりやや弱
- 15 褐色土(10YR4/4)：粘性やや強、しまり強。粗砂・酸化鉄分少量・焼土粒・炭化粒少量混じる
- 16 褐色土(10YR4/4)：粘性・しまりやや強。焼土と褐色土の混じる土
- 17 暗褐色土(10YR3/4)：粘性やや弱、しまり強。粗砂・小礫少量混じる

第200図 68号型穴建物遺



第201図 68号竪穴建物出土遺物

整形する。

竈の埋土は焼土を含むが、天井部の構造は詳らかにできなかった。

〔柱穴〕柱穴は確認されなかった。

〔貯蔵穴〕貯蔵穴は床面では確認できなかったが、掘り方面において竈手前の右(東)寄りに掘削された土坑がそれと認識される。

〔棟〕棟方向は、竪穴の形状から略東西方向を向くものと判断される。尚、天井部の構造は明らかにできなかった。

遺物 本建物からは土師器の杯(1~3)・甕(4~6)・甕(7)が出土している。このほか土師器片399片、須恵器片2片の出土を見ている。

所見 本建物の時期は、出土遺物から推して8世紀第3四半期の所産と判断される。

69号竪穴建物(第202~204図, PL.43・44・119)

概要 本建物は竈付の竪穴建物である。

位置 本建物はB1区中北部やや東寄り、240~244-138~142グリッドに位置する。

重複 本建物は67・70号竪穴建物と重複するが、67号竪穴建物に対しては本建物の方が古く、70号竪穴建物に対しては本建物の方が新しい。

規模 〔竪穴〕前後:2.80m 左右:3.68m

深さ:0.40m 床面積:8.66㎡

〔竈〕長さ:0.92m 幅:1.02m

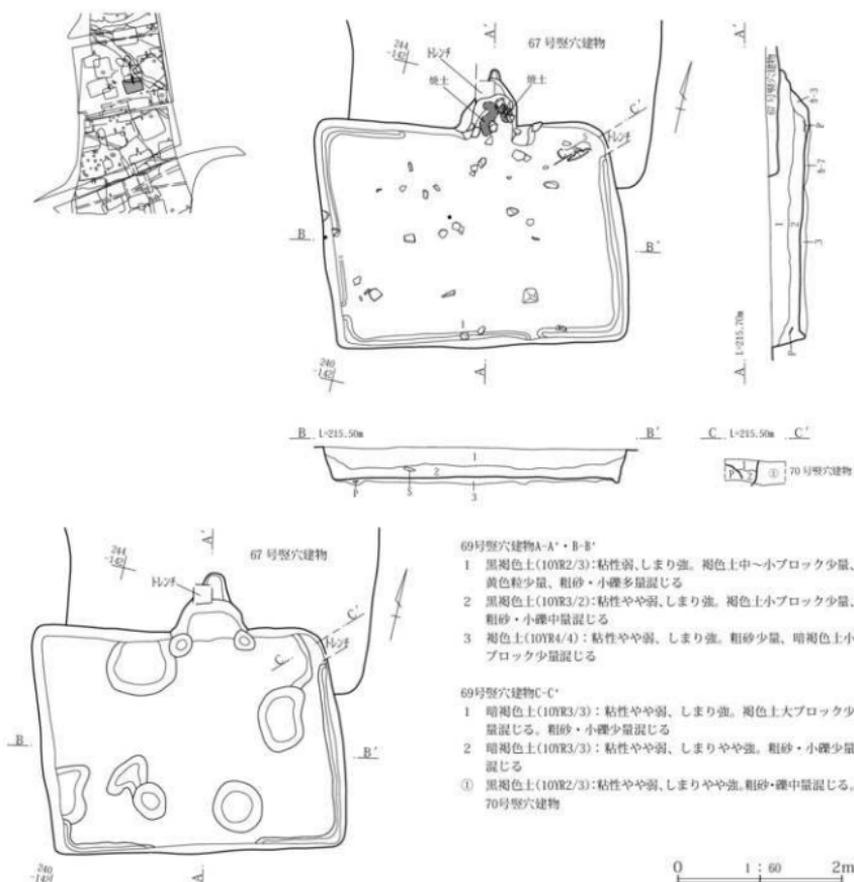
左袖 長さ:0.17m 幅:0.23m 高さ:0.31m

右袖 長さ:0.25m 幅:0.30m 高さ:0.36m

燃烧部 長さ:0.45m 幅:0.49m

深さ:0.06m

煙道 長さ:0.11m 幅:0.15m 高さ:0.09m



第202図 69号竪穴建物

掘り方 長さ：0.98m 幅：1.03m
深さ：0.09m

〔周溝1〕 長さ：3.15m 幅：0.12m
深さ：0.08m

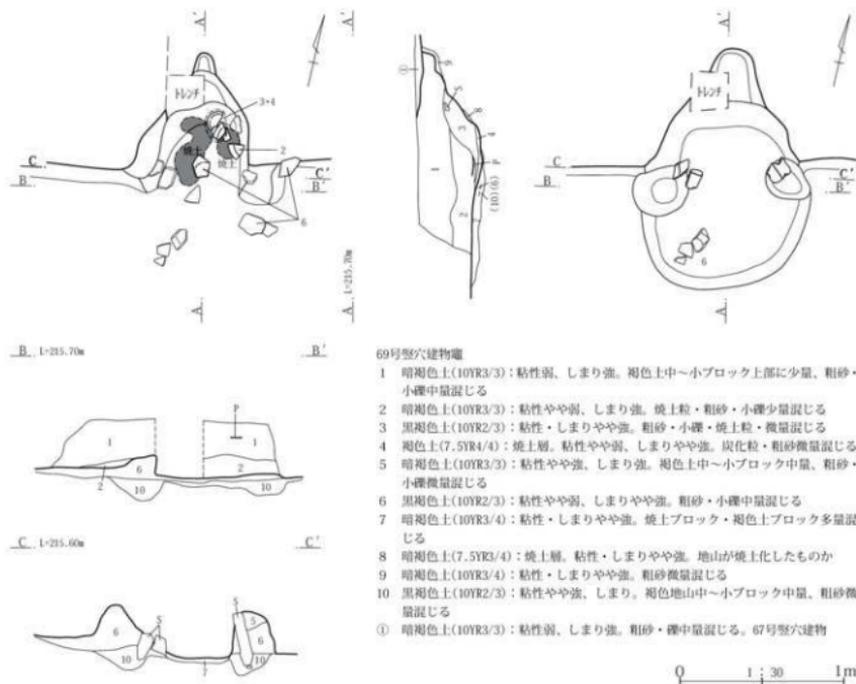
〔周溝2〕 長さ：2.51m 幅：0.10m
深さ：0.06m

〔周溝3〕 長さ：(0.56)m 幅：0.08m
深さ：0.04m

〔周溝4〕 長さ：2.25m 幅：0.10m
深さ：0.06m

埋土 粘性弱く少量の褐色土と粗砂・小礫多く含む黒褐色土と、粘性やや弱く粗砂・小礫含む黒褐色土等で埋没する。所謂三角堆積等は確認できなかった。

構造 〔竪穴〕竪穴は南西隅部がやや直角に近い横長の隅丸長方形プランを呈し、主軸の向きは $N77^{\circ} E$ を向く。
〔掘り方・床〕本建物は土坑状の掘り込みがやや多く見ら



第203図 69号竪穴建物竈

れる掘り方を有し、これを粘性やや弱く暗褐色土を少量含む褐色土で埋め戻して、床面を造る。

竪穴北東隅から竈を跨いで竈左側の範囲を除く竪穴の壁際に、浅い周溝が断続的に廻っている。

〔竈〕竈は北壁のやや東寄りに設けられ、その方位はN 8° Wを向く。

竪穴の壁面を0.40mほど跨ぐ位置に、隅丸台形に近い楕円形プランを呈する掘り方が掘削される。この掘り方の竪穴の壁手前の左側には径0.34×0.28m、深さ0.13mを測る隅丸台形プランの掘り込み、右側には径0.29×0.23m、深さ0.11mを測る掘り込みがそれぞれ掘削される掘り方を有し、これを粘性やや強い焼土や褐色土を含む暗褐色土で埋め戻して燃焼面を造る。燃焼面には焼土面の分布が見られる。

左右に袖が残るが、上述の左右の小孔に板状の礫を立

て、粘性やや強い褐色地山層土で埋め戻して袖石を設置する。この袖石の外側を中心に粘性やや弱く粗砂・小礫を含む黒褐色土を積み、右袖では更に粘性やや強い褐色土含む暗褐色土を載せて袖を造る。

天井部の構造は確認できなかった。

〔柱穴〕柱穴は確認されなかった。

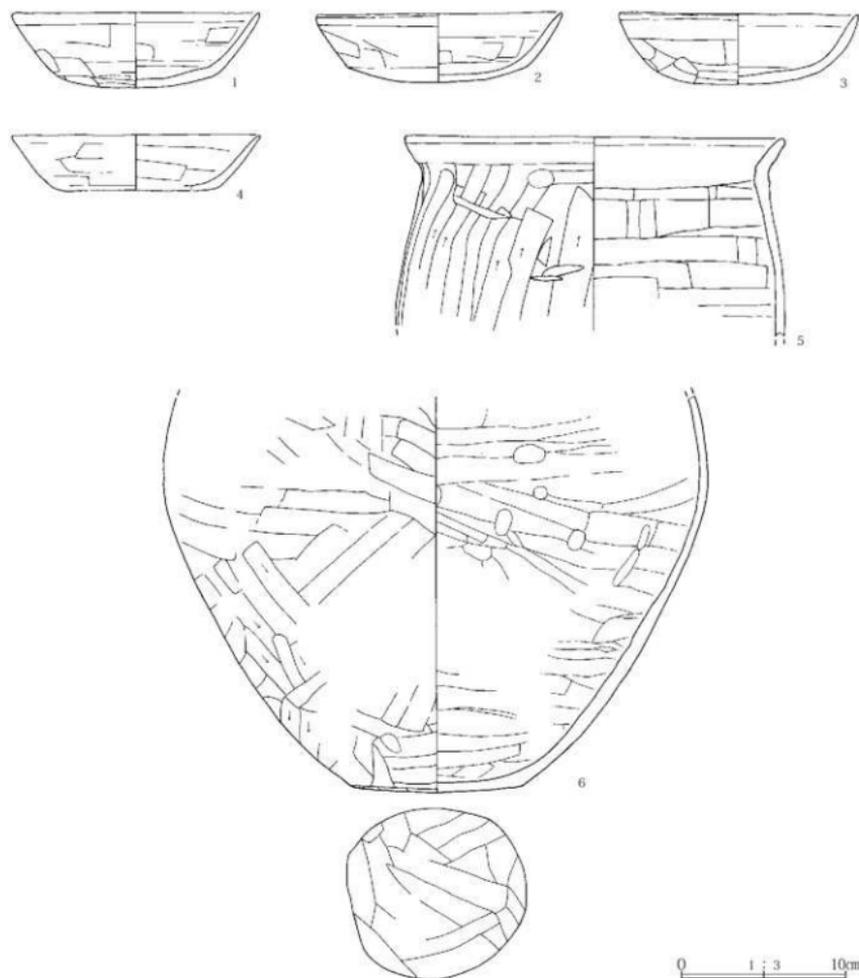
〔貯蔵穴〕貯蔵穴は確認されなかった。

〔棟〕棟方向は、竪穴の形状から推して、東北東—西西南方向を向くものと想定される。

なお、上屋構造の詳細は確認できなかった。

遺物 本建物からは土師器の杯(1~4)と甕(5・6)が出土した。このほか253片の土師器片と1片の須恵器片の出土を見た。

所見 本建物の時期は、出土遺物から推して、8世紀前半の所産と判断される。



第204図 69号竪穴建物出土遺物

70号竪穴建物(第205～208図、PL.44・119)

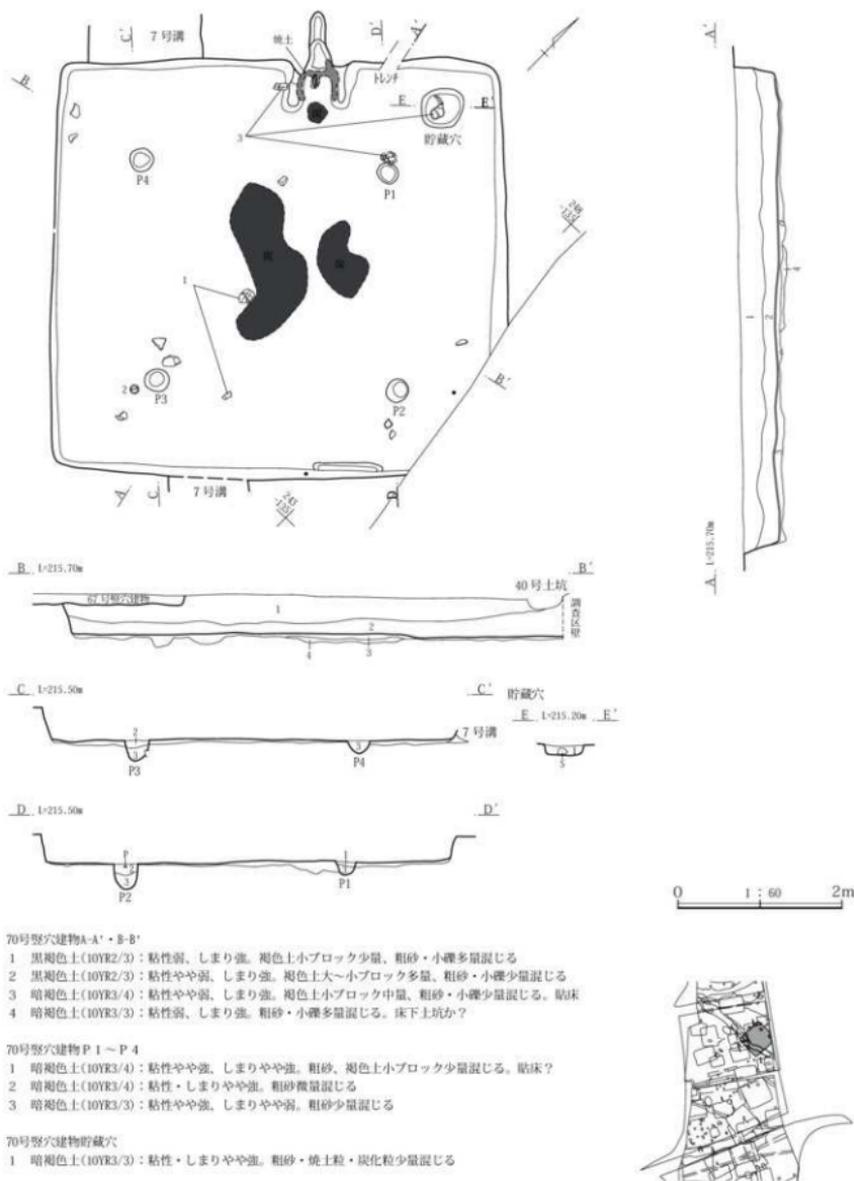
概要 本建物は竪付の竪穴建物である。東四隅は調査区外に出るため、全容を把握することはできなかった。

また炭化物の分布から、本建物は焼失家屋の可能性を有する。

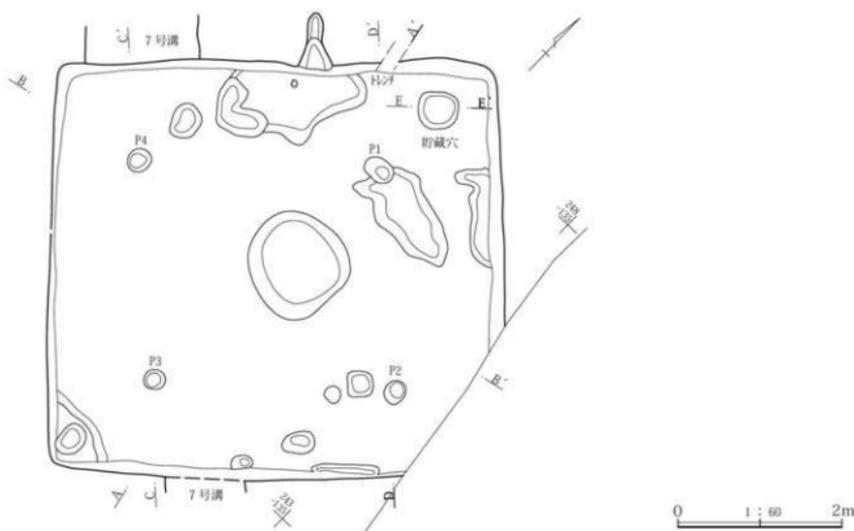
位置 本建物はB1区北東部の調査区東壁際に在り、241～248-134～140グリッドに位置する。

重複 本建物は67・69号竪穴建物と重複するが、共に本建物の方が古い。

規模 [竪穴]前後：5.14m 左右：5.57m



第205図 70号竪穴建物(1)



第206図 70号竪穴建物(2)

深さ：0.45m 床面積：(25.11) m²

[竈] 長さ：1.23m 幅：0.93m

左袖 長さ：0.61m 幅：0.30m 高さ：0.28m

右袖 長さ：0.59m 幅：0.34m 高さ：0.30m

燃焼部 長さ：0.49m 幅：0.35m

深さ：0.03m

煙道 長さ：0.69m 幅：0.32m 高さ：0.08m

掘り方 長さ：0.87m 幅：1.79m

深さ：0.11m

[貯蔵穴] 平面規模：0.45×0.51m 深さ：0.14m

[P 1] 平面規模：0.26×0.24m 深さ：0.14m

[P 2] 平面規模：0.28×0.26m 深さ：0.33m

[P 3] 平面規模：0.27×0.29m 深さ：0.28m

[P 4] 平面規模：0.28×0.28m 深さ：0.15m

[周溝] 長さ：0.85m 幅：0.11m

深さ：0.08m

埋土 共に粘性弱く粗砂・小礫多く含む黒褐色土と粗砂・小礫含む暗褐色土、および粘性やや弱く粗砂・小礫少量含む暗褐色土で埋没する。所謂三角堆積等は確認できなかった。

構造 [竪穴]竪穴は隅部が直角に近い横長の隅丸長方形のプランを呈し、主軸の向きはN46° Eを向く。

[掘り方・床]本建物は深さ0.10m程のものを中心とする、大小の土坑・ピット状の掘り込みを伴う掘り方を有し、これを粘性やや弱い粗砂・小礫・褐色土を少量含む暗褐色土で全体に0.06m以下の厚みで埋め戻して床面を造る。

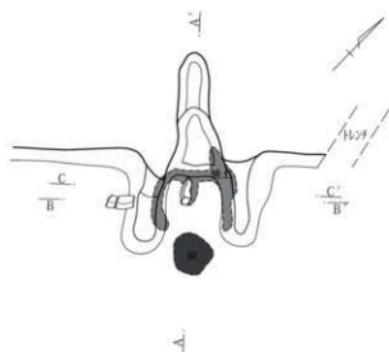
[竈]竈は北西壁のやや東寄りに設けられ、その方位はN41° Wを向く。

竪穴の北西壁手前に、隅丸の逆凸字状を呈する大型の掘り方を有し、これを共に粘性のやや弱い粗砂・褐色土少量含む暗褐色土と褐色土と少量の粗砂・小礫を含む暗褐色土で埋め戻して燃焼面を造る。

左右に袖が残るが、袖は粗砂少量含む褐色粘質土で造られるが、燃焼部に面した側は粘性やや強く焼土ブロック多く含む褐色土で構築され、側壁を中心に焼土面の形成が見られる。

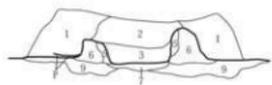
天井部の構造は確認できなかった。

[柱穴]柱穴は確認されなかった。床面にはP 1(北)・P 2(東)・P 3(南)・P 4(西)の4基の柱穴が掘削されて



B_ 1.215.50m

B'



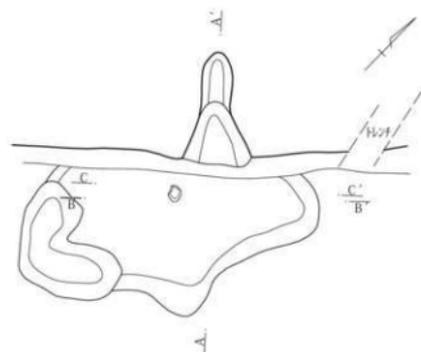
C_ 1.215.50m

C'



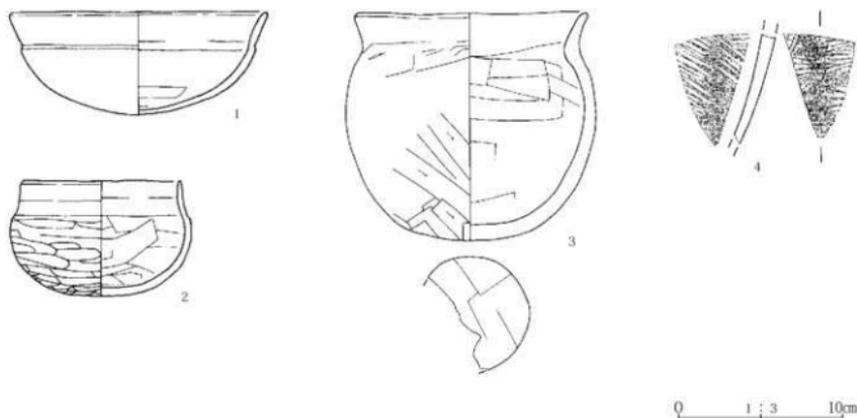
70号竪穴建物

- 1 暗褐色土(10YR3/3)：粘性やや弱、しまりやや強。粗砂・小礫少量混じる
- 2 暗褐色土(10YR3/4)：粘性・しまりやや強。粗砂微量、黒褐色小ブロック少量混じる
- 3 黒褐色土(10YR2/3)：粘性やや強、しまりやや弱。焼土小ブロック・焼土粒少量混じる
- 4 暗褐色土(10YR3/4)：粘性・しまりやや強。焼土粒・焼土細粒中量混じる。粗砂少量混じる
- 5 暗褐色土(10YR3/3)：粘性・しまりやや強。焼土小ブロック多量混じる
- 6 褐色土(10YR4/4)：粘質土主体。粘性・しまりやや強。粗砂少量混じる。カマド跡
- 7 暗褐色土(10YR3/3)：粘性やや弱、しまりやや強。粗砂・小礫少量、褐色土小ブロック少量混じる
- 8 暗褐色土(10YR3/3)：粘性・しまりやや強。焼土小ブロック・焼土粒少量混じる
- 9 暗褐色土(10YR3/4)：粘性やや弱、しまり強。褐色土小ブロック中量、粗砂・小礫少量混じる。貼床



0 1 : 30 1m

第207図 70号竪穴建物



第208図 70号竪穴建物出土遺物

いる。柱穴はいずれも円形に近い隅丸方形のプランを呈する。しかしいずれの柱穴も径が0.30m以下と、径0.40m以上測る古代の柱穴に比べて小さいことから、あるいは柱痕そのものの可能性が考慮される。

柱間は、P1・2間は2.64m、P2・3間は2.98m、P3・4間は2.65m、P1・4間は3.02mを測る。その距離から推してP2・3、P1・4間は桁間、P1・2、P3・4間は梁間と判断される。また、桁間は平均3.00m、梁間は平均2.645mを測り、それぞれ2カ所の桁間、梁間の距離の差も0.04mと0.01mと小さいものであった。

〔貯蔵穴〕貯蔵穴は竈の右側竪穴の北隅近くに設けられる。その掘削位置は北西壁から0.23m、北東壁から0.37m隔てた位置に在る。そのプランは隅丸方形を呈し、掘削形態は箱形を呈する。

〔棟〕棟方向は、竪穴の形状と、柱の掘削位置から推して、北東―南西方向と判断される。

上屋構造の詳細は確認できなかったが、竪穴中央付近に上屋根と思量される炭化物の分布域が確認されている。なお、竈手前の炭化物の小さな分布は竈からの掃き出しによるものか、上屋の燃焼したものかは特定できない。

遺物 本建物からは土師器の杯(1)と小型甕(2・3)、および須恵器甕(4)が出土した。このほか241片の土師器片と須恵器片1片の出土を見た。

また上述のように竪穴中央部の床面と竈手前に炭化物の分布が見られた。

所見 本建物の時期は、出土遺物から推して6世紀後半の所産と判断される。

71号竪穴建物(第209・210図、PL.44・45・119)

概要 本建物は竈付の竪穴建物である。建物の東側は調査区外に出るため、全容は把握できなかった。

位置 本建物はB1区中部の調査区東壁際に在り、238～242-133～135グリッドに位置する。

重複 本建物は73号竪穴建物と重複するが、本建物の方が新しい。また51号土坑、139・140号ピットとも重複するが、51号土坑と140号ピットに対しては本建物が切られるが、139号ピットとの新旧関係は特定できなかった。

規模 〔竪穴〕前後：2.87m 左右：(1.67)m

深さ：0.33m 床面積：(4.15)㎡

〔竈〕長さ：0.77m 幅：(1.02)m

左袖 長さ：0.16m 幅：0.45m 高さ：0.09m

燃焼部 長さ：0.70m 幅：0.55m

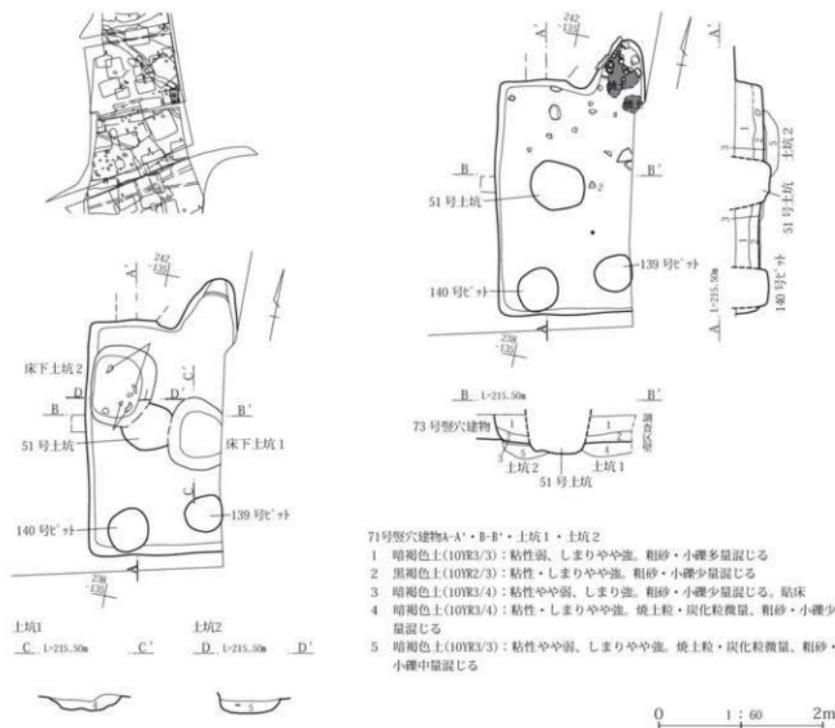
深さ：-m

掘り方 長さ：1.00m 幅：(0.67)m

深さ：0.03m

〔床下土坑1〕平面規模：0.88×(0.64)m

深さ：0.20m



第209図 71号竪穴建物

〔床下土坑2〕 平面規模：0.99×0.77m 深さ：0.23m
埋土 粘性弱く粗砂・小礫多く含む暗褐色土と粘性やや強く粗砂・小礫少量含む黒褐色土で埋没する。所謂三角堆積等は確認できなかった。

構造 〔竪穴〕竪穴は南西隅部が隅丸を呈する方形あるいは長方形のプランを呈し、主軸の向きはN79° Eを向く。〔掘り方・床〕本建物は竪穴中央に隅丸三角形のプランを呈すると思される床下土坑1と、北寄り西壁際に掘削される隅丸長方形プランを呈する床下土坑2の2基の土坑が掘削される、厚さ0.04m以下の深さを呈する掘り方を有する。この掘り方を粘性やや弱く粗砂を少量含む暗褐色土で埋め戻して、床面を造っている。

〔竈〕竈は北壁に設けられ、その方位はN10° Eを向く。竈は竪穴の北壁を削り込んで掘削される略楕円形プラ

ンを呈する掘り方を有し、これを粘性やや強く焼土や炭化物を少量含む黒褐色土で埋め戻して燃焼面を造る。

左袖の痕跡は残るが、右袖は調査区外に出るため構造は確認できない。左袖は粘性やや弱く焼土・炭化物粒を少量含む。

天井部の構造は確認できなかった。

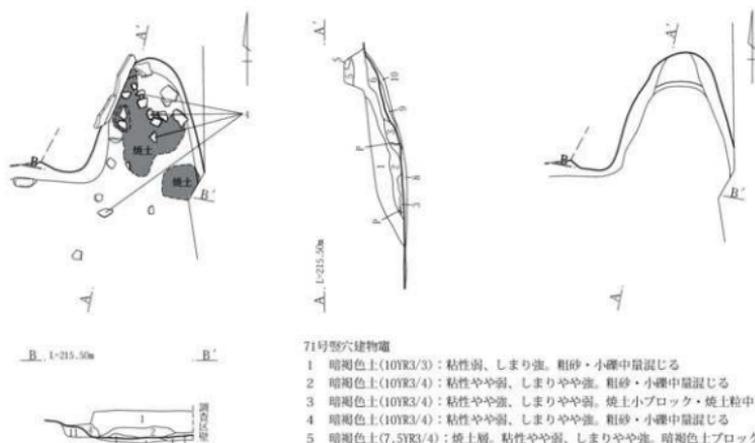
〔柱穴〕柱穴は確認されなかった。

〔貯蔵穴〕貯蔵穴は確認されなかった。

〔棟〕棟方向は特定できず、上屋構造も確認できなかった。

遺物 本建物からは土師器の杯(1~3)と甕(4・5)や刀子(6)が出土したほか、土師器片200片の出土を見た。

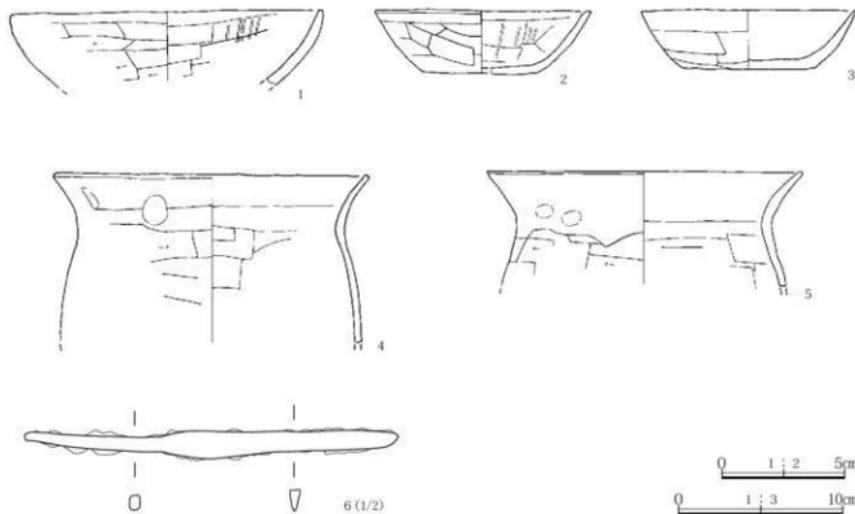
所見 本建物の時期は、出土遺物から推して8世紀前半の所産と判断される。



71号竪穴建物竪

- 1 暗褐色上(10YR3/3)：粘性弱、しまり強。粗砂・小礫中量混じる
- 2 暗褐色上(10YR3/4)：粘性やや弱、しまりやや強。粗砂・小礫中量混じる
- 3 暗褐色上(10YR3/4)：粘性やや強、しまりやや弱。焼土小ブロック・焼土粒中量混じる
- 4 暗褐色上(10YR3/4)：粘性やや弱、しまりやや強。粗砂・小礫中量混じる
- 5 暗褐色上(7.5YR3/4)：焼土層。粘性やや弱、しまりやや強。暗褐色上ブロック多量混じる
- 6 暗褐色上(10YR3/4)：粘性・しまりやや弱。焼土小ブロック・焼土粒・炭化粒少量混じる
- 7 黒褐色上(10YR2/3)：粘性・しまりやや強。焼土中ブロック・炭化物少量混じる
- 8 黒褐色上(10YR2/2)：粘性・しまりやや強。焼土細小ブロック・焼土粒・炭化粒少量混じる
- 9 明褐色上(7.5YR5/6)：焼土層。粘性弱、しまり強。暗褐色上小ブロック少量混じる
- 10 暗褐色上(10YR3/3)：粘性やや弱、しまりやや強。粗砂極微量混じる
- 11 暗褐色上(10YR3/4)：粘性やや弱、しまりやや強。焼土粒・炭化粒・粗砂少量混じる

0 1 : 30 1m



第210図 71号竪穴建物竪と出土遺物

72号竪穴建物(第211・212図、PL.45・120)

概要 本建物は形状・規模から推して、竪穴建物と認識し、調査した。本建物は、その西側が調査区外に出るため、全容は把握できなかった。また本建物ではがや竈を確認できなかったことから、竪穴状遺構の可能性も考慮される。

位置 本建物はB2区南部北寄りの西側調査区際内に在り、259～262-147～149グリッドに位置する。

重複 本建物は単独で在り、他遺構との重複は見られなかった。

規模 [竪穴]前後：2.90m 左右：(1.77)m
深さ：0.31m 床面積：(3.75)㎡

埋土 粘性弱く粗砂・小礫含む暗褐色土と粘性やや弱く粗砂・小礫含む黒褐色土で埋没する。なおいわゆる三角堆積等は確認できなかった。

構造 [竪穴]上述のように本建物は部分的な調査に留まるため、全容は確認できないが、建物の竪穴は方形また

は長方形に近い隅丸方形または隅丸長方形のプランを呈するものと想定される。主軸の向きはN83°Eを向く。

[掘り方・床]本建物は壁面から0.15～1.00m以上の範囲で掘り残しを設け、中央部に深さ0.21m以下の土坑、ピット状の掘り込みを含む、深さ0.12m以下の掘り込みの有る掘り方を有し、これを粘性やや弱く粗砂粒含む赤褐色土で埋め戻して、床面を造る。

[炉・竈]が・竈は確認されなかった。

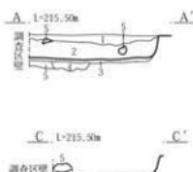
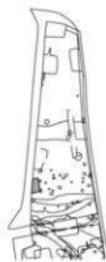
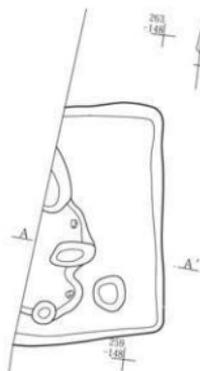
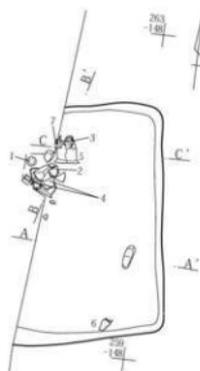
[柱穴]柱穴は確認されなかった。

[貯蔵穴]貯蔵穴は確認されなかった。

[棟]棟方向も推定できず、上屋構造も確認できなかった。

遺物 本建物からは土師器の杯(1～3)と甕(4・5)と甕(6)・小型甕(7)が出土したほか、土師器片24片の出土を見た。

所見 本建物の時期は、出土遺物から推して6世紀後半の所産と判断される。

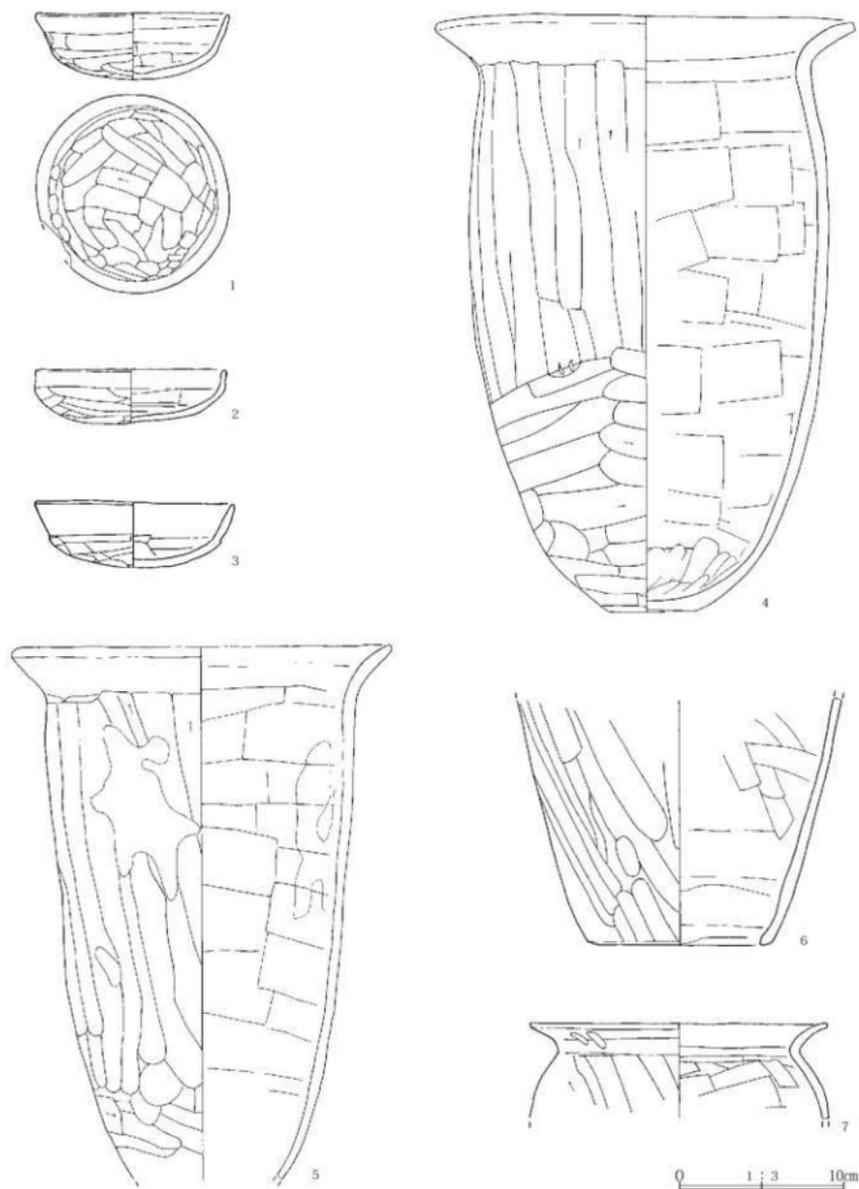


72号竪穴建物A-A'

- 1 暗褐色土(10YR3/3)：粘性弱、しまり強。粗砂・小礫中量混じる
- 2 黒褐色土(10YR2/3)：粘性やや弱、しまりやや強。粗砂・小礫中量混じる
- 3 暗褐色土(10YR3/4)：粘性やや弱、しまり強。粗砂中量混じる。粘床
- 4 黒褐色土(10YR2/3)：粘性やや弱、しまりやや強。粗砂微量混じる。床下土坑か?
- 5 暗褐色土(10YR3/4)：粘性やや弱、しまりやや強。粗砂微量混じる。黒褐色土小ブロック少量混じる

0 1 : 60 2m

第211図 72号竪穴建物



第212図 72号竪穴建物出土遺物

73号竪穴建物(第213図、PL.45・119)

概要 本建物は形状・規模から推して、竪穴建物と認識、調査した。本建物は、その東側が71号竪穴建物に切れ、調査区の東壁近くに在るため、全容は把握できなかった。また本建物も¹や²を確認できなかったことから、竪穴状遺構の可能性も残される。

位置 本建物はB1区中部の調査区東壁近くに在り、238～241-135～137グリッドに位置する。

重複 本建物は71号竪穴建物と重複するが、本建物の方が古い。

規模 (竪穴)前後：2.65m 左右：(1.55)m
深さ：0.29m 床面積：(3.60)㎡

埋土 粘性弱く粗砂・小礫多く含む暗褐色土で埋没する。また西壁と南壁際で、粘性やや弱く粗砂・小礫を少量含む暗褐色土でいわゆる三角堆積が形成される。

構造 (竪穴)竪穴は隅丸方形ないし隅丸長方形のプランを呈し、主軸の向きはN80°Eを向く。

[掘り方・床]本建物に掘り方は無確認されず、地床の構造を呈するものと判断される。

[竪]竪は確認されなかった。

[柱穴]柱穴は確認されなかった。

[貯蔵穴]貯蔵穴も確認されなかった。

[棟]棟方向も推定できず、上屋構造も確認されなかった。

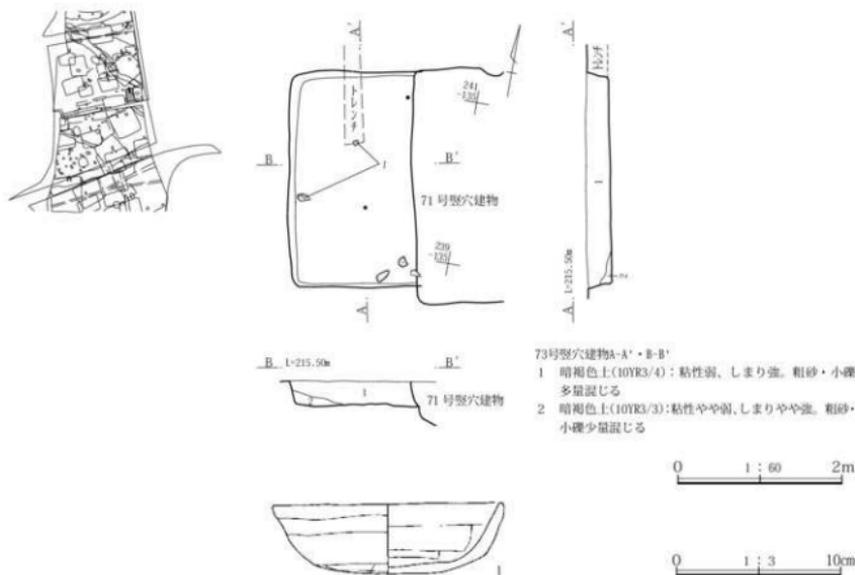
遺物 本建物からは土師器杯(1)と土師器片27片が出土した。

所見 本建物の時期は、出土遺物から推して、8世紀前半の所産と判断される。

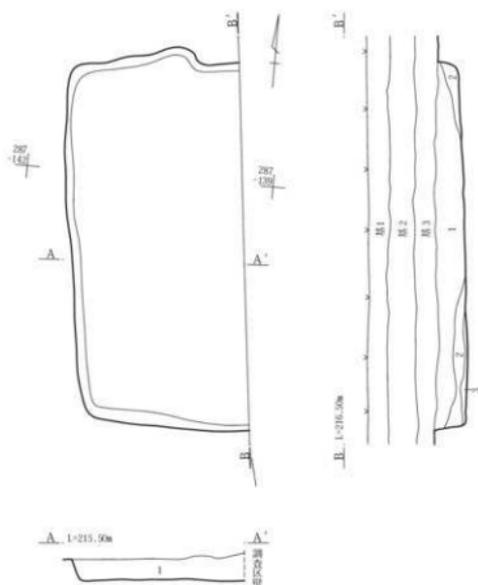
74号竪穴建物(第214図、PL.45)

概要 本建物も形状・規模から推して、竪穴建物と認識、調査した。本建物は東側が調査区外に在り、西部を調査したに過ぎないものと思量される。また¹や²を確認されないため、竪穴状遺構の可能性も考慮される。

位置 本建物はB2区北部の調査区東壁を跨いで在り、



第213図 73号竪穴建物と出土遺物



第214図 74号竪穴建物

283～288-139～141グリッドに位置する。

重複 本建物は単独で在り、他遺構との重複はなかった。

規模 〔竪穴〕前後：4.67m 左右：(2.20)m

深さ：0.41m 床面積：(8.56) m²

埋土 粘性やや弱く粗砂・小礫多く含む黒褐色土で埋没する。また南北壁際で、粘性やや弱く粗砂・小礫と少量の炭化物を含む黒褐色土と南壁際ではその下に粘性やや弱く粗砂・小礫を少量含む黒褐色土でいわゆる三角堆積が形成される。南壁際のものはやや崩れている。

構造 〔竪穴〕竪穴は隅丸方形ないし隅丸長方形のプランを呈し、主軸の向きはN85°Eを向く。

〔掘り方・床〕本建物も掘り方は確認されず、地床構造を呈するものと判断される。

〔竈〕竈は確認されなかった。

〔柱穴〕柱穴は確認されなかった。

〔貯蔵穴〕貯蔵穴も確認されなかった。

〔棟〕棟方向も推定できず、上屋構造も確認されなかった。

耕作土

基1 暗褐色土(10YR3/4)

基2 にふい・黄褐色土(10YR4/3)：粗砂・小礫少量混じる

基3 暗褐色土(10YR3/3)：粘性やや弱、しまりやや強、粗砂・小礫中量混じる

74号竪穴建物A-A'・B-B'

1 黒褐色土(10YR2/3)：粘性やや弱、しまりやや強、粗砂・小礫多量混じる

2 黒褐色土(10YR2/2)：粘性・しまりやや弱、炭化物少量、粗砂・小礫中量混じる

3 黒褐色土(10YR2/2)：粘性やや弱、しまりやや強、粗砂・小礫少量混じる。

0 1 : 60 2m

遺物 本建物からは土師器片16片が出土したが、図示すべきものは見られなかった。

所見 本建物の時期は特定できなかった。

75号竪穴建物(第215～217図, PL.46・119)

概要 本建物は離付の竪穴建物である。建物の西側が調査区外に出るため、全容は把握できなかった。

位置 本建物はB2区北部の調査区西壁際に在り、283～288-144～147グリッドに位置する。

重複 本建物は単独で在り、他遺構との重複は見られなかった。

規模 〔竪穴〕前後：3.79m 左右：(2.90)m

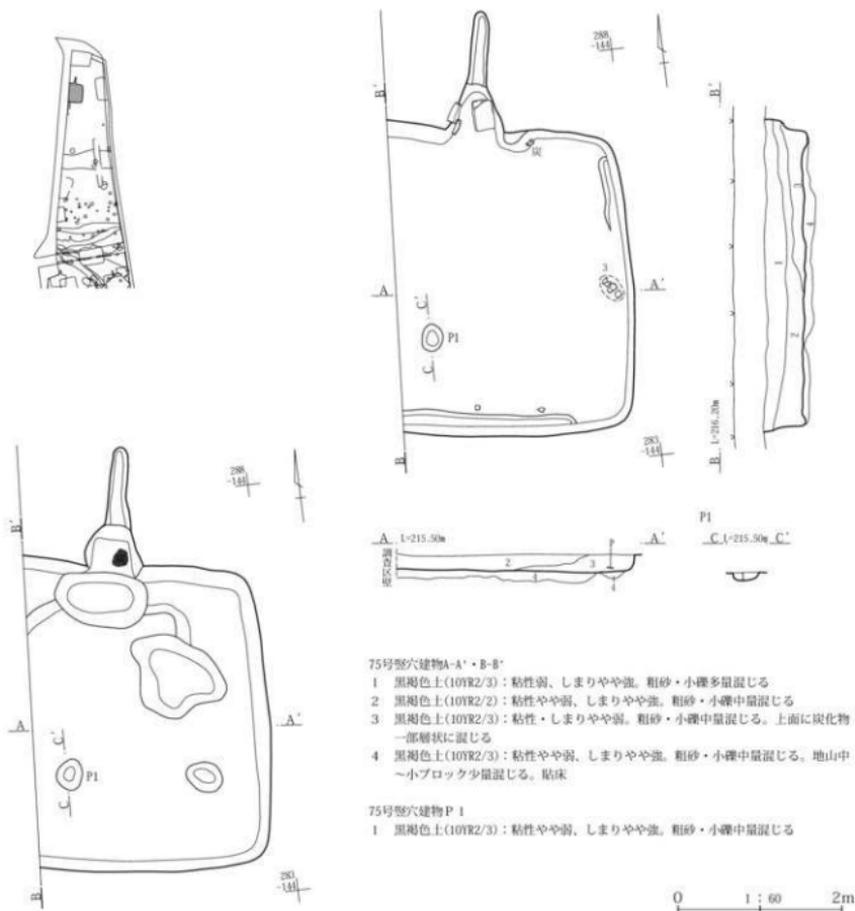
深さ：0.32m 床面積：(9.46) m²

〔竈〕長さ：1.68m 幅：1.10m

右袖 長さ：0.30m 幅：0.47m 高さ：0.27m

燃焼部 長さ：0.64m 幅：0.45m

深さ：0.02m



75号竪穴建物A-A'・B-B'

- 1 黒褐色土(10YR2/3)：粘性弱、しまりやや強。粗砂・小礫多量混じる
- 2 黒褐色土(10YR2/2)：粘性やや弱、しまりやや強。粗砂・小礫中量混じる
- 3 黒褐色土(10YR2/3)：粘性・しまりやや弱。粗砂・小礫中量混じる。上面に炭化物一部層状に混じる
- 4 黒褐色土(10YR2/3)：粘性やや弱、しまりやや強。粗砂・小礫中量混じる。地山中～小ブロック少量混じる。粘床

75号竪穴建物P1

- 1 黒褐色土(10YR2/3)：粘性やや弱、しまりやや強。粗砂・小礫中量混じる

第215図 75号竪穴建物

煙道 長さ：0.88m 幅：0.24m 高さ：0.05m

掘り方 長さ：0.67m 幅：1.13m

深さ：0.11m

[P1] 平面規模：0.33×0.25m 深さ：0.13m

[周溝1] 長さ：0.90m 幅：0.16m

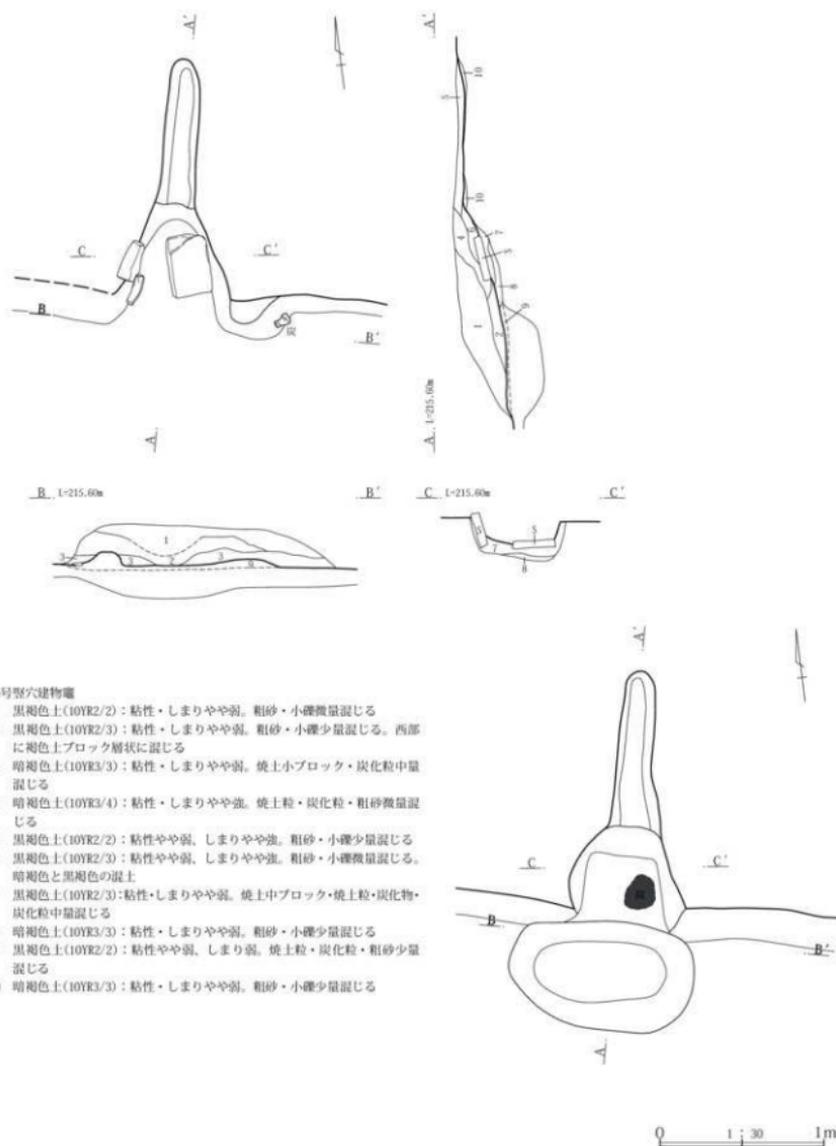
深さ：0.04m

[周溝2] 長さ：2.11m 幅：0.19m

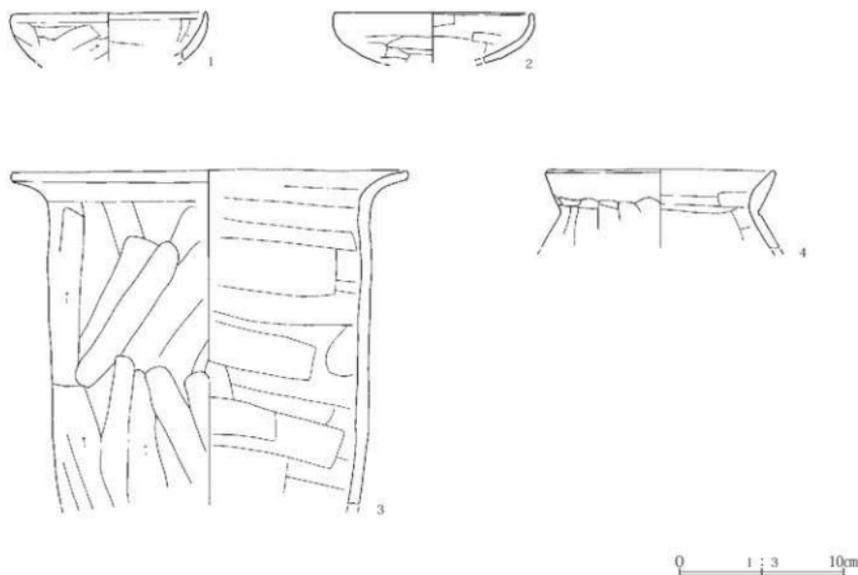
深さ：0.07m

埋土 粘性弱く粗砂・小礫多く含む黒褐色土と粘性やや弱く粗砂・小礫含む黒褐色土で埋没する。また東壁と北壁際には三角堆積とていうには崩れた状態であるが、粘性やや弱く粗砂・炭化物含み、上面に炭化物一部層状に乗る黒褐色土が堆積する。

構造 [竪穴]竪穴は恐らく横長の隅丸長方形のプランを



第216図 75号竪穴建物竈



第217図 75号竪穴建物出土遺物

呈するものと想定される。主軸の向きは $N83^{\circ}W$ を向く。
 [掘り方・床]本建物は北東隅部～北壁沿いに幅0.82m、深さ0.12m以下の幅広い周溝状の掘り込みと、北東部に径 1.27×0.92 m、深さ0.12mを測る逆隅丸凸形の土坑状の掘り込みと、南東部に径 0.45×0.36 m、深さ0.10mを測る楕円形プランの柱状の掘り込みを伴う掘り方を有し、これを粘性やや弱く粗砂・小礫と少量の地山土ブロックを含む黒褐色土で埋め戻して床面を造る。

南壁手前と東壁の北寄り手前に浅い周溝が掘削されている。

[竈]竈は北壁に設けられる。その位置は恐らく中央東寄りと推定され、その方位は $N13^{\circ}E$ を向く。燃焼部は壁面を掘り込んで作られる。

本建物の竈は、竪穴の北壁手前に横長の隅丸方形プランの箱形状の掘り方を有し、これを少量の焼土粒、炭化物粒および粗砂を含む粘性やや弱い黒褐色土で埋め戻して燃焼面を造る。

上述のように燃焼部は竪穴の北壁を掘り込んで造られ

るが、左側は削り出した燃焼部左壁(西壁)と竪穴の北壁の角部を利用し、右側は燃焼面を造る黒褐色土で袖を造る。

燃焼部の左側に縦列2枚、右側に1枚の板状の礫を立てて壁を形成するが、右側の礫は燃焼部側に倒れている。天井部の構造は確認できなかった。

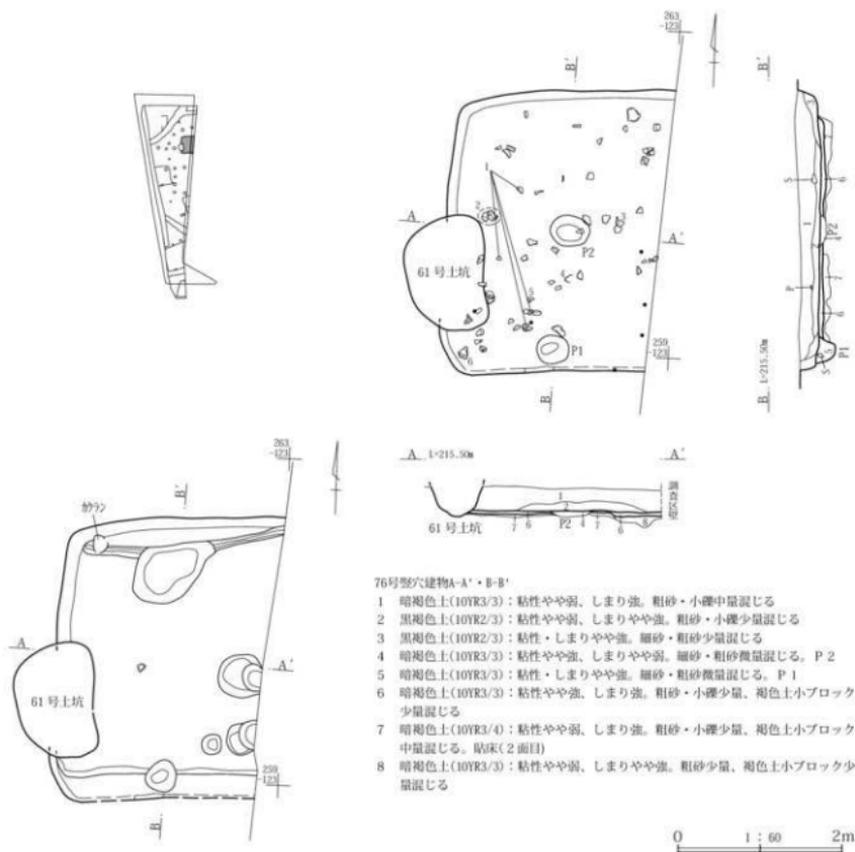
燃焼部の奥壁、燃焼面より0.09m上から奥側に、細い溝状の煙道が水平方向に掘削されている。遺存状態が悪いため明確ではないが、先端部は緩かに立ち上がっている。

[柱穴]竈右側に対する南壁から1.10m程の位置に柱穴が掘削されているが、相対する柱穴は確認されず、構造は把握できなかった。

[貯蔵穴]貯蔵穴は確認されなかった。

[棟]棟方向は、想定される竪穴の形状から、略東西方向を向くものと判断される。しかし明確な上屋構造を確認することはできなかった。

遺物 本建物からは土師器の杯(1・2)・甕(3)・小型



第218図 76号竪穴建物

裏(4)が出土したほか、土師器片36片の出土を見た。

所見 本建物の時期は、出土遺物から推して、7世紀後半の所産と判断される。

76号竪穴建物(第218・219図、PL.46・47・119)

概要 本建物は形状・規模から推して、竪穴建物として認識、調査した。本建物は東側が調査区外に在り、全容を詳らかにすることはできなかった。また本建物には炉や竈が確認されなかったため、竪穴状遺構の可能性も残される。

位置 本建物はC 1区北部の調査区東壁際に在り、258～262-123～125グリッドに位置する。

重複 本建物は61号土坑と重複しているが、本建物の方が古い。

規模 [竪穴]前後:3.44m 左右:(2.64)m

深さ:0.30m 床面積:(8.11)㎡

[P 1] 平面規模:0.35×0.39m 深さ:0.24m

[P 2] 平面規模:0.37×0.48m 深さ:0.10m

埋土 共に粘性やや弱粗砂・小礫含む暗褐色土と粗砂・小礫を少量含む黒褐色土で埋没する。また粘性強く



第219図 76号竪穴建物出土遺物

粗砂・小礫少量含む黒褐色土でいわゆる三角堆積が形成される。

構造 [竪穴] 上述のように東側が調査区外に出るため全容は詳らかでないが、竪穴は略東西に長い隅丸長方形のプランを呈するものと思量される。主軸の向きはN88°Eを向く。

[掘り方・床] 本建物は南壁際に幅0.26mほどの棚状の掘り残しを伴い、この掘り残し以北を更に0.09m以下の深さに掘削して、北壁沿いに幅0.14m以下、深さ0.15m以

下の溝状の掘り込みや、土坑状、柱穴状の深さ0.15m以下を測る7カ所の掘り込みを伴う掘り方を有する。これを粘性やや弱く、褐色土ブロックと少量の粗砂・小礫を含む暗褐色土で埋め戻して最初の床面を構築し、更に粘性やや強く少量の粗砂・小礫・褐色土ブロックを含む暗褐色土でかさ上げして新しい床面を構築している。

[竈] 竈は確認されなかった。

[柱穴] 柱穴は調査範囲の中央(P2)と南壁際(P1)に確認されたが、本建物の構造と関連したものか否かは特定

できなかった。

〔貯蔵穴〕貯蔵穴も確認されなかった。

〔棟〕棟方向は想定される竪穴の形状から略東西方向を向くものと判断される。なお上屋構造は確認されなかった。

遺物 本建物からは土師器の杯(1)と甕(2・3)、須恵器の杯(4～6)、灰軸陶器椀(8)と土錘(7)が出土した。このほか土師器片447片と須恵器片10片の出土も見つた。

所見 本建物の時期は、出土遺物から推して8世紀後半の所産と判断される。

77号竪穴建物(第220～222図、PL.47・120)

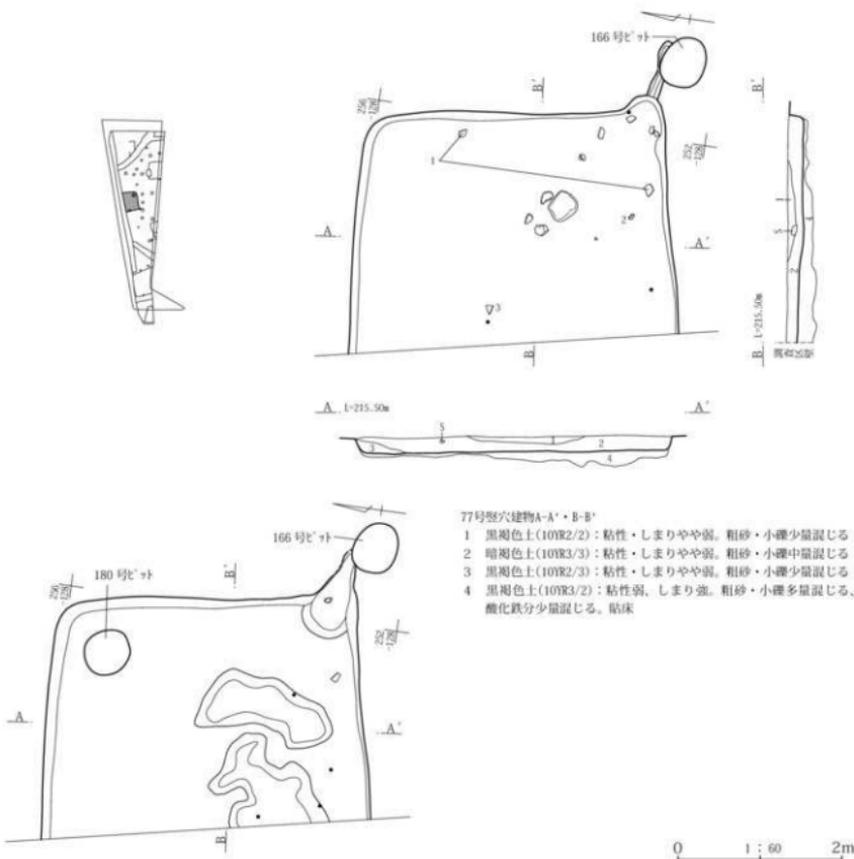
概要 本建物は竪穴の竪穴建物である。建物の西側は調査区外に出るため、全容は把握できなかった。

位置 本建物はC1区中部の北西隅、調査区西壁際に在り、252～256-126～131グリッドに位置する。

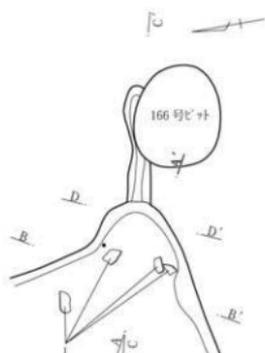
重複 本建物は166号ピットと重複するが、本建物が切られている。

規模 〔竪穴〕前後：(2.91)m 左右：4.00m

深さ：0.19m 床面積：(10.20) m²



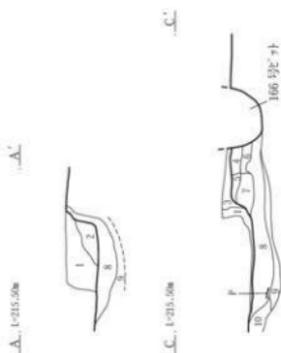
第220図 77号竪穴建物



B. 1=215.50m



D. 1=215.50m

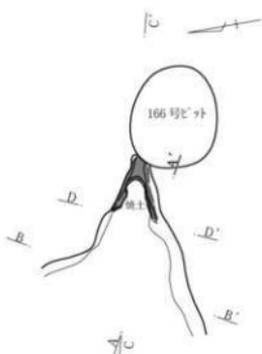


A. 1=315.50m

C. 1=315.50m

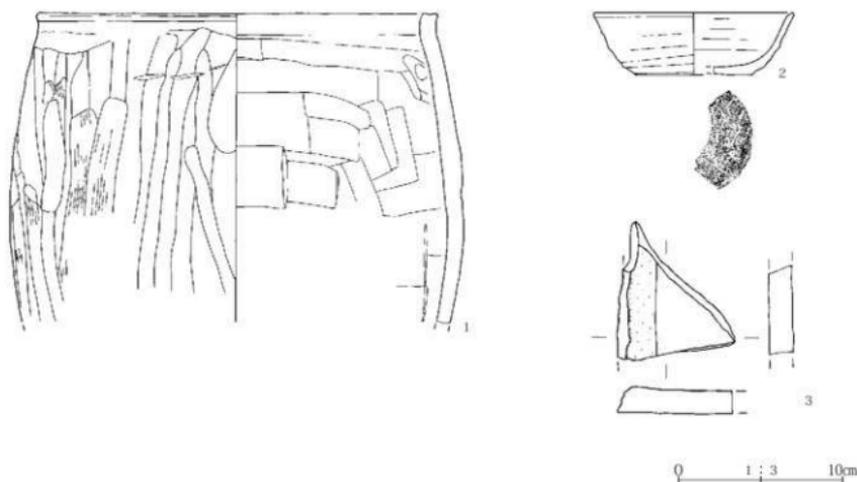
77号竪穴建物

- 1 暗褐色土(10YR3/3)：粘性・しまりやや弱。粗砂・小礫微量、焼土粒極微量混じる
- 2 黒褐色土(10YR2/3)：粘性・しまりやや弱。粗砂・小礫・焼土粒極微量混じる
- 3 暗褐色土(10YR3/4)：粘性・しまりやや強。粗砂・小礫・焼土小ブロック微量混じる
- 4 暗褐色土(10YR3/3)：粘性・しまりやや強。粗砂・小礫微量混じる
- 5 黒褐色土(10YR2/3)：粘性・しまりやや弱。粗砂・小礫・焼土粒微量混じる
- 6 暗褐色土(10YR3/3)：粘性やや弱、しまりやや強。粗砂・小礫微量、焼土小ブロック上部に少量混じる
- 7 赤褐色土(5YR4/6)：焼土層。粘性やや弱、しまりやや強。暗褐色土小ブロック少量混じる
- 8 暗褐色土(7.5YR3/4)：粘性やや強、しまりやや弱。粗砂・小礫微量、焼土小ブロック少量混じる
- 9 黒褐色土(10YR2/3)：粘性やや強、しまりやや弱。粗砂・小礫・焼土粒微量、焼土小ブロック上部に少量混じる
- 10 黒褐色土(10YR2/3)：焼土中～小ブロック少量混じる。粘性・しまりやや弱
- 11 黒褐色土(10YR2/2)：粘性・しまりやや強。粗砂微量混じる
- 12 暗褐色土(7.5YR3/4)：粘性やや弱、しまりやや強。粗砂・小礫少量混じる



0 1 : 30 1m

第221図 77号竪穴建物



第222図 77号竪穴建物出土遺物

〔新竈〕 長さ：1.46m 幅：0.63m

燃焼部 長さ：0.31m 幅：0.50m

深さ：0.03m

煙道 長さ：0.71m 幅：0.17m 高さ：0.17m

〔旧竈〕 長さ：0.41m以上 幅：0.31m以上

燃焼部 長さ：0.21m以上 幅：0.22m以上

深さ：—m

煙道 長さ：0.13m 幅：0.15m 高さ：0.15m

掘り方 長さ：(1.07)m 幅：0.45m

深さ：0.10m

埋土 共に粘性やや弱い粗砂・小礫少量含む黒褐色土と粗砂・小礫含む暗褐色土で埋没する。北壁際に粘性やや弱く粗砂・小礫少量含む黒褐色土が所謂三角堆積を成す。

構造 〔竪穴〕上述のように、本建物は西側が調査区外に出るため全容は確認できなかったが、竪穴は隅丸方形または隅丸長方形のプランを呈すると半出される。また主軸の向きは、N08°Wを向く。

〔掘り方・床〕本建物は全体に0.02～0.07mの深さに掘削し、南部は更に0.08m以下の深さで掘削する掘り方を有し、これを粘性の弱い粗砂・小礫を多く含む黒褐色土で埋め戻して、床面を造る。

〔竈〕竈は東壁南端に設けられ、その方位はN72°Wを向

く。

壁面を跨いで地山側に多く掘り込む滴形プランの掘り方を有し、黒褐色土で埋め戻して燃焼面を造る。

竈は新旧2面があり、旧竈の手前側は新竈に壊されている。旧竈の残存部(奥側)は崩れた凸字状のプランを呈し、奥壁の燃焼面から0.06m上方の位置に掘り込んで煙道を造る。燃焼部から煙道部にかけて広く焼土化が見られる。なお天井の構造は確認できなかった。

新竈は旧竈の手前側を削り込み、奥側を焼土等を含む暗褐色土で埋め戻して作っている。燃焼部は半円形のプランを呈し、袖は設けないが、縦穴隅部を特に左側では袖の代わりとして造られている。燃焼部奥壁を燃焼面から0.10m上方削り込んで、トンネル状の煙道部を設けている。なお天井部の構造は確認できなかった。

〔柱穴〕柱穴は確認されなかった。

〔貯蔵穴〕貯蔵穴は確認されなかった。

〔棟〕棟方向や上屋構造は特定できなかった。

遺物 本建物からは土師器甕(1)、須恵器杯(2)と砥石(3)が出土している。このほか土師器片210片、須恵器片12片の出土も見た。

所見 本建物の時期は、出土遺物からは9世紀前半または10世紀の所産と想定される。

78号竪穴建物(第223図、PL.48)

概要 本建物は形状・規模から推して、竪穴建物と認識、調査した。本建物は、その過半が東側調査区外に在り、その一部を調査したに過ぎないものと判断される。またがや竈を確認できなかったことから、竪穴状遺構の可能性も考慮される。

位置 本建物はC1区中部の調査区東壁際に在り、247～250-123～125グリッドに位置する。

重複 本建物は79号竪穴建物と重複するが、本建物の方が新しい。

規模 [竪穴]前後:2.12m 左右:(1.58)m
深さ:0.17m 床面積:(2.19)㎡

埋土 本建物は粘性やや弱粗砂等少量含む黒褐色土と粘性やや強い暗褐色土で埋没する。所謂三角堆積等を確認できなかった。

構造 [竪穴]上述のように本建物はその一部を調査したに過ぎないと推定され、その全容は詳らかでないが、本

建物の竪穴は隅丸方形あるいは隅丸長方形のプランを呈するものと想定され、主軸の向きはN68°Eを向く。

[掘り方・床]本建物に掘り方は確認されず、地床構造を呈するものと判断される。

[竈]竈は確認されなかった。

[柱穴]柱穴は確認されなかった。

[貯蔵穴]貯蔵穴は確認されなかった。

[棟]棟方向および上屋構造は確認できなかった。

遺物 本建物からは土師器杯(1)が出土したほか、土師器片4片の出土が見られた。

所見 本建物の時期は、出土遺物から推して7世紀前半の所産と想定される。

79号竪穴建物(第224図、PL.48)

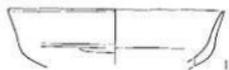
概要 本建物も形状・規模から竪穴建物と認識され、調査されている。しかし本建物も、その過半が東側調査区外に在り、建物の一部を調査したに過ぎないものと判断



78号竪穴建物A-A'

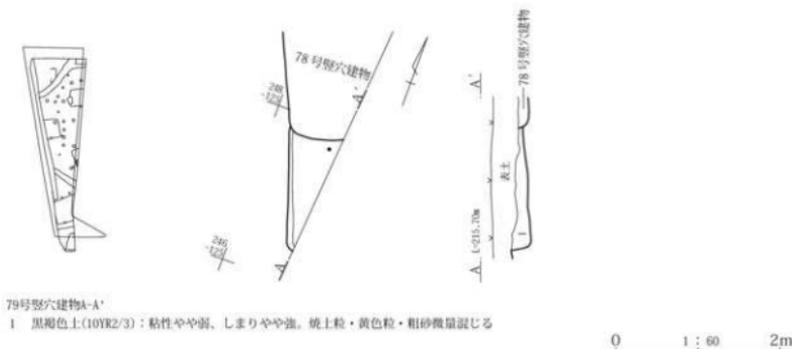
- 1 黒褐色土(10YR2/3):粘性やや弱、しまりやや強。黄色粒子・粗砂少量混じる
- 2 暗褐色土(10YR3/3):粘性・しまりやや強。黄色粒子・粗砂微量混じる

0 1:60 2m



0 1:3 10cm

第223図 78号竪穴建物と出土遺物



79号竪穴建物A-1

1 黒褐色土(10YR2/3)：粘性やや弱、しまりやや強。焼土粒・黄色粒・粗砂微量混入

第224図 79号竪穴建物

される。また78号竪穴建物と同様、軒や竈を確認できなかったことから、竪穴状道構の可能性も考慮される。

位置 本建物はC1区中部の調査区東壁際に在り、246～247-124グリッドに位置する。

重複 本建物は78号竪穴建物と重複するが、本建物の方が古い。

規模 〔竪穴〕前後：(1.47)m 左右：(0.66)m
深さ：0.13m 床面積：(0.43) m²

埋土 本建物は粘性やや弱く、焼土粒等微量を含む黒褐色土で埋没する。所謂三角堆積等を確認されなかった。

構造 〔竪穴〕上述のように本建物も一部を調査できたに過ぎないと推定され、その全容は詳らかでなく、本建物の竪穴も隅丸方形或いは隅丸長方形のプランを呈するものと想定されたに過ぎない。主軸の向きはN70° Eを向く。

〔掘り方・床〕本建物にも掘り方は確認されず、地床構造を呈するものと判断される。

〔竈〕竈は確認されなかった。

〔柱穴〕柱穴は確認されなかった。

〔貯蔵穴〕貯蔵穴は確認されなかった。

〔棟〕棟方向および上屋構造は確認できなかった。

遺物 本建物からは図示すべきものとは認識されなかった土師器片1片が出土したに過ぎなかった。

所見 本建物の時期は重複関係から7世紀前半以前の所産として把握できるだけで、その時期を特定することはできなかった。

80号竪穴建物(第225・226図、PL.48・121)

概要 本建物は竈付の竪穴建物である。

位置 本建物はB1区北部南に在り、239～243-145～150グリッドに位置する。

重複 本建物は65号竪穴建物と重複するが、本建物の方が古い。

規模 〔竪穴〕前後：4.41m 左右：3.04m
深さ：0.41m 床面積：(11.35) m²

〔竈〕長さ：0.50m 幅：0.86m

左袖 長さ：0.33m 幅：0.24m 高さ：0.26m

右袖 長さ：0.43m 幅：0.26m 高さ：0.17m

燃焼部 長さ：0.28m 幅：0.42m

深さ：0.00m

煙道 長さ：0.17m 幅：0.25m 高さ：0.23m

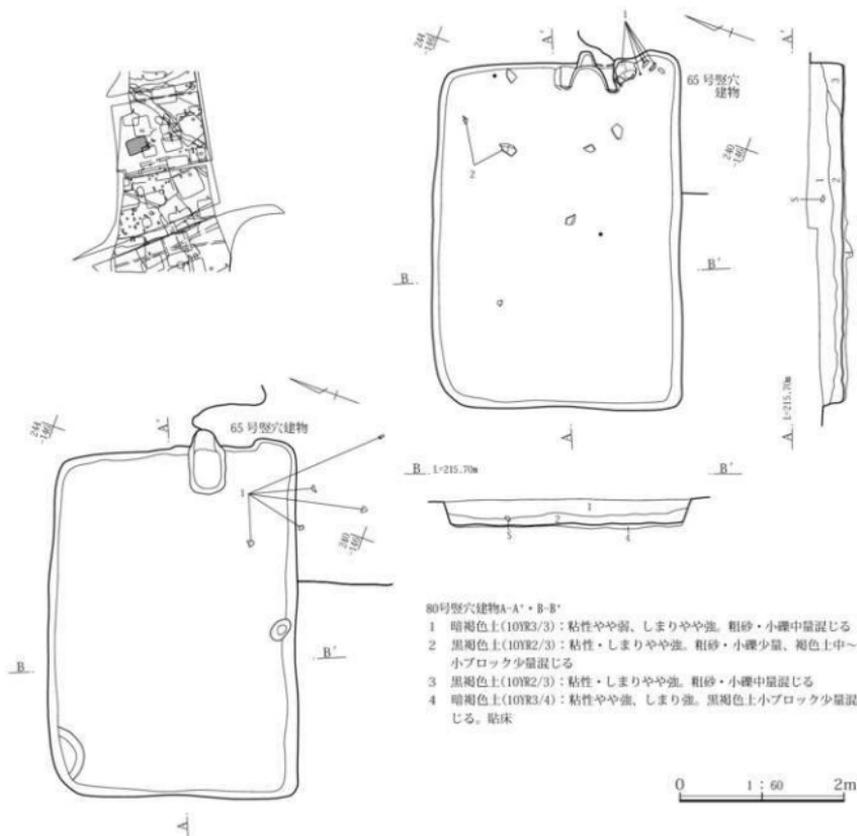
掘り方 長さ：0.55m 幅：0.44m

深さ：0.08m

埋土 粘性やや弱く粗砂・小礫含む暗褐色土と粘性やや強く粗砂・小礫・褐色土ブロック少量含む黒褐色土で埋没する。東壁際に粘性やや強く粗砂・小礫含む黒褐色土が三角堆積を形成する。

構造 〔竪穴〕竪穴は縦長の隅丸長方形のプランを呈し、主軸の向きはN20° Wを向く。

〔掘り方・床〕本建物は最深0.11m、全体的には凡そ0.03mほど掘り窪められた掘り方を有し、これを粘性やや強く黒色土ブロックを少量含む暗褐色土で埋め戻して床面を造る。



80号竪穴建物A-A'・B-B'

- 1 暗褐色土(10YR3/3)：粘性やや弱、しまりやや強。粗砂・小礫中量混じる
- 2 黒褐色土(10YR2/3)：粘性・しまりやや強。粗砂・小礫少量、褐色土中～小ブロック少量混じる
- 3 黒褐色土(10YR2/3)：粘性・しまりやや強。粗砂・小礫中量混じる
- 4 暗褐色土(10YR3/4)：粘性やや強、しまり強。黒褐色土小ブロック少量混じる。黏床

第225図 80号竪穴建物

〔竈〕竈は東壁南寄りに設けられ、その方位はN75° Eを向く。

竪穴の東壁面手前から壁面を削り込んで、縦長の隅丸長方形プランを呈する掘り方を有し、これを粘性やや強く焼土ブロック・粒と粗砂を少量含む黒褐色土で埋め戻して燃焼面を造る。

左右に粘性やや強い暗褐色土で造られた袖が残るが、燃焼部に面して焼土化が見られる。

天井部の構造は確認できなかった。

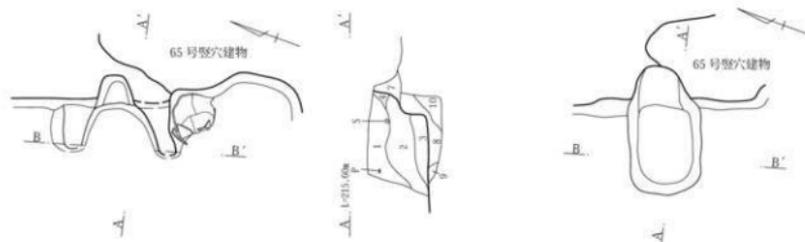
〔柱穴〕柱穴は確認されなかった。

〔貯蔵穴〕貯蔵穴は確認されなかった。

〔棟〕棟方向は竪穴の形状から推して、略東西方向を向くものと判断されるが、上屋構造を明らかにすることはできなかった。

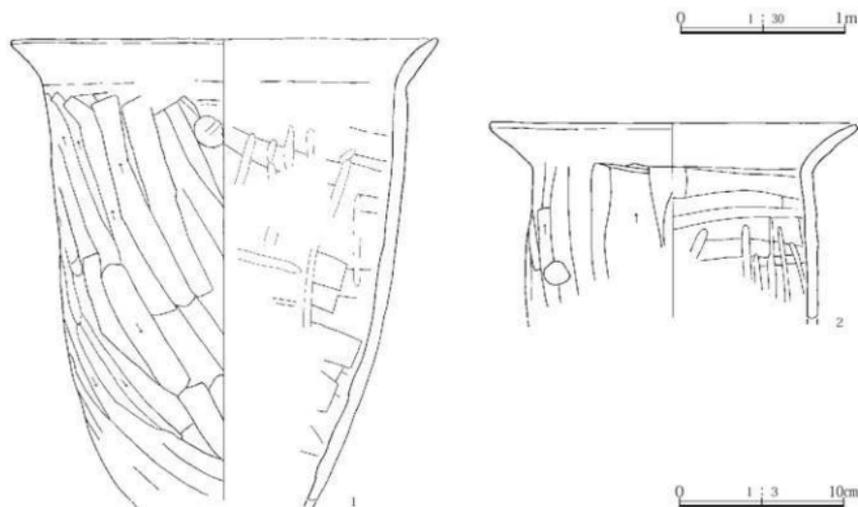
遺物 本建物からは土師器甕(1)と甕の可能性もある土師器甕(2)が出土したほか、土師器片113片と須恵器片1片の出土も見た。

所見 本建物の時期は、出土遺物から推して7世紀前半期の所産と判断される。



80号竪穴建物竈

- 1 黒褐色土(10YR2/3)：粘性弱、しまり強。粗砂・小礫多量混じる
- 2 黒褐色土(10YR2/3)：粘性やや弱、しまり強。褐色土小ブロック中量、粗砂・小礫少量混じる
- 3 黒褐色土(10YR2/3)：粘性・しまりやや強。褐色土小ブロック・焼土粒少量混じる。北端部上面に焼土あり
- 4 黒褐色土(10YR2/3)：粘性やや弱、しまり強。焼土小ブロック中量、粗砂少量混じる
- 5 暗褐色土(7.5YR3/4)：焼土層。粘性・しまりやや強。粗砂微量混じる
- 6 暗褐色土(10YR3/3)：粘性やや強、しまり強。粗砂微量混じる。カマド袖
- 7 黒褐色土(10YR2/3)：粘性・しまりやや強。焼土中ブロック中量、粗砂少量混じる
- 8 黒褐色土(10YR2/3)：粘性・しまりやや強。焼土小ブロック・粗砂・焼土粒少量混じる
- 9 暗褐色土(10YR3/3)：粘性・しまりやや強。暗褐色土と焼土の混土
- 10 黒褐色土(10YR2/3)：粘性・しまりやや強。焼土中ブロック少量、粗砂少量混じる
- A 黒褐色土(10YR2/3)：粘性やや弱、しまりやや強。粗砂・小礫中量混じる



第226図 80号竪穴建物竈と出土遺物

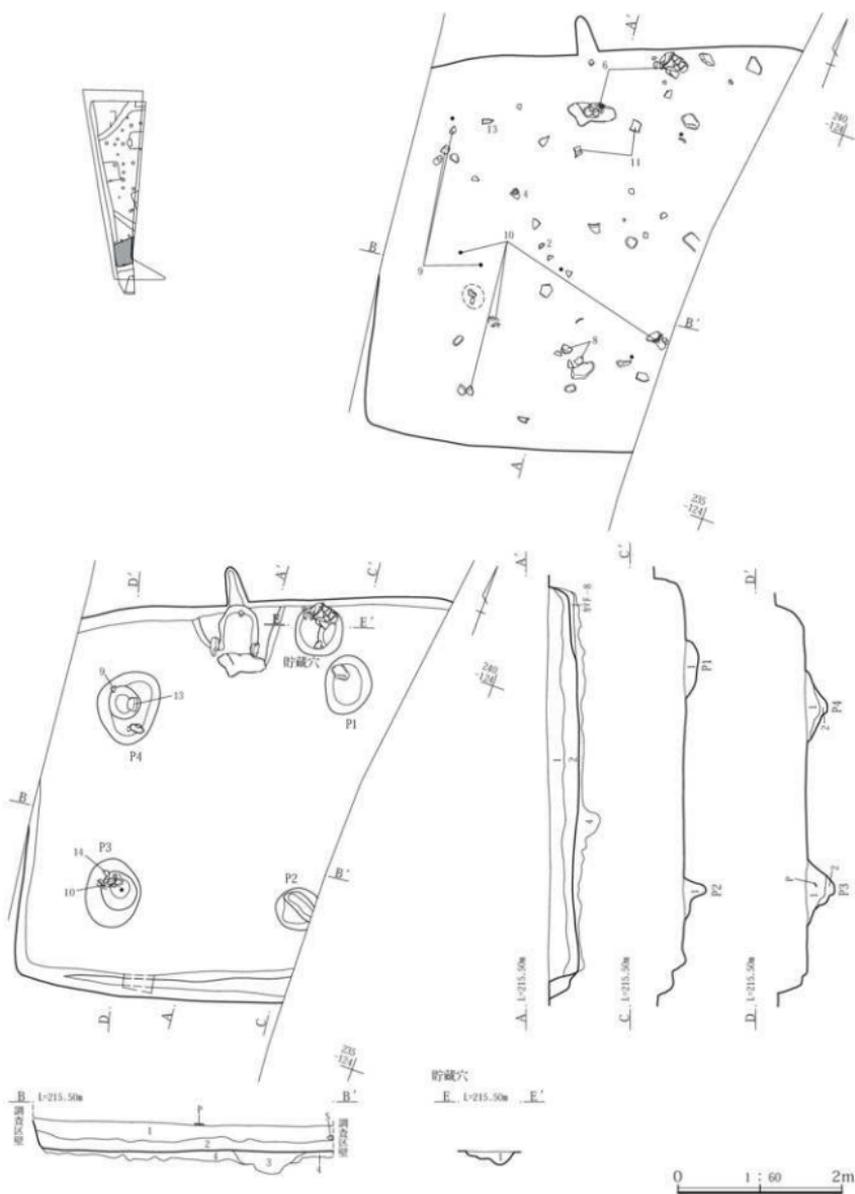
81号竪穴建物(第227～231図、PL.48～50・121・122)

概要 本建物は竈付の竪穴建物である。建物北西隅部と東辺ならびに東南隅部は調査区外に出るため、全容を把握することはできなかった。

位置 本建物はC1区南部中ほどに在り、234～240-124～128グリッドに位置する。

重複 本建物は単独で在り、他遺構との重複はなかった。

規模 [竪穴]前後：4.93m 左右：(4.43)m



第227图 81号貯穴建物(1)

81号竪穴建物A'・B-B'

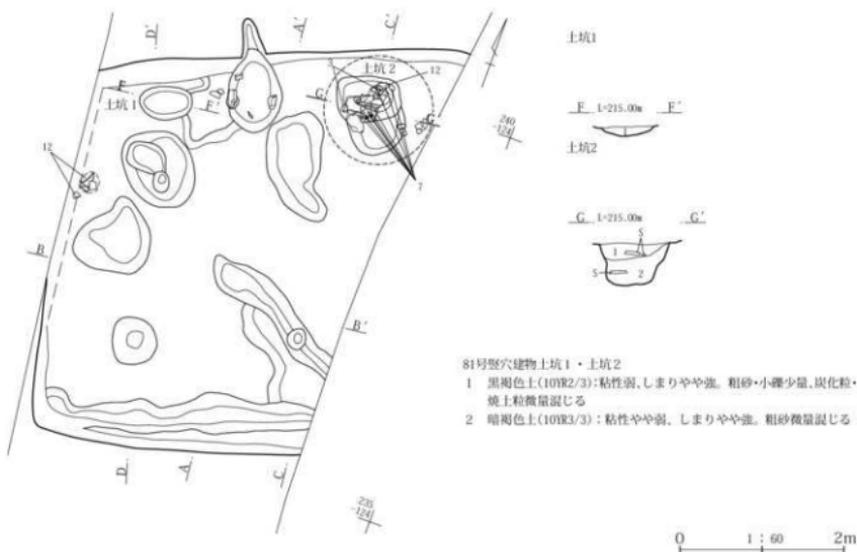
- 1 暗褐色土(10YR3/3):粘性やや弱、しまりやや強。粗砂・礫多量混じる
- 2 黒褐色土(10YR2/3):粘性やや弱、しまりやや強。粗砂・礫中量混じる
- 3 暗褐色土(10YR3/4):小礫主体。粘性極弱、しまり強。細砂・粗砂
- 4 暗褐色土(10YR3/3):粘性やや弱、しまり強。褐色土中～小ブロック多量混じる。粘床

81号竪穴建物P 1～P 4

- 1 暗褐色土(10YR3/3):粘性弱、しまり強。粗砂・小礫中量混じる
- 2 黒褐色土(10YR2/3):粘性やや弱、しまりやや強。粗砂・小礫微量混じる

81号竪穴建物貯蔵穴

- 1 暗褐色土(10YR3/4):粘性やや弱、しまりやや強。粗砂・小礫少量、黄土粒微量混じる



81号竪穴建物土坑1・土坑2

- 1 黒褐色土(10YR2/3):粘性弱、しまりやや強。粗砂・小礫少量、黄土粒・焼土粒微量混じる
- 2 暗褐色土(10YR3/3):粘性やや弱、しまりやや強。粗砂微量混じる

第228図 81号竪穴建物(2)

深さ: 0.39m 床面積: (16.91) m²

〔竈〕 長さ: 1.26m 幅: 1.14m

左袖 長さ: 0.55m 幅: 0.31m 高さ: 0.07m

右袖 長さ: 0.79m 幅: 0.29m 高さ: 0.17m

燃烧部 長さ: (0.64)m 幅: 0.34m

深さ: -m

煙道 長さ: 0.47m 幅: 0.26m 高さ: 0.18m

掘り方 長さ: 0.87m 幅: 0.66m

深さ: 0.08m

〔貯蔵穴〕 平面規模: 0.60×0.57m 深さ: 0.10m

〔P 1〕 平面規模: 0.72×0.57m 深さ: 0.17m

〔P 2〕 平面規模: 0.51×(0.46)m 深さ: 0.28m

〔P 3〕 平面規模: 0.84×0.66m 深さ: 0.39m

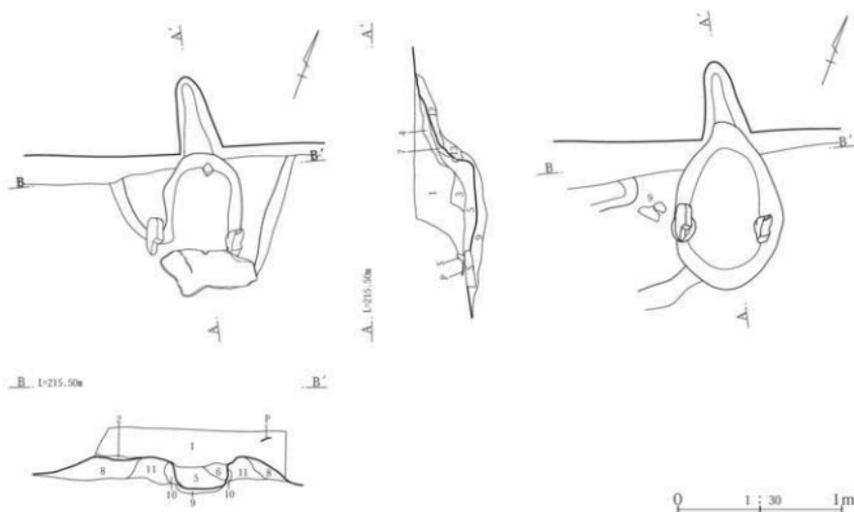
〔P 4〕 平面規模: 0.90×0.74m 深さ: 0.28m

〔土坑1〕 平面規模: 0.41×0.64m 深さ: 0.15m

〔土坑2〕 平面規模: 0.96×0.77m 深さ: 0.55m

埋土 共に粘性やや弱い粗砂・礫多量に含む暗褐色土と粗砂・礫含む黒褐色土で埋没する。所謂三角堆積等は確認できなかった。

構造 〔竪穴〕は上述のように東西両側が調査区外に在って全容は詳らかでないが、横長の隅丸長方形のプランを呈するものと想定される。主軸の向きはN70° Eを



81号竪穴建物竈

- 1 暗褐色土(10YR3/3)：粘性弱、しまり強。粗砂・小礫多量混じる
- 2 暗褐色土(10YR3/3)：粘性弱、しまり強。粗砂少量混じる。黄色粒微量混じる
- 3 暗褐色土(10YR3/3)：粘性・しまりやや強。一部焼土化した褐色土中へ小ブロック多量混じる
- 4 黒褐色土(10YR2/3)：粘性やや弱、しまりやや強。焼土粒微量混じる
- 5 暗褐色土(10YR3/3)：粘性やや弱、しまりやや強。粗砂少量、焼土小ブロック・焼土粒中量混じる
- 6 暗褐色土(10YR3/4)：粘性やや弱、しまり強。粗砂微量混じる。下面に焼土層あり。天井部か
- 7 暗褐色土(10YR3/3)：粘性やや弱、しまりやや強。粗砂微量混じる
- 8 暗褐色土(10YR3/3)：粘性やや弱、しまりやや強。粗砂・小礫中量混じる
- 9 黒褐色土(10YR2/3)：粘性やや弱、しまりやや強。焼土粒少量混じる
- 10 暗褐色土(10YR3/4)：粘性やや弱、しまりやや強。焼土と暗褐色土の混じる上。粗砂微量混じる
- 11 にぶい黄褐色土(10YR4/3)：粘土層。粘性・しまりやや強。粗砂少量混じる
- 12 暗褐色土(10YR3/3)：粘性弱、しまりやや強。粗砂微量混じる
- 13 暗褐色土(7.5YR3/4)：粘性やや弱、しまりやや強。粗砂微量・焼土粒少量混じる

第229図 81号竪穴建物竈

向く。

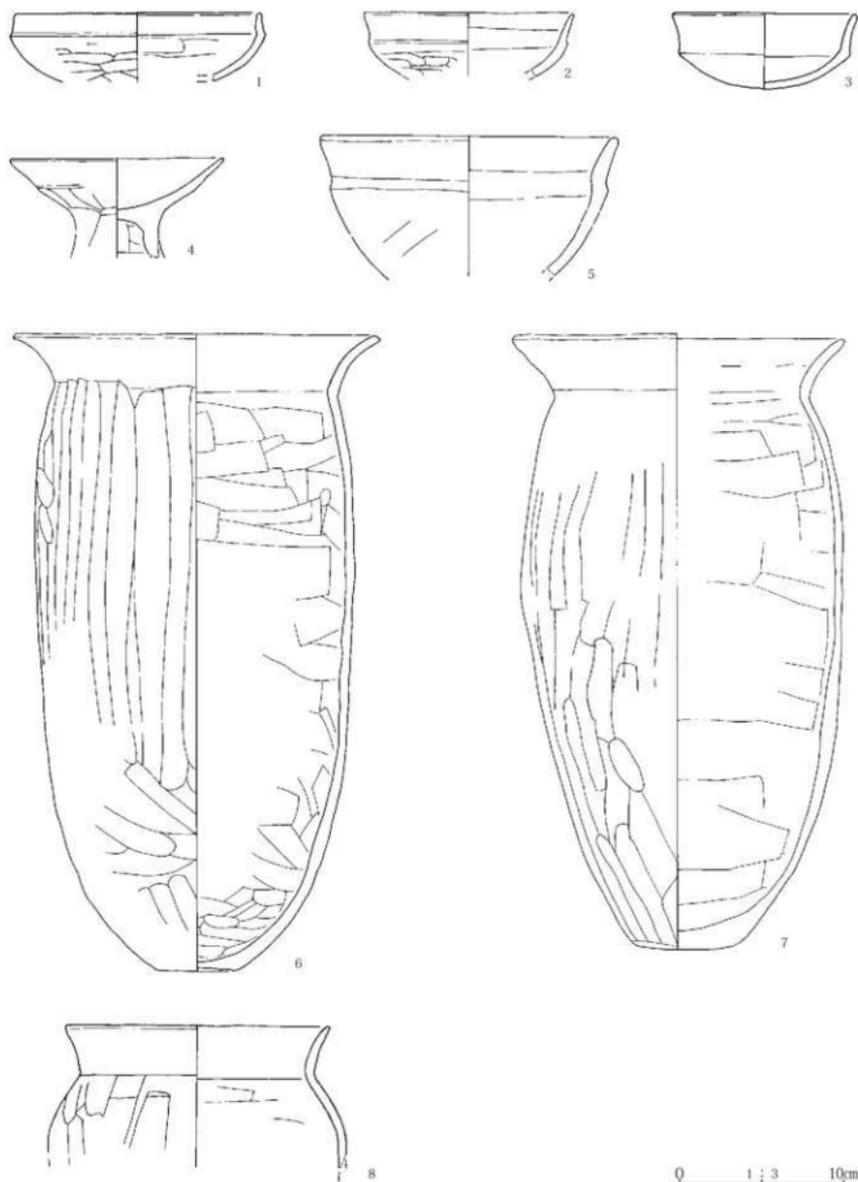
[掘り方・床]本建物は1・2号土坑を含む土坑状の掘り込みと南壁沿いに掘削される幅0.50m以下、深さ0.27m以下を測るものを含む溝状の掘り込みを伴う、深さ0.13m以下を測る掘り方を有し、これを粘性やや弱く褐色土ブロックを多く含む暗褐色土で埋め戻して床面を造る。
[竈]竈は北壁の調査範囲の中央やや西寄りに設けられ、その方位はN16°Wを向く。

本竈は本建物の竪穴の北壁手前に、縦長楕円形プランを呈する掘り方を有する。掘り方の北端は若干北壁を削

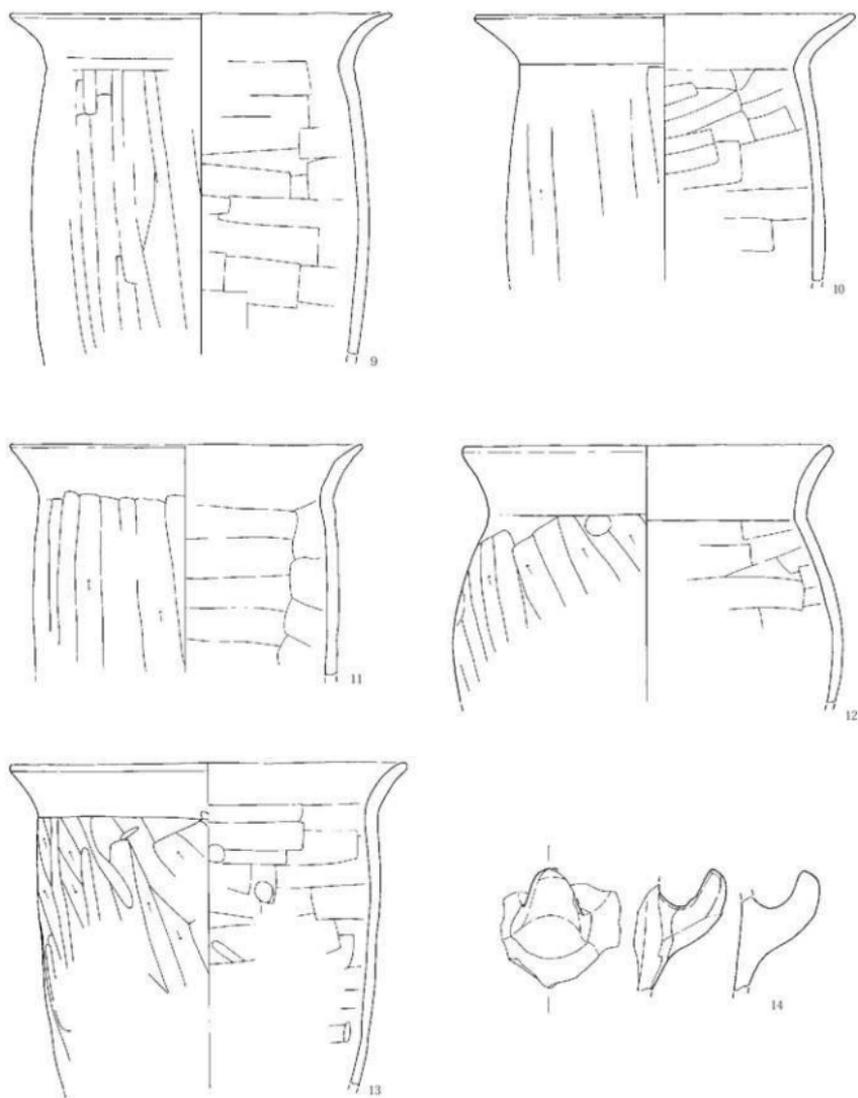
り込む。掘り方の中心のやや手前側に袖石が建てられるが、左側の袖石は径0.14×0.17m、深さ0.12mに掘られた縦長楕円形プランの小孔に据えられている。焼土面は上記掘り方を、粘性やや弱く焼土粒少量含む黒褐色土で埋め戻して造られる。

袖は上記袖石が手前寄りに在り、その奥側と左右両側方向に、粘性やや弱い焼土と暗褐色土の混土、粗砂少量含むにぶい黄褐色粘土、粘性やや弱く粗砂・小礫含む黒褐色土が焼土部より外側に積まれて造られている。

袖石の手前側に天井石と判断される平石が落下してい



第230図 81号竪穴建物出土遺物(1)



0 1 : 3 10cm

第231図 81号竪穴建物出土遺物(2)

るのが確認されているが、天井部の構造は明確にできなかった。

燃焼部の奥壁の燃焼面より0.21mの位置より、20°上方に、燃焼部の方位より12°西に傾いた角度で煙道が掘削されている。

〔柱穴〕柱穴はP 1(北東)・P 2(南東)・P 3(南西)・P 4(北西)の4基が掘削されているが、全体的に西に偏った位置を示している。柱穴のプランはP 1とP 3は楕円形、P 2が円形、P 4が西に開く隅丸長方形様を呈する。

柱穴の配置はP 3・4が西壁から概ね平行に在るのに対し、P 1・2ではP 1が東、P 2が西に寄っている。柱間は、P 1・2が2.78m、P 2・3間が2.25m、P 3・4間が2.24mを測り、P 1・4間は2.75mを測る。また後述するようにP 2の底面は溝状に窪み、P 3とP 4は柱による塑性変形と見られる窪みが見られる。

〔貯蔵穴〕貯蔵穴は竈の直ぐ右側、竈穴北壁に接した位置に掘削されている。

〔棟〕棟方向は特定できなかったが、4基の柱穴竈の位置から、竈の延長線を通る、略南北方向を呈するものと推定される。従ってP 1・2とP 3・4間が桁間、P 1・4とP 2・3間が梁間と想定されるもの、梁間と桁間に明確な柱間の違いは認められなかった。

またP 1を除く3基の柱穴の底面には、P 2は幅0.20m、長さ0.45m以上、深さ0.16mを測る溝状の落ち込み、P 3は径0.41×0.48m、P 4は0.34×0.40mで共に深さ0.06mを測る楕円形プランの落ち込みが見られる。P 2の形成の理由は想定できなかったが、P 3・4は柱の荷重による塑性変形と想定される。この想定が正しければ、柱の径はおおよそ14、15寸という太い材を用いていたものと想定される。

またこの塑性変形は柱の重量も考慮されるもの、東列のP 1には発生しておらず、西側のP 3・4に出現していること、および柱穴の配置に鑑みれば、梁・桁以下は西側に偏った人母屋構造、棟は南北方向の切妻造であったものと思量される。

〔遺物〕本建物からは土師器の杯(1~3)・高杯(4)・鉢(5)・甕(6~12)・甕(13・14)が出土した。このほか土師器片483片の出土も見た。

〔所見〕本建物の時期は、出土遺物から推して6世紀後半の所産と判断される。

82号竈穴建物(第232・233図、PL.50・51・122)

〔概要〕本建物では竈や竈は確認されなかったものの、柱穴が遺存することから竈穴建物として調査した。なお本建物は東西および南側が調査区外に出ており、全容は確認できなかった。

〔位置〕本建物はC 1区南端近くに在り、229~234-124~128グリッドに位置する。

〔重複〕本建物は95号竈穴建物と重複するが、本建物の方が新しい。

〔規模〕〔竈穴〕前後:(4.68)m 左右:(3.41)m
深さ:0.30m 床面積:(12.66)㎡

〔P 1〕平面規模:0.43×0.45m 深さ:0.26m

〔P 2〕平面規模:0.44×0.46m 深さ:0.39m

〔P 3〕平面規模:(0.32)×(0.24)m 深さ:0.54m

〔土坑1〕平面規模:0.60×0.50m 深さ:0.63m

〔埋土〕粘性弱く粗砂・小礫多く含む黒褐色土と粘性やや弱く少量の粗砂・小礫と微量の焼土・炭化物粒を含む黒褐色土で埋没する。また南側で、粘性弱く粗砂・小礫・焼土粒・炭化物粒を微量に含む黒褐色土が三角堆積を成す。

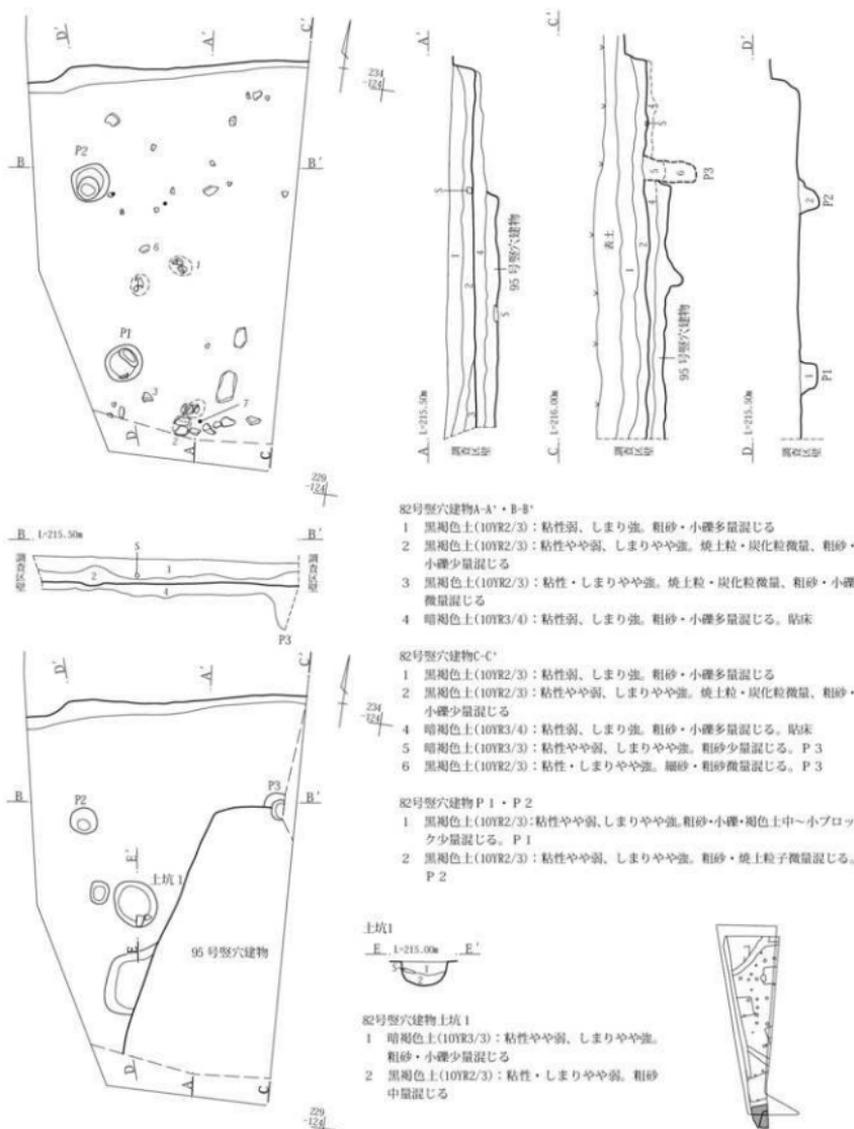
〔構造〕〔竈穴〕上述のように本建物は東西・南側が調査区外に在って、北壁を除いて壁面が確認できなかったため、竈穴のプランは方形または長方形様と推定できるだけで確認できなかった。北壁から判断される軸方向はN82°Eである。

〔掘り方・床〕本建物は楕円形プランで丸底を呈する土坑1など若干の掘り込みを伴う、深さ0.17m以下の掘り方を有する。これを粘性弱く粗砂・小礫多く含む暗褐色土で埋戻して、床面を造る。

〔竈〕竈は確認されなかった。

〔柱穴〕床面にはP 1(南西)・P 2(北西)、掘り方にP 3(北東)の3基の柱穴が確認されている。なおP 1・2とP 3が併存したか否かの確認は取れなかった。

柱穴はいずれも隅丸方形プランを呈し、底面に窪みを確認される。この底面の窪みはP 1は豆形のプランで径0.26×0.14m、深さ0.08mを測り、P 2・3は隅丸方形プランでP 2は径0.26×0.28m、深さ0.28m、P 3は径(0.15)×0.24m、深さ0.42mを測る。P 2・3の窪みは柱痕あるいは柱の荷重による塑性変形によるものと想定される。



82号壑穴建物A-A'・B-B'

- 1 黒褐色土(10YR2/3):粘性弱、しまり強、粗砂・小礫多量混じる
- 2 黒褐色土(10YR2/3):粘性やや弱、しまりやや強、焼土粒・炭化粒微量、粗砂・小礫少量混じる
- 3 黒褐色土(10YR2/3):粘性・しまりやや強、焼土粒・炭化粒微量、粗砂・小礫微量混じる
- 4 暗褐色土(10YR3/4):粘性弱、しまり強、粗砂・小礫多量混じる。貼床

82号壑穴建物C-C'

- 1 黒褐色土(10YR2/3):粘性弱、しまり強、粗砂・小礫多量混じる
- 2 黒褐色土(10YR2/3):粘性やや弱、しまりやや強、焼土粒・炭化粒微量、粗砂・小礫少量混じる
- 4 暗褐色土(10YR3/4):粘性弱、しまり強、粗砂・小礫多量混じる。貼床
- 5 暗褐色土(10YR3/3):粘性やや弱、しまりやや強、粗砂少量混じる。P 3
- 6 黒褐色土(10YR2/3):粘性・しまりやや強、細砂・粗砂微量混じる。P 3

82号壑穴建物P 1・P 2

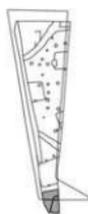
- 1 黒褐色土(10YR2/3):粘性やや弱、しまりやや強、粗砂・小礫・褐色土中～小ブロック少量混じる。P 1
- 2 黒褐色土(10YR2/3):粘性やや弱、しまりやや強、粗砂・焼土粒子微量混じる。P 2

土坑I



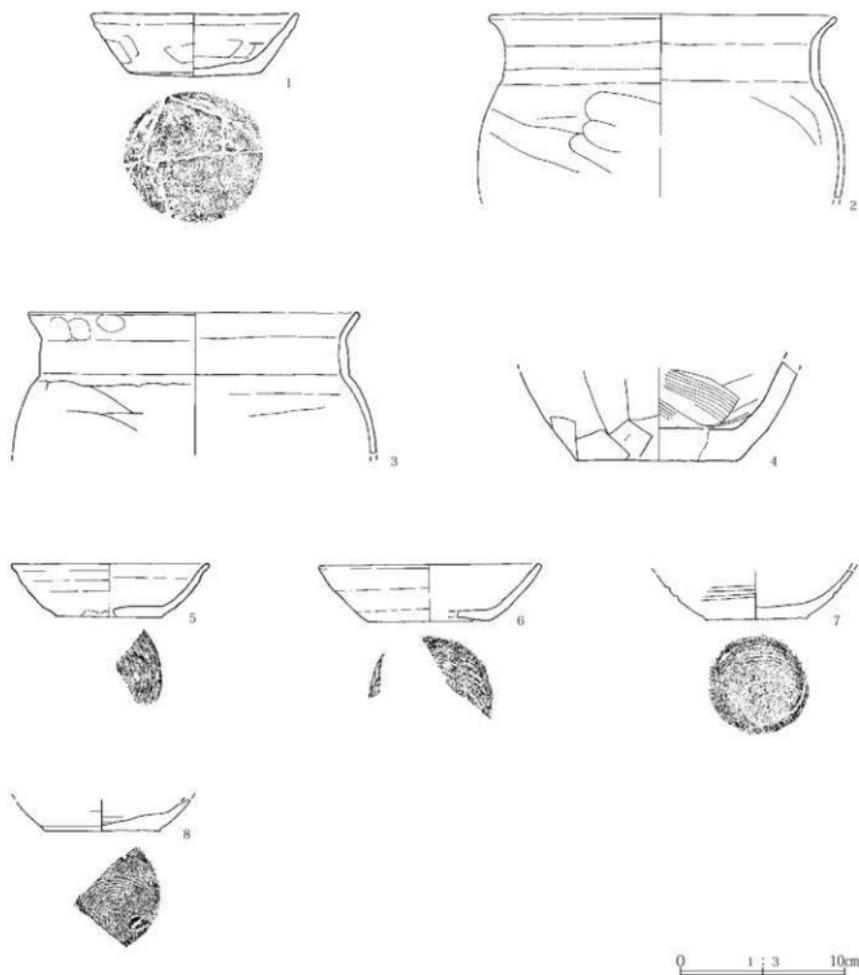
82号壑穴建物土坑I

- 1 暗褐色土(10YR3/3):粘性やや弱、しまりやや強、粗砂・小礫少量混じる
- 2 黒褐色土(10YR2/3):粘性・しまりやや弱、粗砂中量混じる



0 1:60 2m

第232図 82号壑穴建物



第233図 82号竪穴建物出土遺物

柱間は、P 1・2は2.08m、P 2・3は併存していたか否かは特定できないが、2.8mであった。

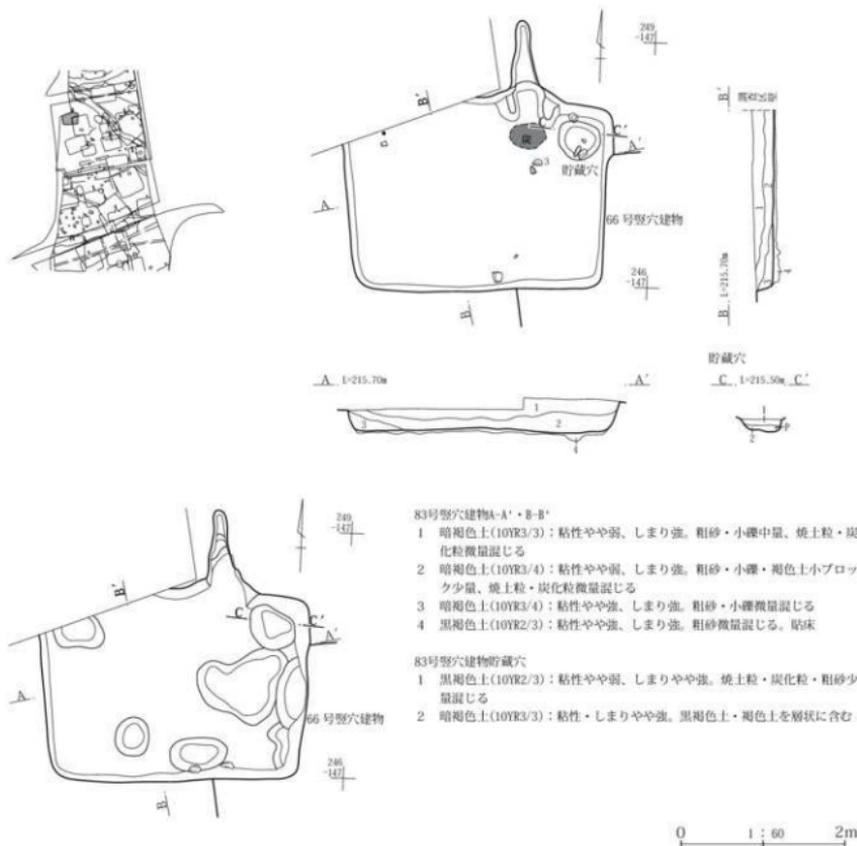
〔貯蔵穴〕貯蔵穴は確認されなかった。

〔棟〕棟方向は特定できず、上屋構造も想定できなかった。

遺物 本建物からは土師器の杯(1)と甕(2～4)、須恵

器の杯(5～8)が出土した。このほか土師器片914片、須恵器片59片の出土を見た。

所見 本建物の時期は、出土遺物から推して9世紀第3四半期の所産と判断される。



第234図 83号竪穴建物

83号竪穴建物(第234・235図、Pl.51・122)

概要 本建物は竈付の竪穴建物である。建物の北辺中・西部が調査区外に出るため、全域を把握することはできなかった。

位置 本建物はB1区北端近くの西側調査区東壁際に在り、245～249-147～150グリッドに位置する。

重複 本建物は66号竪穴建物と重複するが、本建物の方が古い。

規模 [竪穴]前後：2.37m 左右：3.30m
深さ：0.41m 床面積：(6.14) m²

83号竪穴建物A-A'・B-B'

- 1 暗褐色土(10YR3/3)：粘性やや弱、しまり強。粗砂・小礫中量、焼土粒・炭化粒微量混じる
- 2 暗褐色土(10YR3/4)：粘性やや弱、しまり強。粗砂・小礫・褐色土小ブロック少量、焼土粒・炭化粒微量混じる
- 3 暗褐色土(10YR3/4)：粘性やや強、しまり強。粗砂・小礫微量混じる
- 4 黒褐色土(10YR2/3)：粘性やや強、しまり強。粗砂微量混じる。粘土

83号竪穴建物貯蔵穴

- 1 黒褐色土(10YR2/3)：粘性やや弱、しまりやや強。焼土粒・炭化粒・粗砂少量混じる
- 2 暗褐色土(10YR3/3)：粘性・しまりやや強。黒褐色土・褐色土を層状に含む

[竈] 長さ：1.33m 幅：0.78m

左袖 長さ：0.39m 幅：0.28m 高さ：0.16m

右袖 長さ：0.43m 幅：0.26m 高さ：0.26m

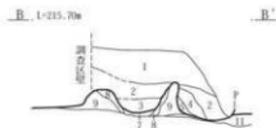
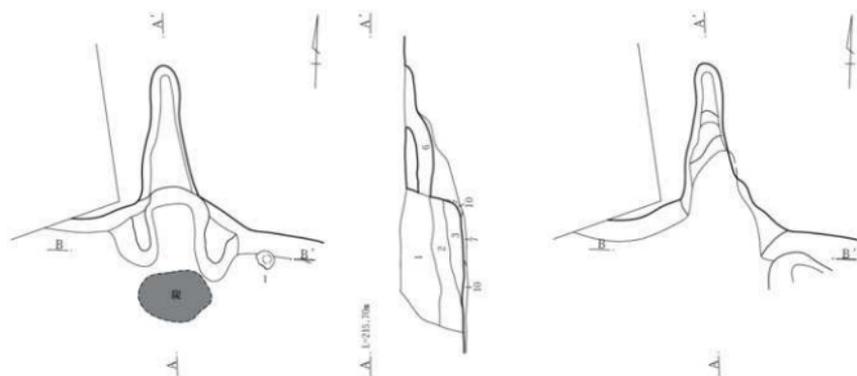
燃焼部 長さ：0.49m 幅：0.24m

深さ：0.02m

煙道 長さ：0.74m 幅：0.37m 高さ：0.17m

[貯蔵穴] 平面規模：0.47×0.51m 深さ：0.19m

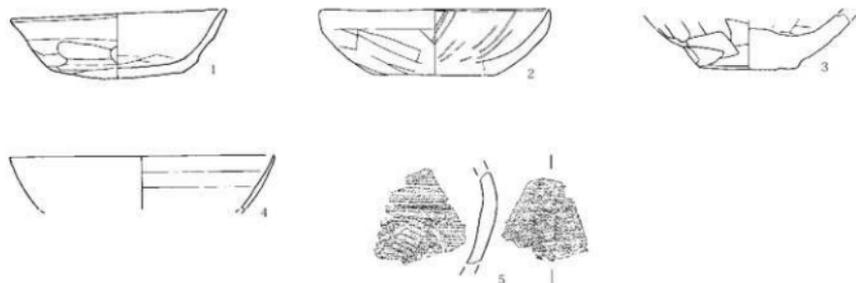
埋土 本建物は共に粘性やや弱く微量の焼土・炭化物粒を含み粗砂・小礫含む暗褐色土と粗砂・小礫を少量含む黒褐色土で埋没する。少なくとも西壁と南壁際に粘性やや



83号竪穴建物遺

- 1 暗褐色土(10YR3/3)：粘性やや弱、しまりやや強。粗砂・小礫少量、焼土粒微量混じる
- 2 暗褐色土(10YR3/3)：粘性・しまりやや強。粗砂微量混じる
- 3 暗褐色土(10YR3/4)：粘性やや弱、しまりやや弱。褐色粘質土小ブロック・焼土ブロック少量混じる
- 4 黒褐色土(10YR2/3)：粘性・しまりやや弱。粗砂微量混じる
- 5 暗褐色土(10YR3/3)：粘性・しまりやや弱。粗砂微量混じる
- 6 黒褐色土(10YR2/3)：粘性やや弱、しまりやや強。焼土粒・炭化粒少量混じる
- 7 柳暗褐色土(7.5YR2/3)：焼土主体。粘性・しまりやや強。黒褐色土ブロック少量混じる
- 8 暗褐色土(10YR3/3)：粘性やや弱、しまりやや強。焼土中～小ブロック多量混じる。粗砂少量混じる
- 9 暗褐色土(10YR3/3)：粘性やや弱、しまりやや強。焼土粒・炭化粒・粗砂少量混じる
- 10 黒褐色土(10YR2/3)：粘性・しまりやや強。焼土粒・炭化粒少量混じる
- 11 暗褐色土(10YR3/4)：粘性やや弱、しまり強。小褐色土ブロック・粗砂少量混じる。粘床

0 1 : 30 1m



0 1 : 3 10cm

第235図 83号竪穴建物遺と出土遺物

強い暗褐色土が三角堆積等を形成する。

構造 〔竪穴〕竪穴は横長の隅丸長方形のプランを呈し、主軸の向きはN88° Eを向く。

〔掘り方・床〕本建物は東部を中心に深さ0.10～0.20mほどの大小の土坑状の掘り込みを伴う深さ0.02～0.08mの掘り込みによる掘り方を有し、これを粘性やや強い黒褐色土で埋め戻して床面を造る。

〔竈〕竈は北壁の東寄りに設けられ、その方位はN5° Wを向く。

プランは確認できなかったが竪穴の壁面を跨いで浅い掘り方を掘削し、その左右両側に粘性やや弱く焼土粒・炭化物粒・粗砂少量含む暗褐色土を積み、その内側に粘性やや弱く多量の焼土ブロックと少量の粗砂を含む暗褐色土を積んで袖を造る。袖の内側の底面に共に粘性やや強い、黒褐色土少量含む極暗褐色焼土と焼土・炭化物粒を少量含む黒褐色土で埋め戻して燃焼面を造る。

天井部の構造は確認できなかった。

燃焼部奥壁の燃焼面から0.18～0.25mの間を奥側にトンネル状に掘削する。燃焼部の煙道開口部は幅0.32m、高さ0.07mを測る。開口部から奥側0.53m付近で底面が0.12mの高さに一段上がるが、この地点で煙道の天井部は確認できなくなっており、その幅は0.18mを測るが、ここから0.25m付近で斜めに立ち上がっている。

〔柱穴〕柱穴は確認されなかった。

〔貯蔵穴〕貯蔵穴は竈右側、竪穴の壁面から0.04～0.06m離して掘削されている。貯蔵穴のプランは逆隅丸家形を呈し、掘削形態は缶形を呈する。

〔棟〕棟方向は明確でないが、竪穴の形状と竈の位置から推して、略東西方向を向くものと思量される。また竪穴の規模から推して柱は建てない構造の建物と想定されるが、上屋構造の詳細は詳らかにできなかった。

遺物 本建物からは土師器の杯(1・2)と甕(3)、須恵器の椀(4)と甕(5)が出土した。このほか土師器片117片と須恵器片1片の出土を確認している。

なお、竈の全面には0.44×0.31mの範囲で炭の面的分布が見られた。

所見 本建物の時期は、出土遺物から推して8世紀前半の所産と判断される。

84号竪穴建物(第236・237図、PL.52・122)

概要 本建物は竈付の竪穴建物である。

位置 本建物はC2区南部と中部南境の西部に在り、280～284・129～132グリッドに位置する。

重複 本建物は単独で在り、他遺構との重複はなかった。

規模 〔竪穴〕前後：3.48m 左右：3.31m
深さ：0.46m 床面積：9.55㎡

〔竈〕長さ：1.42m 幅：0.96m

左袖 長さ：0.65m 幅：0.33m 高さ：0.15m

右袖 長さ：0.69m 幅：0.33m 高さ：0.27m

燃焼部 長さ：0.62m 幅：0.43m

深さ：1m

煙道 長さ：0.73m 幅：0.24m 高さ：0.16m

埋土 粗砂・小礫の方顔料の多少の違いはあるものの共に粘性弱い黒褐色土と、粘性やや弱く粗砂・小礫を少量含む黒褐色土で埋没する。粘性やや弱く細砂・粗砂を少量含む黒褐色土がいわゆる三角堆積等を形成する。

構造 〔竪穴〕竪穴は方形に近い隅丸逆台形プランを呈し、主軸の向きはN88° Wを向く。

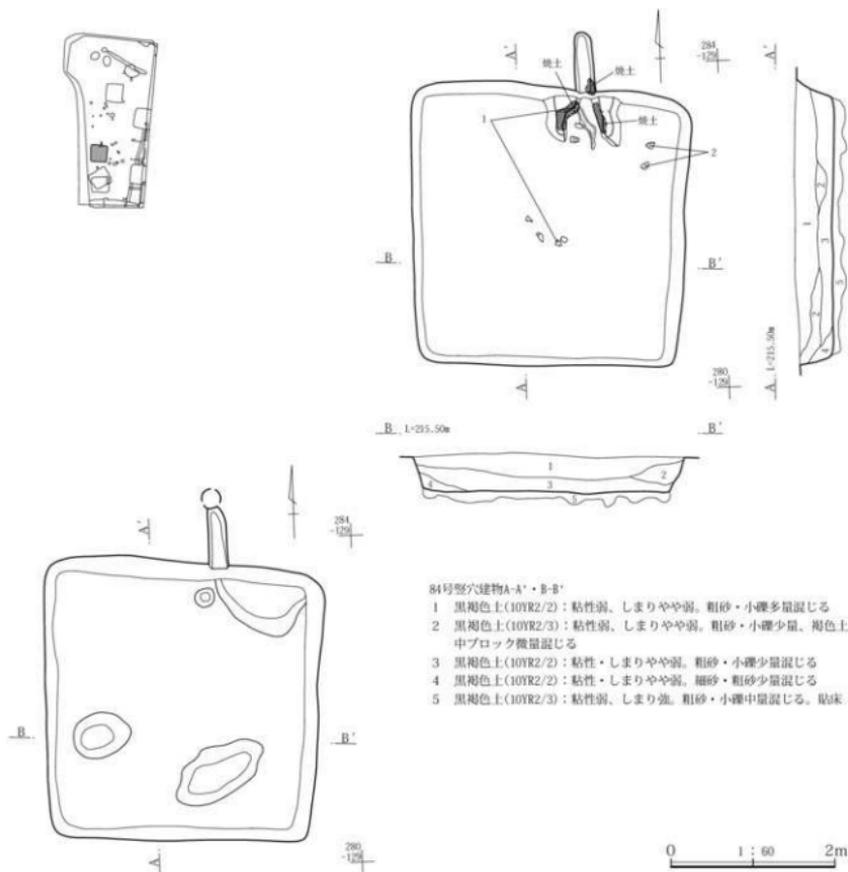
〔掘り方・床〕本建物は深さ0.10m以下を測る大型の土坑状の掘り込みを含む、凹凸のある掘り方を有する。掘り方の深さは0.18m以下を測るが、これを粘性弱く粗砂・少量含む黒褐色土で埋め戻して床面を造る。

〔竈〕竈は北壁東寄りに設けられ、その方位はN1° Wを向く。

竈の掘り方は確認できなかったが、建物の掘り方を粘性やや弱く粗砂少量含む暗褐色土で埋め戻し、左右両側に粘性やや弱く粗砂少量含む黒褐色土、その上に粘性やや弱い褐色土を積んで袖とし、左袖は更に燃焼部側に粘性やや弱く粗砂少量含む暗褐色土を貼り、燃焼部に面しては粘性弱く暗褐色土含む褐色焼土となっている。更に袖の間の底面には粘性やや弱く炭化物粒と少量の焼土と灰を含む黒褐色土で埋め戻して燃焼面を造る。

天井部の構造は確認できなかったが、燃焼部奥壁の燃焼面から0.18mの位置から水平方向に煙道が掘削され、0.62m付近から弧状に立ちあがる。

なお、左右両袖の燃焼部面と右側煙道の燃焼部側に焼土化が見られる。



第236図 84号竪穴建物

[柱穴] 柱穴は確認されなかった。

[貯蔵穴] 貯蔵穴は確認されなかった。

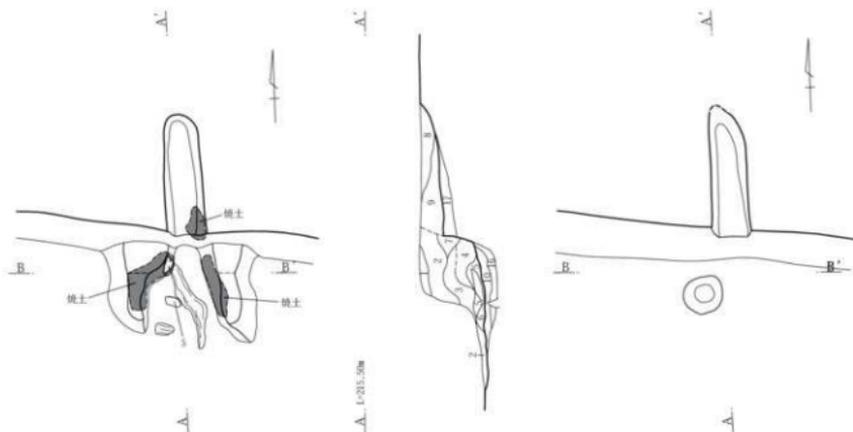
[棟] 本建物の棟の方向は特定できなかった。また上屋の構造も確認できなかった。

遺物 本建物からは土師器の杯2点(1・2)と甕3点(3～5)が出土した。このほか土師器片184片の出土が見ら

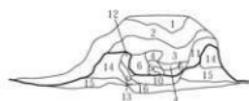
れた。

また竈燃焼部に径0.09×0.05m、長さ0.54mを測る炭灰化材の出土があった。

所見 本建物の時期は、出土遺物から推して7世紀後半の所産と判断される。



B. 1:215.50m

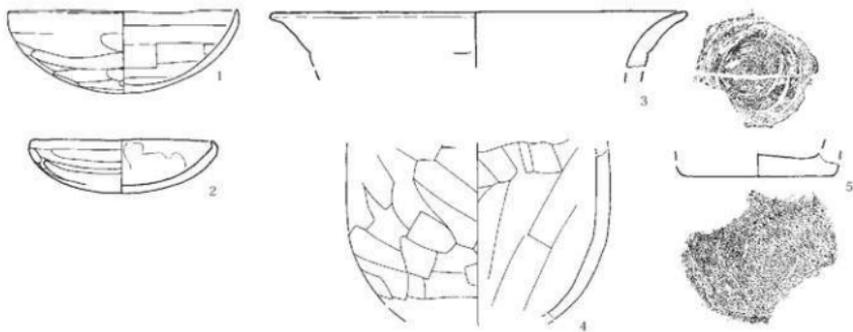


B'

84号竪穴建物遺

- 1 暗褐色土(10YR3/4)：粘性やや弱、しまりやや強、粗砂中量混じる
- 2 黒褐色土(10YR2/2)：粘性・しまりやや弱、粗砂・小礫中量混じる
- 3 褐色土(10YR4/4)：粘性・しまりやや強、粗砂微量混じる。天井部粘土の崩落か
- 4 黒褐色土(10YR2/3)：粘性やや強、しまりやや弱、焼土粒・炭化粒微量、粗砂微量混じる
- 5 黒褐色土(10YR1.7/1)：炭化物層。粘性やや弱、しまり弱、褐色土小ブロック微量混じる
- 6 褐色土(10YR4/4)：粘性・しまりやや弱、暗褐色土ブロック少量混じる
- 7 暗褐色土(10YR3/3)：粘性・しまりやや強、炭化物多量、焼土小ブロック少量混じる
- 8 暗褐色土(10YR3/3)：粘性やや弱、しまりやや強、粗砂微量混じる
- 9 黒褐色土(10YR2/3)：粘性・しまりやや弱、粗砂・小礫少量、焼土粒微量混じる
- 10 黒褐色土(10YR2/3)：粘性・しまりやや弱、焼土中ブロック・灰少量、炭化粒中量混じる
- 11 暗褐色土(10YR3/4)：粘性・しまりやや強、炭化粒・焼土粒・黒褐色土小ブロック少量混じる
- 12 褐色土(7.5YR4/6)：焼土層、粘性弱、しまりやや強、暗褐色土小ブロック少量混じる
- 13 暗褐色土(10YR3/3)：粘性・しまりやや弱、粗砂少量、焼土粒微量混じる
- 14 褐色土(10YR4/4)：粘性・しまりやや強、粗砂微量混じる。右袖部左端の焼土化
- 15 黒褐色土(10YR2/3)：粘性・しまりやや弱、粗砂少量、炭化粒微量混じる
- 16 暗褐色土(10YR3/3)：粘性やや弱、しまりやや強、粗砂少量混じる
- 17 暗褐色土(10YR3/3)：粘性・しまりやや弱、焼土粒、上部に多量混じる

0 1:30 1m



第237図 84号竪穴建物遺と出土遺物

0 1:3 10cm

85号竪穴建物(第238図、PL.52・122)

概要 本建物は形状・規模から推して、竪穴建物として調査したが、炉や竈を確認できなかったことから、竪穴状遺構の可能性も考慮される。

なお北東部の一部がトレンチの掘削により失われている。

位置 本建物はC2区南部の中心西寄りに在り、274～277-129～132グリッドに位置する。

重複 本建物は94号竪穴建物と重複するが、本建物の方が新しい。

規模 [竪穴]前後：3.21m 左右：3.57m
深さ：0.31m 床面積：9.68㎡

埋土 共に粗砂・小礫を多く含む、粘性弱い暗褐色土と粘性やや弱い黒褐色土で埋没する。いわゆる三角堆積等は確認できなかった。

構造 [竪穴]竪穴は隅丸長方形のプランを呈し、主軸の向きはN87°Eを向く。

[掘り方・床]本建物に掘り方は確認されず、地床の構造であると判断される。

[炉・竈]炉や竈は確認されなかった。

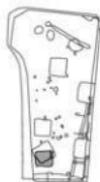
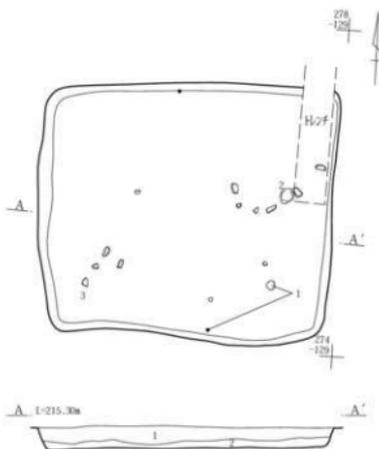
[柱穴]柱穴は確認されなかった。

[貯蔵穴]貯蔵穴は確認されなかった。

[棟]棟方向は、竪穴の形状から略東西方向を向くものと思量される。

遺物 本建物からは土師器の杯(1)と甕(2)、および須恵器甕(3)が出土した。このほか土師器片29片の出土を見た。

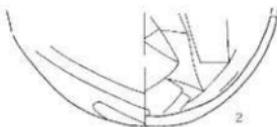
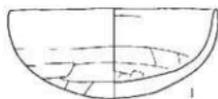
所見 本建物の時期は、出土遺物から推して7世紀後半の所産と判断される。



85号竪穴建物A-A'

- 1 暗褐色土(10YR3/3)：粘性弱、しまり強、粗砂・小礫多量混じる
- 2 黒褐色土(10YR2/3)：粘性やや弱、しまりやや強、粗砂・小礫多量混じる

0 1 : 60 2m



0 1 : 3 10cm

第238図 85号竪穴建物と出土遺物

86号竪穴建物(第239～241図、PL.53・123)

概要 本建物は竪付の竪穴建物である。建物の東部は東側調査区外に出るため、全容を把握することはできなかった。

位置 本建物はC2区やや北寄りの調査区東壁際に在り、275～280-121～124グリッドに位置する。

重複 本建物は93号竪穴建物と重複するが、本建物の方

が新しい。

規模 [竪穴]前後:3.96m 左右:(3.18)m

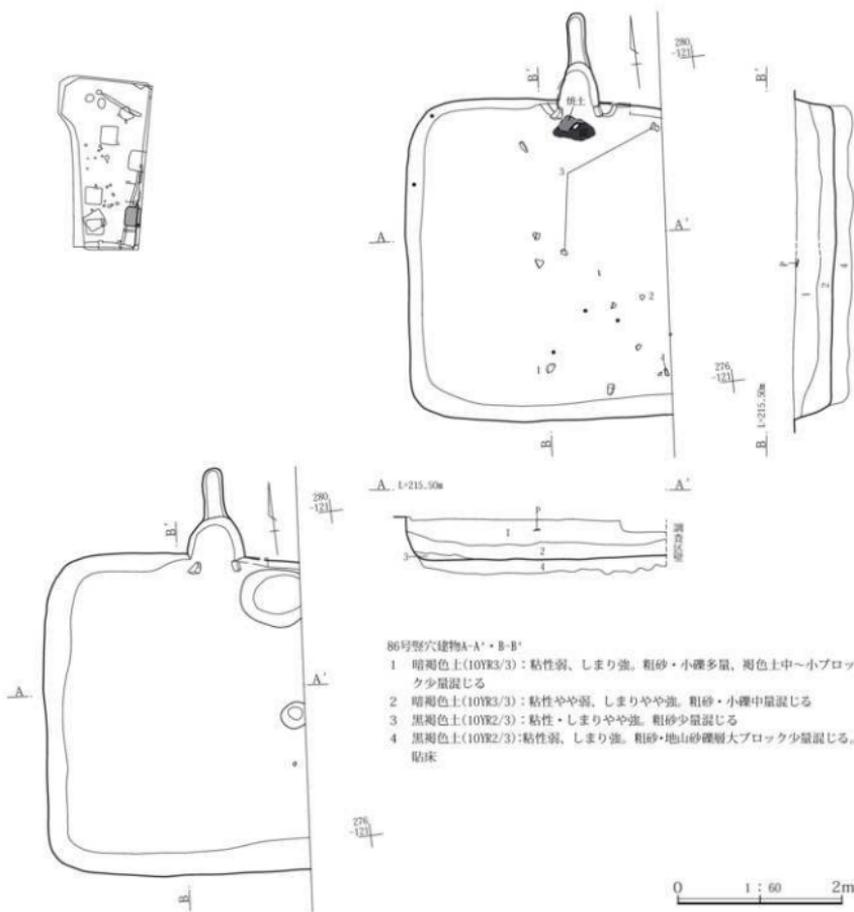
深さ:0.53m 床面積:(10.45)㎡

[竪] 長さ:1.27m 幅:0.94m

左袖 長さ:0.17m 幅:0.22m 高さ:0.24m

右袖 長さ:0.17m 幅:0.28m 高さ:0.14m

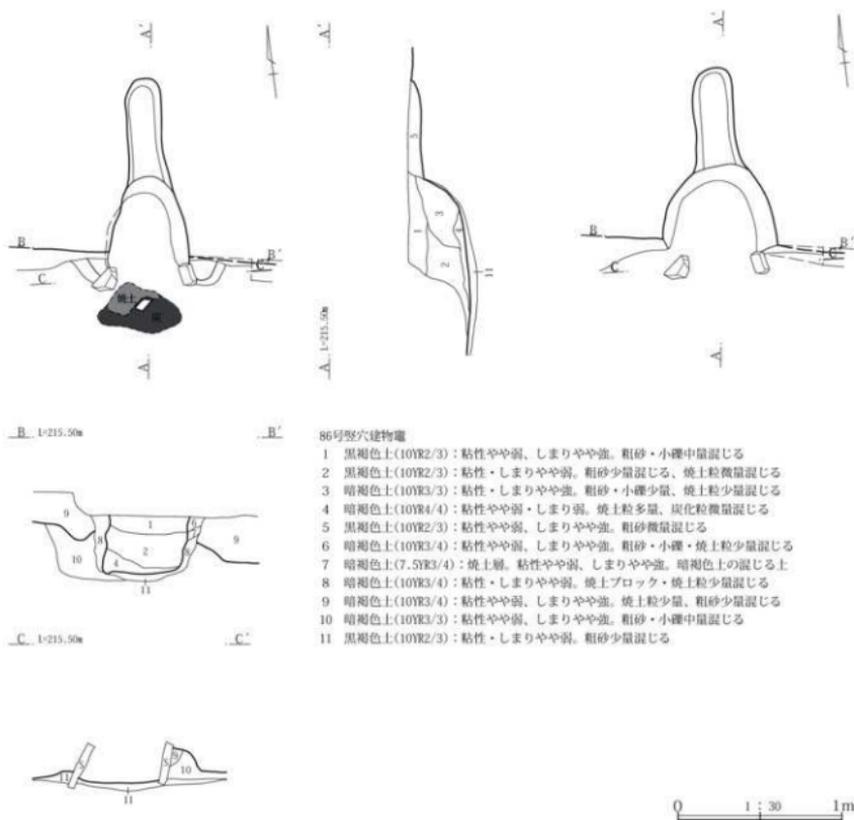
燃焼部 長さ:0.58m 幅:0.41m



86号竪穴建物A-A'・B-B'

- 1 暗褐色土(10YR3/3):粘性弱、しまり強。粗砂・小礫多量、褐色土中～小ブロック少量混じる
- 2 暗褐色土(10YR3/3):粘性やや弱、しまりやや強。粗砂・小礫中量混じる
- 3 黒褐色土(10YR2/3):粘性・しまりやや強。粗砂少量混じる
- 4 黒褐色土(10YR2/3):粘性弱、しまり強。粗砂・地山砂礫粗大ブロック少量混じる。貼床

第239図 86号竪穴建物



第240図 86号竪穴建物遺

深さ：0.04m

煙道 長さ：0.60m 幅：0.29m 高さ：0.09m

掘り方 長さ：[1.08]m 幅：0.54m

深さ：0.05m

埋土 粘性弱く粗砂・小礫多く含む暗褐色土と粘性やや弱く粗砂・小礫含む暗褐色土で埋没する。西壁際に粘性弱く粗砂少量含む黒褐色土がいわゆる三角堆積を形成する。

構造〔竪穴〕上述のように本建物は全容を把握できなかったため明確ではないが、本建物の竪穴は隅丸方形ま

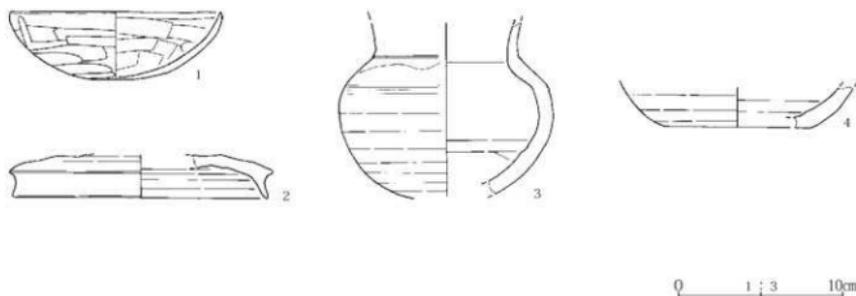
たは隅丸長方形のプランを呈するものと想定される。主軸の向きはN83°Wを向く。

〔掘り方・床〕本建物は若干の凹凸を見せる掘り方を有し、これを粗砂粒と地山の砂礫層ブロックを含む黒褐色土で埋め戻して床面を造っている。

〔竪〕竪は北壁に設けられ、その方位はN5°Eを向く。

竪穴の北壁面を半楕円形の平面形に大きく掘削する掘り方を有し、これを粘性やや弱く粗砂少量含む黒褐色土で埋め戻して燃焼面を造る。

左右に袖が残る。横位の断面設定位置が奥側にずれて



第241図 86号竪穴建物竈と出土遺物

いるため明確ではないが、袖は粘性やや弱く焼土少量含む暗褐色土、右袖はその上に粘性やや弱い焼土と暗褐色土の混土、更に粘性やや弱く粗砂・焼土粒少量含む暗褐色土を載せて造っている。

天井部の構造は確認できなかった。

なお竈の燃焼部手前に、小さい焼土と灰の分布が見られた。

〔柱穴〕柱穴は確認されなかった。

〔貯蔵穴〕貯蔵穴は確認されなかった。

〔棟〕棟方向は特定できず、上屋構造も確認できなかった。

遺物 本建物からは土師器杯(1)と須恵器の蓋(2)と短頸壺(3)および壺と思われる須恵器(4)が出土した。このほか土師器片197片、須恵器片3片の出土があった。

所見 本建物の時期は、出土遺物から推して7世紀後半の所産と判断される。

87号竪穴建物(第242図、PL.53・54・123)

概要 本建物は形状・規模から推して、竪穴建物として調査したが、調査範囲内に炉や竈を確認できなかったことから竪穴状遺構の可能性も考慮される。

なお本建物の東部は調査区外に出ているため、全容を詳らかにできなかった。

位置 本建物はC2区中部の北寄り、調査区東壁際に接して在り、286～291-120～124グリッドに位置する。

重複 本建物は15号溝と重複するが、本建物の断面に同溝が現れないことから、本建物の方が新しいもの判断される。

規模 〔竪穴〕前後：4.12m 左右：(3.34)m

深さ：0.42m 床面積：(11.81)㎡

埋土 As-B弱暗褐色土、粘性やや弱く粗砂・小礫多く含む黒褐色土や、粘性やや強く粗砂・小礫少量含む黒褐色土、暗褐色土少量含む褐色粘土等で埋没する。いわゆる三角堆積等は確認できなかった。

構造 〔竪穴〕上述のように本建物は東側が調査区外に出るため全容が確認できないが、調査範囲の形状から推して、本建物の竪穴は、東西に長い隅丸長方形のプランを呈するものと推定される。なお竪穴の主軸の向きはN81°Wを向く。

〔掘り方・床〕本建物は0.13m以下の深さに掘削し、更に深さ0.23m以下の大型のものを中心とした土坑状の掘り込みを伴う掘り方を有し、これを粘性やや弱く小礫、地山砂礫層ブロックを含む暗褐色土で埋め戻して床面を造っている。

〔炉・竈〕炉や竈は確認されなかった。

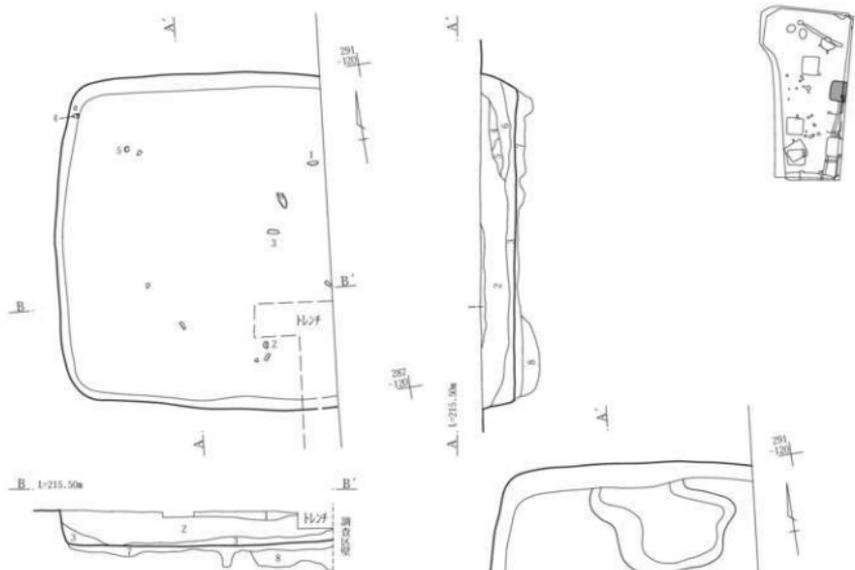
〔柱穴〕柱穴は確認されなかった。

〔貯蔵穴〕貯蔵穴は確認されなかった。

〔棟〕棟方向は想定できず、上屋の構造も確認できなかった。

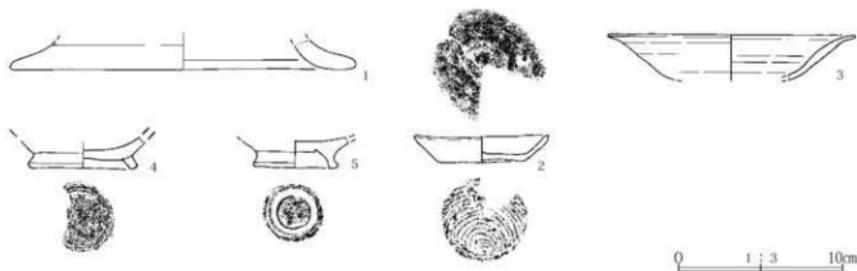
遺物 本建物からは土師器の甕(1)・須恵器の杯(2)・椀(3)、高台付椀2点(4・5)が出土した。このほか土師器片199片や須恵器片12片の出土を見た。

所見 本建物の時期は、出土遺物から推して11世紀の所産と判断される。



87号竪穴建物A-A'・B-B'

- 1 暗褐色土(10YR3/3):粘性・しまりやや弱。As-B極多量混じる
- 2 黒褐色土(10YR2/3):粘性やや弱、しまりやや強。粗砂・小礫少量混じる
- 3 黒褐色土(10YR2/2):粘性やや強、しまりやや弱。粗砂・小礫少量混じる
- 4 暗褐色土(10YR3/3):粘性・しまりやや弱。粗砂・小礫中量混じる
- 5 褐色土(10YR4/6):粘土質、粘性やや強、しまり強。暗褐色土中～小ブロック少量混じる
- 6 黒褐色土(10YR2/3):粘性やや強、しまりやや弱。粗砂・小礫少量混じる
- 7 暗褐色土(10YR3/3):粘性やや弱、しまりやや強。粗砂・小礫・地山中ブロック中量混じる
- 8 暗褐色土(10YR3/4):粘性やや弱、しまりやや強。粗砂・小礫・砂礫研大ブロック少量混じる



第242図 87号竪穴建物と出土遺物

88号竪穴建物(第243～246図、PL.54・55・123)

概要 本建物は竪付の竪穴建物である。

位置 本建物はC2区北部の南寄り中央に在り、292～296-126～129グリッドに位置する。

重複 本建物は単独で在り、他遺構との重複は見られなかった。

規模 [竪穴]前後:3.46m 左右:3.77m
深さ:0.29m 床面積:11.02㎡

[竪] 長さ:1.52m 幅:0.58m

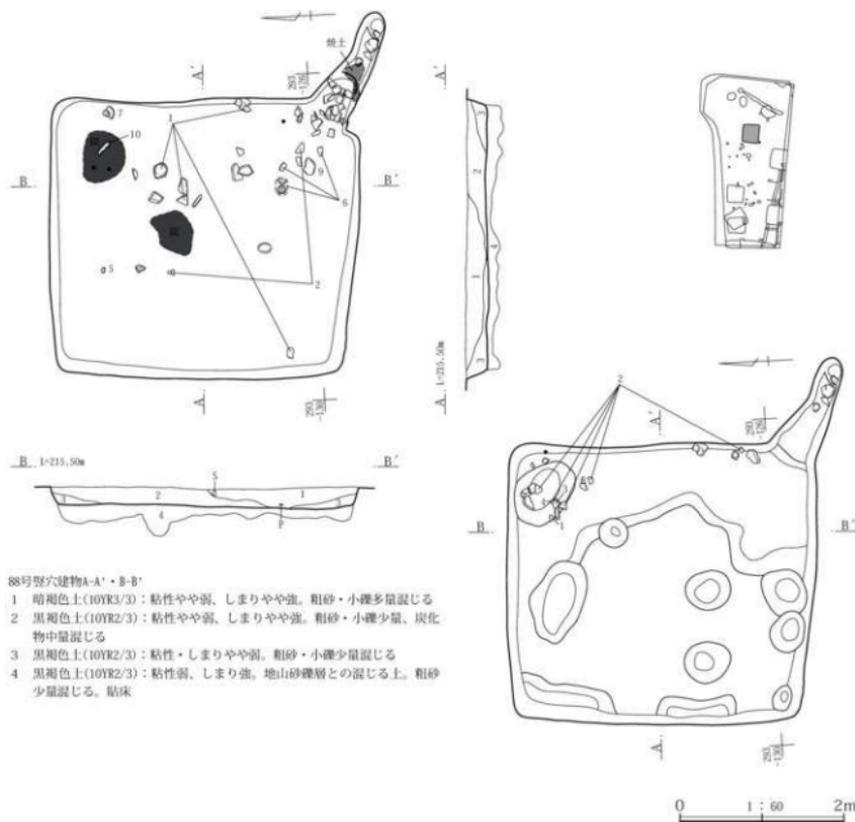
燃焼部 長さ:0.64m 幅:0.34m
深さ:-1m

煙道 長さ:0.83m 幅:0.40m 高さ:0.22m

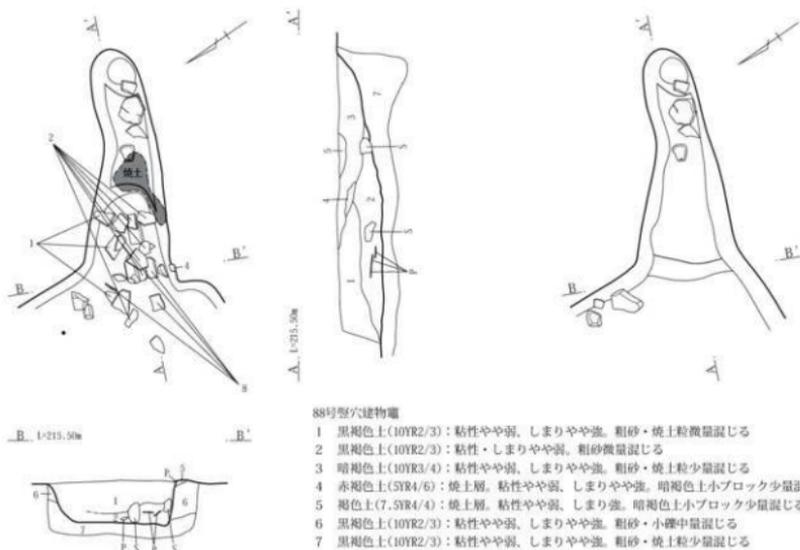
埋土 共に粘性やや弱い粗砂・小礫多く含む暗褐色土と粗砂・小礫・炭化物含む黒褐色土で埋没する。また粘性やや弱く粗砂・小礫少量含む黒褐色土がいわゆる三角堆積を形成する。

構造 [竪穴]竪穴は横長の隅丸長方形のプランを呈し、主軸の向きはN3°Eを向く。

[掘り方・床]本建物は掘り方を有する。掘り方には南東隅・東壁から北壁の半ばの壁際に幅1.00m以下、深さ0.16m以下を測る不整形な周溝状の掘り込みや西壁際の北部と中南部に幅0.26m、深さ0.11mを測る周溝状の掘り込



第243図 88号竪穴建物



88号竪穴建物竈

- 1 黒褐色土(10YR2/3)：粘性やや弱、しまりやや強、粗砂・焼土粒微量混じる
- 2 黒褐色土(10YR2/3)：粘性・しまりやや弱、粗砂微量混じる
- 3 暗褐色土(10YR3/4)：粘性やや弱、しまりやや強、粗砂・焼土粒少量混じる
- 4 赤褐色土(5YR4/6)：焼土層、粘性やや弱、しまりやや強、暗褐色土小ブロック少量混じる
- 5 褐色土(7.5YR4/4)：焼土層、粘性やや弱、しまり強、暗褐色土小ブロック少量混じる
- 6 黒褐色土(10YR2/3)：粘性やや弱、しまりやや強、粗砂・小礫中量混じる
- 7 黒褐色土(10YR2/3)：粘性やや弱、しまりやや強、粗砂・焼土粒少量混じる

第244図 88号竪穴建物竈

0 1:30 1m

み、径 $0.32 \times 0.22\text{m} \sim$ 径 $1.01 \times 0.36\text{m}$ 、深さ 0.27m 以下を測る。楕円形プランを中心とした大小8カ所の掘り込みを伴う。床はこの掘り方を粘性弱く粗砂少量含む黒褐色土と地山の砂礫の混土で造られる。

〔竈〕竈は東壁南端部に設けられ、その方位は $N61^\circ W$ を向く。

竪穴の東壁面を削り込む掘り方を有する。煙道部先端に幅 0.60m 、奥行き 0.61m 、深さ 0.11m の掘り込みが見られ、竪穴の壁面付近で 0.09m の落差を以て竪穴側が低い。この掘り方を粘性やや弱く粗砂と焼土粒少量含む黒褐色土で埋め戻して燃焼面を造る。

本建物の竈は竪穴調部の形状を利用した造りで、左右側共に袖は見られなかったが、左右側面を粘性やや弱く粗砂・小礫含む黒褐色土で覆い、右側の燃焼部に面した上位に粘性やや弱く暗褐色土ブロック含む褐色焼土が残る。

天井部の構造は確認できなかった。

燃焼部の角度から 5° 反時計回りに屈曲した煙道が掘削されているが、燃焼面と煙道底部は段差を持たず燃焼

部先端から 10° の角度で延伸し、先端で 45° 角で立ち上がる。

〔柱穴〕柱穴は確認されなかった。

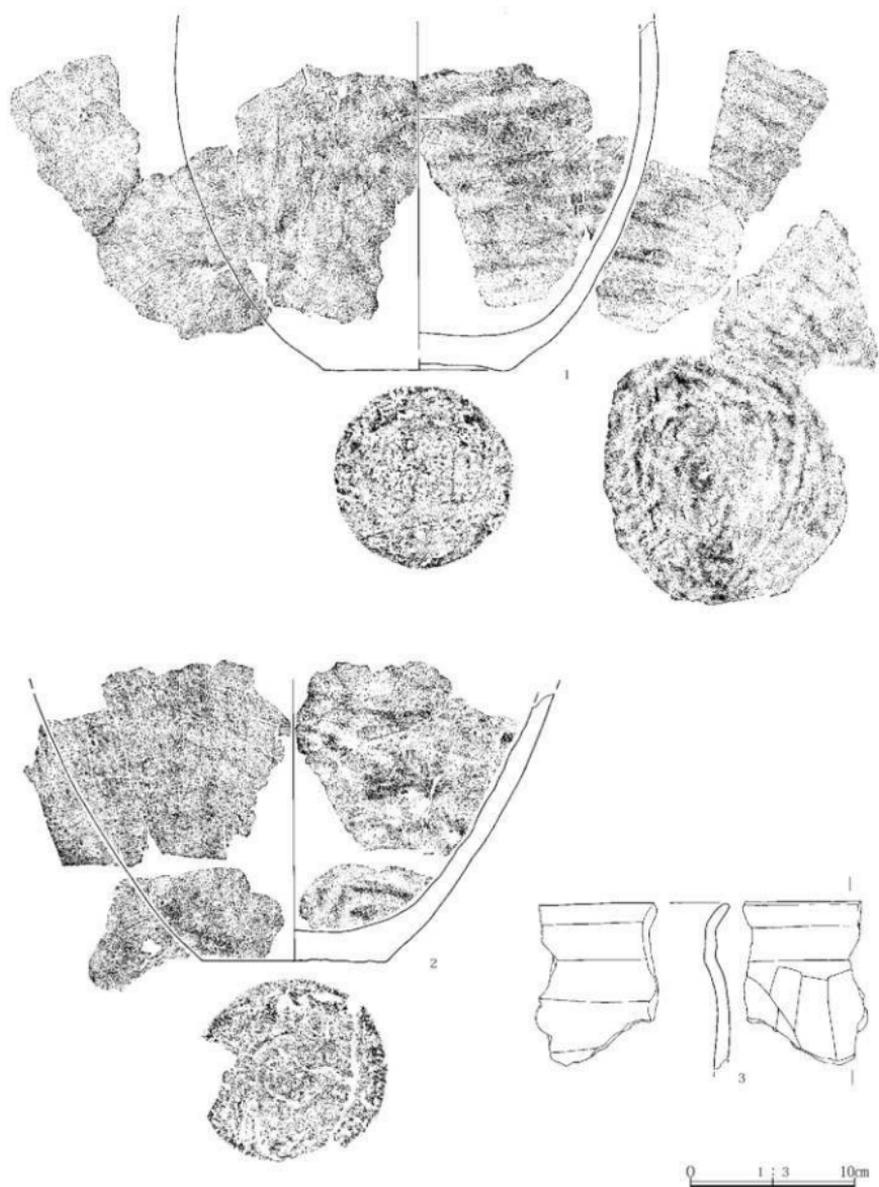
〔貯蔵穴〕貯蔵穴は確認されなかった。

〔棟〕棟方向は、竪穴の形状から推して、略南北方向にある可能性が高いように思量されるが、上屋構造の詳細は確認できなかった。

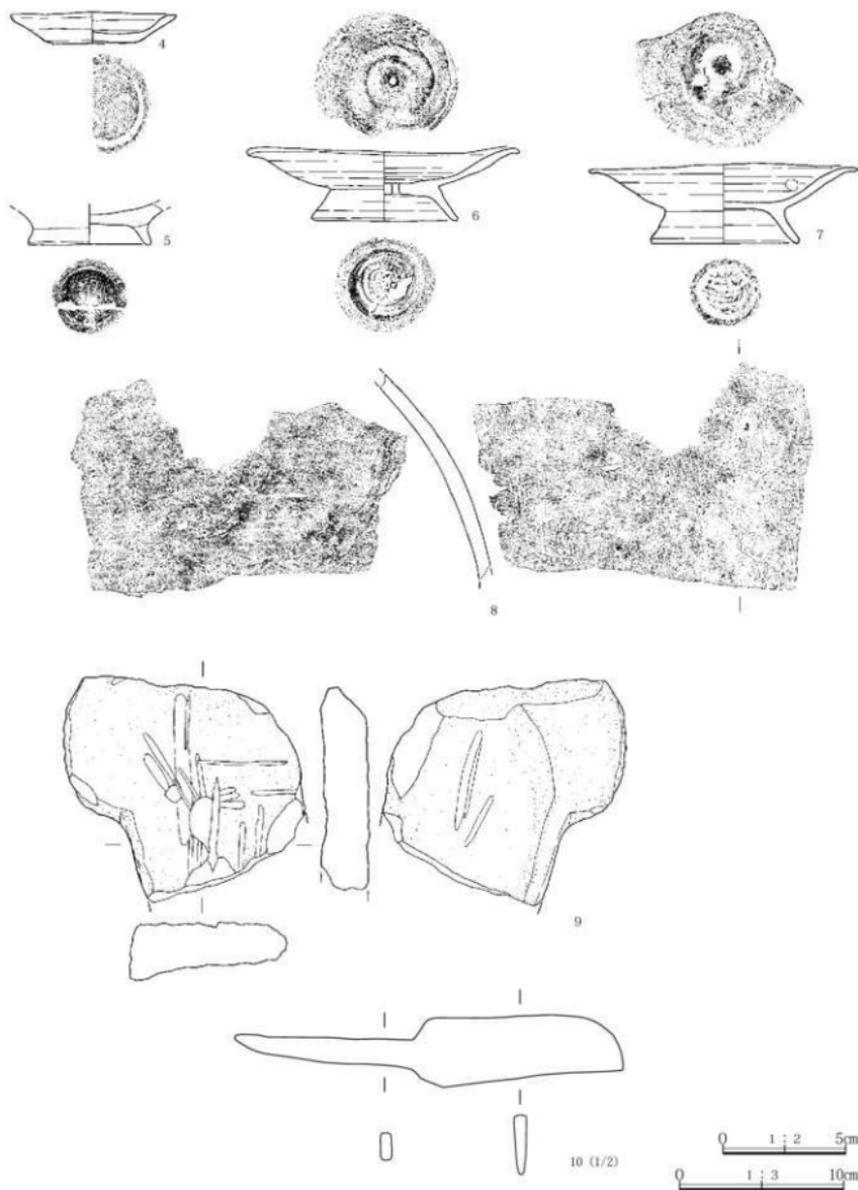
遺物 本建物からは土師器甕(1~3)や須恵器の杯(4)・高台付椀(5)・高台付杯(6・7)・甕(8)、磨面や刀ならし痕の残る礫石器(9)、そして刀子と思われる鉄製品(10)が出土した。このほか土師器片99片、須恵器片4片の出土も見た。

所見 本建物の時期は、出土遺物から推して10世紀後半から11世紀の所産と判断される。

また埋土中の炭化物の含有や、床面北東部に確認された $0.62 \times 0.50\text{m}$ 、中央部に確認された $0.55 \times 0.50\text{m}$ の範囲の炭の分布から、本建物は焼失家屋であった可能性が考慮される。



第245図 88号竪穴建物出土遺物(1)



第246図 88号竪穴建物出土遺物(2)

90号竪穴建物(第247・248図、PL.55)

概要 本建物は竪付の竪穴建物である。南側で11号溝と重複するため、全容は把握できなかった。

位置 本建物はC3区南東部に在り、307～311-119～123グリッドに位置する。

重複 本建物は11号溝と重複するが、本建物の方が古い。

規模 [竪穴]前後:3.10m 左右:(3.88)m
深さ:0.29m 床面積:(9.68)㎡

[竪] 長さ:1.22m 幅:1.02m

燃焼部 長さ:0.45m 幅:0.32m
深さ:-m

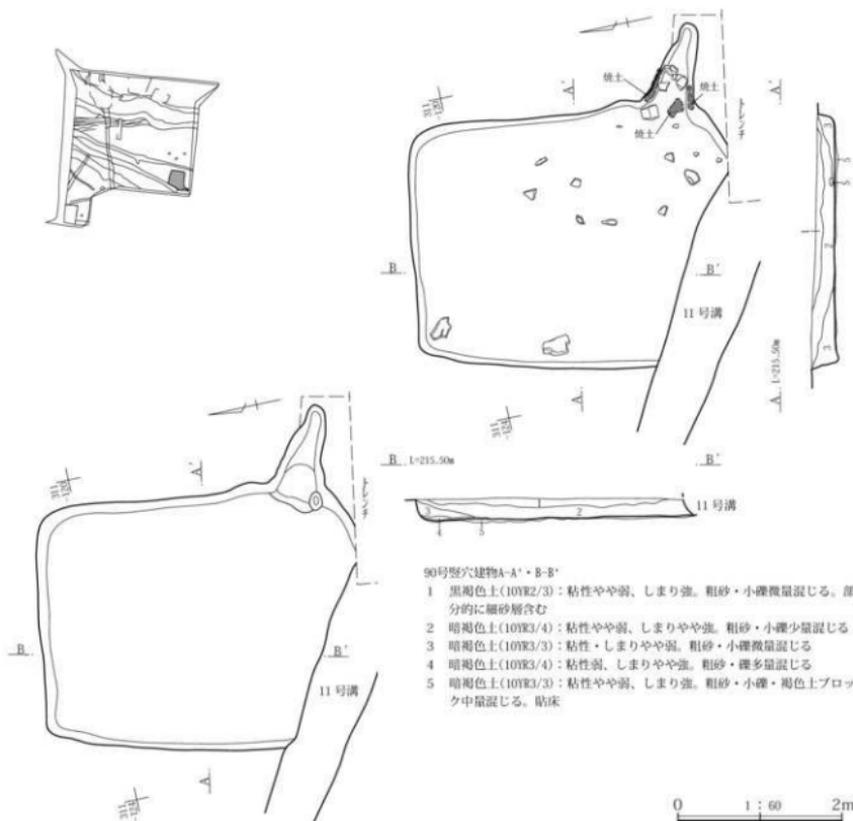
煙道 長さ:0.71m 幅:0.44m 高さ:0.06m

掘り方 長さ:0.58m 幅:0.48m

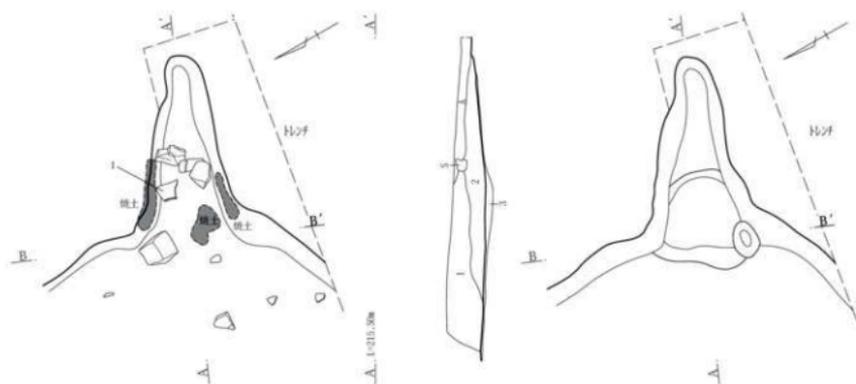
深さ:0.04m

埋土 共に粘性やや弱く部分的に細砂層入る黒褐色土と粗砂・小礫少量含む暗褐色土等で埋没する。粘性やや弱い暗褐色土がいわゆる三角堆積を形成し、北壁際ではその下に粘性弱く粗砂・礫多く含む暗褐色土が入る。

構造 [竪穴]上述のように本建物は南側が11号溝に壊されているため全容は詳らかでないが、本建物の竪穴は横長の隅丸長方形のプランを呈するものと判断される。その主軸の向きはN12°Eを向く。



第247図 90号竪穴建物



B. 1:215.50m

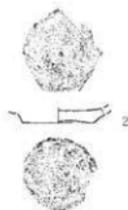
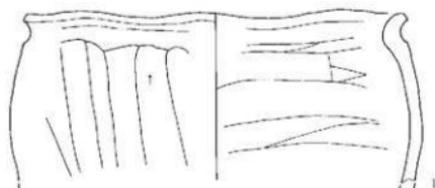
B'

90号竪穴建物竈

- 1 暗褐色土(10YR3/4):粘性やや弱、しまりやや強。粗砂・小礫少量混じる
- 2 暗褐色土(10YR3/3):粘性・しまりやや弱。粗砂微量、焼土粒子極微量混じる
- 3 暗褐色土(10YR3/3):粘性やや弱・しまりやや強。焼土粒・炭化粒少量混じる
- 4 暗褐色土(10YR3/3)
- 5 黒褐色土(10YR2/3):粘性・しまりやや弱。粗砂、極微量混じる
- A 暗褐色土(10YR3/3):粘性やや弱、しまりやや強。粗砂微量混じる。カマドより新しい土



0 1:30 1m



0 1:3 10cm

第248図 90号竪穴建物竈と出土遺物

〔掘り方・床〕本建物は深さ0.04m以下で弱い凹凸の見られる掘り方を有し、これを粘性やや弱く粗砂・小礫と褐色土ブロックを含む暗褐色土で埋め戻して、床面を造っている。

〔竈〕竈は東壁南端に設けられ、その方位はN65°Wを向く。

本建物は東壁を掘り込んで造られた隅丸三角形様のプランを呈する掘り方を有し、これを粘性やや弱く焼土粒炭化物粒を少量含む暗褐色土で埋め戻して燃焼面を造っ

ている。なお右側手前角部に径0.23×0.15m、深さ0.13m測る楕円形プランの小孔掘られる。

本竈は竪穴隅部の形状を利用して造られ、袖は造られていないが、上述の竈掘り方の小孔に袖石を据えた可能性が考慮される。

燃焼部手前側底面と左右側壁に焼土化が見られる。

燃焼部奥部を塞ぐように、燃焼面0.15mほどの位置に平石が横方向に3枚並べられているが、これらは裏を固定するための燃焼部の天井石の一部と判断される。

煙道は縦に長い凸形のプランを見せるが、燃焼面と煙道底面の境に段差はなく、煙道は5°の角度でせり上がる。先端で32°の角度で斜め上方向へ抜けている。

〔柱穴〕柱穴は確認されなかった。

〔貯蔵穴〕貯蔵穴は確認されなかった。

〔棟〕本建物は南側が11号溝に壊されているため全容は確認できないが、竪穴の形状から推して、棟方向は略南北方向を向くものと想定される。なお、細かい上屋構造は確認できなかった。

遺物 本建物からは土師器土釜(1)と須恵器杯(2)が出土したほか、土師器片31片の出土も見られた。

所見 本建物の時期は、出土遺物から推して11世紀の所産と判断される。

91号竪穴建物(第249図、PL.56)

概要 本建物は形状・規模から推して竪穴建物として調査したが、調査範囲内に炉や竈を確認できなかったことから竪穴状遺構の可能性も考慮される。

なお本建物は南側隅部付近の一部を調査してきたに過ぎなかった。

位置 本建物はC2区北端東寄りの調査区北壁際に在

り、303～304-120～123グリッドに位置する。

重複 本建物は92号竪穴建物と重複するが、本建物の方が新しい。

規模 〔竪穴〕前後：(0.97)m 左右：(1.88)m
深さ：0.18m 床面積：(1.06) m²

埋土 粘性やや弱く粗砂・小礫含む黒褐色土で埋没する。粘性やや弱く粗砂少量含む暗褐色土がやや崩れた状態ではあるが三角堆積等を形成する。

構造 〔竪穴〕上述のように、本建物はその一部を調査できたに過ぎないため全容は詳らかでないが、竪穴のプランは隅丸方形もしくは隅丸長方形のプランを呈するものと想定される。本建物の方向はN55°Wを向く。

〔掘り方・床〕本建物に掘り方は確認されず、地床の構造を呈するものと判断される。

〔炉・竈〕炉や竈は確認されなかった。

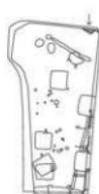
〔柱穴〕柱穴は確認されなかった。

〔貯蔵穴〕貯蔵穴は確認されなかった。

〔棟〕棟方向及び上屋構造は確認できなかった。

遺物 本建物からの遺物の出土は見られなかった。

所見 本建物の時期を特定することはできなかった。



91号竪穴建物A-A'

- 1 黒褐色土(10YR2/3):粘性やや弱、しまりやや強。粗砂・小礫中量混じる
- 2 暗褐色土(10YR3/3):粘性・しまりやや弱。粗砂少量混じる

0 1:60 2m

第249図 91号竪穴建物

92号竪穴建物(第250図、PL.56)

概要 建物は形状・規模から推して竪穴建物として調査したが、炉や竈を確認できなかったため竪穴状遺構の可能性も考慮される。

なお本建物はその一部を調査できたに過ぎない。

位置 本建物はC2区北東端の調査区東・北壁際に在り、303～304-119～120グリッドに位置する。

重複 本建物は91号竪穴建物と重複するが、本建物の方が古い。

規模 [竪穴]前後：(0.62)m 左右：(1.67)m
深さ：0.17m 床面積：(0.45)㎡

埋土 粘性弱く粗砂・小礫少量含むふい黄褐色土と粘性やや弱く粗砂・小礫少量含む黒褐色土で埋没する。なお本建物では、いわゆる三角堆積等は確認できなかった。

構造 [竪穴]上述のように、本建物はその一部を調査できたに過ぎず、竪穴の形状も方形様と認識できるに過ぎなかった。本建物の方向はN61°Wを向いている。

[掘り方・床]本建物も掘り方は確認されず、地床の構造を呈するものと判断される。

[炉・竈]炉や竈は確認されなかった。

[柱穴]柱穴は確認されなかった。

[貯蔵穴]貯蔵穴は確認されなかった。

[上屋]棟方向及び上屋構造も確認できなかった。

遺物 本建物からの遺物の出土は見られなかった。

所見 本建物の時期を特定することはできなかった。

93号竪穴建物(第251図、PL.56)

概要 本建物は竈の一部のみを調査した竪穴建物である。建物の殆どは東側調査区外に出るため、全容は確認できなかった。

位置 本建物はC2区南部の北寄り、調査区東壁際に在り、275～276-121～122グリッドに位置する。

重複 本建物は86号竪穴建物と重複するが、本建物の方が古い。

規模 [竈] 長さ：(0.73)m 幅：0.34m
燃焼部 長さ：(0.28)m 幅：(0.33)m
深さ：-1m

煙道 長さ：0.44m 幅：0.30m 高さ：0.10m

埋土 埋土は確認できなかった。

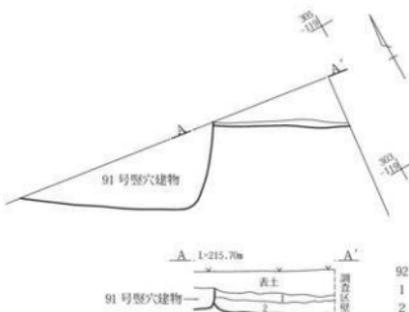
構造 [竪穴・掘り方・床]竪穴は確認できなかった。

[竈]竈は燃焼部の奥側から煙道を調査できたに過ぎない。その方位はN83°Eを向く。

本建物は壁面を削り込み燃焼部から煙道まで続く掘り方を有する。掘り方の底部を粘性やや弱く焼土粒等微量を含む黒褐色土で埋め戻し、燃焼部・煙道部の左右両側の壁面を外側斜め上方に向かって、少量の炭化物粒と微量の焼土粒を含む粘性やや弱い黒褐色土、粘性やや弱い赤褐色焼土、左側壁部では粘性やや弱い焼土粒等微量を含む暗褐色土を積み上げている。

袖は確認できなかった。

天井部の構造も詳らかにできなかったが、燃焼部左奥



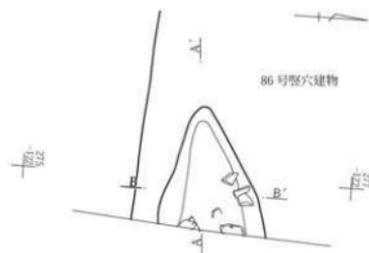
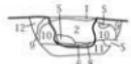
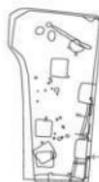
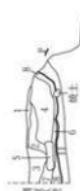
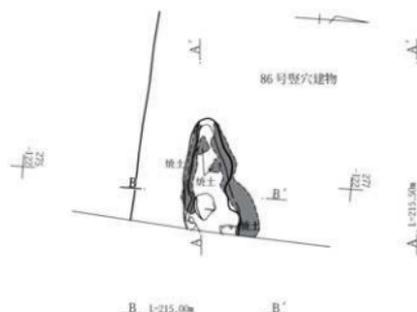
92号竪穴建物A-A'

- 1 ぶい黄褐色土(10YR4/3)：粘性弱、しまりやや強。粗砂・黄色粒少量混じる
- 2 黒褐色土(10YR2/3)：粘性やや弱、しまりやや強。粗砂・小礫少量混じる



0 1 : 60 2m

第250図 92号竪穴建物



93号竪穴建物

- 1 暗褐色土(10YR3/3):粘性弱,しまりやや強,焼土小ブロック中量混じる
- 2 暗褐色土(10YR3/3):粘性・しまりやや弱,焼土粒微量混じる
- 3 褐色土(10YR4/4):粘土層,粘性やや強,しまり強,暗褐色土小ブロック少量混じる
- 4 暗褐色土(10YR3/3):粘性・しまりやや弱,上部に焼土を層状に混じる
- 5 黒褐色土(10YR2/3):粘性・しまりやや弱,焼土粒微量混じる
- 6 暗褐色土(10YR3/4):粘性やや強,しまりやや弱,焼土粒・灰・炭化粒少量混じる
- 7 黒色土(10YR2/1):炭化物層,粘性やや弱,しまり弱,焼土灰微量混じる
- 8 にくい黄褐色土(10YR4/3):粘性やや弱,しまり弱,焼土小ブロック・焼土粒・炭化粒中量混じる
- 9 赤褐色土(5YR4/6):焼土層,粘性・しまりやや弱,暗褐色土小ブロック少量混じる
- 10 黒褐色土(10YR2/3):粘性・しまりやや弱,炭化粒少量,焼土粒微量混じる
- 11 黒褐色土(10YR2/3):粘性・しまりやや弱,粗砂微量,焼土粒・焼土ブロック微量混じる
- 12 暗褐色土(10YR3/4):粘性・しまりやや弱,粗砂・焼土粒微量混じる

0 1:30 1m

第251図 93号竪穴建物

側の燃焼面から0.02mほど上の位置に燃焼部の天井石と見られる平板状の礫が確認されている。

確認範囲の燃焼部(奥側)は緩傾斜を以てせり上がり、段差無くそのまま煙道に接続している。煙道のプランはやや膨らみを有する。

〔柱穴〕柱穴は確認されなかった。

〔貯蔵穴〕貯蔵穴は確認されなかった。

〔棟〕上屋の構造は想定もできなかった。

遺物 本建物からは土師器片38片、須恵器片4片の出土を見たが、図示すべきものは確認できなかった。

所見 出土遺物は見られたが、本建物の時期は特定できなかった。

94号竪穴建物(第252～254図、PL.56・57・123)

概要 本建物は竪付の竪穴建物である。

位置 本建物はC2区南部西寄りに在り、274～279-128～133グリッドに位置する。

重複 本建物は85号竪穴建物と重複するが、本建物の方が古い。

規模 〔竪穴〕前後:3.60m 左右:4.03m

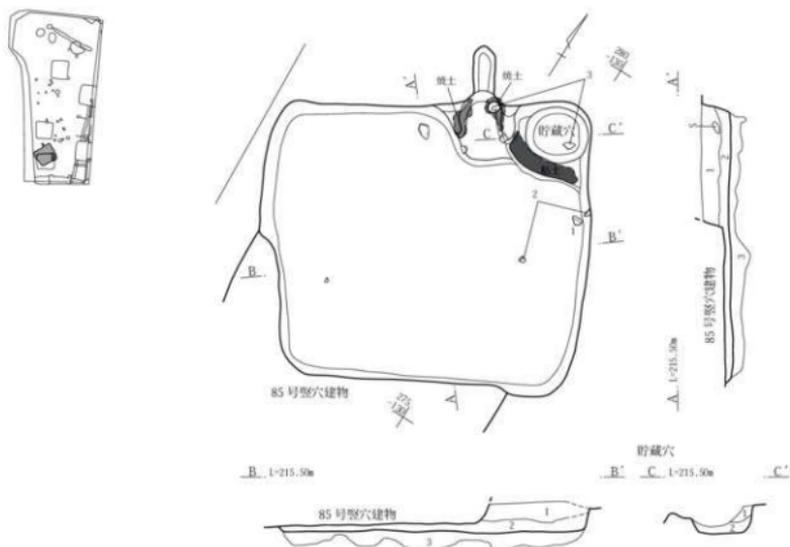
深さ:0.33m 床面積:11.47㎡

〔竪〕長さ:1.20m 幅:1.05m

左袖 長さ:0.43m 幅:0.40m 高さ:0.18m

右袖 長さ:0.47m 幅:0.28m 高さ:0.07m

燃焼部 長さ:0.56m 幅:0.38m

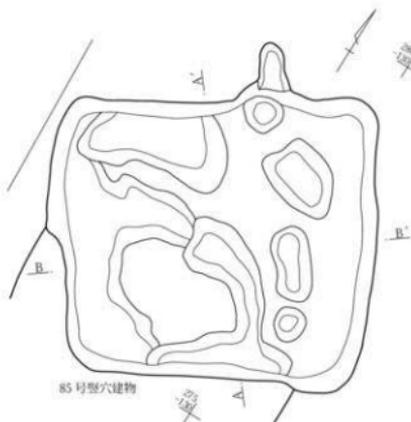


94号壙穴建物A-A'・B-B'

- 1 黒褐色土(10YR2/3)：粘性弱、しまりやや強。粗砂・小礫多量混じる
- 2 暗褐色土(10YR3/3)：粘性やや弱、しまりやや強。褐色土中～小ブロック中量、粗砂・小礫少量混じる
- 3 黒褐色土(10YR2/3)：粘性やや弱、しまりやや強。粗砂・小礫少量、褐色砂礫層大～中ブロック多量混じる。詰床

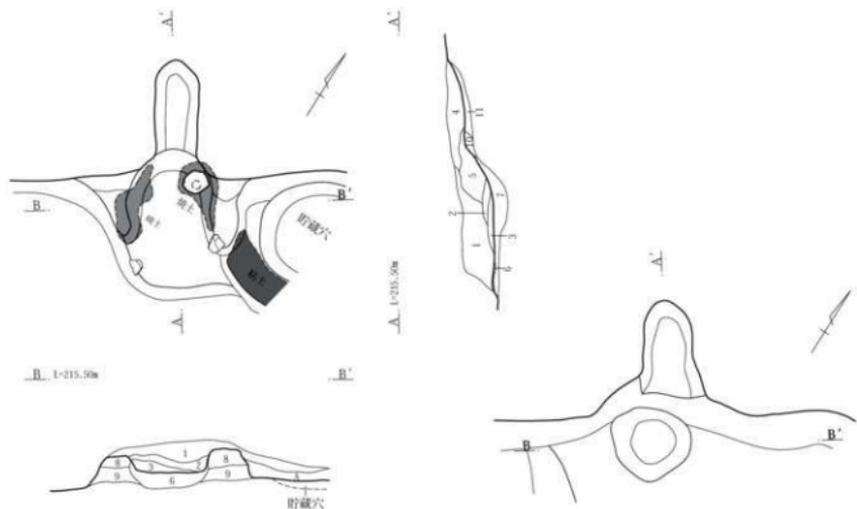
94号壙穴建物貯蔵穴

- 1 黒褐色土(10YR2/2)：粘性やや弱、しまりやや強。粗砂・小礫少量混じる
- 2 黒褐色土(10YR2/3)：粘性・しまりやや弱。粗砂・小礫中量混じる



0 1:60 2m

第252図 94号壙穴建物



94号竪穴建物遺

- 1 黒褐色土(10YR2/3)：粘性やや弱、しまりやや強、粗砂・小礫少量、焼土粒・炭化粒微量混じる
 - 2 褐色土(10YR4/4)：粘土層、粘性・しまりやや強、焼土小ブロック微量混じる
 - 3 暗褐色土(10YR3/3)：粘性・しまりやや弱、焼土粒・炭化粒少量混じる
 - 4 黒褐色土(10YR2/3)：粘性やや弱、しまりやや強、粗砂・小礫微量、焼土粒微量混じる
 - 5 暗褐色土(10YR3/3)：粘性やや弱、しまりやや強、粘土大ブロック中量、焼土小ブロック少量混じる
 - 6 黒色土(10YR1.7/1)：炭化物層、粘性やや弱、しまりやや強、灰・焼土少量混じる
 - 7 暗褐色土(10YR3/3)：粘性やや弱、しまりやや強、焼土粒・粗砂少量混じる
 - 8 ぶい黄褐色土(10YR4/3)：粘土主体、焼土中～小ブロック、暗褐色土小ブロック中量混じる
 - 9 黒褐色土(10YR2/3)：粘性やや弱、しまりやや強、粗砂・焼土粒少量混じる
 - 10 暗褐色土(10YR3/4)：粘性やや弱、しまりやや強、焼土粒少量混じる
 - 11 黒褐色土(10YR2/3)：粘性・しまりやや弱、焼土粒微量混じる
- A 黒褐色土(10YR2/3)：粘性・しまりやや弱、粗砂・小礫中量混じる

第253図 94号竪穴建物遺

深さ：0.02m

煙道 長さ：0.54m 幅：0.27m 高さ：0.12m

掘り方 長さ：0.45m 幅：0.48m

深さ：0.06m

〔貯蔵穴〕 平面規模：0.69×0.76m 深さ：0.19m

埋土 本建物は粘性弱く粗砂・小礫多く含む黒褐色土と粘性やや弱く褐色土ブロックと少量の粗砂・小礫含む暗褐色土で埋没する。いわゆる三角堆積等は確認できなかった。

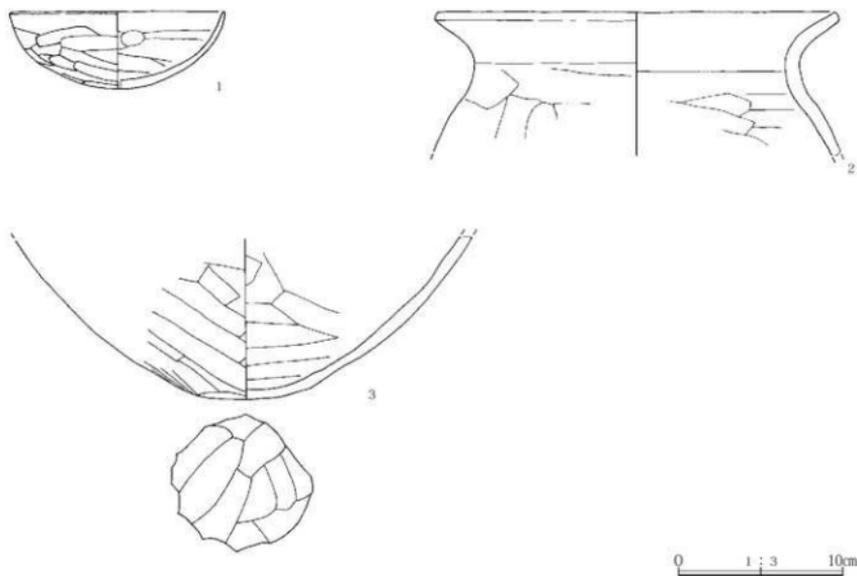
構造 〔竪穴〕竪穴は横長の隅丸長方形のプランを呈し、主軸の向きはN58°Eを向く。

〔掘り方・床〕本建物は深さ0.08～0.19mの大小多数の掘り込みを伴う掘り方を有し、これを粘性やや弱く多量の褐色砂礫ブロックと、少量の粗砂・小礫含む黒褐色土で埋め戻して床面を造る。北東部の竪と貯蔵穴付近の床面は、ほかより0.06mほど高く造られている。

〔竪〕竪は北壁東寄りには設けられ、その方位はN35°Wを向く。

竪穴北壁手前に略楕円形プランを呈する掘り方を有する。

その左右両側に粘性やや弱く粗砂・焼土粒少量含む黒褐色土、更に焼土と暗褐色土のブロック含むぶい黄褐



第254図 94号竪穴建物出土遺物

色粘土を載せて袖を造る。

左右袖間の底面には、粘性やや弱く焼土粒・粗砂少量含む暗褐色土で埋め戻して燃焼面を造る。なお手前側の燃焼面には、0.01m厚ほどの灰・焼土を少量含む黑色灰層の堆積が見られる。

天井部の構造は確認できなかった。

〔柱穴〕柱穴は確認されなかった。

〔貯蔵穴〕貯蔵穴は竪穴右側の竪穴北東隅に接して掘削されている。プランは楕円形に近い隅丸長方形を呈し、掘削形態は缶形を呈する。

〔棟〕棟方向は竪穴の形態から推して、東北東-西南西方向を向くものと判断される。また上屋構造は確認できなかった。

遺物 本建物からは土師器の杯(1)と甕(2・3)が出土した。このほか土師器片11片の出土があった。

所見 本建物の時期は、出土遺物から推して7世紀後半の所産と判断される。

95号竪穴建物(第255図、PL.57)

概要 建物に炉や竈を確認できなかったものの、形状・規模および柱穴や周溝の遺存から竪穴建物と認識、調査した。

なお、本建物は東側と南側が調査区外に出ていて北西側の一部を調査できたに過ぎなかった。

位置 本建物はC1区南部の南東隅に在り、229～232-124～126グリッドに位置する。

重複 本建物は82号竪穴建物と重複するが、本建物の方が古い。

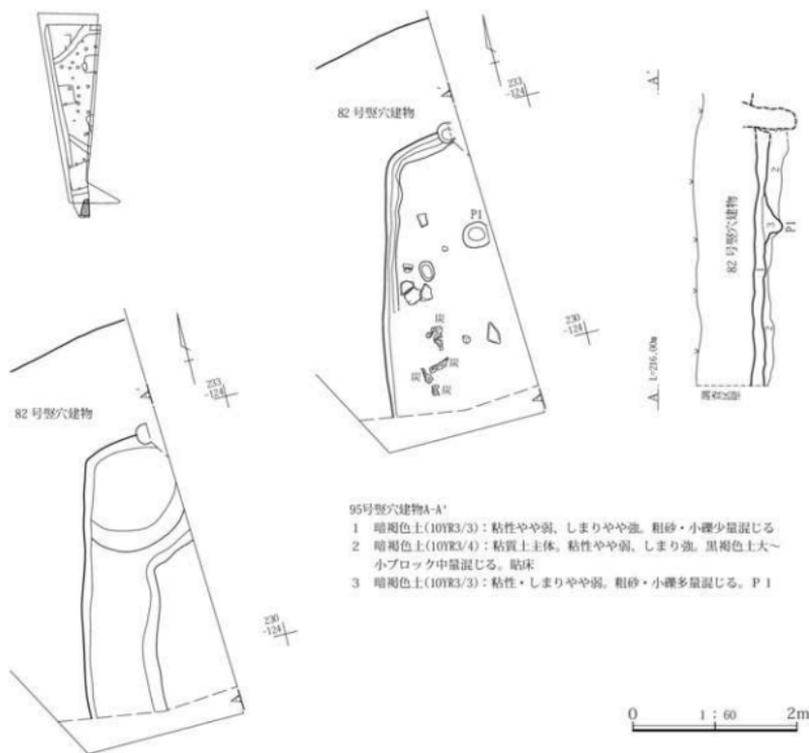
規模 〔竪穴〕前後：(3.54)m 左右：(1.83)m
深さ：0.20m 床面積：(4.41)㎡

〔P1〕 平面規模：0.31×(0.31)m 深さ：0.15m

〔周溝〕 長さ：2.54m 幅：0.16m 深さ：0.14m

埋土 粘性やや弱く粗砂・小礫少量含む暗褐色土で埋没する。いわゆる三角堆積等は確認できなかった。

構造 〔竪穴〕本建物は東側と南側が調査区外に出ていて全容は確認できなかったのであるが、竪穴は隅丸方形



第255図 95号竪穴建物

たは隅丸長方形のプランを呈するものと想定される。西壁方向は $N^{\circ}76W$ を向く。

またその規模も確認できなかつたのであるが、後述する柱穴(P1)掘削位置から、石守(1999)の柱穴の位置と竪穴建物の規模の比率を用いると、南北5.2m、東西4.4m程の規模であった可能性が推定される。

〔掘り方・床〕本建物は北壁際に幅1.58m以下、西壁際に幅0.80mほどで共に0.10mの深さに掘られた幅広の周溝状の掘削と、この周溝状の掘り込みの中の竪穴北西隅部に径1.24×1.10以上m、深さ0.09m以上を測る楕円形プランで丸底状の掘削形態を示す大型の土坑状の掘り込みを伴う掘り方を有する。この掘り方を粘性やや弱く黒褐色土ブロックを含む暗褐色粘質土で埋め戻して、床面が

造られている。

〔柱・竪〕柱や竪は確認されなかつた。

〔柱穴〕柱穴は確認範囲の北寄りでP1が確認された。確認された位置から北西部の柱穴と判断されるが、1基のみの確認であるため柱間などのデータを得ることはできなかった。

〔貯蔵穴〕貯蔵穴は確認されなかつた。

〔棟〕棟方向や上屋の構造を確認することはできなかった。

〔遺物〕本建物からは土師器片6片が出土したに過ぎない。またこれらの中に図化するべきものは認められなかつた。

〔所見〕本建物の時期は特定できなかった。

2 掘立柱建物

1号掘立柱建物(第256図、PL.58)

概要 本建物は1～5号ピットの5基の柱穴から成る総柱の掘立柱建物である。建物南東側は調査区外に出るため全容は確認できず、建物の北西側を調査できたに過ぎなかった。

位置 本建物はA区南部に南東隅近くに在り、153～156-135～136グリッドに位置する。

重複 本建物は単独で在り、他遺構との重複は見られなかった。

規模 [範囲]長さ:(2.82)m 幅:(1.61)m

[建物規模]長さ:(2.46)m 幅:(1.32)m

[1号ピット] 径:0.46×0.38m 深さ:0.36m

西 径:0.36×0.37m 深さ:0.36m

東 径:0.33×0.23m 深さ:0.17m

[2号ピット] 径:0.27×0.54m 深さ:0.35m

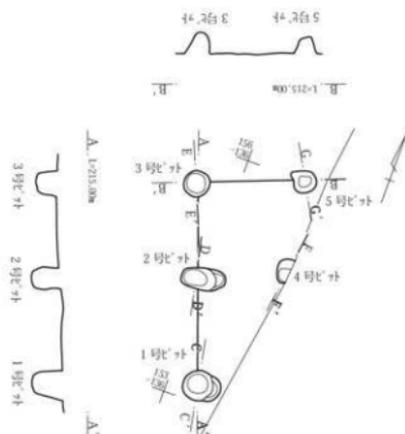
西 径:0.27×0.43m 深さ:0.35m

東 径:0.27×(0.21)m 深さ:0.16m

[3号ピット] 径:0.31×0.31m 深さ:0.26m

[4号ピット] 径:0.28×(0.18)m 深さ:0.23m

[5号ピット] 径:0.28×0.27m 深さ:0.21m



〔柱間〕

(桁間) 平均:1.24m

1号ピット-2号ピット :1.30m

2号ピット-3号ピット :1.20m

4号ピット-5号ピット :1.21m

(梁間) 平均:1.22m

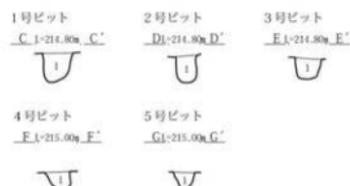
2号ピット-4号ピット :1.10m

3号ピット-5号ピット :1.33m

構造 [規格]上述のように本建物は南東側が調査区外に出るため、全容が確認できない。調査範囲では1×2間の規格となるが、確認されている梁間の規格が梁間一間型の建物とするには狭いため、総柱の掘立柱建物と想定される。また建物は南側に1間以上延伸しなければならず、東側にも延伸する可能性が考慮される。従って本建物の本来の規格は、縦横の柱間の比較から略南北に棟方向を取る2×2間以上の建物と想定される。主軸の向きはN20°Wを向く。

〔柱穴〕

(形態)柱穴のうち1・2号ピットは東西の部分から成る。柱穴のプランは1号ピットの東西各部と3号ピットは円形、2号ピット西部は隅丸長方形、東部は楕円形、4・5号ピットは隅丸方形を呈する。いずれも掘削形態は五



1～5号ピット

1 黒褐色土(10YR3/1):粘性中程度、しまり強。5mm大の小礫を少量含む

第256図 1号掘立柱建物

つ形を呈し、底面の形態は平底に近い丸底を呈する。
 (柱痕)いずれの柱穴も、柱痕は確認されていない。
 (柱)柱痕も特定できず、柱の規格は確認できなかった。
遺物 本建物からは、土師器片7片の出土があった。
所見 本建物の時期は特定できなかったが、柱穴の径の大ききからは中世以降の所産と判断され、更に本建物が梁間一間型ではなく総柱の建物であることから南北朝以降の所産と思量される。

2号掘立柱建物(第257図、PL.58)

概要 本建物は17・19・83・84号ピットのピット5基と29号土坑の土坑1基の柱穴から成る梁間一間型の掘立柱建物である。

位置 本建物はA区北部の南西に在り、195～200-145～150グリッドに位置する。

重複 本建物は28・29・41号竪穴建物と重複するが、すべての竪穴建物の調査後に本建物は確認、調査されている。

規模 [範囲]長さ：4.69m 幅：3.96m

[建物規模]長さ：4.17m 幅：3.47m

[17号ピット] 径：0.36×0.33m 深さ：0.24m

[18号ピット] 径：0.36×0.29m 深さ：0.41m

[19号ピット] 径：0.48×0.48m 深さ：0.29m

[29号土坑] 径：0.71×0.68m 深さ：0.53m

[83号ピット] 径：0.44×0.42m 深さ：0.32m

[84号ピット] 径：0.51×0.48m 深さ：0.51m

[柱間]

(桁間) 平均：1.99m

29号土坑-83号ピット : 1.94m

83号ピット-84号ピット : 2.25m

18号ピット-19号ピット : 1.77m

17号ピット-18号ピット : 1.99m

(梁間) 平均：3.41m

29号土坑-19号ピット : 3.43m

18号ピット-83号ピット : 3.47m

17号ピット-84号ピット : 3.33m

構造 [規格]本建物は1×2間の梁間一間型の掘立柱建物であるが、主軸の向きはN16°Wを向く。

また柱の配置は左辺を底辺とした台形状を呈しており、左辺と右辺の長さの比は20：17である。

[柱穴]

(形態)柱穴のプランは18号ピットと29号土坑は楕円形を呈し、他は円形に近い隅丸方形を呈する。掘削形態は29号土坑が漏斗状を呈する以外は、井筒形を呈し、底面形態は18・83が丸底状を呈する他は、平底状を呈する。

なお、その規格は17・18号ピットは中世、29号土坑と84号ピットは古代の柱穴の規模であり、19・83号ピットはその中間と同一性に欠く。

(柱痕) いずれの柱穴も、柱痕は確認されていない。

しかし北東側の19号ピットは0.38×0.26m、深さ0.06mを測る、隅丸長方形プランを呈する落ち込みが見られ、南西側の84号ピットの底面には径0.37×0.21m、深さ0.11mを測る、隅丸長方形で南東のみ楕円形のプランを呈する落ち込みが見られたが、これらの落ち込みは柱の荷重による塑性変形によるものと思量される。

(柱)柱痕は特定できなかったが、19・84号ピットの底面の塑性変形が柱の荷重によるものとする想定が正しければ、この2本の柱穴に据えられた柱の径は12×8寸の角柱が使用されたものと思量される。

遺物 本建物からは土師器片21片、須恵器片3片の出土があった。

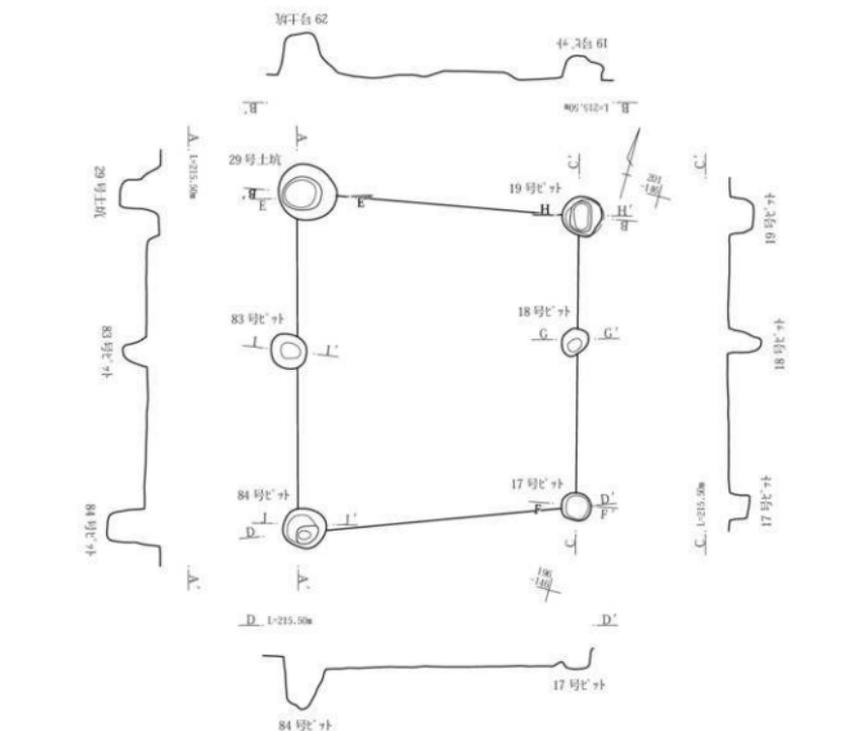
所見 本建物の時期は特定できなかったが、調査順位から導かれる新旧関係においては、重複関係にある竪穴建物の時期から推して8世紀前半以前の所産と診断され、29号土坑と84号ピットの規模もこれを肯定するものである。しかし建物の構造が中世に現れる梁間一間型の規格であり、17・18号ピットの規格に照らせば中世の所産の可能性も考慮される。この場合、竪穴建物の調査段階では本建物は認識されていなかった可能性が考慮される。

3号掘立柱建物(第258図、PL.59)

概要 本建物は161・166～168・182・196号ピットの6基の柱穴から成る掘立柱建物である。建物東側は調査区外に出ると想定され、全容は確認できていない。

位置 本建物はC1区中部に北東域に在り、250～256-124～127グリッドに位置する。

また調査段階では77号竪穴建物の北東部に重複する180号ピットも本建物に属するものとして調査しているが、180号ピットに対応する柱穴が、南側に確認されなかったことから、本建物に属するものと断定することは



29号土坑

E, 1-215.50m E'



17号ピット

F, 1-215.30m F'



18号ピット

G, 1-215.30m G'



19号ピット

H, 1-215.30m H'



83号ピット

I, 1-215.50m I'



84号ピット

J, 1-215.50m J'



29号土坑

- 1 褐灰色土(10YR4/1):粘性やや弱、しまりやや強。5mm大の小礫を少量、灰土粒を微量に含む。壁面が弱く破ける
- 2 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2):粘性中程度、しまりやや強。5mm大の小礫を少量含む
- 3 灰黄褐色砂質土(10YR4/2):粘性やや弱、しまり強。5mm大の小礫を中量含む

17・19号ピット

- 1 黒褐色土(10YR3/1):粘性中程度、しまり強。5mm大の小礫を少量含み、褐色土が混じる

18号ピット

- 1 褐灰色土(10YR4/1):粘性中程度、しまり強。白色粒を少量含み、黒色土が混じる

83号ピット

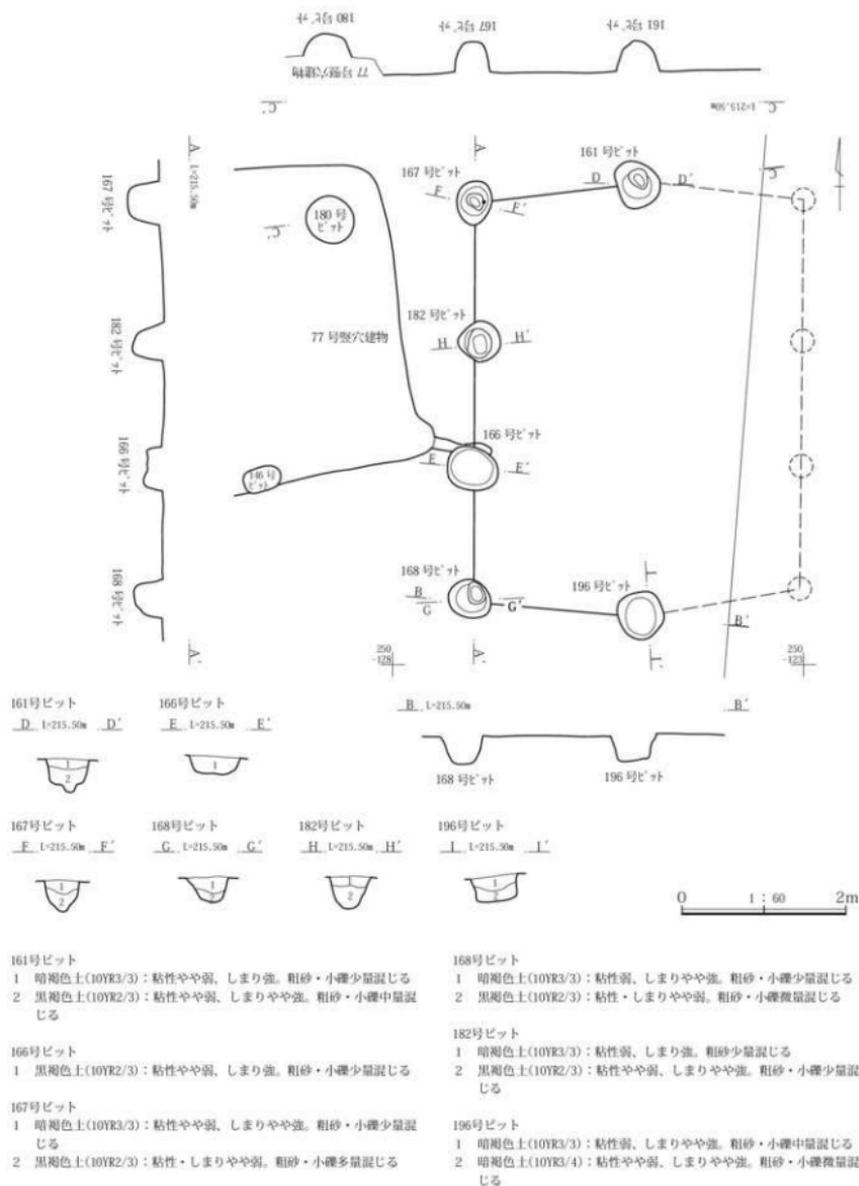
- 1 黒褐色土(10YR3/2):粘性やや弱、しまり強。5mm大の小礫を少量含み、褐色土が混じる

84号ピット

- 1 褐灰色砂質土(10YR4/1):粘性弱、しまりやや強。5mm大の小礫を少量含む
- 2 褐灰色砂質土(10YR4/1):粘性弱、しまりやや強。2cm大の礫を中量含む

0 1:60 2m

第257図 2号掘立柱建物



第258図 3号掘立柱建物

できなかった。

重複 本建物は77号竪穴建物の竈の煙道部と重複するが、本建物の方が新しい。

規模 [範囲]長さ：5.83m 幅：2.65m

[建物規模]長さ：5.33m 幅：2.04m

[161号ピット] 径：0.60×0.52m 深さ：0.38m

[166号ピット] 径：0.62×0.52m 深さ：0.22m

[167号ピット] 径：0.54×0.42m 深さ：0.38m

[168号ピット] 径：0.54×0.46m 深さ：0.36m

[182号ピット] 径：0.47×0.47m 深さ：0.38m

[196号ピット] 径：0.57×0.54m 深さ：0.34m

[柱間]

(桁間) 平均：1.59m

167号ピット-182号ピット : 1.75m

182号ピット-166号ピット : 1.49m

166号ピット-168号ピット : 1.53m

(梁間) 平均：2.03m

167号ピット-161号ピット : 2.01m

168号ピット-196号ピット : 2.04m

構造 [規格]本建物は西側に4基、東側に2基の柱穴を確認している。しかし西列の北端の柱穴の柱位置より東列北側の柱穴の柱位置が0.23m北側に張り出し、西列の南端の柱穴の柱位置より東列南側の柱穴の柱位置が0.25m南側に張り出していることから、東列の2基の柱穴は棟持柱と認識されるため、東側調査区外に西列の柱穴に対応する柱穴の存在が想定される。従って本建物は棟持柱が外側に出る、亀甲形の柱穴の配置を呈する2×3間の掘立柱建物と判断される。

主軸の向きはN0°を向く。

[柱穴]

(形態)柱穴のうち166・167号ピットは楕円形のプランを呈し、他の柱穴は、楕円形と隅丸方形が合するプランを呈する。掘削底面は166・196号ピットが平底状を呈する以外は丸底状を呈する。

(柱痕) いずれの柱穴も、柱痕は確認されていない。

しかし161号ピットの底面には径0.26×0.22m、深さ0.06mを測る隅丸三角形プランを呈する落ち込み、167号ピットの底面には径0.22×0.17m、深さ0.08mを測る隅丸台形様のプランを呈する落ち込み、168号ピットの底面には径0.28×0.20m、深さ0.06mを測る隅丸台形様

のプランを呈する落ち込み、182号ピットの底面には径0.34×0.28m、深さ0.06を測る隅丸長方形プランの落ち込みが見られる。これらは柱の荷重による塑性変形と思量される。

(柱)いずれの柱穴に対しても柱痕も特定できなかったため、柱の規格は確認できなかった。

しかし161・167・168・182号ピットの底面の塑性変形から、柱は8～9×6～7寸ほどの角柱であった可能性が考慮される。

遺物 本建物では161号ピットから土師器片4片と須恵器片1片、166号ピットから土師器片8片と須恵器片2片、167号ピットから土師器片12片と須恵器片2片、168号ピットから土師器片9片、182号ピットから土師器片11片、須恵器片2片、196号ピットから土師器片17片、須恵器片1片の出土を見たが、これらの遺物に図示すべきものは見られなかった。

所見 本建物の時期は特定できなかったが、柱の規模と柱穴の配置から古代の所産と判断される。また重複する77号竪穴建物の時期から、9世紀前半か10世紀以降の所産となる。

4号掘立柱建物(第259図、PL.59)

概要 本建物は14～16・81・82号ピットの5基の柱穴から成る梁間一間型の掘立柱建物である。

なお南東隅の柱穴は確認されなかった。

位置 本建物はA区南部の北端に在り、191～195-143～148グリッドに位置する。

重複 本建物は25号竪穴建物と重複するが、本建物の方が新しい。

規模 [範囲]長さ：4.33m 幅：3.26m

[建物規模]長さ：4.00m 幅：2.84m

[14号ピット] 径：0.32×0.32m 深さ：0.14m

[15号ピット] 径：0.38×0.38m 深さ：0.23m

[16号ピット] 径：0.36×0.36m 深さ：0.17m

[81号ピット] 径：0.46×0.39m 深さ：0.42m

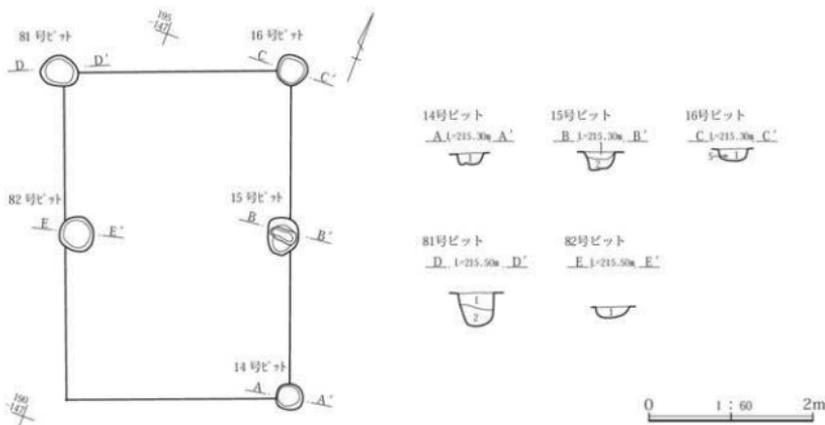
[82号ピット] 径：0.42×0.42m 深さ：0.15m

[柱間]

(桁間) 平均：1.98m

14号ピット-15号ピット : 1.98m

15号ピット-16号ピット : 1.99m



14号ビット

1 褐灰色土(10YR4/1)：粘性やや弱、しまり強。白色粒を少量含む

15号ビット

- 1 ぶい黄褐色砂質土(10YR5/3)：粘性弱、しまり強。5mm大の小礫を中量含む
- 2 黒褐色土(10YR3/2)：粘性弱、しまり強。2cm大の礫を少量含む

16号ビット

1 黒褐色土(10YR3/1)：粘性中程度、しまり強。5mm大の小礫を少量含む、褐色土が混じる

14号ビット

Δ, 1-215.30m, Δ'

15号ビット

B, 1-215.30m, B'

16号ビット

C, 1-215.30m, C'

81号ビット

D, 1-215.90m, D'

82号ビット

E, 1-215.90m, E'

81号ビット

- 1 褐灰色土(10YR4/1)：粘性やや弱、しまり強。焼土粒・5mm～2cm大の礫を少量含む
- 2 ぶい黄褐色砂質土(10YR4/3)：粘性弱、しまり強

82号ビット

1 灰黄褐色土(10YR4/2)：粘性弱、しまりやや強。5mm大の小礫を多量に含む

第259図 4号掘立柱建物

81号ビット～82号ビット : 1.97m

(梁間) 平均：2.68m

16号ビット～81号ビット : 2.84m

15号ビット～82号ビット : 2.51m

構造 [規格]本建物は南西隅の柱穴は確認されていないが、梁間一間型の1×2間の建物である。

主軸の向きはN20°Wを向く。

[柱穴]

(形態)柱穴のプランは、14・81号ビットは円形、15・82号ビットは楕円形、16号ビットは隅丸台形を呈する。掘削底面は14・15号ビットは平底を呈し、他のビットは丸底を呈する。

(柱痕) いずれの柱穴にも柱痕は確認されなかった。

なお15号ビットの底面には径0.32×0.15m、深さ0.09

mを測る半月形プラン様の落ち込みが見られる。

(柱)柱痕も特定できず、柱の規格は確認できなかった。

15号ビットの落ち込みが柱の荷重による塑性変形とするならば、その柱は1×0.5尺の板状のものの可能性が考えられる。

遺物 本建物からの遺物の出土は確認されなかった。

所見 本建物の時期は特定できなかったが、重複する25号竪穴建物の時期から7世紀後半以降の所産と判断されるものの、本建物の規格が梁間一間型で、柱穴の規模も14～16号ビットが中世、81・82号ビットは古代と中世の中間的規格であることから、本建物は中世の所産として捉えたい。

またその規模から推して、付属屋の可能性が考慮される。

3 土坑

1号土坑(第260図、PL.60)

概要 本土坑は底部付近が遺存している土坑である。

位置 本土坑はA区南部に北東寄りに在り、168～169～134～135グリッドに位置する。

重複 本土坑は単独で在り、他遺構との重複は見られなかった。

規模 長さ：1.02m 幅：0.95m 深さ：0.12m

埋土 粘性やや弱く小礫少量含む黒褐色土で埋没する。

構造 本土坑の主軸はN9°Wを向く。

プランは円形を呈し、底面形態は平底を呈する。

遺物 本土坑からは土師器片3片の出土を見た。

所見 本土坑の時期は特定できなかった。

また本土坑の掘削意図は想定されなかった。

2号土坑(第260図、PL.60)

概要 本土坑は西側が調査区外に出ており、全容は確認できなかった。

また後述のように本土坑は12号竪穴建物の一部(12号竪穴建物土坑2)である可能性があるものの、同建物廃絶直後に掘削された可能性も有するため、土坑としても報告する。

位置 本土坑はA区南部に北西隅に在り、169～170～143～144グリッドに位置する。

重複 本土坑は12号竪穴建物と重複する。同建物の床面を掘削していることから同建物の使用時、あるいは建物と同じ土壌が土坑の埋土上を覆うため建物の廃絶直後の所産の可能性が考えられる。

規模 長さ：(1.18)m 幅：0.85m 深さ：0.18m

埋土 粘性弱く小礫少量含む黒褐色土で埋没する。

構造 本土坑の主軸はN64°Eを向く。

プランは楕円形を呈し、底面形態はやや丸底気味の形状を呈する。

遺物 本土坑からの遺物の出土は見られなかった。

所見 本土坑の時期は特定できなかった。

また本土坑の掘削意図は想定されなかった。

3号土坑(第260図、PL.60)

概要 本土坑は16号竪穴建物との重複から、南側の状態

を把握することができなかった。

位置 本土坑はA区中部の南東隅に在り、175～133～134グリッドに位置する。

重複 上述のように本土坑は16号竪穴建物と重複するが、本土坑の方が新しい。

規模 長さ：0.82m 幅：0.67m 深さ：0.18m

埋土 粘性弱く小礫を含む黒褐色土で埋没する。

構造 本土坑の主軸はN85°Eを向く。

プランは、東側縁が突出する隅丸長方形を呈し、底面は平底を呈する。

遺物 本土坑は土師器片1片の出土を見た。

所見 本土坑の時期は特定できなかった。

また本土坑の掘削意図は想定されなかった。

5号土坑(第260図、PL.60)

概要 本土坑は遺存状態が比較的良好な土坑である。

位置 本土坑はA区中部の南東寄りに在り、180～132～133グリッドに位置する。

重複 本土坑は北西側に6号土坑と近接するものの、他遺構との重複は見られなかった。

規模 長さ：0.78m 幅：0.67m 深さ：0.25m

埋土 粘性やや弱く焼土粒と小礫を少量含む灰黄褐色土で埋没する。

構造 本土坑の主軸はN83°Eを向く。

プランは円形に近い楕円形を呈し、掘削形態は缶形で平底を呈する。

遺物 本土坑からの遺物の出土は見られなかった。

所見 本土坑の時期は特定できず、本土坑の掘削意図は特定されなかった。

6号土坑(第260図、PL.60)

概要 本土坑は遺存状態の比較的良好な土坑である。

位置 本土坑はA区中部の南東寄りに在り、180～181～133～134グリッドに位置する。

重複 本土坑は南東側に5号土坑と近接するものの、他遺構との重複は確認されなかった。

規模 長さ：1.19m 幅：0.65m 深さ：0.20m

埋土 小礫少量含む黒褐色土と褐色土少量含み人骨の入る黒褐色土で覆われる。

構造 本土坑の主軸はN11°Wを向く。

本土坑は角部の丸み強い割丸長方形のプランを呈する。掘削形態は箱型を呈し、底面形態は平底である。

遺物 本土坑からは成人1体分の人骨が出土したものの、出土遺物(副葬品)は見られなかった。

なお本土坑からは土師器片6片の出土を見ている。

所見 本土坑は人骨が出土することから、墓塚と判断される。

本土坑の時期は特定できなかったが、埋葬状態が北頭位西向横臥屈葬のいわゆる中世土墳墓であることから14～17世紀の所産の可能性を有するものの、現段階では凡そ中世(15・16世紀)の所産として報告する。

7号土坑(第260図、PL.60)

概要 本土坑は比較的良好な遺存状態を見せる土坑である。

位置 本土坑はA区中部東寄りに在り、182～183-134～135グリッドに位置する。

重複 本土坑は北西に7号ピットが近接するものの、他遺構との重複は見られなかった。

規模 長さ：0.69m 幅：0.64m 深さ：0.26m

埋土 粘性弱く小礫少量含む黒褐色土で埋没する。

構造 本土坑の主軸はN9°Wを向く。

本土坑は概ね円形のプランを呈し、底面形態は丸底状を呈する。

遺物 本土坑からは土師器片2片の出土があった。

所見 本土坑の時期は特定できなかった。

本土坑の掘削意図は想定されなかった。

8号土坑(第260図、PL.60)

概要 本土坑は遺存状態が良好な土坑である。

位置 本土坑はA区中部の調査区東壁際に在り、183～184-132～133グリッドに位置する。

規模の近い9号土坑が北側に近接する。

重複 本土坑は単独で在り、他遺構との重複は見られなかった。

規模 長さ：0.54m 幅：0.41m 深さ：0.28m

埋土 西壁際から底面に沿い粘性弱く小礫少量含む灰黄褐色砂質土が見られ、その上に粘性やや弱く小礫少量含む黒褐色土が入って埋没する。

構造 本土坑の主軸はN86°Eを向く。

本土坑は楕円形プランを呈する缶形の掘削形態で、底面形態は平底である。

遺物 本土坑からの遺物の出土はなかった。

所見 本土坑の時期は特定できなかった。

本土坑の掘削意図は想定されなかった。

9号土坑(第260図、PL.60)

概要 本土坑は遺存状態があまり良好でなく、底面近くを確認したに過ぎなかった。

位置 本土坑はA区中部の調査区東壁際に在り、184～185-132～133グリッドに位置する。

規模の近い8号土坑が南側に近接する。

重複 本土坑は単独で在り、他遺構との重複は見られなかった。

規模 長さ：0.54m 幅：0.51m 深さ：0.13m

埋土 粘性やや弱く小礫少量含む灰黄褐色土で埋没する。

構造 本土坑の主軸はN68°Eを向く。

本土坑は円形に近い楕円形のプランを呈し、底面形態は平底を呈する。

遺物 本土坑からの遺物の出土はなかった。

所見 本土坑の時期は特定できなかった。

本土坑の掘削意図は想定されなかった。

10号土坑(第260図、PL.60)

概要 本土坑の遺存状態はあまり良くなく、底面近くを調査したに過ぎなかった。

位置 本土坑はA区中部のやや東寄りに在り、184～185-135～136グリッドに位置する。

重複 本土坑は北側に17号竪穴建物と重複するが、本土坑の方が新しい。

規模 長さ：0.90m 幅：0.54m 深さ：0.36m

埋土 粘性弱く小礫少量含む黒褐色土で埋没する。

構造 本土坑の主軸はN24°Wを向く。

本土坑は楕円形のプランを呈し、底面形態は丸底気味である。

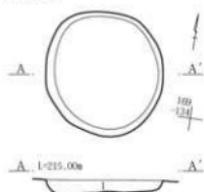
遺物 本土坑からは土師器片3片の出土を見た。

所見 本土坑は重複する17号竪穴建物との新旧関係から7世紀第3四半期以降の所産と判断されるものの、その時期を特定することはできなかった。

また本土坑の掘削意図は想定されなかった。

第2節 古代から中世の遺構と遺物

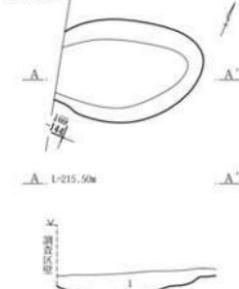
1号土坑



1号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/2):粘性やや弱、しまりやや強。白色粒・5mm大の小礫を少量含む

2号土坑



2号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/1):粘性弱、しまりやや強。白色粒・5mm大の小礫を少量含む

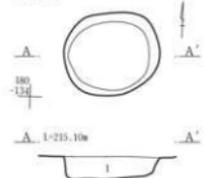
3号土坑



3号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/2):粘性弱、しまり強。白色粒・5mm大の小礫を中量含む

5号土坑



5号土坑

- 1 灰黄褐色土(10YR4/2):粘性やや弱、しまり強。焼土粒・5mm大の小礫を少量含む

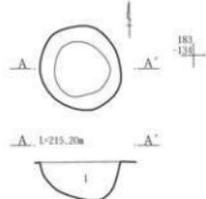
6号土坑



6号土坑

- 1 黒色土(10YR2/1):粘性中程度、しまりやや強。白色粒・5mm大の小礫を少量含む
2 黒褐色土(10YR3/2):粘性中程度、しまりやや強。褐色土粒を少量含む。人骨出土

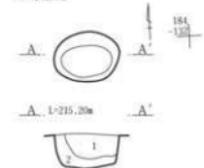
7号土坑



7号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/2):粘性弱、しまりやや強。5mm大の小礫を少量含む

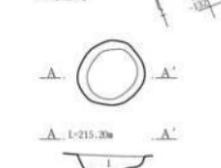
8号土坑



8号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/2):粘性やや弱、しまりやや強。5mm大の小礫を少量含む
2 灰黄褐色砂質土(10YR4/2):粘性弱、しまり中程度。5mm大の小礫を少量含む

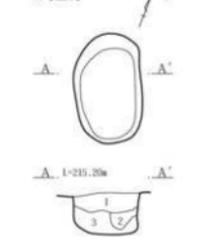
9号土坑



9号土坑

- 1 灰黄褐色土(10YR4/2):粘性やや弱、しまりやや強。5mm大の小礫を少量含む

10号土坑



10号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/1):粘性やや弱、しまり中程度。白色粒・5mm大の小礫を少量含む
2 黒褐色土(10YR3/2):粘性弱、しまり中程度。5mm大の小礫を少量含む
3 灰黄褐色砂質土(10YR4/2):粘性弱、しまり中程度



11号土坑(第261図、PL.60)

概要 本土坑の遺存状態はあまり良くなく、下位付近を調査できたに過ぎなかった。

位置 本土坑はA区中部のやや南寄り、調査区の西壁近くに在り、175～178-146～148グリッドに位置する。

重複 本土坑は単独で在り、他遺構との重複は見られなかった。

規模 長さ：3.43m 幅：0.76m 深さ：0.09m

埋土 粘性弱く小礫少量含む黒褐色土と小礫含む褐灰色砂質土で埋没する。

構造 本土坑の主軸はN52°Wを向く。

本土坑は隅部の丸みの強い短冊形のプランを呈し、底面形態は平底を成す。底面の中東部に、黒色土ブロックと小礫含む灰黄褐色砂質土で埋められた、主軸を土坑本体よりやや反時計回りのN64°Wに取り、長さ0.61m、幅0.20m、深さ0.27mを測る、隅部の丸みの強い隅丸長方形の土坑状の掘削が見られる。

遺物 本土坑からは土師器片17片、灰軸陶器片1片の出土があった。

所見 本土坑の時期は特定できなかったが、その形態から中世以降の可能性が考慮される。

また掘削意図は特定できなかったが、その形態から推して、貯蔵穴の可能性が考慮される。

12号土坑(第261図、PL.60)

概要 本土坑の遺存状態は良好ではなく、底部付近を調査できたに過ぎなかった。

位置 本土坑はA区中部の北西寄りに在り、183～184-149～151グリッドに位置する。

重複 本土坑は単独で在り、他遺構との重複は見られなかった。

規模 長さ：2.96m 幅：0.68m 深さ：0.10m

埋土 粘性弱く黒色土ブロックと小礫少量含む灰黄褐色土で埋没する。

構造 本土坑の主軸はN73°Eを向く。

本土坑は隅部の丸みの強い短冊形のプランを呈し、底面形態は平底を呈する。

遺物 本土坑からの遺物の出土はなかった。

所見 本土坑の時期は特定できなかったが、その形態か

ら推して中世以降の可能性を有する。

また掘削意図は特定できなかったが、その形態から推して、11号土坑と同様、貯蔵穴の可能性が考慮される。

13号土坑(第261図、PL.61)

概要 本土坑はおよそ北部が攪乱に壊されているため、全容は確認できなかった。

位置 本土坑はA区中部の北寄りに在り、190～191-138～139グリッドに位置する。

重複 本土坑は南側で17号竪穴建物と重複するが、本土坑の方が古い。

規模 長さ：(0.47)m 幅：0.65m 深さ：0.32m

埋土 灰黄褐色砂質土と小礫少量含む黒褐色砂質土で埋没する。

構造 本土坑の主軸はN3°Wを向く。

上述のように本土坑は北部が失われているため全容は詳らかでないが、プランは楕円形を呈するものと想定される。底面形態は丸底を呈する。

遺物 本土坑からは土師器片29片の出土があった。

所見 本土坑の時期は特定できなかったが、重複する竪穴建物の時期から7世紀後半以前の所産と判断される。

また、本土坑の掘削意図は想定されなかった。

14号土坑(第261図、PL.61)

概要 本土坑は遺存状態のやや良好な土坑である。

位置 本土坑はA区中部のやや北寄りに在り、188～189-132グリッドに位置する。

重複 本土坑は10号竪穴建物と重複するが、本土坑の方が新しい。

規模 長さ：0.71m 幅：0.52m 深さ：0.20m

埋土 粘性弱く小礫少量含む灰黄褐色土で埋没する。

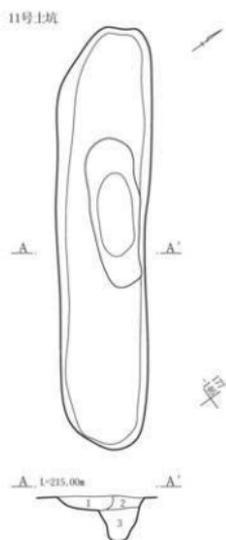
構造 本土坑の主軸はN81°Eを向く。

本土坑のプランは隅部の丸みが強い隅丸長方形を呈する。

遺物 本土坑からの遺物の出土はなかった。

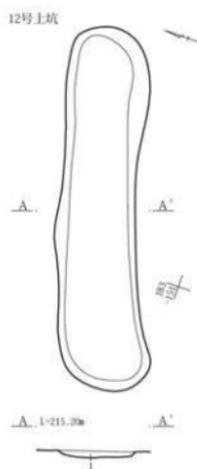
所見 本土坑の時期は特定できなかったが、重複する10号竪穴建物の時期から9世紀後半以降の所産と判断される。

本土坑の掘削意図は特定されなかった。



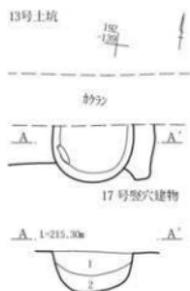
11号土坑

- 1 褐灰色砂質土(10YR4/1)：粘性弱、しまり強。5mm大の小礫を中量含む
- 2 黒褐色土(10YR3/2)：粘性弱、しまり強。白色粒・5mm大の小礫を少量含む
- 3 灰黄褐色砂質土(10YR4/2)：粘性弱、しまり強。黒色土ブロック・5mm大の小礫を中量含む



12号土坑

- 1 灰黄褐色土(10YR4/2)：粘性弱、しまり強。黒色土ブロック・5mm大の小礫を少量含む



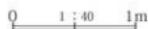
13号土坑

- 1 黒褐色砂質土(10YR3/2)：粘性やや弱、しまり強。5mm大の小礫を少量含む
- 2 灰黄褐色砂質土(10YR4/2)：粘性やや弱、しまり強。土師器片を含む



14号土坑

- 1 灰黄褐色土(10YR4/2)：粘性弱、しまりやや強。5mm大の小礫を少量含む



15号土坑(第262図、PL.61)

概要 本土坑は南側が攪乱に壊されていたため、全容は確認できなかった。

位置 本土坑はA区中部の北東域に在り、192～193～133グリッドに位置する。

重複 本土坑は北側で17号土坑と重複するが、本土坑の方が新しい。また位置的に南側で11号竪穴建物と重複する可能性を有するが、新旧関係を特定することはできなかった。

規模 長さ：0.55m 幅：(0.45)m 深さ：0.23m

埋土 本土坑は粘性やや弱く小礫少量含む黒褐色土で埋没する。

構造 本土坑の主軸はN62°Eを向く。

土坑南側は失われていたため、全容を詳らかにすることはできないが、残存部からそのプランは楕円形を呈するものと想定され、底面形態は丸底気味である。

遺物 本土坑からは土師器片1片の出土を見た。

所見 本土坑の時期は特定できなかった。

本土坑の掘削意図も特定されなかった。

16号土坑(第262図、PL.61)

概要 本土坑の遺存状態は比較的良好であるが、南壁の過半が攪乱に壊されて失われている。

位置 本土坑はA区中東部に在り、192～193～134～135グリッドに位置する。

重複 本土坑は北側で21号竪穴建物と重複するが、本土坑の方が新しい。

規模 長さ：1.32m 幅：1.20m 深さ：0.36m

埋土 粗粒の黒褐色砂質土で埋没し、粘性弱く小礫少量含む褐灰色土が載る。

構造 本土坑の主軸はN82°Eを向く。

本土坑は隅部の丸みの強い隅丸方形様のプランを呈し、底面形態は平底である。

遺物 本土坑からは土師器片41片、須恵器片2片の出土があった。

所見 本土坑の時期は特定できなかったが、重複する竪穴建物の時期から8世紀以降の所産と判断される。

また掘削意図は想定されなかった。

17号土坑(第262図、PL.61)

概要 本土坑は遺存状態の良好な土坑である。

位置 本土坑はA区中東部に在り、193～194～132～134グリッドに位置する。

重複 本土坑は21号竪穴建物と15号土坑と重複するが、本土坑は15号土坑よりは古く、21号竪穴建物よりは新しい。

規模 長さ：1.30m 幅：1.08m 深さ：0.40m

埋土 粘性の弱い小礫含む黒褐色土と小礫多量に含む褐灰色砂質土で埋没する。

構造 本土坑の主軸はN17°Wを向く。

本土坑は縦横比6：5を測る隅丸方形のプランを呈し、底面は平底状を呈する。

遺物 本土坑では下位層に土師器片が出土の記載があり、これを含めて土師器片28片、須恵器片2片の出土があった。

所見 本土坑の時期は特定できなかったが、重複する21号竪穴建物の時期から8世紀以降の所産と判断される。

なお本土坑の掘削意図は想定されなかった。

18・19号土坑(第262図、PL.61)

概要 18・19号土坑は連なって掘削されているが、それぞれの土坑に分割することはできなかった。なお遺存状態は比較的良好であった。

位置 18・19号土坑はA区中部の北東に在り、188～190～134～135グリッドに位置する。

重複 18・19号土坑は重複するが新旧関係の有無、あるいは併存の可否を特定することはできなかった。また11号竪穴建物と重複するが、18・19号土坑の方が古い。

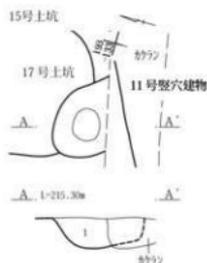
規模 長さ：1.56m 幅：1.15m 深さ：0.52m

18・19号土坑は分離できなかったため、規模は両土坑合わせた全体を記した。

埋土 18・19号土坑の下位は共に小礫少量含む黒褐色土で埋没するが、粘性は18号土坑の土壌はやや弱く、19号土坑は弱い。その上に両土坑共通の粘性やや弱く小礫含む灰黄褐色土が載る。

構造 18号土坑の主軸はN32°Wを向き、19号土坑の主軸はN64°Eを向く。

18号土坑のプランは楕円形を呈し、底面形態は丸底で



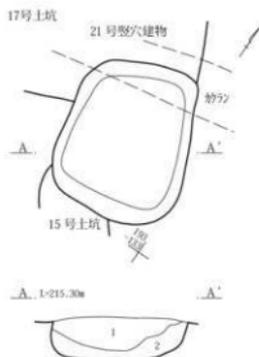
15号土坑

1 黒褐色土(10YR3/2)：粘性やや弱、しまり中程度。5mm大の小礫を少量含む



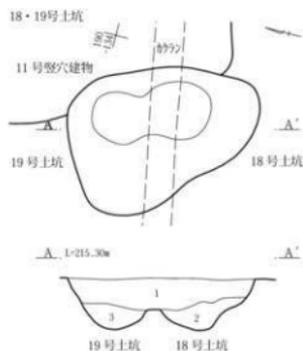
16号土坑

1 褐灰色土(10YR4/1)：粘性弱、しまりやや強。白色粒・5mm大の小礫を少量含む
2 黒褐色砂質土(10YR3/1)：粘性やや弱、しまりやや強。粗粒



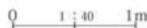
17号土坑

1 褐灰色砂質土(10YR4/1)：粘性弱、しまり強。5mm大の小礫を多量に含む
2 黒褐色土(10YR3/2)：粘性弱、しまり強。5mm大の小礫を中量、土師器片を少量含む
15号土坑に切られる。



18・19号土坑

1 灰黄褐色土(10YR4/2)：粘性やや弱、しまり強。白色粒・5mm大の小礫を中量含む
2 黒褐色土(10YR3/1)：粘性やや弱、しまり強。5mm大の小礫を少量含む
3 黒褐色土(10YR3/1)：粘性弱、しまり強。褐色土ブロック・5mm大の小礫を少量含む



第262図 土坑(3)

ある。一方、19号土坑のプランは隅が丸みの強い隅丸長方形のプランを呈し、底面は丸底状を呈するが、最深部は東寄りに在って楕円形のプランを呈する。

遺物 18・19号土坑からの出土遺物は共に見られなかった。

所見 18・19号土坑の時期は共に特定できなかったが、重複する11号竪穴建物の時期から推して、両土坑共に6世紀後半以前の所産と認識される。

また両土坑の掘削意図も特定されなかった。

20号土坑(第263図、PL.61)

概要 本土坑は比較的遺存状態の良い土坑である。

位置 本土坑はA区中部北東に在り、194～195-133～134グリッドに位置する。

重複 本土坑は21号竪穴建物と重複するが、本土坑の方が新しい。

規模 長さ：0.87m 幅：0.72m 深さ：0.32m

埋土 本土坑は共に粘性の弱い、小礫多量に含む黒褐色土と灰黄褐色土で埋没する。

構造 本土坑の主軸はN81°Eを向く。

本土坑は隅部の丸みの強い隅丸長方形のプランを呈し、平底を呈する缶形の掘削形態を成す。

遺物 本土坑からは土師器片3片の出土を見た。

所見 本土坑の時期は特定できなかったが、重複する21号竪穴建物の時期から8世紀以降の所産であることが確認される。

また本土坑の掘削意図は想定されなかった。

21号土坑(第263図、PL.61)

概要 本土坑は遺存状態のやや良好な土坑である。

位置 本土坑はB1区南部のやや西寄りに在り、227～228-144～グリッドに位置する。

重複 本土坑は西側に32号土坑と重複するが、本土坑の方が古い。

規模 長さ：0.50m 幅：0.43m 深さ：0.20m

埋土 粘性ある灰黄褐色土と粘性やや弱く焼土粒等微量に含む灰褐色土で埋没する。

構造 本土坑の主軸はN36°Eを向く。

本土坑のプランは東半部が楕円形、西半部が隅丸長方形を呈する。底面形態は丸底を呈する。

遺物 本土坑からは土師器片2片の出土を見た。

所見 本土坑の時期は特定できなかった。

また、本土坑の掘削意図は想定されなかった。

22号土坑(第263図、PL.61)

概要 本土坑は2度の掘り直しの可能性を有する、比較的良好的な遺存状態を見せる土坑である。

位置 本土坑はA区中部北端の中ほどに在り、194-142～143グリッドに位置する。

重複 本土坑は単独で在り、他遺構との重複は見られな

かった。

規模 長さ：0.83m 幅：0.70m 深さ：0.20m

埋土 東部が粘性やや弱く小礫少量含む黒褐色土、次に西部が粘性弱く小礫少量含むにぶい黄褐色土、更に東部が粘性弱い黒褐色土で埋没する。

構造 本土坑の主軸はN90°を向く。

本土坑は東側に本体とも見える南北0.32m、東西0.25mを測る隅丸長方形プランの掘り込みを有し、その底面から0.29m高い位置から西側に南北0.35m、東西0.28m以上を測る楕円形プランの掘り込みを伴うものであり、東側本体部の底面は平底気味、西側拡張部の底面は丸底を呈する。

遺物 本土坑からは土師器片4片の出土を見た。

所見 本土坑の時期は特定できなかった。

また本土坑の掘削意図は想定されなかったが、断面観察から最初に東側本体部が掘削され、その埋没後西側拡張部が掘削、その埋没後に東側で本体部よりやや狭い範囲で3度目の掘削がなされたと思量される。

23号土坑(第263図、PL.61)

概要 本土坑は遺存状態が比較的良好的な土坑である。

位置 本土坑はA区北部の南端中央に在り、198～199-139グリッドに位置する。

重複 本土坑は単独で在り、他遺構との重複は見られなかった。

規模 長さ：0.89m 幅：0.52m 深さ：0.39m

埋土 粘性やや弱く炭化物と小礫少量含む灰黄褐色土で埋没する。

構造 本土坑の主軸はN0°を向く。

本土坑は長円形のプランを呈する。南北0.20m、東西0.27mを測る楕円形プランの北部と、南北0.32m、東西0.26mを測る中・南部に分かれる、共に底面形態は平底を呈すると見られるが、北側は中・南部に対して0.08mほど低い。また北側の中央には南北0.10m、東西0.13m、深さ0.04mを測る楕円形プランの小さな窪みが残る。

遺物 本土坑からは土師器杯(1)と須恵器残片(2)が出土した他、土師器片32片と須恵器片1片の出土もあった。

所見 本土坑の時期は、出土遺物から推して7世紀後半の所産と判断される。

本土坑の掘削意図は特定されなかったが、北側の窪み

が荷重による塑性変形と考えれば、本土坑は柱穴の可能性が考慮される。

24号土坑(第263図、PL.61)

概要 本土坑は遺存状態のやや良好な土坑である。

位置 本土坑はA区北部南端のやや東寄りに在り、199～200-135グリッドに位置する。

重複 本土坑は単独で在り、他遺構との重複はなかった。

規模 長さ：0.75m 幅：0.43m 深さ：0.20m

埋土 粘性やや弱い褐色土混じりの黒褐色土で埋没する。

構造 本土坑の主軸はN8°Wを向く。

本土坑は隅丸長方形のプランを呈し、底面形態は平底状を呈する。

遺物 本土坑からの遺物の出土はなかった。

所見 本土坑の時期は特定できなかった。

本土坑の掘削意図は想定されなかった。

25号土坑(第263図、PL.61)

概要 本土坑は遺存状態はやや不良で、底面付近を調査できたに過ぎない。

位置 本土坑はA区北部の北東よりに在り、216～218-138～139グリッドに位置する。

重複 本土坑は37・38・57号竪穴建物と重複するが、本土坑の方が37・57号竪穴建物より新しいものの、38号竪穴建物との新旧関係は特定できなかった。

規模 長さ：1.35m 幅：1.29m 深さ：0.16m

埋土 粘性のやや弱い小礫含む褐色土で埋没する。

構造 本土坑の主軸はN0°を向く。

本土坑は円形に近い形状のプランを呈し、底面形態は平底である。

遺物 本土坑からは土師器片2片の出土を見た。

所見 本土坑は8世紀以降と判断される。

本土坑の掘削意図は想定されなかった。

27号土坑(第264図、PL.124)

概要 本土坑は遺存状態があまり良好ではなく、南側は38号竪穴建物に壊されているため、全容は詳らかでない。

位置 本土坑はA区北部北東よりに在り、218～219-135～136グリッドに位置する。

重複 本土坑は38・60号竪穴建物と重複するが、本土坑は38号竪穴建物より古く、60号竪穴建物より新しい。

規模 長さ：(1.23)m 幅：0.61m 深さ：0.24m

埋土 上位層は小礫少量含む、下位層には炭化物少量含む粘性やや弱い灰黄褐色土と、炭化物多量に含む灰黄褐色土で埋没する。

構造 本土坑の主軸はN27°Wを向く。

本土坑は隅部の湾曲の強い隅丸短冊形のプランを呈し、底面形態は平底状を呈する。

遺物 本土坑からはこも編み石(1)の出土が見られたほか、縄文時代中期の縄文土器片2片、土師器片67片の出土があった。

所見 本土坑の時期は特定できなかったが、重複する竪穴建物の時期から7世紀以降8世紀前半以前の所産として判断される。

本土坑の掘削意図は想定されなかった。

28号土坑(第264図、PL.61)

概要 本土坑は遺存状態が比較的良好であるが、西側が調査区外に出るため全容は詳らかにできなかった。

位置 本土坑はA区北部の南西隅に在り、193～194-152～153グリッドに位置する。

重複 本土坑は42・43号竪穴建物と重複するが、本土坑の方が新しい。

規模 長さ：0.98m 幅：(0.75)m 深さ：0.31m

埋土 小礫を少量含む焼土混じりの黒褐色土で埋没し、底面には褐色土と黒色土の入るにふい赤褐色焼土が堆積する。

構造 本土坑の主軸はN2°Eを向く。

上述のように本土坑の西側が調査区外に在って全容を把握できなかったが、そのプランは隅丸長方形を呈するものと想定される。壁面は鋭角に立ち上がり、底面は外縁が湾曲する平底状の形態を呈する。

遺物 本土坑からは土師器片17片の出土があった。

所見 本土坑の時期は特定できなかった。

本土坑の掘削意図は想定されなかった。

30号土坑(第264図、PL.61)

概要 本土坑は重複する他遺構と一括で掘削されたため、全容を詳らかにすることはできなかった。

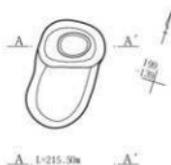
第3章 南蛇井北原田遺跡



20号土坑

- 1 灰黄褐色土(10YR4/2)：粘性弱、しまり強。褐色粒・5mm大の小礫を多量に含む
- 2 黒褐色土(10YR3/2)：粘性弱、しまり強。1層よりも粗粒。5mm大の小礫を多量に含む

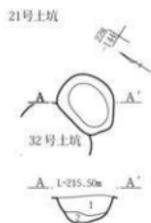
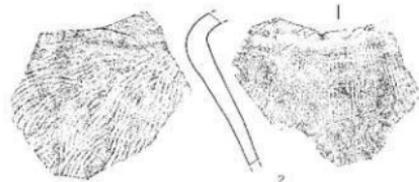
23号土坑



23号土坑

- 1 灰黄褐色土(10YR4/2)：粘性やや弱、しまり強。炭化物・5mm大の小礫を少量含む。土師器片を含む

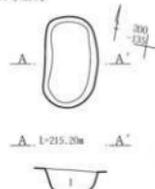
23号土坑



21号土坑

- 1 灰褐色土(5YR4/2)：粘性やや弱、しまり強。焼土粒・白色粒を微量に含む
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2)：粘性中程度、しまりやや強。5mm大の小礫を微量に含む

24号土坑



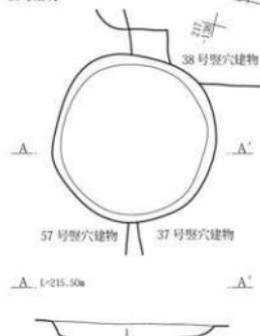
22号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/1)：粘性弱、しまり強。5mm大の小礫を微量に含む
- 2 にふい黄褐色土(10YR5/4)：粘性弱、しまり強。5mm大の小礫を少量含む。黒色土が混じる
- 3 黒褐色土(10YR3/2)：粘性やや弱、しまり強。5mm大の小礫を少量含む

24号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/1)：粘性やや弱、しまりやや強。白色粒を微量に含む。褐色土が混じる

25号土坑



25号土坑

- 1 褐灰色土(10YR4/1)：粘性やや弱、しまり強。5mm大の小礫を中量含む

0 1 : 3 10m

0 1 : 40 1m

第263図 土坑(4)

位置 本土坑はB1区中南部西端に在り、232-150グリッドに位置する。

重複 本土坑は45・46号竪穴建物、および2号溝と重複するが、いずれに対しても本土坑の方が新しい。

規模 長さ：(0.35)m 幅：(0.35)m 深さ：0.27m

埋土 粘性やや弱く褐色土と小礫を含む黒褐色土、およびにぶい黄褐色土で埋没する。

構造 本土坑の主軸は想定できない。

上述のように本土坑は全容を確認できなかったため断定はできないが、本土坑は円形または楕円形のプランを呈し、底面形態は平底状を呈するものと想定される。

遺物 本土坑からは土師器片1片の出土を見た。

所見 本土坑の時期は特定できなかったが、重複する竪穴建物の時期から8世紀前半以降の所産と判断される。

本土坑の掘削意図は想定されなかった。

31号土坑(第264図、PL.61)

概要 本土坑の遺存状態は比較的良好である。

位置 本土坑はB1区中南部に在り、231～232-142～143グリッドに位置する。

重複 本土坑は55号竪穴建物と重複するが、本土坑の方が新しい。

規模 長さ：0.90m 幅：0.87m 深さ：0.31m

埋土 小礫少量含む黒褐色粘質土で埋没する。

構造 本土坑の主軸はN48°Eを向く。

本土坑のプランは円形を呈し、底面形態は丸底を呈する。

遺物 本土坑の底面などから、土師器片3片、須恵器片1片の出土があった。

所見 本土坑は8世紀前半以降と判断される。

また本土坑の掘削意図は想定されなかった。

32号土坑(第264図、PL.61)

概要 本土坑の遺存状態はやや悪く、底面に近い箇所を調査できたに過ぎなかった。

位置 本土坑はB1区南部のやや西寄りに在り、227～228-144～145グリッドに位置する。

重複 本土坑は21号土坑と重複するが、本土坑の方が新しい。

規模 長さ：0.66m 幅：(0.50)m 深さ：0.18m

埋土 黒褐色土と灰黄褐色土で埋没する。

構造 本土坑の主軸はN21°Eを向く。

本土坑は楕円形のプランを呈し、底面形態は丸底状を呈する。

遺物 本土坑からは土師器片1片の出土を見た。

所見 本土坑の時期は特定できず、掘削意図も特定できなかった。

35号土坑(第265図、PL.62)

概要 本土坑は底面近くを調査できたに過ぎず、遺存状態はあまり良好ではない大型の土坑である。

なお本土坑の主軸は7号溝の走行に平行に在る。

位置 本土坑はB1区北部に在り、246～247-142～144グリッドに位置する。

重複 本土坑は単独で在り、他遺構との重複は見られなかった。

規模 長さ：1.81m 幅：1.29m 深さ：0.26m

埋土 礫少量含む暗褐色砂質土で埋没する。

構造 本土坑の主軸はN49°Wを向く。

本土坑は楕円形のプランを呈し、底面は平底を呈する。

遺物 本土坑からは土師器片7片の出土を見た。

所見 本土坑の時期は特定できなかった。

また本土坑の掘削意図も特定できなかった。

36号土坑(第265図、PL.62)

概要 本土坑は、遺存状態が比較的良好的な小型の土坑である。

位置 本土坑はB1区北部北東に在り、246～247-136グリッドに位置する。

重複 本土坑は70号竪穴建物と重複するが、本土坑の方が新しい。

規模 長さ：0.48m 幅：0.46m 深さ：0.26m

埋土 粘性なく礫少量含む暗褐色土で埋没する。

構造 本土坑の主軸はN34°Wを向く。

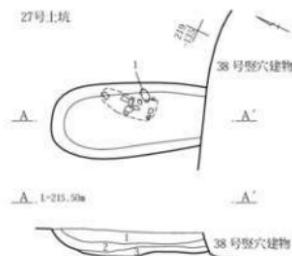
本土坑は隅部の丸みの強い隅丸方形のプランを呈し、底面形態は平底である。

遺物 本土坑からは土師器片2片の出土を見たに過ぎない。

所見 本土坑は6世紀後半以降と判断される。

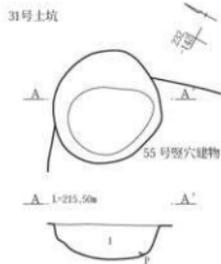
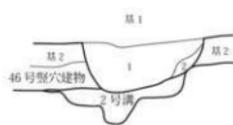
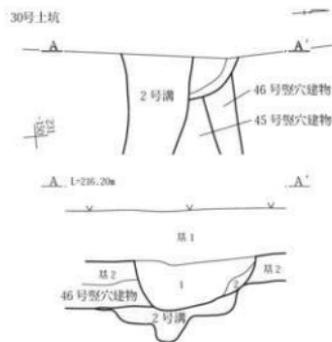
本土坑の掘削意図は想定されなかったが、その規模が

第3章 南蛇井北原田遺跡



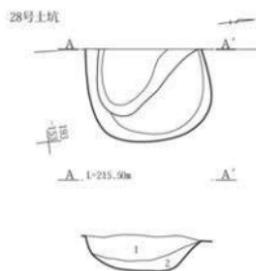
27号土坑

- 1 灰黄褐色土(10YR4/2): 粘性やや弱、しまり強。5mm大の小礫を少量含む
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2): 粘性やや弱、しまり強。炭化物を少量含む。一部界面が壊れる
- 3 黒色土(10YR2/1): 粘性中程度、しまり中程度。炭化物を多量に含む



31号土坑

- 1 黒褐色粘質土(10YR3/2): 粘性やや強、しまりやや強。5mm大の小礫を少量含む。底面から土師器が出た



28号土坑

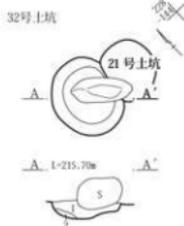
- 1 黒褐色土(10YR3/2): 粘性中程度、しまりやや強。5mm大の小礫を少量含む。焼土が混じる
- 2 に近い赤褐色土(5YR4/4): 焼土主体。粘性中程度、しまりやや強。褐色土・黒色土のブロックが混じる

基本土層(耕作土)

- 1 黒褐色土(10YR3/2): 粘性やや弱、しまり強。5mm大の小礫を少量含む
- 2 黒褐色土(10YR3/1): 粘性やや弱、しまり強。白色粒・褐色粒・5mm大の小礫を中量含む

30号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/1): 粘性やや弱、しまり中程度。5mm大の小礫を中量含む、褐色土が混じる
 - 2 に近い黄褐色土(10YR6/3): 粘性中程度、しまりやや強。白色粒・5mm大の小礫を微量に含む
- 45・46号壑穴建物、2号溝より新しい



32号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/1): 粘性中程度、しまり中程度。白色粒・5mm大の小礫を微量に含む
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2): 粘性中程度、しまり中程度。褐色粒を微量に含む

0 1:40 1m

ら推して柱穴の可能性が考慮される。

37号土坑(第265図、PL.62)

概要 本土坑は7号溝の埋土の中に掘削された、遺存状態の比較的良好な大型の土坑である。

位置 本土坑はB1区北東部に在り、241～243-134～136グリッドに位置する。

重複 本土坑は70号竪穴建物と7号溝と重複するが、両者に対して本土坑の方が新しい。

規模 長さ：1.75m 幅：0.99m 深さ：0.48m

埋土 記録に不備があり明確ではないが、少量含む黒褐色土や7号溝を埋める暗褐色土等で埋没するように見受けられる。

構造 本土坑の主軸はN54°Wを向く。

本土坑は楕円形に近い隅丸長方形のプランを呈し、掘削形態は舟形様で、底面は平底状を呈する。

遺物 本土坑からの遺物の出土はなかった。

所見 本土坑の時期は特定できなかった。

本土坑の掘削意図は想定されなかった。

39号土坑(第265図、PL.62)

概要 本土坑も7号溝の埋土の中に掘削された、遺存状態の比較的良好な大型の土坑である。

位置 本土坑はB1区とB2区の端境に在り、246～248-141～142グリッドに位置する。

重複 本土坑は7号溝と重複するが、本土坑の方が新しい。

規模 長さ：1.70m 幅：0.95m 深さ：0.26m

埋土 本土坑の埋土は、記録の不備があっても明瞭ではないが、小礫を含む黒褐色土等で埋没するものと見受けられる。

構造 本土坑の主軸はN33°Wを向く。

本土坑は楕円形に近い隅丸長方形のプランを呈し、底面形態は平底を呈する。

遺物 本土坑からの遺物の出土はなかった。

所見 本土坑の時期は特定できなかった。

本土坑の掘削意図は想定されなかった。

尚、本土坑の長軸は7号溝の走行の方向と近似するため、埋没した7号溝の存在を認識しながら掘削したものと思量される。

40号土坑(第265図、PL.62)

概要 本土坑は遺存状態がさして良好ではない小型の土坑である。

位置 本土坑はB1区北東部、調査区の東壁際に在り、245-134グリッドに位置する。

重複 本土坑は70号竪穴建物と重複するが、本土坑の方が新しい。

規模 長さ：0.55m 幅：0.47m 深さ：0.21m

埋土 粘性やや弱く細砂多量に含む暗褐色土で埋没し、後述する凹部には粘性やや強く褐色土と多量の細砂混ざる黒褐色土が入る。

構造 本土坑の主軸はN6°Wを向く。

本土坑は楕円形プランで、底面形態は平底を呈する。底面中央に径0.20m、深さ0.10m以下を測る楕円形プランを呈する掘り込みを伴う。

遺物 本土坑からは7片の土師器片の出土を見た。

所見 本土坑の時期は特定できなかったが、重複する70号竪穴建物の時期からは6世後半以降の所産と判断される。また本土坑の用途が後述の用途であるとするならば、その規模から推しておおむね古代以前の所産で、中世には下らないものと判断される。

本土坑は底面の凹部が柱の荷重による塑性変形あるいは柱痕とするならば、本土坑は柱穴としての使用が考えられる。なお、底面の凹部が柱痕とするならば、本土坑は調査時点での掘削が不足していた可能性が考慮される。

41号土坑(第266図、PL.62)

概要 本土坑は比較的大型の土坑であるが、遺存状態は不良で、底面近くを調査できたに過ぎなかった。

位置 本土坑はB2区南東隅部に在り、253～254-136グリッドに位置する。

重複 本土坑は6号溝の中に掘削されるが、本土坑の方が新しい。

規模 長さ：1.02m 幅：0.91m 深さ：0.11m

埋土 細砂入る黒褐色砂質土で埋没する。

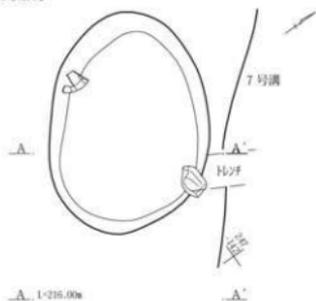
構造 本土坑の主軸はN35°Eを向く。

本土坑は円形に近い隅丸三角形のプランを呈し、底面形態を呈する。

遺物 本土坑からは土師器片5片が出土したが、図示す

第3章 南蛇井北原田遺跡

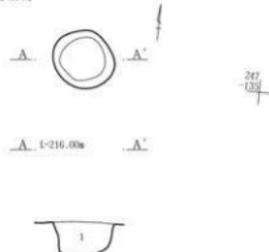
35号土坑



35号土坑

1 暗褐色砂質土(10/R3/4)；粘性なし、しまり強。石少量含む

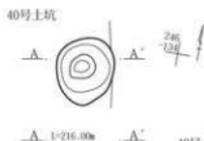
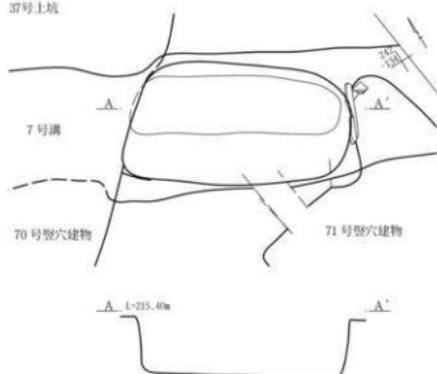
36号土坑



36号土坑

1 暗褐色土(10/R3/4)；粘性なし、しまり強。石少量含む

37号土坑



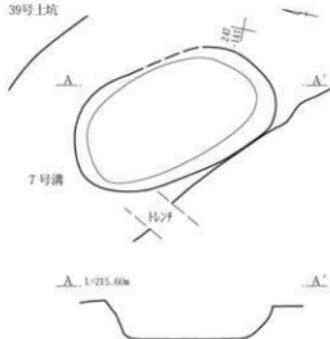
40号土坑

40号土坑

1 暗褐色土(10/R3/3)；粘性やや弱、しまりやや強。細砂多量・小礫微量混じる
2 黒褐色土(10/R3/2)；粘性・しまりやや強。褐色土小ブロック少量、細砂多量混じる



39号土坑



0 1 : 40 1m

第265図 土坑(6)

べきものは見られなかった。

所見 本土坑の時期は特定できなかった。

また本土坑の掘削意図も想定されなかった。

43号土坑(第266図、PL.62)

概要 本土坑の遺存状態も良好ではなく、底面近くを調査できたに過ぎなかった。

位置 本土坑はB2区中南部の土坑・ピット群の西部南端に在り、258～259-144～145グリッドに位置する。

重複 本土坑は単独で在り、他遺構との重複は見られなかった。

規模 長さ：0.62m 幅：0.51m 深さ：0.07m

埋土 砂礫少量含む黒褐色砂質土で埋没する。

構造 本土坑の主軸はN65°Wを向く。

本土坑は楕円形プランを呈し、壁面は開き気味で、底面は平底状を呈する。

遺物 本土坑からの遺物の出土はなかった。

所見 本土坑の時期は特定できなかった。

本土坑の掘削意図は想定されなかった。

44号土坑(第266図、PL.62)

概要 本土坑はピット状の小型の土坑である。本土坑の遺存状態は良好ではなく、底面付近を調査したに過ぎなかった。

位置 本土坑はB2区中南部の土坑・ピット群の南西部に在り、259-144～145グリッドに位置する。

重複 本土坑は単独で在り、他遺構との重複は見られなかった。

規模 長さ：0.40m 幅：0.38m 深さ：0.07m

埋土 砂礫少量含む黒褐色砂質土で埋没する。

構造 本土坑の主軸はN36°Wを向く。

本土坑は隅部の丸みの強い隅丸方形のプランを呈し、底面形態は丸底または尖底状を呈する。

遺物 本土坑からの遺物の出土はなかった。

所見 本土坑の時期は特定できなかった。

本土坑の掘削意図は想定されなかった。

45号土坑(第266図、PL.62)

概要 本土坑はやや小型であり、遺存状態のあまり良好ではない。

位置 B2区中南部の土坑・ピット群の南西寄りに在り、259～260-143グリッドに位置する。

重複 本土坑は単独で在り、他遺構との重複は見られなかった。

規模 長さ：0.61m 幅：0.60m 深さ：0.14m

埋土 砂礫少量含む極小粒の黒褐色砂質土で埋没する。

構造 本土坑の主軸はN20°Wを向く。

本土坑は円形プランを呈し、底面形態は平底を呈する。

遺物 本土坑からの遺物の出土はなかった。

所見 本土坑の時期は特定できなかった。

本土坑の掘削意図は想定されなかった。

46号土坑(第266図、PL.62)

概要 本土坑の遺存状態は良好ではなく、底面近くを調査できたに過ぎなかった。

位置 本土坑はB2区中南部の土坑・ピット群の中部北端に在り、262～263-141～142グリッドに位置する。

重複 本土坑は単独で在り、他遺構との重複は見られなかった。

規模 長さ：0.73m 幅：0.61m 深さ：0.14m

埋土 砂礫少量含む極小粒主体の黒褐色砂質土で埋没する。

構造 本土坑の主軸はN71°Eを向く。

本土坑は隅丸の靴形のプランを呈し、底面形態はやや丸底気味の平底を呈する。

遺物 本土坑からは土師器片2片の出土を見た。

所見 本土坑の時期は特定できなかった。

本土坑の掘削意図は想定されなかった。

47号土坑(第266図、PL.62)

概要 本土坑の小型の土坑である。

位置 本土坑はB2区中南部の土坑・ピット群の中北部端に在り、261～262-142～143グリッドに位置する。

重複 本土坑は単独で在り、他遺構との重複は見られなかった。

規模 長さ：0.43m 幅：0.38m 深さ：0.18m

埋土 砂礫少量含む極小粒主体の黒褐色砂質土で埋没する。

構造 本土坑の主軸はN90°を向く。

本土坑は隅丸の家形プランを呈し、底面形態は弱いや

丸底状を呈する。

遺物 本土坑からの遺物の出土はなかった。

所見 本土坑の時期は特定できなかった。

本土坑の掘削意図は想定されなかった。

48号土坑(第266図、PL.62)

概要 本土坑は小型の土坑である。

位置 本土坑はB2区中南部の土坑・ピット群の西部中央西北端に位置し、261-147グリッドに位置する。

重複 本土坑は単独で在り、他遺構との重複は見られなかった。

規模 長さ：0.46m 幅：0.41m 深さ：0.22m

埋土 砂粒少量含む黒褐色砂質土主体の土壤で埋没する。

構造 本土坑の主軸はN35°Wを向く。

本土坑は楕円形のプランを呈し、底面形態は平底を呈する。

遺物 本土坑からの遺物の出土はなかった。

所見 本土坑の時期は特定できなかった。後述の可能性が正しければ、本土坑は古代の所産の可能性を有する。

本土坑の掘削意図は想定されなかったが、中心と中心で北側に1.97mの位置に掘削された50号土坑と、南側に1.86mの位置に掘削されている136号ピットは柱穴を形成する可能性を有する。しかし掘立柱建物を見出すことはできなかった。

49号土坑(第266図、PL.62・124)

概要 本土坑は遺存状態がやや不良な土坑である。

位置 本土坑はB2区南東部に在り、255～256-141～142グリッドに位置する。

重複 本土坑は4号溝と重複するが、本土坑の方が新しい。

規模 長さ：0.76m 幅：0.44m 深さ：0.12m

埋土 共に粘性やや弱い暗褐色土と粗砂・小礫含む黒褐色土で埋没する。

構造 本土坑の主軸はN15°Eを向く。

本土坑は豆形のプランを呈し、底面形態は平底を呈する。

遺物 本土坑からは土師器甕(1)と土師器片7片の出土を見た。

所見 本土坑は、出土遺物から推して8世紀後半の所産と判断される。

本土坑の掘削意図は特定できなかった。

50号土坑(第267図、PL.63)

概要 本土坑の遺存状態はあまり良好ではなく、底面近くを調査したに過ぎなかった。

位置 本土坑はB2区中南部西寄りに在り、263-147グリッドに位置する。

重複 本土坑は137号ピットと重複するが、本土坑の方が古い。

規模 長さ：0.64m 幅：0.53m 深さ：0.20m

埋土 砂礫と明黄褐色土粒を小礫含む極小粒の黒褐色砂質土と明黄褐色砂粒少量含む砂礫中心のにぶい黄褐色砂質土で埋没する。

構造 本土坑の主軸はN43°Eを向く。

本土坑は楕円形様のプランを呈し、底面形態は丸底を呈する。

遺物 本土坑からの遺物の出土はなかった。

所見 本土坑の時期は特定できなかった。

本土坑の掘削意図は想定されなかった。

51号土坑(第267図、PL.63)

概要 本土坑の遺存状態は良好ではなく、底面付近を調査できたに過ぎない。

位置 本土坑はB1区中部東端近くに在り、239～240-134～135グリッドに位置する。

重複 本土坑は71号竪穴建物と重複するが、本土坑の方が新しい。

規模 長さ：0.66m 幅：0.60m 深さ：0.10m

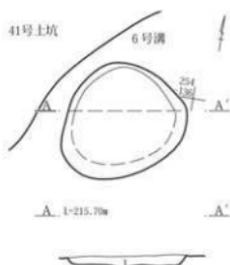
埋土 記録に不備があり明確ではないが、本土坑は黒褐色土で埋没するものと想定される。

構造 本土坑の主軸はN83°Eを向く。

本土坑は楕円形プランを呈し、底面形態は平底状を呈するが、全体的に東に向かい傾斜する傾向が窺われる。また、底面に網代痕状の凹凸が見られる。

遺物 本土坑からは土師器片30片が出土したが、これらの中に図示すべきものは見られなかった。

所見 本土坑の時期は、重複関係にある71号竪穴建物の時期から、8世紀以降の所産と把握されるに過ぎなかつ



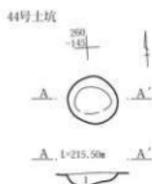
41号土坑

1 黒褐色砂質土(5YR2/2)を主体とする。粘性・しまりなし、極小粒。砂礫混入。



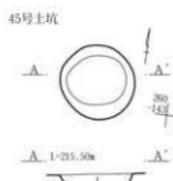
43号土坑

1 黒褐色砂質土(7.5YR2/2)：粘性なし、しまりあり、極小粒。砂礫を少量含む



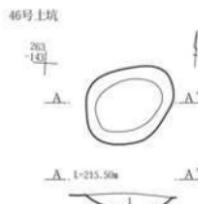
44号土坑

1 黒褐色砂質土(7.5YR2/2)：粘性なし、しまりあり、極小粒。砂礫を少量含む



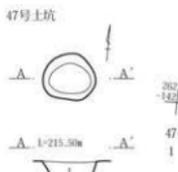
45号土坑

1 黒褐色砂質土(7.5YR2/2)：粘性なし、しまりあり、極小粒を主体とする。砂礫を少量含む



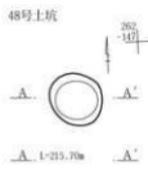
46号土坑

1 黒褐色砂質土(7.5YR2/2)：粘性なし、しまりあり、極小粒を主体とする。砂礫を少量含む



47号土坑

1 黒褐色砂質土(7.5YR2/2)：粘性なし、しまりあり、極小粒を主体とする。砂礫を少量含む



48号土坑

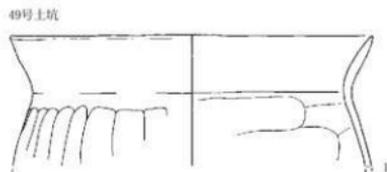
48号土坑

1 黒褐色砂質土(7.5YR2/2)を主体とする。粘性なし、しまり強、極小粒。砂粒を少量含む



49号土坑

1 暗褐色土(10YR3/3)：粘性やや弱、しまりやや強。粗砂・小礫微量。酸化鉄分少量混入
2 黒褐色土(10YR2/3)：粘性やや弱、しまりやや強。粗砂・小礫中量混入



49号土坑

0 1:3 10cm

0 1:40 1m

た。

本土坑の掘削意図は特定されなかった。

52号土坑(第267図、PL.63)

概要 本土坑はやや大型の土坑である。

位置 本土坑はB2区中部西寄りに在り、273～274-145～146グリッドに位置する。

重複 本土坑は単独で在り、他遺構との重複は見られなかった。

規模 長さ：0.96m 幅：0.87m 深さ：0.21m

埋土 粘性やや弱く粗砂・小礫含む黒褐色土で埋没する。

構造 本土坑の主軸はN5°Eを向く。

本土坑は円形プランを呈し、壁面は多少開くものの、底面の形態は平底を呈する。

遺物 本土坑からの遺物の出土はなかった。

所見 本土坑の時期は特定できなかった。

本土坑の掘削意図は特定されなかった。

53号土坑(第267図、PL.63)

概要 本土坑はやや小型の土坑である。

位置 本土坑はB2区南部の土坑・ビット群の東寄り北端に在り、264～265-138グリッドに位置する。

重複 本土坑は単独で在り、他遺構との重複は見られなかった。

規模 長さ：0.58m 幅：0.54m 深さ：0.20m

埋土 砂礫少量含む極小粒の黒褐色砂質土で埋没する。

構造 本土坑の主軸はN41°Eを向く。

本土坑は楕円形プランを呈し、底面形態は丸底を呈する。

遺物 本土坑からは土師器片1片、須恵器片1片の出土を見た。

所見 本土坑の時期は特定できなかった。

本土坑の掘削意図も特定されなかった。

54号土坑(第267図、PL.63)

概要 本土坑は比較的小型の土坑である。

位置 本土坑はB2区南部の土坑・ビット群の北東寄りに在り、262～263-138グリッドに位置する。

重複 本土坑は単独で在り、他遺構との重複は見られなかった。

規模 長さ：0.57m 幅：0.57m 深さ：0.16m

埋土 少量の角礫と炭化物含む黒褐色砂質土で埋没する。

構造 本土坑の主軸は想定できない。

本土坑は隅部の丸み強い隅丸台形のプランを呈し、底面形態は平底を呈する。

遺物 本土坑からは土師器片3片が出土したに過ぎない。

所見 本土坑の時期は特定できなかった。

本土坑の掘削意図も特定されなかった。

55号土坑(第267図、PL.63)

概要 本土坑は比較的小型の土坑である。

位置 本土坑はB2区南部の土坑・ビット群の南東寄りに在り、260-137グリッドに位置する。

重複 本土坑は単独で在り、他遺構との重複は見られなかった。

規模 長さ：0.49m 幅：0.47m 深さ：0.19m

埋土 炭化物と少量の砂礫を含む黒褐色砂質土で埋没する。

構造 本土坑の主軸はN85°Eを向く。

本土坑は西側がやや開き気味の楕円形プランを呈し、底面形態は平底を呈する。

遺物 本土坑からの遺物の出土はなかった。

所見 本土坑の時期は特定できなかった。

また掘削意図も特定することはできなかった。

56号土坑(第267図、PL.63)

概要 本土坑はビットとも取れる小型の土坑である。

位置 本土坑はB2区南部東寄りに在り、256～257-140～141グリッドに位置する。

重複 本土坑は5号溝と重複するが本土坑の方が新しい。

規模 長さ：0.44m 幅：0.39m 深さ：0.17m

埋土 少量の明黄褐色土含む黒褐色砂質土で埋没する。

構造 本土坑の主軸はN10°Eを向く。

本土坑は楕円形プランを呈し、底面形態は丸底である。

遺物 本土坑からの遺物の出土は見られなかった。

所見 本土坑の時期は特定できず、掘削意図も特定できなかった。

57号土坑(第267図、PL.63)

概要 本土坑は小型の土坑であるが、遺存状態は不良で底面近くを調査できたに過ぎなかった。

位置 本土坑はB2区南部の土坑・ピット群の東寄りの南端に在り、259-138～139グリッドに位置する。

重複 本土坑は単独で在り、他遺構との重複は見られなかった。

規模 長さ：0.51m 幅：0.49m 深さ：0.04m

埋土 炭化物と明黄褐色土、砂礫を小礫含む黒褐色砂質土で埋没する。

構造 本土坑の主軸はN10°Wを向く。

本土坑は円形に近い隅丸方形のプランを呈し、底面は平底を呈する。

遺物 本土坑からの遺物の出土はなかった。

所見 本土坑の時期は特定できなかった。

また掘削意図も特定されなかった。

58号土坑(第267図、PL.63)

概要 本土坑は遺存状態の良好なはずであるが、東南端を試掘トレンチが交差しており、8号溝の遺構掘削によって西端部を除く埋土の過半と壁が失われている。従って全容を確認することはできなかった。

位置 本土坑はB2区中部のやや東寄りに在り、270-141～142グリッドに位置する。

重複 本土坑は8号溝と重複するが、本土坑の方が新しい。

規模 長さ：0.96m 幅：0.64m 深さ：0.47m

埋土 粗砂・小礫が上位で多量に、下位で少量含む粘性やや強い黒褐色土で埋没する。

構造 本土坑の主軸はN44°Eを向く。

上述のように本土坑は重複遺構の掘削によって失われた部分があるため全容は詳らかでないが、本土坑は楕円形のプランを呈する。南東壁際の底面から0.20m程の高さで幅0.12mを測る中場を伴い、底面は平底状を呈する。

遺物 本土坑からの遺物の出土はなかった。

所見 本土坑の時期は特定できなかった。

本土坑の掘削意図は特定されなかった。

59号土坑(第268図、PL.63・123)

概要 本土坑の遺存状態はやや不良で、底面近くを調査

できたに過ぎなかった

位置 本土坑はB2区中部のやや東寄りに在り、271-141グリッドに位置する。

重複 本土坑は8号溝と重複するが、本土坑の方が新しい。

規模 長さ：0.82m 幅：0.71m 深さ：0.11m

埋土 粘性やや強く粗砂少量含む黒褐色土で埋没する。

構造 本土坑の主軸はN45°Wを向く。

本土坑は東隅が突出する変形の隅丸方形様プランを呈し、底面形態は平底を成す。

遺物 本土坑からは須恵器の盤(1)が出土した。

所見 本土坑の時期は出土遺物から推して7世紀後半から8世紀の所産として把握される。

なお、本土坑の掘削意図は特定されなかった。

60号土坑(第268図、PL.63)

概要 本土坑はやや大型の土坑であるが、北西部が試掘トレンチで壊されているため、全容は確認できなかった。

位置 本土坑はB2区中部やや東寄りに在り、265～267-139～140グリッドに位置する。

重複 本土坑は単独で在り、他遺構との重複は見られなかった。

規模 長さ：1.58m 幅：1.13m 深さ：0.75m

埋土 粘性やや弱く粗砂・小礫多量に混じる暗褐色土で埋没する。

構造 本土坑の主軸はN10°Eを向く。

上述のように本土坑は北西部が失われているため全容は詳らかでないが、本土坑は隅丸の半楕円形のプランを呈し、底面形態は平底だが、北部が南部に対し0.20mほど高い段差を有し、南部の東側には径0.68×0.43m、深さ0.19mを測る楕円形プランの掘り込みが見られる。

遺物 本土坑からの遺物の出土はなかった。

所見 本土坑の時期は特定できなかった。

また本土坑の掘削意図も特定されなかった。

61号土坑(第268図、PL.63)

概要 本土坑はやや大型の土坑であり、東近くが76号堅穴建物に壊されているため、全容は確認できなかった。

位置 本土坑はC1区北部に在り、259～260-125～126グリッドに位置する。

第3章 南蛇井北原田遺跡

50号土坑



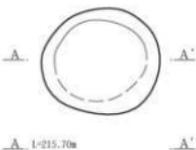
50号土坑

- 1 黒褐色砂質土(10YR2/3)を主体とする。粘性なし、しまり強、極小粒。砂礫・明黄褐色土粒を少量含む
- 2 鈍い黄褐色砂質土(10YR4/3)：粘性なし、しまり弱。砂礫を中心とする。明黄褐色の砂粒を少量含む

51号土坑



52号土坑



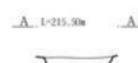
53号土坑



53号土坑

- 1 黒褐色砂質土(7.5YR2/2)を主体とする。粘性弱、しまり強、極小粒。砂礫を少量含む

54号土坑



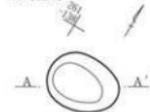
54号土坑

- 1 黒褐色砂質土(7.5YR3/1)：粘性強、しまり強、極小粒。炭化物・角礫少量・遺物片(弥生以降)を含む

52号土坑

- 1 黒褐色土(10YR2/3)：粘性やや弱、しまりやや強。粗砂・小礫中量混じる

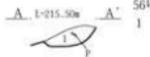
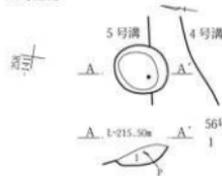
55号土坑



55号土坑

- 1 黒褐色砂質土(7.5YR2/2)：粘性強、しまり強、極小粒。砂礫を少量・炭化物片を含む

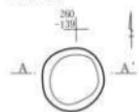
56号土坑



56号土坑

- 1 黒褐色砂質土(7.5YR2/2)：粘性弱、しまり強、極小粒。明黄褐色土粒を少量・遺物片を含む

57号土坑



57号土坑

- 1 黒褐色砂質土(10YR2/3)：粘性強、しまり強、極小粒。炭化物を少量含む。明黄褐色土を少量含む。砂礫少量含む

58号土坑



58号土坑

- 1 黒褐色土(10YR2/3)：粘性やや強、しまりやや弱。粗砂・小礫多量混じる
- 2 黒褐色土(10YR2/3)：粘性やや強、しまりやや弱。粗砂・小礫少量混じる



第267図 土坑(8)

重複 本土坑は76号竪穴建物と重複するが、本土坑の方が古い。

規模 長さ：1.41m 幅：0.99m 深さ：0.44m

埋土 粘性やや強く粗砂・小礫少量含む黒褐色土と粘性やや弱く粗砂・小礫多量に含む黒褐色土で埋没する。

構造 本土坑の主軸はN08°Wを向く。

上述のように、本土坑は東辺付近が76号竪穴建物に削られているため、全容は把握できなかったが、本土坑は隅部の丸身が強い隅丸方形様のプランを呈する。底面は丸状を呈する。

遺物 本土坑からは土師器片6片と須恵器片1片が出土したに過ぎなかった。

所見 本土坑の時期は特定できなかった。

また本土坑の掘削意図は特定されなかった。

62号土坑(第269図、PL.63)

概要 本土坑は中規模の土坑である。

位置 本土坑はC2区北端付近中央部に在り、302～303-129～130グリッドに位置する。

重複 本土坑は単独で在り、他遺構との重複は見られなかった。

規模 長さ：0.99m 幅：0.90m 深さ：0.23m

埋土 粘性やや弱く粗砂・小礫多量に含む黒褐色土で埋没する。

構造 本土坑の主軸はN69°Wを向く。

本土坑はやや片寄りの楕円形のプランを呈し、底面形態は平底を呈する。

遺物 本土坑からの遺物の出土はなかった。

所見 本土坑の時期は特定できず、掘削意図も特定されなかった。

63号土坑(第269図、PL.63)

概要 本土坑は小型の土坑である。

位置 本土坑はB1区北西部に在り、244～245-146～147グリッドに位置する。

重複 本土坑は66号竪穴建物と重複するが、本土坑の方が古い。

規模 長さ：0.74m 幅：0.48m 深さ：0.29m

埋土 粘性やや弱く、粗砂・小礫等少量含む暗褐色土で埋没する。

構造 本土坑の主軸はN75°Wを向く。

本土坑は長楕円形のプランを呈し、底面は西に中心を有し、丸底を呈する。

遺物 本土坑からは土師器片1片が出土したに過ぎなかった。

所見 本土坑は、重複する竪穴建物の時期から9世紀第3四半期以前の所産として把握できるだけで、時期特定には至らなかった。

本土坑の掘削意図は特定されなかった。

64号土坑(第269図、PL.64)

概要 本土坑は比較的小規模の土坑である。

位置 本土坑はC2区中部に在り、289～290-128グリッドに位置する。

重複 本土坑はC2区中ほどの土坑・ビット群の東端部付近にあるが、他遺構との重複は見られなかった。

規模 長さ：0.88m 幅：0.82m 深さ：0.30m

埋土 粘性やや弱く、粗砂・小礫混入する暗褐色土で埋没する。

構造 本土坑の主軸はN44°Eを向く。

本土坑は円形のプランを呈し、底面形態は平底を呈する。

遺物 本土坑からは土師器片5片の出土を見たに過ぎなかった。

所見 本土坑の時期は特定できなかった。

また掘削意図は特定されなかった。

65号土坑(第269図、PL.64)

概要 本土坑はビットとも見られる小型の土坑である。

位置 本土坑はC2区中部西橋部に在り、292-132グリッドに位置する。

重複 本土坑はC2区中ほどの土坑・ビット群の北西隅にあるが、他遺構との重複は見られなかった。

規模 長さ：0.46m 幅：0.41m 深さ：0.13m

埋土 粘性やや弱く、粗砂・小礫混じる暗褐色土で埋没する。

構造 本土坑の主軸はN23°Eを向く。

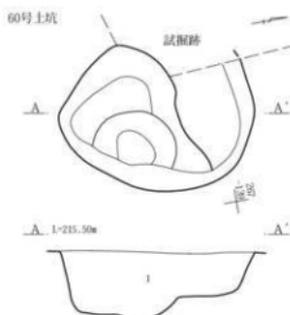
本土坑は円形に近い隅丸方形様のプランを呈し、底面は平底を呈する。

遺物 本土坑からの出土遺物は見られなかった。

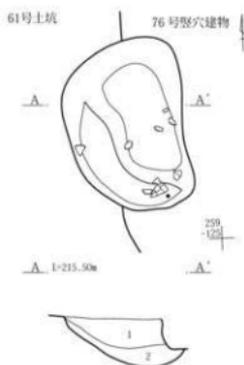
第3章 南蛇井北原田遺跡



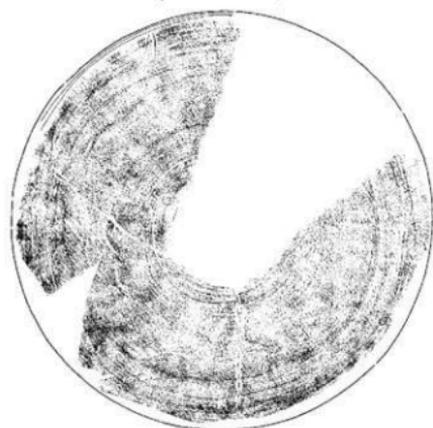
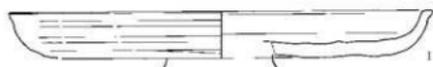
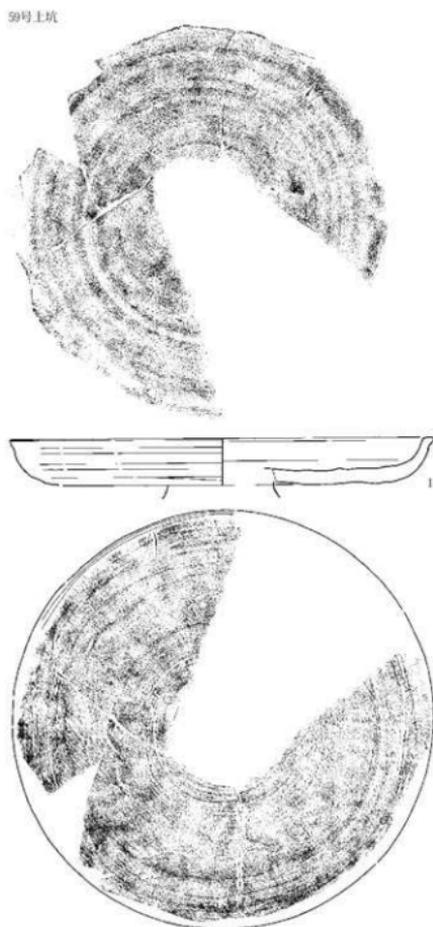
- 59号土坑
1 黒褐色土(10YR2/3)：粘性やや強、しまりやや弱、粗砂少量混じる



- 60号土坑
1 暗褐色土(10YR3/3)：粘性やや弱、しまりやや強、粗砂・小礫多量混じる
2 黒褐色土(10YR2/3)：粘性・しまりやや弱、粗砂・小礫少量混じる



- 61号土坑
1 黒褐色土(10YR2/3)：粘性やや弱、しまりやや強、粗砂・小礫多量混じる
2 黒褐色土(10YR2/3)：粘性・しまりやや強、粗砂・小礫少量混じる



第268図 土坑(9)

所見 本土坑の時期は特定できなかった。

また掘削意図も特定されなかった。

66号土坑(第269図、PL.64)

概要 本土坑は大型の土坑である。

位置 本土坑はC2区北部に在り、299～301-128～130グリッドに位置する。

重複 本土坑は単独で在り、他遺構との重複は見られなかった。

規模 長さ：2.08m 幅：1.43m 深さ：0.23m

埋土 粘性弱く粗砂・小礫混じる暗褐色土や粘性やや弱く粗砂・小礫多量に含む黒褐色土等で埋没する。上位に小さく面的に確認される焼土の堆積が見られる。

構造 本土坑の主軸はN01°Eを向く。

本土坑は楕円形様のプランを呈し、底面形態は平底状を呈する。

遺物 本土坑からは土師器片1片が出土したに過ぎなかった。

所見 本土坑の時期は特定できなかった。

また掘削意図も特定できなかった。

67号土坑(第269図、PL.64)

概要 本土坑は大型の土坑である。

位置 本土坑はC2区北部のやや西寄りに在り、301～302-131～132グリッドに位置する。

重複 本土坑も単独で在り、他遺構との重複はなかった。

規模 長さ：1.81m 幅：1.49m 深さ：0.28m

埋土 粘性やや弱く粗砂・小礫含む暗褐色土で埋没する。

構造 本土坑の主軸はN63°Eを向く。

本土坑のプランは、南東側は隅丸方形、北西側は楕円形を呈する。底面は部分的な小さな窪みも見られるが、おおむね平底を呈する。

遺物 本土坑からは僅かに須恵器長頸甕片(1)が出土したに過ぎなかった。

所見 本土坑の時期は特定できず、掘削意図も特定できなかった。

68号土坑(第270図、PL.64)

概要 本土坑はその過半が東側は調査区外に出るため全容は確認できなかった。おそらく小型のピット状の土坑

と想定される。

位置 本土坑はC2区北部東端に在り、301～302-119グリッドに位置する。

重複 本土坑は単独で在り、他遺構との重複は見られなかった。

規模 長さ：(0.50)m 幅：(0.16)m
深さ：(0.23)m

埋土 粘性やや弱く粗砂少量含む暗褐色土と粘性弱く褐色土・粗砂等含むにふい黄褐色土で埋没する。

構造 本土坑の主軸は特定できなかった。

上述のように、本土坑はその一部を調査できたに過ぎないため全容は詳らかでないが、本土坑は恐らく円形のプランを呈し、平底を呈するものと推定される。

遺物 本土坑からの遺物の出土は見られなかった。

所見 本土坑の時期は特定できなかった。

また掘削意図は特定することはできなかった。

69号土坑(第270図、PL.64)

概要 本土坑は小型の土坑である。

位置 本土坑はC2区南部に在り、280-126グリッドに位置する。

重複 本土坑はC2区南部の土坑・ピット群の南東隅に位置するが、単独で在り、他遺構との重複は見られなかった。

規模 長さ：0.63m 幅：0.59m 深さ：0.09m

埋土 粘性やや弱く粗砂・小礫混ざる黒褐色土で埋没する。

構造 本土坑の主軸はN90°を向く。

本土坑は円形に近い隅丸方形様のプランを呈し、底面形態は僅かな窪みを有する平底状を呈する。

遺物 本土坑からの遺物の出土はなかった。

所見 本土坑の時期は特定できず、掘削意図も特定できなかった。

70号土坑(第270図、PL.64)

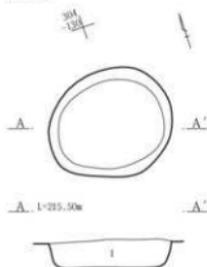
概要 本土坑はやや小型の土坑である。

位置 本土坑はC2区南部に在り、279～280-127～128グリッドに位置する。

重複 本土坑はC2区南部の土坑・ピット群の中部南端に位置するが、単独で在り、他遺構との重複は見られな

第3章 南蛇井北原田遺跡

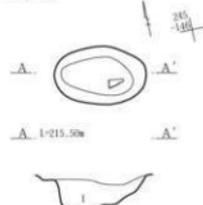
62号土坑



62号土坑

1 黒褐色土(10YR2/3)：粘性・しまりやや弱。
粗砂・小礫多量混じる

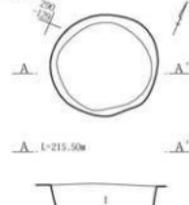
63号土坑



63号土坑

1 暗褐色土(10YR3/3)：粘性やや強、しまり強。
粗砂・小礫・黄色粒少量混じる

64号土坑



64号土坑

1 暗褐色土(10YR3/3)：粘性・しまりやや弱。
粗砂・小礫中量混じる

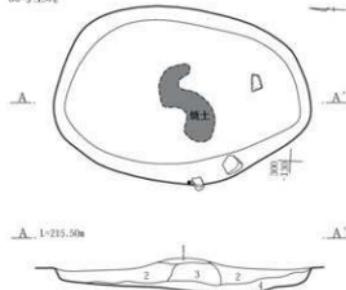
65号土坑



65号土坑

1 暗褐色土(10YR3/3)：粘性・しまりやや弱。
粗砂・小礫少量混じる

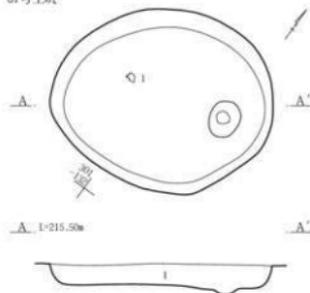
66号土坑



66号土坑

1 黒褐色土(10YR2/3)：粘性弱、しまり強。焼土ブロック層状に少量、粗砂・小礫多量混じる
2 黒褐色土(10YR2/2)：粘性やや弱、しまりやや強。粗砂・小礫多量混じる
3 柳暗褐色土(7.5YR2/3)：粘性やや弱、しまりやや強。粗砂・小礫中量混じる。地山ブロックか
4 暗褐色土(10YR3/3)：粘性弱、しまり強。粗砂・小礫中量混じる

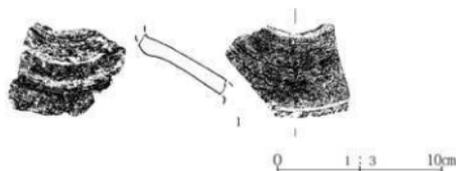
67号土坑



67号土坑

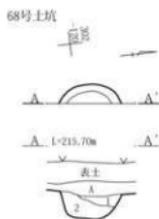
1 暗褐色土(10YR3/3)：粘性やや弱、しまりやや強。粗砂・小礫中量混じる

67号土坑



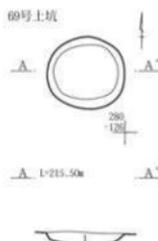
0 1 : 40 1m

第269図 土坑(10)



68号土坑

- 1 ぶい・黄褐色土(10YR4/3):粘性弱・しまり強。褐色土中ブロック中量。粗砂・黄色粒中量混じる
- 2 暗褐色土(10YR3/3):粘性やや弱・しまり強。粗砂少量混じる
- A 暗褐色土(10YR3/4):粘性弱・しまり強。粗砂中量・炭化物少量混じる



69号土坑

- 1 黒褐色土(10YR2/3):粘性・しまりやや弱。粗砂・小礫中量混じる



70号土坑

- 1 黒褐色土(10YR2/2):粘性・しまりやや弱。粗砂・小礫多量混じる
- 2 黒褐色土(10YR2/3):粘性・しまりやや弱。粗砂多量混じる



第270図 土坑(11)

かった。

規模 長さ:0.81m 幅:0.58m 深さ:0.18m

埋土 共に粘性やや弱く上位は粗砂・小礫を多く、下位は粗砂を多く含む黒褐色土で埋没する。

構造 本土坑の主軸はN80°Eを向く。

本土坑は舟形状のプランを呈し、底面形態はやや凹凸が見られるが、おおむね平底状を呈する。

遺物 本土坑からの遺物の出土は見られなかった。

所見 本土坑の時期は特定できなかった。

また掘削意図も特定されなかった。

71号土坑(第271図、PL.64)

概要 本土坑は大型の土坑であるが、北東部の中・上位は13号溝に切られて失われている。

位置 本土坑はC2区北部に在り、297～300-122～125グリッドに位置する。

重複 本土坑は13号溝と重複するが、本土坑の方が古い。

規模 長さ:3.04m 幅:2.43m 深さ:0.20m

埋土 粘性弱く粗砂・小礫少量含む黒褐色土と粘性やや弱く粗砂・小礫等少量混ざる暗褐色土で埋没する。

構造 本土坑の主軸はN67°Wを向く。

上述のように本土坑は北西側が13号溝に切られているため全容は詳らかでないが、本土坑のプランは空豆形を呈する。底面形態は概ね平底状を呈する。

遺物 本土坑からの遺物の出土はなかった。

所見 本土坑の時期は特定できず、掘削意図も特定できなかった。

72号土坑(第271図、PL.64)

概要 本土坑は小型の土坑である。

位置 本土坑はC3区西寄り南端部に在り、307～308-136～137グリッドに位置する。

重複 本土坑は単独で在り、他遺構との重複は見られなかった。

規模 長さ:0.73m 幅:0.63m 深さ:0.55m

埋土 粗砂主体で小礫少量含む暗褐色土と粘性やや弱く粗砂・小礫含む暗褐色土で埋没する。

構造 本土坑の主軸はN68°Eを向く。

本土坑は楕円形プランを呈し、掘削方向はやや北西に傾く。底面形態はやや丸みを帯びた平底状を呈する。

遺物 本土坑からの遺物の出土は見られなかった。

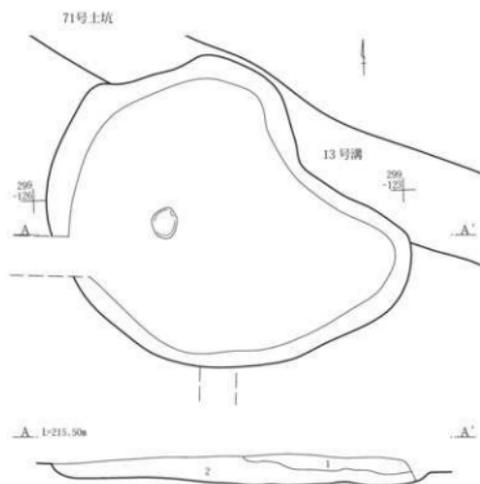
所見 本土坑の時期は特定できなかった。

また掘削意図も特定されなかった。

73号土坑(第271図、PL.64)

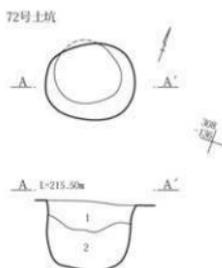
概要 本土坑は小型の土坑である。南西側が58号竪穴遺物に切られるため、半ばを調査できたに過ぎなかった。

位置 本土坑はB1区南部にやや西寄りな在り、227-145



71号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/4)：粘性やや弱、しまりやや強、粗砂・小礫・黄色粒少量混じる
- 2 黒褐色土(10YR2/3)：粘性弱、しまりやや強、粗砂・小礫少量混じる



72号土坑

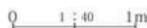
- 1 暗褐色土(10YR3/3)：粘性やや弱、しまりやや強、粗砂・小礫中量混じる
- 2 暗褐色土(10YR3/4)：粗砂主体、粘性弱、しまりやや強、小礫少量混じる

73号土坑



73号土坑

- 1 灰褐色土(5YR4/2)：粘性やや弱、しまり強、焼土粒・5mm大の小礫を少量含み、褐色土が混じる



第271図 土坑(12)

～146グリッドに位置する。

重複 本土坑は58号竪穴建物と重複するが、本土坑の方が古い。

規模 長さ：0.43m 幅：(0.23)m 深さ：0.18m

埋土 粘性やや弱く褐色土と少量の焼土粒・小礫を含む灰褐色土で埋没する。

構造 本土坑の主軸はN31°Wを向く。

上述のように本土坑南西側の半ばを58号竪穴建物に削られているため、全容は詳らかでないが、プランは楕円形を呈するものと想定される。底面形態は丸底である。

遺物 本土坑からの遺物の出土は見られなかった。

所見 本土坑の時期は特定できず、掘削意図も特定できなかった。

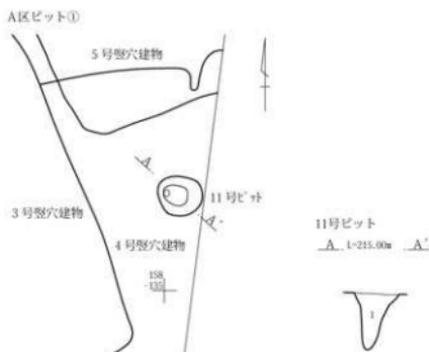
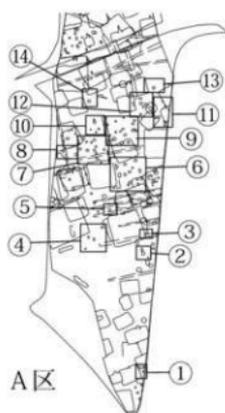
4 ビット

ビットは、図示の都合上、各区毎に丸付数字で表記する小区域を設定した。小区域の範囲は、ビット項目内の各区の全体図に示した。

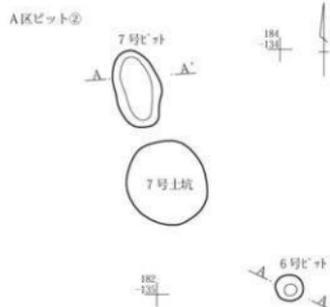
(1) A区のビット群

A区中・南部のビット(第272・273図、PL.66)

概要 A区南部では、①小区域で11号ビットの1基、中部では東端部のビット②小区域で6・7号ビット、③小区域で12号ビット、西部の④小区域で8～10・13号ビット、⑤小区域で20号ビットの9基のビットを確認、調査した。



11号ピット
1 黒褐色土(10YR3/1)：粘性やや弱、しまり中程度。土師器片、5mm大の小礫を少量含む

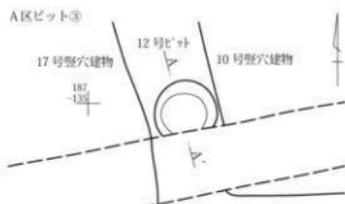


6号ピット
A 1-215.20m A'

7号ピット
A 1-215.20m A'

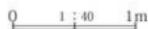
6号ピット
1 黒褐色土(10YR3/2)：粘性弱、しまりやや強。白色粒を少量含む

7号ピット
1 灰黄褐色土(10YR4/2)：粘性弱、しまりやや強。5mm大の小礫を少量含む



12号ピット
A 1-215.30m A'

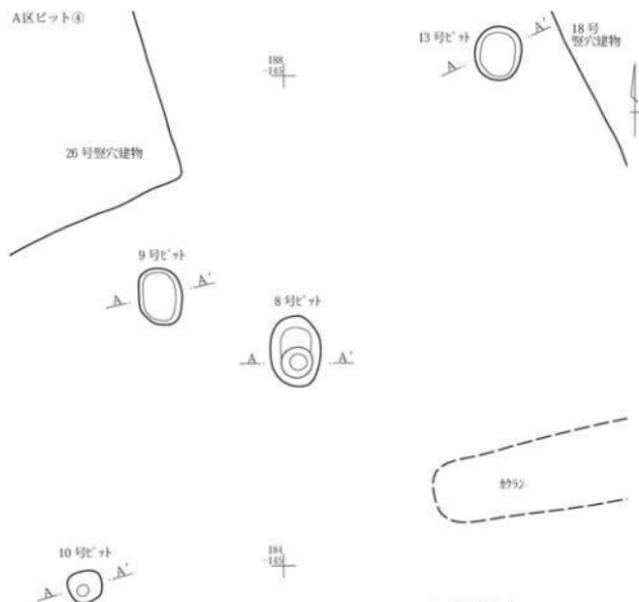
12号ピット
1 褐灰色砂質土(10YR4/1)：粘性弱、しまりやや強。5mm大の小礫を中量含む



第272図 ピット(1)

第3章 南蛇井北原田遺跡

A区ピット④



8号ピット

—A— 1-215.20m —A'—



9号ピット

—A— 1-215.20m —A'—



10号ピット

—A— 1-215.30m —A'—



13号ピット

—A— 1-215.30m —A'—



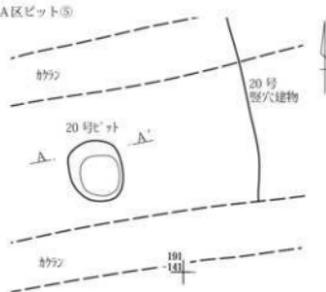
8～10号ピット

1 灰黄褐色土(10YR4/2)：粘性弱、しまりやや強。5mm大の小礫を少量含む

13号ピット

1 黒褐色砂質土(10YR3/1)：粘性弱、しまり強。5mm大の小礫を多量に含む

A区ピット⑤



20号ピット

—A— 1-215.30m —A'—

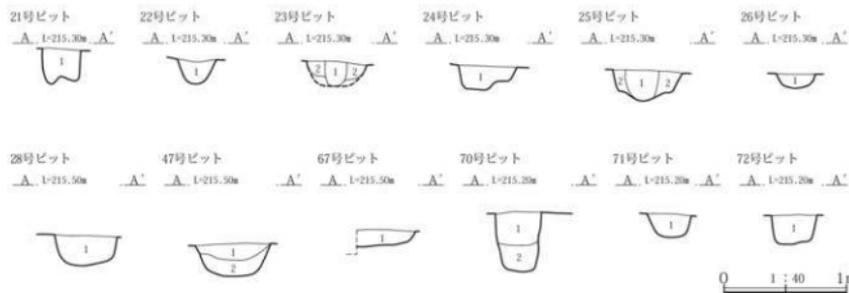
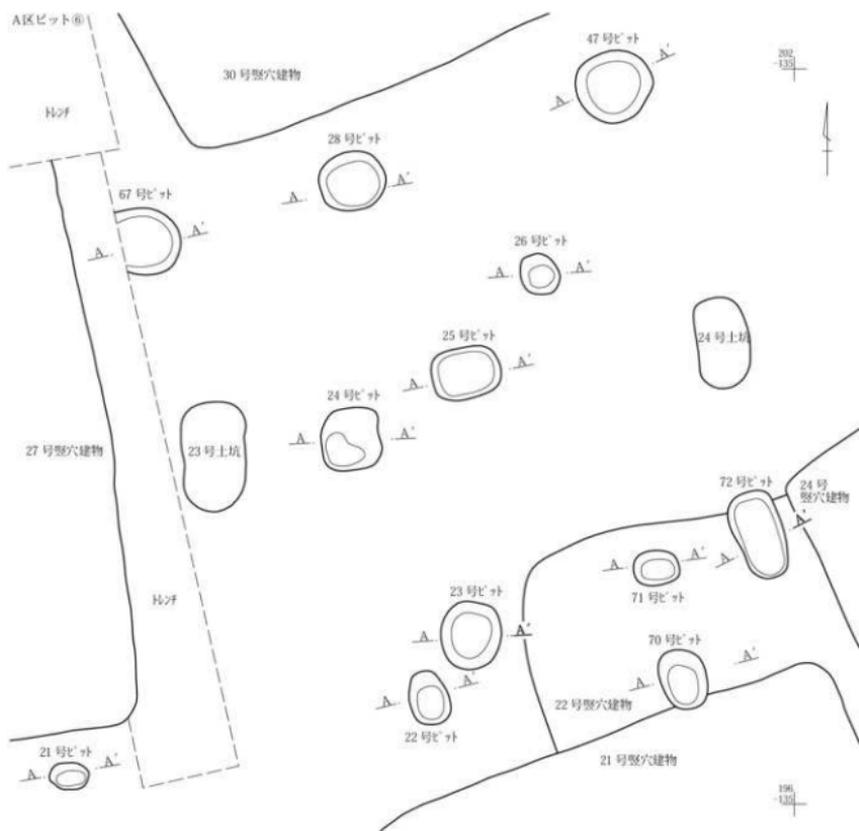


20号ピット

1 褐灰色土(10YR4/1)：粘性やや弱、しまり強。白色粒・5mm大の小礫を少量含む



第273図 ピット(2)



第274の1図 ピット(3)

第3章 南蛇井北原田遺跡

21・26号ピット

- 1 黒褐色土(10YR3/1):粘性中程度、しまり強。白色粒を微量に含む

22号ピット

- 1 黒褐色土(10YR3/2):粘性弱、しまり強。5mm大の小礫を中量含む

23号ピット

- 1 褐灰色土(10YR4/1):粘性弱、しまり強。黒色土混じる。柱痕か?
- 2 黒褐色土(10YR3/1):粘性やや弱、しまり強。白色粒・5mm大の小礫を少量含む

24号ピット

- 1 黒褐色土(10YR3/1):粘性やや弱、しまり強。5mm大の小礫を少量含む

25号ピット

- 1 褐灰色土(10YR4/1):粘性弱、しまり強。黒色土混じる。柱痕か?
- 2 黒褐色土(10YR3/1):粘性やや弱、しまり強。白色粒・5mm大の小礫を少量、焼土粒を微量に含む

28号ピット

- 1 灰黄褐色土(10YR5/2):粘性弱、しまりやや強。白色粒・5mm大の小礫を少量含む

47号ピット

- 1 灰黄褐色土(10YR5/2):粘性弱、しまりやや強。白色粒・5mm大の小礫を少量含む
- 2 黒褐色土(10YR3/2):粘性中程度、しまりやや強。5mm大の小礫を微量に含む

67号ピット

- 1 灰黄褐色土(10YR4/2):粘性やや弱、しまりやや強。白色粒・5mm大の小礫を少量含む

70号ピット

- 1 黒褐色土(10YR3/1):粘性やや弱、しまりやや強。白色粒・5mm大の小礫を少量含む
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2):粘性やや弱、しまりやや強

71号ピット

- 1 灰黄褐色土(10YR4/2):粘性やや弱、しまりやや強

72号ピット

- 1 黒褐色土(10YR3/1):粘性やや弱、しまり強。白色粒・5mm大の小礫を少量含む

第274の2図 ピット(3)土層注記

位置・規模・主軸方位 第3表に所在グリッド・規模・主軸方位を記した。

重複 A区南部の11号ピットが4号竪穴建物と重複するが、本ピットの方が新しい。

他のピットは他の遺構との重複は見られなかった。

埋土 各ピットの断面図を参照されたい。

構造 A区中・南部のピットのプランは6・12・13号ピットが円形、7・8号ピットが楕円形、10・20号ピットが隅丸方形、9・11号ピットが隅丸長方形を呈している。底面形態は8・12・20号ピットが丸底、7・9・13号ピットが平底、6・10・11号ピットが尖底を呈している。

遺物 A区中・南部の各ピットからは若干の遺物の出土が見られた。

所見 A区中・南部の各ピットの時期は特定できなかったが、その規模から推して6・10・11号ピットはおむね中世、他のピットはおおむね古代の所産の可能性が考慮される。

A区中部北端から北部中位のピット群(第274～280図、PL.65・66)

概要 A区中部北端から北部中位にかけての区域にはピット群が見られる。このピット群は、南東の⑥小区域で21～26・28・47・67・70～72号ピットの12基、中部南西の⑦小区域で31～37・39・40・69・74・75・77号

ピットの13基、中西部の⑧小区域で29・30号ピットの2基、中部北東寄りの⑨小区域で27・48～62号ピットの16基、中部北西寄りの⑩小区域で41～45号ピットの5基、北部東端の⑪小区域で73・76・78～80号ピットの5基、その西側、北部東寄りの⑫小区域で63～66号ピットの4基の、合わせて57基ピットを確認、調査した。またこのA区中部北端から北部中位にかけてのピット群には、小型の23・24号土坑も含まれている。

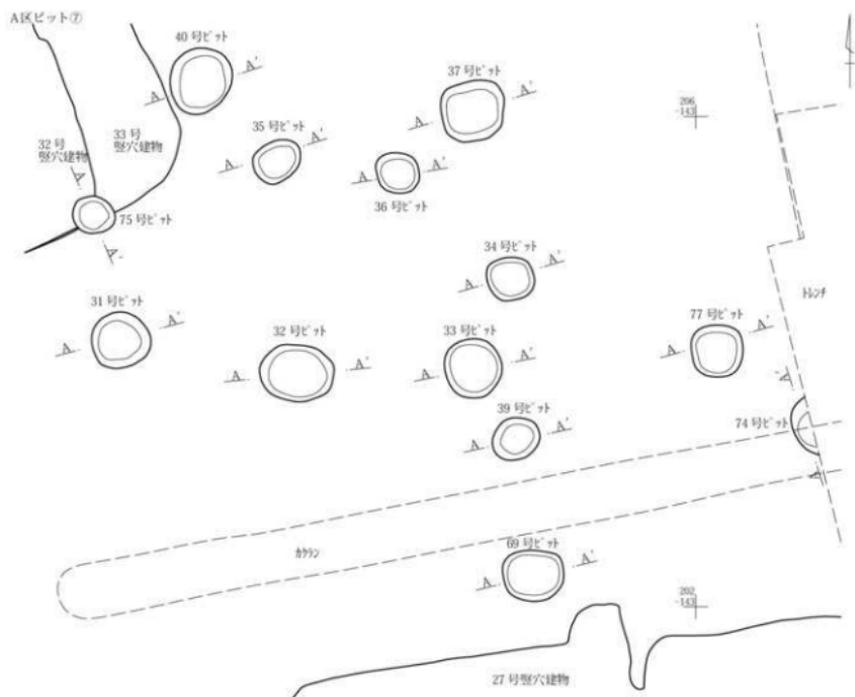
位置・規模・主軸方位 第3表に所在グリッド・規模・主軸方位を記した。

重複 ⑦小区域の75号ピットは32・33号竪穴建物と重複するが、本ピットの方が古い。⑩小区域の80号ピットは39号竪穴建物と重複するが、本ピットの方が古い。

他のピットには他の遺構との重複は見られなかった。

埋土 各ピットの断面図を参照されたい。

構造 A区中部北端から北部中位のピット群のピットのプランは29・33・48・56・57号ピットの5基が円形、21・23・28・30・31・35・39・41～44・47・51・54・59～67・73・75号ピットの25基が楕円形、22・24・26・27・34・36・40・45・55・76・77号ピットの11基が隅丸方形、25・32・37・49・50・52・53・58・69～72・80号ピットの13基が隅丸長方形を呈している。74・78・79号ピットは調査区外に出るため形状は特定できなかった。底面形態は22・26～29・33～37・41・43・



31号ピット Δ . 1-215.50m Δ '
 32号ピット Δ . 1-215.30m Δ '
 33号ピット Δ . 1-215.50m Δ '
 34号ピット Δ . 1-215.50m Δ '
 35号ピット Δ . 1-215.50m Δ '



36号ピット Δ . 1-215.50m Δ '
 37号ピット Δ . 1-215.30m Δ '
 39号ピット Δ . 1-215.50m Δ '
 40号ピット Δ . 1-215.50m Δ '
 69号ピット Δ . 1-215.30m Δ '



74号ピット Δ . 1-215.50m Δ '
 75号ピット Δ . 1-215.50m Δ '
 77号ピット Δ . 1-215.50m Δ '



0 1 : 40 1m

第275の1図 ピット(4)

第3章 南蛇井北原田遺跡

31号ピット

- 1 褐灰色土(10YR4/1):粘性やや弱、しまりやや強。焼土粒・5mm大の小礫を少量含む
- 2 濃い黄褐色砂質土(10YR5/3):粘性やや弱、しまりやや強

32・33号ピット

- 1 褐灰色土(10YR4/1):粘性やや弱、しまりやや強。5mm大の小礫を中量含む

34号ピット

- 1 褐灰色土(10YR4/1):粘性やや弱、しまりやや強。褐色粒を微量に含む
- 2 黒褐色土(10YR3/1):粘性やや弱、しまりやや強。5mm大の小礫を微量に含む

35号ピット

- 1 灰黄褐色土(10YR4/2):粘性中程度、しまりやや強。5mm大の小礫を少量含む
- 2 黒褐色砂質土(10YR3/1):粘性やや弱、しまりやや強

36・37・39号ピット

- 1 褐灰色土(10YR4/1):粘性弱、しまりやや強。5mm大の小礫を中量含む

40号ピット

- 1 褐灰色土(10YR4/1):粘性弱、しまりやや強。5mm大の小礫を中量含む
- 2 灰黄褐色砂質土(10YR4/2):粘性やや弱、しまりやや強

69号ピット

- 1 黒褐色土(10YR3/1):粘性やや弱、しまりやや強。白色粒・5mm大の小礫を少量含む

74号ピット

- 1 黒褐色土(10YR3/1):粘性弱、しまり強。白色粒・5mm大の小礫を中量含む。土師器片が出土

75号ピット

- 1 褐灰色砂質土(10YR4/1):粘性やや弱、しまり強。5mm大の小礫を微量に含む

77号ピット

- 1 褐灰色砂質土(10YR4/1):粘性やや弱、しまりやや強。5mm大の小礫を少量含む

第275の2図 ピット(4)土層注記

47・49・53・54・59～61・66・69・71・74・76・79号ピットが丸底、23・24・30・32・39・40・44・45・48・50・52・56・58・62～65・67・70・72・75・77・80号ピットが平底、31・42・51・55・57・73・78号ピットが尖底を呈し、21号ピットは横断面形がM字形、25号ピットは柱位置が塑性変形して窪む逆凸字形の底面形態を呈している。

遺物 A区中部北端から北部中位の各ピットからは若干の遺物の出土がみられた。

所見 A区中部北端から北部中位の各ピットの時期は特定できなかったが、その規模から推して6・21・26・36・39・41～43・45・57・60・71・75号ピットはおおむね中世、他のピットはおおむね古代の所産の可能性が考慮される。

A区北部のピット(第280・281図、PL.65・66)

概要 A区北部では③小区域で68号ピット、④小区域で46号ピットの1基ずつの2基のピットを確認、調査した。

位置・規模・主軸方位 第3表に所在グリッド・規模・主軸方位を記した。

重複 A区北部の2基のピットは他、共に他の遺構との重複は見られなかった。

埋土 各ピットの断面図を参照されたい。

構造 A区北部のピットのプランは46号ピットが隅丸長

方形、68号ピットは丸みの強い鍵穴形を呈する。底面形態は共にやや平底に近い丸底を呈している。

遺物 A区北部の各ピットからは若干の遺物の出土が見られた。

所見 A区北部の各ピットの時期は特定できなかったが、その規模から推して、共におよそ古代の所産の可能性が考慮される。

(2) B1区のピット群

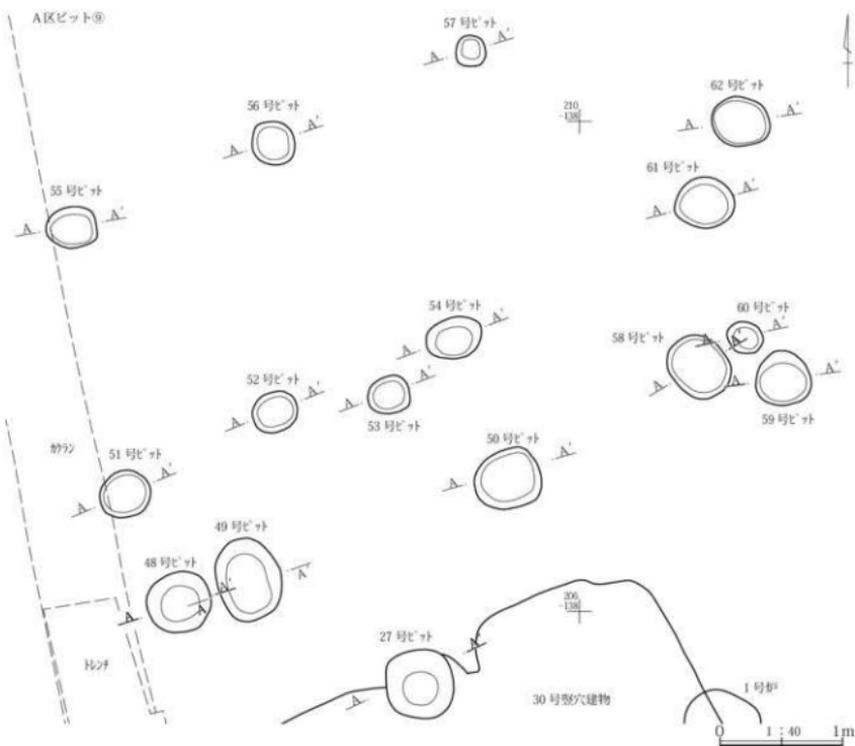
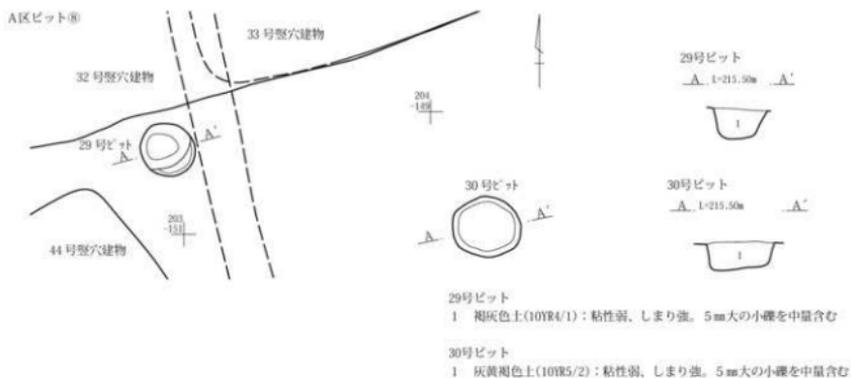
B1区南西部のピット群(第282～284図、PL.67～69)

概要 B1区南西部では①小区域では86～94・95a・95b・96～102・106・108～110号ピットの22基、②小区域で85・107号ピットの2基の合わせて24基のピットから成るピット群のピットを確認、調査した。

また本土坑部の北東部には小型の21号土坑、北東部と中北部にやや小型の32・33号土坑が掘削されており、この3基の土坑は本ピット群に含まれる可能性がある。

位置・規模・主軸方位 第3表に所在グリッド・規模・主軸方位を記した。

重複 B1区南西部のピット群では95a号ピットと95b号ピット、96号ピットと97号ピットが重複関係にあり、95a・95b号ピットの新旧関係は特定できず、96・97号ピットでは97号ピットの方が新しい。また本土坑部北端部に所在する109号ピットは33号土坑と重複するが、109号



第276図 ピット(5)

第3章 南蛇井北原田遺跡

27号ビット

△ A₁-I-215.30m △ A₁'



48号ビット

△ A₁-I-215.30m △ A₁'



49号ビット

△ A₁-I-215.50m △ A₁'



50号ビット

△ A₁-I-215.50m △ A₁'



51号ビット

△ A₁-I-215.50m △ A₁'



52号ビット

△ A₁-I-215.50m △ A₁'



53号ビット

△ A₁-I-215.50m △ A₁'



54号ビット

△ A₁-I-215.50m △ A₁'



55号ビット

△ A₁-I-215.50m △ A₁'



56号ビット

△ A₁-I-215.50m △ A₁'



57号ビット

△ A₁-I-215.50m △ A₁'



58号ビット

△ A₁-I-215.50m △ A₁'



59号ビット

△ A₁-I-215.50m △ A₁'



60号ビット

△ A₁-I-215.30m △ A₁'



61号ビット

△ A₁-I-215.30m △ A₁'



62号ビット

△ A₁-I-215.30m △ A₁'



0 1 : 40 1m

27号ビット

- 1 灰黄褐色土(10YR4/2)：粘性やや弱、しまりやや強。白色粒・5mm大の小礫を少量含む

48号ビット

- 1 灰黄褐色土(10YR4/2)：粘性中程度、しまりやや強。5mm大の小礫を多量に含む

49号ビット

- 1 黒褐色土(10YR3/2)：粘性やや弱、しまりやや強。焼土粒・白色粒・5mm大の小礫を少量含む
- 2 灰黄褐色土(10YR5/2)：粘性やや弱、しまりやや強。5mm大の小礫を少量含む

50号ビット

- 1 黒褐色土(10YR3/2)：粘性弱、しまりやや強。褐色粒・白色粒・5mm大の小礫を少量含む
- 2 褐灰色土(10YR4/1)：粘性中程度、しまりやや強。粘質土ブロック

51号ビット

- 1 黒褐色土(10YR3/1)：粘性中程度、しまりやや強。5mm大の小礫を微量に含む
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2)：粘性やや弱、しまりやや強。5mm大の小礫を中量含む

52号ビット

- 1 褐灰色土(10YR4/1)：粘性弱、しまりやや強。褐色粒・5mm大の小礫を中量含む

53号ビット

- 1 褐灰色土(10YR4/1)：粘性弱、しまりやや強。5mm大の小礫を多量に含む

54号ビット

- 1 灰黄褐色土(10YR5/2)：粘性やや弱、しまりやや強。5mm大の小礫を少量含む
- 2 灰黄褐色砂質土(10YR4/2)：粘性やや弱、しまりやや強。5mm大の小礫を多量に含む
- 3 灰黄褐色砂質土(10YR4/2)：粘性やや弱、しまりやや強

55号ビット

- 1 にぶい黄褐色土(10YR5/3)：粘性やや弱、しまり強。5mm大の小礫を微量に含む
- 2 褐灰色土(10YR4/1)：粘性やや弱、しまり強。5mm大の小礫を微量に含む

56号ビット

- 1 灰黄褐色土(10YR5/2)：粘性やや弱、しまりやや強。焼土粒・5mm大の小礫を少量含む

57号ビット

- 1 褐灰色土(10YR4/1)：粘性やや弱、しまりやや強。5mm大の小礫を少量含む

58号ビット

- 1 褐灰色土(10YR5/1)：粘性やや弱、しまりやや強。5mm大の小礫を中量含む

59号ビット

- 1 灰黄褐色土(10YR5/2)：粘性やや弱、しまりやや強。5mm大の小礫を微量に含む
- 2 褐灰色砂質土(10YR4/1)：粘性やや弱、しまりやや強
- 3 灰黄褐色土(10YR4/2)：粘性中程度、しまりやや強。粘質土ブロックを含む

60号ビット

- 1 褐灰色土(10YR4/1)：粘性やや弱、しまりやや強。5mm大の小礫を微量に含む
- 2 灰黄褐色砂質土(10YR5/2)：粘性やや弱、しまり強

61号ビット

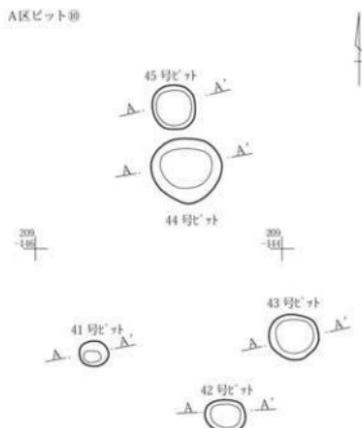
- 1 褐灰色土(10YR4/1)：粘性やや弱、しまり強。5mm大の小礫を少量含む、黒色土が混じる
- 2 褐灰色砂質土(10YR4/1)：粘性やや弱、しまりやや強

62号ビット

- 1 灰黄褐色土(10YR5/2)：粘性やや弱、しまりやや強。5mm大の小礫を少量含む

第277図 ビット(6)

A区ピット群



41号ピット

- 1 灰黄褐色土(10YR4/2)；粘性やや弱、しまりやや強。5mm大の小礫を少量含む

42号ピット

- 1 褐色土(10YR4/1)；粘性弱、しまりやや強。褐色粒を微量に含む
2 黒褐色砂質土(10YR3/2)；粘性やや弱、しまりやや強

41号ピット

△ L=215.50m △'



42号ピット

△ L=215.50m △'



43号ピット

△ L=215.50m △'



44号ピット

△ L=215.50m △'



45号ピット

△ L=215.50m △'



0 1 : 40 1m

43号ピット

- 1 褐色土(10YR4/1)；粘性弱、しまりやや強。5mm大の小礫を微量に含む

44号ピット

- 1 にぶい黄褐色土(10YR5/3)；粘性弱、しまりやや強。褐色粒・5mm大の小礫を中量含む
2 灰黄褐色砂質土(10YR4/2)；粘性やや弱、しまりやや強

45号ピット

- 1 にぶい黄褐色土(10YR5/3)；粘性弱、しまりやや強。褐色粒・5mm大の小礫を中量含む

第278図 ピット(7)

ピットの方が新しい。本ピット群の他のピットは、それぞれが単独であり、他遺構との重複は見られなかった。

埋土 各ピットの断面図を参照されたい。

構造 B1区南西部のピット群の各ピットのプランは87・91・95a・97号ピットが円形、94・96・101・109号ピットが楕円形、85・88～90・95b・102・106・108号ピットが隅丸方形、92・93・100・107号ピットが隅丸長方形を呈している。86号ピットは西側が調査区外に出るため全容は詳らかでないが、そのプランは隅丸方形または隅丸長方形、98号ピットは弧線形を呈するものと判断される。99号ピットは100号ピットとの重複のため、そのプランは明瞭ではないが、隅丸三角形を呈するものと想定される。110号ピットは北側が46号竪穴建物に壊されていてプランは確認できなかったが、円形または楕円形のプランを呈するものと想定される。底面形態は85・90・91・95a・95b・99～102・106・107・109・110号ピットが丸底、87・88・92・93・96～98・108号ピットが平底、86・89・94号ピットが尖底を呈している。

遺物 B1区南西部のピット群からは若干の遺物の出土が見られた。

所見 B1区南西部の各ピットの時期は特定できなかったが、その規模から推して86・87・89・91・93・94・95a・95b・97・102・106・108・109号ピットはおおよそ中世の所産、他のピットはおおよそ古代の所産の可能性が考慮される。

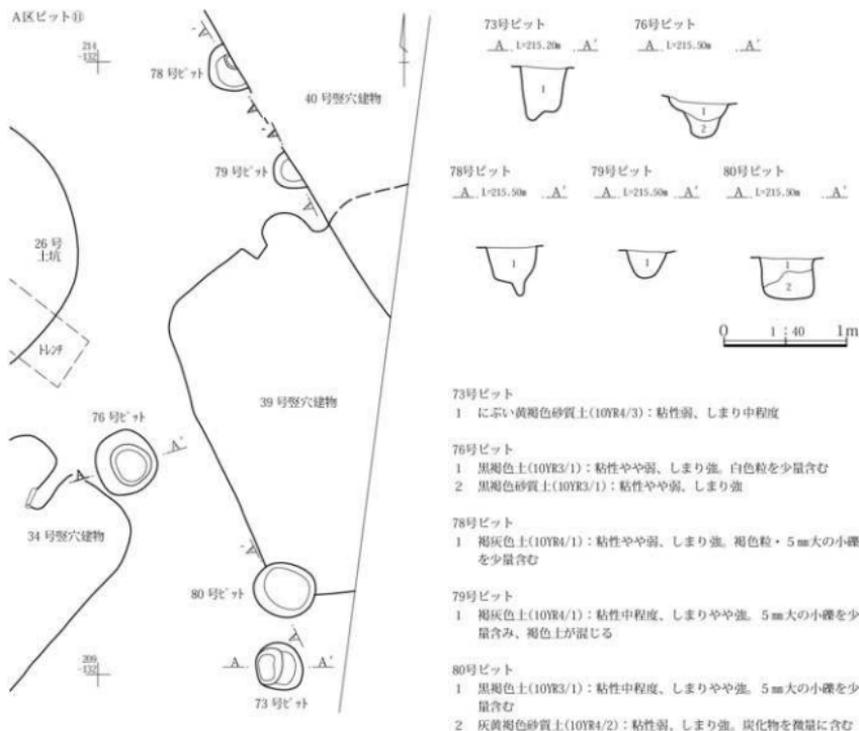
B1区中部南寄りのピット群(第284・285図、PL.68・69)

概要 B1区中部中央南寄りの③小区域で103～105・111～115・141・183・184・193号ピットの12基、B1区中西部の④小区域で116号ピットの1基の、合わせて13基のピットから成るピット群を確認、調査した。

位置・規模・主軸方位 第3表に所在グリッド・規模・主軸方位を記した。

重複 本ピット群のピットは全て単独で在り、他の遺構との重複は認められなかった。

埋土 各ピットの断面図を参照されたい。



第279図 ピット(8)

構造 本ピット群の各ピットのプランは、113号ピットが円形、111・114・193号ピットが楕円形、104・105・112・115・116・183・184号ピットが隅丸方形、103号ピットが隅丸台形、141号ピットが隅丸三角形を呈している。底面形態は105・111・112・115・141号ピットが丸底、103・104・113・114・184・193号ピットが平底、116・183号ピットが尖底を呈している。

遺物 B1区中部南寄りのピット群からは若干の遺物の出土が見られた。

所見 本ピット群の各ピットの時期は特定できなかったが、その規模から推して111・184号ピットがおおむね古代の所産として把握される他は、おおよそ中世の所産の可能性が考慮される。

B1区中部北東寄りのピット群(第286図、PL.68・69)

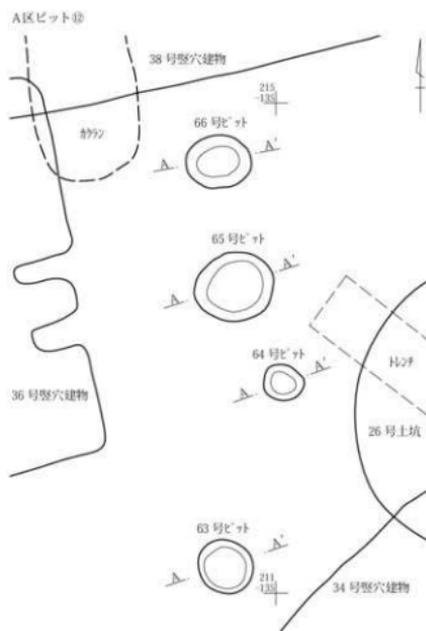
概要 B1区中部北東寄りの⑤小区域では119・139・140・156号ピットの4基のピットを確認、調査した。

位置・規模・主軸方位 第3表に所在グリッド・規模・主軸方位を記した。

重複 本ピット群のピットのうち139・140号ピットは71号竪穴建物と重複するが、いづれに対しても71号竪穴建物の方が新しく、156号ピットは64号竪穴建物と重複するが、64号竪穴建物の方が新しい。なお119号ピットは単独で在り、他の遺構との重複は見られなかった。

埋土 各ピットの断面図を参照されたい。

構造 本ピット群の各ピットのプランは119号ピットが隅丸方形、139・140号ピットが隅丸長方形を呈している。



63号ピット A_1 -1-215.50m A'

64号ピット A_1 -1-215.50m A'



65号ピット A_1 -1-215.50m A'

66号ピット A_1 -1-215.50m A'



63号ピット

- 1 灰黄褐色土(10YR4/2)：粘性やや弱、しまり強。白色粒・褐色粒を少量含む
- 2 黒褐色砂質土(10YR3/1)：粘性弱、しまりやや強

64号ピット

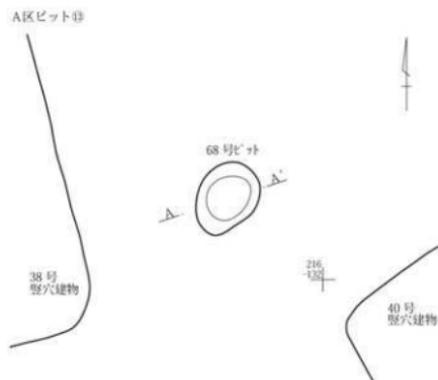
- 1 黒褐色土(10YR3/1)：粘性中程度、しまりやや強。5mm大の小礫を少量含む
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2)：粘性弱、しまり強。5mm大の小礫を少量含む

65号ピット

- 1 灰黄褐色土(10YR4/2)：粘性やや弱、しまりやや強。5mm大の小礫を少量含む、黒色土が混じる
- 2 褐灰色土(10YR4/1)：粘性やや弱、しまりやや強。白色粒・5mm大の小礫を少量含む
- 3 にぶい黄褐色砂質土(10YR4/3)：粘性弱、しまりやや強

66号ピット

- 1 黒褐色土(10YR3/1)：粘性やや弱、しまりやや強。褐色粒・5mm大の小礫を少量含む
- 2 にぶい黄褐色砂質土(10YR4/3)：粘性弱、しまりやや強



68号ピット A_1 -1-215.50m A'

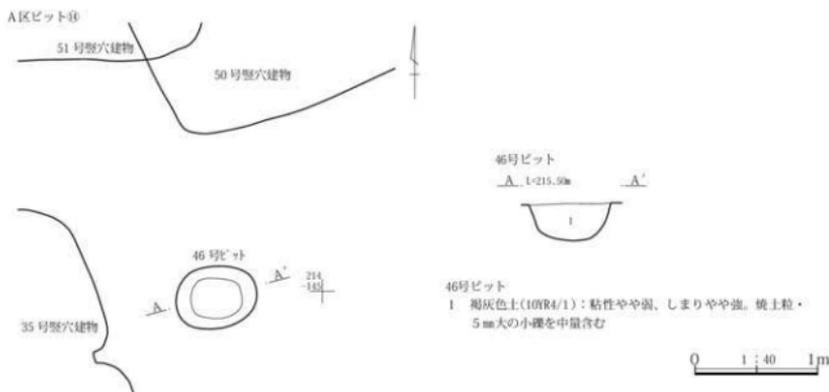


68号ピット

- 1 灰黄褐色土(10YR4/2)：粘性やや弱、しまりやや強。白色粒・5mm大の小礫を少量含む

0 1:40 1m

第280図 ピット(9)



第281図 ピット(10)

156号ピット西側が64号竪穴建物に切られて全容は把握できなかったが、概ね楕円形プランを呈するものと想定される。底面形態は156号ピットが丸底、119・139・140号ピットが平底を呈している。

遺物 本ピット群のピットのうち139号ピットからは土師器片30片と須恵器片1片が出土したが、図化すべきものは見られなかった。このほかのピットからの遺物の出土はなかった。

所見 本ピット群の各ピットの時期は特定できなかったが、その規模から推して119・156号ピットはおおよそ中世の所産、139・140号ピットはおおよそ古代の所産のものと想定される。

B 1 区北部のピット群(第287図、PL.68)

概要 B 1 区北部では、南寄りの⑥小区域では117・118・120号ピットの3基、中東寄りの⑦小区域では125～127ピットの3基、北東寄りの⑧小区域では160号ピット1基を確認、調査した。

位置・規模・軸方位 第3表に所在グリッド・規模・軸方位を記した。

重複 B 1 区北部所在のピットのうち117・118号ピットは重複関係にあるが、118号ピットの方が新しい。なお他のピットは単独で在り、他遺構との重複関係は見られなかった。

埋土 各ピットの断面図を参照されたい。

構造 B 1 区北部所在のピットのプランは、117・120・126号ピットが円形、160号ピットが楕円形、125・127号ピットが隅丸方形、118号ピットが隅丸長方形を呈している。底面形態は、117号ピットは過半が失われているため確認できなかったが、118・120・125・126号ピットが丸底、127・160号ピットが平底を呈しているが、118・125号ピットの底面には柱の荷重による椀状の塑性変形が見られ、その形状から柱の径は118号ピットは0.20mほど、125号ピットは0.17mほどと推定される。

遺物 本ピット群のピットのうち139号ピットからは土師器片4片が出土したが、他のピットからの遺物の出土は見られなかった。

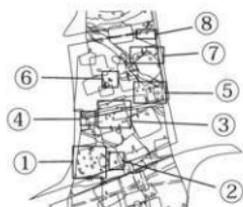
所見 本ピット群の各ピットの時期は特定できなかったが、その規模から推して160号ピットはおおよそ古代の所産、他のピットはおおよそ中世の所産と想定される。

尚、底面の塑性変形から118・125号ピットは柱穴の使用が考えられる。

(3) B 2 区のピット群

B 2 区南部のピット群(第288～290図、PL.70)

概要 B 2 区南部では南東寄りの①小区域では121～123号ピットの3基、中東寄りの②小区域で124・145号ピットの2基、中西寄りの③小区域で144・147号ピットの2基、北東寄りの④小区域で143・148～151号ピットの5基、北西寄りの⑤小区域で128～138号ピット11基



B1区

86号ピット

A, 1-215.50m A'



87号ピット

A, 1-215.50m A'



88号ピット

A, 1-215.50m A'



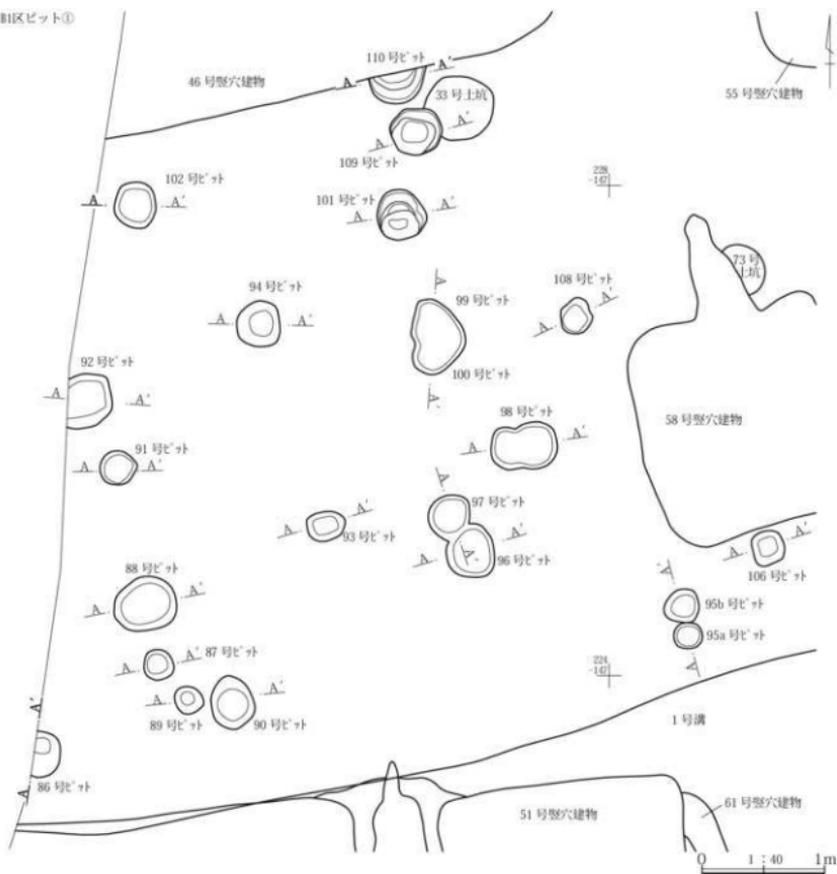
89・90号ピット

A, 1-215.50m A'



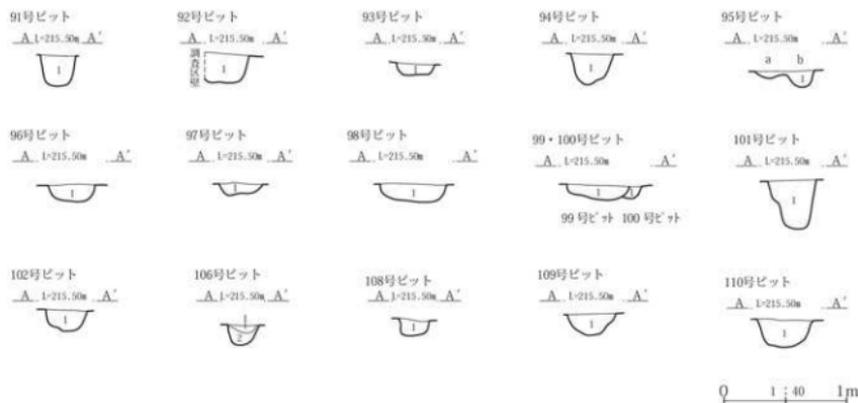
89号ピット 90号ピット

B1区ピット①



第282図 ピット(11)

第3章 南蛇井北原田遺跡



- 86号ビット
1 黒褐色砂質土(10YR3/2)：粘性弱、しまりやや強
- 87号ビット
1 黒褐色土(10YR3/2)：粘性弱、しまりやや強。5mm大の小礫を微量に含む
- 88号ビット
1 褐灰色土(10YR4/1)：粘性弱、しまり中程度。焼土粒を微量に含む
- 89号ビット
1 褐灰色砂質土(10YR4/1)：粘性弱、しまり中程度
- 90号ビット
1 黒褐色土(10YR3/2)：粘性やや弱、しまりやや強。5mm大の小礫を少量含む
- 91号ビット
1 黒褐色土(10YR3/1)：粘性やや弱、しまり強。焼土粒・5mm大の小礫を微量に含む
- 92号ビット
1 黒褐色土(10YR3/2)：粘性やや弱、しまり強。褐色粒を微量に含む
- 93号ビット
1 褐灰色土(10YR4/1)：粘性やや弱、しまり強。焼土粒・5mm大の小礫を微量に含む
- 94・110号ビット
1 黒褐色土(10YR3/1)：粘性やや弱、しまり強。5mm大の小礫を少量含む
- 95号ビット
1 褐灰色砂質土(10YR4/1)：粘性中程度、しまり中程度。5mm大の小礫を微量に含む
- 96号ビット
1 黒褐色砂質土(10YR3/2)：粘性弱、しまり強
- 97号ビット
1 褐灰色土(10YR4/1)：粘性弱、しまり強。ロームブロックが混じる
- 98号ビット
1 黒褐色土(10YR3/2)：粘性やや弱、しまりやや強。5mm大の小礫を少量含む、褐色土が混じる
- 99号ビット
1 灰黄褐色土(10YR5/2)：粘性やや弱、しまり強。褐色粒を微量に含む
- 100号ビット
1 黒褐色砂質土(10YR3/1)：粘性やや弱、しまり強
- 101号ビット
1 黒褐色土(10YR3/1)：粘性中程度、しまりやや強。焼土粒・5mm大の小礫を微量に含む
- 102号ビット
1 褐灰色土(10YR4/1)：粘性中程度、しまりやや強。5mm大の小礫を微量に含む
- 106号ビット
1 褐灰色土(10YR4/1)：粘性やや弱、しまりやや強。5mm大の小礫を微量に含む
2 灰黄褐色土(10YR5/2)：粘性やや弱、しまりやや強。1層とロームが混じる
- 108号ビット
1 褐灰色土(10YR4/1)：粘性やや弱、しまりやや強。焼土粒・白色粒を微量に含む
- 109号ビット
1 褐灰色土(10YR4/1)：粘性やや弱、しまり強。5mm大の小礫を少量含む



85号ピット

△ A、L-215.50m △ A'



107号ピット

△ A、L-215.50m △ A'

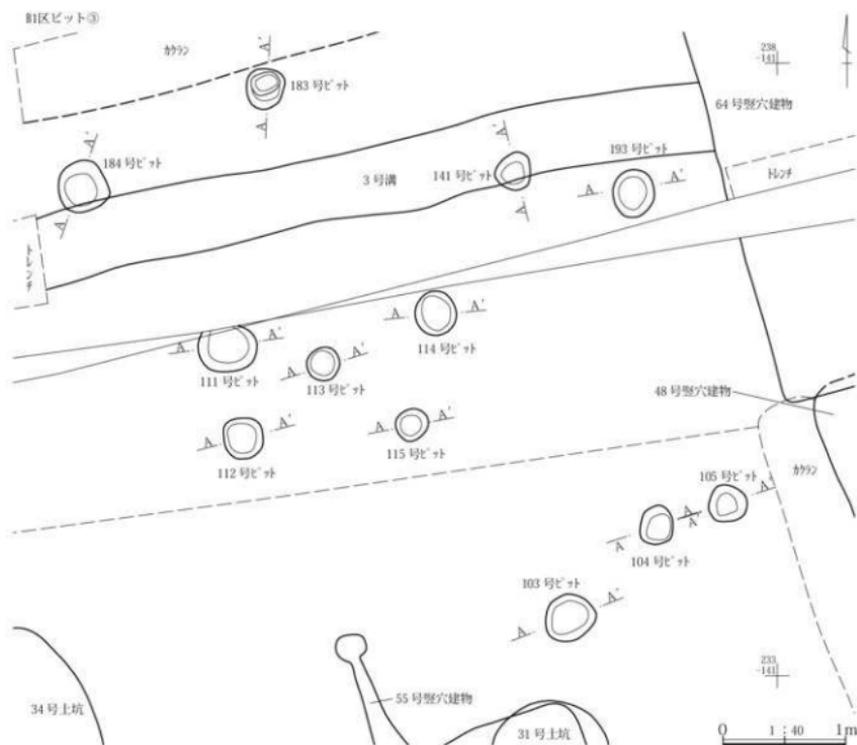


85号ピット

- 1 灰黄褐色土(10YR4/2)：粘性やや弱、しまり強。焼土粒・5mm大の小礫を微量に含む

107号ピット

- 1 灰黄褐色土(10YR4/2)：粘性やや弱、しまりやや強。焼土粒・5mm大の小礫を微量に含む
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2)：粘性やや弱、しまりやや強。5mm大の小礫を中量含む



第284図 ピット(13)

第3章 南蛇井北原田遺跡

103号ピット A, 1-215.50m, A'	104号ピット A, 1-215.50m, A'	105号ピット A, 1-215.50m, A'	111号ピット A, 1-215.50m, A'	112号ピット A, 1-215.50m, A'	113号ピット A, 1-215.50m, A'
114号ピット A, 1-215.50m, A'	115号ピット A, 1-215.50m, A'	141号ピット A, 1-215.50m, A'	183号ピット A, 1-215.50m, A'	184号ピット A, 1-215.50m, A'	193号ピット A, 1-215.20m, A'

103号ピット

- 1 灰黄褐色土(10YR4/2)：粘性弱、しまり強。5mm大の小礫を少量含む

104号ピット

- 1 灰黄褐色土(10YR4/2)：粘性弱、しまり強。5mm大の小礫を少量含む。土師器片が出土

105号ピット

- 1 褐灰色土(10YR4/1)：粘性やや弱、しまり強。5mm大の小礫を少量含む。土師器片が出土

111号ピット

- 1 褐灰色土(10YR4/1)：粘性やや弱、しまりやや強。5mm大の小礫を微量に含み、褐色土が混じる
2 黒褐色砂質土(10YR3/1)：粘性やや弱、しまりやや強。5mm大の小礫を微量に含む

112・114号ピット

- 1 褐灰色砂質土(10YR4/1)：粘性やや弱、しまりやや強。5mm大の小礫を微量に含む

113号ピット

- 1 灰黄褐色土(10YR4/2)：粘性中程度、しまりやや強。5mm大の小礫を微量に含む

115号ピット

- 1 褐灰色土(10YR4/1)：粘性やや弱、しまりやや強。5mm大の小礫を微量に含み、褐色土が混じる

141号ピット

- 1 黒褐色土(10YR2/3)：粘性やや弱、しまり強。粗砂少量混じる

183号ピット

- 1 黒褐色土(10YR2/3)：粘性やや弱、しまり強。粗砂・小礫・白色粒・黄色軽石少量混じる

184号ピット

- 1 黒褐色土(10YR2/3)：粘性弱、しまり強。粗砂・白色粒・黄色軽石少量混じる。褐色土小ブロック少量混じる
2 暗褐色土(10YR3/4)：粘性やや強、しまり強。白色粒少量混じる

193号ピット

- 1 黒褐色土(10YR2/3)：粘性やや強、しまり強。粗砂・小礫少量混じる



116号ピット

A, 1-215.50m, A'

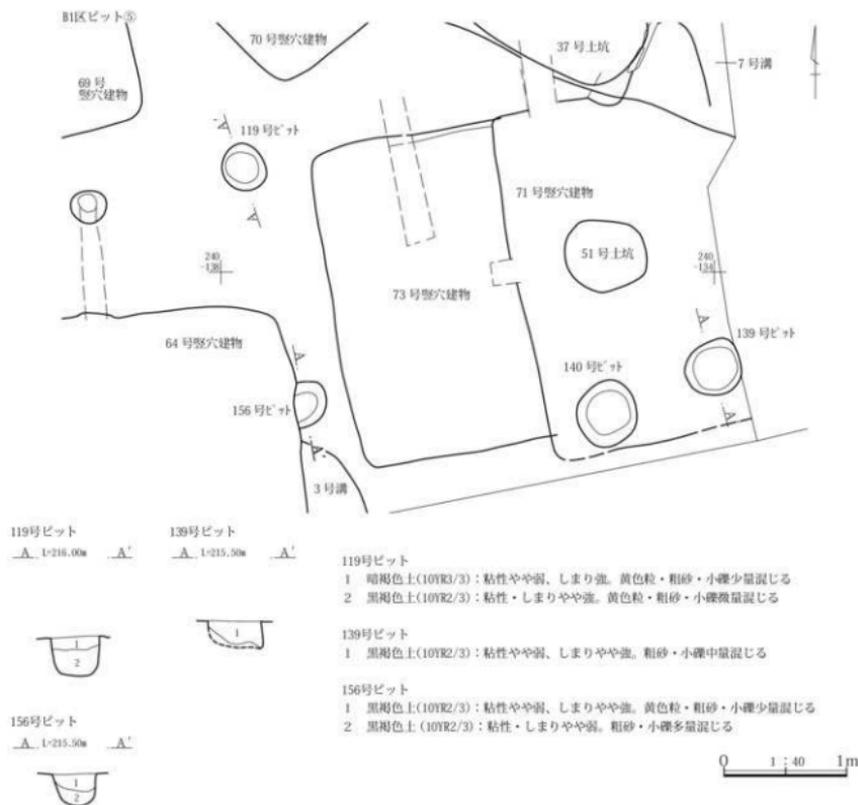


116号ピット

- 1 黒褐色土(10YR3/1)：粘性中程度、しまりやや強。炭化物・5mm大の小礫を微量に含む
2 灰黄褐色土(10YR4/2)：粘性中程度、しまりやや強。5mm大の小礫を中量含む

0 1 : 40 1m

第285図 ピット(14)



の合わせて23基のビットから成るビット群のビットを確認、調査した。

また、④小区域では、54・55号土坑、⑤小区域では43～48・50号土坑が掘削されているが、やや小型のこれら9基の土坑は、本ビット群に含まれる可能性が考慮される。

位置・規模・主軸方位 第3表に所在グリッド・規模・主軸方位を記した。

重複 B2区南部のビット群では149号ビットと150号ビットが重複するが、149号ビットの方が新しい。137号ビットは50号土坑と重複するが、137号ビットの方が新しい。また121号ビットと6号溝が重複するが、121号ビ

ットの方が新しく、145号ビットと5号溝が重複するが、5号溝の方が新しい。本ビット群の他のビットは、それぞれが単独で在り、他遺構との重複は見られなかった。

埋土 各ビットの断面図を参照されたい。

構造 ビットのプランは122・123・131・145号ビットが円形、121・124・130・132・135・136・138・143・149～151号ビットが楕円形、133・137・144・147号ビットが隅丸方形、128・129・134号ビットが隅丸長方形、148号ビットは隅丸台形を呈している。底面形態は121・128・132～134・136～138・145・147・148・150号ビットが丸底、122～124・129～131・135・143・144・149・151号ビットが平底を呈している。

第3章 南蛇井北原田道跡

B1区ビット⑥

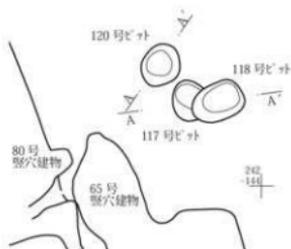


117・118号ビット

△ A-1-216.00m △ A'

120号ビット

△ A-1-215.70m △ A'



117号ビット 118号ビット

117号ビット

- ① 暗褐色土(10YR3/3)：粘性弱、しまり強。粗砂・小礫・褐色土小ブロック少量混じる
- ② 黒褐色土(10YR3/2)：粘性・しまりやや強。粗砂・小礫少量混じる

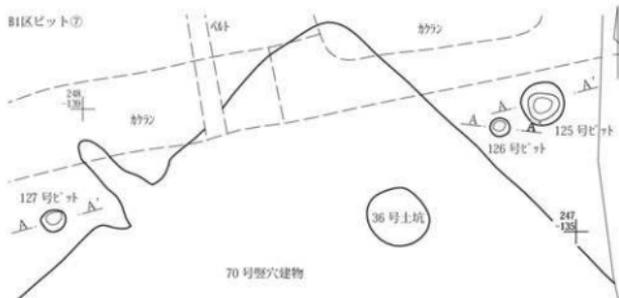
118号ビット

- 1 暗褐色土(10YR3/3)：粘性弱、しまり強。粗砂・小礫少量混じる
- 2 黒褐色土(10YR3/2)：粘性・しまりやや弱。粗砂・小礫少量混じる

120号ビット

- 1 暗褐色土(10YR3/3)：粘性やや弱、しまりやや強。粗砂・小礫少量混じる

B1区ビット⑦



125号ビット
△ A-1-215.50m △ A'



126号ビット
△ A-1-215.50m △ A'



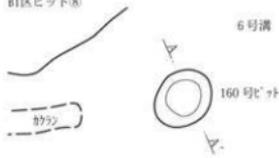
127号ビット
△ A-1-215.50m △ A'



125～127号ビット

- 1 黒褐色砂質土(10YR2/2)：粘性なし、しまりあり、極小粒。小石少量含む

B1区ビット⑧



160号ビット

△ A-1-215.50m △ A'

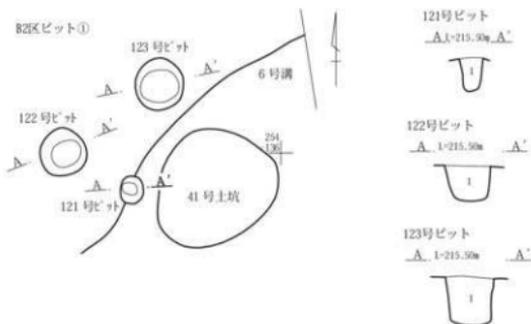
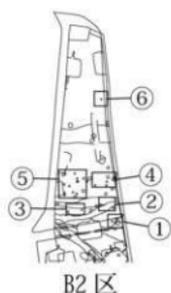


160号ビット

- 1 黒褐色砂質土(7.5YR3/1)：粘性なし、しまりあり、極小粒。砂礫を少量含む

0 1 : 40 1m

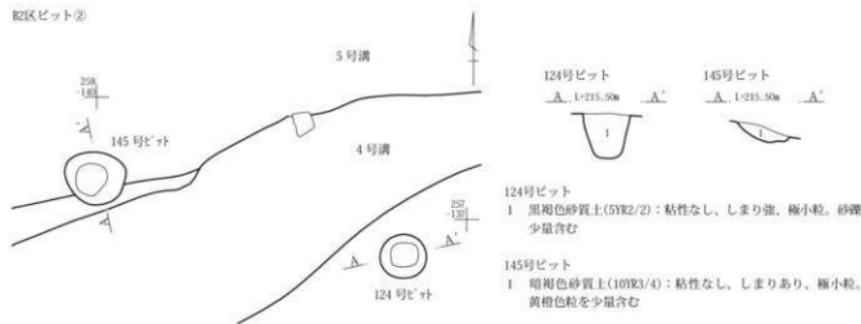
第287図 ビット(16)



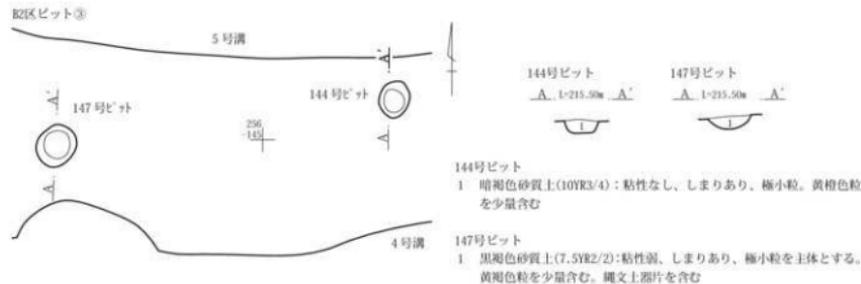
121～123号ピット

- 1 黒褐色砂質土(5YR2/2):粘性なし、しまり強、極小粒。砂礫少量含む

B2区ピット②



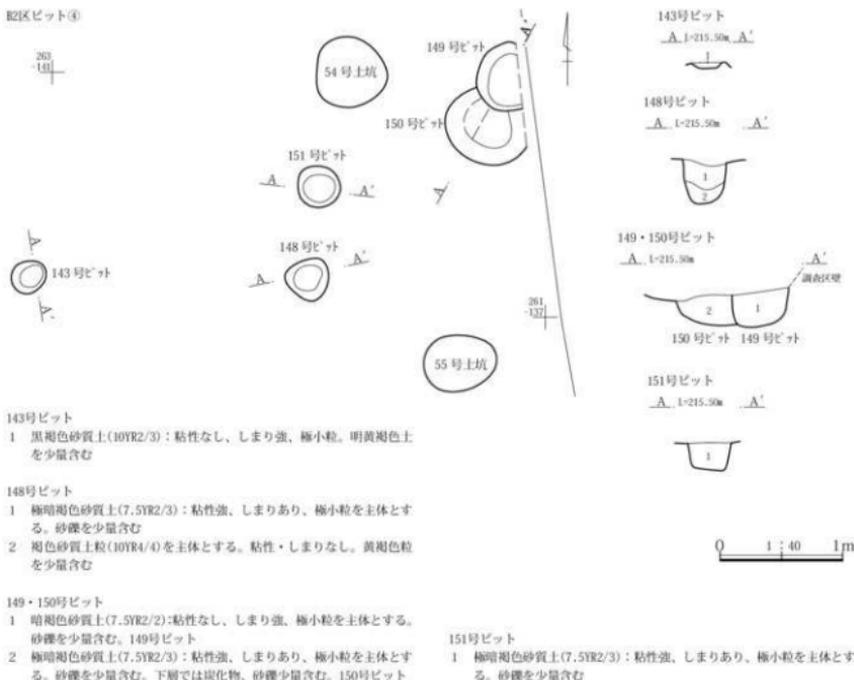
B2区ピット③



0 1 : 40 1m

第288図 ピット(17)

B2区ピット④



143号ピット

- 1 黒褐色砂質土(10YR2/3):粘性なし、しまり強、極小粒。明黄褐色土を少量含む

148号ピット

- 1 極暗褐色砂質土(7.5YR2/3):粘性強、しまりあり、極小粒を主体とする。砂礫を少量含む
- 2 褐色砂質土粒(10YR4/4)を主体とする。粘性・しまりなし。黄褐色粒を少量含む

149・150号ピット

- 1 暗褐色砂質土(7.5YR2/2):粘性なし、しまり強、極小粒を主体とする。砂礫を少量含む。149号ピット
- 2 極暗褐色砂質土(7.5YR2/3):粘性強、しまりあり、極小粒を主体とする。砂礫を少量含む。下層では炭化物、砂礫少量含む。150号ピット

151号ピット

- 1 極暗褐色砂質土(7.5YR2/3):粘性強、しまりあり、極小粒を主体とする。砂礫を少量含む

第289図 ピット(18)

遺物 B2区南部のピット群のうち145号ピットからは土師器片1片の出土を見たが、他のピットからの遺物の出土は見られなかった。

所見 B2区南部のピット群の各ピットの時期は特定できなかったが、その規模から推して123・145・149・150号ピットはおおよそ古代の所産、他のピットはおおよそ中世の所産の可能性が考慮される。

B2区中・北部のピット(第291図、PL.70)

概要 B2区中・北部境付近の、調査区東端近くでは⑥小区域で142号ピット、1基のみを確認、調査した。

位置・規模・主軸方位 第3表に所在グリッド・規模・主軸方位を記した。

重複 142号ピットは単独で在り、他の遺構との重複は見られなかった。

埋土 各ピットの断面図を参照されたい。

構造 142号ピットのプランは、その西半が隅丸方形、東半が円形を呈する。底面形態は尖底を呈する。

遺物 142号ピットからの遺物の出土は見られなかった。

所見 B2区中・北部の各ピットの時期は特定できなかったが、その規模から推しておおよそ中世の所産の可能性が考慮される。

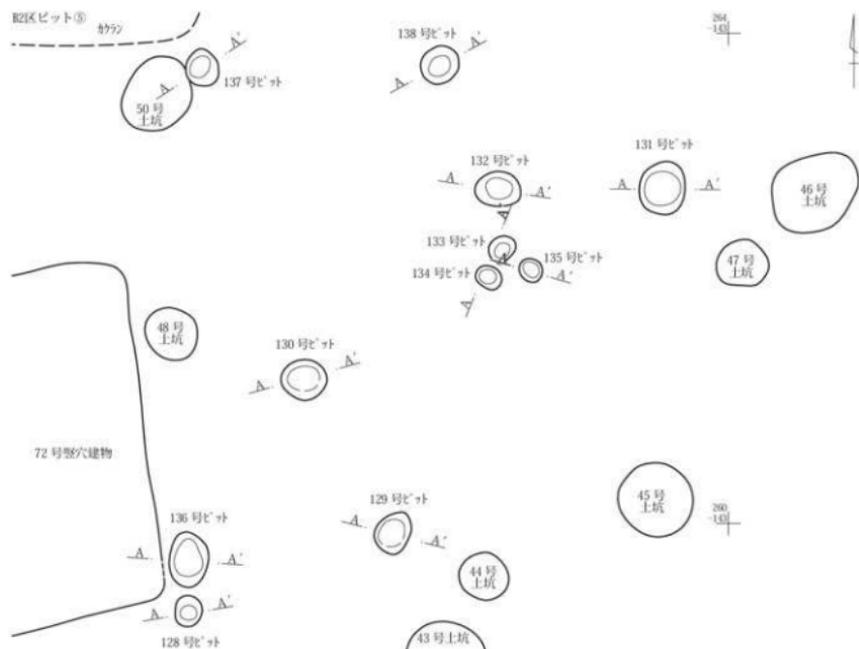
(4) C1区ピット群

C1区南部のピット(第292図、PL.71・72)

概要 C1区南部境の北東寄りの①小区域で192号ピット、1基のみを確認、調査した。

位置・規模・主軸方位 第3表に所在グリッド・規模・主軸方位を記した。

重複 192号ピットは単独で在り、他の遺構との重複は



128号ピット

A, I-215.90m A'



129号ピット

A, I-215.90m A'



130号ピット

A, I-215.90m A'



131号ピット

A, I-215.90m A'



132号ピット

A, I-215.90m A'



133・134号ピット

A, I-215.90m A'



135号ピット

A, I-215.90m A'



136号ピット

A, I-215.90m A'



137号ピット

A, I-215.70m A'



138号ピット

A, I-215.70m A'



134号ピット 133号ピット

50号土坑

0 1 : 40 1m

128号ピット

- 1 黒褐色砂質土(7.5YR3/2)：粘性なし、しまり強、極小粒。砂礫少量含む

129～135号ピット

- 1 黒褐色砂質土(7.5YR2/2)：粘性なし、しまり強、極小粒を主体とする。砂礫・炭化物を少量含む

136号ピット

- 1 黒褐色砂質土(7.5YR3/2)を主体とする。粘性なし、しまり強、極小粒。明褐色粒を少量含む

137号ピット

- 1 黒褐色砂質土(10YR2/3)：極小粒を主体とする。砂礫を少量含む

138号ピット

- 1 黒褐色砂質土(10YR2/3)：極小粒を主体とする。砂礫・明黄褐色土粒を少量含む



第291図 ビット(20)

見られなかった。

埋土 各ビットの断面図を参照されたい。

構造 192号ビットのプランは楕円形を呈し、底面形態はやや丸底気味の平底状を呈する。

遺物 192号ビットからの遺物の出土は見られなかった。

所見 C1区南部の各ビットの時期は特定できなかったが、その規模から推しておおよそ古代の所産の可能性が考慮される。

C1区中部のビット群(第292・293図、PL.71・72)

概要 C1区中部では南東の②小区域で162・163・181号ビットの3基、北西の③小区域で146・180号ビットの2基の、合わせて5基のビットを確認、調査した。

位置・規模・主軸方位 第3表に所在グリッド・規模・主軸方位を記した。

重複 C1区中部のビット群では162号ビットと163号ビットが重複するが、162号ビットの方が新しい。この2基以外のビットは、それぞれ単独で在り、他遺構との重複は見られなかった。

埋土 各ビットの断面図を参照されたい。

構造 ビットのプランは163号ビットが円形、162・180号ビットが楕円形、181号ビットが隅丸方形、146号ビットが隅丸長方形を呈している。底面形態は146・180・181号ビットが丸底、162号ビットが平底、163号ビットが尖底を呈する。

遺物 C1区中部のビット群のうち162・181号ビットからは土師器片がそれぞれ1片出土し、146号ビットからは土師器片5片の出土を見たが、他のビットからの遺物の出土は見られなかった。

所見 C1区中部のビット群の各ビットの時期は特定で

きなかったが、その規模から推して162・180号ビットはおよそ古代の所産と想定され、他の146・163・181号ビットはおおよそ中世の所産と想定される。

C1区北部のビット群(第294・295図、PL.71・72)

概要 C1区北部には、分布が粗いビット群が見られた。このうち南西寄りの④小区域では152・157～159・164号ビットの5基、南東の⑤小区域の南東、調査区東壁際に195号ビット1基、北東寄りの⑥小区域で153～155・165号ビットの4基の、合わせて10基のビットを確認、調査した。

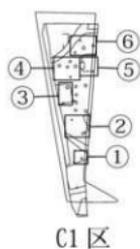
位置・規模・主軸方位 第3表に所在グリッド・規模・主軸方位を記した。

重複 C1区北部のビット群のビットは、全て単独で在り、他遺構との重複は見られなかった。

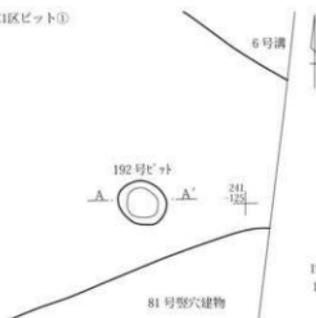
埋土 各ビットの断面図を参照されたい。

構造 ビットのプランは154・195号ビットが円形、155・157・164・165号ビットが楕円形、152・153・159号ビットが隅丸方形を呈し、158号ビットは北東半は楕円形、南西半は隅丸方形のプランを呈している。底面形態は153・154・165・195号ビットが丸底、155・157・158・164号ビットが平底、152・159号ビットは横断面形逆凸形を呈している。

遺物 C1区北部のビット群のうち159・164・195号ビットからの遺物の出土は見られなかった。しかし152号ビットからは土師器片が5片、153号ビットからは土師器片16片、154号ビットからは土師器片8片、155号ビットからは土師器片1片、157号ビットからは土師器片10片、158号ビットからは土師器片8片、165号ビットからは土師器片3片の出土を見たものの、図示すべきものは見ら



C1区ピット①



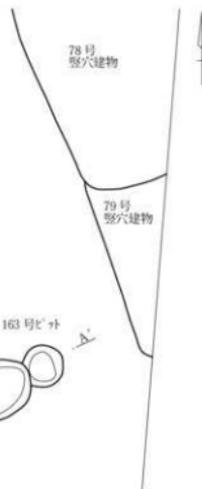
192号ピット

- 1 黒褐色土(10YR2/3)：粘性やや弱、しまりやや強。粗砂・小礫少量混じる

C1区ピット②

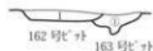


249
-127



162・163号ピット

A, l=215.30m A'



181号ピット

A, l=215.30m A'



162・163号ピット

- 1 暗褐色土(10YR3/3)：粘性やや弱、しまりやや強。細砂・粗砂少量混じる。162号ピット
① 黒褐色土(10YR2/3)：褐色土小ブロック中量、細砂少量混じる。粘性・しまりやや強。163号ピット

181号ピット

- 1 黒褐色土(10YR2/3)：粘性・しまりやや強。細砂・粗砂微量混じる
2 黒褐色土(10YR2/2)：粘性・しまりやや強。粗砂極微量混じる

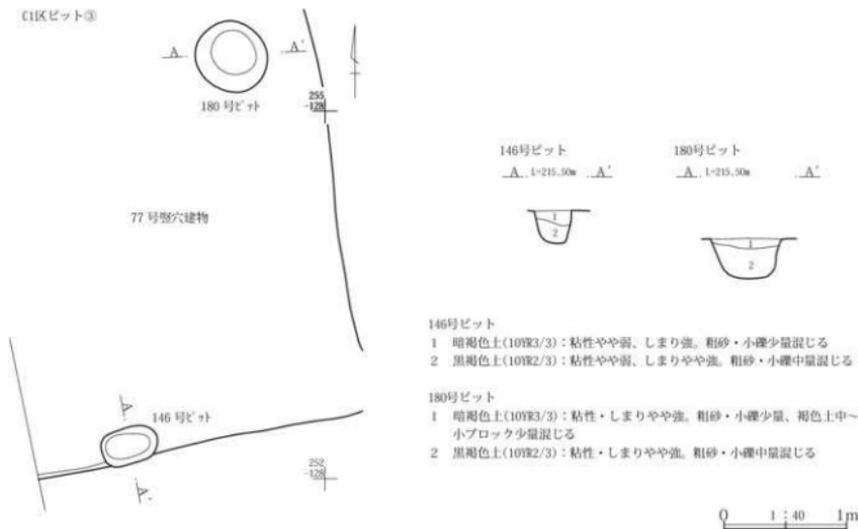


246
-127

0 1 : 40 1m

第292図 ピット(21)

C1区ピット③



第293図 ピット(22)

れなかった。

所見 C1区北部のピット群の各ピットの時期は特定できなかったが、その規模から推して153・159・165・195号ピットはおよそ中世の所産と想定されるもの、他のピットは古代の所産と想定される。

また⑥小区域の155ピットは、土層断面に柱痕が確認されることから柱穴としての使用が確認され、④小区域の152・159号ピットはその底面形態が、柱の荷重による塑性変形と見られることから、柱穴としての使用が想定される。またこの3基のピットの柱の径は152号ピットは0.22m、155号ピットは0.19m、159号ピットは0.10mほどとそれぞれ認識される。

(5) C2区のピット群

C2区中・南部境のピット群(第296図、PL.71)

概要 C2区中・南部境に分布する、①小区域のピット群は185～191号ピットの7基から成り、これらを確認、調査した。

位置・規模・主軸方位 第3表に所在グリッド・規模・主軸方位を記した。

重複 C2区中・南部境のピット群のピットのうち188・189号ピットは重複関係にあり、このうち189号ピットの方が新しい。この2基以外のピットは全て単独で在り、他遺構との重複は見られなかった。

埋土 各ピットの断面図を参照されたい。

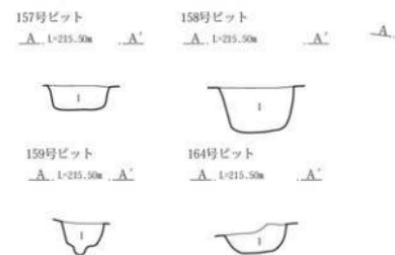
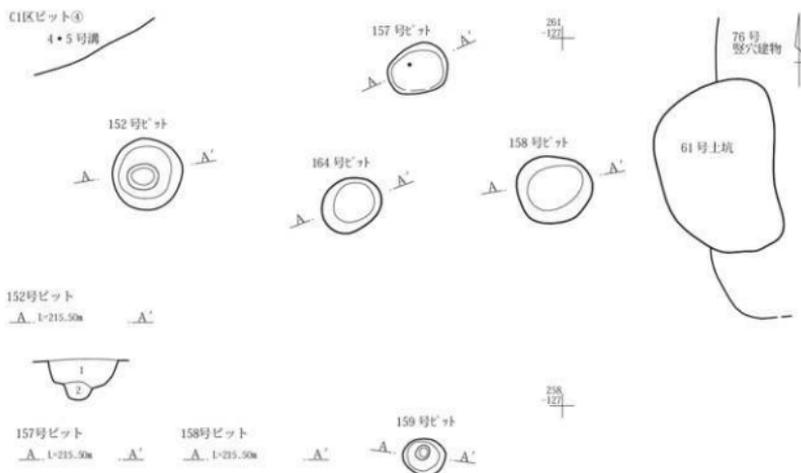
構造 ピットのプランは188・190号ピットが円形、185・187・191号ピットが隅丸方形、186・189号ピットは木の葉形を呈している。底面形態は188・189・191号ピットが丸底、185～187・190号ピットが平底を呈している。

遺物 C2区中・南部境のピット群の各ピットからの遺物の出土は見られなかった。

所見 C2区中・南部境のピット群の各ピットの時期は特定できなかったが、その規模から推して186・190・191号ピットはおよそ古代の所産、186～189号ピットはおよそ中世の所産と想定される。

C2区中部のピット群(第297図、PL.71)

概要 C2区中部の中央から北西寄り境に分布する②小区域のピット群は、169～172・176～179号ピットの8基から成り、これらを確認、調査した。



157号ピット
1 黒褐色土(10YR2/3)・粘性やや弱、しまり強。粗砂・小礫中量混じる

158号ピット
1 黒褐色土(10YR2/3)・粘性やや弱、しまりやや強。粗砂・小礫少量混じる

159号ピット
1 黒褐色土(10YR2/3)・粘性やや弱、しまりやや強。粗砂・褐色土小ブロック微量混じる

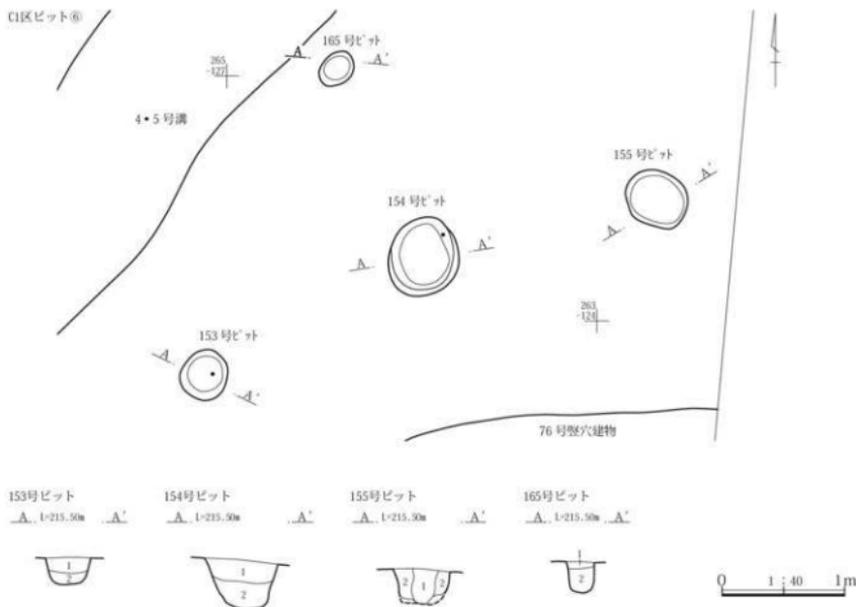
164号ピット
1 暗褐色土(10YR3/3)・粘性弱、しまり強。粗砂・小礫少量混じる

152号ピット
1 暗褐色土(10YR3/3)・粘性やや弱、しまりやや強。粗砂・小礫中量混じる
2 黒褐色土(10YR2/3)・粘性・しまりやや弱。粗砂・小礫少量混じる



第294図 ピット(23)

第3章 南蛇井北原田遺跡



153号ピット

- 1 暗褐色土(10YR3/3):粘性弱、しまりやや強。粗砂・小礫中量混じる
- 2 黒褐色土(10YR2/3):粘性・しまりやや弱。細砂中量、粗砂微量混じる

154号ピット

- 1 暗褐色土(10YR3/3):粘性弱、しまりやや強。粗砂・小礫中量混じる
- 2 黒褐色土(10YR2/3):粘性・しまりやや弱。粗砂・小礫微量、細砂中量混じる。

155号ピット

- 1 黒褐色土(10YR2/3):粘性・しまりやや弱。細砂・粗砂微量混じる
- 2 暗褐色土(10YR3/3):粘性やや弱、しまりやや強。粗砂・小礫微量混じる

165号ピット

- 1 暗褐色土(10YR3/3):粘性弱、しまり強。粗砂微量混じる
- 2 黒褐色土(10YR2/3):粘性やや弱、しまりやや強。粗砂・小礫中量混じる

第295図 ピット(24)

なお、小型の土坑である65号土坑は、本ピット群の北西側に近接して在る。

位置・規模・軸方位 第3表に所在グリッド・規模・軸方位を記した。

重複 C2区中部のピット群のピットは全て単独で在り、他遺構との重複は見られなかった。

埋土 各ピットの断面図を参照されたい。

構造 ピットのプランは169・170・176・178号ピットが楕円形、171・172・177号ピットが隅丸方形、179号ピットが隅丸の菱形を呈している。底面形態は169・172・

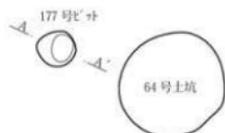
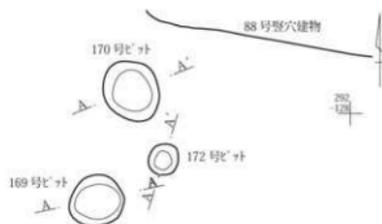
176～179号ピットが丸底、170・171号ピットが平底を呈している。

遺物 C2区中部のピット群のうち172号ピットでは土師器片1片の出土を見たが、他のピットからの遺物の出土は見られなかった。

所見 C2区中部のピット群の各ピットの時期は特定できなかったが、その規模から推して169・170号ピットはおよそ古代の所産、他のピットはおよそ中世の所産と想定される。

第3章 南蛇井北原田遺跡

C2区ビット②



169号ビット

A. 1-215.50m A'



170号ビット

A. 1-215.50m A'



179号ビッド



171号ビット

A. 1-215.50m A'



172号ビット

A. 1-215.50m A'



176号ビット

A. 1-215.50m A'



177号ビット

A. 1-215.50m A'



178号ビット

A. 1-215.50m A'



179号ビット

A. 1-215.50m A'



169号ビット

1 黒色砂質土(7.5YR2/1):粘性なし、しまりあり、極小粒。砂礫を少量含む

170号ビット

1 黒色砂質土(7.5YR2/1):粘性なし、しまりあり、極小粒。砂礫を少量含む

171号ビット

1 黒色砂質土(7.5YR2/1):粘性なし、しまりあり、極小粒。砂礫を少量含む

172号ビット

1 黒色砂質土(7.5YR2/1):粘性なし、しまりあり、極小粒。砂礫を少量含む

176号ビット

1 黒褐色土(10YR2/3):粘性・しまりやや弱。粗砂・小礫多量混じる

177号ビット

1 黒褐色土(10YR2/3):粘性やや弱、しまりやや強。粗砂・小礫中量混じる

178号ビット

1 黒褐色土(10YR2/3):粘性・しまりやや弱。粗砂少量混じる

179号ビット

1 黒褐色土(10YR2/3):粘性やや弱、しまりやや強。粗砂少量混じる

0 1:40 1m

第297図 ビッド(26)

(6) C3区のピット

C3区南部のピット(第298図、PL.72)

概要 C3区南部、西側の調査区が南方へ突出する箇所の①小区域に所在する194号ピットを確認、調査した。

位置・規模・軸方位 第3表に所在グリッド・規模・軸方位を記した。

重複 194号ピットは全て単独で在り、他遺構との重複は見られなかった。

埋土 各ピットの断面図を参照されたい。

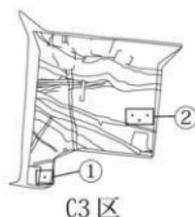
構造 194号ピットのプランは円形を呈し、底面の横断

形は漏斗形を呈する。

遺物 194号ピットからの遺物の出土は見られなかった。

所見 194号ピットの時期は特定できなかったが、その規模から推して本ピットはおよそ中世の所産と想定される。

また底面が凸字状に突出する箇所は、柱の荷重による塑性変形か、柱痕を掘り出して周囲の掘削が足りなかった痕跡の可能性が考えられるが、いずれにせよ本ピットは柱穴として使用され、柱の径は0.17mと認識される。



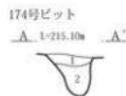
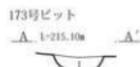
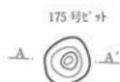
C3区ピット①



194号ピット

- 1 黒褐色土(10YR2/3):粘性やや弱、しまりやや強。粗砂・小礫少量混じる
- 2 黒褐色土(10YR2/2):粘性・しまりやや強。粗砂微量混じる

C3区ピット②



173号ピット

- 1 暗褐色土(10YR3/3):粘性やや弱、しまりやや強。As-A少量、褐色土・黒褐色土小ブロック中量混じる

174号ピット

- 1 暗褐色土(10YR3/3):粘性やや弱、しまりやや強。粗砂少量混じる
- 2 黒褐色土(10YR2/3):粘性・しまりやや弱。粗砂微量混じる

175号ピット

- 1 黒褐色土(10YR2/3):粘性やや弱、しまりやや強。細砂・粗砂微量混じる



第298図 ピット(27)

C3区中部のビット群(第298図、PL.73)

概要 C3区中部東寄りの区域に在る②小区域には173～175号ビットの3基のビットを、確認、調査した。

位置・規模・軸方位 第3表に所在グリッド・規模・軸方位を記した。

重複 本ビット群のビットは全て単独で在り、他遺構との重複は見られなかった。

埋土 各ビットの断面図を参照されたい。

構造 本ビット群のビットのプランは、174号ビットが楕円形、173・175号ビットが隅丸方形を呈する。底面形態は174号ビットが丸底、173号ビットが平底を呈し、175号ビットが漏斗形の形状を見せている。

遺物 本ビット群の各ビットからの遺物の出土は見られなかった。

所見 本ビット群の各ビットの時期は特定できなかったが、その規模から推して、173・174号ビットは古代の可能性が考えられ、175号ビットは中世の所産の可能性が考慮される。

また底面が凸字状に突出する175号ビットの形状は、柱の荷重による塑性変形と考えられるが、175号ビットは柱穴として使用され、柱の径は0.15mと推定される。

5 溝

1号溝(第299・300図、PL.74)

概要 本溝は大型の溝であるが、東西両側が調査区外に出ているため、全容は確認されなかった。

位置 B1区南部南寄りに在り、220～230-131～152グリッドに位置する。

重複 本溝は47・51・53・54・56・59・61号竪穴建物、2号溝と重複するが、何れの竪穴建物・溝より新しい。

規模 長さ：(21.60)m 幅：1.47～(2.53)m
深さ：0.05～0.32m

埋土 褐色土で埋没するが、底面近くに小礫を多く含む。

構造 本溝は調査区に西南西方向から入り、東北東方向に抜けていて、全容は詳らかでない。

溝の走行は僅かに南東側に膨らむ弱い弧状を成し、主軸の向きはN73°Eを向く。壁面は緩傾斜で底面は平底を呈するが、部分的に底面が箱掘り状に浅く掘られる。横断面形の掘削形態は丸底、平底、船底状を呈する。

底面は西高東低であるが、西半部は水平に近く、東半部は東方にやや傾く。本溝の全体の勾配率は0.61%で、ほぼ水平である。

遺物 本溝からは土師器杯(1)、須恵器の高台付椀(2)と甕(3)の他、土師器片100片、須恵器片11片が出土しているが、およそ小片である。

所見 本溝は上述のように東西両側が調査区外に出るため全容は把握できなかった。

出土遺物はあったものの、本溝の時期は特定できなかった。尚、重複する59号竪穴建物の時期から推して、本溝は10世紀以降の所産と認識される。

上述のように、本溝付近の土地の傾斜は一定していないため、傾斜と掘削方向の関係は確認できなかった。

また底面近くに小礫が多く出土し、底面形態が一定しないことから、恒常的ではないにせよ、流水のあった可能性が考慮されるが、本溝の掘削意図は特定できなかった。

2号溝(第299・300図、PL.74・124)

概要 本溝は規模の小さな溝である。西側が調査区外に出ており、東側は1号溝と重複したところで途切れていて、全容は確認できなかった。

位置 B1区中部から南部にかけて在り、226～232-131～150グリッドに位置する。

重複 本溝は45～47・54～56号竪穴建物、1号溝と重複するが、46号竪穴建物との新旧関係が特定できなかった以外は、本溝の方が古い。

規模 長さ：(19.55)m 幅：0.37～1.33m
深さ：0.03～0.49m

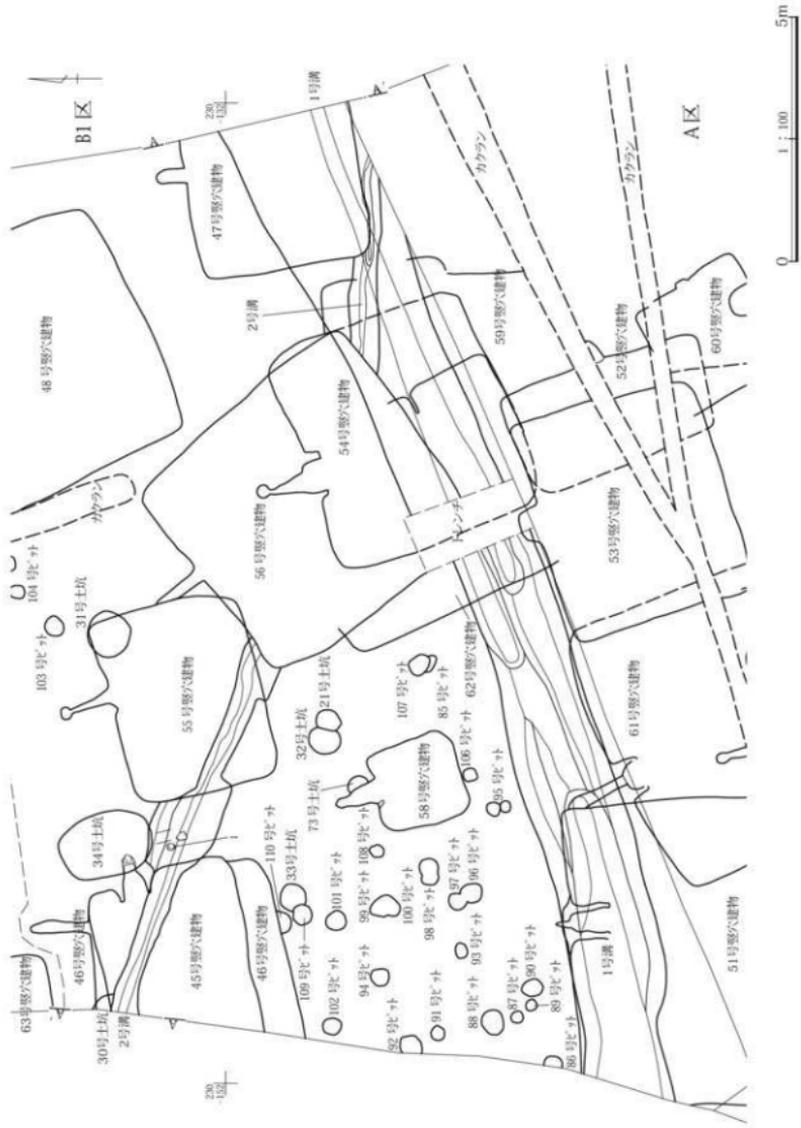
埋土 小礫多量に含む褐色砂質土、黒色土含むにぶい黄褐色砂質土、最深部に底面に礫散布するにぶい黄褐色砂質土で埋没する。

構造 本溝は調査区に西北西方向から入り、N74°W方向に直線的に走行し、南部で屈曲してN85°E方向に直線的に走る。

壁面はやや開き気味の箱型状を呈するが、底面は凹凸が見られる。

本溝の底面は西高東低の傾向が窺われるが、勾配率は0.17%でほとんど水平である。

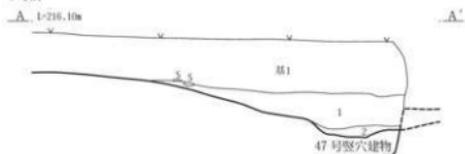
遺物 本溝からは土師器甕片(1)のほか、5片の土師器



第289図 1・2号溝(1)

第3章 南蛇井北原田道跡

1号溝



2号溝



耕作土

基1 黒褐色土(10YR3/2)：粘性やや弱、しまり強。5mm大の小礫を少量含む

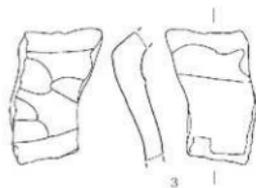
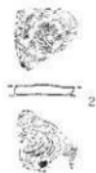
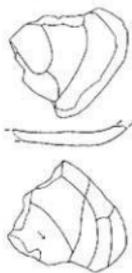
1号溝

- 1 褐灰色土(10YR5/1)：粘性弱、しまり強。5mm大の小礫を微量に含む
- 2 褐灰色土(10YR4/1)：粘性弱、しまり強。5mm～2cm大の礫を多量に含む。強固な堆積。

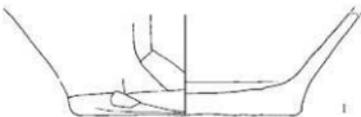
2号溝

- 1 褐灰色砂質土(10YR4/1)：粘性弱、しまり強。砂礫状の質感。5mm大の小礫を多量に含む
- 2 ぶい黄褐色砂質土(10YR5/3)：粘性弱、しまりやや強。黒色土が混じる
- 3 ぶい黄褐色砂質土(10YR5/3)：粘性やや弱、しまりやや強。2～5cm大の礫が底面に散布する。粗質

1号溝



2号溝



第300図 1・2号溝(2)と出土遺物

片が出土している。

所見 本溝は上述のように西側が調査区外に在り、東側が南側は失われているため、全容は詳らかにできなかった。

本溝の時期は出土遺物は特定できなかったが、重複する竪穴建物の時期から6世紀後半以前の所産として把握される。

本溝付近の土地の傾斜は一定しないため、判断が難しいが、本溝はおおむね土地の傾斜に合わせて掘削されたものと思される。

本溝は埋土と底面の礫の散布、及び底面に凹凸が見られることから、通水の可能性が認められる。この場合は東方向への通水が考慮される。恒常的な通水の可否は確認できなかったが、本溝は水路としての使用も考慮される。

6号溝(第301・302図、PL.75)

概要 本溝は中程で幅広となる、基本的に小型の溝である。西側は7号溝に切れ、東側は調査区外に出るため、全容は把握できなかった。

位置 B1区とB2区の境および公道を挟んで東側のC1区中部南寄りに在り、241～254-124～149グリッドに位置する。

重複 本溝は68号竪穴建物および7号溝と重複するが、いずれに対しても本溝の方が古い。

規模 長さ：(28.60)m 幅：0.39～5.12m
深さ：0.08～0.24m

埋土 粘性やや弱い暗褐色土やにぶい黄褐色土、粘性の弱い暗褐色土で埋没している。

構造 本溝は中・西部で西北西-東南東方向に走行し、その幅員は東に向かって広がるが、中部東寄りでは池状に膨らむ。市道を挟んだ東側のC1区では北西-南東方向に直線的に走行するが、南東に向かい、その幅員は広がる。

本溝の走行の方向は中・西部ではN83°W、東部ではN58°Wを向く。掘削形態は箱形を呈し、底面は平底を成す。

本溝の底面は西高東低で、勾配率は0.38%とほぼ水平である。池状に幅員が広がる箇所の底面の高さは、その西側と同様の高さを測った。

遺物 本溝からは土師器片20片の出土を見たが、図示すべきものは得られなかった。

所見 本溝は上述のように西側は失われ、東側は調査区外に出ているため、全容は詳らかでない。

本溝の時期は特定できず、重複する竪穴建物の時期から8世紀中葉以前の所産として把握されるに過ぎない。

本溝に通水の痕跡は確認されず、本溝の掘削意図も把握できなかった。

7号溝(第301・302図、PL.75)

概要 本溝は流水の痕跡を中小規模の溝である。東西両側が調査区外に出ており、全容は確認できなかった。確認範囲はB1・2区に限られ、その延長線上に在るC1区では確認できなかった。

位置 本溝はB1区南部からB2区北半部に在り、241～253-133～149グリッドに位置する。

重複 本溝は67・68・70・71号竪穴建物および37号土坑と重複する。70・71号竪穴建物との新旧関係は特定できなかったが、67・68号竪穴建物と37号土坑に対しては本溝は古い。

規模 長さ：(20.36)m 幅：0.66～1.96m
深さ：0.25～0.62m

埋土 いずれも粗砂主体の黒褐色土、にぶい黄褐色土、暗褐色土、下位層の5層のみ細砂主体の暗褐色土で埋没する。

構造 本溝は調査区に北西方向から入り、南東方向に抜けている。

本溝は弱く蛇行するが、走行の方向はおおよそN53°Wを向く。幅員は北西隅部では細いが、以東では広がる。掘削形態は底面がやや広がる葉研形状を呈する。

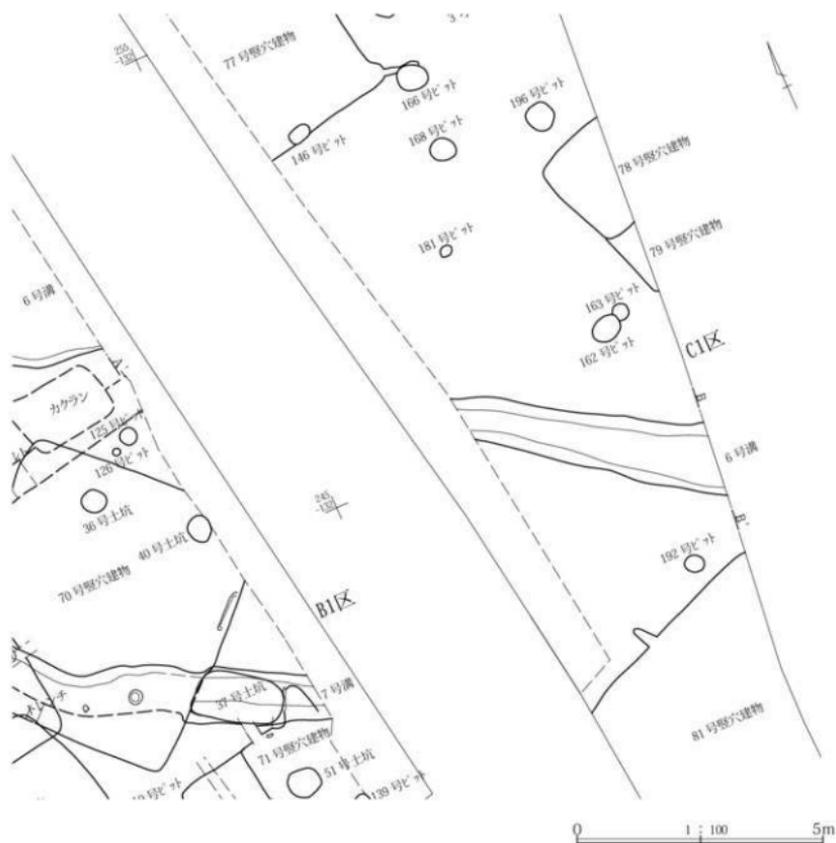
勾配率は0.54%とほぼ水平な状態である。

遺物 本溝からは土師器片25片が出土したが、図示すべきものは見られなかった。

所見 本溝は上述のように東西両側が調査区外に出るため、全容は詳らかでない。

本溝の時期は特定できなかったが、重複する竪穴建物の時期から8世紀第3四半期以前の所産として把握される。

本溝は埋土から通水の痕跡が窺われるため、水路として使用されたものと判断される。通水の方向は南東方向



7号溝

A. 1-25.70m



7号溝

- 1 黒褐色土(10YR2/3)：粗砂主体、粘性弱、しまりやや強。礫極多量混じる
- 2 にぶい黄褐色土(10YR4/3)：細砂主体、粘性弱、しまり強。小礫少量混じる
- 3 黒褐色土(10YR2/3)：粗砂主体、粘性弱、しまりやや強。礫多量混じる
- 4 暗褐色土(10YR3/4)：粗砂主体、粘性弱、しまりやや強。礫少量混じる
- 5 暗褐色土(10YR3/4)：細砂主体、粘性弱、しまりやや強。小礫少量混じる
- 6 黒褐色土(10YR2/3)：粗砂主体、粘性弱、しまりやや強。礫多量混じる

0 1 : 50 1m

第302図 6・7号溝(2)

と推定される。またその走行から条里方眼に依拠したのではなく、自然地形により掘削されたものと思量される。

4・5・9号溝(第303～305図、PL.74～76・124)

概要 4・5・9号溝は共に流水の痕跡が見られる、中小規模の溝群である。4号溝は西側が調査区外に在り、東側は5号溝に重なる。5号溝は東西両側が調査区外に出ている。9号溝の西側は5号溝に切られ、東側は調査区外に出ている。従って4・5・8・9号溝は、共に全容を確認することはできなかった。

位置 4・5号溝はB2区南部からC1区北部、更にC2区南東隅部にかけて在り、9号溝はC1区北部北東寄りに在る。各溝の所在グリッドは以下の通りである。

(4号溝) 253～267-125～149グリッド

(5号溝) 256～272-122～149グリッド

(9号溝) 266～267-122～125グリッド

重複 4号溝は5号溝と重複するが、新旧関係は特定できず、併存していたか否かも確認できなかった。また(4・)5号溝は8・9号溝と重複するが、8号溝との新旧関係は特定できなかったが、9号溝に対しては5号溝の方が新しい。このほか5号溝は56号土坑、145号ピットと重複するが、本溝に対して145号ピットは古く、56号土坑の方が新しい。

規模 (4号溝)長さ：(28.62)m 幅：0.73～1.74m
深さ：0.12～0.44m

(5号溝)長さ：(33.30)m 幅：0.63～2.00m

深さ：0.12～0.46m

(9号溝)長さ：(2.90)m 幅：0.64～0.83m

深さ：0.13～0.19m

埋土 4・5号溝は共に暗褐色土や黒褐色土で埋没するが、これらは砂礫層や粗砂主体の層、粗砂を含む。9号溝は粗砂・小礫主体の暗褐色土で埋没する。

構造 4号溝は西北西から調査区に入り、弧を描きながら北東に走行を変じて5号溝にぶつかる。一方5号溝は西側から調査区に入り、極弱く蛇行しつつも直線的にB2区を東進し、C1区へは西南西方向から調査区に入る。C1区を反時計回りに弧を描いて走行して北北東方向に調査区を抜け、C2区南東隅を南西-北東方向に走行している。9号溝は5号溝から分岐するように在り、東側

に走行している。

掘削形態は葉研堀から壁面の開く箱堀状を呈し、主軸の向きは4号溝は西からN85°WからN68°Eへと変じ、5号溝は西からN84°W、N85°E、N59°E、N15°E、N53°Eへと順次その走行の方向を変じている。9号溝の走行の方向はN85°Eを向いている。

5号溝の底面には、B2区の中ほどに長さ5.25m、幅0.52m、深さ0.09mを測る溝状の窪みがあり、C1区の9号溝との接合部のすぐ南に長さ2.20m、幅1.08m、深さ0.33mを測る土坑状の窪みが見られる。

4号溝の底面は東高西低で勾配率は0.38%とほぼ水平であり、5号溝の底面は西高東低で勾配率は0.69%と水平に近い数値で在った。9号溝の底面は西高東低で、勾配率は3.79%であった。

遺物 4号溝からは土師器鉢(1)のほか土師器片70片と須恵器片1片、5号溝からは土師器片28片が出土したほか、4・5号溝いずれかの土師器片38片の出土が見られた。9号溝からの遺物の出土は見られなかった。

所見 上述のように、4・5・9号溝は共に全容を把握することはできなかった。

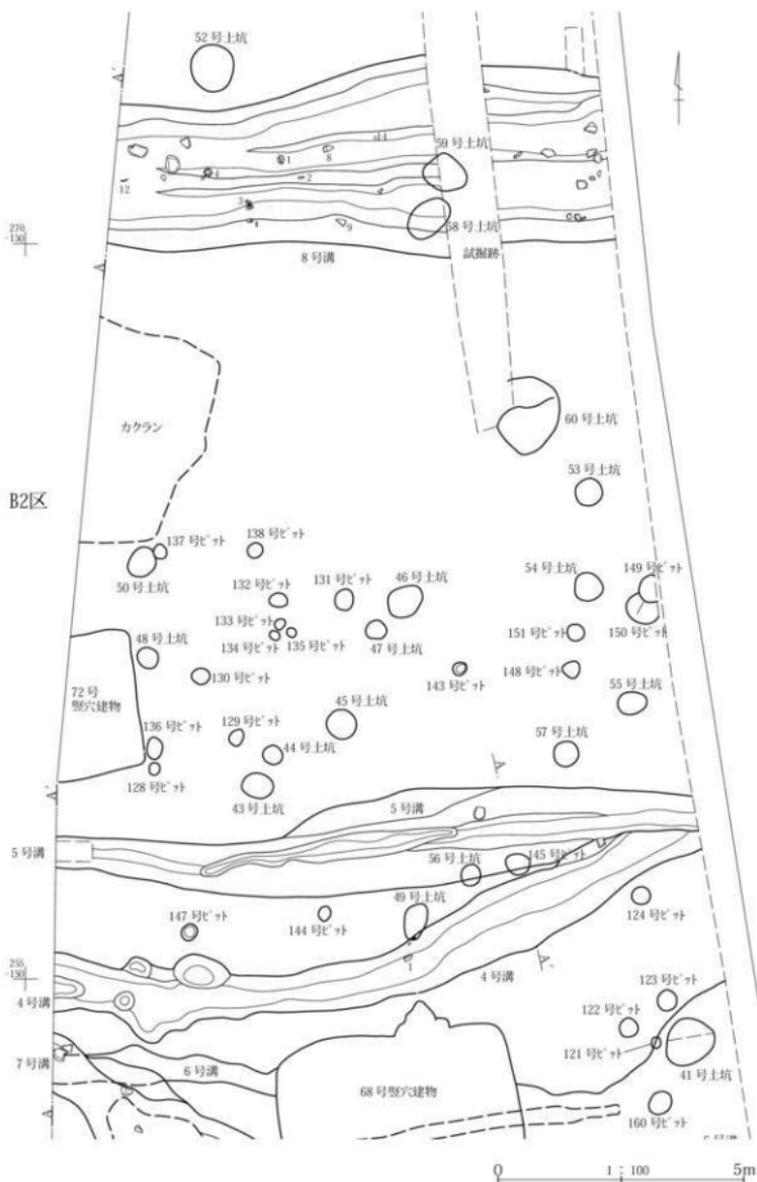
4号溝の時期は、出土遺物から推して8世紀前半と判断される。5号溝の時期は特定できなかったが、4・5・9号溝が併存していたと考えれば、5・9号溝は4号溝と同時期の所産の可能性が考えられる。

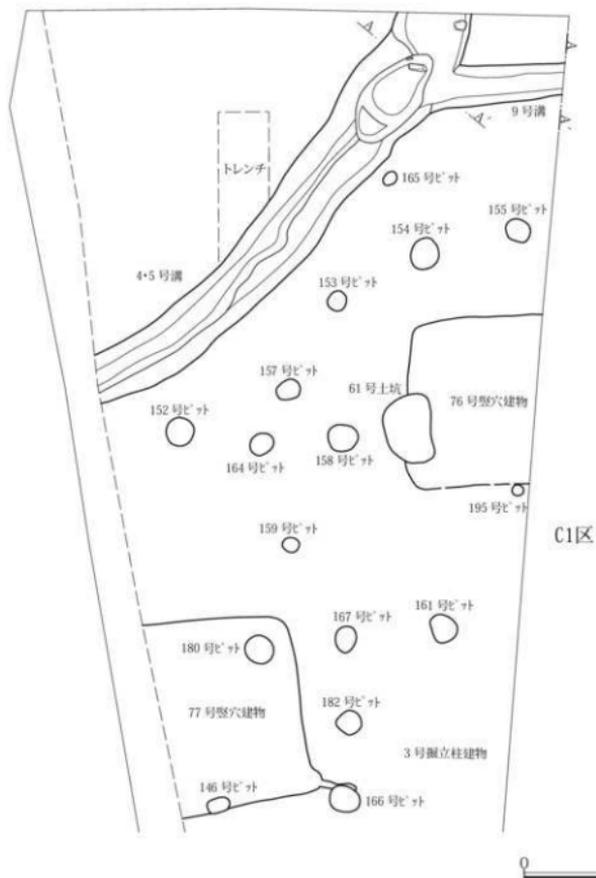
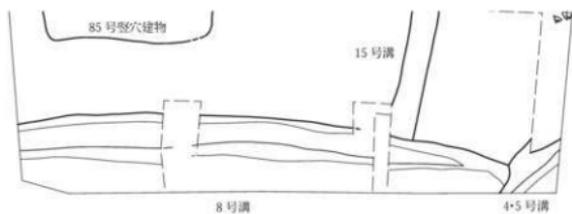
4・5号溝の走行は条里方眼に準拠していないが、5号溝が北東方向に流れていることから、單純に土地の傾斜に合わせて掘削されたとは考え辛い。また9号溝の走行の方向は条里方眼を意識していた可能性が考慮される。

本溝は埋土の状態から通水の可能性が考慮されるため、本溝は水路として使用されたものと認識される。通水の方向は東あるいは北方向と思量される。一方、9号溝との接合地点の南側に在る窪みが水流に起因するものとするならば、堰のようなものを設けて9号溝に分水していた時期のあった可能性も考慮される。

8号溝(第303～307図、PL.76・124)

概要 本溝は流水の痕跡が見られる、大型の溝である。本溝の西側は調査区外に在り、東端は5号溝重複しており、全容は確認できなかった。





第304図 4・5・8・9号溝(2)

4・5号溝

A, L-215.70m

A'



4・5・9号溝

A, L-215.50m

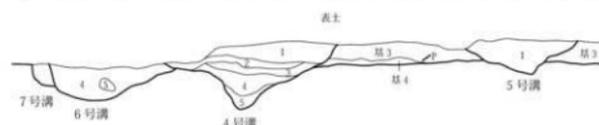
A'



4~7号溝

A, L-216.20m

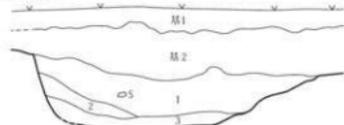
A'



8号溝

A, L-216.20m

A'



9号溝

A, L-215.60m

A'



0 1:50 1m

耕作土

基1 暗褐色土(10YR3/4)

基2 にふい黄褐色土(10YR4/3):粗砂・小礫少量混じる

基3 黒褐色土(10YR2/3):粘性やや弱、しまり強。粗砂・小礫中量混じる

基4 にふい黄褐色土(10YR4/3):粘性・しまりやや強。黄色粒子・粗砂微量混じる

4・5号溝

1 黒褐色土(10YR2/3):砂礫層、粗砂主体。粘性極弱、しまりやや強。礫多量混じる

3 暗褐色土(10YR3/4):砂礫層、粗砂主体。粘性極弱、しまりやや強。小礫極多量混じる

4 暗褐色土(10YR3/3):粘性やや強、しまりやや弱。粗砂中量混じる

4・5・9号溝

1 暗褐色土(10YR3/3):粗砂・礫主体。粘性極弱、しまりやや弱。4・5号溝

2 暗褐色土(10YR3/3):細砂・粗砂主体。粘性極弱、しまりやや弱。4・5号溝

3 黒褐色土(10YR2/3):粘性弱、しまりやや弱。細砂・粗砂中量混じる。4・5号溝

4・5号溝

① 暗褐色土(10YR3/3):粗砂・小礫主体。粘性極弱、しまりやや弱。酸化したものを多く含む。9号溝

4~7号溝

1 黒褐色土(10YR2/3):砂礫層、粗砂主体。粘性極弱、しまりやや強。礫多量混じる

2 にふい黄褐色土(10YR4/3):粘性・しまりやや弱。粗砂・酸化鉄少量混じる

3 暗褐色土(10YR3/4):砂礫層、粗砂主体。粘性極弱、しまりやや強。小礫極多量混じる

4 暗褐色土(10YR3/3):粘性やや強、しまりやや弱。粗砂中量混じる

5 黒褐色土(10YR2/3):粘性・しまりやや強。粗砂微量混じる

8号溝

1 黒褐色土(10YR2/3):粘性・しまりやや弱。粗砂・小礫多量混じる

2 暗褐色土(10YR3/3):粘性弱、しまりやや弱。粗砂・小礫中量混じる

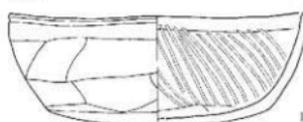
3 暗褐色土(10YR3/3):粘性・しまり弱。粗砂・礫極多量混じる

9号溝

1 暗褐色土(10YR3/3):粗砂・小礫主体。粘性極弱、しまりやや弱

2 暗褐色土(10YR3/3):粗砂・小礫主体。粘性極弱、しまりやや強。上部に酸化したものの多い。下部に黒褐色土層あり

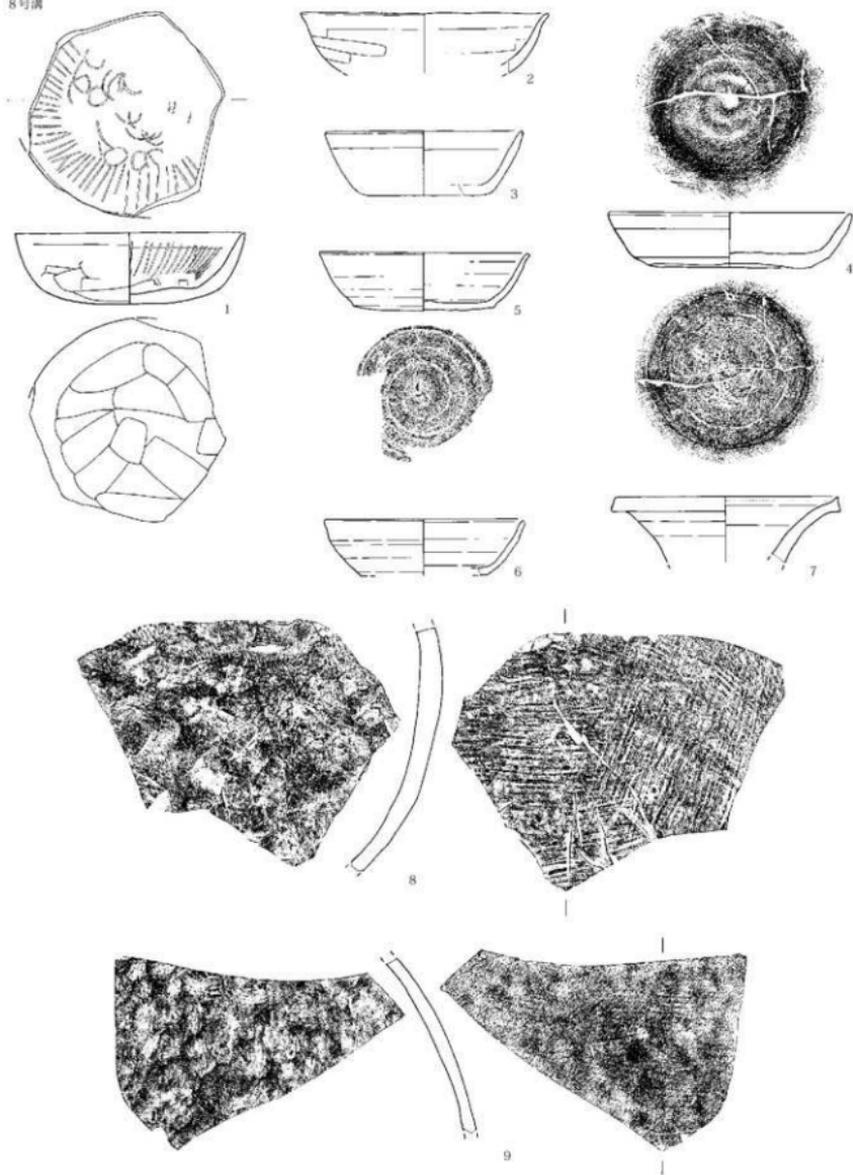
4号溝



0 1:3 10m

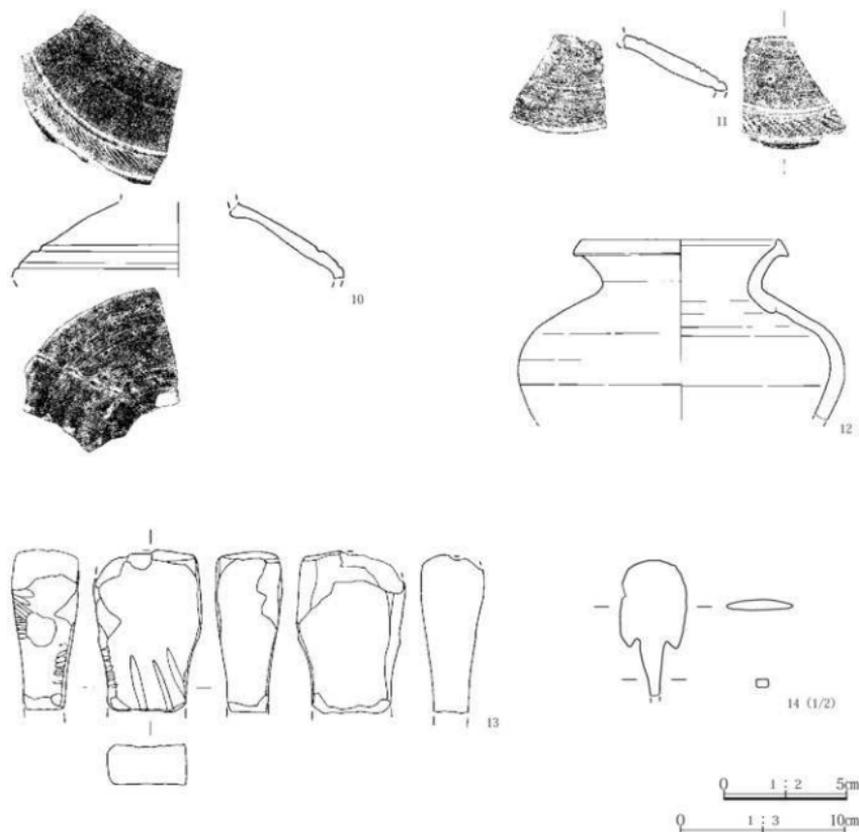
第305図 4・5・8・9号溝(3)と4号溝出土遺物

8号溝



第306図 8号溝出土遺物(1)

0 1 3 10cm



第307図 8号溝出土遺物(2)

位置 8号溝はB2区中部からC2区南部にかけて在り、269～273-122～148グリッドに位置する。

重複 本溝は(4・)5・11号溝と重複するが、5号溝との新旧関係は特定できなかったが、後述する15号溝の所見から、これに対しては本溝の方が新しいと解釈される。また本溝は58・59号土坑と重複しているが、本溝の方が古い。

規模 長さ：(25.10)m 幅：2.84～4.06m
深さ：0.34～0.66m

埋土 粗砂・小礫多量に混ざる黒褐色土と暗褐色土、お

よび粗砂・小礫混ざる暗褐色土で埋没する。

構造 本溝は西方より調査区に入り、東側は5号溝に接しているが、以東に延伸する可能性も考えられる。

B2区の西端の土層断面では1条の溝として確認されるが、中・東部では幅員が広がり、中部の底面の観察から重複する4条の溝跡が南北に連なっていることが分かる。底面の高さは北から214.86m、214.79m、214.96m、214.80mを測った。なおC2区に確認された本溝は、B2区中部の北から2条目の溝の延長したものと認識される。

第3章 南蛇井北原田遺跡

本溝は全体としては直線的に走行し、主軸の向きはN 89° Wを向くが、B 2区中部で確認された4条は、最北の溝の走行は蛇行するものの、以南の3条は直線的な走行を見せる。掘削形態は平底状を呈する。

本溝の底面は東高西低であるが、勾配率は0.43%とほぼ水平である。

遺物 本溝からは土師器杯(1~3)、須恵器の杯(4~6)・甕(7~9)・長頸壺(10・11)・小型甕(12)と砥石(13)および鉄鎌(14)が出土した。このほか土師器片497片と須恵器片10片の出土を見た。

所見 本溝は西側が調査区外に出ており、東端は5号溝と重複しているため、全容は詳らかにできなかった。

本溝の時期は出土遺物から推して8世紀前半と判断される。

またその走行は、条里方眼に依拠して掘削された可能性が考慮される。しかし勾配が西側に向いており土地の傾斜に反している。

本溝は埋土の状態から通水の可能性が考慮されるため、水路としての使用が認識される。通水の方向は西側と想定されるが、他の溝との比較から考慮の余地を残す。

15号溝(第308図、PL.77)

概要 本溝は小規模な溝である。北側が87号竪穴建物、南側が8号溝、やや南寄りで86号竪穴建物に重複するため、全容は詳らかにできなかった。

位置 本溝はC 2区南部北寄りから中部中程に在り、272~287-121~125グリッドに位置する。

重複 本溝は86・87号竪穴建物および8号溝と重複するが、86・87号竪穴建物の土層断面に本溝が現れないことから本溝の方が古く、この新旧関係と8号溝の時期に照らして本溝の方が古いものと判断される。

規模 長さ:(15.25)m 幅:0.38~0.55m

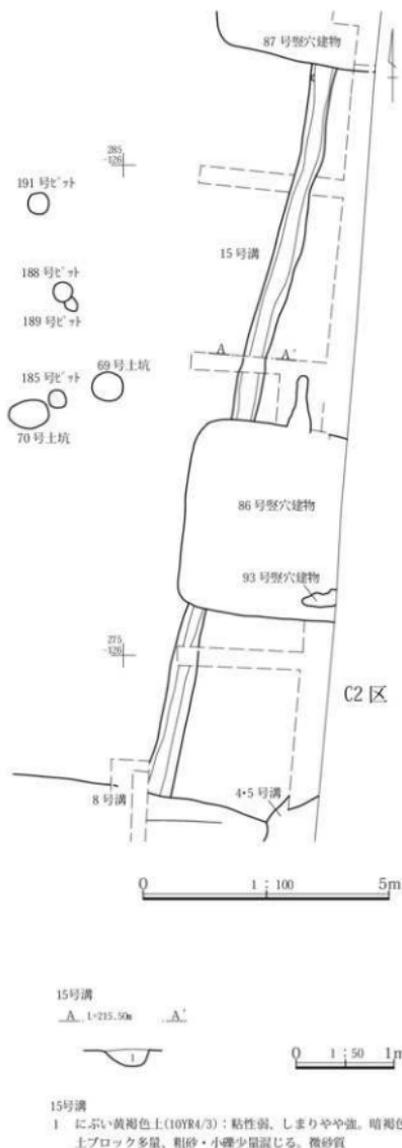
深さ:0.11~0.21m

埋土 本溝は暗褐色土多く含む微砂質のにぶい黄褐色土で埋没する。

構造 本溝は直線的な走行を呈し、走行の方向はN 13° Eを向く。

本溝の掘削形態は箱堀状を示し、横断面形の掘削形態は丸底状を呈する。

勾配率は測定できなかったが、ほぼ水平である。



第308図 15号溝

遺物 本溝からは土師器片4片が出土したに過ぎなかった。

所見 上述のように本溝は、一部を確認した過ぎなかった。

本溝の時期は特定できなかったが、重複する竪穴建物の時期から、7世紀以前の所産として把握される。本溝の掘削方向は条里方眼に依拠しておらず、地形に即した掘削と想定される。

また本溝に通水の痕跡は見られず、掘削意図も特定することはできなかった。

10号溝(第309図、PL.76)

概要 本溝は流水の痕跡が見られる中小規模の溝である。南北両側が調査区外に出ており、北寄りて攪乱に壞されているため全容は確認できなかった。

位置 C3区西寄りに在り、308～331-134～137グリッドに位置する。

重複 本溝は11・14・16・17・18・21・22号溝と重複するが、いずれに対しても本溝の方が新しい。

規模 長さ：(23.50)m 幅：0.37～1.11m
深さ：0.05～0.17m

埋土 本溝は粗砂・小礫含む暗褐色土や粗砂含む暗褐色土で埋没する。

構造 本溝は調査区に北側から入り、南側に抜ける。全体的にはN05°Wを向く直線的な走行を見せるが、極く弱い蛇行が見られる。幅員は一定しないが、箱堀状の掘削形態を示し、底面は平底状を呈する。

本溝の底面は北高南低で、勾配率は0.30%でほぼ水平である。

遺物 本溝からは土師器片14片と須恵器片1片が出土したが、図示すべきものは見られなかった。

所見 本溝は上述のように南北が調査区外に出ることもあって、全容は詳らかにできなかった。

本溝の時期は特定できなかった、その掘削方向は掘削方向が東西を向くことから、条里方眼に依拠して掘削された可能性が考慮されることから、本溝には律令期の所産の可能性が考慮される。

本溝は埋土の状態から通水の可能性が考慮されるため、水路としての可能性が考えられる。通水の方向は南と判断される。

11・12・13・14・18号溝(第310～313図、PL.77)

概要 11～14・18号溝は共に流水の痕跡が見られる、走行の方向が近似し、近接した位置に在る溝群である。なお11・14・18号溝は東西両側が、12号溝は西側が調査区外に出ており、全容は確認できなかった。

位置 本溝群はC2北部からC3区にかけて在るが、南から12号溝と13号溝、18号溝、11号溝、14号溝の順に並び、11・18号溝はC3区中部から南部北寄りにかけて、12号溝はC3区中・南部南寄り、13号溝はC2区北部、14号溝はC3区中部に在り、所在グリッドは下の通り。

(11号溝) 307～318-121～143グリッド

(12号溝) 307～312-138～143グリッド

(13号溝) 298～303-121～129グリッド

(14号溝) 311～320-118～143グリッド

(18号溝) 308～316-129～143グリッド

重複 本溝群のうち11号溝は90号竪穴建物と、11・14・18号溝は10号溝と、11・12・18号溝は20号溝と、14号溝は22号溝と重複するが、90号竪穴建物に対して11号溝は新しく、10号溝に対しては各溝共に古い。11・12・18号溝と20号溝との新旧関係、および14号溝と22号溝の新旧関係は特定できなかった。

規模 (11号溝)長さ：(24.12)m 幅：0.56～1.44m
深さ：0.29～0.54m

(12号溝)長さ：(6.50)m 幅：0.20～0.35m

深さ：0.02～0.10m

(13号溝)長さ：(9.14)m 幅：0.35～0.78m

深さ：0.06～0.18m

(14号溝)長さ：(25.68)m 幅：0.30～1.80m

深さ：0.09～0.39m

(18号溝)長さ：(16.15)m 幅：1.36～2.52m

深さ：0.48～0.77m

埋土 11号溝は暗褐色土で埋没するが、下位に粗砂・小礫多く含む。12号溝は粗砂・小礫を極多量に含むにふい黄褐色土で埋没する。13号溝は黄褐色や暗褐色の砂質土で埋没するが、2層は砂礫中心。14号溝は暗褐色土と褐色シルト質土で埋没するが、暗褐色土の4層は粗砂・小礫含み、1・6層土は粗砂・小礫主体。18号溝は暗褐色粗砂層、にふい黄褐色細砂層、暗褐色粗砂・微砂層、粗砂主体の暗褐色土等で埋没する。

構造 13号溝を除く本溝群の各溝は、西北西方向から調



第309図 10号溝

査区に入り、東南東方向に抜けている。13号溝もそのラインに乗る。11～13・18号溝の走行の方向は比較的近似するが、14号溝は反時計回りに13°程角度が異なる。

本溝群の溝は若干蛇行するものの概ね直線的に走行するが、走行の方向は11号溝がN64°W、12号溝がN50°W、13号溝がN60°W、14号溝がN73°W、18号溝がN60°Wを向く。掘削形態は11号溝と14号溝は葉形状を呈するが、12・13・18号溝は箱型状を呈する。横断面形の掘削形態は18号溝は丸底、11・13・14号溝は平底、12号溝は船底状を呈する。

なお、13号溝は断面観察と底面に残る痕跡から、初め北側に掘削し、後に南側に掘削したことが確認される。13号溝の新しい時期(南側)の溝の幅は0.34mを測り、断面観察から古い時期(北側)の溝幅も同程度であったものと思量される。

底面の傾斜は13号溝が東高西低である以外、他の4条は西高東低であり、勾配率は11号溝は1.11%、12号溝は1.47%、13号溝は1.02%、14号溝は0.75%、18号溝は0.88%でいずれの溝もほぼ水平である。

遺物 11号溝からの遺物の出土はなかった。12号溝からは土師器片2片、13号溝からは土師器片65片と須恵器片2片、14号溝からは土師器片1片が出土しているが、図示すべきものは見られなかった。18号溝からは土師器高杯(1)と須恵器小型甕(2)が出土したほか、土師器片28片と須恵器片1片の出土が見られた。

所見 本溝群の溝は、13号溝を除いて調査区外に延伸しているため、全容は詳らかにできなかった。なお、その走行の方向と位置から推して、12・13号溝は同一の溝である可能性が考慮される。

本溝群各溝の時期は特定できなかったが、90号竪穴建物切る11号溝は11世紀以降の所産と判断され、11・14・18号溝は重複する10号溝の推定時期から律令期の以前の所産と判断される。掘削方向が東西を向くことから、掘削された可能性が考慮される。

溝の走行は条里方眼に依拠しておらず、土地の傾斜にあわせて掘削されたものと思量される。

本溝群の各溝は埋土の状態から通水の可能性が考慮されるため、本溝は水路の可能性が思量される。13号溝は検討の余地があるが、溝群としての通水の方向は概ね東南東方向である。

19号溝(第310～312図、PL.78)

概要 本溝は流水の痕跡が見られる小型の溝である。東西両側が調査区外に出ており、全容は詳らかでない。また西部の遺存状態は不良で、北壁は失われていた。

位置 C3区南部の調査区が西側に限定される区画の北端部に在り、304～306-139～144グリッドに位置する。

重複 本溝は単独で在り、他の遺構との重複は見られなかった。

規模 長さ：(5.50)m 幅：0.37～0.46m
深さ：0.04～0.13m

埋土 細砂・微砂主体のにぶい黄褐色土で埋没する。

構造 本溝は西南西方向から調査区に入り、東北東方向に抜けている。

本溝は僅かに蛇行するものの、概ね直線的に走行し、主軸の向きはN79°Eを向く。掘削形態は箱型状で、底面の横断面形は丸底状を呈する。

本溝の底面の高さは西高東低で勾配率は2.43%を算出する。

遺物 本溝からの遺物の出土は見られなかった。

所見 上述のように本溝は東西両側が失われているため、全容は詳らかでない。

本溝の時期は特定できなかった。

溝の走行は地形の等高線に合わせているものと想定される。

本溝は埋土の状態から通水の可能性が考慮されるため、本溝は水路として掘削されたものと判断される。通水の方向は東方と判断される。

20号溝(第310～312図、PL.78)

概要 本溝は流水の痕跡が見られる小型の溝である。南側が調査区外に出ており、北側は11号溝に重複して、それ以北は確認できておらず、全容は確認できなかった。

位置 C3区北部北西隅から中部中程の西寄りにかけて在り、307～315-139～144グリッドに位置する。

重複 本溝は11・12・18号溝と重複するが、新旧関係は特定できなかった。

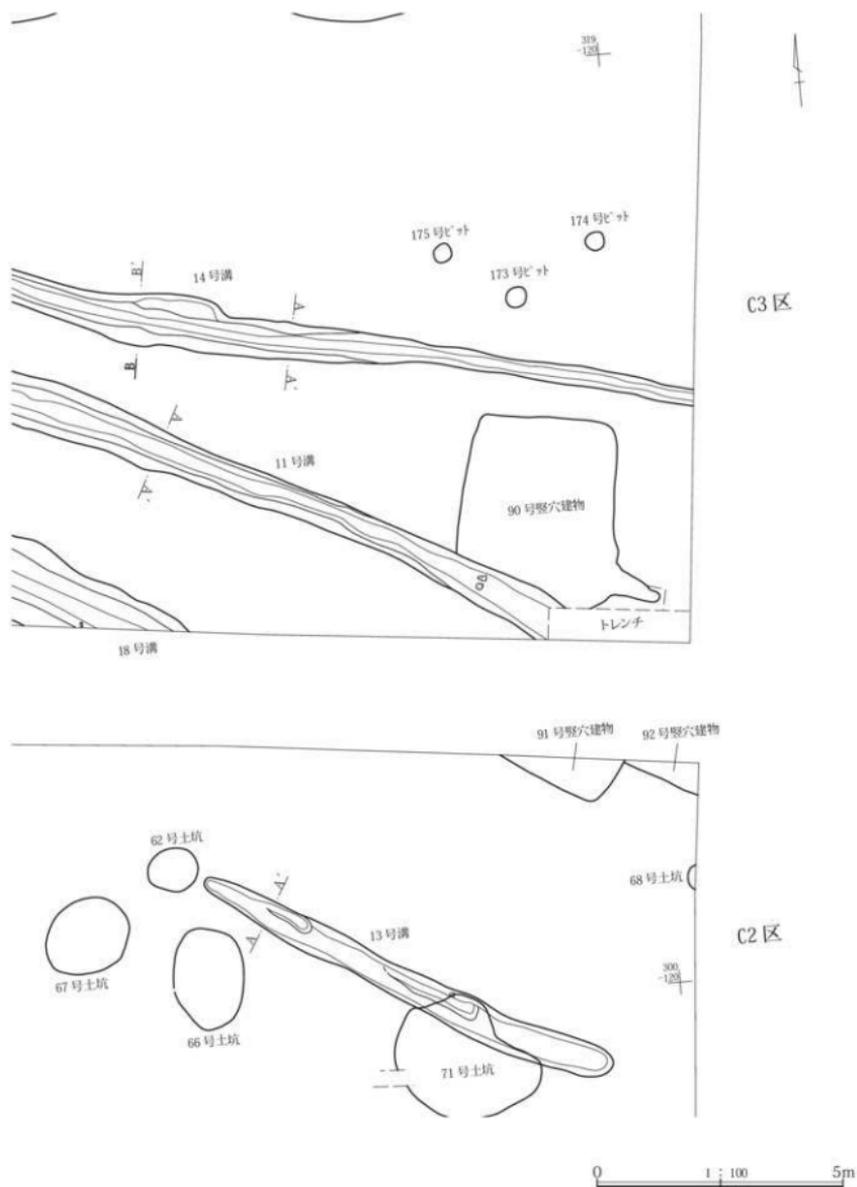
規模 長さ：(8.64)m 幅：0.37～0.66m
深さ：0.05～0.22m

埋土 粗砂・小礫を多量に含む暗褐色土で埋没する。

構造 本溝は調査区に南南西方向から入り、11号溝に達

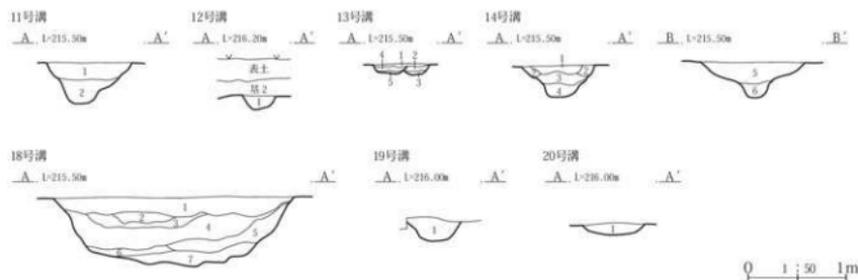


第310図 11～14・18～20号溝(1)



第311図 11～14・18～20号溝(2)

第3章 南蛇井北原田遺跡



11号溝

- 1 暗褐色土(10YR3/3)：粘性・しまりやや強。粗砂・小礫少量混じる
- 2 暗褐色土(10YR3/3)：粘性弱。しまりやや強。粗砂・小礫多量混じる

耕作土

基2 にぶい黄褐色土(10YR4/3)：粗砂・小礫少量混じる

12号溝

- 1 にぶい黄褐色土(10YR4/3)：粘性弱。しまりやや強。細砂・粗砂極少量混じる

13号溝

- 1 黄褐色砂質土(2.5YR5/4)：しまりなし。粘りなし。極小粒
- 2 暗褐色砂質土(10YR3/2)：砂礫が中心。しまりなし。粘りなし
- 3 黄褐色砂質土(2.5YR5/4)：しまりなし。粘りなし。極小粒
- 4 暗褐色砂質土(10YR5/2)：しまりあり。粘りなし。極小粒
- 5 黄褐色砂質土(2.5YR5/4)：しまりなし。粘りなし。極小粒

14号溝

- 1 暗褐色土(10YR3/3)：細砂・粗砂主体。粘性弱。しまりやや強。暗褐色土中ブロック少量混じる
- 2 暗褐色土(10YR3/3)：粘性やや弱。しまりやや強。粗砂微量混じる
- 3 褐色シルト質土(10YR4/4)：褐色土と暗褐色土の互層。粘性・しまりやや弱
- 4 暗褐色土(10YR3/3)：粘性・しまりやや弱。粗砂・小礫中量混じる
- 5 暗褐色土(10YR3/4)：粘性やや弱。しまり強。粗砂・小礫少量混じる
- 6 暗褐色土(10YR3/3)：粗砂・小礫主体。粘性弱。しまりやや強

18号溝

- 1 黒褐色土(10YR3/2)：粘性やや弱。しまり強。粗砂・黄色粒子少量混じる
- 2 暗褐色土(10YR3/3)：粗砂層。粘性極弱。しまり強
- 3 にぶい黄褐色土(10YR4/3)：細砂層。粘性弱。しまりやや弱
- 4 暗褐色土(10YR3/3)：粘性・しまりやや強。粗砂微量。酸化鉄少量混じる
- 5 黒褐色土(10YR2/3)：粘性やや強。しまりやや弱。細砂少量混じる
- 6 暗褐色土(10YR3/3)：細砂・微砂層。粘性やや強。しまりやや弱
- 7 暗褐色土(10YR3/4)：粗砂主体。粘性弱。しまりやや弱。小礫多量混じる

19号溝

- 1 にぶい黄褐色土(10YR4/3)：細砂・微砂主体。粘性やや弱。しまりやや強。暗褐色土中ブロック少量混じる

20号溝

- 1 暗褐色土(10YR3/4)：粘性やや弱。しまりやや強。粗砂・小礫多量混じる

第312図 11～14・18～20号溝(3)

して確認できなくなる。

僅かに蛇行するものの、全体的には直線的に走行する。主軸の向きはN32°Eを向く。掘削形態は箱塚状を呈し、底面の横断面形は丸底状を呈する。

底面の高さは中程で高く、南北両側に向かって低くなる。勾配率は算出できなかった。

遺物 本溝からの遺物の出土は見られなかった。

所見 本溝は上述のように南側は調査区外に在り、北側は11号溝と重複する地点で確認できないため、全容は詳らかでない。

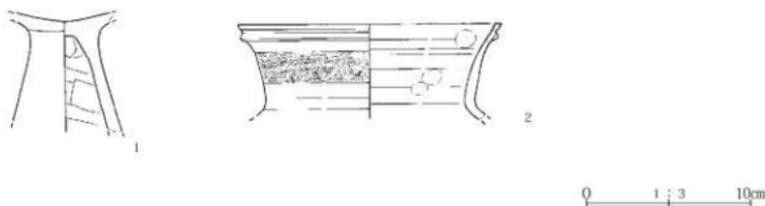
本溝の時期は特定できなかった。

溝の走行は堰等高線に対して垂直であり、糸里方眼に依拠していない。

本溝は埋土の状態から通水の可能性が考慮されるため、本溝は水路の可能性が思量されるが、上述の底面の高さの特性のため、通水方向は推定できなかった。

16号溝(第314～316図、PL.77・124)

概要 本溝は流水の痕跡が見られる大型の溝である。東西両側が調査区外に出ていて、全容は確認できなかった。



第313図 18号溝出土遺物

位置 本溝はC3区北部から中部北端にかけて在り、320～332-117～143グリッドに位置する。

重複 本溝は10・17・21・22号と重複するが、新旧関係は特定できなかった。

規模 長さ：(28.82)m 幅：4.02～5.38m
深さ：0.76～1.68m

埋土 細砂・粗砂あるいは小礫を主体とする暗褐色土、にぶい黄褐色土や、褐色粘質土、黒褐色粘質土等で埋没する。

構造 本溝は北西(N51°W)方向から調査区に入り、直ぐに西北西(N67°W)に転じ、更に反時計回りに緩やかに走行を転じて、調査区の中ほどで東北東(N85°E)に向いて直ぐに南東方向(N72°W)、更に東(N85°W)に転じて調査区外に抜けている。即ち緩やかに蛇行する走行を見せるが、その走行は全体的としてはN76°Wを向く。

掘削形態は箱型を呈し、横断面の底面は丸底状を呈する。

勾配率は0.56%で水平に近い。

遺物 本溝からは土師器片17片と須恵器片2片が出土した。このほか杭の可能性を有する加工木(1)や長さ2m、幅0.5mほどの樹木片の出土も見られた。

所見 上述のように、本溝は東西両側は調査区外に出るため全容は詳らかでない。

本溝の時期は特定できなかった。

また本溝は条里方眼に依拠しておらず、自然地形に即して掘削されたものと思量される。

本溝は埋土の状態から通水の可能性が考慮されるため、本溝は水路として使用されたものと判断される。

17・21・22号溝(第314・315図、PL.78)

概要 17・21・22号溝は並走する小型の溝から成る溝群であり、17・21号溝には流水の痕跡が見られる。

位置 本溝群はC3区の北部と中部の境に在るが、所在グリッドは以下のとおりである。

(17号溝) 321～322-132～142グリッド

(21号溝) 321～322-128～142グリッド

(22号溝) 320～322-127～142グリッド

重複 本溝群は10・16号溝と重複し、22号溝は14号溝と重複するが、17・21・22号溝は10号溝より古く、16号溝との新旧関係は特定できず、22号溝と14号溝の新旧関係も特定できなかった。また本溝群内では21号溝を扶んで北側の17号溝と南側の22号溝が重複するが、22号溝、21号溝、17号溝の順に新しい。

規模 (17号溝)長さ：(10.48)m 幅：0.40～0.73m
深さ：0.19～0.58m

(21号溝)長さ：(14.45)m 幅：0.40～0.80m

深さ：0.07～0.13m

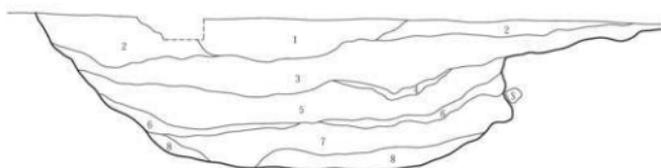
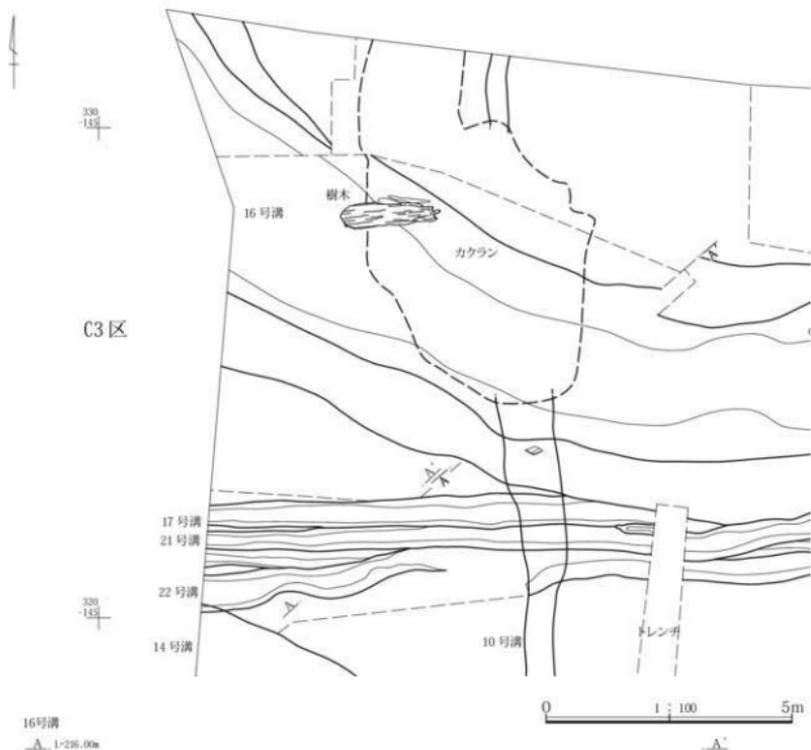
(22号溝)長さ：(15.60)m 幅：0.50～0.96m

深さ：0.06～0.42m

埋土 17号溝は粗砂・小礫主体の暗褐色土と粗砂・小礫多く含む黒褐色土で埋没し、21号溝はにぶい黄褐色土と粗砂・小礫極く多量に混ざる暗褐色土で埋没し、22号溝は粗砂・小礫少量混ざるにぶい黄褐色土で埋没する。

構造 本溝は西方向から調査区に入り、東方向で16号溝と重複して、以東では確認できなくなっている。

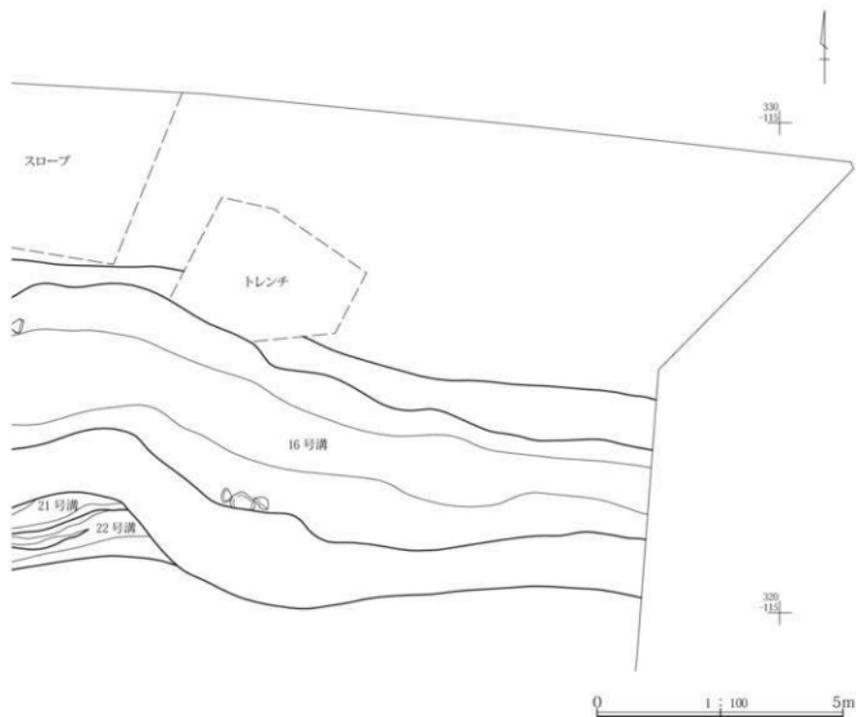
17号溝は直線的に走行し、21号溝は直線的に走行した後東部で蛇行する走行を成し、22号溝は緩やかな蛇行を見せる走行を呈する。主軸の向きは17号溝はN89°E、21号溝はN86°E、22号溝はN85°Eを向く。



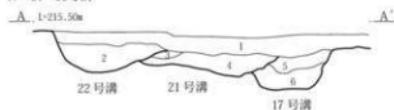
16号溝

- 1 暗褐色土(10YR3/4):粗砂・小礫主体。粘性極弱、しまり強。灰褐色上中〜小ブロック少量混じる
- 2 にぶい黄褐色土(10YR4/3):細砂・粗砂主体。粘性極弱、しまりやや弱。灰褐色粘質土、層状に混じる
- 3 にぶい黄褐色土(10YR4/3):粗砂主体。粘性極弱、しまりやや弱。灰褐色土、一部層状に混じる
- 4 褐灰色粘質土(10YR4/1):粘性強、しまりやや弱。上部酸化
- 5 褐色土(7.5YR4/3):細砂・粗砂主体。粘性極弱、しまりやや弱。一部酸化
- 6 黒褐色粘質土(10YR3/1):粘性強、しまりやや弱。上面・下面酸化
- 7 褐色土(7.5YR4/4):粗砂主体。粘性極弱、しまり弱。一部層状に酸化
- 8 黒褐色粘質土(10YR3/2):粘性強、しまりやや弱。粗砂層を層状に混じる

第314図 16・17・21・22号溝(1)



17・21・22号溝



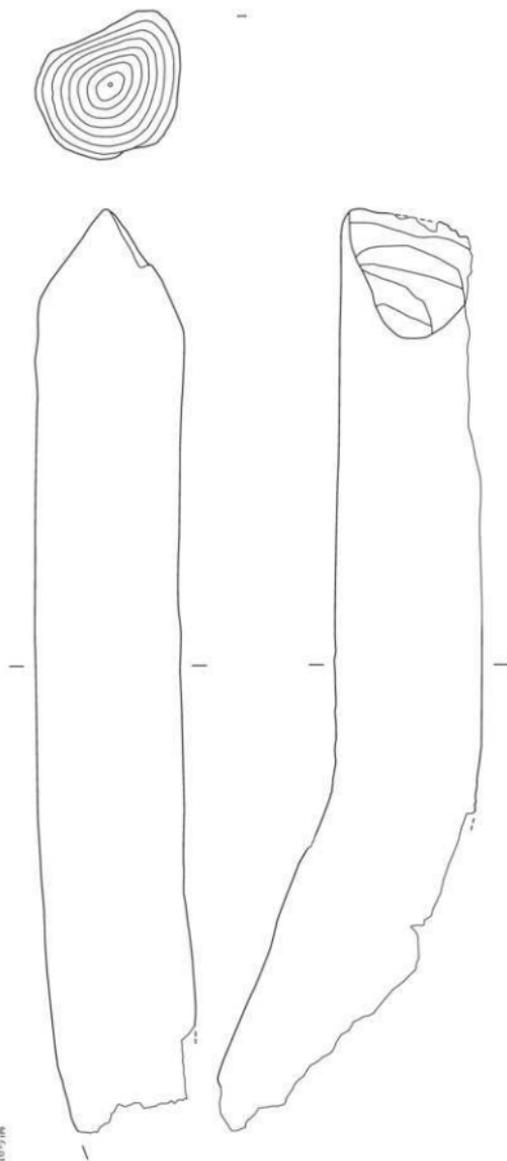
17・21・22号溝

- 1 暗褐色シルト質土(10YR3/4)：粘性・しまりやや強。粗砂・小礫少量。酸化鉄分中量混じる
- 2 にぶい黄褐色土(10YR4/3)：粘性やや弱。しまりやや強。細砂・粗砂少量混じる。22号溝
- 3 にぶい黄褐色土(10YR4/3)：粘性やや弱。しまりやや強。細砂・粗砂・酸化鉄分微量混じる。21号溝
- 4 暗褐色土(10YR3/3)：粘性弱。しまりやや強。粗砂・小礫極多量混じる。21号溝
- 5 暗褐色土(10YR3/3)：粗砂・小礫主体。粘性弱。しまりやや強。暗褐色土中ブロック少量混じる。17号溝
- 6 黒褐色土(10YR2/3)：粘性やや弱。しまりやや強。粗砂・小礫を層状に多量混じる。17号溝

0 1 : 50 1m

第315図 16・17・21・22号溝(2)

16号溝



第316図 16号溝出土遺物

掘削形態はいずれも箱型状を呈し、底面の横断面形は17号溝は平底、21号溝は壁面が鈍角を呈する船底、22号溝は丸底状を呈する。

勾配率は17号溝が1.53%、21号溝が1.11%、22号溝が1.60%と、いずれの溝も水平に近い。

遺物 17号溝からは土師器片5片が出土しているが、21・22号溝からの遺物の出土は見られなかった。

所見 17・21・22号溝は、上述のように西側が調査区外に出ており、東側は16号溝との接点以東では確認できなかったため、全容は詳らかにできなかった。

17・21・22号溝は、ともにその時期を特定することはできなかった。

主軸の向きが真の東西方向に近い。条里方眼に依拠して掘削された可能性が考慮される。

また、埋土の状態から17号溝と21号溝は通水の可能性が考慮されるため、水路としての使用が思量される。22号溝の通水の可能性は低いように見られるが、17・21号溝と並走するように在り、17号溝、21号溝、22号溝と掘り直されているように見受けられることから、水路としての使用の可能性が考慮されて良いものと思われる。

6 炉

1号炉(第317図, PL.80)

概要 本炉は土坑状の掘り込みを伴う遺構であり、伴う遺構は確認されなかった。

位置 本炉はA区北部南東寄りに在り、204～205-136～137グリッドに位置する。

重複 本炉は30号建物と重複するが、本炉の方が新しい。

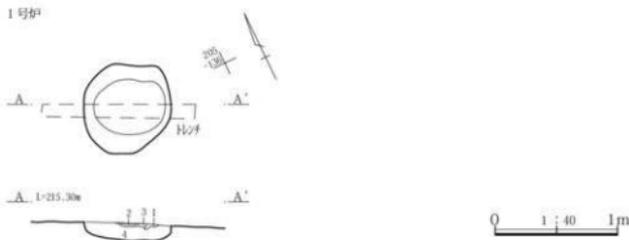
規模 長さ：0.73m 幅：0.71m 深さ：0.16m

埋土 本炉は土坑状の掘り込みを、粘性弱く焼土と黒色土混ざる灰赤色土で埋め戻す。その上に強く焼けた橙色と明赤褐色を呈する強く焼けた焼土と、粘性のやや弱い黒褐色土が乗る。

構造 本炉は一隅がやや潰れた隅丸方形プランで平底を呈する土坑状の掘り込みを掘削し、これを埋め戻して炉としている。掘り込みの主軸はN29°Eを向く。

遺物 本炉からは土師器片11片の出土があった。

所見 本炉の時期は特定できなかったが、重複する壁穴建物の時期から、8世紀以降の所産と判断される。



1号炉

- 1 黒褐色土(10YR3/1)：粘性やや弱、しまりやや強。5mm大の小礫を少量含む
- 2 橙色土(5YR7/6)：粘性弱、しまり強。強く焼けた焼土。還元し変色がみられる
- 3 明赤褐色土(2.5YR5/8)：粘性弱、しまり強。強く焼けた焼土
- 4 灰赤色土(2.5YR5/2)：粘性弱、しまり強。焼土・黒色土ブロックが混じる

第317図 1号炉

7 焼土

1号焼土(第318図、PL.79・124・143)

概要 本焼土は大小の焼土面が分布する遺構である。

位置 本焼土はA区北部の南東寄りに在り、196～199-131～133グリッドに位置する。

重複 本焼土は31号竪穴建物と重複するが、本焼土は遺構確認面付近で発見されており、31号竪穴建物より新しい。

規模 長さ：3.10m 幅：2.30m

地山・焼土 本焼土は粘性のやや弱い褐灰色土の上面に形成され、焼土ブロックを含むにぶい赤褐色土で確認される。

構造 本焼土は大小の不整形なプランの焼土面7カ所から成る。その主軸はN18°Eを向く。

遺物 本焼土からは、図示すべきものはなかったが土師器片60片が出土したほか、敲石・磨石から転用されたこも編み石(1)出土している。また確認面に、植物のものと見られる繊維の痕跡が認められたが、繊維そのものを抽出することはできなかった。そのため、樹種等は不明であるが、藪のように見受けられる。またその遺存状態から推して、こも編みにより作製されたムシロのように見受けられる。

所見 本焼土の時期は特定できなかったが、重複する竪穴建物の時期から推して7世紀前半以降の所産として把握される。

本焼土の燃焼の目的は特定されなかったが、重複する61号竪穴建物の時期から7世紀以降の所産として把握される。また本焼土は61号竪穴建物の埋土中に在り、且つ床面に近くないことから、61号竪穴建物に付随するものではなく、同建物埋没過程に形成されたものと思量される。

2号焼土(第319図、PL.79)

概要 本焼土も大小の焼土面が分布する遺構である。

位置 本焼土はA区北部の南西寄りに在り、198～200-150～152グリッドに位置する。

重複 本焼土は28・41・42・44号竪穴建物および29号土坑と重複するが、本焼土は遺構確認面付近で検出されており、いずれに対しても新しい。

規模 長さ：2.26m 幅：2.15m

地山・焼土 本焼土は粘性のやや弱い黒褐色土の上面に形成され、焼土混じりで下面焼けるにぶい黄褐色土や粘性のやや弱い褐灰色土を挟んで被熱礫や土器、焼土の混ざるにぶい赤褐色土が乗る、2面以上の焼土面で形成される。

構造 本焼土は南東側に大きい不整形プランの焼土面、北西側に小さな3カ所の焼土面が形成される。主軸はN34°Eを向く。

遺物 本焼土からは、北西側及び本遺構の北側から遺物の出土が見られた。この中には土師器甕(1～3)と土師器片28片と須恵器片5片の出土があった。

所見 本焼土の時期は出土遺物から推して9世紀後半の所産として把握されるが、本遺構が切れる28号竪穴建物が10世紀前半の所産と認識されるため、本焼土は10世紀前半以降の遺構と判断したい。

また本焼土は複数の遺構にまたがって在り、重複する竪穴建物の竪穴も浅いため、付近が大きく削平された後に形成されたものと思量される。

なお、本焼土の燃焼の目的は特定できなかった。

3号焼土(第320図、PL.79)

概要 本焼土も大小の焼土面が分布する遺構である。西側が調査区外に出ているため、全容は確認できなかった。

位置 本焼土はA区北部の南西隅に在り、192～194-151～153グリッドに位置する。

重複 本焼土は42・43号竪穴建物および28号土坑と重複するが、本焼土も遺構確認面付近で検出されているため、いずれの遺構に対しても新しい。

規模 長さ：2.34m 幅：2.33m

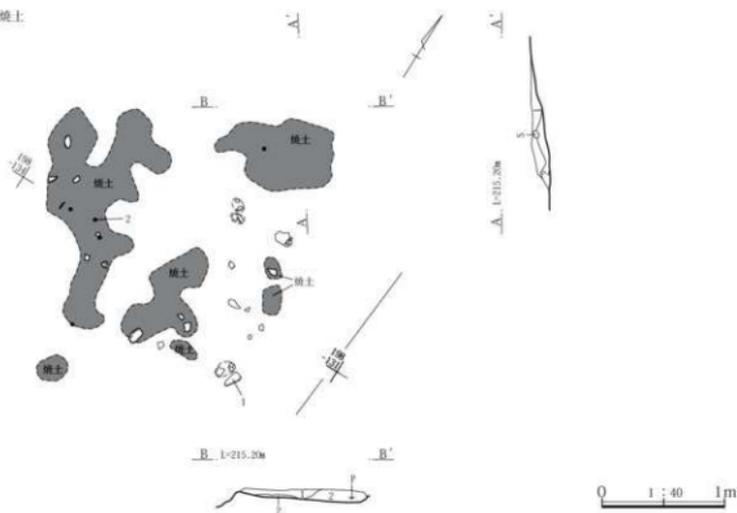
地山・焼土 本焼土は粘性のやや弱い黒褐色土の上に形成され、間層として粘性の弱い褐灰色土を挟んで上下2層のにぶい赤褐色焼土層が確認される。

構造 本焼土は楕円形のライン上に、大小7カ所の様々なプランの焼土面が分布する。分布域の主軸はN74°Eを向く。

遺物 本焼土からは土師器片698片と須恵器片24片、灰軸陶器片1片の出土があったが、図示すべきものは見られなかった。

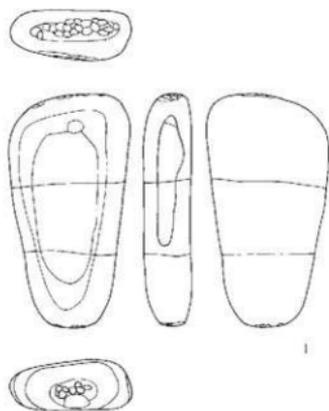
所見 本焼土の時期は重複する竪穴建物と土坑の時期か

1号焼土

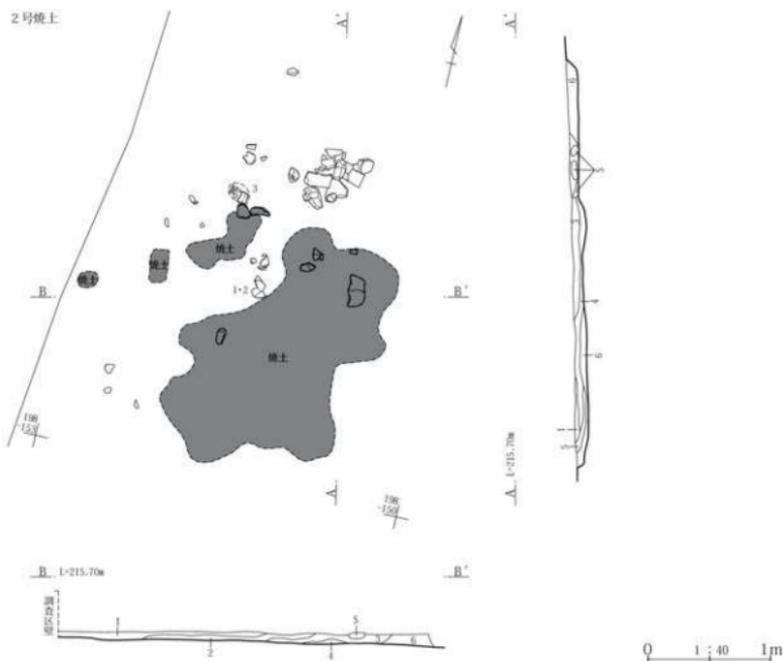


1号焼土

- 1 に深い赤褐色土(SYRS/3)：粘性やや弱、しまりやや強、白色粒・5mm大の小礫を少量、焼土ブロックを中量含む
- 2 褐灰色土(SYR4/1)：粘性やや弱、しまりやや強、焼土が混じる。粗質

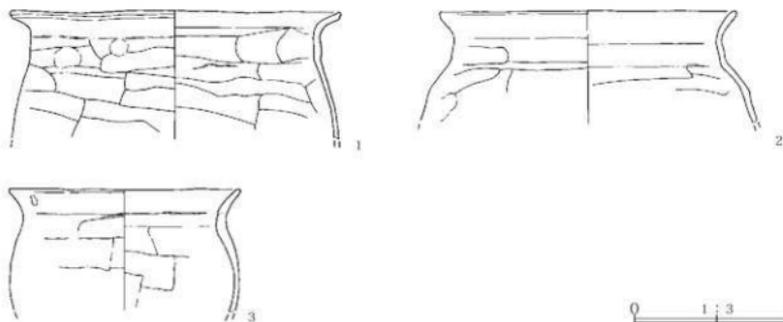


第318図 1号焼土と出土遺物



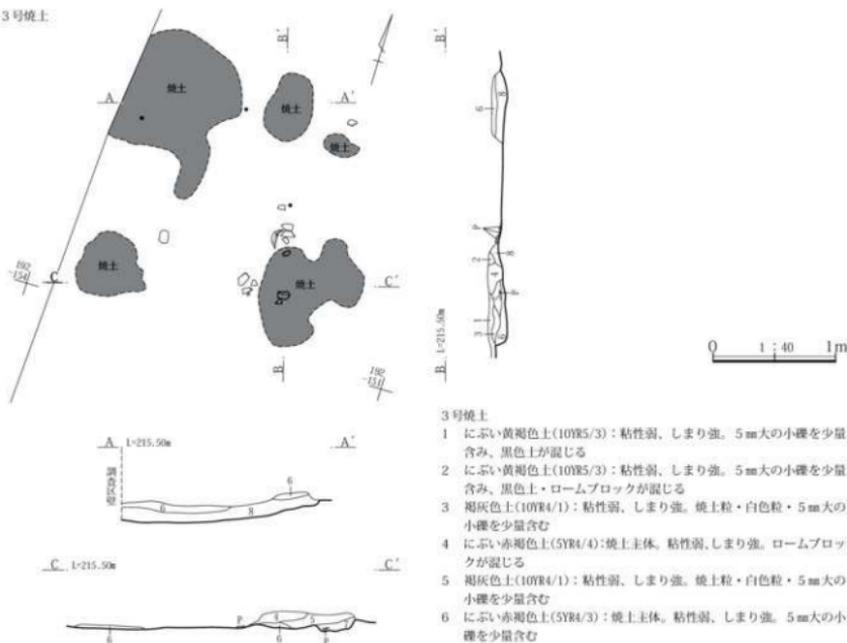
2号焼土

- 1 灰黄褐色土(10YR5/2)：粘性やや弱、しまりやや強。5mm大の小礫を微量に含む
- 2 褐色土(10YR4/1)：粘性やや弱、しまりやや強。焼土粒を少量、白色粒・5mm大の小礫を微量に含む
- 3 にぶい赤褐色土(5YR5/3)：粘性弱、しまりやや強。白色粒を含み、焼土が混じる。被熱礫・土師器片が出土
- 4 褐色土(10YR4/1)：粘性やや弱、しまり強。白色粒・5mm大の小礫を少量含む
- 5 にぶい黄褐色土(10YR6/3)：粘性やや弱、しまり強。焼土が中量混じる。下面が弱く焼ける
- 6 黒褐色土(10YR3/1)：粘性やや弱、しまり強。白色粒・5mm大の小礫を中量含む



第319図 2号焼土と出土物

3号焼土



3号焼土

- 1 にぶい黄褐色土(10YR5/3):粘性弱,しまり強。5mm大の小礫を少量含む。黒色土が混じる
- 2 にぶい黄褐色土(10YR5/3):粘性弱,しまり強。5mm大の小礫を少量含む。黒色土・ロームブロックが混じる
- 3 褐灰色土(10YR4/1):粘性弱,しまり強。焼土粒・白色粒・5mm大の小礫を少量含む
- 4 にぶい赤褐色土(5YR4/4):焼土主体,粘性弱,しまり強。ロームブロックが混じる
- 5 褐灰色土(10YR4/1):粘性弱,しまり強。焼土粒・白色粒・5mm大の小礫を少量含む
- 6 にぶい赤褐色土(5YR4/3):焼土主体,粘性弱,しまり強。5mm大の小礫を少量含む
- 7 黒褐色土(10YR3/1):粘性弱,しまり強。焼土粒を中量含む
- 8 黒褐色土(10YR3/2):粘性やや弱,しまり強。5mm大の小礫を中量含む。粗質

第320図 3号焼土

らは8世紀後半以降の所産となるが、1点のみであるが出土磁器からは近世の所産の可能性が考慮される。

また本重複する竪穴建物の竪穴が浅いため、付近が大きく削平された後に形成されたものと思される。

なお本焼土の燃焼の目的は特定されなかった。

4号焼土(第321図、PL.80)

概要 本焼土は一つの焼土面から成る遺構である。

位置 本焼土はA区北部中央北寄りに在り、214～215-142～143グリッドに位置する。

重複 本焼土は単独で在り、他の遺構との重複は見られなかった。

規模 長さ:1.76m 幅:0.64m

地山・焼土 本焼土は粘性の弱い黒褐色土の上に形成され、粘性やや弱い焼土と土師器片の混ざる灰褐色土が乗

り、西部では更に強く焼けた明赤褐色焼土が乗る。

構造 本焼土は西部に長さ0.89m幅0.52mを測る北半は瓢箪形、南半は楕円形プランを呈する平底の掘り込みが掘削され、ここから東に崩れた刀形プランの焼土面が分布する。分布域の主軸はN67°Wを向く。

遺物 本焼土からは土師器片15片の出土を見た。

所見 本焼土の時期は特定できなかった。

また本重複する竪穴建物の竪穴が浅いため、付近が大きく削平された後に形成されたものと思される。

なお本焼土の燃焼の目的は特定されなかった。

5号焼土(第321図、PL.80・124)

概要 本焼土は33号竪穴建物の埋土中に発見された、土坑状の掘り込みを伴う遺構である。

位置 本焼土はA区北部中ほどの西端近くに在り、206

—149～150グリッドに位置する。

重複 本焼土は32・33号建物と重複するが、本遺構の方が新しい。

規模 長さ：0.64m 幅：0.45m 深さ：0.09m

焼土 本焼土は明赤褐色焼土と粘性やや弱く焼土混じりのにぶい赤褐色土から成る。

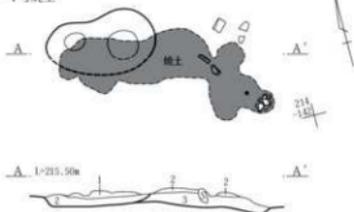
構造 本焼土は楕円形プランで平底を呈する土坑状の掘り込みを伴い、その中から上位に焼土が確認されたことから認識された。掘り込みの主軸はN67°Wを向く。

遺物 本焼土からはかわらけ皿(1)と土師器片4片の出土を見た。

所見 本焼土の時期は出土遺物から推して中世の所産と認識される。

また燃焼の目的は特定されなかった。

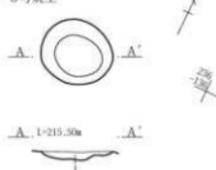
4号焼土



4号焼土

- 1 明赤褐色土(5YR5/6)：粘性やや弱、しまり強。強く焼けた焼土
- 2 灰褐色土(5YR4/2)：粘性やや弱、しまり強。焼土が混じる。土師器片が出土
- 3 黒褐色土(10YR3/1)：粘性弱、しまり強。5mm～2cm大の礫を多量に含む

6号焼土



6号焼土

- 1 黒褐色土(10YR3/1)：粘性やや弱、しまり強。焼土粒・白色粒・5mm大の小礫を少量含む。下面が弱く焼ける

6号焼土(第321図、PL.80)

概要 本焼土は48号竪穴建物の埋土中に発見された、土坑状の掘り込みを伴う遺構である。

位置 本焼土はB1区南部南東寄りに在り、235～236—136～137グリッドに位置する。

重複 本焼土は48号建物と重複するが、本遺構の方が新しい。

規模 長さ：0.58m 幅：0.55m 深さ：0.06m

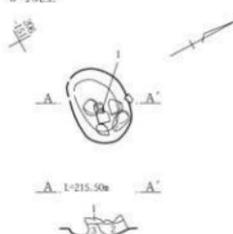
埋土・焼土 本焼土は粘性やや弱い黒褐色土で埋没するが、その下面は弱く焼けている。

構造 本焼土は円形プランで丸底を呈するピット状の掘り込みを掘削し、その中で燃焼を行っている。掘り込みの主軸はN73°Eを向く。

遺物 本焼土からは土師器片13片の出土を見た。

所見 本焼土の時期は特定できなかったが、重複する竪

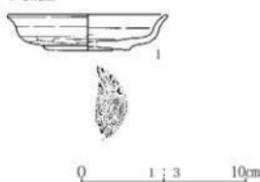
5号焼土



5号焼土

- 1 黒褐色土(10YR3/1)：粘性やや弱、しまり強。焼土粒を少量含む。上部に10cm大の礫が複数の。土師器片出土
- 2 明赤褐色土(5YR5/6)：焼土主体。粘性やや弱、しまり強。黒色土がわずかに混じる
- 3 にぶい赤褐色土(5YR4/3)：粘性やや弱、しまり強。焼土が混じる

5号焼土



第321図 4～6号焼土と5号焼土出土遺物

穴建物の時期から、6世紀後半以降の所産と判断される。

また燃焼の目的は特定されなかった。

8 古墳時代以降の遺構外の遺物

(1) 古墳時代から平安時代の遺構外の遺物(第322図、PL.125)

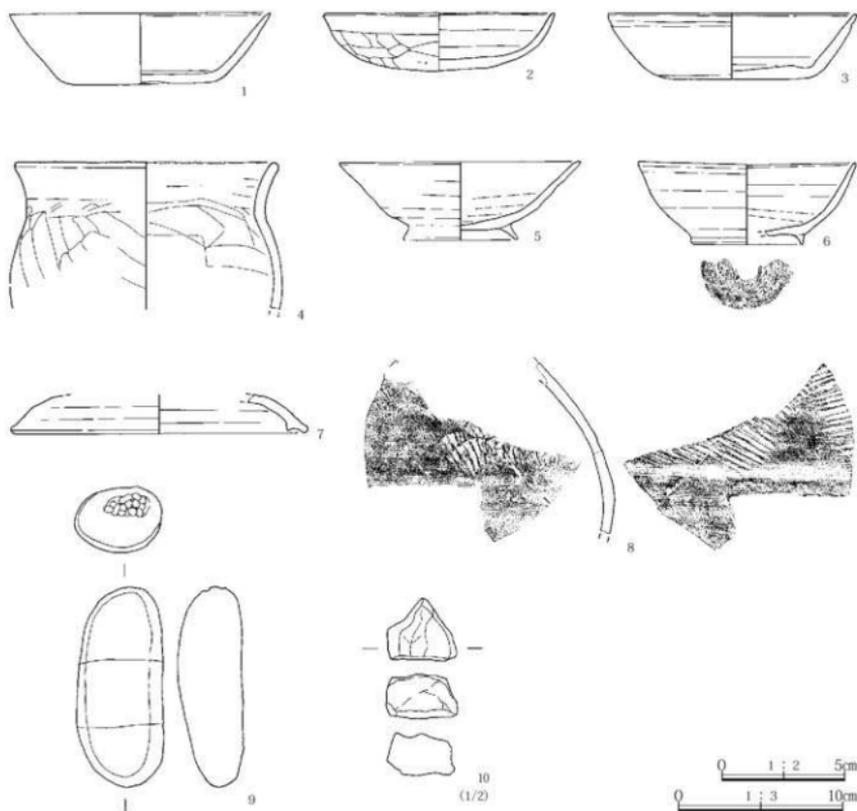
古墳時代から平安時代の遺構外の遺物には、土師器の杯(1~3)と甕(4)、須恵器の高台付椀(5・6)・蓋(7)・甕(8)、敲石から転用のこも編み石(9)、火打石(10)、こも編み石(11)があった。このほか土師器片3,422片、須恵器片127片、灰釉陶器片13片の出土を見た。

(2) 中近世の遺構外の遺物

中世の遺物では、A区で表採された14世紀の龍泉窯系青磁蓮弁文碗口縁部片1片のみであった。

近世の遺物では瀬戸・美濃陶器の破片が鉄釉碗片1片、碗2片、皿1片、器種不詳のもの2片があり、瀬戸・美濃磁器では碗の破片1片があった。また肥前陶器の破片では碗1片、碗か皿1片、器種不詳のもの2片があった。

このほか近現代の遺物として、製作地不詳の陶器片1片、製作地不詳の磁器片では飯碗が1片、碗が4片、器種不詳のものが1片と、ガラス片1片の出土が見られた。



第322図 遺構外出土遺物

第3節 弥生時代から

古墳時代前期の遺構と遺物

1 溝

3号溝(第323・324図、PL.81・125)

概要 本溝は小規模な溝である。東西両側が調査区外に出ており、また東部で一部調査区から外れたため、全容

は確認できなかった。

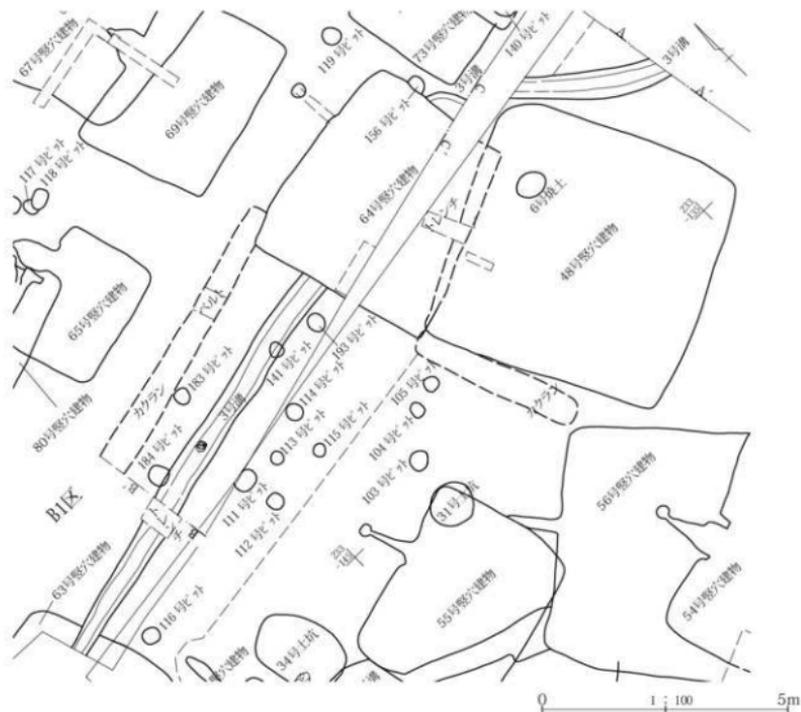
位置 B1区中部に在り、235～238-133～150グリッドに位置する。

重複 本溝は63・64号竪穴建物、141・184号ピットと重複するが、本溝は63・64号竪穴建物より古いもの、141・184号ピットとの新旧関係は特定できなかった。

規模 長さ：(18.04)m 幅：0.34～0.60m

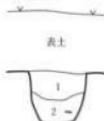
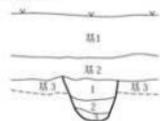
深さ：0.13～0.40m

埋土 粘性やや弱い黒褐色土を中心に粘性やや弱い明褐



3号溝

A. 1-216.20m A' B. 1-216.10m B' C. 1-215.70m C'



0 1:50 1m

第323図 3号溝

耕作土

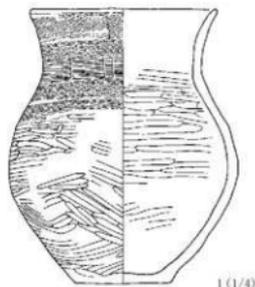
- 基1 黒褐色土(10YR3/2)：粘性やや弱、しまり強。5mm大の小礫を少量含む
 基2 黒褐色土(10YR3/1)：粘性やや弱、しまり強。白色粒・褐色粒・5mm大の小礫を中量含む
 基3 灰黄褐色土(10YR4/2)：粘性弱、しまり強、砂礫状の質感。5mm大の小礫を多量に含む。この上面が遺構確認面

3号溝A-A'

- 1 黒褐色土(10YR3/1)：粘性やや強、しまりやや強。5mm大の小礫を少量含む。粗質
 2 黒褐色土(10YR3/2)：粘性中程度、しまり中程度。5mm大の小礫を少量含む
 3 黒褐色土(10YR3/1)：粘性やや強、しまりやや強。5mm大の小礫を中量、褐色粒を少量含む

3号溝B-B'・C-C'

- 1 暗褐色土(10YR3/3)：粘性やや弱、しまりやや強。粗砂・小礫・少量混じる
 2 黒褐色土(10YR2/3)：粘性やや弱、しまりやや強。粗砂・小礫微量混じる



1 (1/4)

0 1 4 10cm

第324図 3号溝出土遺物

色土で埋没する。東端の最下層である粘性やや強い黒褐色土は小礫を含む。

構造 本溝は西側から調査区に入り、東部で南に折れ、東に蛇行して東南に走行を転じ、更に東北東に走行を変じて調査区外に抜けている。

中・西部の走行はN90°を向く。壁面が鋭角に立ち上がる箱型状の掘削形態を呈するが、底面の横断面形は丸底あるいは平底を呈する。

底面のレベルは214.915±0.05mで推移し、ほぼ平坦であり、勾配率は算出できなかった。

遺物 本溝からは樽式の弥生土器甕(1)も出土しているが、土師器片8片が出土している。

所見 本溝は東西両側が調査区外に出るため、全容は詳らかでない。

本溝の時期は特定できないが、重複する竪穴建物の時期から6世紀前半以前の所産として把握されるが、弥生土器甕が出土していることから、弥生時代後期に遡る可能性も考慮される。

本溝の中・西部は等高線に沿って走行するが、東部は蛇行している。

本溝は埋土の状態から通水の可能性は把握できず、掘削意図を把握することはできなかった。

2 遺構外の遺物 (第325図、PL.125)

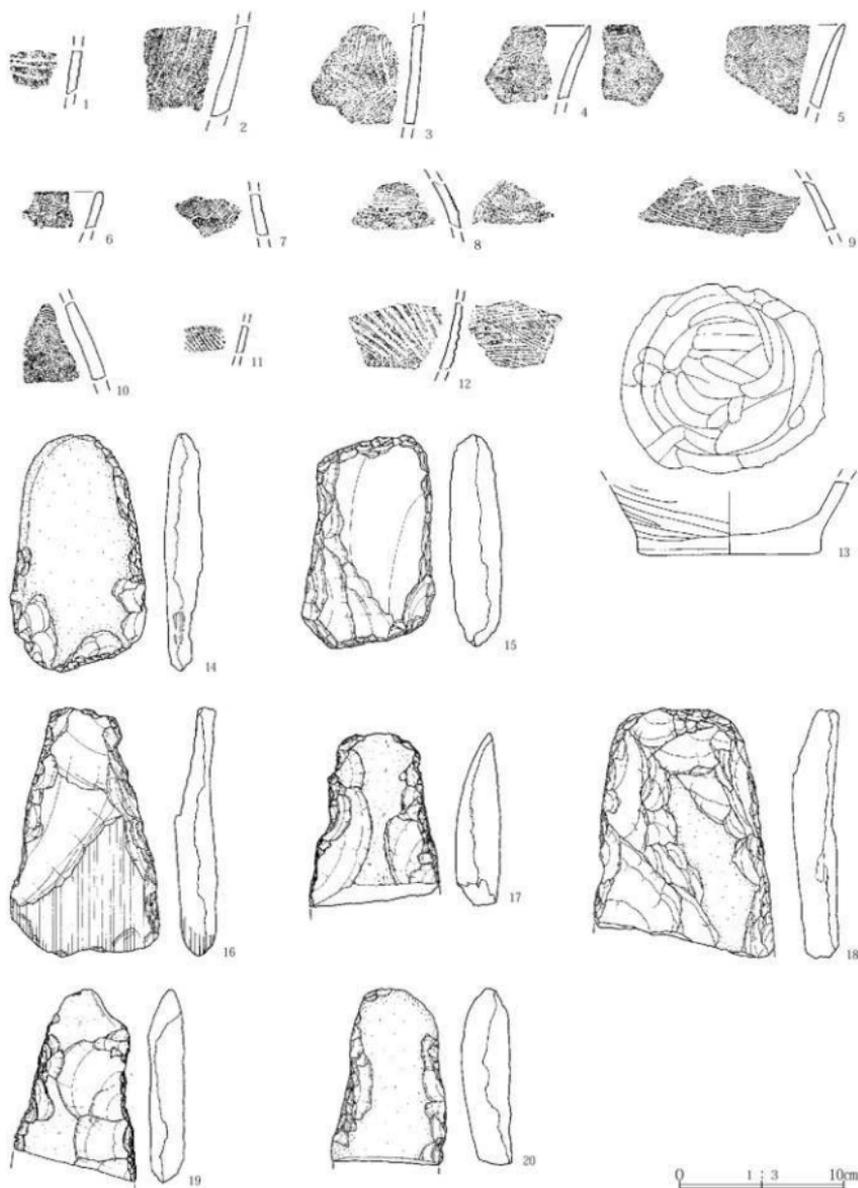
本遺跡の遺構外の出土遺物のうち、弥生時代から古墳時代前期所産の遺物には、土器や石器が見られた。これらの遺物は調査区全域に分布していた。

このうち弥生時代中期の弥生土器片(1)1片がA区から出土した。

弥生時代後期の土器は後期の樽式の壺片(4・9・10・13)と甕片(5～8)があり、僅かではあるが吉ヶ谷式の甕片(11)も見られた。

また当該期の石器として石鎌(14～20)も一定数出土している。

古式土師の遺物としては庄内叩きと見られる施文のある4世紀の甕片(2・3)や、石田川式のものとして想定される土師器甕片(12)が見られた。



第325図 遺構外出土遺物

第4節 縄文時代の遺構と遺物

1 土坑

4号土坑(第326図、PL.81・126)

概要 本土坑は比較的遺存状態の良い土坑である。

位置 本土坑はA区中部の南東寄りに在り、179-135～136グリッドに位置する。

重複 本土坑は単独で在り、他遺構との重複は見られなかった。

規模 長さ：0.99m 幅：0.90m 深さ：0.44m

埋土 共に粘性やや弱い黒褐色土と灰黄褐色土で埋没する。

構造 本土坑の主軸はN80°Eを向く。

楕円形のプランを呈する。掘削形態は全体的には半球形を呈するが西壁は鋭角に立ち上がる。

遺物 本土坑からは縄文土器深鉢片(1)の出土が見られた。

所見 本建物の時期は、1点ではあるが中期の加曾利E4式期の所産と認識される。

また本土坑の掘削意図は特定できなかった。

26号土坑(第326・327図、PL.81・126)

概要 本土坑は袋状土坑であり、遺存状態は良好である。

位置 本土坑はA区北部の東寄りに在り、211～213-132～134グリッドに位置する。

重複 本土坑は34号竪穴建物と重複しているが、本土坑の方が古い。

規模 長さ：2.27m 幅：2.18m 深さ：0.89m

袋部頸部径：1.57m 袋部最大径：1.68m

底径：1.58m

埋土 粘性やや弱い黒褐色土、粘性ある灰黄褐色土、炭化物を微量に含むにぶい黄褐色ローム質土、粘性ある黒褐色土で埋没する。底面上に堆積する灰黄褐色シルト質土には微量の炭化物を含む。また全体的に少量の小礫を含む。

構造 本土坑の主軸はN40°Eを向く。

本土坑のプランは円形に近い形状を呈し、掘削形態は袋状で口縁付近は内湾気味に鈍角に立ち上がり、底面は凹凸はあるものの平底状を呈する。

遺物 本土坑からは縄文土器深鉢片(1～5・7～13)

と蓋(6)が出土し、このほかに中期の縄文土器片83片が出土している。

所見 本土坑の時期は出土遺物から推して、中期の加曾利E4式期の所産と認識される。

本土坑はその掘削形態から推して、貯蔵穴として掘削されたものと思量される。

33号土坑(第328図、PL.81・126)

概要 本土坑は底部付近を調査してきたに過ぎず、遺存状態はあまり良好ではない、小型の土坑である。

位置 本土坑はB1区南西部に在り、228-147～148グリッドに位置する。

重複 本土坑は西側で109号ピットと重複するが、本土坑の方が古い。

規模 長さ：0.56m 幅：0.52m 深さ：0.14m

埋土 粘性やや強い灰黄褐色土で埋没する。

構造 本土坑の主軸はN86°Wを向く。

本土坑は楕円形のプランを呈し、底面形態は丸底状を呈する。

遺物 本土坑の確認面付近を中心に、縄文土器深鉢(1・2)のほか中期の縄文土器片21片の出土を見た。

所見 本土坑は出土遺物(1・2)から推して、中期の阿玉台1b式期の所産と判断されるが、掘削意図は特定できなかった。

34号土坑(第328図、PL.81・126)

概要 本土坑は遺存状態の良い大型の土坑である。

位置 本土坑はB1区中部西寄りに在り、231～233-146～147グリッドに位置する。

重複 本土坑は単独で在り、他遺構との重複は見られなかった。

規模 長さ：1.88m 幅：1.30m 深さ：0.55m

埋土白色粒多量に含む黒褐色土、小礫等含む褐色土と、灰黄褐色砂質土で埋没する。

構造 本土坑の主軸はN17°Wを向く。

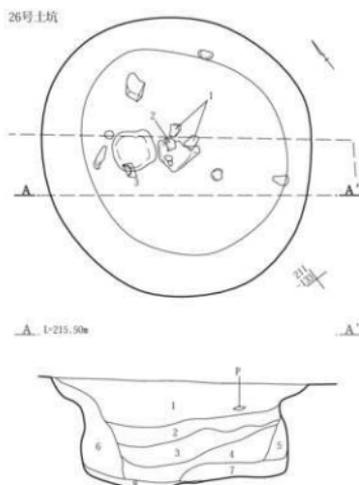
本土坑は隅部の丸みの強い隅丸長方形のプランを呈し、底面は平底を呈する。

遺物 本土坑の確認面付近を中心に縄文土器深鉢(1～13)や小型土器(14)と打製石斧(15)が出土した。このほか中期の縄文土器片14片の出土を見た。



4号土坑

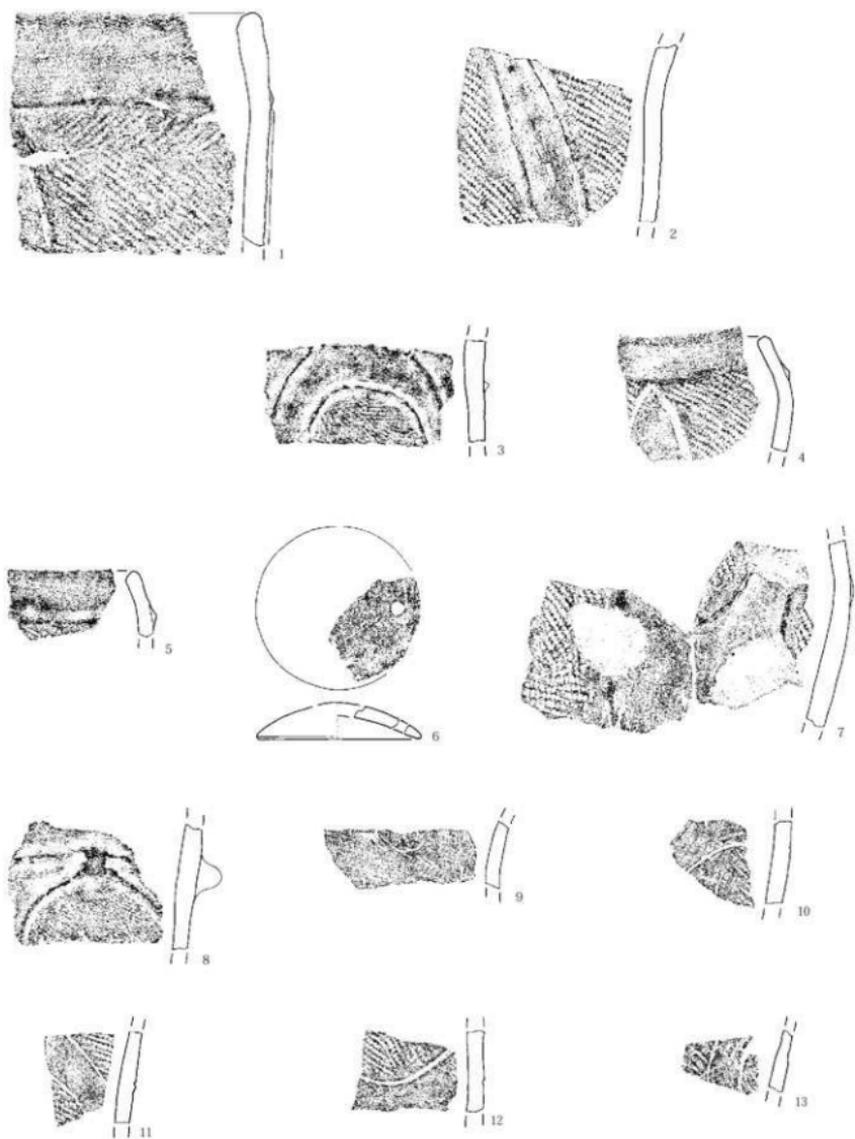
- 1 黒褐色土(10YR3/2)：粘性やや弱、しまりやや強。白色粒・5mm大の小礫を少量含む
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2)：粘性やや弱、しまりやや強。5mm大の小礫を微量含む



26号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/1)：粘性やや弱、しまり強。5mm大の小礫を中量含む。縄文土器片が出土
- 2 黒褐色土(10YR3/2)：粘性やや弱、しまり強。炭化物を中量、5mm大の小礫を少量含む。縄文土器片が出土
- 3 灰黄褐色土(10YR4/2)：粘性中程度、しまりやや強。炭化物・5mm大の小礫を少量含む
- 4 灰黄褐色土(10YR4/2)：粘性中程度、しまりやや強。褐色粒・5mm大の小礫を少量含む
- 5 にぶい黄褐色ローム質土(10YR5/4)：粘性やや弱、しまり強。5mm大の小礫を少量、炭化物を微量に含む
- 6 にぶい黄褐色ローム質土(10YR5/4)：粘性やや弱、しまり強。5mm大の小礫を少量、炭化物を微量に含み、褐色土が混入
- 7 黒褐色土(10YR3/2)：粘性中程度、しまり強。5mm大の小礫を少量、炭化物を微量に含む。縄文土器片が出土
- 8 灰黄褐色シルト質土(10YR4/2)：粘性中程度、しまり強。炭化物を微量に含む

第326図 4・26号土坑と4号土坑出土遺物

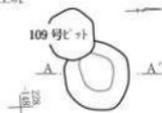


0 1 : 3 10cm

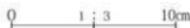
第327図 26号土坑出土遺物

第3章 南蛇井北原田遺跡

33号土坑



33号土坑

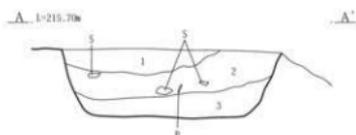


33号土坑

- 1 灰黄褐色土(10YR4/2):粘性やや強、しまりやや強、白色粒を微量に含む。縄文土器片が出土

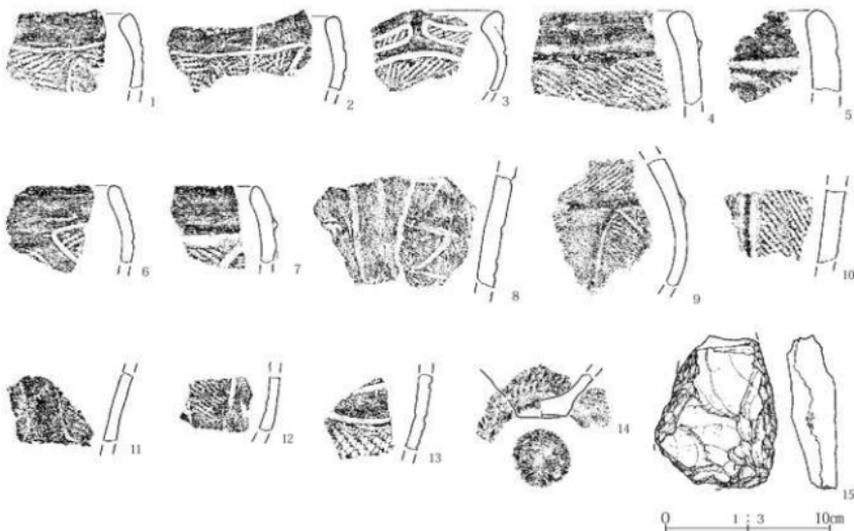


34号土坑



34号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/1):粘性中程度、しまり強、白色粒を多量に含む。縄文土器片が出土
 2 褐灰色土(10YR4/1):粘性中程度、しまり強、5mm大の小礫を少量含み、5cm大の礫が混在する。縄文土器片が出土
 3 灰黄褐色砂質土(10YR4/2):粘性やや弱、しまり強、粗質



第328図 33・34号土坑と出土遺物

所見 本土坑は出土遺物から推して、縄文時代中期の加曾利E4式期の所産と判断される。

なお、本土坑の掘削意図は想定されなかった。

2 遺物集中

1号遺物集中(第329～334図、PL.82・127～129)

概要 本遺構は大型の土坑状の掘り込みを伴い、その埋土の上位層中0.10m厚ほどの範囲を中心に、500点余りの縄文土器片と石器、石製品が集中して出土した遺構である。

位置 本遺構はB2区南部の中ほどの東寄りに在り、258～261-139～142グリッドに位置する。

重複 本土坑は8号溝の北壁際にあるが、実質的に単独で在った。

規模 長さ：2.74m 幅：2.28m 深さ：0.46m

埋土 最下層に粘性やや弱く粗砂・小礫少量含む暗褐色土、その上に上下2層に分層される粗砂・小礫含む暗褐色土で埋没する。後者の上層に遺物が多く含まれる。

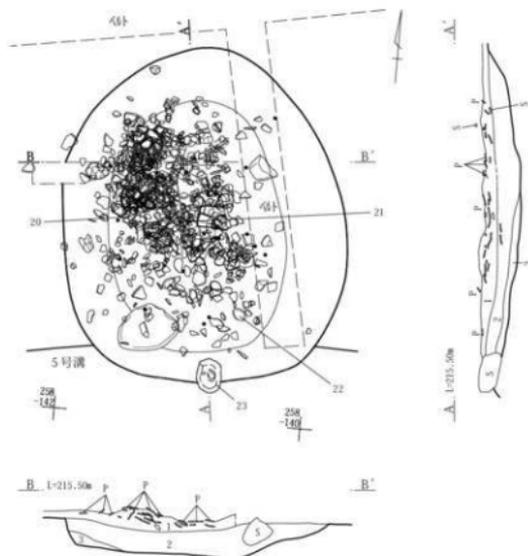
構造 本遺構の主軸はN08°Wを向く。

土坑状の掘り込みは南辺がやや直線的な楕円形プランを呈するもので、その形態は逆冠球形を呈する。

遺物 本遺構からは縄文土器の深鉢(1～15・17)と浅鉢(16・18)、磨製石斧(19・20)、磨石(21・22)、砥石(23)が出土した。このほか縄文土器片496片が出土している。

所見 本土坑の時期は出土遺物から推して、中期の加曾利E3式期の所産と判断された。

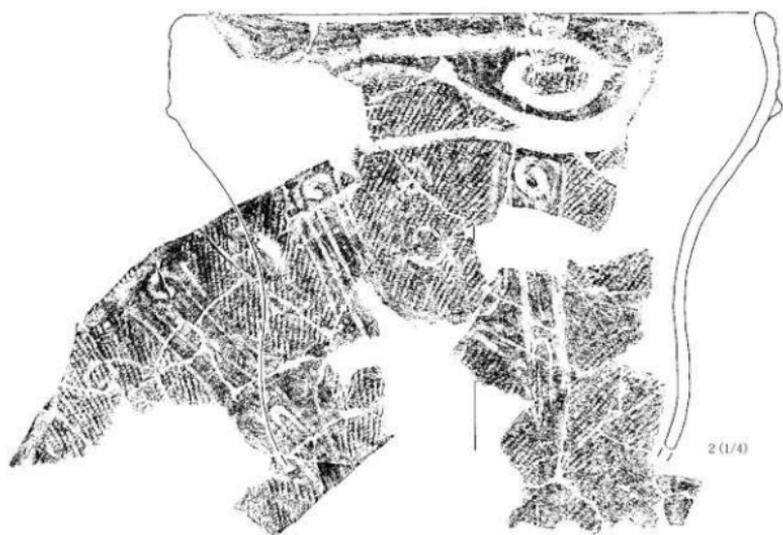
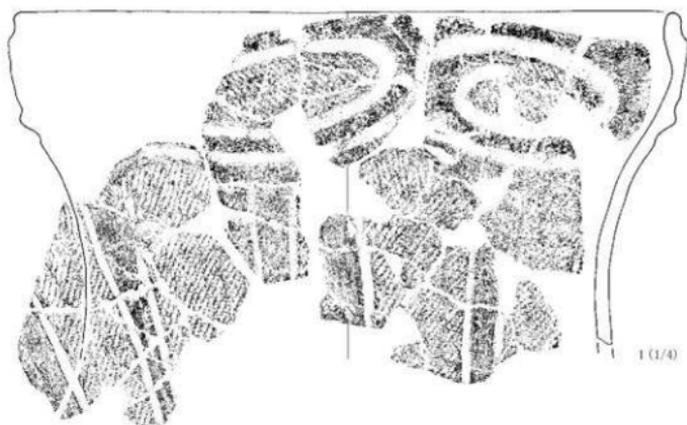
尚、本遺構は土坑状の掘り込みの埋没途中で、破碎した土器等を投棄したものと思量される。



1号遺物集中

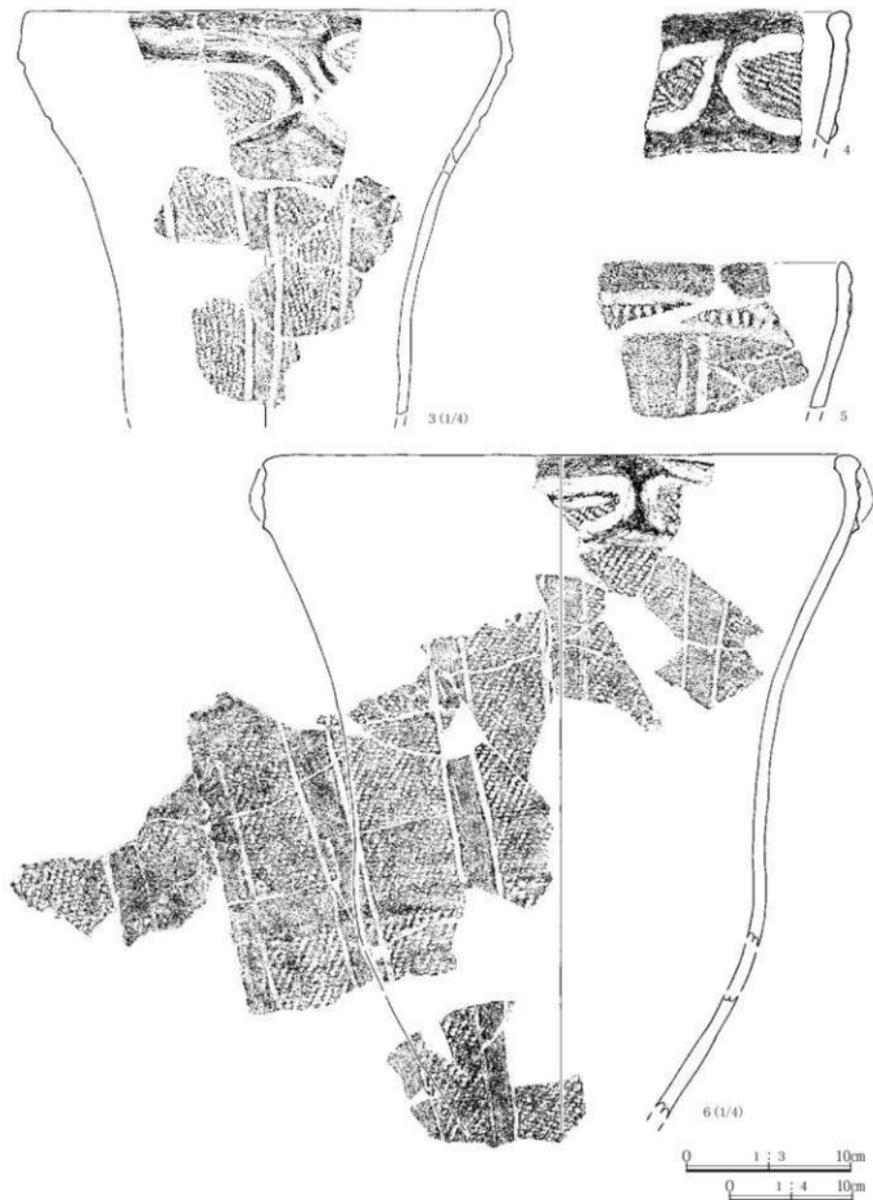
- 1 暗褐色土(10YR3/3)：粘性弱、しまり強。粗砂・小礫中量混じる
- 2 暗褐色土(10YR3/4)：粘性弱、しまり強。粗砂・小礫中量混じる
- 3 暗褐色土(10YR3/4)：粘性やや弱、しまり強。粗砂・小礫少量混じる

第329図 1号遺物集中



0 1 : 4 10cm

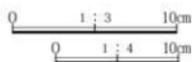
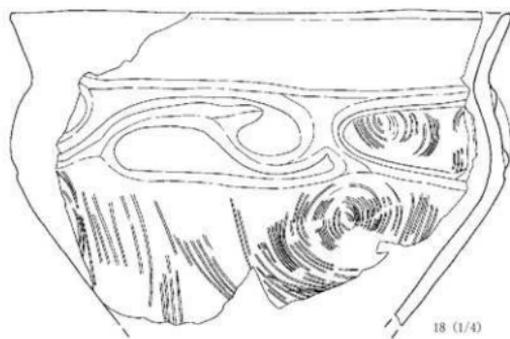
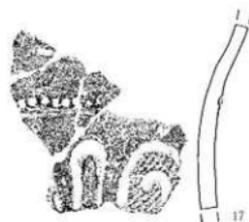
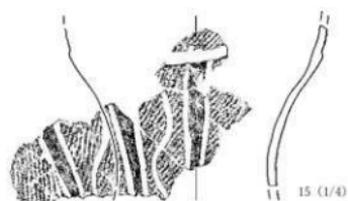
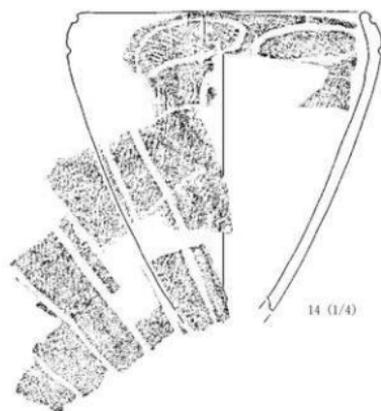
第330図 1号遺物集中出土遺物(1)



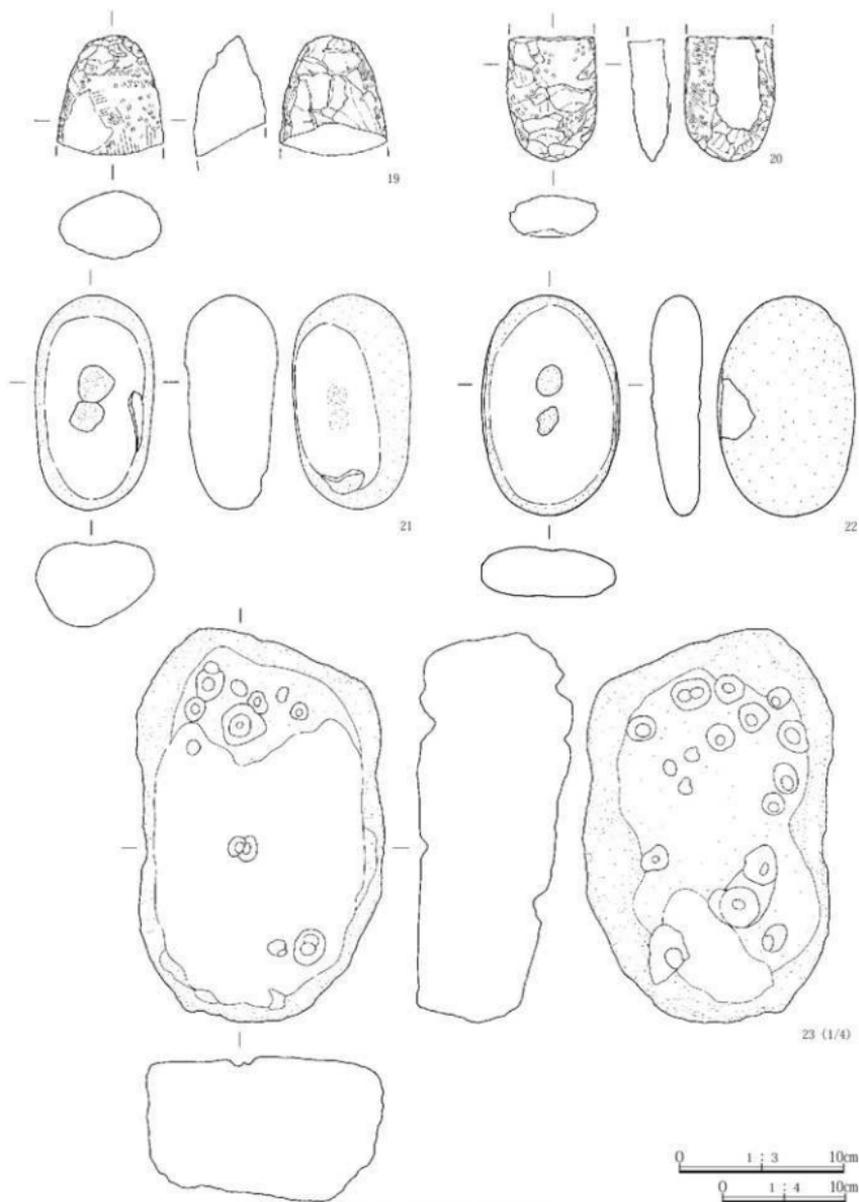
第331図 1号遺物集中出土遺物(2)



第332図 1号遺物集中出土遺物(3)



第333図 1号遺物集中出土遺物(4)



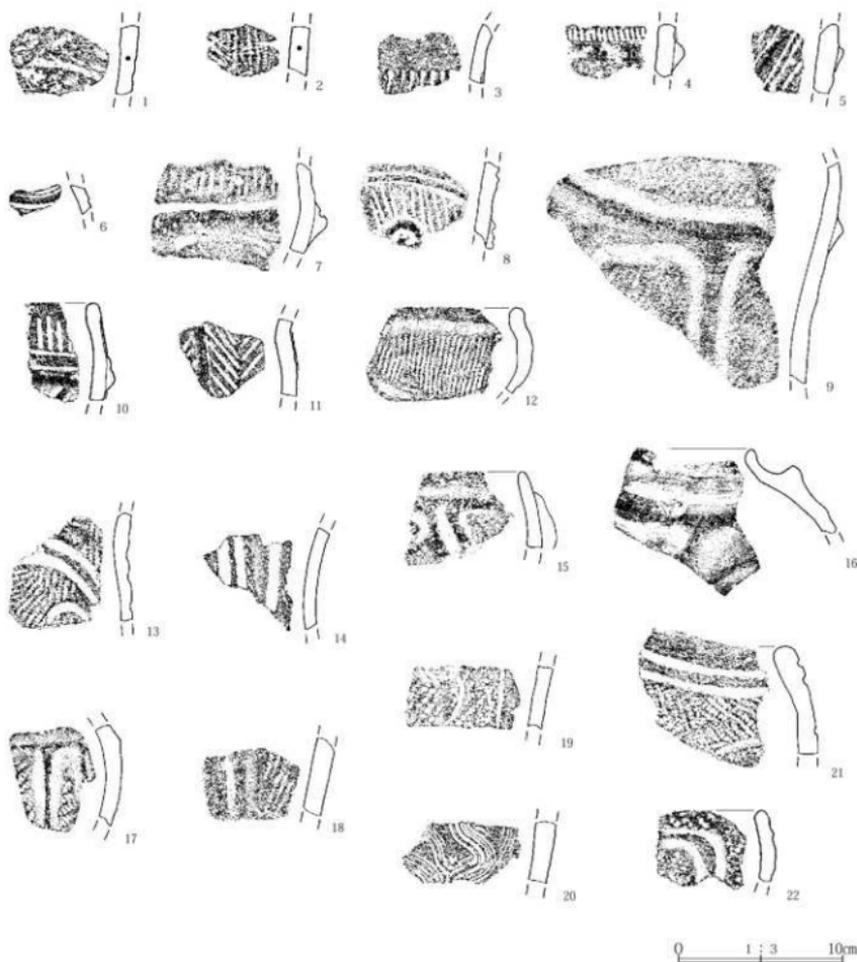
第334図 1号遺物集中出土遺物(5)

3 遺構外の遺物 (第335～338図, PL.130・131)

本遺跡の後世の遺構出土のものを含む遺構外出土の遺物には、縄文時代所産の土器や石器が見られた。これらの遺物は調査区全域に分布していた。

このうち縄文時代前期の遺物としては花積下層式の縄

文土器深鉢片(1・2)、中期の遺物としては阿玉台Ⅱ式の縄文土器深鉢片(3)、勝坂式の縄文土器深鉢片(4・5)、焼町式の縄文土器深鉢片(6)、加曾利Ⅰ式の縄文土器深鉢片(7・8)、加曾利Ⅲ式の縄文土器深鉢片(9～22)、加曾利Ⅳ式の縄文土器の把手(23)と深鉢片(24～27)が出土している。また後期の遺物としては称名寺

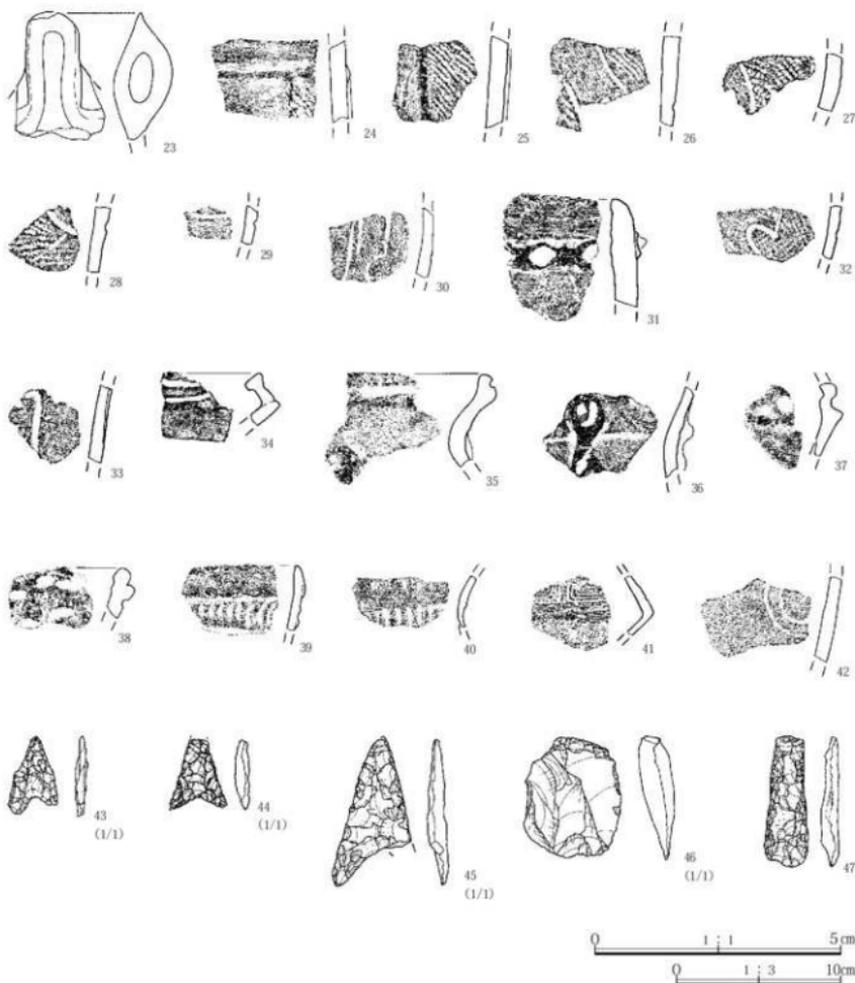


第335図 遺構外出土遺物(1)

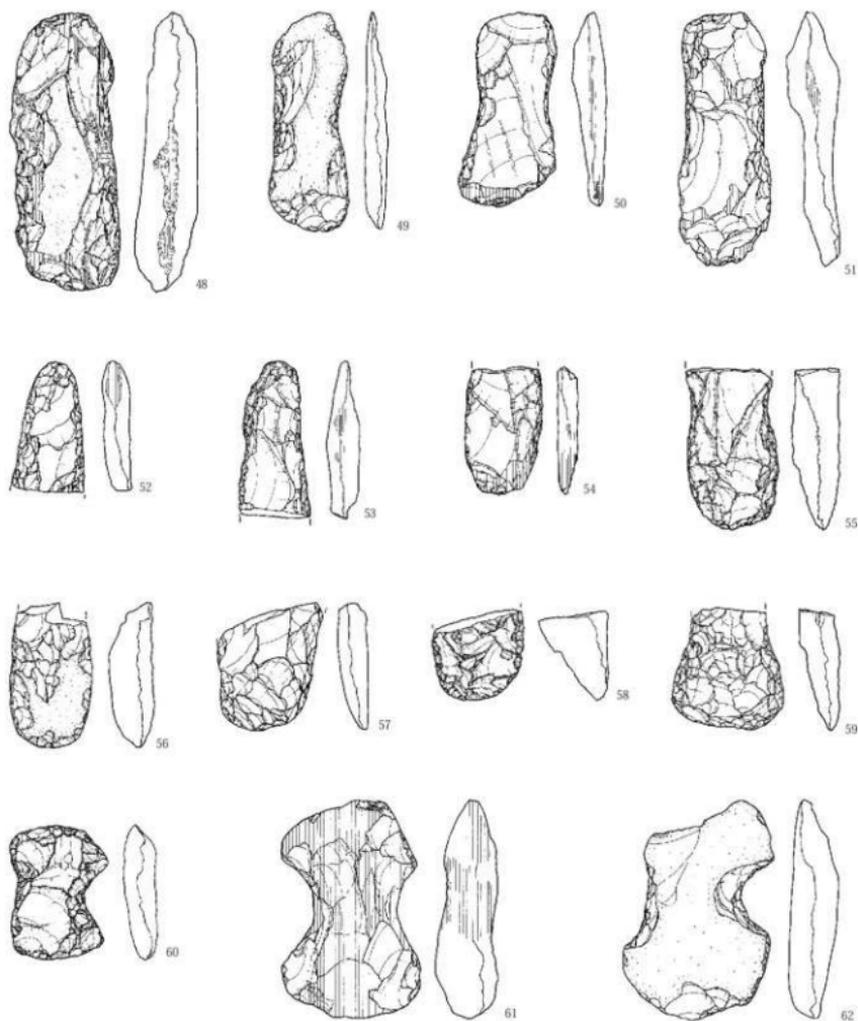
1式(28～30)と2式(31～34)の縄文土器深鉢片、堀之内1式の縄文土器深鉢片(35～38)でこのうち36は古式であり、堀之内2式の縄文土器注口土器片(41)と堀之内2式の可能性を有するもの(39)や後期前半と判断された(40・42)縄文土器深鉢片が出土した。このほか個別に取

り上げなかった縄文土器は646片がある。

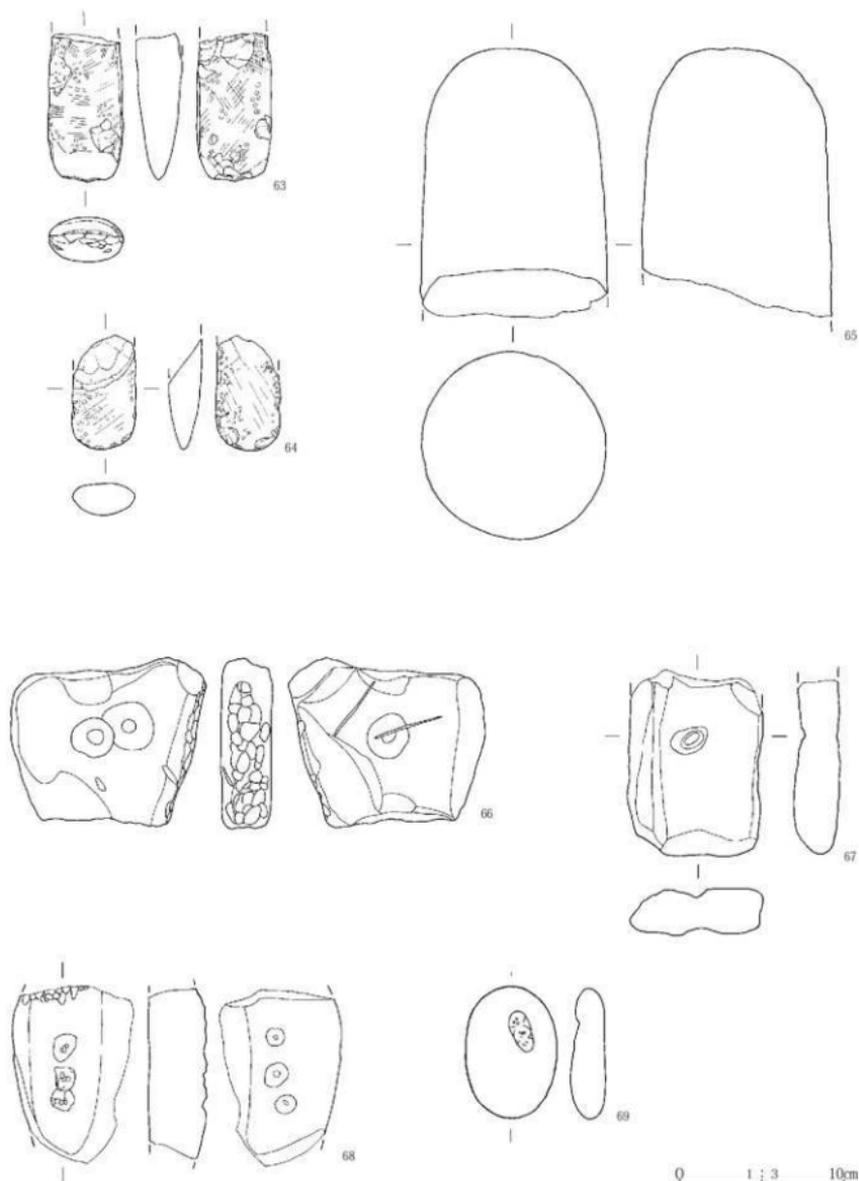
また縄文時代の石器には石鏃(43～45)3点、剥片(46)1点、打製石斧(47～62)16点、磨製石斧(63・64)2点があり、石製品では石棒(65)1点、凹石(66～69)4点があった。



第336図 遺構外出土遺物(2)



第337図 遺構外出土遺物(3)



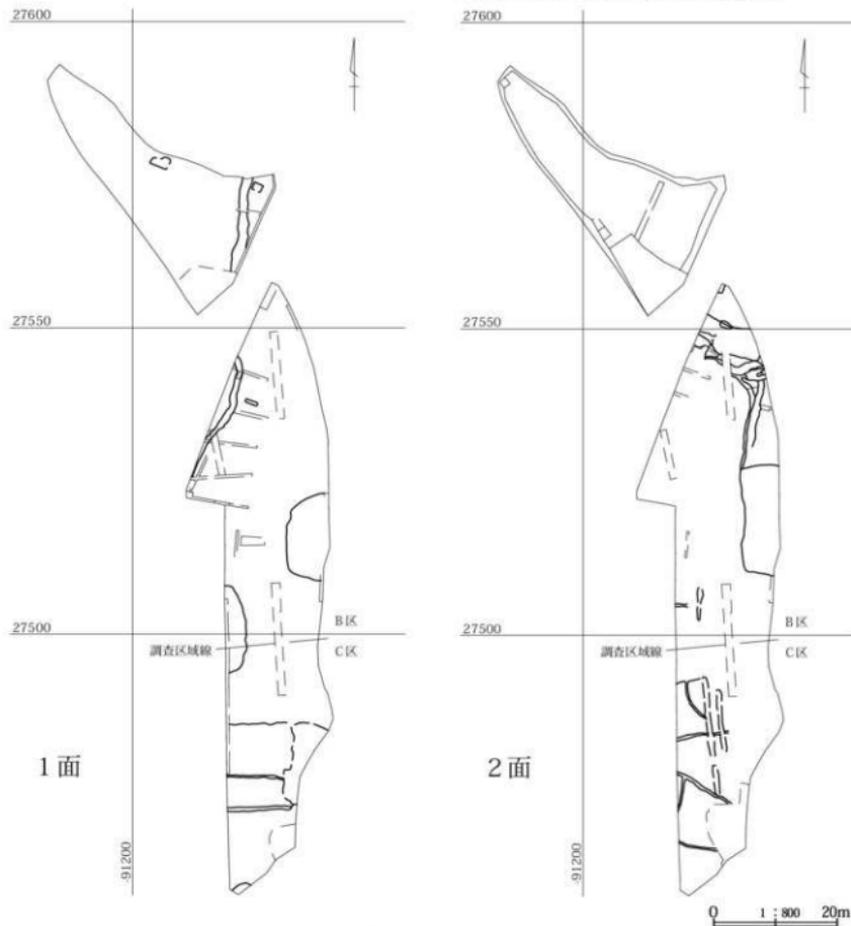
第338図 遺構外出土遺物(4)

第4章 蚊沼大神分遺跡

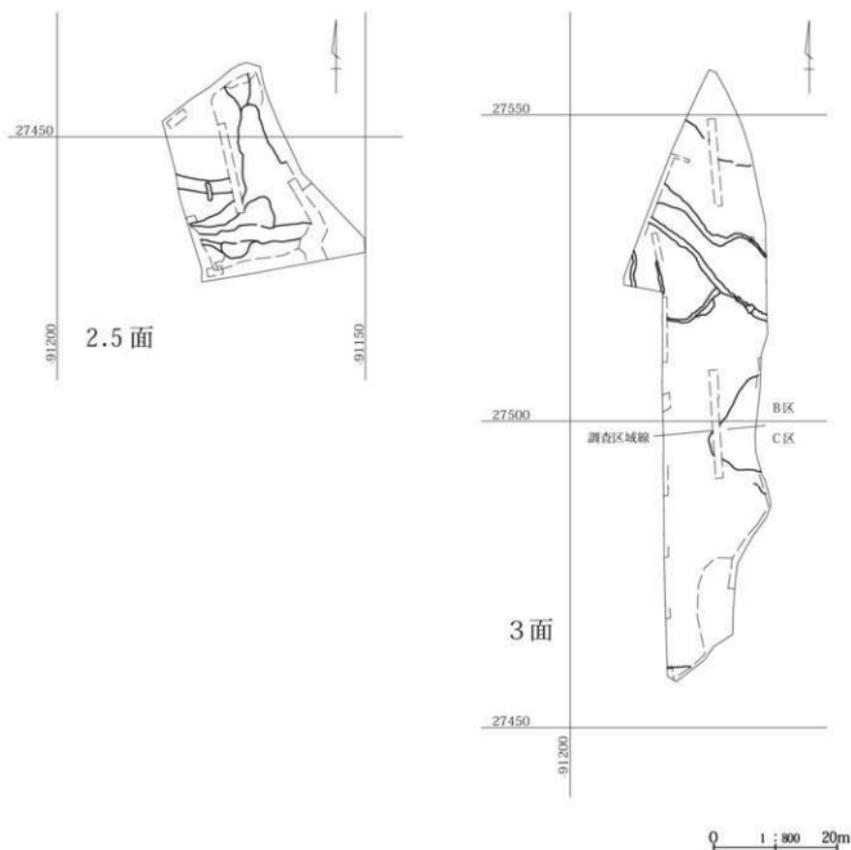
第1節 概要

本遺跡では、1面、2面、2.5面、3面の調査面で調査を実施した。各面で調査した遺構は以下の通りである。

1面はA・B・C区で遺構が確認された中・近世面であるが、確認された遺構は貯蔵穴と想定される土坑1基、水路と見られる近世の溝1条、流入水等による滞水の痕跡と見られる落込み2カ所を調査し、いわゆる疑似畦畔の可能性を有する水田状遺構1面を確認した。



第339図 調査区全体図1



第340図 調査区全体図2

2面はB・C区で確認された調査面で、古代・中世遺構の調査面である。本面には古代と中世の所産と想定される各1基を含む土坑3基があり、古代と想定される4条と中世の早い段階の2条を含む溝6条を調査した。溝のうち中世の2条と古代の3条は水路としての使用を想定している。このほかAs-B下水田1面を調査した。

2.5面はD区のみで確認された遺構調査面である。本面は古代の面として調査されているが、形態的に中世の貯蔵穴の可能性を有する土坑1基、古代と中世の1条ず

つを含む溝3条、古代末の溜池と思われる落込み1基を調査した。このうち溝は、1条が奈良時代、1条が中世の所産と判断される。

3面はB・C区で確認された古代の調査面である。しかし古代の遺構の調査面である本面において、近世の溝1条だけが確認、調査されている。明確に3面の遺構として調査された遺構には、時期不特定でいずれも水路としての使用が認識される溝5条と、時期不特定の増状遺構があった。

第2節 1面で発見された遺構と遺物

1 土坑

1号土坑(第341図、PL.136)

概要 本土坑は遺存状態の上位がやや削られる、やや大型土坑である。

位置 本土坑はB区北部南西寄りに在り、537～538-179～181グリッドに位置する。

重複 本土坑は単独で在り、他遺構との重複は見られなかった。

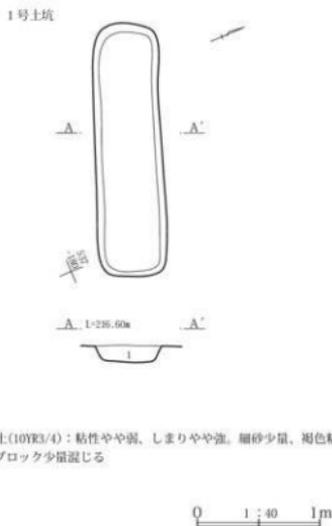
規模 長さ：2.07m 幅：0.57m 深さ：0.13m

埋土 粘性やや弱く細砂。褐色粘質土少量含む暗褐色土で埋没する。

構造 本土坑の主軸はN69°Wを向く。

本土坑はやや丈の短い短冊形のプランを呈し、掘削形態は箱型状で、底面形態は平底を呈する。

遺物 本土坑からの遺物の出土はなかった。



第341図 1号土坑

1号土坑

1 暗褐色土(10YR3/4)：粘性やや弱、しまりやや強。細砂少量、褐色粘質土小ブロック少量混じる

所見 本土坑の時期は特定できなかったが、その掘削形態から推して、中・近世の所産と思量される。

本土坑の掘削意図は、その掘削形態から推して、貯蔵穴の可能性が考えられる。

2 溝

1号溝(第342・343図、PL.136)

概要 本溝は流水の痕跡が見られる大型の溝である。北側が北側調査区外、南側が西側調査区外に出ており、全容は確認されなかった。

位置 A区からB区にかけて在り、525～574-180～190グリッドに位置する。

重複 本溝は単独で在り、他の遺構との重複は見られなかった。

規模 長さ：(51.34)m 幅：0.61～1.80m
深さ：0.06～0.50m

埋土 A区ではAs-A多く混じるにぶい黄褐色土で埋没し、底面近くに灰黄褐色粘質土、最下層にぶい黄褐色粗砂粒層、B区では粗砂小礫多く入る暗褐色土で埋没し、最下層は細砂・粗砂と褐色土の互層で堆積する。

構造 本溝はN5°W方向よりA区に入り、略南方向に弱く蛇行しながら走行し、A区南端近くで東側調査区外に出る。N30°W方向でB区に西壁より入ると時計回りに弧状に走行した後、B区中部北寄りで行方をN42°EからN24°E方向に変じた後、直線的に西側調査区外に抜けている。

掘削形態は壁面が鈍角な葉研型を呈し、底面の横断面形態はA区では丸底、B区では平底を呈する。

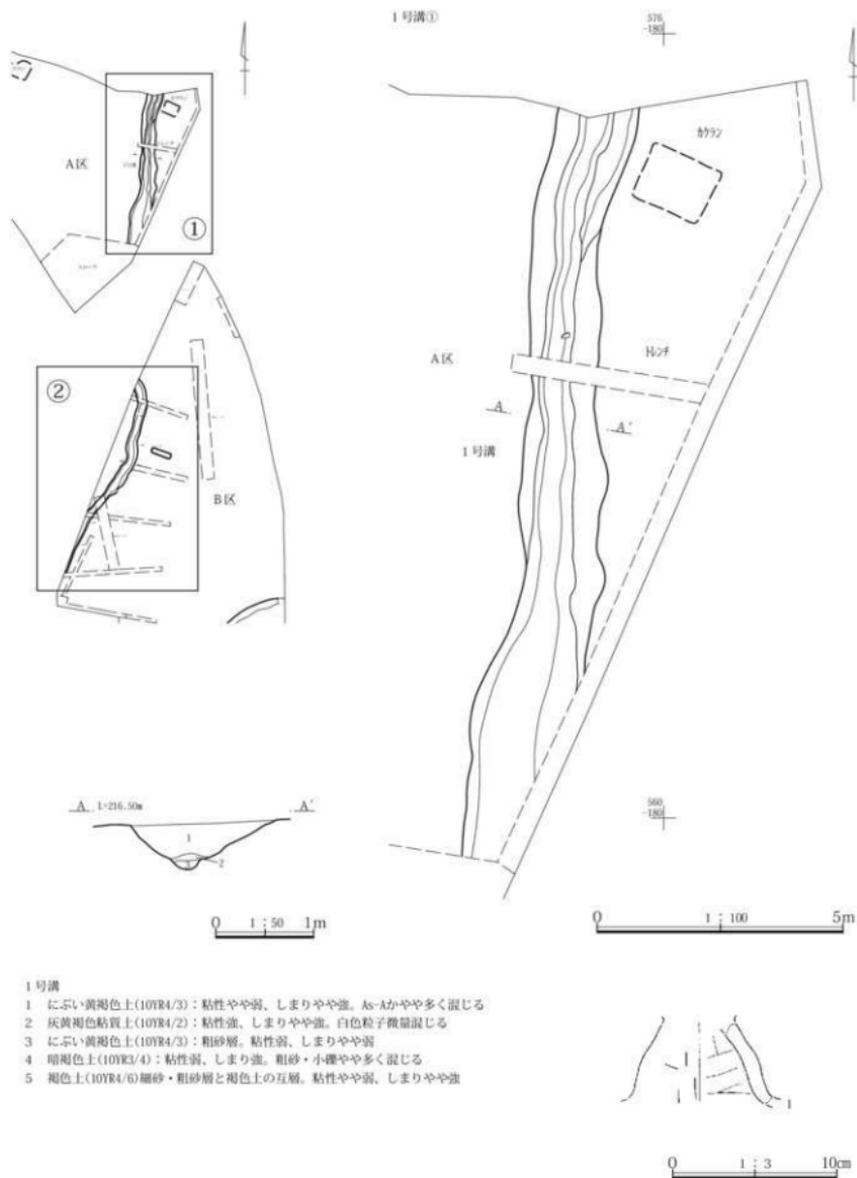
本溝の底面は南高北低であり、勾配率は1.13%が算出され、水平に近い状態にある。

遺物 本溝からは土器器高杯脚部片(1)が出土した。

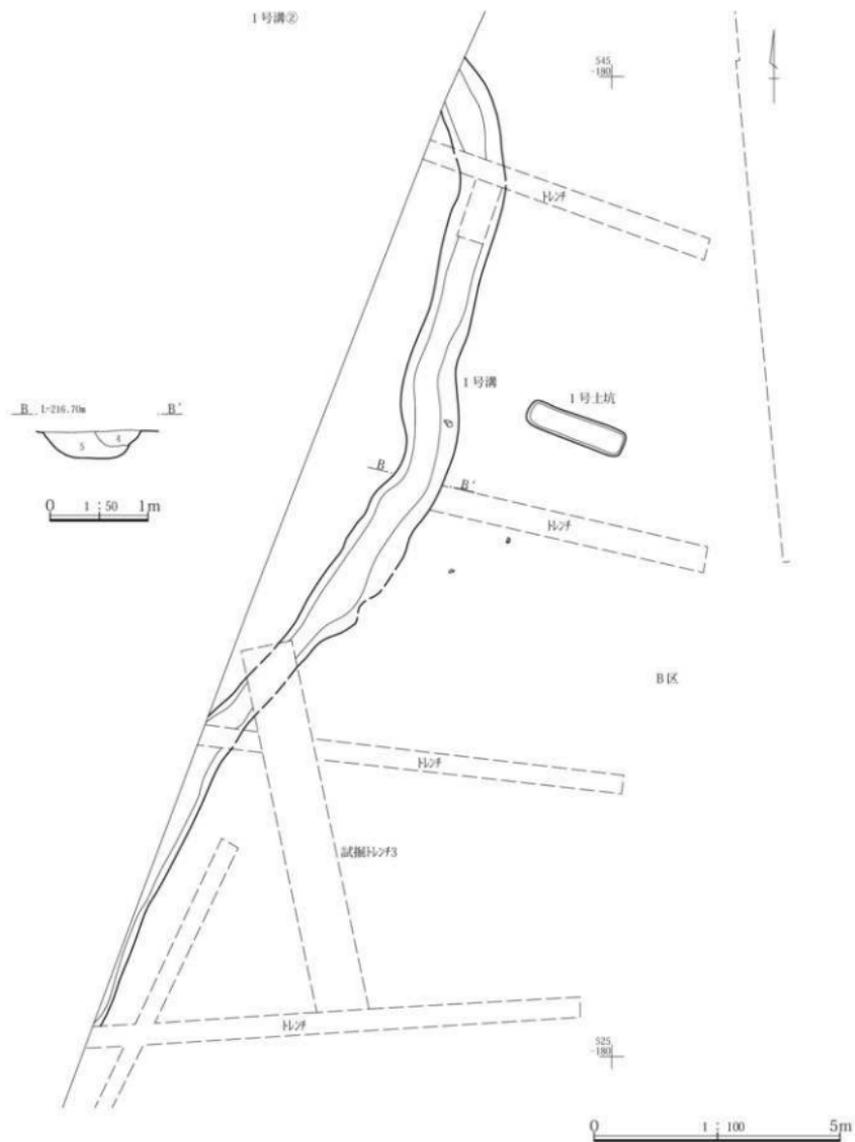
所見 本溝は上述のように南北両側と中位が調査区外に出るため、全容は詳らかでない。

本溝の時期はA区の埋土でAs-Aが多く混ざることから、概ね近世後期の所産と認識される。

本溝は埋土に下位を中心に、細砂・粗砂粒が多く入る等、埋土の状態から通水の可能性が認められるため、本溝は水路としての使用が考慮される。また本溝の流水は北側の蚊沼川に流入させていたものと思量される。



第342図 1号溝(1)と出土遺物



第343図 1号溝(2)

3 落込み

1号落込み(第344図、PL.136)

概要 本落込みは過半が西側調査区外に出ていて、東部の一部を確認できたに過ぎなかった。

位置 本落込みはB・C区境の調査区西端に在り、493～507-181～185グリッドに位置する。

重複 本落込みは単独で在り、他遺構との重複は見られなかった。

規模 長さ：(14.18)m 幅：(2.90)m 深さ：0.24m

埋土 細砂主体の褐色土の上に細砂・粗砂多量に混ざる暗褐色土が乗る水平堆積層。

構造 本落込みは、残存部から推定するに楕円形のプランを呈し、壁面は緩傾斜で、底面形態は緩やかな凹レンズ状を呈する。

遺物 本落込みからの遺物の出土はなかった。

所見 本落込みの時期は特定できなかったが、調査面から推して、凡そ中・近世の所産と思量される。

本落込みの掘削、使用意図は特定できなかったが、その埋土から推して滞水していたものと想定される。可能性の一つとして溜池様の使用が考慮される。

2号落込み(第344図、PL.136)

概要 本落込みは東側が調査区外に出ていて全容を確認することはできなかった。

位置 本落込みはB区中・南部の東半部に在り、508～522-167～175グリッドに位置する。

重複 本落込みは単独で在り、他遺構との重複は見られなかった。

規模 長さ：14.03m 幅：(7.27)m 深さ：0.42m

埋土 粘性強く黒褐色土が層状に入る暗褐色粘質土を垂直方向に挟む粘性やや強い暗褐色粘質土で埋没する。水平堆積層である。

構造 本落込みは東側が調査区外に出るため、全容は詳らかでない。本落込みは残存部から推定するに隅丸六角形のプランを呈し、壁面から底面の形態は緩やかな凹レンズ状を呈する。

遺物 本落込みからの遺物の出土はなかった。

所見 本落込みの時期は特定できなかったが、調査面から、凡そ中・近世の所産と思われる。

本落込みの掘削、使用意図は特定できなかったが、その埋土から推して滞水した状態にあったものと想定されるが、積極的な入水・排水はないものと思われる。可能性としては、湧水による溜池等が考えられる。

4 水田状遺構

1号水田状遺構(第345図)

概要 本遺構は掘削の痕跡だけ残す、いわゆる疑似畦畔様の遺構として取り上げる。本遺構は、西側は調査区外に出ており、東側は攪乱により壊されているため、全容は確認できなかった。

位置 本遺構はC区中・南部に在り、458～485-173～184グリッドに位置する。

重複 本遺構は単独で在り、他遺構との重複は見られなかった。

規模 東西：(10.77)m 南北：27.21m

(段差1)長さ：9.35m 幅：0.17～0.45m

高さ：0.05～0.07m

(段差2)長さ：3.46m 幅：0.24～0.40m

高さ：0.03～0.05m

(群1)長さ：9.44m 上幅：0.24～0.52m

下幅：0.56～0.75m 上面比高：0.01～0.04m

下面比高：0.02～0.06m

(群2)長さ：10.46m 上幅：0.45～0.73m

下幅：0.76～1.00m 上面比高：0.00～0.04m

下面比高：0.10～0.11m

(平坦面1)長さ(東西)：23.4m 幅(南北)：—m

(平坦面2)長さ：23.45m 幅：7.74～8.92m

(平坦面3)長さ：26.125m 幅：4.00～5.55m

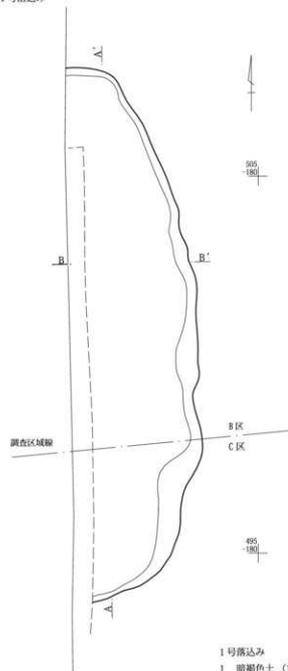
(平坦面4)長さ：25.00m 幅：11.72m

埋土 埋土の記録は残せなかった。

構造 本遺構の所在するC区1面は、平坦部から南東側に緩やかな落込みが見られるが、調査区西壁から傾斜面の途中まで、北から段差1、段差1から8.6m程南に畦畔状の盛り上がり(畦1)、その南に5.2mほど離れた位置に畦2が、並走するように略東西方向走行する。畦2から12m程南のC区南西隅部に段差2が突出するように在る。

各段差と畦の間はほぼ平坦であり、段差1の北側の面

1号落込み



1号落込み

- 1 暗褐色土 (10YR3/4)：粘性弱、しまり強。細砂・粗砂多量混じる
- 2 褐色土 (10YR4/4)：細砂主体。粘性弱、しまり強。暗褐色土小ブロック少量混じる

2号落込み



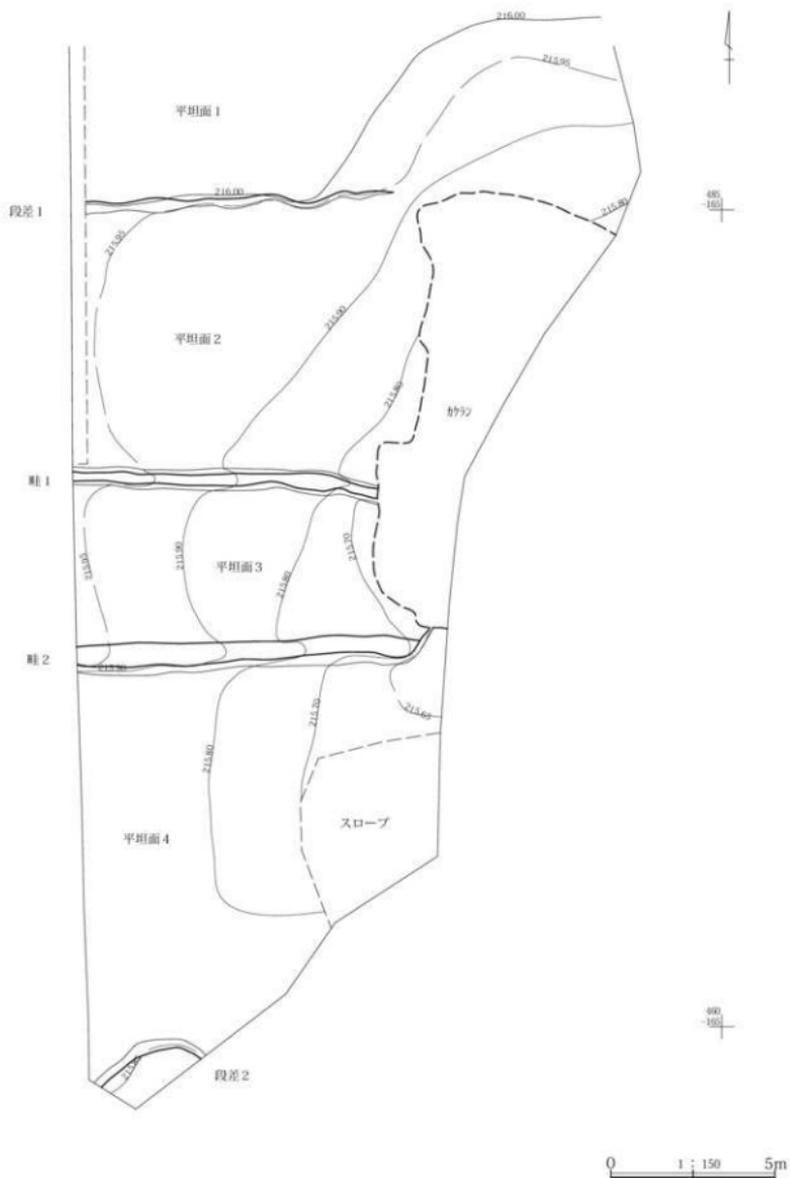
2号落込み

- 1 暗褐色土 (10YR3/3)：粘性や冷強、しまり強。細砂・粗砂少量混じる
- 2 暗褐色粘質土 (10YR3/4)：粘性・しまり強。酸化鉄少量、黒褐色土を層状に混じる
- 3 暗褐色土 (10YR3/4)：粘性や冷強、しまり強。白色粒子 (As-B7) 中量混じる



0 1:50 1m

第344図 1・2号落込み



第345図 1号水田状遺構

を平坦面1、段差1と畦1の間の面を平坦面2、畦1と畦2の間の面を平坦面3、畦2の南側で段差2との間の面を平坦面4と仮称するが、平坦面1と2の高低差は0.06m、平坦面2と3の比高差は0.02m、平坦面3と4の比高差は0.07mと南に向かい階段状に落ちている。また各平坦面は西高東低で東に向かい緩やかに傾斜し、勾配率は平坦面1は0.66%、平坦面2は1.90%、平坦面3は3.16%、平坦面4は2.53%を測る。平面面1は西端付近が傾斜するに過ぎない。

遺物 本遺構からの遺物の出土はなかった。

所見 本遺構の時期は特定できなかったが、調査面から推しておよそ中・近世の所産と考えられる。

本遺構には耕作土は確認されなかったものの、その形状から、耕地開墾時の痕跡であるいわゆる疑似畦畔と認識される。なお本遺構が水田址であると仮定するならば、各平坦面に傾斜が見られることから、古墳時代の小区画水田同様、東西の段差を含む畦を設定した後、南北方向の畔で仕切る構造であったものと思される。

5 1面の遺構外の遺物

本項では縄文時代の遺物を除く、1面から出土した遺物と面の特定できなかった遺構外の出土遺物、および県保護課による試掘調査で出土した遺物を扱う。

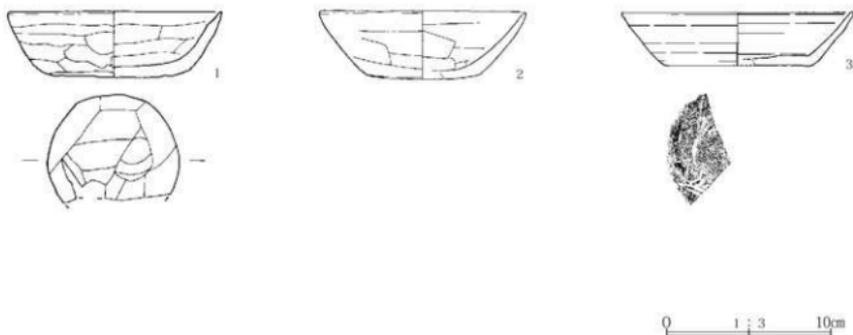
(1)古墳時代から平安時代の遺構外の遺物(第346図、PL.142)

1面からは土師器杯(1・2)と須恵器杯(3)の出土を見た。

(2)近世の遺構外の遺物

1面の近世の遺物には、瀬戸・美濃陶器片1片、肥前陶器片1片の出土があった。この他、面の特定できない近世の瀬戸・美濃陶器片1片、肥前磁器片5片、産地不詳の磁器片2片も確認している。

このほか県保護課の試掘調査時に伴い、瀬戸・美濃陶器片1片、肥前陶器片2片が出土していた。



第346図 1面遺構外出土遺物

第3節 2面で発見された遺構と遺物

1 土坑

3号土坑(第347図、PL.137)

概要 本土坑は南側が8号溝に切られるため、北部の一部を調査できたに過ぎなかった。

位置 本土坑はB区北端近くに在り、550～551-175～177グリッドに位置する。

重複 本土坑は8号溝に重複し、これに切られるが、埋土の堆積状況から同溝の一部である可能性も考えられる。

規模 長さ：(2.20)m 幅：(0.95)m 深さ：0.60m

埋土 粘性やや弱くAs-Bかと思われる軽石を混入する黒褐色土と粘性弱くAs-Bかと思われる軽石を多く含む暗褐色土で埋没する。

構造 本土坑は上述のように8号溝に切られるため、全容は詳らかでないが、残存部の形状から推して、本土坑のプランは楕円形を呈し、底面は丸底を呈するものと思量される。本土坑の主軸の向きは特定できなかった。

遺物 本土坑からの遺物の出土は見られなかった。

所見 本土坑の時期は特定できなかったが、埋土中の軽石がAs-Bとすれば中世の早い段階の所産と思われる。

本土坑の掘削意図は特定できなかったが、埋土の堆積状況から推して、本土坑は8号溝の一部である可能性が考慮される。

4号土坑(第347図、PL.137)

概要 本土坑は北側と西側が調査区外に在るため、全容は詳らかにできなかった。

位置 本土坑はB区北端に在り、555～557-176～178グリッドに位置する。

重複 本土坑は単独に在り、他の遺構との重複は見られなかった。

規模 長さ：(1.53)m 幅：(0.70)m 深さ：0.52m

埋土 下位に粘性強く細砂・粗砂軽石入る暗褐色土、上位に粘性やや強く細砂・粗砂・軽石多量に混ざる暗褐色土が入って埋没する。上下層の境は水平である。

構造 本土坑は上述のように北と西が調査区外に出るため一部を調査したに過ぎないが、残存部のプランは隅丸方形または隅丸長方形を呈する。掘削形態は缶形を呈するが、壁面の中・上部はやや開き気味である。底面は平底を成す。

なお、本土坑の主軸の向きも特定できなかった。

遺物 本土坑からの出土遺物も見られなかった。

所見 本土坑の時期は特定できず、掘削意図も特定できなかった。

5号土坑(第347図)

概要 本土坑は大型の土坑であるが、北東側が8号溝に切られるため、全容は把握できなかった。

位置 本土坑はB区北部西寄りに在り、545～547-177～180グリッドに位置する。

重複 本土坑は6・8号溝と重複するが、6号溝との新旧関係は特定できなかったものの、8号溝には切られる。

規模 長さ：(2.40)m 幅：(1.90)m 深さ：0.54m

埋土 本土坑は底面近くで、粘性やや強く細砂等少量含む暗褐色土で埋没する。その後、8号溝に起因すると思われる細砂層と褐色微砂層の斜方向の互層で埋没する。

構造 本土坑は上述のように北東側が8号溝で切られるため、全容は詳らかでないが、そのプランは残存部形状から隅丸菱形を呈するものと推定される。掘削形態は壁面が開く播鉢状で、底面は丸底を成す。

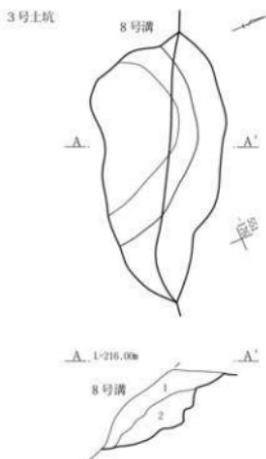
なお、本土坑の主軸の向きも特定できなかった。

遺物 本土坑からの出土遺物も見られなかった。

所見 本土坑の時期は8号溝に切られることから、おおよそ古代の所産として把握される。

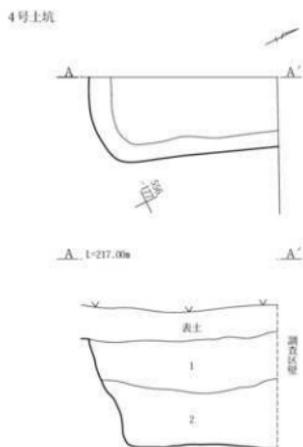
本土坑の掘削意図は特定できなかった。

第4章 蚊沼大神分遺跡



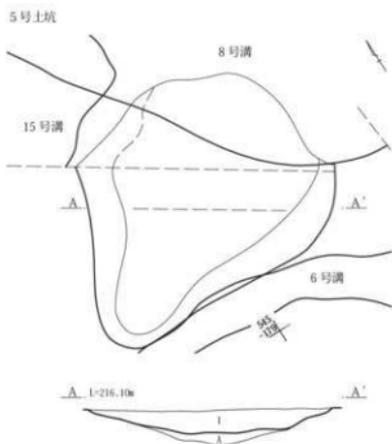
3号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/2):粘性やや弱、しまりやや強。白色軽石(As-Bか)・酸化鉄分少量混じる
- 2 暗褐色土(10YR3/3):粘性弱、しまりやや弱。As-Bかやや多く混じる



4号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/4):粘性やや強、しまり強。細砂・粗砂・黄色軽石・酸化鉄分多量混じる
- 2 暗褐色土(10YR3/4):粘性・しまり強。細砂・粗砂・黄色軽石・酸化鉄分中量混じる



5号土坑

- 1 褐色土(10YR4/4):細砂層、褐色微砂層が斜め層状に互層となる。粘性弱、しまりやや強
- A 暗褐色土(10YR3/4):上部に酸化鉄分混り、粘性・しまりやや強。細砂・粗砂・白色軽石少量混じる。地山か

0 1:40 1m

第347図 3～5号土坑

2 溝

3号溝(第348～351図)

概要 本溝は中規模の溝であるが、北西端が試掘トレンチで壊され、南端は1面の2号落込みに壊されていて、全容を把握することはできなかった。

位置 B区中・北部の東寄りに在り、526～542-172～175グリッドに位置する。

重複 本溝は4・7号溝と重複するが、共に本溝の方が古い。

規模 長さ：(17.64)m 幅：0.46～1.48m
深さ：0.04～0.17m

埋土 粘性やや弱く、粗砂等少量入るにぶい黄褐色土で埋没する。

構造 本溝の北西隅はN72°W方向を向き、走行を時計回りに弧状転じてN2°E方向に10m程走る。

壁面の開く箱堀状の掘削形態で、底面の横断面形は箱堀状を呈する。

本溝の底面は平坦で、勾配率は算出できなかった。

遺物 本溝からの遺物の出土は見られなかった。

所見 本溝は上述のように南北両端が失われているため、全容を把握できなかった。

本溝の時期は特定できなかったが、7号溝との重複から、おおよそ古代の所産として把握される。

なお本溝の掘削意図は把握できなかった。

4号溝(第348～351図、PL.137)

概要 本溝は中規模の溝であるが、東側調査区外に出ており、西側は試掘トレンチで壊され、それ以西では確認できない。従って本溝の全容を把握することはできなかった。

位置 B区北部の東半に在り、542～545-170～176グリッドに位置する。

重複 本溝は3・5・7・8号溝と重複するが、本溝は5・7・8号溝よりは古く、3号溝より新しい。

規模 長さ：(6.16)m 幅：1.07～1.53m
深さ：0.26～0.91m

埋土 底面付近は細砂多量に混ざる黒褐色土や粗砂主体のぶい黄褐色土、小礫主体の褐色土で埋没し、その上は粘性やや強い暗褐色土や粘性の強い黒褐色土等で埋没

する。

構造 本溝は調査区東端ではN85°Eを呈し、全体としては隅丸のV字状に走行して、西端はN81°W方向を向く。

掘削形態は下位が幅広の葉研堀状または箱堀状を呈し、底面の横断面形は葉研堀状の箇所では平底、箱堀状の箇所では丸底状を呈する。底面は0.20m、0.50mと二段に階段状に落ちている。また底面には流水による窪み等も観察された。

本溝は西高東低で、勾配率は18.83%で傾斜角は10°程である。

遺物 本溝からは土師器片、須恵器片各1片が出土したに過ぎない。

所見 本溝は上述のように全容を把握できなかった。

本溝の時期は特定できなかったが、8号溝との重複から、おおよそ古代の所産として把握される。

なお本溝には明らかな流水の痕跡が認められ、水路であったものと想定される。しかし勾配は他の溝に比べて強く、使用の意図は他の溝と異なっていたものと思量される。

5号溝(第348～351図、PL.138)

概要 本溝は中規模の溝であるが、調査区内には西端部が残るだけで、過半は東側調査区外に出ており、全容を把握することはできなかった。

位置 本溝はB区北部の溝群の南東に在り、541～543-170～173グリッドに位置する。

重複 本溝は4・7・8号溝と重複するが、本溝は4号溝よりは新しく、7・8号溝との新旧関係は特定できなかった。

規模 長さ：(3.18)m 幅：1.45～1.90m
深さ：0.12～0.54m

(ビット)径：0.33×0.27m 深さ：0.27m

埋土 粘性に強弱の違いはあるが、暗褐色土で埋没する。中ほどの底部付近には層状に多量の粗砂粒が見られ、調査区東壁の埋土上位にはAs-Bが多量に入る。

構造 本溝の走行はN77°Eを向き、直線状な走行を見せる。

掘削形態は箱堀状を呈するが、底面の横断面形は丸底状を呈する。底面の中ほど東寄りの中央から北東隅にか

けて長さ0.88m、幅0.46mを測る落込み1とその東に接して長さ0.60m以上、幅0.90m以上を測る落込み2があり、溝底面から落込み1、更に落込み2へと階段状に落ちるが、その比高差は溝底面から落込み1は0.03m、落込み1から落込み2は0.10mを測る。また落込み1の底部西端にはピットが見られる。

本溝は西高東低で、勾配率は12.36%で傾斜角は7°程である。

遺物 本溝からの遺物の出土は見られなかった。

所見 本溝は上述のようにその一部を調査したに過ぎなかった。

本溝の時期は特定できなかったが、上土埋土の一部にAs-Bが多くみられることから、中世の早い段階前後の所産と思量される。

本溝の底面に見られた落込み1・2とピットは流水の痕跡と見られ、一部底面付近の粗砂粒の堆積状況から推して、本溝は水路としての使用が考えられる。

6号溝(第348～351図、PL.138)

概要 本溝は小規模の溝であるが、東側は試掘トレンチで壊され、上述の4号溝があるため、以東では平面的に観察できない。従って全容を把握することはできなかった。

位置 本溝はB区北部の溝群の南西部に在り、544～545-177～180グリッドに位置する。

重複 本溝は5号土坑と重複するが、新旧関係は特定できなかった。また位置的に4号溝と重複すると見られるが、重複関係は明確ではないものの、3・4号溝の土層断面に現れないことから本溝の方が古いものと判断される。4・5号溝B-B'セクションの1または2層が本溝である可能性を有する。

規模 長さ：(3.29)m 幅：0.18～0.60m

深さ：0.06～0.28m

埋土 粘性やや強く細砂とやや多くの褐色粘質土入る暗褐色土と、粘性やや弱い暗褐色土で埋没する。

構造 本溝の走行は蛇行するか、その走行の方向は概ねN76°Wを向く。

掘削形態は箱型を呈し、底面は平底呈する。

本溝は西高東低であるが、勾配率は3.08%でほぼ平坦である。

遺物 本溝からの遺物の出土は見られなかった。

所見 本溝は上述のようにその一部を調査したに過ぎず、時期も特定できず、掘削意図も判断できなかった。

7号溝(第348～351図、PL.138)

概要 本溝は中小規模の溝であるが、西側は3号溝に重複し、南側は確認できなくなるため、全容は確認できなかった。

位置 本溝はB区北部の溝群の南東部からB区中東部にかけて在り、527～541-170～174グリッドに位置する。

重複 本溝は3・4・5号溝と重複する。本溝は3・4号溝より新しく5号溝よりは古い。

規模 長さ：(14.86)m 幅：0.88～1.47m

深さ：0.08～0.26m

埋土 粘性やや強い暗褐色土で埋没するが、このうち上位層はAs-B等少量混じり、下位層には細砂・粗砂多く混じる。

構造 上述のように本溝は全容を確認できなかったが、本溝は東方向に3号溝より分岐し、5号溝との重複部分で時計回りに1/4周して南方に転ずる。以南はN10°E方向に走行する。

掘削形態は壁面の広がる箱型を呈し、底面は平底状を呈する。

本溝は北高南低であるが、勾配率は0.47%でほぼ水平である。

遺物 本溝からの遺物の出土は見られなかった。

所見 本溝は上述のようにその一部を調査したに過ぎなかった。

本溝の時期は、埋土から推して中世の早い段階の可能性が考慮される。

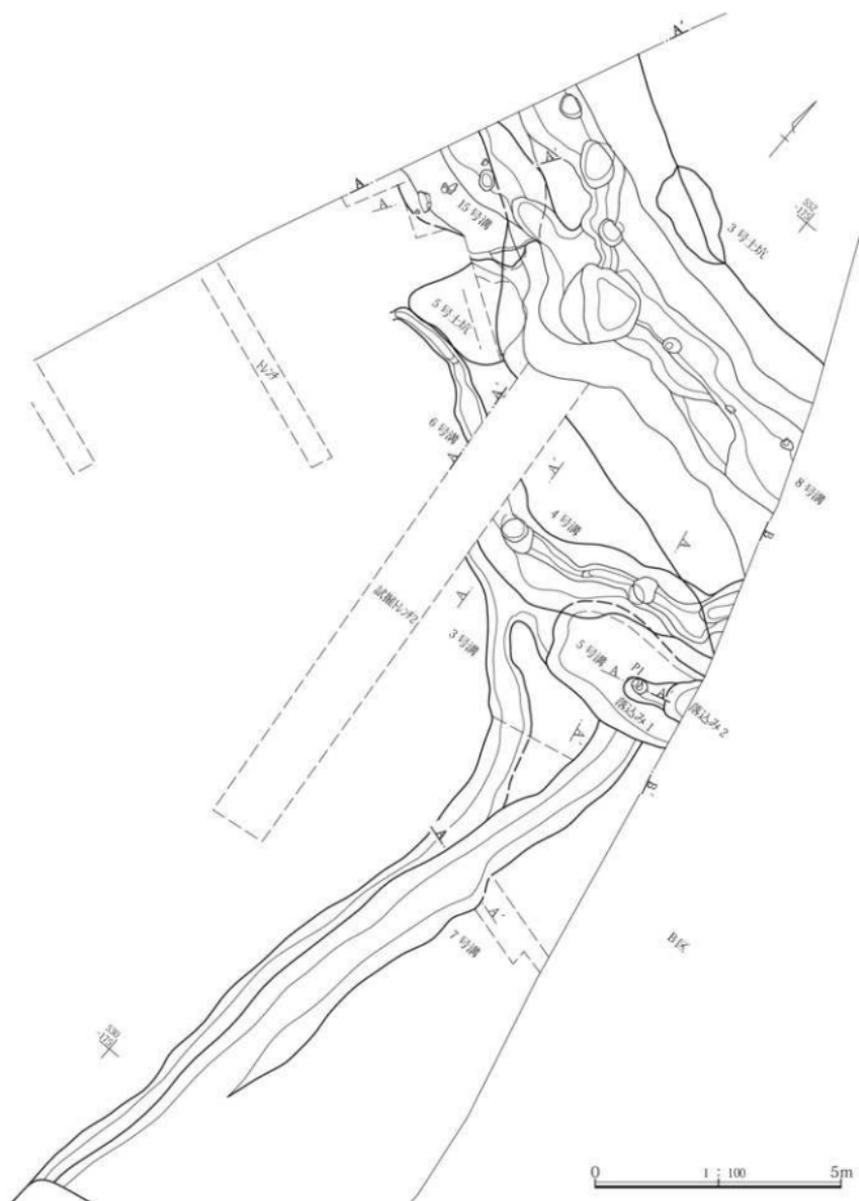
本溝の掘削意図も特定できなかったが、流水の痕跡が見られ、水路としての使用の可能性を有する。判断できなかった。

なお掘削位置から推して、本溝は3号溝の掘り直しの溝である可能性も考慮される。

8号溝(第348～351図、PL.138)

概要 本溝は水路の可能性が高い大型の溝である。東西両側が調査区外に在るため、全容は確認できなかった。

位置 本溝はB区北部の溝群の最北に位置する。B区北

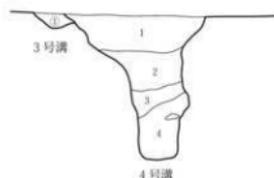


第348図 3～8・15号溝(1)

第4章 蚊沼大神分遺跡

3・4号溝

A, 1-216.50m

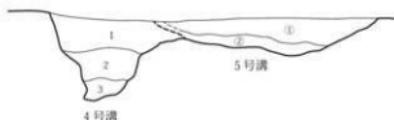


3・4号溝

- 1 暗褐色土(10YR3/4):粘性やや強、しまり強。細砂・粗砂微量、酸化鉄分中量混じる
- 2 暗褐色土(10YR3/3):粘性・しまりやや強。酸化鉄分少量混じる
- 3 黒褐色土(10YR3/2):粘性やや弱、しまりやや強。細砂多量混じる
- 4 にぶい黄褐色土(10YR4/3):粗砂主体、粘性弱、しまりやや弱。粘質上小ブロック微量混じる
- ① にぶい黄褐色土(10YR4/3):粘性やや弱、しまり強。粗砂・黄色粒子少量混じる

4・5号溝

A, 1-216.50m

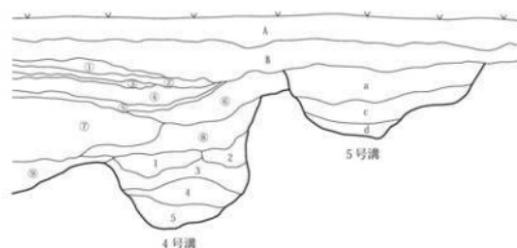


4・5号溝A-A'

- 1 暗褐色土(10YR3/4):粘性やや強、しまり強。細砂・粗砂微量、酸化鉄分中量混じる
- 2 暗褐色土(10YR3/3):粘性・しまりやや強。酸化鉄分少量混じる
- 3 黒褐色土(10YR3/2):粘性やや弱、しまりやや強。細砂多量混じる
- ① 暗褐色土(10YR3/3):粘性・しまりやや強。細砂・粗砂微量混じる
- ② 暗褐色土(10YR3/3):粘性やや弱、しまりやや強。粗砂、層状に多量混じる

4・5号溝

B, 1-217.00m



4・5号溝B-B'

- 1 褐色土(10YR4/4):細砂・粗砂・黄色軽石主体、粘性弱、しまりやや弱。上部に小礫混じる
 - 2 灰黄褐色土(10YR4/2):粘質上主体、粘性・しまり強。酸化鉄分中量混じる
 - 3 黒褐色土(10YR3/2):粘性強、しまりやや強。砂質上小ブロック・酸化鉄分少量混じる
 - 4 暗褐色土(10YR3/4):細砂・粗砂・粘質上の混じる上
 - 5 褐色土(10YR4/4):粗砂・小礫主体。粘性極弱、しまり弱
 - a 暗褐色土(10YR3/4):粘性弱、しまりやや強。細砂・粗砂・As-Bが多量混じる
 - c 暗褐色土(10YR3/3):粘性やや弱、しまりやや強。細砂・粗砂・黄色粒子少量混じる
 - d 暗褐色土(10YR3/3):粘性やや強、しまりやや弱。粗砂・黄色粒子微量混じる
- A 表土
- B 暗褐色土(10YR3/3):粘性やや弱、しまりやや強。粗砂・As-Bが少量混じる
 - ① 暗褐色土(10YR3/3):粗砂・小礫・黄色粒子主体。粘性極弱、しまり強。褐色土中へ小ブロック少量混じる
 - ② 黒褐色粘質土(10YR3/2):粘性・しまり強。褐色土、層状に混じる
 - ③ 暗褐色土(10YR3/3):粗砂・小礫・黄色粒子主体。粘性弱、しまり強
 - ④ 暗褐色土(10YR3/4):細砂・粗砂主体。粘性弱、しまりやや強
 - ⑤ 黒褐色土(10YR3/2):粘質土層。粘性強、しまりやや強。褐色土、層状に少量混じる
 - ⑥ 褐色土(10YR4/4):粘性弱、しまり強。細砂・粗砂・黄色軽石やや多く、シルト質中へ小ブロック少量混じる
 - ⑦ にぶい黄褐色土(10YR4/3):粗砂・小礫・黄色粒子を主体として層状に堆積。粘性極弱、しまりやや弱。多くは酸化する
 - ⑧ 暗褐色土(10YR3/3):シルトと微砂が層状に堆積。粘性・しまりやや弱
 - ⑨ 褐色土(10YR4/4):細砂主体。粘性極弱、しまり弱

5号溝

A, 1-216.00m A'

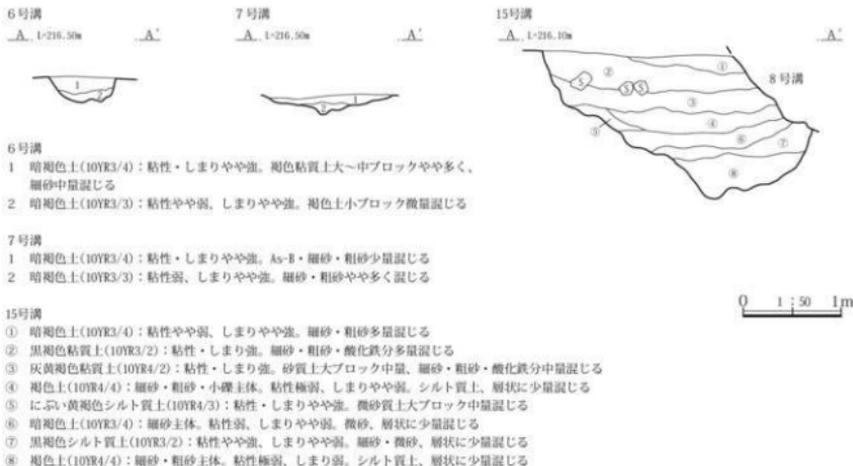


5号溝

- 1 にぶい黄褐色微砂質土(10YR4/3):粘性・しまりやや弱。黄色粒子微量混じる。
- 2 暗褐色粘質土(10YR3/4):粘性強、しまりやや強。地山か

0 1:50 1m

第34図 3～8・15号溝(2)



第350図 3～8・15号溝(3)

端部に近い位置に在り、544～552-170～181グリッドに位置する。

重複 本溝は4・5・15号溝、3・5号土坑と重複する。本溝は4・15号溝より新しいが、5号溝との新旧関係は特定できなかった。また3号土坑は本溝の一部である可能性を有する。

規模 長さ:(11.73)m 幅:3.50～4.81m
深さ:1.53～1.83m

埋土 本溝の最上層は粘性やや強いAs-B入る暗褐色土、その下には粗砂・小礫主体の暗褐色土、更にぶい黄褐色シルト質土が入る。その下には細砂あるいは粗砂主体の暗褐色土層群で埋没する。

構造 上述のように本溝は東西両端が調査区外に出るため、全容は詳らかでないが、途中南に極強く屈曲する直線的に走行する溝で、その走行の方向はおおむねN71°Wを向く。

掘削形態は底部が幅広の葉形懸状を呈する。底は平底状を呈するが、壁面と特に底面等には比高差0.50m以下の土坑・ピット・溝状の流水による凹凸が見られる。

本溝は西高東低であるが、勾配率は1.28%でほぼ水平に近い。

遺物 本溝からは土師器片1片が出土したに過ぎない。

所見 本溝は上述のようにその東西両側が調査区外に出るため、全容は詳らかにできなかったが、その時期は、上位層にAs-Bが含まれるため、古代末頃の所産と認識される。

本溝は底面の形態と中・下位の埋土から流水の痕跡が見られることから、水路としての使用が想定される。

15号溝(第348～351図、PL.138)

概要 本溝は大型の溝であるが、西側が調査区外に出るため、東端付近を調査してきたに過ぎなかった。

位置 本溝はB区北部の溝群の西寄りなり、547～549-178～181グリッドに位置する。

重複 本溝は8号溝と重複するが、本溝の方が古い。

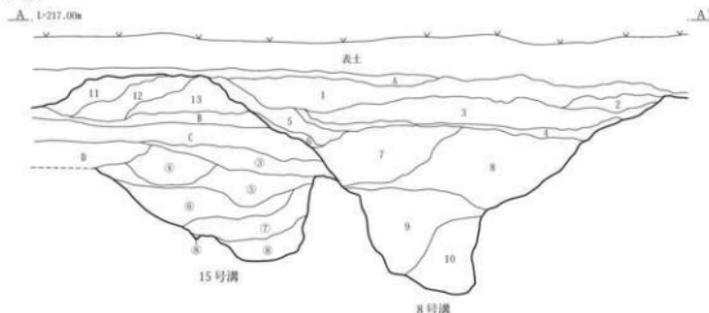
規模 長さ:(3.70)m 幅:2.00～2.54m
深さ:0.12～0.87m

埋土 細砂・粗砂を主体とするか、あるいは多く含む褐色土、暗褐色土、黒褐色粘質、灰黄褐色粘質土、黒褐色シルト質土等で埋没する。

構造 上述のように本溝の全容を確認できなかったが、本溝は西側より調査区に入り、直線的に走行する。その

第4章 蚊沼大分遺跡

8号溝



8号溝

表土

- A 暗褐色土(10YR3/3)：粘性やや弱、しまり強、粗砂・白色粒子・黄色粒子少量混じる
- 1 暗褐色土(10YR3/3)：粘性やや強、しまり強、酸化鉄分・白色粒子(as-bカ)中量混じる
- 2 暗褐色土(10YR3/3)：粘性やや弱、しまりやや強、白色軽石(as-bカ)中量、酸化鉄分中量混じる
- 3 暗褐色土(10YR3/4)：粗砂・小礫主体、粘性弱、しまりやや強
- 4 にぶい黄褐色シルト質土(10YR4/3)：粘性・しまりやや強
- 5 暗褐色微砂質土(10YR3/4)：粘性やや弱、しまりやや強、シルト質土・粗砂を層状に混じる
- 6 黒褐色粘質土(10YR3/2)：粘性・しまり強、上部一部酸化
- 7 暗褐色土(10YR3/4)：細砂主体、粘性極弱、しまりやや弱、粗砂多量、小礫少量混じる
- 8 暗褐色土(10YR3/4)：細砂・粗砂・小礫主体、粘性極弱、しまりやや弱、褐色小軽石が多量混じる
- 9 暗褐色土(10YR3/3)：粗砂主体、粘性極弱、しまり弱、小礫微量混じる。一部酸化して赤変
- 10 にぶい黄褐色土(10YR4/3)：粗砂主体、粘性極弱、しまり弱、小礫多量混じる。大部分酸化による赤変
- 11 暗褐色土(10YR3/4)：粘性やや弱、しまりやや強、粗砂微量、シルト質中ブロック少量混じる
- 12 暗褐色土(10YR3/4)：粘性弱、しまりやや強、細砂・粗砂やや多く混じる
- 13 暗褐色土(10YR3/3)：粘性やや弱、しまりやや強、粗砂・白色軽石(as-bカ)少量混じる
- B 暗褐色土(10YR3/3)：粘性弱、しまりやや強、粗砂・小礫やや多く混じる。一部酸化層あり
- C 黒褐色粘質土
- D 褐色シルト質土
- ③ 灰黄褐色粘質土(10YR4/2)：粘性・しまり強、砂質土大ブロック中量、細砂・粗砂・酸化鉄分中量混じる
- ④ 褐色土(10YR4/4)：細砂・粗砂・小礫主体、粘性極弱、しまりやや弱、シルト質土、層状に少量混じる
- ⑤ にぶい黄褐色シルト質土(10YR4/3)：粘性・しまりやや強、微砂質土大ブロック中量混じる
- ⑥ 暗褐色土(10YR3/4)：細砂主体、粘性弱、しまりやや弱、微砂、層状に少量混じる
- ⑦ 黒褐色シルト質土(10YR3/2)：粘性やや強、しまりやや弱、細砂・微砂、層状に少量混じる
- ⑧ 褐色土(10YR4/4)：細砂・粗砂主体、粘性極弱、しまり弱、シルト質土、層状に少量混じる

0 1:30 1m

第351図 3～8・15号溝(4)

走行の方向はN81°Wを向く。

掘削形態は箱堀状を呈し、底面はおおむね平底状を呈する。なお本溝の底面は一部しか確認できなかったため、勾配率も算出できなかった。

遺物 本溝からの出土遺物は土師器片1片のみであった。

所見 本溝はその一部を調査したに過ぎなかった。

本溝の時期は、重複する8号溝と埋土から推して、おおむね古代の所産と思量されるに過ぎなかった。

本溝は流水の痕跡が見られることから、水路としての使用が想定される。

3 水田址

As-B下水田(第352図、PL.139)

概要 本水田址は東部が大きく削られ、西側は調査区外に出ている。更に東側に溝状の擾乱が入り、南東部東寄りには調査区への馬入れが入るため、全容は確認できなかった。

位置 本水田址はB区南西部からC区西部にかけて在り、457～507-174～184グリッドに位置する。

重複 本水田址単独で在り、他の遺構との重複は見られなかった。

規模 長さ：(50.30)m 幅：(10.35)m

[畦1]長さ(2.01)m 幅：0.56～0.68m
高さ：0.06m

[畦2]長さ(4.21)m 幅：0.59～0.72m
高さ：5m

[畦3]長さ(5.42)m 幅：0.56～0.71m
高さ：0.02m

[畦4]長さ(5.25)m 幅：0.53～0.92m
高さ：0.05m

[畦5]長さ(26.4)m 幅：0.65～1.06m
高さ：0.04m

[畦6]長さ(5.93)m 幅：0.56～0.72m
高さ：—m

[畦7]長さ(6.6)m 幅：0.48～0.72m
高さ：0.03m

[水田面1]南北：(2.65)m 東西：(1.89)m

[水田面2]南北：(11.96)m 東西：(3.44)m

[水田面3]南北：(9.10)m 東西：(8.35)m

[水田面4]南北：(5.8)m 東西：(6.28)m

[水田面5]南北：(10.56)m 東西：(11.24)m

[水田面6]南北：(4.86)m 東西：(0.60)m

[水田面7]南北：(11.10)m 東西：(7.54)m

[水田面8]南北：(9.25)m 東西：(6.96)m

[比高差]水田面1・2：0.08m

水田面2・3：0.05m 水田面2・4：0.04m

水田面3・4：0.07m 水田面4・5：0.06m

水田面5・6：0.05m 水田面5・7：0.02m

水田面6・7：0.00m 水田面8・7：0.02m

埋土 本水田址はAs-Bで被覆される。

構造 上述のように本水田址はその一部を確認しただけで、全容は詳らかでない。

本水田は畦と水田面から成るが、畦および水田面の番号は整理段階で付したものである。

畦は7本を確認した。畦は略東西方向に走行する畦1・2・4が北から並び、その南側に略北西—南東方向に走行する畦5・7が並ぶ。畦2からは南方向から南東方向に弧状に走る畦3が分岐し、畦5からは南南西方向に分岐する畦6が見られる。畦の走行は反時計回りに弧を描く畦3以外は直線的であった。その走行の向きは畦1はN88°W、畦2はN79°Eを向き、畦4はN86°E、畦5はおおむねN62°W、畦6はN8°E、畦7はN82°Wを向くが、西端はN61°Wを向き、畦3は北側でN0°、南端でN52°Wを向く。畦の高さは全体的に低い。

また、水田面は畦1の北側に水田面1、畦1と畦2の間に水田面2、畦2と畦4の間で畦3の西側に水田面3、東側に水田面4、畦4と畦5の間に水田面5、畦5と畦7の間で畦6の西側に水田面6、東側に水田面7、畦7の南側に水田面8の8面の水田面が確認された。水田面1～7は北側より南側、西側より東側が低く、水田面の番号順に低くなっている。しかし水田面8は水田面7より高くなっている。また各水田面ともに南東方向に傾斜する傾向があるが、水田面5の東寄りと水田面7の北東側の傾斜は明瞭である。

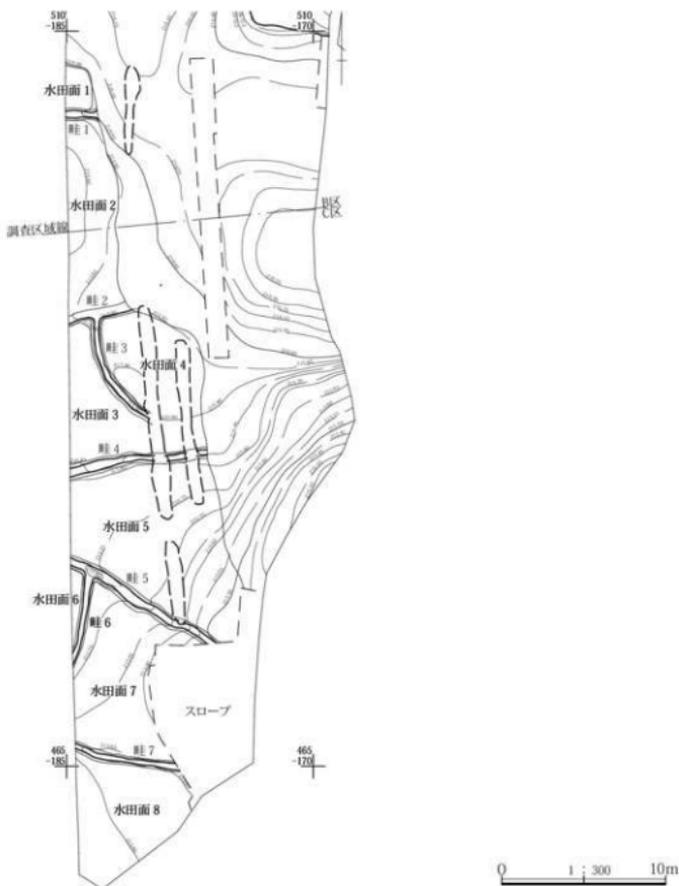
遺物 本水田址からの遺物の出土は見られなかった。

所見 上述のように、本水田址はその一部を調査したに過ぎなかった。

本水田址は、被覆するテフラにより、古代末の所産で、天仁元(1108)年に廃絶したものと判断される。

また本水田址の畦の走行の向きは一定していないため、本水田址は茶里方眼に依拠したものではなく、自然地形に拠ったものと思量される。

また、本水田址の畦の遺存状態は不良で、その高さも低いことから、本水田址は休耕田であった可能性が考慮される。



第352図 As-B下水田

4 2面の遺構外の遺物

(1)古墳時代から平安時代の遺構外の遺物

2面からは土師器の食膳具片5片と煮沸貯蔵具片2片の出土があった。

第4節 2.5面で発見された遺構と遺物

1 土坑

2号土坑(第353図、PL.140)

概要 本土坑は大型の土坑である。

位置 本土坑はD区中西部に在り、439～442-174～175グリッドに位置する。

重複 本土坑は2号溝と重複するが本土坑の方が新しい。

規模 長さ：2.92m 幅：0.68m 深さ：0.35m

埋土 粘性やや弱い暗褐色土で埋没する。

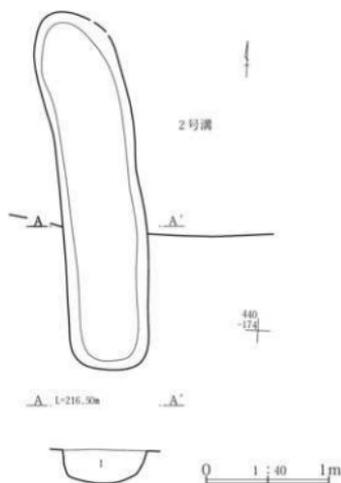
構造 本土坑は北端が冠球形を呈し弱く屈曲する、剛丸短冊形を呈する。缶形の掘削形態を呈し、底面は平底状を呈する。本土坑の主軸はN8°Wを向く。

遺物 本土坑の出土遺物は土師器片1片のみであった。

所見 本土坑の時期は特定できなかった。調査面は古代であるが、プランからは中・近世の可能性も考慮される。

なお、本土坑の掘削意図は特定できなかった。

2号土坑



2号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/4)：粘性やや弱、しまりやや強。粗砂・黄色粒子少量混じる

第353図 2号土坑

2 溝

2号溝(第354～357図、PL.142)

概要 本溝は中規模の溝である。西側は調査区外に出ており、東側は試掘トレンチに壊されていて、以東は確認できていない。

出土遺物は本遺跡の溝の中では多かった。

位置 本溝はD区中西部に在り、440～443-171～180グリッドに位置する。

重複 本溝は2号土坑と重複するが、本溝の方が古い。

規模 長さ：(9.20)m 幅：1.94～2.31m

深さ：0.17～0.30m

埋土 本溝は粘性のやや弱い黒褐色土と粘性やや強い暗褐色土で埋没する。

構造 本溝はN81°W方向で調査区に入り、反時計回りに緩やかな弧を描いて走行し、東端の試掘トレンチ際ではN81°Eを向く。

掘削形態は壁面が開く箱型状を呈し、底面の横断面形は丸底状を呈する。

本溝の底面の高さは西高東低であるが、勾配率は0.54%でほぼ水平である。

遺物 本溝からは土師器の杯(1・2)と高杯(3)、須恵器の杯(4～7・9・10)・高台付杯(8)・蓋(11)と五重の回字状甲きの施された甕(12・13、4片)が出土した。このほか土師器片106片、須恵器片29片の出土を見た。

所見 上述のように、本溝はその西側が調査区外に在り、東側は確認できなかったため、全容は詳らかにできなかったが、その時期は、出土遺物から推して8世紀前半期の所産と判断される。

流水の痕跡もなく、本溝の掘削意図は想定できなかった。

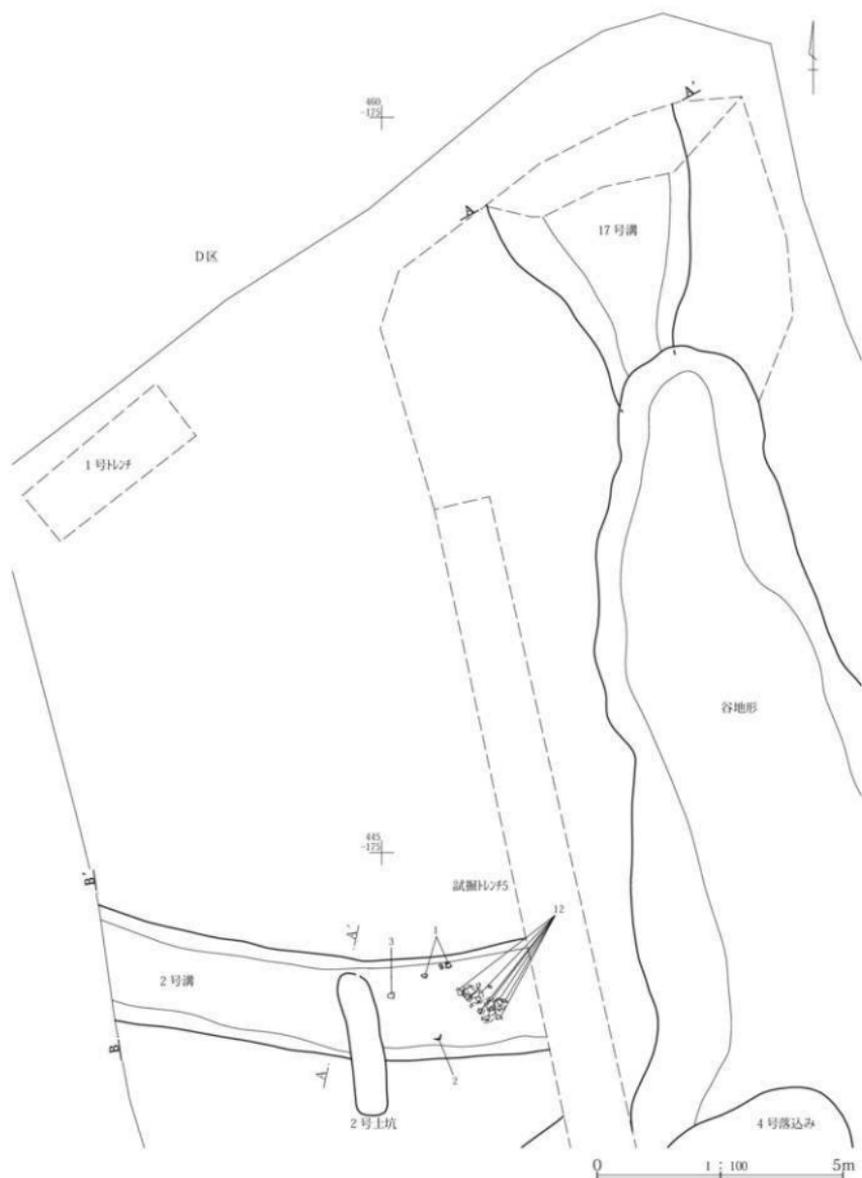
17号溝(第354～355図、PL.140)

概要 本溝は大型の溝である。北側は調査区外に出ており、南側は谷地形に接続している。

位置 本溝はD区北端部東寄りに在り、454～460-168～172グリッドに位置する。

重複 本溝は南側で谷地形と重複するが、新旧、併存の関係は特定できなかった。

規模 長さ：(5.70)m 幅：1.43～4.19m



第354図 2・17号溝(1)

2号溝

A, L=216.50m



A'

B, L=216.70m



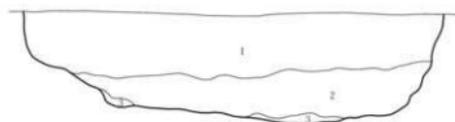
B'

2号溝

- 1 黒褐色土(10YR2/3):粘性やや弱、しまりやや強。白色粒子・粗砂少量混じる
 2 暗褐色土(10YR3/3):粘性・しまりやや強。白色粒子・黄色粒子・粗砂・小礫微量混じる

17号溝

A, L=216.50m



A'

17号溝

- 1 灰黄褐色粘質土(10YR4/2):粘性・しまり強。酸化鉄分多量、微砂少量混じる
 2 にぶい黄褐色土(10YR4/3):粘性・しまり強。黒褐色土が薄い層状に中量、酸化鉄分少量混じる
 3 褐色微砂質土(10YR4/4):粘性弱、しまりやや強。粘質土小ブロック少量混じる

0 1:50 1m

第355図 2・17号溝(2)

深さ:0.10~0.85m

埋土 本溝は上位層は灰黄褐色粘質土、下位層は薄い層状に黒褐色土入る粘性の強いにぶい黄褐色土によって埋没する。底面に褐色微砂質土が部分的に見られる。

構造 本溝は北北西側から調査区に入り、直線的に走行する。走行の方向はN15°Wを向く。

プランは管が幅広の漏斗状を呈し、掘削形態は箱型状を呈する。底面は平底状を成す。

本溝の底面の高さは、土地の傾斜に反して南高北低であり、勾配率は3.47%で傾斜角は約2°である。

遺物 本溝からの遺物の出土は見られなかった。

所見 上述のように本溝は北側が調査区外に在るため、全容は確認できなかった。また時期も特定できなかった。

流水の痕跡は確認できなかったが、埋土の下位層の状態と、地形に反する方向に傾斜する状態から、本溝は滞水していた時期のあったことが想定される。また本溝の南には扇形のプランを呈する谷地形があり、本溝幅員が狭まる南端は、幅2.80m程を測る谷頭の西平に接続している。これらのことから、本溝の南端は堰のような機能を

を有し、本溝か本溝に接続する池状の地点からの溢水を谷地に流す、排水路のような機能を有していたのではないかと思量される。

16号溝(第358・359図、PL.140)

概要 本溝は比較的大型の溝である。東西両側が調査区外に出ていて全容は把握できなかった。

位置 本溝はD区南端近くに在り、432~435-158~176グリッドに位置する。

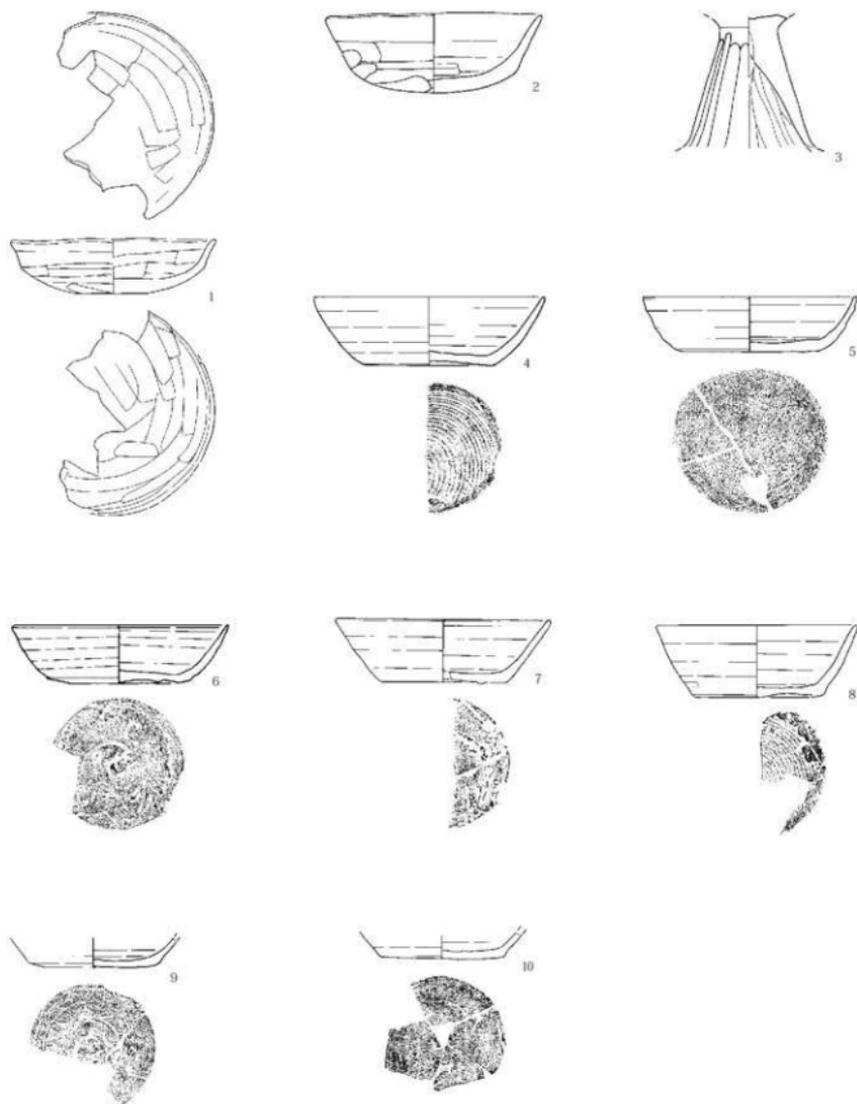
重複 本溝は4号落込みと重複するが、本溝の方が新しい。

規模 長さ:(18.36)m 幅:0.90~2.73m

深さ:0.43~1.03m

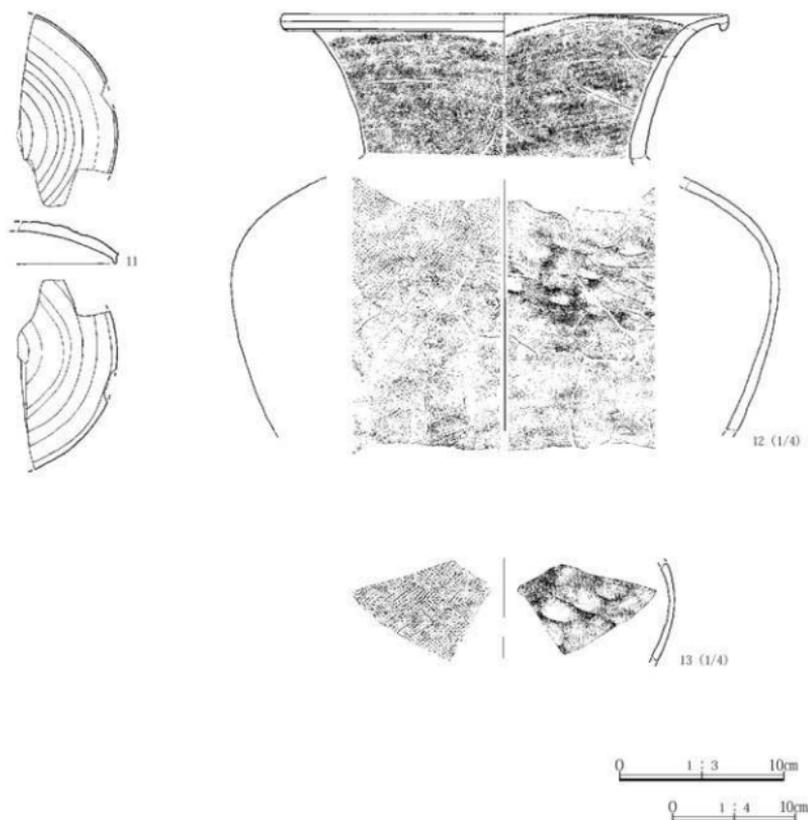
埋土 本溝の南北両側には細砂多量に混ざる暗褐色土(5層)が堆積し、その間に中・下位に粗砂・小礫主体のにぶい黄褐色土(3・4層)、上位に微砂あるいは粗砂主体の褐色土(1・2層)が堆積する。

構造 本溝は西側から調査区に入り、直線的に走行して東側に調査区を抜ける。走行の方向はN87°Eを向く。



0 1:3 10cm

第356図 2号溝出土遺物(1)



第357図 2号溝出土遺物(2)

プランは弱く蛇行するが、おおむね直線的であり、掘削形態は葉研堀状を呈し、底面の横断面形はV字形に近い。

本溝の底面の高さは、西端が0.03mと僅かに低くなるほかはほぼ水平であり、勾配率も算出できなかった。

遺物 本溝からの遺物の出土は見られなかった。

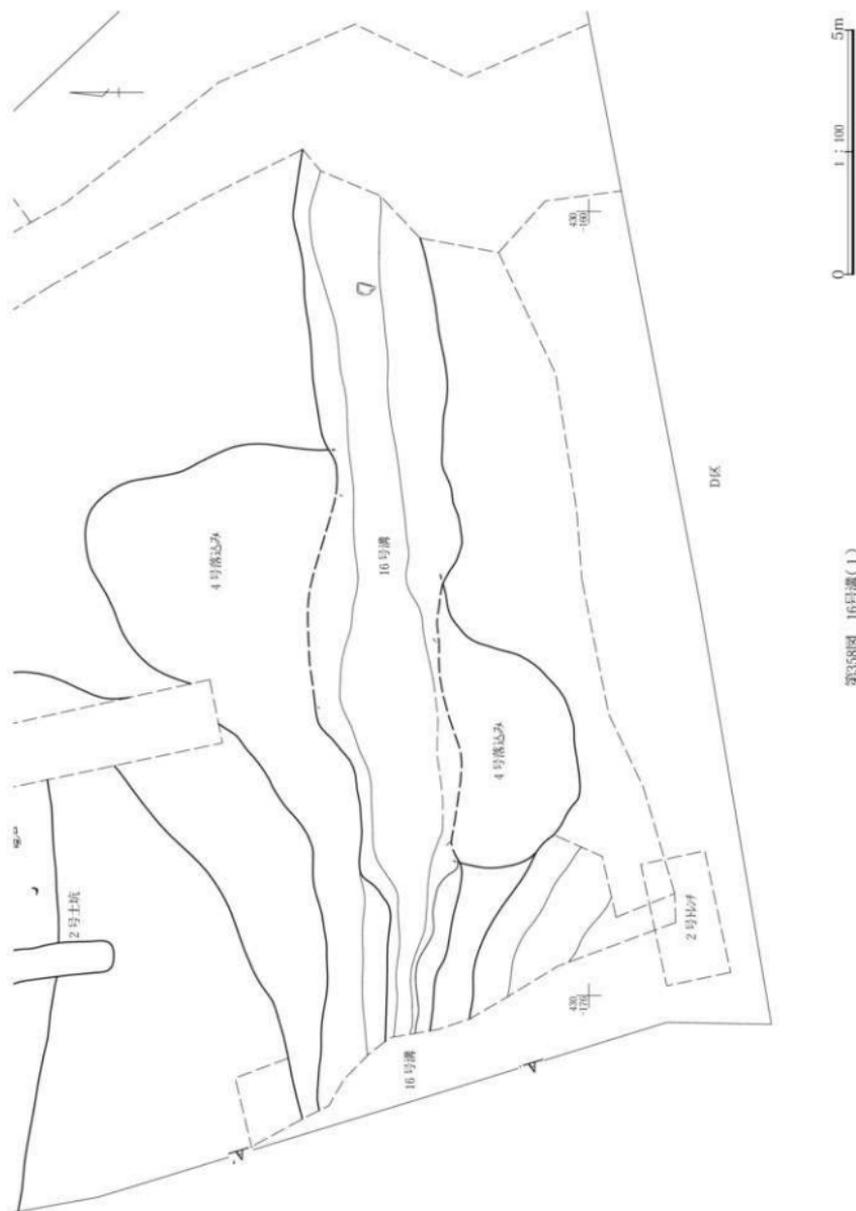
所見 上述のように本溝は東西両側が調査区外に在るた

め、全容は確認できなかった。

本溝の時期は、重複する4号落込みの時期から、中世の所産と認識される。

また流水の痕跡が見られることから、本溝は水路であったものと想定される。

なお、1～4層と5層との比較から、本溝はやや溝幅を減じて掘り直された可能性が考慮される。

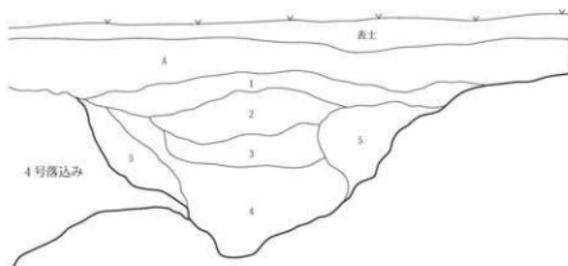


第358図 16号溝(1)

16号溝

A. 1-217.0m

A'



16号溝

- A にぶい黄褐色土(10YR4/3)：粘性やや弱、しまりやや強、細砂・粗砂・小礫・黄色粒子多量混じる
 1 褐色土(10YR4/4)：微砂主体、粘性弱、しまりやや弱、細砂・粗砂、層状に混じる
 2 褐色土(10YR4/4)：粗砂主体、粘性極弱、しまりやや弱、微砂・細砂、層状に混じる
 3 にぶい黄褐色土(10YR4/3)：粗砂・小礫主体、粘性極弱、しまりやや強、細砂、層状に混じる
 4 にぶい黄褐色土(10YR4/3)：粗砂・小礫主体、粘性極弱、しまり弱
 5 暗褐色土(10YR3/4)：粘性弱、しまりやや強、細砂多量混じる

0 1 ; 50 1m

第359図 16号溝(2)

3 落込み

4号落込み(第360・361図、PL.140)

概要 本落込みは西側が調査区外に出るものと見られるため、全容の把握はできなかった。また重複する16号溝と一括掘削されたため、特に西部で形態の把握が困難であった。

位置 本落込みはD区南西隅部に在り、430～440-164～178グリッドに位置する。

重複 本落込みは16号溝と重複するが、本落込みの方が古い。

規模 長さ：(25.29)m 幅：(14.96)m 深さ：2.22m

埋土 本落込みの最下層にはAs-Bの純層の堆積が見られ

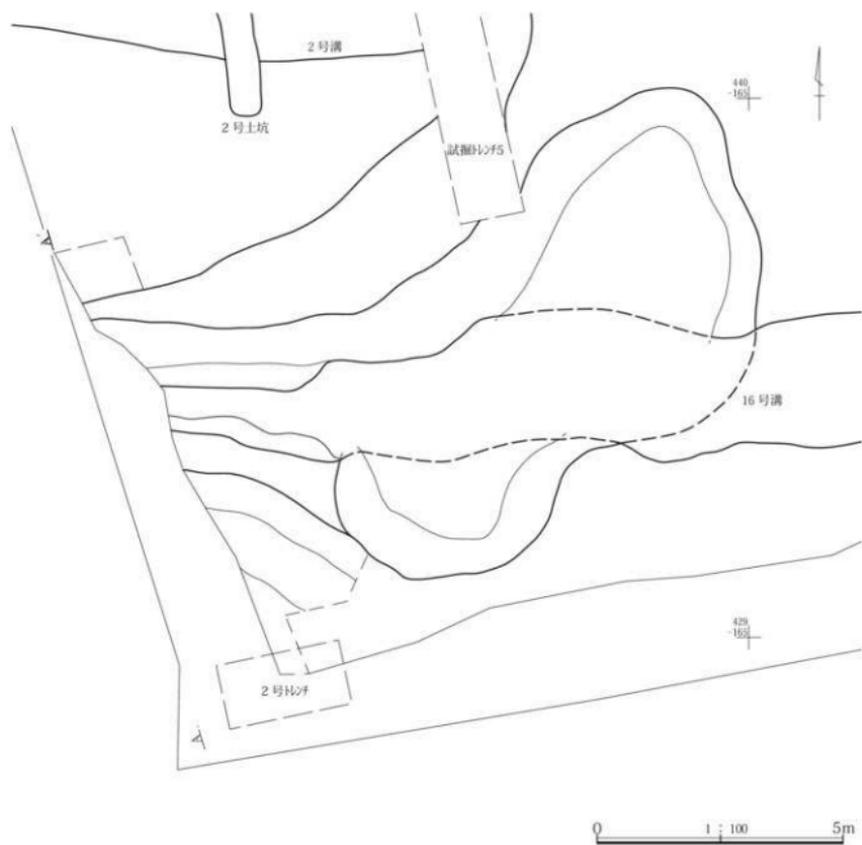
る。その上には細砂・粗砂を含む暗褐色土やにぶい黄褐色土等が堆積する。

構造 本落込みは湾曲した線上に乗る、複数の膨らみを有する落花生の線上のプランを呈し、壁面の開きは弱く、底面は平底状を呈する。

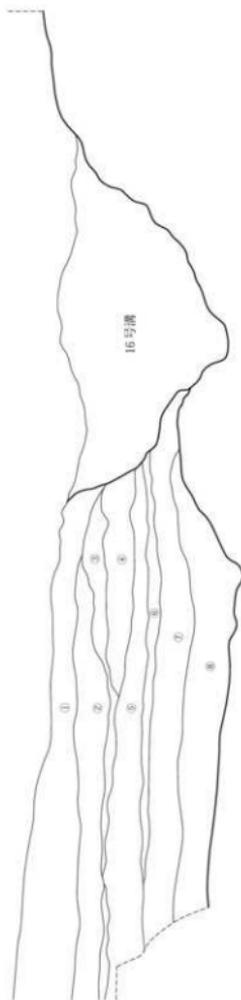
遺物 本落込みからの遺物の出土はなかった。

所見 上述のように、本落込みは西側が調査区外に出るため全容は詳らかでない。本落込みの時期は底面に堆積するAs-Bから推して、掘削時期は古代末で、およそ中世にかけて埋没していったものと思量される。

本落込みの掘削意図は把握できなかったが、埋土から水の流入のあったことが窺われ、溜池のような機能を有していたものと推定される。



第360図 4号落込み(1)



4号落込み

- ① 暗褐色土(10YR3/7)：粘性やや強、しまりやや強、粗砂・小礫・黄色粘土少量混じる
 ② 暗褐色土(10YR3/4)：粘性やや強、しまりやや強、粗砂・黄色軽石・暗砂質土・ロック少量混じる
 ③ だいぶ黄褐色土(10YR4/7)：粘性弱、しまりやや弱、粗砂・粗砂・小礫混入
 ④ 暗褐色土(10YR3/4)：粘性やや強、しまりやや強、粗砂・粗砂・小礫少量混じる
 ⑤ 暗褐色土(10YR3/3)：粘性、しまりやや強、粗砂・粗砂中量、酸化鉄分少量混じる
 ⑥ だいぶ黄褐色土(10YR4/7)：粘性弱、しまりやや強、酸化鉄分中量、粗砂・粗砂・粗砂一部層状に混じる
 ⑦ 黒褐色土(10YR3/2)：粘性・しまりやや強、酸化鉄分多量、白色粘土(As-B)の中量混じる
 ⑧ だいぶ黄褐色土(10YR4/7)：As-B弱層、粘性極弱、しまり弱、一部黒褐色粘質土を層状に混じる

0 1 50 100
m

第361図 4号落込み(2)

第5節 3面で発見された遺構と遺物

1 溝

9号溝(第362～364図、PL.141)

概要 本溝は流水の痕跡が見られる中小規模の溝である。東西両側が調査区外に出ており、全容は確認されなかった。

位置 B区中部に在り、526～538-168～185グリッドに位置する。

重複 本溝は単独で在り、他の遺構との重複は見られなかった。

規模 長さ：(22.49)m 幅：0.18～3.28m
深さ：0.07～0.43m

埋土 微砂・粗砂・小礫主体または多く含む褐色土やにぶい黄褐色土等で埋没する。調査区中ほどの土層断面の上位層にAs-Aやや多く含むにぶい黄褐色土がある。

構造 本溝は北西方向から調査区に入り、蛇行して走行し、南東方向に抜けている。

本溝の掘削形態は箱型を呈し、底面の横断面形は丸底を呈するが、流水による凹凸が見られる。本溝は西端では北側で幅員1.36m、南側で幅員1.27mを測る2条に分かれており、西壁から南東方向に2.52mで合流する。以東徐々に細くなる。本溝の全体的走行の方向はN59°Wを向く。

本溝の底面は西高東低で、勾配率は2.27%、傾斜角1.3°とほぼ水平である。

遺物 本溝からは土師器片2片、須恵器片1片が出土している。

所見 本溝は上述のように、東西両側は調査区外に出るため全容は詳らかでない。

本溝は3面での確認であったが、本溝の上位層にAs-Aが入ることから、近世中期以前の所産と判断される。

また本溝は流水の痕跡が見られることから、本溝は水路であったものと思量される。

10号溝(第362～364図、PL.141)

概要 本溝は中規模の溝である。東西両側が調査区外に出るため、全容は確認されなかった。

位置 本溝はB区中部から南部北東端に在り、516～

533-168～187グリッドに位置する。

重複 本溝は13号溝と重複するが、新旧関係あるいは併存の可能性の有無を特定することはできなかった。

規模 長さ：(26.56)m 幅：0.24～1.26m
深さ：0.04～0.55m

埋土 細砂・粗砂・小礫等主体の層とにぶい黄褐色粘質土の互層で埋没する。

構造 本溝は調査区に北西方向から入り、南東方向に抜けている。本溝の走行は極く弱く蛇行するもので、走行の方向はN50°Wを向く。

掘削形態は葉研堀様で、横断面形は緩やかなV字形を呈するが、部分的に流水による凹凸が見られる。

本溝の底面は西高東低であり、勾配率は0.90%でほぼ水平である。

また本溝の形態の観察により、本溝は一回以上の掘り直しがあり、本来の溝の幅員は0.35～0.80mほどと認識される。

遺物 本溝からは土師器片2片、須恵器片1片が出土している。

所見 上述のように、東西両側は調査区外に出るため全容は詳らかでない。

本溝の時期は特定できなかった。しかし用途については、埋土に流水の痕跡が認められたため、水路として使用されたものと思量される。

11号溝(第362～364図、PL.141)

概要 本溝は小規模の溝である。北側はトレンチで壊され、南側は調査区境付近で確認できなくなっており、遺存状態も良くない。

位置 本溝はB区中部南西寄りに在り、520～526-184～186グリッドに位置する。

重複 本溝は単独で在り、他の遺構との重複は見られなかった。

規模 長さ：(5.56)m 幅：0.23～0.54m
深さ：0.01～0.06m

埋土 細砂・粗砂・軽石主体の褐色土と細砂・粗砂少量含む暗褐色シルト質土で埋没する。

構造 遺存状態が良くないため、明確にはできないが、本溝は箱型で平底状の掘削形態を呈する。

本溝の走行は極く弱い蛇行を見せるが、走行の方向は

N10° Wを向く。

本溝の底面は北高南低であり、勾配率は1.98%でほぼ水平である。

遺物 本溝からの遺物の出土はなかった。

所見 上述のように、本溝の全容は確認できず、本溝の時期も特定できなかった。

なお埋土に流水の痕跡が認められることから、本溝は水路として使用されたものと思される。

12号溝(第362～364図、PL.141)

概要 本溝は11号溝の西側5m程の位置を並走してある小規模の溝である。南北両側が調査区外に出ており、全容は確認できなかった。

位置 本溝はB区中部の南西隅部、調査区西壁がクランク状になる箇所に在り、521～527-189～190グリッドに位置する。

重複 本溝は単独で在り、他の遺構との重複は見られなかった。

規模 長さ：(6.06)m 幅：0.48～0.66m
深さ：0.08～0.12m

埋土 微砂・細砂主体の褐色土で埋没する。

構造 本溝は北から調査区西壁から入り、調査区の南壁から南方向に抜ける。

本溝の掘削形態は箱型状であるが、底面の横断面形は丸底状を呈する。

本溝の走行は蛇行を見せるが、全体的な走行の方向はN1° Wを向く。

本溝の底面は北高南低であり、勾配率は1.55%で、ほぼ水平である。

遺物 本溝からの遺物の出土はなかった。

所見 上述のように、本溝は南北両側が調査区外に出るため、全容は確認できなかった。

本溝の時期は特定できなかったが、埋土に流水の痕跡が認められることから、本溝は水路として使用されたものと認識される。

13号溝(第362～364図、PL.141)

概要 本溝は小規模の溝である。西側は調査区外に出ており、北側は10号溝に接して、以北では確認できなかった。遺存状態はあまり良くない。

位置 本溝はB区南部北西から中部南端部中央にかけて在り、516～521-175～184グリッドに位置する。

重複 本溝は北端で10号溝と重複するが、新旧関係や併存の可否を特定することはできなかった。

規模 長さ：(10.75)m 幅：0.28～1.04m
深さ：0.01～0.11m

埋土 本溝は細砂・粗砂主体の暗褐色土で埋没する。

構造 本溝は西側でN64° W方向から調査区に入り、2.5m付近で反時計回りに転回し、極く緩やかな弧を描いて走行し、N45° E方向を向いて10号溝に達する。

本溝の掘削形態は箱型状であり、底面は平底を呈するが、水流による凹凸が見られる。また東部(北東-南西走行部分)の東側には、長さ3.95m、幅1.00mで溝底面より0.06m高い、半月形のプランの段状の広がりを伴う。

本溝の底面は北高南低であり、勾配率は0.74%で、ほぼ水平である。

遺物 本溝からの遺物の出土はなかった。

所見 上述のように、本溝は西側が調査区外に出るため、全容は確認できなかった。

本溝の時期は特定できなかったが、埋土の状態から流水の痕跡が認められるため、本溝は水路として使用されたものと認識される。なお半月形プランの段状の構造は自然的なものか人為的なものかの判断はつかないが、溜水または溢水の受け皿等に供した可能性が考えられる。

なお、底面の高低差から10号溝から分水していた可能性も考えられる。

14号溝(第365図、PL.141)

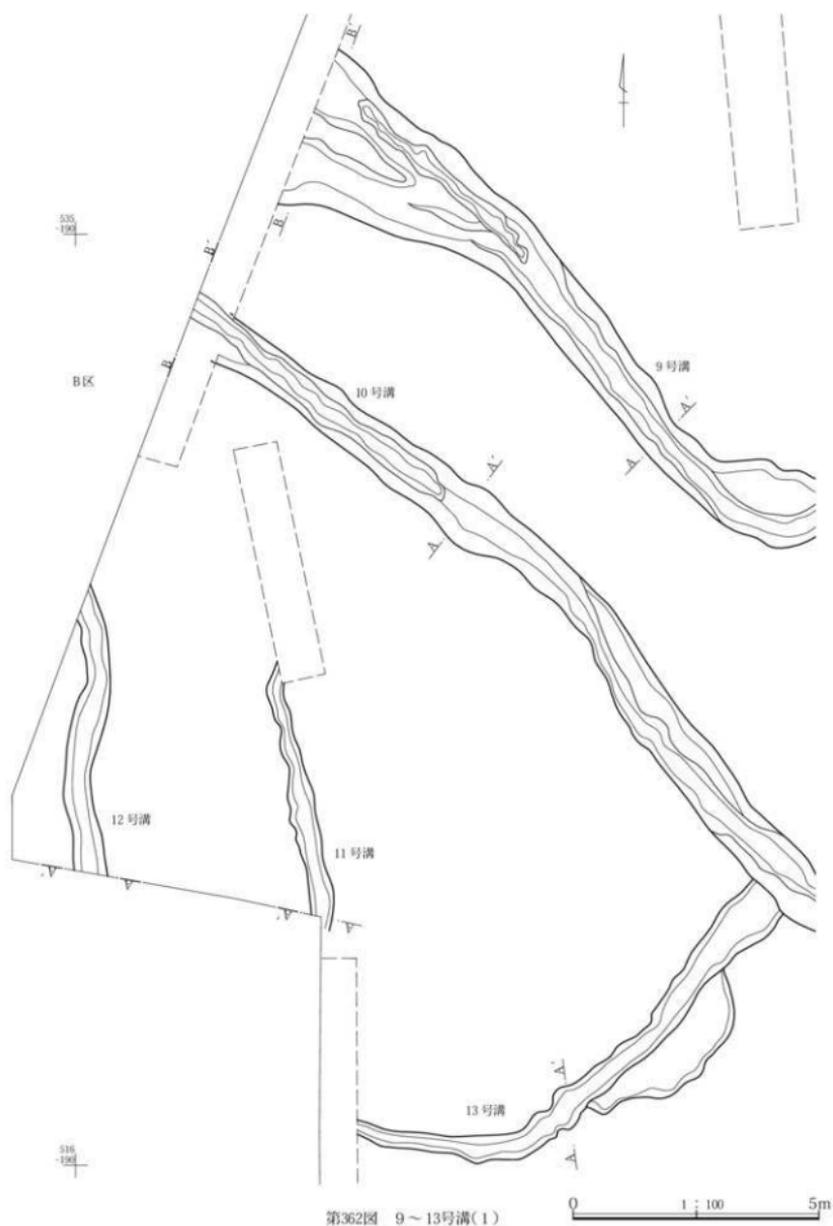
概要 本溝は極く一部を調査できたに過ぎないが、残存部の状態から大型の溝と推定される。

位置 本溝はC区南端に在り、458～459-180～184グリッドに位置する。

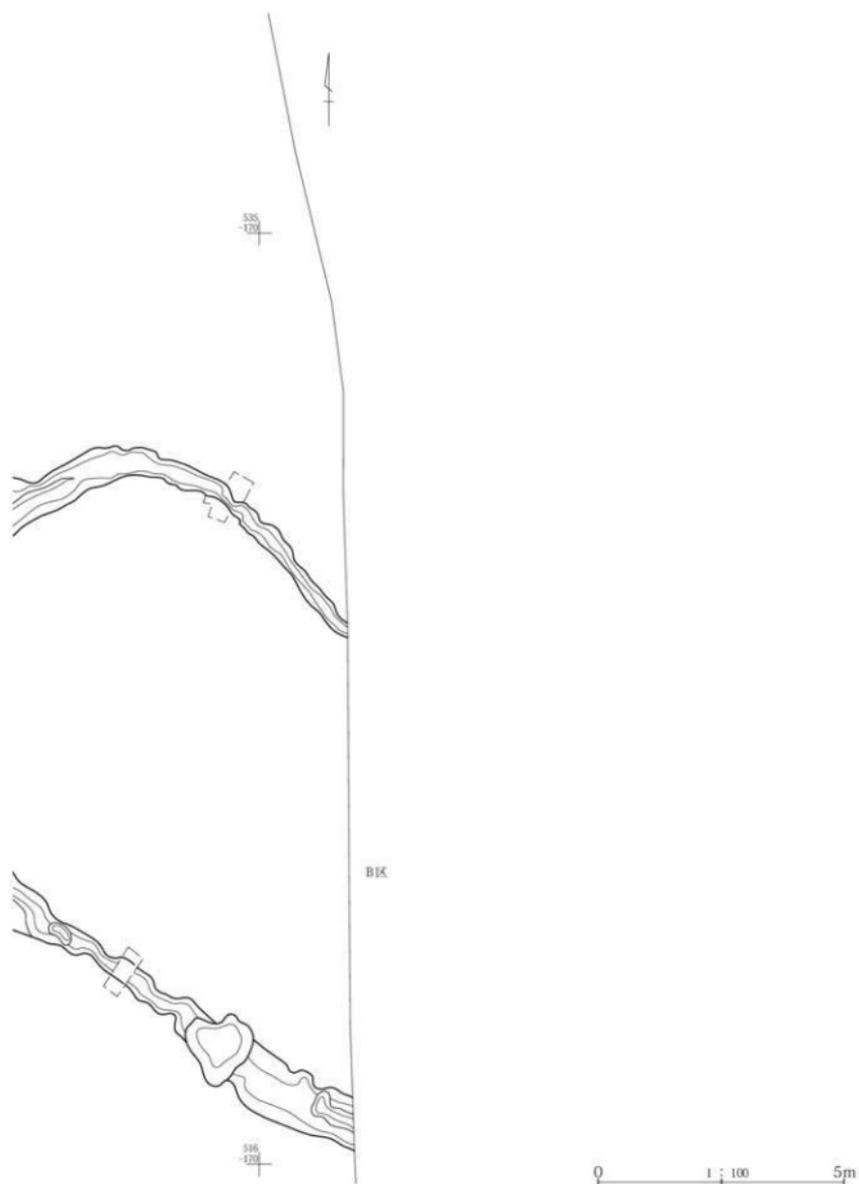
重複 本溝は単独で在り、他の遺構との重複関係は見られなかった。

規模 長さ：(3.86)m 幅：-m
深さ：0.55～0.60m

埋土 本溝の上位層は共に粘性やや強い褐色土と暗褐色シルト質土、下位層の上位は粘性やや強く細砂を層状に含む暗褐色シルト質土、下位は細砂・粗砂・小礫主体のふい黄褐色土で埋没する。



第362図 9~13号溝(1)



第363図 9～13号溝(2)

第4章 蚊沼大神分遺跡

9号溝



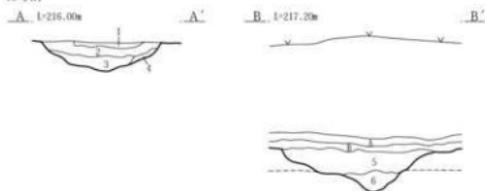
9号溝A-A'

- 1 にぶい黄褐色土(10YR4/3):粘性やや弱、しまりやや強。As-Aかやや多く混じる
- 2 灰黄褐色粘質土(10YR4/2):粘性強、しまりやや強。白色粒子微量混じる
- 3 にぶい黄褐色土(10YR4/3):粗砂層。粘性弱、しまりやや弱

9号溝B-B'

- 3 褐色土(10YR4/4):粗砂層。粘性弱、しまりやや弱
- 4 褐色土(10YR4/4):細砂・粗砂・小礫主体。粘性極弱、しまりやや弱
- 5 褐色土(10YR4/4):微砂層。粘性弱、しまり弱。シルト質土を層状に中量混じる

10号溝



10号溝

- 1 褐色土(10YR4/4):細砂・粗砂・小礫主体。粘性極弱、しまりやや強
 - 2 にぶい黄褐色土(10YR4/3):粘質土層。粘性強、しまりやや強。砂層大~中ブロック中量混じる
 - 3 褐色土(10YR4/6):細砂・粗砂層。粘性極弱、しまりやや弱
 - 4 にぶい黄褐色土(10YR4/3):粘質土層。粘性強、しまりやや強。酸化鉄分中量混じる
 - 5 褐色シルト質土(10YR4/4):粘性・しまりやや弱。微砂・粗砂を層状に混じる
 - 6 にぶい黄褐色土(10YR4/3):粗砂主体。粘性・しまりやや弱。シルト質土を層状に中量混じる
- A 暗褐色土(10YR3/4):微砂質土層。粘性やや弱、しまりやや強。粗砂・細砂・黄色軽石中量混じる
B 黒褐色土(10YR3/2):粘質土層。粘性強、しまりやや強。酸化鉄分少量混じる

11号溝

A 1:216.00m A'



11号溝

- 1 褐色土(10YR4/4):細砂・粗砂・黄色軽石主体。粘性弱、しまりやや強
- A 暗褐色シルト質土(10YR3/4):粘性やや強、しまりやや弱。細砂・粗砂、層状、ブロック状に少量混じる

12号溝

A 1:216.20m A'



12号溝

- 1 褐色土(10YR4/4):微砂・細砂主体。粘性弱、しまりやや弱。粗砂・黄色軽石少量混じる
- A 暗褐色シルト質土(10YR3/4):粘性やや強、しまりやや弱。細砂・粗砂、層状、ブロック状に少量混じる
- B にぶい黄褐色粘質土(10YR4/3):粘性強、しまりやや弱。細砂・微砂微量混じる

13号溝

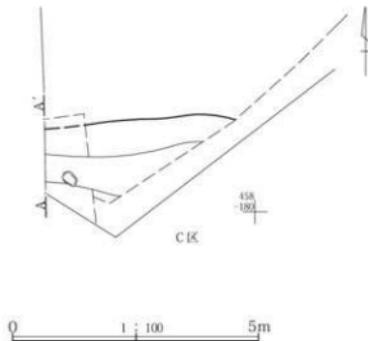
A 1:216.00m A'



13号溝

- 1 暗褐色土(10YR3/4):細砂・粗砂主体。粘性弱、しまり強。褐色粘質土小ブロック少量混じる

0 1:50 1m



14号溝

A 1-236.00m

A'



0 1 : 50 1m

14号溝

- ① 褐色土(10YR4/4)；粘性・しまりやや強。白色軽石微量、酸化鉄分少量混じる
 ② 暗褐色シルト質土(10YR3/4)；粘性・しまりやや強。微砂。層状に少量混じる
 ③ 暗褐色シルト質土(10YR3/4)；粘性やや強。しまりやや弱。細砂質土を層状に中量混じる
 ④ にぶい黄褐色土(10YR4/3)；細砂・粗砂・小礫主体。粘性極弱。しまりやや弱

第365図 14号溝

構造 本溝は北壁と底部の一部を確認できたに過ぎず、全容は詳らかでないが、走行の方向はN89°Wを向く。

本溝の掘削形態は箱状であり、底面は平底を呈する。本溝の底面は西高東低と見られるが、勾配率は算出できなかった。

遺物 本溝からの遺物の出土は見られなかった。

所見 上述のように、本溝はその一部を調査したに過ぎなかった。

本溝の時期は特定できなかった。

なお、埋土から流水の痕跡が認められるため、本溝は水路として使用されたものと認識される。

2 その他の遺構

1号増状遺構(第366・367図、PL.141)

概要 本遺構は、増状に盛り上げられた大型の遺構である。なお本遺構は東側は調査区外に出ていて、全容は把握できなかった。

位置 本遺構はB区南部からC区北部の東寄りに在り、487～508-168～178グリッドに位置する。本遺構以北は平坦であり、南側は傾斜角6°程の斜面となっていて、本遺構は平坦部の際に設置されている。

重複 本遺構は単独で在り、他の遺構との重複関係は見

られなかった。

規模 長さ：(21.45)m 幅：(8.20)m 高さ：1.16m

盛土 本遺構は基盤層である粘性やや弱く粗砂・小礫多く含むにぶい黄褐色土と南側の斜面に堆積する粘性やや強く細砂・粗砂多量に含む暗褐色土の上に構築される。盛土の下半は粘性の強いにぶい黄褐色シルト質土や黒褐色粘質土や細砂・粗砂主体のにぶい黄褐色土、最上層には細砂・粗砂主体の褐色土が盛られている。

構造 上述のように本遺構は東部が調査区外に出るため、全容は把握できないが、調査範囲から推して、本遺構のプランは隅丸方形様を呈するものと判断される。壁面は現状で30°ほどの傾斜角で依存している。

遺物 本遺構からは土師器片1片の遺物の出土が見られた。

所見 上述のように本遺構は、東側が調査区外に出るため全容を把握することができなかった。

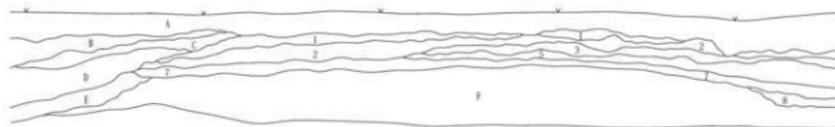
本遺構の時期は特定できなかった。また本遺構は増状の遺構であるが、明確な構築、使用目的は特定できなかった。

なお、各盛土層は層厚0.04～0.22mと薄い。またいずれもしまりがやや強いかわいたため、或いは版築様のでん圧の施工がなされていた可能性がある。

1号墳状遺構

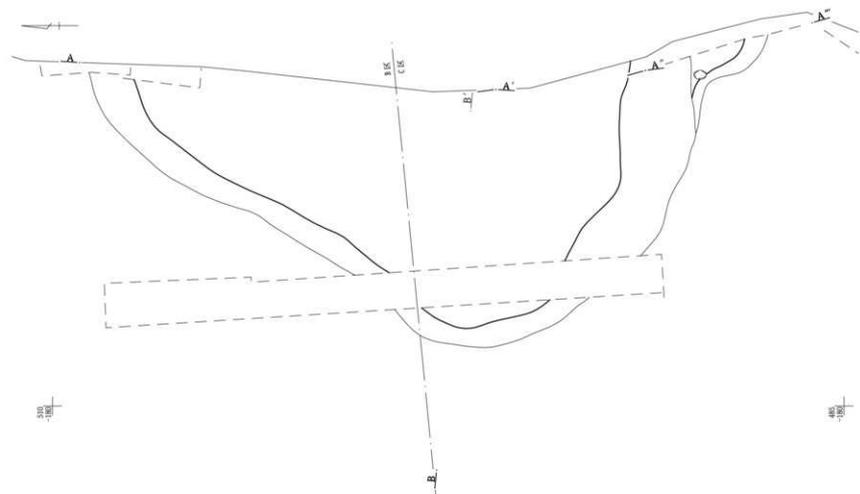
- 1 褐色土(10YR4/4)：細砂・粗砂主体。粘性弱、しまり強。
- 2 にぶい黄褐色シルト質土(10YR5/3)：粘性やや弱、しまりやや強。細砂・粗砂少量混じる。
- 3 にぶい黄褐色土(10YR4/3)：細砂・粗砂主体。粘性弱、しまり強。小礫多量混じる。
- 4 にぶい黄褐色微砂質土(10YR5/4)：粘性やや弱、しまりやや強。細砂少量混じる。
- 5 にぶい黄褐色シルト質土(10YR5/3)：粘性・しまりやや強。酸化鉄分少量、微砂一部層状に混じる。
- 6 黒褐色粘質土(10YR2/1)：粘性・しまり強。白色粒子微量混じる。
- 7 黒褐色土(10YR2/1)：粘性やや弱、しまり強。白色軽石やや多く混じる。
- 8 褐色粘質土(7.5YR4/3)：粘性・しまり強。上部に暗褐色土一部混じる。
- A 表土
- B 暗褐色粘質土(10YR3/4)：粘性強、しまりやや強。細砂・粗砂微量混じる。
- C 褐色土(10YR4/4)：粘性やや弱、しまり強。細砂・粗砂・酸化鉄分少量混じる。
- D 暗褐色粘質土(10YR3/3)：粘性・しまり強。細砂微量、酸化鉄分中量混じる。
- E 暗褐色土(10YR3/4)：粘性やや強、しまり強。細砂・粗砂多量、酸化鉄分中量混じる。
- E' 暗褐色土(10YR3/4)：粘性やや強、しまり強。細砂・粗砂中量、酸化鉄分多量混じる。
- F にぶい黄褐色土(10YR4/3)：粘性やや弱、しまりやや強。粗砂・小礫やや多く混じる。
- G 灰黄褐色シルト質土(10YR5/2)：粘性・しまりやや強。酸化鉄分多量混じる。

A 1-217.00m

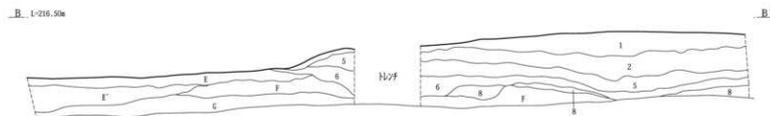
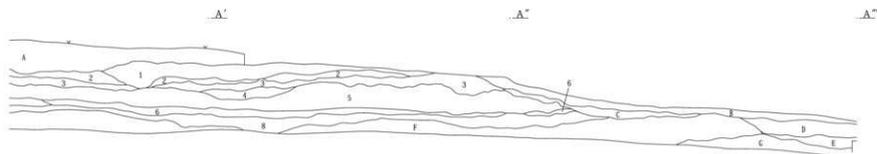


0 1 : 60 2m

第366図 1号墳状遺構(1)



0 1 : 120 4 m



0 1 : 60 2 m

第 367 图 1 号墩状遗構 (2)

3 3面の遺構外の遺物

(1)古墳時代から平安時代の遺構外の遺物(第368図、PL.142)

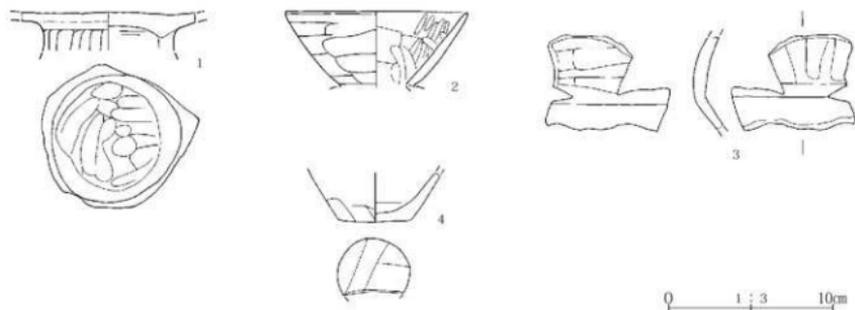
3面の遺構外出土の古墳時代から平安時代の遺物には、土師器の高杯(1)・埴(2)・小型甕(3)および甕(4)の出土が見られた。このほか土師器片11片の出土があった。

(2)縄文時代の遺構外の遺物(第369図、PL.142)

3面からの縄文時代の遺構外出土の遺物には縄文土器深鉢片2片(1・2)があった。

4 面不詳の遺構外の遺物

面不詳の遺構外の遺物として、土師器片46片と須恵器片5片の出土があった。



第368図 3面遺構外出土遺物



第369図 縄文時代遺構外出土遺物

第5章 自然科学分析

第1節 自然科学分析の委託

1 自然科学分析資料

南蛇井北原田遺跡からは、穀物粒、種子殻片、石製品に付着した顔料様の物質、およびヒトと判断されるものを含む骨が出土していた。これらについては自然科学分析を実施することとした。

科学分析に付した資料は、種子同定では、7世紀前半のA区5号竪穴建物の土師器裏2点から出土した穀物粒33点、6世紀後半のB1区47号竪穴建物から種殻片1点、縄文時代中期のA区26号土坑から出土したモモとみられる種殻片3点であり、付着物の分析に付した資料は、6世紀の所産と見られるA区1号竪穴建物出土の叢石・磨石・こも編み石である石製品(3)の付着物、そしてA区6号土坑出土の北頭位西向横臥屈葬によるおおよそ中世のものと思われる1体分の人骨である。

2 自然科学分析の目的

(1) 種子同定

出土した穀物粒と種子等への種子同定は、それぞれの種を特定するため実施したものである。

(2) 石製品の付着物

1号竪穴建物出土の石製品(叢石・磨石・こも編み石)(3)の付着物は、顔料等の磨り潰し行為によるものと想定したが、その磨り潰された物質の何たるかを確認するために、科学分析を実施した。

(3) 出土人骨の鑑定

6号土坑出土人骨については形態人類学的検討を行い、鑑定要件は、年齢・性別・病歴などを明らかにすることとした。

3 自然科学分析の委託

種子同定は当事業団内で実施するには知見が不足して

いと認識されたため、外部委託することが適当と判断した。

石製品付着物の分析も、当事業団内で実施するには知見が不足し、機材を保有しないため、分析が行えないことから外部委託することが適当と判断した。

出土人骨の鑑定も、当事業団内で実施には知見が不足しているため、外部委託することが適当と判断した。

4 委託の成果

委託の報告書は、本章、第2・3・4節に掲載したが、以下にその概要を記す。

(1) 種子同定の成果

樹種同定に付した3件のうち、2件は調査担当の想定と異なり、1件は種子でないことが確認された。

同定に付したもののうち、5号竪穴建物出土の裏2点から出土した穀粒はコムギと同定された。26号土坑出土種子の種殻片3点はクリとトチノキと同定された。また47号竪穴建物の種子と想定したものは種子ではないと同定された。

(2) 石製品付着物の分析

1号竪穴建物出土の石製品(3)の付着物を分析した結果、主にマンガン鉱物由来のものという所見を得た。

(3) 人骨の鑑定

6号土坑出土人骨は、1体ではなく、ヒトの成人骨(以下「A」とする)とヒトの遊離歯(以下「B」)のみの2体分があった。このうちAは歯牙の咬耗状態から成人年齢に達しており、歯牙の計測値と大腿骨の印象から女性骨の可能性が考慮された。またBは歯牙の咬耗状態から若年程度と見られたが、性別は特定できなかった。

また26号竪穴建物の竪出土の骨片3点と27号竪穴建物出土の骨片についても鑑定が実施され、その結果、26号竪穴建物出土骨はヒトか獣かの別と部位は特定できなかった。また27号竪穴建物出土骨は種不詳の獣の四肢骨と判定された。

第2節 南蛇井北原田遺跡から

出土した炭化種実

1. はじめに

群馬県富岡市中沢・南蛇井地内に所在する南蛇井北原田遺跡は、縄文時代と古墳時代～平安時代の複合遺跡である。ここでは、縄文時代中期の土坑、6世紀後半と7世紀前半の竪穴建物から出土した炭化種実の同定結果を報告し、当時の利用植物の一端について検討した。

2. 試料と方法

試料は、水洗選別後に抽出済みの4試料で、縄文時代中期の26号土坑から1試料、6世紀後半の47号竪穴建物から1試料、7世紀前半の5号竪穴建物から2試料の、計4試料である。

炭化種実の同定・計数は肉眼および実体顕微鏡下で行い、写真撮影は実体顕微鏡で行った。計数の方法は、完形または一部が破損していても1個体とみなせるものは完形として数え、1個体に満たないものは破片とした。同定された試料は、公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団に保管されている。

3. 結果

同定した結果、木本植物では広葉樹のクリ炭化子葉とトチノキ炭化子葉の2分類群、草本植物ではコムギ炭化種子(穎果)の1分類群のみ、計3分類群が得られた。また、炭化材もみられたが、同定の対象外とした(表1)。

以下に、出土した炭化種実の産出傾向を時期ごと、遺

構別に記載する。

[縄文時代中期]

26号土坑：クリとトチノキがわずかに得られた。

[6世紀後半]

47号竪穴建物(カマド掘方)：同定可能な炭化種実は得られなかった。

[7世紀前半]

5号竪穴建物(No.3(掲載番号5)土師器小型甕の中、No.4(掲載番号2)土師器甕の中)：少量のコムギが得られた。

次に、得られた分類群の記載を行い、図版1に写真を示して同定の根拠とする。なお、分類群の学名は米倉・梶田(2003-)に準拠する。

(1)クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc. 炭化子葉 プナ科

完形ならば側面観は広卵形で、表面に縦方向のしわ状の溝がある。しわ以外の面は平坦でやや光沢があり、硬質。残存高10.6mm、残存幅9.0mm(図版1-1)、残存高10.1mm、残存幅6.8mm(図版1-2)。

(2)トチノキ *Aesculus turbinata* Blume 炭化子葉 ムクロジ科

完形ならば球形に近いとされる。表面に皺や筋などは見られず、平滑。破片は不定形に割れる。残存高8.5mm、残存幅6.8mm。

(3)コムギ *Triticum aestivum* L. 炭化種子(穎果) イネ科

上面観および側面観は楕円形。腹面中央部には上下に走る1本の溝がある。背面の下端中央部には扇形の胚がある。長さ3.8mm、幅2.6mm、厚さ2.4mm。

表1 南蛇井北原田遺跡から出土した炭化種実(括弧内は破片数)

分類群	部位/時期	地区	
		A区	B1区
		遺構	
	取り上げ番号	5号竪穴建物	26号土坑、47号竪穴建物
		No.3の中 (土師器小型甕)	No.4の中 (土師器甕) - カマド掘方
		7世紀前半	縄文中期、6世紀後半
クリ	炭化子葉		(2)
トチノキ	炭化子葉		(1)
コムギ	炭化種子(穎果)	11 (1)	12 (4)
不明	炭化材	(+)	(+)
備考			種実なし

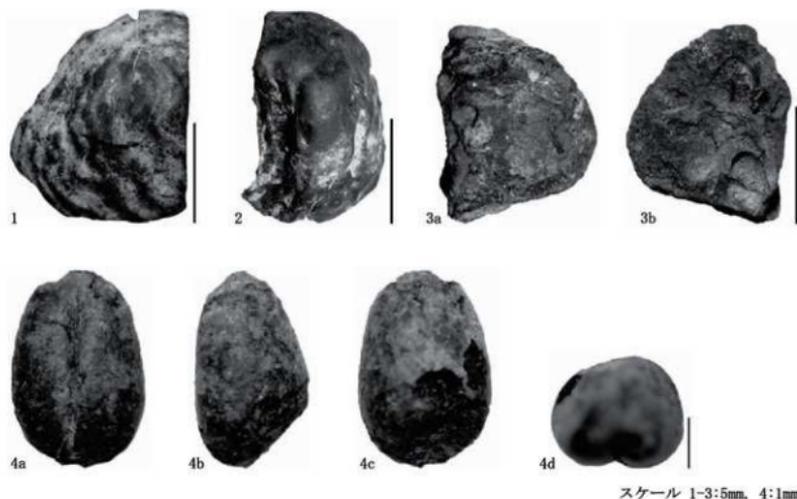
+:1-9

4. 考察

縄文時代中期の26号土坑からは、野生植物で食用として利用可能な堅果類のクリとトチノキが得られた。検出されたのは食用となる子葉の部分であり、調理中や保管時などに何らかの理由で炭化し、土坑に堆積した可能性がある。なお、トチノキは食するにあたってアク抜きが必要である。

7世紀前半の5号竪穴建物のNo.3（掲載番号5）土師器小型甕とNo.4（掲載番号2）土師器甕の中からは、栽培植物のコムギが得られており、土師器甕に保管されていた可能性がある。炭化しているため、調理中の火や火災などによって炭化した可能性が考えられる。

引用文献
 米倉浩司・梶田 忠(2003-) BC Plants 和名-学名インデックス (YList), <http://ylist.info>



図版1 南蛇井北原田遺跡から出土した炭化種実

1、2. クリ炭化子葉（26号土坑）、3. トチノキ炭化子葉（26号土坑）、4. コムギ炭化種子（顕果）（5号竪穴建物、No.4の中）

第3節 南蛇井北原田遺跡出土磨石 に付着する黒色物の分析

1. はじめに

富岡市中沢・南蛇井地内に所在する南蛇井北原田遺跡より出土した磨石に付着した顔料様の黒色物について、蛍光X線分析を行い、その材質を検討した。

2. 試料と方法

分析対象は、1号竪穴建物跡より出土した磨石に付着した黒色物である。時期は6世紀で、磨石は叢石、こも編み石兼用とみられている。黒色物は、実体顕微鏡下でデザインナイフを使用して微量採取し、セロハンテープに貼り付け、分析試料とした。試料採取位置を図版1に示す。

分析装置は、エネルギー分散型蛍光X線分析装置である株式会社堀場製作所製分析顕微鏡XGT-9000を使用した。装置の仕様は、X線管が最大50kV、1000 μ Aのロジ

ウムターゲット、キャビラリ径が100 μ mまたは15 μ m、検出器はSDD検出器で、検出可能元素は、炭素(C)～アメリカシウム(Am)である。

本分析での測定条件は、50kV、1000 μ A、キャビラリ径15 μ m、測定時間100sに設定した。定量分析は、標準試料を用いないファンダメンタル・パラメータ法(FP法)による半定量分析を装置付属ソフトで行った。

3. 結果

分析により得られたスペクトルおよびFP法による半定量分析の結果を図1に示す。

分析の結果、主にケイ素(Si)、アルミニウム(Al)、マンガン(Mn)、鉄(Fe)が主に検出され、ほかにナトリウム(Na)、マグネシウム(Mg)、リン(P)、硫黄(S)、カリウム(K)、カルシウム(Ca)、チタン(Ti)が検出された。

分析の結果、ケイ素、アルミニウム、鉄とともに、マンガンの多量の含有が認められた。磨石に付着する顔料様の黒色物は、主にマンガン鉱物由来と考えられる。

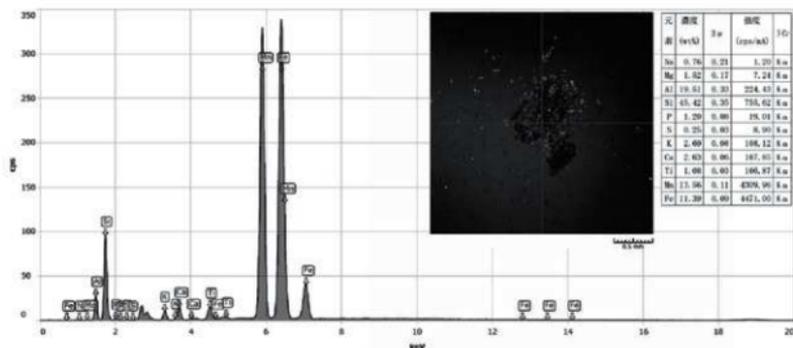


図1 磨石付着黒色物の蛍光X線分析結果



図版1 分析対象となる磨石と付着黒色物の試料採取位置

第4節 南蛇井北原田遺跡から

出土した骨の人類学的報告

1. はじめに

群馬県富岡市に所在する南蛇井北原田遺跡の2020年発掘調査において、中世の墓塚と考えられるA区6号土坑より人骨が、また古墳時代に相当する同区26号竪穴建物(カマド)および27号竪穴建物より骨片が出土した。本稿はそれらの人類学的報告である。

2. 方法

年齢は、歯の形成・萌出状況(Smith, 1991; Ubelaker, 1999)に基づいて推定した。年齢段階の表記は、乳児(0~1歳)、幼児(1~6歳)、小児(6~14歳)、若年(15~19歳)、壮年(20~39歳)、熟年(40~59歳)、老年(60歳以上)とした。壮年以降の詳細な区分が困難な個体については、成人段階として一括した。性別は、Buikstra and Ubelaker (1994)に基づいて判断した。

歯の計測は藤田(1949)に準拠した。歯の咬耗度はMolnar (1971)の8段階の分類、齶蝕はWHO (2013)、エナメル質減形成の有無は山本(1988)の基準にそれぞれ従った。

3 4						2 3 3 3 4 2						
M2 M1						I2 C P1 P2 M1 M2						
M2	M1	P2	P1	C	I1	I1	I2	C	P1	P2	M1	M2
2	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	5	2

齶蝕は検出された歯のすべてに認められなかった。エナメル質減形成は残存歯21本中16本に認められた(76.2%)。

【年齢】上下顎左右第2大臼歯の萌出が完了していることから、少なくとも12歳以上である。さらに、上下顎左右第1大臼歯の咬耗度が4~5度と象牙質の露出が進行していることから、成人段階には達していたと考えられる。

【性別】性別の推定に有効な部位が遺存していないが、同

同定できた歯は次の通り歯式に表記した(1:切歯, C:犬歯, P:小臼歯, M:大臼歯, 数字:同一歯種内での順位)。歯式の水平線は上下顎の境界, 垂直線は左右の境界を表し, 向かって左側が個体の右側に対応する。歯種の上下にMolnar (1971)の咬耗度を示した。齶蝕を認めた歯は網掛けにし, エナメル質減形成を認めた歯は外枠で囲んだ。

3. 骨所見

(1) A区6号土坑(表1, 写真図版1-A・B)

【出土状況】出土状況図から、人骨は土坑の長軸方向の南北に沿って北側から頭骨、上肢骨、下肢骨を配置する状態で出土している。1個体分の埋葬と考えられるが、当該個体と重複する歯が遊離歯として土坑の東隅から検出されており、これらの歯は別個体のものと思われる。以下、主たる埋葬個体を6号土坑-A、別個体を6号土坑-Bと記載する。

①6号土坑-A

【遺存状況】遺存状態は不良である。骨の細片化が著しく、頭骨片、四肢骨片が多数残存する。上下顎骨片、歯、左右不明の橈骨骨幹部片、左右不明の大腿骨骨幹部片が確認される。同定できた歯は以下の歯式の通りである。すべて植立した状態である。

定できたすべての歯の歯冠計測値が近遠径と唇・頬舌径ともに、江戸時代人男性の平均値(長岡・平田, 2003)よりも小さい。また、大腿骨骨幹部も華奢な印象を受ける。以上より、本個体は女性の可能性が高い。

②6号土坑-B

【遺存状況】歯のみ遺存する。同定できた歯は以下の歯式の通りである。すべて遊離歯である。

2	2 2 2 2 2												
P2	<table style="display: inline-table; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">C</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">P1</td> <td style="padding: 2px;">P2</td> <td style="padding: 2px;">M1</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">M2</td> </tr> </table>	C	P1	P2	M1	M2							
C	P1	P2	M1	M2									
<table style="display: inline-table; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">M2</td> <td style="padding: 2px;">M1</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">2</td> <td style="padding: 2px;">2</td> </tr> </table>	M2	M1	2	2	<table style="display: inline-table; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">I1</td> <td style="padding: 2px;">P2</td> <td style="padding: 2px;">M1</td> <td style="padding: 2px;">M2</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">2</td> <td style="padding: 2px;">2</td> <td style="padding: 2px;">2</td> <td style="padding: 2px;">2</td> </tr> </table>	I1	P2	M1	M2	2	2	2	2
M2	M1												
2	2												
I1	P2	M1	M2										
2	2	2	2										

齧蝕は検出されたすべての歯に認められなかった。エナメル質減形成は残存歯12本中5本に認められた(41.7%)。

【年齢】上顎左第2大臼歯および下顎左右第2大臼歯の萌出が完了していることから、少なくとも12歳以上である。また、残存する歯の咬耗度はすべて2度で象牙質の露出はみられず、下顎右中切歯には切縁結節が認められる。以上より、本個体は若年程度と思われる。

【性別】同定できた歯冠計測値は、江戸時代人男性の平均値(長岡・平田, 2003)と比べて歯種によって大きさが異なる。性別を明確に判断できる部位も遺存していないため、性別は不明である。

(2) A区26号竪穴建物(カマド) (写真図版1-C)

【遺存状況】僅かな骨片が3点のみ残存する(乾燥重量約0.1g)。人骨であるか獣骨であるかの判断、および部位の同定は困難である。

(3) A区27号竪穴建物(写真図版1-C)

【遺存状況】獣骨と思われる四肢骨片が1点のみ残存する(乾燥重量約2.4g)。

4. まとめ

群馬県富岡市南蛇井北原田遺跡の2020年発掘調査において、中世の墓塚と考えられるA区6号土坑より、成人段階の女性と思われる個体と若年程度の性別不明の個体の少なくとも2個体の人骨が出土した。また、古墳時代に相当するA区26号竪穴建物(カマド)からは人骨または獣骨の骨片、同区27号竪穴建物からは獣骨と思われる四肢骨片が出土した。

中世に相当するA区6号土坑から出土した2個体について、いずれもすべての歯に齧蝕が認められなかった(2

個体:計33本)。中・近世人骨の齧蝕率(齧蝕数/総歯数)について、佐倉(1964)は、鎌倉時代人は5.5% (鎌倉材木座:147本/2669本)、室町時代人は14.6% (東京丸の内:80本/548本)、江戸時代人は19.2% (東京深川雲光院:123本/638本)、および20.3% (同浄心寺:108本/530本)と報告している。すべて関東地方から出土した人骨であるが、時代が下るにつれて齧蝕率は増加している。

これに対して、群馬県内における中・近世人骨の齧蝕率は、上ノ平1遺跡6.4% (9本/140本)(橋崎, 2008)、石川原遺跡(2) 0.7% (2本/263本)(奈良・佐伯, 2020)、吉ヶ谷津遺跡5.2% (10本/189本)(奈良ほか, 2021; 新倉ほか, 2022)のように、全体的に低い傾向を示す。北牧大境遺跡(4個体:計82本)と横壁中村遺跡(14)(10個体:計35本)では本遺跡同様、すべての個体の歯に齧蝕が認められないことが報告されている(橋崎, 2004, 2014)。同じ関東地方でも群馬県内における齧蝕率はどのような時代的変遷を辿るのか、食生活環境などの地域差を考える上でも、今後さらなる資料の増加を待ちたい。

謝辞

本遺跡出土人骨の整理作業にあたり、以下の新潟医療福祉大学学生の協力を得た。記して深謝の意を表したい。菊地栄太郎、栗川桃華、黒崎凜、小泉亮馬、宮川遥愛(五十音順)

表1 永久歯の歯冠計測値(mm)

	6号土坑-A 成人・女性?				6号土坑-B 若年・不明				江戸時代人平均値 ¹			
	右		左		右		左		男性			
	近遠心径	唇・頬舌径	近遠心径	唇・頬舌径	近遠心径	唇・頬舌径	近遠心径	唇・頬舌径	n	近遠心径	n	唇・頬舌径
上顎	I1	—	—	—	—	—	—	—	59	8.52	53	7.37
	I2	—	—	6.41	6.67	—	—	—	66	7.14	62	6.69
	C	—	—	7.90	6.80	—	—	7.74	84	7.91	74	8.66
	P1	—	—	6.96	9.03	—	—	7.30	94	7.35	94	9.69
	P2	—	—	6.15	9.25	6.90	9.31	6.89	104	6.93	106	9.63
	M1	10.46	11.22	10.51	11.24	—	—	10.72	115	10.79	118	11.85
	M2	9.49	10.89	9.63	10.48	—	—	9.75	105	10.06	104	11.91
M3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
下顎	I1	5.43	×	5.41	×	5.15	5.61	—	47	5.45	38	5.94
	I2	—	—	5.73	6.18	—	—	—	71	6.09	59	6.38
	C	6.62	6.77	6.74	7.21	—	—	—	95	7.05	80	8.14
	P1	6.24	7.33	6.31	7.36	—	—	—	104	7.16	97	8.23
	P2	6.54	8.20	6.62	8.18	—	—	7.39	99	7.25	99	8.58
	M1	11.11	10.87	11.07	10.89	11.54	11.16	11.57	108	11.58	112	11.18
	M2	10.88	9.89	10.86	10.16	11.73	10.37	11.40	97	11.21	97	10.75
M3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	

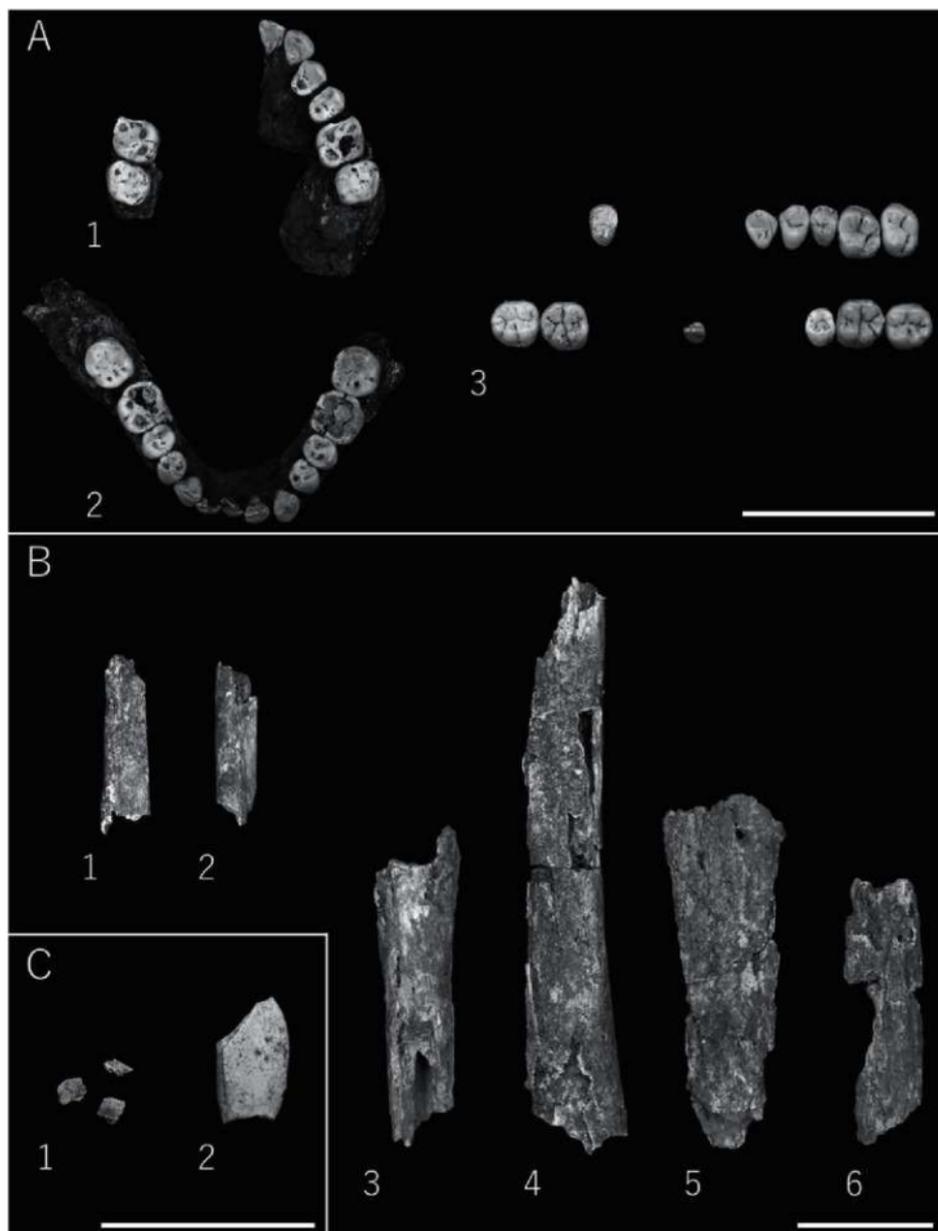
—: 該当歯種なし。×: エナメル質の破損のため計測不可。

¹ 長岡・平田(2003)

引用文献

- Bulkstra J.E. and Ubelaker D.H. (1994) Standards for data collection from human skeletal remains. Arkansas Archaeological Survey Research Series, 44, Fayetteville, Arkansas.
- 藤田恒太郎(1949)歯の計測基準について。人類学雑誌, 61: 27-31.
- Molnar S. (1971) Human tooth wear, tooth function and cultural variability. American Journal of Physical Anthropology, 34: 175-190.
- 長岡朋人・平田和明(2003)江戸時代人の歯冠サイズの地理的変異。Anthropological Science (Japanese Series), 111: 143-154.
- 梶崎修一郎(2004)北牧大塚遺跡出土人骨。群馬県埋蔵文化財調査事業団編, 北牧大塚遺跡, 群馬県埋蔵文化財調査事業団, 北碓村, pp. 208-222.
- 梶崎修一郎(2008)上ノ平1遺跡出土人骨。群馬県埋蔵文化財調査事業団編, 上ノ平1遺跡(1), 群馬県埋蔵文化財調査事業団, 渋川, pp. 151-180.
- 梶崎修一郎(2014)横塚中村遺跡出土人骨。群馬県埋蔵文化財調査事業団編, 横塚中村遺跡(14), 群馬県埋蔵文化財調査事業団, 渋川, pp. 291-302.
- 奈良貴史・佐伯史子(2020)石川原遺跡出土人骨の人類学的研究。群馬県埋蔵文化財調査事業団編, 石川原遺跡(2), 群馬県埋蔵文化財調査事業団, 渋川, pp. 499-506.

- 奈良貴史・佐伯史子・鈴木敏彦・波田野悠夏(2021)吉ヶ谷津遺跡出土の人骨について。群馬県埋蔵文化財調査事業団編, 吉ヶ谷津遺跡(安中市0201遺跡), 群馬県埋蔵文化財調査事業団, 渋川, pp. 130-135.
- 新倉明彦・奈良貴史・佐伯史子・辰巳見司(2022)安中市吉ヶ谷津遺跡近世墓出土人骨の人類学的検討。群馬県埋蔵文化財調査事業団研究紀要, 40: 129-140.
- 佐倉朝(1964)日本人における齶歯傾度の時代的推移。人類学雑誌, 71: 21-45.
- Smith B.H. (1991) Standards of human tooth formation and dental age assessment. In: Kelly R.A. and Larsen C.S. (eds.), Advances in Dental Anthropology. Wiley-Liss, New York, pp. 143-168.
- Ubelaker D.H. (1999) Human Skeletal Remains, 3rd edition. Taraxacum, Washington DC.
- WHO (World Health Organization) (2013) Oral Health Surveys: Basic Methods, 5th edition. Geneva.
- 山本美代子(1988)日本人古骨永久歯のエナメル質形成。人類学雑誌, 96: 417-433.



写真図版1 A: A区6号土坑 1(6号土坑-A)上顎の歯, 2(6号土坑-A)下顎の歯, 3(6号土坑-B)上・下顎の歯, B: A区6号土坑 1・2(6号土坑-A)橈骨骨幹部片(左右不明), 3~6(6号土坑-A)大腿骨骨幹部片(左右不明), C: 1(A区26号竪穴建物(カマド))骨片, 2(A区27号竪穴建物)獣骨の四肢骨片
スケールバーは5cm.

第6章 まとめ

第1節 古墳時代以降の遺構

1 概要

繰り返しになるが、本書に報告した遺跡は群馬県富岡市南蛇井と中沢に所在し、南側が一級河川中沢川に接する南蛇井北原田遺跡と、同市中沢と蚊沼に所在し、北側が一級河川蚊沼川に接する蚊沼大神分遺跡の2遺跡であった。

このうち南蛇井北原田遺跡は調査面が1面で、縄文時代と古墳時代から平安時代および中世以降の遺構を調査した。縄文時代の埋蔵文化財については第2節に後述するが、弥生時代の溝1条と古墳時代後期から平安時代の竪穴建物94棟、掘立柱建物3棟、土坑9基、ピット85基、溝14条、中世以降の掘立柱建物1棟、ピット89基を調査した。このほか時期の特定できなかつた土坑61基、溝7条があった。

一方、蚊沼大神分遺跡は近世面、中世～古代面、古代面の3面と後2者の間の2.5面の実質4面の遺構面を調査した。このうち1面では土坑1基、溝1条、落込み2カ所、水田状遺構1面を調査し、2面では土坑3基、溝7条とAs-B下水田1面を調査した。2.5面は南のD区のみで確認したもので、土坑1基、溝3条、落込み1カ所を調査した。3面は溝6条と壇状遺構1カ所を調査した。

また、これらの遺構から弥生土器、土師器、須恵器、灰釉陶器、陶磁器片や、叢石、こも編み石、台石等の石製品の出土が見られた他、南蛇井北原田遺跡5号竪穴建物出土土からは、小麦の出土があった。

2 竪穴建物の分布の変遷

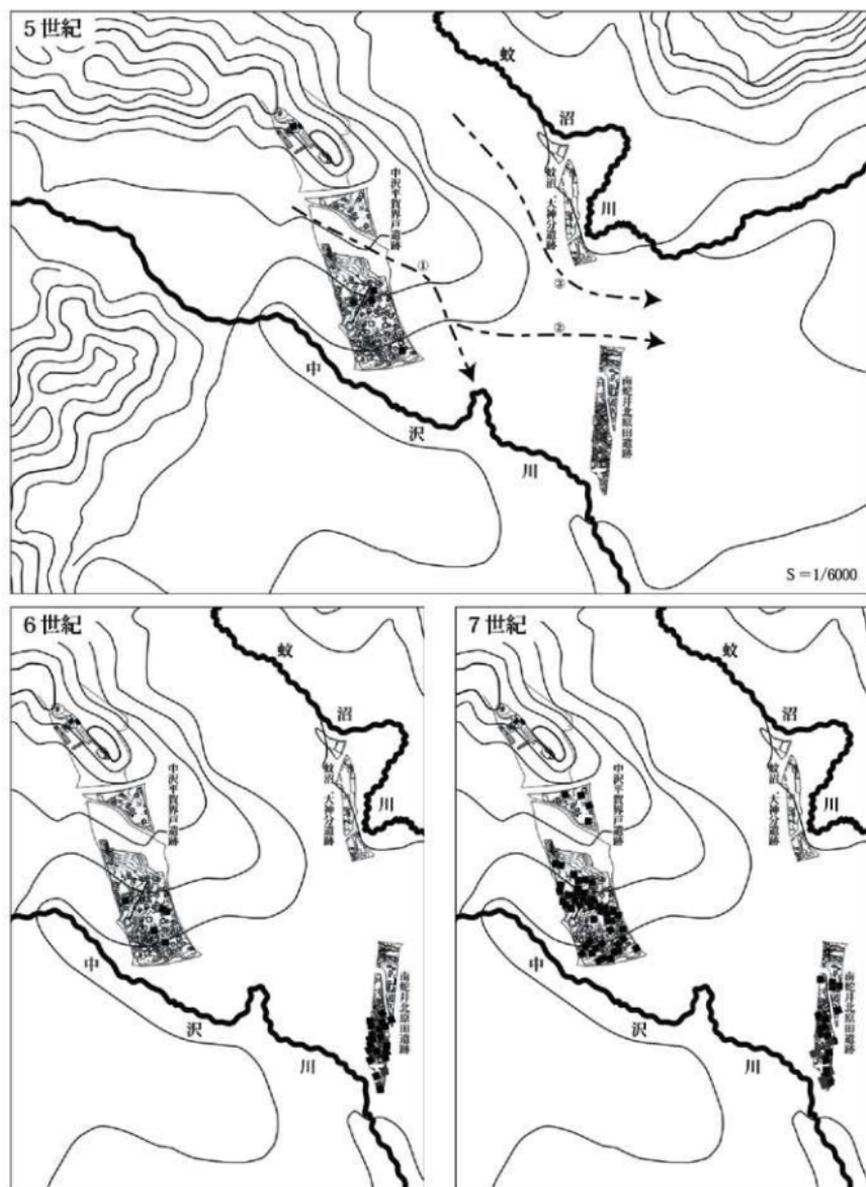
本書に報告した2遺跡のうち北側の蚊沼大神分遺跡では竪穴建物は確認できなかつたが、南側の南蛇井北原田遺跡からは94棟の竪穴建物を発見、調査した。このうち10棟の時期は特定できなかつたが、6世紀の所産と考えられる竪穴建物が22棟、6・7世紀が3棟、7世紀が21棟、7・8世紀が3棟、8世紀が21棟と、9世紀が6棟、9・

10世紀が1棟、10世紀5棟、11世紀が2棟を数えた。全体としては南蛇井北原田遺跡では4・5世紀の竪穴建物は確認できず、6世紀に20棟以上が現れて、6～8世紀はおおむね同量の竪穴建物が確認されていたが、10・11世紀は減少する傾向にある。

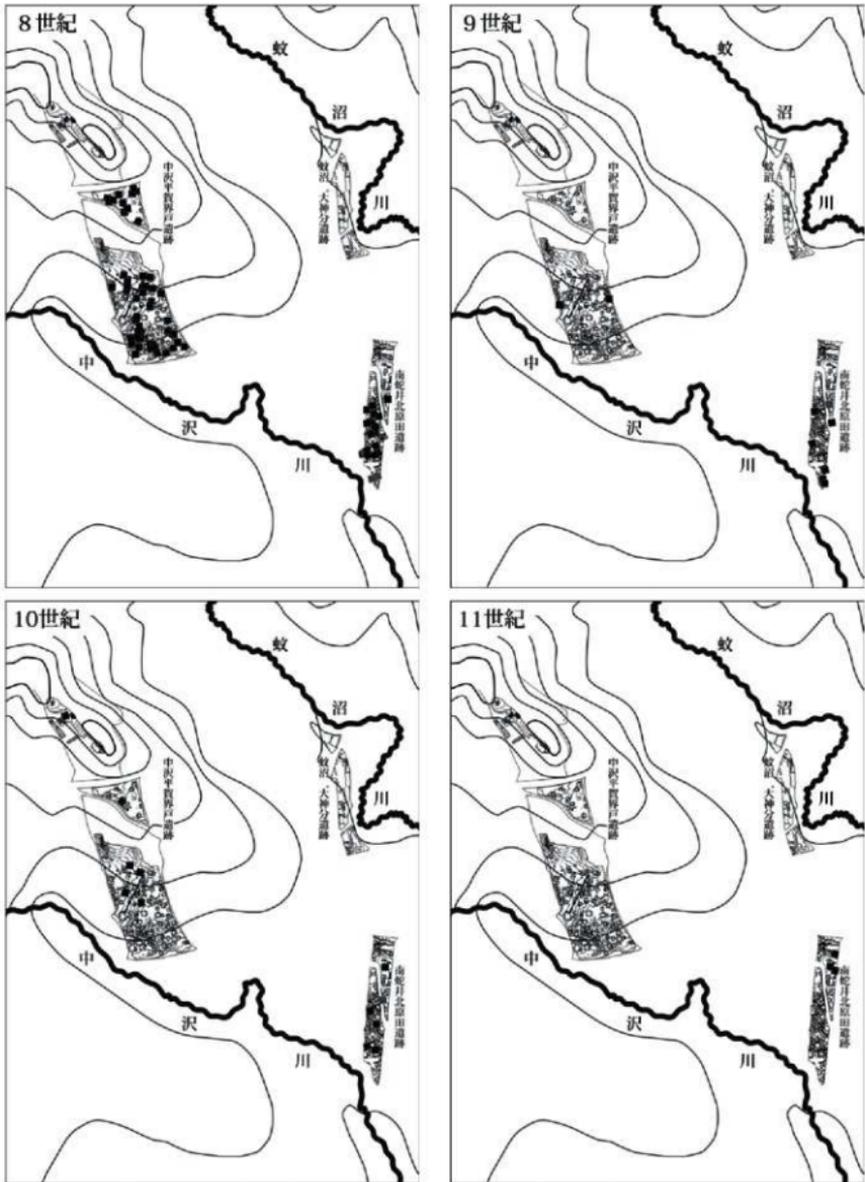
さて、南蛇井北原田遺跡、蚊沼大神分遺跡と同様に蚊沼川と中沢川に挟まれた地域に所在する遺跡として、両遺跡の西側240m付近に調査された中沢平賀界戸遺跡がある。同遺跡は富岡市中沢に所在し、上信越道建設に伴い発掘調査が実施された、縄文時代から近世に至る時期の複合遺跡である。竪穴建物は157棟が発見、調査されたが、このうち縄文時代が9棟、弥生時代(後期)が17棟、古墳時代から平安時代所産のものが128棟、時期不特定のものが3棟であった。このうち古墳時代から平安時代の竪穴建物についてみると、5世紀のものが4棟、6世紀が7棟、7世紀が53棟、8世紀が55棟、9世紀が2棟、10世紀が7棟である。

南蛇井北原田遺跡と中沢平賀界戸遺跡の竪穴建物の分布は、第370・371図に両遺跡と蚊沼大神分遺跡の遺構分布図を掲載した。5～11世紀の各世紀毎の分布図を示した。なお各世紀に該当する竪穴建物は「■」(黒色)で示した。また南蛇井北原田遺跡の竪穴建物で前後の世紀に跨る竪穴建物は灰色の「■」で示した。

上述のように竪穴建物は蚊沼大神分遺跡では確認できなかったものの、南蛇井北原田遺跡と中沢平賀界戸遺跡では発見されている。その分布は5世紀の図に示したように、蚊沼川・中沢川間の地域の概ね南半部の地域に限られるが、その地域の中でも中沢平賀界戸遺跡のG区とH区の間幅30mほどの東西に伸びる範囲に遺構の空隙があり、また南蛇井北原田遺跡と蚊沼大神分遺跡の間も試掘調査で約100m幅で遺構が無いことが確認されている。南蛇井北原田遺跡の北端(C3区)には溝が略東西に走ることから推して、東西の遺構の空隙は流水の影響により生じたものである可能性が考えられる。なお、中沢平賀界戸遺跡の遺構空隙範囲を生じさせた流水(第370図5世紀①)と南蛇井北原田遺跡と蚊沼大神分遺跡の間の



第370図 南蛇井北原田遺跡と中沢平賀界戸遺跡の竪穴建物の変遷(5～7世紀)



第371図 南蛇井北原田遺跡と中沢平賀界戸遺跡の竪穴建物の変遷(8～11世紀)

遺構空隙範囲の南寄りとは同じ流水(同②)による空隙と思量され、北寄りは蚊沼川沿いの流水によるもの(同③)である可能性が考えられる。竪穴建物の分布は上述のようにこれらの流水の影響により、竪穴建物は蚊沼川・中沢川間の地域の概ね南半部、空隙範囲を除いた区域に在り、中沢平賀界戸遺跡では北側の丘陵沿いにまで分布していることが分かる。

南蛇井北原田遺跡と中沢平賀界戸遺跡の両遺跡では4世紀の竪穴建物は確認されなかったが、5世紀の竪穴建物は中沢平賀界戸遺跡で4棟が分布しており、南蛇井北原田遺跡での分布は確認されなかった。6世紀になると中沢平賀界戸遺跡で7棟の分布が見られたが、南蛇井北原田遺跡ではその南半部に22棟の分布が集中し、6世紀の分布域付近に集落の中心があったことが窺われた。7世紀に入ると竪穴建物の棟数は中沢平賀界戸遺跡では53棟と前世紀の7.6倍に増加し、南蛇井北原田遺跡では前世紀と同様の21棟であり、竪穴建物の分布域は中沢平賀界戸遺跡の丘陵部と遺構空隙区域を除く両遺跡の調査区全域に広がり、その分布密度も近似している。8世紀の竪穴建物の棟数は中沢平賀界戸遺跡で55棟、南蛇井北原田遺跡で21棟と前世紀と近似しており、その分布は南蛇井北原田遺跡では調査区南半部に収束するものの、分布密度は7世紀と似たような状態であった。しかし9世紀に入ると竪穴建物の棟数は中沢平賀界戸遺跡では2棟、南蛇井北原田遺跡では6棟と激減する。その分布域は中沢平賀界戸遺跡では遺構空隙域の南側北半部に偏り、南蛇井北原田遺跡では前世紀と同じく調査区南半部に限られる。10世紀では竪穴建物の棟数は中沢平賀界戸遺跡では7棟、南蛇井北原田遺跡では5棟であり、その分布域は中沢平賀界戸遺跡では調査区南部を除き北側丘陵上まで広がり、南蛇井北原田遺跡では北端部を除く調査区全域に広がる。しかし11世紀に入ると中沢平賀界戸遺跡では竪穴建物の分布は見られなくなり、南蛇井北原田遺跡でもその確認棟数は僅か2棟で、その分布域は北端部の溝群の南に限定されている。

蚊沼川と中沢川という並走する2本の河川に挟まれた区域のうち東部域について、竪穴建物の分布の変遷を見てきた。南蛇井北原田遺跡と中沢平賀界戸遺跡という東西に並ぶ、南北に掘削された2本のトレンチのような区域での所見を元にした検討に過ぎず、全容を把握したも

ではなかったが、この区域では5世紀から11世紀にかけての竪穴建物が確認された。その分布域は区域の南半部に限られたが、4世紀の竪穴建物は確認されなかった。その後、5世紀に西側の中沢平賀界戸遺跡に分布が見られたが、6世紀に入るとその分布は南蛇井北原田遺跡にまで広がり、南蛇井北原田遺跡では確認棟数も増える。そして付近の竪穴建物の棟数は7世紀、8世紀にピークを迎え、その分布密度も濃密になる。しかし9世紀に入ると棟数は減少して、分布も粗となり、11世紀に入ると西側の中沢平賀界戸遺跡では分布が見られなくなり、東側の南蛇井北原田遺跡では僅か2棟が調査区北東部に残るだけで、12世紀の竪穴建物は見られなくなる。

【参考文献】

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(1996)『中沢平賀界戸遺跡』

第2節 縄文時代の遺構と遺物

南蛇井北原田遺跡では、縄文時代前期前半の岡山式及び中期前半の阿玉台式から後期前半の堀之内1式までの土器が出土し、石器は打製石斧を中心に、石鏃、磨製石斧、磨石などの出土が認められたが、いずれも出土量は少量であった。分布は中沢川添いのA区からB1区で、多くは後代の竪穴建物や溝に混入した状態で確認された。縄文時代の遺構も土坑数基と遺物集中1カ所の確認に留まっており、中沢川左岸の小規模集落の一部だと考えられる。

第3表 南蛇井北原田遺跡 遺構一覽表

1. 型穴建物

番号	区	X座標	Y座標	主軸	前後(m)	左右(m)	深さ(m)	床面積(m ²)	備考
1	A	150~155	-136~-140	N-82°-E	4.47	(2.99)	0.39	(9.80)	6世紀
2	A	156~158	-139~-141	N-73°-E	1.94	2.35	0.31	3.66	7世紀後半
3	A	155~160	-135~-139	N-69°-E	3.15	4.10	0.14	(11.11)	7世紀第4四半期
4	A	156~159	-134~-136	N-88°-E	3.43	(1.44)	0.07	(3.17)	9世紀
5	A	159~162	-134~-136	N-66°-E	2.52	(2.64)	0.35	(4.32)	7世紀前半
6	A	162~165	-141~-143	N-76°-E	(1.49)	3.30	0.17	(4.09)	7~8世紀
7	A	161~164	-135~-139	N-87°-W	(2.87)	(3.97)	0.11	(8.51)	9世紀
8	A	162~165	-133~-136	N-23°-W	(2.78)	(2.27)	0.10	(4.56)	7世紀後半
9	A	164~168	-133~-138	N-71°-E	2.94	4.82	0.19	(11.96)	7世紀後半~8世紀
10	A	186~189	-131~-134	N-14°-W	2.60	(2.55)	0.14	(5.05)	9世紀後半
11	A	189~193	-131~-135	N-19°-W	3.85	(3.64)	0.34	(10.28)	6世紀後半
12	A	167~171	-141~-144	N-15°-W	3.64	(2.42)	0.07	(7.56)	6世紀後半
13	A	167~170	-136~-140	N-28°-W	3.78	2.61	0.31	8.17	7世紀前半
14	A	171~174	-137~-139	N-23°-W	2.87	2.21	0.15	4.99	—
15	A	174~177	-135~-139	N-85°-E	2.87	3.79	0.22	9.54	7世紀
16	A	172~175	-132~-135	N-78°-E	2.30	(2.80)	0.18	(5.30)	古墳時代後期
17	A	184~191	-134~-142	N-74°-E	6.49	6.64	0.31	35.27	7世紀第3四半期
18	A	185~190	-141~-143	N-26°-W	(4.58)	(1.32)	0.18	(3.58)	7世紀後半
19	A	192~195	-136~-140	N-16°-W	2.97	3.66	0.24	8.68	10世紀後半
20	A	191~194	-136~-140	N-13°-W	3.50	(2.91)	0.21	(8.12)	8世紀
21	A	192~197	-133~-138	N-70°-E	3.54	4.16	0.31	12.65	8世紀後半
22	A	195~198	-133~-137	N-22°-W	3.33	(2.58)	0.11	(4.03)	7世紀後半
23	A	193~194	-131~-132	N-24°-W	(1.65)	(0.86)	0.28	(0.51)	8世紀
24	A	194~200	-130~-135	N-61°-E	5.17	4.83	0.34	(15.63)	7世紀後半
25	A	189~194	-146~-151	N-70°-E	4.06	4.42	0.14	16.26	8世紀前半
26	A	183~193	-145~-153	N-66°-E	7.22	8.50	0.35	(51.70)	6世紀後半
27	A	196~202	-140~-146	N-82°-E	5.54	5.37	0.54	(28.20)	6世紀後半
28	A	196~200	-146~-149	N-13°-W	(2.95)	3.81	0.10	(9.35)	10世紀前半
29	A	195~200	-146~-151	N-75°-E	3.76	5.24	0.22	17.34	10世紀後半・3四半期
30	A	201~206	-135~-141	N-65°-E	3.91	4.56	0.30	(15.64)	8世紀前半
31	A	202~208	-130~-134	N-01°-W	5.88	(4.54)	0.40	(23.21)	6世紀後半
32	A	203~209	-147~-152	N-17°-W	(4.85)	5.14	0.38	(19.68)	6世紀後半
33	A	204~208	-147~-151	N-70°-E	3.57	3.95	0.18	11.95	9世紀第3四半期
34	A	207~211	-131~-135	N-49°-W	3.12	2.90	0.21	8.05	6世紀末~7世紀前半
35	A	211~214	-146~-150	N-18°-W	3.57	3.17	0.24	9.90	6世紀前半
36	A	211~215	-136~-140	N-14°-W	3.53	3.30	0.14	10.48	6世紀後半
37	A	213~217	-138~-141	N-74°-E	2.98	(3.17)	0.16	(6.59)	6世紀後半
38	A	214~218	-133~-138	N-76°-E	3.40	4.29	0.29	12.21	7世紀第4四半期
39	A	209~212	-129~-131	N-66°-E	(2.85)	(2.09)	0.19	(3.31)	7世紀第4四半期
40	A	211~217	-128~-131	N-61°-E	(4.38)	(3.29)	0.47	(7.16)	8世紀前半
41	A	193~200	-146~-152	N-76°-E	6.12	5.13	0.34	26.28	8世紀前半
42	A	191~198	-150~-153	N-35°-W	(5.09)	(4.53)	0.16	(13.42)	7世紀後半または8世紀
43	A	191~196	-151~-153	N-20°-W	(4.37)	(2.08)	0.07	(4.80)	8世紀後半
44	A	198~203	-150~-153	N-52°-E	2.96	(3.54)	0.27	(6.58)	6世紀後半
45	B1	229~232	-147~-150	N-11°-W	(3.61)	3.06	0.28	(8.64)	8世紀前半
46	B1	228~233	-147~-151	N-80°-E	4.02	(3.59)	0.20	(10.96)	6世紀後半
47	B1	227~231	-131~-135	N-81°-E	3.54	(3.14)	0.61	(9.57)	6世紀後半
48	B1	230~237	-134~-140	N-63°-E	5.21	5.24	0.53	23.11	6世紀後半
49	A	212~216	-150~-152	N-62°-E	3.29	(2.84)	0.35	(6.77)	6世紀後半
50	A	215~220	-142~-147	N-68°-E	2.99	4.41	0.33	11.06	8世紀中葉
51	A・B1	215~223	-145~-152	N-87°-E	7.29	6.28	0.53	(40.57)	6世紀後半
52	A・B1	220~224	-136~-139	N-20°-W	2.24	4.22	0.08	7.77	8世紀後半
53	A・B1	219~224	-137~-142	N-71°-E	3.90	4.64	0.46	15.58	8世紀後半
54	B1	223~229	-135~-141	N-68°-E	4.41	4.83	0.23	[18.77]	8世紀前半
55	B1	228~233	-142~-146	N-75°-E	3.07	3.99	0.36	10.26	8世紀前半
56	B1	225~231	-136~-143	N-52°-E	5.37	5.15	0.42	[23.85]	7世紀前半
57	A	217~220	-137~-141	N-77°-E	(2.56)	(4.57)	0.28	(10.19)	8世紀
58	B1	225~227	-144~-146	N-72°-E	1.81	1.81	0.11	2.54	7世紀後半
59	A・B1	222~228	-135~-139	N-04°-W	(4.17)	(4.55)	0.17	(13.45)	8世紀前半以前
60	A	218~221	-135~-138	N-31°-W	2.54	2.39	0.27	(5.13)	—
61	A・B1	216~223	-141~-147	N-60°-E	4.86	5.84	0.30	24.34	7世紀前半
62	B1	223~227	-137~-143	N-25°-W	4.52	(4.58)	0.42	(9.34)	6世紀後半
63	B1	233~236	-149~-151	N-79°-E	3.29	(1.62)	0.11	(4.55)	7世紀後半
64	B1	235~240	-137~-141	N-75°-E	4.00	4.42	0.49	(14.19)	7世紀
65	B1	239~242	-143~-148	N-77°-E	2.10	2.79	0.23	5.10	10世紀前半
66	B1	243~247	-143~-148	N-13°-W	3.32	3.98	0.26	11.77	9世紀第3四半期

南蛇井北原田遺跡 遺構一覽表

番号	区	X座標	Y座標	主軸	前後(m)	左右(m)	深さ(m)	床面積(m ²)	備考
67	B1	242 ~ 246	-138 ~ -143	N-82°-E	3.44	3.96	0.19	11.72	-
68	B1・B2	250 ~ 254	-139 ~ -144	N-82°-E	3.60	4.89	0.47	14.42	8世紀第3四半期
69	B1	240 ~ 244	-138 ~ -142	N-77°-E	2.80	3.68	0.40	8.66	8世紀前半
70	B1	241 ~ 248	-134 ~ -140	N-46°-E	5.14	5.57	0.45	(25.11)	6世紀後半
71	B1	238 ~ 242	-133 ~ -135	N-79°-E	2.87	(1.67)	0.33	(4.15)	8世紀前半
72	B2	259 ~ 262	-147 ~ -149	N-83°-E	2.90	(1.77)	0.31	(3.75)	6世紀後半
73	B1	238 ~ 241	-135 ~ -137	N-80°-E	2.65	(1.55)	0.29	(3.60)	8世紀前半
74	B2	283 ~ 288	-139 ~ -141	N-85°-E	4.67	(2.20)	0.41	(8.56)	-
75	B2	283 ~ 288	-144 ~ -147	N-83°-W	3.79	(2.90)	0.32	(9.46)	7世紀後半
76	C1	258 ~ 262	-123 ~ -125	N-88°-E	3.44	(2.64)	0.30	(8.11)	8世紀後半
77	C1	252 ~ 256	-126 ~ -131	N-08°-W	(2.91)	4.00	0.19	(10.20)	9世紀前半または10世紀
78	C1	247 ~ 250	-123 ~ -125	N-68°-E	2.12	(1.58)	0.17	(2.19)	7世紀前半
79	C1	246 ~ 247	-124	N-70°-E	(1.47)	(0.66)	0.13	(0.43)	7世紀前半以前
80	B1	239 ~ 243	-145 ~ -150	N-20°-W	4.41	3.04	0.41	(11.35)	7世紀前半
81	C1	234 ~ 240	-124 ~ -128	N-70°-E	4.93	(4.43)	0.39	(16.91)	6世紀後半
82	C1	229 ~ 234	-124 ~ -128	N-82°-E	(4.68)	(3.41)	0.30	(12.66)	9世紀第3四半期
83	B1	245 ~ 249	-147 ~ -150	N-88°-E	2.37	3.30	0.41	(6.14)	8世紀前半
84	C2	280 ~ 284	-129 ~ -132	N-88°-W	3.48	3.31	0.46	9.55	7世紀後半
85	C2	274 ~ 277	-129 ~ -132	N-87°-E	3.21	3.57	0.31	9.68	7世紀後半
86	C2	275 ~ 280	-121 ~ -124	N-83°-W	3.96	(3.18)	0.53	(10.45)	7世紀後半
87	C2	286 ~ 291	-120 ~ -124	N-81°-W	4.12	(3.34)	0.42	(11.81)	11世紀
88	C2	292 ~ 296	-126 ~ -129	N-03°-E	3.46	3.77	0.29	11.02	10世紀後半～11世紀
89				欠番					
90	C3	307 ~ 311	-119 ~ -123	N-12°-E	3.10	(3.88)	0.29	(9.68)	11世紀
91	C2	303 ~ 304	-120 ~ -123	N-55°-W	(0.97)	(1.88)	0.18	(1.06)	-
92	C2	303 ~ 304	-119 ~ -120	N-61°-W	(0.62)	(1.67)	0.17	(0.45)	-
93	C2	275 ~ 276	-121 ~ -122	-	-	-	-	-	-
94	C2	274 ~ 279	-128 ~ -133	N-58°-E	3.60	4.03	0.33	11.47	7世紀後半
95	C1	229 ~ 232	-124 ~ -126	N-76°-W	(3.54)	(1.83)	0.20	(4.41)	-

2. 掘立柱建物

番号	区	X座標	Y座標	柱間	桁行	間×梁行間	主軸	桁行(m)	梁行(m)
1	A	153 ~ 156	-135 ~ -136		(1×2)		N-20°-W	1.24	1.22
2	A	195 ~ 200	-145 ~ -150		(1×2)		N-16°-W	1.99	3.41
3	C1	250 ~ 256	-124 ~ -127		(2×3)		N-0°	1.59	2.03
4	A	191 ~ 195	-143 ~ -148		(1×2)		N-20°-W	1.98	2.68

3. 土坑

番号	区	X座標	Y座標	平面形	主軸	長さ(m)	幅(m)	深さ(m)	備考
1	A	168 ~ 169	-134 ~ -135	円形	N-09°-W	1.02	0.95	0.12	-
2	A	169 ~ 170	-143 ~ -144	楕円形	N-64°-E	(1.18)	0.85	0.18	-
3	A	175	-133 ~ -134	楕丸長方形	N-85°-E	0.82	0.67	0.18	-
4	A	179	-135 ~ -136	楕円形	N-80°-E	0.99	0.90	0.44	縄文時代中期
5	A	180	-132 ~ -133	楕円形	N-83°-E	0.78	0.67	0.25	-
6	A	180 ~ 181	-133 ~ -134	楕丸長方形	N-11°-W	1.19	0.65	0.20	-
7	A	182 ~ 183	-134 ~ -135	円形	N-09°-W	0.69	0.64	0.26	-
8	A	183 ~ 184	-132 ~ -133	楕円形	N-86°-E	0.54	0.41	0.28	-
9	A	184 ~ 185	-132 ~ -133	楕円形	N-68°-E	0.54	0.51	0.13	-
10	A	184 ~ 185	-135 ~ -136	楕円形	N-24°-W	0.90	0.54	0.36	-
11	A	175 ~ 178	-146 ~ -148	短冊形	N-52°-W	3.43	0.76	0.09	-
12	A	183 ~ 184	-149 ~ -151	短冊形	N-73°-E	2.96	0.68	0.10	-
13	A	190 ~ 191	-138 ~ -139	楕円形	N-03°-W	(0.47)	0.65	0.32	-
14	A	188 ~ 189	-132	楕丸長方形	N-81°-E	0.71	0.52	0.20	-
15	A	192 ~ 193	-133	-	N-62°-E	0.55	(0.45)	0.23	-
16	A	192 ~ 193	-134 ~ -135	楕丸長方形	N-82°-E	1.32	1.20	0.36	-
17	A	193 ~ 194	-132 ~ -134	楕丸長方形	N-17°-W	1.30	1.08	0.40	-
18	A	188 ~ 190	-134 ~ -135	楕円形	N-32°-W				-
19	A	188 ~ 190	-134 ~ -135	楕丸長方形	N-64°-E	1.56	1.15	0.52	-
20	A	194 ~ 195	-133 ~ -134	楕丸長方形	N-81°-E	0.87	0.72	0.32	-
21	B1	227 ~ 228	-144	不整形	N-36°-E	0.50	0.43	0.20	-
22	A	194	-142 ~ -143	楕丸長方形	N-90°	0.83	0.70	0.20	-
23	A	198 ~ 199	-139	長円形	N-0°	0.89	0.52	0.39	7世紀後半
24	A	199 ~ 200	-135	楕丸長方形	N-08°-W	0.75	0.43	0.20	-
25	A	216 ~ 218	-138 ~ -139	円形	N-0°	1.35	1.29	0.16	-
26	A	211 ~ 213	-132 ~ -134	円形	N-40°-E	2.27	2.18	0.89	縄文時代中期
27	A	218 ~ 219	-135 ~ -136	楕丸短冊形	N-27°-W	(1.23)	0.61	0.24	-
28	A	193 ~ 194	-152 ~ -153	-	N-02°-E	0.98	(0.75)	0.31	-
29				2号掘立柱建物					
30	B1	232	-150	-	-	(0.35)	(0.35)	0.27	-

番号	区	X座標	Y座標	平面形	主軸	長さ(m)	幅(m)	深さ(m)	備考
31	B1	231 ~ 232	-142 ~ -143	円形	N-48° - E	0.90	0.87	0.31	—
32	B1	227 ~ 228	-144 ~ -145	楕円形	N-21° - E	0.66	(0.50)	0.18	—
33	B1	228	-147 ~ -148	楕円形	N-86° - W	0.56	0.52	0.14	縄文時代中期
34	B1	231 ~ 233	-146 ~ -147	楕丸長方形	N-17° - W	1.88	1.30	0.55	縄文時代中期
35	B1	246 ~ 247	-142 ~ -144	楕円形	N-49° - W	1.81	1.29	0.26	—
36	B1	246 ~ 247	-136	楕丸長方形	N-34° - W	0.48	0.46	0.26	—
37	B1	241 ~ 243	-134 ~ -136	楕丸長方形	N-54° - W	1.75	0.99	0.48	—
38					欠番				
39	B1・B2	246 ~ 248	-141 ~ -142	楕丸長方形	N-33° - W	1.70	0.95	0.26	—
40	B1	245	-134	楕円形	N-06° - W	0.55	0.47	0.21	—
41	B2	253 ~ 254	-136	楕丸三角形	N-35° - E	1.02	0.91	0.11	—
42					欠番				
43	B2	258 ~ 259	-144 ~ -145	楕円形	N-65° - W	0.62	0.51	0.07	—
44	B2	259	-144 ~ -145	楕丸方形	N-36° - W	0.40	0.38	0.07	—
45	B2	259 ~ 260	-143	円形	N-20° - W	0.61	0.60	0.14	—
46	B2	262 ~ 263	-141 ~ -142	楕丸の鏡形	N-71° - E	0.73	0.61	0.14	—
47	B2	261 ~ 262	-142 ~ -143	楕丸の家形	N-90°	0.43	0.38	0.18	—
48	B2	261	-147	楕円形	N-35° - W	0.46	0.41	0.22	—
49	B2	255 ~ 256	-141 ~ -142	豆形	N-15° - E	0.76	0.44	0.12	8世紀後半
50	B2	263	-147	楕円形	N-43° - E	0.64	0.53	0.20	—
51	B1	239 ~ 240	-134 ~ -135	楕円形	N-83° - E	0.66	0.60	0.10	8世紀以降
52	B2	273 ~ 274	-145 ~ -146	円形	N-05° - E	0.96	0.87	0.21	—
53	B2	264 ~ 265	-138	楕円形	N-41° - E	0.58	0.54	0.20	—
54	B2	262 ~ 263	-138	楕丸台形	—	0.57	0.57	0.16	—
55	B2	260	-137	楕円形	N-85° - E	0.49	0.47	0.19	—
56	B2	256 ~ 257	-140 ~ -141	楕円形	N-10° - E	0.44	0.39	0.17	—
57	B2	259	-138 ~ -139	楕丸方形	N-10° - W	0.51	0.49	0.04	—
58	B2	270	-141 ~ -142	—	N-44° - E	0.96	0.64	0.47	—
59	B2	271	-141	楕丸方形	N-45° - W	0.82	0.71	0.11	7世紀後半～8世紀
60	B2	265 ~ 267	-139 ~ -140	—	N-10° - E	1.58	1.13	0.75	—
61	C1	259 ~ 260	-125 ~ -126	楕丸方形	N-08° - W	1.41	0.99	0.44	—
62	C2	302 ~ 303	-129 ~ -130	楕円形	N-69° - W	0.99	0.90	0.23	—
63	B1	244 ~ 245	-146 ~ -147	長楕円形	N-75° - W	0.74	0.48	0.29	—
64	C2	289 ~ 290	-128	円形	N-44° - E	0.88	0.82	0.30	—
65	C2	292	-132	楕丸方形	N-23° - E	0.46	0.41	0.13	—
66	C2	299 ~ 301	-128 ~ -130	楕円形	N-01° - E	2.08	1.43	0.23	—
67	C2	301 ~ 302	-131 ~ -132	不整形	N-63° - E	1.81	1.49	0.28	—
68	C2	301 ~ 302	-119	—	—	(0.50)	(0.16)	(0.23)	—
69	C2	280	-126	楕丸方形	N-90°	0.63	0.59	0.09	—
70	C2	279 ~ 280	-127 ~ -128	舟形	N-80° - E	0.81	0.58	0.18	—
71	C2	297 ~ 300	-122 ~ -125	—	N-67° - W	3.04	2.43	0.20	—
72	C3	307 ~ 308	-136 ~ -137	楕円形	N-68° - E	0.73	0.63	0.55	—
73	B1	227	-145 ~ -146	—	N-31° - W	0.43	(0.23)	0.18	—

4. ビット

番号	区	X座標	Y座標	平面形	主軸	長さ(m)	幅(m)	深さ(m)	備考
1					1号掘立柱建物				
2					1号掘立柱建物				
3					1号掘立柱建物				
4					1号掘立柱建物				
5					1号掘立柱建物				
6	A	181 ~ 182	-133 ~ -134	円形	—	0.22	0.22	0.19	—
7	A	183	-134 ~ -135	楕円形	N-13° - W	0.64	0.38	0.25	—
8	A	185 ~ 186	-144 ~ -145	楕円形	N-0°	0.57	0.40	0.10	—
9	A	185 ~ 186	-145 ~ -146	楕丸長方形	N-02° - W	0.46	0.36	0.13	—
10	A	183	-146	楕丸方形	—	0.26	0.26	0.20	—
11	A	158	-134 ~ -135	楕丸長方形	N-85° - W	0.36	0.32	0.48	—
12	A	186 ~ 187	-133 ~ -134	円形	N-80° - E	0.51	(0.42)	0.22	—
13	A	187 ~ 188	-143	円形	N-05° - E	0.44	0.38	0.13	—
14					4号掘立柱建物				
15					4号掘立柱建物				
16					4号掘立柱建物				
17					2号掘立柱建物				
18					2号掘立柱建物				
19					2号掘立柱建物				
20	A	191 ~ 192	-141	楕丸方形	N-10° - W	0.50	0.43	0.45	—
21	A	196	-140 ~ -141	楕円形	N-81° - E	0.32	0.22	0.24	—
22	A	196 ~ 197	-137 ~ -138	楕丸方形	N-12° - W	0.44	0.32	0.20	—
23	A	197	-137	楕円形	N-03° - E	0.55	0.49	0.21	—

南蛇井北原田遺跡 遺構一覽表

番号	区	X座標	Y座標	平面形	主軸	長さ(m)	幅(m)	深さ(m)	備考
24	A	198 ~ 199	-138	隅丸方形	N-03°-W	0.50	0.47	0.22	-
25	A	199	-137	隅丸長方形	N-79°-E	0.56	0.42	0.24	-
26	A	200	-136 ~ -137	隅丸方形	N-26°-W	0.35	0.30	0.13	-
27	A	205	-139	隅丸方形	N-03°-W	0.56	0.54	0.27	-
28	A	200 ~ 201	-138	楕円形	N-72°-E	0.54	0.48	0.26	-
29	A	203	-150 ~ -151	円形	-	0.44	0.44	0.26	-
30	A	202 ~ 203	-148	楕円形	N-78°-E	0.55	0.50	0.22	-
31	A	203 ~ 204	-147	楕円形	N-75°-E	0.47	0.45	0.23	-
32	A	203 ~ 204	-145 ~ -146	隅丸長方形	N-85°-E	0.60	0.46	0.28	-
33	A	203 ~ 204	-144 ~ -145	隅丸形	N-10°-W	0.48	0.46	0.22	-
34	A	204	-144	隅丸方形	N-74°-E	0.37	0.35	0.33	-
35	A	205	-146	楕円形	N-61°-E	0.40	0.32	0.29	-
36	A	205	-145	隅丸方形	-	0.33	0.33	0.29	-
37	A	205 ~ 206	-144 ~ -145	隅丸長方形	N-79°-E	0.52	0.49	0.30	-
38					欠番				
39	A	203	-144	楕円形	N-78°-E	0.40	0.34	0.15	-
40	A	206	-146 ~ -147	隅丸方形	N-05°-W	0.53	0.50	0.27	-
41	A	208	-145	楕円形	N-80°-E	0.23	0.20	0.35	-
42	A	207	-144	楕円形	N-88°-E	0.32	0.26	0.20	-
43	A	208	-143 ~ -144	楕円形	N-84°-E	0.40	0.37	0.21	-
44	A	209	-144 ~ -145	楕円形	N-88°-E	0.58	0.53	0.30	-
45	A	209 ~ 210	-144 ~ -145	隅丸方形	N-03°-W	0.36	0.35	0.23	-
46	A	213 ~ 214	-145 ~ -146	隅丸長方形	N-83°-E	0.68	0.50	0.30	-
47	A	201 ~ 202	-136	楕円形	N-69°-E	0.62	0.58	0.27	-
48	A	205 ~ 206	-141	円形	N-72°-E	0.52	0.49	0.28	-
49	A	205 ~ 206	-140	隅丸長方形	N-20°-W	0.67	0.52	0.26	-
50	A	206 ~ 207	-138	隅丸長方形	N-72°-E	0.54	0.47	0.25	-
51	A	206 ~ 207	-141	楕円形	N-67°-E	0.42	0.38	0.25	-
52	A	207	-140	隅丸長方形	N-68°-E	0.37	0.32	0.18	-
53	A	207	-139	隅丸長方形	N-70°-E	0.34	0.30	0.19	-
54	A	208	-138 ~ -139	楕円形	N-70°-E	0.46	0.33	0.30	-
55	A	208 ~ 209	-141 ~ -142	隅丸方形	N-88°-E	0.40	0.34	0.21	-
56	A	209	-140	円形	N-02°-W	0.35	0.34	0.14	-
57	A	210	-138	円形	N-0°	0.25	0.24	0.26	-
58	A	207 ~ 208	-136 ~ -137	隅丸長方形	N-36°-W	0.54	0.44	0.16	-
59	A	207 ~ 208	-136	楕円形	-	0.44	0.44	0.28	-
60	A	208	-136	楕円形	N-58°-W	0.29	0.26	0.25	-
61	A	209	-136 ~ -137	楕円形	N-76°-E	0.49	0.43	0.22	-
62	A	209 ~ 210	-136	楕円形	N-82°-E	0.46	0.41	0.18	-
63	A	211	-135	楕円形	N-19°-W	0.45	0.44	0.40	-
64	A	212	-134 ~ -135	楕円形	N-58°-W	0.33	0.29	0.32	-
65	A	213	-135	楕円形	N-72°-E	0.66	0.56	0.33	-
66	A	214	-135	楕円形	N-79°-E	0.52	0.43	0.34	-
67	A	200	-139 ~ -140	楕円形	N-06°-W	0.55	(0.48)	0.15	-
68	A	216	-132 ~ -133	楕円形	N-35°-E	0.62	0.48	0.26	-
69	A	202	-144	隅丸長方形	N-88°-E	0.49	0.41	0.26	-
70	A	196 ~ 197	-135 ~ -136	隅丸長方形	N-15°-W	0.49	0.38	0.48	-
71	A	197 ~ 198	-135 ~ -136	隅丸長方形	N-84°-E	0.35	0.28	0.20	-
72	A	197 ~ 198	-135	隅丸長方形	N-18°-W	0.73	0.40	0.28	-
73	A	208 ~ 209	-130	楕円形	N-01°-W	0.40	0.38	0.47	-
74	A	203	-142	-	N-14°-W	0.48	(0.16)	0.65	-
75	A	205	-147 ~ -148	楕円形	N-67°-E	0.32	0.31	0.24	-
76	A	210	-131 ~ -132	隅丸方形	N-31°-W	0.51	0.48	0.34	-
77	A	203 ~ 204	-142 ~ -143	隅丸方形	-	0.42	0.42	0.30	-
78	A	213 ~ 214	-130 ~ -131	-	N-32°-W	0.41	(0.24)	0.40	-
79	A	212 ~ 313	-130	-	N-26°-W	0.33	(0.18)	0.21	-
80	A	209	-130	隅丸長方形	N-60°-W	0.49	0.44	0.34	-
81					4号掘立柱建物				
82					4号掘立柱建物				
83					2号掘立柱建物				
84					2号掘立柱建物				
85	B1	225	-143	隅丸方形	N-58°-W	0.38	(0.18)	0.13	-
86	B1	223	-151	-	N-06°-E	0.37	(0.21)	0.22	-
87	B1	223 ~ 224	-150	円形	N-13°-W	0.25	0.24	0.19	-
88	B1	224	-150 ~ -151	隅丸方形	N-79°-E	0.51	0.44	0.19	-
89	B1	223	-150	隅丸方形	N-24°-W	0.23	0.21	0.18	-
90	B1	223	-149 ~ -150	隅丸方形	N-08°-W	0.44	0.35	0.19	-
91	B1	225	-150 ~ -151	円形	N-88°-E	0.30	0.28	0.25	-

番号	区	X座標	Y座標	平面形	主軸	長さ(m)	幅(m)	深さ(m)	備考
92	B1	226	-151	隅丸長方形	N-14°-W	0.44	(0.36)	0.23	-
93	B1	225	-149	隅丸長方形	N-74°-E	0.31	0.24	0.11	-
94	B1	226 ~ 227	-149 ~ -150	楕円形	N-01°-E	0.37	0.35	0.24	-
95a	B1			円形	-				-
95b	B1	224	-146	隅丸方形	N-14°-W	0.50	0.29	0.14	-
96	B1	224 ~ 225	-147 ~ -148	楕円形	N-05°-E	0.43	0.39	0.13	-
97	B1	225	-148	円形	N-06°-E	0.38	0.33	0.07	-
98	B1	225 ~ 226	-147	楕円形	N-82°-E	0.54	0.38	0.16	-
99	B1	226 ~ 227	-148	-	N-04°-E	0.61	0.44	0.12	-
100	B1			隅丸長方形	-				-
101	B1	227	-148	楕円形	N-09°-W	0.40	0.39	0.41	-
102	B1	227 ~ 228	-150 ~ -151	隅丸方形	N-01°-E	0.38	0.34	0.18	-
103	B1	233	-142	隅丸台形	N-67°-E	0.42	0.37	0.14	-
104	B1	234	-141 ~ -142	隅丸方形	N-04°-E	0.32	0.26	0.17	-
105	B1	234	-141	隅丸方形	N-72°-E	0.32	0.31	0.28	-
106	B1	224 ~ 225	-145	隅丸方形	N-17°-W	0.27	0.25	0.16	-
107	B1	225 ~ 226	-143	隅丸長方形	N-32°-W	0.45	0.36	0.31	-
108	B1	226 ~ 227	-147	隅丸方形	N-07°-E	0.30	0.26	0.16	-
109	B1	228	-148	楕円形	N-79°-E	0.41	0.38	0.18	-
110	B1	228	-148	-	-	(0.44)	(0.26)	0.21	-
111	B1	235	-145	楕円形	N-82°-E	0.47	(0.36)	0.22	-
112	B1	234 ~ 235	-145	隅丸方形	N-08°-W	0.33	0.31	0.25	-
113	B1	235	-144	円形	N-58°-W	0.26	0.24	0.25	-
114	B1	235 ~ 236	-143	楕円形	N-09°-W	0.36	0.34	0.19	-
115	B1	234 ~ 235	-143 ~ -144	隅丸方形	N-53°-E	0.27	0.24	0.12	-
116	B1	234	-148 ~ -149	隅丸方形	N-70°-W	0.36	0.33	0.26	-
117	B1	242	-144	円形	N-36°-E	0.31	(0.24)	0.38	-
118	B1	242	-144	隅丸長方形	N-63°-E	0.45	0.30	0.47	-
119	B1	240 ~ 241	-137	隅丸方形	N-40°-W	0.39	0.35	0.32	-
120	B1	242 ~ 243	-144	円形	N-68°-E	0.35	0.31	0.23	-
121	B2	253	-137	楕円形	N-03°-E	0.22	0.19	0.24	-
122	B2	253 ~ 254	-137	円形	N-21°-W	0.39	0.37	0.29	-
123	B2	254	-136 ~ -137	円形	N-12°-W	0.42	0.40	0.41	-
124	B2	256	-137	楕円形	N-88°-E	0.38	0.36	0.38	-
125	B1	247 ~ 248	-135	隅丸方形	-	0.35	0.35	0.53	-
126	B1	247	-135	円形	N-83°-W	0.16	0.15	0.24	-
127	B1	247	-139	隅丸方形	N-56°-E	0.19	0.18	0.24	-
128	B2	259	-147	隅丸長方形	N-09°-E	0.26	0.22	0.32	-
129	B2	259 ~ 260	-145	隅丸長方形	N-37°-E	0.35	0.27	0.06	-
130	B2	261	-146	楕円形	N-85°-E	0.38	0.34	0.15	-
131	B2	262	-143	円形	N-15°-E	0.43	0.36	0.17	-
132	B2	262	-144 ~ -145	楕円形	N-82°-W	0.37	0.29	0.11	-
133	B2	262	-144	隅丸方形	N-56°-E	0.23	0.19	0.08	-
134	B2	261 ~ 262	-144 ~ -145	隅丸長方形	N-55°-W	0.22	0.18	0.08	-
135	B2	261 ~ 262	-144	楕円形	N-33°-W	0.20	0.18	0.08	-
136	B2	259	-147	楕円形	N-03°-E	0.45	0.32	0.29	-
137	B2	263	-147	隅丸方形	-	0.28	0.28	0.12	-
138	B2	263	-145	楕円形	N-62°-E	0.32	0.29	0.23	-
139	B1	239	-133 ~ -134	隅丸長方形	N-63°-E	0.48	0.44	0.22	-
140	B1	238 ~ 239	-134 ~ -135	隅丸長方形	-	0.50	0.50	0.13	-
141	B1	236 ~ 237	-143	隅丸三角形	N-26°-E	0.31	0.29	0.12	-
142	B2	278 ~ 279	-139 ~ -140	不整形	N-43°-E	0.30	0.28	0.17	-
143	B2	261	-141	楕円形	N-63°-E	0.30	0.26	0.07	-
144	B2	256	-143 ~ -144	隅丸長方形	N-21°-E	0.30	0.24	0.11	-
145	B2	257	-139 ~ -140	円形	N-78°-E	0.49	0.46	0.21	-
146	C1	252	-129	隅丸長方形	N-75°-E	0.46	0.29	0.26	-
147	B2	255 ~ 256	-146	隅丸方形	N-47°-E	0.35	0.30	0.12	-
148	B2	261	-138 ~ -139	隅丸台形	-	0.35	0.35	0.37	-
149	B2	262 ~ 263	-137	楕円形	N-03°-W	0.56	(0.35)	0.30	-
150	B2	262	-137	楕円形	N-26°-W	0.67	(0.64)	0.22	-
151	B2	261 ~ 262	-138	楕円形	-	0.34	0.34	0.28	-
152	C1	259 ~ 260	-130	隅丸方形	N-17°-E	0.58	0.56	0.33	-
153	C1	262	-127	隅丸方形	N-32°-E	0.40	0.37	0.24	-
154	C1	263	-125	円形	N-22°-E	0.67	0.57	0.41	-
155	C1	263 ~ 264	-123	楕円形	N-65°-W	0.52	0.44	0.22	-
156	B1	238 ~ 239	-137	-	N-15°-W	0.36	(0.27)	0.27	-
157	C1	260	-127 ~ -128	楕円形	N-70°-E	0.50	0.39	0.22	-
158	C1	259 ~ 260	-126 ~ -127	不整形	N-73°-E	0.61	0.56	0.39	-

南蛇井北原田遺跡 遺構一覽表

番号	区	X座標	Y座標	平面形	主軸	長さ(m)	幅(m)	深さ(m)	備考
159	C1	257	-127~-128	隅丸方形	N-83°-W	0.34	0.30	0.29	-
160	B1	252	-136~-137	楕円形	N-40°-E	0.52	0.43	0.25	-
161					3号掘立柱建物				
162	C1	245~246	-125	楕円形	N-65°-E	0.63	0.48	0.07	-
163	C1	246	-124~-125	円形	N-07°-E	0.34	0.33	0.09	-
164	C1	259	-128	楕円形	N-56°-E	0.50	0.41	0.26	-
165	C1	264~265	-125~-126	楕円形	N-49°-E	0.32	0.24	0.26	-
166					3号掘立柱建物				
167					3号掘立柱建物				
168					3号掘立柱建物				
169	C2	291	-129~-130	楕円形	N-79°-E	0.46	0.41	0.17	-
170	C2	291~292	-129	楕円形	N-30°-W	0.53	0.44	0.23	-
171	C2	289	-130	隅丸方形	-	0.30	0.30	0.06	-
172	C2	291	-129	隅丸方形	N-17°-E	0.26	0.24	0.17	-
173	C3	314	-121~-122	隅丸方形	-	0.41	0.41	0.16	-
174	C3	315	-120	楕円形	N-62°-E	0.40	0.37	0.34	-
175	C3	315	-123	隅丸方形	N-68°-E	0.37	0.36	0.18	-
176	C2	288~289	-128	楕円形	N-80°-E	0.27	0.24	0.21	-
177	C2	290	-129	隅丸方形	-	0.29	0.29	0.45	-
178	C2	289	-132	楕円形	N-13°-W	0.23	0.17	0.29	-
179	C2	287	-132	隅丸方形	N-12°-E	0.33	0.23	0.21	-
180	C1	255	-128~-129	楕円形	N-52°-W	0.60	0.56	0.33	-
181	C1	248	-127	隅丸方形	N-76°-E	0.27	0.22	0.27	-
182					3号掘立柱建物				
183	B1	237	-145	隅丸方形	N-08°-E	0.33	0.30	0.23	-
184	B1	236~237	-146	隅丸方形	-	0.40	0.40	0.22	-
185	C2	290	-127	隅丸方形	N-07°-W	0.36	0.35	0.15	-
186	C2	279~280	-128~-129	木の屋根	N-28°-E	0.55	0.40	0.25	-
187	C2	280~281	-128	隅丸方形	N-66°-W	0.27	0.25	0.15	-
188	C2	282	-127	円形	-	0.39	0.39	0.21	-
189	C2	282	-126~-127	木の屋根	N-36°-W	(0.27)	0.24	0.15	-
190	C2	283~284	-128	円形	N-16°-W	0.44	0.42	0.23	-
191	C2	284	-127	隅丸方形	N-02°-W	0.44	0.42	0.08	-
192	C1	240~241	-125~-126	楕円形	N-49°-W	0.40	0.35	0.09	-
193	B1	236~237	-142	楕円形	N-02°-E	0.39	0.34	0.09	-
194	C3	302	-141	円形	N-13°-W	0.37	0.35	0.29	-
195	C1	258	-123	円形	N-76°-W	0.24	0.22	0.33	-
196					3号掘立柱建物				

5. 溝

番号	区	X座標	Y座標	主軸	長さ(m)	幅(m)	深さ(m)	備考
1	B1	220~230	-131~-152	N-73°-E	(21.60)	1.47~(2.53)	0.05~0.32	-
2	B1	226~232	-131~-150	N-74°-W	(19.55)	0.37~1.33	0.03~0.49	-
3	B1	235~238	-133~-150	N-90°	(18.04)	0.34~0.60	0.13~0.40	-
4	B2・C1・C2	253~267	-125~-149	N-62°-E	(28.62)	0.73~1.74	0.12~0.44	-
5	B2・C1・C2	256~272	-122~-149	N-63°-E	(33.30)	0.63~2.00	0.12~0.46	-
6	B1・B2・C1	241~254	-124~-149	N-67°-W	(28.60)	0.39~5.12	0.08~0.24	-
7	B1・B2	241~253	-133~-149	N-53°-W	(20.36)	0.66~1.96	0.25~0.62	-
8	B2・C2	269~273	-122~-148	N-89°-W	(25.10)	2.84~4.06	0.34~0.66	-
9	C1	266~267	-122~-125	N-85°-E	(2.90)	0.64~0.83	0.13~0.19	-
10	C3	308~331	-134~-137	N-05°-W	(23.50)	0.37~1.11	0.05~0.17	-
11	C3	307~318	-121~-143	N-64°-W	(24.12)	0.56~1.44	0.29~0.54	-
12	C3	307~312	-138~-143	N-50°-W	(6.50)	0.20~0.35	0.02~0.10	-
13	C2	298~303	-121~-129	N-60°-W	(9.14)	0.35~0.78	0.06~0.18	-
14	C3	311~320	-118~-143	N-73°-W	(25.68)	0.30~1.80	0.09~0.39	-
15	C2	272~287	-121~-125	N-13°-E	(15.25)	0.38~0.55	0.11~0.21	-
16	C3	320~332	-117~-143	N-76°-W	(28.82)	4.02~5.38	0.76~1.68	-
17	C3	321~322	-132~-142	N-89°-E	(10.48)	0.40~0.73	0.19~0.58	-
18	C3	308~316	-129~-143	N-60°-W	(16.15)	1.36~2.52	0.48~0.77	-
19	C3	304~306	-139~-144	N-79°-E	(5.50)	0.37~0.46	0.04~0.13	-
20	C3	307~315	-139~-144	N-32°-E	(8.64)	0.37~0.66	0.05~0.22	-
21	C3	321~322	-128~-142	N-86°-E	(14.45)	0.40~0.80	0.07~0.13	-
22	C3	320~322	-127~-142	N-85°-E	(15.60)	0.50~0.96	0.06~0.42	-

6. 井

番号	区	X座標	Y座標	主軸	長さ(m)	幅(m)	深さ(m)	備考
1	A	204~205	-136~-137	N-29°-E	0.73	0.71	0.16	-

7. 塙土

番号	区	X座標	Y座標	主軸	長さ(m)	幅(m)	深さ(m)	備考
1	A	196 ~ 199	-131 ~ -133	N-18°-E	3.10	2.30	0.16	—
2	A	198 ~ 200	-150 ~ -152	N-34°-E	2.26	2.15	0.19	10世紀前半以降
3	A	192 ~ 194	-151 ~ -153	N-74°-E	2.34	2.33	0.19	8世紀後半以降
4	A	214 ~ 215	-142 ~ -143	N-67°-W	1.76	0.64	0.13	—
5	A	206	-149 ~ -150	N-67°-W	0.64	0.45	0.09	中世
6	B1	235 ~ 236	-136 ~ -137	N-73°-E	0.58	0.55	0.06	—

8. 遺物集中

番号	区	X座標	Y座標	主軸	長さ(m)	幅(m)	深さ(m)	備考
1	B2	258 ~ 261	-139 ~ -142	N-08°-W	2.74	2.28	0.46	縄文時代中期

第4表 蚊沼大神分遺跡 遺構一覧表

1. 土坑

番号	区	面	X座標	Y座標	平面形	主軸	長さ(m)	幅(m)	深さ(m)	備考
1	B	1	537 ~ 538	-179 ~ -181	矩形	N-69°-W	2.07	0.57	0.13	—
2	D	2.5	439 ~ 442	-174 ~ -175	楕円短冊形	N-08°-W	2.92	0.68	0.35	—
3	B	2	550 ~ 551	-175 ~ -177	—	—	(2.20)	(0.95)	0.60	—
4	B	2	555 ~ 557	-176 ~ -178	—	—	(1.53)	(0.70)	0.52	—
5	B	2	545 ~ 547	-177 ~ -180	—	—	(2.40)	(1.90)	0.54	—

2. 溝

番号	区	面	X座標	Y座標	主軸	長さ(m)	幅(m)	深さ(m)	備考
1	A・B	1	525 ~ 574	-180 ~ -190	N-11°-E	(51.34)	0.61 ~ 1.80	0.06 ~ 0.50	—
2	D	2.5	440 ~ 443	-171 ~ -180	N-85°-W	(9.20)	1.94 ~ 2.31	0.17 ~ 0.30	—
3	B	2	526 ~ 542	-172 ~ -175	N-02°-W	(17.64)	0.46 ~ 1.48	0.04 ~ 0.17	—
4	B	2	542 ~ 545	-170 ~ -176	N-76°-E	(6.16)	1.07 ~ 1.53	0.26 ~ 0.91	—
5	B	2	541 ~ 543	-170 ~ -173	N-77°-E	(3.18)	1.45 ~ 1.90	0.12 ~ 0.54	—
6	B	2	544 ~ 545	-177 ~ -180	N-76°-W	(3.29)	0.18 ~ 0.60	0.06 ~ 0.28	—
7	B	2	527 ~ 541	-170 ~ -174	N-10°-E	(14.86)	0.88 ~ 1.47	0.08 ~ 0.26	—
8	B	2	544 ~ 552	-170 ~ -181	N-71°-W	(11.73)	3.50 ~ 4.81	1.53 ~ 1.83	—
9	B	3	526 ~ 538	-168 ~ -185	N-59°-W	(22.49)	0.18 ~ 3.28	0.07 ~ 0.43	—
10	B	3	516 ~ 533	-168 ~ -187	N-50°-W	(26.56)	0.24 ~ 1.26	0.04 ~ 0.55	—
11	B	3	520 ~ 526	-184 ~ -186	N-10°-W	(5.56)	0.23 ~ 0.54	0.01 ~ 0.06	—
12	B	3	521 ~ 527	-189 ~ -190	N-01°-W	(6.06)	0.48 ~ 0.66	0.08 ~ 0.12	—
13	B	3	516 ~ 521	-175 ~ -184	N-60°-E	(10.75)	0.28 ~ 1.04	0.01 ~ 0.11	—
14	C	3	458 ~ 459	-180 ~ -184	N-89°-W	(3.86)	—	0.55 ~ 0.60	—
15	B	2	547 ~ 549	-178 ~ -181	N-81°-W	(3.70)	2.00 ~ 2.54	0.12 ~ 0.87	—
16	D	2.5	432 ~ 435	-158 ~ -176	N-87°-E	(18.36)	0.90 ~ 2.73	0.43 ~ 1.03	—
17	D	2.5	454 ~ 460	-168 ~ -172	N-15°-W	(5.70)	1.43 ~ 4.19	0.10 ~ 0.85	—

3. 落ち込み

番号	区	面	X座標	Y座標	平面形	長さ(m)	幅(m)	深(m)	備考
1	B・C	1	493 ~ 507	-181 ~ -185	楕円形	(14.18)	(2.90)	0.24	—
2	B	1	508 ~ 522	-167 ~ -175	—	14.03	(7.27)	0.42	—
3					欠番				—
4	D	2.5	430 ~ 440	-164 ~ -178	不整形	(25.29)	(14.96)	2.22	—

4. 水田状遺構

番号	区	面	X座標	Y座標	規模(m)	備考
1	C	1	458 ~ 485	-173 ~ 184	東西: (10.77) 南北: 27.21	—

5. 水田址

番号	区	面	X座標	Y座標	長さ(m)	幅(m)	備考
As-B	下	水田	B・C	2	457 ~ 507	-174 ~ 184	(50.30)m (10.35)m 古代末

6. 1号壇状遺構

番号	区	面	X座標	Y座標	主軸	長さ(m)	幅(m)	深さ(m)	備考
1	B・C	3	487 ~ 508	-168 ~ -178	N-03°-W	(21.45)	(8.20)	1.16	—

種 別 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第21図 PL-84	6	敲石・こも 編み石	完形	長 幅 16.1 6.9 厚 重 5.2 747	粗粒輝石安山岩	三角柱状の内溝使用。上端に敲打痕残り、中上位に幅3.2cmの摩耗痕一周。	転用か
7号室穴建物							
種 別 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第25図	1	土師器 杯	口縁部～底部	口 底 [13.6 9.0] 高 2.2	細砂粒/酸化塩/ 橙	焼成やや甘く、器面荒れる。口縁横撫で。体部～底部内面 内面荒撫で、外面澄りりか。	
第25図	2	磨石・こも 編み石	下位欠損	長 幅 (16.8) 8.9 厚 重 (5.4) 1017	溶結凝灰岩	大き目の内溝使用。左側に研磨面残り、残存部中に幅 3.4cmの摩耗痕一周。	転用か
8号室穴建物							
種 別 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第27図	1	土師器 杯	口縁部～体部	口 [12.0] 高 2.5	細砂粒/酸化塩/ 橙	焼成やや甘く、器面荒れる。口縁横撫で。体部～底部内面 内面荒撫で、外面澄りりか。	
第27図	2	土師器 盃	口縁部～体部	口 [23.0] 高 (8.4)	粗砂粒、片岩含 む/酸化塩/黒褐	内外面喫炭により黒色。口縁横撫で。体部内面反時計回り の荒撫で、外面上方への澄りり。	
9号室穴建物							
種 別 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第29図	1	土師器 杯	口縁部～底部	口 [13.0] 高 3.0	細砂粒/酸化塩/ 橙	焼成やや甘く、器面荒れる。口縁横撫で。体部～底部内面 反時計回りの荒撫で、外面澄りりか。	
第29図	2	須恵器 高台付椀	体部～高台	台 3.3 高 (3.4)	細砂粒/酸化塩/ 内面還元塩/橙	右回転軸成り。底面回転糸切り後高台貼付け。	
第29図	3	須恵器 高台付椀	体部～底部、 高台欠	底 6.0 高 (3.1)	細砂粒/還元塩/ にぶい黄橙	右回転軸成り。底面回転糸切り後高台貼付けか。	
10号室穴建物							
種 別 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第30図	1	須恵器 盃	体部～高台	台 [6.5] 高 (6.9)	粗砂粒/還元塩/ 暗灰黄	回転軸成り。回転糸切り後高台貼付け。	
11号室穴建物							
種 別 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第32図 PL-85	1	土師器 杯	口縁部～底部	口 [12.6] 高 4.5	細砂粒/酸化塩/ 明赤褐色	内面やや荒れる。口縁横撫で。体部～底部内面反時計回り の荒撫で、外面時計回りの澄りり。	
第32図	2	土師器上器 (焙烙)	口縁部～底部	口 高 2.5	細砂粒/酸化塩/ 黄褐	口縁横撫で。底部内面荒撫で後外面荒撫で、外面(時計回 り)の澄りり。	
第32図 PL-85	3	敲石・こも 編み石	完形	長 幅 14.8 8.9 厚 重 4.7 693	変質安山岩	横断面三角形、平面形半円形を呈する河床礫使用。上端 に敲打痕残り、右側中に表裏内側からの敲打痕による抉 れを設け、ここに幅4.5cmの摩耗痕一周。	
第32図 PL-85	4	敲石・こも 編み石	完形	長 幅 13.5 7.8 厚 重 4.5 669	変質安山岩	横断面逆台形状を呈する内溝を用いる。上下端部に敲打 痕残り、中下位に摩耗痕一周。	
第32図 PL-85	5	磨石・こも 編み石	完形	長 幅 11.8 7.5 厚 重 4.1 521	粗粒輝石安山岩	筒状の河床礫使用。上端に傾斜する研磨面形成され、中 位に幅3.3cmを測る摩耗痕一周。	
第32図 PL-85	6	こも編み石	完形	長 幅 14.6 8.8 厚 重 3.9 799	変質安山岩	平面形六角形を呈する板状の河床礫使用。右側縁に表裏 からの敲打による抉れを作り、中に幅4.2cmを測る帯状 の摩耗痕一周。	
PL-85	7	こも編み石	完形	長 幅 10.5 8.2 厚 重 4.5 445	デイサイト凝灰 岩	厚板上の石材使用。中に幅3.3cmの摩耗痕一周。	
PL-85	8	こも編み石	完形	長 幅 13.1 7.5 厚 重 5.4 556	チャート	表裏面菱形を呈する角柱状石材を使用。中に幅3.1cmの 摩耗痕一周。	
PL-85	9	こも編み石	完形	長 幅 13.4 8.8 厚 重 4.0 612	デイサイト	顕形影を呈する河床礫使用。中に幅3.2cmを測る帯状の 摩耗痕一周。	
PL-85	10	こも編み石	完形	長 幅 14.7 9.4 厚 重 3.5 847	変質安山岩	平面形隅丸長方形を呈する河床礫使用。中位やや上寄り に幅3.9cmを測る帯状の摩耗痕一周。	
PL-85	11	こも編み石 表面下位一部 剥離	長 幅 9.7 6.3 厚 重 3.2 266	変玄武岩	左側縁中・下位欠ける鉤形板状の石材用い、中位の鉤欠部 分に2.7cmの摩耗痕一周。		
PL-85	12	こも編み石 ほぼ完形	長 幅 14.2 8.7 厚 重 2.8 577	輝緑凝灰岩	平面形楕円形を呈する板状の河床礫使用。中に幅3.9cm を測る帯状の摩耗痕一周。		
PL-85	13	こも編み石 ほぼ完形、表 面やや荒れ	長 幅 (15.1) 6.4 厚 重 4.7 678	蛇紋岩	横断面形長方形、縦断面形三角形、平面形片層形を呈す る河床礫使用。中に幅3.2cmの摩耗痕一周。		
12号室穴建物							
種 別 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第34図	1	土師器 盃	口縁部～体部	口 [26.0] 高 (8.0)	粗砂粒、片岩含 む/酸化塩/橙	焼成良。口縁横撫で。体部内面反時計回りの荒撫で、外面 上方への澄りり。	
第34図 PL-85	2	敲石・こも 編み石	右側縁一部欠 損	長 幅 18.0 6.5 厚 重 6.0 901	デイサイト凝灰 岩	剥離残る平面形S字状を呈する角柱状の内溝を用いる。上 下縁に敲打痕残り、左側縁の剥離を利用して、中に幅 2.6cmの摩耗痕一周。	

南蛇井北原田遺跡 遺物観察表

13号竪穴建物

種 別 No.	種 類	出土位置 残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第379号 PL.86	1 土師器 甕	口縁部～腰部 2/3	口 [20.0] 高 [28.9]	粗砂粒/酸化塩/ 橙	内面中心に器面残れる。外面胴部に部分的に保・灰付着。 口縁横撫で。体内内面下位に輪積み痕残り、肩部の一部に 横位の凹撫での痕跡。外面肩～胴部を方へ、腰部左上方向 への凹削り。	
第379号 PL.86	2 凹石・敲石	完形	長 9.7 厚 3.9 幅 4.1 重 174	珉質変質岩	棒状の凹溝を用い、表面やや上寄りに径2.5×2.3cm、深さ 3.0cmの敲打による隅丸形蹄鉢形ののみが穿たれる。上 下端に敲打痕残り。	
第379号 PL.86	3 敲石・こも 編み石	完形	長 16.4 厚 5.4 幅 9.2 重 1116	粗粒輝石安山岩	横断面三角形を呈する凹溝を用い、上端に敲打痕有し平 面を為し、左縁中下位に自然の凹部を利用して、幅3.6cm の摩耗痕一周。	
第379号 PL.86	4 敲石・こも 編み石	完形	長 16.1 厚 4.4 幅 7.9 重 721	デイサイト	横断面上位三角形、下位台形を呈する河床礫使用。上下 端部に敲打痕残り、中下位に幅3.7cmの摩耗痕一周。	
第379号 PL.86	5 敲石・こも 編み石	ほぼ完形	長 16.0 厚 5.0 幅 9.1 重 931	砂岩	内側に自然の凹部を有する敲状の河床礫使用。上端部に多 くの敲打痕残り、中位左右側の凹部を利用して幅3.7cmを 測る帯状の摩耗痕一周。	
PL.86	6 こも編み石	完形	長 13.7 厚 5.5 幅 8.4 重 911	粗粒輝石安山岩	厚みのある敲状の河床礫使用。中位に幅3.9cmを測る帯状 の摩耗痕一周。	
PL.86	7 こも編み石	完形	長 15.7 厚 5.2 幅 7.4 重 869	デイサイト	横断面形横削しの台形、縦断面三角形形を呈する河床礫使 用。中位に幅4.2cmを測る摩耗痕一周する。	
PL.86	8 こも編み石	上下端欠損	長 (15.0) 厚 5.6 幅 5.8 重 835	粗粒輝石安山岩	角柱状の河床礫使用。中位やや下寄りに幅4.4cmを測る帯 状の摩耗痕一周する。	

15号竪穴建物

種 別 No.	種 類	出土位置 残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第429号 PL.86	1 土師器 杯	1/3	口 [12.0] 高 [3.2]	細砂粒/酸化塩/ にぶい橙・黒	内外面吸炭による黒色処理。口縁横撫で。体部～底部内面 凹撫で、外面凹削り。	
第429号 PL.86	2 土師器 杯	口縁部～底部	口 [11.0] 高 [3.4] 幅 [7.0]	細砂粒/酸化塩/ にぶい褐色	内面吸炭による黒色処理。体部～底部内面からせて凹撫で、 体部外面撫で指痕残り、底面凹削り。	
第429号 PL.86	3 敲石・こも 編み石	上位割れ	長 13.8 厚 3.9 幅 7.3 重 585	閃緑岩	右側面に自然の割れ面残れる河床礫使用。上端に敲打痕残り、 中位に右側の段差を利用して幅3.6cmを測る摩耗痕一周 する。	
第429号 PL.86	4 敲石・こも 編み石	完形	長 13.9 厚 5.1 幅 6.4 重 664	変質安山岩	角柱状の河床礫使用。頂部に敲打痕残り、表面の段差を利用し、 中下位に幅3.0cmの摩耗痕一周。	
第429号 PL.86	5 敲石・こも 編み石	完形	長 13.8 厚 3.4 幅 6.2 重 416	粗粒輝石安山岩	横断面三角形を呈する河床礫使用。上端に若干の敲打痕残り し、左右の自然の湾曲を利用して、下に幅3.4cmを測る帯 状の摩耗痕一周する。	
PL.86	6 こも編み石	完形	長 16.5 厚 3.0 幅 6.5 重 563	流紋岩	平面形 S 字様を呈する板状の石材使用。左右のたれを利用し、 中位に幅3.8cmを測る摩耗痕一周。	
PL.86	7 こも編み石	完形	長 12.8 厚 3.5 幅 6.8 重 424	粗粒輝石安山岩	左側が内側の板状の石材使用。左側面の弱い凹面を利用して、 中位に幅3.6cmを測る摩耗痕一周。	

16号竪穴建物

種 別 No.	種 類	出土位置 残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第439号 PL.87	1 砥石	下側欠損	長 (9.6) 厚 3.3 幅 5.7 重 182	砥石	河床礫の割片使用。上面に研磨面残る。	

17号竪穴建物

種 別 No.	種 類	出土位置 残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第479号 PL.87	1 土師器 杯	口縁部～底部	口 [15.6]	細砂粒/酸化塩/ 橙	口縁部外面生地磨削、研磨、修正。体部外面凹削り。体部 内面横撫で、機軸目状。底部内面横撫で。	
第479号 PL.87	2 土師器 杯	口縁部～底部	口 [14.0] 高 3.7	細砂粒/酸化塩/ にぶい黄褐色	内面吸炭による黒色処理。口縁横撫で。体部内面撫で、外 面時計回りの凹削り。	
第479号 PL.87	3 土師器 杯	1/4	口 [14.0] 高 5.0	細砂粒/酸化塩/ にぶい橙	内外面やや荒れる。口縁横撫で。体部内面反時計回りの凹 撫で、底部内面凹撫でまたは指撫で。体部～底部外面凹削り。	
第479号 PL.87	4 土師器 杯	口縁一部欠損	口 [13.4] 高 4.4 幅 7.1	細砂粒/酸化塩/ 橙	口縁横撫で。体部～底部内面反時計回りの凹撫で、外面反 時計回りの凹削り。底部内面凹撫で。体部外面細かい凹削り。 底面一方向中心の凹削り。	
第479号 PL.87	5 土師器 杯	口縁部～底部	口 [13.2] 高 3.8	細砂粒/酸化塩/ 橙	口縁部横撫で。体部内面反時計回りの凹撫で。体部外面凹削り。	
第479号 PL.87	6 土師器 杯	口縁部1/4欠損	口 [12.4] 高 4.2	粗砂粒。片岩含 む/酸化塩/橙	口縁横撫で。体部～底部内面反時計回りの凹撫で、外面時 計回りの凹削り。	
第479号 PL.87	7 土師器 杯	口縁部～底部 3/5	口 [12.2] 高 4.2	細砂粒。多/酸化 塩/橙	口縁部横撫で。体部内面反時計回りの凹撫で。外面凹削り。	
第479号 PL.87	8 土師器 杯	口縁部～底部	口 [12.2] 高 4.2	細砂粒/酸化塩/ 橙	口縁部横撫で。体部内面反時計回りの凹撫で。外面時計回りの 凹削り。	
第479号 PL.87	9 土師器 杯	ほぼ完形	口 [11.0] 高 3.8	粗砂粒/酸化塩/ 橙	口縁横撫で。機、腰で～磨き。体部～底部内面反時計回りの 凹撫で、外面反時計回りの凹削り。	
第479号 PL.87	10 土師器 杯	口縁部～底部	口 [9.8] 高 3.2	細砂粒/酸化塩/ 橙	内面荒れ。口縁部下端に稜。口縁部横撫で。体部外面時計 回りの凹削り。	
第479号 PL.87	11 土師器 杯	口縁部～底部	口 [9.0] 高 4.9	粗砂粒/酸化塩/ 橙	内面吸炭による黒色処理。口縁横撫で。体部～底部内面反 時計回りの凹撫で、外面(時計回りの)凹削り。	

持 図 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値 (cm, g)		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考
第47図 PL.87	12	土師器 高杯	口縁・脚部一部 欠損	口 14.9 底 9.4	高 9.7	細砂粒/酸化塩/ ぶい橙	杯部やや傾く。杯部内面底部あばた状にかせる。杯口縁と脚部横線で、杯部内面体部及び杯部内面反時計回りの段差で、中央の径5cmほどの範囲に無数の駝打痕。外面杯体部～脚部上平上方への段削り、膝下平部指痕。	
第47図 PL.87	13	土師器 高杯	ほぼ完成	口 11.0 底 6.8	高 5.0	細砂粒/酸化塩/ 橙	口縁と脚部横線で、杯部～底部内面反時計回りの段差で、底内面中央指痕。杯部外面反時計回りの段削り。脚部内面反時計回りの段削り。	
第47図 PL.87	14	土師器 高杯	完成	口 10.6 底 7.5	高 4.8	細砂粒/酸化塩/ 橙	口縁部～体部内面上位と脚部横線で、杯部～底部内面反時計回りの段差で、杯部外面反時計回りの段削り。脚部内面上位反時計回りの段削り、下位段差。腕部～脚部外面縦位の段削り。	
第47図 PL.87	15	土師器 高杯	ほぼ完成	口 10.4 底 7.0	高 5.0	細砂粒/酸化塩/ 橙	杯部やや傾く。口縁部～体部内面上位と脚部横線で、杯部～底部内面反時計回りの段差で、杯部外面反時計回りの段削り。杯底部～脚部上位外面縦位の段削り、脚部外面下位指痕。	
第47図 PL.87	16	土師器 高杯	ほぼ完成	口 10.9 底 6.5	高 4.9	細砂粒/酸化塩/ 橙	口縁部～体部内面と脚部横線で、杯底部・脚部内面反時計回りの段差で、杯部外面反時計回りの段削り。杯底部～脚部外面縦位の段削り。	
第47図 PL.87	17	土師器 高杯	ほぼ完成	口 9.5 底 8.2	高 4.2	細砂粒/酸化塩/ 橙	杯部僅かに傾く。口縁部～体部内面と脚部横線で、杯底部・脚部内面反時計回りの段差で、杯部外面反時計回りの段削り。杯部～脚部上位外面縦位の段削り、脚部外面下位指痕。	
第47図 PL.87	18	土師器 高杯	完成	口 9.6 底 7.4	高 4.3	細砂粒/酸化塩/ 橙	杯部やや傾く。口縁部～体部内面上位と脚部横線で、杯底部・脚部内面反時計回りの段差で、脚部一部段削り。杯部外面傾し乍ら、杯底部～脚部中・上位外面縦位の段削り。膝下外面指痕。	
第47図 PL.87	19	土師器 高杯	ほぼ完成	口 10.5 底 6.8	高 5.1	細砂粒/酸化塩/ 橙	杯部やや傾く。口縁部～体部内面上位と脚部横線で、杯底部・脚部内面反時計回りの段差で、杯部外面反時計回りの段削り。杯底部～脚部中・上位外面縦位の段削り。	
第48図 PL.87	20	土師器 甕	口縁部～底部	口 24.4 底 5.2	高 37.6	粗砂粒/酸化塩/ 橙	内面下半吸込。腰部以下吸込強。口縁横線で、体部～底部内面反時計回りの段差で、脚部外面上平上方、下半下方への段削り。底面平直で段削り。	
第48図 PL.87	21	土師器 甕	口縁部・腰部一 部欠損	口 24.6 底 5.0	高 36.6	粗砂粒。片岩含 む/酸化塩/橙	腰部外面に焼土化したカマド構築材一部付着。口縁横線で、内面体部反時計回りの段差で、杯部外面下平上方へ、下位上平への段削り。底面平直で段削り。	
第48図 PL.87	22	土師器 甕	ほぼ完成	口 24.6 底 4.3	高 33.5	粗砂粒。片岩含 む/酸化塩/橙	外面体部中・下位に焼土化したカマド材付着。器面荒れる。口縁横線で、体部内面反時計回りの段差で、底部内面指痕で、体部外面上平上方への段削り。体部外面下位～底面段削り。底面丸底気味。	
第49図 PL.87	23	土師器 甕	口縁部～腰部	口 21.6	高 (28.6)	粗砂粒。片岩含 む/酸化塩/橙	口縁横線で、体部～底部内面反時計回りの段差で、体部外面左上方中心の段削り。	
第49図 PL.87	24	土師器 甕	口縁部～体部	口 23.5	高 (10.2)	粗砂粒。片岩含 む/酸化塩/橙	内外面荒れる。口縁横線で、体部外面反時計回りの段差で、外面上平への段削り。	
第49図 PL.87	25	土師器 甕	口縁部～肩部	口 23.5	高 (7.1)	粗砂粒/酸化塩/ ぶい橙	口縁横線で、肩部反時計回りの段差で、外面上平への段削り。	
第49図 PL.87	26	土師器 甕	体部～底部	底 4.0	高 (18.9)	粗砂粒/酸化塩/ ぶい橙	内面吸込。体部内面反時計回りの段差で、外面上平への段削り。底面内面指痕で、底面内面調整。	
第49図 PL.87	27	土師器 甕	体部～底部	底 6.3	高 (11.6)	粗砂粒/酸化塩/ 赤褐	底部丸底状。内面に吸込。履付着の痕跡。外面荒れる。体部～底部内面反時計回りの段差で、外面反時計回りの段削り。	
第49図 PL.87	28	土師器 小型甕	口縁部～体部	口 [15.0]	高 (10.0)	細砂粒。片岩含 む/酸化塩/明赤	口縁横線で、体部内面反時計回りの段差で、外面上平への段削り。	
第49図 PL.87	29	土師器 三ツ7杯	体部～底部	底 4.8	高 (3.3)	細砂粒/酸化塩/ ぶい橙	上方欠損部厚。体部内外面指痕で指痕で、底面内面指痕で、外面指痕。底面斜めに切ったような段差。	再利用した可能性あり
第49図 PL.87	30	須恵器 蓋	ほぼ完成	口 10.0	高 3.2	細砂粒/還元塩/ 灰白	内面一部吸込。回転軸輪成。内面に溝き状の指痕で痕。口部部外反。底面口端より1cm付近に短い返し付く。天井部外面回転調整。径1.5cm、高さ1.3cmの帽子状の鋸を貼付け後指痕。	
第49図 PL.87	31	須恵器 蓋	ほぼ完成	口 9.5	高 3.6	細砂粒/還元塩/ 灰白	回転軸輪成。口部部外反。底面口端より1cm付近に短い返し付く。天井部外面回転させ乍らの回転段削り。径1.3cm、高さ0.8cmを測る頂部に浅い凹部を有する器状の鋸を貼付け後指痕。内面の受け部は直線形。	
第49図 PL.87	32	須恵器 蓋	完成	口 10.3	高 3.0	細砂粒/還元塩/ 灰白	回転軸輪成。外面に自然熱。底面口端より1.1cmの位置に返し付く。天井中央に径1.8cm、高さ1.2cmを測る宝珠形の鋸付く。	
第50図 PL.88	33	砥石	上位欠損	長 6.0 幅 2.6	厚 3.0 重 105	粗粒輝石安山岩	横断面逆台形で角柱状を呈する。表面と左右面に研磨面残る。	
第50図 PL.88	34	砥石・こも 磨み石	完成	長 12.0 幅 6.5	厚 4.5 重 538	粗粒輝石安山岩	厚板状の河床礫使用。上端に駝打痕残り、中に幅3.0cmを測る摩擦痕一箇所。	
第50図 PL.88	35	砥石・こも 磨み石	完成	長 13.3 幅 5.8	厚 4.3 重 522	変質安山岩	右側が切断した厚板状の内礫を用いる。上端に駝打痕残り、中に幅3.4cmの摩擦痕一箇所。	
第50図 PL.88	36	砥石・こも 磨み石	完成	長 15.1 幅 6.0	厚 5.5 重 777	粗粒輝石安山岩	肉厚の手弄状の河床礫使用。上端に駝打痕残り、中に幅3.9cmを測る帯状の摩擦痕一箇所。	
第50図 PL.88	37	砥石・こも 磨み石	二折、ほぼ完成	長 13.8 幅 7.7	厚 4.3 重 390	粗粒輝石安山岩	平面形楕円形を呈する河床礫使用。上端部に駝打痕残り、中に幅3.7cmを測る帯状の摩擦痕一箇所。	

南蛇井北原田遺跡 遺物観察表

採 掘 Pl.No.	No.	種 類	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考		
第509回 PL.88	38	敲石・こも 編み石	二折、ほぼ完 形	長15.5 幅8.2	厚重 3.6 315	砂岩	平面形瓢箪形を呈する河床礫使用。上端に敲打痕残り、左右縁の自然の抉れを利用し、中に幅3.9cmを測る帯状の摩耗痕一週。		
第509回 PL.88	39	敲石・こも 編み石	完形	長15.6 幅7.1	厚重 4.4 655	デイスイト	裏面右上隅が割れし、横断面三角形を呈する河床礫使用。上下端に敲打痕残り、中に幅3.6cmの摩耗痕一週。		
第509回 PL.88	40	敲石・こも 編み石	表面にクラック入り、左下 端割離欠損	長12.3 幅6.9	厚重 4.6 535	粗粒輝石安山岩	平面形楕円形、裏面平坦な円礫使用。上下端に敲打痕残り、中に幅2.3cmの摩耗痕一週。		
第509回 PL.89	41	敲石・こも 編み石	下位欠損	長(8.1) 幅(8.5)	厚重 3.6 317	粗粒輝石安山岩	板状の円礫を用いる。上端に敲打痕残り、残存部下端に幅0.9cm以上の摩耗痕一週。		
第510回 PL.89	42	磨石・こも 編み石	完形	長14.3 幅8.5	厚重 5.4 891	粗粒輝石安山岩	厚板状の石材を用いる。表面と上端及び右側に研磨面残し、中に幅2.8cmの摩耗痕一週。		
第510回 PL.89	43	磨石・こも 編み石	完形	長14.8 幅7.5	厚重 3.5 596	変質安山岩	板状の円礫使用。上端に敲打痕残り、中位やや下寄り幅3.2cmの摩耗痕一週。		
第510回 PL.89	44	磨石・こも 編み石	上位残存	長(7.7) 幅(5.3)	厚重 4.0 238	粗粒輝石安山岩	棒状の円礫使用。上端に敲打痕残り、残存部下端に幅2.2cm以上の摩耗痕一週。		
第510回 PL.89	45	円石・こも 編み石	完形	長14.1 幅8.6	厚重 4.3 711	粗粒輝石安山岩	平面形楕円形を呈する円礫を用い、表面上位に径2.5×2.2cm、深さ0.4cmを測る窪鉢状の未貫通孔を穿ち、中に幅3.1cmの摩耗痕一回すが、この部分の表面は荒れる。		
第510回 PL.89	46	こも編み石	完形	長幅 6.3	厚重 3.6 540	変質安山岩	ミカンの房状の円礫使用。左側縁中に敲打による加工を施す。当該高さ幅3.6cmの摩耗痕一週。		
第510回 PL.89	47	こも編み石	左右内側下位 に割離痕	長15.4 幅7.5	厚重 4.9 778	粗粒輝石安山岩	バナナ形状を呈する河床礫使用。右側中に上位に割離による窪みを作り、これを利用して幅3.9cmを測る帯状の摩耗痕一週。		
第510回 PL.89	48	こも編み石	完形	長幅 13.0 幅9.5	厚重 3.2 612	流紋岩	板状の円礫使用。右側中上位に敲打による窪みを施し、その高さに幅2.8cmの摩耗痕一週。		
PL.89	49	こも編み石	完形	長幅 13.5 幅7.9	厚重 3.4 346	砂岩	全体に古い割離の残る分銅形の平面形を呈する石材を用いる。左右の窪みを利用し、中に幅3.1cmの摩耗痕一週。		
PL.89	50	こも編み石	完形	長幅 12.4 幅8.3	厚重 3.3 529	礫岩	横断面菱形を呈する板状の石材を用いる。左右内側縁は強く内湾するが、中に幅2.8cmの摩耗痕一週。		
PL.89	51	こも編み石	完形	長幅 14.9 幅5.3	厚重 5.4 485	〇ん岩	表面中・上位が割離する。横断面三角形を呈する河床礫使用。表面割離の段差を利用して幅3.4cmを測る帯状の摩耗痕一週。		
PL.89	52	こも編み石	表面・右側縁一 部欠損	長幅 11.3 幅(5.6)	厚重 3.7 324	粗粒輝石安山岩	横断面三角形を下位し、右側表面の一部と上下端を欠く3.6cmを使用。中に幅3.3cmの摩耗痕一週。		
PL.89	53	こも編み石	上位欠損	長幅 (11.3) 幅(7.4)	厚重 3.7 411	粗粒輝石安山岩	左側が割れる。表面半月形の石材を用いる。残存部左上端の自然の窪みを利用し、幅3.1cmの摩耗痕一週。		
PL.89	54	こも編み石	数力所で切断	長幅 16.4 幅8.7	厚重 3.7 748	輝緑凝灰岩	板状の円礫を用い、右側縁の自然の割離による段差を利用し、その下に幅4.0cmの摩耗痕一週。		
PL.89	55	こも編み石	裏面割離、下 端欠損	長幅 (13.1) 幅6.4	厚重 (3.6) 430	黒色片岩	厚板状の円礫を用いる。中に幅3.9cmの摩耗痕一週。		
PL.89	56	こも編み石	中位以下欠損	長幅 (8.7) 幅7.1	厚重 2.9 242	粗粒輝石安山岩	横断面縦長の三角形形状を呈する板状の円礫を用いる。残存部下端に幅1.9cm以上の摩耗痕一週。		
PL.90	57	こも編み石	上端・左側縁欠 損	長幅 (18.1) 幅(6.5)	厚重 4.7 977	緑色片岩	平面形が縦長の楕円形を呈する河床礫使用。中に幅4.4cmを測る摩耗痕一週。		
PL.90	58	こも編み石	上端・下位欠損	長幅 (15.4) 幅(7.1)	厚重 4.5 846	粗粒輝石安山岩	厚板状の河床礫使用。残存部下位に幅3.9cmを測る帯状の摩耗痕一週。		
PL.90	59	こも編み石	二折、右側縁 割離	長幅 16.8 幅(7.5)	厚重 3.6 614	流紋岩	横断面三角形を呈する河床礫使用。右側縁下位の自然の窪みを利用し、中に幅4.5cmを測る摩耗痕一週。		
18号竪穴建物									
採 掘 Pl.No.	No.	種 類	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考		
第52回	1	土師器 杯	口縁部～体部	口 底	(11.0) (9.6)	高 底	(3.0) (3.0)	細砂粒/酸化塩/橙	口縁横撫で。体部～底部内面時計回りの段撫で、外面時計回りの段削り。
19号竪穴建物									
採 掘 Pl.No.	No.	種 類	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考		
第550回 PL.90	1	土師器 杯	1/4	口 底	[8.0] [4.0]	高 底	2.2	細砂粒/酸化塩/橙	回転轆轤成形か。底面手持ち段削り。
第550回 PL.90	2	土師器 皿	1/2	口 底	10.0 5.0	高 底	2.2	粗砂粒。片岩含む/酸化塩/褐	口縁部内面に紐状の粘土付着。内面体部時計回り、底部一方への段撫で、体部上位左上方、体部下位～腰部右下方への段削り。底面段削りか。
第550回 PL.90	3	土師器 鉢	口縁部～体部	口	[18.8]	高	(8.1)	粗砂粒。多/酸化塩/明赤褐	口縁横撫で。体部内面横撫での段撫で、外面下方への段削り。
第550回 PL.90	4	土師器 須恵器	口縁部～胴部	口	[29.0]	高	(6.5)	粗砂粒。片岩含む/酸化塩/褐	口縁屈面し、横撫で。胴部内面横撫での段撫で、外面段削りか。
第550回 PL.90	5	須恵器 高台付輪	3/4	口 台	[14.4] [7.0]	高 底	5.6	細砂粒/酸化塩/橙	口縁部ゆがみ。内面一部被部～底部に煤付着。右回転轆轤成形。底面切り離し後高台貼り付け。指撫で。
第550回	6	須恵器 高台付輪	底部～高台	底	5.7	台 底	8.0 (3.2)	粗砂粒/酸化塩/橙	右回転轆轤成形。高台貼り付け後底面回転轆轤で。
第550回	7	須恵器 高台付輪	体部～高台	底	6.5	高	(1.8)	細砂粒/酸化塩/にぶい黄橙	回転轆轤成形。高台貼り付け後底面調整。高台中・下位欠失。

種 別 PL.No.	No.	種 類 種 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考	
第55図 PL.90	8	須臾器 小型高台付 椀	一部欠損	口 9.2 台 4.8	高 3.1	細砂粒少量/酸化 焼+還元焼/橙	器面摩耗顕著。右回転軸輪成形。底面切り離し後高台貼り 付け。	
第55図	9	須臾器 蓋	鈕部～天井部			細砂粒/還元焼/ 灰白	右回転軸輪成形。皿状の鈕部貼付。鈕上位と天井外周部欠 損。	
第55図	10	須臾器 甕	体部	長 7.7 幅 8.1		粗砂粒/還元焼/ 灰白	内面同心円印記、外面撫で。	
第55図 PL.90	11	須臾器 羽釜	口縁部～肩部 片	口 25.4	高 7.0	粗砂粒/酸化焼/ 赤褐色	造り粗く隆尻。内面横位の撫で。外面口縁部～肩部横位の 撫で、体部上方への炭削り。	
第56図 PL.90	12	敲石・磨石・ こも編み石	クラック入り、 一部欠	長 16.3 幅 7.6	厚 5.8 重 1093	粗粒輝石安山岩	横断面形状を呈する石材を用いる。上端に敲打痕残り、 表裏左右面に研磨面残る。中に幅2.9cmの摩耗痕一周。	
第56図 PL.90	13	矢筈研磨器	右上部破片	長 18.4 幅 15.4	厚 4.4 重 1576	砂岩	板状の石材使用。右縁部の過平に加工。上端部自然面残 る。表面に溝状の削痕跡残る。	

20号壁穴建物

種 別 PL.No.	No.	種 類 種 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考	
第58図	1	土師器 杯	口縁部			細砂粒/酸化焼/ 橙	焼成甘い。内外面やや荒れる。口縁撫で。体部～底部内 面反時計回りの撫で。外面炭削り。	
第58図 PL.90	2	土師器 甕	口縁部～体部 上半1/4	口 15.0	高 5.8	細砂粒/酸化焼/ 橙	口縁撫で。体部内面左方への撫で、外面左方への炭削り あり。	

21号壁穴建物

種 別 PL.No.	No.	種 類 種 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考	
第61図	1	土師器 杯	3/4	口 14.5 底 8.4	高 4.7	細砂粒/酸化焼/ 橙	器面荒れる。口縁撫で。体部内面横位の撫で、外面横 位の炭削り。底部内面(反時計回りの)撫で、底面一方へ の炭削りあり。	
第61図	2	土師器 杯	口縁部～腰部		高 3.3	細砂粒/酸化焼/ 黄褐色	内外面やや荒れる。口縁撫で。体部内面横位の撫で、 外面炭削り。	
第61図	3	土師器 甕	口縁部～肩部	口 22.0	高 7.9	細砂粒/酸化焼/ 橙	焼成やや甘く内外面やや荒れる。口縁撫で。肩部内面反 時計回りの撫で。外面横位の炭削り。	
第61図	4	土師器 甕	口縁部～肩部	口 22.0	高 6.3	細砂粒/酸化焼/ 橙	内外面やや荒れる。口縁は十字状口縁撫で。肩部内面横 位の撫で。外面炭削り。	
第61図 PL.90	5	土師器 台付甕	腰部～高台部 1/4	台 14.0	高 4.1	細砂粒/酸化焼/ にぶい橙	器面やや荒れる。腰部～底部内面炭削り、外面炭削り。高 台部内面撫で。台部内面頂部撫で。	
第61図 PL.90	6	敲石・磨石	下方・裏面欠損	長 10.4 幅 5.7	厚 2.6 重 216	変質緑岩	棒状の内摩使用。上端に敲打痕残り、表面と右側面に研 磨面形成される。	
第61図 PL.91	7	敲石・磨石・ こも編み石	完形	長 10.4 幅 5.2	厚 2.8 重 258	変質安山岩	縦長の内摩使用。上下端部に敲打痕残り。裏面に研磨面。 中に幅2.6cmの摩耗痕一周。	
第61図 PL.91	8	敲石・こも 編み石	完形	長 12.5 幅 5.9	厚 3.2 重 319	砂岩質準片岩	平面形楕円の内摩使用。右縁斜りによる調整。下端に 敲打痕残り、横位に幅2.4cmの摩耗痕一周。	
第61図 PL.91	9	敲石・こも 編み石	完形	長 9.9 幅 5.9	厚 2.5 重 205	変質安山岩	短棒状の内摩使用。上端に敲打痕残り、中に幅2.9cmの 摩耗痕一周。	
第61図 PL.91	10	敲石・こも 編み石	完形	長 16.9 幅 4.3	厚 3.1 重 467	変玄武岩	角板状の石材を用いる。上端に敲打痕残り、中に幅3.0cm の摩耗痕一周。	
第61図 PL.91	11	敲石・こも 編み石	完形	長 15.6 幅 7.1	厚 3.4 重 710	変玄武岩	平面形縦長三角形の板状の石材を用いる。上端に敲打痕 残り、中に幅3.3cmの摩耗痕一周。	
第61図 PL.91	12	敲石・こも 編み石	上端裏面に割 離	長 15.6 幅 7.4	厚 3.3 重 617	変玄武岩	横断面三角形を呈する河床礫使用。上端に敲打痕残り。 下位の左側縁裏面割離りの割離。右側面の表裏からの敲打 痕により造られる抉れを利用し、下に幅3.4cmを測る摩 耗痕一周する。	
PL.91	13	こも編み石	完形	長 11.5 幅 5.7	厚 2.8 重 283	変質安山岩	平面形楕円形、板状の石材を用いる。中に幅2.8cmの摩 耗痕一周。	
PL.91	14	こも編み石	完形	長 11.5 幅 5.0	厚 3.5 重 257	珪質頁岩	平面形楕円形、横断面三角形を呈する石材を用いる。中 位に幅2.3cmの摩耗痕一周。	
PL.91	15	こも編み石	完形	長 12.5 幅 5.2	厚 3.6 重 309	礫岩	平面形楕円形板状の石材使用。左右の湾曲面利用し、中 下に幅3.2cmの摩耗痕一周。	
PL.91	16	こも編み石	完形	長 9.9 幅 5.6	厚 3.6 重 232	変質安山岩	平面形楕円形の内摩使用。上端に敲打痕残り、中に幅2.6cm の摩耗痕一周。	
PL.91	17	こも編み石	完形	長 10.7 幅 4.6	厚 2.6 重 203	デイスait	板状の石材使用。中に幅2.6cmを測る帯状の摩耗痕一周。 小型品	
PL.91	18	こも編み石	完形	長 10.6 幅 6.2	厚 3.5 重 304	粗粒輝石安山岩	平面形楕円形を呈し、裏面に割離の現れる河床礫使用。 左側縁の割離による自然の抉れを利用し、中に幅3.4cm を測る摩耗痕一周。	
PL.91	19	こも編み石	完形	長 12.5 幅 5.5	厚 4.1 重 422	粗粒輝石安山岩	横断面形状を呈する厚板状の河床礫使用。中位やや上 方に幅3.8cmを測る帯状の摩耗痕一周。	
PL.91	20	こも編み石	完形	長 8.4 幅 5.5	厚 3.7 重 235	粗粒輝石安山岩	縦・横断面共に台形を呈する河床礫使用。中位やや上 位寄りに幅2.4cmを測る帯状の摩耗痕一周。	小型品
PL.91	21	こも編み石	完形	長 15.3 幅 6.5	厚 3.4 重 466	変質安山岩	横断面三角形を呈する河床礫使用。右側縁下位の自然の 強い抉れを利用し、幅3.3cmの摩耗痕一周。	
PL.91	22	こも編み石	右縁下位割 離	長 13.2 幅 6.1	厚 2.8 重 406	緑色片岩	板状の石材を用いる。中に幅3.2cmの摩耗痕一周。	
PL.91	23	こも編み石	中・下位欠 損	長 17.7 幅 5.8	厚 4.1 重 232	砂岩	棒状の内摩使用。残存部下端に、幅1.4cm以下の摩耗痕一周。 (4.1)	

南蛇井北原田遺跡 遺物観察表

種 類 PL.No.	No.	種 類 種 類	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考	
第61回 PL_91	24	鉄製品 火打金	ほぼ完形	長さ 5.4 高さ 2.45	厚 0.35 重 12.5	/有/20	山形の火打金。表面は錆に覆われている部分が多い。	
22号竪穴建物								
種 類 PL.No.	No.	種 類 種 類	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考	
第62回	1	土師器 杯	口縁部～腰部	口 12.0 高 (3.8)	高 (3.8)	細砂粒/酸化塩/橙	内外面やや荒れる。口縁横撫で。体部内面横撫で、外面時計回りの発掘り。	
第62回	2	土師器 杯	口縁部～底部	長 (8.5) 幅 (6.0)	高 2.6	細砂粒/酸化塩/橙	内外面やや荒れる。口縁横撫で。体部～底部内面横撫で、外面時計回りの発掘り。	
23号竪穴建物								
種 類 PL.No.	No.	種 類 種 類	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考	
第63回	1	土師器 杯	口縁部～体部	長 (3.9) 幅 (7.4)	高 (3.3)	細砂粒/酸化塩/にぶい橙	内外面荒れる。口縁横撫で。体部内面横撫で、外面発掘り。	
第63回	2	土師器 杯	口縁部～体部	長 (3.1) 幅 (4.0)	高 (3.1)	細砂粒/酸化塩/橙	口縁横撫で。体部内面横撫での後、口縁部～体部内面斜方向の発掘。体部外面発掘り。	
24号竪穴建物								
種 類 PL.No.	No.	種 類 種 類	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考	
第66回 PL_92	1	土師器 杯	3/4	口 15.3 幅 (7.4)	高 4.3	細砂粒/酸化塩/橙	口縁横撫で。体部～底部内面反時計回りの発掘で、体部外面反時計回りの発掘り。底面一方向中心の発掘り。	
第66回	2	土師器 杯	口縁部～体部	口 13.0 幅 (4.0)	高 (4.0)	細砂粒/酸化塩/橙	口縁横撫で。体部～底部内面反時計回りの発掘で、外面時計回りの発掘り。	
第66回	3	土師器 杯	口縁部～体部	口 11.3 幅 (4.2)	高 (4.2)	細砂粒/酸化塩/橙	焼成甘く、表面面荒れる。口縁横撫で。体部内面撫で、外面発掘り。	
第66回 PL_92	4	土師器 碗	口縁部～底部	口 16.9 幅 (5.6)	高 7.3	粗砂粒・片岩含む/酸化塩/橙	口縁厚く、横撫で。体部～底部内面反時計回りの発掘で一部指撫で。体部外面～底部時計回りの発掘り。	
第66回	5	土師器 碗	口縁部～肩部	口 21.0 幅 (5.5)	高 (5.5)	粗砂粒/酸化塩/橙	口縁横撫で。肩部内面横撫での後、外面上方への発掘り。	
第66回	6	土師器 碗	口縁部～肩部 1/2	口 15.8 幅 (5.7)	高 (5.7)	粗砂粒/酸化塩/橙	内外面やや荒れる。口縁横撫で。肩部内面反時計回りの発掘で、外面上方への発掘り。	
第66回	7	土師器 体部	体部	幅 (16.1)	高 (18.0)	粗砂粒/酸化塩/にぶい赤褐色	焼成良好。内面から、体部内面横撫での後、外面上位右下方、下位横撫での発掘り。	
第66回	8	土師器 小型甕	口縁部～体部	口 13.0 幅 (7.6)	高 (7.6)	粗砂粒・片岩含む/酸化塩/にぶい褐色	口縁横撫で。体部内面横撫での後、指痕痕残り、外面上方への発掘り。	
第66回	9	土師器 小型甕	口縁部～肩部	口 13.0 幅 (5.2)	高 (5.2)	粗砂粒・片岩含む/酸化塩/橙	口縁横撫で。肩部内面時計回りの発掘で、一部肩部下に指痕痕残り。外面上方への発掘り。	
第66回	10	土師器 小型甕	口縁部～体部	口 14.0 幅 (4.2)	高 (4.2)	粗砂粒・片岩含む/酸化塩/にぶい赤褐色	口縁横撫で。体部内面横撫での後、外面上方へと思われる発掘り。	
第67回 PL_92	11	敲石・こも 編み石	左側縁一部欠損	長 14.7 幅 8.3	厚 4.5 重 721		ダイヤサイト	やや扁平な円盤を用いる。上端に敲打痕残り、表面に研磨面残り。中上位に幅3.2cmの摩耗痕一周。
第67回 PL_92	12	天井石	左右側・奥側欠損。縁辺も欠く	長 (12.0) 幅 (27.9)	厚 7.0 重 3275		砂岩	直方体加工。表面と手前面に研磨面残り。裏面は被熱しにぶい赤褐色に変色し、荒れる。
PL_92	13	こも編み石	右側面上位割離	長 14.0 幅 5.9	厚 5.1 重 675		粗粒輝石安山岩	角柱状の河床石使用。中位やや上に幅4.1cmの摩耗痕一周。
PL_92	14	こも編み石	裏側割離欠損	長 (13.5) 幅 (6.2)	厚 3.1 重 312		閃緑岩	円盤使用、中位やや下に幅3.4cmの摩耗痕一周。
第67回 PL_92	15	鉄製品 刀子	2/3程度	長 (11.1) 幅 2.35	厚 0.7 重 21.8	/無/大20 中20 小微量		切っ先を含む刃部が残存する。多くが鋭い錆に覆われている。
25号竪穴建物								
種 類 PL.No.	No.	種 類 種 類	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考	
第70回	1	土師器 杯	口縁部～底部	長 (5.1) 幅 (6.2)	高 (6.2)	細砂粒/酸化塩/橙	焼成やや甘く、表面面荒れる。口縁横撫で。体部～底部内面横撫で、外面発掘り。	
第70回 PL_92	2	土師器 杯	口縁部～体部 1/2	口 22.0 幅 (27.9)	高 (22.5)	粗砂粒・片岩含む/酸化塩/橙	外面割離以下現況。口縁横撫で。体部内面反時計回りの発掘で、外面肩部は横撫で、割離は斜め上方への発掘り。	
第70回 PL_92	3	土師器 片	口縁部～肩部 片	口 [26.0] 幅 (9.0)	高 (9.0)	粗砂粒・片岩含む/酸化塩/にぶい赤褐色	口縁横撫で。肩部内面反時計回りの発掘で、外面上方への発掘り。	電機道に使用
第70回 PL_92	4	敲石・こも 編み石	表面一部割離	長 13.3 幅 6.2	厚 3.3 重 631		砂岩	棒状の円盤使用。上端に敲打痕残り、右側縁中位に敲打痕による整形があり、この位置に幅2.9cmの摩耗痕一周。
第70回 PL_92	5	土製品 一端欠損	一端欠損	長 2.0 幅 0.5	厚 0.5 重 0.5	細砂粒/酸化塩/黄	径2mmの孔を通す管玉様の土製品。形状は取れ気味。掘棒に粘土を巻いて置き上げるのであろうか。詳細は不明。	
PL_92	6	こも編み石	完形	長 8.0 幅 3.5	厚 2.1 重 86		珩質準片岩	厚板状の石材使用。中位に幅2.3cmの摩耗痕一周。
PL_92	7	こも編み石	中・下位切断欠損	長 (8.8) 幅 (6.9)	厚 4.1 重 368		変質安山岩	厚板状の石材使用。残存下部に幅2.2cm以上の摩耗痕一周。

26号竪穴建物

採掘 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第7509 PL_93	1	土師器 杯	口縁部1/4欠損	口 14.0 高 4.8	細砂粒/酸化塩/ ぶい橙・黒	内外面吸炭による黒色処理。口縁横撫で。体部～底部内面 反時計回りの旋撫で、外面旋撫り。		
第7509 PL_93	2	土師器 杯	2/3	口 12.6 高 4.6	細砂粒/酸化塩/ 橙	内外面吸炭による黒色処理。口縁横撫で。体部～底部内面 反時計回りの旋撫で、外面時計回りの旋撫り。		
第7509 PL_93	3	土師器 高坏	胴部	幅 [10.1]	高 (6.7)	細砂粒/酸化塩/ 橙	胴部内面輪積み痕残り。横筋の旋撫で外、外面下方への旋 撫り後、縦位の磨き。	
第7509 PL_93	4	土師器 甕	(5/6)	口 [14.0] 底 7.0	高 23.0	粗砂粒。片岩含 む/酸化塩/橙	口縁直立し外面有段状を呈し、体部は丸く、底部は丸底状 を呈する。口縁横撫で。体部～底部内面反時計回りの旋撫 で。胴部外面横位の刷毛目。胴部外面時計回り、腰部下位 下方への旋撫り。	
第7509 PL_93	5	土師器 甕	口縁部～腰部	口 18.0	高 (28.9)	粗砂粒。片岩含 む/酸化塩/ぶい 橙	内外面やや磨られる。内面下部以下に吸炭の痕跡。外面胴部 以下に吸炭。口縁横撫で。体部内面反時計回りの旋撫で、 外面中・上位上方へ、下位縦位の旋撫り。	
第7509 PL_93	6	土師器 甕	口縁部～体部	口 [16.6]	高 (21.2)	粗砂粒。片岩含 む/酸化塩/ぶい 橙	体部外面に輪積み痕残り、中位に一部下方マド構築材付着。 口縁横撫で。体部内面反時計回りの旋撫で、外面上位上方 へ、下位は下方への旋撫り。上端は削り後横撫で。	
第7509 PL_93	7	土師器 甕	体部～底部	底 5.0	高 (10.0)	粗砂粒。片岩含 む/酸化塩/ぶい 橙	内面体部反時計回りの旋撫で、底部直撫で。外面胴部縦位 の旋撫り後部分的に右方向へ、腰部右上方より縦横筋。下位 は横位の旋撫り。底部との接合痕跡明確。底面旋撫りで、 木炭痕。	6世紀
第7509 PL_93	8	土師器 甕	腰部～底部	底 6.4	高 (7.0)	粗砂粒。片岩含 む/酸化塩/ぶい 赤褐色	腰部～底部内面反時計回りの旋撫で。腰部外面右下方への 旋撫り。底面旋撫りか。	
第7509 PL_93	9	土師器 小型甕	口縁部～底部	口 16.4 底 6.0	高 15.5	粗砂粒。片岩含 む/酸化塩/橙	器面荒れ、一部がせす。口縁横撫で。体部内面反時計回り、 底部内面一方方向への旋撫で。体部外面上位右または左方 へ、下位右下方への旋撫り。底面旋撫りか。	
第7609 PL_93	10	磨石・丸石	ほぼ完形	長 8.8 幅 6.8	厚 6.0 449	泥岩	楕円球状の石材使用。裏面と左右側面の一部に研磨面残る。	
第7609 PL_93	11	敲石・こも 編み石	表裏面上位割 れ	長 9.1 幅 5.7	厚 4.9 398	変玄武岩	下端に斜切断。表裏面に剝離面残る字形の石材を用いる。 上端に斜切断あり。中に縦筋2.0cmの磨耗痕あり。	
第7609 PL_93	12	台石	完形	長 38.1 幅 36.0	厚 9.0 22300	溶結凝灰岩	平面ハート形の厚板状の石材使用。自然石を利用。表面に 研磨面残る。	
PL_93	13	こも編み石	裏面中・下位割 れ	長 13.9 幅 8.2	厚 5.0 763	砂岩	厚板状の河床礫使用。中に幅4.3cmの磨耗痕一箇。	

27号竪穴建物

採掘 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第8009 PL_93	1	土師器 杯	口縁部～底部 2/3	口 [15.4] 底 [13.0]	高 5.0	細砂粒/酸化塩/ 橙	口縁部～内面体部七位横撫で。体部～底部内面旋撫で、外 面時計回りの旋撫り。	
第8009 PL_93	2	土師器 杯	口縁部～底部 2/3	口 16.0 底 13.0	高 4.8	細砂粒/酸化塩/ 橙	口縁反折し、口縁部～体部内面上位横撫で。体部内面反時 計回りの旋撫で、外面反時計回りの旋撫り。	
第8009 PL_93	3	土師器 杯	口縁一部欠損	口 15.6	高 5.0	細砂粒/酸化塩/ 橙	口縁部～体部上位内面横撫で。体部～底部内面旋撫で、外 面旋撫り。	
第8009 PL_93	4	土師器 杯	2/3	口 12.0	高 4.7	細砂粒/酸化塩/ 橙	杯身。内面吸炭による黒色処理の痕跡。口縁横撫で。体部 ～底部内面旋撫で後放射状基本とする磨き。体部外面旋 撫り。底面一方方向への旋撫り。	
第8009 PL_93	5	土師器 杯	ほぼ完形	口 12.6	高 4.9	細砂粒/酸化塩/ ぶい橙	内外面吸炭による黒色処理(痕跡)。口縁部～体部内面横撫 で。底部内面旋撫で。体部外面～底部反時計回りの旋撫り後、 撫で～磨き。	
第8009 PL_93	6	土師器 杯	2/3	口 [13.0]	高 4.4	細砂粒/酸化塩/ 橙	内外面吸炭による黒色処理の痕跡残る。器面荒れる。口縁 横撫で。体部～底部内面(反時計回りの)旋撫で、外面旋撫り。	
第8009 PL_93	7	土師器 杯	口縁部1/4欠損	口 12.7 底 4.6	高 4.5	細砂粒/酸化塩/ 灰	内面吸炭による黒色処理。研磨光沢。内面の腰部下部に段を つけて丸底状の作りとする。口縁横撫で。体部～底部内面 時計回りの旋撫で、外面旋撫り。	
第8009 PL_93	8	土師器 杯	1/3	口 14.0	高 4.0	細砂粒/酸化塩/ 明赤褐色	底部外面平砥縁。底部内面に段差つける。体部外面厚縁。 外面腰部～底部厚縁磨き。内外面荒れる。内面腰部段。口 縁横撫で。体部内面横位の旋撫でで横一研磨。底部内面指 撫で。体部外面(上方への)旋撫り。底面旋撫りか。	
第8009 PL_93	9	土師器 杯	口縁部～底部	口 13.0	高 (4.5)	細砂粒/酸化塩/ 橙	器面荒れる。口縁横撫で。体部～底部内面旋撫り。外面旋 撫り。	
第8009 PL_94	10	土師器 杯	口縁部～底部	口 13.0	高 (4.2)	細砂粒/酸化塩/ 橙	口縁横撫で。体部～底部内面反時計回りの旋撫で、外面反 時計回りの旋撫り。	
第8009 PL_94	11	土師器 杯	口縁部～底部	口 12.5	高 4.1	細砂粒/酸化塩/ 橙/黒褐色	内面と口縁部外面横撫による黒色処理。口縁横撫で。体部 ～底部内面反時計回りの旋撫で、外部時計回りの旋撫り。	
第8009 PL_94	12	土師器 杯	口縁部～腰部 1/3	口 [15.5] 底 [12.0]	高 (4.3)	細砂粒/酸化塩/ 橙	口縁反折し横撫で。体部内面(反時計回りの)旋撫で、外面 反時計回りの旋撫り。	
第8009 PL_94	13	土師器 杯	口縁部～底部	口 18.0	高 5.8	細砂粒/酸化塩/ 橙	体部外面横位旋撫り。体部内面横撫で。底部外面旋撫り。 底部内面横撫で。体部内面に幅1.5～2.0cmの縦位増支帯を ほぼ等間隔に施し、底部内面に縦位増支帯を加える。	8世紀
第8009 PL_94	14	土師器 甕	5/6	口 19.0 底 5.7	高 32.9	粗砂粒。片岩含 む/酸化塩/橙	腰部下位外面に焼上りした方木材付着。口縁横撫で。体 部内面反時計回りの旋撫で。底部縦位の旋撫でまたは指撫 で、外面胴～胴部上方へ、腰部下方への旋撫り。底面旋撫り。	

南蛇井北原田遺跡 遺物観察表

採 取 No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石 材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第80図 PL-94	土師器 片岩含む/酸化塩/橙	体部~底部	底 6.9 高 (19.9)	粗砂粒。片岩含む/酸化塩/橙	底部丸状。ゆがみあり。体部内面荒れる。体部~底部内面反時計回りの旋削で。体部外面中・上位上方、下位下方への旋削り。底面旋削り。	
第81図 PL-94	土師器 小型甕	3/4	口 13.8 底 7.4 高 14.0	粗砂粒。片岩含む/酸化塩/橙にぶい橙	底部が意図的に厚い作り。体部~底部、外面側部・底面吸灰。口縁横線で。体部内面反時計回りの旋削で、外面左上方向への旋削り。底面内面旋削で。底面旋削り。	
第81図 PL-94	土師器 小型甕	口縁部~腰部	口 14.0 高 (11.9)	細砂粒/酸化塩/にぶい橙	内面保付者の痕跡。口縁部横線で。体部内面反時計回りの旋削で、外面左上方向への、中下位右方向への旋削り。	
第81図 PL-94	土師器 小型甕	口縁部~体部	口 15.0 高 (9.0)	粗砂粒/酸化塩/橙	内外面吸灰の痕跡。口縁横線で。体部内面反時計回りの旋削り。	
第81図 PL-94	土師器 甕	一部欠損	口 22.7 底 10.5 高 27.4	粗砂粒/酸化塩/にぶい橙	内外面側部荒れる。底部穿孔。口縁横線で。肩~胴部内面反時計回りの旋削で。孔削りによる整形。外面肩~腰部上位側位の旋削り、腰部下位側位の旋削り。	
第81図 PL-94	土師器 甕	完形	口 16.0 底 5.7 高 13.2	粗砂粒。片岩含む/酸化塩/橙	焼成良好。口縁横線で。体部~底部内面反時計回りの旋削で、外面頸部下右方、以下左上方への旋削り。底面旋削で中央に径1.4cmの円孔穿たれる。	
第81図 PL-94	須恵器 甕	口縁部	口 24.0 高 [4.3]	粗砂粒/還元焼/灰白	断面荒れる。表面保付者。内外面横位の旋削で。	
第81図 PL-94	須恵器 甕	口縁部	口 [24.1] 高 [6.4]	粗砂粒/還元焼/灰白	断面かせる。内外面横位の旋削で。	
第82図 PL-94	砥石	上下切断	長 17.8 厚 11.3 重 1413	砂岩	厚板状に加工され、使用痕を含み平面形は分銅状を呈する。裏面に格子目状の細かい整形痕が残る。表面は研磨され、左右両側面は内湾したきれいな研磨面形成。	
第82図 PL-95	砥石	西側欠損	長 18.0 厚 7.0 重 1746	砂岩	裏面に凹凸のある自然面残す石材を使用し、表面を左右に分け、横断面形変形を呈する研磨面形成。	
第82図 PL-95	砥石・こも 編み石	下側欠損	長 11.2 厚 6.0 重 502	砂岩	箱形状の河床礫使用。上端に最打痕、裏面に研磨痕残る。中に幅3.5cmの摩耗痕一周。	
第82図 PL-95	砥石・こも 編み石	完形	長 12.9 厚 5.6 重 465	砂岩	横断面三角形を呈し、右側縁中・上部が欠ける石材を使用。上端に最打痕残り、右側縁の段差を利用して中に幅3.1cmの摩耗痕一周。	
第82図 PL-95	砥石・こも 編み石	表面下側割離	長 13.2 厚 5.3 重 427	粗粒輝石安山岩	横断面形長方形を呈する楔形の石材使用。上端に最打痕残り、中に幅4.2cmの摩耗痕一周。	
第82図 PL-95	砥石・こも 編み石	下側部欠損	長 (12.2) 厚 5.4 重 393	蛇紋岩	靴形を呈する河床礫を使用する。上端に最打痕残り、中位表面の段差付近を幅3.9~4.9cmの摩耗痕一周。	
第83図 PL-95	砥石・こも 編み石	表面下側割離	長 17.5 厚 7.1 重 839	粗粒輝石安山岩	横断面形錐錐形を呈する河床礫使用。上端に最打痕残り、中に幅4.8cmの摩耗痕一周。	
第83図 PL-95	砥石・こも 編み石	ほぼ完形	長 14.0 厚 6.4 重 762	粗粒輝石安山岩	横断面形三角形を呈する河床礫。上端に顕著な最打痕残り、中下位に幅4.5cmを測る摩耗痕一周。	
第83図 PL-95	砥石・こも 編み石	完形	長 13.8 厚 7.3 重 491	粗粒輝石安山岩	横断面二等辺三角形で蓋状の平面形を呈する河床礫使用。上端に最打痕残り、中位~上位にかけて幅4.0cmを測る摩耗痕一周。	
第83図 PL-95	砥石・こも 編み石	完形	長 14.3 厚 6.4 重 699	粗粒輝石安山岩	丸棒状の河床礫使用。上端に最打痕残り、中に幅3.4cmを測る摩耗痕一周。表面から左側面に3条の短い滑跡残る。	
PL-95	こも編み石	完形	長 8.6 厚 4.0 重 152	珉質単片岩	横断面形三角形を呈する河床礫を用い、右側面上寄りの自然の窪みを利用して、幅2.5cmの摩耗痕一周。	
PL-95	こも編み石	完形	長 10.7 厚 5.5 重 288	砂岩	裏面と左側面が割離した。横断面形菱形の角柱状の石材を使用。中に幅2.9cmの摩耗痕一周。	
PL-95	こも編み石	完形	長 15.2 厚 6.0 重 830	デイスait	横断面形錐形を呈する河床礫使用。中に幅3.9cmの摩耗痕一周。	
PL-95	こも編み石	完形	長 12.9 厚 6.0 重 423	デイスait	ミカンの房状の河床礫用いる。中に幅4.2cmの摩耗痕一周。摩耗痕に黒色土付着。	
PL-95	こも編み石	完形	長 15.1 厚 7.6 重 918	粗粒輝石安山岩	横断面形三角形を呈する角柱状の河床礫使用。中位や上方に幅3.7cmを測る摩耗痕一周。	
PL-95	こも編み石	完形	長 15.4 厚 6.4 重 642	凝灰質砂岩	ミカンの房状の石材を使用する。中位左側縁の湾曲を利用して、幅3.8cmの摩耗痕一周する。	
PL-95	こも編み石	下側欠損	長 (7.6) 厚 (5.9) 重 163	デイスait	横断面形三角形の河床礫使用。残存部下端に幅1.6cm以上の摩耗痕一周。	
PL-95	こも編み石	表面上位割離	長 11.9 厚 6.9 重 504	変質安山岩	楕円形の平面形を呈し、下半の横断面形は三角形を呈する河床礫使用。裏面の湾曲を利用して、中位上寄りに幅2.8cmの摩耗痕一周。	
PL-95	こも編み石	上半切断欠損	長 (9.6) 厚 6.5 重 393	粗粒輝石安山岩	横断面形三角形を呈する河床礫使用。表面の割離部分を用いて、残存部上位に幅3.8cm以上の摩耗痕一周。	
PL-95	こも編み石	上端部欠損	長 (13.8) 厚 7.6 重 574	新羅燧石	横断面形楕円形、平面形直角三角形を呈する河床礫使用。中に幅3.9cmを測る摩耗痕一周。	上端最打の可能性
PL-95	こも編み石	上端部欠損	長 (14.8) 厚 6.4 重 489	粗粒輝石安山岩	縦断面三角形、横断面方形を呈する河床礫使用。中位や上方に幅4.4cmを測る摩耗痕一周。	
PL-95	こも編み石	上下端部欠損	長 (10.8) 厚 6.1 重 292	凝灰質砂岩	横断面形楕円形を呈する河床礫使用。残存部下端に幅2.9cm以上の帯状の摩耗痕残る。	

採 取 No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石 材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第85図	土師器 杯	口縁部~底部	口 14.0 高 4.5	細砂粒/酸化塩/橙	焼成やや不良で断面荒れる。口縁横線で。外面体部~底部時計回りの旋削り、底部内面旋削で。	

種 別 PL.No.	No.	種 類	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第85図 PL.96	2	須恵器 椀	口縁部～体部	幅 [6.5] 底 [5.6]		細砂粒/還元焼/ 灰白	回転轆轤成形。	
第85図 PL.96	3	須恵器 羽釜	口縁部～肩部 上位	口 20.0	高 [6.3]	粗砂粒/還元焼/ 灰	口縁横撫で。肩部内外面横位の撫で。	
第85図	4	須恵器 羽釜	体部	幅 [14.4] 底 [10.8]		粗砂粒/還元焼に 酸化焼/ぶい増 /灰白	上面上方へ発削り、横位の指調痕一列、裏面横位の撫で。	
第85図	5	灰釉陶器	底部	台 8.0		細砂粒/還元焼/ 灰白	右回転轆轤成形。一部に軸。	

29号壁穴建物

種 別 PL.No.	No.	種 類	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第88図 PL.96	1	土師器 甕	胴部下位～底部	口 5.6	高 (12.0)	粗砂粒、片岩含 む/酸化焼/ぶい 増	薄手。体部内面反時計回りの撫で、外面右下方へ発削り。底部内面撫で。底面発削り後径3.8cmの穿孔。	9世紀
第88図 PL.96	2	須恵器 杯	1/2	口 14.0 底 9.8	高 3.7	細砂粒/内面酸化 焼、外面還元焼/ 内面にぶい増、 外面灰白	右回転轆轤成形。底面回転系切り。胴部下位外面発調整。	
第88図 PL.96	3	須恵器 杯	1/6	口 [12.0] 底 [5.0]	高 3.5	細砂粒/還元焼/ 灰白	内外面一部炭戻。回転轆轤成形。底面回転系切り。	
第88図 PL.96	4	須恵器 杯	1/3	口 [13.6] 底 [8.2]	高 4.1	細砂粒/還元焼/ 灰白	回転轆轤成形。底面手持ち発調整。底部外面に2本の彫刻。	
第88図 PL.96	5	須恵器 高台付椀	腰部～高台	台 6.6	高 3.7	細砂粒/還元焼/ 灰白	右回転轆轤成形。底面回転系切り後撫で。高台貼付け。	
第88図 PL.96	6	須恵器 高台付椀	腰部～底部 高台欠	底 5.0	高 2.6	細砂粒/還元焼/ 灰白/灰	(左)回転轆轤成形。高台貼付け。	
第88図 PL.96	7	須恵器 小型甕	口縁部～体部	口 17.7	高 (21.2)	粗砂粒/還元焼/ 灰白	内面肩下6.0cmほどのところに藍色ラインあり。ここまで水等の液体が入っていたか。口縁横撫で。体部内面横位の撫で、外面横位の撫で。	
第88図 PL.97	8	敲石・こも 編み石	完形	長 13.1 幅 6.2	厚 重 4.4 411	砂岩	横断面三角形縁、平面形舟形を呈する河床礫使用。上端に敲打痕残り。中位やや上寄りに幅3.3cmを測る摩耗痕一周。	
第88図 PL.97	9	敲石・こも 編み石	下端、裏面右 側・下部欠損	長 [13.6] 幅 6.0	厚 重 (4.5) 469	粗粒輝石安山岩	横断面形逆三角形、平面形梯四角形を呈する河床礫使用。裏面被熱。上端に敲打痕残り。中位やや上寄りに幅3.7cmを測る摩耗痕一周。	
第88図 PL.97	10	敲石・こも 編み石	完形	長 10.6 幅 3.9	厚 重 2.9 205	粗粒輝石安山岩	横断面台形形状を呈する石材使用。上端に敲打痕残り、中位に幅2.8cmの摩耗痕一周。	
第88図 PL.97	11	敲石・こも 編み石	完形	長 12.8 幅 7.8	厚 重 4.9 728	粗粒輝石安山岩	横断面三角形を呈する河床礫使用。上端に敲打痕残り。右側縁中下位に敲打痕による浅い窪みを作り、左側面に浅い削り条を施し、この位置に幅3.2cmの摩耗痕一周。	
第88図 PL.97	12	こも編み石	完形	長 10.9 幅 6.1	厚 重 3.4 291	粗粒輝石安山岩	横断面形錐錐形を呈する河床礫使用。平面形は瓢箪形を呈する。左右両側に敲打による湾面を形成し、ここに幅2.5cmを測る摩耗痕一周。	
PL.97	13	こも編み石	完形	長 13.1 幅 5.1	厚 重 5.4 472	砂岩	短斧形の石材使用。中位に幅3.5cmの摩耗痕一周。	
PL.97	14	こも編み石	完形	長 11.7 幅 4.8	厚 重 3.6 255	砂岩	冠球状を呈する河床礫使用。中位に幅3.3cmを測る摩耗痕一周。	
PL.97	15	こも編み石	裏面中・下段欠 損	長 13.4 幅 5.6	厚 重 (4.0) 391	粗粒輝石安山岩	横断面形菱形、平面形楔形を呈する河床礫使用。中位やや下位に幅3.6cmを測る摩耗痕一周。	
PL.97	16	こも編み石	右下隅部欠損	長 14.0 幅 (6.7)	厚 重 3.8 411	粗粒輝石安山岩	横断面形錐錐形、平面形舟形を呈する河床礫使用。右側縁の強い湾入を利用し、中位に幅4.4cmの摩耗痕一周。	

30号壁穴建物

種 別 PL.No.	No.	種 類	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第92図	1	土師器 杯	口縁部～底部	口 12.0	高 3.3	細砂粒/酸化焼/ 橙	焼成弱。器面荒れる。口縁横撫で、体部～底部外面回転の発削り。内面反時計回りの撫で。	
第92図	2	土師器 杯	口縁部～体部	口 12.0	高 (3.1)	細砂粒/酸化焼/ 橙	焼成やや弱。器面荒れ、整形痕確認できず。	
第92図	3	土師器 甕	口縁部～体部	口 16.0	高 (9.0)	粗砂粒/酸化焼/ 橙	器面荒れて整形痕確認できず。	
第92図	4	土師器 甕	底部	底 6.0	高 (6.0)	粗砂粒。片岩含 む/酸化焼/ぶい 増	器部外面荒れ、内面反時計回りの撫で後撫で。底面時計回りの発削り。	
第92図	5	須恵器 杯	口縁部～底部	口 12.0 底 8.0	高 4.2	粗砂粒/還元焼/ 灰白	回転轆轤成形。底面回転調整。	
第92図	6	須恵器 蓋	天井部	長 [5.4] 幅 [8.2]		粗砂粒/還元焼/ 灰	回転轆轤成形。端部沿いに発掘き線。	
第92図 PL.97	7	台石	完形	長 32.0 幅 26.5	厚 重 6.5 8500	粗粒輝石安山岩	下方に自然の凹部を有しサドルカーン状を呈する板状の河床礫使用。中部に13.2cm四方の隅丸方形の研磨面を残し、ここに多くの敲打痕残り。削痕も見られる。	
PL.97	8	こも編み石	右側縁中部欠 損	長 14.6 幅 5.2	厚 重 2.4 337	変玄武岩	扁平な河床礫使用。中位に幅3.5cmの摩耗痕一周。	

南蛇井北原田遺跡 遺物観察表

31号竪穴建物

種別 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第959号 PL.98	1	土師器 杯	口縁部～底部	口 12.3 高 3.8	細砂粒/酸化塩/ にぶい赤黒	厚手の作りで重い。底部内面荒れ、剥落多。口縁横撫で、 体部～底部内面回転させ下ろすの痕で、外周段取りり。	
第959号 PL.98	2	土師器 高杯	杯部1/6	口 [16.0] 高 (5.0)	細砂粒/酸化塩/ 橙	器面やや荒れる。脚部欠け。口縁部大きく外反。口縁部横 撫で。体部内面反時計回りの痕で、外周面時計回りの段取りり。	
第959号 PL.98	3	土師器 小型壺	口縁部～体部 1/4	口 [11.0] 高 (8.8)	粗砂粒/酸化塩/ にぶい橙	焼成甘く器面荒れ、摩耗。口縁横撫で、体部内面反時計回 りの痕で、外周段取りり。	
第959号 PL.98	4	土師器 壺	口縁部～体部	口 26.0 高 (18.8)	粗砂粒/酸化塩/ 浅黄橙	口縁部横撫で、体部内面反時計回りの横位の痕で、体部 外面下方への段取りり。	
第959号 PL.98	5	磁石・こも 編み石	左側縁欠損	長 10.3 厚 3.0 幅 6.0 重 229	デイスait	横断面三角形、平面形和傘状を呈する石材使用。表面上端 に研磨痕残り、表面右側縁部に研磨面形成される。中に幅 4.3cmの摩耗痕一週する。	
第959号 PL.98	6	磁石・こも 編み石	完形	長 12.8 厚 5.4 幅 5.9 重 548	デイスait	横断面形薄錐形の河床礫を使用する。上端に敲打痕残り、 中に幅3.2cmの摩耗痕一周。	
第959号 PL.98	7	磁石・こも 編み石	完形	長 13.3 厚 3.8 幅 6.6 重 521	粗粒輝石安山岩	横断面形菱形を呈する厚板状の河床礫使用。上端に敲打痕 有り、中位やや下位に幅4.3cmを測る摩耗痕一周。	
第959号 PL.98	8	磁石・こも 編み石	完形	長 10.4 厚 3.4 幅 7.2 重 358	砂岩	横断面形菱形を呈する河床礫を用いる。上端に敲打痕残り 、中に幅2.1cmの摩耗痕一周。	
第959号 PL.98	9	磁石・こも 編み石	裏面割離、下 縁切断欠損	長 (9.7) 厚 (2.9) 幅 6.4 重 251	変質玄武岩	板状の河床礫使用。上端と表面の残存部下位に敲打痕残り。 表面残存部下位に幅2.4cmの摩耗痕一周。	
第959号 PL.98	10	磁石・こも 編み石	完形	長 11.5 厚 4.8 幅 6.1 重 421	粗粒輝石安山岩	横断面形偏りの菱形を呈する河床礫使用。上端に敲打痕残り 、中に幅3.4cmの摩耗痕一周。	
第959号 PL.98	11	磁石・こも 編み石	裏面上位欠損	長 13.1 厚 3.7 幅 5.5 重 389	粗粒輝石安山岩	角形の河床礫使用。上端部に敲打痕残り、右側面の自然の 凹部を利用して、中に幅4.3cmの摩耗痕一周。	
第959号 PL.98	12	磁石・こも 編み石	完形	長 11.9 厚 4.0 幅 5.4 重 334	砂岩	横断面形三角形を呈する河床礫使用。上端に敲打痕残り、 中に幅3.4cmの摩耗痕一周。	
第960号 PL.98	13	磁石・こも 編み石	ほぼ完形	長 14.8 厚 4.1 幅 7.3 重 679	粗粒輝石安山岩	厚板状河床礫使用。上端に敲打痕残り、左側縁に3カ所の 割離痕見られる。これを利用して中に幅3.9cmを測る摩 耗痕一周。	
第960号 PL.98	14	磨石・こも 編み石	完形	長 16.5 厚 3.7 幅 5.9 重 632	粗粒輝石安山岩	平面形しゃもじ形を呈する厚板状の河床礫使用。上端に径 2.7×1.7cmを測る研磨面を残し、中に幅3.5cmの摩耗痕 一周。その下位に幅3.2cmの狭い摩耗痕一周。	
第960号 PL.98	15	こも編み石	表側左下隅欠損	長 13.8 厚 3.2 幅 7.4 重 468	変質安山岩	ミカンの房状の河床礫使用。中位と下位の石材の違いによ る段差を使用し、幅3.8cmを測る摩耗痕一周。	
第960号 PL.98	16	白玉	完形	径 0.8 厚 0.4 重 0.3	滑石	上下両面とも分割されており、不安定な形状。体部外面に は斜行する粗い線状痕が残る。	
PL.99	17	こも編み石	完形	長 11.8 厚 5.0 幅 7.8 重 611	粗粒輝石安山岩	横断面三角形を呈し、裏面やや窪む河床礫を用いる。 中下位より中に幅3.0cm摩耗痕一周。	
PL.99	18	こも編み石	完形	長 9.0 厚 2.9 幅 5.7 重 234	変質玄武岩	裏面平らな円礫を用いる。中上位に幅2.4cmの摩耗痕一周。 、	
PL.99	19	こも編み石	完形	長 10.8 厚 2.2 幅 6.1 重 219	輝緑凝灰岩	扁平な河床礫使用。左縁中上位に1カ所、右縁中位の上下 にある自然の抉れを利用して、中に幅2.8cmの摩耗痕一周。 、	
PL.99	20	こも編み石	完形	長 12.7 厚 3.2 幅 6.4 重 384	粗粒輝石安山岩	筒形の平面形を呈する厚板状の石材使用。中に幅3.4cm の摩耗痕一周。	
PL.99	21	こも編み石	完形	長 11.2 厚 2.8 幅 5.3 重 251	粗粒輝石安山岩	断面形扁形、平面形楕円形を呈する河床礫使用。中に幅 3.8cmを測る帯状の摩耗痕一周。	
PL.99	22	こも編み石	完形	長 12.5 厚 3.6 幅 6.2 重 422	粗粒輝石安山岩	横断面三角形、平面形バナナ形を呈する河床礫使用。表面 左側の凹部を利用して、中に幅3.2cmの摩耗痕一周。 、	
PL.99	23	こも編み石	完形	長 10.9 厚 4.1 幅 6.1 重 365	砂岩	表面に突出部を有する板状の河床礫使用。中に幅3.4cm の摩耗痕一周。	
PL.99	24	こも編み石	左面下位割離 欠損	長 10.9 厚 3.8 幅 5.5 重 314	砂岩	厚板状の河床礫使用。中下位に幅2.6cmの摩耗痕一周。 、	
PL.99	25	こも編み石	表面下端一部 割離	長 10.5 厚 2.9 幅 6.0 重 291	砂岩	横断面三角形様の河床礫使用。中に幅3.2cmの摩耗痕一 周。	
PL.99	26	こも編み石	上無切断、裏 面～下側割離	(11.2) 厚 (3.3) 幅 (3.1) 重 207	粗粒輝石安山岩	残存部上位に幅2.9cmの摩耗痕横位に廻る。 、	
PL.99	27	こも編み石	左下・表面右上 欠損	(16.6) 厚 (4.0) 幅 8.3 重 619	粗粒輝石安山岩	平面形片寄の楕円形礫を呈する厚板状の河床礫使用。中に 幅3.3cmを測る摩耗痕一周。 、	
PL.99	28	こも編み石	表面右側欠損	長 12.3 厚 (4.1) 幅 (6.0) 重 353	砂岩	瓢箪形の河床礫使用。表面左側縁の凹部を利用して、上位に 幅3.4cmの帯状の摩耗痕一周。 、	
PL.99	29	こも編み石	上側欠損	長 (9.0) 厚 3.6 幅 6.0 重 255	デイスait	横断面三角形を呈する河床礫使用。残存部上端に幅3.2cm をはかる摩耗痕一周。 、	
PL.99	30	こも編み石	ほぼ完形	長 10.1 厚 3.7 幅 5.6 重 336	硬質泥岩	平面形扇形で厚板状を呈する河床礫使用。中上位に幅3.1cm を測る摩耗痕一周。 、	
PL.99	31	こも編み石	表面～下端部 欠損	長 (11.3) 厚 (2.5) 幅 6.3 重 226	粗粒輝石安山岩	河床礫使用。中に幅3.5cmを測る帯状の摩耗痕一周。 、	

32号竪穴建物

種別 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第999号 PL.99	1	土師器 杯	口縁部一部欠 損	口 13.8 高 5.3	細砂粒/酸化塩/ にぶい黄橙/黒	厚手の作りで重い。内面喫込による黒色処理。体部～底部 外面荒れる。口縁横撫で。体部～底部内面反時計回りの痕 で、外周段取りり。	

種 別 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考	
第999R PL_99	2	土師器 杯	2/3	口 14.0 底 高 4.9	細砂粒/酸化燼/ にぶい黄褐色	内面吸炭による黒色処理。外面も弱く吸炭。口縁横撫で。体部～底部内面反時計回りの窪地で、体部外面反時計回りの窪地。底面縦及び横方向の窪地有り。		
第999R PL_99	3	土師器 杯	口縁部～体部 1/8欠損	口 14.4 底 6.0	高 5.0	粗砂粒。片岩含む/酸化燼/にぶい黄褐色	口縁横撫で。体部～底部内面反時計回りの窪地で、外面反時計回りの窪地有り。	
第999R PL_100	4	土師器 杯	口縁部～底部 4/5	口 14.0 底 14.6	高 4.5	細砂粒/酸化燼/ にぶい黄褐色	焼成良好。口縁横撫で。体部～底部内面反時計回りの窪地で、外面反時計回りの窪地有り。	
第999R PL_100	5	土師器 杯	口縁部～底部 1/4	口 13.8 底 15.2	高 5.0	細砂粒/酸化燼/ にぶい黄褐色	内面吸炭による黒色処理の痕跡。口縁横撫で。体部～底部内面反時計回りの窪地で、外面回転させた際の窪地有り。	
第999R PL_100	6	土師器 杯	口縁部～底部	口 10.0	高 5.1	細砂粒/酸化燼/ にぶい黄褐色	内面かせる。口縁横撫で。体部～底部内面窪地で、外面反時計回りの窪地有り。	
第999R PL_100	7	土師器 杯	口縁部～底部	口 13.0	高 4.5	細砂粒/酸化燼/ にぶい黄褐色	口縁横撫で。体部～底部内面反時計回りの窪地で後面指撫で、外面窪地有り。	
第999R PL_100	8	土師器 杯	口縁部～底部	口 13.6	高 4.5	細砂粒/酸化燼/ にぶい黄褐色	内面吸炭による黒色処理。口縁横撫で。体部～底部内面窪地で、外面窪地有り。	
第999R PL_100	9	土師器 杯	口縁部～底部	口 14.0	高 (3.9)	細砂粒/酸化燼/ にぶい黄褐色	内面吸炭による黒色処理の痕跡。口縁横撫で。体部内面窪地で、外面反時計回りの窪地有り。	
第999R PL_100	10	土師器 壺	体部～底部	底 8.4		粗砂粒/還元燼/ にぶい黄褐色	腰部～底部内面横位の指撫で。外面腰部上方への窪地有り、底面窪地有り。	
第999R PL_100	11	土師器 小型甕	3/4	口 14.0 底 4.0	高 14.0	粗砂粒。片岩含む/酸化燼/にぶい黄褐色	底部厚手の作り。器面荒れる。内面肩部以下吸炭の痕跡。口縁横撫で。体部内面反時計回りの窪地で、外面上位左方、下位左上方への窪地有り。底部内面指撫で、底面窪地有り。	
第999R PL_100	12	土師器 小型甕	完形	口 10.8 底 7.2	高 9.5	粗砂粒/酸化燼/ にぶい黄褐色	厚手の作り。ややゆがみあり。器面荒れる。口縁横撫で。体部内面反時計回りの窪地で、外面上方への窪地有り。底部内面指撫で、底面窪地有り。	
第999R PL_100	13	土師器 甕	一部欠損	口 25.1 底 7.6	高 27.4	粗砂粒。片岩含む/酸化燼/にぶい黄褐色	内面吸炭による黒色処理。腰部外面荒れる。口縁横撫で。肩～胴部縦位。胴部一部横位。腰部縦位の窪地で、外面肩部上方へ、胴部下方へ、腰部横位の窪地有り。底面孔を為す。	
第999R PL_100	14	土師器 甕	口縁部～体部 片	口 19.5	高 21.4	細砂粒/酸化燼/ にぶい黄褐色	口縁横撫で。体部内面反時計回りの窪地で、外面縦位の窪地有り。	

33号貯蔵建物

種 別 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考	
第101R PL_101	1	土師器 杯	口縁部～底部 1/6	口 12.6 底 9.0	高 3.1	細砂粒/酸化燼/ 橙	焼成やや甘く、器面内面中心に荒れる。口縁横撫で。体部～底部内面反時計回りの窪地で、外面窪地有り後体部縦位の窪地有り。	
第101R PL_101	2	土師器 杯	口縁部～底部 片	口 14.0	高 (3.1)	細砂粒/酸化燼/ 橙	焼成やや甘い。口縁横撫で。体部～底部内面窪地か、外面反時計回りの窪地有り。	
第101R PL_101	3	土師器 壺	口縁部～胴部 上位	口 19.0	高 (5.2)	粗砂粒。片岩含む/酸化燼/にぶい黄褐色	口縁横撫で。胴部内面横位の窪地で、外面上方への窪地有り。	
第101R PL_100	4	土師器 壺	口縁部～胴部 片	口 19.5	高 (7.5)	細砂粒/酸化燼/ 黒	コ字状口縁。外面塚付着。内面吸炭。口縁横撫で。胴部内面反時計回りの窪地で、外面横位の窪地有り。	
第101R PL_100	5	土製品	上下端一部欠損、裏面割離	長径 4.0 短径 1.4		細砂粒/酸化燼/ 淡黄	中位で膨らみを有し、径0.4×0.35cmの貫通孔が縦位に穿たれる。表面指撫で。	
第101R PL_100	6	土製品	完形	長径 3.4 短径 3.5	厚 0.7	粗砂粒/酸化燼/ 橙	土師器甕体部の転用品。周縁部を剥離、研磨して、円形に近い楕円形状に整形する。	
第101R PL_100	7	須恵器 甕	体部	長径 (7.2) 短径 (7.7)	厚 1.3	細砂粒/還元燼/ 灰	裏面内面同心円印。外面平行印。	
第101R PL_100	8	須恵器 高台付椀	腰部～底部	台 8.4	高 3.2	細砂粒/還元燼/ 灰	右回転軸線成形。底面回転糸切り後高台付。	
第102R PL_100	9	磁石	完形	長径 9.5 短径 4.8	厚重 3.9 327	デイスait	直方体を呈するが、角・側縁強く摩耗。表面・左側面に研磨面形成。上下・右側面に研磨による整形。	
第102R PL_100	10	天井石	左右両側切断、裏面割離	長径 15.8 短径 (13.5)	厚重 (2.8) 897	砂岩	上下縁をハツリにより整形し、表面を新状の工具により平滑に加工作す。残存部中・左部に焼熱の痕跡と吸炭が見られる。	
第102R PL_100	11	天井石か	長軸端部残存	長径 (16.2) 短径 16.4	厚重 6.7 2810	砂岩	上下・左の側縁をハツリにより整形。表面裏面は新状の工具により平滑に加工作す。裏面斜方向に幅5.0cm、深さ0.4cm以上の溝状の研磨面残存。表面下方と裏面、切断面に焼熱痕跡性あり	

34号貯蔵建物

種 別 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考	
第105R PL_101	1	土師器 杯	5/6	口 12.8	高 4.4	細砂粒/酸化燼/ にぶい黄褐色	口縁横撫で。体部～底部内面反時計回りの窪地で、後、放射状の暗文。外面反時計回りの窪地有り。	
第105R PL_101	2	土師器 杯	1/4	口 14.0	高 4.0	細砂粒/酸化燼/ 橙	焼成甘く、器面荒れる。口縁横撫で。体部～底部内面窪地で、外面窪地有り。	
第105R PL_101	3	土師器 杯	4/5	口 9.0× 10.3 底 9.5× 10.1	高 6.4	細砂粒/酸化燼/ 橙	前後に多少平口。口縁横撫で。体部～底部内面反時計回りの窪地で、体部外面横位の窪地有り。底面手持ち窪地有り。	
第105R PL_101	4	土師器 鉢	口縁部～体部	口 18.0	高 (9.3)	粗砂粒/酸化燼/ にぶい黄褐色	口縁横撫で。体部内面反時計回りの窪地で、外面横位の窪地有り。	

南蛇井北原田遺跡 遺物観察表

採 掘 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考	
第105回 PL-101	5	須忠器 蓋	体部	長11.1 幅8.5	厚0.9	細砂粒/還元焼/ 灰白	焼成やや甘い。外面平行叩き、内面同心円叩き。	
第105回 PL-101	6	敲石・こも 編み石	完形	長16.3 幅4.8	厚4.3 重572	変質安山岩	角柱状の河床礫使用。上端に敲打痕残り、中に幅3.6cmの摩耗痕一貫。赤色塗料様のものが部分的に付着。	
第105回 PL-101	7	こも編み石	下方欠損、表面一部剥離	長(10.0) 幅0.0	厚3.3 重288	流紋岩	横断面三角形を呈する河床礫使用。右側縁に剥離による小さい欠れを設け、残存部中位やや下方に幅2.5cmを測る帯状の摩耗痕一貫。	
第105回 PL-101	8	こも編み石	完形	長13.3 幅6.0	厚3.0 重361	デイサイト	刀子状の平明形を呈する河床礫使用。右側縁に表裏からの敲打痕による鋭い欠れを有り、中位部に幅3.4cmを測る帯状の摩耗痕一貫。	
PL-101	9	こも編み石	上下欠損	長(14.0) 幅(6.7)	厚4.1 重500	閃緑岩	横断面三角形の河床礫使用。残存部下位寄りに幅3.3cmの摩耗痕一貫。	
PL-101	10	袖石か	完形	長17.0 幅7.2	厚6.5 重1172	砂岩	横断面形が五角形、下位が台形を呈する河床礫使用。上端から3.7～5.2cmの範囲で炭灰し、下端から3.5～5.1cmの範囲で被熱して暗赤色を呈する。	

35号壜穴建物

採 掘 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考	
第108回 PL-101	1	土師器 杯	1/2	口15.5	高5.8	細砂粒/酸化焼/ にぶい黄橙	口縁横撫で。体部～底部内面反時計回りの隆撫で、外面時計回りの隆撫で。	
第108回 PL-101	2	土師器 杯	ほぼ完形	口13.2	高4.3	細砂粒/酸化焼/ にぶい橙	外面荒れる。口縁横撫で、体部～底部内面反時計回りの隆撫で、外面隆撫で。	
第108回 PL-101	3	土師器 杯	2/3	口12.8	高4.0	細砂粒/酸化焼/ 灰濁	内外面炭灰による黒色処理の痕跡。口縁横撫で。体部～底部内面反時計回りの隆撫で、外面体部時計回り、底面一方へ向への隆撫で。	
第108回 PL-101	4	土師器 杯	1/4	口11.8	高4.4	細砂粒/酸化焼/ にぶい橙	焼成良好。口縁内湾気味に直立。口縁横撫で。体部～底部内面反時計回りの隆撫で、外面時計回りの隆撫で。	
第108回 PL-101	5	土師器 飯	口縁部～体部 1/3	口[26.0]	高(13.0)	粗砂粒。片岩含 む/酸化焼/明赤 褐色	外面荒れる。口縁内面と外面口唇部横撫で。体部内面反時計回りの隆撫で、外面上方への隆撫で。	
第108回 PL-101	6	須忠器 蓋	天井部～口縁 部	長[19.0] 幅(2.2)	高(1.2)	細砂粒/還元焼/ 灰	回転機軸成形。天井・口縁部隆外面に返し状の突出部。口縁部外面に波状の窪み。	
第108回 PL-101	7	磨石	完形	長7.0 幅6.2	厚4.2 重227	流紋岩	丸筒形の河床礫使用。表裏面に研磨痕残り、表面に径2.2×2.0cm、深さ0.1cmの浅い凹跡状の窪みが見られる。	
PL-101	8	こも編み石	表面下位剥離 欠損	長13.9 幅5.2	厚4.7 重473	粗粒輝石安山岩	横断面形家形の河床礫使用。右側面の自然の窪みに利用して、幅3.2cmの摩耗痕一貫。	

36号壜穴建物

採 掘 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考	
第110回 PL-101	1	土師器 杯	2/3	口14.0	高4.7	細砂粒/酸化焼/ 明黄橙	器面やや荒れる。口縁部横撫で。体部～底部内面撫で、外面隆撫で。	
第110回 PL-101	2	土師器 盃	体部～底部	底7.8	高(16.1)	粗砂粒/酸化焼/ 橙	体部～底部内面反時計回りの隆撫で、体部外面左方中心の隆撫で。底面隆撫で。	
第110回 PL-101	3	土師器 盃	腰部下端～底 部	底7.6	高(4.2)	粗砂粒。片岩含 む/酸化焼/橙	被熱によりやや割。内面反時計回りの連続した隆撫で、体部外面時計回りの隆撫で。底面一方中心の隆撫で。	
第110回 PL-101	4	土師器 盃	体部～底部	底6.6	高(5.3)	粗砂粒/酸化焼/ 橙	体部～底部内面縦方向の隆撫で、体部外面上方への隆撫で。底面時計回りの隆撫で。	
第110回 PL-101	5	土師器 小型盃	口縁部～体部 1/3	口[14.0]	高(6.4)	細砂粒/酸化焼/ 橙	口縁横撫で。体部内面反時計回りの隆撫で、外面左上方への隆撫で。	
第110回 PL-101	6	土師器 小型盃	口縁部～体部	口[12.0]	高(9.0)	粗砂粒/酸化焼/ にぶい橙	焼成良好。外面一部に保付着。口縁横撫で。体部内面縦方向の隆撫で、外面上方への隆撫で。	
第110回 PL-101	7	白玉	下面2/3欠損	径1.0	厚0.7 重0.8	滑石	上面側は直交方向に浅く溝状に窪む。下側側は大きく破損、詳細は不明。体部には斜行する粗い線状痕が残る。	

37号壜穴建物

採 掘 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考	
第111回 PL-101	1	土師器 杯	口縁部～底部 4/5	口[13.0]	高(4.6)	細砂粒/酸化焼/ 浅黄橙	内外面荒れるが、炭灰による黒色処理の痕跡見られる。口縁横撫で。体部～底部内面隆撫でか、外面時計回りの隆撫で。	

38号壜穴建物

採 掘 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考	
第114回 PL-102	1	土師器 杯	1/2	口[16.0] 幅[10.3]	高5.4	細砂粒/酸化焼/ にぶい橙	外面摩耗顕著。内面やや荒れる。内面の暗文見えない。口縁横撫で。体部～底部内面反時計回りの隆撫で。体部外面(横位)隆撫で。底面隆撫で。	
第114回 PL-102	2	土師器 杯	口縁部～体部 1/4	口[18.0]	高(6.6)	細砂粒/酸化焼/ 明赤濁	外面荒れる。口縁横撫で。体部内面に横位の隆撫で後、縦横の隆撫き(暗文)、外面左上方への隆撫で。	
第114回 PL-102	3	土師器 盃	口縁部～体部 1/3	口[24.0]	高(17.8)	粗砂粒。片岩含 む/酸化焼/にぶ い橙	焼成良好。口縁横撫で。体部内面反時計回りの隆撫で、外面上方への隆撫で。	
第114回 PL-102	4	土師器 盃	口縁部～体部	口[25.0]	高(8.5)	粗砂粒。片岩含 む/酸化焼/明赤 濁	焼成良好。口縁横撫で。体部内面横位の隆撫で、外面上方への隆撫で。	

種 類 PL.No.	No.	種 類 種 類	出土位置 残 存 率	計測値 (cm, g)	胎土/焼成/色調 石 材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第114期 PL-102	5	磨石・こも 編み石	完形	長 幅 11.6 4.6 厚 重 4.8 361	粗粒輝石安山岩	楔形状の河床礫使用。上端に敲打痕あり。表面の自然の剥離による湾曲を利用し、幅2.7cmを測る磨石痕一週。	
第114期 PL-102	6	磨石・こも 編み石	完形	長 幅 13.2 7.1 厚 重 3.5 533	砂岩	横断面三角形を呈する河床礫使用。上下部に敲打痕あり、中位やや下方に幅3.9cmを測る磨石痕一週。	
第114期 PL-102	7	こも編み石	完形	長 幅 12.7 0.8 厚 重 4.6 634	変質安山岩	横断面形状を呈する河床礫使用。左縁に自然の強い凹部を有し、右側縁中に敲打痕による窪みを作り、中下位に幅3.3cmの磨石痕一週。	

39号竪穴建物

種 類 PL.No.	No.	種 類 種 類	出土位置 残 存 率	計測値 (cm, g)	胎土/焼成/色調 石 材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第116期 PL-101	1	土師器 杯	口縁部～底部 片	口 12.0 高 4.2	細砂粒/酸化塩/ 橙	器面荒れる。口縁横撫で、体部～底部内面反時計回りの 磨で、外面時計回りの磨り。	
第116期	2	土師器 杯	口縁部～底部	口 12.0 高 3.7	細砂粒/酸化塩/ 橙	焼成甘く、器面荒れる。口縁横撫で、体部～底部内面磨 で、外面磨り。	
第116期	3	土師器 杯	底部	底 9.4 高 1.3	細砂粒/酸化塩/ 橙	焼成良。内面ややかせる。内面回し乍らの磨でか、外面 磨り。	
第116期	4	須恵器 甕	底部	底 7.6 高 3.3	粗砂粒/還元塩/ 黄灰	底面にトナン片残る。内面磨で、外面磨り。	
第116期 PL-101	5	須恵器 小型甕	口縁部～肩部 破片	幅 10.5	粗砂粒/還元塩/ 黄灰	口縁横撫で、肩部内面横位の磨で、外面平打ち後横位 の磨で。内面にあて具無し。	

40号竪穴建物

種 類 PL.No.	No.	種 類 種 類	出土位置 残 存 率	計測値 (cm, g)	胎土/焼成/色調 石 材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第119期 PL-102	1	土師器 杯	口縁部一欠損	口 13.3 高 4.6	細砂粒/酸化塩/ 橙	内厚。底面に木葉形跡残る。口縁横撫で。体部～底部内面 反時計回りの磨で、外面磨り。	
第119期	2	土師器 杯	口縁部～体部	口 15.0 高 4.3	細砂粒/酸化塩/ 橙	器面荒れる。部分的にかせる。内面咬削による黒色処理か。 口縁横撫で。体部内面磨で、外面磨り。	
第119期	3	土師器 杯	体部～底部	底 10.0	粗砂粒/酸化塩/ 橙	焼成やや甘く、表面面荒れる。体部～底部内面磨でか、外 面磨り。	
第119期	4	土師器 高台付杯	腰部～底部	台 7.4 高 3.4	細砂粒/酸化塩/ 橙	外面やや荒れる。回転軸横撫で。内面磨でかその後咬削による 黒色処理。外面磨り。高台貼付け後、底面磨で。	
第119期 PL-102	5	土師器 甕	頸部～胴部1/4	側 31.2	粗砂粒/酸化塩/ 橙	器面荒れる。内面咬削。頸部横撫で。体部内面反時計回りの 磨で、外面時計回りの磨り。	
第119期 PL-102	6	磨石・こも 編み石	表裏面一部割 取	長 幅 18.9 7.0 厚 重 1.6 1264	丸ん岩	角柱状の河床礫使用。上端に敲打痕多く残り、中位に幅 4.5cmの磨石痕一週。右面表面寄りに敲打痕。	
第119期 PL-102	7	磨石・こも 編み石	完形	長 幅 9.8 5.9 厚 重 2.8 230	デイサイト	横断面三角形の河床礫使用。下端に径1.9×1.0cmを測る 研磨面を残し、幅2.7cmの磨石痕一週。	
第119期 PL-102	8	磨石・こも 編み石	破片	長 幅 9.3 4.3 厚 重 3.0 147	デイサイト	河床礫使用。表面に平坦な研磨面を形成し、削痕残る。残 存部の表面左縁に帯状の研磨面形成。残存部下端に幅2.5cm 以上の磨石痕。	
PL-102	9	こも編み石	完形	長 幅 13.4 8.4 厚 重 5.1 754	変質安山岩	偏りの変形の横断面形状を呈する河床礫を用いる。上下右 縁の自然の欠けを利用し、幅3.9cmの磨石痕一週。上半右 縁が切断している薄板状の河床礫使用。中下位に幅3.0cm の磨石痕一週。	
PL-102	10	こも編み石	完形	長 幅 11.7 7.6 厚 重 3.4 453	変質安山岩	下縁が切断している薄板状の河床礫使用。中下位に幅3.0cm の磨石痕一週。	
PL-102	11	こも編み石	完形	長 幅 11.4 9.8 厚 重 5.6 806	粗粒輝石安山岩	下端切断した横断面三角形を呈する河床礫使用。中位下 寄りに幅3.2cmを測る磨石痕一週。	大型品
PL-103	12	こも編み石	完形	長 幅 12.0 8.7 厚 重 5.6 677	凝灰角礫岩	角の取れたミカンの形状を呈する河床礫使用。中位に幅 3.9cmを測る磨石痕一週。	大型品
PL-103	13	こも編み石	完形	長 幅 14.0 8.7 厚 重 5.5 935	変玄武岩	字形の河床礫使用。中位やや上側に幅4.4cmを測る磨石痕 一週。	大型品
PL-103	14	こも編み石	完形	長 幅 12.7 9.1 厚 重 6.0 913	デイサイト	横断面三角形を呈する河床礫使用。表面左側の凹部を利用 し、幅4.1cmを測る磨石痕一週。	大型品
PL-103	15	こも編み石	完形	長 幅 12.1 9.0 厚 重 6.7 923	チャート	ローリングのあまり進行していない立方体形状の石材使用。 表面から右側面中位に幅3.7cmを測る磨石痕一週。	大型品
PL-103	16	こも編み石	完形	長 幅 11.8 8.6 厚 重 4.7 774	粗粒輝石安山岩	平面形楕円形状を呈する河床礫使用。中位に幅3.2cmを測 る磨石痕一週。	大型品
PL-103	17	こも編み石	上端部一欠損	長 幅 13.1 8.0 厚 重 8.27	粗粒輝石安山岩	横断面三角形を呈する河床礫使用。左側縁の凹部を利用 して、中位に幅3.8cmを測る磨石痕一週。	大型品

41号竪穴建物

種 類 PL.No.	No.	種 類 種 類	出土位置 残 存 率	計測値 (cm, g)	胎土/焼成/色調 石 材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第122期 PL-103	1	土師器 杯	3/4	口 17.0 高 11.0	細砂粒/酸化塩/ にぶい橙	口縁部の欠けが著しい。底部内面縁に段差。平底。内外面 荒れる。口縁横撫で。体部内面反時計回りの磨で、外面 時計回りの磨り。底面磨り。	
第122期 PL-103	2	土師器 杯	口縁部～底部 1/3	口 16.0 高 12.0	細砂粒/酸化塩/ 黄灰	大型品。器面荒れる。口縁横撫で。内面体部磨で、底部縁 に段差。外面体部上半横撫で。下半～底面磨り。	
第122期	3	土師器 杯	口縁部～体部	口 15.0 高 10.4	細砂粒/酸化塩/ 橙	内外面やや荒れる。口縁横撫で。体部～底部内面反時計回 りの磨で、体部外面時計回りの磨り。底面磨り。	
第122期	4	土師器 杯	口縁部～底部	口 15.0 高 9.0	細砂粒/酸化塩/ 橙	焼成甘く、内外面やや荒れる。口縁横撫で。体部内面反時 計回りの磨で、外面磨り後横位の磨。底面内面磨 でか、底面磨り。	
第122期 PL-103	5	土師器 杯	1/3	口 15.0 高 5.0	細砂粒/酸化塩/ にぶい橙	口縁部横撫で。外部外面横位磨り。体部内面横撫で、底 部内面縁に段差。器面磨り。	

南蛇井北原田遺跡 遺物観察表

採 取 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考
第1229 PL-103	6	土師器 杯	口縁部～底部	口 [12.7] 底 [10.2]	高 4.5 細砂粒/酸化塩/ 橙	焼成弱く器面荒れる。口縁部横撫で。体部外面磨削り。体部内面撫で。	
第1229	7	土師器 杯	口縁部～体部	口 [14.0] 底 [10.0]	高 (3.6) 細砂粒/酸化塩/ にぶい橙	焼成良好。口縁横撫で。体部～底部内面磨削り。体部外面時計回りの磨削り。底面磨削り。	
第1229	8	土師器 杯	口縁部～体部	口 [12.0]	高 (3.9) 細砂粒/酸化塩/ 橙	内外面荒れる。口縁横撫で。	
第1229 PL-103	9	土師器 甕	口縁部～体部	口 [20.6]	高 (21.8) 粗砂粒。片岩含 む/酸化塩/にぶ い橙	口縁横撫で。体部内面反時計回りの磨削り。外面右下方への磨削り。	
第1229	10	土師器 甕	口縁部～肩部	口 [26.0]	高 (4.6) 粗砂粒。片岩含 む/酸化塩/橙	外面やや荒れる。口縁横撫で。肩部内面反時計回りの磨削り。外面上方への磨削り。	
第1229	11	土師器 甕	口縁部～肩部	口 [24.0]	高 (5.0) 粗砂粒/酸化塩/ 明赤堊	口縁横撫で。肩部内面横撫での磨削り。外面上方への磨削り。	
第1229	12	土師器 甕	口縁部	長 [9.3] 幅 [10.7]	粗砂粒。片岩含 む/酸化塩/にぶ い橙	内外面荒れる。口縁横撫で。肩部内面一部輪積み痕残り。反時計回りの磨削り。	
第1229	13	土師器 壺	口縁部～体部	口 [14.0]	高 (6.8) 粗砂粒。片岩含 む/酸化塩/橙	内外面荒れる。口縁横撫で。肩部内面反時計回りの磨削り。外面横撫での磨削り。	
第1238 PL-103	14	土師器 杯	ほぼ完成形	口 [15.2] 底 [11.4]	高 5.8 粗砂粒/酸化塩/ にぶい橙	口縁横撫で。体部内面反時計回りの磨削り。縦位の線状暗文。外面上位右方向、中・下位右下方への磨削り。底面内面撫で。底面暗文を施すが、磨削りで見えない。底面直し程度の磨削り。	
第1238 PL-103	15	須恵器 杯	一部欠損	口 14.0 底 8.8	高 4.5 細砂粒/還元塩/ 灰	回転輪軸成形。底面回転磨削り。	
第1238 PL-103	16	須恵器 杯	1/2	口 13.8 底 7.8	高 3.8 細砂粒/還元塩/ 灰白	右回転輪軸成形。底面回転磨削り。底面内面弱く磨削。墨様の黒色物付着。	靨に転用か
第1238	17	須恵器 蓋	天井～端部	長 [4.6] 幅 [3.2]	細砂粒/還元塩/ 灰白	回転輪軸成形。端部内側に短かすり付く。	
第1238	18	須恵器 蓋	体部～底部	底 [7.0]	高 (4.7) 粗砂粒/還元塩/ 黄灰	焼成良好。外面部分的に自然輪。内面直し程度の磨削り。外面撫で。	
第1239 PL-103	19	葦石・こも 編み石	丸形	長 15.6 幅 7.0	厚 264 デイサイト	角柱様の河床礫使用。上端に敲打痕残り。右側面に縦位直列の割離痕が見られる。これと左側面の自然の割離痕を利用し、中位下寄りに幅4.6cmの磨耗痕一列。	
PL-104	20	こも編み石	上位片	長 [8.2] 幅 [7.3]	厚 3.3 安山岩凝灰岩	平面形楕円形の河床礫使用。残存部下端に幅2.0cm以上の磨耗痕一列。	
PL-104	21	こも編み石	丸形	長 16.2 幅 7.6	厚 4.2 砂岩	厚板状の河床礫使用。全体に被熱し平行なものを含む複数のクラックが見られ、表面中心に埋付着。左側面中心の自然の強い凹部を利用し、幅3.4cmの磨耗痕一列。	
PL-104	22	こも編み石	丸形	長 11.8 幅 5.7	厚 3.4 変玄武岩	厚板状の河床礫使用。左側面に敲打で成形した凹部を利用し、幅3.0cmの磨耗痕一列。	
PL-104	23	こも編み石	丸形	長 9.1 幅 5.8	厚 2.5 珪質頁岩	下部割離する板状の河床礫使用。左側面の自然の割離痕を利用し、幅2.2cmの磨耗痕一列。	
PL-104	24	こも編み石	下端切断、裏面割離	長 [8.5] 幅 [4.1]	厚 3.0 変玄武岩	角柱状の石材使用。残存部下に幅2.5cmの帯状の磨耗痕磨削る。	
42号竪穴建物							
採 取 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考
第1258 PL-104	1	土師器 杯	1/3	口 [13.9]	高 3.7 細砂粒/酸化塩/ にぶい黄橙	器面荒れる。口縁部横撫で。体部～底部内面撫で。底面外周に指撫で一列。外面磨削り。	
第1258	2	土師器 杯	口縁部～体部	長 [4.6] 幅 [3.2]	高 (2.2) 細砂粒/酸化塩/ 橙	口縁横撫で。体部内面反時計回りの磨削り。外面直し程度の磨削り。	
第1258 PL-104	3	葦石・こも 編み石	上位片	長 [8.9] 幅 5.2	厚 4.4 変質安山岩	横断面三角形を呈する角材状の河床礫使用。上端に敲打痕残り。表面左右四面に研磨面残り。残存部下端に幅1.8cm以上の磨耗痕一列。	
第1258 PL-104	4	葦石・こも 編み石	上位片	長 [8.5] 幅 6.5	厚 3.48 粗粒輝石安山岩	三角柱状の河床礫使用。上端に敲打痕残り。残存部下端に幅0.9cm以上の磨耗痕一列。	
第1258 PL-104	5	葦石・こも 編み石	丸形	長 8.9 幅 6.1	厚 286 変玄武岩	厚板状の河床礫使用。上端に敲打痕残り。左側面の自然の凹部と右側面に敲打で成形した凹部を利用し、中位に幅2.8cmの磨耗痕一列。	
PL-104	6	こも編み石	丸形	長 13.9 幅 5.3	厚 3.5 粗粒輝石安山岩	横断面三角形の柱状を呈する河床礫使用。中位下寄りに幅3.7cmの磨耗痕一列。	
PL-104	7	こも編み石	下位欠損、裏面と右側割離	長 [8.5] 幅 [3.4]	厚 (2.2) 石黄四稜岩	横断面三角形形様の柱状の河床礫使用。中下位に幅2.2cmの帯状の磨耗痕磨削る。	
43号竪穴建物							
採 取 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考
第1279	1	土師器 碗	口縁部～体部	長 [5.3] 幅 [6.8]	高 (4.8) 細砂粒/酸化塩/ 橙	内外面荒れるが、内面かせる。口縁横撫で。体部外面横撫での磨削りか。腰部外面～底面磨削り。	
第1279	2	土師器 碗	口縁部～肩部	長 [6.0] 幅 [9.5]	高 (5.8) 細砂粒/酸化塩/ 明赤堊	内外面荒れる。内面弱かせる。口縁横撫で。肩部内面磨削り。外面横撫での磨削り。	
第1279	3	土師器 甕	口縁部	長 [4.3] 幅 [8.1]	高 (3.3) 細砂粒/酸化塩/ にぶい靨	口縁横撫で。体部内面横撫での磨削り。外面縦位の磨削り。	

種 類 PL.No.	No.	種 類 種 類	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考	
第127図	4	須忠器 須忠器	腰部～高台	長 底 幅 (7.2) (12.0) (4.3) (7.3)	高 底 幅 (3.2) (3.3)	粗砂粒/還元焼/ 焼灰	回転轆轤成形。底面回転糸切り。高台貼付け後高台周辺で。	
第127図	5	須忠器	腰部～高台	長 幅 (7.3)	高 底 幅 (3.3)	粗砂粒/還元焼/ 焼灰	回転轆轤成形。底部切り離し後高台貼付け。撫で。	
44号器穴建物								
種 類 PL.No.	No.	種 類 種 類	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考	
第129図	1	土師器 杯	4/5	口 底 幅 (12.5 11.0 6.6)	高 底 幅 (4.6 3.6 6.8)	細砂粒/酸化焼/ にぶい焼	底部内面荒れる。口縁横撫で。体部～底部内面荒撫で、外面荒撫で。	
第129図	2	土師器 杯	口縁部～底部	口 底 幅 (12.0)	高 底 幅 (3.6)	細砂粒/酸化焼/ 明赤焼	焼成やや良好。口縁横撫で。体部～底部内面反時計回りの 荒撫で、外面時計回りの荒撫で。	
第129図	3	土師器 費	口縁部～肩部	口 底 幅 (19.8)	高 底 幅 (6.8)	粗砂粒、片岩含 む/酸化焼/にぶ い焼	器面やや荒れる。口縁横撫で。体部内面反時計回りの荒撫 で、外面(上方へ)の荒撫で。	
第129図	4	土師器 費	体部片	長 幅 (8.8)	厚 底 幅 (0.8)	粗砂粒/酸化焼/ にぶい焼	内面横位の荒撫で。外面横位の荒撫で。	
第129図	5	土師器 小型費	口縁部～底部	口 底 幅 (15.0 5.4)	高 底 幅 (15.1)	粗砂粒/酸化焼/ にぶい焼	口縁横撫で。体部～底部内面反時計回りの荒撫で。体部外 面上位左方下、下位右方下への荒撫で。やや光沢を帯び、 底面一方への荒撫で。	
第129図	6	土師器 小型費	体部～底部1/4 欠損	口 底 幅 (14.6 4.6)	高 底 幅 (14.9)	粗砂粒、片岩含 む/酸化焼/橙	外面体部上半中心に、底部内面荒れる。内面下半部荒撫で。 口縁横撫で。体部内面反時計回りの荒撫で、外面頸部下横 位。体部左上方への荒撫で。底面内側りか。	
第129図	7	土師器 費	口縁部～体部	口 底 幅 (24.7)	高 底 幅 (13.9)	粗砂粒/酸化焼/ にぶい焼	口縁反し横撫で。体部頸部で内面横位の荒撫で後間隙を 開けた縦位の指撫で。外面上方への荒撫で。	
PL-105	8	こも編み石	上端欠損	長 幅 (15.6) 7.9	厚 重 底 幅 (5.3 1077)	砂岩	縦長の河床礫使用。中位やや上へ幅5.1cmの摩耗痕一貫する が、摩耗部分荒れる。	
45号器穴建物								
種 類 PL.No.	No.	種 類 種 類	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考	
第131図	1	土師器 杯	口縁部～底部	口 底 幅 (13.4 8.0)	高 底 幅 (4.8)	細砂粒/酸化焼/ 橙	底部内面縁に段差。器面摩耗、荒れ。口縁横撫で。体部～ 底部内面反時計回りの荒撫で。体部外面横位の横撫で、底 面荒撫でりか。	
第131図	2	土師器 費	口縁部～体部 1/3	口 底 幅 (24.6)	高 底 幅 (25.1)	粗砂粒/片岩含 む/橙	体部外面に輪轆轤痕を残す。口縁横撫で。体部内面反時計 回り中心の荒撫で、外面上位への荒撫で。	
第131図	3	土師器 費	口縁部～肩部	口 底 幅 (21.0)	高 底 幅 (6.5)	細砂粒/酸化焼/ 明赤焼	口縁横撫で。胴部内面反時計回りの荒撫で、外面上方への 荒撫で後時計回りの横位の荒撫で。	
第131図	4	土師器 費	口縁部～肩部	口 底 幅 (20.8)	高 底 幅 (5.8)	細砂粒/酸化焼/ 橙	外面若干荒れる。口縁横撫で。胴部内面反時計回りの荒撫 で、時計回りの横位の荒撫で。	
第131図	5	土師器 費	口縁部～肩部	口 底 幅 (10.6)	高 底 幅 (3.5)	細砂粒/酸化焼/ にぶい焼	口縁横撫で。胴部内面反時計回りの荒撫で、外面横位の荒 撫で。	
第131図	6	須忠器 瓶	腰部～底部片。 高台欠損	口 底 幅 (17.7 12.0)	高 底 幅 (5.5)	粗砂粒/還元焼/ 灰	内面横位の指撫で、外面横位の指撫で、腰部時計回りの荒 撫で。底面回転糸切り後高台貼付け。	
PL-105	7	こも編み石	表面中位、裏 面下位剝離。	長 幅 (17.7 6.9)	厚 重 底 幅 (3.3 643)	変質安山岩	横断面三角形を呈する河床礫使用。表面上位の突出部下 位に幅4.8cmの帯状の摩耗痕一貫。	大型品
PL-105	8	こも編み石	表面中位、裏 面下位剝離。 下端一部欠損	長 幅 (19.3) 5.6	厚 重 底 幅 (2.7 488)	デイサイト	平面形短冊形の板状の河床礫使用。中位に幅4.4cmを測る 帯状の摩耗痕一貫。	大型品
46号器穴建物								
種 類 PL.No.	No.	種 類 種 類	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考	
第133図	1	土師器 杯	口縁部～底部	口 底 幅 (14.0)	高 底 幅 (4.6)	細砂粒/酸化焼/ 焼灰	内外面吸込の痕跡。口縁横撫で。体部～底部内面回し乍ら の荒撫で、外面体部横位。底面一方への荒撫で。	
第133図	2	土師器 杯	口縁部～底部	口 底 幅 (13.8 13.0)	高 底 幅 (4.6)	細砂粒/酸化焼/ 灰黄焼	口縁横撫で。内面体部反時計回り、底面一方への荒撫で、 体部外面反時計回りの、底部不特定方向への荒撫で。	
第133図	3	土師器 杯	口縁部～底部	口 底 幅 (14.0)	高 底 幅 (4.4)	細砂粒/酸化焼/ 浅黄	内外面吸込による黒色処理の痕跡。口縁横撫で。体部～底 部内面回し乍らの荒撫で、外面荒撫で。	
第133図	4	土師器 杯	口縁部～底部	口 底 幅 (14.2)	高 底 幅 (5.0)	細砂粒/酸化焼/ 黒黄/にぶい焼	器面荒れる。内外面吸込による黒色処理。口縁横撫で。体 部～底部内面反時計回りの荒撫で、体部外面時計回り、底 面一方への荒撫で。	
第133図	5	土師器 小型費	体部～底部1/2	口 底 幅 (7.0)	高 底 幅 (8.5)	粗砂粒/酸化焼/ にぶい焼/黒	内面横し。底部平直。体部～底部内面反時計回りの荒撫で、 体部外面右下方へ、底面一方への荒撫で。	
47号器穴建物								
種 類 PL.No.	No.	種 類 種 類	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考	
第136図	1	土師器 杯	3/4	口 底 幅 (11.8)	高 底 幅 (4.3)	粗砂粒/酸化焼/ 橙	内外面荒れてかせ気味。口縁横撫で。体部～底部内面反時 計回りの荒撫で、外面荒撫で。	
第136図	2	磁石・こも 編み石	定形	長 幅 (15.2 7.0)	厚 重 底 幅 (4.7 632)	変質玄武岩	楕断形三角形を呈する横板状の河床礫使用。上端に敲打 痕残り、右側縁下寄りの自然の凹部を利用し、中下位に幅 4.2cmを測る摩耗痕一貫。	
第136図	3	磁石・こも 編み石	定形	長 幅 (12.8 4.1)	厚 重 底 幅 (4.1 458)	変質安山岩	扁平な楕断形の河床礫使用。上端に敲打痕残り、右側縁の 強い凹部を利用して、中位やや上寄りに幅3.3cmを測る摩 耗痕一貫。	

南蛇井北原田遺跡 遺物観察表

採 取 PL.No.	No.	種 類 種 類	出土位置 残 存 率	計測値 (cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第1369R PL-105	4	敲石・こも 編み石	完形	長 幅 11.4 6.3 厚 重 4.8 543	変質安山岩	横断面薄溝形を呈し、下端が切断する河床礫使用。上端に敲打痕残り、中位に幅3.5cmの摩耗痕一周。	
PL-106	5	こも編み石	完形	長 幅 10.6 5.5 厚 重 4.8 440	デイサイト	横断面三角形縁を呈する河床礫使用。幅3.1cmの摩耗痕一周。	
PL-106	6	こも編み石	完形	長 幅 15.4 5.2 厚 重 5.2 697	ひん岩	角柱状の河床礫使用。中位やや上方寄り幅4.8cmを測る摩耗痕一周。	
PL-106	7	こも編み石	完形	長 幅 14.8 3.0 厚 重 3.0 584	粗粒輝石安山岩	薄板状の河床礫使用。中位に幅5.2cmを測る摩耗痕が一周する。	
PL-106	8	こも編み石	完形	長 幅 11.4 3.2 厚 重 3.2 341	デイサイト	平面形扁平を呈する河床礫使用。中位やや下方に幅3.0cmを測る摩耗痕一周する。	
PL-106	9	こも編み石	完形	長 幅 12.3 4.8 厚 重 4.8 435	チャート	横断面形稜形、平面形扁平を呈する河床礫使用。表裏面上位の突出部下位。幅の中下位に幅3.3cmを測る摩耗痕一周する。	
PL-106	10	こも編み石	ほぼ完形	長 幅 13.2 6.9 厚 重 5.0 554	デイサイト	下位に鋭熱痕残り、その表面に吸戩。中位に幅4.2cmの摩耗痕一周。	
8号壁穴建物							
採 取 PL.No.	No.	種 類 種 類	出土位置 残 存 率	計測値 (cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第1409R PL-106	1	土師器 杯	口縁部～底部	口 計 13.0 底 10.2 高 4.4	細砂粒/酸化塩/ 灰黄褐色	内面焼し、黒色化。口縁部内面磨き劣化。体部内面に放射状暗文。	
第1409R	2	土師器 杯	口縁部～底部	口 計 [12.8] 高 4.3	細砂粒/酸化塩/ にぶい橙	焼成やや甘く、器面荒れて部分的にかさねる。口縁横撫で、体部～底部内面反時計回りの磨撫で、体部外面横位の指撫で、底面旋回り。	
第1409R	3	土師器 杯	口縁部～体部	口 計 14.0 底 [3.4] 高 [3.4]	粗砂粒/酸化塩/ 橙	内面吸戩による黒色処理の痕跡。口縁横撫で、体部内面反時計回りの磨撫で、外面回転させ乍らの旋回り。	
第1409R PL-106	4	土師器 鉢	1/2	口 計 [24.0] 底 [10.0] 高 7.7	細砂粒/酸化塩/ 橙	口縁横撫で、体部～底部内面反時計回りの磨撫で、体部外面横位の旋回り。底面(時計回りの)旋回り。	
第1409R PL-106	5	土師器 鉢	口縁部～底部	口 計 18.4 底 3.5 高 19.5	粗砂粒。片岩含 む/酸化塩/橙	器面荒れ、外面をかさねる。口縁横撫で、体部内面反時計回りの磨撫で、外面磨き確認できず。	
第1409R PL-106	6	土師器 甕	胴部～一次欠損	口 計 24.5 底 7.4 高 30.8	粗砂粒。片岩含 む/酸化塩/橙	外面胴部除き器面荒れ顕著。口縁横撫で、内面体部反時計回りの磨撫で、底部指撫で、外面胴・胴部左上方向、胴部右下方向への旋回り。底面回し乍ら複数回すの旋回り。	
第1409R PL-106	7	土師器 甕	口縁部～体部 2/3	口 計 22.0 高 16.0	粗砂粒。片岩含 む/酸化塩/にぶい 橙	口縁一部輪轆み痕残り。口縁横撫で、体部内面上方への旋回りで後反時計回り中心の指撫で、指頭痕残り。外面上方への旋回り。	
第1409R PL-106	8	土師器 甕	口縁部～体部	口 計 22.4 高 19.9	粗砂粒。片岩含 む/酸化塩/明赤 褐色	器面荒れる。口縁横撫で、体部内面反時計回りの磨撫で、胴部外面右上方、胴部上方への旋回り。	
第1409R	9	土師器 甕	口縁部～体部	口 計 [20.4] 高 [7.2]	粗砂粒/酸化塩/ 明赤褐色	器面若干荒れる。口縁横撫で、体部内面反時計回りの磨撫で、左斜め上方への旋回り後横位の旋回り。	
第1411R	10	土師器 甕	胴部～底部	底 計 7.2 高 8.5	粗砂粒。片岩含 む/酸化塩/明赤 褐色	胴部～底部内面反時計回りの磨撫で、胴部外面反時計回りの旋回り。底面旋回り。	
第1411R PL-107	11	土師器 小型甕	口縁部～体部 2/3欠損	口 計 [12.6] 底 7.1 高 10.2	粗砂粒。片岩含 む/酸化塩/橙	外面荒れ、内面口縁下半以下、外面胴部以下吸戩。口縁横撫で、胴～胴部内面反時計回りの磨撫で、胴部～底部内面指撫で、胴部外面斜方向の旋回り。底面旋回り。	
第1411R	12	土師器 小型甕	一部欠損	口 計 14.0 底 7.7 高 14.5	粗砂粒。片岩含 む/酸化塩/にぶい 黄褐色	底部平底状。外面荒れる。口縁部に部分的に輪轆み痕残り。口縁横撫で、内面胴部と底部指撫で、胴部反時計回りの旋回りで、外面胴部上方へ、胴部左上方向への旋回りや断面旋回りか。	
第1411R PL-107	13	土師器 小型甕	一部欠損	口 計 15.0 底 6.8 高 15.7	粗砂粒。片岩含 む/酸化塩/にぶい 橙	底部丸底縁。外面顕著に荒れる。口縁横撫で、胴～胴部内面反時計回りの磨撫で、胴部～底部内面指撫で、外面上方へ、下位左上への旋回り。底面旋回りか。	
第1411R PL-107	14	土師器 甕	口縁～一次欠損	口 計 19.8 高 14.3	細砂粒/酸化塩/ にぶい橙	外面荒れる。口縁反時計回りの磨撫で、体部内面反時計回りの磨撫で、外面上半縦位、下半斜方向・横位の旋回り。底面中央に3.5×3.3cmの孔を内面より穿ち、外面に極く浅い隆起が見られる。	
第1411R PL-107	15	敲石・こも 編み石	完形	長 幅 11.4 5.8 厚 重 3.2 280	変質安山岩	横断面三角形の河床礫使用。上端部に敲打痕残り、中位に幅3.0cmの摩耗痕一周。	
第1411R PL-107	16	敲石・こも 編み石	完形	長 幅 14.0 7.3 厚 重 4.3 700	粗粒輝石安山岩	平面形扇形形の河床礫使用。上端部に敲打痕残り、中下位に幅4.5cmの摩耗痕一周。	
第1411R PL-107	17	敲石・こも 編み石	ほぼ完形	長 幅 12.0 8.4 厚 重 4.5 629	変質安山岩	横断面多形形を呈し、上右端部剝離する河床礫使用。上端に敲打痕残り、中下位に幅3.1cmの摩耗痕一周。	
第1411R PL-107	18	刀削のある こも編み 石	完形	長 幅 13.6 7.2 厚 重 4.3 679	変質安山岩	扇状の河床礫使用する。表面上下及び左側面中下位に縦位の刀削痕及び0.6cm間隔の二又の工具による削痕が吸る。左右の極薄い湾曲を利用し、幅3.4cmを測る摩耗痕一周する。	小型品
第1429R PL-107	19	こも編み石	完形	長 幅 12.0 7.1 厚 重 4.8 598	かんらん岩	横断面三角形を呈する河床礫使用。左右両縁上位に敲打による抉れを作り、中位に幅4.2cmの摩耗痕一周。	
第1429R PL-107	20	石製品	完形	長 幅 4.3 3.6 厚 重 1.4 39.8	砥石	表面側に縦位に浅く窪み箇所が2カ所ある。このほか、孔(径5mm)の延長上に位置する上面も浅く窪み、孔と機能的に関連する可能性がある。下端側小口を除き各面とも光沢を帯びる。	

種 別 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
PL-107	21	こもろみ石	完形	長幅 12.0 厚 5.3 重 750	変玄武岩	横断面菱形の厚板状の河床礫使用。中・上位に幅4.5cmの摩耗痕一周。	
PL-107	22	こもろみ石	完形	長幅 14.5 厚 10.7 重 688	変玄武岩	平面形弧線形を呈する板状の河床礫使用。左右縁の弱い湾曲面を利用し、中・上位に幅4.6cmの摩耗痕一周。	
PL-107	23	こもろみ石	完形	長幅 14.4 厚 6.4 重 715	粗粒輝石安山岩	上位角柱状、下位厚板状の河床礫使用。中位に幅3.3cmの摩耗痕一周。	小型品
PL-107	24	こもろみ石	完形	長幅 12.1 厚 6.4 重 446	変玄武岩	平面形楕円形を呈する河床礫使用。中位に幅3.0cmを測る摩耗痕一周。	小型品
PL-108	25	こもろみ石	完形	長幅 13.0 厚 6.7 重 599	粗粒輝石安山岩	角柱状の河床礫使用。中位に幅4.1cmを測る摩耗痕一周。	
PL-108	26	こもろみ石	完形	長幅 15.9 厚 9.9 重 635	粗粒輝石安山岩	ローリングした大型の割片使用。中位やや上方に幅4.6cmの摩耗痕一周。	27と対か
PL-108	27	こもろみ石	完形	長幅 16.6 厚 8.9 重 610	粗粒輝石安山岩	ローリングした大型の割片使用。右側縁の湾曲面を利用し、中位に幅4.1cmの摩耗痕一周。	26と対か
PL-108	28	こもろみ石	完形	長幅 15.1 厚 6.7 重 681	粗粒輝石安山岩	横断面三角形を呈する河床礫使用。中位に幅5.0cmの摩耗痕一周。	
PL-108	29	こもろみ石	ほぼ完形	長幅 11.8 厚 6.5 重 559	粗粒輝石安山岩	字形の河床礫使用。中位に幅3.1cmを測る摩耗痕一周。	
PL-108	30	こもろみ石	右縁欠損	長幅 13.3 厚 6.3 重 (8.4) 530	砂岩質準片岩	幅広の板状の河床礫使用。中位に幅3.6cmを測る摩耗痕一周。	

49号型穴建物

種 別 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第144号 PL-108	1	土師器 鉢	ほぼ完形	口 23.5 底 8.1 高 15.8	細砂粒/片岩含む/酸化塩/橙	外面中心に器面荒れる。内面喫炭による黒色処理。口縁横撫で、体部～底部内面反時計回りの窪撫で、体部内面上位上方または左上方へ、下位下方または右下方への窪削り。底面窪削り。	

50号型穴建物

種 別 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第147号 PL-108	1	土師器 杯	口縁部～底部	口 14.0 底 8.4 高 4.5	細砂粒/酸化塩/にぶい橙	口縁部外面に縦化痕。底部内面縁に段差。器面摩耗。口縁横撫で、体部～底部横撫で、外面窪削りか。	
第147号 PL-108	2	土師器 杯	口縁部～底部	口 16.0 底 8.0 高 3.6	細砂粒/酸化塩/橙	器面荒れる。口縁横撫で、体部～底部内面窪撫でか、外面窪削りか。	
第147号	3	土師器 鉢	口縁部～底部	口 17.0 底 10.2 高 5.2	細砂粒/酸化塩/橙	口縁横撫で。体部～底部内面反時計回りの窪撫で、外面窪削り。	
第147号	4	土師器 鉢	口縁部～体部	口 20.0 高 16.0	細砂粒/酸化塩/橙	口縁横撫で。体部内面反時計回りの窪撫で、外面右方または右下方への窪削り。	
第147号	5	土師器 鉢	口縁部～体部	口 15.0 高 8.7	細砂粒/酸化塩/橙	口縁横撫で。体部内面反時計回りの窪撫で、外面時計回りの窪削り。	
第147号 PL-108	6	土師器 杯	口縁部～肩部 1/4	口 21.0 高 7.1	細砂粒/酸化塩/橙	やや崩れたゴ字状口縁。口縁部横撫で、体部内面横位窪撫で、外面上方への窪削り後横位の窪削り。	
第147号 PL-108	7	土師器 小型甕	口縁部～肩部 1/2	口 12.0 高 5.4	細砂粒/酸化塩/明赤濁	内面喫炭。口縁部横撫で、体部内面反時計回りの窪撫で、外面斜上方への窪削り。	
第147号	8	須恵器 鉢	体部	長 10.0 幅 7.4 重 592	細砂粒/還元塩/灰白	外面平行叩き。内面同心叩き。	
第147号 PL-108	9	砥石	側部と右面上位と裏面右下側	長 16.4 幅 6.1 厚 3.7 重 592	砥石	削り、研磨により直方体状に加工。表面と左側面に凹面を成す顕著な研磨面形成。	

51号型穴建物

種 別 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第151号	1	土師器 杯	口縁部～底部	口 14.0 底 15.0 高 4.0	細砂粒/酸化塩/にぶい黄橙	口縁部端をほとんど打ち欠く。器面摩耗荒れる。口縁横撫で。体部～底部内面(反時計回りの)窪撫で、外面回し乍らの窪削り。	
第151号	2	土師器 杯	口縁部～底部	口 14.6 底 12.2 高 4.5	細砂粒/酸化塩/にぶい黄橙	横成やや不良で器面一部かせる。口縁と体部外面横撫で、体部内面反時計回りの窪撫で、外面窪削り。	
第151号	3	須恵器 杯	口縁部～底部	口 15.0 底 12.2 高 4.0	細砂粒/還元塩/浅黄橙	横成やや不良。口縁横撫で。体部～底部内面反時計回りの窪撫で、外面時計回りの窪削り。	
第151号 PL-109	4	土師器 杯	一部欠損	口 13.0 底 12.0 高 4.8	細砂粒/酸化塩/橙	内面やや荒れる。口縁横撫で。体部～底部内面窪撫で、外面時計回りの窪削り。	
第151号 PL-109	5	土師器 杯	口縁部1/2欠損	口 14.0 底 13.5 高 5.3	細砂粒/酸化塩/にぶい橙	体部外面やや荒れる。内面横しによる黒色処理。口縁横撫で。体部～底部内面反時計回りの窪撫で後、放射状の暗文。体部外面時計回り、底面一方内への窪削り。	
第151号 PL-109	6	土師器 杯	1/3	口 13.0 底 13.0 高 4.4	細砂粒/酸化塩/橙	杯身の稜線横。口縁横撫で。体部～底部内面(反時計回りの)窪撫で。体部外面時計回り、底面恐らく一方内への窪削り。	
第151号 PL-109	7	土師器 杯	口縁部一部残し欠損	口 12.4 底 13.8 高 4.5	細砂粒/酸化塩/にぶい橙	内面喫炭による黒色処理の痕跡。外面の過半喫炭。口縁横撫で。体部～底部内面反時計回りの窪撫で、外面時計回りの窪削り。	
第151号	8	土師器 鉢	口縁部～底部	口 14.0 底 8.6 高 8.6	細砂粒/酸化塩/橙	内面中心に荒れる。口縁横撫で。体部内面反時計回りの窪撫で、体部～底部外面窪削り。	

南蛇井北原田遺跡 遺物観察表

採 掘 No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値 (cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第1518号 PL-109	土師器 費	1/2	口19.0 底6.5	高33.7	粗砂粒・片岩含む/酸化塩/にぶい黄緑	ゆがみあり。内外面荒れる。口縁横撫で。体部内面縦位の窪地で後一帯指痕残る。体部外面縦位、胴下部時計回りの窪り。底面平直気味で窪り。
第1518号 PL-109	土師器 費	口縁部～底部	口21.2 底7.2	高31.6	粗砂粒・片岩含む/酸化塩/にぶい黄緑	外面胴部～底部に一部脱土化或いは炭化したマダコ横染材付着。体部～底部内面炭灰の痕跡。口縁横撫で。体部～底部内面反時計回りの窪地で。体部外面上上上方、中位横位、下位下方への窪りあり。底面平直で窪りあり。
第1518号 PL-109	土師器 費	口縁部～体部1/4	口21.0	高(13.8)	粗砂粒/酸化塩/にぶい黄緑	器面荒れ。摩耗。口縁横撫で。体部内面反時計回りの窪地で。外面上方向への窪りあり。
第1528号 PL-109	土師器 費	口縁部～胴部 上位1/3欠損	口20.4 底6.6	高30.7	粗砂粒・片岩含む/酸化塩/にぶい黄緑	内面胴部以下、外面胴部下位以下吸炭。外面胴部下半～胴部上位にカマコ横染材付着またはその痕跡。内面荒れが著る箇所多し。底面外周割離し、中央に径1.5cmの穿孔。口縁横撫で、体～底部内面反時計回りの窪地で、(上上方向へ)外面窪りあり。
第1528号 PL-109	土師器 費	口縁部～体部1/3	口22.0	高(18.0)	粗砂粒/酸化塩/にぶい黄緑	内外面荒れる。口縁横撫で。体部内面反時計回りの窪地で、外面横位の窪りあり。
第1528号 PL-109	土師器 費	口縁部～体部	口19.0	高(13.0)	粗砂粒・片岩含む/酸化塩/にぶい黄緑	器面荒れる。口縁横撫で(横撫では複数回)。体部内面反時計回りの窪地で、外面上方向への窪りあり。
第1528号 PL-109	土師器 小型費	口縁部～体部1/4	口14.0	高(8.0)	粗砂粒・片岩含む/酸化塩/にぶい黄緑	内面中心にやや荒れる。口縁横撫で。内面反時計回りの窪地で、指痕跡残る。外面上方向への窪りあり。
第1528号 PL-109	砥石	上位片・縁辺一部欠損	長(5.4) 幅(5.5)	厚3.0 重112	変質安山岩	角柱状で頂部球面状を呈する石材使用。表面裏面側面に研ぎ痕残る。
第1528号 PL-109	敲石・こも 編み石	完形	長11.6 幅7.7	厚3.2 重563	変質安山岩	横断面形楕円形を呈し、下端の斬した河床礫使用。上端に敲打痕残り、中下位に幅4.0cmの摩耗痕一周。
第1528号 PL-109	敲石・こも 編み石	左面中位窪損	長12.8 幅7.4	厚6.1 重886	変質安山岩	角柱状を呈する河床礫使用。上端面に敲打痕残り、中位に幅4.3cmの摩耗痕一周。
第1528号 PL-110	敲石・こも 編み石	完形	長15.5 幅9.1	厚4.4 重891	変質安山岩	横断面形三角形を呈する河床礫使用。上端に敲打痕残り、中位に幅3.7cmを測る摩耗痕一周する。
第1538号 PL-110	敲石・こも 編み石	完形	長8.2 幅5.1	厚3.1 重214	デイスait	盾形の平面形を呈する厚板状の河床礫使用。上端に敲打痕残り、中位に幅2.4cmの摩耗痕一周。
第1538号 PL-110	敲石・こも 編み石	完形	長9.5 幅4.8	厚3.0 重190	変質安山岩	平面形足の裏形を呈する河床礫使用。上端に敲打痕残り、周囲に幅2.6cmの摩耗痕一周し、この部分荒れる。
第1538号 PL-110	敲石・こも 編み石	完形	長10.6 幅4.2	厚3.0 重160	変質安山岩	バナナ形の河床礫使用。上端に敲打痕残り、中位に幅2.3cmの摩耗痕一周。
第1538号 PL-110	敲石・こも 編み石	完形	長11.0 幅5.9	厚2.6 重286	砂岩	板状の河床礫使用。上端に敲打痕残り、左右側の湾曲面を利用し、中位に幅3.6cmの摩耗痕一周。
第1538号 PL-110	敲石・こも 編み石	ほぼ完形	長9.8 幅5.5	厚2.4 重187	変質安山岩	上部左側欠損する右板状の河床礫使用。上端に敲打痕残り、中下位に幅2.9cmの摩耗痕一周。
第1538号 PL-110	敲石・こも 編み石	完形	長8.6 幅5.9	厚4.2 重277	粗粒輝石安山岩	字形の河床礫使用。上端に敲打痕残り、表面下半の突出部に掛かるように中上位に幅2.8cmを測る摩耗痕一周する。
第1538号 PL-110	敲石・こも 編み石	完形	長11.7 幅7.3	厚3.4 重359	変質安山岩	亀甲形を呈する河床礫使用。上端に敲打痕残り、右側縁の挟れを利用し、中位に幅3.3cmの摩耗痕一周。
第1538号 PL-110	敲石・こも 編み石	右側上位一部 割離	長9.9 幅5.1	厚5.1 重244	粗粒輝石安山岩	横断面形楕円形を呈する河床礫使用。上端に敲打痕残り、中位に幅3.2cmを測る摩耗痕一周。
第1538号 PL-110	敲石・こも 編み石	完形	長8.8 幅5.2	厚3.2 重196	変質安山岩	扁平な楕円球状を呈する。表面下位に径2.1×1.1cm、高さ0.7cmを測る未貫透孔あり。上端に敲打痕残り、中下位に幅2.6cmの摩耗痕一周。
第1538号 PL-110	敲石・こも 編み石	完形	長7.9 幅5.0	厚2.9 重189	変質安山岩	横断面形横長の三角形を呈する河床礫使用。上端に敲打痕残り、中位に幅2.7cm以下の摩耗痕一周。
第1538号 PL-110	敲石・こも 編み石	完形	長8.5 幅6.0	厚3.7 重214	変質安山岩	下端に切断面残り、横断面形横長の三角形を呈する河床礫使用。上端に敲打痕残り、中位に幅2.1cmを測る摩耗痕一周。
第1538号 PL-110	敲石・こも 編み石	完形	長7.8 幅5.3	厚5.3 重188	粗粒輝石安山岩	ミカンの房状の河床礫使用。上端に敲打痕残り、中上位に幅2.2cmを測る摩耗痕一周する。
第1538号 PL-110	磨石・こも 編み石	完形	長9.3 幅5.9	厚3.9 重234	デイスait	横断面形三角形を呈する河床礫使用。上面上方、右上方の2面の研ぎ面。中位に幅3.1cmを測る摩耗痕が斜めに一周する。
第1538号 PL-111	こも編み石	完形	長10.6 幅5.1	厚3.6 重214	デイスait	厚板状の石材使用。中位の左側は上下方向、右側は表面方向から敲打による挟れを作り、ここに幅2.6cmを測る帯状の摩耗痕一周。
第1538号 PL-111	こも編み石	下部部と右縁一部欠損	長(12.0) 幅6.1	厚3.1 重346	変質玄武岩	ラグビーボール形の平面形を呈する河床礫使用。左右両側中位を敲打により平らにし、この位置に幅2.9cmの摩耗痕一周。
第1548号 PL-111	こも編み石	完形	長11.0 幅6.4	厚2.5 重225	デイスait	平面形楕円形を呈する河床礫使用。右側縁に敲打による挟れを設け、中位に幅2.7cmの摩耗痕一周。
第1548号 PL-110	台石	完形	長32.7 幅26.1	厚11.8 重14600	珪質頁岩	平面形が三角形の台形を呈する厚板状の河床礫使用。表面中央に長さ17.3cm、幅9.3cmを測る研ぎ面残る。
第1548号 PL-111	石製小型皿	完形	長5.1 幅4.2	厚1.8 重38	石英閃緑岩	一端に突出部を有する椀形の石材使用。内側は幅0.6cmの縁取りを成して、径3.9×3.1cm、深さ0.8cmを測る楕円状に削られる。
PL-111	こも編み石	表面・左下部割 離欠損	長(14.2) 幅8.0	厚3.0 重540	粗粒輝石安山岩	左右両側に窄い、平面の見られる板状の河床礫使用。左右面の湾曲面を利用し、幅2.9cmの摩耗痕一周。

採 掘 Pl.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値 (cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考	
PL-111	39	こもろみ石	完形	長 13.8 幅 9.7	厚 4.2 重 954	デイスait	箱形を呈する河床礫使用。中位～下位にかけて幅4.3cmの摩耗痕一周。	84と対か
PL-111	40	こもろみ石	完形	長 10.4 幅 6.3	厚 3.2 重 273	珪質変質岩	裏面と右側面に刺刺痕を残るローリングした割片状の石材使用。中位に幅3.2cmの摩耗痕一周。	
PL-111	41	こもろみ石	完形	長 15.7 幅 8.6	厚 5.3 重 1060	砂岩	平面形縦長の六角形を呈する厚板状の石材使用。表面凸部下の中位に幅4.0cmを測る摩耗痕一周。	小型品
PL-111	42	こもろみ石	完形	長 10.5 幅 6.1	厚 3.8 重 282	粗粒輝石安山岩	横断面菱形を呈し、表面上位が刺刺する河床礫使用。中上位に幅3.0cmの摩耗痕一周。	
PL-111	43	こもろみ石	完形	長 10.2 幅 5.2	厚 3.6 重 275	変質安山岩	横断面三角形を呈する河床礫使用。中位～上位にかけて幅3.2cmの摩耗痕一周。	
PL-111	44	こもろみ石	上下欠損	長 (9.3) 幅 6.3	厚 3.2 重 260	変玄武岩	上下欠損する半径丸状の河床礫使用。中位に幅2.7cmの摩耗痕一周。	
PL-111	45	こもろみ石	完形	長 8.9 幅 5.0	厚 3.4 重 238	粗粒輝石安山岩	横断面菱形を呈する丸石状の河床礫使用。中位に幅2.5cmの摩耗痕一周。	小型品
PL-111	46	こもろみ石	完形	長 8.8 幅 5.4	厚 3.4 重 232	砂岩	左側に割れ跡を残す河床礫使用。表面上位の突出部下に幅2.9cmを測る摩耗痕一周。	小型品
PL-111	47	こもろみ石	完形	長 13.9 幅 9.0	厚 5.2 重 839	チャート	平面形菱形の河床礫使用。中位に幅3.3cmの強い摩耗痕一周。	小型品
PL-111	48	こもろみ石	完形	長 8.3 幅 5.6	厚 3.9 重 265	粗粒輝石安山岩	靴形の河床礫。下位に径0.6cm、深さ0.5cmの不貫通孔開く。中上位に幅2.5cmの摩耗痕一周。	小型品
PL-111	49	こもろみ石	完形	長 9.7 幅 5.7	厚 3.9 重 263	デイスait	靴形を呈し、表裏面に刺刺痕を残る河床礫使用。中位に幅3.2cmを測る摩耗痕一周。	小型品
PL-111	50	こもろみ石	完形	長 10.6 幅 6.1	厚 4.2 重 432	粗粒輝石安山岩	横断面菱形を呈する河床礫使用。中位やや上寄りに幅2.6cmの摩耗痕一周。	小型品
PL-111	51	こもろみ石	完形	長 11.1 幅 6.1	厚 3.7 重 345	〇ん岩	平面形米粒形を呈する河床礫使用。中位に幅2.9cmの摩耗痕一周。	小型品
PL-111	52	こもろみ石	完形	長 7.8 幅 5.2	厚 3.5 重 215	〇ん岩	厚板状の河床礫使用。中上位に幅2.3cmを測る摩耗痕一周。	小型品
PL-112	53	こもろみ石	完形	長 8.5 幅 4.1	厚 4.1 重 213	粗粒輝石安山岩	スタンプ石状の河床礫使用。中上位に幅3.2cmを測る帯状の摩耗痕一周。	小型品
PL-112	54	こもろみ石	完形	長 9.1 幅 4.7	厚 4.7 重 226	粗粒輝石安山岩	横断面菱形形状を呈する河床礫使用。中上位に幅2.8cmを測る帯状の摩耗痕一周。	小型品
PL-112	55	こもろみ石	完形	長 6.9 幅 4.8	厚 4.8 重 201	変質安山岩	縦断面菱形を呈し、右側に切断痕を残す河床礫使用。左側面の門部と右側の切断面の門部を利用して、幅2.3cmを測る摩耗痕一周。	小型品
PL-112	56	こもろみ石	完形	長 8.9 幅 6.9	厚 3.5 重 249	砂岩	ミカンの房状の河床礫使用。中位に幅2.7cmの摩耗痕一周する。	小型品
PL-112	57	こもろみ石	完形	長 9.5 幅 5.0	厚 4.1 重 259	粗粒輝石安山岩	横断面菱形を呈する河床礫使用。左右面の門部を利用し、中位に幅2.8cmの摩耗痕一周する。	小型品
PL-112	58	こもろみ石	完形	長 7.7 幅 5.4	厚 4.0 重 195	チャート	横断面片層相形を呈する河床礫使用。中位に幅2.3cmを測る摩耗痕一周。	小型品
PL-112	59	こもろみ石	完形	長 8.3 幅 5.5	厚 3.2 重 183	変質安山岩	縦断面菱形で唇形の平面形を呈する河床礫使用。左右の屈面を利用して、幅2.9cmの摩耗痕一周。	小型品
PL-112	60	こもろみ石	完形	長 8.7 幅 6.7	厚 2.9 重 204	デイスait	左側と下側が切断した潰れた冠球状を呈する河床礫使用。中位に幅3.0cmを測る摩耗痕一周する。	小型品
PL-112	61	こもろみ石	完形	長 8.8 幅 5.3	厚 4.5 重 287	〇ん岩	横断面が横長の三角形を呈する芋形の河床礫使用。中位やや上寄りに幅2.9cmを測る摩耗痕一周。	小型品
PL-112	62	こもろみ石	完形	長 9.1 幅 7.3	厚 3.2 重 299	変質安山岩	左側が斜めに切断する。側面形を呈する河床礫使用。中位に幅3.0cmを測る摩耗痕一周する。	小型品
PL-112	63	こもろみ石	完形	長 8.6 幅 5.0	厚 2.7 重 167	変質安山岩	ミカンの房状を呈する河床礫使用。中位に幅2.5cmを測る摩耗痕一周する。	小型品
PL-112	64	こもろみ石	完形	長 7.6 幅 6.8	厚 4.4 重 292	チャート	三角柱状の河床礫使用。中位に幅2.6cmの強い摩耗痕一周する。	小型品
PL-112	65	こもろみ石	上位片	長 (8.3) 幅 7.8	厚 3.2 重 244	砂岩	裏面が凹面を成す河床礫使用。残存部下端に幅2.5cm以上の帯状の摩耗痕を認める。	
PL-112	66	こもろみ石	下位欠損	長 (9.1) 幅 6.6	厚 2.2 重 195	〇ん岩	ローリングした割片状石材使用。残存部中位に幅3.2cmを測る摩耗痕一周。	
PL-112	67	こもろみ石	左縁中位刺刺	長 13.6 幅 8.5	厚 3.0 重 563	変玄武岩	表裏面に刺刺面を呈する。横断面三角形を呈する割片状の石材使用。中位に幅5.1cmを測る摩耗痕一周。	
PL-112	68	こもろみ石	右側縁中位刺刺	長 9.2 幅 6.3	厚 3.2 重 241	粗粒輝石安山岩	平面形楕円形の円礫使用。中位に幅2.7cmを測る摩耗痕一周。	
PL-112	69	こもろみ石	中位破片	長 (9.3) 幅 7.3	厚 3.8 重 323	輝緑凝灰岩	残存部の表面上半、裏面の下半と左右側縁のみ残る。残存部の中位に幅2.6cmの摩耗痕一周。	
PL-112	70	こもろみ石	表裏面下位一部刺刺	長 (8.5) 幅 5.5	厚 2.4 重 152	珪質頁岩	小丸状の河床礫使用。左側面のV字形の自然の抜けを利用して、中位やや上寄りに幅2.6cmを測る摩耗痕一周。	小型品
PL-112	71	こもろみ石	表面破れ、表面上位と左側縁下位刺刺	長 (10.5) 幅 4.3	厚 3.0 重 179	粗粒輝石安山岩	横断面菱形形状を呈する河床礫使用。中位裏面中心に幅3.4cmを測る摩耗痕一周を認める。	小型品
PL-112	72	こもろみ石	表面破れ、表面下位欠損	長 (8.6) 幅 (4.7)	厚 3.7 重 204	珪質変質岩	棒状の河床礫使用。残存部下方寄りに幅1.3cm以上の摩耗痕を認める。	小型品
PL-112	73	こもろみ石	ほぼ完形	長 9.4 幅 5.0	厚 3.1 重 155	デイスait	横断面菱形形状を呈する河床礫使用。中位やや上方に幅2.5cmを測る摩耗痕一周する。	小型品

南蛇井北原田遺跡 遺物観察表

種 類 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考	
PL-112	74	こも幅み石	右側縁一部割落	長14.2 幅(9.9)	厚重 4.6 933	粗粒輝石安山岩	表面に礫の剥離痕を残す厚板状の石材使用。中位に幅4.3cmを測る帯状の摩耗痕一周。	小型品
PL-112	75	こも幅み石	右下部欠損	長7.6 幅(5.9)	厚重 4.1 254	輝綠凝灰岩	縦長の胎形を呈する河床礫使用。中位に幅2.3cmを測る摩耗痕一周。	小型品
PL-112	76	こも幅み石	右側縁中・下位割離	長8.5 幅6.4	厚重 3.4 236	粗粒輝石安山岩	平面形長方形、横断面形変形を呈する河床礫使用。自然の傾斜を利用し、中上位に幅2.6cmの摩耗痕一周。	小型品
PL-113	77	こも幅み石	裏面右側割離	長9.3 幅5.7	厚重 2.7 183	ひん岩	ミカン形の房状の河床礫使用。中位に幅3.0cmの摩耗痕一周する。	小型品
PL-113	78	こも幅み石	右側欠損	長8.5 幅(5.5)	厚重 3.5 191	石英斑岩	靴形の河床礫使用。表面上位の突出部の下端から下、中下位に幅2.7cmを測る摩耗痕一周。	小型品
PL-113	79	こも幅み石	右側面上位一部欠損	長9.1 幅5.4	厚重 3.9 293	砂岩	横断面形が中・上位方形、下位が三角形を呈する河床礫使用。中位に幅2.7cmを測る摩耗痕一周。	小型品
PL-113	80	こも幅み石	上端部欠損	長(9.3) 幅6.1	厚重 2.8 206	デイスait	石楕状の形態を呈する河床礫使用。中位に幅3.1cmを測る摩耗痕一周する。	小型品、敲石か
PL-113	81	こも幅み石	長(8.5) 幅(5.8)	厚重 3.3 190	砂岩	横断面形変形の河床礫使用。残存部中上位に幅2.9cmの摩耗痕一周。	小型品か	
PL-113	82	こも幅み石	表面上位～裏面中位切斷	長(8.3) 幅5.2	厚重 3.9 279	花崗岩	厚板状の河床礫使用。残存部中上位に幅3.2cmを測る摩耗痕一周する。	小型品か
PL-113	83	こも幅み石	上端部一部欠損	長11.8 幅6.4	厚重 3.0 303	粗粒輝石安山岩	靴形を呈する円礫使用。中上位方寄りに幅3.7cmの摩耗痕一周。	小型品
PL-113	84	こも幅み石	下部端と右縁欠損	長(15.5) 幅9.5	厚重 2.9 995	蛇紋岩	勾玉形を呈する河床礫使用。左側縁の湾曲を利用し、中位に幅4.6cmの摩耗痕一周。	30と対か
PL-113	85	こも幅み石	上端割れ、下位切斷	長(11.3) 幅8.3	厚重 2.9 435	粗粒輝石安山岩	厚板状の石材使用。残存部中位や上に幅4.0cmの摩耗痕一周。	敲石の可能性あり
第1549号 PL-113	86	鉄洋	1/2程度	縦5.8 横6.0	厚重 5.8 60.8	/無/10	上面は比較的平らで因まつた上砂が多く付着する。下面はわずかに丸みを帯びる。発色は少なく、洋質は密。	
52号竈穴建物								
種 類 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考	
第1569号 PL-113	1	土師器 杯	1/4	口 底 [14.0 (8.0)]	高 3.8	細砂粒/酸化塩/にぶい體	内面筒れ、一部かき。口縁横線で、体部内面横位の撫で、外面反時計回りの窪み。底部内面反時計回りの窪みでか、底面手持ち窪み。	
第1569号 PL-113	2	土師器 甕	口縁部～肩部	口 [20.0]	高 (7.5)	細砂粒/酸化塩/にぶい體	コ字状口縁、口縁横線で、肩部内面反時計回りの窪みで、外面窪み。	
53号竈穴建物								
種 類 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考	
第1599号 PL-113	1	土師器 杯	口縁部～底部	口 [18.0 (11.0)]	高 5.7	細砂粒/酸化塩/にぶい體	焼成甘く、表面面厚粒。口縁横線で、体部～底部内面窪みでか、外面窪み。	
第1599号 PL-113	2	土師器 杯	口縁部～底部	口 [15.0 (10.0)]	高 3.7	細砂粒/酸化塩/にぶい體	焼成甘く、表面面厚粒。口縁横線で、体部～底部内面反時計回りの窪みで、外面反時計回りの窪み。	
第1599号 PL-113	3	土師器 杯	1/4	口 [13.8 (7.8)]	高 4.4	粗砂粒、片岩含む/酸化塩/にぶい體	断面荒れる。口縁横線で、体部内面窪みで、外面横位の窪み後指撫で、底部内面縁に段差、窪みでか、底面窪み。	
第1599号 PL-113	4	土師器 杯	1/4	口 [15.0 (9.6)]	高 3.8	細砂粒/酸化塩/にぶい體	口縁横線で、体部～底部内面反時計回りの窪みで、体部外面横位の窪み、底面手持ち窪み。	
第1599号 PL-113	5	土師器 甕	口縁部～体部	口 [28.0]	高 (11.0)	細砂粒、片岩含む/酸化塩/明赤濁	口縁横線で、体部内面横位の窪みで、外面縦位の窪み。	
第1599号 PL-113	6	土師器 甕	口縁部～体部 1/4	口 [30.0]	高 (11.7)	粗砂粒、片岩含む/酸化塩/にぶい體	焼成良好。破瓦。口縁横線で、体部内面反時計回りの窪みで、外面上方への窪み。	
第1599号 PL-113	7	須恵器 杯	口縁一部欠損	口 [13.6 (7.9)]	高 4.0	細砂粒/酸化塩/灰	底部内面および外面四縁厚粒。右回転輪軸成形。回転糸切り後、腰部下部～底部外周部手持ち窪み。	
第1599号 PL-113	8	須恵器 杯	口縁部～底部	口 [13.0 (8.2)]	高 3.8	細砂粒/還元塩/灰白	焼成良好。右回転輪軸成形。底面切り離し後撫で調整。	
第1599号 PL-113	9	須恵器 杯	1/4	口 [14.0 (8.6)]	高 3.6	細砂粒/還元塩/灰白	右回転輪軸成形。底面手持ち窪み調整(撫で)。	
第1599号 PL-113	10	須恵器 杯	体部～底部	底 [8.0]	高 (1.7)	細砂粒/還元塩/灰	焼成良好。(右)回転輪軸成形。底面切り離し後、反時計回りの回転調整。	
第1599号 PL-113	11	須恵器 付台皿	3/4	口 [13.0 (9.2)]	底高 10.7 3.4	細砂粒/酸化塩/灰	右回転輪軸成形。底部内面に溝巻き状撫で。底面手持ち窪み調整後高台貼付け。	
第1599号 PL-113	12	須恵器 甕	体部～底部	台 [10.0]	高 (3.2)	細砂粒/還元塩/灰	焼成特良好。回転輪軸成形。高台貼付け後底面指撫で。	
第1599号 PL-113	13	須恵器 甕	体部～底部	台 [12.9]	高 (6.3)	細砂粒/還元塩/灰	焼成良好。内外面に若干の自然軸。回転輪軸成形。底面回転糸切り後一方への指撫で。高台貼付け。	
第1609号 PL-113	14	敲石・こも幅み石	完形	長10.2 幅5.6	厚重 3.1 220	デイスait	水溜形の平面形を呈する円礫使用。上端に敲打痕残り、中位に幅2.9cmの摩耗痕一周。	
第1609号 PL-113	15	敲石・こも幅み石	完形	長11.0 幅7.0	厚重 3.1 321	変質安山岩	下部欠ける半月形の平面形を呈する河床礫使用。中位に幅3.1～3.6cmを測る摩耗痕一周。	
第1609号 PL-113	16	敲石・こも幅み石	裏面中位左側割離	長13.9 幅6.7	厚重 2.9 388	デイスait	横断面形鋭い偏錐形を呈する河床礫使用。上端に敲打痕残り、左側中位に割離による折れを設け、これと右側の弱い折れを利用し、幅2.9cmの摩耗痕一周。	

種 類 PL.No.	No.	種 類 種 類	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考
第16098 PL-114	17	敲石・こも 幅み石	上位に割れ	長 幅 12.6 4.7 厚 重 3.3 285	珪質頁岩	右側に切断痕残る河床礫使用。上位に敲打痕残り、中に幅3.2cmの摩耗痕一周。	
第16098 PL-114	18	敲石・こも 幅み石	完形	長 幅 12.9 6.2 厚 重 3.4 370	デイサイト	横断面三角形を呈する河床礫使用。上位に敲打痕残り、中に幅3.5cmの摩耗痕一周。	
第16098 PL-114	19	敲石・こも 幅み石	完形	長 幅 12.8 4.4 厚 重 4.8 338	変玄武岩	円端部で左側切断面の中・下位が自然の欠けにより湾曲する河床礫使用。上位に敲打痕残り、左側部の塊れを用い、幅4.2cmを測る帯状の摩耗痕一周。	
第16098 PL-114	20	敲石・こも 幅み石	完形	長 幅 13.7 4.3 厚 重 4.6 325	デイサイト	横断面三角形を呈する河床礫使用。上位に敲打痕残り、中に幅3.4cmを測る摩耗痕一周。	
第16098 PL-114	21	敲石・こも 幅み石	完形	長 幅 13.0 4.3 厚 重 3.8 319	粗粒輝石安山岩	角柱状の河床礫使用。上位に敲打痕残り、中に幅3.6cmを測る摩耗痕一周。	
第16098 PL-114	22	磨石・こも 幅み石	下半欠損、表面一部剝離	長 幅 (11.4) 6.4 厚 重 4.2 488	変玄武岩	横断面階梯形の棒状の河床礫使用。上位に小さな研磨面形成される。残存部下に幅2.8cmの帯状の摩耗痕一周。	
PL-114	23	こも幅み石	完形	長 幅 11.3 4.2 厚 重 1.8 170	珪質頁岩	未粒状の平面形態を呈し、縦方向に弱い湾曲を見せる棒状の河床礫使用。中に幅2.9cmの摩耗痕一周。	
PL-114	24	こも幅み石	完形	長 幅 9.1 4.2 厚 重 1.9 87	砂岩	平面形未粒形を呈する河床礫使用。中に幅2.8cmの摩耗痕一周。	小型品
PL-114	25	こも幅み石	完形	長 幅 13.6 4.5 厚 重 3.1 272	変玄武岩	横断面三角形を呈する河床礫使用。中に幅3.3cmを測る帯状の摩耗痕一周。	
PL-114	26	こも幅み石	完形	長 幅 15.0 6.5 厚 重 3.0 289	デイサイト凝灰岩	縦長の削片状の河床礫使用。左右側縁の湾曲等を利用して、中に幅3.4cmの摩耗痕一周。	
PL-114	27	こも幅み石	完形	長 幅 12.7 5.1 厚 重 3.7 354	粗粒輝石安山岩	芋形の河床礫使用。中に幅3.1cmを測る摩耗痕一周。	
PL-114	28	こも幅み石	完形	長 幅 12.5 5.6 厚 重 4.3 388	チャート	横断面の表面が弧状に膨らむ厚板状の河床礫使用。中に幅3.9cmを測る帯状の摩耗痕一周。	
PL-114	29	こも幅み石	右側面下位の突出部剝離	長 幅 14.7 6.1 厚 重 3.9 520	変質安山岩	平面形S字様を呈する厚板状の河床礫使用。左側面の湾曲と右側面の突出部上位を利用して、中に幅3.9cmを測る摩耗痕一周。	
PL-114	30	こも幅み石	上位クラックで割片抜け	長 幅 11.0 4.9 厚 重 3.3 241	珪質頁岩	横断面三角形を呈する河床礫使用。中に幅3.2cmを測る帯状の摩耗痕一周。	
PL-114	31	こも幅み石	被熱により表面一部除去剝離	長 幅 (12.5) (5.8) 厚 重 (3.4) 386	かんらん岩	芋形の河床礫使用。中に幅2.8cmの帯状の摩耗痕残る。	
PL-114	32	こも幅み石	上端右側欠損	長 幅 14.6 6.2 厚 重 3.1 325	デイサイト	横断面三角形を呈する河床礫使用。上位に幅3.4cmの摩耗痕一周。	
PL-114	33	こも幅み石	左側縁から裏面左半欠損	長 幅 (7.9) (5.6) 厚 重 3.7 227	閃緑岩	亀甲様の河床礫使用。中位やや上寄りに幅2.2cmを測る帯状の摩耗痕一周。	
PL-114	34	こも幅み石	下側欠損	長 幅 (8.8) 5.8 厚 重 4.5 291	粗粒輝石安山岩	横断面三角形を呈する河床礫使用。残存部の下端近くに幅2.6cmを測る摩耗痕一周。	
PL-114	35	こも幅み石	裏表右側部一部剝離	長 幅 14.0 5.2 厚 重 4.8 518	変玄武岩	右側が切断した。横断面三角形を呈する河床礫使用。中に幅3.5cmを測る摩耗痕一周。	
PL-114	36	こも幅み石	裏面右側下欠損	長 幅 12.5 (6.2) 厚 重 4.7 583	変質安山岩	右側下位突出部欠く角柱状の河床礫使用。突出部の上方、上位に幅3.2cmを測る摩耗痕一周。	
PL-114	37	こも幅み石	上端・下位割れ欠損	長 幅 (11.7) 6.6 厚 重 3.6 366	変玄武岩	厚板状の河床礫使用。中に幅3.6cmを測る帯状の摩耗痕一周する。	
54号竪穴建物							
種 類 PL.No.	No.	種 類 種 類	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考
第16298 PL-115	1	土師器 杯	口縁部～底部	口 底 12.2 7.7 高 4.0	細砂粒/酸化塩/橙	焼成やや不良。器面荒れる。口縁横溝で、体部～底部内面横溝でか、外面凹削りか。	
第16298	2	土師器 鉢	腰部～底部	底 7.3 高 (4.5)	粗砂粒・片岩含む/酸化塩/ぶい赤褐色	腰部～底部内面凹削で、腰部外面下方への、底面時計回りの凹削り。	
55号竪穴建物							
種 類 PL.No.	No.	種 類 種 類	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考
第16598 PL-115	1	土師器 杯	完形	口 底 14.0 9.6 高 4.1	細砂粒/酸化塩/ぶい黄橙	焼成甘く、器面摩耗顕著。口縁横溝で、体部～底部内面時計回りの凹削で、外面(時計回りの)凹削り。	
第16598 PL-115	2	土師器 杯	1/3	口 底 13.4 7.2 高 4.6	細砂粒/酸化塩/橙	焼成やや甘く、器面摩耗、荒れ。口縁横溝で、体部～底部内面凹削でか、外面凹削り。	
第16598	3	土師器 杯	口縁部～体部	口 底 (21.8) 高 (5.9)	粗砂粒/酸化塩/橙	器面荒れる。口縁横溝で、体部内面凹削で、外面左方への凹削り。	
第16598 PL-115	4	土師器 杯	口縁部～体部 1/4	口 底 (22.0) 高 (22.2)	粗砂粒/酸化塩/ぶい橙	器面摩耗、荒れ。器内窪み、口縁横溝で、体部内面時計回りの凹削で、外面時計回りの凹削り。	
第16598 PL-115	5	須恵器 杯	口縁部～体部 破片	横 縦 10.2 6.0 高 (5.7)	細砂粒/還元塩/灰	左回転軸輪成形。外面腰部凹調整。	
第16598	6	須恵器 蓋	鋸部～口端部	長 幅 (1.4) 高 (1.4)	細砂粒/還元塩/黄灰	回転軸輪成形。上面中央は凹調整の後、皿形の筋が付く。下面口端部より1.2cmのところ短いかきりが付く。	
第16598	7	須恵器 蓋	天井外縁～口端部	長 幅 (0.7) 高 (0.7)	細砂粒/還元塩/灰白	上面ややせがみ突。回転軸輪成形か。口端部に短いかきりが付く。上面に指面痕残る。	
第16598 PL-115	8	矢筈研磨器	破片	長 幅 (8.4) (5.8) 厚 重 (3.0) 179	砂岩	上下・左欠損。裏面も下半剝離。表面に削り痕、溝状の研磨痕残る。右側に研磨面形成。	

南蛇井北原田遺跡 遺物観察表

種 別 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考	
第165号 PL-115	9	紡輪		径 4.3 厚 1.3 重 40.1	滑石	板状割片を素材としたもので、凸部に磨耗痕が残る。体部は面取り整形。径3mmの孔を向開穿孔する。軸六周辺に磨耗痕は見られない。		
56号整穴建物								
種 別 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考	
第168号 PL-115	1	土師器 杯	底部一部欠損	口 11.8 底 8.3	高 3.7	細砂粒/酸化塩/橙	焼成甘く、器面荒れる。口縁横撫で。体部～底部内面(反時計回りの)窪地で、外面時計回りの窪地有り。	
第168号 PL-115	2	土師器 杯	1/4	口 12.6 底 11.3	高 4.1	細砂粒/酸化塩/橙	口縁横撫で。体部～底部内面反時計回りの窪地で、外面時計回りの窪地有り。	
第168号 PL-115	3	土師器 小型甕	口縁部～胴部 1/2欠損	口 13.8	高 13.5	粗砂粒。片岩含む/酸化塩/橙	焼成やや甘く、器面、特に外面荒れる。内面上位に輪積み痕残る。口縁横撫で。体部内面反時計回りの窪地で、外面左上方への窪地有り。底部内面横撫で、底面窪地有り。	
第168号 PL-115	4	敲石・こも 編み石	完形	長 12.7 幅 6.1	厚 4.4 重 452	デイスait	横断面菱形を呈する河床礫使用。上端に敲打痕残り、表面の剝離による段差を利用し、幅3.2cmの磨耗痕一周。	
第168号 PL-115	5	敲石・こも 編み石	下端部欠損	長 14.3 幅 6.8	厚 3.5 重 559	蛇紋岩	平面形。断面形楕円を呈する河床礫使用。上端に敲打痕残り、中・下位に幅4.5cmの磨耗痕一周。	
第168号 PL-115	6	敲石・こも 編み石	完形	長 14.1 幅 6.9	厚 4.6 重 609	粗粒輝石安山岩	横断面三角形を呈する河床礫使用。上端に敲打痕残り、右側面の凹部を利用し、中に幅3.8cmの帯状の磨耗痕一周。	
PL-115	7	こも編み石	完形	長 12.3 幅 6.8	厚 4.3 重 511	粗粒輝石安山岩	厚板状の河床礫使用。中に幅4.2cmの磨耗痕一周。	
PL-115	8	こも編み石	完形	長 14.6 幅 7.8	厚 5.3 重 919	粗粒輝石安山岩	上横槽向きの台形。下位楕円形の横断面形を呈する河床礫使用。左右側の剝離面を利用し、中に幅4.3cmを測る帯状の磨耗痕一周。	
PL-115	9	こも編み石	下端部一部欠損	長 12.8 幅 7.2	厚 4.9 重 635	デイスait	潰れた楕円球形の河床礫使用。中位下方寄り幅3.9cmの磨耗痕一周。	
58号整穴建物								
種 別 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考	
第172号 PL-116	1	土師器 杯	口縁部～底部	口 12.6	高 4.5	細砂粒/酸化塩/橙	内外面荒れる。口縁横撫で。体部～底部内面反時計回りの窪地で、体部外面時計回りの窪地有り。底面窪地有り。	
第172号 PL-116	2	土師器 杯	1/3	口 13.0	高 4.5	細砂粒/酸化塩/橙	焼成甘く、器面磨耗顕著。口縁横撫で。体部～底部内面(反時計回りの)窪地で、外面時計回りの窪地有り。	
第172号 PL-116	3	土師器 甕	口縁部～体部 片	口 23.0	高 (25.9)	粗砂粒/酸化塩/橙	体部内面多少収収し荒れる。口縁横撫で。体部内面窪地で、外面右下方、胴・腹部右方への窪地有り。	
59号整穴建物								
種 別 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考	
第174号 PL-115	1	須恵器 高台付椀	胴部～高台	台 5.9	高 (2.8)	細砂粒/酸化塩/橙	(右)回転軸輪軸形成。回転糸切り後高台取り付け。底面中央に糸切り痕残り、外周横撫で。	
第174号 PL-115	2	須恵器 羽釜	口縁部	長 (4.9) 幅 (4.6)		粗砂粒/酸化塩/にぶい赤褐	口縁除く口縁部片で、肩・上部部残る。断面三角形の隅付き。	
PL-115	3	こも編み石	完形	長 14.9 幅 7.8	厚 3.2 重 658	粗粒輝石安山岩	板状の河床礫使用。中に幅4.5cmを測る帯状の磨耗痕一周。	
60号整穴建物								
種 別 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考	
第175号 PL-116	1	須恵器 甕	体部	長 10.0 幅 (11.2)	高 (8.8)	粗砂粒/還元塩/褐色	口縁横撫で。肩部外面平行叩き、内面同心円叩き。	
61号整穴建物								
種 別 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考	
第179号 PL-116	1	土師器 甕	ほぼ完形	口 19.4 底 4.8	高 35.7	粗砂粒。片岩含む/酸化塩/橙	口縁横撫で。肩～底部内面反時計回りの窪地で、肩～腰部外面上方向心円の窪地有り。底面窪地有り。	
第179号 PL-116	2	土師器 甕	ほぼ完形	口 20.1 底 5.4	高 36.6	粗砂粒。片岩含む/酸化塩/にぶい橙	肩～底部内面と肩部下位～底面収収。口縁横撫で。肩～腰部上位内面反時計回りの窪地で、底面下位～底部内面横撫で。外面肩～胴部上方へ、腰部横位の窪地有り。底面平底で木葉痕残る。	
第179号 PL-116	3	敲石・こも 編み石	裏面下位欠損	長 12.7 幅 6.6	厚 5.7 重 744	閃緑岩	横断面菱形を呈する河床礫使用。上端に敲打痕残り、表面の剝離面を利用し、中に幅2.6cmの磨耗痕一周。	
62号整穴建物								
種 別 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考	
第182号 PL-116	1	土師器 杯	口縁部4/5欠損	口 12.6 底 13.0	高 4.7	細砂粒/酸化塩/にぶい黄緑	手前側内外面収収。底面やや平。口縁横撫で。体部～底部内面反時計回りの窪地で、外面窪地有り。	
第182号 PL-116	2	須恵器 提瓶	口縁部～体部 1/4	口 11.4	高 (21.6)	粗砂粒/還元塩/灰	口縁部収いて体部へ差し込み後、外側に叩いて接続。差し込み部内外横撫で。口縁に相對する位置に環状と思しき耳掛け付。口縁横撫で。体部内面同心円上の窪地で、外面同心円状に刷毛目。	
第182号 PL-116	3	敲石・こも 編み石	完形	長 17.0 幅 10.0	厚 4.5 重 1012	デイスait	鉤形厚板状の河床礫使用。上端に敲打痕残り、右側縁の自然の剝離部分を利用し、中に幅4.4cmを測る帯状の磨耗痕一周。	大型品

採 掘 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考	
第182回 PL.116	4	敲石・こも 編み石	完形	長幅 12.1 厚 7.1 重 1152	変質安山岩	裏面平ら、上面仰形を呈する河床礫使用。上端に敲打面残り、中に幅3.4cmを測る帯状の摩耗痕一週。	大型品	
第182回 PL.117	5	敲石・こも 編み石	完形	長幅 15.6 厚 9.3 重 965	変質安山岩	ミカンの房形様の河床礫使用。上端に敲打面残り、右側縁を長さ8.0cm、幅1.9cmの範囲で敲打して長さ8.0cm、幅1.3cmの平坦面を成り、これを利用して中に幅4.2cmを測る摩耗痕一週する。	大型品	
PL.116	6	こも編み石	完形	長幅 12.9 厚 4.8 重 969	粗粒輝石安山岩	厚板状の河床礫使用。左右両側面の極く弱い湾曲面を利用し、中・下位に幅4.2cmの摩耗痕一週。		
PL.117	7	こも編み石	完形	長幅 15.6 厚 3.7 重 680	デイサイト	表面上位に突出部を有する厚さ3.0cmを測る板状の河床礫使用。中に幅3.9cmの摩耗痕一週。	大型品	
PL.117	8	こも編み石	右側縁下部欠損	長幅 17.2 厚 3.8 重 874	緑色片岩	横断面三角形を呈する板状の河床礫使用。中に幅4.0cmを測る帯状の摩耗痕一週。	大型品	
PL.117	9	こも編み石	ほぼ完形	長幅 13.7 厚 3.2 重 416	粗粒輝石安山岩	横断面形が低い鐘形を呈する河床礫使用。左側面の自然の割層による段差を利用し、中に幅4.0cmを測る摩耗痕一週。		
PL.117	10	こも編み石	右側縁中位欠損	長幅 15.3 厚 4.1 重 833	蛇紋岩	扁平な勾玉状の河床礫使用。左側面の湾曲面を利用し、上位に幅3.6cmを測る帯状の摩耗痕一週。	大型品	
PL.117	11	こも編み石	右側縁一部欠損	長幅 15.1 厚 4.0 重 1035	閃緑岩	厚板状の河床礫使用。中位やや上寄りに幅4.4cmを測る帯状の摩耗痕一週。	大型品	
63号型穴建物								
採 掘 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考	
第184回 PL.117	1	土師器 甕	口縁部～体部	口 17.0 高 15.5	粗砂粒/酸化塩/ にぶい橙	肉厚で作り粗雑。内面凹凸顯著。口縁横線で。体部内面(反時計回りの)段で、頸部上方、肩部以下下方への段割り。		
64号型穴建物								
採 掘 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考	
第188回 PL.117	1	土師器 杯	1/3	口 11.0 高 3.1	細砂粒/酸化塩/ にぶい橙	軟質。器面著しく荒れる。口縁横線で。体部内面整形痕確認できず、外面は時計回りの段割り。		
第188回	2	土師器 甕	口縁部～胴部	口 22.0 高 6(2)	粗砂粒、片岩含 む/酸化塩/橙	焼成やや弱。表面面やや荒れる。口縁横線で。体部内面横位の段で、外面横位の段割り。		
第188回	3	土師器 甕	口縁部～体部	口 19.6 高 10(0)	粗砂粒、片岩含 む/酸化塩/明赤 褐	焼成やや弱。表面面やや荒れる。コ字状口縁で横線で。体部内面横位の段で、外面横位の段割り。		
第188回 PL.117	4	土師器 甕	口縁部～体部 片	口 26.0 高 13(3)	粗砂粒/酸化塩/ 橙	口縁横線で。体部内面反時計回りの段で、外面上方への段割り。		
第188回 PL.117	5	土師器 甕	口縁部～体部 上位	口 24.2 高 13(8)	粗砂粒/酸化塩/ 橙	口縁横線で。体部内面反時計回りの段で、外面上方への段割り。		
第188回 PL.117	6	土師器 小型甕	口縁部～胴部 1/4欠損	口 16.0 高 15.1	粗砂粒/酸化塩/ 橙	底部丸底。口縁横線で。体部～底部内面反時計回りの段で、外面時計回りの段割り。		
第188回 PL.117	7	土師器 小型甕	完形	口 15.5 高 15.0	粗砂粒/酸化塩/ にぶい橙	丸底。口縁横線で。体部内面反時計回りの段で、外面時計回りの中心の段割り。底部内面一方への段で、外面側面一方への段割り。		
第188回 PL.117	8	土製円盤	縁辺左上欠損	長 3.1 幅 3.3 厚 0.8	粗砂粒/酸化塩/ にぶい橙	土師器甕体部の転用品。表面(外面)段割り。裏面(内面)段で。外周打ち欠き後右側上・下位、左側下位研磨。		
第188回 PL.117	9	紡輪		径 3.6 厚 2.1 重 37.5	砥沢石	表面面とも平滑で平坦。体部は強く面取り整形痕が残る。径7mmの孔を肉側穿孔する。	厚型	
65号型穴建物								
採 掘 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考	
第191回 PL.118	1	土師器 把手付甕	口縁部～体部 片	口 26.2 高 15(7)	粗砂粒/酸化塩/ にぶい橙	輪積み轆轤成形後把手取り付け。外面時計回りの段割り後縦位方向の段で。接合部幅4.1cm以上、厚2.8cmを測る板状把手付け。指で固定。口縁に指で嵌め残る。		
第191回 PL.118	2	土師器 把手付甕	口縁部～体部 上位片	口 20.0 高 8(9)	粗砂粒/酸化塩/ 橙	輪積み轆轤成形後幅6.0cm、厚1.1cmを測る板状把手付け。指で固定。		
第191回 PL.118	3	須恵器 高台付碗	2/3	口 14.2 径 7(2)	細砂粒/酸化塩/ にぶい橙	軟質、回轆轤成形。底部切り離し後高台取り付け。底面指で。		
第191回	4	須恵器 甕	口縁部破片	長 6(1) 幅 10(2)	厚 0.7	粗砂粒/還元塩/ 灰	輪積み轆轤成形。口唇部下方に0.4cm折り返し。	
第191回	5	須恵器 甕	口縁部破片	長 5(3) 幅 7(4)	厚 1.0	粗砂粒/還元塩/ 灰	輪積み轆轤成形。口唇部下方に0.3cm折り返し。	
第191回 PL.118	6	須恵器 羽釜	口縁部～体部 上位破片	口 18.0 高 11(0)	粗砂粒/還元塩/ 橙・灰黄	口縁酸化塩焼成。輪積み轆轤成形。		
第191回	7	須恵器 甕	胴部破片	長 5(6) 幅 9(2)	厚 0.7	細砂粒/還元塩/ 灰	輪積み轆轤成形。	
第192回 PL.118	8	礫石・天 井石	上端欠損。下 位切断。表面 下位割層	長 18.4 幅 13.3 厚 5.0 重 1462	砂岩	平面上部片打ち先状を呈する厚板状の石材使用。上面～左面にかけの周囲被熱し脱炭。上面・左面の磨り面の所々に自然面残り、表面両面に磨り面と対ならし痕が残る。		

南蛇井北原田遺跡 遺物観察表

66号竪穴建物

種 別 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第196図 PL.118	1	土師器 杯	1/4	口 13.0 底 8.6	高 3.9 細砂粒/酸化塩/ 橙	軟質。器面荒れる。特に外面は整形形確認できず。口縁横撫で。体部内面反時計回りの窪撫で、外面窪削りか。底部内外面整形不明。	
第196図 PL.118	2	土師器 杯	1/4	口 12.0 底 8.0	高 4.1 細砂粒/酸化塩/ 橙	器面荒れる。口縁横撫で。体部～底部内外面整形形確認できず。	
第196図 PL.118	3	土師器 杯	口縁部～体部 一部欠損	口 12.7 底 8.7	高 3.5 細砂粒/酸化塩/ 橙	器面荒れる。平底。口縁横撫で。体部～底部内面整形形確認できず。底面回転糸切り後脱止糸切り。	
第196図 PL.118	4	土師器 杯	口縁部～体部 上位1/4	口 20.0	高 (11.8) 粗砂粒/酸化塩/ 橙	器面荒れる。口縁部中心位に段差。口縁横撫で。体部内面反時計回りの窪撫で、外面時計回りの窪削り。	
第196図 PL.118	5	土師器 饗	口縁部～体部 上位破片	口 21.0	高 (10.5) 粗砂粒/酸化塩/ 橙	器面荒れる。口縁横撫で。体部内面反時計回りの窪撫で、体部外面上方への窪削り後横位の窪削り。	
第196図 PL.118	6	土師器 饗	腰部～底部	底 4.0	高 (9.4) 細砂粒/酸化塩/ 橙	底面と腰部の一部に段差付着。腰部内面反時計回りの窪撫で、外面横位の窪削り。底部内面指撫で、底面窪削り。	
第196図 PL.118	7	須恵器 杯	口縁部～体部 1/4欠損	口 12.4 底 7.8	高 3.0 細砂粒/還元塩/ 灰	右回転轆轤成形。底部回転糸切り切り離し。底部内面に輪状のトチン跡。腰部外面回転調整。	
第196図	8	須恵器 杯	腰部～底部	底 6.7	高 (2.9) 細砂粒/還元塩/ 灰	右回転轆轤成形。底面回転糸切り切り離し。	
第196図	9	須恵器 杯	腰部～底部1/4	底 6.8	高 (2.5) 細砂粒/還元塩/ 灰	底面割離か。器面荒れる。回転轆轤成形。	
第196図 PL.118	10	須恵器 杯	口縁部～体部 1/5欠損	口 12.8 底 7.2	高 3.6 細砂粒/還元塩/ 灰	右回転轆轤成形。底面回転糸切り切り離し後棒状工具の圧痕等残る。	
第196図 PL.118	11	須恵器 杯	1/3	口 13.0 底 8.0	高 3.4 細砂粒/還元塩/ 灰白	右回転轆轤成形。底面回転糸切り切り離し。	
第196図	12	須恵器 高台付饗	腰部～高台1/3	台 8.5	高 (3.9) 細砂粒/還元塩/ 白灰	回転轆轤成形。底面回転糸切り切り離し後高台貼り付け。	
第196図	13	須恵器 蓋	1/4	口 20.0 底 8.8	高 (3.3) 細砂粒/還元塩/ 灰白	軟質。回転轆轤成形。口縁部下方に0.5cm引く。	
第196図	14	須恵器 饗	腰部～底部破片	底 9.2	高 (7.8) 粗砂粒/還元塩/ 灰	紐作り、轆轤成形。	

68号竪穴建物

種 別 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第201図 PL.118	1	土師器 杯	1/2	口 14.8 底 7.4	高 3.7 細砂粒/酸化塩/ 橙	軟質。器面荒れる。口縁横撫でか。体部～底部内外面整形形確認できず。底面手持調整跡。	
第201図	2	土師器 杯	口縁部～底部 破片	口 13.4 底 8.0	高 3.7 細砂粒/酸化塩/ にぶい橙	器面荒れる。口縁横撫でか。体部～底部内外面整形形確認できず。	
第201図 PL.118	3	土師器 杯	ほぼ完成形	口 12.8 底 5.8	高 3.6 細砂粒/酸化塩/ にぶい橙	軟質。器面荒れる。口縁横撫でか。体部～底部内面整形形確認できず。外面窪削り。	
第201図	4	土師器 杯	口縁部～肩部 破片	口 24.0	高 (9.4) 細砂粒/酸化塩/ にぶい橙	外面中心に器面やや荒れる。口縁横撫で。肩部内面反時計回りの窪撫で、外面横位の窪削りか。	
第201図 PL.118	5	土師器 杯	口縁部～肩部 破片	口 21.0	高 (17.9) 細砂粒/酸化塩/ にぶい橙	器面荒れる。口縁横撫でか。体部内面は反時計回りの窪撫で、外面横位の窪削りか。	
第201図 PL.118	6	土師器 杯	口縁部～肩部 破片	口 26.0	高 (5.3) 粗砂粒/酸化塩/ にぶい橙	外面中心に器面荒れる。口縁横撫で。肩部内面反時計回りの窪撫で、外面横位の窪削りか。	
第201図 PL.118	7	土師器 饗	体部～底部1/2	底 10.0	高 (17.8) 粗砂粒/酸化塩/ にぶい橙	体部内面横位の窪撫で後横位の細かい窪撫で、外面下方への窪削り。開口部際内面に横位の窪撫で。開口部径7.7cm。	

69号竪穴建物

種 別 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第204図 PL.119	1	土師器 杯	1/3	口 15.0 底 9.6	高 4.5 細砂粒/酸化塩/ にぶい橙	焼成甘く軟質。表面荒れる。口縁横撫で。体部内面反時計回りの窪撫で、外面横位の窪削り。底面(外周回し乍らの窪削り)。	
第204図	2	土師器 杯	1/4	口 17.0 底 13.0	高 4.1 細砂粒/酸化塩/ にぶい橙	焼成甘く軟質。表面荒れる。口縁横撫でか。体部内面反時計回りの窪撫で、外面横位の窪削り。底面(外周回し乍らの窪削り)。	
第204図 PL.119	3	土師器 杯	2/3	口 14.5 底 5.3	高 4.3 細砂粒/酸化塩/ にぶい橙	焼成甘く軟質。表面荒れる。整形形跡確認困難。口縁横撫で。体部外面・底面窪削り。	
第204図	4	土師器 杯	口縁部～腰部 破片	口 15.0 底 10.0	高 3.4 細砂粒/酸化塩/ にぶい橙	焼成甘く軟質。表面荒れる。口縁横撫で。体部反時計回りの窪撫で、外面横位の窪削り。底面窪削りか。	
第204図 PL.119	5	土師器 杯	口縁部～体部 上位	口 23.0	高 (11.9) 粗砂粒/酸化塩/ にぶい橙	焼成良好。口縁横撫で。体部内面反時計回りの窪撫で、外面上方への窪削り。	
第204図 PL.119	6	土師器 饗	胴部～底部	底 10.6	高 (22.2) 粗砂粒/酸化塩/ にぶい橙	内面荒れる。体部内面反時計回りの窪撫で、外面横位の窪削り後斜め下方への窪削り。底部内面一方への指撫で、底面窪削り。	

70号竪穴建物

種 別 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第208図 PL.119	1	土師器 杯	2/3	口 15.6	高 6.2 細砂粒/酸化塩/ 橙	内外面荒れる。口縁横撫でか。体部～底部内面窪撫でか。外面単位は確認できないが窪削り。	
第208図 PL.119	2	土師器 小型饗	ほぼ完成形	口 9.6 底 3.9	高 7.0 細砂粒/酸化塩/ 橙	口縁横撫で。体部～底部内面反時計回りの窪撫で。体部外面横位の窪削り様の細かい窪撫で。底面縦ね方向への窪撫で。	

種 別 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第208図 PL.119	3	土師器 小型甕	1/3	口 [14.0]	高 13.9	粗砂粒/酸化塩/ 橙	器面荒れる。口縁横線で、体部～底部内面反時計回りの 段で、体部外面調整。底面段削り。	
第208図	4	須恵器 甕	体部片	長 (6.6)	厚 0.8	粗砂粒/還元塩/ 灰	表面除き灰褐色を呈す。縦瓦。内外面平行叩き。	
71号竪穴建物								
種 別 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第210図	1	土師器 杯	口縁部～体部 片	口 [18.0]	高 (4.6)	細砂粒/酸化塩/ 橙	器面やや荒れる。口縁横線で、体部内面反時計回りの段 で、外面時計回りの段削り。	
第210図	2	土師器 杯	1/6	口 [12.0]	高 3.8	細砂粒/酸化塩/ 底	器面やや荒れる。口縁横線で、体部～底部内面回転し乍ら の横線で、体部外面横位の段削り。底面段削り。	
第210図 PL.119	3	土師器 杯	1/3	口 [13.0]	高 3.8	細砂粒/酸化塩/ 橙	器面荒れる。軟質。口縁横線で、体部内面反時計回りの 段で、外面横位の段削り。底部内面不明、底面一方へ の段削り。	
第210図	4	土師器 甕	口縁部～肩部 片	口 [18.0]	高 (10.3)	粗砂粒/酸化塩/ 橙	器面やや荒れる。口縁横線で、肩部内面反時計回りの段 で、外面反時計回りの段削り。	
第210図	5	土師器 甕	口縁部～肩部 片	口 [19.0]	高 (7.1)	粗砂粒/酸化塩/ 橙	器面やや荒れる。口縁横線で指面残存。肩部内面反時 計回りの段で、外面時計回りの段削り。	
第210図 PL.119	6	鉄製品 刀子	完形	長 15.2	厚 0.5	1.2 20.2	/有/10	全体が強い錆で覆われる。上下の刃は多くが錆に覆わ れているが確認できる。
72号竪穴建物								
種 別 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第212図 PL.120	1	土師器 杯	口縁部～部欠 損	口 [11.6]	高 4.1	細砂粒/酸化塩/ にぶい橙	右側内面と手前右側吸込。内面底部中央に径2.7×2.5cm、 深さ0.3cmの部状の窪み。口縁横線で、体部～底部内面 反時計回りの段で、中央窪み部は指で、体部外周及び 底面は段削り。	
第212図 PL.120	2	土師器 杯	口縁部～部欠 損	口 [11.4]	高 3.3	細砂粒/酸化塩/ 底	軟質で器面荒れる。口縁横線で、体部～底部内面段削 り。体部外面横位の段削り。底面手持ち段削り。	
第212図 PL.120	3	土師器 杯	口端部～部欠 損	口 [12.0]	高 3.9	細砂粒/酸化塩/ にぶい橙	焼成付く軟質。器面荒れる。口縁横線で、体部～底部内 面反時計回りの段で、外面段削り。	
第212図 PL.120	4	土師器 甕	一部欠損	口 [24.9]	高 39.6	粗砂粒。片岩含 む/酸化塩/にぶ い橙	腰部内外面やや荒れる。内面下半段削り。口縁横線で、肩 部～腰部上位反時計回りの段で、腰部下位～底部内面指 で、体部外面上半部上方へ、下半反時計回りの段削り。底 面段削り。	
第212図 PL.120	5	土師器 甕	腰部下位～底 部欠損	口 [22.8]	高 (32.4)	粗砂粒/酸化塩/ 橙	口縁表面面荒れる。腰部下位内外面被焼により荒れる。外 面手前左側に焼土等付着し、奥右側吸込。内面下半段削 り。口縁横線で、体部内面反時計回りの段で、 外面肩部～胴部上方へ、腰部反時計回りの段削り。	
第212図	6	土師器 甕	胴部～底部1/4 底	[11.2]	高 (18.0)	粗砂粒/酸化塩/ にぶい橙	内面下位中央に荒れる。体部内面反時計回りの段で、外 面やや左に傾く上方への段削り。	
第212図	7	土師器 小型甕	口縁部～肩部 片	口 [18.0]	高 (5.6)	細砂粒/酸化塩/ 橙	薄手。口縁横線で、肩部内面反時計回りの段で、外面左 上方への段削り。	
73号竪穴建物								
種 別 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第213図 PL.119	1	土師器 杯	3/4	口 [13.8]	高 4.2	細砂粒/酸化塩/ にぶい橙	焼成付く。器面荒れる。口縁横線で、体部内面反時計回 りの段で、外面横位の段削り。底面手持ち段削り。	
75号竪穴建物								
種 別 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第217図	1	土師器 杯	口縁部～体部 破片	口 [11.8]	高 (2.9)	細砂粒/酸化塩/ 橙	軟質。器面やや荒れる。口縁横線で、体部内面反時計回 りの段で、外面段削り。	
第217図	2	土師器 杯	体部破片	口 [12.0]	高 (2.0)	細砂粒/酸化塩/ 橙	外面中心に器面荒れる。口縁横線で、体部内面反時計回 りの段で、底面一方への段削り。	
第217図 PL.119	3	土師器 甕	口縁部～胴部 破片	口 [23.7]	高 (20.7)	粗砂粒。片岩含 む/酸化塩/にぶ い橙	体部内面下半段削り。外面吸込。口縁横線で、体部内面反時 計回りの段で、外面上方への段削り。	
第217図	4	土師器 小型甕	口縁部～肩部 破片	口 [14.0]	高 (4.8)	細砂粒/酸化塩/ 橙	内外面吸込。口縁横線で、肩部内面横位の段で、外面縦 位(上方への)段削り。	
76号竪穴建物								
種 別 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第219図 PL.119	1	土師器 杯	腰部一部欠損	口 [13.2]	高 4.0	細砂粒/酸化塩/ 橙	やや焼成弱。器面やや荒れる。口縁横線で、体部～底部内 面反時計回りの段で、体部外面時計回りの段削り。底面手 持ち段削り。	
第219図 PL.119	2	土師器 甕	口縁部～胴部 上位1/4	口 [19.7]	高 (11.5)	細砂粒/酸化塩/ 橙	口縁横線で、体部内面反時計回りの段で、外面反時計回 り。残存部下端段削りの段削り。	
第219図 PL.119	3	土師器 甕	口縁部～胴部 破片	口 [25.0]	高 (19.5)	粗砂粒/酸化塩/ 橙	口縁内外面荒れる。体部内面弱く吸込。口縁横線で、体部 内面反時計回りの段で、外面上方へ(下位一部下方へ) の段削り。	
第219図 PL.119	4	須恵器 杯	1/3	口 [13.4]	高 3.5	細砂粒/還元塩/ 灰白～橙	焼成付く。器面著しく荒れる。整形不明。回転軸線成 形。底面回転糸切りか。	

南蛇井北原田遺跡 遺物観察表

種 類 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考
第219号	5	須忠器 杯	口縁部下位～ 腰部1/4	口 [15.4] 高 (4.6) 底 (8.0)	細砂粒/還元焰/ にぶい褐色	焼成甘い。内面焼成による黒色処理。回転軸成形。底面 回転糸切り切り離し。	
第219号	6	須忠器 杯	体部～底部1/3	底 8.5 高 (3.0)	細砂粒/還元焰/ 灰白	右回転軸成形。底面切り離し後手持ち調整。	
第219号 PL.119	7	上製品 土製品	上下端欠損	長 (3.6) 厚 1.2 幅 1.4	細砂粒/還元焰/ にぶい橙	表面荒れる。中央が彫らむ棒状に整形し、縦位中央に0.55 ×0.5cmを測る隅丸方形の平面形を呈する貫通孔が穿たれる。	
第219号	8	灰輪陶器 破片	口縁部～腰部	口 [11.6] 高 (3.6)	細砂粒/還元焰/ 灰白	回転軸成形。口縁部～体部に漬け掛けによる傷跡。	
77号竪穴建物							
種 類 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考
第222号 PL.120	1	土師器 甕	口縁部～体部 1/3	口 [24.0] 高 (18.7)	細砂粒/還元焰/ にぶい橙	口縁横撫で。体部内面反時計回りの窪撫で、外面刷毛目録 のものも含む縦位の窪撫で。	
第222号	2	須忠器 杯	口縁部～底部 破片	口 [12.0] 高 3.6 底 [7.0]	細砂粒/還元焰/ 灰	焼成甘い器面荒れる。特に底部内面の荒れ顕著。右回転軸 成形。底面回転糸切り。	
第222号 PL.120	3	砥石	裏面割断、右 上側・下位切 断、左縁上位 割断	長 (8.5) 厚 1.5 幅 (7.3) 重 86	砂岩	板状の石材使用。表面左側縁より1.5cmを削し研磨面形成。 研磨により0.3cm陥凹。	
78号竪穴建物							
種 類 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考
第223号	1	土師器 杯	口縁部～腰部 破片	口 [13.0] 高 (3.5)	細砂粒/還元焰/ 橙	焼成甘い。表面荒れる。特に表面荒れ顕著。口縁横撫で。 体部内面反時計回りの窪撫で。	
80号竪穴建物							
種 類 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考
第226号 PL.121	1	土師器 瓶	口縁部～腰部 3/4	口 25.2 高 (28.2)	粗砂粒。片岩含 む/還元焰/橙	焼成良好。口縁横撫で。体部内面反時計回りの窪撫で後、 縦位に間隔の空く1条ずつの挖磨き。体部外面上土方へ、 下土方への挖磨り。	
第226号 PL.121	2	土師器 瓶(費)	口縁部～体部 1/3	口 22.0 高 (11.7)	粗砂粒/還元焰/ にぶい橙	粗製。口縁横撫で。体部内面反時計回りの窪撫で後、間隔 の空いた縦位の挖磨き。外面土方への挖磨り。	
81号竪穴建物							
種 類 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考
第230号	1	土師器 杯	口縁部～底部 破片	口 [15.0] 高 (3.5)	細砂粒/還元焰/ にぶい黄橙	内面焼成による黒色処理。口縁横撫で。体部～底部内面反 時計回りの窪撫で、外面(時計回りの)窪撫で。	
第230号	2	土師器 杯	口縁部～体部 破片	口 12.6 高 (3.7) 底 12.0	細砂粒/還元焰/ にぶい橙	焼成甘い。器面荒れる。口縁横撫で。体部内面整形痕確認 できず。外面は縦糸切り。	
第230号 PL.121	3	土師器 杯	一部欠損	口 11.1 高 5.0	細砂粒/還元焰/ にぶい橙	体部外面～底部荒れ顕著。口縁横撫で。体部～底部内面窪 撫で。	
第230号 PL.121	4	土師器 高杯	口縁部～腰部 上位1/4	口 [13.0] 高 (6.5)	細砂粒/還元焰/ 橙	器面荒れ。杯部内面は割断。口縁横撫で。杯体部～脚部 外面縦位方向の挖磨り。脚部内面窪撫で。	
第230号 PL.121	5	土師器 鉢	口縁部～胴部 1/4	口 [17.7] 高 (8.7)	粗砂粒/還元焰/ 橙	器面荒れ。整形痕確認困難。口縁横撫で。体部内面縦位 の窪撫で、外面挖磨り。	
第230号 PL.121	6	土師器 甕	2/3	口 21.6 高 38.3 底 5.1	粗砂粒。片岩含 む/還元焰/橙	外面胴部上位荒れ顕著。口縁横撫で。体部内面反時計回りの 窪撫で。外面胴部～胴部上方向、胴部反時計回りの挖磨り 。底部内面窪撫で後挖磨で、底面挖磨り。	
第230号 PL.121	7	土師器 甕	5/6	口 20.8 高 3.74 底 6.1	粗砂粒。片岩含 む/還元焰/橙	内面胴部～底部と、外面口縁～胴部～底面荒れる。口縁横 撫で。体部～底部内面反時計回りの窪撫で。体部外面縦位 の挖磨り。底面挖磨り。	
第230号 PL.122	8	土師器 甕	口縁部～胴部 上位1/3	口 [16.0] 高 (8.8)	粗砂粒/還元焰/ 橙	器面荒れ。整形痕確認困難。口縁横撫で。体部内面(反時 計回りの)窪撫で、外面挖磨り。	
第231号 PL.122	9	土師器 甕	口縁部～胴部 破片	口 [24.0] 高 (20.4)	粗砂粒/還元焰/ 橙	内面中心に器面荒れる。口縁横撫で。体部内面反時計回りの 窪撫で、外面縦位の挖磨り。	
第231号 PL.122	10	土師器 甕	口縁部～胴部、 胴部の一部	口 23.1 高 (16.4)	粗砂粒。片岩含 む/還元焰/橙	焼成やや弱く、器面やや荒れる。口縁横撫で。体部内面反 時計回りの窪撫で、外面土方への挖磨り。	
第231号 PL.122	11	土師器 甕	口縁部～胴部 上位1/4	口 [21.0] 高 (14.3)	粗砂粒/還元焰/ 橙	内面荒れ。割断も見られる口縁横撫で。体部内面反時計回 りの窪撫で、外面土方への挖磨り。	
第231号 PL.122	12	土師器 甕	口縁部～胴部 上位破片	口 [22.0] 高 (15.2)	粗砂粒。片岩含 む/還元焰/橙	内面荒れる。口縁横撫で。体部内面反時計回りの窪撫で、 外面土方への挖磨り。	
第231号 PL.122	13	土師器 甕	1/6	口 24.0 高 (19.8)	粗砂粒/還元焰/ 橙	内面荒れる。口縁横撫で。体部内面反時計回りの窪撫で、 外面上土方を中心。下土方への挖磨り。	
第231号 PL.122	14	土師器 甕	把手と体部の 一部	長 (7.9) 幅 (7.4)	細砂粒/還元焰/ 橙	焼成弱く、器面横化。体部に長さ4.0cm、幅4.9cm、厚1.1 ～2.9cmを測る、手捏の爪状の把手付く。	
82号竪穴建物							
種 類 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考
第233号 PL.122	1	土師器 杯	口縁部～胴部 欠損	口 12.5 高 3.8 底 8.5	細砂粒/還元焰/ 橙	内面中心に器面荒れる。口縁横撫で。体部～底部内面(反 時計回りの)窪撫で、外面挖磨り。	
第233号 PL.122	2	土師器 甕	口縁部～胴部 1/4	口 [21.0] 高 10.8	細砂粒/還元焰/ 橙	器面荒れて過平割断。口縁横撫で。体部内面反時計回りの 窪撫で、外面縦位の挖磨り。	

種 類 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考
第2338E	3	土師器 甕	口縁部～胴部	口 [20.0] 高 (8.5)	細砂粒/酸化塩/橙	コ字状口縁。薄手。口縁横撫で。胴部内面反時計回りの段撫で、外面横位の段作り。	
第2338E	4	土師器 甕	腰部～底部片	底 [10.0] 高 (5.9)	粗砂粒/酸化塩/明赤褐色	焼成良好。内面段撫で。腰部厚1.3cm、底部厚2.1cmと内厚。体部～底部内面反時計回りの段撫で、腰部縦位。下端部左方への段作り。底面段作りか。	
第2338E	5	須恵器 杯	1/6	口 [12.0] 高 (6.4)	細砂粒/還元塩/黄灰	回転轆轤成形。底面回転糸切り切り難し。	
第2338E PL.122	6	須恵器 杯	1/2	口 [13.4] 高 (7.6)	細砂粒/還元塩/灰白	やや軟弱。外面荒れる。回転轆轤成形。底面回転糸切り切り難し。	
第2338E	7	須恵器 杯	腰部一部と底部	底 5.8 高 (2.8)	細砂粒/還元塩/にぶい黄橙	右回転轆轤成形。底面回転糸切り切り難し。	
第2338E	8	須恵器 杯	腰部1/4と底部1/4	底 [7.0] 高 (1.9)	細砂粒/還元塩/灰白	右回転轆轤成形。底面回転糸切り切り難し。底部内面に研磨痕。	縦に転用か
83号竪穴建物							
種 類 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考
第2358E PL.122	1	土師器 杯	口縁部1/4欠損	口 [13.2] 高 (8.0)	細砂粒/酸化塩/にぶい黄橙	内面口縁部～外面腰部段撫で。口縁横撫で。体部～底部内面回し乍らの段撫で、体部外面時計回り、底面一方への段作り。	
第2358E	2	土師器 杯	口縁部～腰部破片	口 [14.0] 高 (4.29)	細砂粒/酸化塩/橙	体部外面荒れる。口縁横撫で。体部内面横位の段撫で後、段磨きによる放射状の暗文施文、外面段作り。	
第2358E	3	土師器 甕	腰部下位～底部	底 6.0 高 (3.5)	粗砂粒。片岩含む/酸化塩/灰黄褐色	内面と外面の一部段撫で。底部内面中心部から。底面やや摩耗。腰部～底部内面反時計回りの段撫で後、底部段撫で。腰部外面段作り。底面段作りか。	
第2358E	4	須恵器 椀	口縁部～体部1/4欠損	口 [16.0] 高 (3.5)	細砂粒/還元塩/濁灰	右回転轆轤成形。	
第2358E	5	須恵器 杯	胴部下端～胴部上位片	長 [5.7] 厚 (5.8)	細砂粒/還元塩/灰白	内外面横位の(指)段撫で。表面に平打ち残る。	
84号竪穴建物							
種 類 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考
第2378E PL.122	1	土師器 杯	5/6	口 [14.2] 高 (5.1)	細砂粒/酸化塩/にぶい橙	口縁横撫で。体部～底部内面反時計回りの段撫で、体部外面回し乍ら、底面一方への段作り。	
第2378E PL.122	2	土師器 杯	2/3	口 [11.2] 高 (3.2)	細砂粒/酸化塩/にぶい橙	内面の一部に黒漆付着。口縁横撫で。体部～底部内面反時計回りの段撫で、体部外面時計回り、底面一方への段作り。	
第2378E	3	土師器 甕	口縁片	口 [25.0] 高 (3.3)	粗砂粒。片岩含む/酸化塩/明褐色	口縁横撫で。	
第2378E	4	土師器 甕	腰部1/3	高 (11.4)	粗砂粒。片岩含む/酸化塩/にぶい橙	内面段撫でにより黒褐色色呈す。内面斜方向の段撫で、外面右下方への段作り。	
第2378E	5	土師器 甕	底部2/3	底 9.3 厚 1.4	細砂粒/酸化塩/濁灰	円盤状を呈し、腰部部脱落残る。内面段撫で、回し乍らの段撫で、指撫で。底面回し乍らの段作り。	
85号竪穴建物							
種 類 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考
第2388E PL.122	1	土師器 杯	底部中心に2/3	口 [12.3] 高 (5.4)	細砂粒/酸化塩/橙	外面荒れる。口縁横撫で。体部～底部内面反時計回りの段撫で、外面時計回りの段作り。	
第2388E PL.122	2	土師器 杯	腰部～底部	底 3.8 高 (7.3)	粗砂粒。片岩含む/酸化塩/橙	焼成良好。内面一部に煤付着。底面焼熱により弱く粗造化。腰部内面反時計回りの段撫で、底部内面段撫で。	
第2388E	3	須恵器 甕	口縁部～胴部上位片	口 [18.0] 高 (6.5)	細砂粒/還元塩/灰	焼成良好。口縁外反、外面口端下1.6cmに隆帯。内外面横位の撫で。	
86号竪穴建物							
種 類 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考
第2418E PL.123	1	土師器 杯	1/3	口 [13.0] 高 (4.2)	細砂粒/酸化塩/橙	器面摩耗。口縁横撫で。体部～底部内面反時計回りの段撫で、外面段作り。	
第2418E	2	須恵器 蓋	1/4	口 [11.0] 高 (3.5)	細砂粒/還元塩/灰白	焼成良好。表面段撫で。口縁は端部の土縁が0.5cm引き出されて形成され、かえりは端部下縁が下方に内湾気味に1.0cm程下方へ引き出される。	
第2418E PL.123	3	須恵器 短須恵	頸部辺と胴部～腰部3/4	高 (10.6)	細砂粒/還元塩/灰白	焼成やや甘い。胴部外面に若干自然輪付く。内外面横位の撫で。頸部～胴部上位の1カ所に粘土付着。	
第2418E	4	須恵器 甕	腰部～底部片	底 [9.0] 高 (2.6)	細砂粒/還元塩/灰白	焼成やや良。腰部～底部内・腰部外面横位の撫で。底面撫でか。	
87号竪穴建物							
種 類 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考
第2428E	1	土師器 甕	腰部(底部)破片	底 [21.0] 高 (2.3)	細砂粒/酸化塩/にぶい赤褐色	焼成良好。内外面横位の撫で。	
第2428E PL.123	2	須恵器 杯	3/4	口 8.2 高 (4.9)	細砂粒/酸化塩/にぶい橙	焼成良好。右回転轆轤成形。底面回転糸切り切り難し。底部内面中央に指撫で3条。	
第2428E	3	須恵器 椀	口縁部～体部片	口 [15.0] 高 (2.5)	細砂粒/酸化塩/橙	回転轆轤成形。	

南蛇井北原田遺跡 遺物観察表

種 類 PL.No.	No.	種 類 種 類	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第242図	4	須臾器 高台付椀	腰部下位～高台1/2	台 [6.6]	高 (1.9)	細砂粒/酸化塩/橙	回転轆轤成形。底面切り離し後撫で。高台貼り付けで内面裾部指撫で。
第242図	5	須臾器 高台付椀	底部～高台	台 5.1	高 (2.0)	細砂粒/酸化塩/にぶい橙	底部内面吸炭による黒色処理(焼し)。底面切り離し後撫で、裾部外反する高台貼り付け。
88号壺穴建物							
種 類 PL.No.	No.	種 類 種 類	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第245図	1	土師器 甕	腰部1/6と底部	底 11.0	高 (21.1)	粗砂粒/酸化塩/にぶい赤褐	上げ底。底面と部分的に腰部外面に覆付着。体部～底部内面回し午らの指撫で。腰部外面中・上位横位の撫で、下位右下方中心の段削り。底面段削りか。
第245図	2	土師器 PL.123	胴部下位～底部	底 11.1	高 (16.1)	粗砂粒/酸化塩/明赤褐	内面体部(反時計回り)の段撫で後、腰部下位～底部指撫で。体部外面上方へ、腰部下位横位の段削り。底面(段調整後)指撫で。
第245図	3	土師器 甕	口縁部～胴部片	長 [9.8] 幅 [7.8]	厚 0.8	粗砂粒/酸化塩/にぶい橙	ゴ字状口縁。口縁横撫で、体部内面反時計回りの段撫で、外面(上方への)段削り。
第246図	4	須臾器 杯	1/4	口 [10.1] 底 [5.4]	高 1.8	細砂粒/酸化塩/橙	焼成やや甘い。右回転轆轤成形。底面回転切り離し。
第246図	5	須臾器 高台付椀	底部～高台	台 7.5	高 (2.6)	細砂粒/酸化塩/浅黄褐	内面吸炭による黒色処理。回転轆轤成形。回転切り離し後高台貼り付け。
第246図	6	須臾器 高台付杯	杯部1/4・高台繋一部欠損	口 [16.5] 台 8.8	高 4.5	粗砂粒。片岩含む/酸化塩/にぶい赤褐	杯部・高台部共に右回転轆轤成形。杯底部～高台天井部に径0.4cmの小孔縦位に貫通。杯部回転切り離し後、高台貼り付け。杯底部内面回し午らの指撫で。底面外周指撫で。
第246図	7	須臾器 高台付杯	杯部1/3・高台部3/4	口 [16.4] 台 9.0	高 4.6	細砂粒/酸化塩/明赤褐	杯部・高台部右回転轆轤成形。底面回転切り離し後、高台貼り付け。体部内面指撫直残る。
第246図	8	須臾器 甕	体部片	長 [13.5] 幅 [20.6]	厚 0.9	粗砂粒/還元塩/灰	焼成良好。外面上位に自然釉。内面同心円印き後横位の撫で、外面撫で。
第246図	9	礫石器	破片	長 [13.9] 厚 [14.7]	重 3.7 7.56	砂岩	厚板状の石材使用。下面近くに吸炭。左側中下の側面磨り成形し、表裏両面に対ならしけられ。
第246図	10	鉄製品 刀子か	完形	長 15.7 幅 2.75	厚 0.5 重 54.9	/無/微量	両面が確認できる。棟筋が先端近くで丸みを帯びる。刃は直線的につけられている。通常の刀子とは異なる。
90号壺穴建物							
種 類 PL.No.	No.	種 類 種 類	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第248図	1	土師器 土釜	口縁部～体部上位片	口 [23.1]	高 (10.2)	粗砂粒。片岩含む/酸化塩/赤褐	焼成良好。硬質。口縁横撫で。体部内面反時計回りの段撫で、外面上方への段削り。
第248図	2	須臾器 杯	底部	底 4.4	高 (1.0)	細砂粒/酸化塩/橙	焼成不良。器面荒れる。(右)回転轆轤成形。底面回転糸切り切り離し。
94号壺穴建物							
種 類 PL.No.	No.	種 類 種 類	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第254図	1	土師器 杯	1/3	口 [13.0]	高 4.6	細砂粒/酸化塩/にぶい赤褐	内面中心に深く吸炭。口縁横撫で。体部～底部内面反時計回りの段撫で、外面時計回りの段削り。
第254図	2	土師器 甕	口縁部～胴部片	口 [24.5]	高 (8.6)	粗砂粒/酸化塩/にぶい橙	胴部内面吸炭。口縁横撫で胴部内面反時計回りの段撫で、外面縦位の段削り。
第254図	3	土師器 甕	腰部片と底部	底 7.7	高 (12.9)	粗砂粒/酸化塩/橙	焼成良好。内面体部～底部上位反時計回りの段撫で、底部中央一方向への段撫で。腰部外面左上への段削り。底面反時計回りの段削り。
23号土坑							
種 類 PL.No.	No.	種 類 種 類	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第263図	1	土師器 杯	口縁部～底部	口 [12.0]	高 3.2	細砂粒/酸化塩/明赤褐	焼成やや甘い。表裏面荒れる。口縁横撫で。体部～底部内面段撫で、外面段削り。
第263図	2	須臾器 甕	頸部～胴部片	長 [9.5] 幅 [11.5]	厚 1.0	粗砂粒/還元塩/灰白	内面同心円印き、外面平行印き。
27号土坑							
種 類 PL.No.	No.	種 類 種 類	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第264図	1	こも編み石	完形	長 11.9 幅 5.2	厚 1.8 重 196	珪質頁岩	薄板状の河床礫使用。左縁中位の幅1.8cmを測る自然の割離痕を利用し幅3.3cmの厚耗面一周。
49号土坑							
種 類 PL.No.	No.	種 類 種 類	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第266図	1	土師器 甕	口縁部～胴部1/4	口 [22.0]	高 (8.0)	細砂粒/酸化塩/橙	焼成やや甘い。器面荒れる。胴部内面覆付着。口縁横撫で。胴部内面反時計回りの段撫で、外面縦位の段削り。
59号土坑							
種 類 PL.No.	No.	種 類 種 類	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第268図	1	須臾器 甕	3/4	口 [25.4] 底 22.3	高 3.0	粗砂粒/還元塩/灰白	右回転轆轤成形。底面反時計回りの段削り。

67号土坑

種 類 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第269図	1	須恵器 長頸壺	胴部片	長 幅	(5.9) (8.1)	厚 1.0	細砂粒/還元焰/ 灰	やや軟質。表面面直し乍らの撫で。
1号溝								
種 類 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第300図	1	土師器 杯	腰部～底部	長 幅	(6.9) (6.1)	高 (1.3)	細砂粒/酸化焰/ 橙	腰部～底部内面回し乍らの撫で。腰部外面時計回りの発削り。底部手持ち発削り。
第300図	2	須恵器 高台付壺	底部	長 幅	(5.1) (3.8)		細砂粒/還元焰/ 灰白	右回転軸轆轤成。底面回転系切り後、高台貼付けか。
第300図	3	須恵器 甕	口縁下位～胴部	長 幅	(8.0) (4.9)	高 (7.7)	粗砂粒/還元焰/ 灰	外面自然釉。口縁横撫で。胴部内面撫で。

2号溝

種 類 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第300図 PL.124	1	土師器 壺	腰部～底部	底	14.0	高 (6.0)	粗砂粒/酸化焰/ 橙	器面荒れ。内面横位の撫で、外面横位の発削りか。底面発削り。

4号溝

種 類 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第305図 PL.124	1	土師器 鉢	1/2	口 底	[17.8] [13.4]	高 6.9	細砂粒/酸化焰/ 橙	内面荒れる。口縁横撫で。腰部～底部内面回し乍らの撫で後放射状の発削りによる暗文施文、外面反時計回りの発削り。

8号溝

種 類 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第306図 PL.124	1	土師器 杯	口縁部～体部 3/4欠損	口 底	[14.0] 11.0	高 4.4	細砂粒/酸化焰/ にぶい黄釉	焼成やや甘く、器面やや荒れる。口縁横撫で。腰部～底部内面反時計回りの撫で後、腰部に放射状、底面に連続した弧状の発削りによる暗文。外面時計回りの発削り。
第306図	2	土師器 杯	口縁部～体部 片	口	[15.0]	高 (3.5)	細砂粒/酸化焰/ 橙	焼成甘く、器面荒れる。口縁横撫で。腰部内面反時計回りの撫で、外面横位の発削り。
第306図	3	土師器 杯	口縁部～底部 外周1/4	口 底	[11.8] [7.6]	高 3.9	細砂粒/酸化焰/ 黄釉	焼成甘く、器面荒れ。口縁横撫でか。腰部～底部内面撫でか。外面発削りか。
第306図 PL.124	4	須恵器 鉢	ほぼ完形	口 底	[14.8] 9.0	高 3.3	細砂粒/還元焰/ 灰	右回転軸轆轤成。腰部外面～底部回転削り。底面「 \times 」の線刻。
第306図 PL.124	5	須恵器 杯	1/2	口 底	[12.6] 8.6	高 3.5	細砂粒/還元焰/ 灰	右回転軸轆轤成。底面回転削り。
第306図	6	須恵器 壺	口縁部～腰部 片	口	[12.0]	高 (3.4)	細砂粒/還元焰/ 灰	右回転軸轆轤成。外面口縁下端に深い段設ける。
第306図	7	須恵器 壺	口縁部片	口	[13.7]	高 (4.0)	細砂粒/還元焰/ 灰白	口縁部上下に短く引く。内外面横位の撫で。
第306図	8	須恵器 壺	胴部片	長 幅	(15.3) (20.1)	厚 1.5	粗砂粒/還元焰/ 灰	内面同心円叩き後、これを磨り消すように横位の撫で、外面平行叩き。
第306図	9	須恵器 壺	胴部片	長 幅	(12.6) (18.6)	厚 1.2	粗砂粒/還元焰/ 灰	内面同心円叩き後、これを磨り消すように横位の撫で、外面平行叩き後、これを磨り消すように横位の撫で。
第307図 PL.124	10	須恵器 長頸壺	胴部片	長 幅	(8.2) (11.0)	厚 0.8	細砂粒/還元焰/ にぶい黄釉	表面面直し乍らの撫で。外面同端寄りに沈線かかれ、その外側に踵の叩き。
第307図 PL.124	11	須恵器 長頸壺	胴部片	長 幅	(6.8) (6.4)	厚 0.9	細砂粒/還元焰/ 灰白	表面面直し乍らの撫で。内面頸部指痕残る。外面同端近くに沈線かかれ、その外側に踵の叩き。
第307図 PL.124	12	須恵器 小型甕	口縁部～胴部 上片1/6	口	[12.1]	高 (11.0)	粗砂粒/還元焰/ 灰	焼成良好。口縁内外面と胴部外面に自然釉。口縁上下両側に短く引かれる。内外面横位の撫で。
第307図 PL.124	13	砥石	下方切断欠損	長 幅	(9.9) 6.6	厚 4.2 重 358	砥石	直方体に加工。表面・右側面に研磨面形成。特に表面と右側面下平の研磨強く、右側面は窪む。
第307図 PL.124	14	鉄製品 鏝	ほぼ完形	長 幅	5.6 2.7	厚 0.4 重 7.2	/無/微量	逆刺があり、短頸。刃部は刃は付いているが非常に丸くなっている。

16号溝

種 類 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第316図 PL.124	1	木製品 加工木	一部欠損	長 幅	(56.4) 8.9	厚 9.0		丸木を使用している。一方は埋藏時に潰れている。先端は左右から削り込むのみで先端部に幅がある。

18号溝

種 類 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第313図	1	土師器 高杯	杯底部～腰部 中位片			高 (7.3)	細砂粒/酸化焰/ 明陶	焼成やや甘く、外面と杯底部内面荒れる。脚部内面吸成による黒色処理。杯底部内面も吸成の指痕。内面杯底部発削りか、脚部反時計回りの撫で、頂部指痕で、外面発削りか。
第313図	2	須恵器 小型甕	口縁部～頸部 上片	口	[16.0]	高 (5.6)	細砂粒/還元焰/ 灰	焼成良好。外面口端寄り0.8cmに断面三角形を呈する隆帯。内面横位の撫で、指痕残る指痕直見。外面横位の撫で口縁中位に波状文。

南蛇井北原田遺跡 遺物観察表

1号焼土

種 類 PL.No.	No.	種 類 種 類	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第318号 PL-124	1	敲石・磨石・ こも幅み石	裏面下端割離 欠損	長幅 14.0 厚 7.4	2.9 重 488	変質安山岩	平面形縦長台形を呈する板状の河床礫使用。上下端に敲打痕あり。表面と右面上半に研磨面形成。中位に幅4.1cmの摩耗痕一箇。
PL-143	2	土壇付片 縦磨痕	破片	長幅 6.0 厚 5.2		磁等の繊維か	土壇に幅4mmほどの繊維または繊維の痕跡6本が縦位並列に付着するが、右側に1.2cmほど離れて更に2本が並ぶ。縦の繊維束の土に25°傾いた0.6cm程離れて繊維2本が来る。縦の繊維列は1.0cm間隔で横糸かとも思われる横位の隆起が見られる。

2号焼土

種 類 PL.No.	No.	種 類 種 類	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第319号	1	土師器 器	口縁部～体部	口 [19.8] 高 (7.7)		細砂粒/酸化燐/ にぶい橙	焼成やや良。口縁横撫でで外面下位に指頭痕残る。内面左方への凹撫で、外面左方への凹削り。体部器厚3mm以下。
第319号	2	土師器 器	口縁部～体部	口 [17.8] 高 (6.8)		細砂粒/酸化燐/ にぶい橙	コ字状口縁で横撫で、肩部横位の凹撫で、最上部は横撫でで、外面凹削り。
第319号	3	土師器 器	口縁部～体部	口 [13.8] 高 (7.4)		細砂粒/酸化燐/ にぶい赤褐色	表面かせる。裏面やや荒れる。口縁横撫で、体部内面左方への凹撫で、外面横位の凹削り。

5号焼土

種 類 PL.No.	No.	種 類 種 類	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第321号 PL-124	1	かわらけ 皿	2/3	口 [9.6] 底 [5.0]	高 2.2	細砂粒/酸化燐/ 橙	回転轆轤成形。口縁部外反。高台部に糸切り痕。

遺物外

種 類 PL.No.	No.	種 類 種 類	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第322号 PL-125	1	土師器 杯	1/4	口 [15.0] 底 10.0	高 4.3	細砂粒/酸化燐/ 橙	器面摩耗顕著。口縁横撫で。体部～底部内面撫でか、外面凹削りか。
第322号 PL-125	2	土師器 杯	1/6	口 [14.0]	高 3.5	細砂粒/酸化燐/ 橙	器面多少荒れる。口縁横撫で、体部～底部内面反時計回りの凹撫で、外面時計回りの凹削り。
第322号 PL-125	3	土師器 杯	口縁部～底部	口 [15.0]	高 4.0	細砂粒/酸化燐/ 橙	焼成付く摩耗顕著。底部内面縁に段突。口縁横撫で、体部～底部内面凹撫でか、外面凹削りか。
第322号 PL-125	4	土師器 器	口縁部～体部	口 [15.2]	高 (9.7)	粗砂粒・片岩含 む/酸化燐/に ぶい橙	外面荒れ、内面喫突。口縁に輪積み痕跡残る。口縁横撫で、体部内面反時計回りの凹撫で、外面左方への凹削り。
第322号 PL-125	5	須恵器 高台付椀	口縁部～体部 過半欠損	口 [14.7] 台 [7.0]	高 4.7	細砂粒/還元燐/ 黒濁	内外面焼し、内面研磨光沢。右回転轆轤成形。体部や底部内面に段突。
第322号 PL-125	6	須恵器 高台付椀	1/4	口 [13.2] 台 [6.9]	高 5.0	細砂粒/還元燐/ 灰白	右回転轆轤成形。右回転轆轤成形。底面回転糸切り後高台付。
第322号	7	須恵器 蓋	蓋部外周片	口 [18.0]	高 (2.1)	細砂粒/還元燐/ 灰	焼成良好。口端から1.1cmの位置で下方に0.3cm程引く返しを削る。
第322号	8	須恵器 器	肩部下位～胴 部上位片	長幅 (11.2) 厚 (13.5)	0.7	細砂粒/還元燐/ 灰	焼成良好。薄手。肩部と胴部の境で接合。接合部表面に幅0.9cm、深さ0.05cmの凹部みられる。表裏面横位の撫でで、胴部の表裏面に平行引き見られる。
第322号 PL-125	9	敲石・こも 幅み石	完形	長幅 12.2 厚 5.2	3.9 重 370	粗粒輝石安山岩	丸棒状河床礫使用。上端に強い敲打痕残る。中位に幅4.1cmを測る摩耗痕一箇。
第322号 PL-125	10	火打石	完形	長幅 2.5 厚 2.8	1.8 重 17	石英	厚板状の石材使用。表面下端縁部に敲打痕残る。
PL-125	11	こも幅み石	右側縁割離欠 損	長幅 12.5 厚 5.6	3.9 重 381	変質安山岩	横断面台形を呈する河床礫使用。中位に幅(7.7cm)の摩耗痕一箇。

赤生時代

3号溝

種 類 PL.No.	No.	種 類 種 類	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第324号 PL-125	1	赤生土器 器	口縁部～底部	口 [15.0] 底 [7.6]	高 22.3	長石多/良/明赤 濁	口縁部から胴部上位に縞縞状文を施す。頸部に2点止めの縞状文。胴部外面研磨。光沢。内面人念ナデ。

遺物外

種 類 PL.No.	No.	種 類 種 類	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第325号 PL-125	1	赤生土器 製部片	24号壺穴建物 製部片			片岩粒多/良/明 赤濁	竹管状文具による横位平行沈線。内面ナデ。
第325号 PL-125	2	古式土師 製部片	4号溝 製部片			砂粒多/良/橙	胴部に縦位の条線施文。内面荒れ。
第325号 PL-125	3	古式土師 製部片	4号溝 製部片			石英多/良/橙	外面に斜行する条線文。内面ナデ。
第325号 PL-125	4	赤生土器 製部片	4-5号溝 口縁部片			砂粒多/良/にぶ い橙	口唇部内外面に横位の縞縞状文。器面荒れ。
第325号 PL-125	5	赤生土器 製部片	4号溝 口縁部片			細砂多/良/にぶ い黄橙	口縁部に横位の縞縞状文を重ねる。内面人念ナデ。
第325号 PL-125	6	赤生土器 製部片	25号壺穴建物 口縁部片			片岩粒多/良/に ぶい黄橙	外面に縞縞状文、内面ナデ。
第325号 PL-125	7	赤生土器 製部片	27号壺穴建物 製部片			片岩粒少/良/に ぶい黄橙	外面に大振りした縞縞状文を横位に重ねる。内面ナデ。

種 別 PL.No.	No.	種 類 種 別	出土位置 残 存 率	計測値 (cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考
第32590 PL.125	8	赤生土器 甕	4・5号溝 胴部片		砂粒多/良/にぶ い黄褐色	外面に康状文横位施文。内面ナデ。	赤生後期樽式 土器
第32590 PL.125	9	赤生土器 甕	24号壑穴建物 胴部片		片岩粒多/良/褐色	胴部に横位の帯状波状文を重ねる。内面横し、黒色。ナデ、 やや光沢を帯びる。	赤生後期
第32590 PL.125	10	赤生土器 甕	B1区 胴部片		細砂多/良/浅黄 褐色	胴部上位に帯状波状文を横位施文。内面ナデ。	赤生後期
第32590 PL.125	11	赤生土器 甕	26号壑穴建物 胴部片		片岩粒少/良/に ぶい黄褐色	薄手のつくり。外面に縄文LRを縦位施文。内面ナデ。	赤生後期吉ヶ 谷式
第32590 PL.125	12	古式土師 甕	仮区 胴部片		砂粒多/良/にぶ い黄褐色	外面に粗い刷毛目。内面に横位と斜位の刷毛目。	4C
第32590 PL.125	13	赤生土器 甕	4号溝 底部	底 11.0	砂粒多/良/明褐色	体部外面研磨。光沢。内面念ナデ。底部外面ナデ。かる いスレ。	赤生後期樽式 土器
第32590 PL.125	14	割片石器 石鎌	8号溝 完形	長 14.4 厚 2.1 幅 8.2 重 298.0	細粒輝石安山岩	下部部対部付近に最大幅を持ち、幅広の扇形の石鎌である。	
第32590 PL.125	15	割片石器 石鎌	8号溝 完形	長 13.0 厚 3.2 幅 8.1 重 443.7	結晶片岩	下部部対部付近に最大幅を持ち、幅広で厚みのある扇形の 石鎌である。	
第32590 PL.125	16	割片石器 石鎌	仮区 完形	長 15.2 厚 2.6 幅 9.0 重 338.3	細粒輝石安山岩	下部部対部付近に最大幅を持つ扇形を呈する石鎌である。 対部は著しく摩耗し鈍角である。	
第32590 PL.125	17	割片石器 石鎌	17号壑穴建物 1/2	長 (10.6) 厚 2.8 幅 (7.9) 重 239.2	粗粒輝石安山岩	大型の細片割片を横位に用い、周辺加工したもので、器体 下半部を大きく欠く。無縁のエッジは比較的新鮮で使い込 まれた状態にはなく、製作最終段階に欠損したものと込 える。	
第32590 PL.125	18	割片石器 石鎌	C3区 欠損	長 (15.0) 厚 2.4 幅 (10.9) 重 565.3	変玄武岩	下半部欠損、大型の石鎌と推定される。	
第32590 PL.125	19	割片石器 石鎌	B1区 1/2	長 (11.7) 厚 2.2 幅 (7.4) 重 209.8	硬質泥岩	完成状態。幅広の対部に棒状を呈す石芥基部が付くタイ プの石鎌で、器体下半部を大きく欠損する。上部部側縁が わずかに摩耗。完成まもなく破損したのか。	
第32590 PL.125	20	割片石器 石鎌	86号壑穴建物 欠損	長 (10.8) 厚 3.1 幅 (7.0) 重 296.4	粗粒輝石安山岩	下半部欠損、扇形を呈する石鎌と推定される。	
縄文時代 4号土坑							
種 別 PL.No.	No.	種 類 種 別	出土位置 残 存 率	計測値 (cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考
第32690 PL.126	1	縄文土器 深鉢	胴部片		砂粒多/良/黒褐色	胴部に縦位隆線と縄文LR縦位施文。内面荒れ。	加曾利4式
26号土坑							
種 別 PL.No.	No.	種 類 種 別	出土位置 残 存 率	計測値 (cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考
第32790 PL.126	1	縄文土器 深鉢	口縁部片		砂粒多/良/褐色	口縁部無文下に隆線がめぐり、体部隆線区画内を縄文LRで 充填。内面横位ナデ。	加曾利4式
第32790 PL.126	2	縄文土器 深鉢	胴部片		砂粒多/良/にぶ い黄褐色	外面に2条の平行隆線と縄文LR縦位施文。内面に横位ナデ。	加曾利4式
第32790 PL.126	3	縄文土器 深鉢	胴部片		砂粒多/良/明褐色	外面に2条の平行隆線と縄文LRをランダムに施文。内面に 横位ナデ。2次焼成。器面スレ。	加曾利4式
第32790 PL.126	4	縄文土器 深鉢	口縁部片		砂粒多/良/灰褐色	口縁部に隆線がめぐり、沈線区画内を縄文LRで充填。内面 粗い磨き。	加曾利4式
第32790 PL.126	5	縄文土器 深鉢	口縁部片		砂粒多/良/灰黄 褐色	口縁部に隆線がめぐり、沈線区画内を縄文LRで充填。内面 かるい磨き。	加曾利4式
第32790 PL.126	6	縄文土器 蓋	1/4	口 (10.0)	砂粒多/良/褐色	内外面無文。端部に内孔。外面荒れ、一部に削れ。内面丁 寨ナデ、かるい研磨。	加曾利4式か
第32790 PL.126	7	縄文土器 深鉢	胴部片		砂粒多/良/明黄 褐色	体部隆線区画内を縄文LRで充填。内面横位ナデ。	加曾利4式
第32790 PL.126	8	縄文土器 深鉢	胴部片		砂粒多/良/褐色	口縁部無文下に隆線がめぐり、体部隆線区画内を縄文LRで 充填。口縁部下隆線と体部隆線の境目につまみ上げたよう な突起が付く。内面横位ナデと粗い研磨。	加曾利4式
第32790 PL.126	9	縄文土器 深鉢	胴部片		砂粒少/良/にぶ い黄褐色	沈線区画内を縄文LRで充填。無文部に研磨。内面横位ナデ。	加曾利4式
第32790 PL.126	10	縄文土器 深鉢	胴部片		砂粒多/良/にぶ い黄褐色	沈線区画内を縄文LRで充填。無文部に研磨。内面横位ナデ。	加曾利4式
第32790 PL.126	11	縄文土器 深鉢	胴部片		砂粒多/良/黒褐色	沈線区画内を縄文LRで充填。無文部に研磨。内面横位ナデ。	加曾利4式
第32790 PL.126	12	縄文土器 深鉢	胴部片		砂粒多/良/にぶ い褐色	沈線区画内を縄文LRで充填。無文部に研磨。内面横位ナデ。 外面一部を熱熱、劣化。	加曾利4式
第32790 PL.126	13	縄文土器 深鉢	胴部片		砂粒多/良/褐色	2条の平行沈線が調巻文を構成し、沈線間の無文部に研磨 を施す。縄文はLR。内面研磨。	加曾利4式
33号土坑							
種 別 PL.No.	No.	種 類 種 別	出土位置 残 存 率	計測値 (cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考
第32890 PL.126	1	縄文土器 深鉢	口縁部片		片岩、金雲母多/ 良/にぶい赤褐色	外面に沈線が波状文様。内面ナデ。	阿玉台1b式
第32890 PL.126	2	縄文土器 深鉢	口縁部片		石英、金雲母多/ 良/にぶい赤褐色	外面に平行押し沈線が弧状文施文。内面横位ナデ。	阿玉台1b式

南蛇井北原田遺跡 遺物観察表

34号土坑

検出 PL.No.	No.	種 類 種 類	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/構成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第32800 PL.126	1	縄文土器 深鉢	口縁部片		砂粒多/良/赤褐色	波状口縁。沈殿区画内を縄文LRで充填。内面粗い研磨。	加賀利E4式
第32800 PL.126	2	縄文土器 深鉢	口縁部片		砂粒多/良/暗赤褐色	波状口縁。1と同個体。	加賀利E4式
第32800 PL.126	3	縄文土器 深鉢	口縁部片		砂粒多/良/灰褐色	波状口縁。波頂部に突起が付く。沈殿区画内を縄文LRで充填。内面粗い研磨。	加賀利E4式
第32800 PL.126	4	縄文土器 深鉢	口縁部片		砂粒多/良/橙	口縁部隆線下に縄文LRを縦位施文。内面横位ナデ。	加賀利E4式
第32800 PL.126	5	縄文土器 深鉢	口縁部片		砂粒多/良/赤褐色	沈殿区画内を縄文LRで充填。無文部かかる研磨。内面横位ナデ。	加賀利E4式
第32800 PL.126	6	縄文土器 深鉢	口縁部片		砂粒多/良/ぶい褐色	沈殿区画内を縄文LRで充填。無文部かかる研磨。内面かかる研磨。	加賀利E4式
第32800 PL.126	7	縄文土器 深鉢	口縁部片		砂粒多/良/ぶい褐色	口縁部無文下に隆線がめぐり、体部隆線区画内を縄文LRで充填。隆線に沿ってナデを施す。内面ナデ。	加賀利E4式
第32800 PL.126	8	縄文土器 深鉢	胴部片		砂粒多/良/ぶい褐色	2条の沈線懸垂文間に蛇行沈線。内面かかる研磨。	加賀利E3式
第32800 PL.126	9	縄文土器 深鉢	口縁部片		砂粒多/良/橙	口唇部欠損。口縁部L&R横文帯下に隆線。体部沈殿区画内に縄文LRを充填。内面研磨。光沢。	加賀利E4式
第32800 PL.126	10	縄文土器 深鉢	胴部片		砂粒多/良/赤褐色	体部懸垂隆線区画内に縄文LRを縦位施文。内面研磨。光沢。	加賀利E4式
第32800 PL.126	11	縄文土器 深鉢	胴部片		砂粒多/良/赤褐色	沈殿区画内を縄文LRで充填。無文部に研磨。内面横位ナデと研磨。	加賀利E4式
第32800 PL.126	12	縄文土器 深鉢	胴部片		砂粒多/良/明赤褐色	沈殿区画内を縄文LRで充填。無文部に研磨。内面研磨。光沢。	加賀利E4式
第32800 PL.126	13	縄文土器 深鉢	胴部片		砂粒多/良/暗赤褐色	沈殿区画内を縄文LRで充填。無文部に研磨。内面かかる研磨。	加賀利E4式
第32800 PL.126	14	縄文土器 小型土器	底部	底 3.0 長 幅 7.4 厚 重 3.0 203.1	砂粒多/良/橙	丁寧なつくり。外面に縄文、内面かろい研磨か。2次焼熟で器面やや荒れ。	加賀利E4式か
第32800 PL.126	15	新片石器 打製石斧	1/2	長 幅 7.4 厚 重 3.0 203.1	硬質泥岩	完成状態。右側縁に部分的に潰れ、弱く摩耗する。刃部および左辺側表面は再生加工されている。上半部の欠損は再生時である可能性が高い。	扇形か

1号遺物集

検出 PL.No.	No.	種 類 種 類	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/構成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第33000 PL.127	1	縄文土器 深鉢	口縁部～胴部 1/4	口 53.0	長石多/良/橙	口縁部を渦巻文と楕円区画文で構成し、胴部に沈殿区画無文帯の懸垂文を施文。縄文はRL。内面入念ナデ。	加賀利E3式
第33000 PL.127	2	縄文土器 深鉢	口縁部～胴部 1/4	口 47.0	石粒多/良/ぶい黄褐色	口縁部を渦巻文と楕円区画文で構成し、胴部に沈殿区画無文帯の懸垂文を施文。懸垂無文帯を渦巻文でアーチ状に連結し、縄文部に5字文。無文帯に渦巻文を伴う沈線などの装飾を施す。縄文はRL。内面入念ナデ。なお、胴部下部の断面が丸頭状に加工しており、埋設土器に転用されたものと考えられる。	加賀利E3式
第33100 PL.127	3	縄文土器 深鉢	口縁部～胴部 片	口 38.2	長石多/良/浅黄褐色	口縁部を渦巻文と楕円区画文で構成し、胴部に沈殿区画無文帯の懸垂文を施文。縄文はRL。内面入念ナデ。	加賀利E3式
第33100 PL.127	4	縄文土器 深鉢	口縁部片		長石多/良/ぶい黄褐色	口縁部を渦巻文と楕円区画文で構成し、区画内を縄文LR充填。内面入念ナデ。	加賀利E3式
第33100 PL.127	5	縄文土器 深鉢	口縁部片		砂粒多/良/ぶい黄褐色	口縁部に2条の沈線を引き、その間に縦位沈線を充填し、胴部に沈殿区画無文帯の懸垂文を施文。器面荒れ。	加賀利E3式
第33100 PL.128	6	縄文土器 深鉢	口縁部～胴部 1/2	口 (46.0)	長石多/良/浅黄褐色	口縁部を渦巻文と楕円区画文で構成し、胴部に沈殿区画無文帯の懸垂文を施文。縄文はRL。内面入念ナデ。	加賀利E3式
第33200 PL.127	7	縄文土器 深鉢	口縁部1/2		砂粒多/良/ぶい褐色	口縁部を渦巻文と楕円区画文で構成し、楕円区画内を刺突文で充填。器面荒れ顕著。	加賀利E3式
第33200 PL.127	8	縄文土器 深鉢	口縁部片		長石多/良/ぶい褐色～黒	口唇部外面に刺突。口縁部に2条の平行沈線で波状文。胴部に沈殿区画無文帯の懸垂文を施文。縄文はRL。内面入念ナデ。	加賀利E3式
第33200 PL.127	9	縄文土器 深鉢	胴部片		長石多/良/ぶい褐色～黒	8、10と同個体。	加賀利E3式
第33200 PL.128	10	縄文土器 深鉢	胴部片		長石多/良/ぶい褐色～黒	8、9と同個体。	加賀利E3式
第33200 PL.128	11	縄文土器 深鉢	胴部1/2		砂粒多/良/橙	底部剥落。胴部に縦位条線施文。器面荒れ。	加賀利E3式
第33200 PL.128	12	縄文土器 深鉢	口縁部～胴部 1/3	口 (37.0)	長石多/良/ぶい褐色	波状口縁。口縁部が直立し、胴部の括れが無い。口縁部や胴部の文様構成は1と共通するが、縄文に代えて沈線で充填している。内面ナデ。	加賀利E3式
第33300 PL.129	13	縄文土器 深鉢	口縁部片	口 23.0	砂粒多/良/ぶい黄褐色	波状口縁。口縁部を渦巻文と楕円区画文で構成し、区画内に縄文LR充填。波頂部内面に沈線と刺突。内面研磨。	加賀利E3式
第33300 PL.129	14	縄文土器 深鉢	口縁部～胴部 片	口 22.6	砂粒多/良/明黄褐色	口縁部を楕円区画文で構成し、胴部に沈殿区画無文帯の懸垂文を施文。縄文はRL。内面ナデ。	加賀利E3式
第33300 PL.129	15	縄文土器 深鉢	胴部片		砂粒少/硬質/ぶい褐色	口縁部を渦巻文と楕円区画文で構成し、胴部に沈殿区画無文帯の懸垂文を施文。胴部の縄文施文部に蛇行沈線。縄文はRL。内面研磨。	加賀利E3式

採 掘 PL-No.	No.	種 類	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考	
第3338区 PL-129	16	縄文土器 浅鉢	口縁部～胴部 1/3	口 (30.0)		長石多/良/にぶ い黄緑	18と同類だが南広形に近い。文様構成は18と同様で、胴部 上位を渦巻文と楕円区画文で構成。内外面の器面の荒れが 顕著で、詳細不明。	加曾利E3式
第3338区 PL-129	17	縄文土器 深鉢	胴部片			砂粒多/良/灰	胴部に円形の刻列あり。胴部の逆U字形区画襷文帯に鉄手状 沈線が伴う。焼文はR縦位施文。無文部と内面に研磨。	加曾利E3式
第3338区 PL-129	18	縄文土器 浅鉢	口縁部～胴部 1/2	口 (40.0)		砂粒多/良/橙	口縁部が直線的に開き、体部がキャリバー形の鉢状を呈す する。口縁部無文。深鉢の上半部と同形の器面の胴部上位に渦 巻文と楕円区画文を構成し、区画内を胴部下位に櫛状施文 具で渦巻文を施文。内面入念研磨。器面荒れ。	加曾利E3式
第3348区 PL-129	19	切片石器 磨製石斧	周辺 1/3	長幅 6.4	厚重 4.3 256.4	変玄武岩	未製品。片面に荒削り痕、片面に敲打痕を残す。一部に荒 研磨が認められる。	
第3348区 PL-20	20	切片石器 磨製石斧	1/2	長幅 7.6	厚重 2.2 188.0	変玄武岩	未製品。対部付近を中心に荒削り痕を残し、全体に敲打痕 と荒研磨痕が認められる。形状もややいびつ。	
第3348区 PL-21	21	礫石器 磨石	完形	長幅 13.1	厚重 5.6 691.1	粗粒輝石安山岩	楕円形の円磨を使用。両平面に磨り面と2カ所の敲打痕 あり。被熱、変色。	
第3348区 PL-22	22	礫石器 磨石	一部欠損	長幅 13.4	厚重 3.2 380.6	粗粒輝石安山岩	片側の平面に磨り面と2カ所の敲打痕、両面に磨りつ ぶしたような敲痕が認められる。	
第3348区 PL-129	23	礫石器 砥石	完形	長幅 32.2	厚重 12.3	砂岩	大型の扁平な非角磨を使用。片側の平面に磨り面に使用 しているが、裏面の一部に弱い磨り面が残る。また、平 平面にキリモミ状の内磨の穴が数多くあるが、磨り面 に対する配慮が認められる。	

遺研外

採 掘 PL-No.	No.	種 類	出土位置 残 存 率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考	
第3358区 PL-130	1	縄文土器 深鉢	32号型穴建物 胴部片			繊維多含/良/橙	外面の文様不鮮明、羽状構成。内面ナデ。	花積下層式
第3358区 PL-130	2	縄文土器 深鉢	25号型穴建物 胴部片			繊維多含/良/赤 褐	0段3条RとLRの繊維文を縦位に交互施文して縦位羽状襷文 を構成。内面ナデ。	花積下層式
第3358区 PL-130	3	縄文土器 深鉢	32号型穴建物 胴部片			石英、金雲母多 含/良/にぶい黄褐	胴部に縦位施文の集合沈線帯を横位に施す。内面ナデ。	阿玉台II式
第3358区 PL-130	4	縄文土器 深鉢	32号型穴建物 胴部片			片岩粒多/良/明 橙	隆帯に沿ってキャピラー文を施す。内面ナデ。	磨板2式
第3358区 PL-130	5	縄文土器 深鉢	32号型穴建物 胴部片			砂粒多/良/橙	隆帯に沿って2～3帯の平行沈線を施す。内面ナデ。	磨板2式
第3358区 PL-130	6	縄文土器 深鉢	32号型穴建物 胴部片			砂粒少/良/橙	隆帯と平行沈線が曲線的な文様を描く。内面ナデ。	焼町土器
第3358区 PL-130	7	縄文土器 深鉢	4・5号溝 口縁部片			砂粒多/良/にぶ い黄	口縁部に縦位の沈線文。器面荒れ。	加曾利1式
第3358区 PL-130	8	縄文土器 深鉢	4・5号溝 胴部片			砂粒多/良/明赤 褐	隆帯と平行沈線で渦巻文を施す。その空白部を集合沈線 で充填。器面荒れ。	加曾利1式
第3358区 PL-130	9	縄文土器 深鉢	81区 口頸部片			砂粒多/良/にぶ い黄	口縁部に楕円区画文、胴部に逆U字形の区画文。縄文R縦 位施文。器面荒れ。	加曾利E3式
第3358区 PL-130	10	縄文土器 深鉢	20号型穴建物 口縁部片			砂粒多/良/にぶ い黄	口縁部区画内を縦位の沈線で充填。内面ナデ。	加曾利E3式
第3358区 PL-130	11	縄文土器 深鉢	20号型穴建物 胴部片			砂粒多/良/橙	胴部に懸垂隆帯と矢羽根状沈線を施文。内面か入研磨。	加曾利E3式
第3358区 PL-130	12	縄文土器 深鉢	1号型穴建物 F 口縁部片			砂粒多/良/にぶ い黄褐	口縁部楕円区画内に縄文R施文。内面ナデ。	加曾利E3式
第3358区 PL-130	13	縄文土器 深鉢	82区表採 胴部片			砂粒多/良/浅黄 橙	沈線区画内を縄文Rで充填。沈線規則。内面ナデ。	加曾利E3式
第3358区 PL-130	14	縄文土器 深鉢	6号型穴建物 胴部片			砂粒多/良/にぶ い黄褐	縦位の太沈線間に縄文R施文。内面ナデ。	加曾利E3式
第3358区 PL-130	15	縄文土器 深鉢	81区 口縁部片			砂粒多/良/橙	口縁部に渦巻文と楕円文を施文。器面荒れ。	加曾利E3式
第3358区 PL-130	16	縄文土器 浅鉢(面形)	82区表採 口縁部片			砂粒多/良/粗灰	南広形の浅鉢。口唇部外反。口縁部無文下に磨り状の隆帯が あり、そこに孔が付く。体部に幅広い隆起帯で渦巻文を構 成。隆起帯の一部に赤色が残る。内外面研磨。	加曾利E3式
第3358区 PL-130	17	縄文土器 深鉢	45号型穴建物 F 口縁部片			砂粒多/良/にぶ い黄褐	口唇部欠損。隆帯区画内に縄文R施文。内面か入研磨。	加曾利E3式
第3358区 PL-130	18	縄文土器 深鉢	74号型穴建物 胴部片			砂粒多/良/明 橙	胴部に縦位の太沈線3条と縄文R縦位施文。内面ナデ。	加曾利E3式
第3358区 PL-130	19	縄文土器 深鉢	82区表採 胴部片			砂粒多/良/橙	縦位の太沈線間に縄文R施文後、蛇行沈線を施す。内面ナ デ。	加曾利E3式
第3358区 PL-130	20	縄文土器 深鉢	74号型穴建物 胴部片			砂粒多/良/にぶ い黄褐	外面に曲線的な磨り文。内面ナデ。	加曾利E3式
第3358区 PL-130	21	縄文土器 深鉢	82区表採 口縁部片			砂粒多/良/浅黄 橙	沈線区画内を縄文Rで充填。沈線規則。内面ナデ。	加曾利E3式
第3358区 PL-130	22	縄文土器 深鉢	15号型穴建物 口縁部片			砂粒多/良/にぶ い黄	2条単位の太沈線で逆U字形の区画文を構成。無文部に縄 文R施文。内面粗い研磨。	加曾利E3式
第3368区 PL-130	23	縄文土器 把手	81区 破片			砂粒多/良/にぶ い黄	波状口縁深鉢の渡頂部に付く円形の磨り把手。器面荒れ。 加曾利E4式	

南蛇井北原田遺跡 遺物観察表

採 掘 PL-No.	No.	種 類 種 別	出土位置 発 見 率	計測値 (cm, g)		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考
第3369R PL-130	24	縄文土器 深鉢	56号型穴建物 掘部片			砂粒多/良/橙	口縁部無文下に陰線がめぐり、体部陰線区画内を縄文LRで 充填。内面横位ナデ。	加賀利E4式
第3369R PL-130	25	縄文土器 深鉢	A区表土 掘部片			砂粒多/良/ぶい 黄橙	体部懸垂陰線区画内に縄文LRを縦位置。内面からい研磨。	加賀利E4式
第3369R PL-130	26	縄文土器 深鉢	39号型穴建物 掘部片			砂粒多/良/ぶい 黄橙	沈線区画内を縄文LRで充填。沈線鋭利。内面ナデ。	加賀利E4式
第3369R PL-130	27	縄文土器 深鉢	1号型穴建物 掘部片			砂粒多/良/ぶい 黄橙	沈線区画内を縄文LRで充填。無文部に研磨。内面ナデ。	加賀利E4式
第3369R PL-130	28	縄文土器 深鉢	A区表土 掘部片			砂粒多/良/ぶい 黄橙	沈線区画内を縄文LRで充填。内面ナデ。	称名寺1式
第3369R PL-130	29	縄文土器 深鉢	79号E+ 掘部片			砂粒多/良/ぶい 黄橙	沈線区画内を縄文LRで充填。内面荒れ。沈線が深く、縄文 が細かい。	称名寺1式
第3369R PL-130	30	縄文土器 深鉢	27号土坑 掘部片			砂粒多/良/靑	沈線区画内を縄文LRで充填。内面横位ナデ。	称名寺1式
第3369R PL-130	31	縄文土器 深鉢	44号型穴建物 掘部片			石粒多/良/ぶい 黄橙	口縁部無文部下に指頭押圧を施した断面三角形の隆帯を備 す。内外面ナデ。	称名寺2式
第3369R PL-130	32	縄文土器 深鉢	32号型穴建物 掘部片			砂粒多/良/ぶい 黄橙	沈線区画内を縄文LRで充填。沈線丸頭状。内面ナデ。	称名寺2式
第3369R PL-130	33	縄文土器 深鉢	27号型穴建物 掘部片			砂粒多/良/橙	太い沈線で区画内施文。内面ナデ。	称名寺2式
第3369R PL-130	34	縄文土器 浅鉢	32号型穴建物 口縁部片			砂粒多/良/ぶい 黄橙	口唇部上端に幅広の平凹面。くの字に屈曲した口縁部に太 い沈線で楕円文を施文。内外面研磨。	称名寺2式
第3369R PL-130	35	縄文土器 深鉢	4-5号溝 掘部片			砂粒多/良/ぶい 黄橙	流注1様。口縁部が短く、頸部がくの字に締まる深鉢。頸 部にボタンの状の貼付文が付く。器面荒れ。	堀之内1式
第3369R PL-130	36	縄文土器 深鉢	41号型穴建物 掘部片			細砂多/良/ぶい 黄橙	頸部括弧部に1条の沈線がめぐり、8字状の貼付文を備す。 器面被熱。荒れ。	堀之内1式古
第3369R PL-130	37	縄文土器 深鉢	56号型穴建物 口縁部片			砂粒多/良/ぶい 黄橙	口縁部突起の表裏に円形の刺突文。器面荒れ。	堀之内1式
第3369R PL-130	38	縄文土器 深鉢	56号型穴建物 口縁部片			砂粒多/良/橙	隆帯を多用し、沈線や刺突で加飾。器面荒れ。	堀之内1式
第3369R PL-130	39	縄文土器 深鉢	70号型穴建物 口縁部片			砂粒多/良/灰黄 靑	口縁部にC字状の文様を押し引き施文。	堀之内2式か
第3369R PL-130	40	縄文土器 深鉢	B区 掘部片			砂粒多/良/橙	頸部にC字状の文様を押し引き施文。器面荒れ。	後期前半
第3369R PL-130	41	縄文土器 注口土器	70号型穴建物 掘部片			砂粒多/良/黄靑	頸部にC字状の文様を押し引き施文。器面荒れ。内面粗いナデ。	堀之内2式
第3369R PL-130	42	縄文土器 深鉢	4号溝 掘部片			砂粒多/良/ぶい 黄橙	外面に平行沈線で曲線的な文様を施文。器面荒れ。	後期前半
第3369R PL-130	43	割片石器 石礫	70号型穴建物 P4 完形	長 1.6 幅 1.0	厚 0.2 重 0.3	黒曜石	凹基無茎跡、側縁中央部に張り出し部を持つ。	
第3369R PL-130	44	割片石器 石礫	A区 略完形	長 (1.4) 幅 1.2	厚 0.3 重 0.4	赤碧玉	完成状態。裏面側部部分的に素材剥離面が残されるほかは、 表面面とも丁寧な押圧研磨を施す。器体先端部を欠く。	凹基無茎跡
第3369R PL-130	45	割片石器 石礫	6号溝 欠損	長 3.0 幅 1.6	厚 0.4 重 1.3	メノウ	凹基無茎跡、右側部欠損。	
第3369R PL-130	46	割片石器 割片	69号型穴建物 完形	長 2.5 幅 2.0	厚 0.7 重 3.0	黒曜石	右側縁に微細刺痕面が認められる。	
第3369R PL-130	47	割片石器 打製石斧	C2区 完形	長 7.9 幅 2.7	厚 1.0 重 24.7	硬質泥岩	小型の短冊形を呈する打製石斧。右側縁に着柄による摩 耗痕が認められる。	
第3370R PL-130	48	割片石器 打製石斧	54号型穴建物 完形	長 16.9 幅 6.6	厚 3.9 重 547.6	緑色片岩	完成状態。両側縁とも敲打・摩耗面が著しい。裏面側部 付近は大きく変形しているが、使用によるものか、再生に よるものか不明。頭部無刺痕面の後が摩耗しているが、研 磨によるものかもしれない。	短冊形
第3370R PL-130	49	割片石器 打製石斧	1号遺物集中 完形	長 13.4 幅 4.3	厚 1.7 重 93.4	硬質泥岩	分割形。右側縁中央部が緩やかに欠れる。左側縁は直線 状を呈する。	
第3370R PL-131	50	割片石器 打製石斧	C2区 完形	長 11.8 幅 6.0	厚 2.1 重 142.8	珪質頁岩	分割形。刃部に摩耗痕が認められる。左右両側縁中央部は 緩やかに括れ。着柄による摩耗痕が認められる。	
第3370R PL-131	51	割片石器 打製石斧	8号溝 完形	長 15.4 幅 5.6	厚 3.1 重 254.9	硬質泥岩	短冊形。表面に摩耗痕が部分的に認められる。	
第3370R PL-131	52	割片石器 打製石斧	C2区 欠損	長 (8.0) 幅 4.3	厚 1.1 重 93.5	変玄武岩	下部欠損。短冊形と推定される。右側縁に着柄による摩 耗痕が認められる。	
第3370R PL-131	53	割片石器 打製石斧	70号型穴建物 欠損	長 (6.6) 幅 4.4	厚 0.9 重 85.6	硬質泥岩	下部欠損。短冊形と推定される。右側縁に着柄による摩 耗痕が認められる。	
第3370R PL-131	54	割片石器 打製石斧	76号型穴建物 欠損	長 (7.8) 幅 4.7	厚 1.3 重 60.0	珪質頁岩	短冊形。上半部欠損。先端刃部に摩耗痕が認められる。	
第3370R PL-131	55	割片石器 打製石斧	7号型穴建物 2/3	長 (9.9) 幅 5.7	厚 2.9 重 190.6	粗粒輝石安山岩	器体上半が強く括れる。刃部その他のエッジはシャープで、 摩耗は見られない。製作途上破損したものか。	短冊形
第3370R PL-131	56	割片石器 打製石斧	1号遺物集中 欠損	長 (8.8) 幅 5.0	厚 2.7 重 178.2	変玄武岩	短冊形。上半部欠損。左側縁に着柄による摩耗痕が認めら れる。	
第3370R PL-131	57	割片石器 打製石斧	4-5号溝 欠損	長 (7.8) 幅 6.4	厚 1.7 重 110.8	結晶片岩	上半部欠損。幅広の短冊形を呈する。	

挿入 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第33709 PL-131	58	割片石器 打製石斧	A区 破片	長(5.5) 幅 5.3	厚重 (4.0) 139.4	変質安山岩	完成状態。対部エッジは弱く摩耗、内側縁および表面は最打痕が明確に残る。裏面側には磨理面が大きく取り込まれる。対部は片刈、器内は厚い。	短冊形
第33709 PL-131	59	割片石器 打製石斧	1号遺物集	長(7.4) 幅 6.8	厚重 2.3 123.1	凝岩	分銅形。上半部欠損、右側縁中央部に着柄による摩耗痕が認められる。	
第33709 PL-131	60	割片石器 打製石斧	1号型3建物 4-5号溝	長 8.2 幅 5.9	厚重 2.0 106.5	硬質泥岩	完成状態。端部に摩耗痕が広がるのに対し、器体中央付近僅かな痕跡は乏しい。上端側対部は弧状、下端側対部は直線的である。	分銅形
第33709 PL-131	61	割片石器 打製石斧	4-5号溝 完形	長 13.3 幅 8.4	厚重 3.8 414.2	硬質泥岩	分銅形。表面全体に著しい摩耗痕、左右両側縁に着柄により摩耗痕が認められる。	
第33709 PL-131	62	割片石器 打製石斧	7号溝 完形	長 13.4 幅 9.1	厚重 2.8 323.3	硬質泥岩	分銅形。表面は自然面が大きく残る。	
第33809 PL-131	63	割片石器 磨製石斧	4-5号溝 2/3	長(9.0) 幅 4.5	厚重 2.9 205.1	変玄武岩	未製品。全体に最打痕と荒研磨を施す。片面の対部付近に仕上げの研磨あり。	
第33809 PL-131	64	割片石器 磨製石斧	70号型穴建物 1/2	長(7.0) 幅 3.9	厚重 1.9 82.9	変玄武岩	未製品。全体に最打痕と荒研磨が認められる。仕上げの研磨はない。	
第33809 PL-131	65	石製品 石棒	7号溝 一部残存	長(16.7) 幅(11.4)	厚重 (11.4) 3060.0	花崗岩	大型石棒の頭部。断面形状は円形に調整されているが、表面に研磨痕は認められない。荒れているためか。	
第33809 PL-131	66	礫石器 四石	礫石器上部 下位欠損・上位一部割離	長(10.4) 幅(11.8)	厚重 3.0 473.0	砂岩	板状の石材使用。径3.1cm以下、深さ0.5cm以下の楕円状の未貫通孔。表面に2カ所、裏面に1カ所のこり、表面に幅広の、裏面に鋭利な磨痕残る。	
第33809 PL-131	67	礫石器 四石	17号型穴建物 上端欠損	長(11.3) 幅 8.2	厚重 2.3 399.0	デイスaito凝灰岩	厚板状の石材使用。表面に径2.4×1.0cm、深さ0.4cmを測る楕円状の未貫通孔穿たれる。	
第33809 PL-131	68	礫石器 四石	26号型穴建物 上・下・右側欠	長(10.7) 幅(7.4)	厚重 3.5 410.0	砂岩	楕円形の石材使用。表面に径1.9cm以下、深さ0.2cm以下、裏面に径1.3cm以下、深さ0.1cm以下の楕円状の未貫通孔穿たれる。	
第33809 PL-131	69	礫石器 四石	31号型穴建物 完形	長 8.0 幅 5.7	厚重 2.7 139.0	デイスaito	平面楕円形の板状の内磨を用い、表面に径1.2cm以下、深さ0.2cm以下を測る楕円状の未貫通孔が3孔が連続して穿たれ、楕円形(幅1.2cm、全長2.5cm)の平面形を呈する。	

第6表 蚊沼大神分遺跡 遺物観察表

挿入 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第34209	1	土師器 高杯	脚部片		高(5.2)	細砂粒/酸化塩/橙	外面荒れ、土壌付着。内面横位の指痕で、外面縦位の役割りか。

挿入 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第34609 PL-142	1	土師器 杯	1/2	口[13.0] 底 7.5	高 4.1	細砂粒/酸化塩/橙	器面荒れる。口縁横で、体部～底部内面横位の指痕で、体部外面横位の役割り。底面反時計回りの役割り。
第34609 PL-142	2	土師器 杯	口縁部～体部 片	口[12.5] 底[6.6]	高 4.2	細砂粒/酸化塩/橙	器面荒れる。口縁横で、体部～底部内面反時計回りの指痕で、体部外面横位の役割り。底面役割り。
第34609 PL-142	3	須恵器 杯	1/6	口[14.0] 底(8.8)	高 3.3	細砂粒/還元塩/灰白	焼成やや良好。(右)回転軸離成形。底面回転起こし。

挿入 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値(cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第35609 PL-142	1	土師器 杯	1/3	口[12.4]	高 4.0	細砂粒/酸化塩/浅黄橙	器面荒れる。口縁横で、体部～底部内面反時計回りの指痕で、外面回転させ乍らの役割り。
第35609 PL-142	2	土師器 杯	口縁部～体部 1/6欠損	口[13.4]	高 4.7	細砂粒/酸化塩/にぶい橙	器面荒れ、底部内面がこ。口縁横で、体部～底部内面反時計回りの指痕で、外面回し乍らの役割り。
第35609 PL-142	3	土師器 高杯	脚部上位1/2		高(8.3)	細砂粒/酸化塩/にぶい橙	器面荒れる。杯部底部内面反時計回りの指痕で、脚部内面斜り後縦位の指痕で、外面杯底部～脚部上端指痕で、脚部縦位の役割り。
第35609 PL-142	4	須恵器 杯	口縁部～體部 3/4欠損	口[14.0] 底 7.6	高 4.3	細砂粒/還元塩/灰白	右回転軸離成形。底面回転斜切り切り難し。
第35609 PL-142	5	須恵器 杯	口縁部～體部 5/6欠損	口 9.8 底 7.8	高 3.2	細砂粒/還元塩/灰白	回転軸離成形。底面調整。
第35609 PL-142	6	須恵器 杯	2/3	口[13.0] 底 7.8	高 3.8	細砂粒/還元塩/灰白	焼成良好。右回転軸離成形。底面回転起こし。
第35609 PL-142	7	須恵器 杯	1/3	口[12.7] 底(7.6)	高 3.7	細砂粒/還元塩/灰白	回転軸離成形。底面回転調整。
第35609 PL-142	8	須恵器 高台付杯	杯部1/4、高台 欠損	口[12.0] 底(8.0)	高 4.5	細砂粒/還元塩/灰白	(左)回転軸離成形。底面回転斜切り切り難し後、高台取り付けの痕跡。
第35609	9	須恵器 杯	體部～底部	底 7.8	高(1.9)	細砂粒/還元塩/灰白	回転軸離成形。底面回転起こし。
第35609	10	須恵器 杯	口縁部～體部 2/3欠損	底[7.5]	高(1.7)	細砂粒/還元塩/灰白	回転軸離成形。底面回転調整。
第35709	11	須恵器 蓋	1/4、鉤欠損	口[15.0]	高(1.9)	細砂粒/還元塩/灰白	回転軸離成形。口端部下方に短く返し引く。頂部反時計回りの回転役割り。

樹種同定一覧表

採 取 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値 (cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考
第357回 PL.142	12・ 13	須臾器	口縁部～体部 1/3	口 [36.0] 高 (33.8)	粗砂/還元焰～酸 化焰/灰白	焼成やや甘い。口端下方へ短く引く。横位の撫で後、口縁部中位に波状の線刻み1条。口縁部下半～体部外面に五重回字の叩き後、口縁横撫で。	

3面

遺構外 古墳時代から平安時代

採 取 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値 (cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考	
第368回 PL.142	1	土師器 高杯	底部～脚上端		高 (2.2)	細砂粒/酸化焰/ 橙	底部広い。杯底部内面窪凹でか。脚部内面指撫で。外面指撫で。	
第368回 PL.142	2	土師器 埴	口縁部片	口 [11.0] 高 (3.9)		細砂粒/酸化焰/ 褐色	内面反時計回りの窪凹後、縦位の窪き。外面横位の撫で。	
第368回	3	土師器 小型甕	口縁部下位～ 肩部破片		高 (5.8)	粗砂粒/酸化焰/ 橙	口縁横撫で。肩部内面反時計回りの窪凹で、外面縦位の窪凹り。	
第368回	4	土師器 甕	腰部下位～底 部1/2	底 4.6	高 (2.9)	粗砂粒/酸化焰/ ぶい橙	内面吸尻。腰部～底部内面反時計回りの窪凹で。腰部外面左方への窪凹り。底面窪凹り。	

遺構外 縄文時代

採 取 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値 (cm, g)	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形 ・ 整 形 の 特 徴	備 考	
第369回 PL.142	1	縄文土器 深鉢	底 部破片			細砂少・繊維多/ 良/灰黄褐色	粗組横位施文。	縄文前期岡山 Ⅱ式
第369回 PL.142	2	縄文土器 深鉢	4号溝 部破片			繊維多/良/灰白	粗組横位施文。	縄文前期岡山 Ⅱ式

第7表 樹種同定一覧表

登録番号	区	遺構 取り上げNo	樹種	木取り	材 特 徴
60009	A	17号竪穴建物炭化材サンプル	クリ	不明	遺物はブロック状に割れている材の全体像は不明
60013	A	27号竪穴建物No.1	カヤ属	丸木破片	年輪の非常に細かい丸木のブロック破片。芯が偏っている傾向有り
60014	A	31号竪穴建物炭化材サンプルNo.1	散孔材	不明	楕円サイズ7cm×6cmの上端の表面に厚さ1cm弱の範囲で炭化材が全体的に見られるが、材は粉状化し断面および厚さ取り観察でも散孔材組織の一部が観察できた程度で全体形は不明。
50015	A	31号竪穴建物炭化材サンプルNo.2	散孔材	不明	楕円サイズ7cm×8cmの上端の表面に厚さ1cm弱の範囲で炭化材が全体的に見られるが、材は小ブロック化し様々な方向を向き上に理められている。散孔材組織が観察できた程度で全体形は不明。
60016	A	31号竪穴建物炭化材サンプルNo.3	カヤ属	丸木	観察した破片は直径4.5cm丸木平割れ試料で残存長さ7cm。全体にしっかりと炭化していて、年輪は非常に細かい(17mmで21本を数える)。割れは新しく本来は丸木として使用されていたと思われる。
60017	A	31号竪穴建物炭化材サンプルNo.4	ヒノキ属	丸木	直径4.5～5.5cm程の筒状に炭化材が残存。丸木の外周部分のみが炭化残存したと考えられる。
60018	A	31号竪穴建物炭化材サンプルNo.5	アカガシ属	丸木	直径5cmの丸木が2本並んだ状態で楕円されている。両端はカットされているため全長は不明。2本とも直径・材質とも同じ。
60019	B1	47号竪穴建物炭化材サンプル 1	カヤ属	丸木	直径約4cmの丸木で芯位置は中心から大きくずれる。残存長さは7cmだがカットされているため全体形は不明。年輪幅は0.5mm以下と非常に細かく芯が大きく偏ることから枝材の可能性も考えられる。
60020	B1	47号竪穴建物炭化材サンプル 2	カヤ属	丸木破片	推定直径約3.5～4cmの丸木で芯位置は中心から大きくずれる。欠けているため全体形は不明。年輪幅は非常に細かく芯が大きく偏ることから枝材の可能性も考えられる。
60021	B1	47号竪穴建物炭化材サンプル 3	不明	不明	8cm×4cmの範囲に炭化材が薄く広がっているが劣化が著しく木材組織が観察できない。
60022	B1	47号竪穴建物炭化材サンプル 4	カヤ属	丸木破片	木口断面残存2cm程の丸木破片。残存部年輪は非常に細かく2cmの間に30本もの年輪を数える。芯は偏る傾向を示す。
60023	B1	47号竪穴建物炭化材サンプル 5	広葉樹材	不明	上ブロックの上に炭化材が薄く見られる程度。上面からの観察では板目材の構造が見られるが、劣化が著しく広葉樹材と判定できる程度で詳細は不明。

第8表 南蛇井北原田遺跡 非掲載遺物集計表

区	遺構番号	遺構種	土師器								須恵器								瓦輪器					
			食器具		灰溝貯蔵具		不明		一括		食器具		灰溝貯蔵具		不明		一括		柄+皿		瓶類		不明	
			点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量
A	1	堀穴建物	20	112	135	915																		
A	2	堀穴建物	2	6	28	127.5																		
A	3	堀穴建物	5	22	25	262																		
A	4	堀穴建物	4	21	33	56																		
A	5	堀穴建物	6	30	73	357																		
A	6	堀穴建物	3	6	54	205																		
A	7	堀穴建物			10	248																		
A	8	堀穴建物	4	12	35	380																		
A	9	堀穴建物	27	98	159	846																		
A	10	堀穴建物	3	14	43	242																		
A	11	堀穴建物	9	49	50	542																		
A	12	堀穴建物	3	13	16	282																		
A	13	堀穴建物	6	36	32	369																		
A	14	堀穴建物	9	33	52	286																		
A	15	堀穴建物	1	6	37	380																		
A	16	堀穴建物	3	13	10	76																		
A	17	堀穴建物	206	877.5	529	5525.5																		
A	18	堀穴建物	24	106	147	1304																		
A	19	堀穴建物	62	238	202	1332																		
A	20	堀穴建物	60	265	162	1202																		
A	19+20	堀穴建物	101	336	296	1464																		
A	21	堀穴建物	88	527	602	3779																		
A	21+22	堀穴建物	35	150	62	311																		
A	22	堀穴建物			24	282																		
A	23+24	堀穴建物	17	90	42	202																		
A	24	堀穴建物	88	373	395	3315																		
A	25	堀穴建物	71	549	733	4510																		
A	26	堀穴建物	51	327	402	2882	2	32	2	32														
A	27	堀穴建物	155	1019	532	6637																		
A	28	堀穴建物	39	136	175	1240																		
A	28+29	堀穴建物	24	120	268	1130																		
A	29	堀穴建物	115	861	825	6314																		
A	30	堀穴建物	24	144	43	456																		
A	31	堀穴建物	17	123	276	2910																		
A	32	堀穴建物	63	472	413	3156																		
A	33	堀穴建物	50	394	372	2310																		
A	34	堀穴建物	86	471	277	2761																		
A	35	堀穴建物	25	408	110	2437																		
A	36	堀穴建物	23	109	84	849																		
A	37	堀穴建物	17	66	24	611																		
A	38	堀穴建物	63	410	291	2599																		
A	39	堀穴建物	77	601	167	1301																		
A	40	堀穴建物	38	373	3	16																		
A	41	堀穴建物	41	317	210	1959																		
A	42	堀穴建物	17	103	98	1203																		
A	43	堀穴建物	18	118	61	403																		
A	41+42+43	堀穴建物	35	248	192	1360																		
A	44	堀穴建物	21	170	60	783																		
B1	45	堀穴建物	8	97	90	802																		
B1	45+46	堀穴建物	21	193	89	909																		
B1	46	堀穴建物	34	103	118	450																		
B1	47	堀穴建物	16	91	196	1746																		
B1	48	堀穴建物	51	294	230	2516																		
A	49	堀穴建物	3	24	16	172																		
A	50	堀穴建物	196	1199	566	3053																		
A+B1	51	堀穴建物	10	61	196	2761																		
A+B1	52	堀穴建物	44	295	121	894																		
A+B1	53	堀穴建物	213	1327	966	6181																		
B1	54	堀穴建物	17	132	246	1542																		
B1	55	堀穴建物	65	483	259	2019																		
B1	56	堀穴建物	12	127	141	1516																		
A	57	堀穴建物	8	57	36	379																		
B1	58	堀穴建物	12	144	71	628																		
A+B1	59	堀穴建物	9	42	6	34																		
A	60	堀穴建物	1	28	23	143																		
A+B1	61	堀穴建物	38	255	187	2489																		
B1	62	堀穴建物	5	51	45	469																		
B1	63	堀穴建物	1	3	1	7																		
B1	64	堀穴建物			5	89																		
B1	65	堀穴建物																						
B1	66	堀穴建物																						
B1	67	堀穴建物																						
B1+B2	68	堀穴建物																						

南蛇井北原田遺跡 非掲載遺物集計表

区	遺構番号	遺構種	土師器						須恵器						瓦・土									
			食器類		煮焼貯蔵具		不明		一括		食器類		煮焼貯蔵具		不明		一括		陶・土		瓦類		不明	
			点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量
B1	69	壺穴建物						253	2343							1	15							
B1	70	壺穴建物						241	1633							1	6.5							
B1	71	壺穴建物						200	1475															
B2	72	壺穴建物						24	131															
B1	73	壺穴建物						27	146															
B2	74	壺穴建物						16	148															
B2	75	壺穴建物						36	329															
C1	76	壺穴建物						447	3416						10	201								
C1	77	壺穴建物						210	1437						12	184								
C1	78	壺穴建物						4	71															
C1	79	壺穴建物						1	18															
B1	80	壺穴建物						113	1004						1	42								
C1	81	壺穴建物						483	3207															
C1	82	壺穴建物						914	4585						59	800								
B1	83	壺穴建物						117	1066						1	7								
C2	84	壺穴建物						184	2190															
C2	85	壺穴建物						29	256															
C2	86	壺穴建物						197	1311						3	48								
C2	87	壺穴建物						199	1302						12	212								
C2	88	壺穴建物						99	1035						4	36								
C3	90	壺穴建物						31	366															
C2	93	壺穴建物						38	275						4	22								
C2	94	壺穴建物						11	174															
C1	95	壺穴建物						6	147															
A	1	土坑				3	14																	
A	3	土坑				1	9																	
A	6	土坑				6	23																	
A	7	土坑				2	10																	
A	10	土坑				3	40																	
A	11	土坑	3	4	14	46												1	2					
A	13	土坑	3	13	26	235																		
A	15	土坑				1	3																	
A	16	土坑	1	4	40	130						2	14											
A	17	土坑	9	27	19	221				2	19													
A	20	土坑				3	8																	
B1	21	土坑				2	39																	
A	22	土坑				4	26																	
A	23	土坑	6	67	26	230						1	40											
A	25	土坑				2	22																	
A	27	土坑	18	179	49	323																		
A	28	土坑	4	63	13	173																		
A	29	土坑	2	11	10	54						2	22											
B1	30	土坑				1	13																	
B1	31	土坑				3	22					1	30											
B1	32	土坑				1	10																	
B1	34	土坑						142	2065															
B1	35	土坑						7	286															
B1	36	土坑						2	30															
B1	40	土坑						7	74															
B2	41	土坑						5	36															
B2	46	土坑			2	12																		
B2	49	土坑						7	94															
B1	51	土坑						30	222															
B2	53	土坑						1	4						1	10								
B2	54	土坑						3	74															
C1	61	土坑						6	155						1	37								
B1	63	土坑						1	7															
C2	64	土坑						5	21															
C2	66	土坑						1	15															
A	1	ビット				1	7																	
A	2	ビット				2	6																	
A	3	ビット				3	13																	
A	5	ビット				1	8																	
A	8	ビット				2	9																	
A	11	ビット				3	74																	
A	18	ビット				1	4																	
A	19	ビット				1	8																	
A	20	ビット				2	12																	
A	23	ビット				3	21																	
A	24	ビット				3	8																	
A	25	ビット	1	8	7	19																		
A	27	ビット				7	92																	
A	28	ビット				11	42																	
A	34	ビット				1	9																	
A	35	ビット				1	7																	

南蛇井北原田遺跡 非掲載遺物集計表

区	遺構番号	遺構種	土師器						須恵器						瓦・陶器									
			食器類		煮炊の道具		不明		一括		食器類		煮炊の道具		不明		一括		陶・瓦		他類		不明	
			点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量
A	36	ビッド	1	13	4	2																		
A	44	ビッド			2	9																		
A	45	ビッド			2	27																		
A	47	ビッド			4	51																		
A	49	ビッド	1	4	3	15																		
A	50	ビッド	3	11	6	18																		
A	54	ビッド			1	5																		
A	56	ビッド			2	20																		
A	59	ビッド			3	22																		
A	62	ビッド	1	2	6	53																		
A	67	ビッド			7	20																		
A	68	ビッド			4	32																		
A	69	ビッド			1	8																		
A	72	ビッド	1	10	7	80																		
A	73	ビッド			3	16																		
A	74	ビッド	1	20	1	12																		
A	77	ビッド			2	20																		
A	78	ビッド	1	6																				
A	79	ビッド	1	2																				
A	83	ビッド			3	22																		
A	84	ビッド			4	27				1	5													
B1	85	ビッド	1	12																				
B1	89	ビッド	3	3	3	16																		
B1	91	ビッド	1	10																				
B1	96	ビッド			4	7																		
B1	100	ビッド			2	5																		
B1	101	ビッド			2	11																		
B1	104	ビッド			3	9																		
B1	105	ビッド			2	20																		
B1	107	ビッド			4	16																		
B1	109	ビッド	1	13	2	5																		
B1	110	ビッド																						
B1	125	ビッド						4	43						1	26								
B1	126	ビッド						1	13															
B1	130	ビッド						30	64						1	6								
B2	145	ビッド						1	2															
C1	146	ビッド						5	20															
C1	152	ビッド						5	33															
C1	153	ビッド						16	27						2	85								
C1	154	ビッド						8	86															
C1	155	ビッド						1	5															
C1	157	ビッド						10	66															
C1	158	ビッド						8	70															
C1	161	ビッド						4	59						1	48								
C1	162	ビッド						1	4															
C1	165	ビッド						3	10															
C1	166	ビッド						8	46						2	26								
C1	167	ビッド						12	59						2	172								
C1	168	ビッド						9	48															
C2	172	ビッド						1	27															
C1	181	ビッド						1	16															
C1	182	ビッド						11	58						2	16								
C1	196	ビッド						17	70						1	8								
B1	1	溝	12	66	88	685							11	238										
B1	2	溝			5	300																		
B1	3	溝						8	93															
B2・C1・C2	4	溝						70	61						1	23								
B2・C1・C2	4・5	溝						38	840															
B2・C1・C2	5	溝						28	385															
B1・B2・C1	6	溝						20	690															
B1・B2	7	溝						25	420															
B2・C2	8	溝						497	4710						10	140								
C3	10	溝						14	118						1	24								
C3	12	溝						2	16															
C2	13	溝						65	550						2	23								
C3	14	溝						1	20															
C2	15	溝						4	41															
C3	16	溝						17	447						2	41								
C3	17	溝						5	550															
C3	18	溝						28	312						1	110								
A	1	埴土	2	12	9	67																		
A	1	埴土	5	26	55	755																		
A	2	埴土	14	47	14	879				3	10	2	102											
A	3	埴土	70	253	628	2588				9	31	15	187			1	2							
A	4	埴土			15	498																		

南蛇井北原田遺跡 非掲載遺物集計表

区	遺構番号	遺構種	土師器						須恵器						瓦・土			瓦・土					
			食器類		煮炊器類		不明		食器類		煮炊器類		不明		一括		不明		不明				
			点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量			
A	5	焼土	1	4	3	102																	
B1	6	焼土	4	6	9	95																	
C	2	トレンチ			2	33																	
A	6	トレンチ			3	202																	
A	7	トレンチ			10	22																	
A		トレンチ			6	17																	
A		鎌刃面	3	9	6	32																	
A		カタラン	35	117	164	1101				14	234				6	26							
A		西側トレンチ	9	18	72	568					1	5											
A		瓦土	187	1204	682	5053					34	620			7	17							
B1		瓦土	88	710	583	5102				12	257	12	231										
B2		瓦土	3	55	6	186																	
		瓦様							13	76					1	14							
B		一括							388	2349					14	400							
C1		一括							243	1620					11	274							
C2		一括							880	7370					27	710							
C3		一括							29	213					1	26							
	計		3126	18,988	15,184	123,475	2	32	8,990	68,043	134	1,194	279	5,914	0	0	265	5,026	28	96	0	0	0

縄文時代

区	遺構番号	遺構種	点数	重量
A	26	土坑	83	1770
A	27	土坑	2	30
B1	33	土坑	21	310
B1	34	土坑	14	370
B2-C1-C2	4・5	溝	8	275
B2	1	遺物集中	496	14240
		遺構外	646	16380
	計		1,270	33,375

石器

区	遺構番号	遺構種	点数	重量
A	1	射穴建物	7	52
A	2	射穴建物	3	32
A	3	射穴建物	3	22
A	5	射穴建物	4	282
A	8	射穴建物	3	12
A	9	射穴建物	12	146
A	10	射穴建物	11	82
A	11	射穴建物	10	124
A	12	射穴建物	2	50
A	13	射穴建物	3	1146
A	14	射穴建物	3	46
A	15	射穴建物	4	558
A	16	射穴建物	1	6
A	17	射穴建物	23	3255
A	18	射穴建物	7	65
A	19	射穴建物	12	130
A	19・20	射穴建物	1	10
A	20	射穴建物	10	441
A	21	射穴建物	9	60
A	21・22	射穴建物	3	10
A	23・24	射穴建物	9	75
A	24	射穴建物	22	210
A	25	射穴建物	47	377
A	26	射穴建物	66	1600
A	27	射穴建物	26	252
A	28	射穴建物	1	4
A	28・29	射穴建物	11	66
A	29	射穴建物	7	36
A	31	射穴建物	9	60
A	32	射穴建物	41	395
A	33	射穴建物	8	96
A	34	射穴建物	6	3530
A	35	射穴建物	6	1417
A	36	射穴建物	2	60
A	37	射穴建物	5	28
A	38	射穴建物	14	165
A	39	射穴建物	2	32
A	40	射穴建物	3	978

区	遺構番号	遺構種	点数	重量
A	41	射穴建物	3	12
A	44	射穴建物	4	1013
B1	45	射穴建物	3	18
B1	45・46	射穴建物	7	64
B1	48	射穴建物	4	96
A	50	射穴建物	4	416
A-B1	51	射穴建物	7	491
A-B1	53	射穴建物	3	454
B1	54	射穴建物	4	1240
B1	56	射穴建物	2	27
A-B1	61	射穴建物	4	45
B1	63	射穴建物	4	82
B1	64	射穴建物	10	127
B1	65	射穴建物	30	330
B1	66	射穴建物	76	2302
B1-B2	68	射穴建物	46	3525
B1	69	射穴建物	19	203
B1	70	射穴建物	62	1780
B1	71	射穴建物	13	92
B2	72	射穴建物	10	608
B2	74	射穴建物	6	45
B2	75	射穴建物	3	45
C1	76	射穴建物	17	990
C1	77	射穴建物	16	457
B1	80	射穴建物	18	245
C1	81	射穴建物	62	858
C1	82	射穴建物	63	501
B1	83	射穴建物	6	178
C2	84	射穴建物	55	1100
C2	85	射穴建物	9	232
C2	86	射穴建物	33	578
C2	87	射穴建物	57	1090
C2	88	射穴建物	13	162
C1	90	射穴建物	1	12
C2	91	射穴建物	1	134
C2	93	射穴建物	3	48
C2	94	射穴建物	2	30
C1	95	射穴建物	2	31

